

日本医科大学研究業績年報

第 54 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 54



平成 19 (2007) 年度

April 2007—March 2008

日本医科大学研究業績年報

第 54 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 54

平成 19 (2007) 年度

April 2007—March 2008

まえがき

学長 田 尻 孝

2007年度研究業績年報が出来上がりました。2006年度に比較して論文数は大幅に増えており、とくに欧文論文数が730本とここ数年間で最多で、本学が研究機関として活性化されていることを示していると考えられます。教育、研究、臨床が大学医学部の責務の三本柱といわれておりますが、まさにこの研究業績年報はその一つである研究実績を世に発信するもので、本学の研究機関としての評価はこの内容に懸かっていると言っても過言ではありません。

わが国の人口一人あたりの研究者数は64.2人と米国の46.5人（2006年度の統計）をおさえ、主要国の中で最多で、さらにその数は年々増加の傾向にあります。但しそれは企業における医学以外の研究者数の増加によるもので、大学における医学、歯学の研究者数は1998年をピークに漸減しております。また新臨床研修医制度は基礎の研究を志す医師に対しての配慮を欠いており、さらに昨今の医師不足の現状も影響して、若い医師にとって大学医学部で研究を行うという選択肢が大幅に狭められているのが本学のみならず、全ての大学医学部が抱える悩みであります。このような中で着実に業績を増やしている本学の研究者の努力には頭が下がります。さらにそれらの論文が優れたものであることは、他大学や産業界からの共同研究の申し出が後を絶たないことから明らかであると考えます。

私が本学の研究者にお願いしたいのは、質の高い研究を行い論文として世界に発信すると同時に、研究の素晴らしさを若い医師たちに教えてほしいということです。どんなに立派な研究を成し遂げてもそれに続く担い手がいなければ研究機関としての発展はありません。若い医師たちがあなりたいと思うような姿を示していただければ本学の未来は明るいと思います。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました佐久間康夫研究委員会委員長ならびに関係各位に謝意を表します。

目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[心理学]	1
[文化人類学]	1
2. 自然科学	2
[数 学]	2
[物理学]	2
[化 学]	5
[生物学]	6
3. 外国語	10
[英 語]	10
[ドイツ語]	11
4. スポーツ科学	13
[スポーツ科学]	13

〔2〕基礎医学

1. 解剖学講座（分子解剖学）	17
2. 解剖学講座（生体構造学）	21
3. 生理学講座（システム生理学）	24
4. 生理学講座（生体統御学）	26
5. 生化学・分子生物学講座（構造生物学・代謝学）	30
6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学・栄養学）	32
7. 薬理学講座	36
8. 病理学講座（解析人体病理学）	39
9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）	45
10. 微生物学・免疫学講座	54
11. 衛生学・公衆衛生学講座	57
12. 法医学講座	62
13. 医療管理学講座	67
14. 基礎医学共同研究利用施設	72
[実験動物管理室]	72
[中央電子顕微鏡研究施設]	73
[情報科学センター]	74

〔3〕臨床医学

1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）	79
[付属病院第1内科（一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科）]	79
[付属病院老人科]	96
[武蔵小杉病院内科（内科，循環器科，神経内科）]	100
[多摩永山病院内科，循環器内科]	103

2.	内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）	109
	[付属病院第2内科（神経内科，腎臓内科）]	109
	[付属病院リウマチ科]	125
3.	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）	129
	[付属病院第3内科（血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科）]	129
4.	内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）	146
	[付属病院呼吸器内科]	146
5.	精神医学講座	155
	[付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科]	155
	[付属病院東洋医学科]	161
6.	小児科学講座	165
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	165
7.	放射線医学講座	173
	[付属病院放射線科，放射線治療科]	173
	[武蔵小杉病院放射線科]	180
	[多摩永山病院放射線科]	182
	[千葉北総病院放射線科]	182
8.	皮膚科学講座	185
	[付属病院皮膚科]	185
	[武蔵小杉病院皮膚科]	192
	[多摩永山病院皮膚科]	194
	[千葉北総病院皮膚科]	195
9.	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）	196
	[付属病院第1外科（消化器外科，乳腺外科，一般外科，移植外科）]	196
	[多摩永山病院外科（消化器外科・乳腺外科・一般外科）]	229
	[千葉北総病院外科]	234
10.	外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）	248
	[付属病院第2外科（内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科）・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]	248
	[武蔵小杉病院外科（外科，心臓血管外科）]	261
	[多摩永山病院呼吸器外科]	264
11.	脳神経外科学講座	265
	[付属病院脳神経外科]	265
	[武蔵小杉病院脳神経外科]	280
	[多摩永山病院脳神経外科]	283
	[千葉北総病院脳神経外科]	285
12.	整形外科科学講座	294
	[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]	294
13.	産婦人科学講座	303
	[付属病院女性診療科・産科]	303

	[武蔵小杉病院女性診療科・産科]	310
	[多摩永山病院女性診療科・産科]	315
	[千葉北総病院女性診療科・産科]	319
14.	耳鼻咽喉科学講座	321
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]	321
15.	泌尿器科学講座	334
	[付属病院泌尿器科]	334
	[武蔵小杉病院泌尿器科]	338
	[多摩永山病院泌尿器科]	339
16.	眼科学講座	341
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]	341
	[千葉北総病院眼科]	345
17.	麻酔科学講座	347
	[付属病院麻酔科]	347
	[武蔵小杉病院麻酔科]	352
	[多摩永山病院麻酔科]	353
	[千葉北総病院麻酔科]	354
18.	救急医学講座	357
	[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・ 多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック]	357
	[武蔵小杉病院救命救急センター]	374
	[多摩永山病院救命救急センター]	376
	[千葉北総病院救命救急センター]	379
19.	形成外科学講座	388
	[付属病院形成外科・美容外科]	388
	[武蔵小杉病院形成外科]	399
	[千葉北総病院形成外科]	403
20.	付属病院付置施設等	405
	[付属病院遺伝診療科]	405
	[付属病院集中治療室]	406
	[付属病院病理部]	413
	[付属病院中央検査部]	417
	[付属病院薬剤部]	420
	[付属病院生理機能センター]	424
	[付属病院看護部]	426
	[付属病院放射線科技師室]	430
	[付属病院MIE部]	432
	[ワクチン療法研究施設]	433
	[呼吸ケアクリニック]	433
21.	武蔵小杉病院付置施設等	436

	[武蔵小杉病院消化器病センター]	436
	[武蔵小杉病院病理部]	446
	[武蔵小杉病院中央検査室]	447
	[武蔵小杉病院薬剤科]	448
	[武蔵小杉病院看護部]	449
22.	多摩永山病院付置施設等	451
	[多摩永山病院病理部]	451
	[多摩永山病院中央検査室]	454
	[多摩永山病院薬剤科]	455
	[多摩永山病院看護部]	456
	[多摩永山病院放射線科技師室]	458
	[多摩永山病院消化器科]	458
23.	千葉北総病院付置施設等	466
	[千葉北総病院内科]	466
	[千葉北総病院集中治療室]	478
	[千葉北総病院リハビリテーション科]	480
	[千葉北総病院病理部]	481
	[千葉北総病院中央検査室]	486
	[千葉北総病院薬剤科]	487
	[千葉北総病院中央画像検査室]	489
	[千葉北総病院歯科]	490
	[千葉北総病院看護部]	491
〔4〕 付置研究施設		
1.	老人病研究所	495
	[病理学部門]	495
	[生化学部門]	497
	[免疫部門]	500
	[疫学部門]	501
	[生体応答学部門]	502
〔5〕 その他		
1.	教育推進室	507
付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況		
1.	平成19年度科学研究費補助金交付決定一覧	513
2.	平成19年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況	520
3.	平成19年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕	521
4.	平成19年度補助・委託一覧	522
5.	平成19年度学術賞受賞一覧	543
6.	平成19年度知的財産一覧（特許権）	548

〔1〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

[心理学]

研究業績

論文

(1) 研究ノート：

- 1) 杉浦京子：芸術療法とカウンセリング．日本医科大学基礎科学紀要 2007；(37)：79-98.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 杉浦京子：コラージュ療法の新しい技法を学ぶ．第36回西日本芸術療法学会，2007．7.

(2) 一般講演：

- 1) 杉浦京子：芸術療法とカウンセリング．常磐大学心理臨床センター公開講演会，2007．10.

(3) フォーラム：

- 1) 杉浦京子，荒木志朗¹⁾，齋藤孝由²⁾，志村実夫³⁾，高江洲義英⁴⁾，財満義輝⁵⁾ (1) 九州工業大学，2) たなか病院，3) 牧病院，4) いずみ病院，5) 広島修道大学)：コラージュ世界からの広がり．第36回西日本芸術療法学会，2007．7.

(4) ポスターセッション：

- 1) 杉浦京子，鈴木康明¹⁾，金丸隆太²⁾ (1) 国士舘大学文学部，2) 茨城大学大学院)：投映描画法テスト・バッテリーの有効性 その1 - 中学校におけるスクールカウンセラーのニーズに対応する -．日本心理臨床学会第26回大会，2007．9.

[文化人類学]

研究概要

日本の精神の原点ならびに歴史の変容，キリスト教精神の原点ならびに歴史の変容，現代社会における宗教的精神性の意義，現代日本人の精神的危機等について究明している。

研究業績

論文

(1) 研究ノート：

- 1) 伊藤末博：現代日本人の醜悪．日医大基礎科学紀要 2007；(37)：99-110.

2. 自然科学

[数学]

研究概要

カイラルアノマリの厳密計算のために、ポアンカレ不等式からハルナック不等式を経て、差分ラプラシアンのリゾルベント評価を得る道筋を付けた。また、確率論の連載記事を完結させた。(渡辺)

ある性質をもつ作用素の積の空間を利用して、作用素単調関数と作用素不等式の間に関係がつけられることを考察した。またそこにおけるスペクトルの意味についても調べた。(儀我)

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 渡辺 浩：使うための確率論入門 その8 新生児の統計. 数理科学 2007 ; 526 : 64-69.
- 2) 渡辺 浩：使うための確率論入門 その9 ランダムウォークの到達点. 数理科学 2007 ; 528 : 71-76.
- 3) 渡辺 浩：使うための確率論入門 その10 ランダムウォークの到達点 (続). 数理科学 2007 ; 529 : 64-69.
- 4) 渡辺 浩：使うための確率論入門 その11 エーレンフェストの熱交換モデル. 数理科学 2007 ; 531 : 71-77.
- 5) 渡辺 浩：使うための確率論入門 その12 遺伝的浮動. 数理科学 2007 ; 532 : 61-67.
- 6) 渡辺 浩：使うための確率論入門 その13 ランダムウォークと再帰性. 数理科学 2007 ; 534 : 61-67.
- 7) 渡辺 浩：使うための確率論入門 その14 確率論とは何か. 数理科学 2007 ; 535 : 67-73.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 儀我真理子： $1=0.9999999\dots$ 数学教育学会, 2008. 3.
- 2) 渡辺 浩：4次元spin系の連続極限と繰り込み群解析. 愛媛大学解析セミナー, 2007. 11.

[物理学]

研究概要

当教室では、教授・准教授・講師が、それぞれ独立して異なる分野の研究を行っている。以下、それぞれの研究概要を列記する。

1) (1) ミオシンによるATP加水分解の分子軌道法と分子動力学法、パッチ解析による研究を行っている。(2) リン脂質リポソームの相転移の分子軌道法と分子動力学による研究を行っている。[香川]

2) (1) 哺乳類とバクテリア由来のキサンチン脱水素酵素は、3次元構造は非常に似ているが、阻害剤に対する応答には大きな差異が確認されている。この原因がタンパク質の動的構造に起因していると考え、これまでよりも精度の高い、タンパク質の二面角を変数とする規準振動解析を行った。(2) 光吸収や光放出などのスペクトル形状は、理論的にはスペクトル形状関数 (Line-shape Function) で説明される。スペクトル形状関数は、単に輻射過程のみならず、生体内の二分子間の電子励起エネルギー移動や電子移動過程を議論するために重要な因子であるが、従来の計算は近似が粗く、実在系の分子を現実的に取り扱うまでには至っていない。そこで、実在系の分子に関するスペクトル形状関数を理論的に取り扱うことができるようにするための研究を継続中である。これまでに、Duschinsky ミキシングを考慮する方法を提出してきたが、本年度はさらに、溶媒からの揺動力の影響を取り込むための基本方程式

を導出した。[菊地]

3) (1) 2007年9月14日に打ち上げられた日本初の大型月探査機「かぐや」に搭載されたガンマ線検出器の観測データのデータ解析を行っている。月の起源・進化、さらには地球や太陽系の起源の解明につながるような観測・実験を進めている。(2) 次期月探査用のものを含めた放射線物理・計測技術を応用した、自然の成り立ちの解明、および資源探査につながるような実験を進めている。[小林]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakagawa Y¹), Kikuchi H, Takahashi H¹) (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Molecular analysis of TCR and peptide/MHC interaction using P18-I10-derived peptides with a single D-amino acid substitution. *Biophys. J.* 2007 ; 92 : 2570-2582.
- 2) Curioni A¹), Aprile E¹), Doke T²), Giboni KL¹), Kobayashi M¹), Oberlack UG¹) (1) Columbia Astrophysics Lab., Columbia Univ., New York, (2) Waseda Univ., (3) Dept. of Physics & Astronomy, Rice Univ., Houston, TX, USA) : A study of the LXeGRIT detection efficiency for MeV gamma-rays during the 2000 balloon flight campaign. *Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section A* 2007 ; 576 (2-3) : 350-361.
- 3) 小林正規, 長谷部信行¹), 相澤隆生²) (1) 早稲田大学理工学術院, (2) サンコーコンサルタント (株)) : 中性子即発 γ 線分析の物理探査分野への応用. *日本医科大学基礎科学紀要* 2007 ; 37 : 39-54.
- 4) 梅崎馨章¹), 菊地浩人, 小田井圭²) (1) 東京医科歯科大学, (2) 湘北短大情報) : 溶媒中にある励起分子からの一光子発光に対する理論的アプローチ：基本方程式の導出. *東海大学理学部紀要* 2008 ; 43 : 107-125.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Karouji Y¹), Hasebe N¹), Shibamura E²), Miyachi T¹), Takashima T³), Kobayashi M, Hareyama M¹), Okudaira O¹), Yamashita N¹), Kobayashi S¹), Kodaira S¹), Ishizuka T¹), Iwabuchi K¹), Hayatsu K¹), Sakurai K¹), et al. (1) RISE, Waseda Univ., (2) College of Health Science, Saitama Pref. Univ., (3) ISAS, JAXA) : Global Measurement of Chemical Composition of the Moon's Crust by Gamma Ray Spectrometer onboard the SELENE (KAGUYA) and Lunar Meteorites. *The 5th 21st century COE symposium on Physics of Self-organization Systems*, 2007. 9.

(2) 一般講演：

- 1) Hasebe N¹), Shibamura E²), Miyachi T¹), Takashima T³), Kobayashi M, Hareyama M¹), Okudaira O¹), Yamashita N¹), Kobayashi S¹), Karouji Y¹), Kodaira S¹), Ishizaki T¹), Iwabuchi K¹), Hayatsu K¹), Sakurai K¹), et al. (1) RISE, Waseda Univ., (2) College of Health Science, Saitama Pref. Univ., (3) ISAS, JAXA) : Global Measurement of Chemical Elements of the Moon by Gamma Ray Spectrometer Onboard the SELENE. *4th Annual Meeting, Asia Oceania Geosciences Society (Bangkok, Thailand)*, 2007. 7.
- 2) Reedy RC¹), Hasebe N²), Shibamura E³), Miyachi T²), Takashima T⁴), Kobayashi M, Okudaira O²), Yamashita N²), Kobayashi S²), Karouji Y²), Hareyama M²), Gasnault O⁵), Maurice S⁵), D'uston C⁵) (1) Inst. of Meteoritics, Univ. of New Mexico, (2) RISE, Waseda Univ., (3) College of Health Science, Saitama Pref. Univ., (4) ISAS, JAXA, (5) Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements, CNRS) : Elemental Mapping of the Moon with the SELENE Gamma-Ray Spectrometer. *70th Annual Meteoritical Society Meeting (Tucson, Arizona, USA)*, 2007. 8.
- 3) Yamashita N¹), Okudaira O¹), Kobayashi S¹), Miyachi T¹), Shibamura E²), Kobayashi M, Hareyama M¹),

- Karouji Y¹, Kodaira S¹, Hayatsu K¹, Iwabuchi K¹, Nemoto S¹, Hasebe N¹ (¹ RISE, Waseda Univ., ² College of Health Science, Saitama Pref. Univ.) : Estimation of Sensitivity for Gamma-Ray Spectrometer on board SELENE (KAGUYA). 10th International Conference on Advanced Technology and Particle Physics (Como, Italy), 2007. 10.
- 4) Kobayashi M, Hasebe N¹, Shibamura E², Miyachi T¹, Takashima T³, Okudaira O¹, Yamashita N¹, Kobayashi S¹, Hareyama M¹, Karouji Y¹, Kodaira S¹, Ebihara M⁴, Arai T⁵, Sugihara T⁶, Takeda H⁷, et al. (¹ RISE, Waseda Univ., ² College of Health Science, Saitama Pref. Univ., ³ ISAS, ⁴ Dept. of Chemistry, Tokyo Metropolitan Univ., ⁵ National Inst. of Polar Research, ⁶ Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, ⁷ Research Inst., Chiba Inst. of Technology) : Current Status of the Gamma-Ray Spectrometer on SELENE (KAGUYA). 39th Lunar and Planetary Science Conference (Houston, Texas, USA), 2008. 3.
- 5) Hasebe N¹, Shibamura E², Miyachi T¹, Takashima T³, Kobayashi M, Okudaira O¹, Yamashita N¹, Kobayashi S¹, Hareyama M¹, Karouji Y¹, Kodaira S¹, Ebihara M⁴, Arai T⁵, Sugihara T⁶, Takeda H⁷, et al. (¹ RISE, Waseda Univ., ² College of Health Science, Saitama Pref. Univ., ³ ISAS, JAXA, ⁴ Dept. of Chemistry, Tokyo Metropolitan Univ., ⁵ National Inst. of Polar Research, ⁶ Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, ⁷ Research Inst., Chiba Inst. of Technology) : Germanium Gamma-Ray Spectrometer (GRS) on SELENE (KAGUYA). International Workshop on Advances in Cosmic Ray Science, March 17-19, 2008 (Waseda Univ., Tokyo, Japan), 2008. 3.
- 6) Karouji Y¹, Hasebe N¹, Shibamura E², Kobayashi M, Okudaira O¹, Yamashita N¹, Kobayashi S¹, Hareyama M¹, Miyachi T¹, Kodaira S¹, Iwabuchi K¹, Hayatsu K¹, Nemoto S¹, Gasnault O³, Maurice S³, et al. (¹ RISE, Waseda Univ., ² College of Health Science, Saitama Pref. Univ., ³ Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements, CNRS) : The Local Differentiation of elemental composition on the Moon : The First Result of Gamma-Ray Spectrometer on board SELENE (KAGUYA). International Workshop on Advances in Cosmic Ray Science (Waseda Univ., Tokyo, Japan), 2008. 3.
- 7) Kikuchi H, Fujisaki H¹, Watanabe N², Okamoto K³, Leimkuler S⁴, Nishino T³ (¹ Inst. of Phys. and Theor. Chem., J. W. Goethe-Univ., Germany, ² Center for Info. Sci., Nippon Medical School, ³ Dept. of Biochem. and Mol. Biol., Nippon Medical School, ⁴ Inst. of Biochem. and Biol., Univ. of Potsdam, Germany) : Difference in the dynamic structure between mammalian and bacterial xanthine oxidoreductases. 日本生物物理学会第45回年会, 2007. 12.
- 8) Gasnault O¹, Diez B¹, D'uston C¹, Forni O¹, Maurice S¹, Hasebe N², Shibamura E³, Miyachi T², Kobayashi M, Okudaira O², Yamashita N², Kobayashi S², Hareyama M², Karouji Y², Reedy RC⁴ (¹ Centre d' Etude Spatiale des Rayonnements, Université ; Paul Sabatier, CNRS, ² RISE, Waseda Univ., ³ College of Health Science, Saitama Pref. Univ., ⁴ Inst. of Meteoritics, Univ. of New Mexico) : From Lunar Prospector to Kaguya : A Gamma-ray Perspective. 2nd SELENE Science Working Team Meeting, 2008. 1.
- 9) Hasebe N¹, Shibamura E², Miyachi T¹, Takashima T³, Kobayashi M, Okudaira O¹, Yamashita N¹, Kobayashi S¹, Hareyama M¹, Karouji Y¹, Kodaira S¹, Ebihara M⁴, Arai T⁵, Sugihara T⁶, Takeda H⁷, et al. (¹ RISE, Waseda Univ., ² College of Health Science, Saitama Pref. Univ., ³ ISAS, JAXA, ⁴ Dept. of Chemistry, Tokyo Metropolitan Univ., ⁵ National Inst. of Polar Research, ⁶ Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology, ⁷ Research Inst., Chiba Inst. of Technology) : Present Status of Gamma-Ray Spectrometer (GRS) on SELENE (KAGUYA). 2nd SELENE Science Working Team Meeting, 2008. 1.
- 10) 山下直之¹, 長谷部信行¹, 小林正規, 奥平 修¹, 小林進悟¹, 柴村英道² (¹ 早大理工研, ² 埼玉県大) :

Complex correlation between chemical abundance and intensity of line gamma rays on the lunar surface. 日本地球惑星科学連合2007年大会, 2007. 5.

- 11) 奥平 修¹⁾, 山下直之¹⁾, 小林進悟¹⁾, 長谷部信行¹⁾, 宮地 孝¹⁾, 柴村英道²⁾, 小林正規, 晴山 慎¹⁾, 唐牛讓¹⁾, 小平 聡¹⁾, 早津佳奈子¹⁾, 岩淵和也¹⁾, 根本慎平¹⁾, 高島 健³⁾, 植崎勝弘⁴⁾, その他6名 (1) 早大理工研, 2) 埼玉県大, 3) JAXA/ISAS, 4) 住友重機械(株)): 月探査機かぐや(SELENE)によるガンマ線探査. 第68回応用物理学会学術講演会, 2007. 9.
- 12) 奥平 修¹⁾, 山下直之¹⁾, 小林進悟¹⁾, 長谷部信行¹⁾, 宮地 孝¹⁾, 柴村英道²⁾, 小林正規, 晴山 慎¹⁾, 唐牛讓¹⁾, 小平 聡¹⁾, 早津佳奈子¹⁾, 岩淵和也¹⁾, 根本慎平¹⁾ (1) 早大理工研, 2) 埼玉県大): 月周回衛星かぐや(SELENE) 搭載用ガンマ線分光計のバックグラウンド評価. 第68回応用物理学会学術講演会, 2007. 9.
- 13) 小林正規, 長谷部信行¹⁾, 相澤隆夫²⁾ (1) 早稲田大学理工学術院, 2) サンコーコンサルタント(株)): 中性子発生装置を用いたガンマ線分析による地質検層. 物理探査学会第117回学術講演会, 2007. 10.
- 14) 香川 浩, Gao Q¹⁾, 田村祐介²⁾, 森 和英³⁾ (1) 東工大院・生命理工, 2) 日本SGL, 3) WCSC): ミオシンのATP加水分解機構の理論的研究(II). 日本生物物理学会第45回年会, 2007. 12.
- 15) 永井喜則¹⁾, 輪湖 博²⁾, 香川 浩, Hyde S³⁾ (1) 国土館大・情科セ, 2) 早稲田大・社会科学, 3) App. Math., RSPHySE, Australian National University): ATPアナログ結合ミオシン結晶データのパッチ解析による構造比較. 日本生物物理学会第45回年会, 2007. 12.
- 16) 柴村英道¹⁾, 長谷部信行²⁾, 宮地 孝²⁾, 高島 健³⁾, 小林正規, 奥平 修²⁾, 山下直之²⁾, 小林進悟²⁾, 晴山慎²⁾, 唐牛 讓²⁾ (1) 埼玉県大, 2) 早大理工研, 3) ISAS, JAXA): 「かぐや」における最新のデータから月探査衛星かぐや搭載ガンマ線分光計. 第22回「放射線検出器とその応用」, 2008. 2.
- 17) 長谷部信行¹⁾, 柴村英道²⁾, 宮地 孝¹⁾, 高島 健³⁾, 小林正規, 奥平 修¹⁾, 山下直之¹⁾, 小林進悟¹⁾, 晴山慎¹⁾, 唐牛 讓¹⁾, 小平 聡¹⁾, 海老原充⁴⁾, 荒井朋子⁵⁾, 杉原孝充⁶⁾, 武田 弘⁷⁾, その他9名 (1) 早大理工研, 2) 埼玉県大, 3) 宇宙研, 4) 首都大学東京, 5) 極地研, 6) JAMSTEC, 7) 千葉工大): 月探査衛星「かぐや」搭載ガンマ線分光計の運用状況. 応用物理学会2008年度春季大会, 2008. 3.
- 18) 山下直之¹⁾, 長谷部信行¹⁾, 柴村英道²⁾, 宮地 孝¹⁾, 小林正規, 奥平 修¹⁾, 小林進悟¹⁾, 晴山 慎¹⁾, 唐牛讓¹⁾, 小平 聡¹⁾, 岩淵和也¹⁾, 早津佳奈子¹⁾, 根本慎平¹⁾, ダストンクロード³⁾, モーリスシルベスタ³⁾, その他3名 (1) 早大理工研, 2) 埼玉県大, 3) CESR): かぐや搭載ガンマ線分光計のデータ解析法への検討. 応用物理学会2008年度春季大会, 2008. 3.

[化学]

研究概要

菅原:

アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び、不飽和酸とジクロロカルベンの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

(1) 生理活性を有するラクトン類の合成 (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中:

質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

(1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン, 電子移動反応中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究

(2) 生体内微量元素等と疾患, 環境等との関連

永井:

2, 2'-ビピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム(II)混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究 (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田：

弱酸性陽イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究

- (1) 塩類水溶液系におけるアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動と分離
- (2) イットリウムの特異的分離とその機構の解明
- (3) ジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), および他の金属の三成分分離貴金属元素の分離および定量に関する研究
- (4) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構
- (5) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

研究業績

著書

- 1) 武田洋一：〔分担〕III-3 生体関連物質のクロマトグラフィー-2. 薄層クロマトグラフィー (1) アミノ酸の薄層クロマトグラフィー. 生命科学のための化学実験 (高橋知義, 城座映明, 田中幹夫, 山倉文幸 編), 2007 ; pp141-145, 東京教学社.
- 2) 菅原理二：〔分担〕I-7 実験器具と基本操作 10. 融点測定. 生命科学のための化学実験 (高橋知義, 城座映明, 田中幹夫, 山倉文幸 編), 2007 ; pp24-24, 東京教学社.
- 3) 菅原理二：〔分担〕III-1 アセチル化反応と純度試験1. アスピリンの合成・定性・同定2. サリチル酸の比色定量を用いたアスピリンの純度測定. 生命科学のための化学実験 (高橋知義, 城座映明, 田中幹夫, 山倉文幸 編), 2007 ; pp119-128, 東京教学社.
- 4) 永井 俊：〔分担〕II-3 反応速度2. 酢酸メチルの加水分解反応. 生命科学のための化学実験 (高橋知義, 城座映明, 田中幹夫, 山倉文幸 編), 2007 ; pp90-93, 東京教学社.
- 5) 田中幹夫：〔編集〕生命科学のための化学実験 (高橋知義, 城座映明, 田中幹夫, 山倉文幸 編), 2007 ; pp1-209, 東京教学社.
- 6) 田中幹夫：〔分担〕II-1 無機定性分析. 生命科学のための化学実験 (高橋知義, 城座映明, 田中幹夫, 山倉文幸 編), 2007 ; pp37-55, 東京教学社.
- 7) 田中幹夫：〔分担〕II-2 容量分析1. 中和滴定 (1) 酢酸の解離定数の測定. 生命科学のための化学実験 (高橋知義, 城座映明, 田中幹夫, 山倉文幸 編), 2007 ; pp56-59, 東京教学社.
- 8) 田中幹夫：〔分担〕II-2 容量分析3. 酸化還元滴定 (1) 過マンガン酸カリウムの滴定. 生命科学のための化学実験 (高橋知義, 城座映明, 田中幹夫, 山倉文幸 編), 2007 ; pp73-77, 東京教学社.

[生物学]

研究概要

本教室では、消化管の再生や器官形成のしくみを解明するために、アフリカツメガエルを実験モデルとして分子発生物学的な研究に取り組んでいる。この他に、微生物生理学と植物生態学の分野で研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。

1) 変態期両生類の消化管は、甲状腺ホルモン (TH) を引き金として哺乳類類似の器官へと再構築されることから、器官再生の研究に格好のモデル系を提供している。現在、小腸の再構築機構を分子レベルで明らかにするために、

TH応答遺伝子の発現および機能解析を、免疫組織化学や器官培養法などを用いて進めている。これまでにTH応答遺伝子の1つ、MMP-11が小腸上皮のアポトーシスを促進することを報告したが、今年度はMMP-11と似た発現パターンを示す遺伝子としてMMP-9THを見出した。また、これまでの発現解析によりShhが上皮幹細胞の制御に関わることが示唆されたため、幹細胞に及ぼすShhの機能を解析するためのトランスジェニックカエルの作製に着手した。一方、遺伝子導入が容易な両生類の初期胚は、様々な器官形成に関わる遺伝子の機能解析系として有用である。この系を用いて血管形成関連遺伝子の機能解析も進めている(老人病研究所・藤原正和助教, 川並汪一教授との共同研究)。(長谷部, 岡)

2) ゲノム塩基配列が決められたシアノバクテリアを中心にカロテノイドの同定と生合成遺伝子の性質、紅色光合成細菌の色素分析と色素の生理学的性質などを、国内外の人と共同研究している。シアノバクテリアにおいて、同じ生合成酵素の基質特異性の違いが、生産されるカロテノイドの多様性につながっていることを見いだした。NEDOの分担者としてカロテノイドを用いた重金属検出微生物センサーの開発を進めている(学外共同研究)。他大学の大学院学生などに研究指導も行っている。(高市)

3) 冬緑性草本を用いて生理生態学的な研究を行っている(国内共同研究)。冬季に葉を持つ植物は、低温と強光によってひき起こされる光合成系の損傷という潜在的な危険にさらされている。こうした環境への適応を明らかにするために、光合成特性や物質生産のスケジュールを中心に研究を進めている。また、単なる休眠期間と見なされがちな「葉の存在しない季節」にも着目し、根の活性の測定を行っている。(西谷)

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Shindo K¹, Kikuta K¹, Suzuki A¹, Katsuta A¹, Kasai H², Misawa N², Takaichi S (¹ Japan Women's University, ² Marine Biotechnology Institute) : (3R)-Saproxanthin, (3R, 2' S)-myxol, and (3R, 3' R)-zeaxanthin from three novel marine bacteria (Flavobacteriaceae), and their antioxidant activities. *Appl Microbiol Biotechnol* 2007 ; 74 (6) : 1350-1357.
- 2) Hasebe T, Kajita M¹, Fujimoto K², Yaoita Y², Ishizuya - Oka A (¹ Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ² Institute for Amphibian Biology, Hiroshima University) : Expression profiles of the duplicated matrix metalloproteinase-9 genes suggest their different roles in apoptosis of larval intestinal epithelial cells during *Xenopus laevis* metamorphosis. *Dev Dyn* 2007 ; 236 (8) : 2338-2345.
- 3) Suzuki H¹, Hirano Y², Kumura Y¹, Takaichi S, Kobayashi M³, Miki K², Wang Z¹ (¹ Ibaraki University, ² Kyoto University, ³ Ariake National College of Technology) : Purification, characterization and crystallization of the core complex from thermophilic purple sulfur bacterium *Thermochromatium tepidum*. *Biochim Biophys Acta* 2007 ; 1767 (8) : 1057-1063.
- 4) Yoshida K¹, Yoshioka D¹, Inoue K¹, Takaichi S, Maeda I¹ (¹ Utsunomiya University) : Evaluation of colors in green mutants isolated from purple bacteria as a host for colorimetric whole-cell biosensors. *Appl Microbiol Biotechnol* 2007 ; 76 (10) : 1043-1050.
- 5) Asao M¹, Takaichi S, Madigan M¹ (¹ Southern Illinois University) : *Thiocapsa imhoffii*, sp. nov., an alkaliphilic purple sulfur bacterium of the family *Chromatiaceae* from Soap Lake, Washington (USA). *Arch Microbiol* 2007 ; 188 (6) : 665-675.
- 6) Okada M¹, Taniuchi Y¹, Murakami A², Takaichi S, Ohtake S¹, Ohki K¹ (¹ Fukui Prefectural University, ² Kobe University) : Abundance of picophytoplankton in the halocline of meromictic lake, Lake Suiget-su, Japan. *Limnology* 2007 ; 8 (3) : 271-280.
- 7) Herbert R¹, Gall A², Maoka T³, Cogdell R⁴, Robert B², Takaichi S, Schwabe S⁵ (¹ University of

Dundee, ²⁾ Institute de Biologie et Technologies de Saclay, ³⁾ Research Institute for Production Development, ⁴⁾ University of Glasgow, ⁵⁾ International Blue Holes Foundation) : Phototrophic purple sulfur bacteria as heat engines in the South Andros Black Hole. *Phytosynth Res* 2008 ; 95 (2-3) : 261-268.

- 8) Khan S¹⁾, Takaichi S, Harayama S¹⁾ (¹⁾ NBRC/NITE) : *Paracoccus marinus* sp. nov., an adonixanthin diglucoside-producing bacterium isolated from costal seawater in Tokyo Bay. *Int J System Evol Microbiol* 2008 ; 58 (2) : 383-386.

(2) 総説 :

- 1) Fu L¹⁾, Hasebe T, Ishizuya-Oka A, Shi Y¹⁾ (¹⁾ National Institute of Child Health and Human Development, National Institutes of Health) : Roles of matrix metalloproteinases and ECM remodeling during thyroid hormone-dependent intestinal metamorphosis in *Xenopus laevis*. *Organogenesis* 2007 ; 3 (1) : 14-19.
- 2) Ishizuya-Oka A, Shi Y¹⁾ (¹⁾ National Institute of Child Health and Human Development, National Institutes of Health) : Regulation of adult intestinal epithelial stem cell development by thyroid hormone during *Xenopus laevis* metamorphosis. *Dev Dyn* 2007 ; 236 (12) : 3358-3368.
- 3) Takaichi S, Mochimaru M¹⁾ (¹⁾ Komazawa University) : Carotenoids and carotenogenesis in cyanobacteria : unique ketocarotenoids and carotenoid glycosides. *Cell Molecular Life Sci* 2007 ; 64 (19-20) : 2607-2619.
- 4) Shi Y¹⁾, Fu L¹⁾, Hasebe T, Ishizuya-Oka A (¹⁾ National Institute of Child Health and Human Development, National Institutes of Health) : Regulation of ECM remodeling and cell fate determination by matrix metalloproteinase strmoelysin-3 during thyroid hormone-dependent postembryonic development. *Pharmacol Ther* 2007 ; 116 (3) : 391-400.
- 5) Ishizuya-Oka A, Hasebe T : Sonic hedgehog and bone morphogenetic protein-4 signaling pathway involved in epithelial cell renewal along the radial axis of the intestine. *Digestion* 2008 ; 77 (1) : 42-47.
- 6) 高市真一 : 陸上植物や光合成微生物におけるカロテノイドの分布と生合成. *FFIジャーナル* 2007 ; 212 (7) : 524-531.

(3) Photogravure :

- 1) Hasebe T, Ishizuya-Oka A : *Xenopus laevis* as a model for the functional analysis of genes involved in embryogenesis and postembryonic organ regeneration. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (8) : 266-267.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 高市真一 : シアノバクテリアのカロテノイド生合成経路と酵素・遺伝子. 第21回カロテノイド研究談話会, 2007. 9.

(2) シンポジウム :

- 1) Itoh S¹⁾, Uzumaki T¹⁾, Takaichi S, Iwaki M²⁾, Kumazaki S³⁾, Itoh K¹⁾ (¹⁾ Nagoya Univ., ²⁾ London Univ., ³⁾ Kyoto Univ.) : Unidirectional electron transfer inside the chlorophyll d-containing photosystem I reaction center complex of *Acaryochloris marina* (Reaction Centres : the powerhouses of photosynthesis). 14th International Congress on Photosynthesis (Glasgow), 2007. 7.
- 2) 岡 敦子, 長谷部孝 : 両生類の変態に伴う消化管再構築 : 組織間相互作用の分子的基盤 (両生類はワンダーランド). 日本動物学会第78回大会, 2007. 9.

(3) 一般講演 :

- 1) Takaichi S, Mochimaru M¹⁾, Masukawa H²⁾, Maoka T³⁾ (¹⁾ Komazawa Univ., ²⁾ Kanagawa Univ., ³⁾ Research Inst. Production Develop.) : Functional Identification of GDP-Fucose Synthase Gene in *Anabaena* sp.

- PCC 7120. 14th International Congress on Photosynthesis (Glasgow), 2007. 7.
- 2) Akimoto S¹⁾, Higuchi M¹⁾, Murakami A¹⁾, Takaichi S, Mimuro M²⁾ (1) Kobe Univ., 2) Kyoto Univ.) : Ultrafast relaxation dynamics of a keto-carotenoid, siphonaxanthin, probed by time-resolved fluorescence. 14th International Congress on Photosynthesis (Glasgow), 2007. 7.
 - 3) Yoshida K¹⁾, Yoshioka D¹⁾, Inoue K¹⁾, Takaichi S, Maeda I¹⁾ (1) Utsunomiya Univ.) : Evaluation of colors in green mutants isolated from purple bacteria as a host for colorimetric whole-cell biosensors. 14th International Congress on Photosynthesis (Glasgow), 2007. 7.
 - 4) 高市真一, 持丸真里¹⁾ (1) 駒澤大・自然) : シアノバクテリアのカロテノイド合成酵素の基質特異性によるカロテノイドの多様性. 第15回光合成の色素系と反応中心に関するセミナー, 2007. 6.
 - 5) 長谷部孝, 梶田満子¹⁾, 矢尾板芳郎²⁾, 岡 敦子 (1) 日本医大・老研, 2) 広島大・理) : ゼノパス消化管の再構築過程における MMP-9 とその重複遺伝子の発現様式. 第40回日本発生物学会・第59回日本細胞生物学会合同大会, 2007. 5.
 - 6) 秋本誠志¹⁾, 村井陽介²⁾, 横野牧生²⁾, 村上明男³⁾, 高市真一, 樋口倫也⁴⁾, 鞆 達也⁴⁾, 三室 守^{4,5)} (1) 神戸大分子フォト, 2) 北大院工, 3) 神戸大内海域セ, 4) 京大院地球環境, 5) 京大院人間環境) : 溶液中におけるケトカロテノイドの超高速励起緩和. 第23回化学反応討論会, 2007. 6.
 - 7) 高市真一, 片山光徳¹⁾, 小林真理²⁾, 持丸真里³⁾ (1) 日大・生産工, 2) 東工大・資源研, 3) 駒澤大・自然) : 数種のシアノバクテリアのカロテノイド組成と生合成経路. 日本植物学会第71回大会, 2007. 9.
 - 8) 吉田一之¹⁾, 吉岡大樹¹⁾, 井上浩一¹⁾, 高市真一, 前田 勇¹⁾ (1) 宇都宮大農・応生化) : カロテノイド合成変異グリーンミュータントを宿主とした微生物センサーの開発. 第59回日本生物工学会大会, 2007. 9.
 - 9) 高市真一, 眞岡孝至¹⁾, 岩井雅子²⁾, 池内昌彦³⁾ (1) 生産開発科研, 2) 東京理科大・理工, 3) 東大・院総合) : 好熱性シアノバクテリア *Thermosynechococcus elongatus* のカロテノイド, 生合成経路と遺伝子. 第49回日本植物生理学会年会, 2008. 3.
 - 10) 高市真一, 眞岡孝至¹⁾, 高崎一人²⁾, 花田 智³⁾ (1) 生産開発科研, 2) 産業技術総合研) : 新門の細菌 *Gemmatimonas aurantiaca* のカロテノイド : オシロール・ジラムノシド, 生合成経路と遺伝子. 日本農芸化学会2008年度大会, 2008. 3.
 - 11) 中村敏枝¹⁾, 西谷里美, 可知直毅¹⁾ (1) 首都大・生命科学) : 冬緑性草本ヒガンバナの成長解析. 第55回日本生態学会, 2008. 3.

3. 外国語

[英語]

研究概要

英語教室では英語教育、英語学、英文学の3分野の研究を展開している。平成19年度の各分野の研究概要は次のとおりである。

<英語教育> 医学英語推進委員会等と連携を取りながら、本学での英語教育の充実と学生の英語力向上に関する調査研究および提言を行った。英語運用能力試験（TOEFL-ITP）が導入されたことを受け、1年生の英語力に関する分析研究を進め、その結果を『日本医科大学基礎科学紀要』において発表した。今後も毎回の試験結果を踏まえ、学生の英語力の経年変化について研究を進めていく予定である。また、平成20年度におけるオンライン教材導入に向けての基盤調査研究も行った。

ここ数年にわたり携わってきた高等学校英語教育に関わる研究成果として、文部科学省検定済み教科書一式が刊行された。平成20年度より使用される新教科書として流通する。

<英語学> 日本人が外国語として英語を使用する際に解決すべき問題について、言語の側面から分析する研究を継続して行った。特に、文法事項や文章構成法に関わる諸問題に焦点を当てているが、一般成人および大学生を対象としたものだけではなく、医学・医療に関わる現場での英語使用についても研究を進めている。成果の一部は2冊の単行本などにまとめられたほか、国際学会でも発表された。

<英文学> 主としてアイルランド文学に関わる研究を行った。「アイルランド小説研究会」（主として新丸子校舎にて開催）の活動の一部として、学会誌にてビッグ・ハウス小説特集を組んだほか、ノートルダム大学アイルランド・スタディー教授、ルーク・ギボンズ氏の講演会（准教授講師会助成講演会）を開催した。また、18世紀末から19世紀初頭の小説の質的变化を論じる研究活動（新丸子校舎にて）を外部大学所属の研究者と行い、より広い視野でアイルランド文学をとらえる機会を得たことは有益であった。

研究業績

論文

(1) 原著：

1) Nakamura T : Introduction : The Big House as a Problematic Space in Irish Fiction. *Journal of Irish Studies* 2007 ; 22 : 3-6.

(2) 綜説：

1) 中村哲子：最近の英語辞書事情：英語論文を書くために。日医大医会誌 2007 ; 3 (3) : 152-155.

(3) その他：

1) 中村哲子：受け継がれるアイルランドの心。日本アイルランド協会会報 2007 ; 67 : 5-5.

(4) Education Report：

1) Minton T, Nishikawa S : The Introduction of a Standardized Proficiency Test (TOEFL ITP) into the English Curriculum. *The Bulletin of Liberal Arts & Sciences Nippon Medical School* 2007 ; 37 : 55-77.

(5) 書評：

1) Nakamura T : Rosemary Raza, *In Their Own Words: British Women Writers and India 1740-1857*, New Delhi : Oxford University Press, 2006, xxxii+ 290 pp. . *Studies in English Literature* 2008 ; English Number 49 : 94-100.

著書

- 1) Minton TD : [自著] 日本人の英文法 : 完全治療クリニック, 2007 ; pp1-221, アルク.
- 2) Minton TD, 吉村順邦¹⁾ (¹⁾ Lingualite Inc.) : [共著] 英文eメール Make it!, 2007 ; pp1-269, 語学春秋社.
- 3) Minton TD, 中村哲子, 岡野一也¹⁾, 奥津和幸²⁾, 今井孝之³⁾ (¹⁾ 開智学園, ²⁾ 東京農業大学第一高等学校, ³⁾ 巣鴨学園) : [共著] Big Dipper Writing Course (文部科学省検定済み教科書, 高等学校外国語科用), 2008 ; pp1-142, 数研出版.
- 4) Minton TD, 中村哲子, 岡野一也¹⁾, 奥津和幸²⁾, 今井孝之³⁾ (¹⁾ 開智学園, ²⁾ 東京農業大学第一高等学校, ³⁾ 巣鴨学園) : [共著] Big Dipper Writing Course : Teacher' s Manual, 2008 ; pp1-222, 数研出版.
- 5) Minton TD, 中村哲子, 岡野一也¹⁾, 奥津和幸²⁾, 今井孝之³⁾ (¹⁾ 開智学園, ²⁾ 東京農業大学第一高等学校, ³⁾ 巣鴨学園) : [共著] Big Dipper Writing Course 評価問題集, 2008 ; pp1-95, 数研出版.
- 6) 鈴木万夫¹⁾, 笹島 茂¹⁾, Minton T : [英文作成協力・英文校正 Tim Minton] 医者たまごの英語40日間トレーニングキットワークブック (基礎編), 2008 ; pp1-163, アルク.
- 7) 松本万夫¹⁾, 笹島 茂¹⁾, Minton T (¹⁾ 埼玉医科大学) : [英文作成協力・英文校正 : Tim Minton] 医者たまごの英語40日間トレーニングキットワークブック (臨床編), 2008 ; pp1-173, アルク.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 中村哲子 : アイルランド併合後の地主像 : エッジワースをめぐる (世紀が変わる, 小説が変わる). 日本オーステイン協会, 2007. 6.

(2) 一般講演 :

- 1) Nishikawa S : Systematic Use of Outlining in Academic Writing Instruction for Japanese EFL Students : From Passive Knowledge to Active Production. Symposium on Second Language Writing (Nagoya), 2007. 9.

[ドイツ語]

研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に習得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習得しやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つには「文法・講読分離型」、もう一つには外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートをはじめ、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。とくに数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く Kommunikativer Sprachunterricht が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめ、「外国語」、さらにいえば、「ことば」に対するセンスを養うことに重点を置いている。

なお、教室員の個別活動についていえば、安藤は日独文化交流史研究を主眼として、とくに幕末・明治における来日外国人の事歴とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳をおこなっている。横内は初級ドイツ語教育および日独交流史における諸問題について調べている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 安藤 勉：茂吉の絵はがき：アララギの沃野. 茂吉記念館だより 2007；10：4-5.
- 2) 横内一実：〔翻訳および解題〕「東洋美術館」について. 日独文化交流史研究 2006・2007年号 2007；(9)：123-133.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 安藤 勉：クルト・グラウザー拾遺. 日本独学史学会, 2006. 9.

(1) 一般講演：

- 1) 安藤 勉：茂吉のウィーン発絵はがき二葉：全集未収載書簡と信州アララギ. 日本独学史学会, 2007. 7.
- 2) 安藤 勉：ムンクの日本紹介. 日本独学史学会, 2007. 12.

4. スポーツ科学

[スポーツ科学]

研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。1) 留学先のスペイン、マドリッドのCajal Institute, Laboratory of NeuroendocrinologyのIgnacio Torres-Aleman教授の研究室で行った実験の追加実験を行い、ストレスによる学習記憶能力の低下に対する継続的な身体運動の予防効果には、運動による海馬へのIGF-1の取り込みと、IGF-1 receptorのリン酸化が増加することIGF-1 receptor antagonistを投与する実験結果よりを明らかにした (Ignacio Torres-Aleman教授との共同研究)。2) 熱帯植物のノニの持つストレス耐性効果を調べるために、ノニエキスが精神的ストレスによる記憶学習能力の低下抑制をもたらすか否かについて検討した。(タヒチアン・ノニ社との共同研究)。3) 継続的な身体運動による海馬での神経新生の増加に対するVEGFの関与について検討した。

武藤：1) 発展途上の国にこそ次世代を担う青少年に対する健全な体育・健康教育が必要と考え、カンボディア・シムリアップにおいて青少年の体格および体力、生活習慣等の調査研究を継続的に行っている。今年度は、体格・体力と睡眠、食事、運動等の生活習慣との関係を明らかにした。2) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操を定期的実施することが高齢者へどのような影響を及ぼすのかを継続的に検討している。パフォーマンステストと自覚症状の変化から、身体的効果が認められた。精神的な面においては、運動による爽快感を男女ともに認めている。3) 「健康運動教室」に参加する高齢者を対象に、体格・生活活動力等を継続的に調査している。運動習慣を持つことにより、身体組成の改善、生活活動力の向上がみられ、教室参加による精神面の充実が明らかになった。

研究業績

論文

[追加分]

追加分研究報告書：

- 1) 川守田千秋¹⁾、渡部鎌二¹⁾、増田敬子¹⁾、武藤三千代¹⁾ (神奈川県立保健福祉大学)：脳卒中後遺症者の生活活動に関する欲求とその充足に関する研究：脳卒中非罹患患者との比較。運動とスポーツの科学 2006；12 (1)：65-70.
- 2) 増田敬子¹⁾、川守田千秋¹⁾、渡部鎌二¹⁾、武藤三千代¹⁾ (神奈川県立保健福祉大学)：脳卒中後遺症者における生活活動に関する欲求とその充足の研究：属性に焦点をあてた脳卒中非罹患患者との比較。運動とスポーツの科学 2006；12 (1)：71-77.
- 3) 山口由子¹⁾、渡部月子¹⁾、渡部鎌二¹⁾、川守田千秋¹⁾、増田敬子¹⁾、武藤三千代¹⁾ (神奈川県立保健福祉大学)：高齢者の体操教室参加が健康に及ぼす影響：健康関連QOL尺度 (SF-36v2) を用いて。運動とスポーツの科学 2006；12 (1)：109-115.

(1) 研究報告：

- 1) 渡部月子¹⁾、川守田千秋¹⁾、山口由子¹⁾、増田敬子¹⁾、渡部鎌二¹⁾、武藤三千代¹⁾ (神奈川県立保健福祉大学)：健康体操教室辞退者の追跡調査。運動とスポーツの科学 2007；13 (1)：107-112.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 川守田千秋¹⁾、渡部月子¹⁾、山口由子¹⁾、増田敬子¹⁾、渡部鎌二¹⁾、武藤三千代¹⁾ (神奈川県立保健福祉大

- 学)：健康体操教室の継続要因に関する実態調査．日本運動・スポーツ科学学会第14回大会，2007．6．
- 2) 渡部月子¹⁾，川守田千秋¹⁾，山口由子¹⁾，増田敬子¹⁾，渡部隼二¹⁾，武藤三千代⁽¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：健康体操教室の中断者に関する実態調査．日本運動・スポーツ科学学会第14回大会，2007．6．
 - 3) 渡部月子¹⁾，川守田千秋¹⁾，渡部隼二¹⁾，武藤三千代⁽¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：カンボジアにおける青少年の体格と健康について．第55回日本教育医学会大会，2007．8．
 - 4) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾，増田敬子¹⁾ ⁽¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：カンボディアにおける青少年の体格・体力と生活習慣について．日本体育学会第58回大会，2007．9．
 - 5) 増田敬子¹⁾，渡部隼二¹⁾，武藤三千代⁽¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：高齢者の生活活動力と健康関連 QOL (SF-36v2) との関係．日本体育学会第58回大会，2007．9．
 - 6) 増田麻里亜¹⁾，竹田玲奈¹⁾，森本玲子¹⁾，中里紀彦¹⁾，三上俊夫⁽¹⁾ 日本医科大学第2学年生)：精神的ストレスによる学習・記憶能力の低下に対する身体運動と脳への IGF-1 取り込みの影響．第75回日本医科大学医学会総会，2007．9．
 - 7) 三上俊夫：定期的な身体運動は心理的ストレスにより生ずる記憶力の低下を抑制する．第74回日本体力医学会総会，2007．9．
 - 8) 中島早苗¹⁾，永田和史¹⁾，大野 誠²⁾，三上俊夫⁽¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野，²⁾ 日本体育大学)：抗酸化物質の摂取は拘束による記憶学習能力の低下を抑制する．第74回日本体力医学会総会，2007．9．
 - 9) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾，若山葉子²⁾，山口由子¹⁾，渡部月子¹⁾ ⁽¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学)：ラジオ体操の継続的实施が生活活動力に及ぼす影響について．第66回日本公衆衛生学会総会，2007．10．
 - 10) 渡部隼二¹⁾，武藤三千代，山口由子¹⁾，渡部月子¹⁾，若山葉子²⁾ ⁽¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 日本医科大学衛生・公衆衛生学)：ラジオ体操の継続的实施が精神および身体に及ぼす影響について．第66回日本公衆衛生学会総会，2007．10．
 - 11) 若山葉子¹⁾，伊藤博子¹⁾，川田智之¹⁾，武藤三千代，渡部隼二²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学，²⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査：肥満指標による比較検討．第66回日本公衆衛生学会総会，2007．10．
 - 12) 永田和史¹⁾，三上俊夫，大澤郁朗¹⁾，太田成男¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野)：Hydrogen water prevents the stress-induced decline of cognitive function in mice．第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会，2007．11．
 - 13) 永田和史¹⁾，大澤郁朗¹⁾，三上俊夫，太田成男¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野)：Hydrogen reduces oxidative stress in the brain, resulting in the prevention of learning-and memory-deficits induced by physical restraint stress. The 7th Annual Conference of the Japanese Society of Mitochondrial Reserch and Medicine, 2007．12．
 - 14) 三上俊夫，大澤郁朗¹⁾，太田成男¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野)：身体運動は IGF-1 の働きを介してストレス由来の学習記憶能力の低下を抑制する．第85回日本生理学会大会，2008．3．

〔2〕基 礎 医 学

1. 解剖学講座（分子解剖学）

研究概要

今年度の解剖学講座（分子解剖学）は、下記分子解剖学的研究を行った。

(1) 胎盤の分子解剖学：a) ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内のIIB型Fc受容体-小胞の解析，b) 栄養膜細胞層の解析，c) Fc受容体の解析を進めた。形態学的解析（森助教，研究生倉澤，後藤准教授）と共に，細胞の単離培養（石川^{冊子}助教，羅助教），PCR（羅，ポストドクター・三嶋，石橋講師），プロテオミクス解析（石川^冊，石橋）を行った（当大学産婦人科学講座，生化学・分子生物学講座，米国オハイオ州立大学・John M. Robinson教授，自治医科大学・松原茂樹教授，鈴木光明教授，屋代隆教授，宮崎・片岡寛章教授との共同研究）。

(2) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：石橋，三嶋，小菅技術員が中心となり，GFP融合分子発現ベクター作製と培養細胞での解析を行った。

(3) microRNAの分子解剖学的研究：a) 生殖腺，胎盤，消化器系臓器・疾患におけるsmall RNAライブラリーによるプロファイリング解析（三嶋，羅，瀧澤^改助教，大学院生・川東，大学院生・神田，大学院生・重原，大学院生・赤城，大学院生・吉田，日本学術振興会特別研究員PD・水口），b) P-bodyについての分子解剖学的解析（石橋），c) 卵巣におけるmicroRNAの機能解析（石橋，羅）を行った（当大学外科学講座，産婦人科学講座との共同研究）。

(4) 生殖細胞特異的分子TEX101の解析：森が組織化学的解析，石川^冊，三嶋，小菅が培養細胞のTEX101発現解析，RNAiベクター作製，小管がエレクトロポレーションによるshTEX101ベクターの*in vivo*マウス精巣導入実験を行った（順天堂大学・荒木慶彦准教授，長崎大学・小路武彦教授との共同研究）。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

1) Mizuguchi Y¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Mishima T, Arima Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Kawahigashi Y, Takizawa T, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Dept. Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School) : Therapeutic use of short hairpin RNA in acute liver failure. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 74-76.

(1) 原著：

1) Luo S, Sugimoto K, Fujii S, Fu S¹⁾, Yamashita K, Takizawa T (¹⁾ Laboratory of Medical Genetics, Harbin Medical University, Harbin China) : Expression of heat shock proteins and stress fiber formation within the arterial vascular tree of adult rats under normal physiological conditions. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 284-292.

2) Luo S, Sugimoto K, Fujii S, Takemasa T¹⁾, Fu S²⁾, Yamashita K (¹⁾ Institute of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba, ²⁾ Laboratory of Medical Genetics, Harbin Medical University, Harbin China) : Role of heat shock protein 70 in induction of stress fiber formation in rat arterial endothelial cells in response to stretch stress. Acta Histochem Cytochem 2007 ; 40 (1) : 9-17.

3) Mishima T, Kurasawa G, Ishikawa G¹⁾, Mori M, Kawahigashi Y, Ishikawa T, Luo S, Takizawa T, Goto T, Matsubara S²⁾, Takeshita T¹⁾, Robinson MJ³⁾, Takizawa T (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi,

- 3) Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, OH, USA) : Endothelial expression of Fc gamma receptor IIb in the full-term human placenta. *Placenta* 2007 ; 28 (2-3) : 170-174.
- 4) Mori M, Ishikawa G¹⁾, Luo S, Mishima T, Goto T, Robinson MJ²⁾, Matsubara S³⁾, Takeshita T¹⁾, Kataoka H⁴⁾, Takizawa T (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, Tochigi, ³⁾ Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, OH USA, ⁴⁾ Second Department of Pathology, Faculty of Medicine, Miyazaki University, Miyazaki) : The cytotrophoblast layer of human chorionic villi becomes thinner but maintains its structural integrity during gestation. *Biol Reprod* 2007 ; 76 (1) : 164-172.
- 5) Vandre DD¹⁾, Ackerman IV EW²⁾, Kniss AD²⁾, Tewari KA¹⁾, Mori M, Takizawa T, Robinson MJ¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, OH, USA, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Ohio State University, OH, USA) : Dysferlin is expressed in human placenta but does not associate with caveolin. *Biol Reprod* 2007 ; 77 (3) : 533-542.
- 6) Mishima T, Mizuguchi Y¹⁾, Kawahigashi Y, Takizawa T, Takizawa T (¹⁾ Dept. Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School) : RT-PCR-based analysis of microRNA (miR-1 and -124) expression in mouse CNS. *Brain Res* 2007 ; 1131 (1) : 37-43.
- 7) Robinson MJ¹⁾, Ackerman IV EW²⁾, Kniss AD²⁾, Takizawa T, Vandre DD¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, OH, USA, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Ohio State University, OH, USA) : Proteomics of the human placenta : promises and realities. *Placenta* 2008 ; 29 (2) : 135-143.
- 8) 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 阿曾亮子¹⁾, 瀧澤俊広, 明樂重夫²⁾, 国信浩洋³⁾, 寺本 明⁴⁾ (¹⁾ 教育推進室, ²⁾ 産婦人科学, ³⁾ ドイツ語教室, ⁴⁾ 脳神経外科学) : 医学部学生による授業評価の信頼性に関する検討. *医学教育* 2007 ; 38 (6) : 377-381.

(2) 総説 :

- 1) Takizawa T, Eguchi H¹⁾, Namimatsu S²⁾, Jeschke U³⁾, Fuchs R⁴⁾, Robinson MJ⁵⁾ (¹⁾ Dept. Radiobiology/Molecular Epidemiology, Radiation Effects Research Foundation, Hiroshima, ²⁾ Dept. of Surgical Pathology, Nippon Medical School, ³⁾ Dept. Obstetrics and Gynecology, Ludwig-Maximilians-University of Munich, Munich, Germany, ⁴⁾ Dept. of Pathophysiology, Medical University of Vienna, Vienna, Austria, ⁵⁾ Dept. of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, OH, USA) : Histochemistry for placenta research : theory and application. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (4) : 268-273.
- 2) 瀧澤俊広, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 松原茂樹²⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学, ²⁾ 自治医科大学産婦人科学講座) : 胎盤の構造と機能 (マクロ, ミクロの形態と関連機能). *臨床検査* 2007 ; 51 (13) : 1643-1649.

著 書

- 1) 瀧澤俊広 : [講演会予稿集] 動物組織の免疫電顕. 日本顕微鏡学会関東支部第31回講演会予稿集 (日本顕微鏡学会関東支部第31回講演会実行委員会編), 2007 ; pp75-77.
- 2) 瀧澤俊広 : [講習会テキスト] 凍結技法と組織化学 : 分子の局在を知りたい, ここ一番の時の凍結超薄切片法. 電子顕微鏡の有用性の再発見 : 基本的な電子顕微鏡試料作製と使用法の実際, 第18回電顕サマースクール (日本顕微鏡学会主催第18回電顕サマースクール実行委員会編), 2007 ; pp1-33.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 瀧澤俊広 : 動物組織の免疫電顕. 日本顕微鏡学会関東支部第31回講演会, 2007. 3.

(2) シンポジウム：

- 1) 石川 源¹⁾, 羅 善順, 三嶋拓也, 吉田有里¹⁾, 瀧澤俊広, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾産婦人科学)：正常胎盤と妊娠高血圧症候群胎盤のmicroRNAプロファイリング解析. 第22回日本生殖免疫学会総会・学術集会, 2007. 12.

(3) 一般講演：

- 1) Takizawa T, Kurasawa G, Mori M, Ishikawa G¹⁾, Mishima T, Ishikawa T, Luo S, Goto T, Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School)：Differential expression of Fc gamma receptor II in the human placenta. Experimental Biology 2007 (Washington DC, USA), 2007. 4.
- 2) Takizawa T, Mishima T, Kawahigashi Y, Luo S, Kanda T, Mizuguchi Y¹⁾, Takizawa T (¹⁾ Dept. Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School)：MicroRNA expression profiling of adult mouse testis and ovary by microRNAome. Experimental Biology 2007 (Washington DC, USA), 2007. 4.
- 3) Ishikawa G¹⁾, Mori M, Luo S, Ishikawa T, Mishima T, Takeshita T¹⁾, Takizawa T (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School)：Subcellular distribution of IgG and albumin in the first-trimester human placenta as revealed by ultrahigh-resolution immunofluorescence microscopy. 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Fukuoka, Japan), 2007. 11.
- 4) Takizawa T, Kurasawa G, Mori M, Ishikawa G¹⁾, Ishibashi O, Mishima T, Ishikawa T, Luo S, Takizawa T, Goto T, Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School)：Expression of Fc gamma receptors on human placental Hofbauer cells. 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Fukuoka, Japan), 2007. 11.
- 5) 石川 源¹⁾, 松原茂樹²⁾, 瀧澤俊広, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学, ²⁾ 自治医科大学産婦人科学講座)：レーザーマイクロダイセクション法によるヒト初期絨毛におけるアルブミンの機能解析：胎児型Fc受容体によるアルブミン輸送機能. 第59回日本産婦人科学会総会, 2007. 4.
- 6) 瀧澤俊広, 石川 源¹⁾, 松原茂樹²⁾, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学, ²⁾ 自治医科大学産婦人科学講座)：MicroRNAomeによる胎盤解析：正常産胎盤のmicroRNAプロファイリング. 第59回日本産婦人科学会総会, 2007. 4.
- 7) 瀧澤俊広, 森 美貴, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 産婦人科学)：凍結超薄切片を用いたヒト胎盤血管内皮細胞におけるCD31の局在解析. 日本顕微鏡学会第63回学術講演会, 2007. 5.
- 8) 後藤 忠, 森 美貴, 瀧澤敬美, 石川朋子, 羅 善順, 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 瀧澤俊広 (¹⁾ 教育推進室)：学生による解剖学授業評価と成績との関係. 第39回日本医学教育学会総会, 2007. 7.
- 9) 石橋 宰, 滝沢史夫¹⁾, Moksed MA¹⁾, 吉澤達也¹⁾, 川島博行¹⁾ (¹⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科細胞機能制御学分野)：歯根膜におけるBMPの石灰化促進作用はendoglinを介する新規シグナル経路により制御される. 第14回BMP研究会, 2007. 7.
- 10) 石橋 宰, Moksed MA¹⁾, 吉澤達也¹⁾, 目良 恒^{1,2)}, 川島博行¹⁾ (¹⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科細胞機能制御学分野, ²⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科整形外科学分野)：歯根膜におけるBMPの石灰化促進作用はendoglin依存性の特異的シグナル伝達機構により制御される. 第25回日本骨代謝学会学術集会, 2007. 7.
- 11) 瀧澤俊広, 三嶋拓也, 羅 善順, 川東 豊, 神田知洋, 水口義昭, 瀧澤敬美, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 産婦人科学)：マウス卵巣特異的miR-351は発育中の卵胞顆粒膜細胞に発現している. 第22回日本生殖免疫学会総会・学術集会, 2007. 12.
- 12) 後藤 忠, 瀧澤敬美, 石川朋子, 羅 善順, 森 美貴, 石橋 宰, 瀧澤俊広：学生による解剖学授業評価Ⅲ：講義支援システム (Jenzabar) を用いたアンケート調査と学生の評価行動. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2008. 3.
- 13) 瀧澤俊広, 森 美貴, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 産婦人科学)：超高解像力蛍光顕微鏡法によるヒト初期胎盤

絨毛組織におけるIgG輸送の解析. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2008. 3.

- 14) 羅 善順, 三嶋拓也, 石橋 宰, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 松原茂樹²⁾, 瀧澤俊広⁽¹⁾ 日本医科大学産婦人科学,
²⁾ 自治医科大学産婦人科学講座) : 妊娠における母体血液中の胎盤特異的microRNAに関する解析. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2008. 3.
- 15) 小澤一史¹⁾, 瀧澤俊広⁽¹⁾ 解剖学講座 (生体構造学) : 解剖学実習室におけるホルマリン濃度軽減への試みの1例. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2008. 3.

2. 解剖学講座（生体構造学）

研究概要

本講座では、神経内分泌学、細胞生物学を基盤とした研究を展開している。特に、本講座における研究の主なKey wordは「Puberty onset」, 「生殖神経内分泌」, 「摂食・飲水の制御機構」, 「性差」, 「脳とホルモン」, 「行動」, 「チャネル・トランスポーター」である。思春期を境に、我々の身体と心のバランスが大きく変動してくる。これは、脳における性、摂食、ストレス応答に関与する神経ネットワークの変化に起因する可能性が示唆される。本講座では、この思春期の神経メカニズムについて、組織学的、分子生物学的な解析を行ってきている。思春期前後に大きな変動を示すGnRHニューロンについてEGFPをラベルし、遺伝子導入したtransgenic rat（本学システム生理学講座にて開発）を用いて、その変動を解析している。また、近年発見された思春期におけるGnRH活性発動を誘導するとされる神経ペプチド、Kisspeptinを含有するニューロンの解析を行いつつある。現在までに、Kisspeptin抗体の作成、In situ hybridization系の確立に成功し、これらを用いて生理学的、分子形態科学的な解析を展開している。さらに、思春期に重要な役割を示す摂食制御神経ネットワークとの連絡網について3次的に解析を行い、性、摂食、ストレスの相互反応を検索し、健やかな思春期に必要な身体的、精神的環境と脳の関連性を明らかにする努力を行っている。また、大阪大学との共同研究として、超高压電子顕微鏡を用いたトモグラフィ観察の生物応用について研究を進め、神経細胞や神経膠細胞の微細構造の3次元化を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yang C, Xue H, Yoshimoto M, Ito H, Yamamoto N, Ozawa H : Fiber connections of the corpus glomerulosum pars rotunda, with special reference to efferent projection pattern to the inferior lobe in a percomorph teleost, tilapia (*Oreochromis niloticus*). The Journal of Comparative Neurology 2007 ; 501 (4) : 582-607.
- 2) Xue H, Yang C, Asagawa M, Tanuma K, Ozawa H : Duplication of inferior vena cava associated with other variations. Anatomical Science International 2007 ; 82 (2) : 121-125 .
- 3) Noro S¹⁾, Yamamoto N, Ishikawa Y²⁾, Ito H, Ijiri K¹⁾ (¹⁾ University of Tokyo, Radioisotope Center, ²⁾ National Institute of Radiological Sciences) : Studies on the morphology of the inner ear and semicircular canal endorgan projections of ha, a medaka behavior mutant. Fish Biol. J. MEDAKA. 2008 ; 11 : 31-41.
- 4) Yang C, Xue H, Tanuma K, Ozawa H : Variations of the bilateral testicular veins : embryological and clinical considerations. Surgical and Radiological Anatomy 2008 ; 30 (1) : 53-55 .
- 5) Akimoto T¹⁾, Nakama K²⁾, Katsuta Y³⁾, Zhang X³⁾, Ishizaki M⁴⁾, Sawai N, Ozawa H (¹⁾ Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, ²⁾ Shizuoka Laboratory Animal Center, ³⁾ First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : Characterization of a novel congenic strain of diabetic fatty (WBN/Kob-*Lep^{pr}fa*) rat. Biochemical and Biophysical Research Communications 2008 ; 366 (2) : 556-562.
- 6) Xue H, Yang C, Yamamoto N¹⁾ (¹⁾ Laboratory for Fish Biology, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University) : Afferent sources to the inferior olive and distribution of the olivocerebellar climbing fibers in cyprinids. The Journal of Comparative Neurology 2008 ; 507 (3) : 1409-1427.
- 7) 小澤一史：ストレス、摂食、性の制御機構に関する中枢神経ネットワーク。日医大医会誌 2008 ; 4 (1) : 25-31.

著 書

- 1) Yamamoto N¹), Kinoshita M²), Xue H (¹ Laboratory for Fish Biology, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, ² Division of Biological Sciences, Graduate School of Science, Hokkaido University) : [分担] The nucleus isthmi of teleosts. Integration of Comparative Neuroanatomy and Cognition. (Eds., Watanabe S, Hofman MA), 2007 ; pp177-200, Keio University Press. Tokyo.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 伊藤博信, 石川裕二¹), 吉本正美, 山本直之²) (¹ 放射線医学総合研究所, ² 名古屋大学大学院・生命農学研究科) : 硬骨魚類 (条鰭類) の脳の外形と生態的地位 (水生動物神経系の多様性と進化). 第8回水生動物の行動と神経系シンポジウム, 2007. 11.
- 2) 山本直之¹), 吉本正美, 加藤 健¹), 宗宮弘明¹), 伊藤博信 (¹ 名古屋大学大学院・生命農学研究科) : 真骨魚類の脳組織切片コレクション (水生動物神経系の多様性と進化). 第8回水生動物の行動と神経系シンポジウム, 2007. 11.
- 3) 吉本正美, 山本直之¹), 小澤一史 (¹ 名古屋大学大学院・生命農学研究科) : ティラピアの終板血管器の線維連絡 (水生動物神経系の多様性と進化). 第8回水生動物の行動と神経系シンポジウム, 2007. 11.
- 4) 井村幸介¹), 山本直之²), 吉本正美, 佐藤 巖¹), 伊藤博信 (¹ 日本歯科大学・生命歯学部・解剖学, ² 名古屋大学大学院・生命農学研究科) : 硬骨魚類ティラピア小脳体の内在性線維連絡 (水生動物神経系の多様性と進化). 第8回水生動物の行動と神経系シンポジウム, 2007. 11.
- 5) 小澤一史 : 性機能調節系における機能発現・成熟機構の解析 (視床下部性神経ペプチド研究の新展開). 第113回日本解剖学学会総会・全国学術集会, 2008. 3.

(2) 一般講演 :

- 1) Ishikawa Y¹), Yasuda T¹), Kage T¹), Yamamoto N²), Yoshimoto M, Takeda H¹), Ito H (¹ National Institute of Radiological Sciences , ² Laboratory for Fish Biology, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University) : Morphogenesis of the cerebellum in teleost fish. 27th Annual JB Johnston Club Meeting (San Diego, USA), 2007. 11.
- 2) Yoshimoto M, Yamamoto N¹), Ozawa H (¹ Laboratory for Fish Biology, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University) : Measurement of the size and number of the sensory fibers in three branches of the trigeminal nerve in the mouse . The 30th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 2007. 9.
- 3) Xue H, Yamamoto N¹), Kato M²), Yang C, Sakuma Y²), Ozawa H (¹ Laboratory for Fish Biology, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, ² Department of Physiology, Nippon Medical School) : Morphological characteristics of gonadotropin releasing hormone (GnRH) neurons in the preoptic area of GnRH-EGFP transgenic rat. The 30th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 2007. 9.
- 4) Sawai N, Ozawa H : Immunohistochemical observation of the postnatal development of the orexin neuron in the rat brain. The 30th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 2007. 9.
- 5) 楊 春英, 吉本正美, 小澤一史 : コルチコステロイドに対する海馬グリア細胞の領域応答変化. 第34回日本神経内分泌学会, 2007. 8.
- 6) 澤井信彦, 上田陽一¹), 中里雅光²), 小澤一史 (¹ 産業医科大学・第一生理学, ² 宮崎大学・医学部・神経呼吸内分泌代謝学) : 加齢に伴うオレキシンニューロンの数的および発現量変化に関する免疫組織化学的考察. 第34回日本神経内分泌学会, 2007. 8.
- 7) 楊 春英, 戸張靖子, 小澤一史 : コルチコステロイドに対する海馬グリア細胞の反応性に関する形態定量解析. 第48回組織細胞化学会総会 (第8回日中合同組織細胞化学セミナー) / 第39回日本臨床分子形態学会総会・合

同学術集会, 2007. 8.

- 8) 戸張靖子, 岡ノ谷一夫¹⁾, 小澤一史⁽¹⁾ 独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター・生物言語研究チーム) : 小鳥の歌学習と大脳の雌雄差. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 9) 大木琴美¹⁾, 田沼久美子, 村上正洋²⁾, 小澤一史, 百束比古²⁾ ⁽¹⁾ 付属病院, 形成外科・美容外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院, 形成外科) : 狭茎胸部肋間穿通枝皮弁の血管構築に関する解剖学的研究およびその臨床応用. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 10) 薛ホウガン, 加藤昌克¹⁾, 山本直之²⁾, 楊 春英, 佐久間康夫¹⁾, 小澤一史⁽¹⁾ 第1生理学, ²⁾ 名古屋大学大学院・生命農学研究科) : ラット視索前野のGnRHニューロンに関する機能形態学的解析. 第48回組織細胞化学会総会 (第8回日中合同組織細胞化学セミナー) / 第39回日本臨床分子形態学会総会・合同学術集会, 2007. 9.
- 11) 楊 春英, 戸張靖子, 小澤一史 : 海馬領域における星状グリア細胞のグルココルチコイドに対する反応性の解析. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 12) 澤井信彦, 上田陽一¹⁾, 中里雅光²⁾, 小澤一史⁽¹⁾ 産業医科大学・第一生理学, ²⁾ 宮崎大学・医学部・神経呼吸内分泌代謝学) : エネルギー代謝調節系オレキシンニューロンの生後発達・老化に伴う発現変化に関する免疫組織化学的解析. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 13) 戸張靖子, 小澤一史, 岡ノ谷一夫¹⁾ ⁽¹⁾ 独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター・生物言語研究チーム) : 鳴禽類ジュウシマツにおける歌行動に対応した大脳-延髄発声運動神経核間連絡の雌雄差の検討. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2008. 3.
- 14) 楊 春英, 小澤一史 : 副腎皮質ホルモン変動に伴う海馬領域星状グリア細胞の形態変化についての定量的解析. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2008. 3.
- 15) 大木琴美¹⁾, 田沼久美子, 村上正洋¹⁾, 百束比古¹⁾, 小澤一史⁽¹⁾ 大学院医学研究科・形態機能再生再建医学(形成外科)) : 前胸壁および上部前腹壁皮膚の血行支配に関わる穿通枝について. 第113回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2008. 3.

3. 生理学講座（システム生理学）

研究概要

昨年度に引き続き GnRH ニューロンに発現するチャンネルの解析，細胞系においてエストロゲンが駆動する遺伝子カスケードの同定やチャンネル発現におよぼす効果の研究を進め，米国内分泌学会誌（2編）を含む計7編の英文原著を公表した．文部科学省・学術振興会の科学研究費補助金では特定領域研究「性分化機構」が第4年目となった．科学研究費補助金は合計11件を申請し，継続を含め7課題が採択された．4月から1年間，第30期中笹川医学研究者制度留学生として張春暉吉林大学副教授を迎えた．東京医療福祉専門学校の教員養成科の設立に協力した．6月にはモントレーで開かれた行動神経内分泌学会に参加し，この学会を2011年に招致することに成功した．7月，私立大学等研究設備整備費等補助金で整備した機器について，文部科学省高等教育局私学助成課の担当官の視察があった．8月，北京で開催された日中笹川医学研究者制度発足20周年記念式典に参加，10月には文部科学省科学研究費補助金の特別監査を受け，執行が適正であることが確認された．11月サンディエゴで開かれた北米神経科学会に際して開かれた日米科学協力「脳研究」日米非公式協議に参加，同月，特定領域研究の公開シンポジウムを札幌で開催．12月，本講座 I. S. パーハー客員教授が神経科学部門正教授を勤めるモナーシュ大学医学部マレーシア校で開催された第11回国際脳研究機構若手研究者育成スクールに参加，同月末にはロックフェラー大学を訪問し，D. W. パフ教授とエストロゲンによるチャンネル制御機構について議論した．この際，本学学生を同伴し施設を案内した．2月以降，大学院棟への移転と第85回日本生理学会大会の準備に追われた．3月25日－28日に開催した本学会は，本講座初代戸塚武彦教授が昭和34年に第35回大会をお世話されてから50年目に当たり，日本医科大学，同窓会，学内外から大きなご支援を得て予想を大きく超える参加者を迎え，好評のうちに終了した．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kitahashi T¹⁾, Ogawa S¹⁾, Soga T¹⁾, Sakuma Y, Parhar I (1) Monash Univ. Malaysia) : Sexual maturation modulates expression of nuclear receptor types in laser-captured single cells of the cichlid (*Oreochromis niloticus*) pituitary. *Endocrinology* 2007 ; 148 (12) : 5822-5830.
- 2) Hiraizumi Y, Nishimura I, Ishii H, Tanaka N, Sakuma Y, Kato M : Rat GnRH neurons exhibit large conductance voltage- and Ca²⁺ activated K⁺ (BK) currents and express BK channel mRNAs. *Journal of Physiological Sciences* 2008 ; 58 (1) : 21-29.
- 3) Nishimura I, Ui-Tei K¹⁾, Saigo K¹⁾, Ishii H, Sakuma Y, Kato M (1) School of Science, Univ. of Tokyo) : 17 β -Estradiol at physiological concentrations augments BK currents via estrogen receptor β in the GnRH neuronal cell line GT1-7. *Endocrinology* 2008 ; 149 (2) : 774-782.

(2) 総説：

- 1) Sakuma Y : Mechanisms for brain sex differentiation. *Hirosaki Medical Journal* 2007 ; 59 (Suppl) : 253-261.
- 2) 佐久間康夫：性行動とホルモン．*総合臨床* 2008 ; 57 (3) : 440-444.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Sakuma Y : Hormones, brain and behaviour. The 11th IBRO Associate School Program (Kuala Lumpur,

Malaysia), 2007. 12.

(2) シンポジウム :

- 1) Orikasa C : Sex differences of somatostatin gene expression in the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area 視索前野性の二型核に発現するソマトスタチンの性差. 第85回日本生理学会大会, 2008. 3.
- 2) Kondou Y : Sex difference in hormonal and neural regulation of olfactory preference for conspecifics in the rat ラットの社会的選好性を決定するホルモンと神経系の性差. 第85回日本生理学会大会, 2008. 3.
- 3) 佐久間康夫 : GnRHニューロンの興奮性調節. 第34回日本神経内分泌学会, 2007. 8.

(3) 一般講演 :

- 1) Urakawa S, Kondo Y, Mitsushima D, Sakuma Y : Sexual behavior in male rats reared in conventional and enriched environment. The 11th Annual Meeting of Society for Behavioral Neuroendocrinology (Pacific Grove, CA, USA), 2007. 6.
- 2) Dhungel S, Urakawa S, Kondo Y, Sakuma Y : Medial amygdala and preoptic area regulate conspecific odor preference in male rats. The 11th Annual Meeting of Society for Behavioral Neuroendocrinology (Pacific Grove, CA, USA), 2007. 6.
- 3) Dhungel S : Medial Amygdala and Preoptic area Regulate conspecific odor preference in male rats. Society for Behavioral Neuroendocrinology (USA), 2007. 6.
- 4) Urakawa S, Kondo Y, Mitsushima D¹⁾, Nishino H²⁾, Sakuma Y (¹⁾ 横浜市立大学・医・神経内分泌学, ²⁾ 名古屋市立大学・医・脳神経生理) : 幼少期における豊かな環境飼育はオープンフィールドでの雄ラット性行動を減弱する Rearing in enriched environment calms down male rat copulatory activities in open field. 第30回日本神経科学大会, 2007. 9.
- 5) 加藤昌克, 佐久間康夫, 尹 成珠 : ラット GnRHニューロンに発現する A型 GABA 受容体チャネルの機能. 第34回日本神経内分泌学会, 2007. 8.

(4) ポスター発表 :

- 1) Hamada T, Hongli S, Sakuma Y : エストロジェン受容体遺伝子プロモータートランスジェニックラット海馬ニューロンの電位依存性カリウム電流に対するエストロジェンの修飾 Estrogen modulates voltage dependent potassium currents in the EGFP-tagged neurons in the hippocampus of estrogen receptor gene promoter transgenic rats. 第30回日本神経科学大会, 2007. 9.
- 2) Yin C, Tanaka N, Isii H, Kato M, Sakuma Y : GnRHニューロンにみられる gabazine 抵抗性 GABA_A 受容体電流とニューロステロイドによる修飾 Presence of gabazine-resistant GABA_A receptor currents and their modulation by neurosteroids in rat GnRH (LHRH) neurons. 第30回日本神経科学大会, 2007. 9.

4. 生理学講座（生体統御学）

研究概要

生理学講座（生体統御学）では、摂食、エネルギー代謝調節機構、ストレス反応機構、てんかん発症機構、神経情報伝達機構および神経変性機序の解明に向けて研究を進めている。今年度は、各研究グループが以下のような研究成果を発表するとともに、各研究グループの研究を継続し、発展させつつある。

1. 摂食、エネルギー代謝調節機構の研究では、胃から分泌される摂食促進ペプチドであるグレリンが迷走神経を介して褐色脂肪組織のノルアドレナリン分泌を抑制することを明らかにした。脳内局所での摂食調節ペプチドおよびその受容体の発現を制御するためアデノウイルス発現ベクターを用いた強制発現系およびsiRNAによる発現抑制系を確立しつつある。
2. ストレスによる摂食抑制における背側縫線核および分界条床核、外側中隔のCRF受容体の関与について検討し、分界条床核のCRF2受容体がストレス性摂食抑制に関与していること、CRFファミリーペプチドの1つであるUcn2が傍分泌的にゴナドトロピンの遺伝子発現と分泌を抑制すること、さらにストレス下での脳局所のCRF遺伝子発現に性差が存在すること等を明らかにした。
3. てんかん発症機構の研究では、遺伝性てんかんラットを用いて、発作の発生直前に現れるGap Junction依存性の律動脳波について電気生理学的に検討した。その結果を中心にGap Junctionとてんかん発作の関係についての展望を発表した。
4. 神経情報伝達機構の研究では、脊髄で抑制除去時に発生する同期的かつ周期的な興奮性の発現にHCNチャネルが関与することを見出し、現在、その詳細を検討中である。
5. 退行性神経疾患など種々の臨床疾患に関与することが示唆されているミクログリアは急性ストレス負荷によりその活性化が急速に起こることを明らかにした。現在、活性化メカニズムについて検討を進めている。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) 芝崎 保：グレリンは成長ホルモン放出ホルモンの発現調節に促進的に関与する。厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 ソマトポーズに対するグレリンの臨床応用と基盤的研究 平成17年度総括・分担研究報告書 2006；18-20.
- 2) 加藤進昌¹⁾、菅谷佑樹¹⁾、工藤耕太郎¹⁾、許 暁彬¹⁾、丸 栄一、芝崎 保⁽¹⁾ 東京大学附属病院 精神神経科：神経発達期におけるてんかん原性獲得のメカニズムの研究：臨界期前後の海馬神経細胞新生に注目して。厚生労働省精神・神経疾患研究委託費（16指-3） 2007；117-124.

(1) 原著：

- 1) Sugama S¹⁾, Fujita M²⁾, Hashimoto M²⁾, Conti B³⁾ ⁽¹⁾ Dept. Physiology, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Dept. Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, ⁽³⁾ Molecular and Integrative Neuroscience Department, The Scripps Research Institute) : Stress induced morphological microglial activation in the rodent brain : involvement of interleukin-18. Neuroscience 2007 ; 146 (3) : 1388-1399.
- 2) Sugihara H¹⁾, Shibasaki T, Tatsuguchi A¹⁾, Okajima F¹⁾, Wakita S¹⁾, Nakajima Y¹⁾, Tanimura K¹⁾, Tamura H¹⁾, Ishii S¹⁾, Kamegai J¹⁾, Akasu H²⁾, Kitagawa W²⁾, Shimizu K²⁾, Nakamura Y²⁾, Uchida E²⁾,

et al. (1) Department of Medicine, (2) Department of Surgery) : A non-acromegalic case of multiple endocrine neoplasia type 1 accompanied by a growth hormone-releasing hormone-producing pancreatic tumor. *J Endocrinol Invest* 2007 ; 30 (5) : 421-427.

- 3) Nakai M¹, Fujita M¹, Waragai M¹, Sugama S², Wei J¹, Akatsu H¹, Ohtaka-Maruyama C¹, Okado H¹, Hashimoto M¹ (1) Dept. Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, (2) Dept. Physiology, Nippon Medical School) : Expression of alpha-synuclein, a presynaptic protein implicated in Parkinson's disease, in erythropoietic lineage. *Biochem Biophys Res Commun* 2007 ; 358 (1) : 104-110.
- 4) Takenouchi T¹, Iwamaru Y², Imamura M², Kato N², Sugama S³, Fujita M⁴, Hashimoto M⁴, Sato M¹, Okada H², Yokoyama T², Mohri S², Kitani H¹ (1) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, (2) Research Center for Prion Diseases, National Institute of Animal Health, (3) Dept. Physiology, Nippon Medical School, (4) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Prion infection correlates with hypersensitivity of P2X7 nucleotide receptor in a mouse microglial cell line. *FEBS Letters* 2007 ; 581 (16) : 3019-3026.
- 5) Zorrilla E¹, Sanchez-Alavez M¹, Sugama S², Brennan M¹, Fernandez R¹, Bartfai T¹, Conti B¹ (1) Molecular and Integrative Neurosciences Department, The Scripps Research Institute, (2) Dept. Physiology, Nippon Medical School) : Interleukin-18 controls energy homeostasis by suppressing appetite and feed efficiency. *Proc Natl Acad Sci USA* 2007 ; 104 (26) : 11097-11102.
- 6) Sugama S¹, Takenouchi T², Kitani H², Fujita M³, Hashimoto M³ (1) Dept. Physiology, Nippon Medical School, (2) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, (3) Laboratory for Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Activin as an anti-inflammatory cytokine produced by microglia. *J Neuroimmunology* 2007 ; 192 (1-2) : 31-39.
- 7) Ohwada R¹, Hotta M¹, Sato K¹, Shibasaki T, Takano K¹ (1) Department of Medicine, Tokyo Womens' Medical University) : The relationship between serum levels of estradiol and osteoprotegerin in patients with anorexia nervosa. *Endocrin J* 2007 ; 54 (6) : 953-959.
- 8) Song D², Yang Y¹, Shin D³, Sugama S⁴, Kim Y⁵, Lee B⁶, Joh T⁵, Cho B¹ (1) Dept. Anatomy, Institute of Basic Medical Science and Institute of Lifelong Health, Yonsei Univ, (2) Dept. Anatomy and Neuroscience, Eulji Univ, (3) Dept. Preventive Medicine and Brain Institute, Keimyung Univ, (4) Dept. Physiology, Nippon Medical School, (5) Dept. Neurology and Neuroscience, Burke Med Res Inst, Cornell Univ, (6) Life Science and Biotechnology, Korea Univ) : Axotomy-induced dopaminergic neurodegeneration is accompanied with c-Jun phosphorylation and activation transcription factor 3 expression. *Experimental Neurology* 2008 ; 209 (1) : 268-278.

(2) 総説 :

- 1) 眞野あすか, 芝崎 保 : グレリンのエネルギー代謝調節機構における役割. *内分泌・糖尿病科* 2007 ; 25 (1) : 32-36.
- 2) 新井桂子, 芝崎 保 : CRF/Urocortin. *ホルモンと臨床* 2007 ; 55 (9) : 63-72.
- 3) 根本崇宏, 芝崎 保 : 摂食調節機構. *メディカル・サイエンス・ダイジェスト* 2007 ; 33 (11) : 6 (1105) -9 (1108).
- 4) 芝崎 保 : 摂食異常および栄養障害における難病の現況とその対策 : 中枢性摂食異常症の現況とその対策. *ホルモンと臨床* 2008 ; 56 (1) : 91-95.
- 5) 丸 栄一, 菅谷佑樹¹ (1) 東京大学 医学部 精神医学教室) : ギャップジャンクションとてんかん. *Clinical Neuroscience* 2008 ; 26 (1) : 21-24.

(3) 研究報告書：

- 1) 芝崎 保：褐色脂肪組織のノルアドレナリン分泌に対するグレリンの作用。厚生労働科学研究費補助金長寿科学総合研究事業 ソマトポーズに対するグレリンの臨床応用と基盤的研究 平成18年度総括・分担研究報告書 2007；22-24.
- 2) 芝崎 保, 眞野あすか, 岩崎あずさ, 根本崇宏, 大島久幸：ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討。平成18年度喫煙科学研究財団研究年報 2007；753-757.
- 3) 眞野あすか, 根本崇宏, 岩崎あずさ：加齢に伴う体脂肪蓄積機序における成長ホルモンとグレリンの役割に関する解析。成長科学協会研究年報 2007；(30)：215-221.
- 4) 芝崎 保, 根本崇宏：神経性食欲不振症の無月経の生じる機序の考察：下垂体ウロコルチン2のゴナドトロピン分泌調節機構への関与の解明。厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業中枢性摂食異常症に関する調査研究平成19年度総括・分担研究報告書 2008；7-11.

著 書

- 1) 芝崎 保：〔分担〕視床下部・下垂体。内科学 第九版(杉本恒明, 矢崎義雄), 2007；pp1304-1308, 朝倉書店.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 根本崇宏, 山内直子, 芝崎 保：Physiological Role of Pituitary Urocortin 2, a CRF Family Peptide, in Regulatory Mechanism of Gonadotropin Secretion. 第85回日本生理学会(東京), 2008. 3.

(2) 一般講演：

- 1) Ohata H, Shibasaki T：Corticotropin-releasing factor receptor 2 in the lateral septum and bed nucleus of the stria terminalis mediates stress-induced inhibition of food intake in rats. The 89th Annual Meeting of The Endocrine Society (Toronto, Canada), 2007. 6.
- 2) Sugaya Y¹⁾, Maru E, Kudo K²⁾, Kato N³⁾ (1) Department of Psychiatry, Tokyo University School of Medicine, 2) Department of Psychiatry, Shiga University of Medical Science, 3) Department of Psychiatry, Showa University School of Medicine)：Effect of Levetiracetam on seizure-induced neurogenesis in the dentate gyrus of adult rats. 61st Annual Meeting of the American Epilepsy Society (Philadelphia (USA)), 2007. 12.
- 3) 根本崇宏, 山内直子, 芝崎 保：下垂体ウロコルチン2はLH, FSHの分泌とmRNA発現を抑制する。第34回日本神経内分泌学会, 2007. 8.
- 4) 洲鎌秀永：Microglial activation may be inhibited by glucocorticoids in dopaminergic neurodegeneration. 第85回日本生理学会(東京), 2008. 3.
- 5) 大島久幸, 芝崎 保：ストレスによる摂食抑制における背側縫線核, 分界条床核および外側中隔のCRF受容体の役割に関する検討。第18回CRH・ACTH研究会, 2007. 3.
- 6) 根本崇宏, 山内直子, 芝崎 保：下垂体ウロコルチン2の性腺刺激ホルモン産生細胞への作用。第80回日本内分泌学会学術総会, 2007. 6.
- 7) 大島久幸, 芝崎 保：高架式十字迷路における不安行動に及ぼす内側前頭前野へのcorticotropin-releasing factor局所投与の効果。第80回日本内分泌学会学術総会, 2007. 6.
- 8) 岩崎あずさ, 眞野あすか, 芝崎 保：ストレス下のcorticotropin-releasing factor (CRF) mRNA発現調節における雌雄差について。第80回日本内分泌学会学術総会, 2007. 6.
- 9) 眞野あすか, 大島久幸, 岩崎あずさ, 根本崇宏, 周東祐仁¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 及川眞一¹⁾, 芝崎 保 (1) 日本医科大学内分代謝内科)：グレリンのエネルギー代謝調節機構における役割の解析。第80回日本内分泌学会学術総会, 2007. 6.

- 10) 眞野あすか, 岩喜あずさ, 芝崎 保: ニコチンのエネルギー貯蔵抑制機序に関する検討. 第34回日本神経内分泌学会, 2007. 8.
- 11) 大畠久幸, 芝崎 保: 内側前頭前野への corticotropin-releasing factor 局所投与によるラットの高架式十字迷路上の不安行動に及ぼす効果. 第3回日本摂食障害学会, 2007. 10.
- 12) 菅谷佑樹¹⁾, 工藤耕太郎²⁾, 丸 栄一, 芝崎 保, 加藤進昌³⁾ (¹⁾ 東京大学医学部精神医学教室, ²⁾ 滋賀医科大学医学部精神医学教室, ³⁾ 昭和大学医学部精神医学教室): ラット新生児ケイレンは海馬CA3の細胞新生を促進すると共に, 成長後の発作感受性を低下させる. 第42回日本てんかん学会総会 (福岡), 2007. 11.

5. 生化学・分子生物学講座（構造生物学・代謝学）

研究概要

本教室では、近年情報伝達や病態などに広くかかわっている活性酸素種などの生成と制御機能を中心として、タンパク質の構造と機能、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因などに取り組んでいる。それらの中心は金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質であり、分子生物学的手法、分光光学やX線結晶解析をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

- 1) 過酸化水素、スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素/脱水素酵素についてはX線結晶解析による3次元構造の解析結果を基に発現系を用い種々の変異酵素を作成し、酵素の構造と反応機構、脱水素酵素型から酸化酵素型への変換機構、スーパーオキシド生成機構、阻害剤の開発などの研究を行ってきた。さらに、スーパーオキシド超産生、不産生型の変異体を作成し、その酵素のノックインマウスの作成とその解析に取り組んでいる。
- 2) 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質と予想されるパーオキシレドキシシン（HBP23）に関して、酵素の10量体の酵素を作成し、そのX線結晶構造とともにその過酸化水素分解反応につき反応速度論的解析を進めその性状と意義につき発表した。またALSトランスジェニックモデルマウスを用いて本蛋白質の病理・生理的役割とともにALSの成因との関係、治療薬の開発をめざし解析を進めている。
- 3) 上記以外のタンパク質についてプロテオミクス法を用いて新しいタンパク質の網羅的検索を行っている。それらの中で重要な蛋白質の発現、精製、結晶化、構造解析を行った。また、好熱菌由来の特異な鉄イオウ蛋白質の物理化学的性質の解析も進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamaguchi Y¹⁾, Matsumura T, Ichida K¹⁾, Okamoto K, Nishino T (¹⁾ Jikei University School of Medicine) : Human Xanthine Oxidase Changes Its Substrate Specificity to Aldehyde Oxidase Type upon Mutation of Amino Acid Residues in the Active Site : Roles of Active Site Residues in Binding and Activation of Purine Substrate. *J Biochem* 2007 ; 141 (4) : 513-524.
- 2) Asai R, Nishino T, Matsumura T, Okamoto K, Igarashi K¹⁾, Pai FE²⁾, Nishino T (¹⁾ The University of Tokyo, ²⁾ University of Toronto) : Two Mutations Convert Mammalian Xanthine Oxidoreductase to Highly Superoxide-productive Xanthine Oxidase. *J Biochem* 2007 ; 141 (4) : 525-534.
- 3) Iwasaki T, Ohmori D¹⁾, Shimizu N²⁾, Kumasaka T²⁾ (¹⁾ Juntendo Univ., ²⁾ JASRI/SPring-8) : Crystallization and preliminary X-ray diffraction studies of the ISC-like[2Fe-2S] ferredoxin from *Pseudomonas putida* JCM 20004. *Acta Crystallogr Sect F* 2007 ; 63 (12) : 1014-1016.
- 4) Mine K¹⁾, Katayama A, Matsumura T, Nishino T, Kuwabata Y¹⁾, Ishikawa G¹⁾, Murata T¹⁾, Sawa R¹⁾, Otsubo Y²⁾, Shin S³⁾, Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Dept. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, ²⁾ Omiya Chuo Hospital, ³⁾ Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital) : Proteome Analysis of Human Placenta : Pre-eclampsia Versus Normal Pregnancy. *Placenta* 2007 ; 28 : 676-687.
- 5) Matsumura T, Okamoto K, Iwahara S, Hori H, Takahashi Y, Nishino T, Abe Y : Dimer-Oligomer Interconversion of Wild-type and Mutant Rat 2-Cys Peroxiredoxin. *J B C* 2008 ; 283 (1) : 284-293.

(2) 紀要：

- 1) Iwasaki T, Ohmori D¹⁾, Kounosu A (¹⁾ Juntendo Univ.) : Modular structure and assembly of archaeal res-

piratory complex II. Proceedings of International Symposium on Extremophiles and Their Applications 2007 ; 2005 : 329-329.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Nishino T : The Molecular Mechanism of Transition from Xanthine Dehydrogenase to Xanthine Oxidase. 12th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man (アメリカ, シカゴ), 2007. 6.
- 2) 西野武士：キサンチン酸化還元酵素のミリブデン反応中心の構造：基質・阻害剤認識と反応機構。第45回日本生物物理学会, 2007. 12.

(2) 招待講演：

- 1) Okamoto K : Ligand Binding Structures of Mammalian Xanthine Oxidoreductase : Implications for Hydroxylation Mechanism. Gordon Research Conferences (Molybdenum & Tungsten Enzymes) (アメリカ, ニューロンドン), 2007. 7.

(3) ワークショップ：

- 1) 西野武士：抗痛風薬の1つの利用法を例に本学会を考える。第41回日本痛風・核酸代謝学会, 2008. 2.

(4) 一般講演：

- 1) Okamoto K : Potent inhibitors of xanthine oxidoreductase : Mechanisms of inhibition and crystal structures of the enzyme-inhibitor complexes. 12th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man (アメリカ, シカゴ), 2007. 6.
- 2) Matsumura T : Mutational Analysis of Human Xanthine Oxidase : Roles of the Amino Acid Residues around the Active Site in Purine Oxidation Reaction. 12th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man (アメリカ, シカゴ), 2007. 6.
- 3) Matsumura T : Crystal Structure of Human Xanthine Oxidoreductase. Gordon Research Conferences (Molybdenum & Tungsten Enzymes) (アメリカ, ニューロンドン), 2007. 7.
- 4) 岡本 研, 松村智裕, 山口雄一郎¹⁾, 西野武士⁽¹⁾ 慈恵医科大学 腎臓・高血圧内科学) : キサンチン酸化還元酵素の基質結合様式と周囲残基の機能。第80回日本生化学会大会, 2007. 12.
- 5) 西野朋子, 岡本 研, 川口裕子, 松村智裕, 西野武士 : キサンチン脱水素酵素酸化酵素の変換機構/C末ペプチドの役割。第80回日本生化学会大会, 2007. 12.
- 6) 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : ヒトキサンチン酸化還元酵素の構造解析。第80回日本生化学会大会, 2007. 12.
- 7) 李 穎, 西野朋子, 岡本 研, 川口裕子, 草野輝男, 松村智裕, 青木直人¹⁾, 松田 幹²⁾, 西野武士⁽¹⁾ 三重大学 生物資源・生物圏生命科学, ²⁾ 名古屋大学 生命農学・応用分子生命科学) : キサンチン脱水素酵素一酸化酵素変換の役割。第80回日本生化学会大会, 2007. 12.
- 8) 阿部靖子, 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : ラットヘム結合蛋白質HBP23の多量体形成機構の解析。第80回日本生化学会大会, 2007. 12.
- 9) 鴻巣麻子, 岩崎俊雄, 大森大二郎¹⁾, Dikanov AS²⁾, 内山琢郎³⁾, 熊坂 崇^{3,4)} ⁽¹⁾ 順天堂大学 化学, ²⁾ イリノイ大学, ³⁾ 東工大 生命理工, ⁴⁾ SPring-8/JASRI) : モデル系としての [2Fe-2S] タンパク質の結晶構造と¹⁵N HYSOCORE解析。第80回日本生化学会大会, 2007. 12.

(5) 学会賞受賞講演：

- 1) 岡本 研 : 結晶構造から見たキサンチン酸化還元酵素阻害剤の阻害機構の解明。第41回日本痛風・核酸代謝学会, 2008. 2.

6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学・栄養学）

研究概要

分子遺伝学部門では遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、遺伝子解析、細胞治療、遺伝子診療も含めた、ゲノム医学の包括的トランスレーショナルリサーチを目指している。臨床応用を目指したレンチウイルスベクターとアデノ随伴ウイルスベクターの開発を教室の最重要研究課題と位置付けている。安全性について様々な改良を加えるとともに大量生産及び精製技術の開発を進めた。新たに、つくば霊長類医学研究センター及び東京都神経科学総合研究所霊長類実験施設と共同してサルを使ったウイルスベクターの安全性と有効性を検証する研究システムを確立した。マウスの実験結果がヒトへの臨床応用では反映されない事例が数多く報告されており、霊長類を使った実験系は現時点で最も有効な前臨床研究として大きな期待を集めている。具体的な治療研究としては、これまで進めてきた遺伝性神経変性疾患である異染色性白質ジストロフィー（MLD）と遺伝性骨形成不全症の1つである低ホスファターゼ症をモデルとして新生児/胎児遺伝子治療の可能性を検討している。また、臨床各科と共同で脳腫瘍、膵臓癌、白血病、骨髄腫などを標的にした癌の遺伝子治療実験を進めている。間葉系幹細胞を使った骨髄再生研究を小児科、形成外科と共同で進めている。骨髄由来間葉系細胞及び脂肪組織由来間葉系細胞をハイドロキシアパタイトの鋳型内で培養することで形態的のみならず、機能的にも血液系幼若細胞を維持増殖できる人工骨髄が再生されることを示した。遺伝診療科、ハイテクリサーチ・ゲノム解析室と共同で、様々な遺伝性疾患の遺伝子解析を行った。さらに、薬剤感受性遺伝子のSNP解析を学内で行うための準備を進めている。平成20年度には開設が予定されているゲノム先端医療部と連携して日本医大付属病院でオーダーメイド医療を実践していきたい。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Ogawa R, Fujimura J, Hanawa H, Hirai Y, Kurai T, Shimada T : Comparison of the gene transfer efficiency of mesenchymal stem cells harvested from murine fat and bone marrow. *Adipocytes* 2006 ; 2 : 116-122.

(1) 原著：

- 1) Kitagawa R, Miyachi S, Hanawa H, Takada M, Shimada T : Differential Characteristics of HIV-based vs. SIV-based lentiviral vector systems : gene delivery to neurons and axonal transport of expressed gene. *Neuroscience Res* 2007 ; 57 (4) : 550-558.
- 2) Evans-Galea VM¹, Wielgosz HM¹, Hanawa H, Srivastava KD², Nienhuis WA¹ (¹ Department of Experimental Hematology, St. Jude Children's Research Hospital, Memphis TN, USA, ² Department of Biostatistics, St. Jude Children's Research Hospital, Memphis TN, USA) : Suppression of clonal dominance in cultured human lymphoid cells by addition of the cHS4 insulator to a lentiviral vector. *Molecular Ther* 2007 ; 15 (4) : 801-809.
- 3) Miyake K, Miyake N, Shimada T : Development of targeted gene transfer into human primary T lymphocytes and macrophages using high-titer recombinant HIV vectors. *Journal of Biotechnology* 2007 ; 129 (3) : 532-538.
- 4) Igarashi T¹, Miyake K, Hayakawa J², Kawabata K², Ishizaki M³, Takahashi H¹, Shimada T (¹ De-

- partment of Ophthalmology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : Apoptotic Cell Death and Regeneration in the New-born Retina After Irradiation Prior to Bone Marrow Transplantation. *Current Eye Research* 2007 ; 32 (6) : 543-553.
- 5) Tahara I, Miyake K, Hanawa H, Kurai T, Hirai Y, Ishizaki M²⁾, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾, Shimada T (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School Graduate School of Medicine) : Systemic Cancer Gene Therapy Using Adeno-associated Virus Type 1 Vector Expressing MDA-7/IL24. *Molecular Ther* 2007 ; 15 (10) : 1805-1811.
- 6) Kato S, Inoue K, Kobayashi K, Yasoshima Y, Miyachi S, Inoue S, Hanawa H, Shimada T, Takada M, Kobayashi K : Efficient Gene Transfer via Retrograde Transport in Rodent and Primate Brains by an HIV-1-Based Vector Pseudotyped with Rabies Virus Glycoprotein. *Hum. Gene Ther* 2007 ; 18 (11) : 1141-1151.
- 7) Kawakami T, Kanazawa H, Satoh T, Ieda M, Ieda Y, Kimura K, Mochizuki M, Shimada T, Yokoyama C, Ogawa S, Tanabe T, Fukuda K : AAV-PGIS gene transfer improves hypoxia-induced pulmonary hypertension in mice. *Biochem Biophys Res Commun* 2007 ; 363 (3) : 656-661.
- 8) Miyake K, Inokuchi K¹⁾, Miyake N, Dan K¹⁾, Shimada T (¹⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : HIV vector mediated targeted suicide gene therapy for adult T-cell leukemia. *Gene Ther* 2007 ; 14 (23) : 1662-1667.
- 9) Miyake K, Utsugisawa T¹⁾, Flygare J¹⁾, Kiefer T²⁾, Hamaguchi I³⁾, Richter J¹⁾, Karlsson S¹⁾ (¹⁾ Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund University, Lund, Sweden, ²⁾ Clinic for Internal Medicine C, Department of Hematology and Oncology, Ernst-Moritz-Arndt Universit, ³⁾ Department of Safety Research on Blood and Biologics, National Institute of Infectious Diseases, To) : RPS19 deficiency leads to reduced proliferation and increased apoptosis but does not affect terminal erythroid differentiation in a cell line model of Diamond-Blackfan anemia. *Stem cells* 2008 ; 26 (2) : 323-329.
- 10) Hargrove WP¹⁾, Kepes S¹⁾, Hanawa H, Obenauer CJ²⁾, Pei D³⁾, Cheng C³⁾, Gray TJ¹⁾, Neale G²⁾, Persons AD¹⁾ (¹⁾ Department of Hematology, St. Jude Children' s Research Hospital, Memphis, Tennessee, USA, ²⁾ Hartwell Center for Bioinformatics and Biotechnology, St. Jude Children' s Research Hospital, Memphis, ³⁾ Department of Biostatistics, St. Jude Children' s Research Hospital, Memphis, Tennessee, USA) : Globin lentiviral vector insertions can perturb the expression of endogenous genes in beta-thalassemic hematopoietic cells. *Molecular Therapy* 2008 ; 16 (3) : 525-533.
- 11) 渡邊 淳¹⁾, 浅野ありさ¹⁾, 三宅秀彦¹⁾, 右田 真¹⁾, 平井幸彦, 志村俊郎²⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 付属病院遺伝診療科, ²⁾ 教育推進室) : 医学部における臨床遺伝教育 : 日本医科大学の試み. *医学教育* 2007 ; 38 (4) : 245-250.
- (2) 総説 :
- 1) 三宅弘一, 島田 隆 : IL-24. *分子細胞治療* 2007 ; 6 (5) : 82-84.

著 書

- 1) 島田 隆 : [自著] バイオ医薬品の開発と品質・安全性確保. レトロウイルスベクター (早川堯夫監修), 2007 ; pp578-598, エル・アイ・シー.
- 2) 渡邊 淳, 島田 隆 : [分担] 血管型 Ehlers-Danlos 症候群の遺伝診療とその課題. 「遺伝診療をとりまく社会」 (吉田雅幸, 小笹由香編), 2007 ; pp69-87, プレーン出版.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Goseki-Sone M¹⁾, Sogabe N¹⁾, Oda K²⁾, Nakamura H³⁾, Orimo H, Hosoi T⁴⁾ (1) Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, 2) Division of Biochemistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, 3) Department of Chemistry, Faculty of Science, Gakushuin University, 4) Department of Advanced Medicine, National Center for Geriatrics and Gerontology) : Molecular analysis of the single nucleotide polymorphism (787T>C) in the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene associated with BMD. 5th International Alkaline Phosphatase Symposium (Huningue, France), 2007. 5.
- 2) Orimo H, Goseki-Sone M¹⁾, Hosoi T²⁾, Shimada T (1) Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, 2) Department of Advanced Medicine, National Center for Geriatrics and Gerontology) : Tissue-nonspecific alkaline phosphatase and mineralization : Effects of inhibitors and application to the functional assay of mutations in short-term cultures of human osteoblastic cell lines. 5th International Alkaline Phosphatase Symposium (Huningue, France), 2007. 5.
- 3) 三宅弘一 : AAVベクターによる全身性癌遺伝子治療の開発. 第6回遺伝子治療シンポジウム, 2008. 2.

(2) セミナー：

- 1) 埜 秀樹 : レンチウイルスベクターの最近の知見. 第13回日本遺伝子治療学会, 2007. 6.

(3) 一般講演：

- 1) Miyake N, Miyake K, Karlsson S¹⁾, Shimada T (1) Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund University) : Therapeutic Effects of Bone Marrow Transplantation for Metachromatic Leukodystrophy Using HoxB4 Over-Expressing Cells. 10th Annual Meeting of American Society of Gene Therapy (Seattle, USA), 2007. 5.
- 2) Ogawa, K, Hirai, Y, Ishizaki, M, Fukunaga, Y, Shimada, T : AAV1 mediated gene therapy of neonatal Fabry mice. American Society of Gene Therapy 10th Annual Meeting (Seattle), 2007. 5.
- 3) Hanawa H, Shimada T : Development of leukemia/lymphoma after the long latency period in an X-SCID mouse model treated by retroviral gene therapy. American Society of Gene Therapy 10th Annual Meeting (Seattle), 2007. 5.
- 4) Miyake N, Miyake K, Karlsson S¹⁾, Shimada T (1) Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund University) : A novel approach of cell therapy for metachromatic leukodystrophy using hematopoietic stem cells over-expressing HoxB4. Annual Symposium of the Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism (Hamburg, Germany), 2007. 9.
- 5) Goseki-Sone M¹⁾, Sogabe N¹⁾, Oda K²⁾, Nakamura H³⁾, Orimo H, Hosoi T⁴⁾ (1) Department of Food and Nutrition, Japan Women's University, 2) Division of Biochemistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, 3) Department of Chemistry, Faculty of Science, Gakushuin University, 4) Department of Advanced Medicine, National Center for Geriatrics and Gerontology) : Effects of functional single nucleotide polymorphism in the *tissue-nonspecific alkaline phosphatase* gene (787T>C) associated with BMD. 29th Annual Meeting of the American Society for Bone and Mineral Research (Honolulu, USA), 2007. 9.
- 6) Miyake N, Miyake K, Karlsson S¹⁾, Shimada T (1) Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund University) : BMT based therapy for metachromatic leukodystrophy : The effect of HoxB4 over-expression. International Symposium of Lysosomal Storage Diseases (Chiba, Japan), 2007. 11.
- 7) Miyake N, Miyake K, Karlsson S¹⁾, Shimada T (1) Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund University) : Therapeutic effects of bone marrow transplantation for metachromatic leukodystrophy using HoxB4 over-expressing cells. The 13th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, 2007. 6.
- 8) Miyake K, Isotani M¹⁾, Miyake N, Shimada T (1) Department of Veterinary Clinical Pathology, Nippon

- Veterinary and Animal Science University) : Adeno-associated virus (AAV) type 8 mediated systemic antiangiogenic gene therapy for murine model of multiple myeloma. The 13th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, 2007. 6.
- 9) Miyake K, Miyake N, Hirai Y, Shimada T : Direct comparison of adeno-associated virus serotype for systemic delivery by monitoring of in vivo quantitative noninvasive imaging. The 13th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, 2007. 6.
 - 10) Hanawa H, Shimada T : Development of leukemia/lymphoma after the long latency period in an X-SCID mouse model treated by retroviral gene therapy. The 13th Annual Meeting of Japan Society of Gene Therapy, 2007. 6.
 - 11) Orimo H, Goseki-Sone M¹⁾, Hosoi T²⁾, Shimada T ¹⁾ Division of Nutrition, Department of Food and Nutrition, Japan Women' s University, ²⁾ Department of Advanced Medicine, National Center for Geriatrics and Gerontology) : The role of tissue-nonspecific alkaline phosphatase in the phosphate-induced activation of alkaline phosphatase and mineralization and functional assay of the mutants in human osteoblastic cell lines. 第7回ALPS (アルカリホスファターゼ) 研究会, 2007. 7.
 - 12) Goseki-Sone M¹⁾, Sogabe N¹⁾, Oda K²⁾, Nakamura H³⁾, Orimo H, Hosoi T⁴⁾ ¹⁾ Division of Nutrition, Department of Food and Nutrition, Japan Women' s University, ²⁾ Division of Biochemistry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, ³⁾ Department of Chemistry, Faculty of Science, Gakushuin University, ⁴⁾ Department of Advanced Medicine, National Center for Geriatrics and Gerontology) : Study of the single nucleotide polymorphism (787T>C) in the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene associated with bone mineral density. 第7回ALPS (アルカリホスファターゼ) 研究会, 2007. 7.
 - 13) 折茂英生, 五関 (曾根) 正江¹⁾, 細井孝之²⁾, 島田 隆 ¹⁾ 日本女子大・大学院・栄養, ²⁾ 国立長寿センター・先端医療) : ヒト骨芽細胞様細胞株U₂OSを使用した組織非特異型アルカリホスファターゼの機能解析. 第25回日本骨代謝学会学術集会, 2007. 7.
 - 14) 三宅紀子, 三宅弘一, 島田 隆 : HOXB4発現造血幹細胞移植による異染性白質ジストロフィー (MLD) の治療. 第52回日本人類遺伝学会, 2007. 9.
 - 15) 埜 秀樹, 島田 隆 : 感染効率と安全性を両立させたインスレーターを導入したHIV-1ベクターの開発. 第52回日本人類遺伝学会, 2007. 9.
 - 16) 岩本直高¹⁾, 渡邊 淳, 倉井年幸, 山本基子, 三宅紀子, 寺本 明¹⁾, 島田 隆 ¹⁾ 脳神経外科) : 異染性白質ジストロフィーに対する髄腔内遺伝子治療の検討. 第52回日本人類遺伝学会, 2007. 9.

7. 薬理学講座

研究概要

当講座では、精神神経疾患病態の解明を通して、新しい作用機序に基づいた薬物開発の基盤を探索することを大きなテーマとして掲げ、多様な研究手法を駆使し、幅広く研究している。19年度の研究成果は以下のとおりである。

1. 動物を用いた研究

1) グリア細胞株由来神経栄養因子による神経因性疼痛緩和作用の発現に関して、小型後根神経細胞の中枢軸索端に発現する神経細胞接着因子が重要な役割をしていることを明らかにした。麻酔科と共同研究を行い、局所麻酔薬硬膜外反復投与による持続鎮痛効果発現に伴って神経成長因子量が増加することを見出した。2) 小脳の最終出力系細胞である小脳核細胞において、セロトニン受容体を介した2種類の修飾作用が、シナプス前および後部に存在する異なる受容体サブタイプによって仲介されることを明らかにした。3) 抗うつ・抗不安薬である選択的セロトニン再取り込み阻害薬のマウスへの慢性投与は、海馬CA3領域の興奮性シナプス伝達に対するセロトニンの増強作用を安定化させることを明らかにした。4) 周産期のデキサメタゾン投与によって、発達期に神経内分泌学的異常が先行し、不安様行動は成長後出現することを見出した。5) p21の細胞質局在化に関わるBrap2の神経系における機能を解明するために遺伝子ターゲティングを行っている。Brap2は自己ユビキチン化する分子であることを観察した。

2. ヒトを対象にした研究

1) 精神科と共同研究を行い、慢性統合失調症患者血清中における脳由来神経栄養因子量と上皮成長因子量に関して、同一患者で両方の神経栄養因子が減少することを見いだした。2) 精神神経疾患治療薬の認知機能に及ぼす効果を検討するため、複数の認知課題を作成し、薬理的機能的MRI研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Katayama M¹⁾, Aoki E¹⁾, Suzuki H, Kawana S¹⁾ (1) Department of Dermatology, Nippon Medical School) : Foot shock stress prolongs the telogen stage of the spontaneous hair cycle in a non-depilated mouse model. *Experimental Dermatology* 2007 ; 16 : 553-560.
- 2) Koeda M¹⁾, Takahashi H²⁾, Yahata N, Matsuura M³⁾, Asai K⁴⁾, Okubo Y¹⁾, Tanaka H³⁾ (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 2) National Institute of Radiological Sciences, 3) Tokyo Medical and Dental University, 4) Asai Hospital) : Neural responses to human voice and hemisphere dominance for lexical-semantic processing : An fMRI study. *Methods of Information in Medicine* 2007 ; 46 : 247-250.
- 3) Maeda J¹⁾, Higuchi M¹⁾, Inaji M¹⁾, Ji B¹⁾, Haneda E, Okauchi T¹⁾, Zhang M-R¹⁾, Suzuki K¹⁾, Suhara T¹⁾ (1) National Institute of Radiological Sciences) : Phase-dependent roles of reactive microglia and astrocytes in nervous system injury as delineated by imaging of peripheral benzodiazepine receptor. *Brain Research* 2007 ; 1157 : 100-111.
- 4) Sato C¹⁾, Sakai A, Ikeda Y, Suzuki H, Sakamoto A¹⁾ (1) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : The prolonged analgesic effect of epidural ropivacaine in a rat model of neuropathic pain. *Anesthesia & Analgesia* 2008 ; 106 : 313-320.

(2) 総説：

- 1) 齋藤文仁, 鈴木秀典：小脳皮質におけるGABA作動性シナプス伝達。日医大医会誌 2007 ; 3 (2) : 56-57.
- 2) 羽田栄輔, 樋口真人¹⁾, 鈴木秀典, 須原哲也¹⁾ (1) 放射線医学総合研究所) : PETによるNK₁受容体結合の評価。

日本薬理学雑誌 2007 ; 130 : 522-523.

(3) 研究報告書 :

- 1) 鈴木秀典, 八幡憲明, 池田裕美子, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 精神医学) : 競技能力向上に向知性薬が及ぼす影響に関する脳機能画像研究. 日本オリンピック委員会/日本コカ・コーラ スポーツ科学基金 (アクエリアス基金) 2006 年度研究報告書 2007 ; 76-79.

著 書

- 1) Konishi S¹⁾, Ono Y²⁾, Zhu X¹⁾, Kuriu T¹⁾, Tominaga T¹⁾, Saitow F (¹⁾ Tokushima Bunri University, ²⁾ Kanagawa Dental College) : [分担] Neuron-glia communication : Involvements of glial cells in synaptic transmission. Trends in Glial Research -Basic and Applied (S. Thameem Dheen and Eng-Ang Ling), 2007 ; pp139-152, Research Signpost.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 小林克典 : Regulation of neural circuit and behavior by hippocampal mossy fibers. 第30回日本神経科学大会 第50回日本神経化学会大会 第17回日本神経回路学会大会 合同大会, 2007. 9.
- 2) 小林克典, 池田裕美子, 坂井 敦, 鈴木秀典 : Changes in the maturation state of dentate granule cells induced by SSRI (Synaptic modulation : From molecular mechanisms to drug development). 第85回日本生理学会大会, 2008. 3.
- 3) 八幡憲明 : 連続的な軽度睡眠短縮が脳機能に及ぼす影響の検討 : 機能的磁気共鳴撮像 (functional MRI) を用いて. 文部科学省特定奨励研究費補助金 研究成果シンポジウム 慢性疲労の発現・進展・回復プロセスの機序解明と予防に関する労働科学研究, 2007. 12.

(2) 一般講演 :

- 1) Kobayashi K, Ikeda Y, Yamasaki N¹⁾, Takao K¹⁾, Suzuki H, Miyakawa T¹⁾ (¹⁾ Kyoto University Graduate School of Medicine) : Impaired dentate granule cell functions in alpha-CaMKII deficient mice. 7th IBRO World Congress of Neuroscience (Melbourne (Australia)), 2007. 7.
- 2) Ikeda Y, Ito I¹⁾, Yahata N, Nagano M, Toyota T²⁾, Okubo Y³⁾, Suzuki H (¹⁾ Asai Hospital, ²⁾ RIKEN BSI, ³⁾ Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Serum neurotrophic factor levels are associated with pathophysiological features of schizophrenia. 7th IBRO World Congress of Neuroscience (Melbourne (Australia)), 2007. 7.
- 3) Sakai A, Asada M, Seno N¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Kyowa Hakko Kogyo) : NCAM is involved in GDNF-induced analgesia in neuropathic pain. 7th IBRO World Congress of Neuroscience (Melbourne (Australia)), 2007. 7.
- 4) Haneda E, Higuchi M¹⁾, Maeda J¹⁾, Inaji M²⁾, Okauchi T¹⁾, Suzuki K¹⁾, Suzuki H, Suhara T¹⁾ (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences, ²⁾ Tokyo Medical and Dental University) : Applicability of high-resolution imaging systems to observe in vivo mapping of central NK1 receptors in laboratory animals. 7th IBRO World Congress of Neuroscience (Melbourne (Australia)), 2007. 7.
- 5) Yamasaki N¹⁾, Maekawa M²⁾, Kobayashi K, Kajii Y³⁾, Maeda J⁴⁾, Soma M²⁾, Takao K^{1, 5)}, Tanda K¹⁾, Ohsako S¹⁾, Toyama K⁵⁾, Kanzaki K³⁾, Fukunaga K⁶⁾, Sudo Y⁷⁾, Ichinose H⁷⁾, Ikeda M⁵⁾, et al. (¹⁾ Kyoto University Graduate School of Medicine, ²⁾ National Center of Neurology and Psychiatry, ³⁾ Mitsubishi Pharma Corporation, ⁴⁾ National Institute of Radiological Sciences, ⁵⁾ Fujita Health University, ⁶⁾ Tohoku University, ⁷⁾ Tokyo Institute of Technology School) : Alpha-CaMKII deficiency causes dysregulated behaviors and immature dentate gyrus. Society for Neuroscience 2007 (San Diego (USA)), 2007.

11.

- 6) 八幡憲明, 高橋英彦¹⁾, 浅井邦彦²⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗³⁾ (1) 放射線医学総合研究所, 2) 浅井病院, 3) 精神医学) : 選択的セロトニン再取り込み阻害薬が注意機構に及ぼす影響に関する検討 : 薬理学的fMRI研究. 第29回日本生物学的精神医学会 第37回日本神経精神薬理学会合同年会, 2007. 7.
- 7) 伊藤逸生¹⁾, 八幡憲明, 織田健司²⁾, 高橋英彦¹⁾, 田井治康友¹⁾, 浅井邦彦¹⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗³⁾ (1) 浅井病院, 2) 東京医科歯科大学, 3) 精神医学) : 統合失調症患者における脳形態変化の性差に関するMRI研究. 第29回日本生物学的精神医学会 第37回日本神経精神薬理学会合同年会, 2007. 7.
- 8) 福田 一¹⁾, 伊藤逸生²⁾, 八幡憲明, 高橋英彦³⁾, 田井治康友²⁾, 浅井邦彦²⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗¹⁾ (1) 精神医学, 2) 浅井病院, 3) 放射線医学総合研究所) : 統合失調症発症後の脳の形態変化に関するMRI研究. 第29回日本生物学的精神医学会 第37回日本神経精神薬理学会合同年会, 2007. 7.
- 9) 成重竜一郎¹⁾, 館野 周¹⁾, 八幡憲明, 大久保善朗¹⁾ (1) 精神医学) : うつ病における脳形異常に治するMRI voxel-based morphometryによる検討. 第29回日本生物学的精神医学会 第37回日本神経精神薬理学会合同年会, 2007. 7.
- 10) 山崎信幸¹⁾, 前川素子²⁾, 小林克典, 梶井 靖³⁾, 前田 純⁴⁾, 相馬美歩²⁾, 高雄啓三¹⁾, 神崎康治³⁾, 鈴木秀典, 樋口真人⁴⁾, 須原哲也⁴⁾, 湯浅茂樹²⁾, 宮川 剛¹⁾ (1) 京都大学大学院, 2) 国立精神神経センター, 3) 三菱ウェルファーマ, 4) 放射線医学総合研究所) : alpha- CaMKIIヘテロノックアウトにより引き起こされる行動異常と未成熟歯状回. 第30回日本神経科学大会 第50回日本神経化学学会大会 第17回日本神経回路学会大会合同大会, 2007. 9.
- 11) 八幡憲明, 高橋英彦¹⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗²⁾ (1) 放射線医学総合研究所, 2) 精神医学) : 選択的セロトニン再取り込み阻害薬がヒト注意機構に及ぼす影響の検討 : fMRI研究. 第30回日本神経科学大会 第50回日本神経化学学会大会 第17回日本神経回路学会大会 合同大会, 2007. 9.
- 12) 松村朋香¹⁾, 鈴木秀典, 海野雅浩¹⁾ (1) 東京医科歯科大学大学院) : 新規タキニンhemokinin-1の神経因性疼痛モデル動物における発現. 第35回日本歯科麻酔学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 13) 八幡憲明, 高橋英彦¹⁾, 鈴木秀典, 大久保善朗²⁾ (1) 放射線医学総合研究所, 2) 精神医学) : ヒト注意機構に対して選択的セロトニン再取り込み阻害薬が及ぼす効果に関する薬理学的fMRI研究. 第117回日本薬理学会関東支部会, 2007. 10.
- 14) 五十嵐司¹⁾, 川名誠司¹⁾, 山岡淳一¹⁾, 鈴木秀典 (1) 皮膚科学) : ステロイド抵抗性の結節性痒疹に対するUVB照射の効果. 第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2007. 12.
- 15) 松村朋香¹⁾, 坂井 敦, 永野昌俊, 海野雅浩¹⁾, 鈴木秀典 (1) 東京医科歯科大学大学院) : 新規タキニンhemokinin-1の神経因性疼痛モデル動物における発現の増加. 第81回日本薬理学会年会, 2008. 3.
- 16) 齋藤文仁, 村野光和, 鈴木秀典 : 小脳核における5-HT受容体を介した修飾作用. 第85回日本生理学会大会, 2008. 3.

8. 病理学講座（解析人体病理学）

研究概要

基礎的な研究としては肺、腎、移植、心、眼、消化器の病理を中心に行なわれた。肺では、間質性肺炎における血管新生、びまん性肺胞傷害の多様性と線維化形成機序、肺気腫における肺胞構造改築など、腎では、糸球体上皮の細胞骨格とネフリン、腎虚血後再灌流傷害とMMP-2、スタチンおよびアンギオテンシンレセプター阻害剤による腎糸球体障害の抑制、腎糸球体内皮細胞障害、糖尿病性腎症など、移植では、免疫関与糖鎖欠損ミニプタによる研究、抗CD40抗体と腎移植など、心では、フロッピー弁形成におけるMMPの役割、動脈硬化性動脈瘤の形成機序など、眼では、新生児網膜の細胞死と再生、フリーラジカルによる角膜内皮細胞障害など、消化器では、胃癌におけるプロスタグランジン合成酵素などが報告された。

診断病理学に関して、病理診断の標準化を目指して特発性間質性肺炎の病理医間の診断一致率が多施設病理医の参加のもとに検討され、まとめられた。糸球体腎炎の病理診断法の進歩、腎炎診断のための分子病理学などがまとめられた。また、近年注目されている薬剤による各種の肺重篤副作用の対応マニュアルが多施設多分野の専門家により検討され、発表された。これらは、社会的要請に沿ったものであり、今後、ますます病理医の参加が必要となる分野である。

学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究も行われた。潰瘍性大腸炎の肺病変、間質性肺炎の電顕所見、好酸球性肺炎、過敏性肺炎、シェーグレン症候群の肺病変、プチラミン肺障害、メソトレキサート肺障害、ANCA関連肺疾患、ARDSの病理、髄膜脳炎および感染性心内膜炎と透析、SLE腎炎、半月体形成腎炎、巣状糸球体硬化症とその亜型、アミロイドーシス、糖尿病性腎症、若年性ネフロン癆、腎癌などの報告が行われた。また、臨床各科との臨床病理検討会（CPC）が行われ、報告としてまとめられた。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Igarashi T²⁾, Miyake K¹⁾, Hayakawa J³⁾, Kawabata K³⁾, Ishizaki M, Takahashi H²⁾, Shimada T¹⁾ (1) 生化学第2, 2) 眼科学, 3) 小児科学) : Apoptotic cell death and regeneration in the newborn retina after irradiation prior to bone marrow transplantation. *Curr Eye Res* 2007 ; 32 (6) : 543-553.

(1) 原著：

- 1) Gudis K¹⁾, Tatsuguchi A, Wada K¹⁾, Hiroshima T¹⁾, Futagami S¹⁾, Fukuda Y, Kiyama T²⁾, Tajiri T²⁾, Miyake K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) 内科学, 2) 外科学) : Clinical significance of prostaglandin E synthase expression in gastric cancer tissue. *Hum Pathol* 2007 ; 38 : 1826-1835.
- 2) Togashi M, Tamura K¹⁾, Nitta T²⁾, Ishizaki M, Sugisaki Y¹⁾, Fukuda Y (1) 付属病院病理部, 2) 外科学第2) : Role of matrix metalloproteinases and their tissue inhibitor of metalloproteinases in myxomatous change of cardiac floppy valves. *Pathol Int* 2007 ; 57 (5) : 251-259.
- 3) Eto N¹⁾, Wada T¹⁾, Inagi R¹⁾, Takano H¹⁾, Shimizu A, Kato H¹⁾, Kurihara H²⁾, Kawachi H³⁾, Shankland S⁴⁾, Fujita T¹⁾, Nangaku M¹⁾ (1) Division of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo School of Medicine, Tokyo, 2) Department of Anatomy, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, 3) Institute of Nephrology, Niigata University, Niigata, 4) Division of Nephrology, University of Washington, Seattle.

USA) : Podocyte protection by darbepoetin : preservation of the cytoskeleton and nephrin expression. *Kidney Int* 2007 ; 72 (4) : 455-463.

- 4) Tahara T^{1,2)}, Miyake K¹⁾, Hanawa H¹⁾, Kurai T¹⁾, Hirai Y¹⁾, Ishizaki M, Uchida E²⁾, Tajiri T²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 生化学第2, ²⁾ 外科学第1) : Systemic cancer gene therapy using adeno-associated virus type 1 vector expressing MDA-7/IL24. *Mol Ther* 2007 ; 15 (10) : 1805-1811.
- 5) Cho P¹⁾, Lo D¹⁾, Wikiel K¹⁾, Rowland H¹⁾, Coburn R¹⁾, Mcmorrow I¹⁾, Goodrich J¹⁾, Arn J¹⁾, Billiter R¹⁾, Houser S¹⁾, Shimizu A, Yang Y¹⁾, Sachs D¹⁾, Huang C¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, USA) : Establishment of transplantable porcine tumor cell lines derived from MHC inbred miniature swine. *Blood* 2007 ; 110 (12) : 3996-4004.
- 6) Tsuboi N¹⁾, Nishimura T¹⁾, Chen H¹⁾, Norose Y²⁾, Shimizu M¹⁾, Kondo Y¹⁾, Kimura G¹⁾, Fukuda Y (¹⁾ 泌尿器科学, ²⁾ 免疫学・微生物学) : Relation of leukocytosis in prostatic fluid and inflamed prostatic tissue. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 : 210-216.
- 7) Saito T¹⁾, Tamura K²⁾, Uchida D³⁾, Saito T⁴⁾, Nitta T⁵⁾, Sugisaki Y²⁾ (¹⁾ 虎ノ門病院, ²⁾ 付属病院病理部, ³⁾ 関東労災病院, ⁴⁾ 内科学第1, ⁵⁾ 外科学第2) : Histopathological evaluation of left atrial appendage thrombogenesis removed during surgery for atrial fibrillation. *Am Heart J* 2007 ; 153 (4) : 704-711.
- 8) Akimoto T¹⁾, Nakama K²⁾, Katsuta Y³⁾, Zhang X³⁾, Ohsuga M³⁾, Ishizaki M, Sawai N⁴⁾, Ozawa H⁴⁾ (¹⁾ 実験動物管理室, ²⁾ 静岡実験動物センター, ³⁾ 内科学第1, ⁴⁾ 解剖学第2) : Characterization of a novel congenic strain of diabetic fatty (WKB/Kob-*Lepr^{fa}*) rat. *Biochem Biophys Res Commun* 2008 ; 366 (2) : 556-562.

(2) 総説 :

- 1) Sachs D¹⁾, Yamada K¹⁾, Robson S¹⁾, Fishman J¹⁾, Shimizu A, Colvin R²⁾, Sykes M¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, USA, ²⁾ Department of Pathology, Massachusetts General Hospital, Boston, USA) : GalT-KO pigs : is the cup half empty or half full? . *Transplantation* 2007 ; 84 (1) : 12-14.
- 2) 藤田恵美子, 金子朋広¹⁾, 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 腎臓内科) : サイアザイド系利尿薬の再評価と合剤の出現. 成人病と生活習慣病 2007 ; 37 (8) : 905-912.
- 3) 清水 章, 益田幸成, 石崎正通 : 腎炎に関する腎組織診断法の進歩. 腎と透析 2007 ; 62 (1) : 18-25.
- 4) 清水 章, 三井亜希子, 藤田恵美子, 安藝 薫, 益田幸成 : これだけは知っておきたい分子腎臓学2007, C4d. 腎と透析 2007 ; 63 (3) : 574-579.
- 5) 安井 弥¹⁾, 黒田 誠²⁾, 田村浩一³⁾ (¹⁾ 広島大学大学院医薬学総合研究科分子病理学, ²⁾ 藤田保険衛生大学病理, ³⁾ 付属病院病理部) : 連載 学生諸君, いま病理がおもしろいぞー病理学自習のススメ [13] 病理学教育に対する今後の展望. 病理と臨床 2007 ; 25 (6) : 581-585.

(3) 研究報告書 :

- 1) 井上義一¹⁾, 蛇澤 彰¹⁾, 山鳥一郎¹⁾, 山本 暁¹⁾, 北市正則¹⁾, 是枝幸子¹⁾, 望月吉郎¹⁾, 小橋陽一郎¹⁾, 佐藤利雄¹⁾, 藤田結花¹⁾, 永田忍彦¹⁾, 赤川しのぶ¹⁾, 斉藤泰晴¹⁾, 齋藤武文¹⁾, 福田 悠, その他12名 (¹⁾ 国立病院機構) : 特発性間質性肺炎の外科的肺組織パターン一致率に関する検討. 厚生労働科学研究費補助金. 難治性疾患克服研究事業. びまん性肺疾患調査研究班. 平成18年度研究報告書 2007 ; 82-85.
- 2) 福田 悠 : 日本医科大学解析人体病理学肺グループ : 診断から病態の解明, 治療をめざして. 分子呼吸器病 2008 ; 12 (1) : 86-87.
- 3) 福田 悠, 康 徳東, 富樫真由子, 山元滋樹, 小野美紀子, 功刀しのぶ, 石崎正通 : びまん性肺胞傷害の多様性とその線維化形成機序. 厚生労働科学研究費補助金. 難治性疾患克服研究事業. びまん性肺疾患調査研究班. 平成19年度研究報告書 2008 ; 104-107.

(4) 症例報告：

- 1) Saito Y¹⁾, Nei T¹⁾, Abe S¹⁾, Usuki J¹⁾, Azuma A¹⁾, Nakayama T, Fukuda Y, Kudoh S¹⁾ : A case of buccillamine-induced interstitial pneumonia with positive lymphocyte stimulation test for buccillamine using bronchoalveolar lavage lymphocytes. *Internal Medicine* 2007 ; 46 : 1739-1744.
- 2) 中村杜香¹⁾, 五十嵐豊¹⁾, 浜田和典¹⁾, 田村浩一^{2, 4)}, 杉崎祐一²⁾, 木村 剛³⁾, 藤田恵美子, 福田 悠⁽¹⁾ 日本医科大学医学部6年, ²⁾ 附属病院病理部, ³⁾ 泌尿器科学, ⁴⁾ 東京通信病院病理科) : 腎嫌色素細胞癌に全身性ALアミロイドーシスを合併した1例. *日医大医学会誌* 2007 ; 3 (3) : 141-146.
- 3) 高久多希朗¹⁾, 根井貴仁¹⁾, 斉藤良信¹⁾, 阿部信二¹⁾, 白杵二郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 高橋美紀子, 中山智子, 福田 悠⁽¹⁾ 呼吸器内科) : 肺癌合併 ANCA 関連間質性肺炎で急性増悪をきたした1剖検例. *The Lung Prospective* 2007 ; 15 (3) : 258-264.
- 4) 篠原恵理子¹⁾, 西野幸恵¹⁾, 大澤克成¹⁾, 田村浩一^{4, 5)}, 功刀しのぶ, 別所竜蔵²⁾, 林 宏光³⁾, 福田 悠⁽¹⁾ 日本医科大学医学部6年, ²⁾ 外科学第2, ³⁾ 内科学第1, ⁴⁾ 附属病院病理部, ⁵⁾ 東京通信病院病理科) : 多発する Penetrating Atherosclerotic Ulcer に起因する腹部大動脈瘤と胸部下行大動脈解離を認めた1例. *日医大医学会誌* 2007 ; 3 (4) : 187-192.
- 5) 坂本静樹¹⁾, 野村浩一¹⁾, 恩田宗彦²⁾, 清水 章, 本間 博³⁾, 清野精彦³⁾, 内藤善哉²⁾, 田村浩一⁴⁾, 猪口孝一⁵⁾, 福岡長知⁴⁾, 岸田 浩³⁾, 駒場祐一¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 内科学第2, ²⁾ 病理学第2, ³⁾ 内科学第1, ⁴⁾ 附属病院病理部, ⁵⁾ 内科学第3) : 発熱と意識障害が遷延し, 脳炎様の経過を認めた透析患者の1例. *内科* 2007 ; 100 (4) : 729-737.

著 書

- 1) 久保恵嗣¹⁾, 石坂彰敏²⁾, 金沢 實³⁾, 河野修興⁴⁾, 酒井文和³⁾, 榊原博樹⁵⁾, 谷口正実⁶⁾, 巽浩一郎⁷⁾, 土橋邦生⁸⁾, 貫和敏博⁹⁾, 橋本 修¹⁰⁾, 福田 悠, 本田孝行¹⁾ (1) 信州大学, ²⁾ 慶応大学, ³⁾ 埼玉医科大学, ⁴⁾ 広島大学, ⁵⁾ 藤田保健衛生大学, ⁶⁾ 国立病院機構相模原病院, ⁷⁾ 千葉大学, ⁸⁾ 群馬大学, ⁹⁾ 東北大学, ¹⁰⁾ 日本大学) : [共著] 非ステロイド性抗炎症薬による喘息発作 (非アスピリン喘息, 解熱鎮痛薬喘息, アスピリン不耐喘息, 鎮痛剤喘息症候群). 重篤副作用疾患別対応マニュアル, 第1集 (社団法人日本呼吸器学会薬剤性肺障害マニュアル作成委員会), 2007 ; pp137-157, (財) 日本医薬情報センター (JAPIC).
- 2) 久保恵嗣¹⁾, 石坂彰敏²⁾, 金沢 實³⁾, 河野修興⁴⁾, 酒井文和³⁾, 榊原博樹⁵⁾, 谷口正実⁶⁾, 巽浩一郎⁷⁾, 土橋邦生⁸⁾, 貫和敏博⁹⁾, 橋本 修¹⁰⁾, 福田 悠, 本田孝行¹⁾ (1) 信州大学, ²⁾ 慶応大学, ³⁾ 埼玉医科大学, ⁴⁾ 広島大学, ⁵⁾ 藤田保健衛生大学, ⁶⁾ 国立病院機構相模原病院, ⁷⁾ 千葉大学, ⁸⁾ 群馬大学, ⁹⁾ 東北大学, ¹⁰⁾ 日本大学) : [共著] 間質性肺炎 (肺臓炎, 胞隔炎, 肺線維症). 重篤副作用疾患別対応マニュアル, 第1集 (社団法人日本呼吸器学会薬剤性肺障害マニュアル作成委員会), 2007 ; pp159-180, (財) 日本医薬情報センター (JAPIC).
- 3) 久保恵嗣¹⁾, 石坂彰敏²⁾, 金沢 實³⁾, 河野修興⁴⁾, 酒井文和³⁾, 榊原博樹⁵⁾, 谷口正実⁶⁾, 巽浩一郎⁷⁾, 土橋邦生⁸⁾, 貫和敏博⁹⁾, 橋本 修¹⁰⁾, 福田 悠, 本田孝行¹⁾ (1) 信州大学, ²⁾ 慶応大学, ³⁾ 埼玉医科大学, ⁴⁾ 広島大学, ⁵⁾ 藤田保健衛生大学, ⁶⁾ 国立病院機構相模原病院, ⁷⁾ 千葉大学, ⁸⁾ 群馬大学, ⁹⁾ 東北大学, ¹⁰⁾ 日本大学) : [共著] 急性肺損傷・急性呼吸窮迫症候群 (急性呼吸促迫症候群) (成人呼吸窮迫症候群 (成人呼吸促迫症候群)). 重篤副作用疾患別対応マニュアル, 第1集 (社団法人日本呼吸器学会薬剤性肺障害マニュアル作成委員会), 2007 ; pp181-196, (財) 日本医薬情報センター (JAPIC).

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 福田 悠：間質性肺炎の電頭的検索. 第58回東北臨牀超微形態懇話会, 2007. 6.

(2) 教育講演：

- 1) 福田 悠：ARDS病態の病理．第35回救急医学会総会・学術集会（大阪），2007．6．
- 2) 清水 章：巣状糸球体硬化症の亜系と診断．第3回腎病理夏の学校 in 福岡 2007，2007．8．

(3) パネルディスカッション：

- 1) Fukuda Y, Kang D, Yamamoto M, Ono M, Nakayama T, Ishizaki M：Two types of diffuse alveolar damage (DAD) in the lungs of the patients with acute respiratory distress syndrome (ARDS)．2007 International Conference American Thoracic Society (San Francisco)，2007．5．

(4) セミナー：

- 1) Moon K¹⁾, Shimizu A ¹⁾ Department of Pathology, Seoul National University College of Medicine, Seoul)：A case of focal segmental glomerular sclerosis associated with essential thrombocythemia．The 3rd Korean-Japanese Renal Pathology Conference (Jeju, Korea)，2007．10．
- 2) 小橋保夫¹⁾，米田有希子¹⁾，齋藤雄二¹⁾，小倉高志²⁾，上甲 剛³⁾（¹⁾ 藤田保健衛生大学病院呼吸器内科，²⁾ 神奈川県立呼吸器循環器病センター呼吸器科，³⁾ 近畿中央病院放射線科）：Sjogren 症候群による間質性肺炎が疑われた1例．第17回白山カンファレンス，2007．1．
- 3) 山谷淳代¹⁾，八田里恵子¹⁾，高原 豊¹⁾，齋藤雅俊¹⁾，小島好司¹⁾，館 由貴¹⁾，中川 研¹⁾，土原一真¹⁾，井口晶晴¹⁾，黄 正寿¹⁾，長内和彦¹⁾，梅 博久¹⁾，上田善道²⁾，小倉高志³⁾，上甲 剛⁴⁾（¹⁾ 金沢医科大学呼吸器内科，²⁾ 金沢医科大学病態病理学，³⁾ 神奈川呼吸器循環器病センター呼吸器内科，⁴⁾ 近畿中央病院放射線科）：過敏性肺臓炎の鑑別が問題となった間質性肺炎の1例．第17回白山カンファレンス，2007．1．
- 4) 清水 章：腎病理診断コンサルテーション：糸球体，尿細管，血管，間質に非アミロイド性細線維が沈着し，急速進行性に腎不全に陥った1例．第50回腎臓学会学術総会，2007．5．
- 5) 俣木浩子¹⁾，松田俊明¹⁾，野間 聖¹⁾，三山英夫，高橋美紀子¹⁾，川島寿史¹⁾，是枝快泉¹⁾，東元一晃¹⁾，有村公良¹⁾，福田 悠（¹⁾ 鹿児島大学医学部附属病院呼吸器内科）：急性発症したがステロイド投与後も症状・肺病変が遷延し慢性好酸球性肺炎と考えられた1例．第5回九州びまん性肺疾患研究会，2008．3．
- 6) 雨森美幸¹⁾，山本和子¹⁾，坂本憲穂¹⁾，中島章太¹⁾，原信太郎¹⁾，吉岡大介¹⁾，雨森美里¹⁾，石本裕士¹⁾，宮崎華子¹⁾，迎 寛¹⁾，林徳真吉²⁾，河野 茂¹⁾，藤本公則³⁾，福田 悠（¹⁾ 長崎大学医学部附属病院第二内科，²⁾ 長崎大学医学部附属病院病理，³⁾ 久留米大学医学部放射線医学）：潰瘍性大腸炎に合併し，ステロイドが有効であった肺疾患の1例．第5回九州びまん性肺疾患カンファレンス，2008．3．

(5) 一般講演：

- 1) Ono M, Nakayama T, Yamamoto M, Fukuda Y：Angiogenesis in the intra-alveolar fibrosis in interstitial pneumonias．2007 International Conference American Thoracic Society (San Francisco)，2007．5．
- 2) Aoyagi T¹⁾, Yamashita K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Sugitani A²⁾, Imai A¹⁾, Uno M¹⁾, Goto R¹⁾, Miura T³⁾, Takahashi N³⁾, Itoh T⁴⁾, Shimizu A, Furukawa H¹⁾, Todo S¹⁾（¹⁾ 1st Dept of Surgery, Hokkaido Univ. Hospital, ²⁾ 1st Dept of Surgery, Kyusyu Univ. Hospital, ³⁾ Kirin Brewery Co., Ltd., ⁴⁾ Dept of Surgical Pathology, Hokkaido Univ. Hospital)：A novel human anti-CD40 monoclonal antibody, 4D11, for kidney transplantation in cynomolgus monkeys, effect of induction and maintenance therapy. World Transplant Congress (San Francisco)，2007．5．
- 3) Takano H, Shimizu A, Masuda Y, Mii A, Fujita E, Ishizaki M, Sugisaki Y, Fukuda Y：Impaired Glomerular Healing in Streptozotocin (STZ)-Induced Diabetic Rats. American Society of Nephrology (San Francisco)，2007．11．
- 4) Fujita E, Shimizu A, Masuda Y, Mii A, Takano H, Aki K, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Ishizaki M, Sugisaki Y, Fukuda Y（¹⁾ Department of 2nd Internal Medicine)：Statin Attenuates Glomerular Inflammation and Subsequent Necrotizing and Crescentic Anti-GBM Glomerulonephritis. American Society of Nephrology

(San Francisco), 2007. 11.

- 5) Mii A, Shimizu A, Masuda Y, Fujita E, Takano H, Aki K, Ishizaki M, Iino Y¹⁾, Katayama Y¹⁾, Sugisaki Y, Fukuda Y (¹⁾ Department of 2nd Internal Medicine) : Angiotensin II Receptor blockade (ARB) Prevents the Acute Active Glomerular Lesions in Mesangioproliferative Glomerulonephritis (GN). American Society of Nephrology (San Francisco), 2007. 11.
- 6) Aki K, Mii A, Shimizu A, Masuda Y, Fujita E, Takano H, Ishizaki M, Sugisaki Y, Fukuda Y : Angiotensin II Receptor 1 Blockade (ARB) Attenuates Anti-GBM Glomerulonephritis (GN) in WKY Rats though Inhibition of Macrophage Infiltration and Activation. American Society of Nephrology (San Francisco), 2007. 11.
- 7) Uno M¹⁾, Yamashita K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Aoyagi T¹⁾, Sugitani A²⁾, Goto R¹⁾, Tetsu O¹⁾, Miura T³⁾, Takahashi N³⁾, Itoh T⁴⁾, Shimizu A, Taniguchi M¹⁾, Shimamura T¹⁾, Furukawa H¹⁾, Todo S¹⁾ (¹⁾ 1st Dept. of Surgery, Hokkaido Univ., Sapporo, Hokkaido, ²⁾ 1st Dept of Surgery, Kyusyu Univ., Hakata, Fukuoka, ³⁾ Kirin Brewery Co., Ltd, Takasaki, Gunma, ⁴⁾ Dept of Surgical Pathology, Hokkaido Univ. Hospital, Sapporo, Hokkaido) : Effects of combination therapy with a novel anti-CD40 monoclonal antibody, 4D11, and tacrolimus on renal allografts in cynomolgus monkeys. 8th International Conference on New Trends in Immunosuppression and Immunotherapy (Berlin), 2008. 2.
- 8) 村野奈緒, 石崎正通, 佐藤 茂¹⁾, 松井洋法²⁾, 鈴木久晴³⁾, 福田 悠, 高橋 浩³⁾ (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾ 春日眼科, ³⁾ 眼科学) : Phacoemulsification による角膜内皮障害 : フリーラジカルの関与. 第111回日本眼科学会総会, 2007. 4.
- 9) 鈴木久晴¹⁾, 佐藤 茂²⁾, 村野奈緒, 松井洋法³⁾, 小原澤英彰¹⁾, 佐佐木喜広²⁾, 安達彰子²⁾, 石崎正通, 高橋浩¹⁾ (¹⁾ 眼科学, ²⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ³⁾ 春日眼科) : 白内障手術後の眼内炎予防にオゾン水が使えるか? : 基礎的実験. 第111回日本眼科学会総会, 2007. 4.
- 10) 三井亜希子, 清水 章, 益田幸成, 藤田恵美子, 石崎正通, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 杉崎祐一 (¹⁾ 内科学第2) : Thy1腎炎急性活動性病変におけるAT1 Receptor (ARB) の腎保護効果. 第50回日本腎臓学会学術総会, 2007. 5.
- 11) 益田幸成, 清水 章, 石崎正通, 杉崎祐一 : アミロイド腎症における糸球体糸状体のspiculeの形成機序. 第50回日本腎臓学会学術総会, 2007. 5.
- 12) 清水 章, 田村尚美, 新井孝司, 益田幸成, 石崎正通, 杉崎祐一, 福田 悠 : 腎虚血灌流再障害の進展におけるマトリックスメタロプロテアーゼ-2が関与している. 第50回日本腎臓学会学術総会, 2007. 5.
- 13) 山元滋樹, 小野美紀子, 功刀しのぶ, 中山智子, 川本雅司, 福田 悠 : 小葉中心性肺気腫における肺胞改築機序の検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 14) 中山智子, 小野美紀子, 山元滋樹, 福田 悠, 佐藤悦子¹⁾, 平松久弥子¹⁾, 工藤翔二¹⁾ (¹⁾ 呼吸器内科) : メントレキセート (MTx) による急性肺障害 : 剖検2例の臨牀病理学的検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 15) 青野純典¹⁾, 西岡安彦¹⁾, 轟 貴史¹⁾, 中山智子, 福田 悠 (¹⁾ 徳島大学呼吸器内科) : 抗生剤投与するも発熱を繰り返したびまん性肺疾患の1例. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 16) 村野奈緒, 石崎正通, 佐藤 茂¹⁾, 松井洋法²⁾, 鈴木久晴³⁾, 福田 悠, 高橋 浩³⁾ (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾ 春日眼科, ³⁾ 眼科学) : 超音波乳化吸引術中のフリーラジカルは角膜内皮を障害する. 第46回日本白内障学会総会 第22回日本眼内レンズ屈折手術学会総会, 2007. 6.
- 17) 藤田恵美子, 金子朋広¹⁾, 野村浩一¹⁾, 久松めぐみ¹⁾, 恩田宗彦²⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (¹⁾ 内科学第2, ²⁾ 病理学第2) : 診断治療が困難な髄膜脳炎・感染症心内膜炎を合併した維持透析患者の1例. 第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.

- 18) 高橋美紀子, 山元滋樹, 功刀しのぶ, 石崎正通, 福田 悠: 間質性肺炎 (IP) の早期腔内線維化巣における血管新生の意義. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 19) 中村 香¹⁾, 五十嵐豊¹⁾, 浜田和典¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 木村 剛³⁾, 藤田恵美子, 福田 悠, 田村浩一⁴⁾ (1) 日本医科大学医学部6年, 2) 附属病院病理部, 3) 泌尿器学, 4) 東京通信病院病理科): 腎嫌色素細胞腫と全身性ALアミロイドーシスを合併した1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 20) 篠塚恵理子¹⁾, 西野幸恵¹⁾, 大澤克成¹⁾, 功刀しのぶ, 福田 悠, 別所竜蔵²⁾, 林 宏光³⁾, 田村浩一⁴⁾ (1) 日本医科大学医学部6年, 2) 外科学第2, 3) 内科学第1, 4) 東京通信病院病理科): 多発するPenetrating atherosclerotic ulcerに起因する腹部大動脈瘤と胸部下行大動脈解離を認めた1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 21) 藤田恵美子, 三井亜希子, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 清水 章, 益田幸成, 石崎正通, 福田 悠, 安藝 薫²⁾ (1) 内科学第2, 2) 小児科学): ラット半月体形成性腎炎におけるスタチンの腎保護作用に関する検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 22) 三井亜希子¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 安藝 薫²⁾, 清水 章, 益田幸成, 高野秀樹, 福田 悠 (1) 内科学第2, 2) 小児科学): 糸球体腎炎の急性活動性病変に対するAT1 receptor blocker (ARB) の保護作用. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 23) 三井亜希子, 清水 章, 益田幸成, 高野秀樹, 石崎正通, 福田 悠, 藤田恵美子, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 内科学第2): 糸球体腎炎の管内増殖性病変における糸球体内皮細胞傷害の検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 24) 三井亜希子, 益田幸成, 内海甲一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 清水 章 (1) 内科学第2): 電顕所見で足細胞陥入糸球体症と考えられたSLEの1例. 第37回日本腎臓学会西部学術大会, 2007. 10.
- 25) 谷 顕¹⁾, 秋田 渉¹⁾, 佐藤文絵¹⁾, 若林麻衣¹⁾, 小田敏子¹⁾, 森吉 寛¹⁾, 神田英一郎¹⁾, 岡戸丈和¹⁾, 頼建光¹⁾, 寺田典生¹⁾, 内田信一¹⁾, 佐々木成¹⁾, 清水 章 (1) 東京医科歯科大学腎臓内科): 腎癌にて片腎摘出後15年後に発症し開放腎生検を施行したネフローゼ症候群の1例. 東京腎生検カンファランス, 2007. 12.
- 26) 平野大志¹⁾, 原 聡¹⁾, 村上仁彦²⁾, 山口 裕³⁾, 服部元史⁴⁾, 藤原周一郎¹⁾, 清水 章 (1) 埼玉県立小児医療センター腎臓科, 2) 埼玉県立小児医療センター病理部, 3) 東京慈恵医科大学附属病院病理部, 4) 東京女子医大病院腎臓小児科): 貧血を主訴に発見され, 若年性ネフロン癆と診断した1例. 第74回関東小児腎臓研究会, 2008. 1.
- 27) 清水 章: 半月体形成性腎炎の病理. 第6回日本腎病理協会研究会, 2008. 1.

(6) 誌上発表:

- 1) Masuda Y, Shimizu A, Ishizaki M, Sugisaki Y, Fukuda Y: The pathological characterization of spicule on glomerular capillaries in renal amyloidosis. American Society of Nephrology (San Francisco), 2007. 11.
- 2) Shimizu A, Yamada K¹⁾, Hirakata A¹⁾, Sachs D¹⁾, Colvin R²⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, USA, 2) Department of Pathology, Massachusetts General Hospital, Boston, USA): Diabetic (DM) nephropathy in transplanted kidney is accelerated by acute cellular rejection in hyperglycemia in DM swine. American Society of Nephrology (San Francisco), 2007. 11.

9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）

研究概要

病理学講座（統御機構・腫瘍学）では消化器を中心とした腫瘍病変と、炎症性疾患につき有効な診断法と新たな治療法の開発を目的に研究を行なっている。

1) 腫瘍の増殖，転移機序の研究と治療への応用：膵臓癌と消化管の癌（食道，胃，大腸癌），および子宮癌における細胞増殖因子と細胞外基質の発現と役割を明らかにし，診断，治療への応用を検討している。培養癌細胞，実験動物モデル，ヒト病理組織標本などを用い，腫瘍細胞と間質細胞における細胞外基質のlumican，線維芽細胞増殖因子のFGF-7/KGFとその受容体のKGFRを免疫組織化学染色法，western blot法，in situ hybridization法，real-time PCR法や遺伝子導入法などの分子病理学的手法を併せて総合的に研究している。さらに，これら細胞外基質や増殖因子の作用機構について，細胞内の情報伝達の調節機構の解明，細胞増殖因子と細胞外基質の相互関連，相互作用についても検討を行なっている。

2) 膵炎の発症，進展および再生修復機序の研究と治療への応用：急性および慢性膵炎の病態の増悪，組織の再生や回復過程におけるFGF-7など細胞増殖因子やlumicanなどの細胞外基質の発現と局在を形態学的-遺伝子レベルで解析し，これらの発現制御を介した治療応用につき研究している。また，幹細胞マーカーのnestinによる膵臓幹細胞同定・分化誘導による膵炎治療の可能性についても検討している。

3) 腫瘍，炎症性疾患，変性疾患における血管，リンパ管の増殖機序の検討：腫瘍の増殖，転移，肉芽組織の形成や変性疾患である動脈硬化症の進展における血管，リンパ管の増生-分化の研究とともに血管，リンパ管の動態に関する細胞外基質や細胞増殖因子についても検討している。また，癌周囲の新生血管マーカーとしてnestinが，他の血管内皮細胞マーカーより有効であることを明らかにした。これを用い腫瘍血管の分布と役割について研究を行っているが，さらにリンパ管に関しても特異的マーカーであるD2-40などを用い局在や役割についても検討している。

教室員と大学院生の努力や欧米の研究室との共同研究により研究成果は確実にあがってきているが，癌の新たな診断，治療法の開発のために尚一層の努力が必要と考えている。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Ishizaki M¹， Ishiwata T， Adachi A²， Tamura N¹， Ghazizadeh M²， Kitamura H³， Sugisaki Y²， Yamanaka N⁴， Naito Z， Fukuda Y¹ (¹ Department of pathologyI， ² Central Institute of Electron Microscopic Research， ³ Clinical Research Center, Chiba-East National Hospital， ⁴ Tokyo Kidney Research Institute) : Expression of nestin in rat and human glomerular podocytes. J Submicrosc Cytol Pathol 2006 ; 38 (2-3) : 193-200.
- 2) Katayama H¹， Maeda S¹， Kudo M， Naito Z (¹ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital) : Basic Examination of HER-2/neu in Breast Carcinoma by Chromogenic in Situ Hybridization : Application to Fine-Needle Aspiration Cytology Specimens. J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 357-359.
- 3) Shimizu A¹， Kawai K¹， Yanagino M¹， Wakiyama T¹， Machida M²， Kameyama K， Naito Z (¹ Department of Environmental Engineering for Symbiosis, Soka University， ² Research Center for Cancer Prevention and Screening, National Cancer Center) : Characteristics of type IV collagen unfolding under various pH conditions as a model of pathological disorder in tissue. J Biochem 2007 ; 142 (1) : 33-40.

- 4) Ishiwata T, Cho K, Kawahara K, Yamamoto T, Fujiwara Y, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾, Naito Z (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Role of lumican in cancer cells and adjacent stromal tissues in human pancreatic cancer. *Oncol Rep* 2007 ; 18 (3) : 443-452.
- 5) Kudo M, Ishiwata T, Nakazawa N, Kawahara K, Fujii T, Teduka K, Naito Z : Keratinocyte growth factor-transfection-stimulated adhesion of colorectal cancer cells to extracellular matrices. *Exp Mol Pathol* 2007 ; 83 (3) : 443-52.
- 6) 町田稔 ¹⁾, 亀山孝二, 清水昭夫²⁾, 森山紀之¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ²⁾ 創価大学工学部) : 血管新生, 細胞増殖にかかわる変性IV型コラーゲンと光感受性物質会合 微弱光照射による病態の評価と誘導制御の基礎研究. *日本脈管学会雑誌* 2006 ; 46 (1-2) : 67-71.

追加症例報告 :

- 1) 坂本静樹¹⁾, 竹内純子²⁾, 塚田克也³⁾, 猪口孝一¹⁾, 白杵二郎⁴⁾, 田村浩一³⁾, 内藤善哉, 藤田和恵⁴⁾, 工藤翔二⁴⁾, 片山泰朗¹⁾, 辰口篤志²⁾, 福岡長知⁵⁾, 中山智子⁶⁾, 川本雅司⁶⁾, 杉崎祐一³⁾, その他2名 (¹⁾ 内科学 (神経・腎臓), ²⁾ 内科学 (血液・内分泌代謝・消化器), ³⁾ 付属病院病理部, ⁴⁾ 内科学 (呼吸器), ⁵⁾ 内科学 (一般・循環器・肝臓), ⁶⁾ 解析人体病理学) : 膿胸関連リンパ腫の1例. *内科* 2006 ; 98 (6) : 1091-1102.

(1) 原著 :

- 1) Yoshino M¹⁾, Ishiwata T, Watanabe M¹⁾, Matsunobu T¹⁾, Komine O¹⁾, Ono Y, Yamamoto T, Fujii T, Matsumoto K²⁾, Tokunaga A¹⁾, Naito Z (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Division of Pathology, Musashi Kosugi Hospital) : Expression and roles of keratinocyte growth factor and its receptor in esophageal cancer cells. *Int J Oncol* 2007 ; 31 (4) : 721-28.
- 2) Cho K, Ishiwata T, Uchida E¹⁾, Nakazawa N, Korc M²⁾, Naito Z, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ The Department of Surgery, ²⁾ The Department of Medical Center, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Enhanced Expression of Keratinocyte Growth Factor and Its Receptor Correlates with Venous Invasion in Pancreatic Cancer. *Am J Pathol* 2007 ; 170 (6) : 1964-1974.
- 3) Kato S¹⁾, Matsukura N¹⁾, Tsukada K, Matsuda N¹⁾, Mizoshita T¹⁾, Tsukamoto T¹⁾, Tatematsu M¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Naito Z, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, ²⁾ Division of Pathology) : Helicobacter pylori infection-negative gastric cancer in Japanese hospital patients : incidence and pathological characteristics. *Cancer Sci* 2007 ; 98 (6) : 790-794.
- 4) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Shinji S¹⁾, Ohaki Y²⁾, Ishiwata T, Naito Z, Tajiri T³⁾ (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Chiba-Hokusou Hospital, ³⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Complete response of a patient with advanced gastric cancer, showing Epstein-Barr virus infection, to preoperative chemotherapy with S-1 and cisplatin. *Int J Clin Oncol* 2007 ; 12 (6) : 472-77.
- 5) Liu Z¹⁾, Ishiwata T, Zhou S¹⁾, Maier S¹⁾, Henne-Bruns D¹⁾, Korc M²⁾, Bachem M¹⁾, Kornmann M¹⁾ (¹⁾ Department of General, Visceral and Transplantation Surgery, University of Ulm, Ulm, Germany, ²⁾ the Department of Medical Center, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Human fibroblast growth factor receptor 1-IIIb is a functional fibroblast growth factor receptor expressed in the pancreas and involved in proliferation and movement of pancreatic ductal cells. *Pancreas* 2007 ; 35 (2) : 147-57.
- 6) Makino H¹⁾, Miyashita M¹⁾, Nomura T¹⁾, Katsuta M¹⁾, Kashiwabara M¹⁾, Takahashi K¹⁾, Yamashita K¹⁾, Nakamizo M¹⁾, Yokoshima K¹⁾, Onda M, Naito Z, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery) : Solitary fibrous tumor of the cervical esophagus. *Dig Dis Sci* 2007 ; 52 (9) : 2195-200.

- 7) Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Iwase H¹⁾, Naito Z¹⁾ (Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital) : A case report on pleural mesothelioma : Effective application of the cell block method to body cavity fluid cytological analysis. J. Jpn. Soc. Clin. Cytol 2007 ; 46 (6) : 386-390.
- 8) Aimoto T¹⁾, Uchida E¹⁾, Kawahigashi Y¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Katsuno A¹⁾, Chou K, Kawamoto M, Yamanaka Y¹⁾, Tajiri T¹⁾, Naito Z¹⁾ (Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Improvement of intraoperative frozen section diagnosis in patients with biliary strictures by Levovist injection into the bile duct on color Doppler ultrasonography. World J Surg 2008 ; 32 (1) : 88-92.
- 9) Ishikawa A, Kudo M, Nakazawa N, Onda M, Ishiwata T, Takeshita T¹⁾, Naito Z¹⁾ (Female Reproductive and Developmental Medicine) : Expression of keratinocyte growth factor and its receptor in human endometrial cancer in cooperation with steroid hormones. Int J Oncol 2008 ; 32 (3) : 565-74.
- (2) 症例報告 :
- 1) Mamada Y¹⁾, Yoshida H¹⁾, Tani ai N¹⁾, Bandou K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Akimaru K¹⁾, Tajiri T¹⁾, Naito Z¹⁾ (Department of Surgery) : Major arterioportal shunt caused by hepatocellular carcinoma. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 314-318.
- 2) Sugihara H¹⁾, Shibasaki T²⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Okajima F¹⁾, Wakita S¹⁾, Nakajima Y¹⁾, Tanimura K¹⁾, Tamura H¹⁾, Ishii S¹⁾, Kamegai J¹⁾, Akasu H³⁾, Kitagawa W³⁾, Shimizu K³⁾, Tajiri T³⁾, Naito Z, et al. (1) Department of Medicine, 2) Department of Physiology, 3) Department of Surgery) : A non-acromegalic case of multiple endocrine neoplasia type 1 accompanied by a growth hormone-releasing hormone-producing pancreatic tumor. J Endocrinol Invest 2007 ; 30 (5) : 421-27.
- 3) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Shinji S¹⁾, Yokoi K¹⁾, Oguro T²⁾, Oaki Y²⁾, Ishiwata T, Naito Z, Tajiri T³⁾ (1) Dept. of Surgery, Chiba-Hokuso Hospital, 2) Dept. of Pathology, Chiba-Hokusou Hospital, 3) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Squamous cell carcinoma arising from recurrent anal fistula. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 319-24.
- 4) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 飯田信也¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 日本住血吸虫卵が介在した直腸癌の1例. Gastroenterological Endoscopy 2007 ; 49 (9) : 2504-2510.
- 5) 飯田信也¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横山 正¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 岩崎玲子¹⁾, 野口智子¹⁾, 土屋眞一²⁾, 杉崎祐一²⁾, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), 2) 付属病院病理部) : 高齢者に対する初回化学療法としての経口剤CapecitabineとCyclophosphamideの併用療法 (XC療法) にて臨床的完全奏効 (CR) が得られた転移性乳癌の1例. 癌と化学療法 2007 ; 34 (10) : 1697-1700.
- 6) 坂本静樹¹⁾, 野村浩一¹⁾, 恩田宗彦, 清水 章²⁾, 本間 博³⁾, 清野精彦⁴⁾, 内藤善哉, 田村浩一⁵⁾, 猪口孝一⁶⁾, 福岡長知⁴⁾, 岸田 浩⁴⁾, 駒場祐一¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (1) 内科学 (神経・腎臓), 2) 病理学講座 (解析人体病理学), 3) 生理機能センター, 4) 内科学 (一般・循環器・肝臓), 5) 付属病院病理部, 6) 内科学 (血液・内分泌代謝・消化器)) : 発熱と意識障害が遷延し脳炎様の経過を認めた透析患者の1例. 内科 2007 ; 100 (4) : 729-737.
- (3) 解説 :
- 1) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 椋 清美¹⁾, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院病理部) : 世界の診断病理見聞録 東南アジア (タイ王国・ラオス人民民主共和国) における診断病理. 病理と臨床 2007 ; 25 (6) : 573-579.
- 2) 松原美幸¹⁾, 川本雅司¹⁾, 横山宗伯, 内藤善哉, 渡會泰彦¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (1) 付属病院病理部) : 【粘液性背景を伴う各科領域の腫瘍】 粘液性背景を伴う軟部領域の病変 鑑別診断上の留意点. 日本臨床細胞学会雑誌 2007 ; 46 (5) : 292-296.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 内藤善哉：〔共著〕全般．臨床と病理のための乳腺（土屋眞一，隈崎達夫），2006；医療科学社．
- 1) 内藤善哉：〔共著〕第1章 細胞障害．ルービン病理学（鈴木利光，中村栄男，深山正久，山川光徳，吉野 正），2007；pp2-35，西村書店．
- 2) 内藤善哉：〔共著〕全般．新版 乳腺細胞診カラーアトラス（土屋眞一，北村隆司），2007；医療科学社．

学会発表

〔追加分〕

追加分セミナー：

- 1) 前田昭太郎¹⁾，片山博徳¹⁾，岩瀬裕美¹⁾，細根 勝¹⁾，内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部）：胸腔中皮腫の1例：一体腔液細胞診による中皮腫の確定診断法．第96回日本病理学会総会，2007．3．
- 2) 内藤善哉，石渡俊行，恩田宗彦，内田英二¹⁾，中泉明彦²⁾，前田昭太郎³⁾ ⁽¹⁾ 外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門），²⁾ 大阪府立成人病センター 病理・細胞診断科，³⁾ 多摩永山病院病理部）：病態診断と治療 細胞診 膵臓の細胞診 膵疾患の良悪病態診断と治療との関わり．第96回日本病理学会総会，2007．3．

追加分一般講演：

- 1) Kato S¹⁾，Matsukura N¹⁾，Matsuda N¹⁾，Naito Z，Tajiri T¹⁾ ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation）：Corralation of mRNA gene expressions for cancer related cytokines with histological assessments by Updated Sydney System and serum assessments by Pepsinogen method with/without H. pylori infection in un-operated or resected stomach. 4th International Society of Gastroenterological Carcinogenesis Conference (Honolulu, Hawaii, USA), 2006. 8.
- 2) Makino H¹⁾，Miyashita M¹⁾，Katsuta M¹⁾，Nomura T¹⁾，Hagiwara N¹⁾，Takahashi K¹⁾，Naito Z，Tajiri T¹⁾ ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation）：Over-expression of angiogenesis markers in lower esophageal ADCs and SCCs. 4th International Society of Gastroenterological Carcinogenesis Conference (Honolulu, Hawaii, USA), 2006. 8.
- 3) Katsuta M¹⁾，Miyashita M¹⁾，Makino H¹⁾，Nomura T¹⁾，Shinji S¹⁾，Yamashita K¹⁾，Yamada T，Tajiri T¹⁾ ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation）：Correlation Of Hypoxia Inducible Factor-1 *a* With Lymphatic Metastasis Via Vascular Endothelial Growth Factor-C In Human Esophageal Cancer. 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006. 10.
- 4) Ueda J¹⁾，Yoshida H¹⁾，Mamada Y¹⁾，Taniai N¹⁾，Mizuguchi Y¹⁾，Shimizu T¹⁾，Matsumoto S¹⁾，Kakinuma D¹⁾，Ishikawa Y¹⁾，Kanda T¹⁾，Akimaru K¹⁾，Teranishi N¹⁾，Naito Z，Tajiri T¹⁾ ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation）：Successful Emergency Enterectomy for bleeding Ileal Varices in a Patient with liver Cirrhosis. The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006. 10.
- 5) Matsuda N¹⁾，Kato S¹⁾，Mamada Y¹⁾，Taniai N¹⁾，Yoshida H¹⁾，Akimaru K¹⁾，Matsukura N¹⁾，Naito Z，Tajiri T¹⁾ ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation）：Evaluation of Chemokine mRNA Expression of HCC and its Suitable Treatments. 17th APASL Coference (Kyoto, Japan), 2007. 3.
- 6) 吉野雅則¹⁾，石渡俊行¹⁾，松信哲朗¹⁾，小峯 修¹⁾，水谷 聡¹⁾，塩谷 猛¹⁾，尾形昌男¹⁾，渡辺昌則¹⁾，松本光司²⁾，内藤善哉，徳永 昭¹⁾，田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 武蔵小杉病院病理部，³⁾ 外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門））：食道癌におけるKeratinocyte growth factor receptor (KGFR) の発現

と局在. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006. 3.

- 7) 柳野美希¹⁾, 河合健一¹⁾, 清水昭夫¹⁾, 亀山孝二, 町田 稔²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 創価大学工学部, ²⁾ 国立がんセンター がん予防・検診研究センター): 各pH条件下におけるウシIV型コラーゲンの変性の特徴. 日本生物物理学会第44回年会, 2006. 11.
- 8) 渡辺昌則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 石渡俊行, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 内藤善哉, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院 消化器病センター, ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 消化管癌の tumorigenesis における keratinocyte growth factor receptor (KGFR) とその ligands の役割. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 3.

(1) ワークショップ:

- 1) Naito Z: Gastric Stromal Tumors. The Third APSMI Annual Scientific Meeting (Singapore), 2007. 5.
- 2) 加藤俊二¹⁾, 内藤善哉, 松倉則夫¹⁾, 菅野 仁¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 奥田武志¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 残胃およびESD後の胃癌再発生高危険粘膜の特徴と術後の適切な内視鏡観察への臨床応用. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.

(2) 一般講演:

- 1) Naito Z: Availability of Cytological Diagnosis in Pancreatic disease. 5th Asia Pacific International Academy of Pathology Congress (Singapore), 2007. 5.
- 2) Naito Z, Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Ono Y, Onda M, Tuchiya S²⁾ ⁽¹⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Division of Pathology): Cytopathological findings of breast carcinoma with metaplasia, matrix producing carcinoma. 16th International Congress of Cytology (Vancouver, Canada), 2007. 5.
- 3) Katayama H¹⁾, Maeda S¹⁾, Naito Z ⁽¹⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital): Basic Examination of HER2 Gene in Breast Carcinoma by Chromogenic In Situ Hybridization: Application to fine-needle aspiration (FNA) cytology specimens. 16th International Congress of Cytology (Vancouver, Canada), 2007. 5.
- 4) Maeda S¹⁾, Hosone M¹⁾, Katayama H¹⁾, Naito Z ⁽¹⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital): How to make a definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology: The utility of cell transfer and cell block methods for immunocytochemical staining. 16th International Congress of Cytology (Vancouver, Canada), 2007. 5.
- 5) Ishiwata T, Uchida E¹⁾, Aimoto T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Katsuno A¹⁾, Kawamoto M, Nakazawa N, Naito Z, Tajiri T¹⁾ ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Keratinocyte Growth Factor and its receptor Correlate with venous invasion via Matrix Metalloproteinase-9 (MMP-9) in Pancreatic Cancer. 38th Annual Meeting of the American Pancreatic Association (Chicago, Illinois, USA), 2007. 11.
- 6) Kawamoto M, Tajiri T¹⁾, Ishiwata T, Uchida E¹⁾, Aimoto T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Matsushita A¹⁾, Katsuno A¹⁾, Cho K, Ono Y, Yamamoto T, Matsuda Y, Naito Z ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Expression of Nestin in pancreatic cancer Correlates with invasive ability. 38th Annual Meeting of the American Pancreatic Association (Chicago, Illinois, USA), 2007. 11.
- 7) Yamamoto T, Ishiwata T, Cho K, Kawahara K, Fujii T, Ono Y, Matsuda Y, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾, Naito Z ⁽¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Different Glycosylation patterns of lumican correlate with invasion and prognosis in pancreatic cancer. 38th Annual Meeting of the American Pancreatic Association (Chicago, Illinois, USA), 2007. 11.
- 8) Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Saito M¹⁾, Naito Z ⁽¹⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital): Silent time-bomb, mesothelioma. The 14th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Rai,

- Thailand), 2008. 1.
- 9) Naito Z, Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Motoda N, Ono Y, Onda M, Tsuchiya S²⁾ (¹⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Division of Pathology) : Availability of cytological diagnoses in pancreatic diseases. The 14th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Rai, Thailand), 2008. 1.
 - 10) Miki I¹⁾, Ishiguro M¹⁾, Ono Y, Motoda N, Matsubara M²⁾, Tsuchiya S²⁾, Maeda S³⁾, Naito Z (¹⁾ NMS 5th year, ²⁾ Division of Pathology, ³⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital) : Invasive carcinoma with neuroendocrine features of the breast : Two case reports with Fine Needle Aspiration Cytology. The 14th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Rai, Thailand), 2008. 1.
 - 11) Ishiguro M¹⁾, Miki I¹⁾, Ono Y, Matsubara M, Kawase R²⁾, Tsuchiya S²⁾, Naito Z (¹⁾ NMS 5th year, ²⁾ Division of Pathology) : Cytologic diagnosis of Cervical papillary squamous cell carcinoma : Case report. The 14th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Rai, Thailand), 2008. 1.
 - 12) Motoda N, Onda M, Ono-Fujiwara Y, Maeda S¹⁾, Tsuchiya S²⁾, Naito Z (¹⁾ Dept. of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, ²⁾ Division of Pathology) : A small ampullary carcinoma in adenoma associated with tumor-forming pancreatitis occasionally detected by bile juice cytology : case report. The 14th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Rai, Thailand), 2008. 1.
 - 13) 箱崎謙太¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 内藤善哉, 田島廣之¹⁾, 高浜克也¹⁾ (¹⁾ 放射線科) : 消化管癌の tumorigenesis における keratinocyte growth factor receptor (KGFR) とその ligands の役割. 第65回日本医学放射線学会総会, 2007. 4.
 - 14) 瀬谷知子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻 孝³⁾, 山下精彦³⁾, 内藤善哉, 石渡俊行 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 千葉北総病院病理部, ³⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 大腸癌肝転移症例における EMMPRIN, MMP-9, Type IV collagen の発現. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
 - 15) 寺西宣央¹⁾, 内藤善哉, 石渡俊行, 田中宣威²⁾, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一¹⁾, 張 一光¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾, その他1名 (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾ 千葉北総病院外科) : 大腸癌組織における nestin 陽性微小血管の意義と予後との関連. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
 - 16) 進士誠一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 寺西宣央²⁾, 小黒辰夫³⁾, 大秋美治³⁾, 川原清子, 工藤光洋, 中澤南堂, 石渡俊行, 内藤善哉, 田尻 孝²⁾, その他3名 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ³⁾ 千葉北総病院病理部) : 直腸悪性黒色腫における c-kit の関与. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
 - 17) 石川温子, 石渡俊行, 米山剛一¹⁾, 土居大祐¹⁾, 川瀬里衣子, 内藤善哉, 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 女性診療科・産科) : 子宮内膜癌における KGF (Keratinocyte growth factor) および KGF receptor (KGFR) の発現とその役割. 第59回 日本産科婦人科学会総会, 2007. 4.
 - 18) 金丸拓也¹⁾, 松本智司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 重原健吾¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 古川清憲¹⁾, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : sm 浸潤癌の様相を呈した直腸 serrated adenoma の1例. 第74回日本消化器内視鏡学会, 2007. 5.
 - 19) 張 一光, 石渡俊行, 中澤南堂, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 川本聖郎, 藤原ゆり, 川原清子, 鈴木妙子, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 膀胱癌の静脈侵襲における KGF, KGF receptor (KGFR) と VEGF の関与. 第38回日本膀胱学会, 2007. 6.
 - 20) 川本聖郎, 石渡俊行, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 張 一光, 山本哲志, 藤井雄文, 手塚 潔, 河本陽子, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 膀胱癌

における nestin の発現とその意義. 第38回日本腫瘍学会, 2007. 6.

- 21) 柳田裕美¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 内藤善哉, 横山宗伯⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部): 乳房内結節性筋膜炎の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2007. 6.
- 22) 中村祐司¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 斎藤良明¹⁾, 大塚俊司¹⁾, 大庭孝男¹⁾, 細根 勝²⁾, 劉 愛民²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院病理部): 捺印細胞診併用により術中に推定診断し得た小腸原発T細胞性リンパ腫の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2007. 6.
- 23) 磯部宏昭¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 鈴木美紀¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部): 腫術中迅速細胞診2ポイント採取法. 第48回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2007. 6.
- 24) 恩田宗彦, 内藤善哉, 土屋眞一¹⁾, 釜口晴美¹⁾, 藤原ゆり, 田村浩一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院病理部): 胆汁細胞診が診断に有用であった Vater 乳頭部の微小腺腫内癌の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2007. 6.
- 25) 渡會泰彦¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 清水一雄²⁾, 高橋恵理佳²⁾, 横山宗伯³⁾, 内藤善哉, 村瀬幸宏¹⁾, 田村浩一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 内分泌外科, ³⁾ 東京警察病院): ベラルーシ共和国における甲状腺癌検診報告チェルノブイリ原発事故に関連して. 第48回日本臨床細胞学会総会春期大会, 2007. 6.
- 26) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 横山 正²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院外科): 乳癌細胞診標本を用いた CISH 法及び FISH 法による HER2 遺伝子検出の基礎的検討. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 27) 岩瀬裕美¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 横山 正²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院外科): 穿刺吸引細胞診材料から細胞転写法を用いた ER, PgR, Her2 蛋白検出の検討. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 28) 柳田裕美¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 横山 正²⁾, 古川清憲³⁾, 田尻 孝³⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院外科, ³⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 穿刺吸引細胞診で診断し得た乳房内結節性筋膜炎の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 29) 渡辺昌則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 石渡俊行, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 臓器病態制御外科): 消化管癌における Keratinocyte growth factor (KGF) と receptor の役割. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 30) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 川端伊久乃²⁾, 中井章人²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院 病理部, ²⁾ 多摩永山病院 女性診療科): 回腸漿膜表面に発生した高分化型乳頭状中皮腫 (WDPM) の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 31) 鈴木美紀¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 横山 正²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院外科): アポクリン癌を合併した悪性葉状腫瘍の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 32) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 川野記代子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 新 博次²⁾, 谷村繁雄³⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院内科, ³⁾ 多摩永山病院呼吸器外科): 中皮腫の細胞診 体腔液細胞診による中皮腫の確定診断方法を中心に. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 33) 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 劉 愛民¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部): 細胞診材料を用いて電顕的検索を行った中皮腫の2症例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 34) 磯部宏昭¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 宮本昌之²⁾, 横山 正²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 多摩永山病院外科): 腫術中迅速細胞診2ポイント採取法. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

- 35) 岩瀬裕美¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 川野記代子¹⁾, 横山 正²⁾, 内藤善哉^{(1) 多摩永山病院病理部, (2) 多摩永山病院外科)}: 乳腺穿刺吸引細胞材料におけるER, PgR, Her2蛋白検出 細胞転写法による検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 36) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 横山 正²⁾, 内藤善哉^{(1) 多摩永山病院病理部, (2) 多摩永山病院外科)}: 乳癌穿刺吸引細胞診標本を用いたHER2遺伝子の検出 CISH法とFISH法の比較検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 37) 松田陽子^{1,2)}, 山川けいこ²⁾, 竿尾光祐²⁾, 横平政直²⁾, 細川京子²⁾, 久野壽也²⁾, 内藤善哉¹⁾, 今井田克己²⁾^{(1) 日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学), (2) 香川大学医学部病理病態学・生体防御医学講座腫瘍病理学)}: Short-Term Effect of Various Chemicals on NNK-Induced Lung Tumorigenesis in A/J Female Mice. 66th Annual meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 38) 町田 稔¹⁾, 亀山孝二, 清水昭夫²⁾, 森山紀之¹⁾, 内藤善哉^{(1) 国立がんセンター がん予防・検診研究センター, (2) 創価大学工学部)}: 間質制御のためのIV型コラーゲンの構造変化とヘマトポルフィリンの協同現象の解析. 第48回日本脈管学会総会, 2007. 10.
- 39) 亀山孝二, 町田 稔¹⁾, 清水昭夫²⁾, 手塚 潔, 恩田宗彦, 内藤善哉^{(1) 国立がんセンター がん予防・検診研究センター, (2) 創価大学工学部)}: 酸性可溶性IV型コラーゲンの自己会合モデルを用いた分光および電気化学的測定法による検討. 第48回日本脈管学会総会, 2007. 10.
- 40) 工藤光洋, 石渡俊行, 石川温子, 山本哲志, 松田陽子, 小野ゆり, 恩田宗彦, 内藤善哉: Keratinocyte Growth Factor-Transfection-Stimulated Adhesion of Colorectal Cancer Cells to Extracellular Matrices. 66th Annual meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 41) 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 松田範子¹⁾, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾^{(1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)}: H. pylori eradication in resected stomach ; Improvements of gastric juice acidity, atrophic & intestinal metaplastic change. 66th Annual meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 42) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 二見良平¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 内藤善哉, ガブリエルソンエドワード²⁾, 田尻 孝¹⁾^{(1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), (2) Johns Hopkins Univ.)}: von Hippel Lindau (VHL) gene product expression in esophageal squamous cell carcinoma. 66th Annual meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 43) 川本聖郎¹⁾, 石渡俊行, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 張 一光¹⁾, 小野ゆり, 山本哲志, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾^{(1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)}: Expression of nestin in pancreatic cancer correlates with nerve and stromal invasion. 66th Annual meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 44) 張 一光¹⁾, 石渡俊行, 中澤南堂, 工藤光洋, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 川本聖郎, 山本哲志, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾^{(1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)}: Keratinocyte growth factor and its receptor correlates with venous invasion via MMP-9 in pancreatic cancer. 66th Annual meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 45) 石川温子, 石渡俊行, 工藤光洋, 米山剛一¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 内藤善哉^(1) 女性診療科): Role of KGF (Keratinocyte growth factor) on cell behavior in endometrial cancer in association with steroid hormones. 66th Annual meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 46) 大塚俊司¹⁾, 中村祐司¹⁾, 前本直子¹⁾, 斉藤良明¹⁾, 松原美幸²⁾, 柳本邦雄¹⁾, 石井英昭¹⁾, ガジザデモハマツト³⁾, 内藤善哉, 土屋眞一²⁾^{(1) 武蔵小杉病院病理部, (2) 付属病院病理部, (3) 中央電子顕微鏡研究施設)}: 穿刺吸引細胞診が有用であった破骨細胞様巨細胞を伴った乳癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
- 47) 渡會泰彦¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 川本雅司¹⁾, 原田 大¹⁾, 内藤善哉, 松原美幸¹⁾^(1) 付属病院病理部): 乳腺印環細胞

癌の検討. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.

- 48) 松原美幸¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 川本雅司¹⁾, 原田 大¹⁾, 渡會泰彦¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 付属病院病理部): 針生検および生検・手術標本からみた乳腺細胞診「鑑別困難」の検討. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
 - 49) 葉山綾子¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 佐藤春明¹⁾, 松原美幸¹⁾, 川本雅司¹⁾, 原田 大¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 付属病院病理部): Collagenous spherulosisの細胞像. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
 - 50) 齊藤良明¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 中村祐司¹⁾, 前本直子¹⁾, 大庭孝男¹⁾, 大塚俊司¹⁾, 深見武彦²⁾, 土居大祐³⁾, 石井英昭¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 武蔵小杉病院女性診療科・産科, ³⁾ 付属病院女性診療科): 術中捺印細胞診が有用であった卵巣移行上皮癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
 - 51) 土屋眞一¹⁾, 川本雅司¹⁾, 原田 大¹⁾, 松原美幸¹⁾, 渡會泰彦¹⁾, 林由美子²⁾, 高橋善和²⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 日本細胞病理ラボラトリー): 乳腺疾患における細胞診と針生検 その展望と限界 乳腺細胞診と針生検の精度と問題点. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
 - 52) 柳野美希¹⁾, 河合健一¹⁾, 亀山孝二, 町田 稔²⁾, 内藤善哉, 清水昭夫¹⁾ (¹⁾ 創価大学工学部, ²⁾ 国立がんセンター がん予防・検診研究センター): コラーゲン Type IV と HP の相互作用 The interaction of collagen type IV and HP. 日本生物物理学会第45回年会, 2007. 12.
 - 53) 河合健一¹⁾, 柳野美希¹⁾, 亀山孝二, 町田 稔²⁾, 内藤善哉, 清水昭夫¹⁾ (¹⁾ 創価大学工学部, ²⁾ 国立がんセンター がん予防・検診研究センター): コラーゲン Type IV の凝集体に対する HP の影響 Influence of HP to the aggregation of collagen type IV. 日本生物物理学会第45回年会, 2007. 12.
 - 54) 山本哲志, 石渡俊行, 川原清子, 手塚 潔, 藤井雄文, 小野ゆり, 松田陽子, 恩田宗彦, 内藤善哉: 膵臓癌の増殖・浸潤における lumican の機能解析. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- (3) サージカル・フォーラム:
- 1) 張 一光, 石渡俊行, 中澤南堂, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 川本聖郎, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 膵臓癌における血行性転移の新たな治療戦略 keratinocyte growth factor (KGF) /KGF receptor (KGFR) pathway の役割の解析と制御. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.

10. 微生物学・免疫学講座

研究概要

当微生物学・免疫学講座では生体防御システムの解明ならびにその制御を主目的とし感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などに関連した研究を展開し将来の医学への応用をめざしている。

感染症学および感染免疫学： [A] HIVに対する免疫応答の検討と感染伝播機構の解明 (1) HIVのCTLエピトープの抗原決定の鍵を握るアミノ酸を、従来のL型アミノ酸からD型アミノ酸に置換した場合のD型アミノ酸のみを特異的に認識応答するCTLクローンを樹立することができた。そのT細胞レセプターはCDR3領域よりもCDR1領域を用いて抗原を認識することを見出した。(2) HIV等のウイルスが細胞に持続感染するためには、コレステロール合成に関与する細胞内酵素であるEnoyl Co A hydratase ECHSが必須であることを見いだした。(3) HARRT療法によって血液中のHIV量が検出感度以下になった状況でも腸管などの粘膜組織内に棲息するCD4陽性の樹状細胞やNKT細胞内においてHIVが増殖複製し、感染の温床は断たれていないことを見いだした。HIV感染を制圧するためには粘膜内におけるこれらHIV感染細胞群の制圧が重要である。

腫瘍免疫学： [B] 粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導 (1) 腫瘍抗原を粘膜アジュバントであるコレラ毒素とともに経口投与すると、全身免疫のみならず粘膜内に強い腫瘍特異的CTLが誘導された。またこの粘膜を介して誘導された免疫は、遠隔地である皮膚表面に腫瘍の増殖を抑制するためにも重要であることを見いだした。(2) また膀胱内にBCGを注入することにより膀胱癌の再発が優位に抑制されることを確認し、それにはBCGによって活性化された γ δ 型T細胞やNKT細胞の存在が抗腫瘍作用を発揮することが認められた。(3) 腫瘍発生の誘因として粘膜や皮膚あるいは全身の循環系に局在する樹状細胞群 (DEC205, 33D1という2種類の抗体によって識別される) のバランスが重要であることを見いだした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakagawa Y, Kikuchi H¹, Takahashi H (¹ Department of Physics, Nippon Medical School) : Molecular analysis of TCR and peptide/MHC interaction using P18-I10-derived peptides with a single D-amino acid substitution. *Biophysical J* 2007 ; 92 (7) : 2570-2582.
- 2) Takahashi M, Watari E, Shinya E, Shimizu T¹, Takahashi H (¹ Department of Environmental Medicine, Nippon Medical School) : Suppression of virus replication via down-modulation of mitochondrial short chain enoyl-CoA hydratase in human glioblastoma cells. *Antiviral Res* 2007 ; 75 : 152-158.
- 3) Ambrosino E¹, Terabe M¹, Hajder CR², Peng J¹, Takaku S, Miyake S³, Yamamura T³, Kumar V², Berzofsky AJ¹ (¹ National Cancer Institute, Bethesda, ² Torrey Pines Institute for Molecular Studies, San Diego, ³ National Institute of Neuroscience, Tokyo) : Cross-regulation between type I and type II NKT cells in regulating tumor immunity : a new immunoregulatory axis. *J Immunol* 2007 ; 179 (10) : 5126-5136.
- 4) Wakabayashi A, Nakagawa Y, Shimizu M, Moriya K, Nishiyama Y, Takahashi H : Suppression of an already established tumor growing through activated mucosal CTLs induced by oral administration of tumor antigen with cholera toxin. *J Immunol* 2008 ; 180 (6) : 4000-4010.

(2) 総説：

- 1) 高橋秀実：母乳を介したエイズウイルスの感染伝播. *日本エイズ学会誌* 2007 ; 9 (1) : 11-16.
- 2) 新谷英滋, 高橋秀実：樹状細胞の機能とHIV-1 Nef. *臨床免疫・アレルギー科* 2007 ; 48 (6) : 623-629.

- 3) 高橋秀実：感染症に対する温病治療-SARSは攻略できるか. 中医臨床 2007；28（3）：374-379.
 - 4) 高橋秀実：ワクチンによる特異的免疫機能の誘導：ヒトにおける抗原特異的免疫機構. 治療学 2007；41（10）：1041-1045.
 - 5) 高橋秀実： γ δ T細胞とリウマチ様関節炎. リウマチ科 2007；38（6）：565-570.
 - 6) 山西慎吾, 神谷 茂¹⁾, 高橋秀実（¹⁾ 杏林大学医学部感染症学）：ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性. 日本ヘリコバクター学会誌 2007；8（2）：22-26.
 - 7) 高橋めぐみ, 高橋秀実：遊離抗原によるCD8⁺T細胞のアポトーシス誘導. 臨床免疫・アレルギー科 2008；49（2）：233-238.
 - 8) 若林あや子, 高橋秀実：感染症と栄養・機能性食品. 機能性食品と薬理栄養 2008；4（6）：373-380.
 - 9) 高橋秀実：HIV感染伝播における母乳中細胞の役割. 血液フロンティア 2008；18（3）.
 - 10) 高橋秀実：免疫応答とエネルギーのめぐり. 癒しの環境 2008；13：1-5.
- (3) 研究報告書：
- 1) 高橋秀実, 中川洋子：エピトープと遺精を決定するD型アミノ酸とL型アミノ酸のCTL-TCRによる判別. 厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）分担研究報告書 2007；5-10.
 - 2) 高橋秀実：粘膜免疫賦活によるエイズウイルスの制御：活性型CTLの粘膜誘導とその作用. 平成19年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策研究事業 HIVの感染予防に関する研究 総括・分担研究報告書 2008；79-84.
 - 3) 高橋秀実：粘膜組織におけるHIV-1感染CD4陽性樹状細胞：CD1a分子拘束性T細胞からのエスケープ. 厚生労働科学研究費補助金 社会保障国際協力推進研究事業 HIV感染症における免疫応答の解析とその臨床応用に関する研究 平成19年度総括・分担報告書 2008；19-24.

著 書

- 1) 高橋秀実, 岩本愛吉¹⁾, 神谷 茂²⁾, 林 英生³⁾（¹⁾ 東大医科研感染症分野, ²⁾ 杏林大学医学部感染症学, ³⁾ 中国学園大学）：〔共著〕ブラック微生物学（第2版）（監修），2007；pp1-911, 丸善出版.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：免疫学的な視点から見たSARSに対する温病学的治療の意義. 第5回日本中医学交流会大会, 2007. 8.
- 2) 高橋秀実：自然免疫システムと疾病：慢性関節リウマチに対する新たなアプローチ. 第7回小児感染免疫研究会, 2008. 2.
- 3) 若林あや子：粘膜免疫賦活による抗腫瘍免疫の誘導. 第18回千駄木感染免疫アレルギー研究会, 2008. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 高橋秀実：温病における舌診の意義. 第5回日本中医学交流会大会, 2007. 8.
- 2) 高橋秀実：HIV感染と免疫応答. 第21回日本エイズ学会学術集会, 2007. 11.

(3) ワークショップ：

- 1) Wakabayashi A, Kumagai Y, Watari E, Shimizu M, Utsuyama¹⁾, Hirokawa¹⁾, Takahashi H（¹⁾ Department of Pathology and Immunology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University）：Effect of gastrointestinal ingestion of orally administered macromolecular antigens on the induction of oral tolerance. 13th International Congress of Mucosal Immunology（Tokyo）, 2007. 7.
- 2) Takahashi H：Cellular HIV dissemination and expansion at the mucosal compartment. Japan-US Cooperative Medical Science Program：The 20th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels（Monterey, California, USA）, 2007. 9.

(4) 一般講演：

- 1) 樋口智江, 清水真澄, 真弓暢子, 野呂瀬嘉彦, 高橋秀実：Study on a possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 2) 竹内穂高, 高橋めぐみ, 小林史子, 稲垣慎一郎, 中川洋子, 熊谷善博, 高橋秀実：Characterization of virus-producing breast milk monocytes transformed with HTLV-1. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 3) 新谷英滋, 大脇敦子, 清水真澄, 渡邊恵理, 松村次郎, 根岸靖幸, 高久千鶴乃, 高橋秀実：Down-regulation of CD1 lipid/glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 4) 高橋秀実, 齋藤尚紀¹⁾, 清水真澄, 大脇敦子, 渡邊恵理, 高橋めぐみ, 近江恭子, 高久千鶴乃, 新谷英滋^{(1) 京大ウイルス研・霊長類モデル研究領域}：Cross-reactive cytotoxicity of CD1d-NKT cell system between primates and rodents. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 5) 守屋慶一, 若林あや子, 清水真澄, 渡邊恵理, 高久 俊, 檀 和夫¹⁾, 高橋秀実^{(1) 病態制御腫瘍内科学}：Effects of 33D1⁺ or DEC-205⁺ dendritic cell depletion on cytokine secretion and tumor growing in mice. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 6) 山西慎吾, 神谷 茂¹⁾, 高橋秀実^{(1) 杏林大学医学部感染症学}：ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性. 第13回日本ヘリコバクター学会, 2007. 6.
- 7) 廣田 薫¹⁾, 高久 俊, 日高千鶴乃, 古賀実芳¹⁾, 平間直樹¹⁾, 高橋秀実^{(1) 日本医大東洋医学科}：高CPK血症を伴い温裏剤と桃核承気湯の併用により著明な改善を示した冷え性の1例. 第58回日本東洋医学会学術総会, 2007. 6.
- 8) 高橋秀実¹⁾, 廣田 薫, 日高千鶴乃, 高久 俊, 真弓暢子, 古賀実芳¹⁾, 平馬直樹¹⁾^{(1) 日本医大東洋医学科}：アレルギー疾患に関する解表剤の有効性. 第58回日本東洋医学会学術総会, 2007. 6.
- 9) 日高千鶴乃, 廣田 薫¹⁾, 高久 俊, 古賀実芳¹⁾, 平馬直樹¹⁾, 高橋秀実^{(1) 日本医大東洋医学科}：未治療の多発性硬化症に対する湯液治療の1例. 第58回日本東洋医学会学術総会, 2007. 6.
- 10) 高橋めぐみ, 渡理英二, 清水真澄, 新谷英滋, 高橋秀実：麻疹ウイルス変異株の持続感染に関与する宿主因子・その3. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 2007. 10.
- 11) 渡理英二, 高橋めぐみ, 渡邊恵理, 大脇敦子, 新谷英滋, 高橋秀実：樹状細胞およびランゲルハンス細胞サブセットの麻疹ウイルスの感受性とサイトカイン産生能. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 2007. 10.
- 12) 新谷英滋, 大脇敦子, 清水真澄, 渡邊恵理, 高久千鶴乃, 高橋秀実：Analysis of the down-regulation of CD1-mediated lipid /glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 第21回日本エイズ学会学術集会, 2007. 11.
- 13) 高久千鶴乃, 渡邊恵理, 大脇敦子, 清水真澄, 松村次郎, 高久 俊, 渡理英二, 新谷英滋, 高橋秀実：CD4陽性NKT細胞とHIV-1による感染拡大への相互作用. 第21回日本エイズ学会学術集会, 2007. 11.
- 14) 松村次郎, 清水真澄, 高久千鶴乃, 近江恭子, 吉田岳市¹⁾, 秋山純一¹⁾, 新谷英滋, 岡 慎一¹⁾, 高橋秀実^{(1) 国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター}：HIV患者の腸管粘膜組織における感染細胞の探索. 第21回日本エイズ学会学術集会, 2007. 11.
- 15) 熊谷善博, 高橋秀実：Analysis of the interaction between HIV-1-gp120 V3 region and β -chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at the immunoglobulin hyper-variable regions. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 16) 野呂瀬嘉彦, 渡邊里奈¹⁾, 藤田昌久²⁾^{(1) 日本医大付属病院看護部, 2) 日本医大付属病院医療安全管理部}：速乾性擦式消毒剤による手指消毒後の質の評価 . 第23回日本環境感染学会総会, 2008. 2.
- 17) 大國寿士¹⁾, 留目優子¹⁾, 高橋秀実, 長宗秀明²⁾^{(1) メディカジャパンラボ, 2) 徳島大学薬学部}：Streptococcus mitis 由来ヒト血小板凝集因子 (Sm-hPAF) に関する研究. 第81回日本細菌学会総会, 2008. 3.

11. 衛生学・公衆衛生学講座

研究概要

衛生学・公衆衛生学領域あるいは環境医学領域から、社会医学に寄与する研究テーマを選んで、調査研究をすすめている。ラボとフィールドの両面から、「人」を最終的な対象とした予防医学研究を志向した内容である。

教室の共通研究テーマとして、環境アメニティーの改善にともなう免疫能の高まりを、「森林浴」をキーワードとして継続的に検討している。H19年度は看護師を対象に実施した。その他、研究分担者として、学外との共同研究もすすめている。

長期的な視点で「研究」をすすめるためには、積極的に外部研究資金を獲得しなければならない。各スタッフが獲得できるように努力していきたい。

各スタッフの主な研究内容を以下に示す。

- ・携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究（平成19年度科学研究費補助金基盤研究（C））、タバコ依存度質問紙調査法の心理測定上の特性（喫煙科学研究財団研究助成）（川田智之）
- ・シアン解毒酵素であるメルカプトピルビン酸硫黄転移酵素の構造と機能の研究（永原則之）
- ・肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察（平成19年度科学研究費補助金基盤研究（C））（若山葉子）
- ・免疫系酵素グランザイム3に対するモノクローナル抗体の作製（稲垣弘文）
- ・森林浴の健康に及ぼす影響に関する研究、有機リン農薬による免疫毒性の新機序（平成19年度科学研究費補助金基盤研究（C））（李卿）
- ・コチニンを指標にした喫煙のバイオロジカルモニタリングと、地域における禁煙介入研究（勝又聖夫）
- ・生体の免疫系におけるグランザイム3の役割（検出方法と基質特異性の検討）（平田幸代）
- ・鉛中毒で活性が低下するポルフォビリノーゲン合成酵素の活性化機序に関する研究（澤田典里）
- ・環境要因による呼吸器疾患の発症・増悪リスク、および環境被害で観察される呼吸器障害の個体差（李英姫）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawada T, Morihashi M, Ueda H, Shirato T : Body mass index of 23 or more is an independent risk factor for hypertension and/or hyperlipidemia in Japanese manufacturing workers. *Percept Motor Skills* 2007 ; 104 (3) : 733-738.
- 2) Li Q, Morimoto K¹⁾, Nakadai A, Inagaki H, Katsumata M, Shimizu T, Hirata Y, Hirata K, Suzuki H, Miyazaki Y²⁾, Kagawa T²⁾, Koyama Y³⁾, Ohira T²⁾, Takayama N²⁾, Krensky MA⁴⁾, et al. ¹⁾ Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, ²⁾ Forestry and Forest Products Research Institute, ³⁾ Nagano Prefecture Forest Research Center, ⁴⁾ Stanford University School of Medicine) : Forest bathing enhances human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2007 ; 20 (S2) : 3-8.
- 3) Li Y, Kawada T, Matsumoto A¹⁾, Azuma A¹⁾, Kudoh S¹⁾, Takizawa H²⁾, Sugawara I³⁾ ¹⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, ²⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, ³⁾ Department of Molecular Pathology, The Research Institute of Tuberculosis) : Airway inflammatory responses to oxidative stress induced by low-dose diesel exhaust particle exposure differ between mouse strains. *Exp Lung Res* 2007 ; 33 (5) : 227-244.

- 4) Kawada T, Morihashi M, Ueda H, Shirato T : Neutrophil cell count is related to hypertension in workers : a cross-sectional study. *Vascular Disease Prevention* 2007 ; 4 (3) : 225-228.
- 5) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Organophosphorus pesticides induce apoptosis in human NK cells. *Toxicology* 2007 ; 239 (1-2) : 89-95.
- 6) Otsuka T, Kawada T, Katsumata M, Ibuki C¹⁾, Kusama Y²⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Independent determinants of second derivative of the finger photoplethysmogram among various cardiovascular risk factors in middle-aged men. *Hypertension Research* 2007 ; 30 (12) : 1211-1218.
- 7) Kawada T, Otsuka T, Katsumata M, Suzuki H : Serum Uric Acid is significantly related to the components of the Metabolic Syndrome in Japanese workingmen. *J Cardiometabolic Syndrome* 2007 ; 2 (3) : 158-162.
- 8) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : DDVP markedly decreases the expression of granzyme B and granzyme 3/K in human NK cells. *Toxicology* 2008 ; 243 (3) : 294-302.
- 9) Li Q, Morimoto K¹⁾, Kobayashi M, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Hirata K, Suzuki H, Li Y, Wakayama Y, Kawada T, Park B²⁾, Ohira T²⁾, Matsui N²⁾, Kagawa T²⁾, et al. (¹⁾ Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, ²⁾ Forestry and Forest Products Research Institute) : Visiting a forest, but not a city, increases human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2008 ; 21 (1) : 117-127.
- 10) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Relationships between percentage of forest coverage and standardized mortality ratios (SMR) of cancers in all prefectures in Japan. *The Open Public Health Journal* 2008 ; 1 (1) : 1-7.
- 11) Li Q, Morimoto K¹⁾, Kobayashi M, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Hirata K, Shimizu T, Li Y, Wakayama Y, Kawada T, Ohira T²⁾, Takayama N²⁾, Kagawa T²⁾, Miyazaki Y³⁾ (¹⁾ Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, ²⁾ Forestry and Forest Products Research Institute, ³⁾ Chiba University) : A forest bathing trip increases human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins in female subjects. *J Biol Regul Homeost Agents* 2008 ; 22 (1) : 45-55.
- 12) Li Y, Kawada T, Takizawa H¹⁾, Azuma A²⁾, Kudoh S²⁾, Sugawara I³⁾, Yamauchi Y⁴⁾, Kohyama T⁴⁾ (¹⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, ²⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Molecular Pathology, The Research Institute of Tuberculosis, ⁴⁾ Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, School of Medicine) : Airway inflammatory responses to oxidative stress induced by prolonged low-dose diesel exhaust particle exposure from birth differ between mouse BALB/c and C57BL/6 strains. *Exp Lung Res* 2008 ; 34 (3) : 125-139.
- 13) 大塚俊昭, 川田智之, 北川裕子¹⁾, 伊藤ヨシ子¹⁾, 赤尾ますみ¹⁾, 斉藤 暁¹⁾, 加藤貴雄²⁾ (¹⁾ キャノン株式会社 社外向事業所 健康管理室, ²⁾ 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 「動悸」を訴える社員の対策 : 電話伝送携帯型心電計を利用した健康管理の試み. *産業衛生学雑誌* 2008 ; 50 (1) : 1-3.
- 14) 宗像 亮¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 大塚俊昭²⁾, 石井健輔¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 上村竜太¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新博次¹⁾, 水野杏一³⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器科, ²⁾ 日本医科大学 衛生学公衆衛生学講座, ³⁾ 日本医科大学 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 冠動脈ペアメタルステント留置術後の再狭窄に関する検討 : 血管内超音波の有用性. *日本心臓病学会誌* 2008 ; 1 (1) : 24-30.

(2) 総説：

- 1) Li Q : New mechanism of organophosphorus pesticide-induced immunotoxicity. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (2) : 92-105.
- 2) 李 卿 : 森林セラピーによる免疫能の向上. 農林水産技術研究ジャーナル 2007 ; 30 (7) : 34-39.

(3) 研究報告書：

- 1) 滝澤 始¹⁾, 工藤翔二²⁾, 吾妻安良太²⁾, 李 英姫, 菅原 勇³⁾, 幸山 正⁴⁾, 山内康宏⁴⁾ (¹⁾ 帝京大学第四内科, ²⁾ 呼吸器感染腫瘍内科, ³⁾ 結核研究所レファレンスセンター, ⁴⁾ 東京大学呼吸器内科) : 気管支ぜん息の発症リスク低減に関わる因子の検索と管理・指導への応用に関する調査研究報告書 2007年度 (第7期2年度). 2008.

著 書

- 1) Nagahara N : [分担] Molecular evolution of thioredoxin-dependent redox-sensing switch in mercaptopyruvate sulfurtransferase. Research Advances in Biological Chemistry (Mohan RM, ed), 2007 ; pp19-26, Global Research Network.
- 2) 川田智之 : [分担] 産業保健. シンプル衛生公衆衛生学2008 (鈴木庄亮・久道 茂監修, 小山 洋・辻 一郎編集), 2008 ; pp267-277, 南江堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Li Q, Kawada T : A forest bathing trip increases human natural killer activity and expression of anti-cancer proteins : Comparison with a trip to places without forest (Life Science). Bioeco2007 (Tianjin, China), 2007. 6.
- 2) 李 卿 : 森林浴による生体免疫機能への影響 (日本・韓国ならびに世界の森林浴研究動向). 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.

(2) 一般講演：

- 1) Li Y, Matsumoto A¹⁾, Takizawa H²⁾, Azuma A¹⁾, Kawada T, Sugawara I³⁾, Kudoh S¹⁾ (¹⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, ²⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, ³⁾ Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis) : Mouse Strain Differences in Airway Inflammatory Responses Caused by Long-Time Low-Dose Diesel Exhaust Exposure. 2007 ATS International Conference (San Francisco), 2007. 5.
- 2) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Organophosphorus pesticides induce apoptosis in human NK cells. XIth International Congress of Toxicology (Montreal, Canada), 2007. 7.
- 3) Sawada N, Nagahara N, Arisaka F¹⁾, Endo Y²⁾, Nakajima Y²⁾, Minami M, Kawada T (¹⁾ Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology, ²⁾ Clinical Research Center on Occupational Poisoning, Tokyo Rosai Hospital) : Histidine¹³¹ is essential for metal- and redox-regulated activation of human porphobilinogen synthase. 13th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (Vienna, Austria), 2007. 7.
- 4) Nagahara N, Sawada N, Arisaka F¹⁾, Mitsuoka K²⁾, Minami M (¹⁾ Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology, ²⁾ National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) : Zinc ion-and redox-regulated metamorphosis of oligomeric state for porphobilinogen synthase activation. 13th International Conference on Biological Inorganic Chemistry (Vienna, Austria), 2007. 7.
- 5) Kawada T, Suzuki S¹⁾, Tsukioka T²⁾, Iesaki S²⁾ (¹⁾ Gunma Industrial Health Promotion Center, ²⁾ Gunma

- Medical Association) : Depressive state, physical symptoms and irregular daily life are associated with poor perceived health of old inhabitants of Japan. International Psychogeriatric Association (Osaka, Japan), 2007. 10.
- 6) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Dichlorvos significantly decreases the expression of granzyme B and granzyme 3/K in human NK cells. The 47th annual meeting of Toxicology of SOT (Society of Toxicology) (Seattle, WA, USA), 2008. 3.
 - 7) Nagahara N : Molecular evolution of an intersubunit disulfide bond serving as a thioredoxin-dependent redox-sensing switch in mercaptopyruvate sulfurtransferase. 第80回日本生化学会大会, 2007. 12.
 - 8) 川田智之, 大塚俊昭, 稲垣弘文, 李 卿, 勝又聖夫, 平田幸代 : 職域における労働者の生活習慣と気分障害の関連性. 第80回日本産業衛生学会, 2007. 4.
 - 9) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之 : 有機リン農薬によるヒトNK細胞のアポトーシス. 第80回日本産業衛生学会, 2007. 4.
 - 10) 大塚俊昭, 川田智之, 北川裕子¹⁾, 赤尾ますみ¹⁾ (¹⁾ キヤノン株式会社矢向事業所健康管理室) : 仕事による疲労がメタボリックシンドローム構成因子およびその他の動脈硬化危険因子に与える影響 : 職域男性従業員における検討. 第80回日本産業衛生学会, 2007. 4.
 - 11) 兪 昌赫¹⁾, 李 英姫, 王 春艶¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 松田久仁子¹⁾, 阿部信二¹⁾, 白杵二郎¹⁾, 工藤翔二¹⁾ (¹⁾ 呼吸器感染腫瘍内科) : エリスロマイシン化合物EM703のTGF- β /Smadシグナル抑制効果. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
 - 12) 永原則之 : 地球大気の酸化的環境への適応 : 酵素の指向分子進化. 2007年日本地球惑星科学連合大会, 2007. 5.
 - 13) Li Q, Morimoto K¹⁾, Kawada T (¹⁾ 大阪大学) : Lifestyle affects human NKT cells. 第14回日本免疫毒性学会, 2007. 9.
 - 14) 大塚俊昭, 雪吹周生¹⁾, 小谷英太郎²⁾, 中込明裕²⁾, 草間芳樹²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 多摩永山病院内科・循環器科) : メタボリックシンドロームと炎症マーカーとの関連 : 白血球数と高感度CRPの比較. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
 - 15) 勝又聖夫, 平田紀美子, 伊藤博子, 川田智之, 深澤幸枝¹⁾, 上田美穂¹⁾ (¹⁾ 山梨県早川町) : 住民健診時に取り組んでいる「喫煙の健康問題の動機付け」の5年間のまとめ. 第66回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 16) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾ (¹⁾ スポーツ科学教室, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎) : 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査 : 肥満指標による比較検討. 第66回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 17) 渡部隼二¹⁾, 武藤三千代²⁾, 山口由子³⁾, 渡部月子³⁾, 若山葉子 (¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎, ²⁾ スポーツ科学教室, ³⁾ 神奈川県立保健福祉大学看護学) : ラジオ体操の継続の実施が精神及び身体に及ぼす効果について. 第66回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 18) 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾, 若山葉子, 山口由子³⁾, 渡部月子³⁾ (¹⁾ スポーツ科学教室, ²⁾ 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎, ³⁾ 神奈川県立保健福祉大学看護学) : ラジオ体操の継続の実施が生活活動力に及ぼす影響について. 第66回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 19) 若山葉子, 川田智之, 植田悠紀子¹⁾ (¹⁾ 県立長崎シーボルト大学看護栄養) : ウイルス肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察. 第72回日本民族衛生学会総会, 2007. 10.
 - 20) 平田紀美子, 勝又聖夫, 伊藤博子, 川田智之, 深澤幸枝¹⁾, 上田美穂¹⁾ (¹⁾ 山梨県早川町) : 両親の喫煙状況と子供の家庭内における受動喫煙. 第66回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
 - 21) 平田紀美子, 坂口眞弓¹⁾, 町田善則¹⁾, 田中博登¹⁾, 秦千津子¹⁾, 高橋正也¹⁾, 植木 潔¹⁾, 柴田博子¹⁾, 石井隆明¹⁾, 勝又聖夫, 川田智之 (¹⁾ 浅草薬剤師会) : 「薬と健康の週間」での薬剤師会活動と役割. 第40回日本

薬剤師会学術大会, 2007. 10.

- 22) 澤田典里, 永原則之, 圓藤陽子¹⁾, 中嶋義明¹⁾, 南 正康, 川田智之 (¹⁾ 東京労災病院産業中毒研究センター): ヒトボルフォビリンノーゲン合成酵素の遠位亜鉛結合部位, Cys²²³は亜鉛を近位亜鉛結合部位に効率よく供給して酵素活性を保つ. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会 (BMB2007), 2007. 12.
- 23) 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: リコンビナントヒトPro-granzyme 3の発現. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会 (BMB2007), 2007. 12.
- 24) 李 英姫, 滝澤 始¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 菅原 勇³⁾, 幸山 正⁴⁾, 山内康宏⁴⁾, 高橋 智⁵⁾, 山本雅之⁵⁾, 川田智之, 工藤翔二²⁾ (¹⁾ 帝京大学第四内科, ²⁾ 呼吸器感染腫瘍内科, ³⁾ 結核研究所レファレンスセンター, ⁴⁾ 東京大学呼吸器内科, ⁵⁾ 筑波大学TARAセンター): Nrf2 ノックアウトマウス喘息モデルにおける低濃度ディーゼル排気粒子曝露の気道炎症反応への影響. 第11回アレルギー・気道上皮細胞学術大会, 2007. 12.
- 25) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之: 鳥取県智頭町の慶長スギの森における森林浴効果. 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.
- 26) 小林麻衣子, 李 卿, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 李 英姫, 平田紀美子, 女 孝子, 若山葉子, 川田智之: 森林浴によるリラククス効果. 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.
- 27) 稲垣弘文, 平田幸代, 李 卿, 小林麻衣子, 清水孝子, 川田智之: 活性型ヒトGranzyme 3に対するモノクローナル抗体の作製. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- 28) 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 植田悠紀子¹⁾ (¹⁾ 県立長崎シーボルト大学看護栄養): ウイルス肝炎流行地域住民の病因と病態の長期的観察. 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.
- 29) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 大塚俊昭, 川田智之: 唾液中ニコチン・コチニン測定のための唾液採取器の開発. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- 30) 李 英姫, 滝澤 始¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 菅原 勇³⁾, 幸山 正⁴⁾, 山内康宏⁴⁾, 高橋 智⁵⁾, 山本雅之⁵⁾, 川田智之, 工藤翔二²⁾ (¹⁾ 帝京大学第四内科, ²⁾ 呼吸器感染腫瘍内科, ³⁾ 結核研究所レファレンスセンター, ⁴⁾ 東京大学呼吸器内科, ⁵⁾ 筑波大学TARAセンター): Nrf2 ノックアウトマウスにおける低濃度ディーゼル排気粒子曝露の気道炎症反応への影響. 第78回日本衛生学会総会, 2008. 3.

12. 法医学講座

研究概要

1. 臨床法医中毒学

急性薬毒物中毒の疑われる救急患者の緊急薬毒物分析法を開発し、GC/MS、LC/MS等を用いた高精度の分析システムの開発に取り組んでいる。また毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたTetrodotoxin等の微量毒物検出法を開発した。

2. トリカブト毒に関する研究

トリカブト毒について、急性中毒のみならず長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等についても実験的研究を行っている。同時にLC/MS、GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法について開発、フグ毒との複合作用の解明に取り組んでいる。

3. アルコール代謝アルコール (Alc) の代謝と生体に及ぼす影響を研究している。Alc脱水素酵素 (ADH1およびADH3) の寄与とその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討し、さらにAlc感受性の性差・個体差、Alc関連障害の機序を、培養細胞、ノックアウトマウス、人における飲酒実験で検討している。また培養心筋細胞を用いてAlcの心臓への影響を細胞内小器官および分子レベルで検討している。

4. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて測定した死体の筋肉や臓器中の代謝物の分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・救急医学等と共同研究を行っている。

5. 法医実務的研究

平成15年6月より千葉県警察の司法解剖を受託している (法医解剖室が本学に整備されるまで、当分の間日本大学医学部法医解剖室を借用) ので、剖検例にかかわる具体的問題を研究・検討している。また、死後変化の病理組織学的検討、死後経過時間推定に関する実務的研究等を行っている。さらに、剖検例以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Mashimo K, Ohno Y : Ethanol hyperpolarizes mitochondrial membrane potential and increases mitochondrial fraction in cultured mouse myocardial cells. *Archives of Toxicology* 2006 ; 80 : 421-428.

(1) 原著：

- 1) Ihama Y¹⁾, Miyazaki T¹⁾, Fuke C¹⁾, Mukai T²⁾, Ohno Y, Sato Y³⁾ (¹⁾ Department of Legal Medicine, School of Medicine, University of the Ryukyus, ²⁾ Department of Legal Medicine, St. Marianna University School of Medicine, ³⁾ Department of Legal Medicine, Kyorin University School of Medicine) : Scuba-diving related deaths in Okinawa, Japan, from 1982 to 2007. *Legal Medicine* 2008 ; 10 : 119-124.
- 2) 小野寺謙吾¹⁾, 増野智彦¹⁾, 平川慶子, 相星淳一²⁾, 植草協子, 小池 薫³⁾, 大野曜吉, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科侵襲生体管理学, ²⁾ 東京医科歯科大学災害救急医学, ³⁾ 京都大学初期診療・救急医学) : 出血性ショックに対する liposome-encapsulated hemoglobin が腸管組織酸素代謝に与える影響. *日医大医*

会誌 2007 ; 3 (2) : 89-95.

- 3) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 奥田貴久¹⁾, 平川慶子, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学形成外科学) : 誘因なく突然発症した顔面注入異物後遺症の1例. 日本美容外科学会会報 2007 ; 29 (4) : 195-201.

(2) 座談会 :

- 1) 押田茂實¹⁾, 大野曜吉, 岩瀬博太郎²⁾, 西丸興一³⁾ (¹⁾ 日本大学医学部社会医学系法医学分野, ²⁾ 千葉大学大学院医学研究院法医学教室, ³⁾ 横浜市立大学) : 法医学をめぐる最近の話題 : 法医学はパブリック・セーフティの学問. Vita 2008 ; 25 (1) : 3-21.

著 書

- 1) 平沼高明¹⁾, 杉田雅彦²⁾, 平岩幸一³⁾, 文 國鎮⁴⁾, 山野嘉朗⁵⁾, 大野曜吉, 小島武司⁶⁾, 高取健彦⁷⁾, 小賀野晶一⁸⁾, 前田 均⁹⁾, 溝辺克己¹⁰⁾, その他21名 (¹⁾ 昭和大学医学部客員教授・弁護士, ²⁾ 青山学院大学大学院客員教授・弁護士, ³⁾ 福島県立医科大学法医学教室教授, ⁴⁾ 高麗大学名誉教授, ⁵⁾ 愛知学院大学法学部教授, ⁶⁾ 桐蔭横浜大学法学部教授, ⁷⁾ 前東京大学教授・前科学警察研究所長, ⁸⁾ 千葉大学大学院専門法務研究科教授, ⁹⁾ 大阪市立大学大学院医学研究科法医学教室教授, ¹⁰⁾ 弁護士) : [分担] 第1部総論編 VI賠償科学教育 1 医学からのアプローチ, 2 法学部での賠償科学教育. 賠償科学概説 : 医学と法学との融合 (日本賠償科学会), 2007 ; pp74-79, 民事法研究会.
- 2) 平沼高明¹⁾, 杉田雅彦²⁾, 平岩幸一³⁾, 文 國鎮⁴⁾, 山野嘉朗⁵⁾, 大野曜吉, 小島武司⁶⁾, 高取健彦⁷⁾, 小賀野晶一⁸⁾, 前田 均⁹⁾, 溝辺克己¹⁰⁾, その他21名 (¹⁾ 昭和大学医学部客員教授・弁護士, ²⁾ 青山学院大学大学院客員教授・弁護士, ³⁾ 福島県立医科大学法医学教室教授, ⁴⁾ 高麗大学名誉教授, ⁵⁾ 愛知学院大学法学部教授, ⁶⁾ 桐蔭横浜大学法学部教授, ⁷⁾ 前東京大学教授・前科学警察研究所長, ⁸⁾ 千葉大学大学院専門法務研究科教授, ⁹⁾ 大阪市立大学大学院医学研究科法医学教室教授, ¹⁰⁾ 弁護士) : [分担] 第2部各論編 第10章モラルリスク問題 第1節 医学からのアプローチ. 賠償科学概説 : 医学と法学との融合 (日本賠償科学会), 2007 ; pp416-422, 民事法研究会.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 大野曜吉 : 日本賠償医学 : 保険関係事件. 公安部物証鑑定センター学術交流会 (北京), 2007. 11.
- 2) 大野曜吉 : 経験の特異事例紹介. 公安部物証鑑定センター学術交流会 (北京), 2007. 11.
- 3) 大野曜吉 : 死後経過時間 : 直腸温降下曲線法. 公安部物証鑑定センター学術交流会 (北京), 2007. 11.

(2) シンポジウム :

- 1) 林田真喜子 : シンポジウム「犯罪捜査とMS」 : アコニチン系アルカロイドとテトロドトキシンの毒性の体内動態. 第55回質量分析総合討論会, 2007. 5.
- 2) 大野曜吉 : 「異状死と医療施設の安全管理体制」2. 法医学の立場から (医療関連死を異状死とする意義). 平成19年日本大学医学会秋季学術大会, 2007. 10.

(3) 一般講演 :

- 1) Onodera K¹⁾, Sato N¹⁾, Hirakawa K, Aiboshi J²⁾, Ohno Y, Koike K³⁾, Masuno T¹⁾, Suzuki T¹⁾, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ CCM, Nippon Medical School, ²⁾ CCM, Tokyo medical and dental university, ³⁾ CCM, Kyoto University) : ¹H-NMR Metabolomics Detects the Effects of Liposome-encapsulated Hemoglobin on Hemorrhagic Shock in Rats. Shock Society (30th Annual Conference on Shock) (Baltimore), 2007. 6.
- 2) Sano T¹⁾, Masuno T¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Hirakawa K, Ohno Y, Koike K²⁾, Aiboshi J³⁾, Suzaki S⁴⁾, Katsumi A⁴⁾ (¹⁾ CCM, Nippon Medical School, ²⁾ CCM, Kyoto University, ³⁾ CCM, Tokyo medical and dental university, ⁴⁾ CCM, Musashino redcross hospital) : ¹H-NMR Metabolomics Study of Post-Hemorrhagic Shock

- Mesenteric Lymph. Society of Critical Care Medicine' s 37th Critical Care Congress (Hawaii), 2008. 2.
- 3) Hyakusoku H¹⁾, Okuda T¹⁾, Ohno Y, Hirakawa K (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : Picture diagnosis of breast implants using X-ray and MRI based on chemical analysis using NMR. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
 - 4) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 奥田貴久¹⁾, 石井暢明¹⁾, 野本俊一¹⁾, 青木 律¹⁾, 平川慶子, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科学) : 注入異物後遺症の問題点: 腫瘍との鑑別を中心に. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 5) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 石井暢明¹⁾, 奥田貴久¹⁾, 野本俊一¹⁾, 青木 律¹⁾, 平川慶子, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科学) : 生理食塩水バッグによる豊胸術後遺症: バッグ破損例の画像所見の特徴. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 6) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 石井暢明¹⁾, 奥田貴久¹⁾, 野本俊一¹⁾, 青木 律¹⁾, 平川慶子, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科学) : 顔面注入異物後遺症の病態の検討. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 7) 奥田貴久¹⁾, 百束比古¹⁾, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉 (¹⁾ 形成外科学) : 生体埋入異物の分析結果 1. シリコン系物質: 形成外科学会・美容外科学会・美容医療協会より依頼. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 8) 奥田貴久¹⁾, 百束比古¹⁾, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉 (¹⁾ 形成外科学) : 生体埋入異物の分析結果 2. ハイドロジェル系物質: 形成外科学会・美容外科学会・美容医療協会より依頼. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 9) 大野曜吉, 崔 范来, 富田ゆかり, 長谷場健, 仁平 信, 平川慶子, 早川秀幸¹⁾, 飯酒盃勇²⁾ (¹⁾ 筑波剖検センター, ²⁾ 日本大学医学部法医学教室) : 入院中のベッド上での窒息事故事例. 第91次日本法医学会総会, 2007. 5.
 - 10) Ono T, Nihira M, Hayashida M, Sai H, Ohno Y : An accidental aconitine poisoning case resulting from the use of herbal medicine. 第91次日本法医学会総会, 2007. 5.
 - 11) 長谷場健, 阿部裕子¹⁾, 崔 范来, 大野曜吉 (¹⁾ アサヒビール (株) 酒類研) : アルコール代謝酵素 ADH1B および ALDH2 の遺伝子多型がアルコール生体反応に及ぼす影響. 第91次日本法医学会総会, 2007. 5.
 - 12) 早川秀幸¹⁾, 仁平 信, 林田真喜子, 花尻瑠理²⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 筑波剖検センター, ²⁾ 国立医薬品食品衛生研究所) : 違法 (脱法) ドラッグ Methylone が検出された1剖検例. 第91次日本法医学会総会, 2007. 5.
 - 13) 影浦光義¹⁾, 木村恒二郎¹⁾, 仁平 信¹⁾, 守屋文夫¹⁾, 工藤恵子¹⁾, 寺田 賢¹⁾, 斉藤 剛¹⁾, 権守邦夫¹⁾ (¹⁾ 法医中毒学ワーキンググループ, 法医中毒学ガイドライン小委員会) : 「薬毒物検査に関するアンケート」集計結果. 第91次日本法医学会総会, 2007. 5.
 - 14) 寺田 賢¹⁾, 林田真喜子, 篠塚達雄²⁾, 田中栄之介³⁾, 仁平 信, 大野曜吉, 本田克也³⁾, 黒崎久仁彦¹⁾ (¹⁾ 東邦大, ²⁾ 慶大共利研, ³⁾ 筑波大) : 各クロマトグラフィー, マススペクトロメトリーによるエチゾラム, トリアゾラム及びそれら代謝物の一斉分析. 第91次日本法医学会総会, 2007. 5.
 - 15) 佐野哲孝¹⁾, 増野智彦¹⁾, 鈴木崇生¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 山本保博¹⁾, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉, 相星淳一²⁾, 小池 薫³⁾, 勝見 敦⁴⁾, 須崎紳一郎⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学講座, ²⁾ 東京医科歯科大学災害救急医学講座, ³⁾ 京都大学初期診療・救急医学, ⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命科) : 1H (proton) NMR Metabolomics による出血性ショック後臓器障害の検討. 第22回日本 shock 学会総会, 2007. 5.
 - 16) 林田真喜子, 滝埜昌彦¹⁾, 寺田 賢²⁾, 仁平 信, 大野曜吉 (¹⁾ アジレントテクノロジー, ²⁾ 東邦大医学部法医学) : LC/TOF-MS 及び精密質量データベースを用いたベンゾジアゼピン系薬物のスクリーニング. 日本法中毒学会第26年会, 2007. 6.
 - 17) 平川慶子 : NMR メタボロミクスを用いた疾患説明システム: 臨床応用をめざして. 第6回国際バイオフォーラム & 国際バイオ EXPO, 2007. 6.
 - 18) 林田真喜子, 寺田 賢¹⁾, 栗崎恵美子²⁾, 工藤恵子³⁾, 植草協子, 仁平 信, 大野曜吉, 佐藤信武⁴⁾, 渡辺紀章⁴⁾, 吉田欣史⁴⁾ (¹⁾ 東邦大法医, ²⁾ 福島医大法医, ³⁾ 九大院医学部法医, ⁴⁾ 日本ウォーターズ (株)) : UPLC を用

いたベンゾジアゼピン系スクリーニング法. 第29回日本中毒学会総会・学術集会, 2007. 7.

- 19) 安田文彦¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 平田清貴²⁾, 仁平 信, 久志本茂樹¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 日本医科大学薬剂科): 塩化ベンザルコニウムを静脈注射した1例. 第29回日本中毒学会総会・学術集会, 2007. 7.
- 20) 宮内雅人¹⁾, 平田清貴²⁾, 仁平 信, 久志本茂樹¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 日本医科大学薬剂科): 中毒領域における極細径胃内視鏡スコープの試み. 第29回日本中毒学会総会・学術集会, 2007. 7.
- 21) 寺田 賢¹⁾, 篠塚達雄²⁾, 田中榮之介³⁾, 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉, 本田克也³⁾, 黒崎久仁彦¹⁾ (1) 東邦大法医, 2) 横浜薬大, 3) 筑波大法医): 変死体中からのベンゾジアゼピン系薬物の3検出事例について. 第29回日本中毒学会総会・学術集会, 2007. 7.
- 22) 仁平 信: Clinical Forensic Toxicology “毒の検証”. 第282回ガスクロマトグラフィー研究会, 2007. 9.
- 23) 平川慶子, 佐野哲孝¹⁾, 増野智彦¹⁾, 小池 薫^{1,2)}, 小野寺謙吾^{1,3)}, 植草協子, 佐藤格夫¹⁾, 鈴木崇生¹⁾, 相星淳一^{1,4)}, 大野曜吉⁵⁾, 山本保博^{1,3)} (1) 日本医科大学救急医学, 2) 京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学, 3) 日本医科大学大学院医学研究科侵襲生体管理学, 4) 東京医科歯科大学救急災害医学, 5) 日本医科大学大学院医学研究科法医学): NMRメタボロミクスを用いた出血性ショック時の病態解析. 第46回NMR討論会, 2007. 9.
- 24) 佐野哲孝¹⁾, 増野智彦¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 鈴木崇生¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 小野寺謙吾¹⁾, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉, 相星淳一²⁾, 小池 薫³⁾, 勝見 敦⁴⁾, 須崎紳一郎⁴⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学講座, 2) 東京医科歯科大学災害救急医学講座, 3) 京都大学初期診療救急医学講座, 4) 武蔵野赤十字病院救命救急科): ¹H NMR based Metabolomicsによる出血性ショック後臓器障害の経時的検討. 第35回日本磁気共鳴医学会大会, 2007. 9.
- 25) 大野曜吉: NMRメタボロミクスを用いた疾患解明システム. イノベーションジャパン-大学見本市, 2007. 9.
- 26) 植草協子, 早川秀幸¹⁾, 仁平 信, 林田真喜子, 小野滝幸, 大野曜吉, 辺見 弘²⁾, 本間正人²⁾ (1) 筑波剖検センター, 2) 国立病院機構災害医療センター): エフェドリンが関与した中毒事例. 第76回日本法医学会関東地方会, 2007. 10.
- 27) 長谷場健, 阿部裕子¹⁾, 崔 范来, 大野曜吉 (1) アサヒビール株式会社酒類研究所): アルコール摂取の血液生化学検査に及ぼす影響: アルコール代謝酵素 (ADH1BおよびALDH2) 遺伝子多型での比較. 第76回日本法医学会関東地方会, 2007. 10.
- 28) 飯酒盃勇¹⁾, 勝又純俊¹⁾, 磯部英二¹⁾, 鉄 堅¹⁾, 岩上悦子¹⁾, 森田 香¹⁾, 内ヶ崎西作¹⁾, 押田茂實¹⁾, 大野曜吉 (1) 日本大学医学部法医学教室): 当教室で扱った司法解剖例における水中死体と壊機検査について. 第76回日本法医学会関東地方会, 2007. 10.
- 29) 佐野哲孝¹⁾, 増野智彦¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉, 相星淳一²⁾, 小池 薫³⁾, 勝見 敦⁴⁾, 須崎紳一郎⁴⁾ (1) 日本医科大学救急医学講座, 2) 東京医科歯科大学災害救急医学講座, 3) 京都大学初期診療・救急医学講座, 4) 武蔵野赤十字病院救命救急科): ¹H-NMR based Metabolomicsによる出血性ショック後肺障害の経時的検討. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 30) 奥田貴久¹⁾, 百東比古¹⁾, 平川慶子, 大野曜吉 (1) 形成外科学): NMR法による顔面注入物質の分析結果1: 吸収性物質について. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 31) 奥田貴久¹⁾, 百東比古¹⁾, 平川慶子, 大野曜吉 (1) 形成外科学): NMR法による顔面注入物質の分析結果2: 非吸収性物質について. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 32) 陳 貴史¹⁾, 百東比古¹⁾, 河原理子¹⁾, 植草協子, 平川慶子 (1) 形成外科学): シリコンバッグからの漏出に関する実験的検討. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 33) 佐野哲孝¹⁾, 増野智彦¹⁾, 鈴木崇生¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 山本保博¹⁾, 平川慶子, 大野曜吉, 相星淳一²⁾, 小池 薫³⁾,

勝見 敦⁴⁾，須崎紳一郎⁴⁾ (1) 日本医科大学救急医学講座，²⁾ 東京医科歯科大学災害救急医学講座，³⁾ 京都大学初期診療・救急医学講座，⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急科)：出血性ショック後臓器障害 (肺障害) における¹H NMR based metabolomicsの経時的検討. 第2回メタボロームシンポジウム，2007. 11.

- 34) 佐野哲孝¹⁾，増野智彦¹⁾，鈴木崇生¹⁾，佐藤格夫¹⁾，山本保博¹⁾，平川慶子，大野曜吉，相星淳一²⁾，小池 薫³⁾，勝見 敦⁴⁾，須崎紳一郎⁴⁾ (1) 日本医科大学救急医学講座，²⁾ 東京医科歯科大学災害救急医学講座，³⁾ 京都大学初期診療・救急医学講座，⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急科)：¹H-NMR based Metabolomicsによる出血性ショック後腸間膜リンパ液の検討. 第35回日本集中治療医学会学術集会，2008. 2.

13. 医療管理学講座

研究概要

医療管理学（Health Care Administration）は、かつては本教室が日本全国に先駆けて提唱した新概念であったが、「与えられた資源を定まった規則に従って適正に執行する」ことを意味し、医療業界の大きな経営、政策環境の変化と共にむしろ「需要に対応して限られた資源を効果的かつ効率的に使う」ための即ち医療マネジメント（Health Care Management）学問体系が必要となりつつある。

マネジメントもシステムのレベルによって医療提供者と患者の「臨床レベル」から医師や看護師との専門職との共同作業、即ち「病棟レベル」、そして「病院レベル」での病院経営や、診療所病院の連携システムである「地域レベル」これらを統合して「国レベル」の医療制度となっている。さらに各国のシステムが集合して「地球レベル」の国際保健システムが存在している。

本教室では、医療システムの其々6レベルでの医療マネジメントのあり方や評価の研究を中心に行ってきた。理念や評価に基づいたあるべき論は「政策の研究」であり、実行のための様々な工夫は「経営の研究」であり、それらを執行した後の結果は「評価の研究」の対象でありこれらの研究を推進してきた。

また本教室では、医療システムの各部分、医療人材、たとえば医師の確保や医療費の適正化などの「資源」の分析や医療の標準化等の「過程」の研究、医療の質、満足等の「結果」の研究を行ってきた。

さらには疾病の自然史に沿って「予防ケア」、「急性期ケア」、「長期ケア」そして「末期ケア」のあり方に関する研究も行ってきた。

今後は医学教育の核をなす臨床マネジメント（Clinical Management）の研究、近年立ち去り型サボタージュを生み出す元凶としての病棟経営（Ward Management）の研究に力点を置いていきたい。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 岡本初美¹⁾、石川雅彦²⁾、長谷川敏彦¹⁾ 栃木県立がんセンター看護部、²⁾ 国立保健医療科学院政策学部：医療安全に関する新人看護師のコンピテンシー自己評価。看護展望 2007；32（2）：256-262.

追加分総説：

- 1) 長谷川敏彦：病院は今後3～5年後、「血の海、焼け野原」。日本医事新報 2007；（4318）：16-16.

(1) 原著：

- 1) Takayanagi K：Laughter Education and the Psycho-physical Effects：Introduction of Smile-Sun Method. JAPAN HOSPITALS The Journal of Japan Hospital Association 2007；1（26）：31-35.
- 2) 長谷川敏彦：医師需要の現状と展望。病院 2007；66（4）：308-313.
- 3) 高柳和江：HEMISAPS医療面接セミナー：救急傷病者搬送を想定した模擬訓練。エマージェンシーケア 2007；20（6）：98-103.
- 4) 高柳和江：タイプ別人材教育法（導入編）。Medi Cafe 2007；2（3）：18-18.
- 5) 高柳和江：「宗教と医療のはざままで」：20年前のクウェートにて。MD Medical Doctor 2007；38：6-7.
- 6) 高柳和江：DPC時代における顧客満足度。medical forum CHUGAN 2007；11（1）：2-8.

(2) 総説：

- 1) 秋山健一：コメディカルのための病院経営入門 第11回アメリカの医療. 放射線技師学会誌JART 2007；55：22-26.
- 2) 高柳和江：笑い療法士ご報告. 癒しの環境研究会 2007；12（1）：55-62.
- 3) 高柳和江：きれいな病室で寝かせてくれ. 癒しの環境研究会 2007；12（1）：1-1.
- 4) 高柳和江：免疫力を高める緑の効果. 環境情報科学 2007；35（4）：37-41.
- 5) 長谷川敏彦：国内にも医療の質に関するデータの蓄積が必要. JAMA 2007；3（4）：265-265.
- 6) 高柳和江：理解の表出. アポロニア21 2007；（162）：104-105.
- 7) 高柳和江：補完代替医療としての笑い The Laughter Therapy. 日本補完代替医療学会誌 2007；4（2）：51-57.
- 8) 長谷川敏彦：病院はどう生き残るか はじめに. 医学のあゆみ 2007；（222）：433-433.
- 9) 高柳和江：笑い療法士の実力と今後. アポロニア21 2007；（163）：104-105.
- 10) 高柳和江：足で大地を踏みしめたい. 癒しの環境研究会 2007；12（2）：1-1.
- 11) 長谷川敏彦：医療広告の規制緩和と医療機能情報提供制度. 医療白書2007年度版 2007；126-134.
- 12) 高柳和江：トイレを病院のオアシスに フィンランドのシャワートイレ. MITE 2007；（4）：10-10.
- 13) 高柳和江：フィンランドの保健健康政策. アポロニア21 2007；（164）：104-105.
- 14) 長谷川敏彦：医療におけるパラダイムシフト. JIM 2007；17（8）：642-645.
- 15) 高柳和江：病気でも社会の一員. アポロニア21 2007；（165）：104-105.
- 16) 高柳和江：タイプ別人材教育法（実践編）. Medi Cafe 2007；2（4）：18-18.
- 17) 高柳和江：男女共同参画. アポロニア21 2007；（166）：104-105.
- 18) 高柳和江：外科手術とEBM. アポロニア21 2007；（167）：104-105.
- 19) 高柳和江：コホート研究. アポロニア21 2007；（168）：104-105.
- 20) 高柳和江：癒しの環境を作る. 月間保団連 2008；956（1）：36-41.
- 21) 高柳和江：エンパワーメント導入のビフォー&アフター. Medi Cafe 2008；3（1）：18-18.
- 22) 高柳和江：感染防止の新常識. アポロニア21 2008；（169）：106-107.
- 23) 長谷川敏彦：医療の何が危機なのか 生産性の低い日本の医療 超高齢社会に向けて「医療崩壊」は必然である. 日本の論点2008 2008；580-583.
- 24) 高柳和江：体をおろそかにすることは『生き方』をおろそかにすること. のんびる 2008；（16）：9-9.
- 25) 高柳和江：何があっても笑い飛ばせ！. アポロニア21 2008；（170）：106-107.
- 26) 高柳和江：自殺. アポロニア21 2008；（171）：106-107.
- 27) 高柳和江：温める癒し. 癒しの環境研究会 2008；13（1）：1-1.

(3) 研究報告書：

- 1) 長谷川敏彦：病院はどう生き残るか 日本の高齢化と医療システム. 医学のあゆみ 2007；（222）：453-456.
- 2) 長谷川敏彦：病院はどう生き残るか おわりに 戦略的経営の必要性. 医学のあゆみ 2007；（222）：481-484.
- 3) 高柳和江：緑陰環境における心理, 生理的, 身体的変化. 財団法人日本緑化機構 2007.

著 書

- 1) 高柳和江：〔分担〕いやす. セルフ・メディカ 予防と健康の事典, 2007；pp509-542, 小学館.
- 2) 高柳和江：〔共著〕エンパワーメント. かしこくなる患者学, 2008；pp11-19, 放送大学教育振興会.
- 3) 高柳和江：〔共著〕生まれ, 生き, そして死ぬ運命の細胞—自然治癒する身体. かしこくなる患者学, 2008；pp21-31, 放送大学教育振興会.

- 4) 高柳和江：〔共著〕自己治癒力（1）：病気としてのストレスと自己治癒力。かしこくなる患者学，2008；pp33-43，放送大学教育振興会。
- 5) 高柳和江：〔共著〕自己治癒力（2）：環境と自己治癒力。かしこくなる患者学，2008；pp46-56，放送大学教育振興会。
- 6) 高柳和江：〔共著〕笑い。かしこくなる患者学，2008；pp58-65，放送大学教育振興会。
- 7) 高柳和江：〔共著〕統合医療と自己治癒力。かしこくなる患者学，2008；pp68-77，放送大学教育振興会。
- 8) 高柳和江：〔共著〕医療サポート（1）：医療システムの利用の仕方。かしこくなる患者学，2008；pp79-93，放送大学教育振興会。
- 9) 高柳和江：〔共著〕医療サポート（2）：医学医療教育の質の変化。かしこくなる患者学，2008；pp95-105，放送大学教育振興会。
- 10) 高柳和江：〔共著〕医療の選択（2）：医療の質の安全と評価。かしこくなる患者学，2008；pp119-131，放送大学教育振興会。
- 11) 高柳和江：〔共著〕患者から社会への発信。かしこくなる患者学，2008；pp153-167，放送大学教育振興会。
- 12) 高柳和江：〔共著〕死を前向きに考える。かしこくなる患者学，2008；pp182-196，放送大学教育振興会。
- 13) 長谷川友紀¹⁾，熊倉伸宏²⁾，長谷川敏彦¹⁾ 東邦大学医学部社会学医療政策・経営科学，²⁾ 東邦大学医学部公衆衛生学）：〔編集〕医療食のための公衆衛生・社会医学，2008；医学評論社。

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 石原明子，長谷川敏彦：職業別健康状態の分析。第77回日本衛生学会総会，2007. 3.
- 2) 平尾智広¹⁾，佐藤敏彦²⁾，長谷川敏彦¹⁾ 香川大学医学部医療管理学，²⁾ 北里大学医学部衛生学・公衆衛生学）：わが国におけるDALY推定法の比較：肺がん。第77回日本衛生学会総会，2007. 3.
- 3) 畠山洋輔¹⁾，石原明子，長谷川敏彦¹⁾ 東京大学大学院総合文化研究科）：日本における言説としての「信頼」と「医療」。第77回日本衛生学会総会，2007. 3.
- 4) 平尾智広¹⁾，辻よしみ²⁾，鈴江 毅³⁾，長谷川敏彦¹⁾ 香川大学医学部医療管理学，²⁾ 香川県立保健医療大学保健医療学部，³⁾ 香川大学医学部衛生・公衆衛生学）：地方公共団体経営の急性期病院の生産性。第77回日本衛生学会総会，2007. 3.
- 5) 千草あや，長谷川敏彦：安全に対する患者：医療者間の認識の相違。第77回日本衛生学会総会，2007. 3.
- 6) 長谷川敏彦，清水佐知子¹⁾ ¹⁾ 大阪大学医学部保健学科）：日本の患者数の将来推計。第77回日本衛生学会総会，2007. 3.
- 7) 長谷川敏彦：日本のがん診療の歴史的分析和未来の展望。第77回日本衛生学会総会，2007. 3.

追加分基調講演：

- 1) 長谷川敏彦：医療制度改革への対応。平成18年度地域保健総合推進事業発表会，2007. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 高柳和江：癒しの環境の基本は安全から：命を守るコミュニケーション。第10回日本医学英語教育学会，2007. 5.
- 2) 高柳和江：昔のように，気軽に排泄できる手術・盲腸ポート手術。第7回日本整形外科看護研究会学術集会実行委員会，2007. 6.
- 3) 高柳和江：思春期の子どもたちとメンター：いじめとどう向かいあうか。日本家族計画協会総会，2007. 6.
- 4) 高柳和江：笑いと癒し。福島県病院給食研究会，2007. 6.
- 5) 高柳和江：笑いと癒しの環境。全国自治大学病院協議会，2007. 8.

- 6) 高柳和江：「笑いと癒し」：生きる喜びを分かち合う。帯広看護教育研究会，2007. 8.
 - 7) 高柳和江：「病院を『癒しの環境』に変えるための看護師の役割」。秋田県厚生農協共同組合連合会学会，2007. 9.
 - 8) 高柳和江：死に方，生き方，笑い方。江別医師会特別講演会，2007. 9.
 - 9) 長谷川敏彦：日本の病院の危機と医師労働の今後。第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会，2007. 9.
 - 10) 高柳和江：元気になりたいあなたへ 笑いの処方箋。新日本婦人の会学会，2007. 10.
 - 11) 長谷川敏彦：日本の医療制度改革関連。第8回日本クリニカルパス学会学術集会，2007. 10.
 - 12) 高柳和江：破癌一笑：緩和ケア・ホスピスケアと免疫脳。東北医師会，2007. 11.
 - 13) 高柳和江：人の周辺環境を考える (6)『癒しの』環境。日本建築家協会学会，2007. 11.
 - 14) 長谷川敏彦：医療制度改革の考え方と動向。第43回全国病院経営管理学会，2007. 11.
 - 15) 高柳和江：死に方，生き方，笑い方。広島県病院協会，2007. 12.
 - 16) 高柳和江：癒しの環境。全国国立大学付属病院材料部長会議，2007. 12.
 - 17) 高柳和江：「癒しの環境と笑い」：人間的なぬくもりのある看護を目指して。兵庫県看護教育研究会，2007. 12.
 - 18) 高柳和江：働き方の処方箋：愛と笑いと癒し。兵庫県男女共同参画センター，2008. 2.
 - 19) 高柳和江：癒しの環境研究会。第8回癒しの環境研究会全国大会，2008. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 長谷川敏彦：激変する医療界の羅針盤を求めて。日本マネジメント学会奈良地方会，2008. 2.
- (3) 基調講演：
- 1) 長谷川敏彦：ポスト紹介率時代の医療連携。地域連携クリティカルパス分科会，2007. 5.
 - 2) 長谷川敏彦：医療政策から見た地域医療連携のポイント。日本医療マネジメント学会栃木地方会，2007. 10.
- (4) シンポジウム：
- 1) 長谷川敏彦：医師の労働環境と生産性。第80回日本産業衛生学会，2007. 4.
 - 2) 長谷川敏彦：医療制度改革：明日そしてあさっての医療を展望する：新医療計画と都道府県の役割。第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007. 7.
 - 3) 長谷川敏彦：復帰前の沖縄とCommunity Development：公衆衛生看護婦の活動と途上国への提言。第18回国際開発学会全国大会，2007. 11.
 - 4) 長谷川敏彦：安全と質の効率の向上をめざして。日本画像医学会，2008. 2.
 - 5) 高柳和江：笑い療法士見参！：笑いで自己治癒力を高める！。第8回癒しの環境研究会全国大会，2008. 3.
- (5) 一般講演：
- 1) 高柳和江，齊藤卓弥¹⁾，志村俊郎²⁾，MintonT³⁾，阿曾亮子²⁾ (1) 精神医学，2) 教育推進室，3) 英語)：英語医療面接における外国人模擬患者養成。第10回日本医学英語教育学会，2007. 7.
 - 2) 高柳和江，齊藤卓弥¹⁾，志村俊郎²⁾，MintonTD³⁾，阿曾亮子²⁾ (1) 精神医学，2) 教育推進室，3) 英語)：外国人SP教育と英語による医療面接。第10回日本医学英語教育学会，2007. 7.
 - 3) 高柳和江，齊藤卓弥¹⁾，熊田朝子，吉村明修²⁾，阿曾亮子²⁾，志村俊郎²⁾ (1) 精神医学，2) 教育推進室)：医療面接のための外国人と日本人SP教育の差異。第39回日本医学教育学会，2007. 7.
 - 4) 秋山健一，長谷川敏彦：診療科クラスターの開発について。第9回日本医療マネジメント学会学術大会，2007. 7.
 - 5) 田村恵美子¹⁾，三富亜希¹⁾，渡辺実佳¹⁾，柿川房子²⁾ (1) 新潟県立がんセンター新潟病院看護部，2) 新潟県立看護大学)：乳がん治療における生活障害を持つ患者に対する支援モデル開発に関する研究。第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007. 7.
 - 6) 長谷川敏彦，平尾智広¹⁾ (1) 香川大学医学部医療管理学)：病院総合評価法の提案と施行。第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007. 7.
 - 7) 小塩篤史¹⁾，清水佐和子²⁾，長谷川敏彦 (1) 東京大学大学院新領域創成科学研究科，2) 大阪大学大学院医学系研究科総合ヘルスプロモーション)：病院の顧客 (患者) 満足度調査 (CS) 調査研究 3年間の総括。第9回日

本医療マネジメント学会学術総会，2007．7．

- 8) 清水佐和子¹⁾ (1) 大阪大学大学院医学系研究科総合ヘルスプロモーション)：臨床指標ベンチマーク手法の検討．第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007．7．
- 9) 山口さおり，清水佐和子¹⁾，長谷川敏彦 (1) 大阪大学大学院医学系研究科総合ヘルスプロモーション)：顧客満足度調査としての職員満足度測定インストルメントの開発と応用．第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007．7．
- 10) 杉田 塩¹⁾，清水佐和子²⁾，長谷川敏彦 (1) 順天堂大学順天堂医院看護部，²⁾ 大阪大学大学院医学系研究科総合ヘルスプロモーション)：病院の顧客（医療連携施設）満足度（DS）調査研究の開発．第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007．7．
- 11) 鈴木修一，長谷川敏彦：病院における総合的品質経営（TQM）の国別比較．第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007．7．
- 12) 加藤尚子¹⁾，長谷川敏彦 (1) 国際医療福祉大学医療福祉学部)：診療科部長医師を対象にした地域医療連携研修パッケージの開発．第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007．7．
- 13) 堀口裕正¹⁾，長谷川敏彦 (1) 東京大学大学院医学系研究科医療経営政策学)：病院の患者満足度全国調査分析結果について．第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007．7．
- 14) 井上まり子¹⁾，種田憲一郎²⁾，児玉知子¹⁾，長谷川敏彦 (1) 東京大学医学系研究科公衆衛生学，²⁾ 国立保健医療科学院政策学部)：病院の患者満足度全国調査分析結果について．第9回日本医療マネジメント学会学術総会，2007．7．
- 15) 木村憲洋¹⁾，秋山健一 (1) 高崎健康福祉大学)：診療録管理体制加算と地域差の検討．第33回日本診療録管理学会学術大会，2007．9．
- 16) 高柳和江，齊藤卓弥¹⁾ (1) 精神医学)：がん治療におけるエンパワード・ベイシヤント・プログラム．第45回日本病院管理学会，2007．10．

14. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

当施設では、疾患モデル動物の特性を解析し、原因究明や新たな有用性の提案に関する研究と、実験的疾患モデル動物の作出技術を活かして、代替医療に利用される食品や植物由来物質の作用について、動物個体レベルと臓器レベルの双方の角度からの客観的検証を行っている。

糖尿病の病態モデルである WBN/kob ラットは3ヶ月齢で自発性膵炎を起こし、9ヶ月齢で糖尿病発症する非肥満2型糖尿病モデル動物である。この WBN/kob ラットに被毛および体表皮角化異常を誘起する遺伝子 (*Ht*) を導入したヘアレスラット (WBN/IIa-*Ht*) と Zucker fatty ラット由来の肥満遺伝子を導入した肥満2型糖尿病モデルラット (WBN/Kob-*fatty*) の2つのコンジュニック系統について病態解析を行っている。

脳虚血や寄生虫感染の実験モデルであるスナネズミは、イヌ回虫やネコ回虫にも感染して眼病変や脳神経症状を起こすことを発見し、新たな有用性を見いだした。

代替医療に関しては、サメ軟骨の抗ガン作用や天然植物抽出物質 (アロマオイルや木酢液など) の抗アレルギー作用について検証し、これらの物質中に薬理作用のある成分が存在することを確認した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Akimoto T¹⁾, Nakama K²⁾, Katsuta Y³⁾, Zhang X³⁾, Ohsuga M³⁾, Ishizaki M⁴⁾, Sawai N⁵⁾, Ozawa H⁵⁾
(¹⁾ Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, ²⁾ Shizuoka Laboratory Animal Center, ³⁾ First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School) : Characterization of a novel congenic strain of diabetic fatty (WBN/Kob-*Lep^{fa}*) rat. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2008 ; 366 (2) : 556-562.
- 2) 戸津川清¹⁾, 村田 尚²⁾, 菅沼真澄, 友田弥里³⁾, 七戸和博, 木村直子¹⁾ (¹⁾ 山形大学農学部生物資源学科, ²⁾ 東北大学大学院農学研究科農学部共通施設動物飼育実験棟, ³⁾ 東京医科歯科大学国際環境寄生虫病学) : スナネズミの研究 (5). *畜産の研究* 2007 ; 61 (12) : 1289-1292.
- 3) 菅沼真澄, 石崎正通¹⁾, 七戸和博, 戸津川清²⁾, 村田 尚³⁾, 木村直子²⁾ (¹⁾ 日本医科大学病理学 (解析人体病理学), ²⁾ 山形大学農学部生物資源学科, ³⁾ 東北大学大学院農学研究科農学部共通施設動物飼育実験棟) : スナネズミの研究 (6). *畜産の研究* 2008 ; 62 (2) : 282-286.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 秋元敏雄, 仲間一雅¹⁾ (¹⁾ 静岡実験動物) : WBN/Kob-fatty ラット雌の育成期における制限給餌の膵炎発症抑制効果について. 第144回日本獣医学会, 2007. 9.
- 2) 清水真澄, 友田弥里¹⁾, 浅田忠利²⁾, 七戸和博 (¹⁾ 東京医科歯科大学国際環境寄生虫病学, ²⁾ 日本獣医生命科学大学獣医保健看護) : 桑葉抽出物の抗糖尿病作用. 第9回日本補完代替医療学会学術集会, 2007. 10.

[中央電子顕微鏡研究施設]

研究概要

本研究施設には本来病院病理部に属すべき電顕診断業務と、中央電子顕微鏡研究施設本来の機能である共同利用研究施設としての業務が混在している。このような施設の置かれた状況の下、電顕診断に関わる研究、電顕試料の技術開発、共同研究および研究支援の形で進行する研究があり、かつ電子顕微鏡技術演習も行っている。

1. 電子顕微鏡診断：平成19年度は付属4病院から158症例の検体を依頼されており、その対象は腎臓95症例、心臓21症例、肝臓16症例、脳15症例、腫瘍5症例、その他6症例であり内科、小児科、脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科－頭頸部外科等の各科から依頼を受けている。これらの中から今年は腎臓の病変や腫瘍に関して報告がなされた。
2. 独自の研究：臨床に役立つ電顕診断学の発展を目指し、生検材料や実験動物を用いて診断のための新しい電顕的指標を見出す研究を継続している。ヒト生検材料の検討から、タコ足細胞内に出現する二種類のautophagyを見つけ、I、II型と命名した。I型autophagyの出現率は10%であり、この患者には予後不良傾向が見られた。
3. 電顕技術開発：透過型電子顕微鏡もフィルムを用いないCCD画像（デジタル化）へと移りつつある。デジタル画像はフィルムと比して感度が高い。そのため従来の電子染色と異なったCCDのための染色法を開発しなければならない。本施設ではウーロン茶抽出物（OTE）とクエン酸鉛の2重染色であるOTE法を開発した。この染色法は、放射性物質である酢酸ウランを用いないので環境に優しく、安全な染色法である。その上、従来のウランと鉛の2重染色より微細な構造が保持されている。これらは後述の学術雑誌に原著論文として投稿発表している。
4. 共同研究、ならびに技術指導：学内より平成19年度は85症例（224検体）の試料作製に関わった。技術提供は機能する共同利用研究施設を自負する本施設の特徴の一つであり、基礎、臨床を問わず依頼があれば試料作製から電顕所見までの研究補助をするシステムをとっている。年度により異なるが、今年度は基礎医学で解析人体病理学、分子解剖学、微生物免疫学、臨床では小児科学、眼科学、皮膚科学、形成外科学、内科学（4内）等と付属、武蔵小杉、多摩永山各病院病理部への技術提供と共同研究を行った。またライヘルト社製ウルトラミクロトームの新たな設置と、本施設が管理する電子顕微鏡の中でも主に研究レベルでの観察に使用している電子顕微鏡に関して、利用者への利便性を最優先に考慮しオートフォーカス機能やファイリングシステムを搭載した最新型デジタル電子顕微鏡へのバージョンアップに向けて設備の充実に努めた。
5. 教育：本研究施設の電子顕微鏡を学生教育、または講義のために使用している。（社）日本顕微鏡学会主催第18回電顕サマースクールにおいて本研究施設を提供し、電子顕微鏡実技供覧指導を受け持った。また自主学習では21名の学生を受け入れた。

平成19年度は大学院棟への移転に加え、本施設にとってさまざまな意味で不安定な時期でもあった。本来の形は残しつつ次世代への発展に繋げるための改組には新しく組織される形態解析共同研究施設に相応しい業績と活動をスタッフ一同で支えたいと希望する。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sato S, Adachi A, Sasaki Y, Ghazizadeh M : Onlong tea extract as a substitute for uranyl acetate in staining of ultrathin sections. *Journal of Microscopy* 2008 ; 229 : 17-20.
- 2) 松村豪一¹⁾, 椎橋孝太郎¹⁾, 森元貴子¹⁾, 佐藤 茂, 永田元春²⁾, 武井恒知³⁾, 高橋常男⁴⁾, 上田真太郎⁵⁾
(¹⁾ 聖学院大学人間福祉学部, ²⁾ サンショウウオ研究所, ³⁾ 徳島大学分子生物学研究施設, ⁴⁾ 神奈川歯科大学口腔解剖学科, ⁵⁾ 上田老人医学研究所) : メキシコサンショウウオ気道および肺胞上皮細胞の発生的ならびに電子顕微鏡の研究. *日本肺サーファクタント・界面医学会雑誌* 2007 ; 38 : 16-23.
- 3) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広 : デジタル透過型電子顕微鏡 (TEM) の観察法 : 腎生検を用いて. *病理技術*

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 劉 愛民, 内藤善哉²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, ²⁾ 統御機構・腫瘍学(病理学第二))：無治療で経過中に白血化した plasmacytoid dendritic cell tumor- “blastic NK-cell lymphoma” の1例. 第96回日本病理学会総会, 2007. 3.

(1) 一般講演：

- 1) 鈴木久晴¹⁾, 佐藤 茂, 村野奈緒¹⁾, 松井洋法¹⁾, 佐佐木喜広, 安達彰子, 小原澤英彰²⁾, 石崎正通³⁾, 高橋浩¹⁾ (1) 眼科, ²⁾ 武蔵小杉病院眼科, ³⁾ 解析人体病理学 (病理学第一))：白内障手術後の眼内炎予防にオゾン水が使えるか？：基礎研究. 第111回日本眼科学会総会, 2007. 4.
- 2) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広：デジタル透過型電子顕微鏡 (TEM) の観察法：腎生検を用いて. 第76回病理技術研究会, 2007. 8.
- 3) 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 安達彰子, Ghazizadeh M：デジタルTEMの為の観察法 (1) サイドとボトムマウント式の比較. 第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
- 4) 安達彰子, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, Ghazizadeh M：デジタルTEMの為の観察法 (2) 染色法. 第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
- 5) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広, Ghazizadeh M：デジタルTEMの為の観察法 (3) 結合組織の電子染色. 第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
- 6) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広：ウランの代わりにウーロン茶抽出物 (OTE) を用いた電子染色法 - II型肺胞上皮細胞の観察. 日本肺サーファクタント・界面医学会 第43回学術研究会, 2007. 10.
- 7) 松村豪一¹⁾, 椎橋孝太郎¹⁾, 森元貴子¹⁾, 佐藤 茂, 永田元春²⁾, 高橋常男³⁾, 上田眞太郎⁴⁾ (1) 聖学院大学人間福祉部, ²⁾ サンショウウオ研究所, ³⁾ 神奈川歯科大学口腔解剖学, ⁴⁾ 上田老人医学研究所)：肺魚気道および肺胞上皮細胞の形態学的研究. 日本肺サーファクタント・界面医学会 第43回学術研究会, 2007. 10.

[情報科学センター]

研究概要

1. 医学教育へのICT活用：学習支援システム (LMS) の活用及び教育用マルチメディア環境の構築を行っている。特に本年は新校舎建築に伴い、セキュアな学術ネットワーク利用環境の再構築を行い、ArdenceによるシンクライアントPCシステムの導入を図った。シンクライアントPCシステムは、ノート型54台が教育棟に導入されたほか、デスクトップ型110台が大学院棟実習室に導入され、授業に活用されるとともに臨床前共用試験 (CBT) での利用が予定されている。

大学院棟B1第3実習室においても同ノート型シンクライアントPCの利用を可能とし、広くPC資源を活用する仕組みとしている。授業改善には、学生による授業評価は有効である。より容易に授業評価を実施する為に、既存の学習支援システムに携帯電話での学生による授業評価システムを増強する開発をサポートし、2008年度より実施となった。

2007年度中は、新たな情報公開WebサーバーとしてPloneの試用、評価を開始している。

2. インターネットセキュリティ：インターネット上の迷惑メールの増加は世界的な問題となっている。ある統計によればインターネット上のメールの70から80パーセントは迷惑メールである。本学への迷惑メールも3箇月で1.5

倍を観測し半年で倍になる予測となった。2007年度にSPAM対策機を導入したが、この急増により対策機は過負荷となりメールの大渋滞が発生する事態となった。システム全体の見直しを行い、障害時の復旧に問題が生じる可能性があるが、メールゲートウェイの単純化を行い迷惑メールの減少傾向とすることができた。これは一時的な対応であり今後も対策を検討しつづける必要がある。

研究業績

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 長岡寛樹¹⁾，寺崎 亘¹⁾，磯田 淳¹⁾，早坂明哲²⁾，伊藤高司³⁾，山崎清之¹⁾，岡本克郎¹⁾ (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科，²⁾ 岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科，³⁾ 日本医科大学情報科学センター)：非対象両眼視野闘争を利用した資格認知の特性。2006 SAS インテリジェント・シンポジウム，2006. 11.

(1) 一般講演：

- 1) 伊藤高司，渡部 昇，滋野恭子，奥重秀彦：医学教育用情報環境の再構築。第27回医療情報学連合大会，2007. 11.
- 2) 渡部 昇，河野貴美子，滋野恭子，奥重秀彦，伊藤高司：ITの医学教育への活用。第38回日本医学教育学会総会，2007. 7.
- 3) 伊藤高司¹⁾，渡部 昇¹⁾，阿曾亮子²⁾，吉村明修²⁾，志村俊郎²⁾，清野精彦³⁾ (1) 情報科学センター，²⁾ 教育推進室，³⁾ 内科学第1)：教育基盤としての大学ICT環境の再構築。第38回日本医学教育学会総会，2007. 7.

〔3〕臨 床 医 学

1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

〔付属病院第1内科（一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科）〕

研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に臨床的，基礎的研究を行った。

循環器病学では，不整脈に関する研究として，(1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法，自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，(2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，(3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，(4) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討。

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，(1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium，心筋虚血の検出，(2) 虚血性心疾患における圧受容体反射，(3) 急性心筋梗塞後の左室リモデリング，(4) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連，(5) 虚血心筋保護法の検討，(6) 虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，(7) 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討。

肝臓病学では，(1) 門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，(2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，(3) SSM（丸山ワクチン）によるサイトカイン産生，(4) 慢性肝疾患における肺循環異常，(5) 2次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化とNOの関係。

糖尿病学では，(1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性，(2) 糖尿病患者における自律神経機能，(3) 無症候性心筋虚血の病態，を検討している。

再生医学の臨床応用は2002年より開始され，首都圏で初めて「骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患（慢性閉塞性動脈硬化症，ピュルガー病，糖尿病性壊疽）への血管再生療法」の臨床応用に成功した。また重症心不全，虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法も2003年より始まった。2007年2月までに血管再生療法は40例，心筋再生療法は10例行い，その有用性を確認している。さらに日本獣医生命科学大学との共同研究で免疫抑制剤不要の夢の治療法となるバイオ人工膜の開発も研究中である。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Takayama H, Yodogawa K, Katoh T, Takano T : Evaluation of Arrhythmogenic Substrate in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy Using Wavelet Transform Analysis. *Circ J* 2006 ; 70 (1) : 69-74.
- 2) Imaizumi T¹⁾, Nejima J²⁾, Kiuchi K, Takeda S¹⁾, Seino Y, Tanaka K¹⁾, Takano T (¹⁾ Division of Intensive and Coronary Care Unit, ²⁾ Department of Internal Medicine, Tsurumi Univ. School of Dental Medicine) : Dynamics and Source of Endothelin-1 and Interleukin-6 Following Coronary Reperfusion in Patients with Acute Myocardial Infarction. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (2) : 131-147.
- 3) Tsuchida T, Fukuma N, Oikawa K, Kato K, Kato Y, Takano T, Kumita S¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Radiology) : Relationship Between Plasma Norepinephrine at Peak Exercise and ¹²³I-MIBG Imaging of the Heart and Lower Limbs in Heart Failure. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (2) : 114-122.
- 4) Manabe H, Fukuma N, Tsuchida T, Kato Y, Mabuchi K, Takano T : Analysis of Alteration of Blood Pressure Response to Exercise Through Baroreflex. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (2) : 123-130.

追加分症例報告：

- 1) 岡崎怜子，菊池有史，平山悦之，丸山光紀，高木 元，高野仁司，高山守正，小林義典，高野照夫，高田大輔¹⁾，

金子朋広¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 三石 剛²⁾, 川名誠司²⁾, その他1名 (¹⁾ 内科学第二, ²⁾ 皮膚科学): コレステロール結晶塞栓症 (CCE) ステロイド療法とLDLアフェレーシス併用の効果. 日医大医学会誌 2006; 2 (2): 115-120.

追加分総説:

- 1) 岡崎怜子, 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 阿部純子, 谷口宏史, 堀江 格, 館岡克彦, 上野 亮, 小鹿野道雄, 篠田暁与, 小原俊彦, 平山悦之, その他4名: 冠静脈洞内の通電により焼灼に成功した僧帽弁置換術およびradial手術後心房頻拍の1例. 心臓 2005; 37 (4): 115-122.
- 2) 山口 巖¹⁾, 相澤義房²⁾, 井上 博³⁾, 石川利之⁴⁾, 大江 透⁵⁾, 小川 聡⁶⁾, 奥村 謙⁷⁾, 笠貫 宏⁸⁾, 加藤貴雄, 鎌倉史郎⁹⁾, その他28名 (¹⁾ 筑波大学大学院人間総合科学研究科循環器内科, ²⁾ 新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器分野, ³⁾ 富山大学第二内科, ⁴⁾ 横浜市立大学附属病院循環器内科, ⁵⁾ 岡山大学大学院医歯学総合研究科循環器内科, ⁶⁾ 慶應義塾大学呼吸循環器内科, ⁷⁾ 弘前大学循環器・呼吸器・腎臓内科, ⁸⁾ 東京女子医科大学循環器内科学, ⁹⁾ 国立循環器病センター心臓血管内科): 臨床心臓電気生理検査に関するガイドライン. Circ J 2006; 70 (IV): 1391-1476.
- 3) 高野照夫: (心室頻拍・心室細動) 特集にあたって. ICUとCCU 2006; 30 (7): 459-459.

(1) 原著:

- 1) Arakawa M¹⁾, Yasutake M, Miyamoto M, Takano T, Asoh S¹⁾, Ohta S¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences): Transduction of Anti-cell Death Protein FNK Protects Isolated rat Hearts from Myocardial Infarction Induced by Ischemia/Reperfusion. Life Sciences 2007; 80 (22): 2076-2084.
- 2) Yodogawa K, Seino Y, Ohara T, Takayama H, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T: Non-Invasive Detection of Latent Cardiac Conduction Abnormalities in Patients with Pulmonary Sarcoidosis: Application of Signal Averaged Electrocardiogram. Circ J 2007; 71 (4): 540-545.
- 3) Miyatake Y, Isoda M, Nejima J: Effects of Smoking Cessation Intervention Education in Dental Students. Tsurumi Univ. Dent. J 2007; 33 (2): 47-54.
- 4) Kamiya M, Takayama M, Takano H, Murai K, Hinokiyama K¹⁾, Ochi M¹⁾, Takano T (¹⁾ Second Department of Surgery): Clinical Outcome and Quality of Life of Octogenarian Patients Following Percutaneous Coronary Intervention or Surgical Coronary Revascularization. Circ J 2007; 71 (6): 847-854.
- 5) Muramatsu H¹⁾, Takano T, Koike K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital, Yamanashi): Hemiplegia Recovers After Cranioplasty in Stroke Patients in the Chronic Stage. International J of Rehabilitation Research 2007; 30 (2): 103-109.
- 6) Kato T, Ogawa S¹⁾, Yamaguchi I²⁾, Kasanuki H³⁾, Hayakawa H⁴⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Keio Univ. School of Medicine, ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Univ. of Tsukuba School of Medicine, ³⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Tokyo Women's Medical Univ., ⁴⁾ Yotsuya Medical Cube): Efficacy and Safety of Intravenous Amiodarone Infusion in Japanese Patients with Hemodynamically Compromised Ventricular Tachycardia or Ventricular Fibrillation. J Arrhythmia 2007; 23 (2): 131-139.
- 7) Ueno A, Kobayashi Y, Yodogawa K, Miyauchi Y, Yajima T¹⁾, Nitta T¹⁾, Kato T, Takano T (¹⁾ Department of Cardiovascular Surgery): A Prospective Study on the Risk-Stratification for Patients with Non-Sustained Ventricular Tachycardia Using a Novel Algorithm. Circ J 2007; 71 (7): 1107-1114.
- 8) Maruyama M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Ino T, Atarashi H, Katoh T, Mizuno K: The VA Relationship After Differential Atrial Overdrive Pacing: A Novel Tool for the Diagnosis of Atrial Tachycardia in the Electrophysiological Laboratory. J Cardiovasc Electrophysiol 2007; 18 (11): 1127-1133.

- 9) Tateoka K, Iwasaki Y, Ono T, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T : A new Alcohol Provocation Head up Tilt Protocol in the Patients With Alcohol-Related Syncope. *Europace* 2007 ; 9 (4) : 220-224.
- 10) Morita N, Tanaka K, Yodogawa K, Hayashi M, Akutsu K, Yamamoto T, Satoh N, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T : Effect of Nifekalant for Acute Conversion of Atrial Flutter : The Possible Termination Mechanism of Typical Atrial Flutter. *Pacing Clin Electrophysiol* 2007 ; 30 (10) : 1242-1253.
- 11) Hosokawa Y, Morita N, Ogano M, Yokoyama H : Brugada Syndrome Subject to Depolarization Abnormality of the Conduction System. *Ann Noninvasive Electrocardiol* 2007 ; 12 (4) : 383-387.
- 12) Tsukada Y, Sanna M¹⁾, Rosen H¹⁾, Gottlieb R¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular and Experimental Medicine, The Scripps Research Institute, La Jolla, Calif.) : S1P1-Selective Agonist SEW2871 Exacerbates Reperfusion-Arrhythmias. *J Cardiovasc Pharmacol* 2007 ; 50 (6) : 660-669.
- 13) Mizuno K, Nakaya N¹⁾, Ohashi Y¹⁾, Tajima N¹⁾, Kushiro T¹⁾, Teramoto T¹⁾, Uchiyama S¹⁾, Nakamura H¹⁾ (¹⁾ MEGA Study) : Usefulness of Pravastatin in Primary Prevention of Cardiovascular Events in Women Analysis of the Management of Elevated Cholesterol in the Primary Prevention Group of Adult Japanese (MEGA Study). *Circulation* 2008 ; 117 : 494-502.
- 14) 加藤貴雄, 田邊晃久¹⁾, 池田隆徳²⁾, 石島正之³⁾, 伊藤 誠⁴⁾, 岩永史郎⁵⁾, 笠尾昌史⁶⁾, 笠巻祐二⁷⁾, 加藤林也⁸⁾, 鎌田弘之⁹⁾, 久保 豊¹⁰⁾, et al. (¹⁾ 東海大学, ²⁾ 杏林大学, ³⁾ 武蔵工業大学, ⁴⁾ 滋賀医科大学, ⁵⁾ 慶應大学, ⁶⁾ 東京警察病院, ⁷⁾ 日本大学, ⁸⁾ 名古屋掖済会病院, ⁹⁾ 盛岡赤十字病院, ¹⁰⁾ 東京女子医科大学) : Statement for the Optimal use of Home Electrocardiograph 2007. *J Arrhythmia* 2008 ; 24 (1) : 1-2.
- 15) Otsuka T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Suzuki T¹⁾, Ishii K¹⁾, Yoshida H¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Kishida H¹⁾, Takano T, Mizuno K (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital) : Administration of the Rho-kinase Inhibitor, Fasdil, Following Nitroglycerin Additionally Dilated the Site of Coronary Spasm in Patients With Vasospastic Angina. *Coron Artery Dis* 2008 ; 19 (2) : 105-110.
- 16) 中田 淳, 佐藤直樹 : 失神を主訴として来院した慢性透析患者. *Medical Practice* 2007 ; 24 (5) : 926-932.
- 17) 加藤貴雄, 田邊晃久¹⁾, 池田隆徳²⁾, 石島正之³⁾, 伊藤 誠⁴⁾, 岩永史郎⁵⁾, 笠尾昌史⁶⁾, 笠巻祐二⁷⁾, 加藤林也⁸⁾, 鎌田弘之⁹⁾, 久保 豊¹⁰⁾, その他6名 (¹⁾ 東海大学医学部循環器内科, ²⁾ 杏林大学医学部第二内科, ³⁾ 武蔵工業大学生体計測工学, ⁴⁾ 滋賀医科大学呼吸循環器内科, ⁵⁾ 慶應大学医学部循環器内科, ⁶⁾ 東京警察病院循環器センター, ⁷⁾ 日本大学医学部循環器内科, ⁸⁾ 名古屋掖済会病院循環器, ⁹⁾ 盛岡赤十字病院検診部, ¹⁰⁾ 東京女子医科大学東医療センター循環器科) : 家庭用心電計の評価と適正使用に関するステートメント2007. *心電図* 2007 ; 27 (6) : 629-630.
- 18) 加藤貴雄, 上野 亮, 村田広茂 : ドネベジルのQT間隔への影響 : 心電図詳細計測による評価. *心電図* 2007 ; 27 (6) : 588-595.
- 19) 岡崎怜子, 宮内靖史, 山本哲平, 村田広茂, 小杉宗範, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 丸山光紀, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, 水野杏一 : 下壁および前胸部誘導でJ波を伴うST上昇と頻回の多形性心室頻拍を認めたBrugada症候群の1例. *心臓* 2007 ; 39 (11) : 992-996.
- 20) 宗像 亮¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 大塚俊昭^{1,2)}, 石井健輔¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 上村竜太¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新博次¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 多摩永山病院, ²⁾ 衛生学・公衆衛生学) : 冠動脈ベアメタルステント留置術後の再狭窄に関する検討 : 血管内超音波の有用性. *J Cardiol Jpn Ed* 2008 ; 1 (1) : 24-30.
- (2) 総説 :
- 1) 宮本正章, 高木 元, 高野仁司, 川中秀和, 大坪春美, 水野博司¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 形成外科・美容外科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究所生体材料学分野) : 皮膚組織の再生医療. *MSD* 2008 ; 34 (3) : 25-28.
- 2) 高野照夫 : ICUにおける緊急Interventional Radiology. *ICUとCCU* 2007 ; 31 (4) : 249-249.
- 3) 高野仁司, 高山守正 : 難治性閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的心室中隔焼灼術. *ICUとCCU* 2007 ; 31

- (4) : 281-286.
- 4) 加藤貴雄：薬物療法の最近の話題：アミオダロン静注薬の位置づけと使い方. 循環器科 2007 ; 61 (5) : 419-423.
 - 5) 小林義典, 新 博次¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院) : 非薬物療法の最近の話題：抗頻拍デバイス：最近の進歩. 循環器科 2007 ; 61 (5) : 430-435.
 - 6) 岡崎怜子, 加藤貴雄：心室期外収縮. Pharma Medica 2007 ; 25 (5) : 29-34.
 - 7) 塚田弥生, 加藤祐子, 清野精彦¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院) : 心不全の家庭管理 (心不全—最新の基礎・臨床研究の進歩 (下) (管理・看護). 日本臨床 2007 ; (915) : 323-328.
 - 8) 塚田弥生, 加藤祐子, 清野精彦¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院) : 実地医家の治療の実際 - 心不全の家庭管理指導のポイント. Medical Practice 2007 ; 24 (5) : 901-906.
 - 9) 加藤貴雄：不整脈の薬. きょうの健康 2007 ; 233 : 124-131.
 - 10) 中田 淳, 高野照夫：経皮の心肺補助法 (PCPS) ・大動脈バルーンパンピング (IABP). 別冊日本臨床 2007 ; 65 (5 増刊号) : 200-210.
 - 11) 岸田 浩：日本人におけるワルファリンの抗凝固効果について：序論. 循環制御 2007 ; 28 (2) : 108-108.
 - 12) 小林義典：ペーシング治療の適応と施設基準. Heart View 2007 ; 11 (6) : 60-67.
 - 13) 宮内靖史：危険性の高い頻脈性不整脈とは. 臨床看護 2007 ; 33 (8) : 1132-1137.
 - 14) 村田広茂, 加藤貴雄：心電図, 負荷心電図, 加算平均心電図. 臨床検査 2007 ; 51 (7) : 697-702.
 - 15) 牛島明子, 福間長知：冠危険因子. 別冊 心臓リハビリテーション 2007 ; 149-156.
 - 16) 小林義典：不整脈. 別冊日本臨床 2007 ; 216-220.
 - 17) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 安武正弘, 高野仁司, 高木郁代, 大坪春美¹⁾, 水野博司²⁾, 川中秀和, 水野杏一 (¹⁾ 再生医療科, ²⁾ 形成外科・美容外科) : マゴットセラピー；そのメリット, ケアの実際. nursing 2007 ; 27 (9) : 78-85.
 - 18) 中込明裕¹⁾, 岸田 浩 (¹⁾ 多摩永山病院) : 急性冠症候群. 別冊 日本臨床 2007 ; 5 : 97-104.
 - 19) 加藤貴雄：心筋梗塞と不整脈： α 遮断薬および β 遮断薬は心筋梗塞における不整脈予防に有用か. 心臓 2007 ; 39 (9) : 853-854.
 - 20) 宮内靖史：ペースメーカー植え込み術のおさえどころ. ハートナーシング 2007 ; 20 (9) : 24-30.
 - 21) 岸田 浩：安定狭心症, 労作狭心症, 安定労作狭心症. 別冊日本臨床 2007 ; 12-15.
 - 22) 岸田 浩：食後狭心症. 別冊日本臨床 2007 ; 156-159.
 - 23) 浅井邦也, 水野杏一：高脂血症治療と冠動脈疾患の発症予防. 内科 2007 ; 100 (3) : 415-422.
 - 24) 水野杏一, 雪吹周生：急性冠症候群における冠攣縮の位置づけ. 冠攣縮性狭心症の診断と治療に関するガイドライン 2007 ; 4-5.
 - 25) 水野杏一, 雪吹周生：冠血管内視鏡. 冠攣縮性狭心症の診断と治療に関するガイドライン 2007 ; 39-40.
 - 26) 渡部良夫¹⁾, 加藤貴雄 (¹⁾ 藤田保健衛生大学名誉教授) : 房室結節をめぐる：渡部良夫先生に聞く. 心臓 2007 ; 39 (10) : 925-936.
 - 27) 岸田 浩：QT延長症候群. 日本臨床 2007 ; 65 (8) : 426-429.
 - 28) 塚田弥生, 岸田 浩：薬効群別副作用 循環器官用薬 (医薬品副作用学—薬剤の安全使用アップデート) (副作用概論). 別冊日本臨床 2007 ; (923) : 146-151.
 - 29) 宮本正章：難治性創傷に対するマゴットセラピー. 日医新報 2007 ; (4360) : 89-89.
 - 30) 高木 元, 水野杏一：血管内皮機能と血栓症の臨床的評価. The Circulation Frontier 2007 ; 11 (4) : 28-33.
 - 31) 大野忠明, 本間 博：負荷心エコー. medicina 2007 ; 44 (12) : 240-243.
 - 32) 上野 亮, 加藤貴雄：頻脈. 臨床精神医学 2007 ; 36 : 168-171.
 - 33) 加藤浩司, 安武正弘：心原性ショックを合併した急性心筋梗塞症の病態と治療. ICUとCCU 2007 ; 31

(12) : 1081-1087.

- 34) 岸田 浩：第13回日本心臓リハビリテーション学会学術集会を終えて。心臓リハビリテーション 2008；13 (1) : 5-5.
- 35) 岸田 浩：心大血管リハビリテーション患者における病態把握とリスク評価法について。心臓リハビリテーション 2008；13 (1) : 9-12.
- 36) 水野杏一：DESにより血管はどう変化するか。J Jpn Coron Assoc 2008；14 (1) : 34-35.
- 37) 加藤貴雄：日本人におけるアミオダロン静注薬の有効性・安全性：国内第II相臨床試験成績を中心に。Prog Med 2008；28 : 671-673.
- 38) 高野雅充，水野杏一：Drug-Eluting Stent留置後の冠動脈内視鏡所見。J Jpn Coron Assoc 2008；14 (1) : 42-49.
- 39) 太良修平¹⁾，宮本正章，水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院)：末梢動脈疾患 (PAD)，膠原病による潰瘍・壊疽。看護技術 2008；54 (2) : 13-16.
- 40) 高木 元，宮本正章，水野杏一：糖尿病性潰瘍・壊疽。看護技術 2008；54 (2) : 17-19.
- 41) 水野杏一，安武正弘：進歩を続ける虚血性心疾患診療。総合臨床 2008；57 (2) : 201-203.
- 42) 小橋啓一，高野仁司，高野雅充¹⁾，山本真功¹⁾，水野杏一⁽¹⁾ 千葉北総病院)：Drug Eluting Stent (薬剤溶出性ステント) 後の血管内視鏡所見。日医大医学会誌 2008；4 (1) : 2-3.
- 43) 加藤貴雄：QT延長症候群の心電図変化。心電図 2008；28 (2) : 5-19.
- 44) 加藤貴雄：薬剤誘発性QT延長症候群。呼吸と循環 2008；56 (4) : 413-418.
- 45) 八島正明，加藤貴雄：心房細動を発見する手がかりと次の一手。内科 2008；101 (3) : 430-434.
- 46) 平山悦之，新 博次¹⁾ (多摩永山病院)：エビデンスに基づく循環器薬の使いかた・治療 不整脈治療薬の使いかた：ニフェカランとアミオダロン静注をどう使うか。Medical 2008；25 (3) : 509-511.

(3) 症例報告：

- 1) Aoki A¹⁾，Tanabe J¹⁾，Inami T¹⁾，Ogano M¹⁾，Kobayashi N¹⁾，Hosokawa Y¹⁾，Yokoyama H¹⁾，Takano H，Mizuno K⁽¹⁾ Division of Cardiology, Shizuoka Medical Center)：Late Multiple Stent Fractures Following Deployment of Sirolimus-Eluting Stents for Diffuse Right Coronary Artery Stenosis. Int Heart 2007；48 (6) : 267-272.

(4) 事例：

- 1) 大塚俊昭^{1,2)}，川田智之¹⁾，北川裕子²⁾，伊藤ヨシ子²⁾，赤尾ますみ²⁾，斉藤 暁²⁾，加藤貴雄⁽¹⁾ 衛生学・公衆衛生学，²⁾ キヤノン (株) 矢向事業所健康管理室)：「動悸」を訴える社員の対策：電話伝送携帯型心電計を利用した健康管理の試み。産衛誌 2008；1 (50) : 1-3.

著 書

〔追加分〕

追加分：

- 1) 加藤貴雄：〔分担〕Upstream療法におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬 (ARB) の有効性の根拠をみる。抗不整脈薬のすべて (小川 聡 大江 透 井上 博)，2007；pp36-40，先端医学社。
- 1) 浅井邦也：〔分担〕血管収縮作動性物質。血管内皮細胞をめぐる疾患 (島田和幸)，2007；pp43-55，真興交易 (株) 医書出版部。
- 2) 高山守正：〔分担〕病院到着前治療 (院外心停止/救急医療システムとプレホスピタルケア)。心筋梗塞症 (吉野秀朗)，2007；pp83-87，メジカルビュー社。
- 3) 長澤紘一¹⁾，村田正弘²⁾，吉岡ゆうこ³⁾，塚田弥生⁽¹⁾ 日本医科大学名誉教授，²⁾ 明治薬科大学アドバイザー，

- 3) ネオフィスト研究所)：〔編著〕カルテの読み方と基礎知識．カルテの読み方と基礎知識 第4版：Patient profile理解のための (村田正弘)，2007；じほう．
- 4) 山本 剛，安武正弘：〔分担〕初期診断と最終診断．循環器7 急性冠症候群 (高野照夫)，2007；pp31-37，最新医学社．
- 5) 清宮康嗣，水野杏一：〔分担〕血管内超音波と血管内視鏡．循環器7 急性冠症候群 (高野照夫)，2007；pp208-215，最新医学社．
- 6) 加藤貴雄：〔分担〕洞不全症候群．循環器症候群第2版，2007；pp467-471，日本臨牀社．
- 7) 加藤貴雄：〔分担〕潜在性WPW症候群．循環器症候群第2版，2007；pp244-248，日本臨牀社．
- 8) 岸田 浩：〔分担〕心・血管外傷．内科学 (杉本恒明 矢崎義雄)，2007；pp605-607，朝倉書店．
- 9) 宮内靖史，加藤貴雄：〔分担〕QTの測り方，計測上の問題点，自動解析の進歩，QT間隔の診かた・考え方 (有田 真 犀川哲典 小野克重)，2007；pp98-110，医学書院．
- 10) 加藤貴雄：〔分担〕心電図．呼吸器専門医テキスト (工藤翔二 中田紘一郎 永井厚志 大田 健)，2007；pp119-122，南江堂．
- 11) 加藤貴雄：〔分担〕心室期外収縮．循環器疾患最新の治療2008—2009 (堀 正二 永井良三)，2008；pp304-307，南江堂．
- 12) 加藤貴雄：〔分担〕心房細動の緊急治療指針．救急・集中治療ガイドライン2008—09 (岡元和文)，2008；pp191-193，総合医学社．
- 13) 加藤貴雄：〔分担〕洞不全症候群．循環器内科治療ガイドライン 最新の診療指針 (田邊晃久)，2008；pp152-156，総合医学社．
- 14) 宮本正章，高木 元，水野杏一：〔分担〕マゴットセラピー．透析患者の末梢動脈疾患とフットケア～早期発見と治療戦略～ (小林修三)，2008；pp115-125，医薬ジャーナル．
- 15) 高木 元，宮本正章，水野杏一：〔分担〕幹細胞移植．透析患者の末梢動脈疾患とフットケア～早期発見と治療戦略～ (小林修三)，2008；pp108-113，医薬ジャーナル．

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 村田広茂，小原俊彦，上野 亮，淀川顕司，丸山光紀，宮内靖史，小林義典，加藤貴雄，高野照夫：簡易心電図マッピングを用いたWavelet解析心電図による不整脈基質の解析．第17回体表心臓微小電位研究会，2007. 2.

(1) 会長講演：

- 1) 岸田 浩：心血管リハビリテーション患者における病態把握のための評価法とその意義．第13回日本心臓リハビリテーション学会，2007. 7.

(2) 教育講演：

- 1) 加藤貴雄：イベントレコーダーの現状と展望．第27回日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会，2007. 7.

(3) シンポジウム：

- 1) Miyamoto M：Therapeutic Angiogenesis by Autologous Bone Marrow Cell Implantation for Refractory Peripheral Arterial Disease (PAD)．International Symposium on Blood Transfusion Management (Beijing, China)，2007. 9.
- 2) Mizuno K, Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami S¹⁾, Murakami D¹⁾, Ohba T¹⁾ (1) Chiba Hokusoh Hospital)：Serial Long-term Evaluation of Neointimal Stent Coverage and Thrombus After Drug Eluting Stent Implantation by use of Coronary Angioscopy [Late Thrombosis After DES：Angioscopic Evaluation]．18th

Great Wall International Congress of Cardiology ACC Symposium : Cardiology Update 2007 (Beijign, China), 2007. 10.

- 3) 石井庸介¹⁾, 新田 隆¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 別所竜藏¹⁾, 藤井正大¹⁾, 大森裕也¹⁾, 神戸 将¹⁾, 栗田二郎¹⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾, 宮内靖史, 小林義典 (¹⁾ 外科学講座 (内分泌・心臓血管外科・呼吸器外科部門)) : 外科用アブレーションデバイスはどのように使うべきか? : 術後心房頻拍の予防. 第22回 日本不整脈学会学術大会, 2007. 5.
- 4) 高山守正, 愛須紀子, 加藤祐子, 小林義典, 手塚晶人^{1,4)}, 安藤岳史^{2,4)}, 中村 隆^{3,4)}, 五十嶋一成⁴⁾, 水野杏一, 五十嶋博文⁵⁾ (¹⁾ 日本医科大学5年, ²⁾ 麻酔科学, ³⁾ 中村病院, ⁴⁾ 柚クラブ, ⁵⁾ 太郎平小屋) : わが国の中高年登山者の医学的背景と安全登山継続への提言 (中高年の継続的登山習慣の意義). 2007年度日本登山医学会学術集会 第27回日本登山医学シンポジウム, 2007. 6.
- 5) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 安武正弘, 水野博司¹⁾, 田畑泰彦²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 形成外科・美容外科, ²⁾ 京都大学再生医科学研究所生体材料学) : 膠原病による難治性潰瘍に対する再生医療を応用した集学的治療 : 血管新生からマゴットセラピーまで : (膠原病治療の現状と評価). 第19回日本アレルギー学会, 2007. 6.
- 6) 宮本正章¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高木 元¹⁾, 高野仁司¹⁾, 高木郁代¹⁾, 太良修平¹⁾, 水野博司^{1,2)}, 米田正始³⁾, 田畑泰彦⁴⁾, 水野杏一 (¹⁾ 再生医療科, ²⁾ 形成外科・美容外科, ³⁾ 京都大学大学院医学研究科心臓血管外科, ⁴⁾ 京都大学再生医科学研究所生体材料学) : 血管再生医療を応用した難治性PADに対する総合的治療戦略 : 自己骨髄血管新生療法からマゴットセラピーまで : (心血管病の実地再生医療の現状と展望). 第11回心筋・血管新生療法研究会, 2007. 7.
- 7) 福岡長知, 土田貴也, 加藤和代, 及川恵子, 林 寛子, 牛島明子, 真鍋宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 宮武佳子, 岸田 浩, 水野杏一 : 運動負荷試験から見た交感神経末端機能 (システム同定法としての負荷試験を考える). 第57回循環器負荷研究会, 2007. 8.
- 8) 安武正弘, 宮本正章, 太良修平, 加藤浩司, 高木 元, 高野仁司, 高野照夫, 水野杏一, 福嶋善光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 落 雅美²⁾ (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 心臓血管外科) : 心臓核医学検査を用いた自家骨髄単核細胞移植直後の血管新生の評価 : 虚血性心疾患を中心に (心臓核医学会ジョイントセミナー「再生医療と核医学検査」). 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 9) 高山守正 : 薬剤抵抗性HOCMへのPTSMA「非虚血性心疾患に対するカテーテル治療」. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 10) 加藤貴雄 : アミオダロン静注薬への期待 (日本人におけるアミオダロン静注薬の有効性と安全性). 第12回アミオダロン研究会, 2007. 9.
- 11) 宮内靖史, 加藤貴雄, 岩崎雄樹, 林 明聡, 水野杏一 : QT時間詳細計測法の評価と問題点 : 手法と自動測定法の比較「薬物誘発性QT延長と不整脈」. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 12) 水野杏一, 中村治雄 : 高脂血症1次予防 (我が国で実施された循環器用薬による大規模臨床試験成績の意義について). 第28回日本臨床薬理学会, 2007. 11.
- 13) 山本英世, 高野仁司, 高橋保裕, 高木 元, 藤田進彦, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一 : 待機的カテーテルインターベンション後の造影剤腎症発症ゼロへの挑戦. 第21回日本冠疾患学会学術集会, 2007. 12.
- 14) 加藤貴雄 : ディベート : 急性心筋梗塞における重症不整脈の治療 (アミオダロンVSニフェカラント). 第206回日本循環器学会関東甲信越地方会・東京CCU研究会合同学術集会, 2007. 12.
- 15) 水野杏一 : 血管内視鏡による不安定プラークの診断. 第27回日本画像医学会, 2008. 2.
- 16) Nakagomi A¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama-nagayama Hospital) : Insulin Resistance and Subclinical Inflammation Play Significant Roles in the Pathogenesis and Instability of Vasospastic Angina (Coronary Spasm Revisited). 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.

- 17) Takano M¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba-Hokusoh Hospital) : In-Vivo Comparison of Optical Coherence Tomography and Angioscopy for the Evaluation of Coronary Plaque Characteristics (Freshscent Forefront in Atherosclerotic Plaque Imagings). 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 18) Takano M, Mizuno K : In-Vivo Comparison of Coronary Plaque Characteristics Between Optical Coherence Tomography and Angioscopy (Progress in Coronary Artery Imaging by OCT). 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 19) Mizuno K, Nakamura H¹⁾ (¹⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation, Tokyo) : How can we Apply MEGA Study to Daily Practice and Guideline? (How can we make the best use of Japanese Evidences for Future Guidelines). 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 20) Tsukada Y, Mizuno K : What do Women Cardiologist Need for Continuity of Working? Results of Survey the Gender Difference in Work Lives of Cardiologists (The State and the Future for Women in Cardiology). 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 21) Sato N¹⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit) : Invasive vs. Non-Invasive Hemodynamic Classification in Acute Heart Failure (How to use Invasive Hemodynamics to Make Therapeutic Decision). 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 22) 加藤貴雄 : 医薬品開発におけるQT延長リスク回避の戦略 (薬物性QT延長症候群の患者背景と評価). 第81回日本薬理学会総会, 2008. 3.
- (4) パネルディスカッション :
- 1) 淀川顕司¹⁾, 大野則彦¹⁾, 森田典成, 小林義典, 高山英男, 小原俊彦, 加藤貴雄 (¹⁾ 千葉北総病院) : Brugada 症候群における心電図QRS内異常高周波成分の検出およびその臨床的意義. 第22回 日本不整脈学会学術大会, 2007. 5.
- 2) 小林義典, 上野 亮, 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一, 新田 隆¹⁾, 矢島俊巳¹⁾ (¹⁾ 心臓血管外科) : 心臓突然死1次予防におけるリスク層別化 : 心臓電気生理学的検査の役割. 第22回 日本不整脈学会学術大会, 2007. 5.
- 3) 岸田 浩 : 患者さんから学んだ総合カンファレンス. 第64回日本循環器心身医学会, 2007. 10.
- (5) セミナー :
- 1) 宮本正章, 水野博司¹⁾, 多川政弘²⁾, 米田正始³⁾, 田畑泰彦⁴⁾ (¹⁾ 形成外科・美容外科, ²⁾ 日本獣医生命科学大学獣医外科, ³⁾ 京都大学大学院医学研究科心臓血管外科, ⁴⁾ 京都大学再生医科学研究所生体材料学) : 難治性末梢動脈閉塞性疾患 (PAD) に対する総合的治療戦略 : 血管新生療法からマゴットセラピーまで. 第32回日本足の外科学会学術集会, 2007. 6.
- (6) ワークショップ :
- 1) 高山守正 : Excellent QOL Restoration After Percutaneous Alcohol Septal Myocardial Ablation but still Requiring Careful Attention for Sudden Death in Medically Refractory HOCM. 第16回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2007. 6.
- 2) 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 中村慶春¹⁾, 松下 晃¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 張 一光¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 宮本正章, 高野照夫, 田畑泰彦²⁾ (¹⁾ 外科, ²⁾ 京都大学再生医科研究所生体材料学分野) : 生体修復材料を用いた膵消化管吻合術の基礎的研究 : 再生医療による新しい吻合手技. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- (7) 一般講演 :
- 1) Okazaki R, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Maruyama M, Iwasaki Y, Hirasawa Y, Ueno A, Yamamoto T, Murata H, Kosugi M, Ohara T, Katoh T, Takano T, Mizuno K : Reproducibility in the Morphology of Polymorphic Ventricular Tachycardia in Brugada Syndrome with J Wave and ST-Segment Elevation in the Inferior Leads. Heart Rhythm 2007 (Colorado, USA), 2007. 5.
- 2) Yamamoto E, Takano H, Tajima H, Tanabe J, Kawanaka H, Tara S, Takahashi Y, Fujita N, Takagi G,

- Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M, Mizuno K : Renal Artery Angioplasty Improves Diastolic Cardiac Function in Patients with Heart Failure Possessing Renal Artery Stenosis. American Heart Association Scientific 2007 (Florida, USA), 2007. 11.
- 3) Saito T, Saito T¹⁾, Sugiyama M¹⁾, Mizuno K¹⁾ (Good Sleep Clinic, Tokyo, Japan) : Improvement of Pulse Wave Velocity by 2-Year Continuous Positive Airway Pressure Treatment for Obstructive Sleep Apnea Patients With Obesity and Hypertension. ACC (Chicago, USA), 2008. 3.
 - 4) Miyauchi M, Miyauchi Y, Okazaki R, Iwasaki Y, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : The Effects of Chronic Nicotine Administration on Atrial Fibrosis and Atrial Vulnerability to Fibrillation in Normal and Hypertensive Rats : Implication for Atrial Fibrillation in Smokers. ACC (Chicago, USA), 2008. 3.
 - 5) Takagi G, Miyamoto M, Yasutake M, Fukushima Y, Kumita S, Mizuno H, Tara S, Takano H, Kato K, Takagi I, Mizuno K : Radionuclide Determination of Therapeutic Angiogenesis Study From Critical Limb Ischemia patients. ACC (Chicago, USA), 2008. 3.
 - 6) Sato N¹⁾, Kamiya M¹⁾, Yoshida A¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Hirasawa Y¹⁾, Kato K¹⁾, Tokita Y¹⁾, Murai K¹⁾, Mizuno K, Tanaka K¹⁾ (Intensive and Care Unit) : A Novel Marker Urinary Liver-Type Fatty Acid Binding Protein, for the Detection of Renotubular Damage in Acute Decompensated Heart Failure . ACC (Chicago, USA), 2008. 3.
 - 7) Yamamoto E, Takano H, Kawashima S, Kawanaka H, Takahashi Y, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M, Mizuno K : Evidence for the Causative Role of Oxidative Stress in the Development of Contrast-Induced Nephropathy in Patients With Chronic Kidney Disease. ACC (Chicago, USA), 2008. 3.
 - 8) 山本真功¹⁾, 高野雅充¹⁾, 村上大介¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 水野杏一 (千葉北総病院) : A Case of Patient on Hemodialysis with all Stents Restenosis After Implantation of Sirolimus-Eluting Stents for Three Coronary Arteries. 第16回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2007. 6.
 - 9) 山本英世, 高野仁司, 川中秀和, 西城由之, 小橋啓一, 鶴見昌史, 森澤太一郎, 太良修平, 川嶋修司, 高橋保裕, 高木 元, 藤田進彦, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, et al. : Application of Ischemic Preconditioning During Coronary Intervention Using a Distal Embolic Protection Device. 第16回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2007. 6.
 - 10) 西城由之, 白壁章宏²⁾, 高野仁司, 川中秀和, 小橋啓一, 鶴見昌史, 森澤太一郎, 太良修平, 山本英世, 加藤浩司¹⁾, 川嶋修司, 高橋保裕, 高木 元, 藤田進彦, 山本 剛¹⁾, et al. (1) 集中治療室, 2) 千葉北総病院) : Coronary Perforation and dissection during PCI in the Sirolimus-eluting Stent era. 第16回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2007. 6.
 - 11) 北村光信¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 佐々木朝子¹⁾, 小鹿野道雄¹⁾, 椎葉邦人¹⁾, 高野仁司, 高山守正 (国立病院機構静岡医療センター循環器) : Cholesterol Embolism to Distal Coronary Vessel During Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion. 第16回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2007. 6.
 - 12) 吉川雅智¹⁾, 山本 剛¹⁾, 高野仁司, 村井綱児¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘, 高山守正, 田中啓治¹⁾, 高野照夫 (集中治療室) : Impact of the Evolution of Coronary Intervention on Prognosis for Renal Dialysis Patients. 第16回日本心血管インターベンション学会学術集会, 2007. 6.
 - 13) Miyachi H¹⁾, Kodani E¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Kitamura M¹⁾, Sasaki A¹⁾, Ogano M¹⁾, Shiiba K¹⁾, Tanabe J¹⁾, Takayama M (Tama-Nagayama Hospital) : Coronary Artery Revascularization Before Peripheral Vascular Surgery in Patients With Peripheral Artery Disease (PAD). The 16th Annual Meeting of the Japanese Society of Interventional Cardiology , 2007. 6.

- 14) Shibui T¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Saiki Y¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Kamiya M¹⁾, Munakata R¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Uemura R¹⁾, Kodani E¹⁾, Yasutake M, Kusama Y¹⁾, Takayama M, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital) : Impact of Chronic Kidney Disease on Long-term Prognosis of Acute Coronary Syndrome Successfully Treated With Percutaneous Coronary Intervention. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 15) Shirakabe A¹⁾, Asai K, Kikuchi A¹⁾, Kobayashi N¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Shinada T¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Hata N¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Division of Intensive Care Unit, Chiba) : Clinical Significance of MMP Families in Acute Exacerbation of Heart Failure. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 16) Saiki Y¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Shibui T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Kamiya M¹⁾, Munakata R¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Uemura R¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital) : Metabolic Syndrome Increases the Risks of Cardiac Events Associated with Insulin Resistance in Patients with Vasospastic Angina. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 17) Takayama M, Kitamura M, Kawanaka H, Kohashi K, Tsurumi M, Morisawa T, Komiyama H, Takahashi Y, Yamamoto E, Takagi G, Yamamoto T, Takano H, Aoki S, Asai K, Yasutake M, et al. : Long-term QOL After PTSCMA in Symptomatic HOCM Comparing with Mild Grade Patients : Importance of Preventing Sudden Death in all Cases. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 18) 丸山光紀, 小林義典, 宮内靖史, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 館岡克彦, 上野 亮, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 小原俊彦, 平山悦之, 加藤貴雄, 堀江 格¹⁾, 宮本新次郎¹⁾, その他3名 (¹⁾ 多摩永山病院) : Differential Atrial Overdrive Pacing : 新たな心房頻拍鑑別法および従来法との比較. 第22回 日本不整脈学会学術大会, 2007. 5.
- 19) 村田広茂, 宮内靖史, 小林義典, 小原俊彦, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 上野 亮, 岡崎怜子, 山本哲平, 加藤貴雄 : 頻脈誘発性心筋症を発症する focal AT の特徴と発生頻度. 第22回 日本不整脈学会学術大会, 2007. 5.
- 20) 宮内瑞穂, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫 : ニコチン慢性投与が心房細動発生とその解剖学的 substrate に及ぼす影響. 第22回 日本不整脈学会学術大会, 2007. 5.
- 21) 宮元亮子, 宮内靖史, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 勝田梯実, 大須賀勝, 小原俊彦, 山本哲平, 小林義典, 加藤貴雄 : アミオダロンが原因と考えられる肝不全の1例. 第294回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 5.
- 22) 高木郁代, 高山守正⁴⁾, 愛須紀子, 手塚晶人^{1,4)}, 村松和美²⁾, 中村 隆^{3,4)}, 五十嶋一成⁴⁾, 水野杏一 (¹⁾ 日本医科大学5年, ²⁾ 同付属病院看護部, ³⁾ 中村病院, ⁴⁾ 杣クラブ) : 北アルプス登山中の中老年登山者にみられる高血圧の実態. 2007年度日本登山医学会学術集会 第27回日本登山医学シンポジウム, 2007. 6.
- 23) 加藤祐子, 小林義典, 高山守正¹⁾, 愛須紀子, 高橋保裕, 宮内靖史, 福間長知, 五十嶋一成¹⁾, 水野杏一, 家坂義人²⁾ (¹⁾ 杣クラブ, ²⁾ 土浦協同病院循環器内科) : 最新循環器治療による第一線登山への回帰は可能か : 不整脈罹患中老年登山者3例からの考察. 2007年度日本登山医学会学術集会 第27回日本登山医学シンポジウム, 2007. 6.
- 24) 小橋啓一, 宮内靖史, 浅井邦也, 山本英世, 本間 博, 高山守正, 小林義典, 清野精彦, 高野照夫 : 64例マルチスライス断層血管撮影 (MDCT) により詳細を評価し得た無症候性多発性肺動脈型冠動脈瘤の1例. 第204回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2007. 6.
- 25) 山本英世, 高野仁司, 田島廣之¹⁾, 高橋保裕, 田邊 潤²⁾, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一 (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 静岡医療センター循環器内科) : 経皮的腎血管形成術の心機能に与える影響. 第13回日本血管内治療学会総会, 2007. 7.
- 26) 高野仁司, 大場崇芳^{1,2)}, 北村光信²⁾, 木股仲恒²⁾, 細川雄亮²⁾, 竹永清人²⁾, 加藤浩司²⁾, 草間芳樹²⁾, 高山守正, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院, ²⁾ 心臓カテーテル研究班) : シロリムス溶出ステントの使用法および臨床成績に関する施設間格差. 第13回日本血管内治療学会総会, 2007. 7.

- 27) 西城由之, 高野仁司, 山本英世, 高橋保裕, 藤田進彦, 高木 元, 青木 聡, 浅井邦也, 高山守正, 水野杏一: シロリムス溶出ステントを用いた経皮的冠動脈インターベンション中の冠動脈解離の特徴と転帰. 第13回日本血管内治療学会総会, 2007. 7.
- 28) 高野仁司, 草間芳樹¹⁾, 山本英世, 安武正弘, 青木 聡, 浅井邦也, 高山守正, 水野杏一 (1) 多摩永山病院): PCI事の虚血プレコンディショニング現象出現の機序. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 29) 福間長知, 加藤和代, 林 寛子, 牛島明子, 真鍋宏美, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 宮武佳子, 岸田 浩, 水野杏一: 心筋梗塞患者に対するアスコルビン酸の単回および長期投与が運動負荷試験成績におよぼす影響. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 30) 佐藤直樹¹⁾, 梶本克也²⁾, 浅井邦也, 水野雅之³⁾, 南雄一郎⁴⁾, 川名正敏²⁾, 子島 潤⁵⁾, 佐藤俊彦⁶⁾, 目黒知己⁷⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一, 笠貫 宏²⁾, 高野照夫 (1) 集中治療室, 2) 東京女子医科大学青山病院循環器内科, 3) 済生会栗橋病院循環器内科, 4) 東京女子医科大学循環器内科, 5) 鶴見歯科大学内科, 6) 北里大学衛生学公衆衛生学, 7) 東京電力病院循環器内科): データ解析フィードバックシステムによる急性心不全疫学的調査: 多施設共同疫学観察研究の新しい方向性. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 31) 鈴木 洋¹⁾, 下司映一¹⁾, 片桐 敬¹⁾, 南條修二²⁾, 中野 元²⁾, 山崎純一²⁾, 佐藤直樹³⁾, 田中啓治³⁾, 高野照夫, 芝田貴裕⁴⁾, 望月正武⁴⁾ (1) 昭和大学第3内科, 2) 東邦大学医療センター大森病院循環器内科, 3) 集中治療室, 4) 東京慈恵医科大学循環器内科): 急性心筋梗塞後の左室機能障害に対するバルサルタンの効果: アンジオテンシン変換酵素阻害薬との多施設共同無作為抽出試験. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 32) 中込明裕¹⁾, 青木重佐子¹⁾, 洪井俊之¹⁾, 細川雄亮¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 宗像 亮¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 上村竜太¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高山守正, 新 博次¹⁾, 高野照夫 (1) 多摩永山病院): 急性冠症候群患者において慢性腎臓病は心事故発症に関与する. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 33) 牛島明子, 福間長知, 林 寛子, 真鍋宏美, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 宮武佳子, 岸田 浩, 水野杏一: 心疾患における運動負荷時Heart rate recoveryの障害と運動負荷時BNP増加. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 34) 太良修平, 山本英世, 高野仁司, 浅井邦也, 高山守正, 水野杏一: 血管内イメージングが冠動脈ステント留置時の末梢塞栓予防に有用であった1例. 第205回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 35) 小原啓子¹⁾, 櫛方美文¹⁾, 太田眞夫, 水野杏一 (1) 同愛記念病院内科): 糖尿病患者におけるメタボリック症候群の各要素の頻度について. 第205回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 36) 荒川裕輔¹⁾, 山本 剛¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 村井綱見¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 藤田進彦, 高野照夫, 水野杏一, 別所竜蔵²⁾, 落 雅美²⁾, 川口 聡³⁾ (1) 集中治療室, 2) 心臓血管外科, 3) 東京医科大学 血管外科): II型解離へのHemiarch置換後にIIIb型再解離を発症, 再々解離に対しステントグラフト治療が有効であった1例. 第205回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 37) 高野仁司, 高橋保裕, 小宮山英徳, 太良修平, 山本英世, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一: 右冠動脈病変治療中に生じた解離修復に難渋し末梢病変治療が不十分のまま終了した2例. 第31回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2007. 10.
- 38) 岡崎怜子, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一, 関口昭子¹⁾, 山下武志¹⁾ (1) 心臓血管研究所): Lipopolysaccharide Induces the Down-regulation of L-type Ca²⁺ Channel Genes in Rat Atria. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 39) 小原俊彦, 村田広茂, 淀川顕司, 上野 亮, 丸山光紀, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一: 陳旧性心筋梗塞Q波部分の高周波成分の特性について. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 40) 上野 亮, 村田広茂, 加藤貴雄, 水野杏一: 塩酸ドネペジルの心電図QT時間への影響. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 41) 大坂元久¹⁾, 村田広茂, 館岡克彦, 加藤貴雄 (1) 老人病研究所生体応答学部門): 自動車ステアリングからの無

- 拘束心電図記録による心拍変動解析の信頼性. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 42) 小原俊彦, 八島正明, 村田広茂, 品田卓郎, 淀川顕司, 丸山光紀, 平山悦之, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一: 心室細動波の動態と局所電位の時間周波数特性: Wavelet解析による検討. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 43) 八島正明, 加藤貴雄, 水野杏一, 浮谷勝郎¹⁾ (1) 浮谷クリニック): 在宅医療における携帯型心電計の有用性. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 44) 太良修平¹⁾, 浅井邦也, 高野仁司, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): 血管内視鏡を含めた血管内イメージングより末梢塞栓予防を施行し黄色プラークを捕獲, 病理組織学的検討ができた1例. 第21回日本心臓血管内視鏡学会, 2007. 10.
- 45) 山下武志¹⁾, 小川 聡²⁾, 奥村 謙³⁾, 加藤貴雄, 新 博次, 小林洋一⁴⁾, 岡崎 修⁵⁾, 田邊見久⁶⁾, 庭野慎一⁷⁾, 相澤義房⁸⁾, 藤木 明⁹⁾, 伊藤 誠⁹⁾, 是恒之宏⁹⁾, 朔啓二郎⁹⁾ (1) (財) 心臓血管研究所, 2) 慶應義塾大学病院, 3) 弘前大学医学部附属病院, 4) 昭和大学病院, 5) 国立国際医療センター, 6) 東海大学医学部附属病院, 7) 北里大学病院, 8) 新潟大学医学部総合病院, 9) その他): 塩酸ペプリジルの持続性心房細動停止効果及びその用量反応性 (プラセボ対照2重盲検比較試験): 医師主導治験J-BAF study. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 46) 宮元亮子, 勝田悌実, 張 雪君, 古明地弘和, 清水秀治, 大須賀勝, 里村克章, 水野杏一: 肝肺症候群ラットモデルにおける低酸素血症と肺内シャント. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.
- 47) 菅谷寿理¹⁾, 福岡長知, 加藤政利¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 林 寛子, 加藤祐子, 愛須紀子, 岸田 浩, 水野杏一 (1) 生理機能センター): 睡眠時無呼吸と経皮炭酸ガス分圧の関係. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.
- 48) 安武ひろ子, 本間 博, 松崎つや子¹⁾, 藤本啓志, 東 春香, 伊藤恵子, 横島友子, 大野忠明, 水野杏一 (1) 生理機能センター): 胸部大動脈壁のStiffnessの検討. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.
- 49) 會田智弘¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 加藤政利¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 牛島明子, 加藤和代, 愛須紀子, 土田貴也, 本間 博, 岸田 浩, 水野杏一 (1) 生理機能センター): ホルター心電計と携帯型血圧計による夜間血圧・心拍関連の検討. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.
- 50) 加藤政利¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 林 寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 岸田浩, 水野杏一 (1) 生理機能センター): 心不全例に見られる運動負荷時周期性呼吸の検討. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.
- 51) 中込明裕¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野仁司, 佐藤直樹, 内田高浩²⁾, 清宮康嗣³⁾, 雪吹周生³⁾, 宗像一雄²⁾, 水野杏一, 高野照夫 (1) 多摩永山病院, 2) 武蔵小杉病院, 3) 千葉北総病院): 虚血性心疾患に対するDihydropyridine系Ca拮抗薬の2次予防効果: β 遮断薬との無作為割付比較試験. 第28回日本臨床薬理学会, 2007. 11.
- 52) 牛島明子, 小原俊彦, 岡崎怜子, 平澤泰宏, 宮内靖史, 本間 博, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一: 遷延する意識障害が主症状で診断に苦慮した若年者冠攣縮性狭心症の1例. 第206回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2007. 12.
- 53) 小橋啓一, 高野仁司, 小宮山英徳, 川中秀和, 鶴見昌史, 森澤太一郎, 山本英世, 高橋保裕, 藤田進彦, 高木元, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一: 冠動脈バイパス術既往患者に対する経皮的冠動脈インターベンションの治療成績. 第21回日本冠疾患学会学術集会, 2007. 12.
- 54) 山本真功¹⁾, 高野雅充¹⁾, 村上大介¹⁾, 田近研一郎¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 白壁章宏¹⁾, 太良修平¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院): シロリムス溶出性ステント留置2年後のステント内新生内膜被覆状況: 血管内視鏡による経時的観察. 第21回日本冠疾患学会学術集会, 2007. 12.
- 55) 時田祐吉¹⁾, 山本 剛¹⁾, 吉田明日香¹⁾, 村井綱児¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 八島正明, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一 (1) 集中治療室): 急性心不全の診断におけるNT-proBNP全血迅速測定の有用性. 第35回日本集中治療学会学術集会, 2008. 2.

- 56) 八島正明, 加藤貴雄: 心電図伝送システムの現状と展望. 第5回心電図伝送システム研究会, 2008. 2.
- 57) 村田広茂, 小原俊彦, 淀川颯司¹⁾, 高山英男²⁾, 加藤貴雄, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院, ²⁾ 久我山病院): 心筋症患者における Wavelet 変換心電図の特徴. 第18回体表心臓微少電位研究会, 2008. 2.
- 58) Setsuta K¹⁾, Seino Y²⁾, Mizuno K (¹⁾ Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Tokyo, ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital): Multibiomarker Risk Stratification Using B-type Natriuretic Peptide Cardiac Troponin T and C-Reactive Protein in Patients with Chronic Heart Failure. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 59) Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Tara S¹⁾, Murakami D¹⁾, Tajika K¹⁾, Inami S¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital): In-Vivo Comparison of Optical Coherence Tomography and Angioscopy for the Evaluation of Coronary Plaque Characteristics. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 60) Setsuta K¹⁾, Kitahara Y²⁾, Arao M²⁾, Seino Y³⁾, Mizuno K (¹⁾ Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ²⁾ Department of Cardiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ³⁾ Chiba Hokusoh Hospital): Chronic Kidney Disease is Related to the Development of Ongoing Myocardial Damage and Cardiovascular Events in Hypertensive Patients. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- (8) Special Session :
- 1) Kobayashi Y, Miyauchi Y, Katoh T, Mizuno K, Nitta T¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Surgery): Catheter Ablation of Atypical Atrial Flutter After Surgical Ablation for Atrial Fibrillation (For Asian Corner) 「Ablation of Atypical Atrial Flutter」. 10th International Workshop on Cardiac Arrhythmias (Venice, Italy), 2007. 10.
- (9) ケースワークセッション :
- 1) 鶴見昌史, 高山守正, 小橋啓一, 西城由之, 川中秀和, 森澤太郎, 太良修平, 山本英世, 高橋保裕, 高木元, 藤田進彦, 高野仁司, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, その他1名: エコーガイド下に用手圧迫で比較的短時間に修復しえた複合型仮性動脈瘤の1例: 適切な圧迫の指標としてのモヤモヤエコー停止像の重要性. 第30回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2007. 5.
- (10) セッション :
- 1) 岩崎雄樹¹⁾, 中田 淳¹⁾, 吉田明日香¹⁾, 村井綱児¹⁾, 上野 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 山本剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 小林義典, 加藤貴雄, 水野杏一 (¹⁾ 集中治療室): 心室頻拍に対して静注用アミオダロンが有効であった4例. 第207回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 2.
- (11) フォーラム :
- 1) Miyauchi Y : Effects of Chronic Administration of Nicotine on Atrial Fibrosis and Vulnerability to AF in Normal and Hypertensive Rats. APAFS 2007 (Taipei, Taiwan), 2007. 10.
- (12) ポスター :
- 1) Takayama M, Kitamura M, Kawashima S, Takagi G, Takano H, Aoki S, Asai K, Fujimoto H, Ohno T, Yasutake M : Excellent Restoration of QOL After Percutaneous Alcohol Septal Myocardial Ablation but Still Requiring Careful Attention for Sudden Death in Medically Refractory HOCM. ESC Congress 2007 (Vienna, Austria), 2007. 6.
- 2) Yamamoto E, Takano H, Yasutake M, Aoki S, Asai K, Kusama Y¹⁾, Takayama M (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital): Application of Ischemic Preconditioning During Coronary Intervention Using a Distal Embolic Protection Device. XIX World Congress of the International Society for Heart Research (Bologna, Italy), 2007. 6.

- 3) Iwasaki Y, Yamashita T¹⁾, Sekiguchi A¹⁾, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K, Sawada H¹⁾, Aizawa T¹⁾ (¹⁾ The Cardiovascular Institute) : Long-Term Treatment with Olmesartan Reduced Aging-Related Interstitial Fibrosis of Rat Atria Inhomogeneously. APAFS 2007 (Taipei, Taiwan), 2007. 10.
- 4) Okazaki R, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K, Yamashita T¹⁾, Sekiguchi A¹⁾ (¹⁾ The Cardiovascular Institute) : Lipopolysaccharide Induces the Down-Regulation of L-type Ca²⁺ Channel Genes in Rat Atria. APAFS 2007 (Taipei, Taiwan), 2007. 10.
- 5) Iwasaki Y, Yamashita T¹⁾, Sekiguchi A¹⁾, Sagara K¹⁾, Sawada H¹⁾, Aizawa T¹⁾, Date T²⁾, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ The Cardiovascular Institute, Tokyo, ²⁾ Jikei Univ. school of Medicine, Tokyo) : Fractalkine Expression and Macrophage Infiltration in rat Atria. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 6) Asai K, Murai K, Shirakabe A, Kamiya M, Satoh N, Mizuno K : The Effect of Sex Hormones and Angiotensin II Receptor Blockade on Development of Left Ventricular Hypertrophy and Diastolic Heart Failure. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 7) Nakagomi A¹⁾, Saiki Y¹⁾, Shibui T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Kamiya M¹⁾, Munakata R¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Uemura R¹⁾, Kodani E¹⁾, Takano H, Aoki S, Yasutake M, Kusama Y¹⁾, Takayama M, Atarashi H¹⁾, et al. (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital) : Metabolic Syndrome Increases the Risk of Mortality in Patients With Acute Coronary Syndromes Underwent Successful Percutaneous Coronary Intervention. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 8) Itakura S¹⁾, Ono T²⁾, Kobayashi Y, Honma H, Munakata K¹⁾, Katoh T, Mizuno K (¹⁾ Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Ono Heart Clinic, Tokyo) : Variance Rate and Amplitude Variance of T-Wave Morphology Variability Analysis Stratify the Highly Arrhythmic Patients by new Criteria. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 9) Yoshida A¹⁾, Kamiya M, Satoh N¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Hirasawa Y, Kato K¹⁾, Tokita Y¹⁾, Murai K¹⁾, Mizuno K, Tanaka K¹⁾ (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit) : Detection of Renotubular Restoration by Carperitide Urinary Live-Type Fatty Acid Binding Protein in Acute Heart Failure . 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 10) Takano H, Kusama Y¹⁾, Yamamoto E, Takahashi Y, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M²⁾, Mizuno K (¹⁾ Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Division of Cardiology, Sakakibara Memorial Hospital, Fuchu) : Possible Role of Reactive Oxygen Species During the Development of Ischemic Preconditioning in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 11) Nakagomi A¹⁾, Saiki Y¹⁾, Shibui T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Kamiya M¹⁾, Munakata R¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Uemura R¹⁾, Kodani E¹⁾, Takano H, Asai K, Yasutake M, Kusama Y¹⁾, Takayama M, Atarashi H¹⁾, et al. (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital) : The Ratio of Low-Density Lipoprotein Cholesterol to High-Density Lipoprotein Cholesterol Predicts Adverse Outcomes in Patients with Acute Myocardial Infarction. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 12) Kato Y, Takayama M, Fukuma N, Ushijima A, Hayashi H, Aisu N, Tsuchida T, Miyatake Y, Mizuno K : Relationship Between B-Type Natriuretic Peptide Response During Exercise and Functional Capacity in Patients with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy . 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 13) Murata H, Takayama M, Kobayashi Y, Yamamoto T, Kitamura M, Okazaki R, Ueno A, Yamamoto E, Takahashi Y, Iwasaki Y, Maruyama M, Takano H, Miyauchi Y, Takano H, Ohara T, et al. : Management of Ventricular Tachyarrhythmia following PTSCMA : Characteristics in Highly Risked HOCM Whom In-

- licated Both PTSMA and ICD-Implantation is PTSMA Harmful?. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 14) Murakami D¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Tara S¹⁾, Tajika K¹⁾, Inami S¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Long-Term Follow-up Evaluation After Sirolimus-Eluting Stent Implantation by Optical Coherence Tomography . 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 15) Murakami D¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Tara S¹⁾, Tajika K¹⁾, Inami S¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹ Chiba Hokusoh Hospital) : Serial Long-Term Evaluation of Neointimal Stent Coverage and Thrombus after Sirolimus-Eluting Stent Implantation by use of Coronary Angioscopy . 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 16) Kamiya M¹⁾, Asai K, Shirakabe A²⁾, Murai K³⁾, Fukumoto H, Satoh N³⁾, Seino Y²⁾, Mizuno K (¹ Tama-Nagayama Hospital, ² Intensive Care Unit, ³ Chiba Hokusoh Hospital) : Angiotensin Receptor Blockade Prevented Diastolic Heart Failure in Ovariectomized Mice with Chronic B-Adrenergic Receptor Stimulation. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 17) Yamamoto E, Takano H, Kawanaka H, Kohashi K, Tsurumi M, Morisawa T, Takahashi Y, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M¹⁾, Mizuno K (¹ Department of Cardiology, Sakakibara Memorial Hospital, Tokyo) : Evidence for the Causative Role of Oxidative Stress in the Development of Contrast-Induced Nephropathy in Patients With Chronic Kidney Disease. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 18) Aoki S, Nakagomi A¹⁾, Komiyama H, Kawanaka H, Kohashi K, Tsurumi M, Morisawa T, Yamamoto E, Takahashi Y, Takagi G, Fujita N, Takano H, Asai K, Yasutake M, Kusama Y¹⁾, et al. (¹ Tama-Nagayama Hospital) : Increased Peripheral Blood Mononuclear Cell Count is an Independent Predictor for Cardiac Events in Patients with Acute Myocardial Infarction. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 19) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Maruyama M, Iwasaki Y, Ueno A, Okazaki R, Murata H, Yamamoto T, Horie T¹⁾, Atarashi H¹⁾, Ohara T, Hirayama Y, Katoh T, Mizuno K (¹ Tama-Nagayama Hospital) : The Incidence and Characteristics of Focal Atrial Tachycardia in Patients Following Open-Heart Surgery . 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 20) Nakata J¹⁾, Takayama M, Matsuzaki T²⁾, Tezuka A³⁾, Fujimoto H, Takagi I, Kobayashi Y, Mizuno K (¹ CCU&ICU, ² Center for Physiological Function, ³ Student, Nippon Medical School Hospital) : Remarkable Incidence of Pulmonary Hypertension Relating to Hypoxemia in Healthy Mountaineers at the top of Mt. Fuji. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 21) Uemura R¹⁾, Kodani E¹⁾, Takano H, Asai K, Yasutake M, Kusama Y¹⁾, Takayama M, Atarashi H¹⁾, Mizuno K (¹ Tama-Nagayama Hospital) : The Ratio of Low-density Lipoprotein Cholesterol to High-density Lipoprotein Cholesterol Predicts Adverse Outcomes in Patients With Acute Myocardial Infarction. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 22) 宮内靖史, 小林義典, 丸山光紀, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 館岡克彦, 上野 亮, 岡崎怜子, 村田広茂, 山本哲平, 小原俊彦, 加藤貴雄, 堀江 格¹⁾ (¹ 多摩永山病院) : 僧帽弁手術後の心房頻拍の特徴: 切開法による違い. 第22回 日本不整脈学会学術大会, 2007. 5.
 - 23) 村田広茂, 小原俊彦, 上野 亮, 淀川顕司, 丸山光紀, 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: Wavelet解析マッピングによる致死性心室性不整脈の非侵襲的予知. 第22回 日本不整脈学会学術大会, 2007. 5.
 - 24) 藤本啓志, 大野忠明, 本間 博, 東 春香, 伊藤恵子, 横島友子, 松崎つや子, 関野玲子, 高野照夫: ドブタミン負荷心エコー中の発作性心房細動例の左房容積の検討. 日本超音波医学会第80回学術集会, 2007. 5.

- 25) 藤田進彦, 川嶋修司, 田中古登子, 青木 聡, 宮本正章, 太田眞夫, 橋本英洋, 高野照夫, 水野杏一: 外来診療での1,5-AG (1,5 anhydroglucitol) 測定意義の検討. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.
- 26) 会田智宏¹⁾, 福岡長知, 菅谷寿理¹⁾, 加藤政利¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 林 寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 本間 博, 岸田 浩, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 新しいドリフト補正プログラムを搭載したポータブル心電計の有用性. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 27) 村井綱児¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 神谷仁孝, 吉田明日香¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 集中治療室): 急性心不全患者における入院時尿酸値測定の意義. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 28) 中田 淳¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 村井綱児¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 集中治療室): 循環器救急患者発症に関与するのは比較的短期的な疲労か慢性疲労か?. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 29) 菅谷寿理¹⁾, 福岡長知, 加藤政利¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 林 寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 本間 博, 岸田 浩, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における経皮炭酸ガス分圧測定の有用性. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 30) 太良修平, 高木 元, 加藤浩司, 高野仁司, 高木郁代, 安武正弘, 宮本正章, 水野杏一: 自己骨髄幹細胞移植による血管再生治療後の下肢切断予測因子の検討. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 31) 阿曾亮子¹⁾, 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 高柳和江²⁾, 飯野靖彦³⁾, 小林義典, 清野精彦, 日高廣人⁴⁾ (¹⁾ 教育推進室, ²⁾ 医療管理学, ³⁾ 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), ⁴⁾ 日本医科大学SP): 日本医科大学のAdvanced OSCE全員トライアルのためのSP養成の取組み. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 32) 会田智弘¹⁾, 菅谷寿理¹⁾, 加藤政利¹⁾, 宗方祐美子¹⁾, 吉田由紀子¹⁾, 竹田裕子¹⁾, 佐藤淳子¹⁾, 平野美子¹⁾, 青木 亘¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 福岡長知, 林 寛子, 牛島明子, 加藤和代, 加藤祐子, その他5名 (¹⁾ 生理機能センター): 心臓リハビリテーションにおける歩行負荷試験の問題点. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 33) 見友優子¹⁾, 松崎つや子¹⁾, 関野玲子¹⁾, 田尾清一¹⁾, 水瀬 学¹⁾, 中村利枝¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 本間 博¹⁾, 藤本啓志, 東 春香, 大野忠明, 水野杏一 (¹⁾ 生理機能センター): 大動脈の厚さと堅さ: Strain rate Imagingを用いて. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 34) 板倉潮人¹⁾, 小野卓哉, 小野いすず, 岩崎雄樹, 小林義典, 本間 博, 宗像一雄, 加藤貴雄, 水野杏一 (¹⁾ 武蔵小杉病院内科): 健常例に対するカフェイン飲水負荷がHead up tilt試験中の血行動態に及ぼす影響. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 35) 福岡長知, 真鍋宏美, 及川恵子, 林 寛子, 牛島明子, 小川 紅, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 愛須紀子, 宮武佳子, 岸田 浩, 水野杏一: 圧受容体反射機能と運動負荷時高血圧. 第30回日本高血圧学会総会, 2007. 10.
- 36) 川中秀和, 高野仁司, 森澤太郎, 中田 淳¹⁾, 西城由之, 鶴見昌史, 小橋啓一, 山本英世, 山本 剛¹⁾, 高木 元, 藤田進彦, 浅井邦也, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一 (¹⁾ 集中治療室): 急性冠症候群で入院した職業運転手の冠危険因子と冠動脈造影所見の特徴. 第21回日本冠疾患学会学術集会, 2007. 12.
- 37) 吉田明日香¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 中田 淳¹⁾, 村井綱児¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 秋谷麻衣, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一 (¹⁾ 集中治療室): 冠動脈病変を合併したChurg-Strauss症候群の1例. 第21回日本冠疾患学会学術集会, 2007. 12.
- 38) 吉田明日香¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 水野杏一, 佐藤格夫²⁾, 山本保博²⁾, 田島廣之³⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 救急医学, ³⁾ 放射線科): 循環不全を伴った左房を圧排する巨大嚢状胸郭部大動脈瘤に対し緊急ステントグラフト術を行い救命できた1例. 第35回日本集中治療学会学術集会, 2008. 2.
- 39) 中田 淳¹⁾, 山本 剛¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 安武正弘, 水野杏一, 田島廣之²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 放射線科): Acute on Chronic肺塞栓症への血栓吸引後に生じた再灌流後肺水腫に対しNPPVとSivelestatが有効であった1例. 第35回日本集中治療学会学術集会, 2008. 2.

- 40) 中田 淳¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 村井綱児¹⁾, 吉田明日香¹⁾, 水野杏一, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 集中治療室) : 循環器救急疾患患者におけるヒトヘルペスウイルスDNA量測定の意義. 第35回日本集中治療学会学術集会, 2008. 2.
- 41) 三井誠司¹⁾, 安藤岳史¹⁾, 横塚 基¹⁾, 本郷 卓¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 麻酔科) : 胸腹部人工血管置換術後, 眼球陥凹を呈した1例. 第35回日本集中治療学会学術集会, 2008. 2.
- 42) Miyauchi M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Okazaki R, Kobayashi Y, Katoh T, Mizuno K : Effects of Chronic Nicotine Administration on Atrial Fibrosis and Vulnerability to Atrial Fibrillation in Normal and Hypertensive Rats. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 43) Fukuma N, Sugaya J¹⁾, Hayashi H, Ushijima A, Kato K, Kato Y, Tsuchida T, Aisu N, Miyatake Y, Kishida H, Mizuno K (¹⁾ Physiological Examination Center) : Obstructive Sleep Apnea Syndrome Leads to Nighttime Hypertension Through Hypercapnia. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 44) Sugaya J¹⁾, Fukuma N, Hayashi H, Ushijima A, Kato K, Kato Y, Aisu N, Tsuchida T, Miyatake Y, Saito K¹⁾, Kishida H, Mizuno K (¹⁾ Physiological Examination Center) : Increase in Arterial Pressure of Carbon Dioxide Impacts on Cardiovascular System in Heart Disease Patients With Obstructive Sleep Apnea Syndrome. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 45) Hirayama Y, Atarashi H¹⁾, Kobayashi Y, Ohara T, Maruyama M, Yashima M, Miyauchi Y, Iwasaki Y, Katoh T, Takano T, Mizuno K (¹⁾ Tama-Nagayama Hospital) : Comparison of Upstream Therapies for Paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients Without Overt Heart Diseases . 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 46) Takahashi Y, Takano H, Komiyama H, Kawanaka H, Tsurumi M, Kohashi K, Morisawa T, Yamamoto E, Fujita N, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Takayama M¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Division Cardiology, Fuchu) : Analysis of Risk Factors for Aspirin-Induced Gastrointestinal Mucosal Injury in Patients With Cardiovascular Disease . 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 47) Hayashi H, Fukuma N, Sugaya J¹⁾, Ushijima A, Kato Y, Kato K, Aisu N, Tsuchida T, Miyatake Y, Kishida H, Mizuno K (¹⁾ Physiological Examination Center) : Sleep Apnea With Abnormal Arterial Pressure of Carbon Dioxide Accompanies With Disturbed Respiratory Response to Exercise Test in Heart Disease. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 48) Yamamoto T¹⁾, Nakata J¹⁾, Yoshida A¹⁾, Murai K¹⁾, Ueno A¹⁾, Tokita Y¹⁾, Kato K¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Sato N¹⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K, Tajim H²⁾ (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit, ²⁾ The Department of Radiology) : Restricted Local Thrombolysis for Patients With Acute Major Pulmonary Embolism Relatively Contraindicated to Thrombolysis . 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- (13) 特別研究 :
- 1) Takagi G, Miyamoto M, Yasutake M, Kawanaka H, Tara S, Takano H, Kato K¹⁾, Takagi I, Mizuno K (¹⁾ Coronary Care Unit) : Next Paradigm of PAD Treatment Multifactor Management Approach. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 2) Yamamoto M¹⁾, Inami T¹⁾, Tara S¹⁾, Murakami D¹⁾, Tajika K¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Seino Y¹⁾, Mizuno K (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital) : Relationship Between Thin Cap Fibroatheroma Identified by Virtual Histology and Angioscopic Yellow Plaque in Quantitative Analysis with Colorimetry. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- (14) 特別研究報告 :
- 1) 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 安武正弘, 高野仁司, 川中秀和, 高木郁代, 水野博司¹⁾, 松田範子²⁾, 秋丸琥甫²⁾, 徳永 昭²⁾, 水野杏一 (¹⁾ 形成外科・美容外科, ²⁾ 高気圧酸素治療部) : 治療抵抗性末梢動脈疾患に対

する先進併用療法：マゴットセラピー，高気圧酸素療法，自己骨髄幹細胞による血管新生療法を併用した新治療法．第42回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会，2007．11．

(15) 報告：

- 1) 加藤貴雄：家庭用心電計の評価と適正使用に関する日本心電学会ステートメント．第24回日本心電学会学術集会，2007．10．

[付属病院老人科]

研究概要

高齢者の糖尿病，動脈硬化，脂質代謝異常，高血圧症および自律神経機能に関する臨床的研究を行った．

糖尿病に関して，1) コレスチミドの血糖降下作用の一部に消化管ホルモンのGLP-1が関与することを明らかにした．2) 高齢者糖尿病において，内皮依存性血管拡張反応が網膜症を有する群で障害されていることを明らかにした．3) 糖尿病性網膜症が動脈伸展性と関連する成績を得た．4) 食後血糖値の指標としての1，5 AGの加齢変化を明らかにした．5) 高齢2型糖尿病患者における食後血糖値の変動の要因を治療法別に血糖日内変動から比較検討した．6) 厚生労働省長寿科学総合研究「高齢者糖尿病に対する総合診療体制確立のための総合研究－無作為化比較研究（J-EDIT）を中心に」の経年観察を行った．7) スルホニル尿素薬の至適投与法を血糖日内変動から比較検討した．8) 自律神経機能の評価法としてのウエーブレット解析の有用性を細小血管障害との関連から検討した．

動脈硬化に関して，1) 高齢者の頸動脈内膜中膜複合体厚（IMT）測定の臨床的意義を検討した．

高血圧症に関して，1) 高齢者高血圧コホート研究：高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度，高血圧合併症との関連臨床コホート研究（J-CHEARS）を行った．2) ARBと利尿薬の併用療法の有用性と安全性を高齢者で確認した．自律神経機能に関して，高齢者に見られる無症候性白血球尿と自律神経機能の関係を明らかにした．

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Sasaki J¹⁾, Kita T²⁾, Mabuchi H³⁾, Matsuzaki M⁴⁾, Matsuzawa Y⁵⁾, Nakaya Y, Oikawa S⁶⁾, Saito Y⁷⁾, Shimamoto K⁸⁾, Kono S⁹⁾, Itakura H¹⁰⁾, the J-LIT Study Group (1) International University Graduate School of Health and Welfare, 2) Kyoto University Graduate School of Medicine, 3) Kanazawa University Graduate School of Medicine, 4) Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 5) Osaka University Graduate School of Medicine, 6) Nippon Medical School, 7) Chiba University Graduate School of Medicine, 8) Sapporo Medical University School of Medicine, 9) Kyushu University Faculty of Medical Sciences, 10) Ibaraki Christian University) : Gender difference in coronary events in relation to risk factors in Japanese hypercholesterolemic patients treated with low-dose simvastatin. *Cir J* 2006 ; 70 (7) : 810-814.
- 2) Shimamoto K¹⁾, Kita T²⁾, Mabuchi H³⁾, Matsuzaki M⁴⁾, Matsuzawa Y⁵⁾, Nakaya N, Oikawa S⁶⁾, Saito Y⁷⁾, Sasaki J⁸⁾, Itakura H⁹⁾, the J-LIT Study Group (1) Sapporo Medical University School of Medicine, 2) Kyoto University Graduate School of Medicine, 3) Kanazawa University Graduate School of Medicine, 4) Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 5) Osaka University Graduate School of Medicine, 6) Nippon Medical School, 7) Chiba University Graduate School of Medicine, 8) International University Graduate School of Health and Welfare, 9) Ibaraki Christian University) : Effects of hypertension and type 2 diabetes mellitus on the risk of total cardiovascular events in Japanese patients with hypercholesterolemia : Implications from the Japan Lipid Intervention Trial (J-LIT). *Hypertens Res* 2007 ; 30 (2) : 119-123.

- 3) 大塚邦明¹⁾, 渡辺尚彦¹⁾, 谷田貝茂雄²⁾, 坂本俊雄³⁾, 須藤秀明⁴⁾, Ad Hoc Working Group (¹⁾ 東京女子医科大学東医療センター, ²⁾ やたがいクリニック, ³⁾ 坂本クリニック, ⁴⁾ 城北診療所) : 厳格な降圧治療による早期高血圧の抑制が自律神経系と抑うつ気分に及ぼす影響. 自律神経 2007 ; 44 (1) : 37-43.

(1) 原著 :

- 1) Oikawa S¹⁾, Kita T²⁾, Mabuchi H³⁾, Matsuzaki M⁴⁾, Matsuzawa Y⁵⁾, Nakaya N⁶⁾, Saito Y⁷⁾, Sasaki J⁸⁾, Shimamoto K⁹⁾, Itakura H¹⁰⁾, the J-LIT Study Group (¹⁾ Nippon Medical School, ²⁾ Kyoto University Graduate School of Medicine, ³⁾ Kanazawa University Graduate School of Medicine, ⁴⁾ Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ⁵⁾ Sumitomo Hospital, ⁶⁾ Nakaya Clinic, ⁷⁾ Chiba University Graduate School of Medicine, ⁸⁾ International University Graduate School of Health and Welfare, ⁹⁾ Sapporo Medical University School of Medicine, ¹⁰⁾ Ibaraki Christian University) : Risk of coronary events in Japanese patients with both hypercholesterolemia and type 2 diabetes mellitus on low-dose simvastatin therapy : Implication from Japan Lipid Intervention Trial (J-LIT). Athelosclerosis 2007 ; 191 (4) : 440-446.
- 2) Suzuki T, Oba K, Igari Y, Matsumura N, Watanabe K, Futami-Suda S, Yasuoka H, Ouchi M, Suzuki K, Kigawa Y, Nakano H : Colestimide lowers plasma glucose levels and increases plasma Glucagon-like Peptide-1 (7-36) levels in patients with type 2 diabetes mellitus complicated hypercholesterolemia. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (5) : 338-343.
- 3) Watanabe K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Relationship between diabetic retinopathy and vascular endothelial function in elderly type 2 diabetic Japanese patients without cardiovascular disease. Geriatrics Gerontology International 2007 ; 7 (6) : 348-351.
- 4) Sada A¹⁾, Katayama Y¹⁾, Yamamoto K¹⁾, Okuyama S²⁾, Nakata H³⁾, Shimada H⁴⁾, Oshimi K⁵⁾, Mori M⁶⁾, Matsui T¹⁾, JELLS Group (¹⁾ Hematology/Oncology, Department of Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Medicine, Akita University School of Medicine, ³⁾ Department of Medicine, Kochi Medical School, ⁴⁾ Department of Medicine, Kyushu University School of Medicine, ⁵⁾ Hematology, Department of Medicine, Juntendo University School of Medicine, ⁶⁾ Tama Hokubu Medical Center) : A multicenter analysis of the FIP1L1-*a* PDGFR fusion gene in Japanese idiopathic hypereosinophilic syndrome : an aberrant splicing skipping the *a* PDGFR exon 12. Ann Hematol 2007 ; 86 (12) : 855-863.
- 5) 渡邊健太郎, 鈴木達也, 猪狩吉雅, 松村典昭, 中野博司, 大庭建三 : 血圧コントロール不十分な高齢糖尿病病併高血圧症患者における Valsartan 80mg から Losartan 50mg と Hydrochlorothiazide 12.5mg 併用療法変更による降圧降下および糖代謝に対する影響の検討. Therapeutic Research 2007 ; 28 (7) : 1327-1335.
- 6) 渡邊健太郎, 鈴木達也, 猪狩吉雅, 松村典昭, 中野博司, 大庭建三 : 血圧コントロール不十分な高齢高血圧症患者に対する ARB/利尿薬併用療法および ARB 高用量療法の降圧効果および生化学マーカーに対する影響の検討. Progress in Medicine 2007 ; 27 (12) : 2915-2922.

(2) 総説 :

- 1) 中野博司 : 高齢者の脱水症への対策. 日本医事新報 2007 ; (4334) : 62-66.
- 2) 鈴木達也, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 松村典昭, 大庭建三 : 陰イオン交換樹脂. 日本臨床 2007 ; 65 (増刊号7) : 483-488.
- 3) 鈴木達也, 須田章子, 大内基司, 木川好章, 大庭建三 : 高LD (a) 血症. 日本臨床 2007 ; 65 (増刊号7) : 348-353.
- 4) 中野博司 : メタボリック・シンドロームについて. 東京の国保 2007 ; 48 (568) : 8-11.
- 5) 中野博司 : 高齢者における脱水の予防と治療. 日本薬剤師会雑誌 2007 ; 59 (10) : 1473-1477.
- 6) 角田美佐子, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 集中治療室) : 高齢者集中治療の最近の動向 ; 高齢者の循環管理 : 最近の動向.

ICUとCCU 2007 ; 31 (10) : 739-747.

7) 中野博司：高齢者糖尿病の薬物療法の考え方と注意点. 内分泌・糖尿病科 2007 ; 26 (6) : 652-658.

8) 中野博司：診療の秘訣：高齢者の軽症糖尿病. Modern Physician 2008 ; 28 (1) : 103-103.

9) 中野博司：頸動脈硬化症. Modern Physician 2008 ; 28 (2) : 255-255.

(3) 研究報告書：

1) 大内尉義¹⁾, 小島太郎¹⁾, 大橋靖雄²⁾, J-CHEARS study グループ (¹⁾ 東京大学加齢医学講座, ²⁾ 東京大学疫学予防保健学) : 高齢者高血圧コホート研究 (J-CHEARS Study). 公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成18年度研究報告集 2007 ; 3-3.

(4) 症例報告：

1) 鈴木一成, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 永山 寛¹⁾, 横尾英明²⁾, 田村浩一³⁾, 片山泰朗¹⁾, 杉崎祐一⁴⁾, 大庭建三 (¹⁾ 内科学第二, ²⁾ 群馬大学病態病理学, ³⁾ 東京通信病院病理科, ⁴⁾ 病理部) : プリオン蛋白遺伝子 codon180 と codon129 の MV 多型を伴った Creutzfeldt-Jacob の 1 例. 日老医誌 2008 ; 45 (1) : 107-111.

著 書

1) 下門顕太郎¹⁾, 中野博司 (¹⁾ 東京医科歯科大学老年内科) : [編集] 老年医学update 2007-08 (日本老年医学会雑誌編集委員会), 2007 ; メジカルビュー社.

2) 中野博司 : [分担] 高齢者の生活習慣病にかかわる栄養管理. 老年医学update 2006-07 (日本老年医学会雑誌編集委員会), 2007 ; pp56-64, メジカルビュー社.

学会発表

(1) シンポジウム：

1) Watanabe K, Suzuki K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : The variations of pre and postprandial glucose level in Japanese type 2 diabetic patients treated with diet-alone . 14th Japan-Korea Symposium on Diabetes Mellitus 2007 (Kyoto),

2) Nakano H, Oba K : Oral medications and insulin treatment for frail older diabetics. 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (Beijing), 2007. 10.

3) 中野博司, 大庭建三 : 高齢者糖尿病ケアの問題点 ; 高齢者糖尿病の薬物療法の考え方と注意点. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.

4) 中野博司 : 高齢者における薬物療法のエビデンス ; 高齢者糖尿病の管理と薬物療法. 第17回日本医療薬学会年会, 2007. 9.

5) 安岡比呂子, 猪狩吉雅, 大内基司, 渡邊健太郎, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : これからの老年医学 : 各施設の取り組み : 高齢者の過活動膀胱 (OAB) と QOL. 第10回 Geriatric Medical Frontier Forum, 2007. 11.

(2) セミナー：

1) 大庭建三 : 高齢者糖尿病治療の実際 : 経口血糖降下薬療法を中心に. 第49回日本老年医学会学術集会, 2007. 6.

2) 大庭建三 : 高齢者糖尿病治療の実際 : 経口血糖降下薬療法を中心に. 第42回日本成人病 (生活習慣病) 学会, 2008. 1.

(3) 一般講演：

1) Watanabe K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Relationship between diabetic retinopathy and carotid distensibility coefficient in elderly type 2 diabetic Japanese patients. 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (Beijing), 2007. 10.

2) Kigawa Y, Oba K, Watanabe K, Suzuki T, Nakano H : Once daily regimen versus twice daily regimen of

sulfonylureas in elderly type 2 diabetic patients. 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (Beijing), 2007. 10.

- 3) 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 若壮年者と高齢者における糖尿病性網膜症と自律神経障害の関連性の検討: 断面調査による検討. 第104回日本内科学会講演会, 2007. 4.
- 4) 渡邊健太郎, 大内基司, 小野寺直子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病性網膜症と動脈伸展性との関連の検討: 断面調査による検討. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.
- 5) 小野寺直子, 中野博司, 渡邊健太郎, 小原 信, 吉松寛臣, 安岡比呂子, 松村典昭, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 大庭建三: 高齢者の頸動脈内中膜複合体厚の臨床的意義に関する検討. 第49回日本老年医学会学術集会, 2007. 6.
- 6) 大内基司, 山下英俊, 吉松寛臣, 安岡比呂子, 小野寺直子, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 食後高血糖の指標としての1, 5-Anhydroglucitol (1, 5AG): 加齢性変化について. 第49回日本老年医学会学術集会, 2007. 6.
- 7) 渡邊健太郎, 角田美佐子, 小原 信, 関水憲一, 大内基司, 松村典昭, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者糖尿病性網膜症と動脈伸展性の関連性の検討: 断面調査による検討. 第49回日本老年医学会学術集会, 2007. 6.
- 8) 木川好章, 二見章子, 野呂瀬準, 鈴木一成, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: グリベンクラミドおよびグリクラジドの投与法に関する検討: 1回および2回分割投与時の血糖日内変動からの比較. 第49回日本老年医学会学術集会, 2007. 6.
- 9) 猪狩吉雅, 小野寺直子, 松村典昭, 鈴木一成, 安岡比呂子, 関水憲一, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 無症候性白血球尿に関する研究. 第49回日本老年医学会学術集会, 2007. 6.
- 10) 橋本雅夫, 大西哲郎, 青木洋平, 鈴木一成, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 食事療法単独の2型糖尿病患者における空腹時および食後血糖値の変動に関する検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 11) 山下英俊, 大西哲郎, 安岡比呂子, 鈴木一成, 小野寺直子, 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 全身の高度動脈硬化を認めた無症候性左鎖骨下動脈狭窄の1例. 第46回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 12) 橋本雅夫, 小原 信, 野呂瀬準, 大内基司, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病を持つ高齢慢性心不全患者に認められた卵円孔開存症の1例. 第46回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 13) 野呂瀬準, 本山正幸, 山下英俊, 大内基司, 橋本雅夫, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 感冒症状で発症後, 急激に呼吸不全に移行した高齢糖尿病の1例. 第46回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 14) 安岡比呂子, 吉松寛臣, 関水憲一, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 血中アンモニア値と血糖値の間に高い相関を認めた肝硬変合併2型糖尿病の1例. 第46回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 15) 小原 信, 橋本雅夫, 安岡比呂子, 大西哲郎, 小野寺直子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: コントロール不良の高血圧により発見された褐色細胞腫の1例. 第46回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 16) 鈴木一成, 渡邊健太郎, 大西哲郎, 木川好章, 青木洋平, 須田章子, 角田美佐子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 食事療法単独の高齢2型糖尿病患者における空腹時および食後血糖値の変動に関する検討. 第46回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 17) 須田章子, 渡邊健太郎, 大内基司, 鈴木一成, 橋本雅夫, 大西哲郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: インスリン分泌促進薬療法中の2型糖尿病患者における食前および食後血糖値の変動の検討. 第45回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2008. 1.
- 18) 山下英俊, 菊池友太, 関水憲一, 安岡比呂子, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 非典型的なBasedow病の臨床経過をとった高齢者糖尿病の1例. 第47回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2008. 3.

- 19) 森澤太一郎¹⁾, 浅井邦也¹⁾, 村井綱兄²⁾, 小原 信, 中澤 賢³⁾, 田中啓治²⁾, 田島廣之³⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 循環器内科, 2) 集中治療室, 3) 放射線科) : 胸部大動脈ステントグラフト留置後に遠隔期再破裂を来たし, 再度ステントグラフト留置術にて治療可能であった高齢者の1例. 第47回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2008. 3.
- 20) 橋本雅夫, 小原 信, 吉松寛臣, 角田美佐子, 野呂瀬準, 大内基司, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 胆嚢炎および前立腺膿瘍を認めた高齢者敗血症の1例. 第47回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2008. 3.
- 21) 小原 信, 二見章子, 小野寺直子, 大西哲郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 水野重芳¹⁾, 鯉淵 仁¹⁾, 木川好章¹⁾ (1) 飯能老年病センター) : 食道胸腔瘻を合併した高齢者糖尿病の1例. 第47回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2008. 3.

[武蔵小杉病院内科 (内科, 循環器科, 神経内科)]

研究概要

循環器病学, 腎臓病学, 呼吸器病学, 神経内科学において研究が行われている.

循環器病学ではRIを用いて心電図同期SPECTによる左質非同期生涯の評価の検討で原著論文を発表した.

腎臓病学では血液浄化療法を中心とした研究が行われ, 特に血液浄化が不整脈や体内水分量に及ぼす影響についての研究やLDLアフェレーシスについての研究, 透析液の清浄化についての研究が継続的に行われている. また, 慢性関節リウマチに対する白血球除去療法についての研究も行われ, 成果をまとめている.

神経内科学では文部科学省の社会連携事業である認知症患者の社会連携構築についての研究が行われている.

呼吸器病学では, びまん性肺疾患については難治性間質性肝炎における免疫抑制剤とエンドトキシン吸着療法(PMX)の有効性の検討. 悪性疾患については75歳以上の高齢者肺癌を化学療法放射線治療併用, 化学療法単独, 放射線治療単独, BSCの4群に振り分け全生存率とQOLに関して調査比較検討を行い学会で発表した.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 北村 伸 : メタボリックシンドロームからみたアルツハイマー型認知症発症予防の可能性. 老年精神医学雑誌 2007 ; 18 (10) : 1100-1103.
- 2) Yamamoto A¹⁾, Takahashi N, Munakata K, Abe K¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Tamai J¹⁾, Shiiba M²⁾, Okuyama T²⁾, Kaneshiro T²⁾, Turuta H²⁾, Takama T²⁾, Satou M²⁾ (1) Department of Radiology Tama-nagayama Hospital, 2) Department of Radiology Musashikosugi Hospital) : Relationships among Regional Diastolic Impairment, Elongation of Global Time to Peak Filling rate, and Global Diastolic Function using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT in Heart Failure. *Annals Nuclear Medicine* 2007 ; 21 : 419-427.
- 3) Yamamoto A¹⁾, Takahashi N, Munakata K, Hosoya T²⁾, Shiiba M³⁾, Okuyama T³⁾, Abe K¹⁾, Kaneshiro T³⁾, Turuta H³⁾, Takama T³⁾, Sato M³⁾ (1) Department of Radiology Tama-nagayama Hospital, 2) Fuji Firm Pharm, 3) Department of Radiology Musashikosugi Hospital) : Global and Regional Evaluation of Systolic and Diastolic Left Ventricular Parameters using a Novel Program for ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT-Validation by Comparison with Gated Equilibrium Radionuclide Angiography and Speckle-Tracking Radial Strain from Echocardiography. *Annals Nuclear Medicine* 2007 ; 21 : 115-121.
- 4) Takahashi N, Yamamoto A¹⁾, Tezuka S, Ishikawa M, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Iwahara S, Munakata K (1) Department of Radiology Tama-nagayama Hospital) : Assessment of Left Ventricular Dyssynchrony During Development of Heart Failure by a Novel Program Using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT. *Circulation Journal* 2008 ; 72 (3) : 370-377.

- 5) Ijuin M¹⁾, Honma A¹⁾, Mimura M²⁾, Kitamura S, Kawai Y³⁾, Imai Y⁴⁾, Gondo Y⁵⁾ (¹⁾ Research Team for Promoting Independence of the Elderly , ²⁾ Department of Neuropsychiatry, Showa University School of Medecine, ³⁾ Tsurukawa Sanatorium Hospital , ⁴⁾ Graduate School of Medecine, ⁵⁾ Human Care Research Team, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Validation of the 7-Minute Screen for the Detection of Early-Stage Alzheimer' s Disease. Denent Geriatr Cogn Disord 2008 ; 25 : 248-255.

(2) 総説 :

- 1) 北村 伸 : 治せる認知症とその治し方 : 見逃さないために. Medical Practice 2007 ; 24 (8) : 1385-1390.
2) 北村 伸, 岩本将人 : 認知症の病態. 看護技術 2007 ; 53 (12) : 1019-1024.
3) 北村 伸 : アルツハイマー病の治療・管理 : 経過と予後. Nippon Rinsho 2008 ; 66 (1) : 428-432.
4) 北村 伸, 岩本将人 : 認知症と似て非なる病態-加齢による物忘れ, 抑うつ, せん妄. medicina 2007 ; 44 (6) : 1044-1046.

著 書

- 1) 村澤恒男, 酒井行直 : [分担] 浮腫 心疾患を合併した場合. 腎疾患・透析最新の治療 (飯野靖彦, 横野博史, 秋澤忠男), 2008 ; pp62-66, 南江堂.
2) 高橋直人, 宗像一雄 : [分担] 救急現場における心電図 その3 波形の異常. Emergency, 2007 ; pp43-52.
3) 望月 徹¹⁾, 山口朋禎 (¹⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター) : [分担] 結核. 救急医学 特異な経過をたどった症例・事例から学ぶ, 2007 ; pp1626-1627, へるす出版.

学会発表

(1) セミナー :

- 1) 北村 伸 : 血管性認知症の診断における SPECT の役割. 第66回脳神経外科学会総会, 2007. 9.

(2) 一般講演 :

- 1) Takahashi N, Yamamoto A¹⁾, Tezuka S, Hanaoka D, Ishikawa M, Kawaguchi N, Uchida T, Kazuo M (¹⁾ Department of Radiology Tama-nagayama Hospital) : The Relationship between Left Ventricular Systolic Dyssynchrony and Wall Stress in Patients with Hypertension and Preserved Ejection Fraction . 8th International Conference of nuclear cardiology (Prague), 2007. 4.
2) Takahashi N, Yamamoto A¹⁾, Miwa Y, Kojima M, Ishikawa M, Kawaguchi N, Uchida T, Kazuo M (¹⁾ Department of Radiology Tama-nagayama Hospital) : The Assessment of Diastolic Dyssynchrony by Tc99m Sestamibi-Gated-SPECT using a Novel Program "cardioGRAF" in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. 8th International Conference of nuclear cardiology (Prague), 2007. 4.
3) Honma A¹⁾, Kitamura S, Yoshimura I²⁾ (¹⁾ Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , ²⁾ Department of Management Science, Faculty Engineering, Tokyo University of Science) : Efficacy of Memantine in patients with moderately severe to severe Alzheimer' s disease in Japan (dose-finding study). 11th congress of European Neurological Societies (Brussels, Belgium), 2007. 8.
4) Takahashi N, Yamamoto A¹⁾, Tezuka S, Masato I, Ishikawa M, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K (¹⁾ Department of Radiology Tama-nagayama Hospital) : Angiotensin II Receptor Blockade might Express Left Ventricular Remodeling Effects through Improving Left Ventricular Dyssynchrony in hypertension. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
5) Ishikawa M, Yamamoto A¹⁾, Takahashi N, Tezuka S, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K (¹⁾ Department of Radiology Tama-nagayama Hospital) : Relationship Between Chronic Kidney Disease (CKD) and Left Ventricular Function/Dyssynchrony Assessed by Tc99m-se-

- tamibi-Gated-SPECT using a Novel Program “cardioGRAF”. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
- 6) Ishikawa M, Yamamoto A¹⁾, Takahashi N, Abe J, Amitani K, Yamaguchi T, Kawaguchi N, Uchida T, Munakata K (1) Department of Radiology Tama-nagayama Hospital) : Systolic and Diastolic Left Ventricular Wall motion Dyssynchrony Assessed by 99mTc-sestamibi-Gated-SPECT in Patient with Hypertension. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 7) Itakura S, Ono T¹⁾, Ono I²⁾, Kobayashi Y²⁾, Honma H²⁾, Munakata K²⁾, Katoh T²⁾, Mizuno K (1) Ono Heart Clinic, 2) Department of Cardiology Nippon Medical School Hospital) : Variance Rate and Amplitude Variance of T-wave Morphology Variability Analysis Stratify the Highly Arrhythmic Patients by New Criteria. 第72回日本循環器学会総会・学術集会, 2008. 3.
 - 8) 山本 彰¹⁾, 高橋直人, 椎葉 真¹⁾, 奥山孝男¹⁾, 阿部和也¹⁾, 金城忠志¹⁾, 鶴田晴子¹⁾, 高間都支¹⁾, 佐藤雅史¹⁾, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院放射線科) : 心電図同期SPECTによる心不全における拡張能の検討. 第66回日本医学放射線学会総会, 2007. 4.
 - 9) 山本 彰¹⁾, 高橋直人, 椎葉 真¹⁾, 奥山孝男¹⁾, 阿部和也¹⁾, 金城忠志¹⁾, 鶴田晴子¹⁾, 高間都支¹⁾, 佐藤雅史¹⁾, 宗像一雄, その他5名 (1) 武蔵小杉病院放射線科) : 心電図同期SPECTによる心不全における拡張運動同期異常の検討. 第66回日本医学放射線学会総会, 2007. 4.
 - 10) 酒井行直, 藤堂紗織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄 : IgA腎症に対するLDLアフェレーシスによる蛋白尿減少効果の検討. 第50回日本腎臓学会学術総会, 2007. 5.
 - 11) 村澤恒男, 酒井行直, 藤堂紗織, 大塚智之, 大野 大, 網谷賢一, 宗像一雄 : 維持透析患者の不整脈とRA系との関連性 : QT dispersionの増大とホルター心電図からの検討. 第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
 - 12) 網谷賢一, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 尾崎 傑¹⁾, 磯野友昭¹⁾, 門松 豊¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 維持透析患者の血液透析前後の細胞内外水分量変化, 体液液性因子と心室性不整脈, 心事故との関連について. 第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
 - 13) 大野 大, 酒井行直, 藤堂紗織, 大塚智之, 村澤恒男 : carvedilolとpimobendanにより著明に改善した尿毒症性心筋症の2例. 第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
 - 14) 藤堂紗織, 酒井行直, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 宗像一雄, 加藤和久¹⁾, 尾崎 傑¹⁾, 磯野友昭¹⁾, 門松 豊¹⁾ (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : infliximab抵抗性RA患者に対する大量処理LCAPの有効性の検討. 第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
 - 15) 尾崎 傑¹⁾, 門松 豊¹⁾, 加藤和久¹⁾, 磯野友昭¹⁾, 藤堂紗織, 大塚智之, 大野 大, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院血液浄化療法室) : 透析液清浄化管理におけるクオリティーモニターの有用性. 第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
 - 16) 板倉潮人, 内田高浩, 手塚信吾, 大野 大, 高橋直人, 宗像一雄 : 左冠動脈主幹部, 左前下行枝と多発性に冠動脈瘤を認めた透析患者の1例. 第101回日本シネアンジオ研究会, 2007. 6.
 - 17) 板倉潮人, 小野卓也¹⁾, 小野いすず¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 小林義典¹⁾, 本間 博¹⁾, 宗像一雄, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 付属病院第一内科) : 健常例に対するカフェイン飲水負荷がHead up tilt試験中の血行動態に及ぼす影響. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
 - 18) 北村 伸 : 認知症の早期発見から予防までを考える. 第55回日本職業・災害医学会学術大会, 2007. 11.
 - 19) 北村 伸 : 脳核医学検査をいかに活用するか 神経内科医の立場から. 第21回神奈川PET・SPECT研究会, 2007. 11.
 - 20) 小西真理世, 岩本将人, 高橋直人, 北村 伸, 宗像一雄 : 歩行困難で発症し, 意識障害の後に対麻痺を呈したベーチェット症の1例. 第71回神奈川県内科医学会集談会, 2008. 2.
 - 21) 原田英博, 山口朋禎, 本郷公英, 板倉潮人, 宗像一雄 : 当院における高齢者肺癌に対する化学療法の現状. 第

25回川崎市医師会医学会, 2008. 2.

- 22) 岩本将人, 中村有希, 宗像一雄, 南 史朗: ノボラピッド30Mix により血糖コントロール困難となった3症例. 第18回臨床臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.
- 23) 中村有希, 岩本将人, 宗像一雄, 南 史朗: アルコール過飲が原因と考えられた低リン血症性骨軟化症の1例. 第18回臨床臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.

[多摩永山病院内科, 循環器内科]

研究概要

当医局は循環器専攻の内科医により構成されているが, 多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とする体制をとっている. 虚血性心疾患, 不整脈などの循環器専門領域の他, 高血圧症, 糖尿病, 脂質異常症, メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD)などを対象に実地臨床に即した臨床研究を主体に研究を行っている.

- 1) 経皮的カテーテルインターベンションによる治療効果および予後に関する研究.
- 2) 各種薬剤による心筋梗塞後の慢性期左室機能, 予後に与える影響に関する研究.
- 3) 冠攣縮性狭心症の病態と予後既定因子に関する研究.
- 4) 臨床電気生理学的検査を中心とした不整脈の診断, 治療に関する研究.
- 5) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療に関する研究: 特に発作性心房細動例におけるアンギオテンシン受容体拮抗薬の効果に関する研究 (J-Rhythm II試験への参加).
- 6) プルガダ症候群に関連した全国的な多施設共同研究.
- 7) 高血圧症, 糖尿病例における左室拡張能に関する研究.
- 8) 糖尿病例における外来インスリン導入および内服治療に関する研究.
- 9) 高血圧症, 糖尿病, メタボリックシンドローム例における血糖降下薬, 降圧薬のインスリン抵抗性, 動脈硬化に及ぼす影響に関する研究.
- 10) J-TRACE, J-CARE-CARD, J-CHFなどの日本循環器学会認定多施設共同研究への参加.
- 11) 多摩地区, 南多摩地区における循環器疾患, 糖尿病例を対象とした共同研究への参加, 以上を中心に研究を行い, 循環器学会, 心臓病学会, 生活習慣病学会, 糖尿病学会などの主要学会への演題発表に加え, 一般内科として, 稀少例に関して積極的に症例報告を行っている. また, 当院薬剤部, 近隣院外薬局との協力により慢性呼吸器疾患患者に対する服薬指導, QOL改善を目的とした臨床課題についても積極的に取り組んでいる.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Okada K, Abe S³⁾ (1) Sanai Hospital, 2) Division of Biomedical Engineering, National Defense Medical College Research Institute, 3) Kumegawa Hospital): Music therapy in very elderly cerebral vascular disorders patients with dementia. 防衛医科大学校雑誌 2007; 32 (3): 143-152.
- 2) Maruyama M¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Ino T, Atarashi H, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) First Department of Internal Medicine): The VA relationship after differential atrial overdrive pacing: a novel tool for the diagnosis of atrial tachycardia in the electrophysiologic laboratory. J Cardiovasc Electrophysiol 2007; 18 (11): 1127-1133.
- 3) Otsuka T¹⁾, Kawada T¹⁾, Katsumata M¹⁾, Ibuki C²⁾, Kusama Y (1) Department of Hygiene and Public Health, 2) Department of Internal Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital): Independent determinants of second

derivative of the finger photoplethysmogram among various cardiovascular risk factors in middle-aged men. *Hypertens Res* 2007 ; 30 (12) : 1211-1218.

- 4) Ozaki S¹⁾, Atarashi K¹⁾, Minami M¹⁾, Fukigai T¹⁾, Ariake M¹⁾, Okada M¹⁾, Shibosawa T¹⁾, Atarashi H¹⁾ (Tohma Health Evaluation and Promotion Center) : Effects of aging and body weight changes on serum uric acid. *Ningen Dock* 2008 ; 22 (6) : 43-48.
- 5) Otsuka T, Ibuki C, Suzuki T, Ishii K, Yoshida H, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Kishida H¹⁾, Takano T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (Department of First Internal Medicine) : Administration of the Rho-kinase inhibitor, fasudil, following nitroglycerin additionally dilates the site of coronary spasm in patients with vasospastic angina. *Coron Artery Dis* 2008 ; 19 (2) : 105-110.
- 6) 新 博次, 井上 博¹⁾, 小川 聡²⁾ (富山大学医学部第二内科, ²⁾ 慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科) : 抗不整脈薬併用療法研究会多施設共同調査最終報告. *Prog Med* 2007 ; 27 (8) : 1888-1890.
- 7) 小谷英太郎, 西端こずえ, 細川雄亮, 岡田 薫, 新 博次 : Warfarinと aspirinの併用 : 院内薬剤疫学的調査にみる特徴. *Prog Med* 2007 ; 27 (8) : 1900-1903.
- 8) 新 博次 : フレカイニドの発作性心房細動・粗動に対する長期投与試験. *臨床医薬* 2007 ; 23 (9) : 841-857.
- 9) 宗像 亮, 小谷英太郎, 大塚俊昭¹⁾, 石井健輔, 時田祐吉, 上村竜太, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一²⁾ (衛生学・公衆衛生学教室, ²⁾ 付属病院第一内科) : 冠動脈ベアメタルステント留置術後の再狭窄に関する検討 : 血管内超音波の有用性. *J Cardiol Jpn Ed* 2008 ; 1 (1) : 24-30.

(2) 総説 :

- 1) 新 博次 : 大規模臨床試験からみた不整脈におけるRAS抑制薬. *Angiotensin Research* 2007 ; 4 (2) : 89-93.
- 2) 新 博次 : 心房細動の best strategy 薬物療法ガイドラインの実地診療への応用 : リズム or レートコントロールなど. *Heart View* 2007 ; 11 (7) : 751-755.
- 3) 新 博次 : 変革する心房細動診療とその実践 up-to-date 心房細動患者の救急 : 心房細動発作への対応. *内科* 2008 ; 101 (3) : 497-500.
- 4) 平山悦之¹⁾, 新 博次 (内科 (循環器, 肝臓, 老年, 総合病態部門)) : エビデンスに基づく循環器薬の使いかた・治療 不整脈治療薬の使いかた : ニフェカランとアミオダロン静注をどう使うか. *Medical Practice* 2008 ; 25 (3) : 509-511.
- 5) 新 博次 : 心房細動 : 最新情報とトータルマネジメント : 序文. *循環器科* 2008 ; 63 (3) : 213-215.

(3) 症例報告 :

- 1) 松本 真, 小谷英太郎, 時田祐吉, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : 偽性偽性副甲状腺機能低下症に発症した高度な冠動脈石灰化を伴う急性心筋梗塞の1例. *心臓* 2007 ; 39 (10) : 918-924.
- 2) 上村竜太, 青木亜佐子, 洪井俊之, 細川雄亮, 時田祐吉, 宗像 亮, 福島正人, 堀江 格, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : 肺動脈血栓栓症を合併したKlinefelter症候群の1例. *心臓* 2008 ; 40 (2) : 132-137.

著 書

- 1) 新 博次 : [分担] 6. Brugada症候群の最新知見. 別冊・医学のあゆみ 不整脈研究の最新動向 (堀江 稔編), 2007 ; pp38-42, 医歯薬出版.
- 2) 新 博次 : [分担] 9. 心房細動の治療— Pill-in-the-pocket. 不整脈2007 (井上 博編), 2007 ; pp110-116, メディカルレビュー社.
- 3) 新 博次 : [分担] VIII. 不整脈 9. 早期興奮症候群 (WPW症候群). 循環器疾患最新の治療2008-2009 (堀正二, 永井良三編), 2008 ; pp327-330, 南江堂.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Nakagomi A, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) The First Department of Internal Medicine) : Insulin resistance and subclinical inflammation play significant roles in the pathogenesis and instability of vasospastic angina (Coronary spasm revisited). 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.

(2) 海外留学者講演：

- 1) 上村竜太：Bone marrow stem cells prevent left ventricular remodeling of ischemic heart through paracrine signaling. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

(3) 一般講演：

- 1) Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Okada K, Kinoshita M²⁾, Kusama Y, Atarashi H (1) Sanai Hospital, (2) National Defense Medical College) : Music enhanced parasympathetic activities, decreased heart failure events and plasma interleukin-10 levels in elderly patients with cerebral infarction. 12th Congress of the International Society for Holter and Noninvasive Electrocardiology (ギリシャ・アテネ), 2007. 6.
- 2) 宮地秀樹¹⁾, 小谷英太郎, 細川雄亮, 北村光信¹⁾, 佐々木朝子¹⁾, 小鹿野道雄¹⁾, 椎葉邦人¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 高山守正²⁾ (1) 国立病院機構静岡医療センター循環器科, (2) 日本医科大学第一内科) : Coronary artery revascularization before peripheral vascular surgery in patients with peripheral artery disease (PAD). 第16回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2007. 6.
- 3) Shibui T, Nakagomi A, Saiki Y, Hosokawa Y, Kamiya M, Munakata R, Yoshikawa M, Uemura R, Kodani E, Yasutake M¹⁾, Kusama Y, Takayama M¹⁾, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) The First Department of Internal Medicine) : Impact of chronic kidney disease on long-term prognosis of acute coronary syndromes successfully treated with percutaneous coronary intervention. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 4) Uemura R, Hosokawa Y, Munakata R, Tokita Y, Fukushima M, Horie T, Yoshikawa M, Kodani E, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H : Plasma level of stem cell factor in patients with various degrees of chronic heart failure. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 5) Saiki Y, Nakagomi A, Shibui T, Hosokawa Y, Kamiya M, Munakata R, Yoshikawa M, Uemura R, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K¹⁾ (1) The First Department of Internal Medicine) : Metabolic syndrome increases the risks of cardiac events associated with insulin resistance in patients with vasospastic angina. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 6) Nakagomi A, Saiki Y, Shibui T, Hosokawa Y, Kamiya M, Munakata R, Yoshikawa M, Uemura R, Kodani E, Takano H¹⁾, Aoki S¹⁾, Yasutake M¹⁾, Kusama Y, Takayama M¹⁾, Atarashi H, et al. (1) The First Department of Internal Medicine) : Metabolic syndrome increases the risk of mortality in patients with acute coronary syndromes underwent successful percutaneous coronary intervention. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 7) Nakagomi A, Saiki Y, Shibui T, Hosokawa Y, Kamiya M, Munakata R, Yoshikawa M, Uemura R, Kodani E, Takano H¹⁾, Asai K¹⁾, Yasutake M¹⁾, Kusama Y, Takayama M¹⁾, Atarashi H, et al. (1) The First Department of Internal Medicine) : The ratio of low-density lipoprotein cholesterol to high-density lipoprotein cholesterol predicts adverse outcomes in patients with acute myocardial infarction. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 8) Takano H¹⁾, Kusama Y, Yamamoto E¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Takagi G¹⁾, Fujita N¹⁾, Aoki S¹⁾, Asai K¹⁾, Yasutake M¹⁾, Takayama M²⁾, Mizuno K¹⁾ (1) The First Department of Internal Medicine, (2) Division of Cardiology, Sakakibara Memorial Hospital) : Possible role of reactive oxygen species during the development of ischemic preconditioning in patients undergoing percutaneous coronary intervention. 第72回日本循環器学会

学術集会, 2008. 3.

- 9) Aoki S¹⁾, Nakagomi A, Komiyama H¹⁾, Kawanaka H¹⁾, Kohashi K¹⁾, Tsurumi M¹⁾, Morisawa T¹⁾, Yamamoto E¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Takagi G¹⁾, Fujita N¹⁾, Takano H¹⁾, Asai K¹⁾, Yasutake M¹⁾, Kusama Y, et al. ⁽¹⁾ The First Department of Internal Medicine) : Increased peripheral blood mononuclear cell count is an independent predictor for cardiac events in patients with acute myocardial infarction. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 10) Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Maruyama M¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Ueno A¹⁾, Okazaki R¹⁾, Murata H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Horie T, Atarashi H, Ohara T¹⁾, Hirayama Y¹⁾, Katoh T¹⁾, Mizuno K¹⁾ ⁽¹⁾ The First Department of Internal Medicine) : The incidence and characteristics of focal atrial tachycardia in patients following open-heart surgery. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 11) Kamiya M, Asai K¹⁾, Shirakabe A³⁾, Murai K²⁾, Fukumoto H¹⁾, Satoh N²⁾, Seino Y³⁾, Mizuno K¹⁾ ⁽¹⁾ The First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Intensive Care Unit, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital) : Angiotensin receptor blockade prevented diastolic heart failure in ovariectomized mice with chronic B-adrenergic receptor stimulation. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 12) 福島正人, 青木亜佐子, 宗像 亮, 堀江 格, 上村竜太, 小谷英太郎, 田寺 長, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次: 非通常型脚ブロック症例における左室収縮機能障害に関する検討. 第104回日本内科学会講演会, 2007. 4.
- 13) 小谷英太郎, 田寺 長, 竹山聡美, 草間芳樹, 新博次: 緩徐進行1型糖尿病 (SPIDDM) が疑われた2症例. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.
- 14) 緒方憲一¹⁾, 小谷英太郎, 田寺 長, 竹山聡美, 草間芳樹, 新博次 ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院健康管理科) : 心疾患合併糖尿病患者に対する Pioglitazone 投与の有効性と安全性. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.
- 15) 丸山光紀¹⁾, 小林義典¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 館岡克彦¹⁾, 上野 亮¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 村田広茂¹⁾, 山本哲平¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 平山悦之¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 堀江 格, 宮本新次郎 ⁽¹⁾ 第一内科) : Differential atrial overdrive pacing : 新たな心房頻拍鑑別法および従来法との比較. 第22回日本不整脈学会学術大会, 2007. 6.
- 16) 福島正人, 中込明裕, 草間芳樹, 新博次: 脚ブロックを有する高齢者における背景心疾患と心エコー所見の特徴. 第49回日本老年医学会学術集会, 2007. 6.
- 17) 岡田 薫, 上村竜太, 堀江 格, 福島正人, 吉川雅智, 西城由之, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次: BOOP を先行発症したRAの1例. 第546回日本内科学会関東地方会, 2007. 7.
- 18) 岡田 薫, 栗田 明¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 渡辺 智²⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次 ⁽¹⁾ 社会福祉法人福音会医療部門, ²⁾ 防衛医科大学校研究センター医療工学部門) : 音楽療法による副交感神経の活性化は心不全発症頻度と炎症性サイトカイン産生を抑制する: 脳血管障害を合併する後期高齢者における検討. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 19) 中込明裕, 青木亜佐子, 洪井俊之, 細川雄亮, 神谷仁孝, 宗像 亮, 吉川雅智, 上村竜太, 小谷英太郎, 草間芳樹, 高山守正¹⁾, 新博次, 高野照夫¹⁾ ⁽¹⁾ 第一内科) : 急性冠症候群患者において慢性腎臓病は心事故発症に関与する. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 20) 大塚俊昭¹⁾, 雪吹周生²⁾, 小谷英太郎, 中込明裕, 草間芳樹 ⁽¹⁾ 衛生学公衆衛生学教室, ²⁾ 千葉北総病院内科) : メタボリックシンドロームと炎症マーカーとの関連; 白血球数と高感度CRPの比較. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- 21) 新博次, 小川 聡¹⁾, 井上 博²⁾ ⁽¹⁾ 慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科, ²⁾ 富山大学医学部第二内科) : 症候性発作性心房細動/粗動症例における無症候性発作の検討: カルジオフォンを用いた2重盲検試験の成績から. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.

- 22) 山下武志¹⁾, 小川 聡²⁾, 奥村 謙³⁾, 加藤貴雄⁴⁾, 新 博次, 小林洋一⁵⁾, 岡崎 修⁶⁾, 田邊晃久⁷⁾, 庭野慎一⁸⁾, 相澤義房⁹⁾, 藤木 明¹⁰⁾, 伊藤 誠¹⁰⁾, 是恒之宏¹⁰⁾, 朔啓二郎¹⁰⁾ (1) (財) 心臓血管研究所, 2) 慶應義塾大学病院, 3) 弘前大学医学部附属病院, 4) 日本医科大学付属病院, 5) 昭和大学病院, 6) 国立国際医療センター, 7) 東海大学医学部付属病院, 8) 北里大学病院, 9) 新潟大学医歯学総合病院, 10) その他) : 塩酸ペプリジルの持続性心房細動停止効果及びその用量反応性 (プラセボ対照2重盲検比較試験) : 医師主導治験J-BAF study. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 23) 亀山明美¹⁾, 村田和也¹⁾, 高頭文隆²⁾, 長谷川哲男³⁾, 疋田節子⁴⁾, 大川玲子⁵⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新博次 (1) 日本医科大学多摩永山病院薬剤科, 2) ミネ薬局永山駅前タワー店, 3) 龍生堂薬局永山店, 4) なのはな薬局, 5) マルベリー薬局) : 短時間作用性吸入 β_2 刺激薬の吸入指導に関する検討 : ドライパウダー製剤とエアロゾル製剤の比較. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2007. 11.
- 24) 西城由之, 上村竜太, 小谷英太郎, 洪井俊之, 神谷仁孝, 細川雄亮, 宗像 亮, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : MSCTが診断に有用であった血栓閉塞した冠動脈瘤の1例. 第27回多摩地区虚血性心疾患研究会, 2007. 11.
- 25) 中込明裕, 小谷英太郎, 草間芳樹, 高野仁司¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 内田高浩²⁾, 清宮康嗣³⁾, 雪吹周生³⁾, 宗像一雄²⁾, 水野杏一¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 付属病院第一内科, 2) 武蔵小杉病院内科, 3) 千葉北総病院内科) : 虚血性心疾患に対するDihydropyridine系Ca拮抗薬の2次予防効果 : β 遮断薬との無作為割付比較試験. 第28回日本臨床薬理学会年会, 2007. 11.
- 26) 松本 真, 小谷英太郎, 吉田博史, 堀江 格, 緒方憲一, 田寺 長, 草間芳樹, 新 博次, 堀江 稔¹⁾ (1) 滋賀医科大学呼吸循環器内科) : 心室細動後の心肺蘇生に成功し, 遺伝子診断により確定した先天性QT延長症候群 (LQT1) の1例. 第20回心臓性急死研究会, 2007. 12.
- 27) 神谷仁孝, 小谷英太郎, 西城由之, 洪井俊之, 細川雄亮, 宗像 亮, 堀江 格, 松本 真, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : バイスタンダーによる心肺蘇生 (CPR) と救急隊自動体外除細動器 (AED) により救命された心室細動の1例. 第20回心臓性急死研究会, 2007. 12.
- 28) 小谷英太郎, 細川雄亮, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 長澤絃一 : 低用量ロスバスタチンによる脂質異常改善効果の検討. 第42回日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会, 2008. 1.
- 29) 小谷英太郎, 宗像 亮, 細川雄亮, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 長澤絃一 : 外来高血圧症患者に対するアンジオテンシンII受容体拮抗薬, 利尿薬の使用状況. 第42回日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会, 2008. 1.
- 30) 山崎泰徳¹⁾, 臼井崇裕¹⁾, 清水彩子¹⁾, 小林高明¹⁾, 大野 敦¹⁾, 植木彬夫¹⁾, 宮川高一²⁾, 大塚昌樹³⁾, 小谷英太郎 (1) 東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科, 2) 多摩みなみクリニック, 3) 多摩丘陵病院糖尿病内科) : 糖尿病神経障害のケアの現状に関するアンケート調査 : 2001年度と2007年度の比較. 第45回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2008. 1.
- 31) 宗像 亮, 小谷英太郎, 西城由之, 岡田 薫, 洪井俊之, 細川雄亮, 吉川雅智, 堀江 格, 松本 真, 上村竜太, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次 : 治療抵抗性心室細動 (Vf) を繰り返した若年者冠攣縮性狭心症 (VSA) の1例. 第207回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2008. 2.
- 32) 石川正也¹⁾, 小谷英太郎 (1) 石川クリニック) : カンデサルタンによる薬剤性肺障害の1例. 第71回神奈川県内科医学会集談会, 2008. 2.
- 33) Okada K, Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Otsuka T³⁾, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H (1) Fukuinkai Clinic, 2) National Defense Medical College, 3) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School) : Parasympathetic stimulation by music attenuates heart failure events, plasma interleukin-6 (IL-6) and epinephrine levels in elderly patients. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- 34) Hirayama Y¹⁾, Atarashi H, Kobayashi Y¹⁾, Ohara T¹⁾, Maruyama M¹⁾, Yashima M¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (1) The First Department of Internal Medicine) : Com-

parison of upstream therapies for paroxysmal atrial fibrillation in patients without overt heart diseases. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.

- 35) 亀山明美¹⁾, 村田和也¹⁾, 北山由里香²⁾, 高頭文隆²⁾, 長谷川哲男³⁾, 荒井宏昭³⁾, 南條久美子⁴⁾, 疋田節子⁴⁾, 大川玲子⁵⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次 (1) 日本医科大学多摩永山病院薬剤科, 2) ミネ薬局永山駅前タワー店, 3) 龍生堂薬局永山店, 4) なのはな薬局, 5) マルベリー薬局): 吸入指導の有用性の検討. 日本薬学会第128回年会, 2008. 3.

(4) コントロバシー :

- 1) Atarashi H : Na channel blocker challenge test is still controversial to predict the prognosis (Do patients with drug-induced Brugada type ECG have poor prognosis?). 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.

2. 内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）

〔付属病院第2内科（神経内科，腎臓内科）〕

研究概要

当内科学講座は，神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております．神経内科では脳血管障害，特に脳梗塞の病態解明および治療を主要課題として取り組んでおります．

基礎研究では，脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳保護・神経再生をメインテーマとして研究を行っているが，骨髄単球細胞や骨髄間葉系細胞を脳梗塞モデルに投与して脳梗塞の体積や神経徴候を及ぼす影響およびそのメカニズムについて検討を行っている．骨髄幹細胞移植はヒトにおいて既に試みられており，当教室においても臨床実施を目指して研究を行っている．また，免疫抑制薬，フリーラジカルスカベンジャーおよびそれらと軽微低体温療法の併用による脳の保護効果についても検討を行っている．さらに，近年，抗高脂血症薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが，我々の教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）を用いてその予防効果やメカニズムについて検討を行っている．

臨床研究では，SCU（Stroke Care Unit）が設立され，脳卒中急性期の超早期診断・治療に取り組んでおり，MRIを用いたDiffusion強調画像，Perfusion Imageによる診断法の開発に力を注いでいる，また，これらの撮影法を用いてrt-PA投与の決定に役立っている．その他，脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し，PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行なっている．

腎臓内科では，従来から行なわれてきた透析を中心とした研究に加え，糸球体腎炎に対するサイトカインの役割やARBおよびスタチンの投与の影響についても研究を進めている．また，腎クリニックや千葉北総病院内科および脳神経センターに教室員の派遣を行い，各施設での診療・研究に貢献している．

以上，当教室では神経および腎臓内科学領域において，国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い，多くの優れた論文を発表している．

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Takumi I, Mizunari T, Mishina M, Fukuchi T, Nomura R, Umeoka K, Kobayashi S, Teramoto A : Dissecting posterior inferior cerebellar artery aneurysm presenting with subarachnoid hemorrhage right after anticoagulant and antiplatelet therapy against ischemic event. *Surg Neurol* 2007 ; 68 (1) : 103-107.

追加分総説：

- 1) 勝又俊弥，片山泰朗：脂質異常と脳血管障害．*脳と循環* 2007 ; 12 (2) : 49-52.
- 2) 福地孝明：専門医の管理・治療が必要な疾患のガイドライン 神経疾患 脳卒中．*日経メディカル開発 ガイドライン外来診療* 2007 2007 ; 454-460.

(1) 原著：

- 1) Utsumi K, Kawabe M, Hiramata A, Ueda K, Kamada Y, Arii K, Komaba Y, Katsura K, Iino Y, Katayama Y : Effects of selective LDL apheresis on plasma concentrations of ICAM-1, VCAM-1 and P-selectin in diabetic patients with arteriosclerosis obliterans and receiving maintenance hemodialysis. *Clin Chim Acta* 2007 ; 377 (1-2) : 198-200.

- 2) Okubo S, Igarashi H¹, Kanamatsu T², Hasegawa D³, Orima H³, Katayama Y (¹ Center for Integrated Human Brain Science, Brain Research Institute, University of Niigata, ² Department of Environmental Engineering for Symbiosis, Faculty of Engineering, Soka University, ³ Department of Veterinary Radiology, Nippon Veterinary and Life Science University) : FK-506 extended the therapeutic time window for thrombolysis without increasing the risk of hemorrhagic transformation in an embolic rat stroke model. *Brain Res* 2007 ; 27 (1143) : 221-227.
- 3) Otsuka T¹, Ota T¹, Mizumura S², Matsuda H³, Nagao T⁴, Nemoto K⁵, Tateno A⁶, Ishiwata A, Kuji K³, Kimura M⁷, Honma A⁸, Arai H¹ (¹ 順天堂大学医学部精神医学教室, ² 日本医科大学付属病院放射線科, ³ 埼玉医科大学国際医療センター核医学, ⁴ 東京都保健医療公社荏原病院神経内科, ⁵ 筑波大学付属病院精神神経科, ⁶ 日本医科大学付属病院神経科, ⁷ 順天堂東京江東高齢者医療センターメンタルクリニック, ⁸ 東京都老人総合研究所) : Evaluation of differences in cerebral blood flow between early and late onset type of Alzheimer' s disease using [99mTc]ECD SPECT. *Rounen igakkai zasshi* 2007 ; 18 (1) : 61-67.
- 4) Liu Y¹, Okada T², Nomoto T, Ke X¹, Kume A³, Ozawa K³, Xiao S¹ (¹ Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Peking University First Hospital Beijing, ² 国立精神・神経センター遺伝子疾患治療研究部, ³ 自治医科大学 遺伝子治療研究部) : Promoter effects of adeno-associated viral vector for transgene expression in the cochlea in vivo. *Exp Mol Med* 2007 ; 30 (39 (2)) : 170-175.
- 5) Matsuda H¹, Mizumura S², Nagao T³, Ota T⁴, Iizuka T⁵, Nemoto K⁶, Takemura N⁷, Arai H⁴, Homma A⁸ (¹ Department of Nuclear Medicine, Saitama Medical University Hospital, ² Department of Radiology, Nippon Medical School, ³ Department of Neurology, Tokyo Metropolitan HMTc Ebara Hospital, ⁴ Department of Psychiatry, Juntendo University School of Medicine, ⁵ Department of Nuclear Medicine, Fukujiji Hospital, ⁶ Department of Neuropsychiatry, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, ⁷ Daiichi Radioisotope Laboratory, ⁸ Department of Psychiatry, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Automated discrimination between very early Alzheimer disease and controls using an easy Z-score imaging system for multicenter brain perfusion single-photon emission tomography. *AJNR* 2007 ; 28 (4) : 731-736.
- 6) Naganawa M, Kimura Y, Mishina M, Manabe Y, Chihara K, Oda K, Ishii K, Isiwata K : Quantification of adenosine A_{2A} receptors in the human brain using [¹¹C]TMSX and positron emission tomography. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* 2007 ; 34 (5) : 679-687.
- 7) Suda S, Igarashi H¹, Arai Y, Andou J², Chishiki T³, Katayama Y (¹ 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター, ² 山形県北村山公立病院放射線科, ³ 山形県北村山公立病院脳神経外科) : Effect of edaravone, a free radical scavenger, on ischemic cerebral edema assessed by magnetic resonance imaging. *Neurol Med Chir* 2007 ; 47 (5) : 197-201.
- 8) Endo H¹, Nito C, Kamada H¹, Yu F¹, Chan P¹ (¹ Department of Neurosurgery, Stanford University School of Medicine) : Reduction in oxidative stress by superoxide dismutase overexpression attenuates acute brain injury after subarachnoid hemorrhage via activation of Akt/glycogen synthase kinase-3beta survival signaling. *J Cereb Blood Flow Metab* 2007 ; 27 (5) : 975-982.
- 9) Hasegawa M¹, Arai T¹, Akiyama H¹, Nonaka T¹, Mori H², Hashimoto T³, Yamazaki M, Oyanagi K³ (¹ Tokyo Metropolitan Organization for Medical Research, ² Osaka City University School of Medicine, ³ Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : TDP-43 is deposited in the Guam parkinsonism-dementia complex brains. *Brain* 2007 ; 130 (5) : 1386-1394.
- 10) Ohsawa I¹, Ishikawa M, Takahashi K, Watanabe M, Nishimaki K¹, Yamagata K¹, Katsura K, Katayama Y, Asoh S¹, Ohta S¹ (¹ 老人病研究所生化学部門) : Hydrogen acts as a therapeutic antioxidant by selec-

- tively reducing cytotoxic oxygen radicals. *Nature Medicine* 2007 ; 13 (6) : 688-694.
- 11) Mishina M, Ishii K, Kitamura S, Suzuki M, Kobayashi S, Ishiwata K, Katayama Y : Correlation between each task of the Mini-Mental State Examination and regional glucose hypometabolism in at-rest Alzheimer' s disease patients. *Geriat Gerontol Int* 2007 ; 7 (2) : 124-130.
 - 12) Mii A, Nakajima T¹⁾, Fujita Y, Iino Y, Kamimura K²⁾, Bujo H³⁾, Saito Y⁴⁾, Emi M¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of Molecular Biology-Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ²⁾ Awa Medical Association Hospital, ³⁾ Department of Genome Research and Clinical Application, Graduate School of medicine, Chiba University, ⁴⁾ Department of Clinical Cell Biology, Graduate School of Medicine, Chiba University) : Genetic association of low-density lipoprotein receptor-related protein2 (LRP2) with plasma lipid levels. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2007 ; 14 (6) : 310-316.
 - 13) Kanda Y¹⁾, Hisayasu S¹⁾, Abe Y¹⁾, Katsura K, Mashimo K²⁾ (¹⁾ Second Department of Biochemistry, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Legal Medicine, Nippon Medical School) : Growth-active peptides are produced from alpha-lactalbumin and lysozyme. *Life Sciences* 2007 ; 81 (9) : 449-457.
 - 14) Katsumata T, Nishiyama Y, Yamaguchi H, Nakamura H, Tanaka N, Katayama Y : Extracranial carotid plaque is increasing in Japanese ischemic stroke patients . *Acta Neurol Scand* 2007 ; 116 (1) : 20-25.
 - 15) Tanaka N, Katayama Y, Katsumata T, Otori T, Nishiyama Y : Effects of long-term administration of HMG-CoA reductase inhibitor, atorvastatin, on stroke events and local cerebral blood flow in stroke-prone spontaneously hypertensive rats. *Brain Res* 2007 ; 12 (1169) : 125-132.
 - 16) Mishina M, Ishiwata K, Kimura Y, Naganawa M, Oda K, Kobayashi S, Katayama Y, Ishii K : Evaluation of distribution of adenosine A_{2A} receptors in normal human brain measured with [¹¹C]TMSX PET. *Synapse* 2007 ; 61 (9) : 778-784.
 - 17) Ito T¹⁾, Okada T²⁾, Miyashita H⁴⁾, Nomoto T, Nonaka-Sarukawa M¹⁾, Uchibori R¹⁾, Maeda Y⁴⁾, Urabe M¹⁾, Mizukami H¹⁾, Kume A¹⁾, Takahashi M³⁾, Ikeda U³⁾, Shimada K⁴⁾, Ozawa K¹⁾ (¹⁾ 自治医科大学 遺伝子治療研究部, ²⁾ 国立精神・神経センター遺伝子疾患治療研究部, ³⁾ 信州大学臓器発生制御学, ⁴⁾ 自治医科大学循環器内科) : Interleukin-10 expression mediated by an adeno-associated virus vector prevents monocrotaline-induced pulmonary arterial hypertension in rats. *Circ Res* 2007 ; 28 (101 (7)) : 734-741.
 - 18) Ijuin M¹⁾, Homma A¹⁾, Mimura M²⁾, Kitamura S, Kawai Y³⁾, Imai Y⁴⁾, Gondo Y⁵⁾ (¹⁾ Research Team for Promoting Independence of the Elderly , ²⁾ Department of Neuropsychiatry, Showa University School of Medicine, ³⁾ Tsurukawa Sanatorium Hospital, ⁴⁾ Graduate School of Social Services, Japan College of Social Work, ⁵⁾ Human Care Research Team, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Validation of the 7-Minute Screen for the Detection of Early-Stage Alzheimer' s Disease. *Dement Geriatr Cogn Disord* 2008 ; 25 (3) : 248-255.
 - 19) Wakabayashi A¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Moriya K¹⁾, Nishiyama Y, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 大学生体防御医学) : Suppression of an already established tumor growing through activated mucosal CTLs induced by oral administration of tumor antigen with Cholera toxin. *The Journal of Immunology* 2008 ; 180 (6) : 4000-4010.
 - 20) Midorikawa A¹⁾, Nakamura K²⁾, Nagao T³⁾, Kawamura M⁴⁾ (¹⁾ Department of Psychology, Chuo University, ²⁾ Department of Animal Models for Human Disease, National Institute of Neuroscience, ³⁾ Department of Neurology, Tokyo Metropolitan HMTC Ebara Hospital, ⁴⁾ Department of Neurology, Showa University School of Medicine) : Residual perception of moving objects : Dissociation of moving and static objects in a case of posterior cortical atrophy. *European Neurology* 2008 ; 59 (1) : 152-158.

(2) 座談会：

- 1) 片山泰朗, 篠原幸人¹⁾, 平田幸一²⁾ (1) 国家公務員共済組合連合会立川病院, 2) 獨協医科大学神経内科) : Post-stroke Syndromeの重要性. 成人病と生活習慣病 (座談会) 2007 ; 37 (4) : 377-388.
- 2) 片山泰朗, 内山真一郎¹⁾, 阿部康二²⁾, 塩川芳昭³⁾, 鈴木倫保⁴⁾, 松本昌泰⁵⁾ (1) 東京女子医科大学医学部神経内科学, 2) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科神経病態内科学, 3) 杏林大学医学部脳神経外科, 4) 山口大学大学院医学系研究科システム統御医学系学域脳神経外科学分野, 5) 広島大学大学院病態探究医科学脳神経内科) : 脳卒中の予防と治療のニューパラダイム. 分子脳血管病 (座談会) 2008 ; 7 (1) : 1-13.

(3) 総説：

- 1) 上田雅之, 片山泰朗 : NXY-059 for acute ischemic stroke. 特集 : データブック血栓症の大規模臨床試験 PART2. 血栓と循環 2007 ; 15 (4) : 419-420.
- 2) 石渡喜一, 石井賢二, 成相 直, 三品雅洋, 木村裕一 : アデノシン受容体を指標とした脳・心筋・骨格筋の新しいPET診断法. INNERVISION 2007 ; 3 (4) : 22-22.
- 3) 長尾毅彦¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (1) 東京都保健医療公社 荏原病院 総合脳卒中センター) : 脳梗塞再予防に関するワルファリンとアスピリンの比較 (WARSS). 血栓と循環 2007 ; 15 (04) : 428-430.
- 4) 両宮志門, 片山泰朗 : 虚血性脳卒中の診断学 症候学的特徴. Clinical Neuroscience 2007 ; 27 (6) : 651-653.
- 5) 北村 伸, 岩本将人¹⁾ (1) 武蔵小杉病院内科) : 認知症と似て非なる病態 : 加齢による物忘れ, 抑うつ, せん妄. medicina 2007 ; 44 (6) : 1044-1046.
- 6) 長尾毅彦¹⁾, 平林久吾¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター) : 意識障害を伴う左片麻痺にはご用心. 内科 2007 ; 99 (6) : 997-998.
- 7) 長尾毅彦¹⁾, 平林久吾¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院神経内科) : 頸椎症との鑑別がもっとも重要な疾患は?. 内科 2007 ; 99 (06) : 999-999.
- 8) 長尾毅彦¹⁾, 平林久吾¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院神経内科) : 痛みを伴う四肢の筋力低下ではリウマチ性多発筋痛症を疑う. 内科 2007 ; 99 (06) : 1000-1001.
- 9) 内山真一郎¹⁾, 塩川芳昭²⁾, 長尾毅彦³⁾, 卜部貴夫⁴⁾ (1) 東京女子医科大学神経内科, 2) 杏林大学脳神経外科, 3) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター, 4) 順天堂大学脳神経内科) : 日本におけるTIAの現状とこれからの治療 : 米国脳卒中協会 (NSA) TIA管理に関するガイドラインの解釈. Progress in Medicine 2007 ; 27 (7) : 1635-1642.
- 10) 北村 伸 : 治せる認知症とその治し方 : 見逃さないために. Medical Practis 2007 ; 24 (8) : 1385-1390.
- 11) 長尾毅彦¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院神経内科) : パーキンソン病に現れる認知症. Geriatric Medicine 2007 ; 45 (9) : 1200-1203.
- 12) 飯野靖彦 : 腎・泌尿器疾患診療マニュアル, 血尿. 日本医師会雑誌 2007 ; 136 (特別号2) : 42-43.
- 13) 三品雅洋 : PETを用いた脳疾患の診断と病態の研究. 日医大医会誌 2007 ; 3 (4) : 220-220.
- 14) 北村 伸, 岩本将人¹⁾ (1) 武蔵小杉病院内科) : 認知症の病態. 看護技術 2007 ; 53 (784) : 1019-1024.
- 15) 北村 伸 : メタボリックシンドロームからみたアルツハイマー型認知症発症予防の可能性. 老年精神医学雑誌 2007 ; 18 (10) : 1100-1103.
- 16) 山崎峰雄 : シリーズ カラーアトラス3. 神経疾患の画像アトラス パーキンソニズムを呈する神経疾患の画像診断 (I). 日医大医会誌 2007 ; 3 (4) : 167-169.
- 17) 山崎峰雄 : 話題 アルツハイマー病の早期診断. 日医大医会誌 2007 ; 3 (4) : 201-201.
- 18) 片山泰朗, 田中耕太郎¹⁾ (1) 富山大学付属病院神経内科) : JELISが導き出す脳卒中患者への意義 : 脳卒中予防戦略を考える. THERAPEUTIC RESEARCH 2007 ; 28 (10) : 1877-1884.
- 19) 長尾毅彦¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院神経内科) : 認知症を地域でどのように診ていけばよいのでしょうか?. CLINICIAN 2007 ; 54 (563) : 66-67.

- 20) 長尾毅彦¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター) : 脳梗塞急性期治療 : 特にtPA静注療法とその問題点. 臨床神経学 2007 ; 47 (11) : 926-928.
- 21) 永山 寛, 片山泰朗 : (2) パーキンソン病の診断と治療. Geriatric Medicine 2007 ; 45 (1) : 1608-1611.
- 22) 渡辺めぐみ, 片山泰朗 : 脳血管障害の輸液, 腎と透析 2007 ; 63 (12) : 404-407.
- 23) 長尾毅彦¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター) : 脳梗塞. Medical Technology 2007 ; 35 (13) : 1471-1478.
- 24) 長尾毅彦¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター) : rt-PA治療の適応病態を考える. 神経治療学 2007 ; 24 (6) : 673-676.
- 25) 坂本静樹, 片山泰朗 : 塩酸ドネペジル アルツハイマー病 : 基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム : III. 臨床編 アルツハイマー病の治療・管理 薬物療法. 日本臨床 2008 ; 66 (1) : 405-408.
- 26) 片山泰朗 : 脳ドック (4) 無症候性脳梗塞. BRAIN 2008 ; 90 (1) : 6-7.
- 27) 山崎峰雄 : シリーズ カラーアトラス3. 神経疾患の画像アトラス ミオパチーの画像診断と病理 (II). 日医大医学会誌 2008 ; 4 (1) : 4-7.
- 28) 西山康裕, 片山泰朗 : 知っておきたい血管医学用語「ADMA」. Vascular medicine 2008 ; 4 (1) : 76-80.

(4) 症例報告 :

- 1) Nomoto T, Seta T, Nomura K, Shikama Y¹⁾, Katagiri T¹⁾, Katsura K, Kato T²⁾, Katayama Y (¹⁾ 山形県立河北病院神経内科, ²⁾ 山形大学医学部器官病態統御学講座生命情報内科学分野) : A case of reversible encephalopathy accompanied by demyelination occurring after ingestion of Sugihiratake mushrooms. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (3) : 261-264.
- 2) Abe A, Nishiyama Y, Kitahara I¹⁾, Komatsu D¹⁾, Katayama Y (¹⁾ 塩田病院脳神経外科) : Painless Transient Monocular Loss of Vision Resulting From Angle-Closure Glaucoma. Headache 2007 ; 47 (7) : 1098-1099.
- 3) Amemiya S, Hamamoto M, Mishina M, Ueda M, Kumagai T, Nishiyama Y, Katayama Y : Short-term plasticity of central benzodiazepine receptors in status epilepticus : case report. Acta Neurologica Scandinavica 2008 ; 117 (4) : 285-288.

(5) 座談会追加 :

- 1) 片山泰朗, 内山真一郎¹⁾, 松本昌泰²⁾, 阿部康二³⁾, 塩川芳昭⁴⁾, 鈴木倫保⁵⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学脳神経センター, ²⁾ 広島大学医学部脳神経外科, ³⁾ 岡山大学神経病態内科学, ⁴⁾ 杏林大学医学部脳神経外科, ⁵⁾ 山口大学医学部脳神経外科) : 脳卒中の予防と治療のニューホライズン. 分子脳血管病 (座談会) 2007 ; 1 (6) : 1-15.

著 書

- 1) 山崎峰雄, 三品雅洋, 石井賢二¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設) : [分担] For Expert 認知症性疾患のPET画像 脳血管性認知症. 精神・神経疾患画像アトラス (葛原茂樹), 2007 ; pp142-145, メジカルビュー社.
- 2) 藤田恵美子, 金子朋広, 飯野靖彦 : [分担] サイアザイド系利尿薬の再評価と合剤の出現. 成人病と生活習慣病, 2007 ; pp905-912, 東京医学社.
- 3) 永山 寛 : [分担] 2生理検査学 (2) 神経筋肉検査学 10 運動系の構成. 臨床検査技師イエロー・ノート基礎編 (芝紀代子編), 2007 ; pp501-502, メジカルビュー社.
- 4) 永山 寛 : [分担] 2生理検査学 (2) 神経筋肉検査学 11 筋電図検査. 臨床検査技師イエロー・ノート基礎編 (芝紀代子編), 2007 ; pp503-508, メジカルビュー社.
- 5) 永山 寛 : [分担] 2生理検査学 (2) 神経筋肉検査学 13 末梢神経伝導検査. 臨床検査技師イエロー・ノート基礎編 (芝紀代子編), 2007 ; pp508-513, メジカルビュー社.

- 6) 永山 寛：〔分担〕2生理検査学 (2) 神経筋肉検査学 14 末梢神経伝導検査. 臨床検査技師イエロー・ノート基礎編 (芝紀代子編), 2007 ; pp514-516, メジカルビュー社.
- 7) 永山 寛：〔分担〕14 生理検査学神経 (2) 神経・筋肉検査・筋肉機能検査 5 運動系の構成. 臨床検査技師グリーン・ノート基礎編 (芝紀代子編), 2007 ; pp204-205, メジカルビュー社.
- 8) 永山 寛：〔分担〕14 生理検査学神経 (2) 神経・筋肉検査・筋肉機能検査 6 針筋電図検査. 臨床検査技師グリーン・ノート基礎編 (芝紀代子編), 2007 ; pp206-207, メジカルビュー社.
- 9) 永山 寛：〔分担〕14 生理検査学神経 (2) 神経・筋肉検査・筋肉機能検査 7 末梢神経伝導検査・その他の誘発筋電図. 臨床検査技師グリーン・ノート基礎編 (芝紀代子編), 2007 ; pp208-209, メジカルビュー社.
- 10) 藤野鉄平, 飯野靖彦：〔分担〕II. 腎疾患に伴う緊急時の症候とその対処法 4. 電解質の異常 a. カリウム異常. 腎疾患・透析 最新の治療 2008-2010 (飯野靖彦, 榎野博史, 秋澤忠男), 2008 ; pp73-77, 南江堂.
- 11) 金子朋広, 飯野靖彦：〔分担〕特殊病態における急性腎不全 a. 高齢者の輸液管理. 腎疾患・透析 最新の治療 2008-2010 (飯野靖彦, 榎野博史, 秋澤忠男), 2008 ; pp295-298, 南江堂.
- 12) 西山康裕, 片山泰朗：〔分担〕脳循環代謝改善薬. 必携 脳卒中ハンドブック, 2008 ; pp266-266, 診断と治療社.
- 13) 西山康裕, 片山泰朗：〔分担〕抗うつ薬. 必携 脳卒中ハンドブック, 2008 ; pp267-268, 診断と治療社.
- 14) 酒巻雅典, 片山泰朗：〔分担〕アテローム血栓性脳梗塞の再発予防のため, クロピドグレル75mg/日投与中でしたが脳梗塞の再発がみられました. 抗血小板薬はどうしますか?. 脳卒中診療:こんなときどうするQ&A (棚橋紀夫, 北川泰久), 2008 ; pp186-188, 中外医学社.
- 15) 大鳥達雄, 片山泰朗：〔分担〕56歳男性, 心房細動の既往あり, 発症1時間後に左不全麻痺をきたして来院しました. NIHSSは14点ですが, 血圧は190/110mmHgでした. rt-PA 静注療法を考慮していますがどうしますか?. 脳卒中診療:こんなときどうするQ&A (棚橋紀夫, 北川泰久), 2008 ; pp113-115, 中外医学社.
- 16) 大鳥達雄, 片山泰朗：〔分担〕ラクナ梗塞. 必携 脳卒中ハンドブック (田中耕太郎, 高橋修太郎), 2008 ; pp215-216, 診断と治療社.
- 17) 長尾毅彦¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター)：〔分担〕心房細動に伴う心原性脳塞栓症で入院し, 発症10日後の頭部CTにおいて左中大脳動脈に出血性脳梗塞が認められました. 抗凝固療法はいつ始めますか?. 脳卒中診療:こんなときどうするQ & A (棚橋紀夫, 北川泰久), 2008 ; pp165-167, 中外医学社.
- 18) 長尾毅彦¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター)：〔分担〕血栓溶解療法. 必携脳卒中ハンドブック (田中耕太郎, 高橋修太郎), 2008 ; pp238-241, 診断と治療社.
- 19) 長尾毅彦¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター)：〔分担〕脳保護療法. 必携脳卒中ハンドブック (田中耕太郎, 高橋修太郎), 2008 ; pp242-242, 診断と治療社.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 藤田恵美子, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 三井亜希子, 高野秀樹¹⁾, 石崎正通¹⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗, 杉崎祐一¹⁾, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医科大学解析人体病理学)：内皮細胞マーカーを用いた管外増殖性腎炎の進展と糸球体内皮細胞傷害との研究. 第96回日本病理学会総会, 2007. 3.
- 2) 大久保誠二, 熊谷智昭, 片山泰朗：急性期脳梗塞の脳血流検査と予後の検討. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 長尾毅彦¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院神経内科)：脳梗塞の血栓止血学的背景. 秋田脳血管研究センター

講演会, 2007. 4.

- 2) 永山 寛: Parkinson 病の診断・治療に関する注意点. Metropolitan Neuroscience Conference, 2007. 6.
 - 3) 石渡明子: 変性痴呆性の脳機能画像の臨床応用. 第21回老年期痴呆研究会, 2007. 7.
 - 4) 三品雅洋: パーキンソニズムのPET. 第7回大江戸神経フォーラム, 2007. 7.
 - 5) 片山泰朗: 脳卒中の最前線: 脳卒中の予防と治療. 岡山生活習慣病フォーラム, 2007. 7.
 - 6) 三品雅洋: パーキンソン病の核医学診断と治療. 第1回北村山神経懇話会, 2007. 9.
 - 7) 三品雅洋: PETを用いた脳疾患の診断と病態の研究. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
 - 8) 片山泰朗: 脳卒中最前線: 脳卒中の予防と治療. 第9回B. H. R. Dカンファレンス, 2007. 9.
 - 9) 飯野靖彦: 「腎不全にならないための生活習慣 2. 意外に多い慢性腎臓病: 早期発見のための検尿のすすめ」. 第37回日本腎臓学会東部学術大会, 2007. 10.
 - 10) 片山泰朗: post-stroke syndrome: 脳卒中後うつおよび誤嚥性肺炎を中心に. 第19回近畿老年病研究会, 2007. 11.
 - 11) 片山泰朗: 脳卒中最前線. 第25回臨床神経内科研究会, 2007. 12.
 - 12) 長尾毅彦¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター): 当院における MR based Thrombolysis と東京の現状. 第71回熊本脳血管障害研究会, 2008. 2.
 - 13) 片山泰朗: 脳卒中最前線: 最近のトピックスをめぐって. 第22回東北老年期脳障害研究会, 2008. 3.
- (2) 教育講演:
- 1) 三品雅洋: SPECT・PETを用いたパーキンソン症候群の画像診断. 第4回新潟県脳機能解析研究会, 2007. 8.
- (3) シンポジウム:
- 1) Katayama Y, Igarashi H¹⁾ (1) 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター): Diagnosis of Acute Ischemic Stroke using MRI. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
 - 2) 三品雅洋, 石井賢二¹⁾, 石渡喜一¹⁾ (1) 東京都老人総合研究所ポジロトン研究施設): アデノシン受容体: ドパミンとの関連. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 3) 長尾毅彦: 脳梗塞急性期治療: 特にt-PA静注療法とその問題点. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 4) 飯野靖彦: 司会の言葉 シンポジウム1 日本における慢性腎臓病対策. 第50回日本腎臓学会総会, 2007. 5.
 - 5) 長尾毅彦¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター): 脳梗塞急性期治療: 特にtPA静注療法とその問題点. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 6) 長尾毅彦¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター): rt-PA治療の適応病態を考える. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
 - 7) 勝又俊弥: JELISの結果から見たEPAの不安定プラークと血栓症の予防について. 第10回日本栓子検出と治療学会, 2007. 11.
 - 8) 長尾毅彦¹⁾, 岡村正哉¹⁾, 井田正博²⁾, 片山泰朗, 横地正博¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター, 2) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター放射線科): CT, MRによる心内血栓検出. 第10回日本栓子検出と治療学会, 2007. 11.
- (4) パネルディスカッション:
- 1) 片山泰朗: 日本発のエビデンスをいかに日常臨床に活かすか: JELISサブ解析結果報告を受けて: 神経内科の立場から. 全国JELIS講演会2007 動脈硬化性疾患治療のストラテジー-50% Risk reductionを踏まえて, 2007. 7.
 - 2) 福地孝明, 三品雅洋, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 日本医科大学千葉北総病院脳神経センターで経験したrt-PA投与22症例. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- (5) セミナー:
- 1) 長尾毅彦¹⁾ (1) 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター): 頸動脈狭窄症に対する内科的・外科的治療

の診断基準と抗血小板療法の役割. 第6回日本頸部脳血管治療学会, 2007. 6.

(6) ランチョンセミナー :

- 1) 片山泰朗 : 脳卒中後うつ : 病態と治療. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 2) 北村 伸 : 認知症の早期発見から予防までを考える. 第55回日本職業・災害医学会学術大会, 2007. 11.

(7) 一般講演 :

- 1) Iino Y : Effect of combination therapy of losartan and hydrochlorothiazide on Chronic Kidney Disease. World Congress of Nephrology 2007 (Rio de Janeiro, Brazil), 2007. 4.
- 2) Nagayama H, Ueda M, Hamamoto M, Katayama Y : The Influence of Aging on the Pharmacokinetics of Levodopa. 5th Parkinson's Disease Symposium in Takamatsu (Takamatsu, Japan), 2007. 4.
- 3) Ishiwata A¹⁾, Mizumura S²⁾, Kitamura S¹⁾, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Department of Neurology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Which is correlated with clinical feature, severity or extent of lesion in Alzheimer's disease in SPECT?. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 4) Komaba Y, Arii K, Tanaka N, Katayama Y : Effects of PVH, anticoagulation, antiplatelet drug, and antihypertensives on microbleeds. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 5) Katsura K, Utsumi K, Watanabe M, Sakurazawa M, Katayama Y : Neuroprotective effect of erythropoietins with transient focal cerebral ischemia in rats. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 6) Ueda M, Nowak T¹⁾ (¹⁾ テネシー大学神経内科) : Mechanisms underlying the benefit of repeated preconditioning insults in a rat 4-vessel occlusion model of global ischemia. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 7) Nishiyama Y, Komaba Y, Ueda M, Kamiya N, Katayama Y : Effects of statins on plasma levels of asymmetric dimethylarginine in patients with noncardiogenic ischemic stroke. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 8) Otori T, Sakamoto S, Mizumura S, Okubo S, Watanabe M, Katsumata T, Nishiyama Y, Komaba Y, Katayama Y : Effects of clonidine on BP, CBF and autonomic nerves in chronic cerebral infarction. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 9) Sunami E, Usuda K, Komaba Y, Katayama Y : The effect of fluvoxamine maleate on poststroke depression. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 10) Kamiya N, Igarashi H¹⁾, Nishiyama Y, Ueda M, Suda S, Katayama Y (¹⁾ 新潟大学脳研究所) : Intra-arterial transplantation of bone marrow mononuclear cells immediately after reperfusion ameliorates brain injury following transient focal ischemia in rats. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 11) Kimura Y, Nagamine M, Sakata M, Ishikawa M, Mishina M, Oda K, Ishii K, Ishiwata K : Distribution volumes as an alternative to binding potentials for sigma₁ imaging. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 12) Mishina M, Ishiwata K, Ohshima M, Kitamura S, Kimura Y, Oda K, Katayama Y, Ishii K : Evaluation of sigma₁ receptors in Alzheimer's disease using [¹¹C]SA4503 PET. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
- 13) Watanabe M, Katsura K, Mizukoshi G, Ohsawa I¹⁾, Asho S¹⁾, Ohta S¹⁾, Katayama Y (¹⁾ Department of

- Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate S) : Role of specific mitochondrial ATP-dependant potassium channel in ischemic tolerance phenomenon. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function, 2007. 5.
- 14) Kato K¹⁾, Shimazaki K²⁾, Suda S, Ueda M, Kamiya T³⁾, Inaba T, Yokota H⁴⁾, Oguro K⁴⁾, Watanabe E⁴⁾, Okabe M⁴⁾, Katayama Y, Kanno T¹⁾ (¹⁾ 武蔵嵐山病院, ²⁾ 自治医科大学神経脳生理学, ³⁾ 岡山大学神経内科, ⁴⁾ 自治医科大学脳神経外科) : The survival and differentiation of the mesenchymal stem cell after the transplantation in middle cerebral artery occlusion rat model. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
 - 15) Kamiya T¹⁾, Inaba T, Nito C, Ueda M, Kato K²⁾, Suda S, Hayashi T¹⁾, Deguchi K¹⁾, Yamashita T¹⁾, Sehara Y¹⁾, Tsuchiya A¹⁾, Zhang H¹⁾, Lukic V¹⁾, Katayama Y, Abe K¹⁾ (¹⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科神経病態内科学, ²⁾ 武蔵嵐山病院) : A rho-kinase inhibitor prevents apoptosis-induced neuronal cell death following transient focal ischemic in rats. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
 - 16) Nito C, Deborah J. M, Niizuma K, Pak H. C (¹⁾ Department of Neurosurgery, Stanford University School of Medicine) : Overexpression of copper-zink superoxide dismutase attenuates cytosolic phospholipase A₂ activation by blocking the p38MAPK pathway after focal cerebral ischemia. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism, and Function (Osaka, Japan), 2007. 5.
 - 17) Ishiwata A¹⁾, Mizumura S²⁾, Kitamura S¹⁾, Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Department of Neurology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Correlation with clinical features between severity or extent of lesion in Alzheimer' s disease in SPECT. Society of Nuclear Medicine Annual Meeting (Washington D. C., USA), 2007. 6.
 - 18) Mishina M, Kitamura S, Kimura Y, Naganawa M, Hashimoto M, Suzuki M, Oda K, Hamamoto M, Kobayashi S, Katayama Y, Ishii K : Relationship between adenosine A_{2A} receptor and dopamine transporter in drug naive Parkinson' s disease using TMSX PET. 13th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Chicago), 2007. 6.
 - 19) Honma A¹⁾, Kitamura S, Yoshimura I²⁾ (¹⁾ Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²⁾ Department of Management Science, Faculty Engineering, Tokyo University of Science) : Efficacy of memantine in patients with moderately severe to severe Alzheimer' s disease in Japan (dose-finding study). 11th congress of European Neurological Societies (Brussels, Belgium), 2007. 8.
 - 20) 塚本和久, 上田雅之, 中嶋信人, 永山 寛, 石井賢二¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設) : pramipexoleが著効した多系統萎縮症 (MSA-P) の1例. 第1回御茶の水PD研究会, 2007. 9.
 - 21) Fujita E, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Mii A, Takano H¹⁾, Aki K¹⁾, Iino Y, Katayama Y, Ishizaki M¹⁾, Sugisaki Y¹⁾, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of pathology Nippon Medical School) : Statin attenuates glomerular inflammation and subsequent necrotizing and crescentic anti-GBM glomerulonephritis (GN) in rats. The American Society of Nephrology (ASN) Renal Week 2007 (San Francisco, USA), 2007. 11.
 - 22) Utsumi K, Watanabe M, Kamada Y, Yamazaki M, Komaba Y, Katsura K, Iino Y, Katayama Y : Incidence of thrombosis in Japanese Patients with Fabry disease. Fifth international congress on vascular dementia (Budapest, Hungary), 2007. 11.
 - 23) Nagayama H, Ueda M, Hamamoto M, Katayama Y : The influence of aging on the pharmacokinetics of levodopa. The 3rd International Symposium on Dopaminergic and Noradrenalinergic Mechanisms in Parkinson' s disease (Osaka, Japan), 2007. 11.
 - 24) Mii A, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Fujita E, Takano H¹⁾, Aki K¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Iino Y, Katayama Y,

- Sugisaki Y¹⁾, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School) : Angiotensin II receptor blockade (ARB) prevents the acute active glomerular lesions in mesangioproliferative glomerulonephritis (GN). The American Society of Nephrology (ASN) Renal Week 2007 (San Francisco, USA), 2007. 11.
- 25) 大鳥達雄, 大久保誠二, 渡辺めぐみ, 駒場祐一, 片山泰朗 : 当院SCUにおける10症例のrt-PA使用成績に関する報告. 第4回東京脳卒中診断治療研究会, 2008. 2.
 - 26) 坂本静樹, 山崎峰雄, 大鳥達雄, 片山泰朗 : 軽度認知機能障害低下患者に対する薬物治療効果に関する検討. 第104回日本内科学会総会, 2007. 4.
 - 27) 瀬田健博, 野本達也, 水村 直¹⁾, 桂研一郎, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学放射線科) : 高齢者正常圧水頭症に対し, 髄液摂取にて長期歩行改善を認めた症例の検討. 第104回日本内科学会総会, 2007. 4.
 - 28) 永山 寛, 濱本 真, 上田雅之, 角南英子, 熊谷智昭, 中嶋信人, 片山泰朗 : 多系統萎縮症患者におけるMIBG心筋シンチの経時的変化. 第104回日本内科学会総会, 2007. 4.
 - 29) 大鳥達雄, 坂本静樹, 勝又俊弥, 片山泰朗 : 脳梗塞慢性期におけるシルビジピンの血圧, 自律神経および脳血流に対する効果 第2報 24時間血圧計, 頭部SPECT 3D-SSP解析を用いた11例の検討. 第104回日本内科学会総会, 2007. 4.
 - 30) 瀬田健博 : 高齢者正常圧水頭症に対し, 髄液摂取にて長期歩行改善を認めた症例の検討. 第104回日本内科学会総会, 2007. 4.
 - 31) 大久保誠二, 濱本 真, 熊谷智昭, 片山泰朗 : 高齢者における髄液 tap test の効果の検討. 第104回日本内科学会総会, 2007. 4.
 - 32) 勝又俊弥, 西山 稔, 大鳥達雄, 瀬田健博, 田中紀子, 片山泰朗 : インスリン抵抗性の有無による脳梗塞患者の差異. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 33) 大鳥達雄, 坂本静樹, 水村 直¹⁾, 大久保誠二, 西山 稔, 勝又俊弥, 駒場祐一, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学放射線科) : 脳梗塞慢性期におけるシルニジピンの血圧, 脳血流量および自律神経に対する効果 : 第2報 : 24時間心電血圧計, 頭部SPECT 3D-SSP解析を用いた検討. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 34) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗 : 脳梗塞うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果についての検討. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 35) 熊谷智昭, 雨宮志門, 濱本 真, 三品雅洋, 福地孝明, 小林士郎, 片山泰朗 : 脳梗塞危険因子としての延髄性高血圧. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 36) 三品雅洋, 石渡喜一¹⁾, 石井賢二¹⁾, 北村 伸, 木村裕一¹⁾, 長縄美香¹⁾, 織田圭一¹⁾, 橋本昌也¹⁾, 鈴木正彦¹⁾, 小林士郎²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 未治療パーキンソン病におけるアデノシン A_{2A} 受容体とドパミントランスポータの左右差. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 37) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 大澤郁朗¹⁾, 太田成男¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野) : 初代培養神経細胞の耐性現象におけるミトコンドリア K_{ATP} チャンネルの役割. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 38) 雨宮志門, 濱本 真, 熊谷智昭, 三品雅洋, 片山泰朗 : VSRADで算出される海馬傍回付近の萎縮と血漿 A β 42/A β 40比は相関する. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 39) 石渡明子¹⁾, 水村 直²⁾, 北村 伸¹⁾, 片山泰朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, ²⁾ 日本医科大学放射線科) : アルツハイマー病における認知機能と, SPECTによる病変の広がり・重症度との相関. 第48回日本神経学会総会 (名古屋), 2007. 5.
 - 40) 瀬田健博, 野本達也, 水村 直¹⁾, 桂研一郎, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学放射線科) : 髄液摂取にて長期歩行改善を認めた高齢者正常圧水頭症症例の検討. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 41) 大久保誠二, 濱本 真, 熊谷智昭, 片山泰朗 : 特発性正常圧水頭症の側頭葉内側萎縮の検討. 第48回日本神経

- 学会総会, 2007. 5.
- 42) 永山 寛, 濱本 真, 片山泰朗: 多系統萎縮症患者のMIBG心筋シンチグラフィの経時的変化. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 43) 神谷信雄, 五十嵐博中¹⁾, 西山康裕, 上田雅之, 須田 智, 片山泰朗 (¹⁾ 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター): 自己骨髄単核球細胞急性期投与のラット脳虚血モデルにおける脳保護効果の検討. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 44) 桂研一郎, 渡辺めぐみ, 水越元気, 桜澤 誠, 内海甲一, 片山泰朗: エリスロポエチンによるラット一過性局所脳虚血モデルにおける脳保護効果. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 45) 中嶋信人, 上田雅之, 永山 寛, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 片山泰朗: RPLSにおける病変分布と基礎疾患との関連についての検討. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 46) 西山 穰, 勝又俊弥, 大鳥達雄, 大久保誠二, 野村浩一, 片山泰朗: 脳梗塞患者における総頸動脈径と動脈硬化病変, 危険因子との関連の検討. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 47) 阿部 新, 西山康裕, 五十嵐博中¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター): early CT signは何をあらわしているか?. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 48) 坂本静樹, 山崎峰雄, 大鳥達雄, 片山泰朗: 軽度認知機能低下患者に対するドネペジル投与に関する検討. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 49) 山崎峰雄: ビック病脳大脳白質にみられる3R-4Rタウ陽性クリア. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 50) 金子朋広, 西邨俊吾, 高橋さやか, 平間章郎, 藤野鉄平, 上田佳恵, 鎌田有子, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: 腎生検後5年以上加療したIgA腎症の経過. 第50回日本腎臓学会総会, 2007. 5.
 - 51) 三井亜希子, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 藤田恵美子, 高野秀樹¹⁾, 石崎正通¹⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗, 杉崎祐一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学): Thy1腎炎急性活動性病変におけるAT1 receptor blocker (ARB) の腎保護効果. 第50回日本腎臓学会総会, 2007. 5.
 - 52) 山崎峰雄: ビック病脳大脳白質にみられる3R4Rタウ陽性のグリア内新規封入体. 第48回日本神経病理学会総会学術研究会, 2007. 5.
 - 53) 福地孝明, 三品雅洋, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 当センターで経験したrt-PA投与症例13例の報告. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 54) 三品雅洋: t-PAが有効であった1例. 第89回東葉臨床医学セミナー, 2007. 5.
 - 55) 内海甲一, 上田佳恵, 平間章郎, 藤野鉄平, 鎌田有子, 飯野靖彦, 片山泰朗: 血液透析を行なっているFabry病患者に対する酵素補充療法の検討. 第50回日本腎臓学会学術総会, 2007. 5.
 - 56) 加藤健吾¹⁾, 島崎久仁子²⁾, 須田 智, 上田雅之, 稲葉俊東, 横田英典³⁾, 小黒恵司³⁾, 渡辺英寿³⁾, 片山泰朗, 菅野龍彦¹⁾ (¹⁾ 武蔵嵐山病院, ²⁾ 自治医科大学神経脳生理学, ³⁾ 自治医科大学脳神経外科): 局所脳虚血ラットにおける骨髄間葉系幹細胞移植後の生着と分化. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 57) 井上 学¹⁾, 長尾毅彦¹⁾, 吉澤 寿²⁾, 井田正博²⁾, 河村 満³⁾, 横地正之¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院神経内科, ²⁾ 東京都保健医療公社荏原病院放射線科, ³⁾ 昭和大学神経内科): パーキンソン病早期診断におけるSusceptibility Weighted Image (SWI) の有用性. 第48回神経学会総会, 2007. 5.
 - 58) 大鳥達雄, 大久保誠二, 渡辺めぐみ, 駒場祐一, 片山泰朗: 当院SCUにおける脳梗塞に対するrt-PA使用状況とその効果についての報告. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
 - 59) 西山康裕, 駒場祐一, 神谷達司¹⁾, 上田雅之, 加藤健吾²⁾, 雨宮志門, 須田 智, 阿部 新, 片山泰朗 (¹⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科神経病態内科学, ²⁾ 武蔵嵐山病院): 非心原性虚血性脳卒中患者における血中asymmetric dimethylarginine (ADMA) のスタチンによる影響. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
 - 60) 永山 寛, 濱本 真, 上田雅之, 塚本和久, 片山泰朗: レボドーパ動態における加齢の影響. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.

- 61) 坂本静樹, 瀬田健博, 山崎峰雄, 片山泰朗: アルツハイマー病と軽度認知機能低下患者に対する薬物治療の開始時期に関する検討. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
- 62) 福地孝明, 三品雅洋, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 当センターで経験したrt-PA投与症例22症例の報告. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
- 63) 飯野靖彦: 我が国における慢性腎臓病CKD対策の現況と今後の展望. 第52回日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
- 64) 酒巻雅典, 山崎峰雄, 駒場祐一, 片山泰朗: 髄液HTLV-1抗体陽性の多発性硬化症と考えられた62歳女性例. 第181回日本神経学会関東地方会, 2007. 6.
- 65) 雨宮志門, 濱本 真, 熊谷智昭, 片山泰朗, 田中恵子¹⁾ (1) 新潟大学脳研神経内科): 脳病変にて発症6年後に視神経脊髄炎を呈した抗AQP4抗体陽性例. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
- 66) 大久保誠二, 上田雅之, 神谷信雄, 片山泰朗: Rat脳塞栓モデルに対する血栓溶解療法と脳保護薬の併用療法. 脳浮腫・頭蓋内圧フォーラム2007, 2007. 6.
- 67) 林 洋史, 雨宮志門, 熊谷智昭, 三品雅洋, 濱本 真: 症状に対応するSPECT所見を認めた34歳女性辺縁系脳炎の1例. 第181回日本神経学会関東地方会, 2007. 6.
- 68) 藤田恵美子, 金子朋広, 野村浩一, 久松めぐみ, 恩田宗彦¹⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗⁽¹⁾ 日本医科大学統御機構病理学): 診断・治療が困難な髄膜脳炎・感染性心内膜炎を合併した維持透析患者の1例. 第52回日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
- 69) 阿部 新, 植田敏浩¹⁾, 西山康裕, 片山泰朗⁽¹⁾ 済生会中央病院脳血管内治療科): 頸動脈狭窄拡張・ステント留置術は高度脳循環予備能不全に有効. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
- 70) 坂田紗弥子¹⁾, 鎌野千佐子, 大沢弘和, 齋藤京子, 木嶋祥一郎, 柏木哲也, 橋本和政¹⁾, 吉田秀光, 飯野靖彦, 片山泰朗⁽¹⁾ 博慈会記念総合病院ME機器管理課): 血小板減少からITPが疑われたが, 透析膜の変更で改善した透析患者の1例. 第52回日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
- 71) 吉沢美生¹⁾, 鎌野千佐子, 大沢弘和, 齋藤京子, 木嶋祥一郎, 柏木哲也, 橋本和政, 吉田秀光¹⁾, 飯野靖彦, 片山泰朗⁽¹⁾ 博慈会記念総合病院ME機器管理課): FPX膜による血小板減少を来した透析患者の1例. 第52回日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
- 72) 佐野直人¹⁾, 平井 亘¹⁾, 三浦貴之¹⁾, 窪田研二²⁾, 柏木哲也, 楠木正昭³⁾, 大沢弘和⁽¹⁾ 立正佼成会付属佼成病院ME室, ²⁾ 立正佼成会付属佼成病院腎臓内科, ³⁾ 博慈会記念総合病院ME機器管理課): 透析液流動状態変更が血液透析治療に与える影響. 第52回日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
- 73) 林 洋史¹⁾, 雨宮志門, 熊谷智昭, 三品雅洋, 濱本 真⁽¹⁾ 千葉北総病院内科): 症状に対応するSPECT所見を認めた34歳女性辺縁系脳炎の1例. 第181回日本神経学会関東地方会, 2007. 6.
- 74) 野本達也: 頭痛で発症した脳血管炎の1例. 第1回文京ニューロサイエンスフォーラム, 2007. 7.
- 75) 中嶋信人, 永山 寛, 上田雅之, 片山泰朗: 特異な歩行を呈したパーキンソン病の1例. 第1回東京Parkinsonism臨床研究会, 2007. 7.
- 76) 大久保誠二, 五十嵐博中¹⁾, 上田雅之, 神谷信雄, 片山泰朗⁽¹⁾ 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター): ラット脳塞栓モデルにおける血栓溶解療法と脳保護薬の効果の客観的評価. 第3回日本医科大学医用磁気共鳴分析施設公開セミナー, 2007. 8.
- 77) 神谷信雄, 上田雅之, 大久保誠二, 五十嵐博中¹⁾, 片山泰朗⁽¹⁾ 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター): 脳梗塞急性期におけるMRIを用いた自己骨髄細胞移植のモニタリング. 第3回日本医科大学医用磁気共鳴分析施設公開セミナー, 2007. 8.
- 78) 永山 寛, 山崎峰雄, 駒場祐一, 片山泰朗: MIBG心筋シンチグラフィーを繰り返し評価し得た多系統萎縮症の65歳男性剖検例. 第182回日本神経学会関東地方会, 2007. 9.
- 79) 藤田恵美子, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 三井亜希子, 安藝 薫¹⁾, 石崎正通¹⁾, 飯野靖彦, 福田 悠¹⁾, 片山泰

- 朗⁽¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学)：ラット半月体形成性腎炎におけるスタチンの腎保護作用に関する検討。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9.
- 80) 三井亜希子，清水 章¹⁾，益田幸成¹⁾，安藝 薫^{1,2)}，藤田恵美子，高野秀樹¹⁾，石崎正通¹⁾，福田 悠¹⁾，飯野靖彦，片山泰朗⁽¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学，²⁾ 日本医科大学小児科学)：糸球体腎炎の急性活動性病変に対するAT1 receptor blocker (ARB) の保護作用。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9.
- 81) 三井亜希子，清水 章¹⁾，藤田恵美子，益田幸成¹⁾，石崎正通¹⁾，飯野靖彦，片山泰朗，福田 悠¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学)：糸球体腎炎の管内増殖性病変における糸球体内皮細胞傷害の検討。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9.
- 82) 西山 穰，勝又俊弥，赤石純子，福地孝明，坂本静樹，駒場祐一，桂研一郎，片山泰朗：遺伝性血小板減少症に脳梗塞を合併した1例。第26回Mt. Fuji Workshop on CVD，2007. 9.
- 83) 桜澤 誠，桂研一郎，片山泰朗：脳血管障害を合併したWegener肉目腫症の1例。第26回Mt. Fuji Workshop on CVD，2007. 9.
- 84) 上田佳恵，有馬留志，石原 力，高橋さやか，藤野鉄平，鎌田有子，金子朋広，内海甲一，飯野靖彦，片山泰朗：MP療法が効果的であったLight Chain Deposition Disease (LCDD) の1例。第547回日本内科学会関東地方会，2007. 9.
- 85) 須田 智，島崎久仁子¹⁾，上田雅之，稲葉俊東，神谷信雄，西山康裕，大久保誠二，片山泰朗⁽¹⁾ 自治医科大学神経脳生理学)：ラット局所脳梗塞モデルにおける骨髄間葉系幹細胞移植による神経再生。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9.
- 86) 野本達也，中嶋信人，水越元気，瀬田健博，石原 力，片山泰朗：肝動脈塞栓術後，意識障害を来した1例。第81回日本神経学会東北地方会，2007. 9.
- 87) 福地孝明，三品雅洋¹⁾，水成隆之¹⁾，小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター)：日本医科大学千葉北総病院脳神経センターでのrt-PA投与22症例の報告。第19回日本脳循環代謝学会総会，2007. 10.
- 88) 大鳥達雄，大久保誠二，西山康裕，片山泰朗：当院SCUにおける脳梗塞に対するrt-PA使用状況とその効果についての報告。第19回日本脳循環代謝学会総会，2007. 10.
- 89) 西山康裕，上田雅之，駒場祐一，阿部 新¹⁾，神谷信雄，須田 智，片山泰朗⁽¹⁾ 塩田病院脳卒中センター)：非心原性虚血性脳卒中患者における血中asymmetric dimethylarginine (ADMA) のスタチンの効果。第19回日本脳循環代謝学会総会，2007. 10.
- 90) 神谷達司¹⁾，稲葉俊東，林 健¹⁾，出口健太郎¹⁾，山下 徹¹⁾，須田 智，土屋敦史¹⁾，瀬原吉英¹⁾，ルキッチヴィオレッタ¹⁾，張 漢哲¹⁾，太田健太郎¹⁾，永井真貴子¹⁾，池田佳雄¹⁾，片山泰朗，阿部康二¹⁾ ⁽¹⁾ 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科神経病態内科学)：ラット局所脳虚血モデルにおけるRho-kinase阻害薬の神経保護効果の検討：軽微低体温との併用。第19回日本脳循環代謝学会総会，2007. 10.
- 91) 神谷信雄，上田雅之，五十嵐博中¹⁾，須田 智，西山康裕，片山泰朗⁽¹⁾ 新潟大学統合脳機能センター臨床機能脳神経科学分野)：ラット脳虚血モデルにおける急性期自己骨髄単核球細胞投与経路による，脳保護効果の差異についての検討。第19回日本脳循環代謝学会総会，2007. 10.
- 92) 三品雅洋¹⁾，石渡喜一²⁾，石井賢二²⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ)：[¹⁴C] TMSX PET・[¹⁴C] CFT PET・[¹⁴C] RAC PETを用いた未治療パーキンソン病の検討。第19回日本脳循環代謝学会総会，2007. 10.
- 93) 金子朋広，平間章郎，高橋さやか，上田佳恵，内海甲一，清水 章¹⁾，三井亜希子¹⁾，飯野靖彦，片山泰朗⁽¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学)：VEGFが高値を示し血漿交換が有効であった重度の糸球体内皮細胞傷害の1例。第37回日本腎臓学会東部学術大会，2007. 10.
- 94) 永山 寛，上田雅之，濱本 真，塚本和久，片山泰朗：多系統萎縮症患者のMIBG心筋シンチの経時的変化。

第1回 Movement Disorder Society Japan, 2007. 10.

- 95) 上田佳恵, 有馬留志, 石原 力, 高橋さやか, 西邨俊吾, 藤野鉄平, 鎌田有子, 金子朋広, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 清水 章¹⁾, 杉崎祐一¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学): 2回の腎生検を施行したLCDD (Light Chain Deposition Disease) の1例. 第37回日本腎臓学会東部学術大会, 2007. 10.
- 96) 中嶋信人, 水越元気, 野本達也, 永山 寛, 上田雅之, 片山泰朗: 症状出現以前に画像異常を呈したdiabetic hemichoreaの81歳女性例. 第1回 Movement Disorder Society, Japan 学術集会, 2007. 10.
- 97) 藤野鉄平, 西邨俊吾, 有馬留志, 鎌田有子, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 清水 章¹⁾, 三井亜希子 (¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学): 治療抵抗性の強皮症腎クリアーゼと考えられた1例. 第37回日本腎臓学会東部学術大会, 2007. 10.
- 98) 三井亜希子, 益田幸成¹⁾, 内海甲一, 飯野靖彦, 清水 章¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学解析人体病理学): 電顕所見で足細胞陥入糸球体症と考えられたSLEの1症例. 第37回日本腎臓学会西部学術大会, 2007. 10.
- 99) 大鳥達雄, 西山 穰, 大久保誠二, 西山康裕, 角南英子, 駒場祐一, 片山泰朗: 当SCUで経験した, 整体後に椎骨動脈解離による小脳梗塞を来した1例. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 100) 三品雅洋¹⁾, 太組一朗¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 椎骨動脈解離性動脈瘤による脳梗塞における発症前の血管解離痛. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 101) 阿部 新¹⁾, 西山康裕, 萩原 浩¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 塩田病院脳卒中センター): 脳梗塞で発症した頭痛を伴わない前大脳動脈解離の2症例. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 102) 西山康裕, 阿部 新¹⁾, 上田雅之, 神谷信雄, 須田 智, 片山泰朗 (¹⁾ 塩田病院脳卒中センター): 一過性黒内障の症状を認め, 診断に苦慮した1例. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 103) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 片頭痛, 緊張型頭痛の患者における, うつ状態の検討. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 104) 三品雅洋¹⁾, 熊谷智昭¹⁾, 小林士郎¹⁾, 武井健吉, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 松本 尚, 益子邦洋, 片山泰朗 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 急性期脳卒中診療におけるドクターヘリ搬送. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
- 105) 大久保誠二, 大鳥達雄, 西山康裕, 片山泰朗: 頭痛で発症し, 症状が動揺した脳梗塞の1例. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 106) 須田 智, 上田雅之, 村井保夫¹⁾, 神谷信雄, 西山康裕, 大久保誠二, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): 片頭痛様症状で発症した脳動静脈奇形の1例. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 107) 太組一朗¹⁾, 三品雅洋, 田中啓太²⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京電機大学先端工学研究所): 脳出血後の虚血性病変との鑑別がMRI上困難であった側頭葉てんかん. 第41回日本てんかん学会総会, 2007. 11.
- 108) 三品雅洋, 木村裕一, 長峰美香, 織田圭一, 橋本昌也, 鈴木正彦, 小林士郎, 片山泰朗, 石渡喜一: [¹¹C] TMSX PETを用いた被殻アデノシン A_{2A} 受容体分布の加齢変化の検討. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 11.
- 109) 北村 伸: 脳核医学検査をいかに活用するか 神経内科医の立場から. 第21回神奈川PET・SPECT研究会, 2007. 11.
- 110) 三品雅洋¹⁾, 太組一朗¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 椎骨動脈解離性動脈瘤による脳梗塞における発症前の血管解離痛. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 111) 西山康裕, 大久保誠二, 西山 穰, 大鳥達雄, 片山泰朗: 家族性ATIII欠乏症による上矢状静脈洞血栓症の46歳女性例. 第183回日本神経学会関東地方会, 2007. 12.
- 112) 須田 智, 島崎久仁子¹⁾, 上田雅之, 加藤健吾²⁾, 稲葉俊東, 神谷信雄, 西山康裕, 大久保誠二, 横田英典²⁾, 小黒恵司²⁾, 渡辺英寿²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 自治医科大学神経脳生理学, ²⁾ 自治医科大学脳神経外科): ラット局所

- 脳虚血モデルにおける骨髄間葉系幹細胞による治療：神経再生と神経保護効果. 第30回日本分子生物学会年会, 2007. 12.
- 113) 西山康裕, 大久保誠二, 西山 稔, 大鳥達雄, 福地孝明, 駒場祐一, 片山泰朗: 家族性 ATIII 欠乏症による上矢状静脈洞血栓症の46歳女性例. オザグレル研究会, 2007. 12.
- 114) 須田 智, 上田雅之, 片山泰朗: 片頭痛様症状で発症した脳動静脈奇形の1例. 第4回東京脳卒中診断治療研究会, 2008. 2.
- 115) 塚本和久, 片山泰朗: 亜急性進行性の認知機能障害にて発症した橋本脳症の1例. 第2回文京ニューロサイエンス, 2008. 2.
- 116) 大久保誠二, 野村浩一, 大鳥達雄, 西山康裕, 西山 稔, 駒場祐一, 片山泰朗: 整体後に椎骨動脈解離による小脳梗塞をきたした1例. 第4回東京脳卒中診断治療研究会, 2008. 2.
- 117) 福地孝明, 三品雅洋, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (1) 千葉北総病院脳神経センター): 日本医科大学千葉北総病院脳神経センターにて経験した rt-PA 投与 22 症例の報告. 第4回東京脳卒中診断治療研究会, 2008. 2.
- 118) 駒場祐一, 片山泰朗: 日本医科大学 SCU 開設後一年間の急性期虚血性脳血管障害の治療成績. 第4回東京脳卒中診断治療研究会, 2008. 2.
- 119) 三品雅洋, 太組一朗¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (1) 千葉北総病院脳神経センター): 気温と病型別脳梗塞発症の関係. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 120) 福地孝明, 三品雅洋, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (1) 千葉北総病院脳神経センター): 日本医大千葉北総病院脳神経センターで経験した rt-PA 投与 22 症例. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 121) 荒井雅江, 酒巻雅典, 塚本和久, 山崎峰雄, 片山泰朗, 高橋幸利¹⁾ (1) 国立静岡てんかん・神経医療センター): 卵巣奇形腫に合併した辺縁系脳炎の22歳女性例. 第184回日本神経学会関東地方会, 2008. 3.
- 122) 大鳥達雄, 西山康裕, 大久保誠二, 西山 稔, 角南英子, 駒場祐一, 福地孝明, 片山泰朗: 家族性アンチトロンビン III 欠乏症により静脈洞血栓症をきたした1例. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 123) 大久保誠二, 五十嵐博中¹⁾, 片山泰朗 (1) 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター): ラット脳塞栓モデルに対する rt-PA と FK506 の併用療法の検討. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 124) 神谷信雄, 上田雅之, 五十嵐博中¹⁾, 西山康裕, 須田 智, 片山泰朗 (1) 新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター): ラット局所脳虚血モデルにおける MRI を用いた自己骨髄細胞移植のモニタリング. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 125) 神谷達司¹⁾, 稲葉俊東, 出口健太郎¹⁾, 山下 徹¹⁾, 瀬原吉英¹⁾, ルキッチヴィオレッタ¹⁾, 土屋敦史¹⁾, 池田佳生¹⁾, 片山泰朗, 阿部康二¹⁾ (1) 岡山大学大学院医歯薬総合研究科神経病態内科学): ラット局所脳虚血モデルにおける Rho-kinase 阻害薬の神経保護効果の検討: 軽微低体温との併用. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 126) 櫻澤 誠, 桂研一郎, 齋藤萌子, 麻生定光¹⁾, 太田成男¹⁾, 片山泰朗 (1) 老人病研究所生化学部門): ラット脳梗塞モデルにおける PTD-FNK 蛋白と低体温療法の併用効果の検討. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 127) 仁藤智香子, 上田雅之, Pak H. C¹⁾, 片山泰朗 (1) Department of Neurosurgery, Stanford University School of Medicine): 脳虚血再灌流後の血液・脳関門障害における p38MAPK/cPLA₂ pathway の役割. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 128) 西山康裕, 上田雅之, 駒場祐一, 大鳥達雄, 大久保誠二, 西山 稔, 福地孝明, 角南英子, 阿部 新, 片山泰朗: 非心原性脳梗塞患者における asymmetric dimethylarginine (ADMA) のスタチン効果について. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 129) 西山 稔, 勝又俊弥, 大鳥達雄, 片山泰朗: 脳梗塞患者における頸動脈 Intima-media thickness (IMT) の地域差についての検討. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 130) 阿部 新, 西山康裕, 萩原 浩, 片山泰朗: 脳梗塞で発症した頭痛を伴わない前大脳動脈解離の2症例. 第33

- 回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 131) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗: 脳梗塞後うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果についての検討. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 132) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター 神経内科): 外注検査と院内検査のPT-INRデータの不一致について. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 133) 駒場祐一, 中嶋信人, 野村浩一, 水越元気, 角南英子, 有井一正, 西山 稜, 大鳥達雄, 桂研一郎, 片山泰朗: 開設後一年間のStroke Care Unitの急性期虚血性脳血管障害の治療成績. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 134) 野村浩一, 野本達也, 瀬田健博, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳梗塞様の経過を認めた血栓性血小板減少性紫斑病における脳血流異常. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 135) 島崎久仁子¹⁾, 須田 智, 小黒恵司²⁾, 横田英典²⁾, 渡辺英寿²⁾, 岡田尚己³⁾ (¹⁾ 自治医科大学神経脳生理学, ²⁾ 自治医科大学脳神経外科, ³⁾ 国立精神・神経センター神経研究所遺伝子疾患治療研究部): 海馬神経細胞へのEGFP導入におけるアデノ随伴ウイルスベクター-2, 8, 9型の差異. 第85回日本生理学会大会, 2008. 3.
- 136) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 大澤郁朗¹⁾, 太田成男¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野): 初代培養神経細胞を用いた耐性現象とミトコンドリア膜電位: ミトコンドリアK_{ATP}チャネルの役割. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 137) 内海甲一: 尿沈渣の所見より発見し得たFabry病患者の1例. 第2回ファブリー病シンポジウム, 2008. 3.
- 138) 野本達也, 水越元気, 中嶋信人, 桂研一郎, 片山泰朗: 脊髄肥厚性硬膜炎の1例. 第82回日本神経学会東北地方会, 2008. 3.
- 139) 長尾毅彦¹⁾, 片山泰朗, 横地正之¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院総合脳卒中センター): 外注検査と院内検査のPT-INRデータの不一致について. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 140) 岡村正哉¹⁾, 三上哲弥²⁾, 船富 等²⁾, 尾花正義³⁾, 横地正之¹⁾ (¹⁾ 東京都保健医療公社荏原病院神経内科, ²⁾ 東京都保健医療公社荏原病院内科, ³⁾ 東京都保健医療公社荏原病院リハビリテーション科): パーキンソン病に食道アカラシアを合併した83歳男性例. 第184回日本神経学会関東地方会, 2008. 3.
- 141) 金子朋広, 上田佳恵, 藤野鉄平, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗: IgA腎症に対する扁桃摘後ステロイドパルス+ミゾリピン療法の治療効果. 第105回日本内科学会総会, 2008. 4.
- 142) 角南英子, 白田和弘, 片山泰朗: 脳梗塞うつ状態の患者に対するフルボキサミン投与による臨床効果についての検討. 第105回日本内科学会総会, 2008. 4.
- (8) Meet the Expert 基調講演:
1) 飯野靖彦: CKDと生活習慣病. 第42回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会, 2008. 1.
- (9) イブニングセミナー:
1) 北村 伸: 血管性認知症の診断におけるSPECTの役割. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 9.
- (10) イブニングセミナー2:
1) 飯野靖彦: 移植患者のマネジメント: 知っておきたい内科学的トピックス. 第43回日本移植学会総会, 2007. 11.
- (11) 指定講演:
1) 石渡明子: アルツハイマー病の画像診断: 統計画像のピットフォール. 第2回文京ニューロサイエンス, 2008. 2.
- (12) 奨学賞受賞記念講演:
1) 三品雅洋: PETを用いた脳疾患の診断と病態の研究. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

[付属病院リウマチ科]

研究概要

リウマチ科ではリウマチ性疾患（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、変形性関節症など）の臨床的・基礎的研究を進めております、具体的には、臨床研究として、内科的・外科的治療・リハビリテーション・精神的指導などを含めたトータルマネジメントを行うべく、1) リウマチ性疾患に対する神経・内分泌・免疫系の役割について、2) 生物学的製剤の有効性の検討、3) 人工関節の長期成績・耐久性のよい人工膝関節の開発について、4) 人工関節置換術の合併症、手術後の肺塞栓症と深部静脈血栓症の予防と治療、5) リウマチ肺の臨床的研究、6) 関節リウマチによる脊椎病変の臨床的検討、7) 変形性関節症に対するサブリメント療法などを行っております。

一方、基礎的研究では、1) 関節リウマチの遺伝子治療、2) 関節リウマチにおける血管増殖因子と抑制因子の制御、3) 疾患修飾性抗リウマチ薬の薬剤耐性機構の解明、4) 膠原病発症の分子機構の解明とその制御、5) リウマチ肺の基礎的研究、6) リウマチ性疾患のプロテオシクス解析、7) 変形性関節症の関節破壊機序について研究を行っています。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Xiang Y¹, Matsui T², Matsuo K³, Shimada K², Tohma S², Nakamura H, Masuko K³, Yudoh K³, Nishioka K³, Kato T³ (¹ University Hospital, Hube, China, ² Sagamihara National Hospital, Sagamihara, Kanagawa, Japan, ³ St. Marianna University School of Medicine, Kawasaki, Kanagawa, Japan) : Comprehensive investigation of disease-specific short peptides in sera from patients with systemic sclerosis : Complement C3f-des-arginine, detected predominantly in systemic sclerosis sera, enhances proliferation of vascular endothelial cells. *Arthritis Rheum* 2007 ; 56 (6) : 2018-2030.
- 2) Yudoh K¹, Shishido K², Murayama H², Yano M², Matsubayashi K³, Takada H³, Nakamura H, Masuko K¹, Kato T¹, Nishioka K¹ (¹ St. Marianna Univ. , ² Mitsubishi Co. , ³ Vitamin C60 BioResearch Co.) : Water-soluble C60 fullerene prevents degeneration of articular cartilage in osteoarthritis via down-regulation of chondrocyte catabolic activity and inhibition of cartilage degeneration during disease development . *Arthritis Rheum* 2007 ; 56 (10) : 3307-3318.

(2) 総説：

- 1) Masuko K¹, Nakamura H (¹ Department of Bioregulation and Proteomics, Inst. Medical Science, St. Marianna University) : Functional somatic syndrome : how it could be relevant to rheumatologists. *Mod Rheumatol* 2007 ; 17 : 179-184.
- 2) 丹野 亮¹, 中島敦夫 (¹ 東京都リハビリテーション病院 整形外科・リウマチ科) : TNF 阻害療法の費用対効果. *リウマチ科* 2007 ; 38 (3) : 258-265.
- 3) 中島敦夫 : CD28/B7 costimulation. *腎と透析* 2007 ; 63 (4) : 571-573.
- 4) 鎌田孝一¹, 上條清嗣², 中島敦夫, 八木田秀雄², 黒澤 尚¹ (¹ 順天堂大学 整形外科, ² 順天堂大学 免疫) : コラーゲン関節炎と TWEAK. *臨床免疫・アレルギー科* 2007 ; 48 (4) : 428-434.
- 5) 中島敦夫 : CD28. *リウマチ科* 2007 ; 38 (6) : 493-499.

(3) 症例報告：

- 1) Nakamura H, Masuko K¹, Yudoh K¹, Kato T¹, Nishioka K¹, Sugihara T², Beppu M² (¹ Inst. Med. Sci, St. Marianna Univ. , ² Dept. Orthopedics, St. Marianna Univ.) : Positron emission tomography with (18) F-FDG in osteoarthritic knee. *Osteoarthritis Cartilage* . *Osteoarthritis Cartilage* 2007 ; 15 (6) : 673-681.

(4) 質疑応答：

- 1) 中村 洋：グルコサミン・コンドロイチンの薬理的動態．日本医事新報 2007；4344：93.

(5) 話題：

- 1) 中村 洋：透析と線維筋痛症．臨床透析 2008；24（2）：264-265.

著 書

- 1) 中村 洋：〔分担〕骨・関節疾患．薬剤師，薬学生のための「臨床医学テキスト」（大野 勲 他），2007；pp338-345，薬事日報社.
- 2) 中村 洋，吉野横一：〔分担〕関節外症状．最新整形外科学大系 19 関節リウマチと類縁疾患（越智隆弘他），2007；pp100-105，中山書店.
- 3) 吉岡太郎，中島敦夫：〔分担〕抗リウマチ薬の種類と特徴．整形外科医のための最新関節リウマチ治療（勝呂徹 編集），2007；pp24-38，メジカルビュー社.
- 4) 中島敦夫：〔共著〕高安静脈炎．今日の治療指針（山口 徹，北原光夫，福井次矢 編集），2008；pp319-320，医学書院.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 中島敦夫：関節リウマチUp to date：診断，検査，および治療．都臨技血清研究班研修会，2007．4.
- 2) 中島敦夫：エンブレルによる関節リウマチ治療の新時代．リウマチ懇話会，2007．5.
- 3) 中島敦夫：関節リウマチ治療の新戦略．鹿島整形外科医会，2007．7.
- 4) 中島敦夫：リウマチ薬の副作用．日本リウマチ友の会東京支部療養講演会，2007．10.
- 5) 中島敦夫：関節リウマチの早期診断と治療戦略．東京都臨床検査技師会 臨床化学検査班研修会，2007．10.
- 6) 中島敦夫：間質性肺炎を合併した関節リウマチに対する治療の新戦略．第二回鹿児島関節リウマチ研究会，2008．1.
- 7) 中村 洋：関節痛の薬物・サプリメント療法．第21回都民公開講座，2008．2.

(2) 教育講演：

- 1) 中村 洋：変形性関節症治療におけるグルコサミン療法．第32回日本膝関節学会，2007．6.
- 2) 中村 洋：ヒアルロン酸関節内注入療法の効果と作用機序．第3回ヒアルロン酸関節内注入療法の臨床と基礎研究会（東京），2007．9.
- 3) 中村 洋：肘関節リウマチの手術療法．第40回 多摩リウマチ研究会，2007．10.
- 4) 中村 洋：関節疾患の痛みに対する薬物治療．大分県学術講演会—『痛み』を考える—，2008．3.

(3) シンポジウム：

- 1) 中村 洋：変形性関節症に対するグルコサミンの効果（変形性関節症に対する薬物療法）．第12回日本関節症研究会，2007．6.
- 2) 中村 洋：変形性関節症に対するグルコサミンの効用（変形性膝関節症の治療と今後の展望）．第35回日本リウマチ関節外科学会（東京），2007．11.
- 3) 永島正一¹⁾，高橋 央¹⁾，森下 実¹⁾，和宇慶晃一¹⁾，竹之内研二⁽¹⁾ 都立墨東病院リウマチ膠原病科）：機能回復と手術（患者のADLを考えた最新のリウマチ治療～MTX・インフリキシマブそして手術）．第35回日本リウマチ・関節外科学会，2007．11.
- 4) 中村 洋：変形性関節症に対するグルコサミンの効用（変形性膝関節症の治療と今後の展望）．第35回日本リウマチ・関節外科学，2007．11.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 吉岡太郎, 中村 洋, 中島敦夫：生物学的製剤投与患者の手術時対策. 第18回日本リウマチ学会関東支部学術集会, 2007. 12.

(5) ワークショップ：

- 1) 立原章年, 中村 洋, 吉岡太郎, 石神 伸, 小山泰朗, 竹之内研二, 行徳興基, 坂根 学, 岩川賀世, 中島敦夫：人工膝関節全置換術の術後成績と合併症. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.
- 2) 吉岡太郎, 中村 洋, 立原章年, 石神 伸, 小山泰朗, 岩川賀世, 竹之内研二, 坂根 学, 行徳興基, 中島敦夫：間質性肺炎を合併した関節リウマチに対するタクロリシムの臨床成績. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.
- 3) 森下 実, 立原章年, 竹之内研二, 高橋 央¹⁾, 和宇慶晃一¹⁾, 永島正一¹⁾ (1) 都立墨東病院リウマチ膠原病科)：関節リウマチ患者に対する bisphosphonates および vitamin K₂ 併用療法の骨形成および骨吸収抑制効果：2年経過時の臨床成績. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.
- 4) 永島正一¹⁾, 森下 実, 竹之内研二, 和宇慶晃一¹⁾, 高橋 央¹⁾ (1) 都立墨東病院リウマチ膠原病科)：関節リウマチ患者に対する各種 bisphosphonates と vitamin K₂ 併用療法の骨破壊および破骨細胞誘導抑制効果：2年経過時の臨床成績. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.
- 5) 増子佳世¹⁾, 村田三奈子¹⁾, 遊道雄¹⁾, 中村 洋, 加藤智啓¹⁾ (1) 聖マリアンナ医科大学難治研センター生体機能・プロテオーム制御部門)：スフィンゴシン1リン酸 (S1P) による軟骨変性機構. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.
- 6) 片野雅淑^{1, 2)}, 川上雄起^{1, 3)}, 増子佳世¹⁾, 中村 洋, 遊道雄¹⁾, 加藤智啓¹⁾ (1) 聖マリアンナ医科大学難治研センター生体機能・プロテオーム制御部門, 2) 株式会社三菱化学ビーシーエル研究開発部, 3) 横浜市立大学)：MALDI-TOF/TOF を用いた GM-CSF による活性化好中球のプロテオーム解析. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.

(6) 一般講演：

- 1) 岩川賀世, 坂根 学, 竹之内研二, 行徳興基, 小山泰朗, 石神 伸, 立原章年, 吉岡太郎, 中村 洋, 中島敦夫：関節リウマチ (RA) におけるエタネルセプト投与例のインフリキシマブからの移行例の治療成績. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.
- 2) 竹之内研二, 行徳興基, 坂根 学, 岩川賀世, 小山泰朗, 石神 伸, 立原章年, 吉岡太郎, 中村 洋, 中島敦夫：関節リウマチに対する生物学的製剤使用患者の満足度. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.
- 3) 坂根 学, 行徳興基, 竹之内研二, 岩川賀世, 小山泰朗, 石神 伸, 立原章年, 吉岡太郎, 中村 洋, 中島敦夫：関節リウマチ (RA) に対する生物学的製剤 (Infliximab, Etanercept) の効果を検討. 第51回日本リウマチ学会総会, 2007. 4.
- 4) 坂根 学, 行徳興基, 竹之内研二, 岩川賀世, 小山泰朗, 宮本洋介, 立原章年, 吉岡太郎, 鈴木伸之, 中村 洋, 中島敦夫：etanercept を用いた多中心性細網組織球症の1例. 第48回関東リウマチ研究会, 2007. 6.
- 5) 影山憲貴¹⁾, 小林紘士¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 柴田泰史¹⁾, 三橋 太¹⁾, 高木 豊¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 中島敦夫, 里村克章¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院中央検査部)：MMP-3 と RA 関連マーカーおよび DAS28 の関係について. 第39回日本臨床検査自動化学会, 2007. 9.
- 6) 行徳興基, 吉岡太郎, 立原章年, 宮本洋介, 小山泰朗, 岩川賀世, 竹之内研二, 坂根 学, 石神 伸, 中村 洋, 中島敦夫：関節リウマチによる両側脛骨内顆高度欠損膝に骨切りで得られた自家骨を移植してTKAを行った1例. 第35回日本リウマチ・関節外科学, 2007. 11.
- 7) 坂根 学, 岩川賀世, 小山泰朗, 森下 実, 宮本洋介, 立原章年, 吉岡太郎, 鈴木伸之, 中村 洋, 中島敦夫：生物学的製剤を長期使用中に結核によると思われる胸膜炎・胸水貯留を呈した, 関節リウマチの1例. 第18回日本リウマチ学会関東支部, 2007. 12.

- 8) 吉岡太郎, 立原章年, 森下 実, 小山泰朗, 鈴木伸之, 川村晴也¹⁾, 中村 洋, 中島敦夫 (1) 東京白十字病院) : TKA における角度計付き大腿コンポーネントサイザーの有用性. 第38回日本人工関節学会, 2008. 2.
- (7) Instructional Course Lecture :
- 1) 中村 洋 : 変形性関節症治療におけるグルコサミン療法 (Management of OA Knee). 第32回日本膝関節学会 (北海道), 2007. 6.

3. 内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）

〔付属病院第3内科（血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科）〕

研究概要

<血液内科>血液病学の基礎的研究では，昨年度に引き続き急性白血病，慢性骨髄性白血病，骨髄異形成症候群など重要な造血器腫瘍性疾患の発症機序，病態解析などに関して分子生物学，細胞生物学，腫瘍免疫学などの方法論を駆使して検討を行い，また真性多血症，本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発癌機構，病態についても解析をすすめた．さらに，骨髄不全症候群の原因遺伝子の解明を行い，報告した．臨床的研究では，急性白血病の臨床病態解析を行い，造血幹細胞移植では臍帯血移植，骨髄非破壊的移植の治療成績改善に関する治療研究を行った．

<消化器内科>消化器内科では，(1) 食道運動機能異常症の病態生理学的検討，(2) *Helicobacter pylori* 感染の意義，(3) デイスペプシア（機能的胃症）の臨床的，病態生理学的研究，(4) 炎症性腸疾患の病態生理に関する検討，(5) 大腸腺腫，癌の病態に関する検討，(6) カプセル内視鏡，小腸内視鏡を用いた小腸潰瘍性疾患，出血性疾患の臨床的解析，(7) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈の肝内門脈大循環短絡術に関する臨床的検討，(8) 慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能，など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め，(9) COX-2の消化管癌に対する役割など基礎的研究も実施されている．

<内分泌代謝内科>基礎研究 (1) 成長ホルモン分泌と食欲調節，(2) 培養脂肪細胞の代謝と成長ホルモン，(3) 過酸化リン脂質，フォスファチジルコリンヒドロペルオキシドPCOOHが単球由来細胞（THP-1）接着能を亢進．臨床研究 (1) 血清アポB48と動脈硬化，(2) 糖尿病における α グルコシダーゼ阻害剤の治療効果，(3) スタチン治療と頸動脈硬化—3年間の前向き研究，(4) 牛乳による脂質代謝と消化管ホルモンの変化，(5) 内分泌疾患に対する治療介入研究，(6) 厚生労働省科学研究班の一員として異なった3つのテーマに参加，(7) 農水省「生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業」を展開．

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Ohwada R, Hotta M, Oikawa S, Takano K : Etiology of hypercholesterolemia in patients with anorexia nervosa. . Int J Eat Disord 2006 ; 39 (7) : 598-601.
- 2) Tamura H : Expression and function of B7 family molecules on blasts of patients with myelodysplastic syndromes. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 85-86.
- 3) Tamura H, Okamoto M, Yamashita T, Sato C, Watanabe A, Kondo A, Tatsuguchi A, Tsuji T, Ogata K, Dan K : Pure white cell aplasia : Report of the first case associated with primary biliary cirrhosis. Int J Hematol 2007 ; 865 (2) : 97-100.
- 4) 植原義之，金沢秀典，福田 健，張本滉智，松下洋子，城所秀子，片倉玲樹，厚川正則，滝 保彦，木村 祐，中塚雄久，坂本長逸：肝腎症候群に対するterlipressinによる治療経験．日本門脈圧亢進症学会雑誌 2006 ; 12 (4) : 285-290.

追加分総説：

- 1) 金沢秀典，滝 保彦，植原義之，中塚雄久，坂本長逸：TIPSの手技および早期合併症．日本門脈圧亢進症学会雑誌 2006 ; 12 (4) : 312-319.
- 2) 塩井由美子，檀 和夫：貧血と赤血球指数．Current Therapy 2007 ; 25 (3) : 60-60.

(1) 原著：

- 1) Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Ueki N¹⁾, Gudis K¹⁾, Miyake K¹⁾, Tsukui T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Nippon Medical School) : Helicobacter pylori infection induces accumulation of Vdelta1 T cells via CCR2 upregulation. *Aliment Pharmacol Ther* 2006 ; 20 : 8-15.
- 2) Futagami S, Suzuki K, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Ueki N, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : Chemopreventive effect of celecoxib in gastric cancer. *Inflammopharmacology* 2007 ; 15 (4) : 1-4.
- 3) Inami M, Inokuchi K, Okabe M, Kosaka F, Mitamura Y, Yamaguchi H, Dan K : Polycythemia associated with the JAK2V617F mutation emerged during treatment of chronic myelogenous leukemia. *Leukemia* 2007 ; 21 (5) : 1003-1004.
- 4) Satoh C, Dan K, Yamashita T, Jo R, Tamura H, Ogata K : Flow cytometric parameters with little interexaminer variability for diagnosing low-grade myelodysplastic syndromes. *Leuk Res* 2007 ; 32 (5) : 699-707.
- 5) Luque-M R¹⁾, Amargo G¹⁾, Ishii S, Lobe C¹⁾, Franks R¹⁾, Kiyokawa H, Kineman-D R¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, University of Illinois, Chicago) : Reporter Expression, Induced by a Growth Hormone Promoter-Driven Cre Recombinase (rGHp-Cre) Transgene, Questions the Developmental Relationship between Somatotropes and Lactotropes in the Adult Mouse Pituitary Gland. *Endocrinology* 2007 ; 148 (5) : 1946-1953.
- 6) Inami M, Inokuchi K, Yamaguchi H, Dan K : Reply to 'Myeloproliferative disorders with coexisting BCR-ABL translocation and JAK2 (V617F) mutation' by Dr Ronald S Go. *Leukemia* 2007 ; 21 (8) : 42-42.
- 7) Kawagishi N¹⁾, Satoh K¹⁾, Akamatsu S¹⁾, Sikiguchi S¹⁾, Ishigaki Y²⁾, Oikawa S, Satomi S¹⁾ (¹⁾ Division of Advanced Surgical Science and Technology, Graduate School of Medicine, Tohoku University, ²⁾ Division of Molecular Metabolism and Diabetes, Graduate School of Medicine, Tohoku University) : Long-term Outcome after Living Donor Liver Transplantation for Two Cases of Homozygous Familial Hypercholesterolemia from a Heterozygous Donor. *J Atheroscl Thromb* 2007 ; 14 (2) : 94-97.
- 8) Komada Y, Murata S, Tajima H, Kumita S, Kanazawa H, Tajiri T : Haemodynamic changes in the liver under balloon occlusion of a portal vein branch : evaluation with single-level dynamic computed tomography during hepatic arteriography. *Clin Radiol* 2007 ; 62 (6) : 579-586.
- 9) Yamaguchi H : Mutations of telomerase complex genes linked to bone marrow failures. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (3) : 202-209.
- 10) Shimamoto K¹⁾, Kita T¹⁾, Mabuchi H¹⁾, Matsuzaki M¹⁾, Matsuzawa Y¹⁾, Nakaya N¹⁾, Oikawa S, Satito Y¹⁾, Sasaki J¹⁾, Itakura H¹⁾ (¹⁾ J-LIT Study Group) : Effect of hypertension and type2 diabetes mellitus on the risk of total cardiovascular events in Japanese patients with hypercholesterolemia : Implications from the Japan Lipid Intervention Trial (J-LIT). *Hypertens Res* 2007 ; 30 : 119-123.
- 11) Kimura T¹⁾, Nakagawa K¹⁾, Kubota H¹⁾, Kojima Y¹⁾, Goto Y¹⁾, Yamagishi K¹⁾, Oita S¹⁾, Oikawa S, Miyazawa T¹⁾ (¹⁾ Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University) : Food-grade mulberry powder enriched with 1-deoxyinosine suppresses the elevation of postprandial blood glucose in humans. *J Agric Food Chem* 2007 ; 55 (14) : 5869-5874.
- 12) Fujimori S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Gudis K¹⁾, Kishida T¹⁾, Mitsui K¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Sekita Y¹⁾, Seo T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School) : High Dose Probiotic and Prebiotic Cotherapy for Remission Induction of Active Crohn' s Disease.

J Gastroenterol Hepatol 2007 ; 22 : 1199-1204.

- 13) Sawada K, Hirokawa M, Fujishima N, Teramura M, Bessho M, Dan K, Tsurumi H, Nakao S, Urabe A, Omine M, Ozawa K : Long-term outcome of patients with acquired primary idiopathic pure red cell aplasia receiving cyclosporine A. A nationwide cohort study in Japan for the PRCA Collaborative Study Group. *Hematologica* 2007 ; 92 (8) : 1021-1028.
- 14) Nakagawa K¹⁾, Shibata A¹⁾, Yamashita S¹⁾, Tsuzuki T¹⁾, Kariya J²⁾, Oikawa S, Miyazawa T¹⁾ (1) Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, 2) Project M Co. Ltd) : In vivo angiogenesis is suppressed by unsaturated vitamin E, tocotrienol. *J Nutr* 2007 ; 137 (8) : 1938-1943.
- 15) Arai H¹⁾, Yamamoto A²⁾, Matsuzawa Y³⁾, Saito Y⁴⁾, Yamada N⁵⁾, Oikawa S⁶⁾, Mabuchi H⁷⁾, Teramoto T⁸⁾, Sasaki J⁹⁾, Nakaya N¹⁰⁾, Itakura H, Ishikawa Y, Ouchi Y, Horibe H, Egashira T, et al. (1) Department of Geriatric Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, 2) National Cardiovascular Center, 3) Sumitomo Hospital, 4) Clinical Cell Biology and Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, 5) Institute of Clinical Medicine, Tsukuba University, 6) Department of Internal Medicine, Kanazawa University, 7) Department of Internal Medicine, Teikyo University, 8) International University of Health and Welfare, 9) Nakaya Clinic, 10) Ibaraki Christian University) : Polymorphisms of apolipoprotein E and methylenetetrahydrofolate reductase in the Japanese population. *J Atheroscler Thromb* 2007 ; 14 (4) : 167-171.
- 16) Fukumoto A, Tanaka S, Yamamoto H, Yao T, Matsui T, Goto H, Sakamoto C, Chiba T, Sugano K : Diagnosis and treatment of small-bowel stricture by double balloon endoscopy . *Gastrointest Endosc* 2007 ; 66 : S108-S112.
- 17) Tamai H, Shioi Y, Yamaguchi H, Okabe M, Wakita S, Mizuki T, Nakayama K, Inokuchi K, Tajika K, Dan K : Treatment of relapsed acute myeloid leukemia with MLL/AF6 fusion after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with gemtuzumab ozogamicin with a long interval followed by donor lymphocyte infusion . *Leukemia* 2007 ; 8 (11) : 1-2.
- 18) Nakagawa K¹⁾, Kubota H¹⁾, Kimura T¹⁾, Yamashita S¹⁾, Tsuzuki T¹⁾, Oikawa S, Miyazaki T¹⁾ (1) Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University) : Occurrence of orally administered mulberry 1-Deoxynojirimycin in rat plasma. *J Agric Food Chem* 2007 ; 55 (22) : 8928-8933.
- 19) Fujimori S¹⁾, Seo T¹⁾, Gudis K¹⁾, Tanaka S¹⁾, Mistui K¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Ehara A¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Nippon Medical School) : Diagnosis and treatment of obscure gastrointestinal bleeding using combined capsule endoscopy and double balloon endoscopy. *Endoscopy* 2007 ; 39 : 1053-1058.
- 20) Tajika K, Mizuki T, Nakayama K, Yamaguchi H, Dan K : Umbilical-cord blood cell transplantation conditioned with a reduced intensity-regimen is a practical salvage therapy for severe aplastic anemia refractory to immunosuppressive therapy with antithymocyte globulin/ciclosporin. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (6) : 424-429.
- 21) Shioi Y, Tamura H, Yokose N, Satoh C, Dan K, Ogata K : Increased apoptosis of circulating T cells in myelodysplastic syndromes. *Leuk Res* 2007 ; 31 (12) : 1641-1648.
- 22) Miyake K, Inokuchi K, Miyake N, Dan K, Shimada T : HIV vector-mediated targeted suicide gene therapy for adult T-cell leukemia. *Gene Ther* 2007 ; 14 (23) : 1662-1667.
- 23) Nakagawa K¹⁾, Ibusuki D¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Yamashita S¹⁾, Higuchi O²⁾, Oikawa S, Miyazawa T¹⁾ (1) Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University) : Ion-

- trap tandem mass spectrometric analysis of squalene monohydroperoxide isomers in sunlight-exposed human skin. *Lipid Res* 2007 ; 48 (12) : 2779-2787.
- 24) Yanagiya T, Tanabe A, Iida A, Saito S, Sekine A, Takahashi A, Tsunoda T, Kamohara S, Nakata Y, Konani K, Komatsu R, Itoh N, Mineo I, Wada J, Masuzaki H, et al. : Association of single-nucleotide polymorphisms in MTMR9 gene with obesity. *Hum Mol Genet* 2007 ; 16 (24) : 3017-3026.
 - 25) Gudis K, Tatsuguchi A, Wada K, Hiratsuka T, Futagami S, Fukuda Y¹⁾, Kiyama T²⁾, Tajiri T²⁾, Miyake K, Sakamoto C (¹⁾ 第一病理, ²⁾ 第一外科) : Clinical significance of prostaglandin E synthase expression in gastric cancer tissue. *Hum Pathol* 2007 ; 38 (12) : 1826-1835.
 - 26) Tanaka S, Mitsui K, Tatsuguchi A, Kobayashi T, Ehara A, Gudis K, Sakamoto C : Current status of double balloon endoscopy : indications, insertion route, sedation, complications, technical matters. *Gastrointest Endosc* 2007 ; 66 : 30-33.
 - 27) Kakugawa Y, Watanabe S, Kobayashi N, Tani M, Tanaka S, Tsuta K, Saito D : Diagnosis of small-bowel metastasis of malignant pleural mesothelioma by capsule endoscopy and double balloon enteroscopy. *Endoscopy* 2007 ; 39 : 229-230.
 - 28) Iwakiri K, Tanaka Y, Hayashi Y, Kotoyori M, Kawami N, Kawakami A, Sakamoto C : Association between reflux esophagitis and/or hiatus hernia and gastric mucosal atrophy level in Japan. *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2007 ; 22 : 2212-2216.
 - 29) Inami M, Yamaguchi H, Hasegawa S, Mitamura Y, Kosaka F, Kobayashi A, Kimura S, Dan K, Inokuchi K : Analysis of the exon 12 and 14 mutations of the JAK2 gene in Philadelphia chromosome-positive leukemia. *Leukemia* 2008 ; 22 (1) : 216-216.
 - 30) Hirokawa M, Sawada K, Fujishima N, Nakao S, Urabe A, Dan K, Fujisawa S, Yonemura Y, Kawano F, Omine M, Ozawa K : Long-term response and outcome following immuno-suppressive therapy in thymoma-associated pure red cell aplasia : a nationwide cohort study in Japan by the PRCA Collaborative Study Group. *Haematologica* 2008 ; 931 (1) : 27-33.
 - 31) Hayashi Y, Iwakiri K, Kotoyori M, Sakamoto C : Mechanisms of acid gastroesophageal reflux in the Japanese population. *Digestive disease and science* 2008 ; 53 (1) : 1-6.
 - 32) Osada Y, Kanazawa H, Narahara Y, Mamiya Y, Nakatsuka K, Sakamoto C : Wedged hepatic venous pressure does not reflect portal pressure in patients with cirrhosis and hepatic veno-venous communications. *Digestive disease and science* 2008 ; 53 (1) : 7-13.
 - 33) Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Shinji Y¹⁾, Suzuki K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Tanaka S¹⁾, Wada K¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine) : COX-2 and CCR2 induced by CD40 ligand and MCP-1 are linked to VEGF production in endothelial cells. *Prostaglandins, leukotrienes, and essential fatty acids* 2008 ; 78 (2008) : 137-146.
 - 34) Wells D¹⁾, Ogata K (¹⁾ Hematologics, Inc. USA) : On flow cytometry in myelodysplastic syndromes, with caveats. *Leuk Res* 2008 ; 32 (2) : 209-210.
 - 35) Tamai H, Yamaguchi H, Hamaguchi H, Yagasaki F, Bessho M, Kobayashi T, Akiyama H, Sakamaki H, Takahashi S, Tojo A, Ohmine K, Ozawa K, Okumura H, Inokuchi K, Dan K, et al. : Clinical features of adult acute leukemia with 11q23 abnormalities in Japan : a co-operative multicenter study. *Int J Hematol* 2008 ; 87 (2) : 195-202.
 - 36) Sakai N, Yoshizawa Y, Amano A, Higashi N, Aoki M, Seo T, Suzuki K, Tanaka S, Tsukui T, Sakamoto C, Arai M, Yamamoto Y, Kawana S : Toxic epidermal necrolysis complicated by multiple intestinal ul-

cers. International journal of dermatology 2008 ; 47 (2) : 180-182.

- 37) Takeuchi J, Ly H, Yamaguchi H, Carroll K, Kosaka F, Sawaguchi K, Mitamura Y, Watanabe A, Gomi S¹⁾, Inokuchi K, Dan K (¹⁾ Division of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital) : Identification and functional characterization of novel telomerase variant alleles in Japanese patients with bone-marrow failure syndromes. Blood Cells Mol Dis 2008 ; 40 (2) : 185-191.
- 38) Futagami S, Tatsuguchi A, Hiratsuka T, Shindo T, Horie A, Hamamoto T, Ueki N, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : Monocyte chemoattractant protein 1 and CD40 ligation have a synergistic effect on vascular endothelial growth factor production through cyclooxygenase 2 upregulation in gastric cancer. Journal of Gastroenterology 2008 ; 43 : 216-224.
- 39) Matsumoto T¹⁾, Kudo T¹⁾, Esaki M¹⁾, Yano T²⁾, Yamamoto H²⁾, Sakamoto C, Goto H³⁾, Nakase H⁴⁾, Tanaka S⁵⁾, Matsui T⁶⁾, Sugano K²⁾, Iida M¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine and Clinical Science, Graduate School of Medicine Science, Kyushu University , ²⁾ Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Jichi Medical School , ³⁾ Department of Gastroenterology, Nagoya University Graduate School of Medicine , ⁴⁾ Department of Gastroenterology, Kyoto University Graduate School of Medicine , ⁵⁾ Department of Endoscopy, Hiroshima University , ⁶⁾ Department of Gastroenterology, Fukuoka University Chikushu Hospital) : Prevalence of non-steroidal anti-inflammatory drug-induced enteropathy determined by double-balloon endoscopy : A Japanese multicenter study . Scandinavian Journal of Gastroenterology 2008 ; 43 : 490-496.
- 40) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Horie A, Hamamoto T, Suzuki K, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Crowe S¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C (¹⁾ Division of Gastroenterology and Hepatology, University of Virginia) : Expression of apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) in *H. pylori*-associated gastritis, gastric adenoma, and gastric cancer. . Helicobacter 2008 ; 13 (6).
- 41) 松久威史¹⁾, 木村 祐, 津久井拓, 松田 健¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院消化器科) : 吐下血で発症した高齢者消化性潰瘍の臨床的検討. 日本高齢消化器医学会誌 2007 ; 9 : 38-44.
- 42) 松久威史¹⁾, 津久井拓, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 病理部) : *Helicobacter pylori* 感染血清ペプシノーゲン背景胃粘膜からみた抗壁細胞抗体. 消化器内視鏡の進歩 2007 ; 71 (2) : 34-38.
- 43) 高田香織, 義澤雄介, 野呂佐知子, 川名誠司, 田中 周 (¹⁾ 日本医大 皮膚科学) : 血管炎・血行障害 回腸に多発性潰瘍を伴ったアナフィラクトイド紫斑の1例. 皮膚科の臨床 2007 ; 49 (9) : 1005-1008.
- 44) 小林 剛, 田中 周, 山田祐希江, 江原彰仁, 三井啓吾, 坂本長逸 : クロウン病に対する内視鏡診断と治療 クロウン病診療の進歩 ダブルバルーン内視鏡による診断. モダンフィジシャン 2007 ; 27 (7) : 911-915.
- 45) 小林 剛, 田中 周, 山田祐希江, 江原彰仁, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 藤森俊二, 坂本長逸 : 小腸内視鏡のupdate 2 小腸内視鏡の基本. 臨床消化器内科 2007 ; 22 (3) : 267-271.
- 46) 江原彰仁, 田中 周, 辰口篤志, 小林 剛, 三井啓吾, 坂本長逸 : 目でみる症例 小腸癌. 内科 2007 ; 99 (1) : 129-133.
- 47) 田中 周 : 消化器内視鏡室の運営と管理 : 安全で的確な検査のために 【小腸内視鏡】. 内視鏡室運営マニュアル 2007 ; 244-248.
- 48) 田中 周 : ダブルバルーン内視鏡を用いた治療のコツ. 消化器内視鏡 2007 ; 19 (11) : 1619-1633.
- 49) 藤森俊二, 辰口篤志, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 坂本長逸 : 潰瘍性大腸炎のQOLに対する probiotics, prebiotics, および同時投与の評価. 消化と吸収 2008 ; 30 (1) : 12-16.

(2) 総説 :

- 1) 岩切勝彦, 田中由理子, 川見典之, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 坂本長逸 : 食道運動機能からみたGREDの病態. 日

本臨牀 2007 ; 65 : 829-835.

- 2) 田中 周, 三井啓吾, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : 小腸疾患診療の到達点と今日の課題. 早期大腸癌 2007 ; 11 : 249-255.
- 3) Peter V¹⁾, Hans-Peter H²⁾, John MB³⁾, Christa F⁴⁾, Ulrich G⁵⁾, Peter G⁶⁾, Torsten H⁷⁾, Detlef H⁸⁾, Hans-Jochen K⁹⁾, Otto K¹⁰⁾, Michael L^{1.1)}, Arjan V^{1.2)}, Ogata K, Alberto O^{1.3)}, Michael P^{1.4)}, et al. (¹⁾ Division of Hematology, Medical University of Vienna, Austria, ²⁾ Klinikum Ansbach, Institute of Pathology, Germany, ³⁾ University of Rochester Medical Center, USA, ⁴⁾ Institute of Human Genetics, Medical University of Vienna, Austria, ⁵⁾ Heinrich-Heine-University, Germany, ⁶⁾ Stanford University Cancer Center, USA, ⁷⁾ Munich Leukemia Laboratory (MLL) , Germany, ⁸⁾ Georg-August-University, Germany, ⁹⁾ University of Munich, Germany, ¹⁰⁾ Elisabethinen Hospital, Austria) : Definitions and standards in the diagnosis and treatment of the myelodysplastic syndromes : Consensus statements and report from a working conference. . Leuk Res 2007 ; 31 (6) : 727-736.
- 4) Loken M¹⁾, Van De Loosdrecht A²⁾, Ogata K, Orfao A³⁾, Wells D¹⁾ (¹⁾ Hematologics, Inc. USA, ²⁾ Department of Hematology, VU University Medical Center, The Netherlands, ³⁾ Servicio Central de Citometría, Universidad de Salamanca, Spain) : Flow cytometry in myelodysplastic syndromes : report from a working conference. Leuk Res 2008 ; 32 (1) : 5-17.
- 5) 三宅一昌, 坂本長逸 : 臓器病変・合併症を有する関節リウマチのリスクマネージメント. 内科臨床雑誌 2007 ; 99 : 621-627.
- 6) 岩切勝彦 : 逆流性食道炎と非びらん性胃食道逆流症の病態と治療. 日本気管食道科学学会会報 2007 ; 58 : 228-229.
- 7) 岩切勝彦, 田中由理子, 川上典之, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 坂本長逸 : 胃食道逆流症の治療, 生活指導. カレントセラピー 2007 ; 25 : 49-52.
- 8) 岩切勝彦, 飯泉 匡, 川見典之, 田中由理子, 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸, 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器外科) : どう使う経鼻内視鏡, 構造の差から生じるメリット : 操作性. 消化器内視鏡 2007 ; 19 : 591-594.
- 9) 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 坂本長逸 : PPI抵抗性NERDの病態. 日本臨牀 2007 ; 65 : 913-920.
- 10) 田中 周, 三井啓吾, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : 小腸疾患診療の到達点と今日の課題. 早期大腸癌 2007 ; 11 : 249-255.
- 11) 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 進藤智隆, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 二神生爾, 坂本長逸, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学外科) : 消化管運動機能からみたNERDの病態. G. I research 2007 ; 15 : 30-36.
- 12) 藤森俊二¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器内科) : 非ステロイド消炎鎮痛剤 (NSAID) の小腸病変に対するプロスタグランディン (PG) 製剤の予防効果の検討. Progress in medicine 2007 ; 338 : 235.
- 13) 藤森俊二¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器内科) : Peutz-Jeghers症候群の小腸ポリープ. 日医大医会誌 2007 ; 3 (3) : 164-165.
- 14) 檀 和夫 : Editorial 慢性骨髄増殖性疾患 : 分子病態から臨床へ. 日本内科学会雑誌 2007 ; 96 (7) : 1329-1330.
- 15) 三宅一昌, 坂本長逸 : NSAID投与と除菌療法. 消化器の臨床 2007 ; 10 (4) : 397-403.
- 16) 進藤智隆¹⁾, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 消化器内科) : FD (機能性胃腸症) 患者における腹部症状と十二指腸粘膜局所の炎症細胞浸潤の解析. 消化器科 2007 ; 44 (6) : 593-597.
- 17) 三宅一昌, 坂本長逸 : 長期NSAIDs使用関節リウマチ患者における消化性潰瘍の実態調査と予防法の検討. 消

化器科 2007 ; 45 (3) : 265-269.

- 18) 檀 和夫 : [解説]医薬品副作用としての無顆粒球症. MMJ (The Mainichi Medical Journal) 2007 ; 3 (9) : 719-719.
- 19) 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸 : NSAID潰瘍の危険因子と併存疾患要因. 日本臨牀 2007 ; 65 : 1781-1787.
- 20) 平塚哲郎, 坂本長逸 : 選択的cox-2阻害薬の選択. 日本臨牀 2007 ; 65 : 1819-1823.
- 21) 三宅一昌, 坂本長逸 : 上部消化管障害 : RA患者におけるNSAID潰瘍の危険因子について. 骨・関節・靭帯 2007 ; 20 (10) : 1033-1038.
- 22) 山口博樹 : 再生不良性貧血のゲノム解析. 分子細胞治療 2007 ; 6 (5) : 467-471.
- 23) 坂本長逸 : NSAID起因性胃粘膜傷害. Salvus 整形外科領域季刊学術雑誌 2007 ; 1 : 7-8.
- 24) 三宅一昌, 楠 正典, 進藤智隆, 平塚哲郎, 二神生爾, 藤森俊二, 坂本長逸 : NSAID起因性消化管病変の治療と予防. 胃と腸 2007 ; 42 (12) : 1751-1758.
- 25) 坂本長逸 : 序. G. I. Research 特集 NSAIDs起因性の消化管病変 2007 ; 15 : 1-2.
- 26) 坂本長逸 : 序説 注目される選択的 COX-2阻害薬. 治療学 2007 ; 41 : 5-8.
- 27) 坂本長逸 : 期待される選択的 COX-2阻害薬5選択的 COX-2阻害薬と心血管系リスク. 治療学 2007 ; 41 : 27-30.
- 28) 三宅一昌, 坂本長逸 : NSAIDs起因性上部消化管病変の疫学. G. I. Research 特集 NSAIDs起因性の消化管病変 2007 ; 15 : 33-40.
- 29) 三宅一昌, 坂本長逸 : 選択的COX-2阻害薬の潰瘍患者に対する安全性. 治療学 2007 ; 41 (12) : 75-76.
- 30) 檀 和夫 : 薬物性血液障害の概観と対処 (特集 薬物による健康障害 : 肺・肝・血液・皮膚). 治療 2007 ; 89 (12) : 3222-3226.
- 31) 猪口孝一 : 顆粒球減少症・無顆粒球症. 臨床精神医学 2007 ; 36 (suppl) : 137-141.
- 32) 田中 周, 江原彰仁, 高橋陽子, 小林 剛, 三井啓吾, 藤森俊二, 坂本長逸 : 特集 : ダブルバルーン内視鏡が変えた治療学小腸における異物回収. 消化器内視鏡 2007 ; 19 : 1598-1603.
- 33) 二神生爾, 鈴木健司, 平塚哲郎, 進藤智隆, 濱本達彦, 植木信江, 楠 正典, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸 : 選択的COX-2阻害剤を用いたcelecoxibによる胃癌発生抑制の検討. 日本ヘリコバクター学会 2007 ; 9 (2) : 61-64.
- 34) 田中 周, 江原彰仁, 高橋陽子, 山田祐希江, 小林 剛, 三井啓吾, 藤森俊二, 坂本長逸 : ダブルバルーン内視鏡検査の普及のための工夫. 消化器内科 2007 ; 45 (6) : 579-583.
- 35) 三宅一昌, 坂本長逸 : 《臓器病変・合併症を有する関節リウマチのリスクマネージメント》消化器病変. 内科 2007 ; 99 (4) : 621-623.
- 36) 山口博樹 : 造血管腫瘍患者の好中球減少時の発熱に対する経験的治療におけるイトラコナゾールとアムホテリシンBの安全性と有効性の比較検討. 深在性真菌症 2007 ; 3 : 46-48.
- 37) 山口博樹 : 慢性骨髄増殖性疾患 : 診断と治療の進歩 IV. 最近のトピックス 1. 慢性骨髄増殖性疾患におけるJAK2遺伝子変異. 日本内科学会雑誌 2007 ; 96 : 1405-1410.
- 38) 金沢秀典, 楠原義之, 中塚雄久, 坂本長逸 : 腹水および難治性腹水の診断と治療. 臨床消化器内科 2007 ; 22 (5) : 593-601.
- 39) 金沢秀典 : 肝疾患における浮腫, 腹水. 診断と治療 2007 ; 95 (5) : 709-716.
- 40) 金沢秀典 : 肝腎症候群の診断と治療. セフイーロ 2007 ; 6 (9) : 44-48.
- 41) 岩切勝彦 : 食道運動機能からみた逆流性食道炎の病態. 東京内科医会誌 2007 ; 23 : 21-25.
- 42) 中塚雄久⁽¹⁾ 日本医科大学消化器内科 : 生活習慣病キーワード/NASH. Medical View Point 2008 ; 29 (1) : 10-10.
- 43) 三宅一昌, 坂本長逸 : *H. pylori*感染によって誘導されるIL-8と*H. pylori*関連胃炎に対してテプレノンはどう作

用するか. 消化器の臨床 2008 ; 11 (1) : 19-24.

- 44) 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸: 消化性潰瘍. リウマチ科 2008 ; 39 (2) : 99-103.
- 45) 藤森俊二, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中周, 辰口篤志, 坂本長逸: 原因不明消化管出血とNSAIDs : 上部消化管出血頻度を含めて. 消化器内視鏡 2008 ; 20 (2) : 154-161.
- 46) 山口博樹: 再生不良性貧血の分子病態. 血液・腫瘍科 2008 ; 56 (2) : 155-161.
- 47) 二神生爾, 進藤智隆, 坂本長逸: Helicobacter 感染動物モデルの有用性. Bio Clinica 2008 ; 23 (293) : 50-54.
- 48) 山口博樹: テロメア異常と骨髄不全症. 日本臨床 2008 ; 66 (3) : 483-489.
- 49) 檀 和夫: 高齢者急性骨髄性白血病の特徴と治療 (特集 高齢者の造血障害). 血液フロンティア 2008 ; 18 (3) : 427-433.
- 50) 二神生爾, 坂本長逸: 機能性胃腸症の診断と治療. セフィーロ 2008 ; 7 : 38-41.

(3) 症例報告:

- 1) Sugihara H, Shibasaki T¹⁾, Tatsuguchi A, Okajima F, Wakita S, Nakajima Y, Tanimura K, Tamura H, Ishi S, Kamegai J, Akasu H²⁾, Kitagawa W²⁾, Shimizu K²⁾, Nakamura Y²⁾, Uchida E²⁾, et al. (1) Department of Physiology, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School, 4) Department of Medicine, Miyazaki University, School of Medicine) : A non-acromegalic case of multiple endocrine neoplasia type 1 accompanied by growth hormone-releasing hormone-producing pancreatic tumor. Journal of Endocrinological Investigation 2007 ; 30 (5) : 421-427.
- 2) 田村秀人, 緒方清行, 近藤麻加, 脇田知志, 稲見光春, 水木太郎, 兵働英也, 塩井由美子, 中村恭子, 三井啓吾, 田中 周, 坂本長逸, 檀 和夫: ダブルバルーン内視鏡の有用であった小腸原発悪性リンパ腫4症例. 臨床血液 2007 ; 48 (6) : 510-513.
- 3) 城 正樹, 田村秀樹, 梅澤真理子, 首藤真理子, 長尾元嗣, 北村由梨, 加納稔子, 石崎 晃, 中島 泰, 谷村恭子, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一: グリチルリチン酸による低カリウム血症に, 甲状腺機能低下を生じた症例. 日本内分泌学会雑誌 第17回臨床内分泌代謝Update Proceeding 2007 ; 83 (suppl) : 227-229.

(4) その他

- 1) 檀 和夫: 急性白血病 コアカリ対応. よくわかる病態生理5 血液疾患 (松尾 理) 2007 ; 49-52.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 猪口孝一: 〔分担〕慢性骨髄性疾患. カラーテキスト血液病学 (押味和夫), 1997 ; pp330-343, 中外医学社.
- 2) 檀 和夫: 〔分担〕特発性血小板減少性紫斑病. 今日の治療指針2007 (山口 徹, 北原光夫), 2007 ; pp486-487, 医学書院.
- 3) 檀 和夫: 〔分担〕血液と血球. カラーテキスト 血液病学 (押味和夫), 2007 ; pp2-8, 中外医学社 .
- 4) 檀 和夫: 〔分担〕鉄欠乏性貧血における非経口鉄剤の適応と至適投与法は?. EBM 血液疾患の治療 (押味和夫, 別所正美, 岡本真一郎, 加藤 淳), 2007 ; pp7-11, 中外医学社.
- 5) 檀 和夫: 〔分担〕本態性血小板血症. 専門医のための薬物療法Q & A (押味和夫, 長澤俊郎, 小松則夫), 2007 ; pp115-120, 2007. 1.

- 1) 檀 和夫: 〔分担〕特発性血小板減少性紫斑病. 今日の処方 第4版 (高久史磨, 水島 裕, 監修), 2007 ; pp465-466, 南江堂.

- 2) 檀 和夫：〔分担〕アレルギー性紫斑病. 今日の処方 第4版 (高久史麿, 水島 裕, 監修), 2007 ; pp467-467, 南江堂.
- 3) 檀 和夫：〔分担〕真性赤血球増加症. 今日の診断基準 (大田 健, 奈良信雄), 2007 ; pp440-441, 南江堂.
- 4) 檀 和夫：〔分担〕慢性骨髄増殖性疾患－本態性血小板血症. 今日の診断基準 (大田 健, 奈良信雄), 2007 ; pp442-443, 南江堂.
- 5) 檀 和夫：〔分担〕慢性骨髄増殖性疾患：原発性骨髄線維症. 今日の診断基準 (大田 健, 奈良信雄), 2007 ; pp444-445, 南江堂.
- 6) 檀 和夫：〔分担〕慢性骨髄性白血病 コアカリ対応. よくわかる病態生理5 血液疾患 (松尾 理), 2007 ; pp53-56, 日本医事新報社.
- 7) 檀 和夫：〔分担〕慢性リンパ性白血病 コアカリ対応. よくわかる病態生理5 血液疾患 (松尾 理), 2007 ; pp57-59, 日本医事新報社 .
- 8) 金沢秀典：〔分担〕難治性腹水に対する大量腹水穿刺, 腹腔静脈シャント, 腹水濃縮再静注法, TIPSの有用性について. 臨床に直結する肝・胆・膵疾患治療のエビデンス (跡見 裕, 上村直実, 白鳥敬子, 正木尚彦編), 2007 ; pp72-74, 文光堂.
- 9) 猪口孝一：〔分担〕急性骨髄性白血病. 今日の治療指針2008年度版 (山口 徹, 北原光夫), 2008 ; pp500-503, 医学書院.
- 10) 二神生爾：〔分担〕プライマリーケア編. レジデント・コンパス 消化器病編 改定版 (鈴木秀和, 渡辺俊雄), 2008 ; pp1-239, ライフ・サイエンス.

学会発表

〔追加分〕

追加分ワークショップ：

- 1) 江原彰仁, 田中 周, 山田祐希江, 高橋陽子, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸：小腸診療におけるダブルバルーン内視鏡の意義. 第4回 日本消化管学会総会, 2007. 2.

追加分一般講演：

- 1) 田村秀人, 緒方清行, 常 理紗, 近藤麻加, 山下泰史, 佐藤千香子, 塩井由美子, 兵働英也, 中村恭子, 辻孝, 檀 和夫：骨髄異形成症候群 (MDS) 芽球におけるB7. 1 (CD80) 発現の臨床的意義. 第69回日本血液学会総会／第49回日本臨床血液学会総会 (東京), 2007. 1.

(1) 特別講演：

- 1) 田中 周：小腸内視鏡の最前線：内視鏡治療に関する最近の話題. 第3回 茨城内視鏡治療研究会, 2007. 7.
- 2) 岩切勝彦：PPI抵抗性NERDの病態. 第3回文京カンファレンス, 2007. 9.
- 3) 田中 周：NSAIDと小腸病変. 第7回 薬物性消化管病変研究会, 2007. 10.
- 4) 田中 周：小腸内視鏡のトピックス：ダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡. 宮崎木曜会, 2007. 11.
- 5) 田中 周：小腸内視鏡の最前線：ダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡. 第79回 福島大腸研究会, 2007. 11.
- 6) 岩切勝彦：逆流性食道炎とNERDの病態. 香取郡市医師会学術講演会, 2007. 11.
- 7) 岩切勝彦：PPI抵抗性NERDの病態. 第15回苫小牧消化器病・感染症研究会, 2007. 11.
- 8) 岩切勝彦：PPI抵抗性NERDの病態. 第7回Dyspepsia Diseaseフォーラム, 2007. 11.

(2) 招待講演：

- 1) 二神生爾, 鈴木健司, 平塚哲郎, 進藤智隆, 濱本達彦, 楠 正典, 植木信江, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸：選択的COX-2阻害剤を用いたcelecoxibによる胃癌発生抑制の検討. 第13回日本ヘリコバクター学会 (大

津), 2007. 6.

(3) 教育講演:

- 1) 岩切勝彦: 食道運動機能からみた逆流性食道炎の病態. 第24回文京消化器内視鏡研究会, 2007. 8.

(4) シンポジウム:

- 1) Iwakiri K: Mechanisms of excessive esophageal acid exposure in patient with reflux esophagitis. Asian Pacific Digestive Week 2007 (Kobe), 2007. 10.
- 2) 檀 和夫: 血液領域における医薬品副作用. 第104回日本内科学会講演会(大阪), 2007. 4.
- 3) 松久威史¹⁾, 津久井拓, 渡邊英伸²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 新潟大学病理): ミャンマー人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜について. 第13回日本ヘリコバクター学会, 2007. 6.
- 4) 二神生爾, 進藤智隆, 平塚哲郎, 鈴木健司, 濱本達彦, 楠 正典, 植木信江, Katya G, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: 選択的COX-2阻害剤による *H. pylori* 感染胃癌モデルにおける腸上皮化生および胃癌発生抑制の検討. 第39回胃病態機能研究会(東京), 2007. 7.
- 5) 二神生爾, 進藤智隆, 平塚哲郎, 楠 正典, 植木信江, 濱本達彦, 三宅一昌, 岩切勝彦, 津久井拓, 坂本長逸: 血清グレリン値の胃排出に及ぼす影響の解析: EPS, PDS, NERD群の比較検討. 第39回胃病態機能研究会(東京), 2007. 7.
- 6) 岩切勝彦, 田中由理子, 川見典之, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 坂本長逸: 逆流性食道炎患者における過剰な食道内胃酸曝露のメカニズム, 2次蠕動波を含めて. 第59回日本気管食道科学会学術集会, 2007. 7.
- 7) 藤森俊二¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学消化器内科): 潰瘍性大腸炎のQOLに対する probiotics, prebiotics および同時投与の評価. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 8) 藤森俊二: カプセル内視鏡における留意点: 読影及び適応と禁忌. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 9) 進藤智隆, 二神生爾, 坂本長逸: 血清 ghrelin 値の胃排出能に及ぼす影響の解析: EPS, PDS, NERD群の比較検討. 第4回日本消化管学会(大阪), 2008. 2.
- 10) 二神生爾, 平塚哲郎, 進藤智隆, 鈴木健司, 濱本達彦, 楠 正典, 梅沢まり子, 植木信江, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: 選択的COX-2阻害剤による *H. pylori* 感染胃癌モデルによる HPG (heterotropic proliferative glands) 発生抑制の検討. 第4回日本消化管学会総会(大阪), 2008. 2.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 藤森俊二, 辰口篤志, 坂本長逸: 非ステロイド消炎鎮痛剤(NSAID)の小腸障害に対するプロスタグランディン(PG)製剤の予防効果の検討. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 2) 藤森俊二, 瀬尾継彦, 坂本長逸: カプセル内視鏡の小腸病変の病態研究への応用. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 3) 藤森俊二, 江原彰仁, 坂本長逸: カプセル内視鏡を用いた非ステロイド消炎鎮痛剤による小腸運動機能および脂肪吸収機能変化の評価. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 4) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: 術後腸管に対するダブルバルーン内視鏡の有用性. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 5) 小林 剛, 田中 周, 山田祐希江, 江原彰仁, 関田祥久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: 小腸GISTに対する生検診断の安全性と有用性の検討. 第84回内視鏡地方会, 2007. 6.
- 6) 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 坂本長逸: 逆流性食道炎患者における過剰な食道内胃酸曝露のメカニズム, 2次蠕動波を含めて. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 7) 植原義之, 金沢秀典, 中塚雄久, 坂本長逸: 1型肝腎症候群に対する terlipressin の治療経験. 第14回日本門脈圧亢進症学会, 2007. 9.
- 8) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: 術後腸管に対するダブルバルーン内視鏡の有用性と工夫点. 第15回 DDW-

Japan 2007, 2007. 10.

- 9) 江原彰仁, 田中 周, 山田祐希江, 高橋陽子, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: 小腸疾患の診断における各種検査の位置づけ. 第85回 内視鏡地方会, 2007. 11.

(6) セミナー:

- 1) 岩切勝彦: PPI抵抗性NERDの病態. 第73回日本消化器内視鏡学会, 2007. 5.
- 2) 岩切勝彦: 軽症逆流性食道炎の病態と治療. 第15回浜名湖シンポジウム, 2007. 12.

(7) ワークショップ:

- 1) 三井啓吾, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸: 新しい小腸内視鏡による小腸出血性疾患の診断と治療. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 2) 瀬尾継彦, 藤森俊二, 坂本長逸: 当院におけるカプセル内視鏡の適応と成績. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 3) 小林 剛, 田中 周, 坂本長逸: 小腸GISTに対する生検診断の安全性と有用性の検討. 第15回 DDW-Japan 2007, 2007. 10.
- 4) 進藤智隆, 二神生爾, 坂本長逸: 血清グレリンの胃排出に及ぼす影響の解析: EPS, PDS, NERD群における比較検討. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 5) 小林 剛, 田中 周, 坂本長逸: 小腸GISTに対する生検診断の安全性と有用性の検討. 第15回 DDW-Japan 2007, 2007. 10.

(8) 一般講演:

- 1) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Tatsuguchi A, Ueki N, Shinji Y, Kusunoki M, Tanaka S, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C: MCP-1 and CD40 ligation have synergistic effects on angiogenesis via CCR2 expression through COX-2 upregulation. The 12th Taishotoyama International Symposium on Gastroentlogy, 2007. 4.
- 2) Iwakiri K, Tanaka Y, Kawami N, Sano H, Hayashi Y, Kotoyori M, Sakamoto C: Mechanisms of Excessive Esophageal Acid Exposure in Patients with Reflux Esophagitis. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
- 3) Gudis K, Tatsuguchi A, Wada K, Hiratsuka T, Futagami S, Kiyama T, Tajiri T, Miyake K, Sakamoto C: Microsomal Prostaglandin e-2 Expression Correlates with Clinicopathological Factors and Prognosis in Patients with Diffuse-Type Gastric Adenocarcinoma. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
- 4) Tatsuguchi A, Seo T, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Fujimori S, Gudis K, Shinji S, Tajiri T, Kishida T, Sakamoto C: Clinical Significance of Microsomal Prostaglandin E Synthase Expression in Colorectal. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
- 5) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Suzuki K, Ueki N, Kusunoki M, Miyake K, Gudis K, Crowe S, Sakamoto C: Expression and Potential Role of Apurinic/Apyrimidinic Endonuclease-1 (Ape-1) in Mongolian Gerbil Model of Gastric Carcinogenesis. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
- 6) Fujimori S, Gudis K, Sekita Y, Kotoyori M, Yoshizawa M, Kishida T, Nagata K, Shibata Y, Ohaki Y, Sakamoto C: Gender-Linked Inverse Correlation Between Colorectal Adenoma Risk and Serum Folate Concentration Levels: Determination of the Threshold Serum Folate Concentration Level for Reduced Risk of Colorectal Adenoma in Men. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
- 7) Ueki N, Miyake K, Kusunoki M, Hamamoto T, Shindo T, Hiratsuka T, Futagami S, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C: Impact of Clarithromycin On Second-Line Treatment Based On rabeprazole, Amoxicillin and Metronidazole Regimen After Faillure of Helicobacter pylori Eradication Based On Proton Pump Inhibitor,

- Amoxicillin and Clarithromycin in Japan . Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
- 8) Futagami S, Hiratsuka T, Shindo T, Hamamoto T, Ueki N, Kusunoki M, Suzuki K, Miyake K, Gudis K, Tsukui T, Sakamoto C : MCP-1 and Cd40 Ligation Have Synergistic Effects On Tumorangiogenesis Via Ccr2 Expression Through COX-2 Upregulation in Gastric Cancers . Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
 - 9) Narahara Y, Kanazawa H, Fukuda T, Harimoto H, Matsushita Y, Kidokoro H, Katakura T, Atsukawa M, Taki Y, Kimura Y, Nakatsuka K, Sakamoto C : Hepatic and Renal Artery Hemodynamic Effects of Terlipressin in Patients with Cirrhosis. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
 - 10) Ehara A, Mitsui K, Tanaka S, Tatsuguchi A, Yamada Y, Kobayashi T, Sekita Y, Seo T, Yonezawa M, Nagata K, Shibata Y, Fujimori S, Kishida T, Gudis K, Sakamoto C : Determination of Factors That Foil Successful Observation of the Entire Small Intestine During Double Balloon Endoscopy. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
 - 11) Kobayashi T, Tanaka S, Mitsui K, Tatsuguchi A, Yamada Y, Ehara A, Seo T, Yonezawa M, Nagata K, Shibata Y, Fujimori S, Kishida T, Gudis K, Sakamoto C : Relation Between Pancreatic Damages as Complications with DBE and the Conditions of Oral DBE Insertion. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
 - 12) Ogata K : Diagnostic flow cytometry in MDS : Focussing on the immature myeloid and lymphoid precursors in low-risk MDS. Satellite Flow Cytometry Meeting in "The 9th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes" (Florence), 2007. 5.
 - 13) Tamura H, Jo R, Kondo A, Yamashita T, Sato C, Tsuji T, Dan K, Ogata K : B7.1 expression on blasts in myelodysplastic syndromes. "The 9th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes" (Florence), 2007. 5.
 - 14) Kondo A, Yamashita T, Tamura H, Sato C, Jo R, Tsuji T, Dan K, Ogata K : B7-H1 molecules on blasts in myelodysplastic syndromes. "The 9th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes" (Florence), 2007. 5.
 - 15) Tanaka Y, Iwakiri K, Kawami N, Sano H, Hayashi Y, Kotoyori M, Sakamoto C : Factors predicting a better outcome after pneumatic dilatation for the treatment of achalasia. Digestive Disease Week 2007 (Washington, DC), 2007. 5.
 - 16) Fujimori S, Seo T, Gudis K, Yamada Y, Ehara A, Kobayashi T, Sekita Y, Mitsui K, Yonezawa M, Shibata Y, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Prostaglandin Reduces Small Intestinal Injury Induced by Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs : Evaluated by Capsule Endoscopy. The 6th International Conference on Capsule Endoscopy (ICCE) (Madrid, Spain), 2007. 6.
 - 17) Ishii S, Tamura H, Toshiko K, Shimizu T, Sugihara H, Oikawa S, Kamegai J¹⁾ (1) Umigame Medical Clinic) : The effects of resistin on growth hormone secretion in adult male rats. Endocrine society' s 89th annual meeting (Toronto), 2007. 6.
 - 18) Tamura H, Ishii S, Shimizu T, Kano T, Ishizaki A, Sugihara H, Oikawa S, Kamegai J¹⁾ (1) Umigame Medical Clinic) : Obestatin does not Alter Either Food Intake or Growth Hormone (GH) Secretion in Freely Moving Adult Male Rats. Endocrine society' s 89th annual meeting (Toronto), 2007. 6.
 - 19) Fujimori S, Seo T, Gudis K, Yamada Y, Ehara A, Kobayashi T, Sekita Y, Mitsui K, Yonezawa M, Shibata Y, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C : Prostaglandin reduces small intestinal injury induced by non-steroidal anti-inflammatory drugs : a randomized controlled trial . Asian Pacific Digestive Week 2007 (Ohsaka, Japan), 2007. 10.

- 20) Inami M, Yamaguchi H, Hasegawa S, Gomi S, Watanabe A, Kosaka F, Mitamura Y, Kobayashi A, Kimura S, Dan K, Inokuchi K : Novel mutation of the JAK2 gene and erythropoietin receptor gene in Japanese chronic myeloproliferative disease. The 49th annual meeting of the American Society of Hematology (Atlanta Georgia), 2007. 12.
- 21) Kondo A, Yamashita T, Tamura H, Satoh C, Jo R, Tsuji T, Dan K, Otaga K : Expression of functional B7-H1 molecules on blasts from myelodysplastic syndromes. The 49th annual meeting of the American Society of Hematology (Atlanta Georgia), 2007. 12.
- 22) Yamashita T, Tamura H, Satoh C, Kondo A, Tsuji T, Dan K, Ogata K : B7.2 and B7-H2 molecules stimulate proliferation of myeloma cells and inhibit anti-myeloma immune responses. The 49th annual meeting of the American Society of Hematology (Atlanta Georgia), 2007. 12.
- 23) 松久威史¹⁾, 津久井拓⁽¹⁾ 多摩永山病院消化器科) : 内視鏡で評価する消化管機能胃十二指腸疾患における胃内逆流胆汁酸内視鏡的幽門形態との関連を中心に. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 24) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 坂本長逸 : 逆流性食道炎患者における過剰な食道内酸曝露のメカニズム. 第4回日本消化管学会総会学術総会, 2008. 2.
- 25) 藤森俊二, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 岸田輝幸, 坂本長逸 : 潰瘍性大腸炎に対する probiotics, prebiotics, synbiotics 同時投与における相乗効果の検討. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 26) 辰口篤志, 藤森俊二, 田中 周, 米澤真興, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 小林 剛, 江原彰仁, 岸田輝幸, 坂本長逸 : 大腸がんにおける核内の β -カテニン, cyclin D1 と COX-2 の発現. 第93回 日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 27) 石井新哉, 田村秀樹, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一, 亀谷 純¹⁾ (¹⁾ うみがめクリニック) : レジスチンは GH 分泌促進作用を有する. 第80回日本内分泌学会学術総会 (東京), 2007. 4.
- 28) 水木太郎, 田近賢二, 山口博樹, 山田 隆, 檀 和夫 : 当科における多発性骨髄腫に対する造血幹細胞移植の現況 ; 移植結果から学ぶもの. 第104回日本内科学会総会 (大阪), 2007. 4.
- 29) 平川経晃, 田近賢二, 稲見光春, 山口博樹, 中村恭子, 山田 隆, 檀 和夫 : 寛解7年後に Evans syndrome, HPS を合併し再発した Hodgkin lymphoma の1例. 第157回日本臨床血液学会例会 (東京), 2007. 4.
- 30) 濱本達彦, 二神生爾, 平塚哲郎, 進藤智隆, 楠 正典, 植木信江, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸 : 選択的 COX-2 阻害剤 celecoxib を用いた *H. pylori* 感染胃癌モデルにおける胃癌発生抑制と MCP-1, CCR2 発現の検討. 第93回日本消化器病学会総会 (青森市), 2007. 4.
- 31) 二神生爾, 進藤智隆, 平塚哲郎, 濱本達彦, 楠 正典, 植木信江, 三宅一昌, 岩切勝彦, 津久井拓, 坂本長逸 : FD 患者における腹部症状と十二指腸粘膜局所におけるマクロファージ浸潤の解析. 第93回日本消化器病学会総会 (青森), 2007. 4.
- 32) 川見典之, 岩切勝彦, 田中由理子, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸 : NERD, 逆流性食道炎患者の2次蠕動波を含めた食道運動機能. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 33) 田中由理子, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸, 野村 務, 牧野浩司, 宮下正夫, 田尻 孝 (¹⁾ 日本医科大学外科) : バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 34) 松久威史¹⁾, 津久井拓⁽¹⁾ 多摩永山病院消化器科) : 高齢者の *Helicobacter pylori* 除菌治療は安全か? . 第10回日本高齢消化器病学会, 2007. 4.
- 35) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 細根 勝²⁾, 津久井拓, 松久威史³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 多摩永山病院病理部, ³⁾ 多摩永山病院消化器科) : Relation between the risk classification for the patients with GIST/EGIST and molecular targeting therapy . 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.

- 36) 瀬尾継彦, 藤森俊二, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 岸田輝幸, 坂本長逸: 健常人の小腸病変の正常範囲を探る. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 第2回カプセル内視鏡の臨床応用に関する研究会, 2007. 5.
- 37) 植原義之, 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝腎症候群に対する terlipressin の使用経験. 第43回日本肝臓学会総会, 2007. 5.
- 38) 近藤千紗, 木村 祐, 中塚雄久, 長田祐二, 植原義之, 厚川正則, 城所秀子, 張本滉智, 福田 健, 米澤正興, 藤森俊二, 坂本長逸: 慢性膵炎経過中に膵性胸水および多様な膵仮性嚢胞を来した1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (東京), 2007. 5.
- 39) 厚川正則, 中塚雄久, 片倉玲樹, 張本滉智, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 水口淳子, 木村 祐, 滝 保彦, 植原義之, 金澤秀典, 高橋秀実, 坂本長逸: C型肝炎患者に対する Ribavirin 併用 IFN 治療における CD4 陽性細胞の ICOS 発現の経時的変化と HCV-RNA 消失の関連. 第43回日本肝臓学会総会, 2007. 5.
- 40) 片倉玲樹, 中塚雄久, 厚川正則, 張本滉智, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 水口淳子, 木村 祐, 滝 保彦, 植原義之, 金澤秀典, 高橋秀実, 坂本長逸: Ribavirin の制御性 T 細胞活性抑制作用とインターフェロン治療経過中の C 型肝炎患者末梢血 Th1/2 細胞バランス変動の関連. 第43回日本肝臓学会総会, 2007. 5.
- 41) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝, 江原彰人, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 三宅一昌, 坂本長逸⁽¹⁾ (日本医大外科): 蛋白漏出性胃腸症を伴い胃・大腸の多重癌も併存した多発性大腸ポリープの1例. 第84回 内視鏡地方会, 2007. 6.
- 42) 船木孝則, 兵働英也, 山口博樹, 中村恭子, 田村秀人, 檀 和夫: 汎血球減少を呈し骨髓異形成症候群との鑑別を要した亜鉛欠乏症の1例. 第159回日本臨床血液学会例会 (伊勢原), 2007. 6.
- 43) 眞野あすか¹⁾, 大畠久幸¹⁾, 岩崎あずさ¹⁾, 根本崇宏¹⁾, 周東祐仁, 杉原 仁, 及川眞一, 芝崎 保¹⁾ (日本医科大学生理学第二): グレリンのエネルギー代謝調節機構における役割の解析. 第80回日本内分泌学会学術総会 (東京), 2007. 6.
- 44) 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 首藤真理子, 長尾元嗣, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 芝崎 保¹⁾, 及川眞一 (日本医科大学生理学第二): GH 分泌促進ペプチド (GHRP) とインスリン負荷試験 (ITT) による GH と ACTH の分泌反応に関する検討. 第80回日本内分泌学会学術総会 (東京), 2007. 6.
- 45) 田村秀樹, 石井新哉, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一, 亀谷 純¹⁾ (うみがめクリニック): ウロコルチン1の脳室内投与により GH 分泌は抑制される. 第80回日本内分泌学会学術総会 (東京), 2007. 6.
- 46) 中塚雄久, 厚川正則, 片倉玲樹, 張本滉智, 高橋秀実¹⁾, 坂本長逸 (日本医科大学微生物学・免疫学): リバビリンの免疫応答調節作用が C 型慢性肝炎の IFN 治療に及ぼす効果. 第1回東京肝疾患研究会, 2007. 6.
- 47) 塩井由美子, 平川経見, 玉井勇人, 田野崎栄, 田村秀人, 檀 和夫: 急性骨髓性白血病, 扁平上皮癌, びまん性細気管炎, 脳梗塞を併発した慢性活動性 EB ウイルス感染症. 第546回日本内科学会関東地方会 (東京), 2007. 7.
- 48) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓, 田尻 孝¹⁾ (外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 全生存期間無増悪生存期間からみた mFOLFOX6 法を導入した進行再発大腸癌症例の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 49) 山田祐希江, 田中 周, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡で診断し得た好酸球性胃腸炎の1例. 第296回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 9.
- 50) 塩井由美子, 田近賢二, 玉井勇人, 水木太郎, 中村恭子, 田野崎栄, 田村秀人, 山田 隆, 檀 和夫: 同種移植後に再発した急性骨髓性白血病 (AML) に Gemtuzumab Ozogamicin (GO) を投与し再寛解を得られた1例. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同総会 (横浜), 2007. 9.
- 51) 糸川典夫, 横瀬紀夫, 徳山権一, 檀 和夫, 大秋美治: 完全房室ブロック発症直後に最末分化型急性骨髓性白

- 血病を発症し、寛解後突然死した透析患者の1剖検例. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同総会(横浜), 2007. 9.
- 52) 田野崎栄, 岡本宗雄, 竹内純子, 中島 泰, 田村秀樹, 及川眞一, 猪口孝一, 檀 和夫: 再生不良性貧血を合併した多発性内分泌腺腫症(MEN)1型の1例. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同総会(横浜), 2007. 9.
- 53) 岡部雅弘, 田野崎栄, 玉井勇人, 塩井由美子, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: t(3;14)(q27;q32), t(8;14)(q24;q32)のdouble translocationを認めた急性リンパ性白血病(L3)の1例. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同総会(横浜), 2007. 9.
- 54) 横瀬紀夫, 藤野鉄平, 糸川典夫, 大秋美治, 檀 和夫: 免疫学的機序によると思われる蛋白漏出性胃腸症を合併したsymptomatic myeloma. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同総会(横浜), 2007. 9.
- 55) 中村恭子, 塩井由美子, 脇田知志, 水木太郎, 山田 隆, 田近賢二, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: Imatinib投与下の慢性骨髄性白血病患者における低免疫グロブリン血症. 第104回日本内科学会総会(大阪), 2007. 9.
- 56) 近藤麻加, 田村秀人, 山下泰史, 佐藤千香子, 塩井由美子, 兵働英也, 中村恭子, 常 理紗, 辻 孝, 緒方清行, 檀 和夫: 骨髄異形成症候群(MDS)芽球におけるB7-H1発現とその臨床的意義. 第69回日本血液学会総会/第49回日本臨床血液学会総会(横浜), 2007. 9.
- 57) 山下泰史, 田村秀人, 佐藤千香子, 近藤麻加, 塩井由美子, 兵働英也, 中村恭子, 緒方清行, 檀 和夫: 骨髄腫におけるB7補助刺激分子の発現と病態への関与. 第69回日本血液学会総会/第49回日本臨床血液学会総会(横浜), 2007. 9.
- 58) 中村恭子, 脇田知志, 塩井由美子, 水木太郎, 田野崎栄, 田村秀人, 田近賢二, 山田 隆, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: Imatinib投与下の慢性骨髄性白血病患者における感染性合併症に関する検討. 第69回日本血液学会総会/第49回日本臨床血液学会総会(横浜), 2007. 9.
- 59) 山口博樹, 猪口孝一, 澤口和宏, 三田村佳勇, 内田直也, 稲見光春, 檀 和夫, 埴 秀樹¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾日本医科大学化学第二): 遺伝子発現profilingによるMLL-AF4キメラ遺伝子とFlt3 D835V遺伝子異常による白血病発症機序の検討. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同総会(横浜), 2007. 9.
- 60) 岡本宗雄, 山口博樹, 渡邊綾子, 猪口孝一, 檀 和夫, 磯部泰司¹⁾, 押味和夫¹⁾, 五味聖二²⁾ (¹⁾順天堂大医内科血液内科, ²⁾横浜南共済病院血液内科): 血球貪食症候群の診断ならびに重症度の評価における中性脂肪値の有用性の検討. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同総会(横浜), 2007. 9.
- 61) 玉井勇人, 山口博樹, 岡部雅弘, 脇田知志, 水木太郎, 中山一隆, 中村恭子, 田近賢二, 檀 和夫: 当科における非ホジキンリンパ腫に対する自家末梢血幹細胞移植76例の検討. 第69回日本血液学会, 第49回日本臨床血液学会合同総会(横浜), 2007. 9.
- 62) 福田 健, 榎原義之, 金澤秀典, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 中塚雄久, 坂本長逸: 塩酸ファスジルの門脈圧および全身血行動態におよぼす影響についての検討. 日本門脈圧亢進症学会, 2007. 9.
- 63) 松下洋子, 金澤秀典, 福田 健, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 中塚雄久, 坂本長逸: 門脈血栓症に対するワーファリン治療とダナパロイドNa併用ワーファリン治療の経験. 第14回門脈圧亢進症学会(大分), 2007. 9.
- 64) 城所秀子, 金澤秀典, 張本滉智, 松下洋子, 福田 健, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 中塚雄久, 坂本長逸: TIPSにより治療した難治性腹水例における腎動脈Resistive Indexの変化. 第14回日本門脈圧亢進症学会, 2007. 9.
- 65) 関田祥久, 藤森俊二, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 顆粒球除去療法(GCAP)のTh1サイトカインおよび可溶性接着分子への影響に関するパイロット研究. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.

- 66) 江原彰仁, 田中 周, 山田祐希江, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: 小腸出血症例における出血部位の予測因子の検討. 第15回 DDW-Japan 2007, 2007. 10.
- 67) 山田祐希江, 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: 小腸内視鏡による小腸 GIST 症例の検討. 第15回 DDW-Japan 2007, 2007. 10.
- 68) 榎原義之, 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝腎症候群に対する terlipressin の治療効果. 第15回 DDW-Japan 2007, 2007. 10.
- 69) 松久威史, 津久井拓, 山田宣孝¹⁾ (1) 病理部): *Helicobacter pylori* 感染, ペプシノーゲン, 背景胃粘膜からみた抗壁細胞抗体. 第93回日本消化器病学会総会 (神戸), 2007. 10.
- 70) 木村沙耶香¹⁾, 山口博樹, 長谷川節雄²⁾, 朝比奈尊子¹⁾, 久保田隆廣³⁾ (1) 東京農工大大学院, ²⁾ 関野臨床薬理クリニック, ³⁾ 千葉科大薬東): CYP2C19 629c>a 新規変異遺伝子の解析の確立およびその立体構造への影響予測. 第28回日本臨床薬理学会年会 (宇都宮), 2007. 11.
- 71) 松下洋子, 城所秀子, 福田 健, 張本滉智, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 榎原義之, 中塚雄久, 金澤秀典, 坂本長逸: GAVE からの難治性消化管出血に対して TIPS を試みた 1 例. 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 11.
- 72) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院外科, ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): mFOLFOX6 法を導入した 70 歳以上の高齢者進行・再発大腸癌症例の検討. 第69回日本臨床外科学会総会 (横浜), 2007. 11.
- 73) 福田 健, 榎原義之, 川見典之, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 肝膿瘍との鑑別に苦慮した肉腫瘍肝細胞癌の 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 12.
- 74) 高橋陽子, 藤森俊二, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 小腸白色絨毛とカプセル内視鏡消化管通過時間に関する検討. 第4回日本消化管学会総会, 2008. 2.
- 75) 藤森俊二, 瀬尾継彦, 山田祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 原因不明消化管出血に対するカプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡の有用性に関する追跡研究. 第4回日本消化管学会総会, 2008. 2.
- 76) 中村恭子, 水木太郎, 中山一隆, 田村秀人, 田近賢二, 檀 和夫: Pure erythroid leukemia の 1 例. 第160回日本臨床血液学会例会 (大宮), 2008. 2.
- 77) 門園 修¹⁾, 田村秀樹, 中島 泰, 首藤真理子, 長尾元嗣, 加納稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 谷村恭子, 岡島史宜, 石井新哉, 杉原 仁, 中村恭子, 檀 和夫, 及川眞一 (1) 日本医科大学付属病院研修医): チアマゾールにより, 汎血球減少症を生じた症例. 第8回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2008. 2.
- 78) 佐藤友紀¹⁾, 田村秀樹, 首藤真理子, 長尾元嗣, 加納稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 石井新哉, 杉原 仁, 子島 潤²⁾, 及川眞一 (1) 日本医科大学付属病院研修医, ²⁾ 鶴見大学歯学部付属病院内科): 妊娠中に橋本病からバセドウ病へ移行した症例. 第8回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2008. 2.
- 79) 石崎 晃, 田村秀樹, 福井めぐみ, 首藤真理子, 長尾元嗣, 加納稔子, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一: インスリン低血糖試験で ACTH, コルチゾール, GH の反応なく, GHRP テストで反応が見られた視床下部性副腎不全の症例. 第81回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2008. 2.

- 80) 二神生爾, 進藤智隆, 平塚哲郎, 濱本達彦, 楠 正典, 植木信江, 三宅一昌, 岩切勝彦, 津久井拓, 坂本長逸: Functional dyspepsia患者における腹部症状と十二指腸粘膜局所におけるマクロファージ浸潤の解析. 第4回日本消化管学会, 2008. 2.
- 81) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 坂本長逸: PPI抵抗性NERD患者の病態, 24時間食道pH・多チャンネルインピーダンス測定による検討. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 82) 佐野弘仁, 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 琴寄 誠, 坂本長逸: われわれが経験した好酸球性食道炎とその経過. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 83) 田中由理子, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸: バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 84) 城所秀子, 金澤秀典, 榎原義之, 松下洋子, 福田 健, 張本滉智, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 中塚雄久, 坂本長逸: 門脈圧亢進症に合併するGAVEからの難治性消化管出血に対するTIPSの効果. 第4回日本消化管学会総会, 2008. 2.
- 85) 松久威史¹⁾, 津久井拓⁽¹⁾ 多摩永山病院消化器科): 胃十二指腸疾患における胃内逆流胆汁酸. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 86) 河越哲郎¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 福田 健¹⁾, 進藤智隆, 楠木正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 津久井拓, 坂本長逸⁽¹⁾ 同愛記念病院): 当科におけるFunctional dyspepsia (FD) 症例の検討: 潜在的慢性膵炎の可能性に焦点をあてて. 第4回日本消化管学会総会学術集会 (大阪), 2008. 2.
- 87) 長尾元嗣, 谷村恭子, 首藤真理子, 加納稔子, 原田太郎, 石崎 晃, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一: 中枢性尿崩症の2例. 第18回臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.
- 88) 加納稔子, 石崎 晃, 首藤真理子, 長尾元嗣, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 芝崎 保¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学生理学第二): GHRPとITTによるコルチゾール分泌反応に関する検討. 第18回臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.
- 89) 関川雅裕, 田村秀樹, 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 石井新哉, 杉原 仁, 赤須東樹¹⁾, 清水一雄¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学附属病院内分泌外科): 副腎外性褐色細胞腫の1例. 第18回臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.
- 90) 藤巻直人, 岡島史宜, 加納稔子, 長尾元嗣, 石崎 晃, 谷村恭子, 中島 泰, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): TSH産生下垂体腫瘍の1例. 第18回臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.

4. 内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）

〔付属病院呼吸器内科〕

研究概要

炎症：厚生労働科学研究を軸にIIPsの治療；NAC, pirfenidone, CyA, PCSOD, 活動性, 予後につき研究している。また、びまん性肺疾患全般、特にサルコイドーシスの全国疫学調査、心サ症の調査研究、難治性気道病変の病因、病態、治療研究を展開。急性肺障害や薬剤性肺障害の宿主要因、PMX療法に関する研究を推進している。基礎的研究では、肺障害、線維化病態を中心に、サーファクタント、メカニカルストレス、組織再生に関する研究を行い、マクロライド療法の作用機序と新規化合物；EM703, EM900の評価を行っている。また大気環境関連健康障害に関し、ディーゼル排気粒子の喘息病態に対する影響を検討している。

呼吸ケア：COPDを主たるテーマとして臨床研究およびこれに関する基礎的研究を進めてきた。HRCTを利用した画像所見を形態計測し、栄養、運動に関する臨床指標との関係を研究した。環境省委託研究として包括的呼吸ケアのモデルを検証する多施設共同研究を推進した。基礎的研究ではCOPDの併存症の鬱に関するSNP、大気汚染と呼吸NOとの関係の研究を推進し国際学会で発表し論文化した。

癌：抗癌剤感受性と遺伝子発現データに基づいたレジメン開発、有合併症症例の治療、個別化治療；イレッサ感受性に関する変異解析やCPT11の副作用に関する遺伝子多型解析等、副作用対策等を行っている。個別化治療の基礎的研究として感受性、副作用予測の研究を展開している。肺癌の発癌、増殖に関わる研究を遺伝子レベルで行ない、発癌の母地として特発性間質性肺炎に注目し、特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指している。副作用に関して、薬剤性肺障害の臨床研究において、中心的施設として役割を果たしている。CPT11の副作用対策として腸管循環抑制や遺伝子多型による予測等の研究を行っている。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Seike M, Nozomu Y¹, Bowman DE¹, Zanetti AK¹, Buhdu A¹, Kumamoto K¹, Mechanic EL¹, Matsumoto S², Yokota J², Shibata T³, Sugimura H⁴, Gemma A, Kudoh S, Wang WX¹, Harris CC¹ (¹ Laboratory of Human Carcinogenesis, National Cancer Institute, National Institutes of Health, ² Biology Division, National Cancer Center Research Institute, Tokyo, Japan , ³ Cancer Genomics Project, National Cancer Center Research Institute, Tokyo, Japan , ⁴ Department of Pathology, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu, Japan) : Use of a cytokine gene expression signature in lung adenocarcinoma and the surrounding tissue as a prognostic classifier. J Natl Cancer Inst 2006 ; 15 (99 (16)) : 1257-1269.
- 2) Murata A, Kida K, Hasunuma H¹, Kanegae H¹, Ishimaru Y¹, Motegi T, Yamada K, Yoshioka H, Yamamoto K, Kudoh S (¹ The Center for Environmental Information Science) : Environmental influence on the measurement of exhaled nitric oxide concentration in school children : special reference to methodology. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 30-36.
- 3) Okano T¹, Kondo T¹, Fujii K², Nishimura T², Takano T⁴, Ohe Y⁴, Tsuta K⁵, Matsuno Y⁵, Gemma A, Kato H^{2,3}, Kudoh S, Hirohashi S¹ (¹ Proteome Bioinformatics Project, National Cancer Center Research Institute, ² Clinicak Proteome Center, Tokyo Medical University, ³ Department of Surgery, Tokyo Medical University, ⁴ Department of Internal Medicine, National Cancer Center Hospital, ⁵ Clinical

Laboratory Division, National Cancer Center Hospital) : Proteomic signature corresponding to the response to gefitinib (Iressa, ZD1839), epidermal growth factor receptor (EGFR) tyrosine kinase inhibitor, in lung adenocarcinoma. *Clinical Cancer Research* 2007 ; 13 (3) : 799-805.

- 4) Nei T¹⁾, Yamano Y¹⁾, Sakai F²⁾, Kudoh S (¹⁾ Department of Respiratory Medicine, Japan Medical Alliance, Ebina General Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital) : *Mycoplasma pneumoniae* pneumonia : differential diagnosis by computerized tomography. *Internal Medicine* 2007 ; 46 (14) : 1083-1087.
- 5) Omata M, Wakabayashi R, Kudoh S, Kida K : Correlation between bronchodilator responsiveness and quality of life in chronic obstructive pulmonary disease. *Allergology International* 2007 ; 56 (1) : 15-22.

追加分総説 :

- 1) 奈良道哉, 弦間昭彦 : 職業性肺疾患の画像診断 アスベスト関連呼吸器疾患を中心として職業性肺疾患 : 総論. *臨床画像* 2007 ; 23 (1) : 6-13.

(1) 原著 :

- 1) Katsura H¹⁾, Yamada K^{2, 3)}, Wakabayashi R^{2, 3)}, Kida K^{2, 3)} (¹⁾ Division of Respiratory Medicine, Tokyo Women's Medical University, Yachiyo Medical Center, ²⁾ Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School) : Gender-associated differences in dyspnoea and health-related quality of life in patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Respirology* 2007 ; 12 (3) : 427-432.
- 2) Minegishi Y^{1, 2)}, Tsukino H³⁾, Muto M⁴⁾, Goto K¹⁾, Gemma A, Tsugane S³⁾, Kudoh S, Nishiwaki Y¹⁾, Esumi H²⁾ (¹⁾ Division of Thoracic Oncology, National Cancer Center Hospital East, ²⁾ Cancer Physiology Project, National Cancer Center Research Institute East, ³⁾ Epidemiology and Prevention Division, Research Center for Cancer Prevention and Screening, ⁴⁾ Division of Digestive Endoscopy and Gastrointestinal Oncology, National Cancer Center Hosp. East) : Susceptibility to lung cancer and genetic polymorphisms in the alcohol metabolite-related enzymes alcohol dehydrogenase 3, aldehyde dehydrogenase 2, and cytochrome P450 2E1 in the Japanese population. *Cancer* 2007 ; 110 (2) : 353-362.
- 3) Li JY¹⁾, Kawada T¹⁾, Matsumoto A, Azuma A, Kudoh S, Takizawa H²⁾, Sugawara I³⁾ (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ²⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, ³⁾ Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis) : Airway inflammatory responses to oxidative stress induced by low-dose diesel exhaust particulate exposure differ between mouse strains. *Experimental Lung Research* 2007 ; 33 (5) : 227-244.
- 4) Li C, Gemma A, Minegishi Y, Matsuda K, Seike Y, Noro R, Shionoya A¹⁾, Kawakami A¹⁾, Ogawa N¹⁾, Kudoh S (¹⁾ Genetic Lab Co., Ltd) : *In vitro* simulation study of individualized chemotherapy in lung cancer. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (3) : 217-222.
- 5) Seike M¹⁾, Yanagihara N, Bowman E, Zanetti K, Budhu A, Kumamoto K, Mechanic L, Matsumoto S, Yokota J, Shibata T, Sugimura H, Gemma A, Kudoh S, Wang X, Harris C (¹⁾ Laboratory of Human Carcinogenesis, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, NIH) : Use of cytokine gene expression signature in lung adenocarcinoma and the surrounding tissue as a prognostic classifier. *J Natl Cancer Inst* 2007 ; 99 (16) : 1257-1269.
- 6) Nei T, Saitoh T, Morimoto K, Watanabe K, Hayashihara K, Azuma A, Kudoh S : Microbial substitution of *Mycobacterium avium-intracellulare* to *Mycobacterium abscessus* during clinical course. *J Infect Chemother* 2007 ; 13 (5) : 343-345.

- 7) Ono Y¹⁾, Hino M¹⁾, Ueda Y¹⁾, Kamizuru R¹⁾, Omata M¹⁾, Uehara T¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Soma T¹⁾, Kudoh S
(¹⁾ Respiratory Disease Center, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Phase I study of paclitaxel, carboplatin and UFT in chemo-naive patients with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC). *Medical Oncology* 2007 ; 24 (4) : 402-406.
- 8) Takemura A, Gemma A, Shibuya M, Matsuda K, Okano T, Nara M, Noro R, Minegishi Y, Yoshimura A, Kudoh S : Gemcitabine resistance in a highly metastatic subpopulation of a pulmonary adenocarcinoma cell line resistance to gefitinib. *International Journal of Oncology* 2007 ; 31 (6) : 1325-1332.
- 9) Uemura N¹⁾, Makimura K¹⁾, Onozaki M²⁾, Otsuka Y³⁾, Shibuya Y⁴⁾, Yazaki H⁵⁾, Kikuchi Y⁵⁾, Abe S¹⁾, Kudoh S (¹⁾ Teikyo University Institute of Medical Mycology, ²⁾ Kanto Chemical Co., Inc., ³⁾ Social Insurance Central General Hospital, ⁴⁾ Tokyo Metropolitan Hiroo General Hospital, ⁵⁾ AIDS Clinical Center, International Medical Center of Japan) : Development of a loop-mediated isothermal amplification method for diagnosing *Pneumocystis* pneumonia. *Journal of Medical Microbiology* 2008 ; 57 (1) : 50-57.
- 10) Enomoto T¹⁾, Azuma A, Matsumoto A, Nei T, Fujita K, Hattori K, Saito Y, Abe S, Usuki J, Kudoh S (¹⁾ Department of Respiratory Medicine, Tokyo Metropolitan Hiroo General Hospital) : Preventive effect of sulfamethoxazole-trimethoprim on *Pneumocystis jiroveci* pneumonia in patients with interstitial pneumonia. *Inter Med* 2008 ; 47 (1) : 15-20.
- 11) Okano T, Gemma A, Kudoh S : Serum biomarker of lung carcinogenesis induced by cigarette smoking. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (1) : 53-55.
- 12) Miyanaga A, Gemma A, Ando M, Kosaihiro S, Noro R, Minegishi Y, Kataoka K, Nara M, Okano T, Miyazawa H, Tanaka T, Yoshimura A, Kobayashi K, Iwanami H, Hagiwara K, et al. : E-cadherin expression and epidermal growth factor receptor mutation status predict outcome in non-small cell lung cancer patients treated with gefitinib. *Oncol Rep* 2008 ; 19 (2) : 377-383.
- 13) Morimoto T, Azuma A, Abe S, Usuki J, Kudoh S, Sugisaki K¹⁾, Oritsu M²⁾, Nukiwa T³⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nishibeppu National Hospital, ²⁾ Department of Respiratory Medicine, Japanese Red Cross Medical Center, ³⁾ Dept of Respiratory Oncology and Molecular Medicine, Institute of Development, Ageing and Cancer) : Epidemiology of sarcoidosis in Japan. *Eur Respir J* 2008 ; 31 (2) : 372-379.
- 14) Soma T¹⁾, Hino M¹⁾, Kida K, Kudoh S (¹⁾ Pulmonary Center, Chiba-Hokuso Hospital, Nippon Medical School) : A prospective and randomized study for improvement of acute asthma by non-invasive positive pressure ventilation (NPPV). *Intern Med* 2008 ; 47 (6) : 493-501.
- 15) Li JY¹⁾, Kawada T¹⁾, Takizawa H²⁾, Azuma A, Kudoh S, Sugawara I³⁾, Yamauchi Y⁴⁾, Kohyama T⁴⁾ (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, ²⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, ³⁾ Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis, ⁴⁾ Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo) : Airway inflammatory responses to oxidative stress induced by prolonged low-dose diesel exhaust particulate exposure from birth differ between mouse BALB/c and C57Bl/6 strains. *Experimental Lung Research* 2008 ; 34 (3) : 125-139.
- 16) 根井貴仁, 榎本達治¹⁾, 坂本 徹²⁾, 神宮亜希子²⁾, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 川本雅司³⁾
(¹⁾ 東京都広尾病院呼吸器科, ²⁾ 静岡医療センター呼吸器科, ³⁾ 日本医科大学付属病院病理部) : 胸水貯留を伴い, I型アレルギーの関与が疑われた続発性肺クリプトコッカスの1例. *日本呼吸器学会雑誌* 2007 ; 45 (7) : 551-555.
- 17) 村田 朗, 工藤翔二 : ワイヤレス加速度センサを用いた新しい咳嗽モニタリングシステムの開発. *薬理と臨床* 2007 ; 17 (5) : 467-474.
- 18) 森本泰介, 吾妻安良太, 阿部信二, 白杵二郎, 工藤翔二, 杉崎勝教¹⁾, 折津 愈²⁾, 貫和敏博³⁾ (¹⁾ 西別府病院

内科,²⁾ 日赤医療センター呼吸器内科,³⁾ 東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野): 2004年サルコイドーシス疫学調査. サルコイドーシス/肉芽腫性疾患 2007; 27 (1): 103-108.

(2) 総説:

- 1) 吉村明修, 工藤翔二: 結核は今・現状と問題点 卒前・卒後における結核教育. 臨床と研究 2007; 84 (4): 550-553.
- 2) 村田 朗: 特集: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 重症度分類に応じた段階的薬物療法の実際. 日本臨床 2007; 65 (4): 682-687.
- 3) 村田 朗: COPDの併存症 (骨粗鬆症, 動脈硬化, 肺癌など) と禁煙の効果. COPD FRONTIER 2007 2007; 16 (4): 73-78.
- 4) 村田 朗: 重症度分類に応じた段階的薬物療法の実際. 日本臨床 2007; 65 (4): 682-687.
- 5) 弦間昭彦: 抗悪性腫瘍薬の肺障害. 腫瘍内科 2007; 1 (2): 177-183.
- 6) 工藤翔二: 治療の歴史 マクロライド系抗菌薬の少量長期投与療法. 治療学 2007; 41 (5): 532-536.
- 7) 藤田和恵, 吾妻安良太: COPDと鑑別を要する疾患・合併しうる疾患 副鼻腔気管支症候群 (Sinobronchial Syndrome). COPD FRONTIER 2007; 6 (2): 160-165.
- 8) 工藤翔二: 日本人の薬剤性肺障害. 日本内科学会誌 2007; 96 (6): 1075-1076.
- 9) 弦間昭彦: ゲフィチニブ (イレッサ) の有効性とリスク評価. 日本医師会雑誌 2007; 136 (3): 548-549.
- 10) 水谷英明, 弦間昭彦, 工藤翔二: 外科医が知っておきたい抗がん剤の副作用 薬剤性肺障害. 消化器外科 2007; 30 (8): 1197-1204.
- 11) 阿部信二, 工藤翔二: 膠原病の呼吸器病変: 最近の進歩 多発性筋炎・皮膚筋炎. 呼吸器科 2007; 12 (3): 204-208.
- 12) 村田 朗, 工藤翔二: ワイヤレス加速度センサを用いた新しい咳嗽モニタリングシステムの開発. 薬理と臨床 2007; 17 (5).
- 13) 相澤久道¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 久留米大学医学部内科学呼吸器・神経・膠原病内科): 「肺年齢」を用いたCOPD啓発について. Prog Med 2007; 27 (10): 2418-2423.
- 14) 齊藤好信, 吾妻安良太: 新たな展開の線維症研究 特発性肺線維症における臨床試験の動向: 抗線維化薬を中心に. 分子呼吸器病 2007; 11 (4): 303-307.
- 15) 工藤翔二: 特発性間質性肺炎の歴史と課題. 核医学 2007; 44 (4): 374.
- 16) 藤田和恵, 吾妻安良太: 呼吸器疾患の新治療 ピルフェニドン (pirfenidone) 期待される新規抗線維化薬. 呼吸 2007; 26 (12): 1121-1124.
- 17) 村田 朗: 肺・胸部に起因する慢性呼吸不全, 呼吸ケアのための呼吸器疾患事典. 呼吸ケア 2007年冬季増刊 2007; 63: 134-140.
- 18) 弦間昭彦: 薬物による健康障害: 肺・肝・血液・皮膚: 抗腫瘍薬による薬剤性肺障害. 治療 2007; 89 (12): 3176-3180.
- 19) 工藤翔二: 特集 リウマチ医に必要な呼吸器合併症の知識: 診断と治療の実際 臨床症状, 理学的所見から何を考えるか. リウマチ科 2007; 37 (4): 293-295.

(3) 研究報告書:

- 1) 森本泰介, 吾妻安良太, 阿部信二, 白杵二郎, 工藤翔二, 杉崎勝教¹⁾, 折津 愈²⁾, 貫和敏博³⁾ (¹⁾ 西別府病院内科, ²⁾ 日赤医療センター呼吸器内科, ³⁾ 東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野): びまん性肺疾患に関する調査研究班 疫学的調査研究 2004年サルコイドーシス疫学調査. びまん性肺疾患に関する調査研究班平成18年度研究報告書 2007; 55-60.
- 2) 土方美奈子¹⁾, 松下育美¹⁾, 慶長直人¹⁾, 大橋 順²⁾, 徳永勝士²⁾, 本間 栄³⁾, 田口善夫⁴⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (¹⁾ 国立国際医療センター研究所呼吸器疾患研究部, ²⁾ 東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻国

際生物医科人類遺伝学分野,³⁾ 東邦大学呼吸器内科,⁴⁾ 天理よろづ相談所病院呼吸器内科):びまん性肺疾患に関する調査研究班 びまん性汎細気管支炎(DPB)の疾患感受性遺伝子研究, びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成18年度研究報告書 2007; 211-214.

- 3) 高橋雅士¹⁾, 加藤晃史²⁾, 野間恵之³⁾, 工藤翔二¹⁾ 滋賀医科大学医学部病院放射線部,²⁾ 国立がんセンター中央病院,³⁾ 天理よろづ相談所病院放射線部): 進行非小細胞肺癌に対するペメトレキセド(アリムタ)と薬剤性間質性肺炎: 第II相臨床試験より. 日本胸部臨床 2008; 67 (2): 149-157.

(4) 症例報告:

- 1) Saito Y, Nei T, Abe S, Usuki J, Azuma A, Nakayama T¹⁾, Fukuda Y¹⁾, Kudoh S¹⁾ Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School): A case of bucillamine-induced interstitial pneumonia with positive lymphocyte stimulation test for bucillamine using bronchoalveolar lavage lymphocytes. Internal Medicine 2007; 46 (20): 1739-1743.
- 2) 小野啓資, 工藤翔二, 保木英明¹⁾, 薄田 勇²⁾, 高崎雄司³⁾ (1) チェスト, 2) フクダ・ライフテック・東京, 3) 太田総合病理睡眠センター): 日中の眠気を訴え, 特異な呼吸パターンを呈した原発性肺低換気症候群(PAHS)の1症例. 臨床呼吸生理 2007; 39 (1): 7-11.
- 3) 高久多希朗, 根井貴仁, 斉藤好信, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 高橋美紀子¹⁾, 中山智子¹⁾, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医科大学 解析人体病理学): 日常臨床から学ぶ この症例の新しい意義は? 肺癌合併ANCA関連間質性肺炎で急性増悪をきたした1剖検例. The Lung Perspective 2007; 15 (3): 258-264.
- 4) 猪俣 稔, 服部久弥子, 森本泰介, 瀬尾宜嗣, 根井貴仁, 藤田和恵, 斉藤好信, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: 慢性EBウイルス感染症に合併したDPB様気道病変の1例. Therapeutic Research 2007; 28 (8): 1631-1635.

(5) その他

- 1) 石井健男, 木田厚瑞: カラー図説: 全身疾患としてのCOPD. 日本臨床 2007; 65 (4): 584-587.
- 2) 石井健男, 木田厚瑞: COPDと気管支喘息: 遺伝子からみた共通点および相違点. The Lung perspective 2007; 15 (3): 287-291.
- 3) 瀬尾宜嗣, 阿部信二, 松田久仁子, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: PMXカラムは急性肺障害においてMMP-9を吸着する. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2007; 11 (1): 44-46.
- 4) 木田厚瑞^{1,2)} (1) 日本医科大学呼吸器内科, 2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック): 医療と哲学 第19回 佛教と医療(上). THE LUNG-perspectives 2008; 16 (1): 109-113.
- 5) 神尾孝一郎, 阿部信二, 工藤翔二: リウマチ・膠原病の合併症 間質性肺炎. からだの科学 2008; 256: 148-150.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 弦間昭彦: [共著] 分子標的治療薬剤性肺障害. 呼吸器 common disease の診療肺癆のすべて (工藤翔二監修, 江口研二, 横井香平, 弦間昭彦 編集), 2007; pp346-349, 文光堂.
- 2) 村田 朗, 工藤翔二: [分担] その他の分泌液・穿刺液・胸水. 臨床検査ガイド 2007-2008 (和田攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義編集), 2007; pp964-967, 文光堂.
- 1) 弦間昭彦: [共著] 肺癆の分子生物学 癌の生物学と臨床応用の現状. 呼吸器 common disease の診療肺癆のすべて (工藤翔二 監修, 江口研二, 横井香平, 弦間昭彦 編集), 2007; pp28-33, 文光堂.
- 2) 石井健男, 木田厚瑞: [分担] 慢性呼吸不全. 別冊・医学のあゆみ 呼吸器疾患-state of arts Ver. 5 (北村

- 論, 工藤翔二, 石井芳樹), 2007; pp426-428, 医歯薬出版株式会社.
- 3) 斉藤好信, 吾妻安良太: [分担] NSIP. 呼吸器疾患最新の治療 2007-2009 (工藤翔二, 中田紘一郎, 貫和敏博編集), 2007; pp306-307, 南江堂.
 - 4) 藤田和恵, 吾妻安良太: [分担] びまん性汎細気管支炎. 別冊・医学のあゆみ 呼吸器疾患-state of arts Ver. 5 (北村 諭, 工藤翔二, 石井芳樹編集), 2007; pp247-249, 医歯薬出版株式会社.
 - 5) 村田 朗: [分担] 呼吸器疾患の治療手技-酸素吸入の流量決定と投与方法. 呼吸器疾患最新の治療 2007-2009 (工藤翔二, 中田紘一郎, 貫和敏博編集), 2007; pp120-124, 南江堂.
 - 6) 岡野哲也, 弦間昭彦: [分担] 診断法: 現況と最新の進歩: 肺癌診療におけるDNA診断. 別冊・医学のあゆみ 呼吸器疾患-state of arts Ver. 5 (北村 諭, 工藤翔二, 石井芳樹 編集), 2007; pp97-99, 医歯薬出版株式会社.
 - 7) 木田厚瑞^{1,2)}, 村田 朗^{1,2)}, 伊藤亜紀²⁾, 岩城 基³⁾, 黒崎央子^{1,2)}, 瀬川佳余²⁾, 古館隆子²⁾, 本橋典久^{1,2)}, 山口敬子²⁾, 山田浩一^{1,2)}, 若林律子^{1,2)} (1) 日本医科大学呼吸器内科, 2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック, 3) 長崎大学医学部保健学科理学療法専攻): [自著] 慢性呼吸不全の包括的呼吸ケア ヘルス・ケア・プロフェッショナルのための実践ガイド (木田厚瑞編・著), 2007; 南江堂.
 - 8) 篠田欣也, 弦間昭彦: [分担] 薬物療法 抗癌薬. 呼吸器専門医テキスト (工藤翔二, 中田紘一郎, 永井厚志, 大田 健 編集), 2007; pp199-204, 南江堂.
 - 9) 弦間昭彦: [分担] 癌緊急対応と支持療法 抗癌剤による間質性肺炎 (ゲフィチニブ, ボルテゾミブ) を含む. Cancer Treatment Navigator (中川和彦 編集), 2007; メディカルビュー社.
 - 10) 弦間昭彦: [分担] 薬効群別副作用 抗がん剤 間質性肺炎. 医薬品副作用学 薬品の安全使用Update (高橋隆一 編集), 2007; pp299-303, 日本臨床社.
 - 11) 須藤淳子, 弦間昭彦: [分担] 最初に使った抗がん剤が効かなくなったら, どうしますか?. 肺がんケア Q&A (加藤治文 監修, 平野隆, 坪井正博 編集), 2007; 総合医学社.
 - 12) 服部久弥子, 斉藤好信, 工藤翔二: [分担] 診断の進歩 3. 療養施設関連肺炎. Annual Review 2008 呼吸器 (工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 大田 健編集), 2008; pp156-164, 中外医学社.
 - 13) 森本泰介, 吾妻安良太, 工藤翔二: [分担] 疾患の病因と病態 10. サルコイドーシスの最近の疫学. Annual Review 2008 呼吸器 (工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 大田 健編集), 2008; pp137-141, 中外医学社.
 - 14) 弦間昭彦: [分担] 抗がん剤 間質性肺炎. 医薬品副作用ハンドブック (高橋隆一 編集), 2008; 日本臨床社.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) Matsuda K, Takahashi T, Azuma A, Sakakibara K, Enomoto T, Usuki J, Kawanami O¹⁾, Ohara K²⁾, Kudoh S (1) Department of Molecular Pathology Institute of Gerontology, Nippon Medical School, 2) Department of Ophthalmology, Nippon Medical School): Morphological analysis in BAL lymphocytes of patients with Sarcoidosis and other diseases. The 7th World Congress of WASOG (Stockholm, Sweden), 2002. 6.
- 2) 松田久仁子, 高橋卓夫, 榊原桂太郎, 榎本達治, 白杵二郎, 吾妻安良太, 川並汪一¹⁾, 工藤翔二 (1) 日本医科大学老人病研究所): サルコイドーシス患者における気管支肺胞洗浄液中リンパ球の形態学的検討. 第54回気管支食道科学会総会ならびに学術講演会, 2002. 11.

(1) 特別講演:

- 1) 工藤翔二: 間質性肺炎について. 日本核医学会分科会第16回呼吸器核医学研究会, 2007. 4.
- 2) 工藤翔二: 日本における薬剤性肺障害: 抗癌剤を中心に. 第10回さいたま肺癌カンファレンス, 2007. 6.

- 3) 工藤翔二：薬剤性肺障害の診断と治療．第2回がん診療・緩和懇話会，2007．6．
 - 4) 工藤翔二：在宅呼吸ケアの歴史と課題．第19回岐阜呼吸器内科研究会，2007．7．
 - 5) 工藤翔二：抗リウマチ薬における肺障害．第22回熊本膠原病研究会，2007．8．
 - 6) 工藤翔二：日本における薬害性肺障害-最近の知見．第1回ベルケイド治療研究会，2007．8．
 - 7) 工藤翔二：抗リウマチ薬と肺障害．第3回北海道リウマチ関連障害研究会，2007．9．
 - 8) 工藤翔二：慢性気道炎症とマクロライド療法．上越医師会講演会，2007．9．
 - 9) 工藤翔二：忘れてはならない結核史と今日の課題．第11回Tokyo Lung Conference U40，2007．9．
 - 10) 工藤翔二：マクロライド「新作用」の歩みと展望．新潟県医師会生涯教育講座，2007．10．
 - 11) 工藤翔二：薬剤性肺障害．第2回足立区医師会呼吸器研究会講演会，2007．11．
 - 12) 工藤翔二：我が国における薬剤性肺炎診断の現状と課題．兵庫間質性肺炎セミナー，2008．2．
 - 13) 工藤翔二：在宅呼吸ケアの発展と課題．第10回沖縄呼吸療法研究会，2008．2．
 - 14) 工藤翔二：マクロライド新作用の新たな展開．第9回長崎マクロライド研究会，2008．2．
 - 15) 工藤翔二：マクロライド「新作用」の新たな展開．米沢学術講演会，2008．3．
- (2) 教育講演：
- 1) 弦間昭彦：ゲフィチニブと日本人の薬剤性肺障害．第17回日本気管食道学会認定気管食道科専門医大会，2007．4．
 - 2) 村田 朗：呼吸不全の薬物療法．第47回日本呼吸器学会学術講演会・第4回呼吸ケアカンファレンス，2007．5．
- (3) シンポジウム：
- 1) 木田厚瑞^{1,2)}，三嶋理晃³⁾，西村正治⁴⁾ (1) 日本医科大学呼吸器内科，2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック，3) 京都大学呼吸器内科，4) 北海道大学第一内科)：特別報告1 新しいガイドライン (COPD (GOLD))．第47回日本呼吸器学会学術講演会，2007．5．
 - 2) 弦間昭彦：抗癌剤のリスクとベネフィット：イレッサを中心に．第47回日本呼吸器学会学術講演会，2007．5．
 - 3) 石井健男：全身疾患としての慢性閉塞性肺疾患 (COPD)：どうしてCOPDを全身病として捕らえる必要があるのか COPDにみられる併存症としての鬱傾向．第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，2007．11．
 - 4) 村田 朗：鼻と病気といびきについて考える：睡眠時無呼吸症候群．産経新聞 医療シンポジウム，2007．11．
 - 5) 村田 朗：咳嗽のアセスメント．第32回国際肺音学会サテライト国際教育シンポジウム 肺聴診のアセスメント (東京)，2007．11．
- (4) パネルディスカッション：
- 1) 渥美健一郎¹⁾，山名一平¹⁾，豊川 優¹⁾，安藤真弘¹⁾，弦間昭彦，工藤翔二 (1) 坪井病院内科)：高齢者の進行非小細胞肺癌に対する Carboplatin+weekly Paclitaxel 併用化学療法についての検討．第47回日本呼吸器学会学術講演会，2007．5．
- (5) ワークショップ：
- 1) 木田厚瑞^{1,2)}，植木 純³⁾ (1) 日本医科大学呼吸器内科，2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック，3) 順天堂大学医療看護学部専門基礎内科学)：呼吸リハビリテーションの医療連携：専門医と一般医の役割分担．第47回日本呼吸器学会学術講演会，2007．5．
 - 2) 茂木 孝^{1,2)} (1) 日本医科大学呼吸器内科，2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック)：呼吸ケアにおける地域連携の現状と課題．第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会，2007．11．
- (6) 一般講演：
- 1) Ishii T, Wakabayashi R, Yoshioka H, Motohashi N, Motegi T, Yamada K, Murata A, Kida K, Kudoh S：Obstructive abnormality increase exacerbations and medical cost in winter in COPD patients；a survey with questionnaire．International Conference of American Thoracic Society (San Francisco)，2007．5．
 - 2) Motegi T^{1,2)}，Kurosaki H^{1,2)}，Motohashi N^{1,2)}，Yamada K^{1,2)}，Murata A^{1,2)}，Kudoh S¹⁾，Kida K^{1,2)}

- (¹) Department of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, (²) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Comparisons for concentration in exhaled nitric oxide between patients with bronchial asthma and COPD. European Respiratory Society Annual Congress 2007 (Stockholm, Sweden), 2007. 9.
- 3) Jones R¹), Chavannes N²), Kida K^{3,4}), Donaldson G⁵), Hyland M⁶), Price D⁷) (¹) Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, (²) Department of General Practice, Maastricht University, (³) Department of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, (⁴) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, (⁵) Academic Unit of Respiratory Medicine, Royal Free & University College Medical School, (⁶) Department of Psychology, University of Plymouth, (⁷) Department of General Practice and Primary Care, University of Aberdeen) : The dose index predicts quality of life, healthcare consumption and mortality. European Respiratory Society Annual Congress 2007 (Stockholm, Sweden), 2007. 9.
- 4) Ishii T, Kurosaki H, Motohashi N, Motegi T, Yamada K, Murata A, Kudoh S, Kida K : Association between visceral fat mass and airflow limitation or emphysematous change in COPD. APSR 2007 (12th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology & 2nd Joint Congress of the APSR/American College of Chest Physicians) (Queensland, Australia), 2007. 11.
- 5) 上村なつ¹), 横村浩一¹), 工藤翔二, 安部 茂¹) (¹) 帝京大学真菌研究センター) : *Pneumocystis* 症の遺伝子診断とタイピングの検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 6) 石井健男, 若林律子, 吉岡央子, 本橋典久, 茂木 孝, 山田浩一, 村田 朗, 木田厚瑞, 工藤翔二 : 慢性閉塞性肺疾患における閉塞性障害と冬季急性増悪及び医療費の相関 : アンケート調査による評価. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 7) 持丸 博, 日野光紀¹), 野村浩一郎²), 工藤翔二 (¹) 日本医科大学千葉北総病院内科, (²) 静岡医療センター呼吸器科) : 急性好酸球性肺炎の臨床, 画像, 病理学的検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 8) 北村和広¹), 大岩健満¹), 森山 岳¹), 山本和男¹), 柚 知行¹), 篠田欣也¹), 植松和嗣¹), 工藤翔二 (¹) 埼玉医科大学総合医療センター 呼吸器内科) : プレオマイシンの胸腔内投与による薬剤性肺障害の臨床的検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 9) 森山 岳¹), 山本和男¹), 大岩健満¹), 北村和広¹), 柚 知行¹), 篠田欣也¹), 植松和嗣¹), 工藤翔二 (¹) 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器内科) : EGFR 遺伝子変異陽性進行非小細胞肺癌でのゲフィチニブによる間質性肺疾患 (ILD) 発症例の検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 10) 小野啓資¹), 谷口泰之¹), 鈴木正行¹), 後藤理香¹), 内田八重子¹), 工藤翔二 (¹) 慈生会等潤病院内科) : 当院における脳卒中後遺症に合併した肺炎症例の検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 11) 中山智子¹), 小野美紀子¹), 山元滋樹¹), 福田 悠¹), 佐藤悦子, 平松久弥子, 工藤翔二 (¹) 日本医科大学解析人体病理学) : メソトレキセート (MTX) による急性肺障害 : 剖検2例の臨床病理学的検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 12) 藤田和恵, 猪俣 稔, 瀬尾宜嗣, 森本泰介, 服部久弥子, 斉藤好信, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二 : COPD急性増悪時における起炎菌と臨床経過に関する検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 13) 森本泰介, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 折津 愈¹), 杉崎勝教²), 貫和敏博³) (¹) 日赤医療センター呼吸器内科, (²) 西別府病院内科, (³) 東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野) : 2004年サルコイドーシス全国疫学調査. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 14) 白杵二郎, 松田久仁子, 吾妻安良太, 工藤翔二 : 肺線維芽細胞における Smad シグナルの役割に関する siRNA を用いた検討. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 15) 兪 昌赫, 王 春艶, 吾妻安良太, 松田久仁子, 阿部信二, 白杵二郎, 李 英姫¹), 工藤翔二 (¹) 日本医科大学公衆衛生学) : エリスロマイシン新規化合物 EM703 の TGF- β / Smad シグナル抑制効果. 第47回日本呼吸器

学会学術講演会, 2007. 5.

- 16) 野呂林太郎, 弦間昭彦, 小齊平聖治, 宮永晃彦, 峯岸裕司, 岡野哲也, 清家正博, 小久保豊, 片岡清子, 松田久仁子, 吉村明修, 工藤翔二: 肺癌細胞株における PTEN の不活化のメカニズム. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
 - 17) 茂木 孝^{1,2)}, 本橋典久^{1,2)}, 黒崎央子^{1,2)}, 石井健男^{1,2)}, 山田浩一^{1,2)}, 村田 朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)} (¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック): 慢性閉塞性肺疾患における呼気NO測定の意味に関する研究. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
 - 18) 宮永晃彦, 弦間昭彦, 野呂林太郎, 奈良道哉, 岡野哲也, 片岡清子, 吉村明修, 工藤翔二: 非小細胞肺癌におけるヒストン脱アセチル化阻害薬の抗腫瘍効果. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
 - 19) 森本泰介, 吾妻安良太, 阿部信二, 白杵二郎, 工藤翔二: 臨床調査個人票における組織診断群とその他の群の比較. 第27回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 2007. 10.
 - 20) 武村 明, 弦間昭彦, 渋谷昌彦¹⁾, 松田久仁子, 岡野哲也, 奈良道哉, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 吉村明修, 工藤翔二 (¹⁾ 東京都立駒込病院呼吸器内科): ゲフィチニブ耐性肺腺癌細胞株を用いたジェムシタピン耐性に関する検討. 第48回日本肺癌学会総会, 2007. 11.
 - 21) 野呂林太郎, 弦間昭彦, 宮永晃彦, 峯岸祐司, 奈良道哉, 小久保豊, 小齊平聖治, 片岡清子, 岡野哲也, 清家正博, 松田久仁子, 吉村明修, 工藤翔二: 肺癌細胞における PTEN の不活化とその回復. 第48回日本肺癌学会総会, 2007. 11.
 - 22) 藤田亜紀¹⁾, 瀬川佳余¹⁾, 山口敬子¹⁾, 古館隆子¹⁾, 若林律子^{1,2)}, 茂木 孝^{1,2)}, 黒崎央子^{1,2)}, 石井健男^{1,2)}, 村田 朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)} (¹⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック, ²⁾ 日本医科大学呼吸器内科): 禁煙外来におけるうつ評価の重要性について. 第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2007. 11.
 - 23) 古館隆子¹⁾, 石井健男^{1,2)}, 村田 朗^{1,2)}, 本橋典久^{1,2)}, 黒崎央子^{1,2)}, 山口敬子¹⁾, 瀬川佳余¹⁾, 若林律子^{1,2)}, 藤田亜紀¹⁾, 木田厚瑞^{1,2)} (¹⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック, ²⁾ 日本医科大学呼吸器内科): COPD における内臓脂肪評価の意義. 第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2007. 11.
 - 24) 若林律子^{1,2)}, 石井健男^{1,2)}, 山口敬子²⁾, 瀬川佳余²⁾, 藤田亜紀²⁾, 古館隆子²⁾, 村田 朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)} (¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック): LINQ を用いた慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の患者教育に関する研究. 第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2007. 11.
 - 25) 若林律子^{1,2)}, 石井健男^{1,2)}, 山口敬子²⁾, 瀬川佳余²⁾, 藤田亜紀²⁾, 古館隆子²⁾, 村田 朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)} (¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック): LINQ を用いた慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の情報量と医療連携に関する研究. 第17回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 2007. 11.
- (7) その他
- 1) 村田 朗: 長引く咳をどうするか. 第6回日本医科大学生活習慣病・医療連携推進会議, 2007. 2.
 - 2) 村田 朗: 肺の生活習慣病 COPD: 診断と治療の現状. 第52回小県医師会学術講演会, 2007. 5.
 - 3) 村田 朗: 台東区保健所呼吸リハビリテーション教室 呼吸ケアから学ぶ自己管理. 台東区保健所, 2007. 10.
 - 4) 村田 朗: 慢性閉塞性肺疾患 COPD の基礎から臨床まで. 第23回東京理科大学薬学講座, 2007. 10.

5. 精神医学講座

[付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

研究概要

当講座では、精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な治療法を開発することを目的に、実際の診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を中心に研究を行ってきた。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。今年度は以下の研究を行った。

1. 分子イメージングを用いた機能的な精神疾患の病態診断研究 ポジトロンCT (PET) による神経伝達機能イメージングの技術を用いて、統合失調症および気分障害患者など機能的な精神疾患の神経伝達機能の異常を調べた。
2. 分子イメージングを用いた向精神薬の薬効評価に関する研究 ポジトロンCTを用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化との関連を調べ、向精神薬の治療効果の客観的評価法の開発を目指した。
3. ファンクショナルMRI (fMRI) を用いた精神疾患の高次脳機能障害の研究 fMRIを用いて、統合失調症患者の高次機能障害の神経基盤に関する研究を行った。さらに、PTSD患者の情動反応の計測法の開発および標準化を行った。
4. 血管性うつ病の研究 脳卒中後のうつ病を含む血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。
5. 老年期気分障害の研究 老年期のうつ病に関する臨床研究を行った。その際に拡散テンソル解析を用いて老年期うつ病の病態基盤を検討した。
6. 救命救急に搬送された自殺未遂者に対する介入研究 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例について検討を行った。また厚生労働省による自殺関連戦略研究にもコア施設の一つとして参加した。
7. 児童思春期の気分障害に関する研究：児童思春期のうつ病に関する臨床研究を開始するための予備的検討を行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分研究報告書：

- 1) 成重竜一郎, 市川宏伸¹⁾ (1) 東京都立梅ヶ丘病院)：行為障害入院治療例の予後。児童思春期精神医療・保健・福祉の介入対象としての行為障害の診断および治療・援助に関する研究 平成18年度総括・分担研究報告書 2007；61-66。
- 2) 成重竜一郎, 市川宏伸¹⁾, 鈴木俊介¹⁾ (1) 東京都立梅ヶ丘病院)：行為障害の入院治療に関する検討・最終報告書。児童思春期精神医療・保健・福祉の介入対象としての行為障害の診断および治療・援助に関する研究 平成16年度～18年度総合研究報告書 2007；47-50。
- 3) 成重竜一郎：行為障害の診断・治療に関するガイドライン (案) IV. 行為障害の治療 2. 医療機関による介入 b) 入院治療。児童思春期精神医療・保健・福祉の介入対象としての行為障害の診断および治療・援助に関する研究 平成16年度～18年度総合研究報告書 2007；178-180。
- 4) 成重竜一郎：行為障害の診断・治療に関するガイドライン (案) V. 事例 2. 広汎性発達障害を併存障害に持つ行為障害事例の入院治療。児童思春期精神医療・保健・福祉の介入対象としての行為障害の診断および治療・援助に関する研究 平成16年度～18年度総合研究報告書 2007；239-241。

追加分総説：

- 1) 成重竜一郎, 市川宏伸¹⁾ (1) 東京都立梅ヶ丘病院)：小児精神医療における子どもの攻撃性。心と社会 2007；

(1) 原著 :

- 1) Takahashi H, Kato M, Hayashi M, Okubo Y, Takano A, Ito H, Suhara T : Memory and frontal lobe functions ; possible relations with dopamine D2 receptors in the hippocampus. *Neuroimage*. . *Neuroimage* 2007 ; 15 (34 (4)) : 1643-1649.
- 2) Ito S, Suhara T, Ito H, Yasuno F, Ichimiya T, Takano A, Maehara T, Matsuura M, Okubo Y : Changes in central 5-HT1A receptor binding in mesial temporal epilepsy measured by positron emission tomography with [11C]WAY100635. *Epi Res* 2007 ; 73 : 111-118.
- 3) Takahashi H, Kato M, Matsuura M, Koeda M, Yahata N, Suhara T, Okubo Y : Neural Correlates of Human Virtue Judgment. *Cereb Cortex* 2008.
- 4) Asai Y, Takano A, Ito H, Okubo Y, Matsuura M, Otsuka A, Takahashi H, Ando T, Ito S, Arakawa R, Asai K, Suhara T : GABA (A) /Benzodiazepine receptor binding in patients with schizophrenia using [(11) C]Ro15-4513, a radioligand with relatively high affinity for alpha5 subunit. *Schizophr Res* 2008 ; 99 (1-3) : 333-340.
- 5) Ikeda Y, Yahata N, Ito I, Nagano M, Toyota T, Yoshikawa T, Okubo Y, Suzuki H : Low serum levels of brain-derived neurotrophic factor and epidermal growth factor in patients with chronic schizophrenia. *Schizophr Res* 2008.
- 6) Arakawa R, Ito H, Takano A, Morimoto T, Sassa T, Ohta K, Kato M, Okubo Y, Suhara T : Dose-finding study of paliperidone ER based on striatal and extrastriatal dopamine D (2) receptor occupancy in patients with schizophrenia. *Psychopharmacology (Berl)* 2008 ; 197 (2) : 229-235.
- 7) Koeda M, Takahashi H¹⁾, Yahata N²⁾, Asai K³⁾, Matsuura M⁴⁾, Tanaka H⁴⁾, Yoshiro O (¹⁾ National Institute of Radiational Sciences, Brain Imaging Project, ²⁾ Department of Pharmacology, Nippon Medical School, ³⁾ Asai Hospital, ⁴⁾ Tokyo Medical and Dental University) : Cerebral response to cognition of human voice inflexion in schizophrenia : An fMRI study. *Schizophrenia Research* 2008 ; 98 (S1) : 118-119.
- 8) Adachi N, Hara T, Oana Y, Matsuura M, Okubo Y, Akanuma N, Ito M, Kato M, Onuma T : Difference in age of onset of psychosis between epilepsy and schizophrenia. *Epilepsy Res* 2008 ; 78 (2-3) : 201-206.
- 9) Takahashi H, Matsuura M, Koeda M, Yahata N, Suhara T, Kato M, Okubo Y : Brain activations during judgments of positive self-conscious emotion and positive basic emotion : pride and joy. *Cereb Cortex* 2008 ; 18 (4) : 898-903.
- 10) Takahashi H, Fujimura Y, Hayashi M, Takano H, Kato M, Okubo Y, Kanno I, Ito H, Suhara T : Enhanced dopamine release by nicotine in cigarette smokers : a double-blind randomized placebo-controlled pilot study. *Int J Neuropsychopharmacol* 2008 ; 11 (3) : 413-417.
- 11) Takahashi H, Shibuya T, Kato M, Sassa T, Koeda M, Yahata N, Suhara T, Okubo Y : Enhanced activation in the extrastriate body area by goal-directed actions. *Psychiatry Clin Neurosci* 2008 ; 62 (2) : 214-219.
- 12) 上田 諭¹⁾ (¹⁾ 東京都老人医療センター精神科) : ECTにおける発作評価と「治療閾値」の重要性 : 米国の Visiting Fellowship に参加して. *精神医学* 2007 ; 49 (11) : 1135-1141.
- 13) 上田 諭¹⁾, 今村陽子¹⁾, 陳野美奈^{1,2)}, 佐賀史子^{1,3)}, 小山恵子¹⁾, 高橋正彦⁴⁾, 町田なな子⁵⁾, 小澤いぶき⁶⁾
(¹⁾ 東京都老人医療センター精神科, ²⁾ 上智大学大学院文学研究科心理学専攻, ³⁾ 横浜市立大学附属市民総合

医療センター精神医療センター, ⁴⁾ 香川大学医学部精神神経医学講座, ⁵⁾ 久喜すずのき病院, ⁶⁾ 東京都立広尾病院神経科) : 初老期に放火と緊張病症状で事例化しアスペルガー症候群が疑われた1症例. 精神科治療学 2007 ; 22 (12) : 1445-1453.

- 14) 伊藤敬雄 : 米国におけるコンサルテーション・リエゾン精神医療の現状 : Psychiatric Consultation Service at Yale-New Haven Hospital 報告記. 総合病院精神医学 2008 ; 20 (1) : 63-71.
- 15) 上田 諭¹⁾ (¹⁾ 東京都老人医療センター精神科) : ビタミンB₁₂欠乏による重症「認知症」からの劇的な回復. 精神科治療学 2008 ; 23 (3) : 373-377.
- 16) 原広一郎, 大久保善朗 : 抗てんかん薬の使い方. レジデントノート 2008 ; 9 (12) : 1789-1793.

(2) 総説 :

- 1) 館野 周, 澤谷 篤, 大久保善朗 : 高齢者医療とコンサルテーションリエゾン精神医療. 臨床精神医学 2007 ; 36 (6) : 749-753.
- 2) 荒川亮介, 大久保善朗 : 過鎮静. 臨床精神医学 2007 ; 増刊 : 69-72.
- 3) 館野 周, 大久保善朗 : 口腔内の痛み. 臨床精神医学 2008 ; 37 (1) : 33-39.
- 4) 伊藤敬雄 : 児童・思春期における自殺未遂者への再自殺予防と問題点. 医学のあゆみ 2007 ; 221 (3) : 211-215.
- 5) 木村真人 : 脳卒中後うつ病の予後. 特集 : 注目されるべき脳卒中後肺炎と脳卒中後うつ病. 成人病と生活習慣病 2007 ; 37 (4) : 451-455.
- 6) 伊藤敬雄, 大久保善朗 : 睡眠障害・不眠症. 小児科 2007 ; 48 (5) : 737-742.
- 7) 木村真人 : Post-stroke depression (脳卒中後うつ病) : 特集 ISNRI の現在. 精神科 2007 ; 10 (5) : 369-375.
- 8) 鈴木博子 : 自殺未遂者の長期予後. 精神科 2007 ; 10 (6) : 456-462.
- 9) 下田健吾, 木村真人 : 血管性認知症とうつ病. 精神科 2007 ; 11 (1) : 32-37.
- 10) 伊藤敬雄, 大久保善朗 : アルツハイマー型認知症におけるメラトニン補充療法の各種効果と展望. Modern-Physician 2007 ; 27 (8) : 1117-1121.
- 11) 伊藤敬雄 : Observership at Memorial Sloan-Kettering Cancer Center 報告記. JPOS News Letter 2007 ; 50 (8) : 19-20.
- 12) 鈴木博子 : せん妄における自殺・自殺類似行動. 精神科治療学 2007 ; 22 (8) : 917-922.
- 13) 木村真人 : 脳卒中後のうつ. Geriatric Medicine 2007 ; 45 (12) : 1605-1607.
- 14) 伊藤敬雄 : 脊椎・脊髄損傷患者への精神的アプローチ. 救急医学 2007 ; 31 (13) : 1775-1779.
- 15) 一宮哲哉, 大久保善朗 : 統合失調症における小脳研究の知見. 分子精神医学 2007 ; 7 (1) : 9-13.
- 16) 伊藤敬雄 : 高齢者へ睡眠薬を投与する際のリスクと注意点, 適した睡眠薬. 薬局 2008 ; 59 (1) : 54-62.
- 17) 伊藤敬雄 : ジェットラグ症候群の病理病態. 精神医学 2008 ; 37 (3) : 263-268.
- 18) 上田 諭 : うつ病再発の兆候と発見 : 病前性格と発病状況の観点から. 精神科治療学 2008 ; 23 (3) : 317-323.
- 19) 鈴木博子 : 電気けいれん療法 (ECT) を活用したうつ病の寛解導入. 精神科治療学 2008 ; 23 (3) : 285-290.

(3) その他

- 1) Hatta K¹⁾, Kurosawa H²⁾, Arai H¹⁾ (¹⁾ Department of Psychiatry, Juntendo University School of Medicine, ²⁾ Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Hospitalization for Medical comorbidities Among Psychiatric Patients in Tokyo. Psychiatric Services 2007 ; 58 (11) : 1502-1502.

著 書

- 1) 伊藤敬雄 : [分担] 自殺企図歴のある患者におけるリスクマネジメント. 精神科リスクマネジメント (保坂隆), 2007 ; pp148-155, 中外医学社.

- 2) 鈴木博子：〔分担〕合併症対策：熱傷患者の精神医学的問題とその要因．熱傷治療マニュアル（木所昭夫編集），2007；pp135-142，中外医学社．
- 3) 木村真人：〔分担〕一般疾患とうつ－脳血管障害－SNRIの有効性について．プライマリ・ケアのためのやさしいうつ病・うつ状態のマネジメント改訂版（桂 戴作編），2007；pp48-49，医薬ジャーナル社．
- 4) 下田健吾，木村真人：〔分担〕感情障害．知っておきたい精神医学の基礎知識（上島国利・上別府圭子・平島奈津子），2007；誠信書房．
- 5) マッケンジークワメ，三枝小夜子：〔翻訳〕よくわかるうつ病（大久保善朗 監訳），2008；一灯舎．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大久保善朗：脳機能画像からみた統合失調症の薬物療法．PsyMEX，2007．11．
- 2) 伊藤敬雄：Yale Consultation-liaison psychiatry の紹介．第48回GHPセミナー（東京），2008．1．
- 3) 大久保善朗：ニューロイメージングを用いた抗うつ薬の薬効評価．第5回多摩メンタルヘルス懇話会，2007．6．
- 4) 大久保善朗：ニューロイメージングでみた統合失調症治療．米子精神科セミナー，2007．6．
- 5) 大久保善朗：てんかんの分子イメージング．第36回大阪てんかん研究会，2007．7．
- 6) 大久保善朗：分子イメージングを用いた向精神薬の薬効評価．第36回慶應ニューロサイエンス研究会，2007．10．
- 7) 大久保善朗：脳機能画像からみた精神疾患の病態と治療．広島精神神経学会，2007．12．
- 8) 大久保善朗：脳機能画像からみた統合失調症の薬物療法．第109回北信診療所医会講演会，2008．1．
- 9) 大久保善朗：脳画像からみた統合失調症の病態と治療．第3回東京五大学精神医学集談会，2008．2．

(2) シンポジウム：

- 1) 大久保善朗：脳機能画像からみた精神科薬物療法．第17回日本臨床精神神経薬理学会，2007．9．

(3) セミナー：

- 1) 大久保善朗：循環器疾患とうつ病．第13回日本心臓リハビリテーション学会，2007．7．
- 2) 大久保善朗：PETを用いた抗精神病薬の薬効評価．第10回日本薬物脳波学会学術集会，2007．7．

(4) 一般講演：

- 1) Ogawa K, Shingai Y, Yamamoto M, Tateno A, Saito T, Okubo Y：Effectiveness of Atypical Antipsychotic Augmentation After Successful ElectroConvulsive Therapy. American Psychiatry Association 2007 Annual Meeting (San Diego, CA), 2007. 5.
- 2) Arakawa R, Ito H, Takano A, Takahashi H, Morimoto T, Sassa T, Ota K, Kato M, Okubo Y, Suhara T：Striatal And Extrastriatal Dopamine D2 Receptor Occupancy By Palipericone Extended-release Tablets：A PET Study. Brain ' 07 and Brain PET ' 07 (Osaka), 2007. 5.
- 3) Ito T, Okubo Y：A study of the relation between the suicide attempt and the melatonin secretion rhythm in elderly patients with major depressive disorder. International Psychogeriatric Association 25th Anniversary (Osaka), 2007. 10.
- 4) Ueda S, Tateno A, Saito T, Koyama K¹, Okubo Y⁽¹⁾ Department of Psychiatry, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital)：Somatic hallucinations in Parkinson's disease resolved with electroconvulsive therapy. International Psychogeriatric Association 2007 Osaka Silver Congress (Osaka Japan), 2007. 10.
- 5) Ito T, Okubo Y：Aripiprazole in the treatment of hypoactive subtype of delirium with terminal cancer patients. Academy of Psychosomatic Medicine 54th Annual Meeting (Amelia Island, Florida), 2007. 11.
- 6) Koeda M, Takahashi H¹, Yahata N², Matsuura M³, Tanaka H³, Okubo Y⁽¹⁾ National Institute of Radiological Sciences Brain Imaging Project, Chiba, Japan, ² Department of Pharmacology, Nippon Medical

- School, Tokyo, Japan , ³) Asai Hospital, Togane, Japan, ⁴) Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan) : A functional MRI study : Cerebral Activation for Human Voice Inflexion in Schizophrenia. British Neuropsychiatry Association 2008 Annual General Meeting (The Institute of Child Health, Guilford Street, London), 2008. 2.
- 7) Koeda M, Takahashi H¹⁾, Yahata N²⁾, Asai K³⁾, Matsuura M⁴⁾, Tanaka H⁴⁾, Okubo Y (¹) National Institute of Radiological Sciences Brain Imaging Project, Chiba, Japan, ²) Department of Pharmacology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan , ³) Asai Hospital, Togane, Japan , ⁴) Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan) : Cerebral Response to Cognition of Human Voice Inflexion in Schizophrenia : An fMRI Study. 14th Biennial Winter Workshop on Schizophrenia and Bipolar Disorders (Montreux, Switzerland), 2008. 2.
 - 8) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗 : 拡散テンソルMRIを用いた認知障害を伴う老年期うつ病の検討. 第29回日本生物学的精神医学会総会, 2007. 7.
 - 9) 岡崎安沙美¹⁾, 中山菜央, 横田雅実, 澤谷 篤, 藤渡辰馬, 橋口英俊¹⁾, 木村真人 (¹) ルーテル学院大学大学院) : 抑うつ患者におけるイラショナルビリーフとセルフエフィカシー. 第112回日本心身医学会関東地方会, 2008. 3.
 - 10) 廣橋 愛, 江口佐和子, 中山菜央, 横田雅実, 宍倉洋美¹⁾, 野口 素¹⁾, 木村真人 (¹) 千葉北総病院看護部) : PMSとPMDDの疫学的・症候学的検討. 第12回千葉総合病院精神科研究会, 2007. 4.
 - 11) 中山菜央, 池森紀夫, 三浦剛史¹⁾, 益田律子²⁾, 山田岳史³⁾, 藤岡久恵⁴⁾, 古山めぐみ⁴⁾, 吉澤一巳⁵⁾, 木本陶子⁵⁾, 横田雅実, 木村真人 (¹) 泌尿器科学, ²) 麻酔科学, ³) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ⁴) 看護部, ⁵) 薬剤部) : 当院における緩和ケアチームの活動状況と精神・心理的な関わり. 第12回千葉総合病院精神科研究会, 2007. 4.
 - 12) 奥部愛子, 森川隆司, 横田雅実, 木村真人 : うつ病の就労困難例における年齢層別心理的特性について. 第12回千葉総合病院精神科研究会, 2007. 4.
 - 13) 澤谷 篤, 小川耕平, 山本正浩, 川島義高, 館野 周, 伊藤敬雄, 西川律子, 大久保善朗 : コンサルテーション・リエゾンサービスによるせん妄への早期介入 : 日本医科大学付属病院での取組. 第103回日本精神神経学会総会, 2007. 5.
 - 14) 成重竜一郎, 館野 周, 八幡憲明¹⁾, 大久保善朗 (¹) 薬理学) : 大うつ病性障害患者における脳形態異常に対するMRI voxel-based morphometryによる検討. 第29回日本生物学的精神医学会, 2007. 7.
 - 15) 肥田道彦, 高橋英彦¹⁾, 松浦正人²⁾, 浅井邦彦³⁾, 田中 博³⁾, 大久保善朗 (¹) 放射線医学総合研究所, ²) 医療法人静和会浅井病院, ³) 東京医科歯科大学) : 声に含まれる感情の認知に関するfMRI研究. 第29回日本生物学的精神医学会, 2007. 7.
 - 16) 小野紘子, 横田雅実, 藤渡辰馬, 木村真人 : 脳血管障害急性期入院患者に対する精神・心理学的アプローチ. 第18回北総精神科医会, 2007. 9.
 - 17) 横田雅実, 木村真人, 藤渡辰馬 : 向精神薬服用患者の口渇症状への対策. 第18回北総精神科医会, 2007. 9.
 - 18) 古山めぐみ¹⁾, 木村真人, 藤渡辰馬 (¹) 千葉北総病院看護部) : 当院メンタルヘルス科外来の看護師電話対応の現状. 第18回北総精神科医会, 2007. 9.
 - 19) 石井沙知, 篠崎香梨, 野口恭子¹⁾, 中山菜央, 横田雅実, 山田恵美子²⁾, 木村真人 (¹) 聖心女子大学大学院, ²) 金地病院) : 甲状腺機能障害患者における性格傾向と精神症状の検討. 第110回日本心身医学会関東地方会, 2007. 9.
 - 20) 小野紘子, 横田雅実, 篠崎香梨, 野口恭子¹⁾, 伊藤智美²⁾, 武田裕子²⁾, 水成隆之³⁾, 木村真人 (¹) 聖心女子大学大学院, ²) 日本医科大学千葉北総病院看護部, ³) 日本医科大学脳神経外科) : 脳血管障害急性期入院患者の抑うつ傾向とアパシーの関連について. 第110回日本心身医学会関東地方会, 2007. 9.

- 21) 伊藤滋朗¹⁾, 館野 周, 小林 岐, 武井 大²⁾, 小峰由貴子²⁾, 清田英樹³⁾, 大久保善朗 (¹⁾ 医療法人静和会浅井病院, ²⁾ 三宅島中央診療所, ³⁾ NTTレゾナントコミュニケーション事業本部): 精神科遠隔診療の可能性: 三宅島での経験: 第2報. 第27回日本精神科診断学会, 2007. 10.
- 22) 廣橋 愛, 中山菜央, 横田雅実, 木村真人: 健常女性におけるPMS・PMDDの実態調査: 疫学的・症候学的・心理学的検討. 第20回日本総合病院精神医学会総会, 2007. 11.
- 23) 横田雅実, 中山菜央, 廣橋 愛, 木村真人: 向精神病薬服用患者の口渇症状に対するNizatidineの効果について. 第20回日本総合病院精神医学会総会, 2007. 11.
- 24) 中山菜央, 池森紀夫, 澤谷 篤, 横田雅実, 木村真人: 当院における緩和ケアチームの活動状況と精神科医・臨床心理士の関わり. 第20回日本総合病院精神医学会総会, 2007. 11.
- 25) 成重竜一郎, 市川宏伸¹⁾ (¹⁾ 東京都立梅ヶ丘病院): 行為障害入院治療例の予後に関する検討. 第48回日本児童青年精神医学会総会, 2007. 11.
- 26) 上田 諭, 河寫 讓, 野上 毅, 花尻美和, 下田健吾, 齊藤卓弥, 大久保善朗: 重度の制止に対しECT単独よりもbenzodiazepine投与が著効したうつ病の1例. 第20回日本総合病院精神医学会総会 (札幌), 2007. 11.
- 27) 荒川亮介, 伊藤 浩, 奥村正紀, 大久保善朗, 須原哲也: 抗精神病薬による下垂体ドーパミンD2受容体占有率についての検討: 高プロラクチン血症との関係. 第28回日本生物学的精神医学会, 2007. 11.
- 28) 福田 一, 伊藤逸男, 八幡憲明, 高橋英彦, 田井治康友, 浅井邦彦, 鈴木秀典, 大久保善朗: 統合失調症発症後の脳の形態変化に関するMRI研究. 第28回日本生物学的精神医学会, 2007. 11.
- 29) 伊藤逸生, 八幡憲明, 織田健司, 高橋英彦, 田井治康友, 浅井邦彦, 鈴木秀典, 大久保善朗: 統合失調症患者における脳形態変化の性差に関するMRI研究. 第28回日本生物学的精神医学会 (札幌), 2007. 11.
- 30) 荒川亮介, 伊藤 浩, 奥村正紀, 大久保善朗, 須原哲也: 抗精神病薬による下垂体ドーパミンD2受容体阻害作用と高プロラクチン血症との関係. 47回日本核医学会学術総会, 2007. 11.
- 31) 奥村正紀, 伊藤 浩, 荒川亮介, 大久保善朗, 須原哲也: スルピリド内服時の下垂体ドーパミンD2受容体占有率の測定. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 11.
- 32) 澤谷 篤, 中山菜央, 横田雅実, 石井民子, 成重竜一郎, 中尾泰崇, 藤渡辰馬, 木村真人: カプグラ様症候を呈した解離性障害の1例. 第111回日本心身医学会関東地方会, 2007. 12.
- 33) 横田雅実, 伊藤 幸, 中山菜央, 中野 司, 鴨井久博¹⁾, 木村真人 (¹⁾ 千葉北総病院歯科): 向精神病薬服用患者の口渇症状に対する検討. 第111回日本心身医学会関東地方会, 2007. 12.
- 34) 大塚理恵子, 中山菜央, 福井里美, 横田雅実, 木村真人: 若年女性の理想体重の認識と心理的要因との関連性. 第111回日本心身医学会関東地方会, 2007. 12.
- 35) 館野 周, 伊藤敬雄, 川島義高, 澤谷 篤, 野上 毅, 大久保善朗: コンサルテーションリエゾンサービスの効果: 年齢別の検討. 第20回日本総合病院精神医学会, 2007. 12.
- 36) 川島義高, 伊藤敬雄, 館野 周, 下田健吾, 鈴木博子, 澤谷 篤, 野上 毅, 齊藤卓弥, 大久保善朗: 思春期の自殺企図および自傷行為に関する実態報告: 3次救急の重症例を対象として. 第20回日本総合病院精神医学会, 2007. 12.
- 37) 下田健吾, 木村真人, 大久保善朗: 心因性疼痛と鑑別が困難であった反射性交感神経性ジストロフィーの1例. 第20回日本総合病院精神医学会総会, 2007. 12.
- 38) 伊藤敬雄, 大久保善朗, 館野 周, 澤谷 篤, 野上 毅, 川島義高: せん妄に対するリスパダール内服液の使用経験. 第20回総合病院精神医学会総会, 2007. 12.
- 39) 北原 圭, 川島義高, 伊藤逸生, 山本正浩, 館野 周, 伊藤敬雄, 大久保善朗: 精神科コンサルテーションリエゾン活動において他科から受診依頼を受けるまでの期間の疾患別検討. 第27回日本社会精神医学会, 2008. 2.
- 40) 川島義高, 伊藤敬雄, 館野 周, 下田健吾, 鈴木博子, 山本正浩, 池森紀夫, 大久保善朗: 解離症状下での自殺企図及び自傷行為: 救命救急センターに搬送された9症例. 第27回日本社会精神医学会, 2008. 2.

41) 伊藤敬雄¹⁾, 大久保善朗, Powsner S¹⁾ (¹⁾ Yale University, Yale New Haven Hospital, Psychiatric Consultation Service) : Yale大学アルコール・物質依存者早期介入プロジェクト (ASSERT) の報告. 第27回日本社会精神医学会 (福岡), 2008. 2.

(5) その他

1) 大久保善朗: 分子イメージングでみた統合失調症: PETによる病態と治療効果の評価. 日本精神病院協会, 2007. 6.

2) 大久保善朗: 職場のメンタルヘルス. 日本医科大学産業医研修会, 2008. 3.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

生薬より熱水抽出される成分は、薄荷などの精油、カテキンやテアニン、タンニンなどのアルカロイド、そして柴胡、人參、甘草などに多量に含有されるサポニン（シャボン）群が主体であり、これらが作用する部位は粘膜、特に小腸の粘膜組織であろうとのこれまでの仮説に基づき、本年度もさらに研究を展開した。こうした小腸の粘膜部位には、自然抗体を産生するB-1細胞やNKT細胞、 $\gamma\delta$ 型T細胞そしてランゲルハンス細胞に代表される樹状細胞群などの自然免疫系細胞群が局在する。最近これら粘膜における自然免疫を担う細胞群が、脂質やRNAを主体とした核酸群によって刺激され、その応答産物として様々な産物が放出されることによって各種の疾病が引き起こされることが判明してきた。我々は体内異物としての脂質や核酸が大量に発生する状況こそがウイルス感染状態、殊にその持続感染状態と考え、ウイルス持続感染が誘発される機序を検討したところ、コレステロールの細胞内合成に関与する酵素であるEnoyl-CoA-hydratase (ECHS)の活性が低下した場合に持続感染が誘発されることを見出した (Antiviral Res., 75 : 152-158, 2007)。このことは細胞内脂質の増加がウイルス持続感染を誘発することを示唆しており、漢方薬による脂質制御がこうしたウイルスの持続感染を抑制し、その結果として脂質や核酸群が減少することによって、様々な症状が消失していくことを示唆している。腫瘍発生を含め様々な生体応答が天然物によって制御されるか、脂質への関与が示唆される毒素の粘膜投与を含め検討したところ興味深い結果が得られた (J. Immunol., 180 : 4000-4010, 2008)。現在、その詳細な機序を自然免疫システムの活性化を中心に検討中である。

研究業績

論文

(1) 原著 :

1) Nakagawa Y¹⁾, Kikuchi H²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, ²⁾ Department of Physics) : Molecular analysis of TCR and peptide/MHC interaction using P18-I10-derived peptides with a single D-amino acid substitution. Biophysical J 2007 ; 92 (7) : 2570-2582.

2) Takahashi M¹⁾, Watari E¹⁾, Shinya E¹⁾, Shimizu M¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology) : Suppression of virus replication via down-modulation of mitochondrial short chain enoyl-CoA hydratase in human glioblastoma cells. Antiviral Res 2007 ; 75 : 152-158.

3) Wakabayashi A¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Shimizu M¹⁾, Moriya K¹⁾, Nishiyama Y¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology) : Suppression of Already Established Tumor Growing through Activated Mucosal CTLs Induced by Oral Administration of Tumor Antigen with Cholera Toxin. J Immunol 2007 ; 180 (6) : 4000-4010.

4) 平馬直樹, 矢数芳英¹⁾ (¹⁾ 東京医科大学麻酔科) : 中国伝統医学. 治療 (増刊号) 2007 ; 89 (suppl-1) : 916-922.

(2) 総説：

- 1) 山西慎吾¹⁾, 神谷 茂²⁾, 高橋秀実¹⁾ (日本医科大学微生物・免疫学, ²⁾ 杏林大学感染症学)：ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性. 日本ヘリコバクター学会誌 2007；2 (8)：22-26.
- 2) 高橋秀実：母乳を介したエイズウイルスの感染伝播. 日本エイズ学会誌 2007；9 (1)：11-16.
- 3) 高橋秀実：第5回日本中医学交流会大会：感染症に対する温病治療：SARSは攻略できるか. 中医臨床 2007；28 (3)：374-379.
- 4) 高橋秀実：第5回日本中医学交流会大会：感染症に対する温病治療：SARSは攻略できるか. 伝統医学 2007；10 (3)：150-153.
- 5) 高橋秀実：ワクチンによる特異的免疫機能の誘導：ヒトにおける抗原特異的免疫機構. 治療学 2007；41 (10)：1041-1045.
- 6) 高橋秀実： γ δ T細胞とリウマチ様関節炎. リウマチ科 2007；38 (6)：565-570.
- 7) 新谷英滋¹⁾, 高橋秀実¹⁾ (日本医科大学微生物学・免疫学)：樹状細胞の機能とHIV-1 Nef. 臨床免疫・アレルギー科 2007；48 (6)：623-629.
- 8) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (あきば伝統医学クリニック)：江戸の医案を読む 第1回 尾台榕堂『方伎雑誌』から. 伝統医学 2007；10 (2)：66-72.
- 9) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (あきば伝統医学クリニック)：江戸の医案を読む 第2回 山田業広・業精『井見集付録』より. 伝統医学 2007；10 (3)：154-160.
- 10) 平馬直樹, 秋葉哲生¹⁾ (あきば伝統医学クリニック)：江戸の医案を読む 第3回 本間棗軒『内科秘録』より. 伝統医学 2007；10 (4)：210-217.
- 11) 高橋秀実：免疫応答とエネルギーのめぐり. 癒しの環境研究会誌 2008；13 (1)：34-35.
- 12) 若林あや子¹⁾, 高橋秀実¹⁾ (日本医科大学微生物学・免疫学)：感染症と栄養・機能性食品. 日本栄養学会雑誌 2008；4 (6)：373-380.
- 13) 高橋めぐみ¹⁾, 高橋秀実¹⁾ (日本医科大学微生物学・免疫学)：遊離抗原によるCD8+T細胞のアポトーシス誘導. 臨床免疫・アレルギー科 2008；49 (2)：233-238.

著 書

- 1) 高橋秀実, 林 英生¹⁾, 岩本愛吉²⁾, 神谷 茂³⁾ (筑波大学, ²⁾ 東京大学医科学研究所, ³⁾ 杏林大学感染症学)：〔共著〕ブラック微生物学 (第2版), 2007；pp1-911, 丸善出版.
- 2) 菅沼 栄：〔自著〕漢方エキス製剤の中医学的運用. いかにかに弁証論治するか【続編】(菅沼 伸), 2007；pp1-282, 東洋学術出版社.

学会発表

〔追加分〕

追加分教育講演：

- 1) 菅沼 栄：温裏剤. 東京中医学研究会, 2007. 2.

(1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：免疫学的な視点から見たSARSに対する温病学的治療の意義. 第5回日本中医学交流会大会 (東京), 2007. 8.
- 2) 平馬直樹：傷寒と温病に関する基礎知識. 第5回日本中医学交流会大会 (東京), 2007. 8.
- 3) 高橋秀実：温病における舌診の意義. 第5回日本中医学交流会大会 (東京), 2007. 8.

- 4) 菅沼 栄：温熱病を傷寒症と誤治した症例（「温病」の治療禁忌）. 第5回日本中医学交流会大会（東京）, 2007. 8.
- 5) 高橋秀実：漢方と免疫. 第6回東京大学実践漢方セミナー, 2007. 2.
- 6) 高橋秀実：漢方と免疫. 第7回小児アレルギー免疫研究会, 2008. 2.

(2) 教育講演：

- 1) 平馬直樹：弁証論治の実際その3. 神奈川実践漢方勉強会, 2007. 1.
- 2) 菅沼 栄：温裏剤. 東京中医学研究会, 2007. 1.
- 3) 菅沼 栄：温裏剤. 東京中医学研究会, 2007. 3.
- 4) 菅沼 栄：金匱要略解説. 東京中医学研究会, 2007. 4.
- 5) 菅沼 栄：臟腑経絡の先後病の脈・証. 東京中医学研究会, 2007. 5.
- 6) 菅沼 栄：瘧・湿・喝病の脈・証. 東京中医学研究会, 2007. 6.
- 7) 平馬直樹：中医基本処方解説その1. 神奈川実践漢方勉強会, 2007. 7.
- 8) 菅沼 栄：瘧・湿・喝病の脈・証. 東京中医学研究会, 2007. 7.
- 9) 菅沼 栄：瘧・湿・喝病の脈・証. 東京中医学研究会, 2007. 9.
- 10) 菅沼 栄：瘧・湿・喝病の脈・証. 東京中医学研究会, 2007. 10.
- 11) 平馬直樹：中医基本処方解説その2. 神奈川実践漢方勉強会, 2007. 10.
- 12) 菅沼 栄：百合・狐惑・陰陽毒病の証・治. 東京中医学研究会, 2007. 11.

(3) ワークショップ：

- 1) Takahashi H：Cellular HIV dissemination and expansion at the mucosal compartment. Japan-US Cooperative Medical Science Program：The 20th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels (Monterey), 2007. 9.

(4) 一般講演：

- 1) 新谷英滋¹⁾, 大脇敦子¹⁾, 清水真澄¹⁾, 渡邊恵理¹⁾, 高久千鶴乃, 高橋秀実⁽¹⁾ 日本医科大学微生物学・免疫学)：Analysis of the down-regulation of CD1-mediated lipid /glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 第21回日本エイズ学会学術集会, 2007. 11.
- 2) Higuchi T¹⁾, Takahashi M¹⁾, Kobayashi F¹⁾, Inagaki S¹⁾, Nakagawa Y¹⁾, Kumagai Y¹⁾, Takahashi H⁽¹⁾ Department of Microbiology and Immunology)：Study on a possible mechanism of intravesical BCG therapy for human bladder carcinoma. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 3) Takeuchi H¹⁾, Shimizu M¹⁾, Mayumi N¹⁾, Norose Y¹⁾, Takahashi H⁽¹⁾ Department of Microbiology and Immunology)：Characterization of virus-producing breast milk monocytes transformed with HTLV-1. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 4) Kumagai Y¹⁾, Takahashi H⁽¹⁾ Department of Microbiology and Immunology)：Analysis of the interaction between HIV-1-gp120 V3 resion and β -chemokine receptor by using multivalent V3 epitopes grafted at the immunoglobulin hyper-variable regions. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 5) Shinya E¹⁾, Owaki A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Watanabe E¹⁾, Matsumura J¹⁾, Negishi Y¹⁾, Takaku C, Takahashi H⁽¹⁾ Department of Microbiology and Immunology)：Down-regulation of CD1 lipid/glycolipid antigen presentation by HIV-1 Nef in immature dendritic cells. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 6) Takahashi H, Saito N¹⁾, Shimizu M¹⁾, Owaki A¹⁾, Watanabe E¹⁾, Takahashi M¹⁾, Ohmi K¹⁾, Takaku C, Shinya E¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Microbiology and Immunology)：Cross-reactive cytotoxicity of CD1d-NKT cell system between primates and rodents. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 7) Moriya K¹⁾, Wakabayashi A¹⁾, Shimizu M¹⁾, Watanabe E¹⁾, Takaku S, Dan K²⁾, Takahashi H⁽¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, ²⁾ 3rd Department of Internal Medicine)：Effects of 33D1+ or DEC-205+ dendritic cell depletion on cytokine secretion and tumor growing in mice. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.

- 8) 平馬直樹：アトピー性皮膚炎の漢方治療．山梨中医学研究会，2007．3．
- 9) 平馬直樹：中医診断治療の進め方．阿蘇漢方シンポジウム，2007．3．
- 10) 平馬直樹：弁証論治概論．仙台中医学研究会，2007．4．
- 11) 山西慎吾¹⁾，神谷 茂²⁾，高橋秀実¹⁾（日本医科大学微生物学・免疫学，²⁾杏林大学感染症学）：ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性．第13回日本ヘリコバクター学会，2007．6．
- 12) 廣田 薫，高久 俊，日高千鶴乃，古賀実芳，平馬直樹，高橋秀実：高CPK血症を伴い温裏剤と桃核承気湯の併用により著明な改善を示した冷え症の1例．第58回日本東洋医学会学術総会，2007．6．
- 13) 高橋秀実，廣田 薫，日高千鶴乃，高久 俊，真弓暢子¹⁾，古賀実芳，平馬直樹¹⁾（日本医科大学微生物学・免疫学）：アレルギー疾患に関する解表剤の有効性．第58回日本東洋医学会学術総会，2007．6．
- 14) 日高千鶴乃，廣田 薫，高久 俊，古賀実芳，平馬直樹，高橋秀実：未治療の多発性硬化症に対する湯液治療の1例．第58回日本東洋医学会学術総会，2007．6．
- 15) 平馬直樹：気の病証と治療．仙台中医学研究会，2007．7．
- 16) 高橋めぐみ¹⁾，渡理英二¹⁾，清水真澄¹⁾，新谷英滋¹⁾，高橋秀実¹⁾（日本医科大学微生物学・免疫学）：麻疹ウイルス変異株の持続感染に関与する宿主因子・その3．第55回日本ウイルス学会学術集会，2007．10．
- 17) 渡理英二¹⁾，高橋めぐみ¹⁾，渡邊恵理¹⁾，大脇敦子¹⁾，新谷英滋¹⁾，高橋秀実¹⁾（日本医科大学微生物学・免疫学）：樹状細胞およびランゲルハンス細胞サブセットの麻疹ウイルスの感受性とサイトカイン産生能．第55回日本ウイルス学会学術集会，2007．10．
- 18) 平馬直樹：血の病証と治療その1．仙台中医学研究会，2007．10．
- 19) 高橋秀実：HIV感染と免疫応答．第21回日本エイズ学会学術集会，2007．11．
- 20) 高久千鶴乃，渡邊恵理¹⁾，大脇敦子¹⁾，清水真澄¹⁾，松村次郎¹⁾，高久 俊，渡理英二¹⁾，新谷英滋¹⁾，高橋秀実¹⁾（日本医科大学微生物学・免疫学）：CD4陽性NKT細胞とHIV-1による感染拡大への相互作用．第21回日本エイズ学会学術集会，2007．11．
- 21) 松村次郎¹⁾，清水真澄¹⁾，高久千鶴乃，近江恭子，吉田岳市²⁾，秋山純一²⁾，新谷英滋¹⁾，岡 慎一²⁾，高橋秀実¹⁾（日本医科大学微生物学・免疫学，²⁾国立国際医療センター感染症科）：HIV患者の腸管粘膜組織における感染細胞の探索．第21回日本エイズ学会学術集会，2007．11．
- 22) 平馬直樹：弁証論治の臨床応用．沖縄中医学研究会，2007．11．

6. 小児科学講座

[付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究概要

小児科学教室は、付属4病院小児科の協力のもとに、臨床的研究そして基礎的研究を行っており、研究業績は一括して報告する。

主たる研究内容は、(1) 再生医療への造血幹細胞を用いた細胞・遺伝子治療の基礎的研究、(2) 白血病治療後の晩期障害の検討ならびに抗癌剤耐性の機序の解明、(3) 川崎病の冠動脈瘤および血管リモデリングに対する分子生物学的研究、(4) 小児糖尿病患児および肥満児の代謝動態の研究、(5) 小児期の腎・尿路疾患の臨床および病理学的検討、(6) 小児呼吸器疾患の臨床の特徴および肺胞音スペクトル解析とKL-6の臨床応用、(7) 新生児・乳児早期の腸内細菌叢とアレルギー疾患発症との検討、(8) 小児慢性疲労症候群の病態の解析、(9) 小児の痙攣およびてんかんの臨床と電気生理学所見・画像所見の検討などである。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kamisago M^{1,3)}, Schmitt PJ⁴⁾, Mcnamara D⁵⁾, Seidman C^{1,2)}, Seidman GJ¹⁾ (1) Department of Genetics, Harvard Medical School, Boston, MA, USA, (2) Cardiovascular Division, Brigham and Women's Hospital, and Howard Hughes Medical Institute, Boston, (3) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (4) Institute of Pharmacology and Toxicology, University of Wurzburg, Germany, (5) Heart Failure/Transplantation Program, University of Pittsburgh Medical Center, (Pittsburg, PA, USA) : Sarcomere protein gene mutations and inherited heart disease : a beta-cardiac myosin heavy chain mutation causing endocardial fibroelastosis and heart failure. Novartis Foundation Symposium 2006 ; 274 : 176-195.

追加分総説：

- 1) 桑原健太郎, 高石康子, 藤野 修 : 神経皮膚黒色症. 小児内科 小児中枢神経疾患の画像診断2008別冊 2007 ; 39 (増刊号) : 278-281.

(1) 原著：

- 1) Ohkubo T, Fukazawa R, Ikegami E, Ogawa S : Reduced shear stress and disturbed flow may lead to coronary aneurysm and thrombus formations. *Pediatr Int* 2007 ; 49 (1) : 1-7.
- 2) Fukazawa R¹⁾, Ikegami E¹⁾, Watanabe M¹⁾, Hajikano M¹⁾, Kamisago M¹⁾, Katsube Y¹⁾, Yamauchi H²⁾, Ochi M²⁾, Ogawa S¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, (2) Department of Surgery, Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Coronary Artery Aneurysm Induced by Kawasaki Disease in Children Show Features Typical Senescence. *Circ J* 2007 ; 71 (5) : 709-715.
- 3) Ikegami E¹⁾, Fukazawa R¹⁾, Kanbe M²⁾, Watanabe M¹⁾, Abe M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Kamisago M¹⁾, Hajikano M¹⁾, Katsube Y¹⁾, Ogawa S¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, (2) Department of Surgery, Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : Edaravone, a Potent Free Radical Scavenger, Prevents Anthracycline-Induced Myocardial Cell Death. *Circ J* 2007 ; 71 (11) : 1815-1820.

- 4) Sasaki T¹⁾, Fukazawa R²⁾, Ogawa S²⁾, Kanno S¹⁾, Nitta T¹⁾, Ochi M¹⁾, Shimizu K¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Stromal cell-derived factor-1 α improves infarcted heart function through angiogenesis in mice. *Pediatr Int* 2007 ; 49 (6) : 966-971.
- 5) Sasaki T, Fukazawa R, Ogawa S, Kanno S, Nitta T, Ochi M, Shimizu K (¹⁾ Department of Surgery, Cardiovascular Surgery, ²⁾ Department of Pediatrics) : Stromal cell-derived factor-1 α improves infarcted heart function through angiogenesis in mice. *Pediatrics International* 2007 ; 49 : 966-971.
- 6) Fukazawa R, Ikegami E, Watanabe M, Hajikano M, Kamisago M, Katsube Y, Yamauchi H, Ochi M, Ogawa S (¹⁾ Department of Pediatrics, ²⁾ Department of Surgery, Cardiovascular Surgery) : Coronary artery aneurysm induced by Kawasaki disease in children show features typical senescence. *Circ. J* 2007 ; 71 (5) : 709-715.
- 7) Ikegami E, Fukazawa R, Watanabe M, Abe M, Watanabe M, Kamisago M, Hajikano M, Katsube Y, Ogawa S (¹⁾ Department of Pediatrics) : Edaravone, a Potent Free Radical Scavenger, Prevents Anthracycline-Induced Myocardial Cell Death. *Circ. J* 2007 ; 71 (11) : 1818-1820.
- 8) 大園秀一¹⁾, 石田也寸志²⁾, 栗山貴久子³⁾, 浅見恵子⁴⁾, 松下竹次⁵⁾, 前田美穂, 有瀧健太郎⁶⁾, 石井栄三郎⁷⁾, 吉成みやこ⁸⁾, 石本浩市⁹⁾, 堀部敬三¹⁰⁾ (¹⁾ 久留米大学, ²⁾ 愛媛大学, ³⁾ 愛知小児医療センター, ⁴⁾ 新潟がんセンター, ⁵⁾ 国立国際医療センター, ⁶⁾ 国立成育医療センター, ⁷⁾ 長野こども病院, ⁸⁾ 東北大学, ⁹⁾ 順天堂大学, ¹⁰⁾ 名古屋医療センター) : 小児がん長期フォローアップ調査報告. *日本小児科学会雑誌* 2007 ; 1111 (11) : 1392-1398.
- 9) 北爪 勉¹⁾, 鈴木淳子¹⁾, 武村 濃²⁾, 稲葉利佳子¹⁾, 土屋恵司³⁾, 菌部友良³⁾, 小川俊一 (¹⁾ 東京通信病院小児科, ²⁾ 同放射線科, ³⁾ 日赤医療センター小児科) : 川崎病後のACバイパス術後例のMRIによる経過観察の有用性について. *日本小児科学会雑誌* 2007 ; 1111 (10) : 1282-1288.
- 10) 加藤陽子¹⁾, 前田美穂, 島崎晴代¹⁾, 新井 心²⁾, 有瀧健太郎³⁾, 菊地 陽²⁾, 後藤晶子⁴⁾, 小林美由紀⁵⁾, 杉田憲一⁶⁾, 恒松由記子³⁾, 徳山美香⁷⁾, 福永慶隆, 藤澤康司¹⁾, 別所文雄⁸⁾, 星 順隆¹⁾, その他4名 (¹⁾ 東京慈恵会医科大学, ²⁾ 埼玉県立小児医療センター, ³⁾ 国立成育医療センター, ⁴⁾ 横浜市立大学, ⁵⁾ 東京大学, ⁶⁾ 獨協医科大学, ⁷⁾ 東邦大学, ⁸⁾ 杏林大学) : 血液悪性腫瘍医の支店からみた本邦における小児血液悪性腫瘍疾患児に対する終末期緩和医療の現状と問題点. *小児がん* 2007 ; 44 (2) : 124-129.
- 11) 小川俊一 : 川崎病後の冠状動脈の血流動態特性. *Annual Review循環器* 2008 2008 ; 127-135.
- (2) 総説 :
- 1) 桑原健太郎, 藤野 修 : 特集 : 小児の頭痛 頭痛の分類 (国際頭痛分類第2版) : 小児に見られる疾患を中心に. *小児科* 2008 ; 49 (4) : 381-387.
- 2) 小川俊一 : 症候からみた小児の診断学 VIII 胸部の症候「急性の胸痛」. *小児科診療* 2004 ; 70 (増刊号) : 427-431.
- 3) 小川俊一 : 子どもを蝕む大人の病気 「虚血性心疾患」. *小児科* 2007 ; 48 (増刊号) : 700-704.
- 4) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆 : よりよい小学校生活をおくるためのアドバイス 膠原病. *小児科* 2007 ; 48 (8) : 1123-1129.
- 5) 前田美穂 : 小児の鉄欠乏性貧血. *チャイルドヘルス* 2007 ; 10 (7) : 465-468.
- 6) 植田高弘 : 血液は何でできているの? : その役割と成分. *チャイルドヘルス* 2007 ; 10 (7) : 4-8.
- 7) 前田美穂 : 思春期の貧血. *小児内科* 2007 ; 39 (9) : 1357-1360.
- 8) 高瀬真人 : 小児科でみられる急性喉頭喘鳴の鑑別診断と治療. *小児耳鼻咽喉科* 2007 ; 28 (3) : 180-185.
- 9) 小川俊一 : 特集 子ども薬 : 私なら今これをこう使う「川崎病の急性期および冠動脈瘤合併症例に対する治療」. *小児科臨床* 2007 ; 60 : 2313-2318.

- 10) 小川俊一：特集「川崎病：発見後40年の軌跡と今後の課題」 診断：臨床化学的・免疫学的検査所見. 日本臨床 2008；66：315-320.
- 11) 深澤隆治¹⁾ (1) 多摩永山病院小児科)：川崎病の臨床研究：遺伝子多型との関連. 小児看護 2008；31(3)：295-301.
- 12) 前田美穂：小児がん経験者のQOL. 小児保健研究 2008；67(2)：304-307.
- (3) 研究報告書：
- 1) Mestecky J¹⁾, Suzuki H^{1, 2)}, Yanagihara T^{1, 3)}, Moldoveanu Z¹⁾, Tomana M¹⁾, Matousovic K^{1, 4)}, Julian BA¹⁾, Novak J¹⁾ (1) University of Alabama at Birmingham, Birmingham, Ala., USA, 2) Juntendo University, 3) Nippon Medical School, 4) Charles University, School of Medicine and Faculty Hospital, Prague and Pilsen, Czech Republic)：IgA Nephropathy：Current Views of Immune Complex Formation. Contrib Nephrol 2007；157：56-63.
- 2) 勝部康弘¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 小川俊一 (1) 武蔵小杉病院小児科)：図説：カラー組織ドプラ心エコーでみるガンマグロブリンの効果. 日本臨床 特集：川崎病 2008；66(2)：220-223.
- 3) 前田美穂：貧血検査の実施成績. 東京都予防医学協会年報2008年度 2008；37：50-52.
- (4) 症例報告：
- 1) Asano T, Aki K, Okada T, Hatori T, Kuwabara K, Hamada H, Imai T, Fujino O：Usefulness of DNA analysis of tuberculosis by axillar suppurative lymphadenitis with rupture in a BCG-vaccinated infant. Pediatrics International 2007；49(3)：392-394.
- 2) Asano T, Sudoh M, Watanabe M, Fujino O：Transient thrombocytopenia with large platelets in Kawasaki disease. . Pediatric Hematology and Oncology 2007；24(7)：551-554.
- 3) Asano T, Hamada H, Takita Y, Watanabe M, Sugano H, Sudoh M, Yamanishi M, Kuwabara K, Imai T, Fujino O：Neurocutaneous melanosis with acute disseminated encephalomyelitis. European Journal of Pediatrics 2007；166(10)：1065-1066.
- 4) Yanagihara T¹⁾, Kuroda N¹⁾, Hayakawa M¹⁾, Yoshida J¹⁾, Tsuchiya M¹⁾, Yamauchi K²⁾, Murakami M¹⁾, Fukunaga Y¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, 2) Tokyo Health Service Association)：Epidemiology of school urinary screening over a 30year period in Tokyo. . Pediatrics International 2007；49(5)：570-576.
- 5) Asano T, Kuwabara K, Takagi A, Hatori T, Hamada H, Imai T, Fujino O：Acute pancreatitis complicating typhoid fever in a four-year old girl. . Pediatrics International 2007；49(6)：1004-1006.
- 6) Ueda T, Ito Y, Maeda M, Fukunaga Y：Massive periosteal reaction a presenting feature of acute megakaryocytic leukemia. Pediatrics international 2007；49：1015-1017.
- 7) Maeda M, Tsuda A, Yamanishi S, Uchikoba Y, Fukunaga Y, Okita H¹⁾, Hata J²⁾ (1) Development Biology, National Research Institute for Child Health and Development, 2) Pathology, National Research Institute for Child Health and Development)：Ewing Sarcoma/Primitive Neuroectodermal Tumor of the kidney in a Child. . Pediatr Blood Cancer 2008；50(1)：180-183.
- 8) Sugiura T¹⁾, Kawaguchi Y¹⁾, Fujikawa S²⁾, Hirano Y³⁾, Igarashi T⁴⁾, Kawamoto M¹⁾, Takagi K¹⁾, Hara M¹⁾, Kamatani N¹⁾ (1) 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター, 2) 藤川医院, 3) 東京女子医科大学小児科, 4) 日本医科大学小児科)：Familial Mediterranean fever in three Japanese patients, and a comparison of the frequency of MEFV gene mutations in Japanese and Mediterranean populations. . Modern Rheumatology 2008；18(1)：57-59.
- 9) 渡辺 誠, 前田美穂, 早川真理, 海津聖彦, 右田 真, 福永慶隆：ヒトパルボウイルスB19感染により一過性の骨髓異形成と血球貪食像を呈した遺伝性球状赤血球症の1例. 日本小児血液学会雑誌 2007；21(4)：176-184.

- 10) 田北裕子¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 岡田拓也¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 藤田武久¹⁾, 上岡克彦²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, (2) 国立成育医療センター泌尿器科): 反復する尿路感染症を契機に発見された後部尿道弁の1例. 小児科 2007; 48 (11): 1761-1765.
 - 11) 浅井牧子¹⁾, 田北裕子¹⁾, 岡田拓也¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (1) 武蔵小杉病院小児科): 当院における過去3年間の川崎病症例の検討. 川崎市医師会医学雑誌 2007; 24: 64-70.
 - 12) 今井文英¹⁾, 新藤史子¹⁾, 高瀬真人¹⁾, 飛田正俊¹⁾ (1) 多摩永山病院小児科): 口腔内カンジダ症を反復し, 慢性皮膚粘膜カンジダ症と診断した1例. 小児耳鼻咽喉科 2007; 28 (3): 230-234.
- (5) 診療メモ:
- 1) 白井潤二¹⁾ (1) 多摩永山病院小児科): 小児の急性喉頭蓋炎. 小児耳鼻咽喉科 2008; 29 (1): 62-64.
- (6) その他
- 1) 小川俊一: III-K. 循環器疾患/後天性心疾患「川崎病」. 講義録「小児科学」 2008; 509-510.
 - 2) 小川俊一: III-K. 循環器疾患/先天性心疾患「三尖弁閉鎖症」. 講義録「小児科学」 2008; 463-465.
 - 3) 小川俊一: III-K. 循環器疾患/先天性心疾患「Ebstein奇形, Uhl病」. 講義録「小児科学」 2008; 466-468.
 - 4) 小川俊一: III-K. 循環器疾患/先天性心疾患「房室中隔欠損症」. 講義録「小児科学」 2008; 474-476.

著書

- 1) 前田美穂: [分担] 小学生からの貧血予防. 体と心健康総合大百科. 小学校編 (少年写真新聞社), 2007; pp22-22, 少年写真新聞社.
- 2) 前田美穂: [分担] 家族への対応. 新小児がんの診断と治療 (別所文雄, 杉本徹, 横森欣司), 2007; pp123-125, 診断と治療社.
- 3) 上砂光裕¹⁾ (1) 武蔵小杉病院小児科): [分担] 遺伝子解析の基礎. 臨床心臓発生学 (山岸敬幸, 白石公), 2007; pp52-57, メジカルビュー社.
- 4) 五十嵐徹, 伊藤保彦: [分担] 若年性特発性関節炎 (若年性関節リウマチ). 膠原病・リウマチ診療 改訂第2版—Evidence Based Medicineを活かす (東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 編集), 2007; pp197-204, メジカルビュー社.
- 5) 前田美穂: [分担] 鉄欠乏性貧血. 講義録 小児科学 (佐治勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直実, 竹村司), 2008; pp574-575, メジカルビュー.
- 6) 前田美穂: [分担] 再生不良性貧血・2次性貧血. 講義録 小児科学 (佐治勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直実, 竹村司), 2008; pp576-577, メジカルビュー.
- 7) 前田美穂: [翻訳] 心臓血管系. 小児がん経験者の長期フォローアップ 集学的アプローチ (日本小児白血病リンパ腫研究グループ長期フォローアップ委員会), 2008; pp127-150, 日本医学館.

学会発表

- (1) 特別講演:
- 1) 深澤隆治¹⁾ (1) 多摩永山病院小児科): 川崎病の病態と治療: 最新の知見から. 第1回多摩小児免疫薬理研究会, 2007. 9.
 - 2) 前田美穂: 小児白血病の晩期障害. 第75回日本医科大学医学会総会 (東京), 2007. 9.
 - 3) 小川俊一: 「川崎病における冠動脈障害発症機序とそれに対する治療戦略」. 第114回日本小児科学会静岡地方会 (静岡県三島市), 2007. 10.
- (2) 宿題講演:
- 1) 梅原 実¹⁾, 長谷川久弥²⁾, 川崎一輝³⁾, 井上壽茂⁴⁾, 高瀬真人 (1) 神奈川県立こども医療センター救急診療科,

- 2) 松戸市立病院新生児科, 3) 国立成育医療センター呼吸器科, 4) 住友病院小児科) : 特発性肺ヘモジデロシスの全国アンケート調査 (中間報告). 第40回日本小児呼吸器疾患学会, 2007. 11.
- 2) 高瀬真人, 日本小児呼吸器疾患学会肺機能検討委員会 : 日本人小児におけるスパイログラム基準値の作成 2年目. 第40回日本小児呼吸器疾患学会, 2007. 11.
- (3) シンポジウム :
- 1) 西澤善樹¹⁾ (武蔵小杉病院小児科) : 小児科医よりママ達へメッセージ (子どもと楽しく向きあうために). 2007年度川崎市民自主学級, 2007. 6.
 - 2) 高瀬真人 : 小児喉頭疾患 診断と治療のポイント 小児科でみられる喉頭喘鳴 (stridor) の鑑別診断と治療. 第2回日本小児耳鼻咽喉科学会, 2007. 6.
 - 3) 桑原健太郎 : プロバイオティックスを用いたヘリコバクター・ピロリ感染コントロールの試み—LG21 (*Lactobacillus gasseri*-LG21) を用いた Chiangmai Study 2006 の報告—[分野別シンポジウム NO. 3 : 小児におけるヘリコバクター・ピロリのトピックスと治療]. 第111回日本小児科学会学術集会, 2008. 4.
- (4) セミナー :
- 1) 前田美穂 : 小児がん経験者のQOL. 第54回日本小児保健学会 (前橋), 2007. 9.
- (5) 一般講演 :
- 1) Katsube Y¹⁾, Suzuki N¹⁾, Watanabe M¹⁾, Abe M¹⁾, Hajikano M¹⁾, Kamisago M¹⁾, Fukazawa R¹⁾, Ogawa S¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Endothelin-1 inhibits both L-type Ca²⁺ current and ATP-sensitive K⁺ current in neonatal rat ventricular myocytes. . Fetal and Neonatal Physiological Society (Sendai), 2007. 8.
 - 2) Nakatani T¹⁾, Morimoto A¹⁾, Shioda Y²⁾, Yasui M³⁾, Haegawa D³⁾, Hyakuna N⁴⁾, Watanabe N³⁾, Kawakami K³⁾, Ishii E⁵⁾, Okimoto Y⁶⁾, Kudo K⁷⁾, Asami K⁸⁾, Kohdera U⁹⁾, Kinugawa N³⁾, Maeda M, et al. (1) 京都府立医科大学, 2) 国立成育医療センター, 3) 日本LCH研究グループ, 4) 沖縄県立小児医療センター, 5) 長野こども病院, 6) 千葉こども病院, 7) 新潟がんセンター, 8) 中野こども病院) : Reappraisal of Classical Biological Marker at the Diagnosis of Langerhans Cell Histiocytosis. 23th Histiocyte Society Annual Meeting (England), 2007. 9.
 - 3) Ogawa S, Katsube Y, Fukazawa R, Kamisago M, Ikegami E, Watanabe M, Hajikano M, Abe M, Suzuki N, Watanabe M, Maeda M : High dose dobutamine stress left ventricular reserved myocardial performance after Anthracyclines therapy in childhood cancer survivors. European Society of Cardiology Congress 2007 (Vienna), 2007. 9.
 - 4) Ogawa S, Fukazawa R, Kamisago M, Ikegami E, Watanabe M, Hajikano M, Abe M, Watanabe M, Katsube Y : Long-term reduced coronary micro-circulation improves after coronary intervention in children with Kawasaki disease. European Society of Cardiology Congress (Vienna), 2007. 9.
 - 5) Asai M¹⁾, Hajikano M¹⁾, Kamisago M¹⁾, Katsube Y¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Effects of gamma-globulin therapy on cardiac function in Kawasaki disease : evaluation by speckle-tracking and color tissue Doppler echocardiography. The 3rd Congress of Asian Society for Pediatric Research (Tokyo), 2007. 10.
 - 6) Katsube Y¹⁾, Suzuki N¹⁾, Watanabe M¹⁾, Abe M¹⁾, Hajikano M¹⁾, Kamisago M¹⁾, Fukazawa R¹⁾, Ogawa S¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Endothelin-1 inhibits both L-type Ca²⁺ current and ATP-sensitive K⁺ current in neonatal rat ventricular myocytes. The 3rd Congress of Asian Society for Pediatric Research (Tokyo), 2007. 10.
 - 7) Fujita A, Migita M, Ueda T, Fukunaga Y, Shimada T¹⁾ (1) Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Hematopoiesis in regenerated bone marrow on the hydroxyapatite scaffold. 3rd Congress

- of Asian Society for Pediatric Research (Tokyo, Japan), 2007. 10.
- 8) Fujita A, Migita M, Ueda T, Fukunaga Y, Shimada T¹⁾ (1) Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Hematopoiesis in Regenerated Bone Marrow on the Hydroxyapatite Scaffold. The 2007 Annual Meeting of the American Society of Hematology (Atlanta, USA), 2007. 12.
 - 9) Ogawa T¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Airway Resistance Using Interrupter Technique (Rint) . Reference Date in Healthy Pre-School Japanese Children. . 8th international congress on pulmonology (Nice, France), 2008. 3.
 - 10) 小泉慎也, 芦田光隆, 藤野 修 : エレントリーアレルギーのため, 栄養管理法に苦慮する重症心身障害児の1例. 第33回日本重症心身障害学会,
 - 11) Fukazawa R¹⁾, Abe M¹⁾, Sonobe T²⁾, Hamaoka K³⁾, Hamamoto K⁴⁾, Hajikano M¹⁾, Kamisago M¹⁾, Katsube Y¹⁾, Ogawa S¹⁾ (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, 2) Department of Pediatrics, Japan Red Cross Medical Center, 3) Department of Pediatrics, Children's Research Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine, 4) Department of Rehabilitation, International University of Health and Welfare) : How TNF alpha receptor polymorphisms affect the state of Kawasaki Disease?. 日本循環器学会, 2008. 3.
 - 12) 桑原健太郎, 古賀泰裕¹⁾, Boonyaritchaikij S²⁾ (1) 東海大学医学部感染症学教室, 2) チェンマイ大学医学部家庭医学科) : LG21 (Lactobacillus gasseri-LG21) による H. pylori (HP) 感染コントロールの試み—Chiang-mai Study 2006—. 第12回日本小児ヘリコバクター研究会, 2008. 3.
 - 13) 初鹿野見春¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (1) 武蔵小杉病院小児科) : 滑脳症の1例. 第285回川崎市小児科医会症例検討会, 2007. 4.
 - 14) 藤松真理子¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (1) 武蔵小杉病院小児科) : エルシニア感染を伴う腸重積症の1例. 第285回川崎市小児科医会症例検討会, 2007. 4.
 - 15) 藤田武久¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (1) 武蔵小杉病院小児科) : 左右対称性の被殻・深部白質を主病変とする急性脳症の1例. 第285回川崎市小児科医会症例検討会, 2007. 4.
 - 16) 長谷川久弥¹⁾, 川崎一輝²⁾, 井上壽茂³⁾, 梅原 実⁴⁾, 高瀬真人 (1) 松戸市立病院新生児科, 2) 国立成育医療センター呼吸器科, 3) 住友病院小児科, 4) 神奈川県立こども医療センター) : 先天性中枢性肺胞低換気症候群 (オンディーヌの呪い) の全国アンケート調査. 第110回日本小児科学会学術集会, 2007. 4.
 - 17) 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾, 藤川 敏²⁾ (1) 日本医科大学小児科) : 再発性ぶどう膜炎を合併したシェーグレン症候群の1例. 第51回日本リウマチ学会総会・学術集会 (横浜), 2007. 4.
 - 18) 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 安藝 薫¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (1) 日本医科大学小児科) : 当院腎臓外来通院中の患児における血清シスタチンC値測定. 第110回日本小児科学会総会・学術集会 (京都), 2007. 4.
 - 19) 山西未穂, 桑原健太郎, 右田 真, 前田美穂, 藤野 修, 福永慶隆 : 腰椎穿刺後に低髄圧症候群を発症した小児白血病経験者の1例. 第110回日本小児科学会 (京都), 2007. 4.
 - 20) 浅井牧子¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (1) 武蔵小杉病院小児科) : 一過性脳梁膨大部病変を認めたインフルエンザ感染症の2例. 第287回日本小児科学会神奈川県地方会, 2007. 6.
 - 21) 五十嵐徹, 黒田奈緒, 小林史子, 安藝 薫, 伊藤保彦, 福永慶隆, 清水 章¹⁾, 杉崎祐一¹⁾ (1) 日本医科大学病理学 (解析人体病理学)) : IgA腎症発症時に血管性紫斑病に罹患した一男児例. 第42回日本小児腎臓病学会 (横浜), 2007. 6.
 - 22) 今井丈英, 新藤史子, 高瀬真人, 飛田正俊, 頼 徳成¹⁾ (1) 橋本耳鼻咽喉科) : 口腔内カンジダ症を反復し, 慢

- 性皮膚粘膜カンジダ症と診断した1例. 第2回日本小児耳鼻咽喉科学会, 2007. 6.
- 23) 初鹿野見春, 勝部康弘, 鈴木伸子, 渡邊 誠, 阿部正徳, 池上 英, 渡邊美紀, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: 健常小児心機能のspeckle tracking法を含めた心エコーによる評価. 第43回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2007. 7.
- 24) 勝部康弘, 初鹿野見春, 鈴木伸子, 渡邊 誠, 阿部正徳, 池上 英, 渡邊美紀, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: エンドセリン-1の新生仔心室筋細胞ならびに末梢肺動脈血管平滑筋細胞に対する効果. 第43回日本小児循環器学会総会・学術集会, 2007. 7.
- 25) 藤田武久^{1,2)}, 藤野 修¹⁾, 伊藤 正²⁾ (¹⁾小児科学, ²⁾水方 苑): 抗てんかん薬服用開始20年後に重症心身障害者にみられた薬剤性Fanconi症候群の1例. 第49回日本小児神経学会総会, 2007. 7.
- 26) 藤松真理子¹⁾, 藤田武久¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院小児科): 免疫グロブリン療法による無菌性髄膜炎を認めた末梢神経炎の1例. 第49回日本小児神経学会総会, 2007. 7.
- 27) 石川浩子¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 藤田武久¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院小児科): 発作性ジストニア性舞蹈アテトーゼ (PDC) とと思われる1例. 第40回神奈川小児神経懇話会, 2007. 7.
- 28) 中島瑞恵¹⁾, 植田高弘²⁾, 島 義雄¹⁾, 熊坂 栄¹⁾, 水書教雄¹⁾, 大友友紀, 右田 真 (¹⁾葛飾赤十字産院小児科): 早産由来臍帯血造血幹細胞の機能解析. 日本周産期・新生児医学会, 2007. 7.
- 29) 柳原 剛¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院小児科): In vitro で作成したヒンジ部ガタクトース欠損IgAを含む免疫複合体とその培養メサングイウム細胞増殖活性. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 30) 渡辺敬志¹⁾, 森本 進¹⁾, 浅井逸子¹⁾, 津金香代子¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院中央検査室): マイコプラズマIgM抗体検査法によるマイコプラズマ感染症診断の注意点解析. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 31) 隠岐和美¹⁾, 西島美輝子¹⁾, 越谷美由紀¹⁾, 井出尚子¹⁾, 荒井誠一¹⁾, 荒木久美¹⁾, 浅井逸子¹⁾, 高久貴子¹⁾, 井上雅則¹⁾, 森本 進¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院中央検査室): ABI陽性患者の経胸壁心臓超音波検査の有用性. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 32) 成定昌昭¹⁾, 加藤理絵¹⁾, 白井一城¹⁾, 山賀節子¹⁾, 中島由美子¹⁾, 菅原 通¹⁾, 森本 進¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院中央検査室): 小型便潜血分析装置QUICK RUN の性能評価. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 33) 五十嵐徹¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (¹⁾日本医科大学小児科): 不随意運動を呈した抗リン脂質抗体症候群の兄妹例. 第17回日本小児リウマチ学会総会・学術集会 (横浜), 2007. 9.
- 34) 柳原 剛¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院小児科): LDL-アフェレーシス療法が奏功した難治性ネフローゼ症候群の1例. 第290回川崎市小児科医会症例検討会, 2007. 10.
- 35) 矢代健太郎¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院小児科): ダウン症候群に合併した一過性骨髄増殖症 (TAM) の1例. 第290回川崎市小児科医会症例検討会, 2007. 10.
- 36) 初鹿野見春¹⁾, 矢代健太郎¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 柳原 剛¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾ (¹⁾武蔵小杉病院小児科): 単径リンパ節炎を契機に発見されたKostmann型先天性好中球減少症の1例. 第290回川崎市小児科医会症例検討会, 2007. 10.
- 37) 宮武千晴, 海津聖彦, 前田美穂, 福永慶隆, 宮川知士¹⁾ (¹⁾清瀬小児病院): QuantiFERONが診断に有用であった頸部リンパ節結核の1例. 日本小児科学会 東京都地方部会, 2007. 10.
- 38) 石田也寸志¹⁾, 本郷輝明²⁾, 前田美穂, 石本浩市³⁾, 松下竹次⁴⁾, 樋口明子⁵⁾ (¹⁾愛媛大学, ²⁾浜松医科大学, ³⁾順天堂大学, ⁴⁾国立国際医療センター, ⁵⁾がんと子供を守る会): 「小児がん長期フォローアップガイドラインの作成」に向けて. 第23回小児がん学会 (仙台), 2007. 10.

- 39) 安藝 薫, 桑原健太郎, 前田美穂, 福永慶隆, 惣宇利正善¹⁾, 一瀬白帝¹⁾ (1) 山形大学): 遷延する血液凝固第 XIII 因子活性低下を認めた反復性脳内出血の 1 男子例. 第 30 回日本血栓止血学会 (三重県), 2007. 10.
- 40) 今井丈英¹⁾, 高瀬真人¹⁾, 飛田正俊¹⁾ (1) 多摩永山病院小児科): 咽頭外傷と縦隔気腫. 第 40 回日本小児呼吸器疾患学会, 2007. 11.
- 41) 白井潤二¹⁾, 西川晃司²⁾, 高瀬真人¹⁾, 飛田正俊¹⁾ (1) 多摩永山病院小児科, ²⁾ 多摩永山病院麻酔科): 急性喉頭蓋炎の 1 乳児例. 第 40 回日本小児呼吸器疾患学会, 2007. 11.
- 42) 清水希和子¹⁾, 白井潤二¹⁾, 今井丈英¹⁾, 高瀬真人¹⁾, 飛田正俊¹⁾ (1) 多摩永山病院小児科): 呼吸管理を要した乳児期早期百日咳脳症の 1 例. 第 40 回日本小児呼吸器疾患学会, 2007. 11.
- 43) 植田高弘, 山西未穂, 前田美穂, 福永慶隆, 原野恵子¹⁾ (1) 川崎医療福祉大学臨床栄養学科): 上気道炎を契機に発見された α サラセミア HbH 病の 1 例. 第 49 回日本小児血液学会, 2007. 12.
- 44) 中島瑞恵^{1,2)}, 植田高弘²⁾, 島 義雄¹⁾, 右田 真²⁾, 島田 隆³⁾, 福永慶隆²⁾ (1) 葛飾赤十字産院小児科, ²⁾ 日本医科大学小児科, ³⁾ 日本医科大学学生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)): 在胎週数による臍帯血造血幹/前駆細胞の相違の検討. 第 49 回日本小児血液学会, 2007. 12.
- 45) 矢部普正¹⁾, 小島勢二²⁾, 菊地 陽³⁾, 多賀 崇⁴⁾, 伊藤悦朗⁵⁾, 河野嘉文⁶⁾, 小林良二⁷⁾, 杉田完爾⁸⁾, 西村真一郎⁹⁾, 前田美穂, 小原 明¹⁰⁾ (1) 東海大学, ²⁾ 名古屋大学, ³⁾ 埼玉小児医療センター, ⁴⁾ 滋賀大学, ⁵⁾ 弘前大学, ⁶⁾ 鹿児島大学, ⁷⁾ 北海道大学, ⁸⁾ 山梨大学, ⁹⁾ 広島大学, ¹⁰⁾ 東邦大学): 小児再生不良性貧血の移植前処置. 第 49 回日本小児血液学会 (仙台), 2007. 12.
- 46) 高橋浩之¹⁾, 小原 明²⁾, 斉藤正博³⁾, 福島 敬⁴⁾, 梶原道子⁵⁾, 小島靖子²⁾, 菊地 陽⁶⁾, 小川千登勢⁷⁾, 前田美穂, 塩原正明⁸⁾, 康 勝好⁹⁾, 真部 淳⁷⁾, 林 泰秀¹⁰⁾, 花田良二⁶⁾, 土田昌宏¹¹⁾ (1) 横浜市立大学, ²⁾ 東邦大学, ³⁾ 順天堂大学, ⁴⁾ 筑波大学, ⁵⁾ 東京医科歯科大学, ⁶⁾ 埼玉小児医療センター, ⁷⁾ 聖路加国際病院, ⁸⁾ 信州大学, ⁹⁾ 東京大学, ¹⁰⁾ 群馬小児医療センター): 急性リンパ性白血病の染色体・遺伝子異常と予後: TCCSG の ALL L95-14・L99-15 研究. 第 49 回日本小児血液学会 (仙台), 2007. 12.
- 47) 小泉慎也, 藤野 修, 芦田光隆, 高木篤史, 桑原健太郎, 羽鳥誉之, 藤松真理子, 川上康彦, 高石康子, 岡田一芳: 急性脳症との鑑別が困難であった前頭葉てんかんと考えられた 1 例. 第 41 回日本てんかん学会総会, 2007.
- 48) 藤松真理子¹⁾, 藤田武久¹⁾ (1) 武蔵小杉病院小児科): 2 相性の経過を示したと考えられる ADEM の 1 女児例. 第 41 回神奈川小児神経懇話会, 2008. 1.
- 49) 牛腸義宏, 前田美穂, 植田高弘, 藤松真理子, 福永慶隆, 金兼弘和¹⁾ (1) 富山大学医学部小児科): 頭蓋内腫瘍性病変を伴った X 連鎖リンパ増殖性疾患の 1 例. 第 1 回日本免疫不全症研究会, 2008. 1.
- 50) 浅井牧子, 勝部康弘, 阿部正徳, 上砂光裕, 深澤隆治, 小川俊一: 川崎病における血管炎のバイオマーカー, ペントラキシン 3 (PTX3) の変動. 第 3 回神奈川県川崎病研究会, 2008. 2.
- 51) 重盛朋子¹⁾, 五十嵐徹¹⁾, 阿部正徳¹⁾, 三村成臣¹⁾, 伊藤保彦¹⁾, 福永慶隆¹⁾ (1) 日本医科大学小児科): 当科で最近経験したリウマチ熱の 3 症例. 第 4 回千葉小児膠原病懇話会 (千葉), 2008. 2.
- 52) 菊地 陽¹⁾, 小原 明²⁾, 真部 淳³⁾, 前田美穂, 梶原道子⁴⁾, 磯山恵一⁵⁾, 加藤陽子⁶⁾, 外松 学⁷⁾, 高橋浩之⁸⁾, 花田良二¹⁾, 土田昌宏⁹⁾ (1) 埼玉小児医療センター, ²⁾ 東邦大学, ³⁾ 聖路加国際病院, ⁴⁾ 東京医科歯科大学, ⁵⁾ 昭和大学, ⁶⁾ 東京慈恵会医科大学, ⁷⁾ 群馬大学, ⁸⁾ 横浜市立大学, ⁹⁾ 茨城こども病院): 東京小児がん研究グループ急性リンパ性白血病プロトコル L95-4 超高危険群 (HEX) の治療成績. 第 30 回造血細胞移植学会, 2008. 2.
- 53) 菅野華子, 三村成臣, 植田高弘, 前田美穂, 杉田 隆¹⁾ (1) 明治薬科大学): ALL 維持療法中に *Pichia anomala* による肺炎を発症し, 患児が通う中学校の理科室から洞筋が分離された 1 例. 第 78 回埼玉県小児血液同好会 (さいたま市), 2008. 3.

7. 放射線医学講座

[付属病院放射線科, 放射線治療科]

研究概要

(放射線診断) CT部門では非侵襲的3次元CTの分野での国内外の指導的立場にある。冠動脈CTによる血管狭窄、血管壁性状評価、3次元血管造影法、脳灌流画像、腫瘍病変の血行動態解析などの開発、研究を進めている。

MRI部門では3テスラMRI装置を用いた臨床研究が行われており、特に血液疾患や位相画像の基礎研究および高速撮像法に関する研究は高く評価されている。一般撮影部門ではデジタル撮影による乳房撮影の診断精度の研究が行われている。その他、造影剤に関する研究や画像ネットワークの研究も行われている。

(核医学) 3次元動態解析法を用いた虚血性心疾患の病態解析やモバイル型半導体検出器の研究など循環器核医学領域において国内外で高く評価されている。中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患に関する解析プログラムの開発が進んでいる。PETに関しては、医療検診センターに導入された最新のPET/CTを用いた腫瘍核医学と脳内リセプターの分子画像の研究や画像Fusionなどの画像処理に関する研究が行われている。

(血管造影: IVR) 血管性病変や悪性腫瘍に対する治療および救急疾患に対するIVR治療では国内外での評価は高く、肺動脈血栓塞栓症、深部静脈血栓症に対する血栓破砕吸引療法や動脈内ステント療法や腹部悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療などの基礎的、臨床研究が行われている。その他、CTガイド下生検やラジオ波治療、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー照射による静脈閉塞療法の研究も行われている。

(放射線治療) 頭頸部腫瘍、肺癌における化学療法併用療法はその良好な治療成績が目ざされている。また頭頸部腫瘍における治療計画や治療効果判定についての超音波検査の研究は高く評価されている。さらに、皮膚良性疾患に対する放射線治療や前立腺癌小線源療法の研究も進んでいる。

研究業績

論文

[追加分]

追加分研究報告書:

- 1) 高本真一¹⁾, 石丸 新²⁾, 上田裕一³⁾, 大北 裕⁴⁾, 萩野 均⁵⁾, 数井暉久⁶⁾, 加藤雅明⁷⁾, 栗林幸夫⁸⁾, 田林暁一⁹⁾, 中島 豊¹⁰⁾, 林 宏光, その他21名 (1) 東京大学心臓外科・呼吸器外科, 2) 戸田中央総合病院, 3) 名古屋大学胸部外科, 4) 神戸大学呼吸循環器外科, 5) 国立循環器病センター心臓血管外科, 6) 浜松医科大学第一外科, 7) 森之宮病院心臓血管外科, 8) 慶應義塾大学放射線診断科, 9) 東北大学心臓血管外科, 10) 福岡赤十字病院病理部): 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン (2006年改訂版). *Circulation journal* 2006; 70: 1569-1646.

(1) 原著:

- 1) Murata S, Tajima H, Abe Y: Changes in pelvic and systemic platinum concentrations during negative-balance isolated pelvic perfusion: correlation between platinum concentration and method of administration in a pig model. *J Cancer Res Clin Oncol* 2007; 133: 417-422.
- 2) Nakazato K, Kim C, Terajima K, Murata S, Fujitani H, Nakanishi K, Tajima H, Kumazaki T, Sakamoto A: Large volume loading to prevent cisplatin-induced nephrotoxicity during negative-balance isolated pelvic perfusion. *J Cancer Res Clin Oncol* 2007; 133: 741-747.
- 3) Murata S, Tajima H, Abe Y, Watari J, Uchiyama F, Niggemann P, Kumazaki T: Successful emboliza-

- tion of the left gastric artery aneurysm obtained in preoperative diagnosis : a report of 2 cases. *Hepatogastroenterology* 2007 ; 54 : 1895-1897.
- 4) Murata S, Tajima H, Onozawa S, Fukunaga A, Nakazawa K : Oily chemoembolization combined with degradable starch microspheres for HCC with cirrhosis. *Hepatogastroenterology* 2007.
 - 5) Murata S, Tajima H, Abe Y, Onozawa S, Uchiyama F, Hayashi H, Kimata R, Nomura K : Changes in pelvic and systemic platinum concentrations during negative-balance isolated pelvic perfusion : correlation between platinum concentration and method of administration in a pig model . *J Cancer Res Clin Oncol* 2007 ; 133 : 417-422.
 - 6) Nakajima K, Kumita S, Ishida Y, Momose M, Hashimoto J, Morita K, Taki J, Yamashina S, Maruno H, Ogawa M, Kubota M, Takahashi M, Odagawa T, Yokozuka K : Creation and characterization of Japanese standards for myocardial perfusion SPECT : database from the Japanese Society of Nuclear Medicine Working Group. (Japanese Society of Nuclear Medicine Working Group) . *Ann Nucl Med* 2007 ; 21 : 505-511.
 - 7) Amano Y, Aoki R, Kumita S, Kumazaki T : Silicone-selective multishot echo-planar imaging for rapid MRI survey of breast implants. *Euro Radiol* 2007 ; 17 : 1875-1878.
 - 8) Amano Y, Takayama M, Kumita S, Kumazaki T : MR imaging evaluation of regional, remote, and global effects of percutaneous transluminal septal myocardial ablation in hypertrophic obstructive cardiomyopathy. *J Comput Assist Tomogr* 2007 ; 31 : 600-604.
 - 9) Tajima H, Murata S, Tajima H, Murata S, Kawamata H, Ichikawa K : Application of a Stent-Graft After Initial Occlusion with Interlocking Detachable Coils for Treatment of Penetrating Atherosclerotic Ulcer of the Aorta. [Epub ahead of print]. *Cardiovasc Intervent Radiol* 2008 ; 23.
 - 10) Amano Y, Takahama K, Kumita S : Non-contrast-enhanced MR angiography of the thoracic aorta using cardiac and navigator-gated magnetization-prepared three-dimensional steady-state free precession. *J Magn Reson Imaging* 2008 ; 27 (3) : 504-9.
 - 11) Amano Y, Suzuki Y, Van Cauwenhove M : Evaluation of global cardiac functional parameters using single-breath-hold three-dimensional cine steady-state free precession MR imaging with two types of speed-up techniques : comparison with two-dimensional cine imaging. *Comput Med Imaging Graph* 2008 ; 32 : 61-6.
 - 12) Amano Y, Suzuki Y, Van Cauwenhove M : Evaluation of global cardiac functional parameters using single-breath-hold three-dimensional cine steady-state free precession MR imaging with two types of speed-up techniques : comparison with two-dimensional cine imaging. *Comput Med Imaging Graph* 2008 ; 32 : 61-6.
 - 13) 中村有希¹⁾, 四倉寛子¹⁾, 加藤雅彦¹⁾, 中田 淳²⁾, 田中啓二²⁾, 林 宏光 (¹⁾ 日本医科大学6年生, ²⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室) : 多発性嚢胞腎に合併した大動脈解離の3例. *日医大医学会誌* 2007 ; 3 (1) : 25-29.
 - 14) 篠塚恵理子¹⁾, 西野幸恵¹⁾, 大澤克成¹⁾, 田村浩一^{2, 4)}, 功刀しのぶ²⁾, 別所竜蔵³⁾, 林 宏光, 福田 悠²⁾ (¹⁾ 日本医科大学学生, ²⁾ 日本医科大学大学院医学研究科解析人体病理学, ³⁾ 日本医科大学大学院医学研究科機能制御再生外科学, ⁴⁾ 東京通信病院病理科) : 多発する penetrating atherosclerotic ulcer に起因する腹部大動脈瘤と胸部下広大動脈解離を認めた1例. *日医大医学会誌* 2007 ; 3 (4) : 187-192.
 - 15) Komada Y, Murata S, Tajima H, Kumita S, Kanazawa H, Tajiri T : Hemodynamic change in the liver under balloon occlusion of a portal vein branch : Evaluation with single level dynamic computed tomography during hepatic arteriography. *Clinical Radiology* 2007 ; 62 : 579-586.
 - 16) 汲田伸一郎, 林 宏光, 天野康雄, 福嶋善光, 清野精彦 : 心不全を画像 (RI, MRI, CT) により診断・評価する . *メディカルプラクティス* 2007 ; 24 : 847-853.

(2) 総説：

- 1) 高木 亮：神経系のCTスキャンは最近どのような進歩がありますか．小児内科 39：99-102.
- 2) 町田 幹：マルチスライスCTによる腹部救急疾患の画像診断．4，骨盤損傷/骨折 2007；158.
- 3) 天野康雄：高磁場1.5テスラMRI装置を用いた脂肪抑制画像の有効性．だより（練馬区医師会誌） 2007；477：22-25.
- 4) 田島廣之，村田 智，村上隆介：外科医が知っておくべきIVRのすべて．心血管領域におけるIVRの適応．深部静脈血栓症に対するIVR．外科治療 2007；97：68-73.
- 5) 田島廣之，村田 智，中澤 賢：肺血栓塞栓症に対する治療の新展開．カテーテル治療と下大静脈フィルター．Medical Science Digest 2007；33：975-978.
- 6) 村田 智，田島廣之，小野澤志郎，阿部 豊，金 徹，野村和弘：体外循環動注化学療法．Radiology Frontier 2007；10：89-94.
- 7) 田島廣之，村田 智，中沢 賢，福永 毅，小野澤志郎，佐藤英尊，山本 剛，田中啓治：血栓溶解療法：肺動脈．Radiology Frontier 2007；10：107-111.
- 8) 桐山智成，林 宏光，田島廣之，汲田伸一郎：Multidetector-row CTを用いた急性肺血栓塞栓症の画像診断．Angiology Frontier 2007；6：24-28.
- 9) 桐山智成，林 宏光，田島廣之，汲田伸一郎：血栓性病変の画像診断．肺血栓塞栓症の画像診断．血栓と循環 2007；15：255-260.
- 10) 中沢 賢，田島廣之，村田 智，福永 毅，小野澤志郎，佐藤英尊：イメージガイド下生検．CTガイド下経皮的肺生検の実際．適応・手技・合併症．臨床画像 2007；23：698-705.
- 11) 田島廣之，村田 智，中沢 賢，福永 毅，小野澤志郎，佐藤英尊，山本 剛，田中啓治：静脈血栓塞栓症のIVR．急性肺血栓塞栓症．日本インターベンショナルラジオロジー学会雑誌 2007；22：244-249.
- 12) 古川一博，町田 幹，田島廣之，汲田伸一郎：フリーソフトウェアのDICOMビューアを核として構成したレポーティングシステム．映像情報Medical 2007；39：1236-1239.
- 13) 鳴海義文¹⁾，早川克己²⁾，林 宏光，桑鶴良平³⁾ (1) ハイメディッククリニックウエスト，²⁾ 京都市立病院放射線科，³⁾ 東京女子医科大学放射線科)：造影剤の適正使用推進ガイド：高齢者・小児・妊婦・授乳婦に投与する際の留意点．臨床画像 2007；23：1452-1457.
- 14) 桐山智成，林 宏光，田島廣之，汲田伸一郎：肺血栓塞栓症の画像診断．血栓と循環 2007；15：255-260.
- 15) 桑鶴良平¹⁾，早川克己²⁾，鳴海義文³⁾，林 宏光 (1) 東京女子医科大学放射線科，²⁾ 京都市立病院放射線科，³⁾ ハイメディッククリニックウエスト)：造影剤の適正使用推進ガイド：造影剤が臓器に及ぼす影響 (3) 肝臓．臨床画像 2007；23：1068-1072.
- 16) 高木 亮，吉原尚志，水村 直，林 宏光，汲田伸一郎：脳血管障害におけるPerfusion CT．分子脳血管病 2007；6：317-322.
- 17) 林 宏光，鳴海義文¹⁾，早川克己²⁾，桑鶴良平³⁾ (1) ハイメディッククリニックウエスト，²⁾ 京都市立病院放射線科，³⁾ 東京女子医科大学放射線科)：造影剤の適正使用推進ガイド：造影剤が臓器に及ぼす影響 (2) 心臓．臨床画像 2007；23：820-825.
- 18) 桐山智成，林 宏光，田島廣之，汲田伸一郎：Multidetector-row CTを用いた急性肺血栓塞栓症の画像診断．Angiology Frontier 2007；6：136-140.
- 19) 汲田伸一郎，林 宏光，天野康雄，福島善光，清野精彦¹⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院内科)：心不全を画像(RI, MRI, CT)により診断・評価する．Medical Practice 2007；24：847-853.
- 20) 鳴海義文¹⁾，早川克己²⁾，林 宏光，桑鶴良平³⁾ (1) ハイメディッククリニックウエスト，²⁾ 京都市立病院放射線科，³⁾ 東京女子医科大学放射線科)：造影剤の適正使用推進ガイド：造影剤が臓器に及ぼす影響 (1) 腎臓．臨床画像 2007；23：600-610.

- 21) 林 宏光：マルチスライスCTによる冠動脈のCT血管造影．江東区医師会雑誌 2007；18：19-20.
 - 22) 林 宏光：第6章：外科・内科・放射線科の連携：放射線科から内科・外科へ．Vascular Lab 2007；4：282-287.
 - 23) 早川克己¹⁾，鳴海義文²⁾，林 宏光，桑鶴良平³⁾（¹⁾京都市立病院放射線科，²⁾大阪府成人病センター放射線科，³⁾東京女子医科大学放射線科）：造影剤の適正使用推進ガイド：造影剤添付文書の『原則禁忌』について考える．臨床画像 2007；23：358-365.
 - 24) 林 宏光，汲田伸一郎：臨床放射線医学：診断面．医事新報 2007；4319：38-46.
 - 25) 早川克己¹⁾，鳴海義文²⁾，林 宏光，桑鶴良平³⁾（¹⁾京都市立病院放射線科，²⁾大阪府成人病センター放射線科，³⁾東京女子医科大学放射線科）：造影剤の適正使用推進ガイド：造影剤添付文書の『禁忌』について考える．臨床画像 2007；23：96-102.
 - 26) 汲田伸一郎：冠動脈疾患の非侵襲的診断はCT/MRIか心筋シンチか？．Therapeutic research 2007；28：557-567.
 - 27) 福嶋善光，鳥羽正浩，石原圭一，汲田伸一郎：陳旧性心筋梗塞における心筋 viability 診断．日本医科大学医学会雑誌 2007；3（2）：59-61.
 - 28) 村上隆介，田尻 孝，古川清憲：画像診断-CT, MRI, PET-CT 乳癌診断におけるMD-CTの有用性．日本臨床 2007；65（6.増刊号）：344-347.
 - 29) 村上隆介，田島廣之：特殊病態における急性腎不全．d. 造影剤使用時の注意．腎疾患・透析．最新の治療 2008-2010 2007；307-309.
 - 30) 高木 亮，吉原尚志，水村 直，林 宏光，汲田伸一郎：脳血管障害におけるPerfusion CT．分子脳血管病 2007；6（3）：317-322.
 - 31) 田島廣之：救急胸部画像診断：症状からのアプローチ—序説．臨床画像 2008；24（5）.
 - 32) 吉原尚志，館野展之，桐山智成，村田 智，林 宏光，田島廣之：救急胸部画像診断：症状からのアプローチ—胸痛．臨床画像 2008；24：28-40.
 - 33) 吉原尚志，町田 幹，田島廣之：骨盤外傷. 外傷の画像診断手法と血管内治療．INNNEVISION 2008；23：31-35.
 - 34) 田島廣之：薬剤性肺炎の画像診断. 序説．臨床画像 2008；24（2）：215.
- (3) 症例報告：
- 1) 桐山智成，高木 亮，田島廣之，館野展之，汲田伸一郎，久志本成樹，山本保博：鈍的外傷による上腸間膜静脈損傷の1例．臨床放射線 2007；52：1035-1039.
 - 1) 田島廣之：職業性肺疾患の画像診断-アスベスト関連呼吸器疾患を中心として-：序説．臨床画像 2007；23（5）.
 - 2) 田島廣之：下肢静脈瘤のIVR：序説．臨床画像 2007；23：215.
 - 3) 田島廣之，岡部哲夫：Progress in Radiology 2006報告．映像情報MEDICAL 2007；39：214-218.
 - 4) 山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，高野仁司，高山守正，高野照夫，田島廣之，中澤 賢：モンテプララーゼによる血栓溶解療法．Therapeutic Research 2007；28：1003-1004.
 - 5) 山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，高野仁司，高山守正，高野照夫，田島廣之，中澤 賢：広範性および亜広範性急性肺塞栓症に対する1次型下大静脈フィルターの有効性．Therapeutic Research 2007；28：1149-1151.
 - 6) 田島廣之：明日への提言. 静脈血栓塞栓症と放射線科専門医．映像情報Medical 2007；9：887.
 - 7) 山本 剛，神谷仁孝，村井綱児，吉川雅智，加藤浩司，平澤泰宏，岩崎雄樹，佐藤直樹，田中啓治，田島廣之，高山守正，高野照夫：急性肺塞栓症に対するカテーテルインターベンションの治療成績．ICUとCCU31 2007；951-954.

著書

- 1) 林 宏光, 早川克己¹⁾, 桑鶴良平²⁾, 中島康雄³⁾ (1) 京都市立病院放射線科, 2) 東京女子医科大学放射線医学教室, 3) 聖マリアンナ医科大学放射線医学教室): [監修] ちょっと役立つ造影検査に関する話題: Contrast media in practice (CT) (林 宏光, 早川克己, 桑鶴良平, 中島康雄), 2007; 日本放射線専門医会・医会, 日本シェーリング.
- 2) 高木 亮: [分担] 急性期脳梗塞画像診断ガイドライン実践ガイドライン2007. CT・MRI灌流画像 (ASIST-JAPAN実践ガイドライン策定委員会 編集), 2007.
- 3) 村上隆介, 田島廣之: [共著] 特殊病態における急性腎不全. 造影剤使用時の注意. 腎疾患・透析最新の治療. 2008-2010 (飯野靖彦, 榎野博史, 秋澤忠男, 編集), 2008; pp307-309, 南江堂.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 林 宏光: MDCTの光と影: 何がどこまでわかるようになったのか, 造影検査で注意すべきことは何か. 茨城県放射線技師会CT研究会, 2007. 2.
- 2) 林 宏光: 循環器MDCT研究会 心臓CTの現状アンケート報告. 第3回循環器MDCT研究会, 2007. 4.
- 3) 高木 亮: 脳血管障害のCT診断: 最新の知見. 高知CTP研究会, 2007. 5.
- 4) 林 宏光: 今求められる16chCTと次時代CT開発のコンセプト. 日立CT検討会, 2007. 6.
- 5) 林 宏光: Adamkiewicz動脈を識る, 診る・活かす. 第7回九州循環器画像研究会, 2007. 6.
- 6) 高木 亮: 脳梗塞の画像診断: CT灌流画像の役割. 第9回旗の台臨床神経カンファレンス, 2007. 7.
- 7) 林 宏光: マルチスライスCTによる最先端の画像診断: 切らずに診る人体 2007. 東京耳鼻科医会 学術講演会, 2007. 9.
- 8) 林 宏光: 3次元CTによる最先端の画像診断とものづくりによる新しい医用材料開発への期待. ものづくりフォーラム in 群馬, 2007. 9.
- 9) 汲田伸一郎: 心臓核医学の新しい展開. 第40回 福岡RIカンファレンス, 2007. 9.
- 10) 田島廣之: 静脈血栓塞栓症に対するIVR. 第14回兵庫県IVR懇話会 (神戸), 2007. 10.
- 11) 林 宏光: 切らずに診る人体 2007~マルチスライスCTによる循環器疾患の画像診断. 第40回墨東循環器談話会, 2007. 10.
- 12) 田島廣之: 静脈血栓塞栓症の診断と血管内治療-整形外科疾患を含めて. 第5回栃木県肺塞栓症研究会 (宇都宮), 2007. 11.
- 13) 林 宏光: 安全な造影検査を行うために必要なこと: 造影剤腎症を発症しないために. 茨城県臨床指導医学術講演会, 2007. 11.
- 14) 林 宏光: 循環器MDCT研究会 心臓CTの現状アンケート報告. 第4回循環器MDCT研究会, 2007. 11.
- 15) 汲田伸一郎: マルチモダリティ時代の心臓画像診断. 第38回FSフォーラム, 2007. 11.
- 16) 高木 亮: CT灌流画像の臨床応用の実際. 東京女子医大急性期脳梗塞治療勉強会, 2007. 11.
- 17) 田島廣之: 肺癌検診2次精検の実際と将来展望. 豊島区医師会胸部読影班研修会, 2008. 2.
- 18) 汲田伸一郎: 心臓核医学2008. 第8回 筑後・佐賀核医学研究会, 2008. 3.

(2) 教育講演:

- 1) 汲田伸一郎: SPECTによる心筋viability評価. 第66回日本医学放射線学会, 2007. 4.
- 2) 天野康雄: 循環器MRIにおけるGd造影balanced SSFPの試用. 第198回関東MRI症例検討会, 2007. 4.
- 3) 林 宏光: マルチスライスCTによる循環器疾患の低侵襲的診断: 大血管・末梢血管疾患を中心に. 第20回循環器シンポジウム in CHIBA, 2007. 5.
- 4) 林 宏光: ちょっと役立つ造影検査に関する話題: 安全な造影CT検査を行うために. Multi-detector row CT

学術講演会，2007. 9.

- 5) 林 宏光：マルチスライスCTによる冠動脈CTの現状と展望：切らずに診る人体 '07. 第1回日本医師会生涯教育講座，2007. 10.
- 6) 高木 亮：救急画像診断のピットフォール：意識障害の画像診断．研修医セミナー，2007. 11.
- 7) 汲田伸一郎，福嶋善光，桐山智成，林 宏光：心イベントを防ぐための心臓核医学とCTの連携．第33回ニュータウンカンファレンス，2008. 2.
- 8) 高木 亮：頭部CTの読み方．第31回日本脳神経CI学会 教育セミナー，2008. 2.
- 9) 天野康雄：非造影および造影胸部3D MRAの基礎技術．亀田病院第22回画像診断基礎と臨床講演会，2008. 3.

(3) シンポジウム：

- 1) Tajima H, Murata S, Nakazawa K, Fukunaga T, Onozawa S：Hybrid endovascular intervention for severe deep vein thrombosis. World congress of the international union of Phlebology (Kyoto), 2007.
- 2) 林 宏光 宏：冠動脈CTの現状と適応の拡大. 24th Live Demonstration in Kokura, 2007. 6.
- 3) 田島廣之：静脈血栓塞栓症の診断と血管内治療．第32回日本外科系連合学会学術集会，2007.
- 4) 田島廣之：静脈血栓塞栓症に対するハイブリッド治療の臨床成果．ハイテクリサーチセンターシンポジウム，2007.
- 5) 高木 亮，汲田伸一郎，寺本 明：髄膜腫の術前診断：CT perfusionを用いた質的診断の試み．第31回日本脳神経CI学会，2008. 2.

(4) セミナー：

- 1) 汲田伸一郎：心臓SPECT/CTによる新しいFusion imageの構築．第12回日本冠動脈外科学会，2007. 7.
- 2) 汲田伸一郎，福嶋善光，林 宏光：SPECTとMDCTを用いた新しい心臓 Fusion imageの有用性．第43回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2007. 10.
- 3) 汲田伸一郎，福嶋善光，趙 圭一，鳥羽正浩，桐山智成，山口英宣，林 宏光：SPECTと64列CTを用いた新しい心臓Fusion imageの構築と臨床応用．第47回日本核医学会総会，2007. 11.
- 4) 汲田伸一郎，林 宏光，水野杏一¹⁾，高野仁司¹⁾，田中啓治²⁾，佐藤直樹²⁾，小川俊一³⁾ (¹⁾ 第一内科，²⁾ 集中治療室，³⁾ 小児科)：最新の心臓画像：SPECTとMDCTを用いたFusionイメージの臨床応用．第72回日本循環器学会総会，2008. 3.

(5) 指名講演：

- 1) 汲田伸一郎，石原圭一：頭頸部領域におけるFDG-PETの有用性．耳鼻科学会地方会，2007. 9.

(6) 一般講演：

- 1) Amano Y, Takayama M, Kumita S：Cardiac MR imaging of apical left ventricular aneurysm and thinning associated with hypertrophic cardiomyopathy. 15th annual meeting of ISMRM (Berlin), 2007. 5.
- 2) Amano Y, Suzuki Y, Matsumura Y, Kumita S, Van Cauteren M, Kumazaki T：Single-breath-hold 3D cine cardiac MR imaging with two types of speed-up techniques：SENSE and k-t BLAST. 93rd annual meeting of RSNA (Chicago), 2007. 11.
- 3) 天野康雄：心大血管画像診断の最前線 遅延造影心臓MRIの画像診断的な意義と3Tを含む展開・課題 . 第38回 Radiology Update , 2008. 3.
- 4) 林 宏光，高木 亮，高濱克也，貝津俊英，館野展之，栗林茂彦，佐藤英尊，桐山智成，箱崎謙太，汲田伸一郎：Color mapと正常血管径推定曲線を用いた血管狭窄病変の診断支援法の開発と基礎・臨床評価 . 第66回日本医学放射線学会学術集会，2007. 4.
- 5) 天野康雄，高濱克也，松村善雄，汲田伸一郎：ナビゲーター・心電図同期併用の脂肪抑制3D balanced SSFPを用いた非造影胸部大動脈MRA. 第35回日本磁気共鳴医学会大会，2007. 9.
- 6) 高木 亮：脳神経領域におけるMD-CTの役割と展望．MD-CT講演会，2007. 9.

- 7) 山口英宣, 福嶋善光, 桐山智成, 趙 圭一, 鳥羽正浩, 水村 直, 汲田伸一郎: 負荷心筋SPECT/CTにおける融合画像精度に関する検討. 第47回日本核医学会学術総会(仙台), 2007. 10.
- 8) 桐山智成, 福嶋善光, 山口英宣, 趙 圭一, 鳥羽正浩, 箱崎謙太, 汲田伸一郎: CardIQ Fusion TMを用いた冠動脈CAT/心筋SPECT融合画像の初期臨床検討. 第47回日本核医学会学術総会(仙台), 2007. 10.
- 9) 椎葉真人, 趙 圭一, 水村 直, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 進士恵美, 汲田伸一郎: 大腸癌のFDG-PET検査における後期相の有用性. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 10.
- 10) 箱崎謙太, 趙 圭一, 水村 直, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 椎葉真人, 進士恵美, 汲田伸一郎: FDG-PETによる悪性リンパ腫の治療効果判定. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 10.
- 11) 進士恵美, 鳥羽正浩, 趙 圭一, 椎葉真人, 福嶋善光, 水村 直, 汲田伸一郎: 空腹時FDG心筋集積パターンと冠危険因子の検討. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 10.
- 12) 水村 直, 榎 利夫, 柳川豊彦, 浅野恭司, 須田国也, 吉田伸二郎, 石原圭一, 福嶋善光, 佐藤英尊, 進士恵美, 汲田伸一郎: 123I-IMP脳血流SPECTにおける非観血的な脳血管拡張能評価. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 10.
- 13) 増山桂一, 小林宏之, 村上隆介, 汲田伸一郎, 長島千恵子, 内山菜智子, 永井優一, 永田実緒⁽¹⁾ 国立がんセがん予防・検診研セ,²⁾ 国立がんセ 中央病院 放射線診断部): デジタルマンモグラフィにおける圧迫効果の検証. 日本乳癌検診学会, 2007. 11.
- 14) 小林宏之, 増山桂一, 村上隆介, 汲田伸一郎, 長島千恵子, 内山菜智子, 永井優一, 永田実緒⁽¹⁾ 国立がんセがん予防・検診研セ,²⁾ 国立がんセ 中央病院 放射線診断部): デジタル・マンモグラフィにおける拡大撮影時の撮影線量について. 日本乳癌検診学会, 2007. 11.
- 15) 角田晃一¹⁾, 加我君孝¹⁾, 村上隆介⁽¹⁾ 東京医療セ 臨床研究セ): 頸動脈走行異常の機序と脳梗塞の関係. 国立病院総合医学会, 2007. 11.
- 16) 村田 智, 田島廣之, 市川和雄, 福永 毅, 中澤 賢, 館野展之, 小野澤志郎, 汲田伸一郎, 田尻 孝, 山本保博: コイル塞栓術が無効な消化管出血によるショック症例に対するNBCAを用いた塞栓術の有用性. 第66回日本医学放射線学会, 2007.
- 17) 古川一博, 町田 幹, 田島廣之, 汲田伸一郎: OSIRIXとファイルメーカーProによるレポートイングシステム. 第66回日本医学放射線学会, 2007.
- 18) 福永 毅, 田島廣之, 中澤 賢, 小野澤志郎, 村田 智, 汲田伸一郎, 小泉 潔, 弦間昭彦, 幸田修典, 坂本篤裕: 肺腫瘍に対するラジオ波焼灼術: 初期成績と疼痛管理. 第66回日本医学放射線学会, 2007.
- 19) 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎, 市川和雄, 館野展之, 佐藤英尊, 村上隆介, 古川一博: 深部静脈血栓症に対する大腿静脈経由ハイブリッドIVR治療. 第66回日本医学放射線学会, 2007.
- 20) 中澤 賢, 田島廣之, 村田 智, 福永 毅, 小野澤志郎, 佐藤英尊, 山本 剛, 田中啓治: 急性肺血栓塞栓症のカテーテル治療. 手技中遠隔塞栓は生じるか?. 第27回日本静脈学会, 2007.
- 21) 古川一博, 町田 幹, 田島廣之, 汲田伸一郎: Macintoshによるレポートイングシステム. 第18回医用デジタル動画像研究会, 2007.
- 22) 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 福永 毅, 中澤 賢, 保坂純朗, 上田達夫, 榎村剛司, 伊藤直記: アランチウス管開存による門脈大循環短絡に対する塞栓術の1例. 第2回日本IVR学会関東地方会, 2007.
- 23) 上田達夫, 田島廣之, 村田 智, 市川和雄, 小野澤志郎, 福永 毅, 中澤 賢, 榎村剛司, 久志本成樹, 山本保博: 外傷性左鎖骨下動脈仮性瘤に対しステントグラフト治療をおこなった1例. 第2回日本IVR学会関東地方会, 2007.
- 24) 内山史生, 杉原史恵, 吉原尚志, 渡 潤, 村田 智, 田島廣之: 無輸血でNIPPを施行しえた骨盤内悪性腫瘍の2症例. 第2回日本IVR学会関東地方会, 2007.
- 25) 小野澤志郎, 村田 智, 田島廣之, 福永 毅, 中澤 賢, 汲田伸一郎, 山本保博: コイル塞栓術が無効な消化

管出血に対するN-butyl Cyanoacrylateを用いた塞栓術. 第13回日本血管内治療学会総会, 2007.

- 26) 山本英世, 高野仁司, 田島廣之, 高橋保裕, 田邊 潤, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一: 経皮的腎血管形成術の心機能に与える影響. 第13回日本血管内治療学会総会, 2007.
- 27) 上田達夫, 福永 毅, 田島廣之, 村田 智, 小野澤志郎, 中澤 賢, 村上隆介, 高木 亮, 汲田伸一郎: NBCAによる動脈塞栓術が有用であった血胸の1例. 第17回救急放射線研究会, 2007.
- 28) 中田 淳, 山本 剛, 吉田明日香, 村井綱見, 時田祐吉, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 川中秀和, 藤田進彦, 水野杏一, 田島廣之: B型急性大動脈解離に合併した分枝虚血に対し経皮的ステント留置を施行した4例. 第48回日本脈管学会総会, 2007.
- 29) 桐山智成, 林 宏光, 高木 亮, 村上隆介, 杉崎健一, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 田島廣之, 汲田伸一郎, 隈崎達夫: MDCTによる急性肺血栓塞栓症の診断: 血管造影との対比を中心に. 第48回日本脈管学会総会, 2007.
- 30) 福井めぐみ, 山本 剛, 中田 淳, 吉川雅智, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 川嶋修司, 高野仁司, 高山守正, 水野杏一, 中澤 賢, 田島廣之: 蛋白同化ステロイドが発症に関連した急性心筋梗塞と肺塞栓症の合併例. 第14回肺塞栓症研究会, 2007.
- 31) 中澤 賢, 田島廣之, 市川和雄: ステントグラフト留置4ヶ月後に血管破裂をきたした1例. 第4回EG Works, 2007.
- 32) 上田達夫, 福永 毅, 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 小野澤志郎, 村上隆介, 高木 亮, 林 宏光, 汲田伸一郎: NBCAによる動脈塞栓術が有用であった血胸の1例. 第17回東京血管外科画像診断治療研究会, 2008. 2.
- 33) 高木 亮, 町田 幹, 城 正樹, 岡崎恵美, 吉原尚志, 林 宏光, 汲田伸一郎, 寺本 明: CT perfusionとCT angiographyを用いた髄膜腫の術前診断. 第13回3次元CT・MRI研究会, 2008. 2.
- 34) 城 正樹, 田島廣之, 村田 智, 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎, 上田達夫, 嶺 貴彦, 久志本成樹, 山本保博⁽¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター): 術中に瘤破裂をきたしたが, 塞栓術を完遂しえた脾仮性動脈瘤の1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 35) 中田 淳, 山本 剛, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 安武正弘, 水野杏一, 田島廣之: Acute on chronic肺塞栓への血栓吸引後に生じた再灌流後肺水腫に対しNPPVとsivelestatが有効であった1例. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008.
- 36) 吉田明日香, 時田祐吉, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一, 佐藤格夫, 山本保博, 田島廣之: 循環不全を伴った左房を圧排する巨大嚢状胸部大動脈瘤に対し緊急ステントグラフト術を行い救命できた1例. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008.

(7) その他

- 1) 佐藤英尊, 趙 圭一, 水村 直, 清水康弘, 福嶋善光, 箱崎謙太, 椎葉真人, 進士恵美, 櫻井 実, 金谷浩司, 汲田伸一郎: LOR-RAMLAとfastRAMLA画像再構成法におけるPET集積の定量的比較. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 10.

(8) 一般ポスター:

- 1) 石原真木子, 趙 圭一, 水村 直, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 椎葉真人, 進士恵美, 汲田伸一郎: FDG-PETによる卵巣癌再発病変の評価. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 10.
- 2) 趙 圭一, 石原真木子, 水村 直, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 椎葉真人, 進士恵美, 汲田伸一郎: FDG-PETによる空腹時心筋糖代謝の検討. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 10.

[武蔵小杉病院放射線科]

研究概要

放射線診断学: 1. 呼吸器疾患に対し, 気管支鏡を用いたBAL, 肺生検を施行し, 画像診断の向上に力を注いでいる.

肺切除病理標本とCT画像の比較検討から、詳細な画像所見の分析を試みてる。

2. 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし、結核、癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている。肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している。

3. 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し、より効率の良い、より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である。

4. MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用、乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる。また、ステレオガイド下マンモトーム生検を行い、マンモグラフィ上、微小石灰化を伴う乳癌の診断にも力を注いでいる。

Interventional Radiology：1. 悪性肝臓腫瘍の治療として経皮的肝動脈塞栓術、経皮的肝動脈動注療法を集学的治療に取り組んでいる。

放射線治療学：1. 肺癌に対して、放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。

核医学：1. 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。

2. 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamamoto A¹⁾, Takahashi N²⁾, Munakata K²⁾, Hosoya T³⁾, Shiiba M, Okuyama T, Abe K¹⁾, Kaneshiro T, Turuta H, Takama T, Sato M (¹⁾ Department of Radiology Tama-nagayama Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, ³⁾ Fuji Film RI Pharm) : Global and Regional Evaluation of Systolic and Diastolic Left Ventricular Parameters using a Novel Program for ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT-Validation by Comparison With Gated Equilibrium Radionuclide Angiography and Speckle-Tracking Radial Strain from Echocardiography. *Annals of Nuclear Medicine* 2007 ; 21 (2) : 115-121.
- 2) Yamamoto A¹⁾, Takahashi N²⁾, Munakata K²⁾, Abe K¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Tamai J¹⁾, Shiiba M, Okuyama T, Kaneshiro T, Turuta H, Takama T, Satou M (¹⁾ Department of Radiology Tama-nagayama Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine Musashikosugi Hospital) : Relationships among Regional Diastolic Impairment, Elongation of Global Time to Peak Filling rate, and Global Diastolic Function using ECG-Gated Myocardial Perfusion SPECT in Heart Failure . *Annals of Nuclear Medicine* 2007 ; 21 (8) : 419-427.
- 3) 松島敏春¹⁾, 江口研二²⁾, 桑原正喜³⁾, 小倉高志⁴⁾, 佐藤雅史⁵⁾, 酒井文和⁶⁾, 松島秀和⁷⁾, 一色彩子, 小林洋一⁷⁾ (¹⁾ 倉敷第一病院呼吸器センター, ²⁾ 帝京大学医学部内科, ³⁾ 草津総合病院, ⁴⁾ 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科, ⁵⁾ 東邦大学医学部放射線科, ⁶⁾ 埼玉医科大学国際医療センター画像診断科, ⁷⁾ さいたま赤十字病院呼吸器内科) : 実践：確定診断から治療への道. *明解画像診断の手引き* 2008 ; 22 : 2-16.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 山本 彰¹⁾, 高橋直人²⁾, 椎葉真人, 奥山孝男, 阿部和也¹⁾, 金城忠志, 鶴田晴子, 高間都支, 佐藤雅史, 宗像一雄²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院内科) : 心電図同期SPECTによる心不全における拡張運動同期異常の検討. 第66回日本医学放射線学会学術集会, 2007. 4.
- 2) 山本 彰¹⁾, 高橋直人²⁾, 椎葉真人³⁾, 奥山孝男³⁾, 阿部和也²⁾, 金城忠志³⁾, 鶴田晴子³⁾, 高間都支³⁾, 佐藤雅史³⁾, 宗像一雄²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 武蔵小杉病院内科, ³⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 心電図同期心筋SPECTによる心不全における拡張能の検討. 第66回日本医学放射線学会学術集会, 2007. 4.
- 3) 奥山孝男, 佐藤雅史, 金城忠志, 清水康弘, 鶴田晴子, 高間都支, 市川太郎, 山本 彰¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放

射線科)：早期肺小細胞癌の画像所見における特徴．第43回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2007．10．

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

1. 非イオン性造影剤の腎機能におよぼす影響について検討を継続している．
2. コンピュータを活用した医用画像処理の研究を続けている．
3. CTにおける経静脈造影の至適タイミング，方法について研究を行っている．
4. 64列マルチスライスCTによる心疾患の診断について研究を行っている．
5. 心臓の壁運動について核医学を用いた研究を行っている．
6. 心筋の脂肪酸代謝と壁運動の関係について核医学を用いた研究を行っている．

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 山本 彰：心電図同期SPECTを用いた局所心機能解析．Rad Fan 2007；5 (12)：36-38.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Takahashi N¹⁾, Yamamoto A, Tetsuka S¹⁾, Hanaoka D¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Uchida T¹⁾, Munakata K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital)：The Relationship between Left Ventricular Systolic Dyssynchrony and Wall Stress in Patients with Hypertension and Preserved Ejection Fraction. . 8th International Conference of Nuclear Cardiology (Praha), 2007. 4.
- 2) Takahashi N¹⁾, Yamamoto A, Miwa Y¹⁾, Kojima M¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Uchida T¹⁾, Munakata K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital)：The Assessment of Diastolic Dyssynchrony by Tc99m-sestamibi-gated-SPECT using a Novel Program [^] cardio-GRAP[^] in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction. . 8th International Conference of Nuclear Cardiology (Praha), 2007. 4.
- 3) 山本 彰，高橋直人¹⁾，椎葉真人²⁾，奥山孝男³⁾，阿部和也，金城忠志³⁾，鶴田晴子³⁾，高間都支³⁾，佐藤雅史³⁾，宗像一雄¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院内科，²⁾ 付属病院放射線科，³⁾ 武蔵小杉病院放射線科)：心電図同期SPECTによる心不全における拡張運動同期異常の検討．第66回日本医学放射線学会，2007．4．
- 4) 山本 彰，高橋直人¹⁾，椎葉真人²⁾，奥山孝男³⁾，阿部和也，金城忠志³⁾，鶴田晴子³⁾，高間都支³⁾，佐藤雅史³⁾，宗像一雄¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院内科，²⁾ 付属病院放射線科，³⁾ 武蔵小杉病院放射線科)：心電図同期心筋SPECTによる心不全における拡張能の検討．第66回日本医学放射線学会，2007．4．

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

婦人科系の腫瘍について，女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて，画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っている．特に，卵巣の稀な腫瘍や子宮肉腫について，症例を重ねて検討している．

救命救急分野において，救命救急部とのカンファランスを毎週行い，臨床像と画像との対比検討を行っている．骨盤骨折による後腹膜血腫の症例について，後腹膜腔の解剖とあわせて検討している．

消化器疾患については、外科・内科・病理部と合同で、術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている。画像と癌の深達度、転移・浸潤所見などについて、手術所見・病理所見と画像所見との比較検討を行っている。

IVR領域においては、外傷症例、悪性腫瘍、ASO、深部静脈血栓症、透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い、良好な成績を得ている。大動脈ステントについても積極的に施行し、症例を積み重ねている。

MRI領域では、シークエンスについての基礎的検討などを行っている。

CT領域では、64列マルチスライスCTを用い、冠動脈CTAについて症例を重ねて検討している。

情報処理・PACS分野では、フィルムレス化についての検討を始めている。また、今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である。

研究業績

論文

(1) 総説：

1) 岡田 進：骨盤領域。日本医事新報 2008；4371：42-43.

(2) 症例報告：

1) 荻原弘光¹⁾、河野美貴子¹⁾、岩本美樹¹⁾、菊池美美¹⁾、印出佑介¹⁾、朝倉禎史¹⁾、五十嵐美和¹⁾、黒瀬桂輔¹⁾、渡辺美千明¹⁾、山口 暁¹⁾、鴨井青龍¹⁾、大秋美治²⁾、岡田 進⁽¹⁾ 千葉北総病院 女性診療科・産科、⁽²⁾ 千葉北総病院 病理部)：癒着胎盤を合併した分葉胎盤の1例：MTX化学療法による癒着胎盤の経時的変化。日本産科婦人科学会千葉地方部会誌 2008；1 (1)：37-41.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 加藤丈司¹⁾、阿部雅志¹⁾、仲田佳宏¹⁾、結城聖子¹⁾、渡辺典男¹⁾、川村義彦¹⁾、岡田 進⁽¹⁾ 千葉北総病院 放射線センター)：多発性硬化症におけるT1強調FLAIR法の有用性：脱髄斑の信号変化とコントラストについて。第63回日本放射線技術学会総会学術大会，2007. 4.
- 2) 川俣博志、桑子智之、中條秀信、木島鉄仁、岡田 進、別所竜蔵¹⁾ (1) 千葉北総病院 胸部外科)：容易ではなかった心臓ペースメーカーリード遺残に対する異物除去の1例。第7回末梢血管画像・血管内治療研究会，2007. 10.
- 3) 加藤丈司¹⁾、阿部雅志¹⁾、仲田佳宏¹⁾、結城聖子¹⁾、渡辺典男¹⁾、川村義彦¹⁾、岡田 進⁽¹⁾ 千葉北総病院 放射線センター)：2D thick slice MRAによる椎骨脳底動脈撮像・血流および血管外観描出。第35回日本放射線技術学会秋期学術大会，2007. 10.
- 4) 榎村剛司、岡田 進、桑子智之、中條秀信、木島鉄仁、川俣博志、鴨井青龍¹⁾、大秋美治²⁾、汲田伸一郎³⁾ (1) 千葉北総病院 女性診療科、⁽²⁾ 千葉北総病院 病理部、⁽³⁾ 付属病院 放射線科)：部位診断の困難であった、脂肪を含む巨大な腹部腫瘍の1例。第432回日本医学放射線学会関東地方会，2007. 12.
- 5) 阿部雅志¹⁾、加藤丈司¹⁾、渡辺英樹¹⁾、理崎貴博¹⁾、三輪宗史¹⁾、川村義彦¹⁾、岡田 進⁽¹⁾ 千葉北総病院放射線センター)：MRDSAを用いた脳動脈瘤塞栓術後の経過観察法の検討。第36回千葉MR研究会，2008. 2.
- 6) 加藤丈司¹⁾、阿部雅志¹⁾、仲田佳宏¹⁾、結城聖子¹⁾、渡辺典男¹⁾、川村義彦¹⁾、桑子智之、中條秀信、木島鉄仁、川俣博志、岡田 進⁽¹⁾ 千葉北総病院放射線センター)：椎骨脳底動脈における血流および血管外観描出。第36回千葉MR研究会，2008. 2.

(2) ポスター：

- 1) 岡田 進：広範な広がりを示した後腹膜膿瘍・後腹膜血腫の画像診断。第66回日本医学放射線学会学術集会，2007. 4.
- 2) 桑子智之：門脈ガス血症6症例の検討。第66回日本医学放射線学会学術集会，2007. 4.
- 3) 阿部雅志¹⁾、加藤丈司¹⁾、理崎貴博¹⁾、三輪宗史¹⁾、渡邊英樹¹⁾、渡辺典男¹⁾、川村義彦¹⁾、渡辺 玲²⁾、小南修

史²⁾, 岡田 進⁽¹⁾ 千葉北総病院 放射線センター, ²⁾ 千葉北総病院 脳神経外科) : MRDSA を用いた脳動脈瘤塞栓術後の経過観察法の検討. 第23回日本脳神経血管内治療学会, 2007. 11.

(3) 共著 :

- 1) Yasuda S¹⁾, Kobayashi K²⁾, Ochiai I²⁾, Sarashina G²⁾, Itoh M²⁾, Ohta M²⁾, Nakajo H²⁾, Kojima T²⁾, Akiyama K²⁾, Makuuchi H¹⁾ (¹⁾ Dept. of Surgery, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan, ²⁾ Yotsuya Medical Cube, Tokyo, Japan) : Glucagon enhances FDG uptake of skeletal muscles. 54th Annual Meeting of the Society of Nuclear Medicine (Washington DC, USA), 2007. 6.

8. 皮膚科学講座

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
 - ・免疫担当細胞におよぼすCRHの作用メカニズム.
 - ・CRHがおよぼす毛周期への影響.
 - ・サブスタンスP, NGF, GDNFの皮膚における作用.
2. 自己免疫性水泡症の発症機序
 - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮膚抗原の認識機構の解析
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 蕁麻疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性に解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
 - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミンC, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamic therapyの基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療・診断の開発
 - ・skin optics, selective photothermolysisの理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
 - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
 - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表皮遺伝子治療の開発.
14. 心療内科
 - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転 conufertransference などを利用して行なう心身医学的治療戦略.

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Kikuchi I, Tanuma H¹⁾, Morimoto K, Kawana S (¹⁾ Saitama): Usefulness and pharmacokinetic study of oral terbinafine for hyperkeratotic type tinea pedis. *Mycoses* 2008; 51 (1): 7-13.

(1) 原著:

- 1) Kawana S, Ochiai H, Tachihara R: Objective evaluation of the effect of intense pulsed light on rosacea and solar lentigines by spectrophotometric analysis of skin color. *Dermatol Surg* 2007; 33 (4): 449-454.
- 2) Yamaoka J, Di Z, Sun W, Kawana S: Erratum to Changes in cutaneous sensory nerve fibers induced by

- skin-scratching in mice. *J Dermatol Sci* 2007 ; 47 (2) : 172-182.
- 3) Waterman E¹⁾, Sakai N, Nguyen N¹⁾, Horst B¹⁾, Veitch D¹⁾, Dey C¹⁾, Ortiz-Urda S¹⁾, Khavari P¹⁾, Marinkovich M¹⁾ (¹⁾ Program in Epithelial Biology, Stanford University School of Medicine, Stanford CA) : A laminin-collagen complex drives human epidermal carcinogenesis through phosphoinositol-3-kinase activation. *Cancer Reseach* 2007 ; 67 (9) : 4264-4270.
 - 4) Yamaoka J, Kawana S : A transient unresponsive state of self-scratching behaviour is induced in mice by skin-scratching stimulation. *Exp Dermatol* 2007 ; 16 (9) : 737-745.
 - 5) Yamaoka J, Kawana S : Rapid changes in substance P signaling and neutral endopeptidase induced by skin-scratching stimulation in mice. *J Dermatol Sci* 2007 ; 48 (2) : 123-132.
 - 6) Akilov O¹⁾, Kosaka S, O' riordan K¹⁾, Hasan T¹⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Harvard Medical School, Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts G) : Parasitocidal effect of delta-aminolevulinic acid-based photodynamic therapy for cutaneous leishmaniasis is indirect and mediated through the killing of the host cells. *Exp Dermatol* 2007 ; 16 (8) : 651-660.
 - 7) Sakai N, Kurihara K, Kawana S : Polypoid basal cell carcinoma on the face. *J Dermatol* 2007 ; 34 (8) : 588-589.
 - 8) Akilov O¹⁾, Kosaka S, O' riordan K¹⁾, Hasan T¹⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Harvard Medical School, Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts G) : Photodynamic therapy for cutaneous leishmaniasis : the effectiveness of topical phenothiaziniums in parasite eradication and Th1 immune response stimulation. *Photochem Photobiol Sci* 2007 ; 6 (10) : 1067-1075.
 - 9) Noro S, Mitsuishi T, Ueno T, Kaneko T¹⁾, Nakatake M²⁾, Yamada O²⁾, Kawana S (¹⁾ Department of Dermatology, Douai Memorial Hospital, ²⁾ Department of Hematology, Medical Reseach Institute, Tokyo Women' s Medical University) : Bowen' s disease with high telomerase activity. *J Dermatol* 2007 ; 34 (11) : 778-781.
 - 10) Omi T, Munavalli G¹⁾, Kawana S, Sato S²⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, Johns Hopkins School of Medicine, ²⁾ Department of Central Institute for Electron Microscopic Reseaches, Nippon Medical School) : Ultrastructural evidence for thermal injury to pilosebaceous units during the treatment of acne using photopneumatic (PPX) therapy. *J Cosmetic and Laser Therapy* 2008 ; 10 (1) : 7-11.
 - 11) 鈴木かやの, 川名誠司 : 老人性色素斑に対する5%ハイドロキノン軟膏の有効性および副作用の検討. *日本美容皮膚科学会雑誌* 2007 ; 17 : 7-14.
 - 12) 川名誠司 : 好酸球と血管炎. *皮膚アレルギーフロンティア* 2007 ; 14 (1) : 29-33.
 - 13) 新見やよい : 特集／口腔粘膜疾患の診方 水疱症の口腔粘膜病変. *MB Derma* 2007 ; 125 : 38-44.
 - 14) 新見やよい : 特集／細菌・ウイルス・真菌感染症治療戦略 I細菌感染症 皮膚結核. *MB Derma* 2007 ; 127 : 45-51.
 - 15) 三石 剛, 川名誠司 : 手足口病. *MB Derma* 2007 ; 127 : 111-115.
 - 16) 尾見徳彌 : 特集 : シワ・たるみも治してみませんか? LED. *Visual Dermatology* 2007 ; 6 (4) : 380-381.
 - 17) 義澤雄介, 川名誠司 : 円形脱毛症の動向 : 205例の解析. *日皮会誌* 2007 ; 117 (8) : 1295-1300.
 - 18) 川名誠司, 上野 孝, 下田貴子 : ご瘡に対するRoxithromycin (ルリッド®) の長期継続投与の効果 : Minocyclin Hydrochloride との比較. *西日本皮膚科* 2007 ; 69 (4) : 424-427.
 - 19) 菊地克子¹⁾, 落合由里子²⁾, 尾見徳彌 (¹⁾ 東北大学皮膚科, ²⁾ 仙台市) : 高圧乳化製法による0.15%吉草酸酢酸ブレドニゾロン配合ローション (メンソレータム®APソフトローション) の保湿能評価およびアトピー性皮膚炎患者に対する有効性ならびに安全性評価. *医学と薬学* 2007 ; 58 (2) : 279-287.
 - 20) 堺 則康, 川名誠司 : すべての医師に必要な皮膚科知識 II部位別皮膚症状の診かた 8. 下腿の紫斑をみたら 1)

紫斑の診かた. 診断と治療 2007 ; 95 (9) : 1408-1414.

- 21) 義澤雄介, 川名誠司: 第2世代抗ヒスタミン薬による円形脱毛症の治療. 皮膚と美容 2007 ; 39 (3) : 141-145.
- 22) 尾見徳彌, 奥山ます美¹⁾, 沼野香世子¹⁾, 川名誠司 (¹⁾ 横浜市): グルコマンナン成分スポンジによる洗浄の経時的な皮膚変化. 日本美容皮膚科学会雑誌 2007 ; 17 : 74-80.
- 23) 堺 則康, 下田貴子, 川名誠司: 好酸球増多を伴う結節性多発動脈炎. Visual Dermatology 2007 ; 6 (11) : 1144-1146.
- 24) 義澤雄介: Broadband UVBの低量・低頻度照射によるアトピー性皮膚炎治療の試み: 本邦の医院・一般病院における紫外線治療の現状について考察. 皮膚の科学 2007 ; 6 (増刊9) : 32-37.
- 25) 下田貴子, 坪内利江子, 川名誠司: 尋常性ざ瘡に対する外用ALA-PDTの効果と副反応の検討. 日皮会誌 2008 ; 118 (3) : 403-407.
- 26) 尾見徳彌, 落合由里子¹⁾ (¹⁾ 仙台市): 高压乳化製法による保湿ローションのアトピックドライスキンに対する有効性ならびに安全性評価. JADS 2008 ; 1 (創刊号) : 18-23.
- 27) 尾見徳彌, 川名誠司, 加賀あゆ美¹⁾, 沼野香世子²⁾ (¹⁾ 横浜市, ²⁾ 中央区): 美容機器を用いた制毛処置における臨床的, 組織学的検討. JADS 2008 ; 1 (創刊号) : 24-28.

(2) 総説:

- 1) 小坂祥子, 川名誠司: 美容皮膚科領域における光線力学療法. 日本美容皮膚科学会雑誌 2007 ; 17 : 115-121.
- 2) 三石 剛: ヒトパピローマウイルス感染症. 日医大医会誌 2007 ; 3 (4) : 170-178.
- 3) 川名誠司: 血管炎の診断と検査値の診かた. 日本医事新報 2007 ; 4366 : 53-58.
- 4) 川名誠司: 血管炎の検査. 日皮会誌 2007 ; 117 (13) : 2086-2087.
- 5) 川名誠司: 神経免疫学/内分泌学の観点からみた美容皮膚科学. 日本美容皮膚科学会雑誌 2007 ; 17 : 245-252.
- 6) 川名誠司: 血管炎と鑑別診断. Dermatology Exercises 2008 ; (5).
- 7) 川名誠司: 心と皮膚. JADS 2008 ; 1 (創刊号) : 7-13.

(3) 研究報告書:

- 1) 小坂素子, 新見やよい, 川名誠司: 日本医科大学付属病院における顕症梅毒の臨床的検討. 皮膚 2007 ; 49 (4) : 459-463.
- 2) 上野 孝, 竹崎伸一郎, 三浦祐里子, 川名誠司: 糖尿病性壞疽38例の臨床的検討. 西日本皮膚科 2008 ; 70 (1) : 68-70.

(4) 症例報告:

- 1) Sakai N, Yoshizawa Y, Amano A, Higashi N, Aoki M, Seo T, Tanaka S¹⁾, Tsukui T²⁾, Sakamoto C¹⁾, Arai M³⁾, Yamamoto Y³⁾, Kawana S (¹⁾ Department of Internal medicine (III), Nippon Medical School, ²⁾ Department of Digestive organs, Tama Nagayama hospital, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Emergency care, Nippon Medical School) : Toxic epidermal necrolysis complicated by multiple intestinal ulcers. Int J Dermatol 2008 ; 47 (2) : 180-182.
- 2) Mitsuishi T, Ohara K¹⁾, Suzuki T¹⁾, Mochizuki T¹⁾, Kaneko T²⁾, Kawana S (¹⁾ Department of Dermatology, Toranomon Hospital, ²⁾ Department of Dermatology, The Fraternity Memorial Hospital) : Epidermodysplasia verruciformis with keratoacanthoma, Bowen's disease and squamous cell carcinoma : isolation of high-risk types of HPV 5 and unknown type of human papilloma virus. J Eur Acad Dermatol Venereol 2008 ; On line Journal.
- 3) Wakabayashi T, Yoshizawa Y, Kawana S : Successful use of heparin and warfarin in the treatment of cholesterol crystal embolization. J Dermatol 2008 ; 35 (2) : 111-114.
- 4) 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司: Benign cephalic histiocytosisの1例: 本邦報告例と海外報告例の検討を

含めて. 臨皮 2007 ; 61 (4) : 360-362.

- 5) 井村 純, 河野美乃里, 堺 則康, 川名誠司: TEN型薬疹後の色素沈着に対する治療: イオントフォーシスを用いたビタミンA, C導入が有用であった1例. 日本美容皮膚科学会雑誌 2007 ; 17 : 20-26.
- 6) 片山美玲, 青木見佳子, 岩切加奈, 川名誠司: 粘液水腫苔癬の1例. 皮臨 2007 ; 49 (4) : 423-424.
- 7) 萩田あづさ, 青木見佳子, 川久保恵, 山形健治, 川名誠司: バシトラシン含有軟膏外用による即時型アレルギーの1例. 臨皮 2007 ; 61 (7) : 496-499.
- 8) 竹内淳子, 青木見佳子, 新見やよい, 庄村江里子¹⁾, 山田浩之¹⁾, 瀬戸皖一¹⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 鶴見大学歯学部第一口腔外科): 緊満性水疱を形成した粘膜苔癬の1例. 臨皮 2007 ; 61 (7) : 525-528.
- 9) 上野 孝, 川名誠司: びまん性紅斑と血管浮腫を呈した塩酸エピリゾン (ミオナール®による薬疹の1例. アレルギー 2007 ; 56 (7) : 709-713.
- 10) 狩野律子, 二神綾子, 川名誠司: ゲフィチニブ (イレッサ) による痤瘡様発疹の1例. 臨皮 2007 ; 61 (8) : 589-592.
- 11) 小坂素子, 青木見佳子¹⁾, 川名誠司, 手塚信吾²⁾, 高橋直人²⁾, 山口朋禎²⁾, 宗像一雄²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院皮膚科, ⁽²⁾ 同内科): 肺病変の急性増悪を伴ったLofgren症候群の1例. 臨皮 2007 ; 61 (9) : 693-696.
- 12) 小坂素子, 青木見佳子¹⁾, 森山マサミ²⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 武蔵小杉病院皮膚科, ⁽²⁾ 横浜): ステロイド局所注射による皮膚萎縮の2例. 臨皮 2007 ; 61 (10) : 791-794.
- 13) 川名誠司: 全身性強皮症の経過中に発症した蕁麻疹様血管炎の1症例. アレルギーの臨床 2007 ; 27 (9) : 68-71.
- 14) 二神綾子, 中田朋子, 川名誠司: 左膝腫瘍: 血管にフィブリノイド壊死を伴う類上皮細胞性肉芽腫. 日本皮膚病理組織学会雑誌 2007 ; 23 (1) : 18-21.
- 15) 池田麻純, 青木見佳子, 林 毅陸¹⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 川崎市): 無症状の咽頭からの溶連菌が検出された肛囲溶連菌性皮膚炎の2例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2007 ; 26 (2) : 123-127.
- 16) 若林俊輝, 義澤雄介, 川名誠司: 市中感染型MRSAによる皮膚軟部組織感染症に続発したprobable toxic shock syndromeの1例. 臨皮 2007 ; 61 (13) : 1047-1049.
- 17) 河野美乃里, 五十嵐司, 川名誠司: necrobiotic xanthogranuloma. 皮膚病診療 2008 ; 30 (1) : 35-38.
- 18) 熊谷聖代, 下田貴子, 二神綾子, 須藤悦宏¹⁾, 横山宗伯²⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 整形外科, ⁽²⁾ 第二病理学): Myxofibrosarcomaの1例. 皮臨 2008 ; 50 (1) : 89-92.
- 19) 狩野律子, 新見やよい, 落合廣武, 川名誠司: D-ペニシラミンによる薬剤性天疱瘡: 内服テストで皮疹再現と抗体価上昇を確認した1例. 皮臨 2008 ; 50 (1) : 19-22.
- 20) 加賀美緒, 高田香織, 新見やよい, 川名誠司: 吉草酸酢酸ブレドニゾロンによるアレルギー性接触皮膚炎. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 2008 ; 2 (1) : 33-38.

著 書

- 1) 川名誠司: [分担] 3. 全身性血管炎. 目で見えるアレルギー性皮膚疾患 (片山一朗・古川福実), 2007 ; pp231-237, 南山堂.
- 2) 木村陽一, 川名誠司: [分担] 第3章 蕁麻疹を治療する 11 遺伝性の血管性浮腫の治療は?. じんましん最前線 (秀 道弘・宮地良樹), 2007 ; pp178-181, メディカルレビュー社.
- 3) 堺 則康, 川名誠司: [分担] 血管炎 2. 最近のアナフィラクトイド紫斑. WHAT' S NEW in 臨床皮膚科学 (宮地良樹), 2007 ; pp96-97, メディカルレビュー社.
- 4) 尾見徳彌, 南川勝枝¹⁾ ⁽¹⁾ 横浜市): [分担] 美容皮膚科 7. Skin rejuvenationの最前線. WHAT' S NEW in 臨床皮膚科学 (宮地良樹), 2007 ; pp142-143, メディカルレビュー社.
- 5) 新見やよい: [分担] 感染症 9. 最近の皮膚結核. WHAT' S NEW in 臨床皮膚科学 (宮地良樹), 2007 ; pp90-91, メディカルレビュー社.

- 6) 下田貴子：〔分担〕顔の医学. 科学フォーラム2007, 2007；pp24-28, 東京理科大学出版会.
- 7) 金子勝美, 川名誠司：〔分担〕循環器症候群（第2版）III：その他の循環器疾患を含めて：X. 末梢動脈・静脈疾患 肢端紅痛症, 肢端紫藍症. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズNo. 6, 2008；pp485-486, 日本臨床社.
- 8) 三石 剛：〔分担〕尖圭コンジローマの診断と治療. STDアトラス（安元慎一郎）, 2008；pp96-101, 秀潤社.
- 9) 三石 剛：〔分担〕男性尖圭コンジローマ. STDアトラス（安元慎一郎）, 2008；pp102-103, 秀潤社.
- 10) 三石 剛：〔分担〕Bowen様丘疹症. STDアトラス（安元慎一郎）, 2008；p105, 秀潤社.
- 11) 三石 剛：〔分担〕梅毒性ばら疹. STDアトラス（安元慎一郎）, 2008；p41, 秀潤社.
- 12) 三石 剛：〔分担〕伝染性軟属腫. STDアトラス（安元慎一郎）, 2008；p131, 秀潤社.
- 13) 川名誠司：〔分担〕5血管炎・紫斑 2. アナフィラクトイド紫斑のステロイドの適応は？. EBM皮膚疾患の治療 2008-2009（宮地良樹・幸野 健）, 2008；pp112-116, 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 川名誠司：神経免疫学・内分泌学の観点から見た美容皮膚科学. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.
- 2) 川名誠司：心と皮膚. 第2回エステティックダーマトロジーフォーラム, 2007. 8.
- 3) 川名誠司：ストレス関連皮膚疾患. 第7回静岡TIM研究会, 2008. 2.
- 4) 川名誠司：ストレス関連皮膚疾患. 日皮会第66回茨城地方会, 2008. 3.

(2) 招待講演：

- 1) 川名誠司：血管炎による下肢の潰瘍. 第8回足を診る会, 2007. 7.
- 2) 川名誠司：血管炎の検査：皮膚科の立場から. 福岡地区皮膚科医会, 2007. 8.
- 3) 小坂祥子：皮膚疾患における光線力学療法（PDT）. 第9回応用薬理年次シンポジウム, 2007. 9.
- 4) 小坂祥子：光線力学療法って何？. 第3回エステティックダーマトロジーフォーラム, 2008. 2.

(3) 教育講演：

- 1) 川名誠司：血管炎をどう考えるか. 第106回日皮会総会学術大会, 2007. 4.

(4) シンポジウム：

- 1) 三石 剛：皮膚悪性腫瘍における診断のキーポイント. 日本医科大学医学科医大17回公開シンポジウム, 2007. 6.
- 2) 小坂祥子：ざ瘡, 若返りに対する光線力学療法（PDT）. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 尾見徳彌：ざ瘡治療における光線治療：LED, IPL. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.
- 2) 井村 純：皮膚科におけるケミカルピーリングの発展：患者のQOLの向上のために. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.
- 3) 下田貴子, 川名誠司：acne fulminansの癬痕に対する治療. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.
- 4) 荻田あづさ, 小坂祥子, 新見やよい, 川名誠司, 戸田 淳¹⁾（¹⁾東京都）：両頬部, 四肢に生じた小児の真皮メラノサイトーシス. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.

(6) セミナー：

- 1) 三石 剛：ウイルス性疣贅の治療・現状と今後の展望. 目黒区皮膚科医会, 2007. 5.
- 2) 三石 剛：ウイルス感染症. 第13回皮膚科感染症夏季セミナー, 2007. 7.
- 3) 三石 剛：性感染症の診断と治療. 平成19年度エイズ対策セミナー, 2008. 2.

(7) 一般講演：

- 1) Omi T, Kawana S, Sato S¹⁾（¹⁾ Department of Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School）：Acne treatment by vacuum and IPL system device-Histological study . American Society

- for Laser Medicine and Surgery (Grapevine, Texas, USA), 2007. 4.
- 2) Omi T, Kawana S, Sato S¹⁾ (1) Department of Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School) : Histological and ultrastructural evidence of pilosebaceous unit thermal injury during the treatment of acne using photopneumatic (PPX) therapy. European Academy of Dermatology and Venereology (Vienna, Austria), 2007. 5.
 - 3) Omi T : Histological changes associated with IPL&LED. International Master Course on Aging Skin (Bangkok, Thailand), 2007. 7.
 - 4) Yamaoka J, Kawana S : Rapid changes in factors involved in substance P signaling and neutral endopeptidase induced by skin-scratching stimulation in mice. 17th International Symposium of Itch (豊中市), 2007. 9.
 - 5) Kosaka S, Kawana S, Zouboulis C, Hasan T, Ortel B : Targeting of sebocytes by aminolevulinic acid-dependent photosensitization. 8th Congress of the German-Japanese Society of Dermatology (横浜市), 2007. 11.
 - 6) Omi T : New aspects of therapy using pulsed type dye laser. 10th Annual Meeting of International Master Course on Aging Skin (Paris, France), 2008. 1.
 - 7) 下田貴子, 二神綾子, 川名誠司 : 皮膚生検にて消褪したRA合併intravascular histiocytosisの1例. 第106回日皮会総会学術大会, 2007. 4.
 - 8) 森本健介, 又吉武光, 小坂素子, 川名誠司, 石渡明子¹⁾ (1) 千葉北総病院内科) : Churg-Strauss症候群の1例. 第106回日皮会総会学術大会, 2007. 4.
 - 9) 尾見徳彌 : PPxによるざ瘡治療とその超微形態学的な治療効果. 第106回日皮会総会学術大会, 2007. 4.
 - 10) 東 直行¹⁾, 中田朋子¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 川名誠司 (1) 多摩永山病院皮膚科) : Blastic NK cell lymphomaの1例. 第23回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2007. 5.
 - 11) 青木見佳子, 新井栄一¹⁾, 川名誠司 (1) 埼玉医大病理学教室) : 慢性に経過し, subcutaneous panniculitis like T-cell lymphomaと考えられる1例. 第23回皮膚悪性腫瘍学会総会学術大会, 2007. 5.
 - 12) 瀬戸路子, 池田麻純, 青木見佳子, 岩崎 隆¹⁾, 川名誠司 (1) 川崎市) : 低亜鉛母乳によると考えられる乳児亜鉛欠乏症の1例. 日皮会第812回東京地方会, 2007. 6.
 - 13) 新見やよい, 川名誠司 : 播種状表在性光線性汗孔角化症と線状汗孔角化症の合併例. 第31回日本小児皮膚科学会総会学術大会, 2007. 7.
 - 14) 小金井宏美¹⁾, 東 直行¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 川名誠司 (1) 多摩永山病院皮膚科) : Palisaded encapsulated neuromaの1例. 日皮会第813回東京地方会, 2007. 7.
 - 15) 小坂素子, 新見やよい, 川名誠司 : Livedoid vasculopathyの小児例. 第31回日本小児皮膚科学会総会学術大会, 2007. 7.
 - 16) 加藤篤衛, 竹崎伸一郎, 二神綾子, 川名誠司 : 広範に壊死・潰瘍を認めたSweet病の1例. 日皮会第813回東京地方会 (合同臨床), 2007. 7.
 - 17) 片山美玲, 青木見佳子, 瀬戸路子, 吉野公二¹⁾, 河野あゆみ²⁾, 橋本達治²⁾, 川名誠司 (1) 都立広尾病院皮膚科, ²⁾ 同呼吸器科) : ローヤルゼリーによるアナフィラキシーの1例. 日皮会第813回東京地方会 (合同臨床), 2007. 7.
 - 18) 池田麻純, 青木見佳子, 林 毅陸¹⁾, 川名誠司 (1) 川崎市) : 無症状の咽頭からも溶連菌が検出された肛囲溶連菌性皮膚炎の2例. 第31回日本小児皮膚科学会総会学術大会, 2007. 7.
 - 19) 二神綾子, 中島淳夫¹⁾, 飯島典茂²⁾, 川名誠司 (1) 付属病院リウマチ科, ²⁾ 同整形外科) : 頭部の皮疹が主症状であった関節症性乾癬の2例. 第22回日本乾癬学会学術大会, 2007. 9.
 - 20) 高田香織, 二神綾子, 川名誠司 : エトレチナート投与を試みた爪乾癬の1例. 第22回日本乾癬学会学術大会, 2007. 9.
 - 21) 高山良子, 二神綾子, 塚田玲子¹⁾, 平岡美紀¹⁾, 高橋 信¹⁾, 川名誠司 (1) 眼科) : Trichoepithelioma multi-

- plexの1例. 日皮会第814回東京地方会, 2007. 9.
- 22) 加賀美緒, 堺 則康, 下田貴子, 川名誠司: バクリタキセルとドセタキセルによる強皮症様皮膚硬化の2例. 日皮会第814回東京地方会, 2007. 9.
 - 23) 加藤篤衛, 下田貴子, 小坂祥子, 川名誠司: Nd ; YAG レーザーによる毛細血管拡張の治療経験. 第71回日皮会東部支部学術大会, 2007. 9.
 - 24) 堺 則康: 皮膚基底膜における細胞外マトリックス分子ラミニン322の生物学的役割. 第75回日医大医学会総会, 2007. 9.
 - 25) 又吉武光, 藤本和久, 小坂素子, 川名誠司, 斉藤 博¹⁾ (1) 印西市): 関節リウマチ患者に生じた持久性隆起性紅斑の1例. 第71回日皮会東部支部学術大会, 2007. 9.
 - 26) 尾見徳彌: 美容皮膚科領域における治療法の進歩. 第9回応用薬理シンポジウム, 2007. 9.
 - 27) 菊地佐知子¹⁾, 堀 純子¹⁾, 塚田玲子¹⁾, 平岡美紀¹⁾, 加藤篤衛, 高橋 浩¹⁾ (1) 付属病院眼科): 眼球結膜に多発性結節を生じたSweet病の1例. 第61回日本臨床眼科学会総会学術大会, 2007. 10.
 - 28) 高橋 光¹⁾, 福岡 猛¹⁾, 山本一仁²⁾, 峯田 章²⁾, 福原宗久²⁾, 富樫晃祥²⁾, 木内博之²⁾, 加藤篤衛 (1) 北村山公立病院消化器科, 2) 同外科): 消化管合併症を内視鏡的に確認しえたアナフィラクトイド紫斑病の1例. 第15回消化器関連学会総会, 2007. 10.
 - 29) 尾見徳彌: 「PDT治療」: LED治療器の効果とその有用性. 8th Total Anti-aging Seminar, 2007. 10.
 - 30) 下田貴子, 鈴木秀典¹⁾, 川名誠司 (1) 薬理学): ストレスによって誘導されるマウス皮膚肥満細胞脱顆粒に対する向精神病薬および不安薬の抑制効果. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2007. 11.
 - 31) 森田 孝, 竹崎伸一郎, 川名誠司: Sclerotic fibromaの1例. 日皮会第815回東京地方会, 2007. 11.
 - 32) 狩野津子, 東 直行, 落合廣武, 前田昭太郎¹⁾, 川名誠司 (1) 多摩永山病院病理部): 神経細胞の増殖を伴ったfolliculosebaceous cystic hamartomaの1例. 日皮会第815回東京地方会, 2007. 11.
 - 33) 小金井宏美, 東 直行, 中田朋子, 細根 勝¹⁾, 川名誠司, 小澤雅邦²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩市): 皮膚症状を契機に前立腺癌が発見された2例. 日皮会第815回東京地方会, 2007. 11.
 - 34) 山岡淳一, 川名誠司: マウス皮膚擦過後に生ずる substance Pシグナルと neutral endopeptidaseの相関的変動. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2007. 11.
 - 35) 荻田あづさ, 高田香織, 齋藤 裕¹⁾, 川名誠司 (1) 文京区): アクロマイシン^Rによるアナフィラキシーの1例. 日皮会第815回東京地方会, 2007. 11.
 - 36) 池田麻純, 青木見佳子, 大久保正智¹⁾, 川名誠司 (1) 世田谷区): 超高齢者に生じた腫瘤型石灰化上皮腫の1例. 日皮会第815回東京地方会, 2007. 11.
 - 37) 五十嵐司, 川名誠司, 山岡淳一, 鈴木秀典¹⁾ (1) 薬理学): ステロイド抵抗性の結節性痒疹に対するUVB照射の効果. 第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2007. 12.
 - 38) ハリファイリヌル, 山岡淳一, 川名誠司: マウス皮膚擦過刺激後の搔破行動に対する塩酸エピナスチンの抑制効果. 第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2007. 12.
 - 39) 山岡淳一, 川名誠司: 外的皮膚刺激後の substance Pシグナルと neutral endopeptidaseの急速な変動パターンについて. 第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2007. 12.
 - 40) 中田朋子, 東 直行, 川名誠司: ランサップによる薬疹の2例. 第37回日本アレルギー学会・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2007. 12.
 - 41) 東 直行, 川名誠司: イトラコナゾールパルス後の中毒疹の3例. 第37回日本皮膚アレルギー学会・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2007. 12.
 - 42) 高崎真理子, 三石 剛, 川名誠司: 陰茎縫線嚢腫の1例. 日皮会第817回東京地方会, 2008. 1.
 - 43) 大島 玄, 三石 剛, 川名誠司: 点状掌蹠角化症の1例. 日皮会第817回東京地方会, 2008. 1.
 - 44) 瀬戸路子, 青木見佳子, 片山美玲, 松村修志¹⁾, 川名誠司 (1) 横浜市): 長期間湿疹と診断されていた癩痕化扁

- 平型基底細胞癌の1例. 日皮会第817回東京地方会, 2008. 1.
- 45) 小坂素子, 加藤篤衛, 新見やよい, 川名誠司: 掌蹠膿疱症に併発した皮膚アレルギー性血管炎の1例. 第31回皮膚脈管膠原病研究会, 2008. 1.
- 46) 又吉武光, 堺 則康, 川名誠司: アナフィラクトイド紫斑の重症度スコアと凝固第XIII因子活性との相関性及び臨床的意義. 第31回皮膚脈管膠原病研究会, 2008. 1.
- 47) 又吉武光, 堺 則康, 川名誠司: アナフィラクトイド紫斑の重症度スコアと凝固第XIII因子活性との相関性及び臨床的意義. 第71回日皮会東京支部学術大会, 2008. 1.
- 48) 西脇 薫, 新見やよい, 橋本 隆¹⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 久留米大学皮膚科学): 角層下膿疱症 (SPD) 型のIgA天疱瘡の1例. 第71回日皮会東京支部学術大会, 2008. 2.
- 49) 池田麻純, 小坂素子, 青木見佳子, 川名誠司: BCG接種後に生じた環状肉芽腫の1例. 第71回日皮会東京支部学術大会, 2008. 2.
- 50) 竹崎伸一郎: Sclerotic fibroma of the skinの1例. 第20回会津皮膚科ケースカンファランス, 2008. 2.
- (8) 展示:
- 1) Kawana S: Efficacy of a 5-HT_{1A} partial agonist in atopic dermatitis. 68th Annual Meeting of the Society for Investigative Dermatology (Losangels, USA), 2007. 5.
- 2) 新見やよい, 落合廣武, 本田光芳¹⁾, 川名誠司⁽¹⁾ 横浜市): 日本医科大学付属病院皮膚科における皮膚結核の統計. 第106回日皮会総会学術大会, 2007. 4.
- 3) 熊谷聖代, 三石 剛, 川名誠司: 40年間の経過後, 診断した悪性黒色腫の1例. 第106回日皮会総会学術大会, 2007. 4.
- 4) 下田貴子, 川名誠司: プレドニゾロン, スピロノラクトン, ヨウ化カリウムの併用が奏効したacne fulminansの1例. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.
- 5) 小坂祥子, 安本美奈子, 川名誠司: IPLを用いたALA-PDTのphotorejuvenation. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.
- 6) 安本美奈子, 小坂祥子, 下田貴子, 川名誠司: 医師と患者の美容皮膚科についての意識の比較: アンケート調査の結果から. 第25回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2007. 8.

[武蔵小杉病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断, 研究
2. センチネルリンパ節生検法の確立と応用
3. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認と交差感作, 抗原の検索
4. 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与: gastrin releasing peptide receptor ノックアウトマウスにおける創傷治癒

研究業績

論文

(1) 症例報告:

- 1) Sakai N¹⁾, Yoshizawa Y¹⁾, Amano A¹⁾, Higashi N¹⁾, Aoki M, Seo T¹⁾, Suzuki K¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tsukui T¹⁾, Sakamoto C¹⁾, Arai M¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Kawana S¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院皮膚科): Toxic epidermal necrolysis complicated multiple intestinal ulcers. International Journal of Dermatology 2008; 47: 180-182.
- 2) 片山美玲, 青木見佳子, 岩切加奈¹⁾, 川名誠司²⁾ ⁽¹⁾ 横浜市, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学): 粘水腫性苔癬の1

例. 皮膚科の臨床 2007 ; 49 (4) : 423-424.

- 3) 片山美玲, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾ (1) 皮膚科学) : 紅皮症型皮膚T細胞リンパ腫の1例. 皮膚科の臨床 2007 ; 49 (6) : 665-668.
- 4) 竹内淳子, 青木見佳子, 新見やよい¹⁾, 庄村江里子²⁾, 山田浩之²⁾, 瀬戸皖一²⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学皮膚科学, ²⁾ 鶴見大学歯学部第一口腔外科) : 緊満性水疱を形成した粘膜苔癬の1例. 臨床皮膚科 2007 ; 61 (7) : 525-528.
- 5) 小坂素子¹⁾, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾, 手塚信吾²⁾, 高橋直人²⁾, 山口朋禎²⁾, 宗像一雄²⁾ (1) 皮膚科学, ²⁾ 武蔵小杉病院内科) : 肺病変の急性憎悪を伴ったLöfgren症候群の1例. 臨床皮膚科 2007 ; 61 (9) : 693-696.
- 6) 小坂素子, 青木見佳子, 森山マサミ¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 横浜市 森山皮膚科, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : ステロイド局所注射による皮膚萎縮の1例. 臨床皮膚科 2007 ; 61 (10) : 791-794.
- 7) 池田麻純, 青木見佳子, 林 毅陸¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 川崎市, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : 無症状の咽頭からも溶連菌が検出された肛囲溶連菌性皮膚炎の2例. 日本小児皮膚科学会雑誌 2007 ; 26 (2) : 123-127.
- 8) 片山美玲, 青木見佳子, 黒澤真澄¹⁾, 竹内淳子²⁾, 川名誠司²⁾ (1) ますみ皮膚科 川崎市, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : Limited Cutaneous Systemic Sclerosisを合併したSuperficial Granulomatous Pyodermaの1例. 皮膚科の臨床 2008 ; 50 (3) : 307-311.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 青木見佳子, 新井栄一¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 埼玉医科大学病理学教室, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : 慢性に経過し, subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphomaと考えられる1例. 第23回日本皮膚悪性腫瘍学術大会, 2007. 5.
- 2) 瀬戸路子, 池田麻純, 青木見佳子, 岩崎 隆¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 川崎市, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : 低亜鉛母乳によると考えられる乳児亜鉛欠乏症の1例. 日本皮膚科学会第812回東京地方会, 2007. 6.
- 3) 片山美玲, 青木見佳子, 瀬戸路子, 吉野公二¹⁾, 河野あゆみ²⁾, 榎本達治²⁾, 川名誠司³⁾ (1) 都立広尾病院皮膚科, ²⁾ 都立広尾病院呼吸器科, ³⁾ 日本医科大学皮膚科学) : ローヤルゼリーによるアナフィラキシーの1例. 第813回東京地方会合同臨床地方会, 2007. 7.
- 4) 池田麻純, 青木見佳子, 林 毅陸¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 川崎市, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : 無症状の咽頭からも溶連菌が検出された肛囲溶連菌性皮膚炎の2例. 日本小児皮膚科学会, 2007. 7.
- 5) 又吉武光, 藤本和久¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : 関節リウマチ患者に生じた持久性隆起性紅斑の1例. 第71回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2007. 9.
- 6) 池田麻純, 青木見佳子, 大久保正智¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 東京都世田谷区, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : 超高齢者に生じた腫瘤型石灰化上皮腫の1例. 日本皮膚科学会第815回東京地方会, 2007. 11.
- 7) 池田麻純, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学皮膚科学) : 一部にcytokeratin7陽性を示したPagetoid Bowen病の1例. 日本皮膚科学会第811回東京地方会, 2007.
- 8) 瀬戸路子, 青木見佳子, 片山美玲, 松村修志¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 横浜市, ²⁾ 日本医科大学皮膚科学) : 長期間湿疹と診断されていた癬痕化扁平型基底細胞癌の1例. 日本皮膚科学会第817回東京地方会, 2008. 1.
- 9) 又吉武光, 堺 則康¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学皮膚科学) : アナフィラクトイド紫斑の重症度スコアと凝固第XIII因子活性との相関性及び臨床的意義. 第31回皮膚脈管膠原病研究会, 2008. 1.
- 10) 池田麻純, 小坂素子¹⁾, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学皮膚科学) : BCG接種後に生じた環状肉芽腫の1例. 第71回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2008. 2.
- 11) 又吉武光, 堺 則康¹⁾, 川名誠司¹⁾ (1) 日本医科大学皮膚科学) : アナフィラクトイド紫斑の重症度スコアと凝固第XIII因子活性との相関性及び臨床的意義. 第72回日本皮膚科学会東京支部総会・学術大会, 2008. 2.

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン／サイトカインの解析と治療戦略.
2. アトピー性皮膚炎の出生時，出生前要因の検討.
3. アナフィラクトイド紫斑，掌蹠膿疱症，自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン／サイトカインの発現解析.
4. 薬疹，接触皮膚炎，食物アレルギー，全身性金属アレルギー：皮膚テストによる原因物質の確認と交差感作，抗原の検索.
5. 皮膚腫瘍，皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究.

研究業績

論文

[追加分]

追加分研究報告書：

- 1) 根本 勺^{1,2)}，押切佳代子³⁾，後藤眞弥³⁾，大崎節子³⁾，東 直行⁽¹⁾ 北村山公立病院泌尿器科，²⁾ 国立病院機構函館病院泌尿器科，³⁾ 北村山公立病院薬剤部)：注射用抗生物質製剤の皮内反応中止の導入および中止1年での現状報告. 北村山公立病院医学雑誌 2006；11：10-13.

追加分症例報告：

- 1) 東 直行，篁 武郎¹⁾，伊吾田慎一²⁾ ⁽¹⁾ 北村山公立病院麻酔科，²⁾ 北村山公立病院形成外科)：北村山公立病院皮膚科における帯状疱疹の統計的観察 (第2報)：2004年1月から2005年8月の外来，入院例. 北村山公立病院医学雑誌 2006；11：14-19.

(1) 症例報告：

- 1) Sakai N¹⁾，Yoshizawa Y¹⁾，Amano A¹⁾，Higashi N，Aoki M²⁾，Seo T³⁾，Tanaka S³⁾，Tsukui T⁴⁾，Sakamoto C³⁾，Arai M⁵⁾，Yamamoto Y⁵⁾，Kawana S¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Dermatology, Musashi Kosugi Hospital, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Internal Medicine (III), Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Digestive Organs, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ⁵⁾ Department of Emergency care, Nippon Medical School)：Toxic epidermal necrolysis complicated by multiple intestinal ulcers. Int J Dermatol 2008；47 (2)：180-182.
- 2) 荻田あづさ^{1,2)}，青木見佳子²⁾，川久保恵²⁾，山形健治³⁾，川名誠司⁴⁾ ⁽¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 武蔵小杉病院皮膚科，³⁾ 川崎市，⁴⁾ 付属病院皮膚科)：バシトラシン含有軟膏外用による即時型アレルギーの1例. 臨床皮膚科 2007；61 (7)：496-499.
- 3) 河野美乃里^{1,2)}，五十嵐司^{1,2)}，川名誠司²⁾ ⁽¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 付属病院皮膚科)：necrobiotic xanthogranuloma. 皮膚病診療 2008；30 (1)：35-38.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 東 直行，中田朋子，細根 勝¹⁾，前田昭太郎¹⁾，川名誠司²⁾ ⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 付属病院皮膚科)：Blastic NK cell lymphomaの1例. 第23回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会，2007. 5.
- 2) 小金井宏美，東 直行，前田昭太郎¹⁾，川名誠司²⁾ ⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 付属病院皮膚科)：Palisaded encapsulated neuromaの1例. 日本皮膚科学会第813回東京地方会，2007. 7.
- 3) 荻田あづさ^{1,2)}，小坂祥子²⁾，新見やよい²⁾，川名誠司²⁾ ⁽¹⁾ 多摩永山病院皮膚科，²⁾ 付属病院皮膚科)：両頬部，

- 四肢に生じた小児の真皮メラノサイトーシス. 第25回日本美容皮膚科学会総会, 学術大会, 2007. 8.
- 4) 狩野律子, 東 直行, 落合廣武, 前田昭太郎¹⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, ²⁾ 付属病院皮膚科) : 神経細胞の増殖を伴った folliculosebaceous cystic hamartoma の1例. 日本皮膚科学会第815回東京地方会, 2007. 11.
 - 5) 小金井宏美, 東 直行, 中田朋子, 細根 勝¹⁾, 川名誠司²⁾, 小澤雅邦³⁾ (1) 多摩永山病院病理部, ²⁾ 付属病院皮膚科, ³⁾ 多摩市) : 皮膚症状を契機に前立腺癌が発見された2例. 日本皮膚科学会第815回東京地方会, 2007. 11.
 - 6) 荻田あづさ^{1, 2)}, 高田香織²⁾, 齋藤 裕³⁾, 川名誠司²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, ²⁾ 付属病院皮膚科, ³⁾ 文京区) : アクロマイシンによるアナフィラキシーの1例. 日本皮膚科学会第815回東京地方会, 2007. 11.
 - 7) 中田朋子, 東 直行, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科) : ランサップによる薬疹の2例. 第37回日本皮膚アレルギー学会・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2007. 12.
 - 8) 東 直行, 川名誠司¹⁾ (1) 付属病院皮膚科) : イトラコナゾールパルス後の中毒疹の3例. 第37回日本皮膚アレルギー学会・接触皮膚炎学会総会学術大会, 2007. 12.

[千葉北総病院皮膚科]

研究概要

- 1) 薬疹, 接触性皮膚炎, 食物アレルギー: パッチテスト, プリックテスト, チャレンジテスト, 光パッチテストによる原因物質の確認と, 交叉感作, 抗原決定基の検索, アレルギーカードの発行.
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断, 形成外科学的治療・再建術および病理学的研究: 特に電顕, 酵素抗体法を用いた研究.
- 3) 動物性皮膚疾患: 疥癬, Creeping disease 等に対する新しい内服治療法の研究.
- 4) 褥瘡, 難治性潰瘍: 新しい素材, 薬剤を用いた保存的, 外科的治療, および糖尿病性壊疽の患者管理と治療法の研究.
- 5) 皮膚真菌症: 白癬菌の寄生形態に関する電顕学的研究, 白癬に対する効果的な外用・内服治療法の研究.
- 6) 水疱症: 尋常性天疱瘡, 水疱性類天疱瘡に対する, 血漿交換療法を含めた集学的治療法の研究.
- 7) 悪性黒色腫: センチネルリンパ節生検および病理組織学的検討による病期診断と治療方法の選択, 予後に関する研究.

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 森本健介, 又吉武光, 藤本和久, 小坂素子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 石渡明子²⁾ (1) 付属病院皮膚科, ²⁾ 千葉北総病院内科) : Churg-Strauss 症候群の1例. 第106回日本皮膚科学会総会, 2007. 4.
- 2) 又吉武光, 藤本和久, 小坂素子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 齋藤 博²⁾ (1) 付属病院皮膚科, ²⁾ 印西市) : 関節リウマチ患者に生じた持久性隆起性紅斑の1例. 第71回日本皮膚科学会東部支部学術大会, 2007. 9.

9. 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）

〔付属病院第1外科（消化器外科，乳腺外科，一般外科，移植外科）〕

研究概要

教室では、消化器・一般・乳腺・移植外科学を中心に臨床医学に直結し、将来につながる研究を目的とし、先端医療を含めた臨床的、基礎的研究を行っている。具体的には、外科腫瘍学を基本に、消化器全般（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵・脾）、乳腺、移植に関して、外科的治療を中心とした治療成績の向上のための臨床および基礎的研究を行っている。

1. 鏡視下手術（腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡）を用いた低侵襲手術を導入し、基礎的技術習熟のためのトレーニングシステムの構築およびその実践。
2. 生体肝移植における過小グラフト問題に対して、小腸同時切除が過小グラフトのoutflow blockを解決可能かどうかを実験動物（イヌ）を用いて証明。
3. 門脈圧亢進症による食道、胃静脈瘤の病態生理の解明および新しい治療法の開発。
4. 肝不全に対する高圧酸素療法の有用性を証明すべく、障害肝ラットへの高圧酸素療法の効果を病理組織学的に検索。
5. 腹膜炎、イレウス、急性膵炎などを中心とする急性腹症、腹部救急疾患の病態、とくに細菌性ショック発来機構の解明ならびにイレウスの新しい診断法の確立。
6. 創傷治癒、外科侵襲の基礎及び臨床研究さらには外科感染症対策に関してエビデンスをもとにした治療法・予防法の実践。
7. 乳癌、肝癌および膵癌のFNA細胞診断の向上に努めるべく、手術標本からのFNA細胞診断とともに分子生物学的手法を用いた腫瘍マーカーの同定、定量から組織診断の鑑別への応用。
8. 悪性腫瘍に関して、外科的治療を中心として治療成績の向上、基礎的研究として増殖因子の役割、胃十二指腸疾患におけるヘリコバクター・ピロリの役割、胃癌発生における遺伝子多形性の意義、肝癌発生の分子生物学的解明、膵癌転移機構の解明、大腸癌発生における細菌性因子の関与の研究など、スタッフの指導のもとに、それぞれのテーマに対し教室員が積極的に研究を進めている。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 松倉則夫¹⁾，落合正宏²⁾，加藤俊二，徳永 昭³⁾ (1) 松倉中央クリニック，2) 藤田保健衛生大学消化器外科，3) 武蔵小杉病院消化器病センター)：【*Helicobacter pylori*に起因しないとされる良性胃粘膜病変】*Helicobacter pylori*に起因しないとされる胃粘膜病変の形態 残胃炎. 胃と腸 2006；41 (5)：1053-1059.

追加分症例報告：

- 1) 松谷 毅¹⁾，江上 格¹⁾，笹島耕二¹⁾，宮本昌之¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，鈴木成治¹⁾，田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科)：胃前庭部と瘻孔を形成した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 日本腹部救急医学会誌 2007；27 (3)：503-506.

追加分総説：

- 1) 松倉則夫¹⁾，加藤俊二 (1) 松倉中央クリニック)：【残胃の癌 治療と予防】「残胃の癌」発生の危険因子. 外科治療 2006；94 (3)：259-263.
- 2) 宮下正夫，赤城一郎，田尻 孝：侵襲に対する生体反応の制御因子：サイトカイン，ケモカイン. Surgery

(1) 原著 :

- 1) Takahashi K, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Futami R, Kashiwabara M, Katsuta M, Tajiri T : Serum p53 antibody as a predictor of early recurrence in patients with postoperative esophageal squamous cell carcinoma. *Diseases of the Esophagus* 2007 ; 20 (2) : 117-122.
- 2) Matsuda A, Furukawa K, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Matsumoto S, Shinji S, Tajiri T : Does impaired TH1/TH2 balance cause postoperative infectious complications in colorectal cancer surgery?. *J Surg Res* 2007 ; 139 (1) : 15-21.
- 3) Futami R, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Matsutani T, Sasajima K, Tajiri T : Increased Serum Vascular Endothelial Growth Factor Following Major Surgical Injury . *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (3) : 223-229.
- 4) Kato S, Matsukura N, Tsukada K¹⁾, Matsuda N, Mizoshita T²⁾, Tsukamoto T²⁾, Tatematsu M²⁾, Sugisaki Y¹⁾, Naito Z¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Division of Pathology, ²⁾ Division of Molecular Pathology, Aichi Cancer Center) : *Helicobacter pylori* infection-negative gastric cancer in Japanese hospital patients : Incidence and pathological characteristics. *Cancer Science* 2007 ; 98 (6) : 790-794.
- 5) Komada Y¹⁾, Murata S¹⁾, Tajima H¹⁾, Kumita S¹⁾, Kanazawa H²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Radiology/Center for Advanced Medical Technology, ²⁾ Dept. of 3rd Internal Medicine) : Haemodynamic changes in the liver under balloon occlusion of a portal vein branch—evaluation with single-level dynamic computed tomography during hepatic arteriography. *Clin. Radiol* 2007 ; 62 (6) : 579-586.
- 6) Masuda G, Tokunaga A, Shirakawa T, Togashi A, Kiyama T, Kato S, Matsukura N, Bou H, Watanabe M, Tajiri T : *Helicobacter pylori* infection, but not genetic polymorphism of CYP2E1, is highly prevalent in gastric cancer patients younger than 40 years. *Gastric Cancer* 2007 ; 10 (2) : 98-100.
- 7) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Shimizu T, Kakinuma D, Ishikawa Y, Kanda T, Matsumoto S, Yokomuro S, Akimaru K, Tajiri T : Fixation of the greater omentum for prevention of delayed gastric emptying after left hepatectomy with lymphadectomy for cholangiocellular carcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2007 ; 14 (4) : 392-396.
- 8) Kashiwabara M, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Matsutani T, Kim C¹⁾, Takeda S¹⁾, Yamashita K, Chaudry HI²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Anesthesiology & Intensive Care, ²⁾ Center for Surgical Research & Dept. of Surgery, University of Alabama) : Surgical Trauma-Induced Adrenal Insufficiency is associated with Postoperative Inflammatory Responses. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (4) : 274-283.
- 9) Fukasawa M¹⁾, Matsushita A, Korc M¹⁾ (¹⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Hitchcock Medical Center and Dartmouth Medical School) : Neuropilin-1 interacts with integrin beta1 and modulates pancreatic cancer cell growth, survival and invasion. *Cancer Biol Ther* 2007 ; 6 (8) : 1173-1180.
- 10) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Shinji S, Yokoi K¹⁾, Oguro T²⁾, Ohaki Y²⁾, Ishiwata T³⁾, Naito Z³⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Dept. of Pathology, Nippon Medical School) : Squamous cell carcinoma arising from recurrent anal fistula. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (4) : 319-324.
- 11) Mamada Y, Yoshida H, Taniai N, Bando K, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Ishikawa Y, Akimaru K, Tajiri T, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Dept. of Pathology) : Major Arteriportal Shunt Caused by Hepatocellular Carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (4) : 314-318.
- 12) Takahashi T, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Shimizu T, Kakinuma D, Ishikawa Y,

- Akimaru K, Sugisaki Y¹, Tajiri T (¹ Dept. of Pathology) : Profiling of fluorouracil-related genes by microdissection technique in hepatocellular carcinoma. *Hepato-Gastroenterol* 2007 ; 54 (78) : 1612-1616.
- 13) Taniai N, Akimaru K, Yoshida H, Tajiri T : Surgical Treatment for Better Prognosis of Patients with Liver Metastases from Colorectal Cancer. *Hepato-Gastroenterol* 2007 ; 54 (78) : 1805-1809.
- 14) Seya T¹, Tanaka N¹, Shinji S¹, Shinji E¹, Yokoi K¹, Horiba K¹, Kanazawa Y¹, Yamada T¹, Oaki Y², Tajiri T (¹ Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, ² Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Rectal Malignant Melanoma Showing Immunohistochemical Variability in a Tumor. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (5) : 377-381.
- 15) Shioya T¹, Yoshino M¹, Ogata M¹, Shibuya T¹, Tokunaga A¹, Matsumoto K², Tajiri T (¹ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital, ² Dept. of Pathology, Musashi Kosugi Hospital) : Successful Treatment of a Colonic Ulcer Penetrating the Urinary Bladder Caused by the Administration of Calcium Polystyrene Sulfonate and Sorbitol. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (5) : 359-363.
- 16) Matsushita A, Gotze T¹, Korc M¹ (¹ Dept. of Medicine, Dartmouth Hitchcock Medical Center and Dartmouth Medical School) : Hepatocyte growth factor-mediated cell invasion in pancreatic cancer cells is dependent on neuropilin-1. *Cancer Res* 2007 ; 67 (21) : 10309-10316.
- 17) Aimoto T, Uchida E, Matsushita A, Tabata Y¹, Takano T², Miyamoto M², Tajiri T (¹ Dept. of Biomaterials, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto Univ. , ² Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Controlled release of basic fibroblast growth factor promotes healing of the pancreaticojejunal anastomosis : A novel approach toward zero pancreatic fistula. *Surgery* 2007 ; 142 (5) : 734-740.
- 18) Yanagi K¹, Sasajima K¹, Miyamoto M¹, Suzuki S¹, Yokoyama T¹, Maruyama H¹, Matsutani T¹, Arima Y, Uchida E, Tajiri T (¹ Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital) : Evaluation of the Clinical Pathway for Laparoscopic Cholecystectomy and Simulation of Short-term Hospitalization. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (6) : 409-413.
- 19) Gudis K¹, Tatsuguchi A¹, Wada K¹, Hiratsuka T¹, Futagami S¹, Fukuda Y², Kiyama T, Tajiri T, Miyake K¹, Sakamoto C¹ (¹ Div. of Gastroenterology, Dept. of Medicine, ² Dept. of Analytic Human Pathology) : Clinical significance of prostaglandin E synthase expression in gastric cancer tissue. *Human Pathology* 2007 ; 38 (12) : 1826-1835.
- 20) Aimoto T, Uchida E, Kawahigashi K, Nakamura Y, Matsushita A, Katsuno A, Chou K, Kawamoto M, Yamanaka Y, Tajiri T : Improvement of intraoperative frozen section diagnosis in patients with biliary strictures by Levovist injection into the bile duct on color Doppler ultrasonography. *World J Surg* 2008 ; 32 (1) : 88-92.
- 21) Yamada T¹, Tanaka N¹, Yokoi K¹, Seya T¹, Kanazawa Y¹, Koizumi M¹, Ohaki Y², Tajiri T (¹ Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hospital, ² Dept. of Pathology, Chiba Hokusou Hospital) : Correlation between Clinical Pathologic Factors and Activity of 5-FU-Metabolizing Enzymes in Colorectal Cancer. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (1) : 23-27.
- 22) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Nanbu K¹, Mizutani S¹, Satoh S¹, Shioya T¹, Tokunaga A¹, Tajiri T (¹ Gastrointestinal Disease Center, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Low-pressure continuous suction of the bile and pancreatic juice in the hepatic duct and jejunal limb in major hepatectomy with pancreatoduodenectomy. *Surgery Today* 2008 ; 38 (3) : 285-288.
- 23) 中溝宗永¹, 横島一彦¹, 粉川隆行¹, 島田健一¹, 酒主敦子¹, 齊藤明彦¹, 稲井俊太¹, 八木聰明¹, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫 (¹ 耳鼻咽喉科) : 下咽頭食道切除後の一期的再建術式の検討 胃管, 延長胃管, 遊離空腸+胃管の比較. *頭頸部癌* 2007 ; 33 (1) : 17-21.

- 24) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 化学療法による遅発性悪心・嘔吐と血清サブスタンスP値の推移. 癌と化学療法 2007 ; 34 (6) : 903-906.
- 25) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 柏原 元¹⁾, 鈴木英之, 古川清憲, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科) : 結腸右半切除術 : 当科における標準手術手技. 日医大医学会誌 2007 ; 3 (3) : 136-140.
- 26) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 水谷 崇, 加藤俊二, 田尻 孝 : 胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除の現状と栄養学的評価. 癌の臨床 2007 ; 53 (9) : 565-568.
- 27) 田尻 孝, 吉田 寛 : 特集・肝疾患 : 新たな治療戦略 ; 肝硬変における部分的脾動脈塞栓術の意義. Cefiro 2007 ; 6 : 34-37.
- 28) 鈴木英之, 古川清憲¹⁾, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣史, 佐々木順平, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院 外科) : イレウスに対する腹腔鏡下手術の適応. 日本腹部救急医学会誌 2008 ; 28 (1) : 47-52.
- 29) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人, 進士誠一, 大秋美治²⁾, 田尻 孝, その他1名 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 千葉北総病院病理) : 胃癌に対する低濃度Paclitaxelの効果. 癌と化学療法 2008 ; 35 (2) : 251-253.
- 30) 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 廣井 信, 相本隆幸, 中村慶春, 福原宗久, 横山 正, 田尻 孝 : 特集 膵炎研究モデルの作製, 選択, 適用 ; ハムスター膵癌細胞を用いた膵癌の転移特性の解明および治療実験の意義. 膵臓 2008 ; 23 (1) : 60-65.
- 31) 中村慶春, 田尻 孝, 内田英二 : 《特集》腹腔鏡下手術 (肝胆膵) ~より易しく安全な手技上の工夫 : 腹腔鏡下膵尾側切除術. 手術 2008 ; 62 (3) : 289-294.
- 32) 田尻 孝 : 会長講演 ; 胆管上皮癌の分子生物学的検討. 胆道 2008 ; 22 (1) : 8-14.
- (2) 総説 :
- 1) Yoshida H, Mamada Y, Tani N, Tajiri T : Partial splenic embolization. Hepatology Reserch 2008 ; 38 (3) : 225-233.
- 2) 岩切勝彦¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 牧野浩司, 宮下正夫 (¹⁾ 消化器内科) : 【どう使う経鼻内視鏡】構造の差から生じるメリット 操作性. 消化器内視鏡 2007 ; 19 (4) : 591-594.
- 3) 相本隆幸 : 再生医療を用いた膵消化管吻合術の基礎的研究. 手術 2007 ; 61 (5) : 613-617.
- 4) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 新藤智隆¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 琴寄 誠¹⁾, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 野村務, 牧野浩司, 宮下正夫 (¹⁾ 消化器内科) : 【NERDの病態と治療】消化管運動機能からみたNERDの病態. G. I. Research 2007 ; 15 (3) : 202-208.
- 5) 加藤俊二, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター) : Percutaneous Trans-Esophageal Gastro-tubing (PTEG) の有用性 ; PEG不能例における経管栄養法および癌性腹膜炎による消化管閉塞症状緩和における Palliation 手術として. 日医大医学会誌 2007 ; 3 (3) : 128-135.
- 6) 加藤俊二, 田尻 孝 : 上部消化管内視鏡検査に伴う生検時出血. クリニシアン 2007 ; 54 (6) : 642-645.
- 7) 宮下正夫, 二見良平, 田尻 孝 : SCCにおけるinfection source control救急医療領域における感染症. 救急医学 2007 ; 31 (10) : 1385-1389.
- 8) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 田尻 孝 : 肝疾患に対する脾摘, PSEの功罪 ; 特発性門脈圧亢進症に対する脾摘とPSEの功罪. 肝胆膵 2008 ; 56 (3) : 353-360.

(3) 研究報告書 :

- 1) Mamada Y, Yoshida H, Tani N, Shimizu T, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Ishikawa Y, Yokomuro S,

- Arima Y, Akimaru K, Tajiri T : The usefulness of laparoscopic hepatectomy. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (2) : 158-162.
- 2) Mamada Y, Yoshida H, Taniai N, Shimizu T, Kakinuma D, Mizuguchi Y, Ishikawa Y, Akimaru K, Tajiri T : Peritoneovenous shunts for palliation of malignant ascites. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (5) : 355-358.
- (4) 症例報告 :
- 1) Makino H, Miyashita M, Nomura N, Katsuta M, Kashiwabara M, Takahashi K, Yamashita K, Nakamizo M¹⁾, Yokoshima K¹⁾, Onda M²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Otolaryngology and Cervicofacial Surgery, ²⁾ Dept. of Pathology) : Solitary Fibrous Tumor of the Cervical Esophagus. *Digestive Diseases and Sciences* 2007 ; 52 (9) : 2195-2200.
 - 2) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Maruyama H, Katsuta M, Kashiwabara M, Takahashi K, Sasajima K, Yamashita K, Tajiri T : Argon Plasma Coagulation for the Treatment of Superficial Esophageal Carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (2) : 163-167.
 - 3) Ogata M¹⁾, Chihara N¹⁾, Matsunobu T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Yoshino M¹⁾, Shioya T¹⁾, Watanabe M¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T, Matsumoto K²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi-Kosugi Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Musashi-Kosugi Hospital) : A Case of Intra-abdominal Endocrine Tumor Possibly Arising from an Ectopic Pancreas. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (2) : 168-172.
 - 4) Sugihara H¹⁾, Shibasaki T²⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Okajima F¹⁾, Wakita S¹⁾, Nakajima Y¹⁾, Tanimura K¹⁾, Tamura H¹⁾, Ishii S¹⁾, Kamegai J¹⁾, Akasu H, Shimizu K, Nakamura Y, Uchida E, Tajiri T, et al. (¹⁾ Dept. of Medicine, ²⁾ Dept. of Physiology) : A non-acromegalic case of multiple endocrine neoplasia type 1 accompanied by a growth hormone-releasing hormone-producing pancreatic tumor. *J Endocrinol Invest* 2007 ; 30 (5) : 421-427.
 - 5) Futami R¹⁾, Shimanuki K¹⁾, Sugiura A¹⁾, Tsuchiya Y¹⁾, Kaneko M¹⁾, Okawa K¹⁾, Mineta S¹⁾, Sugiyama Y²⁾, Akimaru K, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Aizu Central Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Aizu Central Hospital) : Recurrence of Colonic Cancer Twice at the Site of Stapled Colorectal Anastomosis. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (3) : 251-256.
 - 6) Matsutani T¹⁾, Sasajima K¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Hiroi M¹⁾, Maruyama H¹⁾, Suzuki S¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital) : Pancreatic Cyst Associated with Pancreas Divisum Treated by Laparoscopy-Assisted Cystgastrostomy in the Intra-gastric Approach. *J Laparoendosc Adv Surg Tech* 2007 ; 17 (3) : 317-320.
 - 7) Ogata M¹⁾, Maejima K¹⁾, Chihara N¹⁾, Mizutani S¹⁾, Komine O¹⁾, Bo H¹⁾, Shioya T¹⁾, Watanabe M¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital) : Successful Use of Endoscopic Argon Plasma Coagulation for Patients with Early Gastric Cancer and Diabetes Mellitus. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (3) : 246-250.
 - 8) Koga H, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Bando K, Mizuguchi Y, Ishikawa Y, Yokomuro S, Akimaru K, Tajiri T : Successful percutaneous ultrasound-guided drainage for treatment of a splenic abscess. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (3) : 257-260.
 - 9) Yokomuro S, Arima Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Kawahigashi Y, Kanda T, Arai M, Tajiri T : Occult gallbladder carcinoma after laparoscopic cholecystectomy : a report of four cases. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (4) : 300-305.
 - 10) Ishikawa N¹⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Horiba K¹⁾, Oaki Y²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Chiba Hokusou Hospital) : A case of rectal metastatic tumor

in the sift tissue of the hand. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 309-313.

- 11) Nakamura Y, Tajiri T, Uchida E, Aimoto T, Taniai N, Katsuno A, Cho K, Yoshida H : Adenoma of the minor papilla associated with pancreas divisum. Hepato-Gastroenterol 2007 ; 54 (78) : 1841-1843.
- 12) Maejima K¹⁾, Watanabe M¹⁾, Komine O¹⁾, Mizutani S¹⁾, Bo H¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital) : Granulocyte-colony stimulating factor-producing esophageal carcinosarcoma : a case report. Esophagus 2007 ; 4 (3) : 117-120.
- 13) Kawano Y, Akimaru K, Taniai N, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Takahashi T, Tajiri T : Successful Transjugular Balloon Dilatation of the Hepatic Vein Stenosis Causing Hypoalbuminemia after Pediatric Living-Donor Liver Transplantation. Hepato-Gastroenterol 2007 ; 54 (78) : 1821-1824.
- 14) Ishikawa N¹⁾, Furukawa K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Horiba K¹⁾, Tanaka N¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hospital) : Mild Hemophilia A Diagnosed in a 55-year-old patient after Oancreato-duodenectomy for carcinoma of the papilla of Vater. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (5) : 372-376.
- 15) Matsuda A¹⁾, Kato S, Furuya M¹⁾, Shimizu Y¹⁾, Okino T¹⁾, Sasaki J¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chikusei City Hospital, Ibaraki) : Multiple early gastric cancer with duodenal invasion. World J Surg Oncol 2007 ; 5 (125) : 1-7.
- 16) Kan H, Furukawa K, Suzuki H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Teranishi N, Sasaki J, Tajiri T : An Improvement in the Quality of Life after Performing Endoscopic Balloon Dilation for Postoperative Anatomic Stricture of the Rectum. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (6) : 418-423.
- 17) Seya T¹⁾, Shinji E¹⁾, Tanaka N¹⁾, Shinji S, Koizumi M¹⁾, Horiba K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ohaki Y²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital) : A case of multiple gastric carcinoids that could not be preoperatively diagnosed. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (6) : 430-433.
- 18) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Shinji S, Okazaki H, Ohaki Y³⁾, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Dept. of Pathology, Nippon Medical School Hospital, ³⁾ Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital) : Complete response of a patient with advanced gastric cancer, showing Epstein-Barr virus infection, to preoperative chemotherapy with S-1 and cisplatin. Int J Clin Oncol 2007 ; 12 (6) : 472-477.
- 19) Matsutani T¹⁾, Sasajima K¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Yanagi K¹⁾, Matsuda A¹⁾, Kashiwabara M¹⁾, Suzuki S¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital) : Resection of Pancreatic Metastasis from Renal Cell Carcinoma and an Early Gastric Cancer. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (1) : 41-45.
- 20) Hotta M, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Bando K, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Kanda T, Watanabe K, Tajiri T : Successful Management of Duodenal Varices by Balloon-occluded Retrograde Transvenous Obliteration. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (1) : 36-40.
- 21) 小泉岐博¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 6年間の病脳期間を有した成人Bochdalek孔ヘルニアの1例. 日医大医会誌 2007 ; 3 (2) : 102-104.
- 22) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 第二病理) : Pancreatic groove carcinoma の臨床病理学的研究. 膵臓 2007 ; 22 (2) : 152-153.
- 23) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : CA19-9産生胃癌の1例. 日臨外会誌 2007 ; 68 (4) : 845-849.

- 24) 尾形昌男¹⁾, 千原直人¹⁾, 杠葉 良¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 上田康晴²⁾, 望月 徹²⁾, 黒川 顯²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 同救命救急センター) : 経肛門の直腸内異物の3例. 消化器科 2007 ; 44 (4) : 434-438.
- 25) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人, 進士誠一¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝, その他1名 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : Paclitaxel/CDDP療法にて腹水が消失した進行胃癌3例. 癌と化学療法 2007 ; 34 (5) : 769-772.
- 26) 菅 隼人, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院 外科) : 重篤な肺疾患のため化学放射線療法を施行後にTEMにより局所切除を行った下部直腸癌の1例. 日本大腸肛門病学会誌 2007 ; 60 (5) : 276-280.
- 27) 菅 隼人, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 佐々木順平, 石川義典, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院 外科) : 腸回転異常症が発症の誘因と考えられたS状結腸ストーマ狭窄の1例. 日本腹部救急医学会誌 2007 ; 27 (4) : 645-649.
- 28) 菅 隼人, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院 外科, ²⁾ 多摩永山病院 外科) : 術前にダブルバルーン式小腸鏡にて病変部を観察し腹腔鏡補助下に切除術を行った狭窄型虚血性小腸炎の1例. 日消外会誌 2007 ; 40 (8) : 1514-1519.
- 29) 田中由理子¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 琴寄 誠¹⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 野村 務, 牧野浩司, 宮下正夫, 田尻 孝 (¹⁾ 消化器内科) : バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 新薬と臨床 2007 ; 56 (8) : 1255-1256.
- 30) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科) : 術前診断し腹腔鏡補助下に治癒しえた多発回腸脂肪腫による腸重積症の1例. 日鏡外会誌 2007 ; 12 (4) : 439-443.
- 31) 菅 隼人, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久²⁾, 寺西宣央, 佐々木順平, 内藤善哉³⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院 外科, ²⁾ 多摩永山病院 外科, ³⁾ 第二病理) : 日本住血吸虫卵が介在した直腸癌の1例. Gastroenterol Endosc 2007 ; 49 (9) : 2504-2510.
- 32) 飯田信也, 古川清憲, 横山 正¹⁾, 柳原恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 土屋真一²⁾, 杉崎祐一²⁾, 内藤善哉³⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院 外科, ²⁾ 付属病院 病理部, ³⁾ 第二病理学) : 高齢者に対する初回化学療法としての経口剤CapecitabineとCyclophosphamideの併用療法(XC療法)にて臨床的完全奏功(CR)が得られた転移性乳癌の1例. 癌と化学療法 2007 ; 34 (10) : 1697-1700.
- 33) 新井政男¹⁾, 古谷政一¹⁾, 清水康仁¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 横室茂樹, 田尻 孝 (¹⁾ 筑西市民病院外科) : 黄色肉芽腫性胆嚢炎によりMirizzi症候群をきたした1例. 日臨外会誌 2007 ; 68 (11) : 2853-2857.
- 34) 豊田哲鎬¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 野村 聡¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター) : 狭窄を呈した反復性大腸憩室炎に対する腹腔鏡補助下結腸切除の1例. Prog Dig Endosc 2007 ; 71 (2) : 96-97.
- 35) 菅 隼人, 鈴木英之, 田尻 孝 : 下部直腸からの出血に対し内視鏡的静脈瘤結紮(EVL)デバイスにより止血しえた2例. 日本大腸検査会誌 2008 ; 24 (2) : 37-42.
- 36) 柿沼大輔, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 張 一光, 増田剛太郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 吉田 寛, 田尻 孝 (¹⁾ 神栖済生会病院外科) : 門脈血栓を合併した十二指腸海綿状血管腫の1例. 日消外会誌 2008 ; 41 (1) : 87-92.
- 37) 吉岡正人, 古川清憲¹⁾, 堀場光二¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院 外科) : 動脈塞栓術と経乳頭の膵管ステントが有効であった隣仮性嚢胞の1例. 日医大医学会誌 2008 ; 4 (1) : 41-44.

著 書

- 1) 田尻 孝 : [分担] 日常診療の最新知識 ; 25. 胃食道静脈瘤治療の常識とエビデンス. 第107回日本外科学会定

- 期学術集会 生涯教育コース (第107回日本外科学会定期学術集会), 2007; pp147-151, 日本外科学会.
- 2) 横室茂樹, 田尻 孝: [分担] 3. 内科 C. 消化器 31. 胆嚢炎・胆管炎. 必携 女性の医療学: 外来で役立つ実践ガイド (本庄英雄, 島田和幸), 2007; pp541-543, 永井書店.
 - 3) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝: [分担] 肝・胆・膵・脾の鏡視下手術: 腹腔鏡下膵体尾部切除術. 鏡視下手術のための局所解剖アトラス: 消化器外科第30巻臨時増刊号 (北野正剛), 2007; pp941-953, へるす出版.
 - 4) 古川清憲, 田尻 孝: [分担] 5) 急性腹症; 3-3治療学. 内科学 (杉本恒明, 矢崎義雄), 2007; pp218-223, 朝倉書店.
 - 5) 加藤俊二, 田尻 孝: [分担] 2. 主な胃管とその相違点. 経皮経食道胃管挿入術: 適応から手技・管理の実際まで (監修: 亀岡信悟, 編集: 大石秀人), 2008; pp8-12, 永井書店.
 - 6) 加藤俊二, 田尻 孝: [分担] 3. PTEGの啓蒙と指導および教育. 経皮経食道胃管挿入術: 適応から手技・管理の実際まで (監修: 亀岡信悟, 編集: 大石秀人), 2008; pp173-175, 永井書店.
 - 7) 柳原恵子: [分担] 2. 乳がんの外来治療: 7. 外来化学療法のスケジュール; 3) パクリタキセル+トラスツズマブ療法. がんの外来化学療法のマネジメント (畠 清彦), 2008; pp48-48, 医薬ジャーナル社.
 - 8) 松本智司, 田尻 孝: [分担] 2. 腸疾患; 4. イレウス. 消化器外科学レビュー2008: 最新主要文献と解説 (門田守人, 跡見 裕, 炭山嘉伸), 2008; pp55-60, 総合医学社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Chaudry-H¹⁾, Shimizu T¹⁾, Suzuki T¹⁾, Matsutani T, Kawasaki T¹⁾, Miyashita M, Kashiwabara M, Nomura T, Makino H, Sasajima K, Kim C¹⁾, Yamashita K, Matsuda A, Furukawa K, Suzuki H, et al. ⁽¹⁾ Center for Surgical Research & Dept. of Surgery, Univ. of Alabama at Birmingham, USA): Gender Differences in Immune and Cardiovascular Responses to Trauma and Sepsis. 第22回日本Shock学会総会, 2007. 5.
- 2) 有馬保生: 良悪性の鑑別困難な胆嚢隆起性・肥厚性病変への対処. 第36回武蔵野消化器病談話会, 2007. 11.

(2) 招待講演:

- 1) 中村慶春: 膵臓疾患における鏡視下手術. 第120回 神奈川県臨床外科医学会集談会, 2007. 12.

(3) 教育講演:

- 1) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Tajiri T: Treatment of esophagogastric varices. 1st China-Indonesia Joint International Symposium on Hepatobiliary Medicine and Surgery 2007 (Bali, Indonesia), 2007. 8.
- 2) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Tajiri T: Bi-monthly versus Bi-weekly Endoscopic Variceal Ligation of Esophageal Varices. 1st China-Indonesia Joint International Symposium on Hepatobiliary Medicine and Surgery 2007 (Bali, Indonesia), 2007. 8.
- 3) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 有馬保生, 鈴木英之, 木山輝郎, 横室茂樹, 松本智司, 中村慶春, Suman S¹⁾, 明楽重夫²⁾, 阿曾亮子³⁾, 吉村明修³⁾, 志村俊郎³⁾, 田尻 孝 ⁽¹⁾ カトマンズ医科大学, ⁽²⁾ 日本医科大学女性診療科, ⁽³⁾ 同教育推進室): 医学生に対するVRシミュレーターを用いた内視鏡外科手技の教育システム. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.

(4) シンポジウム:

- 1) Kato S, Matsukura N, Matsuda N, Naito Z¹⁾, Tajiri T ⁽¹⁾ Dept. of Integrated Pathology): Normalization of pH levels of gastric juice and gastric mucosa detected with pepsinogen method and histological assessments by H. pylori eradication in un-operated or resected stomach. The 12th Taishotoyama International Symposium on Gastroenterology (Shimoda, Shizuoka, Japan), 2007. 4.
- 2) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Arima Y, Tajiri T: Incident of complication in laparoscopic cholecys-

tectomy in Japan . 1st China-Indonesia joint International Symposium on hepatobiliary Medicine and Surgery 2007 (Bali, Indonesia), 2007. 8.

- 3) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 水谷 崇, 加藤俊二, 田尻 孝: 胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除の現状と栄養学的評価. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 4) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝: 腹腔鏡下尾側膵切除術. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 5) 奥田武志, 加藤俊二, 藤田逸郎, 山下直行, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 徳永 昭¹⁾, 田中宣威²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 千葉北総病院外科): 癌性腹膜炎による消化管閉塞症状緩和における Palliation 手術および PTEG の応用. 第6回日本 PTEG 研究会・学術集会, 2007. 4.
- 6) 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 当施設における肝切除教育: 6年目の医師として, 助手および術者として肝切除119例の教育を受けた立場から. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- 7) 徳永健吾¹⁾, 鈴木秀和¹⁾, 松久威史¹⁾, 河合 隆¹⁾, 川上浩平¹⁾, 伊藤慎芳¹⁾, 鈴木雅之¹⁾, 大草敏史¹⁾, 永原章仁¹⁾, 加藤俊二, 田代博一¹⁾, 鳥居 明¹⁾, 峯 徹哉¹⁾, 榊 信廣¹⁾, 高橋信一¹⁾ (¹⁾ 東京HP研究会): MNZ を含む2次除菌不成功症例に対する PPI+AMPC+GFLX による *H. pylori* 3次除菌療法の検討: 東京都内多施設における共同調査結果から. 第13回日本ヘリコバクター学会, 2007. 6.
- 8) 古川清憲: 表在癌 (乳腺・皮膚・甲状腺) の診断と治療 update: 外来診療における診断のキーポイントと治療の最前線; I. 乳腺 2) 治療. 日本医科大学医学会第17回公開「シンポジウム」, 2007. 6.
- 9) 加藤俊二, 松倉則夫, 菅野仁士, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 田尻 孝: 残胃の癌発生予防における *H. Pylori* (HP) 除菌治療の効果とそのメカニズム. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 10) 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 古川清憲¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院 外科): 胆嚢腫瘍, 上行結腸癌, S状結腸癌3病変に対し, 腹腔鏡下に同時切除を行った1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 11) 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院 外科): GIST再発に対する治療方針. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 12) 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 坂東功一, 柿沼大輔, 石川義典, 山初和也, 田尻 孝: 食道静脈瘤の治療: EVLかEISか. 第14回日本門脈圧亢進症学会総会, 2007. 9.
- 13) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 石川義典, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 当科における脾機能亢進症に対する PSE, 脾摘の位置付け. 第14回日本門脈圧亢進症学会総会, 2007. 9.
- 14) 野村 務, 内田英二, 有馬保生, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 相本隆幸, 谷合信彦, 中村慶春, 田尻 孝, Shrestha S¹⁾ (¹⁾ カトマンズ医科大学外科): 胆道医を育てる; 医学生に対する VR シミュレーターを用いた内視鏡外科手技の教育システム. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.
- 15) 松本智司, 鈴木英之, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下低位前方切除術における手術手技の工夫. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 16) 菅野仁士, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): 早期胃癌における内視鏡的粘膜下層剥離術後遺残に対する腹腔鏡下胃切除の検討 (胃腫瘍ESD後の遺残再発とその対策). 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 11.
- 17) 木山輝郎, 向後英樹, 関 奈紀, 奥田武志, 藤田逸郎, 菅野仁士, 加藤俊二, 田尻 孝: 消化器外科病棟における専修医主導による栄養回診の試み. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 18) 鈴木英之, 古川清憲¹⁾, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 松田明久²⁾, 進士誠一, 寺西宣央, 佐々

木順平, 田尻 孝¹⁾ 千葉北総病院外科,²⁾ 多摩永山病院外科): 腹腔鏡下大腸手術の手術コストと保険点数. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.

- 19) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 松下 晃, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 真々田裕宏, 野村 務, 吉田 寛, 横室茂樹, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下尾側膵切除術. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 20) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 横室茂樹, 谷合信彦, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: 先天性胆道拡張症における腹腔鏡補助下手術の有用性. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 21) 秋丸琥甫: 肝移植と肝切除における高気圧酸素治療の役割: 基礎と臨床データの評価. 第42回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会, 2007. 11.
- 22) 徳永 昭¹⁾, 森山雄吉²⁾, 松田範子, 木山輝郎, 田尻 孝¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター,²⁾ 森山病院): 抹消循環障害, 創傷治癒, 難治性潰瘍に対する高気圧酸素治療. 第42回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会, 2007. 11.
- 23) 谷合信彦, 吉田 寛, 田尻 孝: 劇症肝不全症例に対する肝移植を考慮したチーム医療による集中治療. 第37回日本肝臓学会西部会, 2007. 12.
- 24) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 田尻 孝: 劇症肝不全症例に対する肝移植を考慮した集中治療. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 横室茂樹, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 当科における肝門部胆管癌の治療方針. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- 2) 吉田 寛, 真々田裕宏, 田尻 孝: 当科における胃静脈瘤治療の最新の考え方. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 3) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 坂東功一, 柿沼大輔, 石川義典, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 孤立性胃静脈瘤に対するIVRに限界はない!. 第14回日本門脈圧亢進症学会総会, 2007. 9.
- 4) 山下直行¹⁾, 加藤俊二, 田尻 孝¹⁾ 坪井病院外科): sNO胃癌手術では迷走神経を温存するべきである. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 5) 松田範子¹⁾, 秋丸琥甫, 木山輝郎, 宮本正章²⁾, 徳永 昭³⁾, 森山雄吉³⁾, 坂本篤裕⁴⁾, 田尻 孝¹⁾ ME部,²⁾ 内科・再生医療科,³⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター,⁴⁾ 付属病院麻酔科): 当施設における四肢末端難治性潰瘍の治療 (骨軟部組織損傷・感染症に対する高気圧酸素治療). 第42回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会, 2007. 11.
- 6) 星野有哉¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): ERCP後膵炎予防にたいしてニトロ製剤投与の検討. 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 11.

(6) ワークショップ:

- 1) 二見良平, 宮下正夫, 笹島耕二¹⁾, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 赤城一郎, 田尻 孝¹⁾ 多摩永山病院外科): 食道癌術後血栓・塞栓症例の検討. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 2) 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 勝田美和子, 松田明久, 松谷 毅, 笹島耕二²⁾, 岩切勝彦¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝¹⁾ 消化器内科,²⁾ 多摩永山病院外科): 食道破裂に対する保存的療法. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 3) 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 宮本昌之¹⁾, 高野照夫¹⁾, 田畑康彦²⁾ (1) 内科,²⁾ 京都大学再生医療科): 生体修復材料を用いた膵消化管吻合術の基礎的研究: 再生医療による新しい吻合手技. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- 4) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: ハムスター膵癌細胞

- を用いた膵癌の転移特性の解明および治療実験の意義. 第38回日本膵臓学会大会, 2007. 6.
- 5) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 高橋 健, 赤城一郎, 加藤俊二, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下精彦, 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 耳鼻科・頭頸部外科, ²⁾ 消化器内科): T3胸部食道癌と気管浸潤頸部食道腫瘍の重複症例. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
 - 6) 千原直人¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 杠葉 良¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 老人病研究所生化学部門): Cybridを用いた大腸癌化学療法の基礎的研究. 第16回日本癌病態治療研究会, 2007. 6.
 - 7) 杠葉 良¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 老人病研究所生化学部門): S-1感受性を擬した大腸癌の抗癌剤感受性試験とミトコンドリアDNAの変異. 第16回日本癌病態治療研究会, 2007. 6.
 - 8) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 山下精彦, 加藤俊二, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 田尻 孝, 岩切勝彦¹⁾, 田中由理子¹⁾, 川見典之¹⁾ ⁽¹⁾ 消化器内科): 水充満法による食道EUSにおける工夫. 第84回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 6.
 - 9) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松下 晃, 張 一光, 川本聖郎, 横室茂樹, 松本智司, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下尾側膵切除術. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
 - 10) 坂東功一, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松下 晃, 張 一光, 川本聖郎, 松本智司, 有馬保生, 田尻 孝: 膵尾部嚢胞性疾患に対して腹腔鏡下尾側膵切除術を施行した1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
 - 11) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 高橋 健, 鈴木英之, 古川清憲, 田尻 孝 ⁽¹⁾ 多摩永山病院外科): 脂肪細胞から見た手術侵襲後の生体反応と術後合併症制御への可能性. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
 - 12) 吉田 寛, 真々田裕宏, 田尻 孝: 当科における食道噴門部静脈瘤に対する治療戦略. 第11回日本肝臓学会大会, 2007. 10.
 - 13) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 血球貪食症候群を合併した劇症肝炎に対する生体肝移植の1症例. 第11回日本肝臓学会大会, 2007. 10.
 - 14) 柿沼大輔, 吉田 寛, 田尻 孝: 当科におけるPSEの位置づけ. 第11回日本肝臓学会大会, 2007. 10.
 - 15) 吉田 寛: 肝胆膵外科領域における持続低圧吸引ドレーンの有用性. 第2回東北消化器外科周術期研究会, 2007. 11.
 - 16) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 横室茂樹, 中村慶春, 秋丸琥甫, 田尻 孝: BLAKE Silicone Drainを使用した私の工夫: 肝胆膵外科領域における様々な使用方法. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
 - 17) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 田尻 孝 ⁽¹⁾ 千葉北総病院外科): 癌疼痛治療へのクリニカルパスの導入と在宅緩和医療の支援. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
 - 18) 杠葉 良¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 老人病研究所生化学部門): 大腸癌におけるS-1感受性を擬したCD-DST法とミトコンドリアDNAの変異. 第18回日本消化器癌発生学会総会, 2007. 11.
 - 19) 千原直人¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 杠葉 良¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 老人病研究所生化学部門): 大腸癌細胞株における抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連. 第18回日本消化器癌発生学会総会, 2007. 11.
 - 20) 渡辺昌則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 山下浩二²⁾, 原口秀司²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 同外科): 外科医主導型の

外来化学療法室の運営. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.

- 21) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉田初雄²⁾, 櫻澤信行, 湖山信篤³⁾, 宮下正夫, 田尻 孝^{(1) 坪井病院外科, 2) 今泉西病院外科, 3) 北里研究所メディカルセンター病院}: 胃癌手術における視野展開, 郭清に対する工夫. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 22) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 吉野直之¹⁾, 原田明希摩¹⁾, 岡本淳一¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 田尻 孝, 清水一雄¹⁾ ^{(1) 胸部外科}: 肺野小型肺癌に対する胸腔鏡補助下肺葉切除術の遠隔成績. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 23) 加藤俊二, 内藤善哉¹⁾, 松倉則夫, 菅野仁士, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 田尻 孝 ^{(1) 第二病理}: 残胃およびESD後の胃癌再発生高危険粘膜の特徴と術後の適切な内視鏡観察への臨床応用. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 24) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉田初雄²⁾, 加藤俊二, 宮下正夫, 田尻 孝 ^{(1) 坪井病院外科, 2) 今泉西病院外科}: 噴門側胃切除における迷走神経温存胃前壁漿膜筋層縦切開噴門形成術. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 25) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 当科における食道胃静脈瘤の治療方針. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.

(7) 一般講演:

- 1) Akagi I, Miyashita M, Makino H, Nomura T, Hagiwara N, Takahashi K, Cho K, Tajiri T, et al. : The significance of PIK3CA in esophageal squamous cell carcinoma. Annual Meeting Am Assoc Cancer Res 2007 (Los Angeles, CA), 2007. 4.
- 2) Matsushita A, Gotze T¹⁾, Gunn J¹⁾, Korc M¹⁾ ^{(1) Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School, Hanover, NH, USA}: Neuropilin-1 associates with c-Met and modulates hepatocyte growth factor actions. . Annual Meeting Am Assoc Cancer Res 2007 (Los Angeles, LA, USA), 2007. 4.
- 3) Makino H, Miyashita M, Nomura T, Takahashi K, Akagi I, Hagiwara N, Sasajima K, Gabrielson E¹⁾, Tajiri T, et al. ^{(1) Dept. of Pathology, Johns Hopkins University}: Expression of platelet-derived growth factor (PDGF) beta in esophageal carcinomas. Annual Meeting Am Assoc Cancer Res 2007 (Los Angeles, CA), 2007. 4.
- 4) Kiyama T, Okuda T, Fujita I, Yoshiyuki T, Mizutani T, Kanno H, Tani A, Kato S, Tajiri T, Barbul A¹⁾ ^{(1) Dept. of Surg., Sinai Hospital of Baltimore and the Johns Hopkins University}: Laparoscopy-Assisted Distal Gastrectomy for Gastric Cancer. 48th Annual Meeting of the Society for Surgery of the Alimentary Tract (Washington DC, USA), 2007. 5.
- 5) Sakurazawa N¹⁾, Yamashita N¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Kato H¹⁾, Fukuhara T¹⁾, Saito Y¹⁾, Iwanami H¹⁾, Miyashita M, Tajiri T ^{(1) Tsuboi Hospital}: A novel device, the anglerfish type of counter tractor, is easy and safe to use patients undergoing endoscopic submucosal dissection. Digestive Disease Week 2007 (Washington DC, USA), 2007. 5.
- 6) Kan H, Furukawa K, Suzuki H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Shinji S, Matsuda A, Tajiri T: A Case of Ischemic Stenosis of the Small Intestine Revealed by Double Balloon Enteroscopy and Resected by Laparoscopy-Assisted Surgery. 53rd Annual Congress of the Japan Section of The International College of Surgeons (Kyoto, Japan), 2007. 6.
- 7) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Maruyama H, Takahashi K, Akagi I, Arima Y, Suzuki H, Yokohama S, Kiyama T, Matsumoto S, Nakamura Y, Iwakiri K, Tajiri T: Usefulness of Laparoscopic Heller-Dor Operation for Patients of Esophageal Achalasia Introduction. Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2007 (Hyderabad, India), 2007. 8.

- 8) Nakamura Y, Uchida E, Nomura T, Matsumoto S, Yamahatsu K, Kawamoto M, Takata H, Tajiri T : Laparoscopic distal pancreatectomy. *Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2007* (Hyderabad, India), 2007. 8.
- 9) Matsumoto S, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Akiya Y, Sasaki J, Tajiri T : Surgical Devices In Laparoscopic Low Anterior Resection. *Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2007* (Hyderabad, India), 2007. 8.
- 10) Yamahatsu K, Nakamura Y, Nomura T, Takata H, Tajiri T : A case of intrapancreatic accessory spleen that mimics non-functional islet-cell tumor : & #65306 ; usefulness of laparoscopic distal pancreatectomy with preservation of the spleen. *Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2007* (Hyderabad, India), 2007. 8.
- 11) Takata H, Matsumoto S, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Akiya Y, Tajiri T : Laparoscopic sigmoidectomy for endometriosis of the sigmoid colon : A case report. *Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2007* (Hyderabad, India), 2007. 8.
- 12) Kan H, Furukawa K, Suzuki H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Shinji S, Matsuda A, Teranishi N, Sasaki J, Tajiri T : A Case of an Inflammatory Fibroid Polyp of the Cecum. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 13) Suzuki H, Furukawa K, Kan H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Matsuda A, Shinji S, Teranishi N, Sasaki J, Tajiri T : Indication of Laaroscopic Colectomy for Advanced Colorectal Cancer. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 14) Ogata M¹⁾, Yoshino M¹⁾, Chihara N¹⁾, Mizutani S¹⁾, Komine O¹⁾, Bo H¹⁾, Shioya T¹⁾, Watanabe M¹⁾, Suzuki H, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital) : Laparoscopic Surgery for Colonic Cancer in a University Branch Hospital. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 15) Matsumoto S, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Akiya Y, Tajiri T : Surgical Techniques of Laparoscopic Low Anterior Resection in Our Institution. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 16) Matsumoto S, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Akiya Y, Tajiri T : Two Cases of Acute Appendicitis after Barium Meal Examination. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 17) Yamada T¹⁾, Furukawa K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Seya T¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Koizumi M¹⁾, Tanaka N¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hospital) : Correlation between Metabolic Enzymes and the Effect of 5FU. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 18) Yoshino M¹⁾, Ogata M¹⁾, Maejima K¹⁾, Ninomiya R¹⁾, Mizutani S¹⁾, Komine O¹⁾, Bo H¹⁾, Shioya T¹⁾, Watanabe M¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital) : Two Remarkably Effective Cases of Folfox or Folfiri for Unresectable Advanced Colorectal Cancer. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 19) Chihara N¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Yuzuriha R¹⁾, Mizutani S¹⁾, Ogata M¹⁾, Tajiri T, Asoh S²⁾, Ohta S²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Institute of Gerontology, Nippon Medical School Hospital) : Association of somatic mutations in mitochondrial DNA with anti-cancer drug resistance upon colorectal cancer cells. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 20) Yuzuriha R¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Chihara N¹⁾, Mizutani S¹⁾, Yoshino M¹⁾, Tajiri T, Asoh S²⁾, Ohta S²⁾ (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital, ²⁾ Institute of Gerontology, Nippon Medical School Hospital) : Chemosensitivity of S-1 and Somatic Mutations of mitochondrial DNA in Surgically Resected Colon Cancer. *11th Congress of Asian Federation of Coloproctology* (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 21) Ozaki T¹⁾, Ogata M¹⁾, Maejima K¹⁾, Chihara N¹⁾, Yoshino M¹⁾, Mizutani S¹⁾, Kurihara Y¹⁾, Bou H¹⁾,

- Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Institute of Gastroenterology, Musashi Kosugi Hospital) : High Incidence of Advanced Colorectal Cancer in Patients Underwent Total Colonoscopy for Fecal Occult Blood Test. 11th Congress of Asian Federation of Coloproctology (Tokyo, Japan), 2007. 9.
- 22) Makino H, Miyashita M, Nomura T, Hagiwara N, Futami R, Takahashi K, Akagi I, Kato S, Kiyama T, Okuda T, Fujita I, Sakurazawa N, Iwakiri K¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Gastroenterology and Hepatology) : Effective of thin or naso-endoscopic examination for the Patients with esophageal carcinomas before and after esophagectomy. Asian Pacific Digestive Week 2007 (Kobe, Japan), 2007. 10.
- 23) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Furukawa K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Ohkawa K¹⁾, Yamada T¹⁾, Shirakawa T¹⁾, Kudoh H¹⁾, Koizumi M¹⁾, Yoshioka M, Shinji S, Katsuta M, et al. (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital) : Expression of Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and Type IV Collagen in Colorectal Cancer with Liver and Pulmonary Metastasis. 15th United European Gastroenterology Week 2007 (Paris, France), 2007. 10.
- 24) Kan H, Furukawa K, Suzuki H, Tsuruta H, Matsumoto S, Akiya Y, Teranishi N, Sasaki J, Tajiri T : An Improvement in the Quality of Life by Performing Endoscopic Balloon Dilation (EBD) for Postoperative Anastomotic Stricture of the Rectum. Asian Pacific Digestive Week 2007 (Kobe, Japan), 2007. 10.
- 25) Horiba K¹⁾, Tanaka N¹⁾, Furukawa K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Shinji S, Ohaki Y²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Dept. of Phthology, Chiba-Hokusoh Hospital) : Extracellular Matrix Metalloproteinase Inducer (Emmprin) in the Patients with Crohn' s Disease and in the Patients with Ulcerative Colitis. 15th United European Gastroenterology Week 2007 (Paris, France), 2007. 10.
- 26) Nakamura Y, Uchida E, Aimoto T, Matsushita A, Cho K, Kawamoto M, Tajiri T : Laparoscopic distal pancreatectomy. 38th American Pancreatic Association Annual Meeting (Chicago, USA), 2007. 11.
- 27) Matsushita A, Gotze T¹⁾, Kawamoto M, Cho K, Nakamura Y, Aimoto T, Uchida E, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T, Korc M¹⁾ (¹⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School, Hanover, NH, USA, ²⁾ Dept. of Integrative Pathology, Nippon Medical School) : Neuropilin-1 associates with c-Met and modulates hepatocyte growth factor actions on cell invasiveness in human pancreatic cancer. 38th American Pancreatic Association Annual Meeting (Chicago, IL, USA), 2007. 11.
- 28) Aimoto T, Uchida E, Matsushita A, Tabata Y¹⁾, Takano T²⁾, Miyamoto M²⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Biomaterials, Institute for Frontier Medic, Kyoto Univ. , ²⁾ Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Controlled release of basic fibroblast growth factor promotes healing of the pancreaticojejunal anastomosis : a novel approach toward zero pancreatic fistula. 38th American Pancreatic Association Annual Meeting (Chicago, USA), 2007. 11.
- 29) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Matsushita A, Katsuno A, Chou K, Kawamoto M, Tajiri T : Efficacy of a Soft Fluted Silicone Drain (Blake DrainR) on Pancreatic Fistula after Pancreaticoduodenectomy : Clinical Research and Basic Experiment. 38th American Pancreatic Association Annual Meeting (Chicago, USA), 2007. 11.
- 30) Kanno H, Kiyama T, Okuda T, Fujita I, Kato S, Yoshiyuki T, Tajiri T : Ghrelin Is Not Affected Body Weight Change After Gastric Banding Plus Vagotomy. Clinical Nutrition Week 2008 (Chicago, USA), 2008. 2.
- 31) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Bando K, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Ishikawa Y, Kanda T, Hotta M, Takata H, Akimaru K, Tajiri T : Surgical disconnection of patent paraumbilical vein in refractory hepatic encephalopathy . The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 32) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Bando K, Kakinuma D, Kanda T, Hotta M, Takata H,

- Akimaru K, Tajiri T : Low-pressure continuous suction of bile and pancreatic juice from the hepatic duct and jejunal limb in major hepatectomy with pancreatoduodenectomy. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 33) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Hirakata A, Kakinuma D, Ishikawa Y, Kanda T, Bando K, Tajiri T : Silicon drain with channels along the sides for internal biliary stenting of hepaticojejunostomy in hepatic hilar malignancies. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 34) Mamada Y, Yoshida H, Taniai N, Bandou K, Mizuguchi K, Kakinuma D, Akimaru K, Furukawa K¹⁾, Tanaka N¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital) : Major Arterioportal Shunt Caused by Hepatocellular Carcinoma. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 35) Taniai N, Akimaru K, Mizuguchi Y, Yoshida H, Tajiri T : Hepatotoxicity Caused by Both Tacrolimus and Cyclosporin after Living Donor Liver Transplantation. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 36) Taniai N, Yoshida H, Akimaru K, Mizuguchi Y, Tajiri T : To Success of Hepatectomy for huge Hepatocellular Carcinoma. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 37) Mizuguchi Y, Yoshida H, Takahashi T, Tajiri T : 5-FU-Related metabolic Enzymes Genes Profiling with Microdissection in Patients with Hepatocellular Carcinoma. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 38) Ueda J, Yoshida H, Shimizu T, Mizuguchi Y, Taniai N, Mamada Y, Akimaru K, Yokomuro S, Arima Y, Naito Z¹⁾, Tajiri T (¹⁾ Dept. of Pathology) : Combined Neuroendocrine Cell Carcinoma and Adenocarcinoma of the Gallbladder : Report of a Case. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 39) Takata H, Taniai N, Yoshida H, Tajiri T : Curative Resection of Primary Hepatic Gastrinoma. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 40) Hotta M, Taniai N, Yoshida H, Takata H, Tajiri T : Successful Management of Duodenal Varices by Balloon-Occluded Retrograde Transvenous Obliteration. The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Seoul, Korea), 2008. 3.
- 41) 松下 晃, 深澤光晴¹⁾, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝, Korc M¹⁾ (¹⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School, Hanover, NH, USA) : Suppression of neuropilin-1 in PANC-1 human pancreatic cancer cells leads to attenuated growth, survival and invasion. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 42) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 細根 勝²⁾, 津久井拓³⁾, 松久威史³⁾, 田尻 孝, et al. (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同病理部, ³⁾ 同消化器科) : Relationship between the risk classification for the patients with GIST/EGIST and molecular targetting therapy. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 43) 川本聖郎, 石渡俊行¹⁾, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 小野ゆり¹⁾, 山本哲志¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 第二病理) : Expression of nestin in pancreatic cancer correlates with nerve and stromal invasion. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 44) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝³⁾, 飯田信也, 佐藤雄一⁴⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器科, ³⁾ 同病理部, ⁴⁾ 北里大学医療衛生学部遺伝子診断学) : MAGE-A10 mRNA expression using highly sensitive in situ hybridiza-

- tion in patients with stomach cancer. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 45) Shrestha S¹⁾, 野村 務, 宮下正夫, 阿曾亮子²⁾, 吉村明修²⁾, 志村俊郎²⁾, 田尻 孝 (1) カトマンズ医科大学, 2) 日本医科大学教育推進室): 内視鏡外科手術手技トレーニングにおけるProMIS: バーチャルリアリティシミュレータの有用性. 第18回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 2007. 11.
- 46) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 南部弘太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター): 肝葉腓頭十二指腸切除時の肝管および挙上空腸脚内の低圧持続吸引による胆汁膵液外瘻の経験. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 47) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院外科): CD-DSTを用いた胃癌に対する5FUの効果予測: 5FUは時間依存性か濃度依存性か?. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 48) 瀬谷知子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一, 大秋美治²⁾, 田尻 孝, 山下精彦, 内藤善哉³⁾, 石渡俊行³⁾ (1) 千葉北総病院外科, 2) 千葉北総病院病理, 3) 第二病理): 大腸癌肝転移症例におけるEMMPRIN, MMP-9, Type IV collagenの発現. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 49) 寺西宣央, 内藤善哉²⁾, 石渡俊行²⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之, 瀬谷知子¹⁾, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 張 一光, 佐々木順平, 川本聖郎 (1) 千葉北総病院外科, 2) 第二病理): 大腸癌組織におけるnestin陽性微小血管の意義と予後との関連. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 50) 進士誠一, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 勝田美和子, 寺西宣央, 小黒辰夫²⁾, 大秋美治²⁾, 川原清子³⁾, 工藤光洋³⁾, 中澤南堂³⁾, その他3名 (1) 千葉北総病院外科, 2) 同病理, 3) 第二病理): 直腸悪性黒色腫におけるc-kitの関与. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 51) 堀場光二¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 大川敬一¹⁾, 田尻 孝, その他1名 (1) 千葉北総病院外科): クロウン病腸管における MMPs, TIMPsの免疫組織化学的検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 52) 萩原信敏¹⁾, 宮下正夫, 笹島耕二³⁾, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, Harris C²⁾, 田尻 孝 (1) 坪井病院外科, 2) Laboratory of Human Carcinogenesis, National Cancer Institute, NIH, 3) 多摩永山病院外科): 喫煙者における血中Cell-free DNA中のp53遺伝子codon248/249変異の定量および同定. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 53) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 秋丸琥甫, 田尻 孝: X線不透過マーカー (SITZMARKS) を用いた肝切除術後における消化管運動の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 54) 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 周期経口分枝鎖アミノ酸製剤投与における栄養アセスメントと有用性の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 55) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 鳥巢至道²⁾, 張 一光, 宮本正章¹⁾, 高野照夫¹⁾, 田畑康彦³⁾, 近藤洋五²⁾, 鷺巢 誠²⁾, 田尻 孝 (1) 付属病院内科, 2) 日本獣医生命科学大学, 3) 京都大学再生医療科): bFGF含浸ゼラチンハイドロゲルを用いた膵消化管吻合術の基礎的研究: 再生医療による縫合不全のない吻合をめざして. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 56) 加藤俊二, 松倉則夫, 菅野仁士, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター): 胃切除後症候群に対する積極的介入治療のエビデンス 体重減少, H. pylori除菌治療, 骨代

- 謝障害, 貧血, VitB12欠乏, 逆流および残胃症状と残胃炎との関連. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 57) 奥田武志, 菅野仁士, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝: 偶然発見される小さな消化管粘膜下腫瘍の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 58) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 勝田美和子¹⁾, Gabrielson E²⁾, 田尻 孝^{(1) 千葉北総病院外科, 2) Dept. Pathol. Johns Hopkins University, USA}): 食道癌におけるPDGFB発現の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 59) 張 一光, 石渡俊行¹⁾, 中溝南堂¹⁾, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 寺西宣央, 川本聖郎, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝^{(1) 第二病理}): 腺癌における血行性転移の新たな治療戦略: Keratinocyte Growth Factor (KGF) /KGF Receptor (KGFR) Pathwayの役割の解析と制御. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 60) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 細根 勝²⁾, 飯田信也, 佐藤雄一³⁾, 田尻 孝^{(1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 北里大学医療衛生学部遺伝子検査学}): cRNAプローブを用いた胃癌組織におけるMAGE-A10mRNA発現の検討とその臨床的意義. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 61) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柏原 元¹⁾, 松田明久¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 柳 健¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝^{(1) 多摩永山病院外科}): 食道癌手術前メチルプレドニゾン投与による炎症・免疫反応とGender difference. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 62) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 高橋 健, 丸山 弘¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柏原 元¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 柳 健¹⁾, 宮下正夫, 古川清憲, 田尻 孝^{(1) 多摩永山病院外科}): 手術侵襲後感染症におけるアディポネクチンの役割. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 63) 渡辺昌則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 石渡俊行²⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 内藤善哉²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝^{(1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 第二病理}): 消化管癌のTumorigenesisにおけるKeratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) とそのligandsの役割. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 64) 尾崎卓司¹⁾, 尾形昌夫¹⁾, 千原直人¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 栗原雄司¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝^{(1) 武蔵小杉病院消化器病センター}): 便潜血反応陽性にて紹介された患者に対する全大腸内視鏡検査の成績と治療内容の解析. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 65) 千原直人¹⁾, 杠葉 良¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾, 渡会伸治³⁾, 島田 紘³⁾^{(1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 日本医科大学医学加齢科細胞生物学, 3) 横浜市立大学肝胆移植外科}): 大腸癌細胞における抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 66) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳健¹⁾, 二見良平¹⁾, 柏原 元¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 田尻 孝^{(1) 多摩永山病院外科}): 術後再発食道扁平上皮癌に対する5-FU+CDDP療法後のDocetaxel+5-FU+CDDP併用療法の有効性について. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 67) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝^{(1) 多摩永山病院外科}): 大腸切除後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 68) 二見良平, 宮下正夫, 柏原 元, 牧野浩司, 野村 務, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 寺嶋克幸²⁾, 竹田晋浩²⁾, 坂本篤裕²⁾, 田尻 孝^{(1) 多摩永山病院外科, 2) 付属病院麻酔科}): 食道癌手術における術前ステロイド投与が術後VEGFに与える影響. 第22回日本Shock学会総会, 2007. 5.
- 69) 赤城一郎, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅¹⁾, 萩原信敏²⁾, 高橋 健²⁾, 谷 杏彌, 竹田晋浩³⁾, 寺

- 嶋克幸³⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 坪井病院外科, ³⁾ 付属病院麻酔科): SIRSの重症度と手術前後の血清TGF- β , VEGFの関係. 第22回日本Shock学会総会, 2007. 5.
- 70) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎, 山下直行¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 田中由里子²⁾, 川見典之²⁾, 加藤俊二, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 田尻 孝⁽¹⁾ 坪井病院外科, ²⁾ 付属病院内科): 内視鏡手技における私の工夫(食道胃)水充満法による食道EUSにおける工夫. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 71) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松田明久¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 柏原 元¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 高橋 健, 宮下正夫, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科): 胸部食道癌手術における術後合併症と性ホルモン(Testosterone, Estradiol, DHEA)値の関係. 第22回日本Shock学会総会, 2007. 5.
- 72) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 坂東功一, 水口義昭, 石川義典, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: PSE, PTOと外科的傍臍静脈結紮術を併用した特異な門脈大循環シャントの1例. 第2回静脈治療標準化研究会, 2007. 5.
- 73) 重原健吾, 鈴木英之, 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 宮下正夫, 古川清憲, 田尻 孝: 鉄欠乏性貧血を契機に見えられた原発性小腸癌の1例. 第294回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 5.
- 74) 櫻澤信行¹⁾, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 福原貫太郎²⁾, 斎藤行世²⁾, 宮下正夫, 田尻 孝⁽¹⁾ 坪井病院外科, ²⁾ 同内科): 両端ループ付き細経スプリングのカウンタートラクション法による粘膜胃癌に対するESDの1症例. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 75) 高橋吾郎, 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 向後英樹, 宮下正夫, 田尻 孝: 回腸瘻瘻を同時に認めた結腸憩室炎によるS状結腸膀胱瘻の1例. 第805回外科集談会, 2007. 6.
- 76) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 田尻 孝, その他8名: 食道扁平上皮癌におけるSNO遺伝子発現の意義. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 77) 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 野口智子, 土屋眞一¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 付属病院病理部): カペシタビンとシクロフォスファミドの併用療法(XC療法)にて臨床的完全奏効(CR)が得られた転移性乳癌の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 78) 二見良平, 宮下正夫, 笹島耕二¹⁾, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 赤城一郎, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科): 高齢者食道癌(75歳以上)の手術成績. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 79) 萩原信敏¹⁾, 宮下正夫, 山下直行¹⁾, 笹島耕二²⁾, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅²⁾, 二見良平, 柏原 元²⁾, 勝田美和子, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎, 山下精彦, 田尻 孝⁽¹⁾ 坪井病院外科, ²⁾ 多摩永山病院外科): 全身化学療法にて軽快, 憎悪の経過を辿っている食道小細胞癌の1例. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 80) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 二見良平, 高橋 健, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柏原 元¹⁾, 堀場光二²⁾, 大川敬一²⁾, 勝田美和子²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 千葉北総病院外科): 鏡視下手術の工夫と成績: 当科の鏡視下手術の工夫と成績. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 81) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 田中由里子²⁾, 林 良紀²⁾, 琴寄 誠³⁾, 岩切勝彦²⁾, 坂本長逸²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 付属病院消化器内科, ³⁾ 千葉北総病院内科): 当教室における食道アカラシアに対する腹腔鏡下Heller-Dor法の治療経験. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 82) 谷谷信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 中村慶春, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 進行肝細胞癌に対する肝切除術の実際. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- 83) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝, 江原彰人¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): 蛋白漏出性胃腸症を伴い胃・大腸の多重癌も併存した多発性大腸ポリープの1例. 第84回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 6.

- 84) 飯田信也, 古川清憲, 柳原恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 樋口勝美¹⁾, 土屋眞一²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 東京白十字病院外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院病理部): 当科における乳癌に対する併用法センチネルリンパ節生検の成績. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 85) 柳原恵子, 野口智子, 奥平かおり, 飯田信也, 源河敦史, 樋口勝美¹⁾, 土屋眞一²⁾, 古川清憲, 田尻 孝 (¹⁾ 東京白十字病院外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院病理部): アロマトーゼ阻害剤による筋関節痛の発生頻度. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 86) 野口智子, 古川清憲, 飯田信也, 柳原恵子, 岩崎玲子, 土屋眞一¹⁾, 樋口勝美²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 東京白十字病院外科): 化学療法中に出血梗塞壊死をきたした浸潤性乳管癌の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 87) 中村慶春, 有馬保生, 横室茂樹, 内田英二, 相本隆幸, 松下 晃, 水口義昭, 張 一光, 川本聖郎, 川東 豊, 神田知洋, 真々田裕宏, 松本智司, 吉田 寛, 谷合信彦, その他1名: 先天性胆道拡張症に対して腹腔鏡補助下手術を施行した1例. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- 88) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松下 晃, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 吉田 寛, 横室茂樹, 有馬保生, 松本智司, 田尻 孝: 膵粘液性嚢胞腺腫に対し腹腔鏡下尾側膵切除術を施行した1例. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- 89) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松下 晃, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 膵粘液性嚢胞腺腫に対し腹腔鏡下尾側膵切除術を施行した1例. 第38回日本膵臓学会大会, 2007. 6.
- 90) 松下 晃, 深澤光晴¹⁾, 内田英二, 張 一光, 川本聖郎, 中村慶春, 相本隆幸, Korc M¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School, Hanover, NH, USA): 膵癌の新しい治療標的としての neuropilin-1, その integrin beta1 との関連について. 第38回日本膵臓学会大会, 2007. 6.
- 91) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 膵液瘻治療における Blake drain の有用性: 基礎的実験と臨床例の検討から. 第38回日本膵臓学会大会, 2007. 6.
- 92) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 西 佳史¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 古川清憲, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同病理部): 転移性乳癌における Capecitabine/Cyclophosphamide 療法 (XC療法) の検討 (第2報). 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 93) 柳田裕美¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 横山 正²⁾, 古川清憲, 田尻 孝, 内藤善哉³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 同外科, ³⁾ 第二病理): 穿刺吸引細胞診で診断し得た乳房内結節性筋膜炎の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 94) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科): 胆道癌における全身化学療法の有用性について: Gemcitabine 使用症例の検討から. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- 95) 宮本昌之¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科): 肝細胞癌治療における腹腔鏡下 Radio Frequency Ablation (RFA) の位置付け. 第19回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 2007. 6.
- 96) 張 一光, 石渡俊行¹⁾, 中澤南堂¹⁾, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 寺西宣央, 川本聖郎, 藤原ゆり¹⁾, 川原清子¹⁾, 鈴木妙子¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 第二病理): 膵癌の静脈侵襲における KGF, KGFreceptor (KGFR) と VEGF の関与. 第38回日本膵臓学会大会, 2007. 6.
- 97) 川本聖郎, 石渡俊行¹⁾, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 山本哲志¹⁾, 藤井雄文¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 河本陽子¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 第二病理): 膵癌における nestin の発現とその意義. 第38回日本膵臓学会大会, 2007. 6.

- 98) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 二見良平¹⁾, 柏原 元¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院外科): 進行・再発食道扁平上皮癌に対する Docetaxel + 5-FU + CDDP 併用療法の評価. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 99) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 切除不能・再発食道癌に対する DCF 療法の2奏功例. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 100) 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌術後重症肝不全の1例. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 101) 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡¹⁾, 尾碕卓司¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 狭窄を呈した反復性大腸憩室炎に対する腹腔鏡補助下結腸切除の1例. 第84回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 6.
- 102) 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 尾碕卓司¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): PPI服用により軽快した抗血小板薬長期服用に伴う AGML の1例. 第84回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 6.
- 103) 金丸拓也, 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 重原健吾, 寺西宣央, 加藤俊二, 古川清憲, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾ (第二病理): sm浸潤癌の様相を呈した直腸 serrated adenoma の1例. 第84回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 6.
- 104) 川上浩平¹⁾, 河合 隆¹⁾, 伊藤慎芳¹⁾, 永原章仁¹⁾, 松久威史¹⁾, 徳永健吾¹⁾, 鈴木秀和¹⁾, 峯 徹哉¹⁾, 鈴木雅之¹⁾, 加藤俊二, 高橋信一¹⁾, 榊 信廣¹⁾ (東京HP研究会): 3剤療法による *H. pylori* 除菌率の経年的推移: 東京都内多施設における共同調査結果から. 第13回日本ヘリコバクター学会, 2007. 6.
- 105) 埴 秀暁¹⁾, 小峯 修¹⁾, 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 診断に難渋した急性虫垂炎の4例. 第805回外科集談会, 2007. 6.
- 106) 徳永 昭¹⁾, 松田範子, 木山輝郎, 秋丸琥甫, 田尻 孝, 宮本正章²⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 附属病院内科): 慢性動脈閉塞に対する自己骨髄幹細胞移植による血管新生療法—高気圧酸素治療の意義. 第7回日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会総会, 2007. 6.
- 107) 菅野仁士, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝: 胃バンディングを用いたラット肥満手術モデル作成. 日本外科代謝栄養学会第44回学術集会, 2007. 7.
- 108) 菅野仁士, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (消化器内科): 早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の腹腔鏡下胃切除の検討. 第39回胃病態機能研究会, 2007. 7.
- 109) 沖野哲也¹⁾, 古谷政一¹⁾, 清水康仁¹⁾, 田尻 孝, 新井政男¹⁾ (筑西市民病院外科): 十二指腸狭窄で発症した後腹膜デスマイドの1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 110) 高橋 健¹⁾, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏¹⁾, 柏原 元, 勝田美和子, 赤城一郎, 山下直行¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (坪井病院外科): 術前抗p53血清抗体値は食道癌手術後再発予想のマーカーとなりえるか. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 111) 柏原 元¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院外科): 空腸 gastrointestinal stromal tumor にて消化管出血をきたした von Recklinghausen 病の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 112) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 張 一光, 田尻 孝, その他8名: 食道扁平上皮癌 3q26領域における遺伝子発現の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 113) 秋谷行宏, 古川清憲, 内田英二, 鈴木英之, 中村慶春, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 川本聖郎, 田尻

- 孝：大腸癌に併存し同時に腹腔鏡下に切除した膵嚢胞性疾患の1例。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 114) 二見良平，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，赤城一郎，田尻 孝：高齢者食道癌（75歳以上）の治療成績。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 115) 進士誠一¹⁾，田中宣威¹⁾，古川清憲¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，金沢義一¹⁾，山田岳史¹⁾，白川 毅¹⁾，大川敬一¹⁾，工藤秀徳¹⁾，吉岡正人¹⁾，小泉岐博¹⁾，田尻 孝¹⁾，その他2名（¹⁾千葉北総病院外科）：大腸癌内視鏡的摘除後追加腸切除例におけるリンパ節転移陽性症例の検討。第67回大腸癌研究会，2007. 7.
- 116) 菅 隼人，鈴木英之，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，進士誠一，松田明久，寺西宣央，佐々木順平，古川清憲¹⁾，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科）：肛門管にかかる下部直腸癌に対する術前化学放射線療法。第67回大腸癌研究会，2007. 7.
- 117) 木山輝郎，奥田武志，藤田逸郎，菅野仁士，谷 杏彌，吉行俊郎，加藤俊二，田尻 孝：StageII胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除の検討。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 118) 山田岳史¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，瀬谷知子¹⁾，金沢義一¹⁾，白川 毅¹⁾，大川敬一¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科）：5-FU関連酵素OPRT，DPD，TSの5-FU感受性に与える影響。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 119) 牧野浩司，宮下正夫，野村 務，高橋 健，赤城一郎，奥田武志，藤田逸郎，大川敬一，堀場光二，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科）：効果的で，副作用が少ない食道癌に対するNeoadjuvant CRT。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 120) 真々田裕宏，吉田 寛，谷合信彦，坂東功一，水口義昭，清水哲也，柿沼大輔，石川義典，秋丸琥甫，田尻 孝：難治性癌性腹水症例に対するPeritoneovenous shuntの臨床経験。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 121) 金沢義一¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，瀬谷知子¹⁾，白川 毅¹⁾，山田岳史¹⁾，大川敬一¹⁾，小泉岐博¹⁾，吉岡正人¹⁾，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科）：胃癌におけるTSおよびDPDmRNA発現の検討。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 122) 進士誠一¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，瀬谷知子¹⁾，金沢義一¹⁾，山田岳史¹⁾，白川 毅¹⁾，大川敬一¹⁾，小泉岐博¹⁾，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科）：StageII/III直腸癌（Ra，Rb）pT3症例における腫瘍浸潤距離の臨床病理学的意義。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 123) 鈴木英之，古川清憲²⁾，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，松田明久¹⁾，進士誠一，寺西宣央，田尻 孝（¹⁾多摩永山病院外科，²⁾千葉北総病院外科）：進行大腸癌に対応した腹腔鏡下手術手技の検討。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 124) 野村 務，宮下正夫，牧野浩司，高橋 健²⁾，赤城一郎，木山輝郎，加藤俊二，横島一彦¹⁾，中溝宗永¹⁾，田尻 孝（¹⁾耳鼻科，²⁾坪井病院外科）：下咽頭喉摘および食道全摘が必要な頸部食道癌，下咽頭癌に対する術式の工夫。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 125) 大川敬一¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，金沢義一¹⁾，白川 毅¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，勝田美和子，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，山下精彦，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科）：胸部食道癌に対するCDGP，5-FU併用術前放射線化学療法の治療成績。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 126) 宮下正夫，牧野浩司，萩原信敏¹⁾，高橋 健¹⁾，赤城一郎，二見良平，大川敬一，野村 務，田尻 孝（¹⁾坪井病院外科）：食道癌におけるp53遺伝子および関連遺伝子の臨床的意義。第62回日本消化器外科学会定期学術総会，2007. 7.
- 127) 柳 健¹⁾，笹島耕二¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，宮本昌之¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，鈴木成治¹⁾，松谷毅¹⁾，田尻 孝（¹⁾多摩永山病院外科）：巨大直腸異物に対する腹腔鏡補助下異物摘出術の1例。第62回日本消

化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.

- 128) 谷合信彦, 秋丸琥甫, 石川義典, 神田知洋, 水口義昭, 柿沼大輔, 真々田裕宏, 吉田 寛, 田尻 孝: カルシニューリン阻害剤により繰り返し薬剤性肝障害をきたした生体肝移植後の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 129) 松下 晃, 内田英二, 川本聖郎, 張 一光, 中村慶春, 相本隆幸, Korc M¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School, Hanover, NH, USA): Neuropilin-1 associates with c-Met and modulates hepatocyte growth factor actions. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 130) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 宮本正章¹⁾, 高野照夫¹⁾, 田畑康彦²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 内科, ²⁾ 京都大学再生医療科): 生体修復機材を用いた新たな膵腸吻合術の試み: 再生医療による強固な吻合をめざして. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 131) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 菅野仁士, 谷 杏彌, 田尻 孝: 栄養スクリーニングとカテーテル関連血流感染に関する検討. 日本外科代謝栄養学会第44回学術集会, 2007. 7.
- 132) 坊 英樹¹⁾, 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 埜 秀暁¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における上部消化管穿孔性腹膜炎にたいする治療の検討. 第39回胃病態機能研究会, 2007. 7.
- 133) 横室茂樹, 清水哲也, 有馬保生, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 田尻 孝: 胆管上皮癌の増殖および抑制因子“正常人胆管上皮との比較”. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 134) 菅 隼人, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝⁽¹⁾ 千葉北総病院外科): 下部直腸癌に対し術前化学放射線療法を行った症例の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 135) 柿沼大輔, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 吉田 寛, 高崎秀明¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 増田剛太郎¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 神栖済生会病院外科): 術前に確定診断し得た門脈血栓を伴う十二指腸血管種の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 136) 神田知洋, 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 佐々木順平, 寺西宣央, 宮下正夫, 田尻 孝, 古川清憲¹⁾ ⁽¹⁾ 千葉北総病院外科): 急性胃腸炎で発症し, 経過中に原因不明の小腸壊死を来した1例. 第295回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 7.
- 137) 埜 秀暁¹⁾, 星野有哉¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): アメーバ性肝膿瘍の1例. 第295回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 7.
- 138) 二宮理貴¹⁾, 星野有哉¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 亀背患者にみられた左葉形成不全を伴う胆嚢炎の1例. 第295回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 7.
- 139) 宮本昌之¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科): 異時性多発肝細胞癌に対し, 超音波診断用造影剤Perflubutane併用RFAが有用であった1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 140) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器科): 全生存期間・無増悪生存期間からみたmFOLFOX6法を導入した進行・再発大腸癌症例の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 141) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 内田英二¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科): 胆膵癌術後の膵腸縫合不全対策: リリアパックによる膵管外瘻チューブ持続吸引の有用性. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 142) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科): Gender differenceと性ホルモン値からみた食道癌手術侵襲の評価. 第

- 62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 143) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 渡邊隆弥²⁾, 櫻澤信行, 吉田初雄³⁾, 湖山信篤⁴⁾, 加藤俊二, 宮下正夫, 田尻 孝 (1) 坪井病院外科, (2) 同緩和ケア科, (3) 今泉西病院外科, (4) 北里研究所メディカルセンター病院): 上部胃癌 (U) に対する手術の要点 (噴門側切除の適応, 郭清範囲, 再建, 残胃のフォロー). 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 144) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 高橋 健¹⁾, 宮下正夫, 櫻澤信行, 田尻 孝 (1) 坪井病院外科): 胃全摘術後に発症した上腸間膜動脈閉塞症の救命例: 経管チューブの工夫. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 145) 前島顕太郎¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター): 高齢者 (70歳以上) 胃癌手術症例の検討: 合併症・在院死の減少をめざして. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 146) 杠葉 良¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 老人病研究所生化学部門): S-1を指標とした大腸癌治療の基礎的研究: in vitro抗癌剤感受性試験の樹立とmtDNA変異. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 147) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター): 切除不能・再発食道癌に対するDocetaxel (TXT) + CDDP+5-FU併用療法 (DCF療法) の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 148) 千原直人¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 杠葉 良¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 老人病研究所生化学部門): FOLFOXを指標とした大腸癌治療: in vitro抗癌剤感受性試験の樹立とミトコンドリアDNA変異. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 149) 渡辺昌則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 石渡俊行²⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 日本医科大学病理部): 消化管癌におけるKeratinocyte growth factor (KGF) とreceptorの役割. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 150) 尾崎卓司¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 千原直人¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター): 便潜血反応陽性者に対する全大腸内視鏡で発見された大腸癌に対する治療. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 151) 水谷 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 星野有哉¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 渋谷哲男²⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝 (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, (2) 大宮医師会市民病院外科): 臍頭十二指腸切除・Child再建術後に発症した膵液漏の特徴と対策. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 152) 山初和也, 加藤俊二: 胃・十二指腸潰瘍穿孔症例のフォローアップ. ピロリ菌除菌治療は再穿孔予防に有効か?. 潰瘍病態研究会第16回フォーラム, 2007. 8.
- 153) 新井政男¹⁾, 羽尾邦彦¹⁾, 横山滋彦¹⁾, 廣井 信¹⁾, 横室茂樹, 田尻 孝 (1) 横須賀市立うわまち病院外科): 黄色肉芽腫性胆嚢炎にてMirizzi症候群をきたした1例. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.
- 154) 新井政男¹⁾, 吉安正行¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 池田研吾¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 峯田 章¹⁾, 谷 杏彌¹⁾, 田尻 孝 (1) 博慈会記念総合病院外科): 大網裂孔ヘルニアの1例. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 155) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 張 一光, 三嶋拓也¹⁾, 渡辺直子²⁾, 牛島俊和²⁾, 瀧澤俊広¹⁾, 田尻 孝, その他12名 (1) 第一解剖, (2) 国立がんセンター研究所発がん研究部): 食道扁平上皮癌におけるPIK3CA遺伝子発現の意義. 第66回日本癌学会総会, 2007. 9.
- 156) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 川東 豊, 石川義典, 神田知洋, 有馬保生, 横室茂樹, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 当科における肝門部胆管癌の治療方針. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.
- 157) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 二見良平, 高橋 健, 堀場光二¹⁾, 大川敬一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院外科): 食道癌多発性肝・リンパ節転移に対してCRTと

- chemotherapyで10ヶ月の延命効果が得られた1例。第296回日本消化器病学会関東支部例会，2007. 9.
- 158) 関 奈紀，野村 務，宮下正夫，牧野浩司，大川敬一，土屋喜一，赤城一郎，川見典之¹⁾，田中由理子¹⁾，岩切勝彦¹⁾，山下精彦，坂本長逸¹⁾，田尻 孝¹⁾ (消化器内科)：腹腔鏡下にて治療を行った巨大食道裂孔ヘルニアの1例。第296回日本消化器病学会関東支部例会，2007. 9.
- 159) 堀田正啓，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，松本智司，坂東功一，水口義昭，柿沼大輔，石川義典，神田知洋，秋丸琥甫，田尻 孝：十二指腸静脈瘤に対しBPTO施行した1例。第14回日本門脈圧亢進症学会総会，2007. 9.
- 160) 坂東功一，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，松本智司，水口義昭，柿沼大輔，石川義典，神田知洋，秋丸琥甫，田尻 孝：部分的脾動脈塞前術後に脾被膜下出血をきたした1例。第14回日本門脈圧亢進症学会総会，2007. 9.
- 161) 柳 健¹⁾，笹島耕二¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，宮本昌之¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，鈴木成治¹⁾，松谷毅¹⁾，土屋喜一¹⁾，松田明久¹⁾，柏原 元¹⁾，西 佳史¹⁾，新井洋紀¹⁾，田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院外科)：腹腔鏡下胆嚢摘出術における入院期間の再検討。第43回日本胆道学会学術集会，2007. 9.
- 162) 清水哲也¹⁾，山本一仁¹⁾，峯田 章²⁾，福原宗久¹⁾，富樫晃祥，木内博之¹⁾，田尻 孝¹⁾ (北村山公立病院外科，²⁾ 博慈会記念総合病院外科)：胆嚢捻転症の1例。第43回日本胆道学会学術集会，2007. 9.
- 163) 栗田智子，飯田信也，柳原恵子，土屋眞一¹⁾，田尻 孝¹⁾ (付属病院病理部)：センチネルリンパ節生検において印環細胞癌をみとめた浸潤性乳管癌の1例。第806回外科集談会，2007. 9.
- 164) 菅 隼人，鈴木英之，田尻 孝：下部直腸からの出血に対し内視鏡的結紮法 (EVL) で止血し得た2例。第25回日本大腸検査学会総会，2007. 9.
- 165) 中村慶春，有馬保生，横室茂樹，内田英二，相本隆幸，水口義昭，川東 豊，神田知洋，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，田尻 孝：術中胆道造影検査が比較的稀な胆道病変の診断契機となった3例。第43回日本胆道学会学術集会，2007. 9.
- 166) 馬越通信：S状結腸癌と腹腔鏡下合併切除を行った陶器様胆嚢の1例。第43回日本胆道学会学術集会，2007. 9.
- 167) 横山 正¹⁾，笹島耕二¹⁾，宮本昌之¹⁾，丸山 弘¹⁾，松谷 毅¹⁾，柳 健¹⁾，柏原 元¹⁾，松田明久¹⁾，西 佳史¹⁾，新井洋紀¹⁾，田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院外科)：当科における胆道癌Gemcitabine使用症例の検討と2nd lineとしてのS-1+CDDP導入への試み。第43回日本胆道学会学術集会，2007. 9.
- 168) 南部弘太郎¹⁾，塩谷 猛²⁾，星野有哉²⁾，水谷 聡²⁾，渋谷哲男²⁾，徳永 昭²⁾，田尻 孝¹⁾ (大宮医師会市民病院外科，²⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：当センターにおける閉塞性黄疸に対する胆道ドレナージ治療。第43回日本胆道学会学術集会，2007. 9.
- 169) 水谷 聡¹⁾，前島顕太郎¹⁾，塩谷 猛¹⁾，埴 秀暁¹⁾，吉野雅則¹⁾，小峯 修¹⁾，星野有哉¹⁾，尾形昌男¹⁾，渡辺昌則¹⁾，渋谷哲男²⁾，徳永 昭¹⁾，田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾ 大宮医師会市民病院外科)：急性胆管炎中等症に対する緊急ERBDの適応に対する検討。第43回日本胆道学会学術集会，2007. 9.
- 170) 塩谷 猛¹⁾，星野有哉¹⁾，水谷 聡¹⁾，南部弘太郎¹⁾，徳永 昭¹⁾，田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：高齢者急性胆嚢炎の治療。第43回日本胆道学会学術集会，2007. 9.
- 171) 向後英樹，奥田武志，藤田逸郎，関 奈紀，木山輝郎，田尻 孝：腸重積を繰り返した小腸GISTの1例。第806回外科集談会，2007. 9.
- 172) 馬越通信，水口義昭，鈴木英之，松本智司，鶴田宏之，菅 隼人，秋谷行宏，寺西宣央，佐々木順平，鈴木大悟，田尻 孝：Peutz-Jeghers症候群に合併した腸重積症に対し小腸部分切除を行った1例。第806回外科集談会，2007. 9.
- 173) 新井洋紀¹⁾，笹島耕二¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，宮本昌之¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，鈴木成治¹⁾，松谷毅¹⁾，柳 健¹⁾，松下 晃¹⁾，柏原 元¹⁾，松田明久¹⁾，西 佳史¹⁾，田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院外科)：胃全摘術後の輸入脚閉塞に対して経胆管的ドレナージが有効であった1例。第806回外科集談会，2007. 9.

- 174) 西 佳史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 田尻 孝 (多摩永山病院外科): Composix Kugel パッチで修復したSpigelヘルニアの1例. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 175) 松野邦彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 堀場光二¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 金沢 義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝 (千葉北総病院外科): 乳癌の術前術後の精査中に見つかった無症候性左房粘液腫の3例. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 176) 埜 秀暁¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 野村 聡¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 遠藤直哉²⁾, 織井恒安²⁾, 日置正文²⁾, 田尻 孝 (武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 同外科): 人工血管により絞扼性イレウスを起こした1例. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 177) 高橋 健¹⁾, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 齋藤行世²⁾, 岩波 洋¹⁾, 田尻 孝 (坪井病院外科, ²⁾ 同内科): 胃癌に胆嚢十二指腸瘻を合併した1例. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 178) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 菅野仁士, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝: 胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除の手術プロセスの改善. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 179) 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 清水哲也, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 難治性癌性腹水に対するPeritoneovenous shuntの経験. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 180) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人, 進士誠一, 田尻 孝, その他1名 (千葉北総病院外科): 大腸癌におけるオキザリプラチンの効果. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 181) 進士誠一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 田尻 孝, その他4名 (千葉北総病院 外科): StageII大腸癌の再発危険因子に関する検討. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 182) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 萩原信敏²⁾, 高橋 健²⁾, 赤城一郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 笹島耕二³⁾, 山下精彦, 岩切勝彦¹⁾, 田尻 孝 (付属病院消化器内科, ²⁾ 坪井病院外科, ³⁾ 多摩永山病院外科): CRT後再発食道癌症例に対するArgon Plasma coagulation (APC) 治療. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 183) 進士誠一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻 孝 (千葉北総病院外科, ²⁾ 同病理部): StageII結腸癌における病理組織学的リンパ節検索個数の重要性. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 184) 柳 健¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 松田明久¹⁾, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝, その他4名 (多摩永山病院外科): 保存的に加療しえた高度十二指腸狭窄を伴うGroove pancreatitisの1例. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 185) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 中村慶春, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 放射線治療+ジェムザールにてlong-NCを得た肝内胆管癌の1例. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 186) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 土屋喜一, 二見良平, 高橋 健, 赤城一郎, 内藤善哉¹⁾, ガブリエルソンエドワード²⁾, 田尻 孝 (第二病理, ²⁾ Dept. of Pathology, Johns Hopkins Univ.): 食道扁平上皮癌におけるvon Hippel Lindau (VHL) 遺伝子産物の発現. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 187) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 張 一光, 田尻 孝 (坪井病院外科): 食道扁平上皮癌における3q26単位複製配列の標的と考えられるPIK3CAとSNO. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 188) 櫻澤信行, 齋藤行世²⁾, 宮下正夫, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 木山輝郎, 野村 務, 牧野浩司, 奥田武志, 藤田逸郎, 佐々木順平, 岩切勝彦³⁾, 加藤俊二, 田尻 孝, その他1名 (坪井病院外科, ²⁾ 同内科,

- 3) 付属病院内科)：粘膜胃癌に対するESDの新しい工夫 両端ループ付き細径スプリング使用カウンタートラクション法. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 189) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 坂東功一, 松下 晃, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 野村 務, 吉田 寛, 横室茂樹, 有馬保生, 田尻 孝：腹腔鏡下尾側膵切除術. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 190) 坂東功一, 古川清憲, 内田英二, 有馬保生, 鈴木英之, 菅 隼人, 松本智司, 中村慶春, 田尻 孝：腹腔鏡下結腸右半切除術と腹腔鏡下脾温存尾側膵切除術を同時施行した1例. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 191) 松下 晃, 川本聖郎, 張 一光, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 第二病理)：Neuropilin-1 associates with c-Met and modulates hepatocyte growth factor actions on cell invasiveness in human pancreatic cancer. . 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 192) 松下 晃, 内田英二, 川本聖郎, 張 一光, 中村慶春, 相本隆幸, Korc M¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ Dept. of Medicine, Dartmouth Medical School, Hanover, NH, USA)：Neuropilin-1 associates with c-Met and modulates hepatocyte growth factor actions. . 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 193) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 宮本正章¹⁾, 高野照夫¹⁾, 田畑康彦²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 内科, ²⁾ 京都大学再生医療科)：再生医療を応用した膵消化管吻合術の基礎的研究：縫合不全なき吻合をめざして. 第49回日本消化器学会大会, 2007. 10.
- 194) 加藤俊二, 宮田広樹¹⁾, 奥田武志, 藤田逸郎, 菅野仁士, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 徳永 昭²⁾, 山下直行³⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 薬剤部, ²⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ³⁾ 坪井病院外科)：進行胃癌の癌性腹膜炎再発の集学的治療 緩和手術およびPTEGの併用とアジュバント療法. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 195) 宮田広樹¹⁾, 加藤俊二, 高田未来¹⁾, 輪湖哲也¹⁾, 本城和義¹⁾, 腹子あきこ²⁾, 若林恵子²⁾, 古賀美帆²⁾, 片山志郎¹⁾, 弦間昭彦³⁾, 木山輝郎, 田尻 孝⁽¹⁾ 薬剤部, ²⁾ 看護部, ³⁾ 輸液療法室)：進行再発胃がん外来化学療法法の安全評価 有害事象による時間外救急外来受診実態の解析. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 196) 加藤俊二, 松倉則夫, 松田範子, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 第二病理)：残胃における*H. pylori*除菌治療の意義：胃内酸分泌能および萎縮・腸上皮化生の回復の可能性. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 197) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 千葉北総病院外科)：大腸癌における抗癌剤感受性試験CD-DSTを用いた5FU/CPT-11併用療法の効果に関する検討. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 198) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝³⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器科, ³⁾ 同病理部)：メシル酸イマチニブによる治療導入したGIST・EGISTの臨床経過・腫瘍縮小効果について. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 199) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎, 杠葉 良¹⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：TS-1を用いた胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性の検討. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 200) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院外科)：食道癌の局所再発に対する化学放射線治療に関連した門脈ガス血症の1例. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 201) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝³⁾, 田尻 孝, その他1名⁽¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同 消化器科, ³⁾ 同 病理部)：病理組織型からみたmFOLFOX6法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 202) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 張 一光, 川本聖郎, 松下 晃, 柳 健, 田尻 孝, 田原一郎¹⁾, 島田隆¹⁾ ⁽¹⁾ 生化学)：PGHAM-1および関連細胞を用いたハムスター膵癌モデル. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.

- 203) 張 一光, 石渡俊行¹⁾, 中澤南堂¹⁾, 工藤工洋¹⁾, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 川本聖郎, 山本哲志¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 第二病理) : 膵癌の静脈侵襲における KGF, KGFreceptor (KGRF) と MMP-9 の関与. 第 66 回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 204) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 胃癌における 5FU の効果と CPT-11 の効果. 第 66 回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 205) 千原直人¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 杠葉 良¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター) : 大腸癌細胞株における抗癌剤耐性とミトコンドリア DNA 体細胞変異の関連. 第 66 回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 206) 杠葉 良¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 田尻 孝, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 老人病研究所生化学部門) : 大腸癌における抗癌剤耐性とミトコンドリア DNA の変異. 第 66 回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 207) 尾崎卓司¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター) : 便潜血反応陽性患者に対する全大腸内視鏡の意義. 第 66 回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 208) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 櫻澤信行, 和知栄子²⁾, 高橋 健¹⁾, 宮下正夫, 成井 貴³⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 坪井病院外科, ²⁾ 同病理科, ³⁾ 新白河中央病院内科) : 貧血を契機として発見された表在性の“いわゆる食道癌肉腫” 1 例. 第 74 回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 209) 勝田美和子¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 宮下正夫, 大川敬一, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : S 状結腸癌術後 5 年で胸部解離性大動脈瘤と食道腺癌を合併し, CRT にて奏功した 1 例. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 210) 高橋 健¹⁾, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 大谷圭司¹⁾, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 赤城一郎, 齋藤行世²⁾, 岩波 洋¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 坪井病院外科, ²⁾ 同内科) : 食道癌手術後, 食道胃管吻合部直上に食道穿孔をきたした 1 例. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 211) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 張 一光, 小管拓治¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾, 田尻 孝, その他 11 名 (¹⁾ 第一解剖) : 食道扁平上皮癌における SnO₂ 遺伝子発現の意義. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 212) 秋谷行宏, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 多摩永山病院外科) : S 状結腸に発生した子宮内膜症に対して腹腔鏡手術を行った 1 例. 第 62 回日本大腸肛門病学会総会, 2007. 11.
- 213) 住吉宏樹¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 堀場光二¹⁾, 牧野浩司, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 大川敬一¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 当科における Direct kugel 法による鼠径部ヘルニアの検討. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 214) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 赤城一郎, 高橋 健²⁾, 萩原信敏²⁾, 木山輝郎, 加藤俊二, 山下精彦, 田尻 孝, 勝田美和子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 坪井病院外科) : 新生児ケント鉤とケント・ブーメラン・リトラクターセットを用いて鎖骨牽引下に, 食道癌における反回神経周囲・頸部リンパ節郭清を行なう工夫. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 215) 石川紀行¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 住吉宏樹¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 当科における鼠頸部ヘルニアの再発例の検討. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 216) 岩本美樹¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 右

- 胃大網脈を用いた冠状動脈バイパス術後に発症した横隔膜ヘルニアの1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 217) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 菅野仁士, 田尻 孝: 腹腔鏡補助下胃切除における手術プロセスの改善. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 218) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 大川敬一, 二見良平, 赤城一郎, 萩原信敏²⁾, 高橋 健, 堀場光二¹⁾, 勝田美和子, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝, 山田岳史¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 坪井病院外科): 当科の食道癌鏡下手術の工夫. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 219) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 有馬保生, 鈴木英之, 木山輝郎, 横室茂樹, 松本智司, 中村慶春, 横島一彦¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 頭頸部外科): 下咽頭癌, 頸部食道癌手術症例における鏡視下操作. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 220) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 真々田裕宏, 牧野浩司, 金沢義一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科): 腹腔鏡下開窓術を施行した感染症肝嚢胞の1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 221) 牧野浩司, 宮下正夫, 勝田美和子, 野村 務, 大川敬一, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 田尻 孝, 内藤善哉²⁾, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 第二病理): 食道扁平上皮癌の表在癌における血管新生関連マーカー遺伝子蛋白の発現との検討. 第18回日本消化器癌発生学会総会, 2007. 11.
- 222) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 張 一光, 三嶋拓也¹⁾, 瀧澤俊弘¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 第一解剖): 食道扁平上皮癌におけるPIK3CA遺伝子発現の意義. 第18回日本消化器癌発生学会総会, 2007. 11.
- 223) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 進士誠一, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科): 大腸癌における CPT-11, 5FUの効果とTS活性の関係. 第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 2007. 11.
- 224) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央, 佐々木順平, 古川清憲²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 千葉北総病院外科): 大腸切除術後に発生した吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討. 第62回日本大腸肛門病学会総会, 2007. 11.
- 225) 鈴木英之, 古川清憲¹⁾, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 多摩永山病院外科): 直腸癌に対するTEMの適応と成績. 第62回日本大腸肛門病学会総会, 2007. 11.
- 226) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 土屋喜一, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 吉田寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 田尻 孝 (¹⁾ 坪井病院外科): 二期的に肝切除および食道切除を行い良好な治療効果が得られている食道癌肝転移症例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 227) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 宮下正夫, 高橋 健¹⁾, 齋藤行世¹⁾, 河野孝一郎¹⁾, 笹島耕二²⁾, 野村 務, 牧野浩司, 赤城一郎, 桜澤信行, 山下精彦, 田尻 孝 (¹⁾ 坪井病院外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院外科): 全身化学療法にて, ADLを損なう事無く良好に経過している進行食道小細胞癌の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 228) 大川敬一, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 土屋喜一, 赤城一郎, 佐々木順平, 勝田美和子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 寺本 忠²⁾, 和田雅世²⁾, 坂東健史²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 町田胃腸病院外科): 食道平滑筋腫に対して胸腔鏡下筋腫核術を行った1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 229) 土屋喜一, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 大川敬一, 赤城一郎, 佐々木順平, 川見典之¹⁾, 田中由里子¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 消化器内科): 咽頭癌治療後に食道癌肉腫と胃癌を合併した1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 230) 鶴田宏之, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 菅 隼人, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一¹⁾, 松田明久²⁾, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 多摩永山病院外科): 日本住血吸虫症を合併した横行結腸癌の1例.

第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 2007. 11.

- 231) 柳 健¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原元¹⁾, 有馬保生, 内田英二, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科): 腹腔鏡下胆嚢摘出術クリニカルパスの導入効果と更なる短期入院の検討. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 232) 柿沼大輔, 野村 務, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 木山輝郎, 真々田裕宏, 佐々木順平, 重原健吾, 山初和也, 有馬保生, 横室茂樹, 松本智司 (1) 千葉北総病院外科): 鼠径ヘルニア嵌頓時における腹腔鏡観察の有用性. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 233) 坂東功一, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 中村慶春, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 田尻 孝: 腎癌転移性肝腫瘍を否定しえず腹腔鏡下肝部分切除術を施行した肝血管腫の1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 234) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 石川義典, 秋丸琥甫, 田尻孝: 原発性肝癌取扱い規約におけるT因子の正当性について. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 235) 野村 務, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之, 木山輝郎, 真々田裕宏, 柿沼大輔, 佐々木順平, 重原健吾, 山初和也, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院外科): 教育面から見た鼠径ヘルニアの術式選択. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 236) 松野邦彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 真々田裕宏, 堀場光二¹⁾, 牧野浩司, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝 (1) 千葉北総病院外科): 乳癌の術前術後の精査中に見つかった無症候性左房粘液腫の3例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 237) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央, 佐々木順平, 高田英志, 古川清憲²⁾, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科, 2) 千葉北総病院外科): 当施設における術前化学放射線療法を行った下部直腸癌症例の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 238) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 松下 晃¹⁾, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 真々田裕宏, 野村務, 吉田 寛, 横室茂樹, 有馬保生, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科): 鏡視下肝臓切除 その適応, 術式腹腔鏡下尾側肝切除術. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 239) 菅 隼人, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 佐々木順平, 高田英志, 田尻 孝: 再発を繰り返した超高齢のS状結腸軸捻転症に対し腹腔鏡補助下前方切除術を行った1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 240) 柳原恵子, 野口智子, 奥平かおり, 飯田信也, 土屋眞一¹⁾, 樋口勝美²⁾ (1) 付属病院病理部, 2) 東京白十字病院): 術前化学療法にTrastuzumabを併用しpCRが得られた1例. 第4回日本乳癌学会関東地方会, 2007. 11.
- 241) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 柳 健¹⁾, 西 佳史¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 古川清憲³⁾, 飯田信也, 田尻 孝 (1) 多摩永山病院外科, 2) 同病理部, 3) 千葉北総病院外科): 局所炎症性再発に対しCapecitabine + Anastrozoleが奏功している超高齢者乳癌の1例. 第4回日本乳癌学会関東地方会, 2007. 11.
- 242) 西 佳史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 横山 正¹⁾, 柳 健¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 飯田信也, 古川清憲³⁾, 田尻孝 (1) 多摩永山病院外科, 2) 同 病理部, 3) 千葉北総病院外科): Trastuzumabを中心とした術前化学療法により乳房温存手術が可能となった高齢者炎症性乳癌の1例. 第4回日本乳癌学会関東地方会, 2007. 11.
- 243) 小泉岐博¹⁾, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 田中宣威²⁾, 古川清憲²⁾, 横井公良²⁾, 瀬谷知子²⁾, 金沢義一²⁾, 山田岳史²⁾, 白川 毅²⁾, 吉岡正人²⁾, 進士誠一²⁾, 田尻 孝 (1) 坪井病院外科, 2) 千葉北総病院外科): メッケル憩室内の線虫感染が原因となった内ヘルニアの1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 244) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 張 一光, 川本聖郎, 横室茂樹, 吉田 寛, 野村 務, 有馬保生, 田尻孝: 巨大臍solid-pseudopapillary腫瘍に対し腹腔鏡下臍体尾部切除術を施行した1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 245) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 臍頭部神経叢内schwannomaに

- 対し腹腔鏡下摘出術を施行した1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 246) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 宮本正章¹⁾, 高野照夫¹⁾, 田畑康彦²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 内科, ²⁾ 京都大学再生医療科): bFGF 含浸ゼラチンハイドロゲルを用いた膵消化管吻合術の基礎的研究: 縫合不全ゼロをめざして. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 247) 加藤俊二, 内田英二, 飯田信也, 奥田武志, 藤田逸郎, 木山輝郎, 宮田広樹¹⁾, 腹子あきこ²⁾, 清水一雄³⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 薬剤部, ²⁾ 輸液療法室, ³⁾ 内分泌外科): 外科からみた大学病院 (がん拠点病院) としての外来化学療法的位置づけと運用 オーダリングシステムによる輸液療法室の効率的運用とコメディカルとの連携. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 248) 横室茂樹, 有馬保生, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 神田知洋, 中村慶春, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科): 腹腔鏡下胆嚢摘出術々中乳頭の除石の試み. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 249) 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 田尻 孝: 当科における腹腔鏡補助下低位前方切除術の工夫. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 250) 宮本昌之¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科): 総胆管結石症治療における腹腔鏡下総胆管切石術 (Lap. CBDE) の位置づけ. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 251) 丸山 弘¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 柳 健¹⁾, 松下 晃¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科): 腹腔鏡下に診断・切除しえた腹膜中皮腫の1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 252) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科): 当院における再発鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術 (経腹的腹膜前修復法: TAPP法) の成績. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 253) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院外科): 膵頭十二指腸切除術2年後の肝転移に対し鏡視下肝切除術が安全に施行し得た膵IPMNの1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 254) 山下直行¹⁾, 加藤博之³⁾, 高橋 健¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 宮下正夫, 和知栄子²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 坪井病院外科, ²⁾ 同病理, ³⁾ 東京女子医科大学東医療センター検査科): 腹腔鏡下右結腸切除を施行された腫瘍径8mmの低分化上行結腸癌の1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 255) 小峯 修¹⁾, 田中洋一²⁾, 川島吉之²⁾, 安倍 仁²⁾, 吉川朱実³⁾, 坂本裕彦²⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 埼玉県立がんセンター消化器外科, ³⁾ 東京大学胃食道外科): 食道癌に対する胸腔鏡補助下食道切除術の検討. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 256) 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝: 鏡視下大腸切除術における小切開先行法の有用性について. 第62回日本大腸肛門病学会総会, 2007. 11.
- 257) 近藤恭司¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 塙 秀暁¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 栗原雄司²⁾, 塩谷猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 京浜総合病院外科): 全大腸内視鏡検査で診断しえた認知症患者の直腸癌合併虫垂粘液嚢腫の1例. 第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 2007. 11.
- 258) 吉野雅則¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 小峯 修¹⁾, 星野有哉¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における切除不能進行再発大腸癌に対するFOLFOX, FOLFIRI療法. 第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 2007. 11.
- 259) 尾形昌男¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺

- 昌則¹⁾、鈴木英之、渋谷哲男²⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター、²⁾ 大宮医師会市民病院外科)：当科における腹腔鏡下大腸切除術症例の検討。第62回日本大腸肛門病学会学術集会，2007. 11.
- 260) 塩谷 猛¹⁾、近藤恭司¹⁾、前島顕太郎¹⁾、吉野雅則¹⁾、小峯 修¹⁾、星野有哉¹⁾、尾形昌男¹⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：早期直腸癌に対する経仙骨の直腸切除術の工夫。第62回日本大腸肛門病学会学術集会，2007. 11.
- 261) 秋丸琥甫、鈴木英之、鶴田宏之、石川義典、田尻 孝：内視鏡による結腸憩室のポリープ化と結紮：新たな治療法のヒントとなった症例と動物実験。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 262) 松本智司、鈴木英之、菅 隼人、鶴田宏之、秋谷行宏、佐々木順平、高田英志、田尻 孝：当科における腹腔鏡下補助下低位前方切除術の工夫。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 263) 松本智司、鈴木英之、野村 務、菅 隼人、鶴田宏之、中村慶春、秋谷行宏、佐々木順平、高田英志、向後英樹、坂田義則、高尾嘉宗、田尻 孝：教育的観点から見た腹腔鏡下虫垂切除術。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 264) 佐々木順平、奥田武志、藤田逸郎、木山輝郎、加藤俊二、田尻 孝：胃悪性線維性組織球腫 (MFH) の1例。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 265) 山初和也、中村慶春、鈴木英之、松下 晃、菅 隼人、鶴田宏之、松本智司、高尾嘉宗、高橋吾郎、内田英二、田尻 孝：術後12年に胃小彎側リンパ節転移をきたした直腸癌の1例。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 266) 高田英志、松本智司、鈴木英之、菅 隼人、鶴田宏之、秋谷行宏、佐々木順平、田尻 孝：直腸癌、副腎腫瘍2病変に対し、鏡視下に左副腎摘出および低位前方切除術を併施した1例。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 267) 星野有哉¹⁾、塩谷 猛¹⁾、水谷 聡¹⁾、小峯 修¹⁾、松信哲朗¹⁾、前島顕太郎¹⁾、千原直人¹⁾、杠葉 良¹⁾、尾崎卓司¹⁾、近藤恭司¹⁾、二宮理貴¹⁾、佐藤精一¹⁾、野村 聡¹⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：急性胆嚢炎の治療。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 268) 豊田哲鎬¹⁾、野村 聡¹⁾、塙 秀暁¹⁾、近藤恭司¹⁾、尾崎卓司¹⁾、前島顕太郎¹⁾、松信哲朗¹⁾、吉野雅則¹⁾、坊英樹¹⁾、尾形昌男¹⁾、渡辺昌則¹⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：治療に難渋した大腸憩室炎・憩室出血の症例。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 269) 塩谷 猛¹⁾、星野有哉¹⁾、水谷 聡¹⁾、南部弘太郎¹⁾、尾形昌男¹⁾、渡辺昌則¹⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：腹腔鏡下胆嚢摘出後に発見された胆嚢癌の検討。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 270) 吉野雅則¹⁾、尾形昌男¹⁾、前島顕太郎¹⁾、豊田哲鎬¹⁾、二宮理貴¹⁾、杠葉 良¹⁾、松信哲朗¹⁾、千原直人¹⁾、渡辺昌則¹⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：地域密着型病院における外科医主導の大腸癌化学療法。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 271) 野村 聡¹⁾、豊田哲鎬¹⁾、塙 秀暁¹⁾、近藤恭司¹⁾、前島顕太郎¹⁾、小峯 修¹⁾、坊 英樹¹⁾、渡辺昌則¹⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：S-1/CPT-11が著効した進行胃癌の1例。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 272) 尾形昌男¹⁾、吉野雅則¹⁾、前島顕太郎¹⁾、松信哲朗¹⁾、小泉正樹¹⁾、千原直人¹⁾、水谷 聡¹⁾、小峯 修¹⁾、坊英樹¹⁾、星野有哉¹⁾、塩谷 猛¹⁾、渡辺昌則¹⁾、鈴木英之、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：当科での腹腔鏡下大腸切除術症例の成績。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 273) 塙 秀暁¹⁾、渡辺昌則¹⁾、豊田哲鎬¹⁾、野村 聡¹⁾、小峯 修¹⁾、坊 英樹¹⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)：巨大後腹膜脂肪肉腫の1例。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 274) 水谷 聡¹⁾、塩谷 猛¹⁾、星野有哉¹⁾、南部弘太郎²⁾、塙 秀暁¹⁾、前島顕太郎¹⁾、吉野雅則¹⁾、小峯 修¹⁾、尾形昌男¹⁾、渡辺昌則¹⁾、渋谷哲男²⁾、徳永 昭¹⁾、田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター、²⁾ 大宮医師会市民病院)：臍頭十二指腸切除後に発症した臍液漏の特徴とその対策 (閉鎖式吸引ドレーン使用において)。第

- 69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 275) 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 青笹李文¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ (大宮医師会市民病院外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 直腸印環細胞癌の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 276) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ (多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器科): mFOLFOX6法を導入した70歳以上の高齢者進行・再発大腸癌症例の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 277) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原元¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 飯田信也, 古川清憲²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ (多摩永山病院外科, ²⁾ 千葉北総病院外科): Capecitabine投与を機軸とした転移性乳癌に対する治療戦略. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 278) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 小林由子²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ (多摩永山病院外科, ²⁾ 同放射線科): 術後再発食道扁平上皮癌に対するDocetaxel併用化学療法と化学放射線療法. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 279) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松田明久¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝⁽¹⁾ (多摩永山病院外科): 食道癌手術侵襲後の炎症性サイトカインと可溶性レセプターの変動とGender difference. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 280) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 高橋 健, 宮下正夫, 鈴木英之, 古川清憲, 田尻 孝⁽¹⁾ (多摩永山病院外科): 脂肪量およびアディポサイトカインが術後感染症発症に及ぼす影響. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 281) 西 佳史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 横山 正¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 松田明久¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 飯田信也, 古川清憲²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ (多摩永山病院外科, ²⁾ 千葉北総病院外科): 術前化学療法としてCapecitabine/経口Cyclophosphamide療法(XC)を行い認容性と奏効性が同時に得られた閉経前乳癌の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 282) 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 藤岡 薫¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 加藤俊二, 櫻澤信行, 宮下正夫, 吉田初雄²⁾, 湖山信篤³⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ (坪井病院外科, ²⁾ 今泉西病院外科, ³⁾ 北里研究所メディカルセンター病院): 迷走神経温存胃癌手術の適応と残胃環境改善. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 283) 京野昭二¹⁾, 山初順一¹⁾, 山初和也, 鶴田宏之, 相本隆幸, 石川紀行²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ (泉中央病院外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院外科): 地方都市の外科系病院における手術内容の推移: 1982年からの約25年間について. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 284) 水瀬 学¹⁾, 本間 博²⁾, 見友優子¹⁾, 田尾清一¹⁾, 佐藤淳子¹⁾, 松崎つや子¹⁾, 関野玲子¹⁾, 中村利枝¹⁾, 斎藤公一¹⁾, 大野忠明²⁾, 横島友子²⁾, 吉田 寛, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 生理機能センター, ²⁾ 内科): 最近市販された超音波機器による肝表面腫瘍の超音波画像. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第19回学術集会, 2007. 11.
- 285) 神田知洋, 有馬保生, 横室茂樹, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 新井政男, 田尻 孝: 内視鏡によるドレナージが困難なAOSCに対して術中内視鏡の逆行性胆管ドレナージが有用であった1症例. 第36回武蔵野消化器病談話会, 2007. 11.
- 286) 関 奈紀, 奥田武志, 菅野仁士, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝, 渡辺 学¹⁾ (¹⁾ 内田病院外科): 短期間で形態変化をきたした胃GISTの1例. 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 11.
- 287) 菅野仁士, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝: 胃癌手術におけるSurgical Site

- Infection 予防：表層・深部切開層を中心に。第37回日本創傷治癒学会，2007。12。
- 288) 渡辺昌則¹⁾，埴 秀暁¹⁾，小泉正樹¹⁾，豊田哲鎬¹⁾，野村 聡¹⁾，前島顕太郎¹⁾，小峯 修¹⁾，水谷 聡¹⁾，吉野雅則¹⁾，坊 英樹¹⁾，徳永 昭¹⁾，田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：当科におけるSSI対策とサーベイランスの結果。第37回日本創傷治癒学会，2007。12。
- 289) 高田英志，松本智司，宮下正夫，鈴木英之，菅 隼人，鶴田宏之，秋谷行宏，佐々木順平，田尻 孝：多発性腸間膜リンパ管腫の1例。第807回外科集談会，2007。12。
- 290) 高橋吾郎，野村 務，鈴木英之，高尾嘉宗，石川義典，山初和也，秋谷行宏，鶴田宏之，菅 隼人，松本智司，宮下正夫，田尻 孝：術前診断が困難であった虫垂腫の1例。第297回日本消化器病学会関東支部例会，2007。12。
- 291) 中村有希¹⁾，野村 聡¹⁾，二宮理貴¹⁾，前島顕太郎¹⁾，小峯 修¹⁾，吉野雅則¹⁾，水谷 聡¹⁾，坊 英樹¹⁾，渡辺昌則¹⁾，徳永 昭¹⁾，田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：胃蜂窩織炎と考えられた急性胃炎の1例。第297回日本消化器病学会関東支部例会，2007。12。
- 292) 松谷 毅¹⁾，笹島耕二¹⁾，松田明久¹⁾，丸山 弘¹⁾，宮本昌之¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，鈴木成治¹⁾，柳健¹⁾，松下 晃¹⁾，柏原 元¹⁾，西 佳史¹⁾，新井洋紀¹⁾，宮下正夫，田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院外科)：Gender differenceからみた食道癌手術侵襲後のサイトカインと可溶性サイトカインレセプターの変動。第14回外科侵襲とサイトカイン研究会，2007。12。
- 293) 進士誠一¹⁾，田中宣威¹⁾，古川清憲¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，金沢義一¹⁾，山田岳史¹⁾，小泉岐博¹⁾，大秋美治²⁾，田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科，²⁾ 同病理)：大腸多重癌 (重複癌・多発癌)の検討。第68回大腸癌研究会，2008。1。
- 294) 佐々木順平，鈴木英之，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，進士誠一，松田明久，寺西宣央，田尻 孝：当科における大腸同時性多重癌の臨床病理学的検討。第68回大腸癌研究会，2008。1。
- 295) 牧野浩司¹⁾，宮下正夫，古川清憲¹⁾，金沢義一¹⁾，白川 毅¹⁾，加藤俊二，木山輝郎，奥田武志，藤田逸郎，田中宣威¹⁾，田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科)：胃癌術後7年で腹水とSTNの上昇を認め，PET施行にて発見された卵巣転移・腹膜播種の1例。第80回日本胃癌学会総会，2008。2。
- 296) 木山輝郎，奥田武志，藤田逸郎，菅野仁士，吉行俊郎，加藤俊二，谷 杏彌，田尻 孝：腹腔鏡補助下幽門側胃切除におけるルーワイ再建法の工夫。第80回日本胃癌学会総会，2008。2。
- 297) 菅野仁士，木山輝郎，奥田武志，藤田逸郎，櫻澤信行，加藤俊二，吉行俊郎，田尻 孝，三宅一昌¹⁾，坂本長逸¹⁾ (消化器内科)：早期胃癌における内視鏡的粘膜下層剥離術後遺残症例に対する追加治療としての腹腔鏡下胃切除の検討。第80回日本胃癌学会総会，2008。2。
- 298) 中村慶春，松本智司，内田英二，相本隆幸，野村 務，田尻 孝：腹腔鏡下尾側臍切除術の有用性。第16回クリニカル・ビデオフォーラム (CVF)，2008。2。
- 299) 松本智司，菅原光子¹⁾，稲田浩美²⁾，三原恵理²⁾，菅 隼人，鈴木英之，田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院看護部，²⁾ 付属病院看護部)：腹壁癒痕ヘルニアの合併によりストマケアに難渋した1例。第25回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会，2008。2。
- 300) 松本智司，鈴木英之，菅 隼人，鶴田宏之，秋谷行宏，櫻澤信行，佐々木順平，田尻 孝：腹腔鏡補助下低位前方切除術における手術手技の工夫。第16回クリニカル・ビデオフォーラム (CVF)，2008。2。
- 301) 櫻澤信行，宮下正夫，加藤俊二，木山輝郎，野村 務，牧野浩司，大川敬一，藤田逸郎，奥田武志，高田英志，坂田義則，高橋吾郎，田尻 孝：両端ループ付き細径スプリングを用いた胃粘膜膜に対するESD。第16回クリニカル・ビデオフォーラム (CVF)，2008。2。
- 302) 堀田正啓，菅野仁士，川本聖郎，土屋喜一，大川敬一，菅 隼人，松本智司，野村 務，宮下正夫，田尻 孝：開腹歴のない小腸絞扼性イレウスの1例。第298回日本消化器病学会関東支部例会，2008。2。
- 303) 藤田逸郎，木山輝郎，奥田武志，水谷 崇¹⁾，加藤俊二，徳永 昭²⁾，田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院外科，²⁾ 武

- 蔵小杉病院消化器病センター)：胃癌術後再発とフォローアップ. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 304) 金沢義一¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科)：胃癌におけるTS, DPD発現. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 305) 山田岳史¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田中宣威¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科)：胃癌における5FU/CPT-11併用療法の効果に関する検討, 併用療法は相加的か?. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 306) 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：癌好発家系の若年男性に生じた胃悪性リンパ腫の1例. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 307) 前島顕太郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 木山輝郎, 菅野仁士, 杠葉 良¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 308) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：当科における腹腔鏡補助下噴門側胃切除術. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 309) 佐々木順平, 松本智司, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 田尻 孝：鏡視下S状結腸切除術後に乳糜腹水を呈した1例. 第80回外科集談会, 2008. 3.
- 310) 牧野浩司¹⁾, 古川清憲¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 進士誠一¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 田尻 孝, その他6名¹⁾ (千葉北総病院外科)：肺繊維症を合併した超高齢者の胃穿孔に対して大網充填施行し, 術後の生検で胃癌穿孔と診断された1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 311) 松本智司, 内田英二, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 櫻澤信行, 佐々木順平, 高田英志, 田尻 孝：傍ストマおよび腹壁癒痕ヘルニアの治療に難渋し, 手術を繰り返した1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 312) 山初和也, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝：治療方針に難渋した隣仮性嚢胞内出血の1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 313) 向後英樹, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 横室茂樹, 秋丸琥甫, 田尻 孝：経皮的ドレナージが有効であった脾膿瘍の1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 314) 吉岡正人¹⁾, 古川清憲¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 金沢義一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科)：胆, 膵領域における内視鏡およびIVR治療. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 315) 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 中村有希¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：鳥骨によって生じた小腸穿通の1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 316) 豊田哲鎬¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：下部消化管出血における緊急大腸内視鏡検査の意義. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 317) 近藤恭司¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 野村 聡¹⁾, 豊田哲鎬¹⁾, 埴 秀暁¹⁾, 小峯 修¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター)：当科における上部消化管出血の治療戦略. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.

[多摩永山病院外科 (消化器外科・乳腺外科・一般外科)]

研究概要

「研究体制とその現状」

研究目的：臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。
研究体制：消化器系臓器別に上部消化管，下部消化管，肝・胆・膵の3領域における病態生理，臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は，癌に関連するものが多い。手術手技，腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。
研究者は，自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。

研究材料，方法：診療業務から得た臨床データ，血液，組織，臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には，当院病理部との共同研究となる。分子生物学的方法を用いる場合は，武蔵小杉病院・老人病研究所の協力，文部科学省，厚生労働省の科学研究補助金による研究，多施設共同研究，日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。

研究結果の公表：各医学会地方会，総会，多摩地域の研究会で発表する。あるいは，原著，症例報告，著書等に論文として公表する。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yanagi K, Sasajima K, Miyamoto M, Suzuki S, Yokoyama T, Maruyama H, Matsutani T, Arima Y¹⁾, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Function and Biological Regulation) : Evaluation of the Clinical Pathway for Laparoscopic Cholecystectomy and Simulation of Short-term Hospitalization. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (6) : 409-413.
- 2) 松田明久, 笹島耕二, 丸山 弘, 柏原 元, 鈴木英之¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科学) : 結腸右半切除術：当科における標準手術手技. 日医大医会誌 2007 ; 3 (3) : 136-140.

(2) 症例報告：

- 1) Matsutani T, Sasajima K, Miyamoto M, Yokoyama T, Hiroi M, Maruyama H, Suzuki S, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Pancreatic Cyst Associated with Pancreas Divisum Treated by Laparoscopy-Assisted Cystgastrostomy in the Intra-gastric Approach. Journal of Laparoscopic & Advanced Surgical Techniques 2007 ; 17 (3) : 317-320.
- 2) Matsutani T, Sasajima K, Miyamoto M, Yokoyama T, Maruyama H, Yanagi K, Matsuda A, Kashiwabara M, Suzuki S, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Resection of Pancreatic Metastasis from Renal Cell Carcinoma and an Early Gastric Cancer. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (1) : 41-45.
- 3) 松谷 毅, 江上 格, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科学消化器外科) : 胃前庭部と瘻孔を形成した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2007 ; 27 (3) : 503-506.
- 4) 松田明久, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科学) : 術前診断し腹腔鏡補助下に治癒しえた多発回腸脂肪腫による腸重積症の1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2007 ; 12 (4) : 440-443.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 鈴木成治, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 細根 勝²⁾, 前田昭太郎²⁾, その他1名 (¹⁾ 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 多摩永山病院病理部) : 再発性GISTの治療方針. 第27回多摩消化器シンポジウム, 2008. 1.

(2) 一般講演：

- 1) Matsutani T, Sasajima K, Matsuda A, Miyashita M¹, Tajiri T¹, Kang S², Choudhry M², Bland K², Chaudry I² (¹ First Dept. of Surgery, Nippon Medical School, ² Center for Surgical Research, Univ. Alabama) : Age-related differences in pulmonary and hepatocellular damage following bone fracture, soft-tissue trauma and hemorrhage (Abstract 6). Thirtieth Annual Conference on Shock (Baltimore, Maryland, USA), 2007. 6.
- 2) Matsuda A, Sasajima K, Matsutani T, Maruyama H, Kashiwabara M, Takahashi K¹, Suzuki H¹, Miyashita M¹, Furukawa K¹, Tajiri T¹ (¹ First Dept. of Surgery, Nippon Medical School) : Alteration of circulating adiponectin levels in postoperative infections : findings in patients undergoing major surgical trauma. Thirtieth Annual Conference on Shock (Baltimore, Maryland, USA), 2007. 6.
- 3) Suzuki S, Sasajima K, Watanabe H, Miyamoto M, Mizutani T, Maruyama H, Yokoyama T, Matsutani T, Matsuhisa T¹, Hosone M², Iida S³, Satoh Y⁴, Tajiri T³ (¹ Dept. Gastroenterol., Tama-Nagayama Hosp., ² Dept. Pathol., Tama-Nagayama Hosp., ³ Dept. Surg., Nippon Med. Sch., ⁴ Dept. Molecular Diagnostics, Kitasato Univ., Sch. Allied Health Science) : MAGE-A10 mRNA expression using highly sensitive in situ hybridization in patients with stomach cancer. 66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 4) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一, 細根 勝¹, 飯田信也², 佐藤雄一³, 田尻 孝² (¹ 多摩永山病院病理部, ² 外科学第一, ³ 北里大学医療衛生学部遺伝子検査学) : cRNAプローブを用いた胃癌組織におけるMAGE-A10mRNA発現の検討とその臨床的意義. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 5) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 土屋喜一, 柏原 元, 松田明久, 鈴木成治, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 柳 健, 宮下正夫¹, 田尻 孝¹ (¹ 外科学第一) : 食道癌手術前メチルプレドニゾロン投与による炎症・免疫反応とGender difference. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 6) 松田明久, 笹島耕二, 松谷 毅, 高橋 健¹, 丸山 弘, 土屋喜一, 柏原 元, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 宮下正夫¹, 古川清憲¹, 田尻 孝¹ (¹ 外科学第一) : 手術侵襲後感染症におけるアディポネクチンの役割. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 7) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一, 柳 健, 松田明久, 柏原 元, 細根 勝¹, 津久井拓², 松久威史², その他1名 (¹ 多摩永山病院病理部, ² 多摩永山病院消化器科) : GIST/EGIST患者のリスク分類と分子標的治療との関係. 第93回日本消化器病学会, 2007. 4.
- 8) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 土屋喜一, 柳 健, 二見良平, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 渡邊秀裕, 田尻 孝¹ (¹ 外科学第一) : 術後再発食道扁平上皮癌に対する5-FU+CDDP療法後のDocetaxel+5-FU+CDDP併用療法の有効性について. 第93回日本消化器病学会, 2007. 4.
- 9) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 丸山 弘, 柏原 元, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 土屋喜一, 柳 健, 高橋 健¹, 宮下正夫¹, 田尻 孝¹ (¹ 外科学第一) : 胸部食道癌手術における術後合併症と性ホルモン (Testosterone, Estradiol, DHEA) 値の関係. 第22回日本Shock学会総会, 2007. 5.
- 10) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 柳 健, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝¹ (¹ 外科学第一) : 肝細胞癌治療における腹腔鏡下Radio Frequency Ablation (RFA) の位置付け. 第19回日本肝胆膵外科学会, 2007. 6.
- 11) 横山 正, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 田尻 孝¹ (¹ 臓器病態制御外科学) : 胆道癌における全身化学療法の有用性について : Gemcitabine使用症例の検討から. 第19回日本肝胆膵外科学会, 2007. 6.
- 12) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 土屋喜一, 二見良平¹, 柏原 元, 鈴木成治, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山

- 正, 柳 健, 松田明久, 西 佳史, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 進行・再発食道扁平上皮癌に対する Docetaxel+5-FU+CDDP 併用療法の評価. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 13) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 松谷 毅, 柳 健, 西 佳史, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 古川清憲²⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 臓器病態制御外科学) : 転移性乳癌における Capecitabine/Cyclophosphamide 療法 (XC療法) の検討. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 14) 松田明久, 笹島耕二, 松谷 毅, 丸山 弘, 宮本昌之, 鈴木成治, 高橋 健¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 臓器病態制御外科学) : 脂肪細胞から見た手術侵襲後の生体反応と術後合併症制御への可能性. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 15) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 胆膵癌術後の膵腸縫合不全対策: リリアパックによる膵管外瘻チューブ持続吸引の有用性. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 16) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 松田明久, 柏原 元, 土屋喜一, 宮本昌之, 鈴木成治, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : Gender difference と性ホルモン値からみた食道癌手術侵襲の評価. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 17) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 松谷 毅, 津久井拓¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一) : 全生存期間・無増悪生存期間からみた mFOLFOX6法を導入した進行・再発大腸癌症例の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 18) 柏原 元, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 空腸 gastrointestinal stromal tumor にて消化管出血をきたした von Recklinghausen 病の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 19) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 異時性多発肝細胞癌に対し, 超音波診断用造影剤 Perflubutane 併用 RFA が有用であった1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 20) 柳 健, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 巨大直腸異物に対する腹腔鏡補助下異物摘出術の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 21) 柳 健, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 笹島耕二 : 診断に難渋した膵嚢胞性疾患の1例. 第10回多摩肝胆膵クラブ, 2007. 9.
- 22) 柳 健, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 腹腔鏡下胆嚢摘出術における入院期間の再検討: DPCにむけて. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.
- 23) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 松谷 毅, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 当科における胆道癌 Gemcitabine 使用症例の検討と 2nd line としての S-1+CDDP 導入への試み. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.
- 24) 松谷 毅, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 土屋喜一, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一) : 食道癌の局所再発に対する化学放射線治療に関連した門脈ガス血症の1例. 第49回日本消化器病学会, 2007. 10.
- 25) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 松谷 毅, 土屋喜一, 柳 健, 松田明久, 柏原 元, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 細根 勝²⁾, その他1名 (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 多摩永山病院病理部) : 病理組織型からみた mFOLFOX6法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第49回日本消化器病学会, 2007. 10.
- 26) 柳 健, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 渡辺秀裕, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一,

- 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, その他5名: 保存的に加療しえた高度十二指腸狭窄を伴う Groove pancreatitis の1例. 第49回日本消化器病学会, 2007. 10.
- 27) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松久威史¹⁾, 細根勝²⁾, 田尻 孝³⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 外科学第一): メシル酸イマチニブによる治療導入した GIST・EGIST の臨床経過・腫瘍縮小効果について. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 28) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡辺秀裕, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一): 総胆管結石症治療における腹腔鏡下総胆管切石術 (Lap. CBDE) の位置づけ. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 29) 丸山 弘, 笹島耕二, 宮本昌之, 土屋喜一, 松谷 毅, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 松下 晃, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一): 腹腔鏡下に診断・切除しえた腹膜中皮腫の1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 30) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 松下 晃, 柳 健, 柏原 元, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一): 臍頭十二指腸切除術2年後の肝転移に対し鏡視下肝切除術が安全に施行し得た臍IPMNの1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 31) 松谷 毅, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一): 当院における再発鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術 (経腹的腹膜前修復法: TAPP法) の成績. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 32) 柳 健, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松田明久, 柏原 元, 有馬保生¹⁾, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 臓器病態制御外科学): 腹腔鏡下胆嚢摘出術クリニカルパスの導入効果と更なる短期入院の検討. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 33) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 土屋喜一, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 小林由子¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 外科学第一): 術後再発食道扁平上皮癌に対する Docetaxel 併用化学療法と化学放射線療法. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 34) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡辺秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 松谷 毅, 柳 健, 松田明久, 柏原 元, 津久井拓¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一): mFOLFOX6法を導入した70歳以上の高齢者進行・再発大腸癌症例の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 35) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 丸山 弘, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 土屋喜一, 柳 健, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一): 食道癌手術侵襲後の炎症性サイトカインと可溶性レセプターの変動と Gender difference. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 36) 松田明久, 笹島耕二, 松谷 毅, 丸山 弘, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 柏原 元, 高橋 健¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一): 脂肪量およびアディポサイトカインが術後感染症発症に及ぼす影響. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 37) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 渡辺秀裕, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 新井洋紀, 飯田信也¹⁾, 古川清憲²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一, 2) 千葉北総病院外科): Capecitabine 投与を機軸とした転移性乳癌に対する治療戦略. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 38) 西 佳史, 笹島耕二, 横山 正, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 柳 健, 柏原 元, 松田明久, 新井洋紀, 飯田信也¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一): 術前化学療法として Capecitabine/経口 Cyclophosphamide 療法 (XC) を行い認容性と奏効性が同時に得られた閉経前乳癌の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 39) 松谷 毅, 笹島耕二, 松田明久, 丸山 弘, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 柳 健, 松下 晃, 柏原 元, 西 佳史, 新井洋紀, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学第一): Gender difference からみた食道癌

手術侵襲後のサイトカインと可溶性サイトカイン・レセプターの変動. 第14回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2007. 12.

- 40) 新井洋紀, 松下 晃, 西 佳史, 松田明久, 柳 健, 杉浦 篤, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 宮本昌之, 渡邊秀裕, 笹島耕二, 細根 勝¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部): 術後7年目にPET-CTにて診断し得た再発性大腸癌の1例. 第76回城西外科研究会, 2008. 2.

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科および一般外科領域における, 基礎的ならびに臨床的研究を行い, その成果を学会および学会誌等で報告している. 開院以来, 外来・入院患者数の増加とともに年間手術件数も増加し, 地域における基幹病院としての役割を果たしている. 院内においては内科, 放射線科, 病理部との合同カンファレンスを行い, 診断・外科的治療の質の向上を図っている.

1. 進行食道癌, 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対して, 外科的治療とともに術前・術後の化学療法や免疫療法による集学的治療を行い, 良好な成績を得ている.
2. 消化器疾患に対する内視鏡的治療, とくに早期胃癌, 早期大腸癌に対するEMR, 胆道疾患に対する内視鏡的治療, 閉塞性黄疸あるいは癌再発に伴う消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, 内視鏡的治療を行っている.
3. 腹腔鏡下手術は胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌・早期大腸癌から進行癌にも適応拡大し, 良い成績を得ている.
4. 乳癌はSLNB, 積極的な術前・術後のホルモン化学療法の導入, ラジオ波焼灼術, 縮小手術など患者のADLおよびQOLの向上に努め, その成績を報告している.
5. EBMに基づいた医療を行うだけでなく, 新たなEBMを作るべく, 癌化学療法, 外科感染症に対する抗菌療法を中心に臨床試験を積極的に行っている. 臨床試験の迅速に結果をだすために多施設共同研究には特に力を入れている.
6. 基礎的研究としては (1) 大腸癌リンパ節微小転移の臨床的意義とメカニズム, (2) 大腸内分泌細胞癌の培養細胞を作成し, その特性と治療法, (3) 抗癌剤感受性試験の有用性, 消化器癌化学療法の中心となる5-FUについて, 臨床材料を用いた胃癌, 大腸癌における5FU代謝酵素の役割, (4) 多剤併用療法が行われる胃癌, 大腸癌における等において研究を行っている.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Takahashi K¹⁾, Miyashita M¹⁾, Nomura T¹⁾, Makino H, Futami R¹⁾, Kashiwabara M¹⁾, Katsuta M, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School): Serum p53 antibody as a predictor of early recurrence in patients with postoperative esophageal squamous cell carcinoma. Diseases of the Esophagus 2007; 20 (2): 117-122.
- 2) Matsuda A¹⁾, Furukawa K¹⁾, Suzuki H¹⁾, Kan H¹⁾, Tsuruta H¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Shinji S, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School): Does Impaired Th1/Th2 Balance Cause Postoperative Infectious Complications in Colorectal Cancer Surgery?. Journal of surgical research 2007; 139 (1): 15-21.
- 3) Matsuda G¹⁾, Tokunaga A²⁾, Shirakawa T, Togashi A¹⁾, Kiyama T¹⁾, Kato S¹⁾, Matsukura N¹⁾, Bou H²⁾, Watanabe M²⁾, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Institute of

Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : *Helicobacter pylori* infection, but not genetic polymorphism of CYP2E1, is highly prevalent in gastric cancer patients younger than 40 years. Gastric Cancer 2007 ; 10 (2) : 98-103.

- 4) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Tajiri T¹⁾ (Department of Surgery, Nippon Medical School) : Fixation of the greater omentum for prevention of delayed gastric emptying after left hepatectomy with lymphadenectomy for cholangiocarcinoma. J Hepatobiliary Pancreat Surg 2007 ; 14 (4) : 392-396.
 - 5) Kasiwabara M¹⁾, Miyashita M¹⁾, Nomura T¹⁾, Makino H, Matsutani T¹⁾, Kim C²⁾, Takeda S²⁾, Yamashita K¹⁾, Chaudry I³⁾, Tajiri T¹⁾ (Department of Surgery, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Anesthesiology and Intensive Care, Nippon Medical School, ³⁾ Center for Surgical Research and Department of Surgery, University of Alabama) : Surgical Trauma-Induced Adrenal Insufficiency is Associated with Post-operative Inflammatory Responses. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 274-283.
 - 6) Seya T^{1, 2)}, Tanaka N^{1, 2)}, Shinji S^{1, 2)}, Shinji E^{1, 2)}, Yokoi K^{1, 2)}, Horiba K^{1, 2)}, Kanazawa Y^{1, 2)}, Yamada T^{1, 2)}, Oaki Y³⁾, Tajiri T¹⁾ (Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Surgery, Nippon medical School Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾ Department of Pathology, Nippon medical School Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Rectal Malignant Melanoma Showing Immunohistochemical Variability in a Tumor. J Nippon Med sch 2007 ; 74 (5) : 377-381.
 - 7) 中溝宗永²⁾, 横島一彦²⁾, 粉川隆行²⁾, 島田健一²⁾, 酒主敦子²⁾, 斉藤明彦²⁾, 稲井俊太²⁾, 八木聰明²⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (付属病院 第一外科, ²⁾ 付属病院 耳鼻咽喉科) : 下咽頭食道切除後の一期的再建術式の検討 胃癌, 延長胃管, 遊離空腸+胃管の比較. 頭頸部癌 2007 ; 33 (1) : 17-21.
 - 8) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 大川敬一, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 田尻 孝¹⁾ (付属病院 第一外科) : 化学療法による遅発性悪心・嘔吐と血清サブスタンスP値の推移. 癌と化学療法 2007 ; 34 (6) : 903-906.
 - 9) 鈴木英之¹⁾, 古川清憲, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (付属病院 第一外科) : イレウスに対する腹腔鏡下手術の適応. 日本腹部救急医学会雑誌 2008 ; 28 (1) : 47-52.
 - 10) 山田岳史, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 大秋美治¹⁾, その他1名 (千葉北総病院 病理) : 胃癌に対する低濃度Paclitaxelの効果. 癌と化学療法 2008 ; 35 (2) : 251-253.
- (2) 総説 :
- 1) Yoshida H¹⁾, Mamada Y, Taniai N¹⁾, Tajiri T¹⁾ (Department of Surgery, Nippon Medical School) : Partial splenic embolization. Hepatology Reserch 2007 ; 38 (3) : 225-233.
 - 2) 岩切勝彦²⁾, 飯泉 匡²⁾, 川見典之²⁾, 田中由理子²⁾, 楠 正典²⁾, 三宅一昌²⁾, 坂本長逸²⁾, 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾ (付属病院 第一外科, ²⁾ 付属病院 消化器内科) : どう使う経鼻内視鏡 : 構造の差から生じるメリット 操作性. 消化器内視鏡 2007 ; 19 (4) : 591-594.
 - 3) 田中宣威 : 大腸癌治療の現況と展望. 日医大医会誌 2007 ; 3 (2) : 70-75.
 - 4) 岩切勝彦²⁾, 川見典之²⁾, 田中由理子²⁾, 新藤智隆²⁾, 佐野弘仁²⁾, 琴寄 誠²⁾, 二神生爾²⁾, 坂本長逸²⁾, 野村務¹⁾, 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾ (付属病院 第一外科, ²⁾ 付属病院 消化器内科) : NERDの病態と治療 : 消化管運動機能からみたNERDの病態. GI Research 2007 ; 15 (3) : 202-208.
 - 5) 田尻 孝¹⁾, 村上隆介¹⁾, 古川清憲 (付属病院 第一外科) : 【乳癌 基礎・臨床研究のアップデート】臨床研究 診断 画像診断-CT, MRI, PET-CT 乳癌診断におけるMD-CTの有用性. 日本臨床 2007 ; 65 (6) : 344-347.
 - 6) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 柏原 元¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ (付属病院 第一外

科)：臨床医のために 結腸右半切除術 当科における標準手術手技. 日医大医学会誌 2007 ; 3 (3) : 136-140.

- 7) 古川清憲, 住吉宏樹, 松野邦彦：【救急医療領域における感染症】重症患者における感染症発症の病態とその対策 Catheter-related sepsisの病態とその予防対策. 救急医学 2007 ; 31 (10) : 1144-1148.

(3) 研究報告書：

- 1) Mamada Y, Yoshida H¹⁾, Taniai N¹⁾, Shimizu T¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Arima Y¹⁾, Akimaru K¹⁾, Tajiri T¹⁾ (1) Department of surgery, Nippon Medical School) : The Usefulness of Laparoscopic Hepatectomy. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (2) : 158-162.
- 2) Mamada Y, Yoshida H¹⁾, Taniai N¹⁾, Bandou K¹⁾, Shimizu T¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Akimaru K¹⁾, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Peritoneovenous Shunts for Palliation of Malignant Ascites. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (5) : 355-358.

(4) 症例報告：

- 1) Nomura T¹⁾, Miyashita M¹⁾, Makino H, Maruyama H¹⁾, Katsuta M, Kashiwabara M¹⁾, Takahashi K¹⁾, Sasajima K¹⁾, Yamashita K¹⁾, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Argon Plasma Coagulation for the Treatment of Superficial Esophageal Carcinoma. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (2) : 163-167.
- 2) Ishikawa N, Tanaka N, Yokoi K, Seya T, Horiba K, Oaki Y¹⁾, Tajiri T²⁾ (1) Department of pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School) : A case of Rectal Metastatic Tumor in the Soft Tissue of the Hand. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 309-331.
- 3) Ishikawa N, Furukawa K, Yokoi K, Seya T, Horiba K, Tanaka N, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Mild Hemophilia A Diagnosed in a 55-year-old Patient after Pancreatoduodenectomy for Carcinoma of the Papilla of Vater. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (5) : 372-376.
- 4) Seya T, Tanaka N, Shinji S, Yokoi K, Oguro T¹⁾, Ohaki Y¹⁾, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T³⁾ (1) 千葉北総病院 病理, 2) 第二病理, 3) 付属病院 第一外科) : Squamous Cell Carcinoma Arising from Recurrent Anal Fistula. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 319-324.
- 5) Mamada Y, Yoshida H¹⁾, Taniai N¹⁾, Bandou K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishiwata Y¹⁾, Akimaru K¹⁾, Tajiri T¹⁾, Naito Z²⁾ (1) Department of surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Major Arterioportal Shunt Caused by Hepatocellular Carcinoma. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 314-318.
- 6) Seya T, Tanaka N, Yokoi K, Ishikawa N, Horiba K, Kanazawa Y, Yamada T, Koizumi M, Shinji S, Okazaki H, Ohaki Y³⁾, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surger, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of pathorogy, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : Complete response of a patient with advanced gastric cancer, showing Epstein-Barr virus infection, to preoperative chemotherapy with S-1 and cisplatin. International Journal of Clinical oncology 2007 ; 12 (6) : 472-477.
- 7) Seya T, Shinji E, Tanaka N, Shinji S, Koizumi M, Horiba K, Ishikawa N, Yokoi K, Ohaki Y²⁾, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital) : A Case of Multiple Gastric Carcinoids That Could Not Be Preoperatively Diagnosed. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (6) : 430-433.
- 8) 小泉岐博, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 進士誠一, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 6年間の病脳期間を有した成人Bochdalek孔ヘルニアの1例. 日医大医学会誌 2007 ; 3 (2) : 102-104.
- 9) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) :

CA19-9産生胃癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2007 ; 68 (4) : 845-849.

- 10) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 大川敬一, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 山下精彦¹⁾, その他1名 (1) 付属病院 第一外科) : Paclitaxel/CDDP療法にて腹水が消失した進行胃癌3例. 癌と化学療法 2007 ; 34 (5) : 769-772.
- 11) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 石川義典¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 腸回転異常症が発症の誘因と考えられたS状結腸ストーマ狭窄の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2007 ; 27 (4) : 645-649.
- 12) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 重篤な肺疾患のため化学放射線療法を施行後にTEMにより局所切除を行った下部直腸癌の1例. 日本大腸肛門病学会雑誌 2007 ; 60 (5) : 276-280.
- 13) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 多摩永山病院 外科) : 術前にダブルバルーン式小腸鏡にて病変部を観察し腹腔鏡補助下に切除術を行った狭窄型虚血性小腸炎の1例. 日本消化器外科学会雑誌 2007 ; 40 (8) : 1514-1519.
- 14) 田中由理子²⁾, 岩切勝彦²⁾, 川見典之²⁾, 佐野弘仁²⁾, 琴寄 誠²⁾, 川上明彦²⁾, 坂本長逸²⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 付属病院 消化器内科) : バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 新薬と臨床 2007 ; 56 (8) : 1255-1256.
- 15) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久³⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 内藤善哉²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 第二病理, 3) 多摩永山病院 外科) : 日本住血吸虫卵が介在した直腸癌の1例. 日本消化器内視鏡学会雑誌 2007 ; 49 (9) : 2504-2510.
- 16) 飯田信也¹⁾, 古川清憲, 横山 正²⁾, 柳原恵子¹⁾, 岩崎玲子¹⁾, 野口智子¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 内藤善哉³⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院第一外科, 2) 多摩永山病院外科, 3) 第二病理) : 高齢者に対する初回化学療法としての経口剤CapecitabineとCyclophosphamideの併用療法(XC療法)にて臨床的完全奏効(CR)が得られた転移性乳癌の1例. 癌と化学療法 2007 ; 34 (10) : 1697-1700.
- 17) 吉岡正人, 真々田裕宏, 田中宣威, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院第一外科) : 動脈塞栓術と経乳頭の膵管ステントが有効であった膵仮性嚢胞の1例. 日医大医会誌 2008 ; 4 (1) : 41-44.

著 書

- 1) 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : [分担] 5) 急性腹症 ; 3-3 治療学. 内科学 (杉本恒明, 矢崎義雄), 2007 ; pp218-223, 朝倉書店.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 古川清憲 : 表在感 (乳腺・皮膚・甲状腺) の診断と治療 update 外来診療における診断のキーポイントと治療の最前線 乳癌「治療」. 第17回公開「シンポジウム」, 2007. 6.

(2) シンポジウム :

- 1) 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 奥田武志¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 牧野浩司, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 残胃の癌発生予防における *H. Pylori* (HP) 除菌治療の効果とそのメカニズム. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 2) 横井公良, 田中宣威, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 小泉岐博, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : GIST再発に対する治療方針 (消化管gastrointestinal stromal tumor再発, 転移に対する治療戦略). 第62回日本消化器外科学会総会, 2007. 7.
- 3) 真々田裕宏, 吉田 寛¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 坂東功一¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 山初和也¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付

- 属病院 第一外科)：食道静脈瘤の治療：EVLかEISか。第14回日本門脈圧亢進症学会総会，2007. 9.
- 4) 柿沼大輔¹⁾，吉田 寛¹⁾，真々田裕宏，谷合信彦¹⁾，松本智司¹⁾，坂東功一¹⁾，水口義昭¹⁾，神田知洋¹⁾，石川義典¹⁾，秋丸琥甫¹⁾，田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科)：脾機能亢進症の治療 脾臓摘出術かPSEか：当科における脾機能亢進に対するPSE，脾臓の位置付け。第14回日本門脈圧亢進症学会総会，2007. 9.
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 谷合信彦¹⁾，吉田 寛¹⁾，真々田裕宏，松本智司¹⁾，坂東功一¹⁾，柿沼大輔¹⁾，石川義典¹⁾，秋丸琥甫¹⁾，田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科)：孤立性胃静脈瘤に対するIVRに限界はない！。第14回日本門脈圧亢進症学会総会，2007. 9.
- 2) 吉村明修¹⁾，阿曾亮子¹⁾，志村俊郎¹⁾，古川清憲，C. S. Lab. 運営委員会 (1) 教育推進室)：シミュレーション医学教育のカリキュラムへの導入。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9.
- (4) ワークショップ：
- 1) 宮下正夫¹⁾，野村 務¹⁾，牧野浩司¹⁾，勝田美和子，松田明久¹⁾，松谷 毅¹⁾，笹島耕二¹⁾，岩切勝彦²⁾，山下精彦¹⁾，田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科，²⁾ 付属病院 内科)：食道破裂に対する保存的療法。第61回日本食道学会学術集会，2007. 6.
- 2) 吉田 寛¹⁾，真々田裕宏，田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科)：当科における食道噴門部静脈瘤に対する新しい治療戦略(ワークショップ)。DDW (第11回日本肝臓学会大会)，2007. 10.
- 3) 山田岳史，古川清憲，田中宣威，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，堀場光二，金沢義一，白川 毅，工藤秀徳，小泉岐博，吉岡正人，進士誠一，岩本美樹，田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科)：癌患者の疼痛対策と在宅緩和医療 癌疼痛治療へのクリニカルパスの導入と在宅緩和医療の支援。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- (5) サージカルフォーラム：
- 1) 京野昭二¹⁾，山初順一¹⁾，山初和也²⁾，鶴田宏之²⁾，相本隆幸²⁾，石川紀行，田尻 孝²⁾ (1) 泉中央病院 外科，²⁾ 付属病院 第一外科)：地方都市の外科系病院における手術内容の推移：1982年からの約25年間について。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- (6) 一般講演：
- 1) Kan H¹⁾，Furukawa K，Suzuki H¹⁾，Tsuruta H¹⁾，Matsumoto S¹⁾，Akiya Y¹⁾，Shinji S，Matsuda A²⁾，Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery，²⁾ Surgery, Tama Nagayama Hospital)：A Case of Ischemic Stenosis of the Small Intestine Revealed by Double Balloon Enteroscopy and Resected by Laparoscopy-Assisted Surgery. 53th International College of Surgeons Japan Section (Kyoto, Japan)，2007. 6.
- 2) Nomura T¹⁾，Miyashita M¹⁾，Makino H，Maruyama H¹⁾，Takahashi K¹⁾，Akagi I¹⁾，Arima Y¹⁾，Suzuki H¹⁾，Yokomuro S¹⁾，Kiyama T¹⁾，Matsumoto S¹⁾，Nakamura Y¹⁾，Iwakiri K¹⁾，Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery)：Usefulness of Laparoscopic Heller-Dor Operation for Patients of Esophageal Achalasia Introduction. Endoscopic and Laparoscopic surgeons of Asia (Hyderabad, India)，2007. 8.
- 3) Kan H¹⁾，Furukawa K，Suzuki H¹⁾，Tsuruta H¹⁾，Matsumoto S¹⁾，Akiya Y¹⁾，Shinji S，Matsuda A²⁾，Teranishi N¹⁾，Sasaki J¹⁾，Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery，²⁾ Surgery, Tama Nagayama Hospital)：A Case of an Inflammatory Fibroid Polyp of the Cecum. 11th Asian Federation of Coloproctology (Tokyo, Japan)，2007. 9.
- 4) Makino H，Miyashita M¹⁾，Nomura T¹⁾，Hagiwara N¹⁾，Futami R¹⁾，Takahashi K¹⁾，Akagi I¹⁾，Kato S¹⁾，Kiyama T¹⁾，Okuda T¹⁾，Fujita I¹⁾，Sakurazawa N¹⁾，Iwakiri K²⁾，Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery，²⁾ Department of Gastroenterology and Hepatology)：Effective of thin or naso-endoscopic examination for the Patients with esophageal carcinomas before and after esophagectomy. Asian Pacific Digestive Week (Kobe, Japan)，2007. 10.

- 5) Seya T, Tanaka N, Furukawa K, Yokoi K, Ishikawa N, Horiba K, Kanazawa Y, Ohkawa K, Yamada T, Shirakawa T, Kudoh H, Koizumi M, Yoshioka M, Shinji S, Katsuta M : Expression of Emmprin, Matrix Metalloproteinase-9 and Type IV Collagen in Colorectal Cancer with Liver and Pulmonary Metastasis. 15th United European Gastroenterology Week 2007 (Paris), 2007. 10.
- 6) Horiba K, Tanaka N, Furukawa K, Yokoi K, Seya T, Shinji S, Ohaki Y¹⁾, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Department of pathology. Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of surgery) : Extracellular Matrix Metalloproteinase Inducer (Emmprin) in the Patients with Crohn' s Disease and in the Patients with Ulcerative Colitis. 15th United European Gastroenterology Week 2007 (Paris), 2007. 10.
- 7) Mamada Y, Yoshida H¹⁾, Taniyai N¹⁾, Bandou K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Akimaru K¹⁾, Furukawa K, Tanaka N, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery.) : Major Arterioportal Shunt Caused by Hepatocellular Carcinoma. The 18th Conference of the Asian Pacific Association For the Study of the Liver (COEX Convention Center Seoul, Korea), 2008. 3.
- 8) 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 二見良平¹⁾, 高橋 健¹⁾, 堀場光二, 大川敬一, 勝田美和子, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 付属病院 第一外科) : 食道癌多発性肝・リンパ節転移に対してCRTとchemotherapyで10ヶ月の延命効果が得られた1例. 第296回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 9.
- 9) Akagi I, Miyashita M, Makino H, Nomura T, Hagiwara N, Takahashi K, Cho K, Tajiri T (¹⁾ Surgery Medical School , ²⁾ Surgery Tuboi Hospital) : PIK3CA and SNO are probable targets in the3q26 amplicon in squamous cell carcinoma of the esophagus. . 66th Annual Meeting of Japanese Cancer Association2007, 2007. 9.
- 10) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 付属病院 第一外科) : CD-DSTを用いた胃癌に対する5FUの効果予測 : 5FUは時間依存症か濃度依存症か? . 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 11) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 大秋美治¹⁾, 田尻孝²⁾, 山下精彦²⁾, 内藤善哉³⁾, 石渡俊行³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院 病理, ²⁾ 付属病院 第一外科, ³⁾ 第二病理) : 大腸癌肝転移症例におけるEMMPRIN, MMP-9, Type IV collagenの発現. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 12) 寺西宣央¹⁾, 内藤善哉²⁾, 石渡俊行²⁾, 田中宣威, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 瀬谷知子, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 張 一光¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 川本聖郎¹⁾, その他1名 (¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 第二病理) : 大腸癌組織におけるnestin陽性微小血管の意義と予後との関連. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 13) 進士誠一, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 勝田美和子, 寺西宣央¹⁾, 小黒辰夫²⁾, 大秋美治²⁾, 川原清子³⁾, 工藤光洋³⁾, 中澤南堂³⁾, その他3名 (¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 千葉北総病院 病理, ³⁾ 第二病理) : 直腸悪性黒色腫におけるc-kitの関与. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 14) 堀場光二, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 大川敬一, 田尻 孝¹⁾, その他1名 (¹⁾ 付属病院 第一外科) : クロウン病腸管におけるMMPs, TIMPsの免疫組織化学的検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 15) 重原健吾¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 松本智司¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 古川清憲¹⁾, 田尻孝¹⁾ (¹⁾ 付属病院 第一外科) : 鉄欠乏性貧血を契機に発見された原発性小腸癌の1例. 第294回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 5.
- 16) 菅 隼人²⁾, 古川清憲, 鈴木英之²⁾, 飯田信也²⁾, 鶴田宏之²⁾, 松本智司²⁾, 秋谷行宏²⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央²⁾, 佐々木順平²⁾, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院 外科, ²⁾ 付属病院 第一外科) : 大腸切除後に生じ

た吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.

- 17) 萩原信敏¹⁾, 宮下正夫²⁾, 山下直行¹⁾, 笹島耕二³⁾, 野村 務²⁾, 牧野浩司²⁾, 松谷 毅³⁾, 二見良平²⁾, 柏原元³⁾, 勝田美和子, 高橋 健¹⁾, 赤木一郎²⁾, 山下精彦²⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 坪井病院 外科, 2) 付属病院 第一外科, 3) 多摩永山病院 外科): 全身化学療法にて軽快, 憎悪の経過を辿っている食道小細胞癌の1例. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 18) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 二見良平¹⁾, 高橋 健¹⁾, 笹島耕二²⁾, 丸山 弘²⁾, 松谷毅²⁾, 土屋喜一²⁾, 柏原 元²⁾, 堀場光二, 大川敬一, 勝田美和子, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 多摩永山病院 外科): 鏡視下手術の工夫と成績: 当科の鏡視下手術の工夫と成績. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 19) 山田岳史, 田中宣威, 益田律子¹⁾, 三浦剛史²⁾, 池森紀夫³⁾, 古山めぐみ⁴⁾, 木本陶子⁵⁾, 吉澤一巳⁵⁾ (1) 千葉北総病院 麻酔科, 2) 千葉北総病院 泌尿器科, 3) 千葉北総病院 メンタルヘルス科, 4) 千葉北総病院 看護部, 5) 千葉北総病院 薬剤部): 胃癌終末期患者における予後予測. 第12回日本緩和医療学会総会, 2007. 6.
- 20) 吉澤一巳^{1, 2)}, 森川陽子³⁾, 佐藤光利³⁾, 木本陶子^{1, 2)}, 濱田康次¹⁾, 福田恵子¹⁾, 古山めぐみ²⁾, 山田岳史²⁾, 三浦剛史²⁾, 益田律子²⁾ (1) 千葉北総病院 薬剤科, 2) 千葉北総病院 緩和ケアチーム, 3) 東邦大学 薬学部薬物安全性学研究室): フェンタニル貼付剤の薬物吸収に対する肌環境の影響: 貼付部位による検討. 第12回日本緩和医療学会総会, 2007. 6.
- 21) 古川清憲¹⁾, 飯田信也¹⁾, 古川恵子, 野口智子¹⁾, 土屋眞一²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 第二病理): カペシタピンとシクロフォスファミドの併用療法 (XC療法) にて臨床的完全奏功 (CR) が得られた転移性乳癌の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 22) 飯田信也¹⁾, 古川清憲, 柳原恵子¹⁾, 岩崎玲子¹⁾, 野口智子¹⁾, 樋口勝美²⁾, 土屋眞一³⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 東京白十字病院 外科, 3) 日本医科大学 第二病理): 当科における乳癌に対する併用法センチネルリンパ節生検の成績. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 23) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健^{1, 2)}, 西 佳史^{1, 2)}, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 古川清憲, 田尻 孝³⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 多摩永山病院 病理部, 3) 付属病院 第一外科): 転移性乳癌におけるCapecitabine/Cyclophosphamide療法 (XC療法) の検討 (第2報). 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 24) 柳原 (古川) 恵子¹⁾, 野口智子¹⁾, 奥平かおり¹⁾, 飯田信也¹⁾, 源河敦史¹⁾, 樋口勝美²⁾, 土屋眞一³⁾, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 東京白十字病院 外科, 3) 日本医科大学 第二病理): アロマトーゼ阻害剤による筋関節痛の発生頻度. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 25) 柳田裕美¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 横山 正²⁾, 古川清憲, 田尻 孝³⁾, 内藤善哉⁴⁾ (1) 多摩永山病院 病理部, 2) 多摩永山病院 外科, 3) 付属病院 第一外科, 4) 第二病理): 穿刺吸引細胞診で診察し得た乳房内結節性筋膜炎の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 26) 野口智子¹⁾, 古川清憲, 飯田信也¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 岩崎玲子¹⁾, 土屋眞一²⁾, 樋口勝美³⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 日本医科大学 第二病理, 3) 東京白十字病院 外科): 化学療法中に出血梗塞死をきたした浸潤性乳癌の1例. 第15回日本乳癌学会総会, 2007. 6.
- 27) 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 勝田美和子, 松田明久³⁾, 松谷 毅³⁾, 笹島耕二³⁾, 岩切勝彦²⁾, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 付属病院 消化器内科, 3) 多摩永山病院 外科): 食道破裂に対する保存的療法. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 28) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小泉岐博, 勝田美和子, その他2名: 大腸癌内視鏡的摘除後追加腸切除例におけるリンパ節転移陽性症例の検討. 第67回大腸癌研究会, 2007. 7.
- 29) 菅 隼人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣史¹⁾, 佐々木

- 順平¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 肛門管にかかる下部直腸癌に対する術前化学放射線療法. 第67回大腸癌研究会, 2007. 7.
- 30) 神田知洋¹⁾, 松本智司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 古川清憲 (1) 付属病院 第一外科): 急性胃腸炎で発症し, 経過中に原因不明の小腸壊死を来した1例. 第295回日本消化器病学会, 2007. 7.
- 31) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 白川 毅, 大川敬一, 小泉岐博, 進士誠一, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 5-FU関連酵素OPRT, DPD, TSの5-FU感受性に与える影響. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 32) 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 奥田武志¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 大川敬一, 堀場光二, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 効果的で, 副作用が少ない食道癌に対するNeoadjuvant CRT. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 33) 真々田裕宏, 吉田 寛¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 坂東功一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 難治性癌性腹水症例に対するPeritoneovenous shuntの臨床経験. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 34) 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 白川 毅, 山田岳史, 大川敬一, 小泉岐博, 吉岡正人, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 胃癌におけるTSおよびDPDmRNA発現の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 35) 進士誠一, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 小泉岐博, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): StageII/III直腸癌(Ra, Rb) pT3症例における腫瘍浸潤距離の臨床病理学的意義. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 36) 鈴木英之, 古川清憲, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 松田明久, 進士誠一, 寺西宣央, 田尻 孝 (1) 付属病院 第一外科, 2) 第二病理): 進行大腸癌に対応した腹腔鏡下手術手技の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 37) 高橋 健²⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 野村 務¹⁾, 萩原信敏²⁾, 柏原 元¹⁾, 勝田美和子, 赤城一郎¹⁾, 山下直行¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 坪井病院 外科): 術前p53血清抗体価は食道癌手術後再発予想のマーカーとなりえるか. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 38) 赤城一郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 野村 務¹⁾, 萩原信敏²⁾, 高橋 健²⁾, 張 一光¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 坪井病院 外科): 食道扁平上皮癌3q26領域における遺伝子発現の意義. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 39) 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 高橋 健³⁾, 赤城一郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 横島一彦²⁾, 中溝宗永²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 付属病院 耳鼻科, 3) 坪井病院 外科): 下咽頭喉摘および食道全摘が必要な頸部食道癌, 下咽頭癌に対する術式の工夫. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 40) 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 萩原信敏²⁾, 高橋 健²⁾, 赤城一郎¹⁾, 二見良平¹⁾, 大川敬一¹⁾, 野村 務¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 坪井病院 外科): 食道癌におけるp53遺伝子および関連遺伝子の臨床的意義. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 41) 谷合信彦¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 真々田裕宏, 吉田 寛¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 周期経口分岐鎖アミノ酸製剤投与における栄養アセスメントと有用性の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 42) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 下部直腸癌に対し術前化学放射線療法を行った症例の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 43) 秋谷行宏¹⁾, 古川清憲, 内田英二¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 中村慶春¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 川本聖

- 郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 大腸癌に併存し同時に腹腔鏡下に切除した膵嚢胞性疾患の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 44) 松本智司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 胆嚢腫瘍, 上行結腸癌, S状結腸癌3病変に対し, 腹腔鏡下同時切除を行った1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 45) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘²⁾, 宮本昌之²⁾, 鈴木成治²⁾, 高橋 健²⁾, 鈴木英之²⁾, 古川清憲, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 付属病院 第一外科) : 肥満と消化器外科 脂肪細胞から見た手術侵襲後の生体反応と術後合併症制御への可能性. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 46) 金丸拓也¹⁾, 松本智司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 重原健吾¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 古川清憲, 内藤善哉²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 第二病理) : sm浸潤癌の様相を呈した直腸serrated adenomaの1例. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 7.
- 47) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻孝¹⁾, 江原彰人²⁾, 田中 周²⁾, 辰口篤志²⁾, 藤森俊二²⁾, 三宅一昌²⁾, 坂本長逸²⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 付属病院 内科) : 蛋白漏出性胃腸症を伴い胃・大腸の多重癌も併用した多発性大腸ポリープの1例. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 7.
- 48) 谷合信彦¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 真々田裕宏, 吉田 寛¹⁾, 田尻孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : カルシューリン阻害剤により繰り返し薬剤性肝障害をきたした生体肝移植後の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 49) 阿曾亮子¹⁾, 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 古川清憲 (1) 教育推進室) : 日本医科大学におけるシミュレーション医学教育のカリキュラムへの導入. 第39回日本医学教育学会大会, 2007. 7.
- 50) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久²⁾, 寺西宣央³⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 多摩永山病院 外科, 3) 会津中央病院 外科) : 当科における下部直腸癌に対する術前科学放射線療法. 第65回大腸癌研究会, 2007. 7.
- 51) 関 奈紀¹⁾, 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 大川敬一¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 川見典之²⁾, 田中由理子²⁾, 岩切勝彦²⁾, 山下精彦²⁾, 坂本長逸¹⁾, 田尻 孝 (1) 付属病院 第一外科, 2) 付属病院 消化器内科) : 腹腔鏡下にて治療を行った巨大食道裂孔ヘルニアの1例. 第296回日本消化器病学会, 2007. 9.
- 52) 堀田正啓¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦¹⁾, 松本智司¹⁾, 坂東功一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 十二指腸静脈瘤出血に対しBPTO施行した1例. 第14回日本門脈圧亢進症学会総会, 2007. 9.
- 53) 坂東功一¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦¹⁾, 松本智司¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 部分的脾動脈塞前術後に脾被膜下出血をきたした1例. 第14回日本門脈圧亢進症学会学術総会, 2007. 9.
- 54) 倉藤晶子¹⁾, 上村明子¹⁾, 金子栄子¹⁾, 古川清憲, 谷合信彦²⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 付属病院 中央手術部, 2) 付属病院 第一外科) : 手術時手洗いのラビング法による消毒効果の検討. 第29回日本手術医学会, 2007. 9.
- 55) 松野邦彦, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 工藤秀徳, 小泉岐博, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 乳癌の術前術後の精査中に見つかった無症候性左房粘液腫の3例. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 56) 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦¹⁾, 松本智司¹⁾, 坂東功一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 川東 豊¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 有馬保生¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 当科における肝門部胆管癌の治療方針. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.
- 57) 中村慶春¹⁾, 有馬保生¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 水口義昭¹⁾, 川東 豊¹⁾, 神田知洋¹⁾, 吉田寛¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科) : 術中胆道造影検査が比較的稀な胆道病

変の診断契機となった3例. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.

- 58) 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾, 有馬保生¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 真々田裕宏, 相本隆幸¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 田尻 孝¹⁾, Shrestha S¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 胆道医を育てる医学生に対するVRシミュレーターを用いた内視鏡外科手技の教育システム. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.
- 59) 清水哲也¹⁾, 山本一仁¹⁾, 峯田 章³⁾, 福原宗久¹⁾, 富樫晃祥, 木内博之¹⁾, 田尻 孝 (1) 北村山公立病院 外科, 2) 付属病院 第一外科, 3) 博慈会記念総合病院 外科): 胆嚢捻転症の1例. 第43回日本胆道学会学術集会, 2007. 9.
- 60) 真々田裕宏, 吉田 寛¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 板東功一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 清水哲也¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 難治性癌性腹水に対するPeritoneovenous shuntの経験. 第49回日本消化器病学会, 2007. 10.
- 61) 山田岳史, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 大川敬一, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, その他1名: 大腸癌におけるオキザリプラチンの効果. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 62) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 勝田美和子, その他4名: StageII大腸癌の再発危険因子に関する検討. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 63) 山田岳史, 古川清憲, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 大腸癌における抗癌剤感受性試験CD-DSTを用いた5FU/CPT-11併用療法の効果に関する検討. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 64) 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 丸山 弘¹⁾, 萩原信敏³⁾, 高橋 健³⁾, 赤城一郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 笹島耕二⁴⁾, 山下精彦¹⁾, 岩切勝彦²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 付属病院 消化器内科, 3) 坪井病院 外科, 4) 多摩永山病院 外科): CRT後再発食道癌症例に対するArgon Plasma coagulation (APC) 治療. Japan Digestive Disease Week, 2007. 10.
- 65) 山田岳史, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 小泉岐博, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 胃癌における5FUの効果とCPT-11の効果. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 66) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 勝田美和子, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 千葉北総病院 病理, 2) 付属病院 第一外科): StageII結腸癌における病理組織学的リンパ節検索個数の重要性. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 67) 坂東功一¹⁾, 古川清憲, 内田英二¹⁾, 有馬保生¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 中村慶春¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 腹腔鏡下右半結腸切除術と腹腔鏡下脾温存尾側脾切除術を同時施行した1例. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 68) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 松本智司¹⁾, 中村慶春¹⁾, 坂東功一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 放射線治療+ジェムザールにてlong-NCを得た肝内胆管癌の1例. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 69) 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏³⁾, 土屋喜一¹⁾, 二見良平⁴⁾, 高橋 健³⁾, 赤城一郎¹⁾, 内藤善哉²⁾, ガブリエルソンエドワード¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 日本医科大学 第二病理, 3) 坪井病院 外科, 4) 北村山公立病院 外科): 食道扁平上皮癌における von Hippel Lindau (VHL) 遺伝子産物の発現. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 70) 赤城一郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 野村 務¹⁾, 萩原信敏²⁾, 高橋 健²⁾, 張 一光¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 坪井病院 外科): 食道扁平上皮癌における3q26単位複製配列の標的と考えられるPIK3CAとSNO. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
- 71) 櫻澤信行¹⁾, 齋藤行世³⁾, 宮下正夫¹⁾, 山下直行²⁾, 萩原信敏²⁾, 高橋 健²⁾, 木山輝郎¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩

- 司, 奥田武志¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 高田英志¹⁾, 岩切勝彦⁴⁾, 加藤俊二¹⁾, その他1名⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 坪井病院 外科, ³⁾ 坪井病院 内科, ⁴⁾ 付属病院 内科): 粘膜胃癌に対するESDの新しい工夫 両端ループ付き細径スプリング使用カウンタートラクション法. Japan Digestive Disease Week, 2007. 10.
- 72) 高橋 光¹⁾, 福岡 猛¹⁾, 加藤篤衛³⁾, 山本一仁¹⁾, 峯田 章²⁾, 福原宗久¹⁾, 富樫晃祥, 清水哲也¹⁾, 木内博之¹⁾ ⁽¹⁾ 北村山公立病院 外科, ²⁾ 博慈会記念病院 外科, ³⁾ 付属病院 皮膚科): 消化器合併症を内視鏡的に確認しえたアナフィラクトイド紫斑病の1例. Japan Digestive Disease Week, 2007. 10.
- 73) 勝田美和子, 牧野浩司, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 金沢義一, 白川毅, 山田岳史, 田中宣威, 宮下正夫¹⁾, 大川敬一, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科): S状結腸癌術後5年で胸部解離性大動脈瘤と食道腺癌を合併し, CRTにて奏功した1例. 第69回日本臨床外科学会, 2007. 11.
- 74) 石川紀行, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 工藤秀徳, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 住吉宏樹, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科): 当科における鼠径部ヘルニアの再発例の検討. 第69回日本臨床外科学会, 2007. 11.
- 75) 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 高橋 健²⁾, 萩原信敏²⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 勝田美和子, 堀場光二, 古川清憲, 田中宣威 ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 坪井病院 外科): 新生児ケント鉤とケント・ブーメラン・リトラクターセットを用いて鎖骨牽引下に, 食道癌における反回神経周囲・頸部リンパ節郭清を行なう工夫. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 76) 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 二見良平¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 萩原信敏²⁾, 高橋 健²⁾, 堀場光二, 勝田美和子, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾, 山田岳史 ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 坪井病院 外科): 当科の食道癌鏡下手術の工夫. 第20回日本内視鏡外科学会, 2007. 11.
- 77) 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 有馬保生¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾, 中村慶春¹⁾, 横島一彦²⁾, 中溝宗永²⁾, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 付属病院 頭頸部外科): 下咽頭癌, 頸部食道癌手術症例における鏡視下操作. 第20回日本内視鏡外科学会, 2007. 11.
- 78) 山田岳史, 古川清憲, 真々田裕宏, 牧野浩司, 金沢義一, 小泉岐博, 吉岡正人, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科): 腹腔鏡下開窓術を施行した感染症肝嚢胞の1例. 第20回日本内視鏡外科学会, 2007. 11.
- 79) 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾, 勝田美和子, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 田尻孝¹⁾, 内藤善哉²⁾, 古川清憲, 田中宣威 ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 第二病理): 食道扁平上皮癌の表在癌における血管新生関連マーカー遺伝子蛋白の発現との検討. 第18回日本消化器癌発生学会 (札幌), 2007. 11.
- 80) 赤城一郎¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 張 一光¹⁾, 三嶋拓也²⁾, 瀧澤俊広²⁾, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 第一解剖学講座): 食道扁平上皮癌におけるPIK3CA遺伝子発現の意義. 第18回日本消化器癌発生学会, 2007. 11.
- 81) 山田岳史, 古川清憲, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 進士誠一, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科): 大腸癌におけるCPT-11, 5FUの効果とTS活性の関係. 第62回日本大腸肛門病学会, 2007. 11.
- 82) 菅 隼人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久²⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 多摩永山病院 外科): 大腸切除後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術の検討. 第62回日本大腸肛門病学会総会, 2007. 11.
- 83) 鈴木英之¹⁾, 古川清憲, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久²⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 多摩永山病院 外科): 直腸癌に対するTEMの適応と成績. 第62回日本大腸肛門病学会総会, 2007. 11.
- 84) 秋谷行宏¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 進士誠一, 松田明久²⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院 第一外科, ²⁾ 多摩永山病院 外科): S状結腸に発生した子宮内膜症に対して腹腔鏡手術を行った1例. 第62回日本大腸肛門病学会総会, 2007. 11.

- 85) 鈴木英之¹⁾, 古川清憲, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 松田明久²⁾, 進士誠一, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 多摩永山病院 外科): 腹腔鏡下大腸手術の手術コストと保険点数. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 86) 小泉岐博, 山下直行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 吉岡正人, 進士誠一, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): メッケル憩室内の線虫感染が原因となった内ヘルニアの1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 87) 高橋 健²⁾, 山下直行¹⁾, 萩原信敏²⁾, 大谷圭司²⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司, 赤城一郎¹⁾, 齋藤行世³⁾, 岩波 洋²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 坪井病院 外科, 3) 坪井病院 内科): 食道癌手術後, 食道胃管吻合部直上に食道穿孔をきたした1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 88) 赤城一郎²⁾, 宮下正夫²⁾, 牧野浩司, 野村 務²⁾, 萩原信敏³⁾, 高橋 健³⁾, 張 一光²⁾, 三嶋拓也¹⁾, 瀧澤俊広¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 第一解剖学講座, 2) 付属病院 第一外科, 3) 坪井病院 外科): 食道扁平上皮癌におけるPIK3CA 遺伝子発現の意義. 第18回日本消化器癌発生学会, 2007. 11.
- 89) 野村 務¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 大川敬一¹⁾, 土屋善一¹⁾, 高橋 健²⁾, 赤城一郎¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦¹⁾, 坂東功一¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 坪井病院 外科): 二期的に肝切除および食道切除を行い良好な治療効果が得られている食道癌肝転移症例. 第69回日本臨床外科学会学術総会, 2007. 11.
- 90) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 宮下正夫³⁾, 高橋 健¹⁾, 齋藤行世¹⁾, 河野孝一郎¹⁾, 笹島耕二³⁾, 野村 務²⁾, 牧野浩司, 赤城一郎²⁾, 櫻澤信行²⁾, 山下精彦²⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 坪井病院 外科, 2) 付属病院 第一外科, 3) 多摩永山病院 外科): 全身化学療法にて, ADLを損なう事無く良好に経過している進行食道小細胞癌の1例. 第69回日本臨床外科学会学術総会, 2007. 11.
- 91) 大川敬一¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 野村 務, 土屋喜一¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 勝田美和子, 堀場光二, 寺本 忠²⁾, 和田雅世¹⁾, 坂東健史¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 町田胃腸病院 外科): 食道平滑筋腫に対して胸腔鏡下筋腫核出術を行った1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 92) 土屋喜一¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司, 野村 務¹⁾, 大川敬一¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 川見典之²⁾, 田中由里子²⁾, 岩切勝彦²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 付属病院 消化器内科): 咽頭癌治療後に食道癌肉腫と胃癌を合併した1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 93) 鶴田宏之¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久²⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 多摩永山病院 外科): 日本住血吸虫症を合併した横行結腸癌の1例. 第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 2007. 11.
- 94) 柿沼大輔¹⁾, 野村 務¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 真々田裕宏, 佐々木順平¹⁾, 重原健吾¹⁾, 山初和也¹⁾, 有馬保生¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 松本智司¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 鼠径ヘルニア嵌頓時における腹腔鏡観察の有用性. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 95) 坂東功一¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦¹⁾, 松本智司¹⁾, 中村慶春¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 腎癌転移性肝腫瘍を否定しえず腹腔鏡下肝部分切除術を施行した肝血管腫の1例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 96) 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 坂東功一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 原発性肝癌取扱い規約におけるT因子の正当性について. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 97) 西 佳史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 横山 正¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 丸山 弘²⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原 元²⁾, 松田明久¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 飯田信也²⁾, 古川清憲, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 付属病院 第一外科): 術前化学療法としてCapecitabine/経口Cyclophosphamide療法(XC)を行ない認容性と奏功性が同時に得られた閉経前乳癌の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.

- 98) 菅 隼人¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久²⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 高田英志¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 多摩永山病院 外科): 当施設における術前化学放射線療法を行った下部直腸癌症例の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 99) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 丸山 弘²⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 柏原元²⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 新井洋紀¹⁾, 飯田信也²⁾, 古川清憲, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 付属病院 第一外科): Capecitabine 投与を機軸とした転移性乳癌に対する治療戦略. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 100) 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏, 谷合信彦¹⁾, 坂東功一¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 中村慶春¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 私の工夫・こだわりの外科診療 BLAKE Silicone Drainを使用した私の工夫 肝胆膵外科領域における様々な使用方法. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 101) 中村慶春¹⁾, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 松本智司¹⁾, 松下 晃²⁾, 張 一光¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 真々田裕宏, 野村 務¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 有馬保生¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 多摩永山病院 外科): 鏡視下肝臓切除 その適応, 術式 腹腔鏡下尾側肝切除術. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 102) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 柳健¹⁾, 柏原 元¹⁾, 高橋 健¹⁾, 宮下正夫²⁾, 鈴木英之²⁾, 古川清憲, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 付属病院 第一外科): 脂肪量およびアディポサイトカインが術後感染症発症に及ぼす影響. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 103) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 柳 健¹⁾, 西 佳史¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 古川清憲, 飯田信也¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 多摩永山病院 病理): 局所炎症性再発に対し Capecitabine + Anastrozole が奏功している超高齢者乳癌の1例. 第4回日本乳癌学会関東地方会, 2007. 11.
- 104) 西 佳史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 横山 正¹⁾, 柳 健¹⁾, 前田昭太郎³⁾, 細根 勝³⁾, 飯田信也²⁾, 古川清憲, 田尻孝²⁾ (1) 多摩永山病院 外科, 2) 付属病院 第一外科, 3) 多摩永山病院 病理): Trastuzumab を中心とした術前化学療法により乳房温存手術が可能となった高齢者炎症性乳癌の1例. 第4回日本乳癌学会関東地方会, 2007. 11.
- 105) 柳原恵子¹⁾, 野口智子¹⁾, 奥平かおり¹⁾, 飯田信也¹⁾, 樋口勝美³⁾, 古川清憲, 田尻 孝¹⁾, 土屋眞一²⁾ (1) 付属病院 第一外科, 2) 付属病院 病理, 3) 東京白十字病院): 術前化学療法に Trastuzumab を併用し pCR が得られた1例. 第4回日本乳癌学会関東地方会, 2007. 11.
- 106) 進士誠一, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 小泉岐博, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 千葉北総病院 病理, 2) 付属病院 第一外科): 大腸多重癌 (重複癌・多発癌) の検討. 第68回大腸癌研究会, 2008. 1.
- 107) 佐々木順平¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 当科における大腸同時性多重癌の臨床病理学的検討. 第68回大腸癌研究会, 2008. 1.
- 108) 山田岳史, 古川清憲, 田中宣威, 金沢義一, 白川 毅, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 胃癌における 5FU/CPT-11 併用療法の効果に関する検討. 併用療法は相加的か?. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 109) 金沢義一, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 山田岳史, 白川 毅, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 胃癌における TS, DPD 発現. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 110) 牧野浩司, 宮下正夫¹⁾, 古川清憲, 金沢義一, 白川 毅, 加藤俊二¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 奥田武志¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 胃癌術後7年で腹水と STN の上昇を認め, PET 施行にて発見された卵巣転移・腹膜播種の1例. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.

- 111) 佐々木順平¹⁾, 松本智司¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 鏡視下S状結腸切除術後に乳糜腹水を呈した一例. 第808回外科集談会, 2008. 3.
- 112) 牧野浩司, 古川清憲, 真々田裕宏, 横井公良, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 工藤秀徳, 吉岡正人, 勝田美和子, 進士誠一, 富樫晃祥, 松野邦彦, その他6名: 肺繊維症を合併した超高齢者の胃穿孔に対して大網充填施行し, 術後の生検で胃癌穿孔と診断された1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- (7) Freshman Award :
- 1) 岩本美樹, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 工藤秀徳, 進士誠一, 勝田美和子, 吉岡正人, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 右胃大網脈を用いた冠状動脈バイパス術後に発症した横隔膜ヘルニアの1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- (8) ビデオサージカルフォーラム :
- 1) 野村 務¹⁾, 古川清憲, 鈴木英之¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 真々田裕宏, 柿沼大輔¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 重原健吾¹⁾, 山初和也¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 教育面から見た鼠径ヘルニアの術式選択. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- (9) 指定講演 :
- 1) 金沢義一, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 白川 毅, 山田岳史, 大川敬一, 吉岡正人, 工藤秀徳, 小泉岐博, 田中宣威: 幽門側胃切除におけるRoux-Y再建: 他の再建法との比較. 第26回千葉胃癌研究会, 2007. 5.
- (10) 若手ビデオセッション :
- 1) 住吉宏樹, 古川清憲, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 真々田裕宏, 堀場光二, 牧野浩司, 金沢義一, 白川毅, 山田岳史, 大川敬一, 工藤秀徳, 田中宣威, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院 第一外科): 当科におけるDirect kugel法による鼠径部ヘルニアの検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.

10. 外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）

[付属病院第2外科（内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科）・
千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]

研究概要

外科学当講座は付属病院外科，武蔵小杉病院，武蔵小杉病院消化器病センター，千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育，研究，診療を担っている。付属病院外科では以下の項目を重点的に研究している。

(1) 心臓血管外科部門では，冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間600例以上の手術を行っている。虚血性心疾患外科治療，心房細動を中心とした不整脈外科，心筋保護法，小児開心術術式等に関する研究を主体としている。腹部大動脈瘤手術成績や末梢血行再建術式に関する研究にも積極的に取り組んでいる。

(2) 呼吸器外科領域では，肺癌外科治療を中心に年間約200例の手術を施行している。肺癌では1994年より低侵襲性手術である胸腔鏡補助下手術を他に先駆けて導入し高齢者，低身体機能を有する予備力低下症例に応用し良好な結果をあげ，国内外で評価を受けている。併せて分子生物学，遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療などの研究に国内外で従事している。さらに肺縦隔良性疾患，多汗症などの機能的疾患には胸腔鏡下手術による短期入院での治療を実施し，社会的に貢献している。

(3) 内分泌外科領域では，甲状腺，副甲状腺，副腎および乳腺疾患を対象に年間250例以上の手術を行っている。1998年からは内視鏡下手術として，副腎はもとより甲状腺，副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式のVideo-assisted neck surgery（VANS法）を国内外で最も早く取り組み，高度先進医療として国から許可されている。全国各地からの紹介患者も多く，また，海外からの評価も高く，国際学会での発表，ライブ手術も頻回に行っている。さらには，遺伝子学を中心に基礎研究も積極的に行っている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Yamagishi S, Koizumi K, Shimizu K : Assessment of the Perioperative Hemodynamics and Right Ventricular Performance of Lung Cancer Patients Using a Continuous Cardiac Output Monitoring System : Comparison Between Video-assisted Thoracic Surgery and Muscle-sparing Thoracotomy. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2006 ; 12 (3) : 166-173.
- 2) Satomi K¹⁾, Kurita T¹⁾, Takatsuki S²⁾, Yokoyama Y³⁾, Chinushi M⁴⁾, Tsuboi N⁵⁾, Nitta T, Shoda M⁶⁾, Mitamura H⁷⁾ (¹⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, National Cardiovascular Center, ²⁾ Cardiology Division, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, ³⁾ Cardiac Center, Yokosuka Kyosai General Hospital, ⁴⁾ School of Health Science, Niigata University School of Medicine, ⁵⁾ Department of Cardiology, Nagoya Dai-ni Red Cross Hospital, ⁶⁾ Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, ⁷⁾ Department of Cardiology, Saiseikai Central Hospital) : Amiodarone Therapy in Patients Implanted With Cardioverter-Defibrillator for Life-Threatening Ventricular Arrhythmias. *Circ J* 2006 ; 70 : 977-984.
- 3) Saito T^{1,3)}, Tamura K²⁾, Uchida D^{1,4)}, Saito T¹⁾, Togashi M²⁾, Nitta T, Sugisaki Y²⁾ (¹⁾ Nippon Medical

School, ² Department of Pathology, Nippon Medical School, ³ Toranomon Hospital, ⁴ Kanto Rosai Hospital) : Histopathological Features of the Resected Left Atrial Appendage as Predictors of Recurrence After Surgery for Atrial Fibrillation in Valvular Heart Disease. *Circ J* 2007 ; 71 : 70-78.

- 4) Akaishi J¹), Onda M¹), Okamoto J¹), Miyamoto S¹), Nagahama M²), Ito K²), Yoshida A³), Shimizu K (¹ Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ² Dept. of Surgery, Ito Hospital, ³ Dept. of Surgery, Kanagawa Prefectural Cancer Center) : Down-regulation of an inhibitor of cell growth, transmembrane protein 34 (TMEM34), in anaplastic thyroid cancer. *J Cancer Res Clin Oncol* 2007 ; 133 (4) : 213-218.
- 5) 新田 隆, 藤井正大, 小笠原英継¹), 石井庸介, 田中茂夫²) (¹ 日本医科大学千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, ² 狭山中央病院) : 心房細動に対する新しい手術 : Radial Approach. *Therapeutic Research* 2007 ; 49-55.

追加分症例報告 :

- 1) 小澤明子¹), 水谷康彦¹), 秋元直彦¹), 北嶋俊寛¹), 横澤裕美¹), 田村浩一²), 杉崎祐一²), 新田 隆, 岡崎怜子³), 清野精彦³) (¹ 日本医科大学医学部学生, ² 病理部, ³ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心房細動根治術で切除された左心耳組織所見から心臓サルコイドーシスの診断に至った1例. *診断病理* 2006 ; 23 : 208-11.

追加分総説 :

- 1) 新田 隆 : 心房細動外科治療の現況と将来の展望. *Medical Torch* 2006 ; 2 : 22-23.
- 2) 新田 隆 : 不整脈の外科治療. *臨床と研究* 2006 ; 83 : 1459-85.

(1) 原著 :

- 1) Emoto N¹), Kunii KY¹), Ashizawa M¹), Oikawa S¹), Shimizu K, Shimonaka M²), Toyoda A³), Toyoda H³) (¹ Department of Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital, ² Department of Chemistry, Tokyo University of Science, ³ Department of Bioanalytical Chemistry, Chiba University) : Reduced sulfation of chondroitin sulfate in thyroglobulin derived from human papillary thyroid carcinomas. *Cancer Sci* 2007 ; 98 (10) : 1577-1581.
- 2) Sugihara H¹), Shibasaki T²), Tatsuguchi A¹), Okajima F¹), Wakita S¹), Nakajima Y¹), Tanimura K¹), Tamura H¹), Ishii S¹), Kamegai J¹), Akasu H, Kitagawa W, Shimizu K, Nakamura Y, Uchida E, et al. (¹ Department of Medicine, ² Department of Medicine. Department of Physiology) : A non-acromegalic case of multiple endocrine neoplasia type 1 accompanied by a growth hormone-releasing hormone-producing pancreatic tumor. *J. Endocrinol. Invest* 2007 ; 30 : 421-427.
- 3) Ishii Y, Kronengold TR²), Virmani R³), Rivera AE³), Goldman MS²), Prechtel JE²), Schuessler BR¹), Damiano JR¹) (¹ Washington University, ² Kensey Nash Corporation, ³ American Registry of Pathology) : Bioengineered Small Caliber Vascular Graft With Excellent One-Month Patency. *Ann Thorac Surg* 2007 ; 83 : 517-25.
- 4) Saito T, Tamura K¹), Uchida D¹), Saito T¹), Nitta T, Sugisaki Y¹) (¹ Pathology (I)) : Histopathological evaluation of left atrial appendage thrombogenesis removed during surgery for atrial fibrillation. *Am Heart J* 2007 ; 153 : 704-711.
- 5) Ueno A¹), Kobayashi Y¹), Yodogawa K¹), Miyauchi Y¹), Yajima T, Nitta T, Kato T¹), Takano T¹) (¹ Dept. of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : A prospective study on the risk-stratification for patients with non-sustained ventricular tachycardia using a novel algorithm. *Circ J* 2007 ; 71 : 1107-1114.

- 6) Yamashita K¹⁾, Shimizu K (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Video-assisted breast surgery and sentinel lymph node biopsy guided by three-dimensional computed tomographic lymphography. *Surgical Endoscopy* 2008 ; 22 (2) : 392-397.
 - 7) Imura H, Suleman S (¹⁾ Nippon Medical School, Surgery-2, ²⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University) : Cardioprotection of neonatal heart using normothermic hyperkalaemia : the importance of delivery and terminal cardioplegia. *Mol Cell Biochem* 2008 ; 310 (1-2) : 1-9.
 - 8) Yamashita K, Shimizu K : Evaluation of Only Sentinel Lymph Node Metastasis guided by 3D-CT Lymphography in Video-assisted Breast Surgery (VABS). *Surgical Endoscopy* 2008 ; DOI 10. 1007/s00464-008-9809-z.
 - 9) 中村壮香¹⁾, 清水一雄, 高橋恵理佳, 赤須東樹, 五十嵐健人, 石川久美, 天神敏博, 渡会泰彦²⁾, 村瀬幸宏²⁾, 杉崎祐一²⁾, 山田英雄³⁾ (¹⁾ 日本医科大学医学部, ²⁾ 同病理部, ³⁾ チェルノブイリ医療支援ネットワーク) : チェルノブイリ原発事故後の小児甲状腺癌に対する人道的医療支援活動 : 事故後20年目の現況. *東京都医師会雑誌* 2007 ; 60 (4) : 517-523.
 - 10) 藤井正大, 落 雅美, 栗田二郎, 神戸 将, 別所竜蔵, 新田 隆, 清水一雄 : 当施設における開心術後Surgical Site Infection 予防対策. *日本外科感染症学会雑誌* 2007 ; 4 (3) : 297-301.
 - 11) 五十嵐健人, 清水一雄 : 甲状腺がん罹患ハイリスク群の検診と診療. *成人病と生活習慣病* 2007 ; 37 (11) : 1282-1285.
 - 12) 岡田大輔, 小泉 潔, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 清水一雄 : 当科における難治性気胸症例の手術経験. *日本気胸・嚢胞性肺疾患学雑誌* 2008 ; 7 : 140-144.
- (2) 総説 :
- 1) Ishii Y, Nitta T : Atrial fibrillation surgery for patients with rheumatic valve disease. *J Interv Card Electrophysiol* 2007 ; 20 (3) : 109-112.
 - 2) Nitta T : Surgery for atrial fibrillation : a worldwide review. *Semin Thorac Cardiovasc Surg* 2007 ; 19 : 3-8.
 - 3) 石井庸介, 大森裕也, 新田 隆 : 孤立性心房細動に対する外科治療の現況と将来の展望. *心臓* 2007 ; 39 (4) : 35-39.
 - 4) 山下浩二¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院外科) : 乳腺内視鏡手術の整容性と根治性 Aesthetic results and curability of video-assisted breast surgery. *日本臨床 乳癌 - 基礎・臨床研究のアップデート - 臨床研究 V. 治療 各論 外科治療* 2007 ; 65 (増刷号6) : 460-464.
 - 5) 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 石井律子, 軸菌智雄, 竹間由佳 : 甲状腺, 副甲状腺内視鏡手術 : 合併症を起こさない手技と工夫. *手術* 2007 ; 61 (9) : 1203-1209.
 - 6) 清水一雄, 北川 亘¹⁾ (¹⁾ 伊藤病院外科) : 甲状腺癌の治療に関する最新データ. *臨床外科 (増刊号)* 2007 ; 62 (11) : 55-60.
 - 7) 石井庸介 : 冠動脈バイパス術に対する小口径人工血管の開発. *日医大医会誌* 2007 ; 3 (3) : 151.
 - 8) 石井庸介, 新田 隆 : 心房細動の外科治療 : その進歩と適応. *Progress in Medicine* 2007 ; 27 (11) : 2511-2517.
 - 9) 石井庸介, 藤井正大, 新田 隆 : 心臓手術後心房性頻拍の発生頻度, 機序および予防 : 心臓外科医の視点から. *Progress in Medicine* 2007 ; 27 : 2740-2742.
 - 10) 新田 隆 : 心房細動の外科治療. *心臓* 2007 ; 39 : 339.
 - 11) 新田 隆 : 特集 新しい展開 どう治すか? 不整脈治療 : 不整脈の外科治療. *Circulation up-to-date* 2007 ; 2 : 187-194.
 - 12) 新田 隆 : 特集 : 胸部外科領域における最新の診断法 5. 不整脈手術のための電気生理学的診断. *胸部外科*

2007 ; 60 : 680-684.

- 13) 新田 隆 : 進歩する心房細動手術. 進歩する心臓研究 : Tokyo Heart Journal 2007 ; 27 : 30-36.
- 14) 新田 隆, 石井庸介 : 手術の tips and pitfalls : 心房細動手術. 日外会誌 2007 ; 108 : 351-356.
- 15) 新田 隆, 藤井正大, 石井庸介 : 心臓手術に見られる術後不整脈はどのように予知・対処すべきでしょうか? . アミオダロンQ&A 2007 ; 7-10.

(3) 症例報告 :

- 1) Bessho R, Fujii M, Maruyama Y, Ishii Y, Ochi M, Shimizu K : Aortocaval Fistula Secondary to a Contained Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm. Jpn. J. Vasc. Surg. 2007 ; 16 (6) : 777-780.
- 2) Yamamoto T¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Wakita S¹⁾, Ogano M¹⁾, Tokita M¹⁾, Miyagi Y, Sato N¹⁾, Nitta T, Tanaka K¹⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ Dept. of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) : Recurrent prosthetic valve endocarditis caused by Staphylococcus aureus colonizing skin lesions in severe atopic dermatitis. Intern Med 2007 ; 46 : 571-573.
- 3) Maruyama Y, Yamauchi S, Imura H, Sakamoto S, Ochi M, Shimizu K : Nonocclusive mesenteric ischemia after aortic surgery in a hemodialysis patient. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2008 ; 14 : 129-132.
- 4) 岩崎雄樹¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 小林義典¹⁾, 林 明聡¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 村田広茂¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 堀江 格¹⁾, 谷口宏史¹⁾, 上野 亮¹⁾, 平澤康宏¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 新田 隆, その他1名 (¹⁾ 内科学講座) : 心内膜切除後の心外膜側残存心筋と心室瘤内残存心筋を含むマクロリエンत्री性心筋梗塞後心室頻拍の1例. 臨床心臓電気生理 2007 ; 30 : 267-274.

(4) Invited commentary :

- 1) Nitta T : Invited commentary to Ann Thorac Surg Kiser et al. . Ann Thorac Surg 2008 ; 85 : 303-304.

(5) 解説 :

- 1) 落 雅美 : Drug Eluting Stent時代の冠動脈バイパス術 : 循環器内科医へのアンケートから考える. 日本冠疾患学会雑誌 2007 ; 13 : 175-187.

著 書

- 1) Nitta T : [分担] The radial procedure for atrial fibrillation : theoretical basis and clinical application. Manual of Surgical Treatment of Atrial Fibrillation (Sie HT, D7Ancona GD, Bartolozzi F, Beukema WP, Doty DB), 2008 ; pp113-118, Blackwell Futura.
- 2) 新田 隆 : [分担] 植込み型除細動器 : どのような患者が対象となるか. インフォームドコンセントのための図解シリーズ : 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器 (改訂版) (田中茂夫), 2007 ; pp64-69, 医薬ジャーナル社.
- 3) 新田 隆 : [分担] 術中電気生理検査と外科手術. 臨床心臓電気生理検査 (井上 博・奥村 謙), 2007 ; pp435-445, 医学書院.
- 4) 庄田守男¹⁾, 小林義典²⁾, 新田 隆 (¹⁾ 東京女子医科大学循環器内科, ²⁾ 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : [翻訳] イラストで学ぶ 心臓ペースメーカー step by step, 2007 ; 医学書院.
- 5) 別所竜蔵 : [分担] ICD植込み術式. インフォームドコンセントのための図説シリーズ. ペースメーカー・植込み型除細動器・改訂版. (田中茂夫), 2007 ; pp74-77, 医薬ジャーナル社.
- 6) 別所竜蔵 : [分担] ICDの種類. インフォームドコンセントのための図説シリーズ. ペースメーカー・植込み型除細動器・改訂版. (田中茂夫), 2007 ; pp70-73, 医薬ジャーナル社.
- 7) 別所竜蔵 : [分担] ICDの原理と構造. インフォームドコンセントのための図説シリーズ. ペースメーカー・植込み型除細動器・改訂版. (田中茂夫), 2007 ; pp60-63, 医薬ジャーナル社.
- 8) 別所竜蔵 : [翻訳] ペーシング閾値の決定. イラストで学ぶ心臓ペースメーカー. Step by Step (庄田守男,

小林義典, 新田 隆), 2007 ; pp28-36, 医学書院.

- 9) 石井庸介: [翻訳] オーバーセンシング. イラストで学ぶ心臓ペースメーカー. Step by Step (庄田守男, 小林義典, 新田 隆), 2007 ; pp179-195, 医学書院.
- 10) 清水一雄, 青木達哉¹⁾, 秋元治朗²⁾, 朝倉英策³⁾, 朝田 隆⁴⁾, 有賀 徹⁵⁾, 飯野好明⁶⁾, 井口俊大⁷⁾, 井口正典⁸⁾, 石黒達昌⁹⁾, 井田博幸¹⁰⁾, 板垣英二, 市瀬裕一, 市場 保, 市邊義章, その他110名 (¹⁾ 東京医科大学外科学第三講座, ²⁾ 同脳神経外科学, ³⁾ 金沢大学医学部附属病院高密度無菌治療部, ⁴⁾ 筑波大学大学院人間総合科学研究科, ⁵⁾ 昭和大学病院, ⁶⁾ 井上レディスクリニック, ⁷⁾ 千葉県精神科医療センター, ⁸⁾ 市立貝塚病院, ⁹⁾ The University of Texas, MD Anderson Cancer Center, ¹⁰⁾ 東京慈恵会医科大学小児科学): [分担] 第101回医師国家試験問題解説書. 第101回医師国家試験問題解説書 (医師国家試験問題解説書編集委員会), 2007 ; 医学評論社.
- 11) 清水一雄: [分担] 副甲状腺疾患 I. 副甲状腺機能亢進症. 甲状腺疾患診療実践マニュアル 第3版 (伊藤國彦・三村 孝 百溪尚子), 2007 ; pp160-163, 文光堂.
- 12) 清水一雄: [分担] 内視鏡 (補助下) 手術. 甲状腺疾患診療実践マニュアル 第3版 (伊藤國彦・三村 孝 百溪尚子), 2007 ; pp138-139, 文光堂.
- 13) 清水一雄: [分担] カルシウム代謝関連検査. 甲状腺疾患診療実践マニュアル 第3版 (伊藤國彦・三村 孝 百溪尚子), 2007 ; pp200-203, 文光堂.
- 14) 清水一雄, 亀山香織¹⁾ (¹⁾ 慶應義塾大学医学部病理診断部): [共著] 甲状腺・副腎の腫瘍性疾患 稀な組織型の甲状腺腫瘍. 腫瘍外科治療の最前線, 2007 ; pp424-429, 永井書店.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) Kambe M, Bessho R, Fujii M, Ochi M, Shimizu K : Myocardial protection : the efficacy of sivelestat, as an inhibitor of reperfusion injury . 19th World Society of Cardiothoracic Surgeons-Japan chapter- (石川県金沢), 2006. 7.
- 2) Yamagishi S, Koizumi K, Hirai K, Kawashima T, Enomoto Y, Yoshino N, Mikami I, Hirata T, Haraguchi S, Shimizu K : Evaluation of the change in serum ICTP value of lung cancer patients before and after operation. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 2006. 5.
- 3) 神戸 将, 別所竜蔵, 栗田二郎, 松山孝義, 丸山雄二, 大森裕也, 宮城泰雄, 藤井正大, 石井庸介, 落 雅美, 清水一雄: Leriche 症候群に対する下肢血行再建術の検討. 第34回日本血管外科学会総会, 2006. 5.
- 4) Yamagishi S¹⁾, Ghazizade M¹⁾, Shimizu H¹⁾, Koizumi K, Shimizu K, Kawanami O¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School) : Expression of methionine aminopeptidase-2 in pulmonary adenocarcinomas. 第46回日本呼吸器学会総会, 2006. 6.
- 5) 神戸 将, 別所竜蔵, 藤井正大, 落 雅美, 清水一雄: シベレスタットナトリウムの心筋保護効果. 第59回日本胸部外科学会定期学術集会, 2006. 10.
- 6) 神戸 将, 落 雅美, 栗田二郎, 藤井正大, 檜山和弘, 石井庸介, 別所竜蔵, 清水一雄: DES時代におけるCABGの役割. 第20回日本冠疾患学会学術集会, 2006. 12.
- 7) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 三上 巖, 窪倉浩敏, 吉野直之, 揖斐孝之, 大平夏木¹⁾, 大城俊朗¹⁾, 橋本梨花子¹⁾, 松宮早希¹⁾, 石井千裕¹⁾, 佐藤トキ子¹⁾, 清水一雄 (¹⁾ 付属病院看護部): 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術症例に対するクリティカルパスの検討. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 2006. 12.

(1) 特別講演：

- 1) Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Jikuzono T, Takema Y, Abdelhaleem W : Clinical study of totally gasless endoscopic thyroidectomy based on over 356 cases of experience. The 6th Gasless International Congress (Beijing, China), 2007. 12.
- 2) Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Jikuzono T, Takema Y, Abdelhaleem W : Clinical study of totally gasless endoscopic thyroidectomy based on over 356 cases of experience. The 6th Beijing International Minimally Invasive Surgery Forum (Beijing, China), 2007. 12.
- 3) 清水一雄：「甲状腺外科医なら出来る内視鏡補助下甲状腺，副甲状腺手術」：導入から今日まで356例の経験から得られた改善と工夫。第7回岩手甲状腺研究会，2007. 6.
- 4) 落 雅美：糖尿病を合併する虚血性心疾患患者の管理 心臓血管外科医の立場から「糖尿病を合併した虚血性心疾患患者へのCABG」。第15回鎌倉循環器フォーラム，2007. 6.
- 5) 新田 隆：不整脈の非薬物治療ガイドライン改訂の概説：外科治療。第22回日本不整脈学会，2007. 6.
- 6) 新田 隆：不整脈の最先端治療。相澤病院心臓病センター5周年記念講演，2007. 7.
- 7) 新田 隆：新任教授特別講演：不整脈の外科治療。第75回日本医科大学医学学会総会，2007. 9.
- 8) 落 雅美，山内仁紫，小川俊一：State of the Art：「川崎病冠動脈病変に対する外科治療のup-to-date：冠動脈バイパス術と瘤縫縮術の適応と術式」。第27回日本川崎病研究会，2007. 10.
- 9) 新田 隆：心房細動の外科治療。阪神心臓弁膜症シンポジウム，2007. 10.
- 10) 石井庸介：先天性心疾患術後IARTは予防できるか？：心房切開線峡部の伝導特性の解明から。第18回日本Pediatric Intervention Cardiology 研究会学術集会，2007.

(2) 招待講演：

- 1) Nitta T : Ablation Devices for AF Surgery in Japan. 3rd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium, 2007. 10.
- 2) Shimizu K : Clinical study of totally gasless endoscopic thyroidectomy based on over 379 cases of experience. The Scientific Meeting of Department Surgery in Alexandria Medical School (Alexandria Egypt), 2008. 2.
- 3) Nitta T : Map-guided Surgical Ablation. 57th American College of Cardiology (Chicago, IL), 2008. 3.
- 4) 新田 隆：心房細動に対する多角的治療戦略：進歩する心房細動手術。第65回東京心臓の会，2007. 6.
- 5) 新田 隆：心房細動手術における次世代のアブレーションデバイス。第50回関西胸部外科学会，2007. 6.
- 6) 別所竜蔵：胸部大動脈瘤に対するハイブリッド治療。第93回東葉臨床医学セミナー，2008. 2.
- 7) 清水一雄：甲状腺疾患の診断と治療 新しい外科的治療法：内視鏡手術の有用性。銚子医師会・銚子准看護学校同窓会・第3回研修会，2008. 3.

(3) 教育講演：

- 1) 別所竜蔵：大動脈解離・瘤に対するハイブリッド治療。第40回千駄木脈管カンファランス，2007. 1.
- 2) 落 雅美：Drug Eluting Stent時代の冠動脈バイパス術。第50回関西胸部外科学会学術集会，2007. 6.
- 3) 新田 隆：心房細動手術の機序とその変遷。第22回日本不整脈学会，2007. 6.
- 4) Ishii Y, Nitta T, Ochi M, Shimizu K : A novel bio-engineered small caliber vascular graft incorporating heparin and sirolimus : excellent 6 month patency. 第12回日本冠動脈外科学会，2007. 7.
- 5) 落 雅美：虚血性心疾患領域に於ける最近の話題。葛飾区医師会循環器集談会，2007. 7.
- 6) 新田 隆：不整脈の外科治療。第18回日本心臓病学会教育セミナー アドバンス・コース「インターベンション最前線」，2007. 7.
- 7) 新田 隆：オープニングセミナー：冠動脈疾患と心房細動。第12回日本冠動脈外科学会，2007. 7.
- 8) 新田 隆：心房細動手術。大阪大学・心研関連病院勉強会，2007. 7.
- 9) 新田 隆：心房細動手術のコツと落とし穴。山口大学講演会，2007. 8.
- 10) 新田 隆：ランチオンセミナー：不整脈の外科治療。Sapporo Live Demonstration Course 2007，2007. 8.

- 11) 新田 隆：Beyond PVI：Tips and Trick for Successful Radiofrequency Ablation. 日本胸部外科学会東北地方会, 2007. 9.
 - 12) 新田 隆：術後心房細動, 心房頻拍の機序とその対策. 第4回ATCVS研究会, 2007. 9.
 - 13) 新田 隆：不整脈におけるbreakthrough. 帝京大学講義 (第3学年), 2007. 10.
 - 14) 新田 隆：心房細動手術：次世代のアブレーションデバイス. 慶応義塾大学講演会, 2007. 12.
 - 15) 新田 隆：不整脈外科の最先端. 第18回聖路加国際病院ハートセミナー, 2008. 1.
- (4) シンポジウム：
- 1) Yamashita K¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital)：Trans-Axillary Retromammary-Route Approach of Video-Assisted Breast Surgery can Perform Breast Conserving Surgery for Cancers Even in Inner Side of the Breast (Symposium 1：Surgical advances in breast cancer). The 6th Biennial Meeting of the Asian Breast Cancer Society (Hong Kong), 2007. 9.
 - 2) Yamashita K：Video-assisted Breast Surgery is Effective in Curability and Aesthetics for Breast Diseases. GasLESS 2007 International (Beijin, P. R. China), 2007. 12.
 - 3) 清水一雄：甲状腺外科医なら出来る内視鏡補助下手術 (VANS法). 第32回日本外科系連合学会学術集会, 2007. 6.
 - 4) 新田 隆, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 神戸 将, 大森裕也, 藤井正大, 落 雅美, 清水一雄：僧帽弁形成術：最近の進歩. 第101回日本シネアンジオ研究会, 2007. 6.
 - 5) 石井庸介, 新田 隆, 宮城泰雄, 別所竜蔵, 藤井正大, 大森裕也, 神戸 将, 栗田二郎, 落 雅美, 清水一雄：外科用アブレーションデバイスはどのように使うべきか?. 第22回日本不整脈学会, 2007. 7.
 - 6) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 藤井正大, 大森裕也, 神戸 将, 栗田二郎, 落 雅美, 清水一雄：心房細動手術の利点と将来：洞調律復帰率100%を目指すために. 第22回日本不整脈学会, 2007. 7.
 - 7) 岡田大輔, 小泉 潔, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 清水一雄：当科における難治性気胸症例の手術経験 (難治性気胸). 第11回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会, 2007. 9.
 - 8) 平井恭二¹⁾, 小泉 潔, 川島徹生¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 清水一雄 (1) 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科)：当科における呼吸器外科疾患に対する胸腔鏡下手術のインフォームドコンセントの現況について. 第20回日本内視鏡外科学会総会 (仙台), 2007. 10.
 - 9) 落 雅美：合同シンポジウム「PCI, CABGのガイドラインを考える：内科医へのアンケート結果から」. 第21回日本冠疾患学会学術集会, 2007. 12.
 - 10) 落 雅美：メディカルシンポジウム「治療戦略：手術治療が歩む道」. 第23回日本心臓血管インターベンション学会東北地方会, 2008. 1.
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 藤井正大, 大森裕也, 神戸 将, 栗田二郎, 佐々木孝, 落 雅美, 清水一雄：アブレーションデバイスを用いた心房細動手術. 第32回日本外科系連合学会, 2007. 7.
 - 2) 落 雅美, 山内仁紫, 小川俊一：川崎病後心臓血管疾患2007「川崎病冠動脈病変に対する外科治療：自施設の経験からの検討」. 第55回日本心臓病学会学術集会, 2007. 9.
- (6) セミナー：
- 1) 石井庸介, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄：心房細動手術後心房細動の機序とその対策. 第38回日本心臓血管外科学会, 2007. 2.
- (7) ワークショップ：
- 1) 石井庸介, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄：心房細動手術のそこが知りたいー手術適応・術式選択, 術後管理, トラブルシューティング. 第22回不整脈外科研究会, 2007. 2.
 - 2) 山下浩二¹⁾ (1) 武蔵小杉病院外科)：進行乳癌に対するハーセプチン併用術前化学療法の治療効果 (乳癌の分子

- 標的治療1). 第19回日本内分泌外科学会総会, 2007. 5.
- 3) 天神敏博, 軸藺智雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 石井律子, 石川久美, 清水一雄: センチネルリンパ節癌微小転移の観察に対する基礎的研究. 第17回日本サイトメトリー学会学術集会, 2007. 7.
 - 4) 軸藺智雄, 天神敏博, 石井律子, 石川久美, 五十嵐健人, 赤須東樹, 廣川満良¹⁾, 宮内 昭¹⁾, 清水一雄¹⁾ (神甲会隈病院): 甲状腺未分化癌を用いたCyclinD1の遺伝子増幅と蛋白発現の関係. 第17回日本サイトメトリー学会学術集会, 2007. 7.
 - 5) 山下浩二¹⁾, 清水一雄¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院外科): 3D-CTリンパ管造影による腋窩リンパ節マッピングのセンチネルリンパ節生検への応用 (センチネルリンパ節理論の臨床的応用). 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
 - 6) Hirai K, Koizumi K, Kawashima T, Bessho R, Shimizu K¹⁾ (Nippon Medical School Chiba Hokusyo Hospital Division of Thoracic Surgery, ²⁾ Nippon Medical School Department of Surgery): Evaluation of fluoropyrimidine-metabolizing enzyme mRNA for non-small cell lung cancer using DTP method. 第66回日本癌学会総会 (横浜), 2007. 10.
 - 7) 山下浩二, 清水一雄: 3D-CT乳腺リンパ管造影による内視鏡的センチネルリンパ節生検および転移陽性例の腋窩温存の指標 (SNNSの最近の進歩). 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- (8) 一般講演:
- 1) Yamashita K¹⁾, Shimizu K¹⁾ (Department of Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital): Video-assisted Breast Surgery is Less Invasive and Good Aesthetic Surgical Procedure for Breast Diseases, Evaluated with Long-term Results. 1st Interconference Breast Cancer Meeting (Sarajevo, Bosnia & Herzegovina), 2007. 4.
 - 2) 窪倉浩俊, 山内茂生, 吉野直之, 川島徹生, 小泉 潔, 清水一雄: 自然気胸における再発予防法の評価と検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
 - 3) Ishii Y, Sakamoto S, Kronengold TR²⁾, Virmani R³⁾, Rivera AE³⁾, Goldman SS²⁾, Prechtel JE²⁾, Hill GJ²⁾, Damiano JR¹⁾ (1) Washington University, (2) Kensey Nash Corporation, (3) American Registry of Pathology): A novel bio-engineered small caliber vascular graft incorporating heparin and sirolimus: excellent 6 month patency. American Association for Thoracic Surgery (Washington D. C.), 2007. 5.
 - 4) Nitta T, Ishii Y, Bessho R, Fujii M, Ohmori H, Kambe M, Kurita J, Ochi M, Shimizu K: Use of Bipolar Radiofrequency Ablation Devices Does Not Undermine the Efficacy of Surgery for AF. 28th Heart Rhythm Society (Denver, CO), 2007. 5.
 - 5) Yamamoto T¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Maruyama M¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Hirasawa Y¹⁾, Ueno A¹⁾, Okazaki R¹⁾, Murata H¹⁾, Ohara T¹⁾, Nitta T, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾ (1) Dept. of Internal Medicine (Divisions of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)): Electroanatomical mapping-guided implantation of atrial pacemaker leads in idiopathic atrial fibrosis presenting partial atrial standstill and complete atrioventricular block: Improvement of left atrial contractility by achievement of A-V synchrony. 28th Heart Rhythm Society (Denver, CO), 2007. 5.
 - 6) Yamashita K¹⁾, Shimizu K¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital): The Preoperative Systemic Therapy is Effective in Local Control of T4 Breast Cancer with Invaded Skin Ulcer. XVIIth Joint Congress of Asia & Pacific Federations & 53rd Annual Congress of the Japan Section of the International College of Surgeons (Kyoto, Japan), 2007. 6.
 - 7) Kambe M, Bessho R, Fujii M, Ochi M, Shimizu K: Myocardial Protection: The Efficacy of Sivelestat Sodium, as an Inhibitor of Reperfusion Injury. World Congress of the International Society for Heart Research (Bologna, Italy), 2007. 6.

- 8) Kambe M, Bessho R, Fujii M, Ochi M, Shimizu K : Sivelestat Sodium Preserves Coronary Endothelial Function during Ischemia and Reperfusion. World Congress of the International Society for Heart Research (Bologna, Italy), 2007. 6.
- 9) Fujii M, Bessho R, Kambe M, Ochi M, Shimizu K : Myocardial Protection and Neutrophil Elastase Inhibitor : An Additive Effect of The Sivelestat on Reperfusion Injury. XIX World Congress of the International Society for Heart Research (Bologna, Italy), 2007. 6.
- 10) Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Ishikawa K, Takema Y, Abdelhaleem W, Ishii R, Jikuzono T : Clinical Study on Totally Gasless Endoscopic Thyroidectomy Based on over 350 Cases of Experience. 15th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (EAES) (Athens, Greece), 2007. 7.
- 11) Takema Y, Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Ishikawa K, Abdelhaleem W, Ishii R, Jikuzono T : Video-Assisted Endoscopic Total Thyroidectomy for the Patient with Micro-Papillary Carcinoma Who was Affected by Chernobyl Atomic Disaster. 15th International Congress of the European Association for Endoscopic Surgery (EAES) (Athens, Greece), 2007. 7.
- 12) Yamashita K¹⁾, Shimizu K (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Evaluation of Only Sentinel Lymph Node Metastasis guided by 3D-CT lymphography in Video-assisted Breast Surgery (VABS). 42nd World Congress of Surgery of the International Society of Surgery ISS/SIC International Surgical Week ISW 2007 (Montreal, Canada), 2007. 8.
- 13) Yamashita K¹⁾, Shimizu K (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Volume Replacement Methods for Breast Conserving Surgery of Video-assisted Breast Surgery (VABS). The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia (Hyderabad, India), 2007. 8.
- 14) Hirai K¹⁾, Koizumi K, Kawashima T¹⁾, Bessho R¹⁾, Shimizu K (¹⁾ Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital Division of Thoracic Surgery) : Evaluation of EphA2 receptor expression in non-small cell lung cancer : Clinical implications and molecular characterizations. 12th World Conference on Lung Cancer (Seoul, Korea), 2007. 9.
- 15) Yamashita K¹⁾, Takushima M¹⁾, Shimizu K (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Volume Replacement of Reconstruction Methods for Breast Conserving Therapy by Video-Assisted Breast Surgery. 1st Global Breast Cancer Conference 2007 (Seoul, South Korea), 2007. 10.
- 16) Yamashita K¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Preoperative Systemic Chemotherapy with Trastuzumab is Effective for Advanced Breast Cancer. 4th Congress of The World Society for Breast Health (Tianjin, P. R. China), 2007. 10.
- 17) 五十嵐健人, 赤須東樹, 石井律子, 軸蘭智雄, 竹間由佳, アブラファワリード, 清水一雄 : 内視鏡補助下頸部手術 (VANS法) による甲状腺癌治療の検討. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 18) Hirata T¹⁾, Koizumi K¹⁾, Haraguchi S¹⁾, Hirai K¹⁾, Mikami I¹⁾, Kubokura H¹⁾, Yamagishi S¹⁾, Yoshino N¹⁾, Okada D¹⁾, Kawashima T¹⁾, Shimizu K¹⁾ (¹⁾ The Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School) : Would VATS lobectomy have become standard procedure for primary lung cancer? (GasLESS Symposia). The 6th GasLESS International 2007 International Laproscopic Congress 2007 (Bijing, China), 2007. 12.
- 19) Kubokura H, Koizumi K, Yoshino N, Kawashima T, Hirai K, Shimizu K : Evaluation of Prevention Techniques against Postoperative Recurrence in Primary Spontaneous Pneumothorax. The 6th GasLESS International 2007 (Beijing, China), 2007. 12.
- 20) Yamashita K, Shimizu K : Metastatic Pattern of Axillary Lymph Nodes after Sentinel Lymph Node on 3D-CT Lymphography. 30th San Antonio Breast Cancer Symposium (San Antonio, Texas, USA), 2007. 12.

- 21) 石川真士, 赤須東樹, 竹間由佳, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 清水一雄: Extra adrenal pheochromocytoma. 19th Annual Congress of Asia-Pacific Endocrine Conference (APEC) (中国 蘇洲), 2008. 1.
- 22) Yamashita K, Shimizu K: Application of 3D-CT Lymphography to Detect Metastatic Pattern of Axillary Lymph Nodes after Sentinel Lymph Node. 6th Biennial International Sentinel Node Society Meeting (Sydney, Australia), 2008. 2.
- 23) Fujii M¹⁾, Nishina D¹⁾, Yajima T¹⁾, Bessho R, Maruyama Y²⁾, Chambers JD²⁾ (1) 特定医療法人仁愛会浦添総合病院心臓血管外科, 2) Cardiac Surgical Research The Rayne Institute St Thomas' Hospital): Myocardial Protection and Esmolol in Blood Perfused Rat Hearts. 16th Annual Congress of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (Singapore), 2008. 3.
- 24) 窪倉浩俊, 小泉 潔, 原田明希摩, 吉野直之, 山岸茂樹, 岡田大輔, 三上 巖, 平田知己, 中島由貴¹⁾, 川本雅司¹⁾, 清水一雄 (1) 付属病院病理部): 食道癌術後胃管穿孔をおこした右上葉切除症例. 第10回文京区呼吸器外科研究会, 2007. 4.
- 25) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 藤井正大, 大森裕也, 川瀬康裕, 神戸 将, 栗田二郎, 落 雅美, 清水一雄: 心房細動手術は有効か?: ワーファリン フリーを目指して. 第38回日本心臓血管外科学会, 2007. 2.
- 26) 平田知己¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 吉野直之¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 三上 巖¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄²⁾, 田尻孝²⁾ (1) 日本医科大学外科学講座・呼吸器外科, 2) 日本医科大学外科学講座): 胸腔鏡下縫縮術を施行したHepatic Hydrothoraxの2例. 第16回呼吸器外科冬季学術集会, 2007. 3.
- 27) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 吉野直之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 三上 巖¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座・呼吸器外科): 超高齢者肺癌の適応と評価. 日本外科学会総会, 2007. 4.
- 28) 吉野直之¹⁾, 原田明希摩¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 三上 巖¹⁾, 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾, 平井恭二²⁾, 川島徹生²⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, 2) 千葉北総病院胸部外科): 肺腺癌におけるMoesin, Dynamin1の発現の検討と分子生物学的意義. 日本外科学会総会, 2007. 4.
- 29) 神戸 将, 別所竜蔵, 藤井正大, 落 雅美, 清水一雄: シベレスタットナトリウムの心筋保護効果. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 30) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 藤井正大, 宮城泰雄, 大森裕也, 神戸 将, 栗田二郎, 落 雅美, 清水一雄: 術中電気生理学的伝導ブロック確認の有効性: 心房細動手術の成功率を上げるために. 第107回日本外科学会総会, 2007. 4.
- 31) 山下浩二¹⁾, 宅島美奈¹⁾, 保科淑子¹⁾, 富田剛志¹⁾, 遠藤直哉¹⁾, 木下裕康¹⁾, 織井恒安¹⁾, 原口秀司¹⁾, 日置正文¹⁾, 清水一雄 (1) 武蔵小杉病院外科): 乳腺内視鏡手術VABSでの3D-CTリンパ管造影によるセンチネルリンパ節単独転移陽性症例の評価Evaluation of Only Sentinel Lymph Node Metastasis guided by 3D-CT lymphography in Video-assisted Breast Surgery (VABS). 第107回日本外科学会学術総会, 2007. 4.
- 32) 藤井正大, 栗田二郎, 神戸 将, 檜山和弘, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄: 開心術後のSurgical Site Infection制御の工夫. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 33) 岡田大輔, 小泉 潔, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 齊藤祐二, 谷村繁雄, 細根 勝¹⁾, 川本雅司¹⁾, 清水一雄 (1) 病理部): 両側気胸で発症した転移性肺腫瘍の1例. 第120回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2007. 4.
- 34) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 三上 巖, 窪倉浩俊, 吉野直之, 揖斐孝之, 大平夏木¹⁾, 大城俊朗¹⁾, 橋本梨花子¹⁾, 松宮早希¹⁾, 石井千裕¹⁾, 佐藤トキ子¹⁾, 清水一雄 (1) 付属病院看護部): 原発性肺癌手術症例に対するクリニカルパスの検討. 第107回日本外科学会総会, 2007. 4.
- 35) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 三上 巖¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 吉野直之¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座・呼吸器外科): 原発性肺癌に対する胸腔鏡補助下肺葉切除術の遠隔成績. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 2007. 5.

- 36) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 三上 巖¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 吉野直之¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座・呼吸器外科): 胸腔鏡補助下右縦隔郭清の工夫 (要望ビデオセッション). 第24回日本呼吸器外科学会総会, 2007. 5.
- 37) 吉野直之¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 三上 巖¹⁾, 平田知己¹⁾, 原田明希摩¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾, 原口秀二²⁾, 木下裕康²⁾, 平井恭二³⁾, 川島徹生³⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, 2) 武蔵小杉病院外科, 3) 千葉北総病院胸部外科): 免疫組織化学染色による間質性肺炎合併肺癌における moesin の発現についての検討. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 2007. 5.
- 38) 川島徹生¹⁾, 原田明希摩²⁾, 平井恭二¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (1) 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, 2) 付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科)): 肺癌における樹状細胞とCD1脂質抗原提示系. 第24回日本呼吸器外科学会総会 (横浜), 2007. 5.
- 39) 岡田大輔, 中山景介, 小泉 潔, 清水一雄: 胸腔鏡手術が有効であった高齢者自然気胸3症例. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 2007. 5.
- 40) 五十嵐健人, 原田明希摩, 石川久美, 赤須東樹, 天神敏博, 清水一雄: パセドウ病に髄様癌を合併した症例から得られた新知見: 髄様癌とIL4との関係. 第19回日本内分泌外科学会総会, 2007. 5.
- 41) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 三上 巖, 窪倉浩敏, 吉野直之, 揖斐孝之, 大平夏木¹⁾, 大城俊朗¹⁾, 橋本梨花子¹⁾, 松宮早希¹⁾, 石井千裕¹⁾, 佐藤トキ子¹⁾, 岡田大輔²⁾, 清水一雄 (1) 日本医科大学付属病院看護部, 2) 会津中央病院呼吸器科): 当院におけるクリニカルパスの初期導入時の評価: 原発性肺癌手術症例に対する検討. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 2007. 5.
- 42) 山岸茂樹, 小泉 潔, 平田知己, 三上 巖, 窪倉浩敏, 吉野直之, 揖斐孝之, 竹内真吾¹⁾, 榎本 豊¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 岡田大輔²⁾, 清水一雄 (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 会津中央病院呼吸器科): 胸腔鏡下肺生検による間質性肺炎確定診断の有用性と安全性に関する検討. 第47回日本呼吸器学会総会, 2007. 5.
- 43) 平井恭二¹⁾, 小泉 潔, 川島徹生¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 清水一雄 (1) 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科): ヒト非小細胞肺癌における腫瘍内核酸代謝酵素 (TS, DPD, TP, OPRT) mRNA 発現の検討. 第24回日本呼吸器外科学会総会 (横浜), 2007. 5.
- 44) 早川朋宏, 五十嵐健人, 小泉公平, 竹間由佳, 石井律子, 軸菌智雄, 天神敏博, 赤須東樹, 清水一雄: パセドウ病に副甲状腺機能亢進症を合併した1例. 第805回外科集談会, 2007. 6.
- 45) 小泉公平, 五十嵐健人, 早川朋宏, 竹間由佳, 軸菌智雄, 石井律子, 天神敏博, 赤須東樹, 清水一雄: 急速に増大した頸部悪性神経内分泌腫瘍の1例. 第805回外科集談会, 2007. 6.
- 46) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 中島由貴¹⁾, 岡本淳一¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 吉野直之¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 田尻孝²⁾, 清水一雄²⁾ (1) 日本医科大学外科学講座呼吸器外科, 2) 日本医科大学外科学講座): 胸腔鏡補助下肺葉切除術における手術手技の工夫 (ビデオシンポジウム). 第32回日本外科系連合学会総会, 2007. 6.
- 47) 佐藤太亮¹⁾, 宮城泰雄, 藤井正大, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄 (1) 集中治療室): 巨大な感染性仮性弓部大動脈瘤に対し抗菌療法と上行弓部置換術により良好に治療しえた慢性透析の1例. 第204回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2007. 6.
- 48) 井村 肇¹⁾, 仁科 大¹⁾, 矢島俊巳²⁾ (1) 浦添総合病院心臓血管外科, 2) 日本医科大学第2外科): 大動脈弁輪拡張症に発症した急性心筋梗塞: 術前に急性大動脈解離の診断が困難であった症例に対する緊急CABG+Bentall手術. 冠動脈外科学会総会, 2007. 6.
- 49) 吉野直之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾, 山岸茂樹²⁾, 三上 巖³⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科, 2) 総合会津中央病院呼吸器科, 3) 埼玉県立がんセンター胸部外科): 対面2面・助手用モニター倒立胸腔鏡手術トレーニング・リアリティーを追及して. 日本外科系連合学会総会, 2007. 6.
- 50) 石井律子^{1,2)}, 高山純一²⁾, 鈴木明彦²⁾, 矢野由希子²⁾, 大桑恵子²⁾, 平川昭平²⁾, 渋谷 洋²⁾, 北川 亘²⁾, 長浜充二^{2,3)}, 杉野公則²⁾, 伊藤公一^{2,3)}, 清水一雄¹⁾, 伊藤國彦²⁾ (1) 日本医科大学外科学講座内分泌外科部門,

- 2) 伊藤病院, 3) 大須診療所) : 甲状腺髄様癌, 最近の伊藤病院での症例. 第19回日本内分泌外科学会総会 (名古屋東急ホテル), 2007. 6.
- 51) 神戸 将, 矢島俊巳, 栗田二郎, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄 : HVLICを用いたショックリード抵抗値測定による, 外来ICDチェックの妥当性. 第22回不整脈学会学術大会, 2007. 6.
- 52) 山下浩二¹⁾, 宅島美奈¹⁾, 保科淑子¹⁾, 富田剛志¹⁾, 遠藤直哉¹⁾, 木下裕康¹⁾, 織井恒安¹⁾, 原口秀司¹⁾, 日置正文¹⁾, 清水一雄⁽¹⁾ 武蔵小杉病院外科) : 乳腺リンパ管造影3D-CTによるセンチネルリンパ節および腋窩リンパ節転移パターンMetastatic Pattern of Sentinel Lymph Node and Axillary Lymph Nodes by 3D-CT lymphography. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 53) 中島由貴, 齋藤祐二, 谷村繁雄, 小泉 潔, 清水一雄 : 白血病発症前に前縦隔に髓外病変を形成した1例. 142回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2007. 6.
- 54) 岡田大輔, 小泉 潔, 平田知己, 窪倉浩俊, 吉野直之, 中島由貴, 川本雅司¹⁾, 清水一雄⁽¹⁾ 病理部) : 悪性腫瘍に合併した続発性気胸症例. 第142回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2007. 6.
- 55) 川島徹生¹⁾, 平井恭二¹⁾, 大秋美治²⁾, 別所竜蔵¹⁾, 小泉 潔³⁾, 清水一雄³⁾ (1) 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, 2) 同・病理部, 3) 付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科) : 直腸癌術後にCA19-9の上昇を認め出現したサルコイドーシスの1例. 日本呼吸器内視鏡外科学会関東支部会 (東京), 2007. 7.
- 56) 高山洋平, 小泉 潔, 平田知己, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 吉野直之, 中島由貴, 川本雅司¹⁾, 清水一雄⁽¹⁾ 日本医科大学病理部) : 胸腔鏡下に切除した感染性肺嚢胞の1例. 第121回日本呼吸器内視鏡学会関東部会, 2007. 7.
- 57) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 吉野直之¹⁾, 榎本 豊¹⁾, 原田明希摩¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座呼吸器外科) : 先天性心膜欠損症を合併した転移性肺腫瘍の1切除例. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 58) 吉野直之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科) : リスタマネージメントの観点からみた, これからの胸腔鏡下手術トレーニングとは. 第122回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2007. 9.
- 59) 石川真士, 五十嵐健人, 軸菌智雄, 竹間由佳, 赤須東樹, 清水一雄 : 巨大甲状腺腫を有する橋本病に対する外科治療. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 60) 栗田二郎¹⁾, 新田 隆¹⁾, 藤井正大¹⁾, 別所竜蔵¹⁾, 石井庸介¹⁾, 大森裕也¹⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学心臓血管外科) : 不整脈手術における術中electro-anatomical mapping (CARTO) の有用性. 第60回日本胸部外科学会定期学術集会, 2007. 10.
- 61) 藤井正大, 神戸 将, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄 : 開心術後Surgical Site Infection予防対策 : 皮下ドレーンによる陰圧管理は有効か?. 第60回日本胸部外科学会定期学術集会, 2007. 10.
- 62) 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, 石井律子, 軸菌智雄, 竹間由佳, アプデルハリームワリード¹⁾, 山田 哲²⁾ (1) アレキサンドリア大学, 2) 金地病院) : チェルノブイリ原発事故後発症した甲状腺微小乳頭癌に対する内視鏡下甲状腺全摘. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.
- 63) 清水一雄, 赤須東樹, 五十嵐健人, アプデルハリームワリード, 石井律子, 軸菌智雄, 竹間由佳, 山下浩二, 田中智佐子, 山田 哲¹⁾ (1) 金地病院) : 内視鏡補助下手術が可能な甲状腺疾患 : 436例の経験から得られた手術適応と限界. 第50回日本甲状腺学会, 2007. 11.
- 64) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 吉野直之¹⁾, 原田明希摩¹⁾, 岡本淳一¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 田尻孝¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座) : 肺野型小型肺癌に対する胸腔鏡補助下肺葉切除術の遠隔成績 (ワークショップ). 日本臨床外科学会, 2007. 11.
- 65) 窪倉浩俊, 小泉 潔, 原田明希摩, 吉野直之, 岡田大輔, 平田知己, 中島由貴¹⁾, 川本雅司¹⁾, 清水一雄

- (¹ 付属病院病理部)：肺癌細胞におけるCD40およびCD40Ligandの免疫組織学的検討。第48回日本肺癌学会総会，2007. 11.
- 66) 吉野直之¹，岡田大輔¹，窪倉浩俊¹，平田知己¹，小泉 潔¹，清水一雄¹，大秋美治² (¹ 日本医科大学呼吸器外科，² 千葉北総病院病理部)：免疫組織化学的検索を行った若年者Thymic epithelial tumorの1例。日本肺癌学会総会，2007. 11.
- 67) 川島徹生¹，平井恭二¹，大秋美治²，別所竜蔵¹，小泉 潔³，清水一雄³ (¹ 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，² 同・病理部，³ 付属病院第2外科 (内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科))：縦隔リンパ節 (#3) へのスキップ転移を呈した気管支発生微小肺癌の1例。第48回日本肺癌学会総会 (名古屋)，2007. 11.
- 68) 山下浩二，清水一雄：経腋窩乳腺後方アプローチによる鏡視下乳腺内側部分切除法。第20回日本内視鏡外科学会総会，2007. 11.
- 69) 中島由貴，川本雅司¹，平田知己，窪倉浩俊，岡田大輔，吉野直之²，田島廣行，小泉 潔，清水一雄 (¹ 病理部，² 放射線科)：CTNB後の野口分類に関する病理組織学的検討。第48回日本肺癌学会総会，2007. 11.
- 70) 岡田大輔，小泉 潔，山岸茂樹¹，飯島慶仁¹，平田知己，窪倉浩俊，吉野直之，清水一雄 (¹ 温知会会津中央病院呼吸器科)：ゲフィチニブが有効であった高齢者肺癌4症例。第48回日本肺癌学会総会，2007. 11.
- 71) 岡田大輔，小泉 潔，山岸茂樹¹，飯島慶仁¹，平田知己，窪倉浩俊，吉野直之，清水一雄 (¹ 温知会会津中央病院呼吸器科)：直腸癌術後経過観察中，胸腔鏡下生検が有効であった小細胞癌の1例。第20回日本内視鏡外科学会総会，2007. 11.
- 72) 五十嵐健人，赤須東樹，石井律子，軸菌智雄，竹間由佳，アブイルワファワリード，清水一雄：甲状腺癌に対する内視鏡補助下頸部手術 (VANS法) を用いた治療法の検討。第50回日本甲状腺学会，2007. 11.
- 73) 赤須東樹，竹間由佳，軸菌智雄，石井律子，五十嵐健人，Waleed A，清水一雄：甲状腺手術における光線力学的病変同定の展望。第50回日本甲状腺学会，2007. 11.
- 74) 田中智佐子，清水一雄，赤須東樹，五十嵐健人，石井律子，軸菌智雄，竹間由佳，アブデルハリームワリード，清水一雄：巨大甲状腺腫を有する橋本病に対する外科治療。第50回日本甲状腺学会，2007. 11.
- 75) 平井恭二¹，小泉 潔，川島徹生¹，別所竜蔵¹，清水一雄 (¹ 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科)：IB～II期非小細胞肺癌に対する術後補助化学療法 (Biweekly CBDCA+TXL) の認容性の検討。第48回日本肺癌学会総会 (名古屋)，2007. 11.
- 76) 窪倉浩俊，小泉 潔，吉野直之，岡田大輔，山岸茂樹，三上 敏，平田知己，原田明希摩，中島由貴¹，川本雅司¹，清水一雄 (¹ 付属病院病理部)：気胸発症を機に発見された胸腔内髄外造血組織腫瘍の1例。第20回日本内視鏡外科学会総会，2007. 12.
- 77) 栗田二郎¹，落 雅美¹，新田 隆¹，井村 肇¹，藤井正大¹，大森裕也¹，白川 真¹，廣本敦之¹，清水一雄¹ (¹ 心臓血管外科)：High risk症例に対する両側内胸動脈使用CABGの臨床経験。日本冠疾患学会学術集会，2007. 12.
- 78) 藤井正大¹，矢島俊巳¹，仁科 大¹ (¹ 特定医療法人仁愛会浦添総合病院心臓血管外科)：CLBBBを呈する機能性僧帽弁逆流症に対しCABGおよびMAPに加え心筋電極によるLV pacingが有用であった1例。第103回日本循環器学会 九州地方会，2007. 12.
- 79) 神戸 将，別所竜蔵，藤井正大，落 雅美，清水一雄：シベレスタットナトリウムの心筋保護効果：冠動脈内皮に対する保護効果。第38回日本心臓血管外科学会学術総会，2008. 2.
- 80) 新田 隆：ハンズオンセミナー：Maze手術。第38回日本心臓血管外科学会総会，2008. 2.
- 81) 藤井正大¹，仁科 大¹，矢島俊巳¹，新田 隆，落 雅美，石井庸介，別所竜蔵 (¹ 特定医療法人仁愛会 浦添総合病院 心臓血管外科)：超短時間作用型 β ブロッカー (塩酸ランジオロール) を利用した心房細動予防。第38回日本心臓血管外科学会学術総会，2008. 2.

- 82) 川島徹生¹⁾, 平井恭二¹⁾, 大秋美治²⁾, 別所竜蔵¹⁾, 小泉 潔³⁾, 清水一雄³⁾ (1) 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, (2) 同病理部, (3) 付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科): 前縦隔に発生した海綿状血管腫の1例. 日本肺癌学会関東部会 (東京), 2008. 3.
- (9) YOSHIHIDE FUJIMOTO PRIZE :
- 1) Igarashi T, Takema Y, Jikuzono T, Okamura R, Akasu H, Shimizu K : Endoscopic Thyroid Surgery For Malignant Disease : Application And Indication. 11th Congress of the asian association of endocrine surgeons (Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia), 2008. 3.
- (10) ビデオクリニック :
- 1) 赤須東樹, 竹間由佳, 軸菌智雄, 岡村律子, 五十嵐健人, 清水一雄 : VANS法における良好な視野確保のために. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- (11) ビデオセッション :
- 1) Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Jikuzono T, Takema Y, Harada M, Takizawa M : Gas-less Video Assisted Endoscopic Neck Dissection For Thyroid Malignancy. 11th Congress of The Asian Association of Endocrine Surgeons & Annual Scientific Meeting of The College of Surgeons, Academy of Medicine of Malaysia (Kota Kinabalu, Malaysia), 2008. 3.
- (12) ビデオライブラリー :
- 1) 清水一雄 : 左甲状腺微小乳頭癌に対する内視鏡補助下甲状腺左葉切除と気管周囲リンパ節郭清術. 第32回日本外科系連合学会学術集会, 2007. 6.
- (13) ライブ手術 :
- 1) Shimizu K : Video-assisted Endoscopic Thyroidectomy for Benign Thyroid Tumor. The Scientific Meeting of Department Surgery in Alexandria Medical School (Alexandria Egypt), 2008. 2.
- (14) ラウンドテーブルディスカッション :
- 1) 落 雅美 : The surgical strategies and results in the era of DES 「Coronary artery bypass grafting in the DES era : What follows next and what is the ultimate goal for the surgeons? 」. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 3.
- (15) 要望演題 :
- 1) 赤須東樹, 石川久美, 五十嵐健人, 清水一雄 : たこつば型心筋障害様病態を呈した褐色細胞腫の経験. 第19回日本内分泌外科学会総会, 2007. 5.

[武蔵小杉病院外科 (外科, 心臓血管外科)]

研究概要

心臓血管外科領域, 呼吸器外科領域, 乳腺・甲状腺内分泌外科領域の研究を中心としている。

- 1) 心臓血管外科領域 : 開診術周期における各種薬剤の薬理効果, および有効な心筋保護の確立について取り組んでいる。OPCABを中心とした低侵襲心臓手術法などの手術手技や大動脈外科手術時における補助循環法の研究を行っている。また, 高齢者の心大血管症例の術前・術後合併症の管理・治療法について検討し, 成績の向上を計っている。末梢動脈・静脈疾患に対する低侵襲診断・治療についても研究中である。
- 2) 呼吸器外科領域 : 胸腺腫を除く縦隔腫瘍, 転移性肺腫瘍, 自然気胸に対してはほぼ全例に胸腔鏡下に摘出を試み, 肺癌に対しても症例を選んで行っている。特に肺癌症例での胸腔鏡手術におけるメリット, デメリットを評価している。また, 再発肺癌や2次肺癌の外科治療にも積極的に取り組んでいる。基礎的研究は肺癌の予後因子の分子生物学的治療検討を行っている。
- 3) 乳腺・甲状腺内分泌外科領域 : 診断では, MRIを中心にした微細画像診断により, 癌の進展形態を評価し, 手術

方針の決定に役立っている。手術では、鏡視下乳房温存手術、乳頭・皮膚保存乳腺全摘術、胸筋温存乳房切除術を行い、センチネルリンパ節生検を行って検証を進めている。化学療法は、外来通院投与を中心に積極的に行い、QOLを高めるよう努力している。また、タキサン系薬剤の化学療法やハーセプチンの抗体療法についての有効性をアポトーシス・サイトカインのレベルで検討する。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Haraguchi S, Hioki M, Yamashita K, Orii K, Yamashita Y, Kawamura J, Takushima M, Endo N, Koizumi K¹⁾, Shimizu K¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：Ciprofloxacin Penetration into the Pulmonary Parenchyma in Japanese patients. *Surgery Today* 2007；37 (4)：282-284.
- 2) Haraguchi S, Koizumi K¹⁾, Hioki M, Hisayoshi T²⁾, Hirata T¹⁾, Shimizu K¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), ²⁾ 三鷹中央病院)：Hereditary Factors in Multiple Primary Malignancies Associated with Lung Cancer. *Surgery Today* 2007；37 (5)：375-378.
- 3) Haraguchi S, Hioki M, Koizumi K¹⁾, Hirata T¹⁾, Akiyama H¹⁾, Hirai K¹⁾, Mikami I¹⁾, Kubokura H¹⁾, Shimizu K¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：Characteristics of multiple primary malignancies associated with lung cancer by gender. *Respiration* 2007；74 (2)：192-195.
- 4) 岩城秀行, 日置正文, 鈴木世考, 保科淑子, 川村 純, 遠藤直哉, 織井恒安, 家所良夫, 矢島俊巳¹⁾, 新田隆¹⁾, 落 雅美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：左室瘤を伴う虚血性心筋症に対する治療戦略. *胸部外科* 2007；60 (12)：1043-1050.
- 5) 木下裕康, 原口秀司, 小泉 潔¹⁾, 日置正文, 織井恒安, 遠藤直哉, 富田剛志, 保科淑子, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：原発性自然気胸に対する胸腔鏡下手術の術後再発の検討. *日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌* 2008；7 (3)：136-139.

(2) 総説：

- 1) 原口秀司, 小泉 潔¹⁾, 谷村繁雄²⁾, 平田知己¹⁾, 平井恭二³⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), ²⁾ 多摩永山病院呼吸器外科, ³⁾ 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科)：嚢胞性肺疾患 原発性自然気胸に対する胸腔鏡下手術. *日本内視鏡外科学会雑誌* 2007；12 (5)：483-491.

(3) 症例報告：

- 1) Iwaki H, Suzuki S¹⁾, Yajima T²⁾, Hioki M, Nitta T²⁾, Ochi M²⁾, Shimizu K²⁾ (1) 浦添総合病院心臓血管外科, ²⁾ 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：Two-Stage Repair for an Acute Type A Aortic Dissection With Visceral Ischemia After an Aortic Valve Replacement. *J Card Surgery* 2008；23：163-181.
- 2) 織井恒安, 日置正文, 家所良夫, 遠藤直哉, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：2次性大動脈十二指腸瘻の1治療例. *日本血管外科学会雑誌* 2007；16 (7)：809-814.

著書

- 1) 原口秀司：〔分担〕呼吸器疾患の主な治療法. 新体系看護学全書15 (工藤翔二), 2007；pp91-101, メヂカルフレンド社.
- 2) 原口秀司：〔分担〕外科的治療の適用となる主な疾患とその治療法. 新体系看護学全書15 (工藤翔二), 2007；pp211-233, メヂカルフレンド社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 木下裕康, 原口秀司, 富田剛志, 保科淑子, 遠藤直哉, 織井恒安, 日置正文, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：原発性自然気胸に対する鏡視下手術における再発予防手技の手術侵襲への影響について. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.

(2) ワークショップ：

- 1) 天神敏博, 軸菌智雄¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐隆¹⁾, 石井律子¹⁾, 石川久美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：センチネルリンパ節癌微小転移の観察に対する基礎的研究. 第17回日本サイトメトリー学会学術集会, 2007. 7.

(3) 一般講演：

- 1) Haraguchi S, Kinoshita H, Koizumi K¹⁾ (1) 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：Surgical results of lung cancer associated with postobstructive pneumonia. 12th World conference on Lung Cancer 2007 (Seoul), 2007. 9.
- 2) 原口秀司, 小泉 潔¹⁾, 谷村繁雄¹⁾, 平田知己¹⁾, 平井恭二¹⁾, 三上 巖¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 川島徹夫¹⁾, 吉野直之¹⁾, 木下裕康, 中島由貴¹⁾, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：閉塞性肺炎合併肺癌の外科治療について. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 2007. 5.
- 3) 木下裕康, 原口秀司, 保科淑子, 富田剛志, 日置正文, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：後縦隔発生の有茎性気管支性嚢胞の1例. 第24回日本呼吸器外科学会総会, 2007. 5.
- 4) 宅島美奈, 山下浩二, 日置正文, 柳本邦雄¹⁾, 土屋眞一²⁾, 清水一雄³⁾ (1) 武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 病理部, ³⁾ 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：破骨細胞様多核巨細胞を示した乳癌の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 5) 天神敏博, 軸菌智雄¹⁾, 石川久美¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：蛍光2重染色法を用いたセンチネルリンパ節癌微小転移の観察法に対する基礎的研究. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 6) 木下裕康, 原口秀司, 宅島美奈, 保科淑子, 富田剛志, 日置正文：胸膜限局性線維性腫瘍の1手術例. 第121回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2007. 7.
- 7) 木下裕康, 原口秀司, 富田剛志, 保科淑子, 遠藤直哉, 織井恒安, 日置正文, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：原発性自然気胸に対する胸腔鏡下術後再発率について. 第11回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会, 2007. 9.
- 8) 梶本雄介, 原口秀司, 木下裕康, 近藤恭司, 富田剛志, 保科淑子, 遠藤直哉, 織井恒安, 日置正文, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：術前診断に難渋した硬化性水腫の一切除例. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 9) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 宅島美奈, 木下裕康, 岩城秀行, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：心拍動下冠動脈バイパス術後のAf発症危険因子の検討. 第60回日本胸部外科学会定期学術集会, 2007. 10.
- 10) 織井恒安, 遠藤直哉, 保科淑子, 富田剛志, 原口秀司, 山下浩二, 川村 純, 宅島美奈, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：慢性透析患者における開心術後中期成績の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 11) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 宅島美奈, 木下裕康, 岩城秀行, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)：動脈硬化性病変合併患者における腹部大動脈瘤術後遠隔期成績の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 12) 保科淑子, 織井恒安, 富田剛志, 遠藤直哉, 木下裕康, 原口秀司, 天神敏博, 日置正文, 清水一雄¹⁾ (1) 日本

医科大学外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）：スポーツが原因と考えられた若年性膝窩動脈瘤の1手術例。第120回神奈川県臨床外科医学会集談会，2007. 12.

- 13) 富田剛志，保科淑子，遠藤直哉，宅島美奈，川村 純，木下裕康，織井恒安，山下浩二，原口秀司，家所良夫，日置正文：限局性解離を伴った腹部大動脈瘤に対しY型人工血管置換術を施行した右側融合腎の1例。第807回外科集談会，2007. 12.
- 14) 保科淑子，原口秀司，富田剛志，遠藤直哉，木下裕康，織井恒安，天神敏博，日置正文，清水一雄¹⁾（¹⁾日本医科大学外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）：低左心機能を合併した肺癌手術の1例。第151回日本肺癌学会関東部会，2008. 3.

[多摩永山病院呼吸器外科]

研究業績

(1) パネルディスカッション：

- 1) 榎本 豊¹⁾，竹内真吾¹⁾，秋山博彦¹⁾，三上 巖²⁾，小泉 潔²⁾，西村仁志¹⁾，（¹⁾埼玉県立がんセンター，²⁾日本医科大学外科・呼吸器外科）：肺癌に奇静脈葉が合併したVATS lobectomyの経験。日本呼吸器外科学会，2007. 5.

(2) 一般講演：

- 1) 齋藤祐二¹⁾，中島由貴¹⁾，榎本 豊¹⁾，谷村繁雄¹⁾，小泉 潔²⁾（¹⁾日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科，²⁾日本医科大学 第二外科）：脳梗塞発症で診断された肺動静脈瘻の胸腔鏡下切除例。第121回 呼吸器内視鏡学会 関東支部会，2007. 7.
- 2) 榎本 豊¹⁾，齋藤祐二¹⁾，谷村繁雄¹⁾，前田昭太郎²⁾，片山博徳²⁾，小泉 潔³⁾（¹⁾日本医大 多摩永山病院 呼吸器外科，²⁾同 病理部，³⁾日本医大 外科・呼吸器外科）：膵臓癌孤立性肺転移の1例。肺癌学会 関東部会，2007. 7.
- 3) 榎本 豊¹⁾，齋藤祐二¹⁾，谷村繁雄¹⁾，前田昭太郎²⁾，片山博徳²⁾，小泉 潔³⁾（¹⁾日本医大 多摩永山病院 呼吸器外科，²⁾同 病理部，³⁾日本医大 外科・呼吸器外科）：膵臓癌孤立性肺転移の1例。肺癌学会，2007. 11.
- 4) 榎本 豊¹⁾，齋藤祐二¹⁾，谷村繁雄¹⁾，小泉 潔²⁾（¹⁾日本医科大学 多摩永山病院 呼吸器外科，²⁾日本医科大学 外科・呼吸器外科）：前縦隔血管腫の一切除例。日本胸部外科学会 関東甲信越地方会，2007. 12.
- 5) 榎本 豊¹⁾，齋藤祐二¹⁾，谷村繁雄¹⁾，小泉 潔²⁾（¹⁾日本医科大学多摩永山病院 呼吸器外科，²⁾日本医科大学外科・呼吸器外科）：悪性リンパ腫が疑われた神経線維腫の1例。肺癌学会 関東部会，2008. 3.

11. 脳神経外科学講座

[付属病院脳神経外科]

研究概要

平成19年度当教室における論文業績は英文19編、和文22編の計41編であった。その分野別内訳は、下垂体腫瘍12編、他の脳腫瘍4編、脳血管障害9編、脊髄5編、外傷2編、医学教育4編、その他5編であり、基礎的研究4編、臨床的研究37編であった。これに、分担著書として43編が加わる。学会発表は232回あり、内国際学会は30回であった。一方、研究補助金に関しては、文部科学省科学研究費を5件、厚生労働省科学研究費を2件取得している。

当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれている。また、治療を主体とした横断的なグループとしては、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術や脊髄脊椎等のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他の大学との関連が深く、従って業績も最も多い。経蝶形骨下垂体手術件数は2,000例を越え、更に内視鏡単独手術も500例を越えた。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。脳血管障害は血管内治療の領域も含め、最近活動が活発になってきているが、千駄木地区の再開発のため十分な診療機器が備わっていないことが難点である。一方、神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績が不十分であるといわざるを得ない。本学ではこの点を救急医学科が補っているといえる。さらに、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教室員もあり、症例報告を含めて臨床的研究についても進めていく予定である。また、最近脊髄グループや医学教育への取り組みに関する活躍が目立っている。脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。平成16年から実施された卒後臨床研修制度のため2年間はいわゆる入局がない状況の下、教室員は診療、研究、教育上の活動にかなりの制限を受けている。この2年間に受けたダメージは大きいですが、少なくとも診療と教育のレベルは落とさず、臨床研究を中心として学会活動を維持しつつ人的な回復を待ちたい。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Node Y¹⁾, Tamaki T¹⁾, Teramoto A⁽¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : Clinical analysis of the patients with anterior skull base and craniofacial injury in the acute head trauma. Minimally Invasive Neurosurgery and Multidisciplinary Neurotraumatology (T Kanno, Y Kato, eds.) 2006 ; 316-320.
- 2) 竹井麻生, 石井雄道, 田原重志, 梶谷華子¹⁾, 長村義之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学) : 先端巨大症としての身体所見に乏しく, GHが比較的低値を示したMacroGH産生下垂体腺腫の1例. 日本内分泌学会雑誌 2006 ; 82 (3) : 606.

追加分総説：

- 1) 寺本 明 : これからの大学院. 日医大医会誌 2007 ; 2 (1) : 2-2.

(1) 原著：

- 1) Takumi I¹⁾, Mizunari T¹⁾, Mishina M²⁾, Fukuchi T²⁾, Nomura R, Umeoka K, Kobayashi S¹⁾, Teramoto

- A (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital, (2) Department of Neurology, Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital) : Dissecting posterior inferior cerebellar artery aneurysm presenting with subarachnoid hemorrhage right after anticoagulant and antiplatelet therapy against ischemic event. *Surgical Neurology* 2007 ; 68 (1) : 103-107.
- 2) Yoshida D¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Enhancement of pituitary adenoma cell line invasion and adhesion is mediated by discoidin domain receptor-1. *J Neurooncol* 2007 ; 82 (1) : 29-40.
 - 3) Katsuno M¹⁾, Yokota H²⁾, Yamamoto Y²⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusō Hospital, (2) Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Bilateral traumatic abducens nerve palsy associated with skull base fracture : case report. *Neurol Med Chir* 2007 ; 47 (7) : 307-309.
 - 4) Katayama Y, Haraoka J, Hirabayashi H, Kawamata T, Kawamoto K, Kitahara T, Kojima J, Kuroiwa T, Mori T, Moro N, Nagata I, Ogawa A, Ohno K, Seiki Y, Teramoto A, et al. : A randomized controlled trial of hydrocortisone against hyponatremia in patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage. *Stroke* 2007 ; 38 (8) : 2373-2375.
 - 5) Park K¹⁾, Yasuda N, Toyonaga S, Yamada S, Nakabayashi H, Nakasato M, Nakagomi T, Tsubosaki E, Shimizu K (1) Department of Neurosurgery, Medical school, Kochi University) : Significant association between leukoaraiosis and metabolic syndrome in healthy subjects. *Neurology* 2007 ; 69 (10) : 974-978.
 - 6) Yamaguchi F, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Intra-operative detection of motor pathways using a simple electrode provides safe brain tumor surgery. *J Clin Neurosci* 2007 ; 14 (11) : 1106-1110.
 - 7) Yoshida D¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : The use of 3-D culture in peptide hydrogel for analysis of discoidin domain receptor 1-collagen interaction. *Cell Adhesion & Migration* 2007 ; 1 (2) : 92-98.
 - 8) Yoshida D¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Elevated cell invasion is induced by hypoxia in a human pituitary adenoma cell line. *Cell Adhesion & Migration* 2007 ; 1 (1) : 43-51.
 - 9) Murai Y, Ikeda Y¹⁾, Teramoto A (1) Tokyo Medical University, Hachioji Medical Center) : Contrast extravasation on CT angiography predicts hematoma expansion in intracerebral hemorrhage. *Neurology* 2007 ; 69 (6) : 617.
 - 10) Yamaguchi F, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : Photodiagnosis for frameless stereotactic biopsy of brain tumor. *Photodiagnosis and Photodynamic Therapy* 2007 ; 4 (1) : 71-75.
 - 11) Oyama K, Ikezono T¹⁾, Tahara S, Shindo S¹⁾, Kitamura T, Teramoto A (1) Department of Otolaryngology) : Petrous apex cholesterol granuloma treated via the endoscopic transsphenoidal approach. *Acta Neurochirurg* 2007 ; 149 (3) : 299-302.
 - 12) Kanazawa R¹⁾, Kato M²⁾, Ishiwata K²⁾, Eguchi T¹⁾, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Kameda Medical Center , (2) Department of Radiology, Kameda Medical Center) : Convenience of the computed tomography perfusion method for cerebral vasospasm detection after subarachnoid hemorrhage. *Surgical Neurology* 2007 ; 67 (6) : 604-611.
 - 13) 島津 章^{1,2)}, 千原和夫²⁾, 肥塚直美^{2,3)}, 寺本 明²⁾, 田中敏章²⁾, 巽 圭太²⁾, 立花克彦³⁾, 勝又規行³⁾, 横谷 進³⁾, 藤枝憲二³⁾ (1) 国立病院機構京都医療センター臨床研究センター, (2) 厚生労働省難治性疾患克服研

- 究事業間脳下垂体機能障害に関する調査研究班, ³⁾ 財団法人成長科学協会成長ホルモン・関連因子検討専門委員会) : 日本人成人における血中インスリン様成長因子-I 濃度の基準範囲について. ホルモンと臨床 2007 ; 55 (4) : 107-113.
- 14) Yamada S¹⁾, Won D¹⁾, Pezeshkpour G¹⁾, Yamada S¹⁾, Siddiqi J, Zouros A¹⁾, Colohan A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Loma Linda University School of Medicine) : Pathophysiology of tethered cord syndrome and similar complex disorders. Neurosurg Focus 2007 ; 23 (2) : 1-10.
- 15) Suzuki M¹⁾, Egashira N²⁾, Kajima H³⁾, Minematsu T⁴⁾, Takekoshi S, Tahara S, Sanno N⁵⁾, Teramoto A, Osamura R⁶⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, ²⁾ Department of Neuropharmacology, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Fukuoka University, ³⁾ Department of Physiological Science and Molecular Biology, Fukuoka Dental College, ⁴⁾ Drug Metabolism Research Laboratories, Astellas Pharma Inc., ⁵⁾ Sanno clinic, ⁶⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : ACTH and alpha-subunit are co-expressed in rare human pituitary corticotroph cell adenomas proposed to originate from ACTH-committed early pituitary progenitor cells. Endocr Pathol 2008.
- 16) Kanazawa R¹⁾, Asakura T, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Saitama Medical University International Medical Center) : The realization of preferable operative working space through the microsurgical training with rats -The importance of the process. Surgical Neurology 2008 ; 19.
- 17) Ghihara K¹⁾, Kato Y, Kohno H, Takano K, Tanaka T, Teramoto A, Shimatsu A (¹⁾ Department of Clinical Molecular Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine) : Safety and efficacy of growth hormone (GH) during extended treatment of adult Japanese patients with GH deficiency (GHD). Growth Horm IGF Res 2008 ; 15.
- 18) 寺本 明 : 下垂体マイクロアデノーマの臨床. ホルモンと臨床 2007 ; 55 (春季増刊) : 42-49.
- 19) 野手洋治¹⁾, 玉置智規¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 血小板マイクロパーティクルは脳血栓症マーカーとしてきわめて有用である. 医学の歩み 2007 ; 221 (8) : 687-688.
- 20) 吉村明修^{1, 2)}, 志村俊郎^{1, 2)}, 阿曾亮子^{1, 2)}, 瀧澤俊広^{2, 4)}, 明楽重夫^{2, 5)}, 国信浩洋^{2, 6)}, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 教育推進室, ²⁾ 授業評価委員会, ³⁾ 教育委員会, ⁴⁾ 解剖学第一, ⁵⁾ 産婦人科学, ⁶⁾ ドイツ語) : 医学部学生による授業評価の信頼性に関する検討. 医学教育 2007 ; 38 (6) : 377-381.
- 21) 荒木 尚¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 中江竜太¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター) : 遷延性の低血圧を伴った頭部外傷後下垂体前葉機能不全の1例. 日本救急医学会雑誌 2007 ; 18 (6) : 229-235.
- 22) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 脳血栓症における頸部動脈硬化とPWV. Arterial Stiffness 2007 ; (11) : 72-73.
- 23) 村井保夫, 寺本 明, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 上山博康²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科) : 内頸動脈瘤に対するRAグラフトの合併症: その原因と予後. 脳卒中の外科 2007 ; 35 (5) : 387-393.
- 24) 須田 智¹⁾, 上田雅之¹⁾, 神谷信雄¹⁾, 西山康裕¹⁾, 大久保誠二¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 村井保夫 (¹⁾ 第二内科) : 片頭痛様症状で発症した脳動静脈奇形の1例. 日本頭痛学会誌 2007 ; 34 (1) : 100.
- 25) 山口文雄, 漆原美穂¹⁾, 城戸法子²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学看護部, ²⁾ 株式会社クリニコ) : テモゾロミド胃管投与法. 脳神経外科速報 2007 ; 17 (4) : 487-490.
- 26) 山王直子¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 山王クリニック) : 成人成長ホルモン分泌不全症. 小児科 2007 ; 48 (11) : 1573-1580.
- 27) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 森本大二郎¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : Super FIXSORB スクリューを用いたWilliams-Isu法

による頸椎前方除圧固定術. 脳神経外科速報 2007 ; 17 (12) : 1458-931462.

- 28) 金澤隆三郎¹⁾, 山崎道生¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 目白第二病院脳神経外科): 動脈硬化性病変に起因する脳梗塞の「原因」に関する一考察 . 脳卒中の外科 2007 ; 35 (6) : 437-441.
- 29) 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 阿曾亮子¹⁾, 瀧澤俊広²⁾, 明楽重夫³⁾, 国信浩洋⁴⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 教育推進室, ²⁾ 解剖学, ³⁾ 産婦人科学, ⁴⁾ 物理学): 医学部学生による授業評価の信頼性に関する検討. 医学教育 2007 ; 38 (6) : 377-381.
- 30) 喜多村孝幸: 高齢者に良く見られる頭痛と神経痛: 脳腫瘍. 老年医学 2007 ; 45 (7) : 831-835.
- 31) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症の診断基準. 賠償科学 2007 ; 35 : 32-43.
- 32) 村井保夫, 高島伸之介, 足立好司, 寺本 明: Indocyanine greenを用いた術中蛍光血管撮影. 脳神経外科速報 2008 ; 2 (2) : 235-241.
- 33) 竹井麻生: 非機能的下垂体腺腫. ホルモンと臨床 2008 ; 56 (1) : 21-28.
- 34) 戸田茂樹, 喜多村孝幸, 寺本 明: 両側慢性硬膜下血腫を伴った特発性低髄液減圧症候群 (脳脊髄液減少症). 日医大医会誌 2008 ; 4 (1) : 36-40.

(2) 総説:

- 1) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Kominami S¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A⁽¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusai Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital): Anterior vertebral artery decompression with an ultrasonic bone curette to treat bow hunter' s syndrome. Acta Neurochir (Wien) 2008 ; 150 (3) : 301-303.
- 2) 志村俊郎¹⁾, 寺本 明, 高橋秀実²⁾ ⁽¹⁾ 教育推進室, ²⁾ 微生物免疫学): 日本医科大学教育委員会 医学教育教育委員会. 医学教育 2007 ; 38 (1) : 53-54.
- 3) 間中信也¹⁾, 喜多村孝幸 ⁽¹⁾ 間中病院): 低髄液圧性頭痛の診断と治療. 総合臨床 2007 ; 56 (4) : 668-674.
- 4) 喜多村孝幸, 森松光紀¹⁾, 間中信也²⁾, 北島敏光³⁾ ⁽¹⁾ 山口大学神経内科, ²⁾ 間中病院, ³⁾ 独協医科大学麻酔科): 高齢者における頭痛と神経痛への対処法. 老年医学 2007 ; 45 (7) : 895-906.
- 5) 喜多村孝幸, 戸田茂樹, 寺本 明: 脳脊髄液減少症の診断と治療. 日本医師会雑誌 2008 ; 136 (10) : 2014-2016.
- 6) 喜多村孝幸, 寺本 明: 生命に関わる症候性頭痛を見逃さないために. 日本医師会雑誌 2008 ; 136 (11) : 2170-2173.
- 7) 喜多村孝幸: 脳脊髄液減少症を取り巻く現状と今後の展望. Medical Torch 2008 ; 3 : 28-29.

(3) 症例報告:

- 1) 勝野 亮, 小林士郎¹⁾, 横田裕行²⁾, 寺本 明 ⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター): 1次性動眼神経麻痺をきたした軽症頭部外傷の2症例. Brain Nerve 2008 ; 60 (1) : 89-91.

著 書

〔追加分〕

追加分:

- 1) 山王直子¹⁾, 田原重志, 寺本 明 ⁽¹⁾ 山王クリニック): 〔分担〕下垂体腫瘍の診断と外科的治療: 最近の進歩. Annual Review 2007 糖尿病・代謝・内分泌 (金澤康徳・武谷雄二他編集), 2007 ; pp169-177, 中外医学社.
- 2) 寺本 明: 〔分担〕下垂体腺腫. 今日の治療指針2007 (山口 徹・北原光夫・福井次矢編集), 2007 ; pp641-642, 医学書院.
- 3) 寺本 明: 〔自著〕下垂体腺腫の診断と治療: 総論にかえて. Medical Science Digest, 2007 ; pp6-7, ニュー・サイエンス社.

- 4) 田原重志, 石井雄道, 喜多村孝幸, 寺本 明: [自著] 内視鏡下経蝶形骨手術の進歩. Medical Science Digest, 2007; pp25-29, ニュー・サイエンス社.
- 5) 田原重志: [自著] 成人成長ホルモン分泌不全症の治療. Medical Science Digest, 2007; pp35-39, ニュー・サイエンス社.
- 6) 寺本 明: [自著] 経鼻の下垂体手術の歴史. Blanca Diosa, 2007; ZLBベーリング.
- 1) 秋野公造¹⁾, 太組一郎²⁾ (¹⁾ 厚生労働省健康局疾病対策課, ²⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): [翻訳] 神経解剖集中講義 (編集) 寺本 明・山下俊一), 2007; 医学書院.
- 2) 山口文雄: [学会印象記] 第75回米国脳神経外科学会. Brain and Nerve 神経研究の進歩, 2007; 医学書院.
- 3) 野手洋治¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): [分担] 外傷. 臨床神経学・高次脳機能障害学, 2006; pp148-156, 医学書院.
- 4) 野手洋治¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): [分担] 水頭症. 臨床神経学・高次脳機能障害学, 2006; pp157-158, 医学書院.
- 5) 寺本 明: [自著] わが国の脳神経外科医は多いのか. 脳神経外科速報, 2007; p520, メディカ出版.
- 6) 寺本 明: [自著] 脳腫瘍. 暮しと健康, 2007; p79, 保健同人社.
- 7) 寺本 明: [自著] わが国の脳ドック. 日本医師会雑誌, 2007; p649, 日本医師会.
- 8) 寺本 明: [編集] 【特集】脳ドックの現状と課題. 日本医師会雑誌, 2007; pp653-664, 日本医師会.
- 9) 寺本 明: [自著] アクロメガリー (先端巨大症): 早期発見のコツ. メディカル朝日, 2007.
- 10) 喜多村孝幸: [自著] 2次性頭痛: 頭部外傷と頭痛. Clinician, 2007; pp88-91, エーザイ.
- 11) 山口文雄, 小島豊之¹⁾, 高橋 弘²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 四谷メディカルキューブ, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科): [共著] III 画像診断/モニタリング: 錐体路近傍腫瘍手術におけるモニタリングの問題点と対処法. 脳腫瘍の外科: 合併症のない脳腫瘍の外科を目指して (黒岩敏彦編), 2007; pp146-150, メディカ出版.
- 12) 戸田茂樹, 寺本 明: [分担] 特集 特異な経過をたどった症例・事例から学ぶ: 1. 外傷 (6) 頸椎・頸髄損傷. 救急医学, 2007; へるす出版.
- 13) 寺本 明: [自著] 文武両道. 脳神経外科速報, 2007; p1357, メディカ出版.
- 14) 寺本 明: [自著] 無症候性脳腫瘍. BS Route vol. 7 (監修) 山口武典・橋本信夫), 2007.
- 15) 戸田茂樹, 寺本 明: [自著] 頸椎前方アプローチ術の進歩. Annual Review 2007 神経 (柳澤信夫・篠原幸人・岩田 誠・清水輝夫・寺本明編集), 2007; pp227-232, 中外医学社.
- 16) 寺本 明: [対談] 性腺機能低下症治療最前線: 妊孕性を中心に. Life-cycle Care (田中敏章編集), 2007; セローノ・ジャパン.
- 17) 柳澤信夫¹⁾, 篠原幸人²⁾, 岩田 誠³⁾, 清水輝夫⁴⁾, 寺本 明 (¹⁾ 関東労災病院院長, ²⁾ 国家公務員共済組合連合会立川病院院長, ³⁾ 東京女子医科大学教授, ⁴⁾ 帝京大学教授): [編集] Annual Review 2007 神経, 2007; 中外医学社.
- 18) 喜多村孝幸: [自著] 低髄液圧症候群. 今日の治療指針2008, 2008; p710, 医学書院.
- 19) 喜多村孝幸: [自著] 脳室内病変の摘出. NS NOW「神経内視鏡手術」, 2008; pp39-52, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Teramoto A: Endoscopic transsphenoidal pituitary surgery. 3rd Harbin International Neurosurgical Congress 2007 (Harbin, China), 2007. 7.
- 2) Kitamura T: Endoscopic surgery of intraventricular tumors and non-communicating hydrocephalus the advantage of videoscope. 3rd Harbin International Neurosurgical Congress 2007 (Harbin, China), 2007. 7.

- 3) 寺本 明：内視鏡下下垂体手術の進歩。成人成長ホルモン分泌不全症講演会，2007. 5.
 - 4) 寺本 明：内視鏡下下垂体手術の進歩。第24回山梨脳神経外科懇話会，2007. 6.
 - 5) 喜多村孝幸：脳脊髄液減少症をめぐる最近の話題。第26回西湘脳神経外科懇話会，2007. 6.
 - 6) 寺本 明：トルコ鞍部疾患の診断をめぐる。第8回ニューロイメージング研究会，2007. 7.
 - 7) 喜多村孝幸：頭痛治療のトピックス。平成19年度日本医科大学同窓会福島県支部学術講演会，2007. 9.
 - 8) 喜多村孝幸：頭痛。平成19年度東京都女性薬剤師会スクーリング，2007. 9.
 - 9) 喜多村孝幸，高山泰広¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター)：急性期脳神経外科の役割と現状：脳神経外科医と救急疾患のかかわり。足立区消防救急協議会，2007. 12.
 - 10) 喜多村孝幸：日常診療における頭痛の診断と治療。第1回千駄木頭痛カンファレンス，2008. 1.
 - 11) 喜多村孝幸：脳脊髄液減少症の診断と治療。第25回秋田県脳神経研究会，2008. 1.
 - 12) 寺本 明：下垂体腫瘍の内視鏡手術。第18回臨床内分泌代謝Update，2008. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 寺本 明：Pituitary incidentalomaの自然史と手術適応。第80回日本内分泌学会学術総会，2007. 6.
 - 2) 寺本 明：下垂体腫瘍診療の現況。日本下垂体研究会第22回学術集会，2007. 8.
 - 3) 喜多村孝幸：低髄液圧による頭痛の診断と治療。第35回日本頭痛学会総会，2007. 11.
 - 4) 喜多村孝幸：脳卒中・脳腫瘍について。第25回鹿島市介護者教室，2007. 11.
- (3) シンポジウム：
- 1) 木暮一成¹⁾，戸田茂樹，金 景成²⁾，太組一朗²⁾，玉置智規¹⁾，野手洋治¹⁾，小林士郎²⁾，赤石江太郎³⁾，湧井健治³⁾，寺本 明 (1) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，3) 千葉脳神経外科病院)：頸椎前方到達法の基本手技：安全な開創手技についての再確認。第16回脳神経外科手術と機器学会，2007. 4.
 - 2) Kitamura T：Endoscopic surgery of intraventricular tumors and non-communicating hydrocephalus. World Federation of Neurological Societies 13th Interim Meeting/12th Asian-Australasian Society of Neurological Surgeons Congress (Nagoya)，2007. 11.
 - 3) 山口文雄，小島豊之¹⁾，王 力群²⁾，高橋 弘³⁾，寺本 明 (1) 四谷メディカルキューブ画像診断センター脳神経外科，2) 東京電機大学先端工学研究所，3) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：Low grade glioma - 安全で確実な摘出のために - 術後神経症状を重視した脳腫瘍手術：運動機能マッピング，高次機能マッピングによる摘出範囲の決定。第16回脳神経外科手術と機器学会，2007. 4.
 - 4) 太組一朗¹⁾，秋元正宇²⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，百東比古³⁾，寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，2) 千葉北総病院形成外科，3) 付属病院形成外科)：脳神経外科手術後美容の問題 頭蓋・頭皮のトランプシューティング。第16回脳神経外科手術と機器学会，2007. 4.
 - 5) 木暮一成¹⁾，戸田茂樹，金 景成²⁾，太組一朗²⁾，玉置智規¹⁾，野手洋治¹⁾，小林士郎²⁾，赤石江太郎³⁾，湧井健治³⁾，寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科，2) 千葉北総病院脳神経外科，3) 千葉脳神経外科病院)：頸椎前方到達法の基本手技：安全な開創手技についての再確認。第16回脳神経外科手術と機器学会，2007. 4.
 - 6) 戸田茂樹，木暮一成¹⁾，金 景成²⁾，高山泰広³⁾，佐藤 俊⁴⁾，寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科，2) 千葉北総病院脳神経外科，3) 付属病院高度救命救急センター，4) 武蔵小杉病院脳神経外科)：頸椎前方固定術における自家骨およびsquare型cageの比較検討について。第16回脳神経外科手術と機器学会，2007. 4.
 - 7) 寺本 明：脳神経外科治療：無切開から移植まで「内視鏡下下垂体手術の進歩」。第27回日本医学会総会，2007. 4.
 - 8) 田原重志，喜多村孝幸，石井雄道，竹井麻生，山王直子¹⁾，寺本 明 (1) 山王クリニック)：下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻的手術の治療成績と合併症：安全な摘出範囲の検討。第16回脳神経外科手術と機器学会，2007. 4.

- 9) 喜多村孝幸：長期治療成績からみた神経内視鏡手術の適応。第66回日本脳神経外科学会総会，2007。10。
 - 10) 竹井麻生，梶谷華子¹⁾，鈴木雅規²⁾，石井雄道，田原重志，竹腰 進，寺本 明，長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学，²⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科)：下垂体TSH産生腺腫におけるSSTR subtypeの免疫組織化学的発現検討。第11回日本内分泌病理学会，2007。10。
 - 11) 寺本 明：脳下垂体腫瘍の長期（5年以上）治療成績の検証。第66回日本脳神経外科学会総会，2007。10。
 - 12) 喜多村孝幸：後発医薬品の最近の話題「医師の立場から」。第51回日本薬学会関東支部大会，2007。10。
 - 13) 石井雄道，田原重志，喜多村孝幸，寺本 明：内視鏡単独経鼻下垂体手術の適応と限界。第14回日本神経内視鏡学会，2007。12。
 - 14) 喜多村孝幸，田原重志，石井雄道，竹井麻生，寺本 明：第三脳室底開窓術の長期予後。第14回日本神経内視鏡学会，2007。12。
 - 15) 田原重志，喜多村孝幸，石井雄道，竹井麻生，山王なほ子¹⁾，寺本 明 (¹⁾ 山王クリニック)：下垂体微小腺腫に対する内視鏡単独経鼻蝶形骨手術の治療成績。第14回日本神経内視鏡学会，2007。12。
 - 16) 田原重志，石井雄道，竹井麻生，山王直子¹⁾，喜多村孝幸，長村義之²⁾，寺本 明 (¹⁾ 山王クリニック，²⁾ 東海大学医学部基盤診断系病理診断学)：ラトケ嚢胞の長期治療成績と治療方法についての検討。第18回日本間脳下垂体腫瘍学会，2008。2。
 - 17) 竹井麻生，石井雄道，田原重志，野村竜太郎，竹腰 進¹⁾，山王直子²⁾，長村義之¹⁾，寺本 明 (¹⁾ 東海大学医学部基盤診断系病理診断学，²⁾ 山王クリニック)：TSH産生下垂体腺腫の病理学的検討。第18回日本間脳下垂体腫瘍学会，2008。2。
- (4) セミナー：
- 1) Yamaguchi F, Kojima T¹⁾, Takahashi H²⁾, Teramoto A (¹⁾ Yotsuya Medical Cube, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital)：Preservation of motor function by intraoperative detection of motor pathway. World Federation of Neurological Societies 13th Interim Meeting/12th Asian-Australasian Society of Neurological Surgeons Congress (Nagoya), 2007。11。
 - 2) Teramoto A：Contemporary management of pituitary adenomas. World Federation of Neurological Societies 13th Interim Meeting/12th Asian-Australasian Society of Neurological Surgeons Congress (Nagoya), 2007。11。
 - 3) 山口文雄：医療器具発明：日本医科大学発の発明。知的財産講習会，2007。4。
 - 4) 喜多村孝幸：第三脳室底開窓術の適応と長期成績。第27回日本脳神経外科コンgres総会，2007。5。
 - 5) 喜多村孝幸：頭痛治療の最前線。頭痛医療推進セミナー，2007。5。
 - 6) 寺本 明：アクロメガリー（先端巨大症）：早期発見のコツ。朝日内科疾患セミナー，2007。6。
 - 7) 喜多村孝幸：頭痛治療のトピックス：片頭痛・低髄液圧性頭痛を中心に。第41回日本ペインクリニック学会，2007。7。
 - 8) 山王直子¹⁾ (¹⁾ 山王クリニック)：女性と頭痛。頭痛クリニカルセミナー，2007。7。
 - 9) 喜多村孝幸：脳脊髄液減少症の診断と治療。第73回日本脳神経外科学会中部支部学術集会，2007。10。
 - 10) 喜多村孝幸：神経救急医に必要な頭痛治療のトピックス。第13回日本脳神経外科救急学会，2008。1。
 - 11) 山王直子¹⁾ (¹⁾ 山王クリニック)：日常よく遭遇する頭痛。Headache Clinical Seminar 2008, 2008。3。
- (5) 一般講演：
- 1) Yamaguchi F, Asakura T, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital)：Sonochemical therapy for glioma. 2007 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting (WashingtonDC, USA), 2007。4。
 - 2) Toda S, Kitamura T, Yamaguchi F, Teramoto A：Current diagnosis and therapy of spontaneous intracranial hypotension (SIH)。2007 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting (WashingtonDC, USA),

2007. 4.

- 3) Yamaguchi F, Asakura T, Takahashi H¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Sonochemical therapy using 5-ALA for glioma. 2nd International Meeting Updates in Neuro-Oncology (Cortona, Italy), 2007. 6.
- 4) Takumi I¹, Mizutani N¹, Mori O², Kobayashi S¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusyo Hospital, ² Department of Pathology, Chiba Hokusyo Hospital, Nippon Medical School, Chiba) : Supratentorial expansive neurenteric cyst with status epilepticus in an adult. 17th International Cleveland Clinic Epilepsy Symposium : Epilepsy Surgery (Cleveland, USA), 2007. 6.
- 5) Takahashi H¹, Hirakawa K², Uekusa F², Yamaguchi F, Adachi K, Ohno Y, Teramoto A, Yuta F (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, ² Department of forensic medicine, NMR laboratory) : Significance of NMR based metabolomics as the prognostic factor of meningioma. 2nd International Meeting Updates in Neuro-Oncology (Cortona, Italy), 2007. 6.
- 6) Oyama K¹, Yamada S¹, Yamase H¹, Fukuhara N¹, Taguchi M, Teramoto A, Takeuchi Y (¹ Toranomon Hospital) : Effects of preoperative short-term octreotide treatment for acromegalies. The Endocrine Society' s 89th Annual Meeting (Toronto, Canada), 2007. 6.
- 7) Takei M, Suzuki M¹, Kajiya H², Minematsu T², Egashira N², Tahara S, Takekoshi S², Sannou N³, Teramoto A, Osamura YR² (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, ² Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, ³ Sanno Clinic) : Expression patterns of SSTR subtypes in the pituitary adenomas : possibility of the targeted therapy with somatostatin analogs. 90th Annual Meeting of the Endocrine Society (ENDO2007) (Tronto, Canada), 2007. 6.
- 8) Yoshida D¹, Nomura R, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Regulation of cell invasion and signalling pathways in the pituitary adenoma cell line, HP-75, by reversion-inducing cysteine-rich protein with kazal motifs (RECK). 2007 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting (San Diego, USA), 2007. 9.
- 9) Tamaki T¹, Node Y¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : Paramedian suboccipital mini-craniectomy for evacuation of spontaneous cerebellar haemorrhage. European Association Neurosurgical Societies Congress (Glasgow, UK), 2007. 9.
- 10) Tamaki T¹, Node Y¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : Changes of the plasma ketone body level and arterial ketone body batio at the onset of mild aneurysmal subarachnoid hemorrhage . European Association Neurosurgical Societies Congress (Glasgow, UK), 2007. 9.
- 11) Yamaguchi F, Asakura T, Suzuki K¹, Sato Y¹, Takahashi H², Teramoto A (¹ Miwatec Corporation, ² Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Antitumor effects of 5-ALA sonochemical therapy for malignant glioma. 2007 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting (San Diego), 2007. 9.
- 12) Nomura R, Yoshida D¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : The expression of VCAM-1 in the pituitary adenoma. 2007 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting (San Diego, USA), 2007. 9.
- 13) Takahashi H¹, Yamaguchi F, Adachi K, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : NMR based metabolomics could predict the prognoses of meningiomas. 2007 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting (San Diego, USA), 2007. 9.
- 14) Node Y¹, Tamaki T¹, Teramoto A (¹ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagaya-

- ma Hospital) : Clinical study of the patients with skull base and facial injury in the acute head trauma. European Association of Neurosurgical Societies 2007 13th European Congress of Neurosurgery (Glasgow, UK), 2007. 9.
- 15) Node Y¹⁾, Tamaki T¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : Clinical study of platelet-derived microparticles (PDMP) in patients with acute cerebral thrombosis. European Association of Neurosurgical Societies 2007 13th European Congress of Neurosurgery (Glasgow, UK), 2007. 9.
 - 16) Ishii Y, Tahara S, Sanno N¹⁾, Kitamura T, Teramoto A (¹⁾ Sanno Clinic) : Indications and limitations of fully endoscopic pituitary surgery : our opinions. The 19th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Suzhou), 2008. 1.
 - 17) Teramoto A : Recent Progress Endoscopic Transsphenoidal Pituitary Surgery. The 19th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Suzhou), 2008. 1.
 - 18) 玉置智規¹⁾, 齋藤寛浩²⁾, 鈴木紀成³⁾, 酒井直之³⁾, 立山幸次郎, 野手洋治¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科) : CEAのパッチグラフトについて. 第16回脳神経外科手術と機器学会, 2007. 4.
 - 19) 山口文雄, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 大脳白質刺激電極の開発. 第16回脳神経外科手術と機器学会, 2007. 4.
 - 20) 山口文雄, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 覚醒下手術用スリット入り脳表グリッド電極の開発. 第16回脳神経外科手術と機器学会, 2007. 4.
 - 21) 山口文雄 : 機能温存を重視した脳腫瘍治療. 第1回城東stroke研究会, 2007. 4.
 - 22) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 小林士郎¹⁾, 木暮一成³⁾, 戸田茂樹, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科) : 頸椎前方固定術における吸収性スクリューの工夫及びその有用性について. 第16回脳神経外科手術と機器学会, 2007. 4.
 - 23) 金 景成¹⁾, 野村竜太郎, 井須豊彦²⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 頸椎部黄色靭帯骨化症の1例. 第102回日本脳神経外科学会関東地方会, 2007. 4.
 - 24) 山口文雄, 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : Convection-enhanced delivery of IL13-PE for glioblastoma : the first case in Japan. 第33回ニューロ・オンコロジーの会, 2007. 4.
 - 25) 竹井麻生, 鈴木雅規¹⁾, 梶谷華子²⁾, 田原重志, 山王直子³⁾, 寺本 明, 長村義之²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, ³⁾ 山王クリニック) : 下垂体GH産生腺腫のoctreotide感受性に関する臨床病理学的検討. 第96回日本病理学会総会, 2007. 5.
 - 26) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 岡 敏行²⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 百東比古³⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科, ³⁾ 付属病院形成外科) : Rib graftとcalvarial graftを組み合わせた巨大骨欠損にたいする小児頭蓋骨形成 ; catcher' s mask cranioplasty. 第35回日本小児神経外科学会, 2007. 5.
 - 27) 渡邊 玲¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 小児AVMに対する血管内塞栓術の検討. 第35回日本小児神経外科学会, 2007. 5.
 - 28) 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科) : 小児毛様細胞性星細胞腫に自閉症スペクトラムを合併した2症例. 第35回日本小児神経外科学会, 2007. 5.
 - 29) 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 : 経蝶形骨手術例における術前術後GHRP負荷試験の検討. 第80回日本内分泌学会学術総会, 2007. 6.

- 30) 竹井麻生, 鈴木雅規¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 梶谷華子²⁾, 宮腰隆史²⁾, 山王直子³⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, ³⁾ 山王クリニック): 妊娠中octreotide徐放性製剤を投与したacromegaly患者の1症例. 第80回日本内分泌学会学術総会, 2007. 6.
- 31) 田原重志, 石井雄道, 竹井麻生, 喜多村孝幸, 山王なほ子¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 山王クリニック, ²⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 神経下垂体部に近接したACTH産生下垂体腺腫によるCushing病の2症例. 第80回日本内分泌学会学術総会, 2007. 6.
- 32) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 脊髄疾患における脊髄造影及び脊髄造影後CTの必要性に関する検討. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 33) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): Williams-Isu法における吸収性スクリューの工夫について. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 34) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 木暮一成³⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科): 脊髄外科での超音波骨メス (SONOPET) による手術合併症の検討. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 35) 森本大二郎¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 頸椎部黄色靭帯骨化症の1例. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 36) 木暮一成¹⁾, 戸田茂樹, 金 景成²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎前方固定術: minimum instrumentationとしてのチタンケージ. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 37) 勝野 亮¹⁾, 小林士郎¹⁾, 横田裕行²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター): 中心性塩類喪失症候群と外傷性脳血管攣縮を合併し脳梗塞を生じた2症例. 第21回日本神経救急学会, 2007. 6.
- 38) 木暮一成¹⁾, 戸田茂樹, 金 景成²⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 小林士郎²⁾, 赤石江太郎³⁾, 原田俊一³⁾, 湧井健治³⁾, 太組一朗²⁾, 井須豊彦⁴⁾, 寺本 明 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, ³⁾ 千葉脳神経外科病院, ⁴⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 前方固定術: minimum instrumentationとしてのチタンケージ. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 39) 寺本 明: 下垂体をめぐる最近の話題. 相楽郡病診連携の会, 2007. 6.
- 40) 渡邊 玲¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 塞栓術でSTA-STV fistulaの1例. 第4回日本脳神経血管内治療学会関東地方会, 2007. 6.
- 41) 吉田大蔵¹⁾, 野村竜太郎, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 下垂体腺腫細胞におけるRECKを介したsignal pathway. 第11回 Water Front Neurosurgical Conference, 2007. 7.
- 42) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: 内視鏡単独経鼻下垂体手術: 当院における手技と工夫. 第11回 Water Front Neurosurgical Conference, 2007. 7.
- 43) 村井保夫, 足立好司, 寺本 明, 水成隆之¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 鞍結節髄膜腫の摘出術: interhemispheric approachの意義. 第19回日本頭蓋底外科学会, 2007. 7.
- 44) 石井雄道: 突然の動眼神経麻痺で発症した下垂体部腫瘍の1例. 第13回千駄木ニューロカンファレンス, 2007. 7.
- 45) 石井雄道, 田原重志, 寺本 明: 経蝶形骨手術例における術前術後GHRP負荷試験の検討. 第34回日本神経内分泌学会, 2007. 8.
- 46) 吉田大蔵¹⁾, 野村竜太郎, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 下垂体腺腫細胞HP-75におけるRECKを介

- した細胞内シグナルの制御に関する研究. 第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
- 47) 野村竜太郎, 吉田大蔵¹⁾, 田原重志, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科):下垂体腺腫におけるVCAM-1のhoming effectの意義. 第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
 - 48) 金 景成¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 小林士郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科):頸椎症による上肢麻痺に対してWilliams-Isu法に経椎体法を併用したcombined approachにて治療を行った1症例. 第2回愛知脊椎脊髄手術手技フォーラム, 2007. 9.
 - 49) 額額健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科):内頸動脈解離性動脈瘤に対しRAグラフトバイパス術が有効であった1例. 第103回日本脳神経外科学会関東地方会, 2007. 9.
 - 50) 金 景成¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科):腰椎変性側弯のレビュー. 第2回房総脊髄手術手技研究会, 2007. 9.
 - 51) 岩本直高, 渡邊 淳¹⁾, 倉井年幸¹⁾, 山本基子¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 寺本 明, 島田 隆¹⁾ ⁽¹⁾ 分子遺伝医学):異染色性白質ジストロフィーに対する髄腔内遺伝子治療法の検討. 第52回日本人類遺伝学会, 2007. 9.
 - 52) 山崎道生¹⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科):木村氏病に合併した内頸動脈閉塞症の1例. 第103回日本脳神経外科学会関東支部会, 2007. 9.
 - 53) 戸田茂樹, 井守洋一, 佐藤 俊¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科):硬膜外カテーテルによる硬膜外膿瘍の1例. 第103回日本脳神経外科学会関東支部会, 2007. 9.
 - 54) 寺本 明:経蝶形骨下垂体手術の最近の展開. 新しい脳外科治療の研究会, 2007. 9.
 - 55) 吉田大蔵¹⁾, 野村竜太郎, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科):下垂体腺腫細胞のHP-75におけるRECKを介した細胞内シグナルの制御. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 56) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明:先端巨大症に対する内視鏡単独経鼻下垂体手術の治療成績. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 57) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科):Radial artery graft を用いて治療した治療困難な未破裂内頸動脈瘤の長期成績. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 58) 竹井麻生, 石井雄道, 田原重志, 山王直子¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 山王クリニック, ²⁾ 東海大学医学部基盤診断学系病理診断学):下垂体腺腫におけるソマトスタチンレセプターsubtype 2.3.5の発現. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 59) 額額健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科):椎骨動脈解離に対するEC-RA-V3グラフト後に両耳聾を発症した1例. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 60) 太組一郎¹⁾, 秋元正字²⁾, 百東比古³⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科, ³⁾ 付属病院形成外科):開放性損傷後の巨大骨欠損に対する小児頭蓋骨形成:Catcher's mask cranioplasty. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 61) 玉置智規¹⁾, 鈴木紀成²⁾, 梅岡克哉, 酒井直之²⁾, 立山幸次郎, 齋藤寛浩, 野手洋治¹⁾, 水成隆之³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科):Indwelling double-balloon 3-way shunt for carotid endarterectomy. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 62) 喜多村孝幸:脳脊髄液減少症に対するブラッドパッチの保険診断上の問題点. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 63) 戸田茂樹, 喜多村孝幸, 佐藤 俊¹⁾, 井守洋一²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経外科):日本医科大学における低髄液圧症候群の診断と治療の現状. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 64) 金 景成¹⁾, 井須豊彦, 菅原 淳²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経

- センター脳神経外科,²⁾ 釧路労災病院脳神経外科)：頸椎症に対する選択的頸椎後方除圧術について．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 65) 山口文雄，高橋 弘¹⁾，小島豊之²⁾，寺本 明¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科，²⁾ 四谷メディカルキューブ画像診断センター脳神経外科)：脳腫瘍手術における大脳モニタリングの適応と確実なモニタリングのためのコツ．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 66) 足立好司，高橋 弘¹⁾，寺本 明¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科)：IL-12, IL-18, IL-23による抗グリオーマ活性の検討．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 67) 梅岡克哉：初回脳血管撮影にて出血源を同定できなかつたくも膜下出血の検討．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 68) 水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：破裂前交通動脈瘤に対する手術アプローチの選択とその予後．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 69) 小南修史¹⁾，渡邊 玲¹⁾，鈴木雅規²⁾，布施 明³⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾ 多摩永山病院脳神経外科，³⁾ 日本医科大学高度救命救急センター)：脳動脈奇形に対する血管内治療の長期成績．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 70) 勝野 亮，三品雅洋¹⁾，小南修史²⁾，水成隆之²⁾，小林士郎²⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター神経内科，²⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：椎骨脳底動脈解離性動脈瘤の画像所見．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 71) 渡邊 玲¹⁾，小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：NBCAを用いた塞栓術のみで消失した脳動脈奇形の検討．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 72) 森本大二郎¹⁾，金 景成¹⁾，井須豊彦²⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾ 釧路労災病院脳神経外科)：頸椎部黄色靭帯骨化症の一治療経験．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 73) 鈴木雅規¹⁾，梅岡克哉，小南修史²⁾，寺本 明¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科，²⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：3D rotation angiographyの診断における有用性とピットフォール．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 74) 野村竜太郎，吉田大蔵¹⁾，Shaoshan H，石井雄道，田原重志，寺本 明¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科)：下垂体腺腫におけるVCAM-1発現の意義．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 75) 高島伸之介，村井保夫，足立好司，寺本 明：Carl Zeiss社製 OPMI Penteloによる術中蛍光血管撮影の使用経験．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 76) 竹井麻生，鈴木雅規¹⁾，石井雄道，田原重志，竹腰 進，長村義之²⁾，寺本 明¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，²⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学)：下垂体GH産生腺腫における術前octreotide負荷試験とSSTR発現との関連：免疫染色による検討．第3回アクロメガリーフォーラム，2007．10．
- 77) 高橋 弘¹⁾，平川慶子²⁾，植草協子²⁾，佐藤 俊¹⁾，山口文雄，足立好司，大野曜吉，寺本 明，湯田浩太郎¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科，²⁾ 法医学NMR研究室)：NMRによるメタボロミクス(メタボローム)解析は髄膜腫の悪性転化を予測する．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 78) 畝本恭子¹⁾，直江康孝¹⁾，横田裕行¹⁾，高橋 弘²⁾，黒川 顕，山本保博¹⁾，寺本 明¹⁾ 付属病院高度救命救急センター)：頭部外傷後異常行動：攻撃性症例の検討．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 79) 高島伸之介，村井保夫，足立好司，寺本 明：脳神経外科手術におけるCarl Zeiss社製OPMI Penteloによる術中蛍光血管撮影の有用性．第66回日本脳神経外科学会総会，2007．10．
- 80) 木暮一成¹⁾，戸田茂樹，金 景成²⁾，玉置智規¹⁾，野手洋治¹⁾，小林士郎²⁾，赤石江太郎³⁾，原田俊一³⁾，湧井健治³⁾，太組一朗²⁾，井須豊彦⁴⁾，寺本 明¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科，³⁾ 千葉脳神経外科病院，⁴⁾ 釧路労災病院脳神経外科)：頸椎前方固定術のバリエーション

- ン：特に最近のチタンゲージを主体に。第66回日本脳神経外科学会総会，2007。10。
- 81) 戸田茂樹，井守洋一¹⁾，高山泰広²⁾，木暮一成³⁾，金 景成¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科，²⁾ 付属病院高度救命救急センター，³⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：頸椎前方固定術における square 型 cage (m-cage SR) の検討について。第66回日本脳神経外科学会総会，2007。10。
 - 82) 村井保夫，足立好司，寺本 明，水成隆之¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：傍鞍部髄膜腫の摘出術：approachと我々の方法。第12回日本脳腫瘍の外科学会，2007。11。
 - 83) 太組一朗¹⁾，三品雅洋²⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾ 千葉北総病院脳神経センター神経内科)：脳出血後の虚血性病変との鑑別がMRI上困難であった側頭葉てんかん。第41回日本てんかん学会総会，2007。11。
 - 84) 太組一朗¹⁾，秋元正宇²⁾，岡 敏行²⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明，百東比古³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾ 千葉北総病院形成外科，³⁾ 付属病院形成外科)：Vascularized flexible reversible galea-calvarial bone (VFRGCB) flapを用いた頭蓋再建。第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会，2007。11。
 - 85) 金 景成¹⁾，井須豊彦²⁾，菅原 淳²⁾，森本大二郎¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾ 釧路労災病院脳神経外科)：脊髄外科手術における超音波骨メス (SONOPET) の有用性及びその合併症について。第42回日本脊髄障害医学会，2007。11。
 - 86) 森本大二郎¹⁾，金 景成¹⁾，井須豊彦²⁾，小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾ 釧路労災病院脳神経外科)：胸髄くも膜下血腫の1例。第42回日本脊髄障害医学会，2007。11。
 - 87) 小南修史¹⁾，渡邊 玲¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：静脈内にNBCAが流入したにもかかわらず出血をきたさず，完全消失が得られたAVMの1例。第23回NPO法人日本脳神経血管内治療学会総会，2007。11。
 - 88) 小南修史¹⁾，渡邊 玲¹⁾，布施 明²⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾ 付属病院高度救命救急センター)：脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた血管内治療：不成功例からの適応の再検討。第23回NPO法人日本脳神経血管内治療学会総会，2007。11。
 - 89) 渡邊 玲¹⁾，小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾，布施 明²⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾ 付属病院高度救命救急センター)：AVMに対するNBCA塞栓術の適応と治療成績の検討。第23回日本脳神経血管内治療学会総会，2007。11。
 - 90) 山口文雄，足立好司，戸田茂樹，高橋 弘¹⁾，寺本 明¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科)：再発膠芽腫に対する convection-enhanced delivery による IL13-PE38QQR (NK408) 治療。第25回日本脳腫瘍学会，2007。12。
 - 91) 渡邊 玲¹⁾，小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：小脳AVMに伴った破裂PICA動脈瘤の2例NBCAによる血管内塞栓術。第104回日本脳神経外科学会関東支部会，2007。12。
 - 92) 高橋 弘¹⁾，平川慶子²⁾，植草協子²⁾，山口文雄¹⁾，足立好司，大野曜吉，寺本 明，湯田浩太郎¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科，²⁾ 法医学教室 NMR研究室)：髄膜腫の悪性転化予測に必要なNMRメタボロミクス (メタボローム) 解析。第25回日本脳腫瘍学会，2007。12。
 - 93) 土屋雅人¹⁾，玉置智規¹⁾，野手洋治¹⁾，寺本 明¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科)：片麻痺にて発症した糖尿病性舞踏病の1例。第104回日本脳神経外科学会関東支部会，2007。12。
 - 94) 廣中浩平，石井雄道，田原重志，寺本 明：術前に下垂体腺腫が疑われた chondroid chordoma の1例。第104回日本脳神経外科学会関東支部会，2007。12。
 - 95) 足立好司，高橋 弘¹⁾，寺本 明¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科)：IL-12，IL-18，IL-23のグリオーマ細胞に対する抗腫瘍活性の検討。第25回日本脳腫瘍学会，2007。12。
 - 96) 喜多村孝幸：神経救急医に必要な頭痛治療のトピックス。第13回日本脳神経外科救急学会，2008。1。
 - 97) 勝野 亮，小南修史¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：neck近傍からの破裂を呈したACA distal aneurysmの2例。第13回日本脳神経外科救急学会，2008。1。

- 98) 太組一朗¹⁾, 小南修史¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): NBCA (N-butyl cyanoacrylate) による塞栓療法をうけたてんかん発症の脳動脈腫奇形 (AVM) の臨床像. 第31回日本てんかん外科学会, 2008. 1.
- 99) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科): sandwich法を併用したWilliams-Isu法の放射線学的検討. 2008年釧路脳神経疾患研究会, 2008. 1.
- 100) 志村俊郎¹⁾, 吉村明修¹⁾, 阿曾亮子¹⁾, 八木正敏¹⁾, 安心院康彦²⁾, 足立好司, 寺本 明⁽¹⁾ 教育推進室, ²⁾ 川崎市立病院): 脳卒中におけるシミュレーション医学教育カリキュラム. 第4回モデル&シミュレーション医学教育研究会学術大会, 2008. 1.
- 101) 野手洋治¹⁾, 玉置智規¹⁾, 山崎道生¹⁾, 土屋雅人¹⁾, 澤田恵子¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 脳血栓症患者のマイクロパーティクル値の検討. 第13回日本脳神経外科救急学会, 2008. 1.
- 102) 山王直子¹⁾, 田原重志, 竹井麻生, 石井雄道, 寺本 明⁽¹⁾ 山王クリニック): GH産生下垂体腺腫に対するOctreotide徐放製剤 (LAR) とGH拮抗薬の併用療法. 第18回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2008. 2.
- 103) 廣中浩平, 戸田茂樹, 寺本 明: 巨大下垂体腺腫の1例. 第31回日本脳神経CI学会総会, 2008. 2.
- 104) 吉田大蔵¹⁾, 野村竜太郎, 田原重志, 石井雄道, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 下垂体腺腫におけるStem cell-derived factorとCXCR7を介したautocrine signaling. 第18回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2008. 2.
- 105) 石井雄道, 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明: 当院における内視鏡単独経鼻下垂体手術の適応と限界. 第18回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2008. 2.
- 106) 野村竜太郎, 吉田大蔵¹⁾, 竹井麻生, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 下垂体腺腫におけるSDF-1発現の意義. 第18回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2008. 2.
- 107) 戸田茂樹, 佐藤 俊¹⁾, 高島伸之介, 木暮一成²⁾, 金 景成³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 髄内腫瘍と髄内血腫との鑑別について: MRIでの評価を中心に. 第31回日本脳神経CI学会総会, 2008. 2.
- 108) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百東比古³⁾, 寺本 明²⁾, 金 景成³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科, ³⁾ 形成外科): リン酸4カルシウムペーストを用いた頭蓋形成: 成人巨大骨欠損症例への応用. 第1回日本整容脳神経外科研究会, 2008. 2.
- 109) 鈴木紀成¹⁾, 酒井直之¹⁾, 岩本直高¹⁾, 佐藤 俊¹⁾, 吉田大蔵¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 太組一朗²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頭蓋骨浸潤髄膜腫におけるオーダーメイド人工骨を事前に製作しての一期的手術. 第1回日本整容脳神経外科研究会, 2008. 2.
- 110) 金 景成¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎亜脱臼の1例. 第3回房総脊髄手術手技研究会, 2008. 2.
- 111) 喜多村孝幸: 特発性正常圧水頭症の診断と治療. 第2回文京ニューロサイエンスフォーラム, 2008. 2.
- 112) 高島伸之介, 村井保夫, 廣中浩平, 足立好司, 寺本 明: 脳血管障害手術におけるCarl Zeiss社製OPMI Penteroによる術中蛍光血管撮影の有用性. 第37回脳卒中の外科学会, 2008. 3.
- 113) 山王直子¹⁾, 田原重志, 竹井麻生, 石井雄道, 寺本 明⁽¹⁾ 山王クリニック): GH産生下垂体腺腫に対するOctreotide徐放製剤 (LAR) とGH拮抗薬の併用療法. 第18回臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.
- 114) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Radial artery graftを用いて治療した内頸動脈病変の長期成績. 第37回日本脳卒中の外科学会, 2008. 3.
- 115) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 足立好司, 吉田陽一²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 荏原病院): OA-PICA吻合術とcoiling後に広範な脳梗塞を来した後大脳動脈瘤の1例. 第37回日本脳卒中の外科学会, 2008. 3.
- 116) 玉置智規¹⁾, 齋藤寛浩²⁾, 鈴木紀成³⁾, 酒井直之³⁾, 立山幸次郎, 野手洋治¹⁾, 水成隆之⁴⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 日本

- 医科大学多摩永山病院脳神経外科，² 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科，³ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，⁴ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：自験例におけるCEA時のパッチグラフトの検討。第37回日本脳卒中の外科学会，2008。3。
- 117) 玉置智規¹，野手洋治¹，寺本 明¹ (多摩永山病院脳神経外科)：軽症くも膜下出血におけるケトン体の変動。第33回日本脳卒中学会総会，2008。3。
- 118) 田原重志：TSH産生下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻経蝶形骨手術の手術成績。第18回臨床内分泌代謝Update，2008。3。
- 119) 立山幸次郎，山田 明，寺本 明：くも膜下出血急性期におけるPerfusion CTによる脳血流評価。第37回日本脳卒中の外科学会，2008。3。
- 120) 梅岡克哉，鈴木雅規¹，村井保夫，鈴木紀成²，水成隆之³，寺本 明¹ (多摩永山病院脳神経外科，² 武蔵小杉病院脳神経外科，³ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：初回脳血管撮影にて出血源を同定できなかったくも膜下出血の検討。第37回日本脳卒中の外科学会，2008。3。
- 121) 勝野 亮，小南修史¹，水成隆之¹，小林士郎¹，寺本 明¹ (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：非特異的なCT所見を呈した遠位部前大脳動脈瘤破裂の治療2症例からの検討。第37回日本脳卒中の外科学会，2008。3。
- 122) 玉置智規¹，野手洋治¹，齋藤寛浩²，酒井直之³，梅岡克哉，立山幸次郎，水成隆之⁴，鈴木紀成³，寺本明¹ (日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，² 埼玉医科大学国際医療センター脳卒中外科，³ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：CEAにおけるヘマシールドパッチグラフトの使用経験。第37回日本脳卒中の外科学会，2008。3。
- 123) 井守洋一¹，額額健太¹，小南修史¹，渡邊 玲¹，水成隆之¹，小林士郎¹，寺本 明¹ (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：再発慢性硬膜下血腫に対する塞栓術が有効であった1例。第21回日本老年脳神経外科学会，2008。3。
- 124) 水成隆之¹，小林士郎¹，額額健太¹，鈴木紀成²，村井保夫，梅岡克哉，寺尾 健¹，立山幸次郎，勝野 亮，寺本 明¹ (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，² 武蔵小杉病院脳神経外科)：未破裂動脈瘤クリッピング術中の動脈瘤破裂，または血管損傷に対する対処方法。第37回日本脳卒中の外科学会，2008。3。
- 125) 小南修史¹，渡邊 玲¹，小林士郎¹，寺本 明¹ (千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：NBCAで塞栓術を行った脳動脈奇形の治療成績。第37回日本脳卒中の外科学会，2008。3。
- 126) 山口文雄，朝倉隆之，高橋 弘¹，寺本 明¹ (武蔵小杉病院脳神経外科)：悪性グリオーマに対する5-ALA-based sonodynamic therapyによる抗腫瘍効果メカニズムの検討。第4回日本脳神経外科光線力学研究会，2008。3。
- 127) 野手洋治¹，玉置智規¹，山崎道生¹，土屋雅人¹，澤田恵子¹，寺本 明¹ (多摩永山病院脳神経外科)：血小板マイクロパーティクル検査により脳血栓症発生リスクは低下する。第33回日本脳卒中学会総会，2008。3。
- (6) インターネット動画講演会：
1) 寺本 明，田原重志：内視鏡下下垂体手術の進歩。Lilly Streaming TV，2007。11。
- (7) ビデオカンファレンス：
1) 戸田茂樹，村井保夫，山本修三¹，足立好司，寺本 明¹ (高度救命救急センター)：頭蓋内に伸展したC1から発生した神経鞘腫の1例。第3回文京ビデオカンファレンス，2007。
- (8) ビデオデモンストレーション：
1) 石井雄道，田原重志，喜多村孝幸，寺本 明：内視鏡単独経鼻下垂体手術における鞍底形成。第1回東日本下垂体ビデオデモンストレーション，2007。8。

[武蔵小杉病院脳神経外科]

研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は、附属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら、脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的脳疾患（顔面痙攣、三叉神経痛など）とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を行っている。特に脳腫瘍に関しては、従来摘出困難と思われてきた脳幹部などの腫瘍に対しても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し、悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい化学療法を施行し、良好な結果を取ってきている。また、虚血性脳卒中の急性期治療（tPA療法）を施行する神奈川県内の拠点病院となっていることから、脳卒中を主体とした救急疾患の治療にも力を注いでいる。小児疾患に関しても、脳腫瘍の治療を主体に行っているが、もやもや病などの血管性病変や中枢神経系奇形に対しても積極的に治療に取り組んでいる。臨床的研究としては、脳血管障害や頭部外傷において、脳血流測定法などで脳循環を詳細に測定することにより、正確な病態把握を行う研究。悪性腫瘍において、多くの基礎的データを基に特異的・非特異的免疫療法を組み合わせる臨床的に応用する研究。これらが盛んに行われている。また、基礎的研究としては、分子生物学的手法を用いて脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる遺伝子のcDNAマイクロアレイによる解析、メタボローム解析による腫瘍の悪性転化に関する研究、腫瘍血管新生抑制に関する新規薬剤の開発、癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の研究などがメインテーマとなっており、毎年国内外に確実に発表を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yoshida D, Teramoto A¹⁾ (1) 附属病院脳神経外科) : Elevated cell invasion is induced by hypoxia in a human pituitary adenoma cell line. *Cell Adhesion & Migration* 2007 ; 1 (1) : 43-51.
- 2) Yamaguchi F¹⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) 附属病院脳神経外科) : Photodiagnosis for frameless stereotactic biopsy of brain tumor. *Photodiagnosis and Photodynamic Therapy* 2007 ; 4 (1) : 71-75.
- 3) Yoshida D, Teramoto A¹⁾ (1) 附属病院脳神経外科) : Enhancement of pituitary adenoma cell line invasion and adhesion is mediated by discoidin domain receptor-1. *J Neurooncol* 2007 ; 1 (82) : 29-40.
- 4) Yoshida D, Teramoto A¹⁾ (1) 附属病院脳神経外科) : The use of 3-D culture in peptide hydrogel for analysis of discoidin domain receptor 1-collagen interaction. *Cell Adhesion & Migration* 2007 ; 1 (2) : 92-98.
- 5) Yamaguchi F¹⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) 附属病院脳神経外科) : Intra-operative detection of motor pathways using a simple electrode provides safe brain tumor surgery. *J Clin Neurosci* 2007 ; 14 (11) : 1106-1110.

(2) 総説：

- 1) 高橋 弘：脳幹網様体に関する腫瘍。 *Clinical Neurosci* 2007 ; 25 (4) : 463-466.

著書

- 1) 山口文雄¹⁾, 小島豊之²⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科) : [原著] 錐体路近傍腫瘍手術におけるモニタリングの問題点と対処法. 脳腫瘍の外科 合併症のない脳腫瘍の外科を目指して (黒岩敏彦), 2007 ; pp146-150, メディカ出版.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 山口文雄¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：グリオーマに対する5-ALAを用いたSonochemical Therapyの試み. 第3回日本脳神経外科光線力学研究会, 2007. 2.

追加分特別講演：

- 1) 高橋 弘：NMRメタボロミクスは良性脳腫瘍の悪性化を予測できる. 第2回日本医科大学医用磁気共鳴施設公開セミナー, 2007. 2.

(1) 特別講演：

- 1) Takahashi H：New therapeutic strategies against malignant brain tumors by comprehensive gene or metabolic analysis. 3rd Harbin International Neurosurgical Congress 2007 (Harbin, China), 2007. 7.
- 2) 高橋 弘：脳幹部グリオーマ手術適応に関する再考察. 第8回神奈川脳神経外科手術手技研究会, 2007. 9.
- 3) 高橋 弘：頭蓋咽頭腫に対するプレオマイシン局所注入療法：黎明期を中心に. 第25回日本こども病院神経外科医会, 2007. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 山口文雄¹⁾, 小島豊之²⁾, 王 力群³⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科, ³⁾ 東京電機大学先端工学研究所)：Low grade glioma-安全で確実な摘出のために-術後神経症状を重視した脳腫瘍手術：運動機能マッピング, 高次機能マッピングによる摘出範囲の決定. 第16回脳神経外科手術と機器学会, 2007. 4.

(3) セミナー：

- 1) Takahashi H：Modern therapeutic strategies for malignant gliomas. World Federation of Neurological Societies 13th Interim Meeting/The 12th Asian-Australasian Society of Neurological Surgeons Congress (Nagoya, Japan), 2007. 11.
- 2) Yamaguchi F¹⁾, Kojima T²⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科)：Preservation of motor function by intraoperative detection of motor pathways. World Federation of Neurological Societies 13th Interim Meeting/The 12th Asian-Australasian Society of Neurological Surgeons Congress (Nagoya, Japan), 2007. 11.

(4) 一般講演：

- 1) Yamaguchi F¹⁾, Asakura T¹⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：Sonochemical therapy for glioma. The 57th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons. (Washington DC, USA), 2007. 4.
- 2) Takahashi H, Hirakawa K¹⁾, Uekusa F¹⁾, Yamaguchi F²⁾, Adachi K²⁾, Ohno Y¹⁾, Teramoto A²⁾, Yuta K³⁾ (1) 日本医科大学法医学教室NMR研究室, ²⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科, ³⁾ 富士通バイオIT事業開発本部)：Significance of NMR based metabolomics as the prognostic factor of meningioma. 2nd International Meeting Updates in Neuro-Oncology. (Cortona, Italy), 2007. 6.
- 3) Yamaguchi F¹⁾, Asakura T¹⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：Sonochemical Therapy using 5-ALA for glioma. 2nd International Meeting Updates in Neuro-Oncology. (Cortona, Italy), 2007. 6.
- 4) Yoshida D, Nomura R¹⁾, Teramoto A¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科)：Regulation of cell invasion and signalling pathways in the pituitary adenoma cell line, HP-75, by reversion-inducing cysteine-rich protein with kazal motifs (RECK). The 57th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons. (San Diego,

- USA), 2007. 9.
- 5) Takahashi H, Yamaguchi F¹⁾, Adachi K¹⁾, Teramoto A¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : NMR based metabolomics could predict the prognoses of meningiomas. The 57th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons. (San Diego, USA), 2007. 9.
 - 6) Yamaguchi F¹⁾, Asakura T¹⁾, Suzuki K¹⁾, Sato Y²⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ ミワテック) : Antitumor effects of 5-ALA sonochemical therapy for malignant glioma. . The 57th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons. (San Diego, USA), 2007. 9.
 - 7) Nomura R¹⁾, Yoshida D, Teramoto A¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : The expression of VCAM-1 in the pituitary adenoma. . The 57th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons. (San Diego, USA), 2007. 9.
 - 8) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 小児毛様細胞性星細胞腫に自閉症スペクトラムを合併した2症例. 第35回日本小児神経外科学会, 2007. 5.
 - 9) 吉田大蔵, 野村竜太郎¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 下垂体腺腫細胞におけるRECKを介したsignal pathway. ウォーターフロントカンファレンス, 2007. 4.
 - 10) 山口文雄¹⁾, 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : Convection-Enhanced Delivery of IL13-PE for Glioblastoma : The first case in Japan. 第33回ニューロ・オンコロジーの会, 2007. 4.
 - 11) 山口文雄¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 大脳白質刺激電極の開発. 第16回脳神経外科手術と機器学会, 2007. 4.
 - 12) 山口文雄¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 覚醒下手術用スリット入り脳表グリッド電極の開発. 第16回脳神経外科手術と機器学会, 2007. 4.
 - 13) 吉田大蔵, 野村竜太郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 下垂体腺腫細胞HP-75におけるRECKを介した細胞内シグナルの制御に関する研究. 第39回日本臨床分子形態学会総会, 第48回日本組織細胞学会総会合同学術集会, 2007. 9.
 - 14) 岩本直高, 渡邊 淳¹⁾, 倉井年幸¹⁾, 山本基子¹⁾, 三宅紀子¹⁾, 寺本 明²⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学分子遺伝医学, ²⁾ 付属病院脳神経外科) : 異染色性白質ジストロフィーに対する髄腔内遺伝子治療法の検討. 日本人類遺伝学会第52回大会, 2007. 9.
 - 15) 野村竜太郎¹⁾, 吉田大蔵, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 下垂体線腫におけるVCAM-1のhoming effectの意義. 第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
 - 16) 吉田大蔵, 野村竜太郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 下垂体腺腫細胞のHP-75におけるRECKを介した細胞内シグナルの制御. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 17) 高橋 弘, 平川慶子²⁾, 植草協子²⁾, 佐藤 俊, 山口文雄¹⁾, 足立好司¹⁾, 大野曜吉³⁾, 寺本 明¹⁾, 湯田浩太郎⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学法医学NMR研究室, ³⁾ 日本医科大学法医学, ⁴⁾ 富士通バイオIT事業本部) : NMRによるメタボロミクス (メタボローム) 解析は髄膜腫の悪性転化を予測する. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 18) 山口文雄¹⁾, 高橋 弘, 小島豊之²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科) : 脳腫瘍手術における大脳モニタリングの適応と確実なモニタリングのためのコツ. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 19) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : IL-12, IL-18, IL-23による抗グリオーマ活性の検討. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
 - 20) 畝本恭子²⁾, 直江康孝³⁾, 横田裕行⁴⁾, 高橋 弘, 黒川 顕²⁾, 山本保博⁴⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター, ³⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ⁴⁾ 日本医科大学救急医学) : 頭部外傷後異常行動 : 攻撃性症例の検討. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.

- 21) 野村竜太郎¹⁾, 吉田大蔵, Hu S¹⁾, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 下垂体線腫におけるVCAM-1発現の意義. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 22) 高橋 弘, 平川慶子²⁾, 植草協子²⁾, 山口文雄¹⁾, 足立好司¹⁾, 大野曜吉³⁾, 寺本 明¹⁾, 湯田浩太郎⁴⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学法医学NMR研究室, 3) 日本医科大学法医学, 4) 富士通バイオIT事業本部) : 髄膜腫の悪性転化予測に必要なNMRメタボロミクス (メタボローム) 解析. 第25回日本脳腫瘍学会, 2007. 12.
- 23) 山口文雄¹⁾, 足立好司¹⁾, 戸田茂樹¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 再発膠芽腫に対するConvection-Enhanced DeliveryによるIL13-PE38QQR (NK408) 治療. 第25回日本脳腫瘍学会, 2007. 12.
- 24) 吉田大蔵, 野村竜太郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 下垂体腺腫におけるStem cell-derived factorとCXCR7を介したaurocrine signaling. 第18回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2008. 2.

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科専門医訓練施設として付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら以下の研究を行っている。これらは全てハイレベルの受診者満足度を目的とした観点からの研究と考えている。

多摩地区は高齢者人口が増加の一途をたどり、それに伴い虚血性脳血管障害症例が急増している。それゆえ、上記疾患に対する研究を第一とした。すなわち、内頸動脈狭窄症に対しては外科的治療戦略のさらなる改善・工夫についての研究を行った。また、脳梗塞急性期症例に対し、重要な要因のひとつである血小板機能の病態解明について、従来にはなかった最新の研究が可能となり目下進行中である。そして近々その報告ができるかと確信している。なお、3D-CTAなどの画像検査・頸動脈エコー・PWV・経頭蓋超音波ドプラー検査および電気生理学的検査 (ABR, SEP) 等を駆使し、臨床研究の一助としている。

特にPWVおよび頸動脈エコーについては、脳梗塞予防・再発防止の観点からも研究を行っている。

次に、いわゆる無症候性疾患、特に高齢者の脳腫瘍・未破裂脳動脈瘤および脊椎・脊髄疾患などに対しては、QOLを第一とした手術法についての改良研究を行った。

なお、従来摘出困難とされていた頭蓋底腫瘍に対しては、予後改善目的に手術法の検討のみならず手術器具の開発研究も行っている。なお、当教室の主体の1つである脳下垂体腺腫、および悪性脳腫瘍については、付属病院他専門スタッフの協力を得て、脳神経外科学教室共通のプロトコルに従い治療・研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科) : 脳血栓症における頸部動脈硬化とPWV. Arterial Stiffness 2007 ; 72-73.
- 2) 野手洋治, 玉置智規, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科) : 血小板マイクロパーティクルは脳血栓症マーカーとしてきわめて有用である. 医学のあゆみ 2007 ; 221 : 687-688.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Kogure K : Anterior approach for cervical spondylosis and OPLL - especially, serviceability of titanium cage fixation and Williams Isu method. World Federation of Neurosurgical Societies, 13th Interim Meeting / 12th Asian-Australasian Congress of Neurological Surgeons (Nagoya), 2007. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) 木暮一成，戸田茂樹¹⁾，金 景成²⁾，太組一朗²⁾，野手洋治，小林士郎²⁾，赤石江太郎³⁾，湧井健治³⁾，寺本明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科，2) 千葉北総病院脳神経外科，3) 千葉脳神経外科病院)：頸椎前方到達法の基本手技：安全な開創手技についての再確認．第16回脳神経外科手術と機器学会，2007．4．

(3) ワークショップ：

- 1) Node Y：Surgery of trauma. World Federation of Neurosurgical Societies, 13th Interim Meeting / 12th Asian Australasian Congress of Neurological Surgeons (Nagoya), 2007. 11.

(4) 一般講演：

- 1) Node Y, Tamaki T, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School)：Clinical study of the patients with skull base and facial injury in the acute head trauma. EANS (European Association of Neurosurgical Societies) 2007 13th European Congress of Neurosurgery (Glasgow, UK), 2007. 9.
- 2) Node Y, Tamaki T, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School)：Clinical study of platelet-derived microparticles (PDMP) in patients with acute cerebral thrombosis. EANS (European Association of Neurosurgical Societies) 2007 13th European Congress of Neurosurgery (Glasgow, UK), 2007. 9.
- 3) Tamaki T, Node Y：Changes of The Plasma Ketone Body Level and Arterial Ketone Body Ratio at The Onset of Mild Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage. EANS (European Association of Neurosurgical Societies) 2007 13th European Congress of Neurosurgery (Glasgow, UK), 2007. 9.
- 4) Tamaki T, Node Y：Paramedian Suboccipital Mini-Craniectomy for Evacuation of Spontaneous Cerebellar Hemorrhage. EANS (European Association of Neurosurgical Societies) 2007 13th European Congress of Neurosurgery (Glasgow, UK), 2007. 9.
- 5) 玉置智規，齋藤寛浩¹⁾，鈴木紀成²⁾，酒井直之²⁾，立山幸次郎³⁾，野手洋治，寺本 明³⁾ (1) 埼玉医科大学脳神経外科，2) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科，3) 日本医科大学付属病院脳神経外科)：CEAのパッチグラフトについて．第16回日本脳神経外科手術と機器学会，2007．4．
- 6) 木暮一成，戸田茂樹¹⁾，金 景成²⁾，玉置智規，野手洋治，小林士郎²⁾，赤石江太郎³⁾，原田俊一³⁾，湧井健治³⁾，太組一朗²⁾，井須豊彦⁴⁾，寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科，2) 千葉北総病院脳神経外科，3) 千葉脳神経外科病院，4) 釧路労災病院脳神経外科)：前方固定術：minimum instrumentationとしてのチタンケージ．第22回日本脊髄外科学会，2007．6．
- 7) 山崎道生，玉置智規，野手洋治，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科)：木村氏病に合併した内頸動脈閉塞症の1例．第103回日本脳神経外科学会関東支部会，2007．9．
- 8) 野手洋治：脳血栓症における血小板マイクロパーティクル測定の検討．第66回社団法人日本脳神経外科総会，2007．10．
- 9) 玉置智規：自験例におけるCEA時のシャントについて．第66回社団法人日本脳神経外科総会，2007．10．
- 10) 木暮一成，戸田茂樹¹⁾，金 景成²⁾，玉置智規，野手洋治，小林士郎²⁾，赤石江太郎³⁾，原田俊一³⁾，湧井健治³⁾，太組一朗²⁾，井須豊彦⁴⁾，寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科，2) 千葉北総病院脳神経外科，3) 千葉脳神経外科病院，4) 釧路労災病院脳神経外科)：頸椎前方固定術のバリエーション：特に最近のチタンケージを主体に．第66回社団法人日本脳神経外科総会，2007．10．
- 11) 土屋雅人，玉置智規，野手洋治，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科)：片麻痺にて発症した糖尿病性舞踏病の1例．第104回日本脳神経外科学会関東支部会，2007．12．
- 12) 野手洋治，玉置智規，山崎道生，土屋雅人，澤田恵子，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科)：脳血栓症患者の血小板マイクロパーティクル値の検討．第13回日本脳神経外科救急学会，2008．1．
- 13) 野手洋治，玉置智規，山崎道生，土屋雅人，澤田恵子，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科)：血

小板マイクロパーティクル検査により脳血栓症発生リスクは低下しうる。第33回日本脳卒中学会総会，2008. 3.

- 14) 玉置智規，野手洋治，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科)：軽症くも膜下出血におけるケトン体の変動。第33回日本脳卒中学会総会，2008. 3.
- 15) 玉置智規，齋藤寛浩¹⁾，鈴木紀成²⁾，酒井直之²⁾，立山幸次郎³⁾，野手洋治，水成隆之⁴⁾，寺本 明³⁾ (1) 埼玉医科大学脳神経外科，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院，³⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院)：自験例におけるCEA時のパッチグラフトの検討。第36回日本脳卒中中の外科学会，2008. 3.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開設14年が経過した千葉北総病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら，脳血管障害，頭部外傷，脳腫瘍，脳代謝，脳血管内手術，脊髓脊椎外科，機能的脳神経外科，及び形成外科の脳神経外科を中心とした臨床のおよび基礎的研究を行った。脳卒中ケアユニットおよび，脳卒中ホットラインも順調に稼動しており，千葉県北部における基幹施設としての責務を果たした。1) 脳血管障害：気温と病型別脳梗塞発症の関係性を報告した。当センターにて経験したrt-PA連続22症例の報告を行った。外科的にはRAgraftを併用した治療困難な内頸動脈瘤の長期予後を調査した。また，内頸動脈大型（巨大）もしくは血栓化動脈瘤に対する治療法の選択基準を発表した。2) 頭部外傷：受傷急性期の分子マーカーからみた頭部外傷の形態把握と予後予測を行った。3) 脳腫瘍：髄液漏で発症したアクロメガリーの検討を行った。脳下垂体腺腫形成におけるPTTG (pituitary tumortransformin gene) の役割に関する研究を継続した。4) 脳代謝：アルツハイマー病における描画機能を脳ブドウ糖代謝の関係を報告した。未治療パーキンソン病におけるアデノシンA2A受容体結合能について検討した。5) 脳血管内手術：小児脳動脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術の適応と長期成績を論じた。6) 脊髓脊椎外科：頸椎固定術後固定椎角と頸椎アライメントに関する検討を加えた。7) 機能的脳神経外科：てんかん診療における長時間デジタル脳波ビデオモニタリングシステムを導入し，てんかんの外科手術を開始した。8) 整容脳神経外科：新たにCosmetic Neurosurgeryを開設した。この分野においてfree muscle flapによる頭蓋底再建の有用性を述べると共に，小児科頭蓋骨形成術における自家骨移植の再検討を行った。

研究業績

論文

(追加分)

追加分原著：

- 1) Takumi I, Mizunari T, Mishina M, Fukuchi T, Nomura R, Umeoka K, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School)：Dissecting posterior inferior cerebellar artery aneurysm presenting with subarachnoid hemorrhage right after anticoagulant and antiplatelet therapy against ischemic event. *Surgical Neurology* 2007；68 (1)：103-107.
- 2) Kim K, Isu T¹⁾, Sugawara A¹⁾, Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital)：Anterior decompression via a wide transvertebral approach and a ceramic insert in a patient with cervical degenerative disease. *Surgical Neurology* 2007；67 (2)：127-133.
- 3) Kim K, Isu T¹⁾, Sugawara A¹⁾, Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾ (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital)：Utility of new bioabsorptive screws in cervical anterior fusion. *Surgical Neurology* 2007；68 (3)：264-268.
- 4) 金 景成，井須豊彦¹⁾，菅原 淳¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科)：頸椎前方固定術後アライメント悪化を術前

に予測できるか：固定椎角に主眼をにおいて，日本脊髄障害医学会雑誌 2007；20（1）：92-93.

(1) 原著：

- 1) Katsuno M, Yokota H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Departments of Emergency and Critical Care Nippon Medical School, ²⁾ Neurosurgery Nipponn Medical School) : Bilateral traumatic abducens nerve palsy associated with skull base fracture : Case report. *Neurol Med Chir* 2007 ; 47 (7) : 307-309.
- 2) Mishina M, Ishiwata K¹⁾, Kimura Y¹⁾, Naganawa M¹⁾, Oda K¹⁾, Kobayashi S, Katayama Y²⁾, Ishi K¹⁾ (¹⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²⁾ The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Evaluation of distribution of adenosine A2A receptors in normal human brain measured with [11C]TMSX PET. *synapse* 2007 ; 61 : 778-784.
- 3) Fuse A¹⁾, Yokota H¹⁾, Kominami S, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ Department of Emergency & Critical Care Medicine Nippon Medical School) : Traumatic cerebral aneurysm associated with a contralateral traumatic carotid cavernous fistula : Case report. *Interventional Neuroradiology* 2007 ; 13 : 287-293.
- 4) Hashimoto M¹⁾, Kawasaki K²⁾, Suzuki M¹⁾, Mitani K³⁾, Murayama S¹⁾, Mishina M, Oda K¹⁾, Kimura Y¹⁾, Ishii K¹⁾, Inoue K¹⁾ (¹⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾ Research Team for Geriatric Diseases, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Presynaptic and postsynaptic nigrostriatal dopaminergic functions in multiple system atrophy. *Neuroreport* 2008 ; 19 (2) : 145-150.
- 5) Naganawa M¹⁾, Kimura Y¹⁾, Yano J²⁾, Mishina M, Yanagisawa M¹⁾, Ishii K²⁾, Oda K¹⁾, Ishikawa K¹⁾ (¹⁾ Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Robust estimation of the arterial input function for Logan plots using an intersectional searching algorithm and clustering in positron emission tomography for neuroreceptor imaging. *Neuroimage* 2008 ; 40 (1) : 26-34.
- 6) Kim K, Isu T¹⁾, Sugawara A¹⁾, Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital) : Comparison of the effect of 3 different approaches to the lumbar spinal canal on postoperative paraspinal muscle damage. *Surg Neurol* 2008 ; 69 (2) : 109-113.
- 7) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 森本大二郎, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科学) : Super FIXSORB スクリューを用いた Williams-Isu法による頸椎前方除圧固定術. *脳神経外科速報* 2007 ; 17 (12) : 1458-1462.
- 8) 菅原 淳¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 磯部正則¹⁾, 松本亮司¹⁾, 茂木洋晃¹⁾, 金 景成 (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 超音波骨メスが有効であった腰椎椎間板孔狭窄症の1手術例. *脳神経外科* 2007 ; 35 (12) : 1163-1167.

(2) 総説：

- 1) Kim K, Isu T¹⁾, Morimoto D, Kominami S, Kobayashi S, Teramoto A²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Anterior vertebral artery decompression with an ultrasonic bone curette to treat bow hunter' s syndrome. *Acta Neurochir (Wien)* 2008 ; 150 (3) : 301-303.
- 2) 太組一朗, 小泉慎也¹⁾, 小林士郎, 藤野 修¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院小児科) : てんかん診療における長時間デジタル脳波ビデオモニタリングシステムの導入. *日医大医会誌* 2008 ; 4 (1) : 50-51.
- 3) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 遊佐純教¹⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 腰部椎間孔部腫瘍に対する傍脊柱筋アプローチ. *脳神経外科* 2008 ; 36 (2) : 147-152.

(3) 症例報告：

- 1) 勝野 亮, 小林士郎, 横田裕行¹⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学脳神

経外科)：1次性動眼神経麻痺をきたした軽症頭部外傷の2症例. BRAIN and NERVE 2008；60(1)：89-91.

著書

- 1) 秋野公造¹⁾, 太組一朗 (1) 厚生労働省健康局疾病対策課)：〔翻訳〕神経解剖集中講義 (寺本 明・山下俊一), 2007；pp1-209, 医学書院.
- 2) 金 景成：〔分担〕私が使用している生体材料. 生体内分解吸収性スクリュー. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp12-12, 三輪書店.
- 3) 金 景成：〔分担〕私が使用している生体材料. 生理的組織吸着剤. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp16-16, 三輪書店.
- 4) 金 景成：〔分担〕私が使用している生体材料. 吸収性局所止血剤. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp17-17, 三輪書店.
- 5) 金 景成：〔分担〕私が使用している生体材料. 人工硬膜. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp18-18, 三輪書店.
- 6) 金 景成：〔分担〕脊椎脊髄疾患における脊髄造影およびCT脊髄造影の必要性に関する検討. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp22-27, 三輪書店.
- 7) 金 景成：〔分担〕頸椎固定術後頸椎 alignment の変化に関する検討. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp90-94, 三輪書店.
- 8) 金 景成：〔分担〕後方支持組織を温存する手術法における術前後のCPK値, 筋肉萎縮について. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp122-125, 三輪書店.
- 9) 金 景成：〔分担〕腰部脊柱管狭窄症に対する再手術例の検討. これが私の手術法. 脊髄脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp126-129, 三輪書店.
- 10) 金 景成：〔分担〕腰部椎間孔部の腫瘍：傍脊柱筋アプローチ. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp156-159, 三輪書店.
- 11) 金 景成：〔分担〕腰椎黄色靭帯出血の1症例. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp165-166, 三輪書店.
- 12) 金 景成：〔分担〕Far-out syndrome (FOS) の1症例. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp167-168, 三輪書店.
- 13) 金 景成：〔分担〕腰部脊柱管狭窄症に合併した梨状筋症候群の1症例. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp172-173, 三輪書店.
- 14) 菅原 淳¹⁾, 金 景成 (1) 釧路労災病院脳神経外科)：〔分担〕術前・術後の管理の注意点ならびに対策. これが私の手術法. 脊椎脊髄手術 (井須豊彦), 2007；pp28-33, 三輪書店.
- 15) 小林士郎：〔共著〕脳神経外科. STEP外科1 外科総編・脳神経外科 (第2版) (小田壮一郎, 小林士郎), 2007；pp1-352, 海馬書房.
- 16) 金 景成, 井須豊彦¹⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科)：〔分担〕脊柱管狭窄症の治療. Annual Review 2008 神経 XIII 脊髄疾患, 2008；pp268-275, 中外医学社.
- 17) 小林士郎：〔分担〕硬膜形成術の現況. Annual Review 2008 神経, 2008；pp101-108, 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：脳外科入門：脳外科医の立場より. 平成19年千葉県生涯大学校特別講演会, 2007. 4.
- 2) 小林士郎：救急隊員のための脳卒中の知識. 第14回「北総救命会」フォーラム, 2007. 6.

- 3) 小南修史：液体塞栓物質を用いた脳血管内治療．第5回東埼玉血管内治療倶楽部，2007．6．
 - 4) 三品雅洋：パーキンソニズムのPET．第7回大江戸神経フォーラム，2007．7．
 - 5) 三品雅洋：SPECT・PETを用いたパーキンソン症候群の画像診断．第4回新潟県脳機能解析研究会，2007．8．
 - 6) 三品雅洋：PETを用いた脳疾患の診断と病態の研究．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．
 - 7) 三品雅洋：パーキンソン病の核医学診断と治療．第1回北村山神経懇話会，2007．9．
 - 8) 小南修史：脳動静脈奇形の治療におけるガンマナイフと塞栓術の接点．第2回明日のガンマナイフを担う会，2007．9．
 - 9) 小南修史：脳血管内治療の現状と展望．第2回城東stroke研究会，2007．10．
 - 10) 金 景成：腰部脊柱管狭窄症の治療：最近のレビュー．釧路地区脳神経外科研究会，2007．11．
 - 11) 三品雅洋：脳神経センターでの脳卒中治療：地域連携を見据えて．第1回脳卒中リハビリテーション懇話会，2007．12．
 - 12) 三品雅洋：千葉北総病院における脳梗塞急性期治療の実際．第4回日医大オープンカンファレンス，2008．2．
- (2) 教育講演：
- 1) 小南修史：NBCAを用いたAVMの塞栓術．第4回日本脳神経血管内治療学会関東地方会，2007．6．
- (3) セミナー：
- 1) 三品雅洋：t-PAが有効であった1例．第89回東葉臨床医学セミナー，2007．5．
 - 2) 渡辺 玲：頸動脈balloon occlusion後に，vasa vasorumによって再開通した1例．第9回脳神経血管内治療琉球セミナー，2007．6．
- (4) 一般講演：
- 1) Mishina M, Ishiwata K¹⁾, Ohyama M¹⁾, Kitamura S²⁾, Kimura Y¹⁾, Oda K¹⁾, Kobayashi S, Katayama Y³⁾, Ishii K¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 3) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Evaluation of signal receptors in Alzheimer's disease using [11C]SA4503 PET. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism&Function (Brain' 07) and the 8th International Conference on Quantification of Brain Function With PET (Brain PET' 07) (Osaka), 2007. 5.
 - 2) Mishina M, Ishiwata K¹⁾, Ohyama M¹⁾, Kitamura S²⁾, Kimura Y¹⁾, Oda K¹⁾, Kobayashi S, Katayama Y³⁾, Ishii K¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 3) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Distribution volumes as an alternative to binding potentials for signal imaging. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism&Function (Brain' 07) and the 8th International Conference on Quantification of Brain Function With PET (Brain PET' 07) (Osaka), 2007. 5.
 - 3) 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 金 景成, 磯部正則¹⁾, 松本亮司¹⁾, 木暮一成²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科) : 頰椎変性疾患に対する前方アプローチの合併症対策．第22回日本脊髄外科学会，2007．6．
 - 4) Mishina M, Ishiwata K¹⁾, Ohyama M¹⁾, Kitamura S²⁾, Kimura Y¹⁾, Oda K¹⁾, Kobayashi S, Katayama Y²⁾, Ishii K¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Relationship between adenosine A2A receptor and dopamine transporter in drug naive Parkinson's disease using TMSX PET. 13th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Chicago), 2007. 6.
 - 5) Takumi I, Mizutani N, Mori O¹⁾, Kobayashi S, Teramoto A²⁾ (1) Department of Pathology, Chiba Hokusou

- Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Supratentorial expansile neurenteric cyst with status epilepticus in an adult. 17th International Cleveland Clinic Epilepsy Symposium : Epilepsy Surgery (Cleveland), 2007. 6.
- 6) Takumi I : Combined autologous rib-and calvarial graft to repair huge cranial defects in children with severe head trauma : A report of 2 pediatric cases treated by “catcher’s mask cranioplasty”. The 22nd Japan Neurosurgery English Forum in Chiba (Chiba), 2007. 7.
 - 7) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 百束比古²⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学形成外科, ³⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 脳神経外科手術後美容の問題 頭蓋・頭皮のトラブルシューティング. 第16回脳神経外科手術と機器学会 (CNTT), 2007. 4.
 - 8) 木暮一成¹⁾, 戸田茂樹²⁾, 金 景成, 太組一朗, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 小林士郎, 赤石江太郎³⁾, 湧井健治³⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科, ³⁾ 千葉脳神経外科病院脳神経外科) : 頸椎前方到達法の基本手技 : 安全な開創手技についての再確認. 第16回脳神経外科手術と機器学会 (CNTT), 2007. 4.
 - 9) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 小林士郎, 木暮一成²⁾, 戸田茂樹³⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 頸椎前方固定術における吸引性スクリューの工夫及びその有用性について. 第16回脳神経外科手術と機器学会 (CNTT), 2007. 4.
 - 10) 金 景成, 野村竜太郎¹⁾, 井須豊彦²⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科) : 頸椎部黄色靭帯骨化症の1例. 第102回社団法人日本脳神経外科学会関東地方会, 2007. 4.
 - 11) 金 景成 : Bow hunter’s syndrome の1例. 第1回岩手神経外科カンファレンス, 2007. 5.
 - 12) 國保倫子, 太組一朗, 瀨瀬健太, 森本大二郎, 勝野 亮, 渡辺 玲, 金 景成, 三品雅洋 : 後頭葉てんかんの1例. 第55回千葉北総神経放射線研究会, 2007. 5.
 - 13) 森本大二郎, 瀨瀬健太, 勝野 亮, 渡辺 玲, 金 景成, 太組一朗, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎 : 腫瘍性病変の1例. 第55回千葉北総神経放射線研究会, 2007. 5.
 - 14) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 岡 敏行¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 百束比古²⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学形成外科, ³⁾ 日本医科大学脳神経外科) : rib graftとcalvarial graftを組み合わせた巨大骨欠損にたいする小児頭蓋骨形成 ; catcher’s mask cranioplasty. 第35回日本小児脳神経外科学会, 2007. 5.
 - 15) 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 小児AVMに対する血管内塞栓術の検討. 第35回日本小児神経外科学会, 2007. 5.
 - 16) 三品雅洋, 石渡喜一¹⁾, 石井賢二¹⁾, 北村 伸²⁾, 木村裕一¹⁾, 長縄美香¹⁾, 織田圭一¹⁾, 橋本昌也¹⁾, 鈴木正彦¹⁾, 小林士郎, 片山泰朗³⁾ (¹⁾ 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科, ³⁾ 日本医科大学第二内科) : 未治療パーキンソン病におけるアデノシンA_{2A}受容体とドパミントランスポータの左右差. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
 - 17) 森本大二郎, 金 景成, 太組一朗, 水成隆之, 小林士郎 : 痙攣にて発症した腫瘍性病変の1例. 第66回東葛脳神経外科カンファレンス, 2007. 6.
 - 18) 福地孝明, 三品雅洋, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学第二内科) : 当センターで経験したrt-PA投与症例13例の報告. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
 - 19) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科) : 脊髄疾患における脊髄造影及び脊髄造影後CTの必要性に関する検討. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
 - 20) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経

- 外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): Williams-Isu 法における吸収性スクリューの工夫について. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 21) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 木暮一成²⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 脊髄外科での超音波骨メス (SONOPET) による手術合併症の検討. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 22) 森本大二郎, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 頸椎部黄体韌帯骨化症の1例. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 23) 菅原 淳¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 茂木洋晃¹⁾, 金 景成 (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 超音波骨メスが有効であった椎間孔部の腰椎椎間孔狭窄症の一手術例. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 24) 木暮一成¹⁾, 戸田茂樹²⁾, 金 景成 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 頸椎前方固定術: minimum instrumentation としてのチタンケージ. 第22回日本脊髄外科学会, 2007. 6.
- 25) 勝野 亮, 小林士郎, 横田裕行¹⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 中心性塩類喪失症候群と外傷性脳血管攣縮を合併し脳梗塞を生じた2症例. 第21回日本神経救急学会, 2007. 6.
- 26) 小南修史: 塞栓術で治療したSTA-STV fistula の1例. 第4回日本脳神経血管内治療学会関東地方会, 2007. 6.
- 27) 小南修史: AVM に対する血管内治療. 第39回千葉神経外科研究会, 2007. 6.
- 28) 渡辺 玲: 硬膜動静脈瘻に対して血管内治療を行った1例. 第13回千駄木ニューロカンファレンス, 2007. 7.
- 29) 水成隆之: 前大脳動脈遠位部動脈瘤の1例. 第13回千駄木ニューロカンファレンス, 2007. 7.
- 30) 金 景成, 森本大二郎, 小南修史, 小林士郎: 頸部回旋時に失神発作を起こしそうになる症例の検討: 千葉北総病院の場合. 第67回東葛脳神経外科カンファレンス, 2007. 9.
- 31) 金 景成, 森本大二郎, 小林士郎, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 頸椎症による上肢麻痺に対して, Williams-Isu 法に経椎体法を併用したcombined approach にて治療を行った1症例. 第2回愛知脊椎脊髄手術手技フォーラム, 2007. 9.
- 32) 瀧健太, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): 内頸動脈解離性動脈瘤に対しRA グラフトバイパス術が有効であった1例. 第13回日本脳神経外科学会関東地方会, 2007. 9.
- 33) 太組一朗, 渡辺 玲, 瀧健太, 森本大二郎, 勝野 亮, 金 景成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 小脳出血性梗塞を疑った1例. 第56回千葉北総神経放射線研究会, 2007. 9.
- 34) 渡辺 玲, 太組一朗, 瀧健太, 森本大二郎, 勝野 亮, 金 景成, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 脳ドッグで発見された右頭頂部病変. 第56回千葉北総神経放射線研究会, 2007. 9.
- 35) 金 景成, 森本大二郎, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): 腰椎変性側ワンのレビュー. 第2回房総脊髄手術手技研究会, 2007. 9.
- 36) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): 破裂前交通動脈瘤に対する手術アプローチの選択とその予後. 第66回日本脳神経外科外科学会総会, 2007. 10.
- 37) 小南修史, 渡辺 玲, 鈴木雅規¹⁾, 布施 明²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学高度救命救急センター): 脳動静脈奇形に対する血管内治療の長期成績. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 38) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾, 小林士郎, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学形成外科, ³⁾ 日本医科大学脳神経外科): 開放性損傷後の巨大骨欠損に対する小児頭蓋骨形成: Catcher's mask Cranioplasty. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 39) 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学脳神経外科): NBCA を用いた塞栓術のみで消失した脳動静脈奇形の検討. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 40) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 釧路労災病院脳神経

- 外科,²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 頰椎症に対する選択的頰椎後方除圧術について. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 41) 勝野 亮, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 椎骨脳底動脈解離性動脈瘤の画像所見. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 42) 森本大二郎, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科,²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 頰椎部黄体韌帯骨化症の一治療経験. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 43) 額頰健太, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 椎骨動脈解離に対するEC-RA-V3グラフト後に両耳聾を発症した1例. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 44) 鈴木雅規¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 小南修史, 寺本 明²⁾ (1) 流山中央病院脳神経外科,²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 3D rotation angiographyの診断における有用性とピットフォール. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 45) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): Radial artery graftを用いて治療した治療困難な未破裂内頰動脈瘤の長期成績. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 46) 菅原 淳¹⁾, 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 磯部正則¹⁾, 松本亮司¹⁾, 遠藤将吾¹⁾, 小川 彰²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科,²⁾ 岩手医科大学医学部脳神経外科): 腰椎変性すべり症に対する後方除圧術単独の治療成績. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 47) 三品雅洋, 石渡喜一¹⁾, 石井賢二¹⁾, 小林士郎, 片山泰朗²⁾ (1) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ,²⁾ 日本医科大学第二内科): [11C]TMSX PET・[11C]CFT PET・[11C]RAC PETを用いた未治療パーキンソン病の検討. 第19回日本脳循環代謝学会総会, 2007. 10.
- 48) 三品雅洋, 石渡喜一¹⁾, 石井賢二¹⁾, 小林士郎, 片山泰朗²⁾ (1) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ,²⁾ 日本医科大学第二内科): 日本医科大学千葉北総病院脳神経センターでのrt-PA投与症22例の検討. 第19回日本脳循環代謝学会総会, 2007. 10.
- 49) 太組一朗, 三品雅洋, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 脳出血後の虚血性病変との鑑別がMRI上困難であった側頭葉てんかん. 第41回日本てんかん学会総会, 2007. 11.
- 50) 三品雅洋, 石渡喜一¹⁾, 石井賢二¹⁾, 小林士郎, 片山泰朗²⁾ (1) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ,²⁾ 日本医科大学第二内科): [11C]TMSX PETを用いた被殻アデノシンA2A受容体分布の加齢変化の検討. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 11.
- 51) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 岡 敏行¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾, 百東比古³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科,²⁾ 日本医科大学脳神経外科,³⁾ 日本医科大学形成外科): Vascularized flexible reversible galea-calvarial bone (VFRGCB) flapを用いた頭蓋再建. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 2007. 11.
- 52) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 森本大二郎, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科,²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 脊髄外科手術における超音波骨メス (SONOPET) の有用性及びその合併症について. 第42回日本脊髄障害医学会, 2007. 11.
- 53) 森本大二郎, 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科,²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 胸髄くも膜下血腫の1例. 第42回日本脊髄障害医学会, 2007. 11.
- 54) 三品雅洋, 太組一朗, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学第二内科): 椎骨動脈解離性動脈瘤による脳梗塞における発症前の血管解離痛. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 55) 小南修史, 渡辺 玲, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 静脈内にNBCAが流入したにもかかわらず出血をきたさず, 完全消失が得られたAVMの1例. 第23回日本脳神経血管内治療学会総会, 2007. 11.
- 56) 小南修史, 渡辺 玲, 布施 明¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター,²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた血管内治療: 不成功例からの適応の再検討. 第23回日本脳神経血管内治療学会総会, 2007. 11.

- 57) 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 布施 明¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 日本医科大学脳神経外科): AVMに対するNBCA塞栓術の適応と治療成績の検討. 第23回日本脳神経血管内治療学会総会, 2007. 11.
- 58) 阿部雅志¹⁾, 加藤文司¹⁾, 理崎貴博¹⁾, 三輪宗史¹⁾, 渡邊英樹¹⁾, 渡辺典男¹⁾, 川村義彦¹⁾, 岡田 進²⁾, 渡辺 玲, 小南修史 (1) 日本医科大学千葉北総病院中央画像検査室, 2) 日本医科大学千葉北総病院放射線科): MRDSAを用いた脳動脈瘤塞栓術後の経過観察法の検討. 第23回日本脳神経血管内治療学会総会, 2007. 11.
- 59) 金 景成: みえそうでみえない, みえなさそうでみえる. 第19回脊髄疾患VTR技術研究会, 2007. 11.
- 60) 三品雅洋, 熊谷智昭, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 武井健吉¹⁾, 松本 尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 片山泰朗²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, 2) 日本医科大学第二内科): 急性期脳卒中診療におけるドクターヘリ搬送. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
- 61) 太組一朗: Nonconvulsive status epilepticusの1例. 第57回千葉北総神経放射線研究会, 2007. 12.
- 62) 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 小脳AVMに伴った破裂PICA動脈瘤の2例NBCAによる血管内塞栓術. 第104回日本脳神経外科学会関東支部会, 2007. 12.
- 63) 勝野 亮, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): Neck近傍からの破裂を呈したACA distal aneurysmの2例. 第13回日本脳神経外科救急学会, 2008. 1.
- 64) 太組一朗, 小南修史, 渡辺 玲, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): NBCA (N-butyl cyanoacrylate) による塞栓療法をうけたてんかん発症の脳動静脈奇形 (AVM) の臨床像. 第31回日本てんかん外科学会, 2008. 1.
- 65) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾ (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): Sandwich法を併用したWilliams-Isu法の放射線学的検討. 2008釧路脳神経疾患研究会, 2008. 1.
- 66) 水成隆之: RAグラフトを用いて治療した内径動脈大型動脈瘤の1例. The 4th Neurosurgical Video Conference, 2008. 2.
- 67) 戸田茂樹¹⁾, 佐藤 俊¹⁾, 高島伸之介¹⁾, 木暮一成¹⁾, 金 景成, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 髄内腫瘍と髄内血腫との鑑別について<MRIでの評価を中心に>. 第31回日本脳神経CI学会総会, 2008. 2.
- 68) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾, 寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学形成外科, 3) 日本医科大学脳神経外科): リン酸4カルシウムペーストを用いた頭蓋形成: 成人巨大骨欠損症例への応用. 第1回日本整容脳神経外科研究会, 2008. 2.
- 69) 鈴木紀成¹⁾, 酒井直之¹⁾, 岩本直高¹⁾, 佐藤 俊¹⁾, 吉田大蔵¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 太組一朗, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 頭蓋骨浸潤髄膜腫におけるオーダーメイド人工骨を事前に製作しての一期的手術. 第1回日本整容脳神経外科研究会, 2008. 2.
- 70) 井守洋一, 水成隆之, 小林士郎: 右眼窩内腫瘍の1例. 第58回千葉北総神経放射線研究会, 2008. 2.
- 71) 森本大二郎: 胸膜くも膜下血腫の1例. 釧路脳神経外科医会学術講演会, 2008. 3.
- 72) 小南修史, 渡辺 玲: 前脊髄動脈から栄養される脊髄AVMの塞栓術. 第25回西関東Neuro IVR セミナー, 2008. 3.
- 73) 井守洋一, 瀧瀬健太, 小南修史, 渡辺 玲, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 再発慢性硬膜下血腫に対する塞栓術が有効であった1例. 第21回日本老年脳神経外科学会, 2008. 3.
- 74) 三品雅洋, 太組一朗, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学第二内科): 気温と病型別脳梗塞発症の関係. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 75) 福地孝明¹⁾, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾ (1) 日本医科大学第二内科): 日本医大千葉北総病院脳神経センターで経験したrt-PA投与22症例. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 76) 水成隆之, 小林士郎, 瀧瀬健太, 鈴木紀成¹⁾, 村井保夫¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 寺尾 健¹⁾, 立山幸次郎¹⁾, 勝野 亮¹⁾,

- 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：未破裂動脈瘤クリッピング術中の動脈瘤破裂，または血管損傷に対する対処方法．第37回日本脳卒中の外科学会，2008．3．
- 77) 小南修史，渡辺 玲，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：NBCAで塞栓術を行った脳動静脈奇形の治療成績．第37回日本脳卒中の外科学会，2008．3．
- 78) 勝野 亮，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：非特異的なCT所見を呈した遠位部前大脳動脈瘤破裂の治療2症例からの検討．第37回日本脳卒中の外科学会，2008．3．
- 79) 村井保夫¹⁾，水成隆之，足立好司¹⁾，吉田陽一¹⁾，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：OA-PCA吻合術とcoiling後に広範な脳梗塞を来たした後大脳動脈瘤の1例．第37回日本脳卒中の外科学会，2008．3．
- 80) 村井保夫¹⁾，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科)：Radial artery graftを用いて治療した内頸動脈病変の長期成績．第37回日本脳卒中の外科学会，2008．3．
- 81) 玉置智規¹⁾，野手洋治¹⁾，斉藤寛浩²⁾，酒井直之³⁾，梅岡克哉³⁾，立山幸次郎³⁾，水成隆之，鈴木紀成³⁾，寺本明³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，²⁾ 埼玉医科大学脳神経外科，³⁾ 日本医科大学脳神経外科)：CEAにおけるヘマシールドパッチグラフトの使用経験．第37回日本脳卒中の外科学会，2008．3．

12. 整形外科科学講座

[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・
千葉北総病院整形外科]

研究概要

整形外科科学教室の平成19年度の研究は、臨床的研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨、軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別にみると、脊椎では頸、腰椎部疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療および手術法、の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。骨軟部腫瘍に対する診断、治療法における新知見を報告している。基礎的研究では、留学先との共同研究である手の指関節を支持する靭帯の3次元的な構造と機能の解明に対する研究成果を学会、誌上で報告した。またヒト骨髄ES細胞を2次培養後の細胞増殖に関する研究成果を報告した。

学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表頻度が増加して発表の場の広がりをみせ、シンポジウム、招待、研修、一般講演などが積極的に行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kim Y, Aoki T, Ito H : Evaluation of parameters of serially monitored F-wave in acute cervical spinal cord injury. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (2) : 106-113.
- 2) Nanno M, Buford WL¹⁾, Patterson RM¹⁾, Andersen C¹⁾, Viegas SF¹⁾ (¹⁾ The University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation) : Three-dimensional Analysis of the Ligamentous Attachments of the Second through Fifth Carpometacarpal Joints . Clinical Anatomy 2007 ; 20 : 530-544.
- 3) Fukui M¹⁾, Chiba K²⁾, Kawakami M³⁾, Kikuchi S⁴⁾, Konno S⁴⁾, Miyamoto M, Seichi A⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Shirado O⁷⁾, Taguchi T⁸⁾, Takahashi K⁹⁾, Takeshita K⁵⁾, Tani T¹⁰⁾, Toyama Y²⁾, et al. (¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, Iruma-gun, Japan, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, ⁹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, ¹⁰⁾ and others) : An outcome measure for patients with cervical myelopathy : Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) : Part 1. J Orthop Sci 2007 ; 12 (3) : 227-240.
- 4) Fukui M¹⁾, Chiba K²⁾, Kawakami M³⁾, Kikuchi S⁴⁾, Konno S⁴⁾, Miyamoto M, Seichi A⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Shirado O⁷⁾, Taguchi T⁸⁾, Takahashi K⁹⁾, Takeshita K⁵⁾, Tani T¹⁰⁾, Toyama Y²⁾, et al. (¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University,

Wakayama, Japan, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, Iruma-gun, Japan, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, ⁹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, ¹⁰⁾ and others) : Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) : Part 2. Endorsement of the alternative item. *J Orthop Sci* 2007 ; 12 (3) : 241-248.

5) Fukui M¹⁾, Chiba K²⁾, Kawakami M³⁾, Kikuchi S⁴⁾, Konno S⁴⁾, Miyamoto M, Seichi A⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Shirado O⁷⁾, Taguchi T⁸⁾, Takahashi K⁹⁾, Takeshita K⁵⁾, Tani T¹⁰⁾, Toyama Y²⁾, et al. ¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, Iruma-gun, Japan, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, ⁹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, ¹⁰⁾ and others) : Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire : Part 3. Determination of reliability. *J Orthop Sci* 2007 ; 12 (4) : 321-326.

6) Fukui M¹⁾, Chiba K²⁾, Kawakami M³⁾, Kikuchi S⁴⁾, Konno S⁴⁾, Miyamoto M, Seichi A⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Shirado O⁷⁾, Taguchi T⁸⁾, Takahashi K⁹⁾, Takeshita K⁵⁾, Tani T¹⁰⁾, Toyama Y²⁾, et al. ¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, Iruma-gun, Japan, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, ⁹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, ¹⁰⁾ and others) : JOA Back Pain Evaluation Questionnaire : initial report. *J Orthop Sci* 2007 ; 12 (5) : 443-450.

7) Fukui M¹⁾, Chiba K²⁾, Kawakami M³⁾, Kikuchi S⁴⁾, Konno S⁴⁾, Miyamoto M, Seichi A⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Shirado O⁷⁾, Taguchi T⁸⁾, Takahashi K⁹⁾, Takeshita K⁵⁾, Tani T¹⁰⁾, Toyama Y²⁾, et al. ¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, ⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, ⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, ⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, Iruma-gun, Japan, ⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, ⁹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, ¹⁰⁾ and others) : Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire. Part 2. Verification of its reliability. *J Orthop Sci*

2007 ; 12 (6) : 526-532.

- 8) Uchiyama S¹⁾, Imaeda T²⁾, Toh S³⁾, Kusunose K⁴⁾, Sawaizumi T, Wada T⁵⁾, Okinaga S⁶⁾, Nishida J⁷⁾
(¹⁾ Department of Orthopaedic Surgery Shinshu University School of Medicine, (²⁾ Department of Human life and Environmen Kinjo Gakuin University, (³⁾ Department of Orthopaedic Surgery Hirosaki University Graduate School of Medicin, (⁴⁾ Department of Neurosurgery The Tokyo Rosai Hospital, (⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery School of Medicine Sapporo Medical University, (⁶⁾ Department of Neurosurgery Tokyo Teishin Hospital, (⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery Iwate Medical University, School of Medicine) : Comparison of responsiveness of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the carpal tunnel syndrome instrument to surgical treatment with DASH, SF-36, and physical findings. J Orthop Sci 2007 ; 12 : 249-253.
- 9) Hayashi O, Katube Y¹⁾, Hirose M¹⁾, Ohgushi H¹⁾, Ito H (¹⁾ Resarch Institute for Cell Engineering, National Institute of Advanced Industrial Science and Techno) : Comparison of osteogenic ability of rat mesenchymal stem cells from bone marrow, periosteum, and adipose tissue. Calcified Tissue International 2008 ; 82 (3) : 238-247.
- 10) Fukui M¹⁾, Chiba K²⁾, Kawakami M³⁾, Kikuchi S⁴⁾, Konno S⁴⁾, Miyamoto M, Seichi A⁵⁾, Shimamura T⁶⁾, Shirado O⁷⁾, Taguchi T⁸⁾, Takahashi K⁹⁾, Takeshita K⁵⁾, Tani T¹⁰⁾, Toyama Y²⁾, et al. (¹⁾ Laboratory of Statistics, Osaka City University Faculty of Medicine, Osaka, Japan, (²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Keio University, Tokyo, Japan, (³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan, (⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan, (⁵⁾ Department of Orthopaedic Surgery, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, (⁶⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Iwate Medical University School of Medicine, Morioka, Japan, (⁷⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Saitama Medical School, Iruma-gun, Japan, (⁸⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Yamaguchi University School of Medicine, Yamaguchi, Japan, (⁹⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba, Japan, (¹⁰⁾ and others) : Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ) : part 4. Establishment of equations for severity scores. J Orthop Sci 2008 ; 13 (1) : 25-31.
- 11) 橋口 宏, 伊藤博元 : 肩腱板不全断裂に対する鏡視下手術の治療成績. 肩関節 2007 ; 31 (2) : 413-416.
- 12) 河路秀巳 : X線診断Q&A. 臨床雑誌「整形外科」 2007 ; 58 (10) : 1369-1370.
- 13) 林 央介, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 橈骨遠位端骨折の治療成績評価法に関する検討. 骨折 2007 ; 29 (3) : 432-435.
- 14) 河路秀巳, 玉井健介, 小林俊之, 小寺訓江, 伊藤博元 : 大腿骨頸基部骨折に対する髓内釘型内固定材 (IMHS) による治療成績. Hip Joint 2007 ; 33 : 542-545.
- 15) 林 央介, 澤泉卓哉, 今枝敏彦¹⁾, 藤 哲¹⁾, 伊藤博元 (¹⁾ 日本手の外科学会評議委員) : 橈骨遠位端骨折の治療成績評価法に関する検討. 日本手の外科学会雑誌 2007 ; 24 (3) : 228-231.
- 16) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 林 央介, 伊藤博元 : 舟状骨偽関節に対する血管柄付き骨移植術の内固定材の検討 : K-wireかscrewか. 日本手の外科学会雑誌 2007 ; 24 (2) : 70-73.
- 17) 橋口 宏, 伊藤博元, 南 和文, 大場俊二¹⁾ (¹⁾ 大場整形外科) : 肩関節上方関節唇損傷に対する保存的治療の成績に影響する因子の検討. 日本整形外科スポーツ医学会雑誌 2007 ; 27 (2) : 247-252.
- 18) 青木孝文 : 脛骨天蓋骨折 (特に高齢者) に対する Double plate を用いた整復固定法. 関節外科 2007 ; 26 (11) : 1284-1289.
- 19) 青木孝文, 今野俊介, 宮本雅史, 伊藤博元 : 腰痛に対する簡便な運動療法の試み. 日本腰痛学会雑誌 2007 ; 13 (1) : 84-87.

- 20) 橋口 宏, 伊藤博元, 江川慶長, 村重良一: 肩鎖関節脱臼に対する人工靭帯を用いた鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術. 関節鏡 2008; 33 (1): 17-22.
- 21) 大津賀康章¹⁾, 太田充美¹⁾, 青山晋作¹⁾, 橋口 宏 (¹⁾ 千葉北総病院中央手術室): 鏡視下肩関節形成術における術中灌流液回収方法の検討: 側臥位用肩関節鏡ドレープの試作. 日本手術医学会誌 2008; 29 (1): 78-80.
- (2) 総説:
- 1) 橋口 宏, 伊藤博元, 大場俊二¹⁾ (¹⁾ 大場整形外科): リトルリーグショルダーに対するメディカルチェック. 骨・関節・靭帯 2007; 20 (4): 309-314.
 - 2) 伊藤博元, 高山景範: 3-part骨折におけるセラム髓内釘. 整形災害外科 2007; 50 (4): 319-324.
 - 3) 宮本雅史, 福井 充¹⁾, 紺野慎一²⁾, 白土 修³⁾, 高橋和久⁴⁾, 廣田良夫⁵⁾, 菊地臣一²⁾ (¹⁾ 大阪市立大学医学部推計学研究室, ²⁾ 福島県立医科大学整形外科, ³⁾ 埼玉医科大学整形外科, ⁴⁾ 千葉大学整形外科, ⁵⁾ 大阪市立大学公衆衛生学): 日本整形外科学会腰痛疾患治療評価問診票における重症度スコアの設定について. Pharma Medica 2007; 25 (7): 31-36.
 - 4) 伊藤博元: 肩関節周囲炎. 臨床スポーツ医学 2007; 24 (12): 1315-1320.
 - 5) 橋口 宏, 伊藤博元: 肩関節のスポーツ障害, 疼痛性疾患の診療ポイント. 整形外科 2008; 59 (2): 187-193.
 - 6) 宮本雅史: 腰痛の診療ガイドライン・レビュー. 日本医師会雑誌 2008; 136 (11): 2230-2232.
 - 7) 宮本雅史, 伊藤博元: 診療ガイドライン. 総合リハビリテーション 2008; 36 (3): 229-231.
 - 8) 宮本雅史: 腰痛症の診断と治療. 医薬ジャーナル 2008; 44 (3): 12-16.
- (3) 症例報告:
- 1) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H: Three cases of pediatric monteggia fracture-dislocation associated with acute plastic bowing of the ulna . The American Journal of Orthopedics 2007; 36 (5): E80-E82.
 - 2) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H: Dorsal fracture dislocations of the second and third carpometacarpal joints. Journal of Hand Surgery European Volume 2007; 32B: 597-598.
 - 3) Nanno M, Sawaizumi T, Ito H: Transverse Divergent Dislocation of the Elbow with Ipsilateral Distal Radius Fracture in a Child. Journal of Orthopaedic Trauma 2007; 21 (2): 145-149.
 - 4) Miyamoto M, Tsunoda R, Gembun Y, Konno S, Makino A, Ito H: Calcification in a thoracic neurilemmoma: A case report. J Lumbar Spine Disord 2007; 13 (1): 204-207.
 - 5) 松井秀平, 澤泉卓哉, 堀口 元, 牧野 晃, 伊藤博元: パンチ動作による小指MP関節包断裂の1例. 関東整形災害外科学会雑誌 2007; 38 (4): 111-114.
 - 6) 松井秀平, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 林 央介, 牧野 晃, 伊藤博元: Tumoral calcinosisによる手根管症候群の3例. 関東整形災害外科学会雑誌 2007; 38 (5): 197-202.
 - 7) 花岡央泰, 成田哲也, 赤石文洋, 萬歳祐子, 丸山晴久, 須藤賢太郎, 伊藤博元: 早期スポーツ復帰を目的として遠位脛腓関節固定にtension Band Wiringを用いた足関節脱臼骨折の一治療経験. 日本整形外科スポーツ医学会誌 2008; 27 (3): 284-287.

著 書

- 1) 宮本雅史: [分担] 物理療法の実施法および適応と禁忌. 運動器リハビリテーションシラバス, 2007; pp69-79, 南光堂.
- 2) 南野光彦, 伊藤博元: [分担] 鎖骨骨折の治療. 鎖骨近位端骨折の治療. Monthly Book Orthopaedics 20 (4), 2007; pp57-63, 全日本病院出版会.
- 3) 伊藤博元: [分担] 上肢のリハビリテーション. 運動器リハビリテーションシラバス, 2007; pp93-105, 南光堂.

- 4) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: [分担] 母指CM関節の解剖とkinematics. 特集 母指CM関節障害の診断と治療. 関節外科 26 (10), 2007; pp21-28, メディカルビュー.
- 5) 宮本雅史, 伊藤博元: [分担] 上位頸椎. 最新整形外科学大系第11巻 (越智隆弘, 戸山芳昭編), 2007; pp2-7, 中山書店.
- 6) 宮本雅史, 伊藤博元: [分担] 中下位頸椎. 最新整形外科学大系第11巻 (越智隆弘, 戸山芳昭編), 2007; pp8-13, 中山書店.
- 7) 宮本雅史, 伊藤博元: [分担] 上中位胸椎. 最新整形外科学大系第11巻 (越智隆弘, 戸山芳昭編), 2007; pp14-19, 中山書店.
- 8) 沢泉卓哉, 伊藤博元: [分担] 手舟状骨骨折・骨壊死のMRI . 図解よくわかる整形外科診断実践マニュアル, 2007; pp156-163, 全日本病院出版会.
- 9) 河路秀巳: [分担] 大腿骨頭すべり症. 今日の治療指針2008, 2008; pp800-800, 医学書院.
- 10) 宮本雅史: [分担] いわゆる腰痛症. 今日の治療指針, 2008; pp774-774, 医学書院.
- 11) 伊藤博元: [分担] 肩関節のリハビリテーション. 運動器リハビリテーション実践マニュアル, 2008; pp221-226, 全日本病院出版会.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演:

- 1) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 中嶋祐作, 小寺訓江, 伊藤博元: 腰部脊柱管狭窄症患者における下肢刺激性感覚誘発電位の検討. 第47回関東整形災害外科学会, 2007. 3.
- 2) 青木孝文, 中嶋祐作, 堀口 元, 松井秀平, 伊藤博元: 踵骨骨折後の遺残疼痛に対する外側減圧術. 第47回関東整形災害外科学会, 2007. 3.

(1) 教育講演:

- 1) 伊藤博元: 疾患別リハビリテーション: 下肢, 運動器不安定症. 運動器リハビリテーションセラピスト研修会, 2007. 4.
- 2) 伊藤博元: 肩関節・疼痛性疾患の診断からリハビリテーション. 第3回横浜B&Jセミナー, 2007. 7.
- 3) 森 淳: 運動のためのメディカルチェック; 整形外科系. 第34回日本整形外科学会スポーツ医学研修会, 2007. 8.
- 4) 伊藤博元: 運動器不安定症と肩疾患のリハビリテーションについて. 熊本県臨床整形外科医会教育研修講演, 2007. 9.
- 5) 伊藤博元: 疾患別リハビリテーション: 下肢, 運動器不安定症. 運動器リハビリテーションセラピスト研修会, 2007. 10.
- 6) 澤泉卓哉: 舟状骨骨折: 最近の治療戦略. 武蔵野市, 三鷹市, 調布市, 府中市, 四市の会, 2007. 10.
- 7) 澤泉卓哉: 手関節周辺骨折: 舟状骨骨折に対する最近の治療戦略を中心に. 第22回福岡大学Hand Conference, 2007. 10.
- 8) 澤泉卓哉: 見逃されやすい手根骨骨折の診断・治療スポーツ外傷を中心に. 第14回荒川整形外科フォーラム 21, 2007. 11.
- 9) 伊藤博元: 外傷後, 術後のリハビリテーション. 第2回日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医研修会, 2007. 12.
- 10) 伊藤博元: 肩の疼痛性疾患・スポーツ障害における診療のポイント. 第3回広島肩関節研究会, 2008. 1.

(2) シンポジウム：

- 1) Sawaizumi T, Nanno M, Horiguchi G, Hayashi O, Ito H : Use of the second dorsal metacarpal artery as a vascularized pedicle bone graft for scaphoid nonunion . International symposium on surgery of the hand (Yamagata), 2007. 4.
- 2) Miyamoto M : Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) : Validity study and establishment the measurement scale. the 16th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (Hakodate), 2007. 6.
- 3) Aoki T : A Trial of Simple Elastic Bandage Therapy for Hallux Valgus. The 16th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (Hakodate), 2007. 6.
- 4) Sawaizumi T, Makino M¹⁾ (¹⁾ Saiseikai Niigata Hospital) : Vascularised second metacarpal base sone graft for scaphoid nonunion and aseptic necrosis of carpal bones . 62nd Annual Meeting of the American Society for Surgery of the Hand (Seattle), 2007. 9.
- 5) 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 骨延長による指尖部欠損の再建 : 治療成績と問題点. 第50回日本形成外科学会学術集会, 2007. 4.
- 6) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 林 央介, 伊藤博元 : 舟状骨偽関節に対する血管柄付き骨移植術の内固定材の検討 : K-wireかscrewか. 第50回日本手の外科学会学術集会, 2007. 4.
- 7) 伊藤博元, 星野雄一¹⁾, 岩谷 力²⁾ (¹⁾ 自治医科大学整形外科学, ²⁾ 国立身体障害者リハビリテーションセンター) : 健康寿命への日本運動器リハビリテーション学会の取り組み. 第80回日本整形外科学術総会, 2007. 5.
- 8) 岩谷 力¹⁾, 星野雄一²⁾, 伊藤博元, 藤野圭司³⁾, 角南義文⁴⁾ (¹⁾ 国立身体障害者リハビリテーションセンター, ²⁾ 自治医科大学整形外科学, ³⁾ 藤野整形外科医院, ⁴⁾ 竜操整形外科病院) : 健康寿命延伸に果たす運動器リハビリテーションの役割. 第80回日本整形外科学術総会, 2007. 5.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 橋口 宏, 伊藤博元, 飯沢典茂 : Neer分類1part上腕骨近位端骨折における成績不良因子. 第34回日本肩関節学会, 2007. 10.
- 2) 澤泉卓哉, 南野光彦, 萩原祐介, 松井秀平, 伊藤博元 : 橈骨遠位端関節内骨折に対するオリーブワイヤーを併用したnon-bridging創外固定術 . 第20回日本創外固定・骨延長学会 , 2008. 2.

(4) 一般講演：

- 1) Ota N, Ito H : Comparison of Risedronate, Raloxifene, Calcitonin and Active Vitamin D Treatments in Postmenopausal Osteoporosis with Low Back Pain. the 34th European Symposium on Calcified Tissues. Copenhagen (Denmark), 2007. 5.
- 2) Hashiguchi H, Ito H, Egawa Y, Murashige R : Correlation between clinical outcomes and radiographic findings of hemiarthroplasty for comminuted fracture of the proximal humerus. 5th SICOT/SIROT Annual International Conference (Marrakech, Morocco), 2007. 8.
- 3) Hashiguchi H, Ito H, Egawa Y, Murashige R : Analysis of radiographic findings on patients with subacromial impingement syndrome. 10th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (Bahia, Brazil), 2007. 9.
- 4) Hashiguchi H, Ito H, Egawa Y, Murashige R : Outcomes of arthroscopic treatments for partial-thickness rotator cuff tears. 10th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery (Bahia, Brazil), 2007. 9.
- 5) Sawaizumi T, Nanno M, Ito H : Closing Radial Wedge Osteotomy for Preiser' s Disease . The 7th Asian-Pacific federation of society for surgery of the hand (Hong Kong), 2008. 2.
- 6) Liu X, Konno S, Miyamoto M, Gembun Y, Horiguchi G, Ito H : The research of the lumbar somatosensory evoked potentials in the lumbar spinal canal stenosis patients. The 56th Annual meeting of the Eastern

Japan Association of Orthopaedics and Traumatology, 2007. 9.

- 7) Hayashi O, Katube Y¹⁾, Hirose M¹⁾, Ito H, Ohgushi H¹⁾ (1) Resarch Institute for Cell Engineering, National Institute of Advanced Industrial Science and Techno) : Comparison of osteogenic ability of rat mesenchymal stem cells from bone marrow and adipose tissue. 1st Asian Biomaterials Congress, 2007. 12.
- 8) 南野光彦, Viegas Steven F¹⁾, 澤泉卓哉, 伊藤博元 (1) The University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation) : 第2-5手根中手関節靭帯の3次元解析による解剖学的研究. 第50回日本手の外科学会, 2007. 4.
- 9) 林 央介, 澤泉卓哉, 今枝俊彦¹⁾, 藤 哲¹⁾, 伊藤博元 (1) 日本手の外科学会評議委員) : 橈骨遠位端骨折の治療成績評価法に関する検討. 第50回日本手の外科学会, 2007. 4.
- 10) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 中嶋祐作, 小寺訓江, 伊藤博元, 福井 充¹⁾ (1) 大阪市立大学医学部推計学研究室) : 日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ) を用いた治療成績評価の試み. 第36回日本脊椎椎病学会, 2007. 4.
- 11) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 中嶋祐作, 小寺訓江, 伊藤博元 : 圧迫性頸髄症における経頭蓋磁気刺激運動誘発電位の診断的意義についての検討. 第36回日本脊椎椎病学会, 2007. 4.
- 12) 松井秀平, 澤泉卓哉, 中嶋祐作, 堀口 元, 伊藤博元 : 前腕の欠損性偽関節に対する bone transport の治療経験. 第20回日本創外固定・骨延長学会, 2007. 4.
- 13) 青木孝文, 小寺訓江, 萩原祐介, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 骨性マレットに対する小切開ピンニング法の経験と治療上の問題点. 第50回日本手の外科学会, 2007. 4.
- 14) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 中嶋祐作, 小寺訓江, 伊藤博元 : 化膿性脊椎炎の臨床像. 第36回日本脊椎椎病学会, 2007. 4.
- 15) 橋口 宏, 伊藤博元, 中嶋隆夫, 丸山晴久, 江川慶長, 村重良一, 南 和文 : 肩腱板不全断裂に対する鏡視下手術の治療成績. 第80回日本整形外科学会学術総会, 2007. 5.
- 16) 宮本雅史, 福井 充¹⁾, 紺野慎一²⁾, 白土 修³⁾, 高橋和久⁴⁾, 廣田良夫⁵⁾ (1) 大阪市立大学医学部推計学研究室, 2) 福島県立医科大学整形外科, 3) 埼玉医科大学整形外科, 4) 千葉大学整形外科, 5) 大阪市立大学公衆衛生学) : 日本整形外科学会腰痛疾患治療評価問診票における重症度スコアの設定について. 第80回日本整形外科学会, 2007. 5.
- 17) 丸山晴久, 伊藤博元, 南 和文, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 江川慶長, 村重良一 : 膝関節に大量の遊離体の発生を認めた synovial osteochondromatosis の1例. 第32回日本膝関節学会学術集会, 2007. 6.
- 18) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 伊藤博元 : Pins and rubbers traction system によるPIP関節背側脱臼骨折の治療経験. 第33回日本骨折治療学会, 2007. 6.
- 19) 森 淳, 成田哲也, 飯澤典茂, 尾崎大也, 伊藤博元 : 中高齢女性に対する膝前十字靭帯再建術後の筋力回復について. 第32回日本膝関節学会, 2007. 6.
- 20) 橋口 宏, 伊藤博元, 南 和文, 大場俊二¹⁾ (1) 大場整形外科) : メディカルチェックから見たリトルリーグシヨルダールの治療と予防対策. 第33回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会, 2007. 6.
- 21) 橋口 宏, 伊藤博元, 江川慶長, 村重良一 : 肩鎖関節脱臼に対する人工靭帯を用いた鏡視下烏口鎖骨靭帯再建術. 第33回日本関節鏡学会, 2007. 6.
- 22) 吉澤隆明, 青木孝文, 森 淳, 飯澤典茂, 成田哲也, 伊藤博元 : 膝ACL損傷における膝関節周囲筋活動についての筋電図学的考察. 第32回日本膝関節学会学術集会, 2007. 6.
- 23) 青木孝文, 堀口 元, 松井秀平, 伊藤博元 : 外反母趾に対する前足部弾性包帯固定法の効果. 第32回日本足の外科学会, 2007. 6.
- 24) 河路秀巳, 玉井健介, 堀口 元, 松井秀平, 伊藤博元 : 保存的治療を行った全身状態不良の大腿骨近位部骨折症例における短期生命予後の検討. 第19回日本運動器リハビリテーション学会, 2007. 7.

- 25) 北川泰之, 藤井信人, 角田 隆, 丸山晴久, 伊藤博元: 術中迅速病理診断の有用性と限界 臨床医の立場から. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2007. 7.
- 26) 北川泰之, 藤井信人, 角田 隆, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 手の軟部腫瘍に伴う骨変化. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 2007. 7.
- 27) 青木孝文, 堀口 元, 松井秀平, 伊藤博元: アキレス腱断裂に対する皮下縫合法後の動的ギプス使用の試み. 第19回日本運動器リハビリテーション学会, 2007. 7.
- 28) 林 央介, 勝部好裕¹⁾, 廣瀬志弘¹⁾, 伊藤博元, 大串 始¹⁾ (¹⁾ 産業技術総合研究所): ラット骨髄, 骨膜, 脂肪組織由来幹細胞の骨分化能に関する比較研究. 第28回日本炎症・再生医学会, 2007. 8.
- 29) 丸山晴久, 伊藤博元, 南 和文, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 江川慶長, 村重良一, 大秋美治¹⁾, 西川英樹²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 病理部, ²⁾ 西川整形外科): 指先部に多巣性に生じたGiant cell tumor of tendon sheath (GCTTS) の1例. 第56回東日本整形災害外科学会, 2007. 9.
- 30) 大津賀康章¹⁾, 太田充美¹⁾, 青山晋作¹⁾, 橋口 宏 (¹⁾ 千葉北総病院中央手術室): 鏡視下肩関節形成術における術中還流液回収方法の検討: 側臥位用肩関節鏡ドレープの試作. 第29回日本手術医学会総会, 2007. 9.
- 31) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 堀口 元, 劉 新宇, 伊藤博元: 下肢刺激体性感覚誘発電位の腰部脊柱管狭窄症診断における意義についての検討. 第56回東日本整形災害外科学会, 2007. 9.
- 32) 田中陽子, 北川泰之, 藤井信人, 伊藤博元, 前田昭太郎¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部): 骨外性粘液型軟骨肉腫の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 33) 河路秀巳, 玉井健介, 小林俊之, 植松卓哉, 苗代和彦, 伊藤博元: 大腿骨近位部骨折の術後早期死亡例の検討. 第34回日本股関節学会, 2007. 10.
- 34) 泉川幸恵¹⁾, 小塚和豊¹⁾, 大熊康弘¹⁾, 玉川智子¹⁾, 正能千明¹⁾, 荻野拓也¹⁾, 吉田真一¹⁾, 橋口 宏 (¹⁾ 千葉北総病院リハビリテーション科): 腱板断裂術後の固有感覚訓練による運動正確性に関する検討. 第4回肩の運動機能研究会, 2007. 10.
- 35) 吉田真一¹⁾, 小塚和豊¹⁾, 大熊康弘¹⁾, 玉川智子¹⁾, 正能千明¹⁾, 荻野拓也¹⁾, 泉川幸恵¹⁾, 橋口 宏 (¹⁾ 千葉北総病院リハビリテーション科): 腱板修復術後におけるペットボトルを用いた腱板機能訓練の試み. 第4回肩の運動機能研究会, 2007. 10.
- 36) 宮本雅史: 物理療法. 運動療法. 運動器リハビリテーションセラピスト研修会, 2007. 10.
- 37) 吉澤隆明, 青木孝文, 森 淳, 飯澤典茂, 成田哲也, 伊藤博元: 膝前十字靭帯損傷患者における膝関節周囲筋活動の筋電図学的検討. 第22回日本整形外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 38) 青木孝文, 堀口 元, 松井秀平, 植松卓哉, 苗代和彦, 伊藤博元: アキレス腱断裂に対する小切開皮下縫合法と動的ギプス固定. 第56回東日本整形災害外科学会, 2007. 10.
- 39) 林 央介, 勝部好裕¹⁾, 廣瀬志弘¹⁾, 伊藤博元, 大串 始¹⁾ (¹⁾ 産業技術総合研究所): ラット骨髄と骨膜由来間葉系細胞の骨分化能に関する比較研究. 第29回日本バイオマテリアル学会大会, 2007. 11.
- 40) 森 淳, 成田哲也, 増島 篤¹⁾, 三木英之¹⁾, 内山英司¹⁾, 武田秀樹¹⁾ (¹⁾ 日本バスケットボール協会医科学研究委員会): バスケットボール世界選手権大会(2006/日本)における日本代表チームへのメディカルサポート. 第18回日本臨床スポーツ医学会, 2007. 11.
- 41) 玉川智子¹⁾, 橋口 宏, 小塚和豊¹⁾, 大熊康弘¹⁾, 南 和文, 大場俊二²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院リハビリテーション科, ²⁾ 大場整形外科): メディカルチェックからみたリトルリーグショルダーの身体的特徴. 第18回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2007. 11.
- 42) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 堀口 元, 劉 新宇, 福井 充¹⁾, 伊藤博元 (¹⁾ 大阪市立大学医学部推計学研究室): 腰痛性疾患の治療成績評価法としての日本整形外科学会腰痛評価質問票 (JOABPEQ) とJOA score の比較. 第15回日本腰痛学会, 2007. 11.
- 43) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 堀口 元, 劉 新宇, 伊藤博元: 腰部脊柱管狭窄症診断時の下肢

刺激体性感覚誘発電位LP電位潜時の意義. 第15回日本腰痛学会, 2007. 11.

- 44) 今野俊介, 青木孝文, 宮本雅史, 元文芳和, 堀口 元, 劉 新宇, 伊藤博元: 頸部脊髄症患者の脛骨神経刺激短潜時体性感覚誘発電位潜時の周術期変化の検討. 第37回日本臨床神経生理学会, 2007. 11.
- 45) 林 央介, 勝部好裕¹⁾, 廣瀬志弘¹⁾, 伊藤博元, 大串 始¹⁾ (¹⁾ 産業技術総合研究所): ラット骨髄と骨膜由来間葉系細胞のハイドロキシアパタイトセラミックを用いた骨分化能に関する比較研究. 第27回整形外科セラミック・インプラント研究会, 2007. 12.
- 46) 南野光彦, Viegas Steven F¹⁾, 澤泉卓哉, 伊藤博元 (¹⁾ The University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation): 横手根靭帯の3次元解析による解剖学的研究. 運動解析. 第22回東日本手の外科研究会, 2008. 1.
- 47) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 伊藤博元: 手指変形治療・偽関節に対する創外固定器を用いた矯正骨切り術. 第22回東日本手の外科研究会, 2008. 1.
- 48) 今野俊介, 青木孝文, 伊藤博元: F波波形比較のための手法の考案. 第29回脊髄機能診断研究会, 2008. 2.
- 49) 齋藤 善, 澤泉卓哉, 南野光彦, 伊藤博元: 成人母指ばね指に対する腱鞘内トリアムシノロン注射効果の超音波画像. 第22回東日本手の外科研究会, 2008. 2.
- 50) 田中陽子, 北川泰之, 藤井信人, 伊藤博元: 骨膜性軟骨腫の2例. 第48回関東整形災害外科学会, 2008. 2.
- 51) 澤泉卓哉, 南野光彦: 小児上腕骨顆上骨折に対する梃子を利用した経皮的ピンニング: 従来法と改良法の比較. 第20回日本肘関節学会, 2008. 2.
- 52) 林 央介, 勝部好裕¹⁾, 廣瀬志弘¹⁾, 伊藤博元, 大串 始¹⁾ (¹⁾ 産業技術総合研究所): ラット骨髄, 骨膜, 脂肪組織由来間葉系幹細胞の骨化能に関する比較研究. 第7回日本再生医療学会, 2008. 3.

(5) 症例報告:

- 1) 北川泰之, 藤井信人, 金 竜, 吉澤隆明, 田中陽子, 伊藤博元, 前田昭太郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院病理部): 穿刺吸引細胞診で推定診断した多形型横紋筋肉腫の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

(6) パネル:

- 1) 飯澤典茂, 橋口 宏, 伊藤博元: 上腕骨近位端骨折における遺残変形と臨床成績. 第34回日本肩関節学会, 2007. 10.

(7) ポスター:

- 1) 堀口 元, 青木孝文, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 手根管症候群の発症における手内在筋の関与について (第1報). 第50回 日本手の外科学会学術集会, 2007. 4.
- 2) 尾崎大也, 森 淳, 飯澤典茂, 成田哲也, 伊藤博元: 膝前十字靭帯再建術後 10年以上を経過した再鏡視の2例. 第32回日本膝関節学会, 2007. 6.
- 3) 堀口 元, 青木孝文, 今野俊介, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 手根管症候群の発症における手内在筋の関与について. 第37回日本臨床神経生理学会学術大会, 2007. 11.

(8) 追加パネルディスカッション:

- 1) 青木孝文, 今野俊介, 宮本雅史, 伊藤博元: 腰痛に対する簡便な運動療法の試み. 第14回日本腰痛学会, 2006. 11.

13. 産婦人科学講座

[付属病院女性診療科・産科]

研究概要

周産期医学, 婦人科腫瘍学, 生殖内分泌医学, 手術学の各部門でそれぞれ精力的に行われた。周産期医学領域では, 妊娠高血圧症候群妊婦の胎盤に特異的に発現するマイクロRNAの発現解析および局在の検討が行われた。婦人科腫瘍学では, 神奈川県立がんセンター, 南部地域病院との共同研究として子宮体癌477例を詳細に解析し, 病理組織学的因子および腫瘍マーカーのどの因子が予後に重要であるかを検討した。また, 卵巣腫瘍患者における血清中自己抗体に注目し, プロテオミクスの技術を用いて新規腫瘍マーカーの開発を目指し研究中である。生殖医学部門では, 不育症治療における種々の抗リン脂質抗体の意義, 治療法の検討が行われた。また, 習慣性流産症例における血中グラニューライシン濃度に注目し, 新知見を得た。さらに, プロテオミクス技術を用いて子宮内膜症患者に特有な蛋白発現パターンの研究が進行中である。手術学部門では, 子宮脱, 膀胱瘤, 直腸瘤に対してメッシュを用いた新しい手術方法を取り入れ, 積極的に臨床研究を行っている。また, 子宮頸癌に対する広汎性子宮全摘術における神経温存術式の確立を進めている。以上各分野において積極的, 独創的な研究がなされている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 黒瀬圭輔, 阿部 崇, 西 弥生, 石川温子, 石川 源, 渡辺美千明, 明樂重夫, 竹下俊行: 良性卵巣囊腫の診断にて腹腔鏡下手術を行い悪性腫瘍と判明した症例の検討。日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 2007; 23 (1): 176-180.
- 2) Mine K, Katayama A¹⁾, Matsumura T¹⁾, Nishino T¹⁾, Kuwabara Y, Ishikawa G, Murata T, Sawa R, Otsubo Y²⁾, Shin S³⁾, Takeshita T (1) Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 2) Omiya Chuo Sogo Hospital, 3) Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital): Proteome Analysis of Human Placentae: Pre-eclampsia Versus Normal Pregnancy. PLACENTA 2007; 28: 676-687.
- 3) Hiraizumi Y, Nishimura I, Ishii H, Tanaka N, Takeshita T, Sakuma Y, Kato M: Rat GnRH Neurons Exhibit Large Conductance Voltage- and Ca²⁺-Activated K⁺ (BK) Currents and Express BK Channel mRNAs. The Journal of Physiological Sciences 2008; 58 (1): 21-29.
- 4) Ishikawa A, Kudo M¹⁾, Nakazawa N¹⁾, Onda M¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Takeshita T, Naito Z¹⁾ (1) Dept. of Oathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School): Expression of keratinocyte growth factor and its receptor in human endometrial cancer in cooperation with steroid hormones. International Journal of Oncology 2008; 32 (3): 565-574.
- 5) 大内 望, 品川寿弥, 村田知昭, 明樂重夫, 竹下俊行: 妊娠初期より長期に歩行障害を来した仙腸関節炎の症例。日医大医会誌 2007; 3 (3): 147-150.
- 6) 明樂重夫: 低侵襲, 機能温存を目的とした腹腔鏡下卵管妊娠保存手術。産婦人科手術 2007; 18 (1): 117-124.
- 7) 阿部裕子, 市川雅男, 小野修一, 三浦 敦, 里見操緒, 磯崎太一, 米山剛一, 竹下俊行: 呼吸困難を呈した巨大卵巣腫瘍の1例。日産婦東京会誌 2007; 56 (3): 280-284.
- 8) 明樂重夫: いま, 腹腔鏡手術室に求められているものは: よりスムーズな連携をめざして。日本手術医学会誌 2007; 28 (4): 300-301.

- 9) 岩崎奈央, 市川雅男, 米山剛一, 三浦 敦, 山田 隆, 里見操緒, 阿部裕子, 小野修一, 高屋 茜, 山下恵理子, 早川朋宏, 明樂重夫, 竹下俊行: 血栓症を発症した子宮腺筋症3症例の臨床的検討. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2007; 56 (4): 487-494.
 - 10) 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 阿曾亮子¹⁾, 瀧澤俊広²⁾, 明樂重夫³⁾, 国信浩洋⁴⁾, 寺本 明⁵⁾ (1) 日本医科大学教育推進室, (2) 日本医科大学解剖学第一講座, (3) 日本医科大学産婦人科学, (4) 日本医科大学ドイツ語, (5) 日本医科大学脳神経外科学): 医学部学生による授業評価の信頼性に関する検討. 医学教育 2007; 38 (6): 377-381.
 - 11) 明樂重夫, 峯 克也, 桑原慶充, 三浦 敦, 竹下俊行: 難治性子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減療法: 長期連用投与をめざして. エンドメトリオーシス研究会雑誌 2007; 28: 65-69.
 - 12) 里見操緒, 竹下俊行: 夫リンパ免疫療法後の続発性不妊に関する検討. Reprod Immunol Biol 2007; 21 (2): 62-62.
 - 13) 三宅秀彦, 山田 隆, 高橋 肇, 奥田直貴, 川端伊久乃, 石川 源, 関口敦子, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 磯崎太一, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 前置癒着胎盤に対する治療法としてのmodified cesarean hysterectomy. 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2007; 17 (1): 15-16.
 - 14) 鈴木由美, 渡邊 淳, 三宅秀彦, 島田 隆, 西 弥生, 峯 克也, 石川 源, 竹下俊行: 選択的流産のフォローアップ・羊水検査でPallister-Killian syndrome が認められた1例を通して. 日本遺伝カウンセリング学会誌 2007; 28 (1): 50-50.
 - 15) 峯 克也, 明樂重夫, 阿部 崇, 桑原慶充, 里見操緒, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行 (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 腹腔鏡にて摘出した膀胱子宮内膜症の1例. エンドメトリオーシス研究会誌 2007; 28: 28-85.
 - 16) 米山剛一, 菊池美美, 里見操緒, 大内 望, 根岸靖幸, 市川雅男, 三浦 敦, 土居大祐, 竹下俊行: 子宮体癌の合併がみられたポリープ状異型腺筋腫の1例. 日産婦東京会誌 2007; 56 (1): 76-79.
 - 17) 米山剛一, 高屋 茜, 岩崎奈央, 阿部裕子, 市川雅男, 三浦 敦, 山田 隆, 石川温子, 竹下俊行, 松田陽子¹⁾, 川本雅司¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (1) 付属病院病理部): 術前組織診断に苦慮した子宮頸部condylomatous carcinomaの1例. 日産婦東京会誌 2008; 57 (1): 42-46.
- (2) 総説:
- 1) 里見操緒, 竹下俊行: 女性診療マニュアルE. 症状・症候から診断・治療へ—II. 産科編—10. 母子感染. 産婦人科治療 2007; 94 (増刊号): 872-879.
 - 2) 稲川智子, 竹下俊行: 不育症における第XII因子活性と臨床背景の検討. 日本生殖医学会雑誌 2007; 52 (4): 243-243.
 - 3) 磯崎太一, 石川 源, 竹下俊行: 常位胎盤早期剥離に関する検討: 早期診断のために. 産婦人科の実際 2007; 9 (56): 1381-1390.
 - 4) 明樂重夫: 産婦人科診療Data Book, 子宮外妊娠. 産婦人科の実際 2007; 56 (11): 1804-1808.
 - 5) 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 不妊・不育の遺伝カウンセリング. 臨床婦人科産科 2007; 61 (12): 1478-1481.
 - 6) 可世木久幸, 富山僚子, 竹下俊行: 卵巣の加齢と活性酸素. 産科と婦人科 2007; 17 (12): 1597-1601.
 - 7) 竹下俊行: 産婦人科診療Data Book 39. 不育症. 産婦人科の実際 2007; 56 (11): 1793-1797.
 - 8) 竹下俊行: 各領域の最新診療ガイドライン 不育症のガイドライン. 産婦人科の世界 2007; 59 (4): 299-308.
 - 9) 石川 源: 周産期の症候・診断・治療ナビ「妊娠中の周術期管理」. 周産期医学 2007; 37 (増刊): 319-322.
 - 10) 里見操緒, 竹下俊行: 周産期の症候・診断・治療ナビ. 周産期医学 2007; 37 (増刊): 234-236.

著 書

- 1) 磯崎太一: [分担] 第10章 画像診断読影のコツ C. CT. MFICUマニュアル MFICU (周産期医療) (連絡協議会編著), 2008; pp501-509, メディカ出版.

学会発表

〔追加分〕

追加分教育講演：

- 1) 明樂重夫：骨盤臓器脱の新しい手術：メッシュ手術（TVM法）はオールマイティーである。平成19年度第3回医学講座プログラム 日本医師会生涯教育講座，2007. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 竹下俊行：不育症と母性。第25回東京母性衛生学会，2007. 5.
- 2) 明樂重夫：子宮内膜症の長期フォローをめぐって：悪性化のリスクとGnRHaの投与法の工夫を中心に。江戸川区産婦人科医会講演会，2007. 5.
- 3) 明樂重夫：子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減（Draw Back）療法：長期連続投与は可能か。第13回新潟GnRH研究会，2007. 5.
- 4) 明樂重夫：腹腔鏡下子宮外妊娠手術のガイドライン（案）をめぐって。第7回埼玉県産婦人科医会手術・感染症研究会，2007. 9.
- 5) 明樂重夫：難治性・再発性の子宮腺筋症をどう取り扱うか：子宮温存のための戦略。東部産婦人科医会講演会，2007. 10.

(2) 教育講演：

- 1) 竹下俊行：抗凝固療法と妊娠分娩管理。第59回日本産科婦人科学会，2007. 4.

(3) シンポジウム：

- 1) Akira S：Gasless laparoscopically assisted surgery using abdominal wall sealing device. The 6th Gasless International 2007 (Beijing China)，2007. 12.
- 2) 三浦 敦：細菌性陰症と不妊・不育。第25回日本産婦人科感染症研究会，2007. 6.
- 3) 石川 源：正常胎盤と妊娠高血圧症候群胎盤の microRNA プロファイリング解析。第22回日本生殖免疫学会，2007. 11.

(4) セミナー：

- 1) 明樂重夫：卵管妊娠。第20回日本内視鏡外科学会，2007. 12.

(5) 一般講演：

- 1) Takizawa T, Kurasawa G¹, Mon M¹, Ishikawa G, Ishibashi O¹, Mishima T¹, Ishikawa T¹, Luo-S S¹, Takizawa T¹, Goto T¹, Takeshita T (1) Dept. of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School)：Expression of FC Gamma Receptoes on Human Placental Hofbaure Cells. 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases, (Japan)，2007, 11.
- 2) 桑原慶充, 峯 克也, 阿部 崇, 富山僚子, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行：ケモカインレセプターCXCR4はゴナドトロピンサージで発現誘導され、パラクライン機構により初期黄体化顆粒膜細胞のアポトーシスを抑制する。第59回日本産科婦人科学会，2007. 4.
- 3) 山田 隆, 山本晃人, 奥田直貴, 川端伊久乃, 高橋 肇, 谷内良成, 大屋敦子, 横田明重, 中井章人：当院における子宮内膜症合併卵巣癌の臨床的特徴。第342回日本産科婦人科学会東京地方部会，2007. 5.
- 4) Kuwabara Y, Chen R¹, Mulders-M. S², Gelpke S², Hsueh-J. A¹ (1) Stanford University School of Medicine, 2) Target Discivery Unit)：Preovulatory LH stimulates ovarian CXCR4 expression to enhance follicle survival and luteinization. the 23rd Annual Meeting of the ESHRE (France)，2007. 7.
- 5) Yoneyama K, Doi D, Miura A, Ichikawa M, Yamada T, Kurose K, Takeshita T：Serum Vegf (Vascular Endothelial Growth Factor) Levels in Patients with Ovarian Cancer. The XXth Asian and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology (Tokyo)，2007. 9.

- 6) Akira S, Mine K, Kuwabara Y, Takeshita T : Study on Usefulness of Low Dose GnRH Agonist Therapy for Management of Recurrent Adenomyosis. The XXth Aisan and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology (Tokyo), 2007. 9.
- 7) 川端伊久乃, 中井章人, 大屋敦子, 横田明重, 竹下俊行 : 妊娠高血圧症候群における眼底所見と分娩転帰. 第28回日本妊娠高血圧学会, 2007. 10.
- 8) 稲川智子, 峯 克也, 富山僚子, 阿部 崇, 西 弥生, 桑原慶充, 明樂重夫, 竹下俊行 : 不育症における第XII因子活性と臨床背景の検討. 第52回日本生殖医学会, 2007. 10.
- 9) Takizawa T¹, Luo-S S¹, Mishima T, Ishikawa G, Kawahigashi Y¹, Kanda T¹, Mizuguchi Y¹, Takizawa T¹, Matsubara S², Takeshita T (¹ Dept. of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School, ² Dept. of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University) : Microrna Expression Profiling of Normal Human Placenta by Extensive Cloninganalysis. 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Japan), 2007. 11.
- 10) Ishikawa G, Soma H¹, Osawa H¹, Oguro T², Tanaka K³, Mineo S⁴ (¹ Dept. of Obstetrics and Gynecology, Saitama Medical School, ² Nippon Medical School, Chiba Hokuso Hospital, ³ Division of Morphological Science, Saitama Medical School, ⁴ Dept. of Pathology, Tokyo Medical University) : A Comparison of Pathohistogenesis Between Chorangioma and Chorangioid. 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Japan), 2007. 11.
- 11) Yamada T, Sawa R, Abe H, Kikuti F, Mine K, Ishikawa G, Ichimiya T¹, Okubo Y¹, Takeshita T (¹ Dept. of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Serious Bipolar Depression Amalgamated Pregnancy with Severe IUGR Would be Caused by Placenta Thrombus Formation After Ect Repeationfg it Self. 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Japan), 2007. 11.
- 12) Ishikawa G, Mori M¹, Luo-S S¹, Ishikawa T¹, Mishima T¹, Takeshita T, Takizawa T¹ (¹ Dept. of Molecular Anatomy and Medicine, Nippon Medical School) : Subcellular Distribution of IgG and Albumin in the First-Trimester Human Placenta as Revealed by Ultrahigh-Resolution Immunofluorescence Microscopy. 14th World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Japan), 2007. 11.
- 13) 峯 克也, 明樂重夫, 岩崎卓央, 桑原慶充, 近藤幸尋¹, 竹下俊行 (¹ 日本医科大学泌尿器科学) : 膀胱子宮内膜症に対する腹腔鏡手術 : 2症例を経験して. 第29回エンドメトリオーシス研究会, 2008. 1.
- 14) 石川温子, 石渡俊行¹, 米山剛一, 土居大祐, 川瀬里衣子, 内藤善哉¹, 竹下俊行 (¹ 日本医大病理学 (統御機構・腫瘍学)) : 子宮内膜癌におけるKGF (Keratinocyte growth factor) およびKGFreceptor (KGFR) の発現とその役割. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 15) 米山剛一, 中山裕樹¹, 朝倉啓文, 山田 隆, 鴨井青龍, 根岸靖幸, 黒瀬圭輔, 三浦 敦, 市川雅男, 土居大祐, 小西英喜, 竹下俊行 (¹ 神奈川県立がんセンター) : 子宮体癌の臨床病理学的事項に基づく予後因子の検討. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 16) 富山僚子, 桑原慶充, 西 弥生, 阿部 崇, 峯 克也, 菊池美美, 大内 望, 明樂重夫, 竹下俊行 : 不妊症疾患における卵胞液内Cu, Zn-Superoxide Dismutase濃度と不妊因子の関係. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 17) 朝倉禎史, 荏原弘光, 五十嵐美和, 印出佑介, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行 : 多周波数生体電気インピーダンス法によって妊婦体水分分布の動態変化は正当に評価されるか?. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 18) 石川 源, 松原茂樹¹, 瀧澤俊広², 竹下俊行 (¹ 自治医大, ² 日本医大分子解剖) : レーザーマイクロダイセクション法によるヒト初期絨毛におけるアルブミンの機能解析 : 胎児型Fc受容体によるアルブミン輸送機能. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.

- 19) 瀧澤俊広¹⁾, 石川 源, 松原茂樹²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大分子解剖, ²⁾ 自治医大): MicroRNAome による胎盤解析: 正常産胎盤のmicroRNA プロファイリング. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 20) 渋井庸子, 佐藤杏月, 中井晶子, 吉田有里, 金 栄淳, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠子宮頸管の経腔超音波観察で分娩発来時期が予測できるか?. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 21) 五十嵐美和, 荻原弘光, 朝倉禎史, 印出佑介, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行: 長期的に臍帯動脈血流の途絶・逆流を認めるも生児を得た. 前置胎盤合併高度子宮内胎児発育遅延の1例. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 22) 川端伊久乃, 大屋敦子, 林 昌子, 山本晃人, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 妊娠高血圧症候群における眼底所見の検討—診断基準および病型分類との関係について. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 23) 林 昌子, 中井章人, 山本晃人, 稲川智子, 川端伊久乃, 山田 隆, 三宅秀彦, 横田明重, 竹下俊行: 切迫早産に対するウリナスタチン使用効果の検討. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 24) 深見武彦, 松村好克, 西田直子, 佐藤杏月, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 双胎妊娠の早産スクリーニングにおける経腔超音波による子宮頸管観察の意義. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 25) 金 栄淳, 佐藤杏月, 中井晶子, 吉田有里, 坊 裕美, 西田直子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: BMIは年齢と相関するか?. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 26) 大屋敦子, 村主明彦¹⁾, 石野尚吾¹⁾, 花輪壽彦¹⁾, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行 (¹⁾ 北里研究所東洋医学総合研究所漢方診療部): 月経困難症に対する漢方随証治療の有用性. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 27) 山田 隆, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 米山剛一, 小西英喜, 中井章人, 鴨井青龍, 朝倉啓文, 竹下俊行, 加藤久盛¹⁾, 中山裕樹¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立がんセンター): 子宮体癌II期の術式に関する検討. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 28) 阿部 崇, 明樂重夫, 峯 克也, 桑原慶充, 西 弥生, 市川雅男, 三浦 敦, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行: 当科における存続外妊症予防に対する取り組み. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 29) 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 石川 源, 土居大祐, 米山剛一, 大内 望, 市川雅男, 明樂重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術における後期臨床研修医のパフォーマンスの検討. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 30) 峯 克也, 立山尚子, 阿部 崇, 富山僚子, 桑原慶充, 里見操緒, 明樂重夫, 竹下俊行: 臨床背景からみた続発性習慣流産: 原発性と比較して. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 31) 根岸靖幸, 大内 望, 菊池美美, 富山僚子, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 市川雅男, 明樂重夫, 竹下俊行: 習慣流産に対する夫リンパ球免疫療法と続発性不妊. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 32) 明樂重夫, 峯 克也, 桑原慶充, 竹下俊行: 子宮腺筋症に対し, GnRHアゴニスト漸減療法を長期間施行した症例の検討. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 33) 里見操緒, 峯 克也, 立山尚子, 根岸靖幸, 阿部 崇, 桑原慶充, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 抗リン脂質抗体陽性不育症症例に対する低容量アスピリン・ヘパリン併用療法は有効か. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 34) 阿部裕子, 市川雅男, 小野修一, 三浦 敦, 里見操緒, 磯崎太一, 米山剛一, 竹下俊行: 呼吸困難を呈した巨大卵巣腫瘍の1例. 第342回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2007. 5.
- 35) 岩崎奈央, 渡辺昇一¹⁾, 品川寿弥, 米山剛一, 石川 源, 大内 望, 阿部 崇, 里見操緒, 峯 克也, 市川雅男, 澤倫太郎, 磯崎太一, 明樂重夫, 竹下俊行 (¹⁾ 勝楽堂病院産婦人科): 帝王切開後の創部感染に壊死性筋膜炎を続発した1例. 第25回日本産科婦人科感染症研究会, 2007. 6.

- 36) 小野修一, 三浦 敦, 市川雅男, 阿部裕子, 石川 源, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 婦人科腫瘍と鑑別を要した腸間膜原発脂肪肉腫の1例. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 6.
- 37) 印出佑介, 岡崎大武, 勝部乙大, 菊池美美, 朝倉禎史, 五十嵐建治, 荏原弘光, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行: NSTでSinusoidal patternを認めたFetomaternal transfusion syndromeの1例. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 6.
- 38) 山下恵理子, 峯 克也, 磯崎太一, 澤倫太郎, 阿部裕子, 稲川智子, 桑原慶充, 石川 源, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 術中に子宮全摘出へ移行した前置癒着胎盤の1例. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 6.
- 39) 大内 望, 三宅秀彦, 松橋智彦, 五十嵐美和, 永山千晶¹⁾, 渡邊秀樹¹⁾, 鈴木俊治¹⁾ (¹⁾葛飾赤十字産院): 胎盤羊膜下血腫を合併した2症例. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 6.
- 40) 深見武彦, 佐藤杏月, 渋井庸子, 坊 裕美, 柿栖睦実, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 帝王切開癒着痕部妊娠の一部. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 6.
- 41) 菊池美美, 印出佑介, 朝倉禎史, 五十嵐建治, 荏原弘光, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行: 卵管破裂による腹腔内出血を来たした卵管原発癌肉腫の1例. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 6.
- 42) 印出佑介, 菊池美美, 朝倉禎史, 荏原弘光, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行, 大秋美治: 子宮内膜症を合併する卵巣悪性腫瘍: 過去13年間の症例統計. 第42回日本婦人科腫瘍学会, 2007. 6.
- 43) 印出佑介, 山口 暁, 鴨井青龍, 竹下俊行: 当院の関連施設におけるサイトメガロウイルス抗体保有率の動向. 第25回日本産婦人科感染症研究会, 2007. 6.
- 44) 柿栖睦実, 深見武彦, 倉品隆平, 立山尚子, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 中井晶子, 竹下俊行: 最近経験したreversible posterior leukoencephalopathy syndrome (RPLS) の2症例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 45) 佐藤杏月, 可世木久幸, 松島 隆, 吉田有里, 倉品隆平, 坊 裕美, 西田直子, 金 栄淳, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 改良型軟性子宮鏡の臨床的応用について. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 46) 岩崎奈央, 市川雅男, 米山剛一, 里見操緒, 阿部裕子, 小野修一, 高屋 茜, 山下恵理子, 桑原慶充, 明樂重夫, 竹下俊行: 血栓症を発症した子宮腺筋症3症例の解析. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 47) 小野修一, 峯 克也, 磯崎太一, 高屋 茜, 稲川智子, 平泉良枝, 里見操緒, 石川 源, 澤倫太郎, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 妊娠19週に発症した有茎性漿膜下筋腫茎捻転の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 48) 山下恵理子, 三浦 敦, 山田 隆, 市川雅男, 阿部裕子, 小野修一, 岩崎奈央, 高屋 茜, 石川 源, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 卵巣に発生した巨大カルチノイドの1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 49) 岩崎奈央, 市川雅男, 米山剛一, 里見操緒, 阿部裕子, 小野修一, 高屋 茜, 山下恵理子, 明樂重夫, 竹下俊行: 血栓症を発症した子宮腺筋症3症例の臨床的検討. 第343回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2007. 9.
- 50) 峯 克也, 稲川智子, 阿部 崇, 富山僚子, 西 弥生, 桑原慶充, 明樂重夫, 竹下俊行: 複数周期の排卵誘発により排卵にいたった視床下部性無月経の1症例. 第25回日本受精着床学会, 2007. 9.
- 51) 富山僚子, 桑原慶充, 峯 克也, 稲川智子, 平泉良枝, 西 弥生, 阿部 崇, 明樂重夫, 竹下俊行: 卵胞内の酸化ストレスが卵胞発育へ与える影響について. 第25回日本受精着床学会, 2007. 9.
- 52) 阿部裕子, 澤倫太郎, 峯 克也, 菊池美美, 稲川智子, 里見操緒, 石川 源, 竹下俊行, 一宮哲哉¹⁾, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾日本医科大学精神神経科): 双極性うつ病に対する電気痙攣療法後, 子宮内胎児発育遅延を合併した1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

- 53) 岩崎奈央, 市川雅男, 米山剛一, 里見操緒, 阿部裕子, 小野修一, 高屋 茜, 山下恵理子, 桑原慶充, 明樂重夫, 竹下俊行: 血栓症を発症した子宮腺筋症3症例の解析. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 54) 里見操緒, 稲川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 明樂重夫, 竹下俊行: 抗血栓療法施行中に妊娠高血圧症候群を発症した抗リン脂質抗体陽性妊婦の3症例. 第28回日本妊娠高血圧学会, 2007. 10.
- 55) 桑原慶充, 峯 克也, 富山僚子, 阿部 崇, 稲川智子, 明樂重夫, 竹下俊行: 卵巣周期におけるケモカインレセプターCXCR4の発現調節及び局在・機能解析. 第52回日本生殖医学会, 2007. 10.
- 56) 富山僚子, 桑原慶充, 峯 克也, 稲川智子, 阿部 崇, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行, 佐藤嘉平¹⁾, 西 弥生²⁾ (¹⁾ 日本大学生物資源科学部動物細胞学教室, ²⁾ 杉山レディースクリニック): ART用メディオウムのマウスエンブリオアッセイ (MEA) の意義. 第52回日本生殖医学会, 2007. 10.
- 57) 峯 克也, 桑原慶充, 富山僚子, 稲川智子, 阿部 崇, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行, 片山 映¹⁾, 西 弥生²⁾ (¹⁾ 日本医大生化学・分子生物学教室, ²⁾ 杉山レディースクリニック): ヒト閉経尿由来ゴナドトロピン製剤およびリコンビナントFSH製剤のプロテオーム解析. 第52回日本生殖医学会, 2007. 10.
- 58) 高屋 茜: 産褥期に胸水を来たした症例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 59) 小野修一, 峯 克也, 磯崎太一, 高屋 茜, 稲川智子, 平泉良枝, 里見操緒, 石川 源, 澤倫太郎, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 茎捻転により緊急開腹術に至った有茎性漿膜下筋腫合併妊娠の1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 60) 柿栖睦実, 深見武彦, 中井晶子, 吉田有里, 立山尚子, 西田直子, 金 栄淳, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠中および産褥期に発症したreversible posterior leukoencephalopathy syndrome (RPLS) の2症例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 61) 阿部裕子, 澤倫太郎, 峯 克也, 菊池美美, 岩崎奈央, 磯崎太一, 桑原慶充, 里見操緒, 石川 源, 竹下俊行, 一宮哲哉¹⁾, 大久保善朗¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神神経科): 重症精神疾患合併妊婦の取り扱い: ECTによるsevere IUGRを合併した1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 62) 五十嵐美和, 大内 望, 永山千晶¹⁾, 菊池美美, 印出佑介, 中川道子, 木下和哉¹⁾, 渡邊秀樹¹⁾, 三宅秀彦, 鈴木俊治¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 先天性サイトメガロウイルス感染を疑った胎児腹水の1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 63) 山下恵理子, 三浦 敦, 阿部裕子, 小野修一, 岩崎奈央, 高屋 茜, 山田 隆, 市川雅男, 石川 源, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 巨大卵巣カルチノイドの1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 64) 渡辺美千明, 小野修一, 朝倉禎史, 平泉良枝, 五十嵐建治, 荻原弘光, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行: 子宮腺筋症の子宮温存手術の試み 吊り上げ法による腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 65) 佐藤杏月, 可世木久幸, 松島 隆, 吉田有里, 倉品隆平, 坊 裕美, 西田直子, 金 栄淳, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 改良型軟性子宮鏡と硬性子宮鏡の画質の比較について. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 66) 岸 洋二¹⁾, 渡辺昇一¹⁾, 米山剛一, 竹下俊行 (¹⁾ 勝楽堂病院産婦人科): 帝王切開術における抗生物質の術前単回投与法の検討. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会 (群馬県, 前橋市), 2007. 10.
- 67) 米山剛一, 里見操緒, 三浦 敦, 市川雅男, 土居大祐, 藤原ゆり¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本医大病理学): ポリープ状異型腺筋腫が発生母地として否定できない子宮体部漿液性腺癌の1例. 第42回日本婦人科腫瘍学会, 2007. 11.
- 68) 米山剛一, 三浦 敦, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 山田 隆, 鴨井青龍, 竹下俊行: 卵巣腫瘍症例の血清エンドスタチン値の解析. 第42回日本婦人科腫瘍学会, 2007. 11.

- 69) 三浦 敦, 米山剛一, 市川雅男, 阿部裕子, 小野修一, 山田 隆, 横田明重, 青木 律¹⁾, 土居大祐, 竹下俊行¹⁾ (日本医大形成外科): 術前化学療法としてPIP療法が有効であったと思われた外陰癌IV期の1例. 第42回日本婦人科腫瘍学会, 2007. 11.
- 70) 市川雅男, 里見操緒, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 卵巣皮様嚢腫に対する腹腔鏡手術術式決定の実際 (MRI/CT 画像と腫瘍マーカーをもちいた悪性疾患の鑑別). 第20回日本内視鏡外科学会, 2007. 11.
- 71) 峯 克也, 明樂重夫, 小野修一, 近藤幸尋¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (日本医大泌尿器科): 膀胱子宮内膜症は腹腔鏡手術のよい適応である. 第20回日本内視鏡外科学会, 2007. 11.
- 72) 稲川智子, 里見操緒, 岩崎奈央, 山下恵理子, 阿部裕子, 明樂重夫, 竹下俊行: ヘパリン療法は不育症患者の血性グラニューライシン濃度を低下させる. 第22回日本生殖免疫学会, 2007. 11.
- 73) 瀧澤俊広¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 羅 善順¹⁾, 川東 豊¹⁾, 神田知洋¹⁾, 水口義昭¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (日本医大分子解剖学): マウス卵巣特異的 miR-351 は発育中の卵胞顆粒膜細胞に発現している. 第22回日本生殖免疫学会, 2007. 11.
- 74) 米山剛一, 岩崎奈央, 阿部裕子, 市川雅男, 三浦 敦, 山田 隆, 石川温子, 竹下俊行, 松田陽子¹⁾, 川本雅司¹⁾, 土屋眞一¹⁾ (1) 付属病院病理部): 術前組織診断に苦慮した子宮頸部condylomatous carcinomaの1例. 第344回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2007. 12.
- 75) 米山剛一, 菊池美美, 里見操緒, 大内 望, 根岸靖幸, 市川雅男, 三浦 敦, 土居大祐, 竹下俊行: 子宮体癌の合併がみられたポリープ状異型腺筋腫の1例. 第340回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2007.
- 76) 米山剛一, 中山裕樹, 朝倉啓文, 山田 隆, 鴨井青龍, 根岸靖幸, 黒瀬圭輔, 三浦 敦, 土居大祐, 小西英喜, 竹下俊行: 子宮体癌の臨床病理学的予後因子の検討. 第45回癌治療学会, 2007.
- 77) 石川温子, 石渡俊行, 工藤光洋, 米山剛一, 竹下俊行, 内藤善哉: 子宮内膜癌におけるKGF (Keratinocyte growth factor) の役割とステロイドホルモンとの関係 (Role of KGF (Keratinocyte growth factor) on cell behavior in endometrial cancer in association with steroid hormones). 第66回日本癌学会, 2007.
- 78) 高橋恵理佳, 稲川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 三浦 敦, 石川 源, 澤倫太郎, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 妊娠末期にHELLP症候群を呈したHBeAg陽性B型肝炎合併妊娠の1例. 第345回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2008. 2.
- 79) 印出佑介, 三宅秀彦, 高屋 茜, 菊池美美, 永山千晶¹⁾, 中川道子, 五十嵐美和, 木下和哉¹⁾, 渡邊秀樹¹⁾, 鈴木俊治¹⁾ (1) 葛飾赤十字産院): 大動脈弁上部狭窄を伴う大動脈縮窄複合を合併した胎児発育遅延の1例. 第345回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2008. 2.

[武蔵小杉病院女性診療科・産科]

研究概要

1. 超音波画像診断 妊娠初期胎児および周産期における胎児超音波診断に加え, 1) 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究, 2) 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の子測, 3) 子宮頸管無力症における超音波画像変化, 4) 妊娠初期胎嚢像の3次元超音波断面像の研究
2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連研究などが行なわれている
3. 婦人科腫瘍 1) 子宮頸癌検診における日母分類の改定やHPVとの関連についての研究, 2) 卵巣癌における抗がん剤の効果および副作用の研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 松島 隆：分娩前後の母児感染を考慮すべき疾患：ウイルス感染母体の分娩取り扱い。周産期医学 2007；37 (12)：1527-1532.
- 2) 可世木久幸，金 栄淳，竹下俊行：慢性エストロゲン欠乏症：加齢に伴う検査値の変化。産婦世界 2007；59 (9)：855-859.
- 3) 松島 隆¹⁾，石原階輔²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，²⁾ 新横浜母と子の病院)：卵巣腫瘍の良悪性。産科と婦人科 別刷 2007；74 (11)：1448-1458.
- 4) 可世木久幸¹⁾，富山僚子²⁾，明楽重夫²⁾，竹下俊行²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：卵巣の加齢と活性酸素。産と婦 2007；74 (12)：1597-1601.

(2) 総説：

- 1) 深見武彦，朝倉啓文：子宮瘢痕部妊娠。産婦実際 2007；57 (3).
- 2) 朝倉啓文：骨盤計測。日本産科婦人科学会雑誌 2007；59 (6)：179-185.
- 3) 朝倉啓文，松島 隆，深見武彦，土居大祐：常位胎盤早期剥離。産婦実際 2007；37 (10)：1831-1835.
- 4) 土居大祐，朝倉啓文：卵巣癌および境界悪性腫瘍の取り扱い。産婦人科の実際 2008；57 (4)：657-661.

(3) 症例報告：

- 1) Satou A, Fukami T, Mathushima T, Doi D, Asakura H：Usefulness of ultrasonographic observation of cervical grand area to predict preterm delivery in twin pregnancy. J Perinat med 2007；35 (suppl)：261-262.
- 2) 佐藤杏月，西田直子，深見武彦，松島 隆，朝倉啓文：ヘパリン療法を施行し帝王切開術後腹壁血腫を来たした下股深部静脈血栓症合併妊婦の1例。産婦実際 2007；56 (13)：2211-2217.
- 3) 小野瀬亮，雨宮 清，和泉 滋，今井一夫，入江 宏，木村昭裕，久布白兼行，小林陽一，佐治晴哉，角田新平，土居大祐，宮城悦子，村松俊成，横山和彦，後藤忠雄，その他2名 (¹⁾ 神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍対策部)：平成18年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告。日産婦神奈川会誌 2008；44 (2)：32-35.

著書

- 1) Satou A, Fukami T, Mathushima T, Doi D, Asakura H：〔自著〕Usefulness of ultrasonographic observation of cervical grand area to predict preterm delivery in twin pregnancy. Proceedings of 8th world Congress of Perinatal Medicine (Giulio Bevilacqua)，2007；pp739-742.
- 2) 可世木久幸：〔分担〕生殖医学領域における子宮鏡。生殖医療ガイドライン2007 (日本生殖医学会)，2007；pp204-209，金原出版.
- 3) 朝倉啓文：〔自著〕骨盤位，横位。今日の治療指針 (山口徹，北原光夫，福井次矢)，2008；p287，医学書院.
- 4) 朝倉啓文：〔自著〕早産のリスク因子。切迫早産の診断と治療 (岩下光利)，2008；メジカルビュー.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 中井晶子，佐藤杏月，深見武彦，松島 隆，小西英喜，可世木久幸，朝倉啓文：チョコレート嚢胞の経過観察中に発生した粘液性嚢胞腺癌の1例。平成18年度日本医科大学産婦人科学同窓会臨床研究会，2006. 11.
- 2) 吉田有里，柿栖陸実，佐藤杏月，中井晶子，西田直子，金 栄淳，深見武彦，松島 隆，土居大祐，可世木久

幸, 朝倉啓文: 卵巣平滑筋腫の1例. 第377回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2007. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 可世木久幸: 日本産科婦人科内視鏡学会が抱える(悩ましい)諸問題. 第7回山陰産科婦人科内視鏡研究会, 2007. 5.
- 2) 土居大祐: 子宮がん検診の現状と日母分類の改訂に向けて. 平成19年度日産婦日産医群馬県支部研修会, 2007. 9.

(2) 教育講演:

- 1) 可世木久幸: 更年期女性の健康医学. 日本医師会生涯教育講座: 更年期と老年期の女性医学, 2008. 3.

(3) 一般講演:

- 1) Satou A, Fukami T, Mathushima T, Doi D, Asakura H: Usefulness of ultrasonographic observation of cervical gland area to predict preterm delivery in twin pregnancy. the 8th world congress of perinatal medicine (Itaria), 2007. 9.
- 2) Mathushima T, Kaseki H: First Report of Comparison Between Flexible Digital Video Hysteroscope and Rigid Hysteroscope. The 36th Global Congress of Minimally Invasive Gynecology (Washington, DC), 2007. 11.
- 3) 渋井庸子, 佐藤杏月, 中井晶子, 吉田有里, 金 栄淳, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠子宮頸管の経陰超音波で分娩時期が予測できるか?. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 4) 吉田有里, 柿栖睦実, 佐藤杏月, 倉品隆平, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 金 栄淳, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 前置胎盤と診断した奇胎合併妊娠: 妊娠27週帝王切開分娩後の推移. 第379回日本産科婦人科学会神奈川地方部会平成19年度神奈川県母体保護法指定医師研修会, 2007. 9.
- 5) 朝倉啓文: 母子保健の理念, 妊娠中の症状等に対応する措置. 母子健康管理研修会, 神奈川産業保健推進センター,
- 6) 小関 聡¹⁾, 朝倉啓文, 持丸文雄¹⁾, 海野信也¹⁾, 平原史樹¹⁾, 東條龍太郎¹⁾, 八十島唯一¹⁾ (¹⁾ 神奈川県産科婦人科医会): 神奈川県内の産科産科医療機関における分娩取り扱いの現状と将来取り扱い可能数の推定に関する検討. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 7) 米山剛一, 中山裕樹, 朝倉啓文, 山田 隆, 鴨井青龍, 根岸靖幸, 黒瀬圭輔, 三浦 敦, 市川雅男, 土居大祐: 子宮体癌の臨床病理学的事項に基づく予後因子の検討. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 8) 深見武彦, 松村好克, 西田直子, 佐藤杏月, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 双胎妊娠の早産スクリーニングにおける経陰超音波による子宮頸管観察の意義. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 9) 金 栄淳, 佐藤杏月, 中井晶子, 吉田有里, 坊 裕美, 西田直子, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: BMIと年齢は相関するか?. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 10) 山田 隆¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 土居大祐²⁾, 米山剛一¹⁾, 小西英喜¹⁾, 中井章人³⁾, 鴨井青龍⁴⁾, 朝倉啓文²⁾, 竹下俊行¹⁾, 加藤久盛⁵⁾, 中山裕樹⁵⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, ⁵⁾ 神奈川県立癌センター): 子宮体癌第二期の術式に関する検討. 第59回日本産科婦人科学会, 2007. 4.
- 11) 深見武彦, 柿栖睦実, 佐藤杏月, 吉田有里, 中井晶子, 西田直子, 松島 隆, 朝倉啓文: 早産スクリーニングにおける双胎妊娠の子宮頸管観察の意義. 第1回日本早産研究会, 2007. 4.
- 12) 川端伊久野²⁾, 大屋敦子²⁾, 横田明重²⁾, 朝倉啓文¹⁾, 越野立夫²⁾, 中井章人²⁾, 伊尾裕子³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, ³⁾ 井上レディースクリニック): 妊娠中の睡眠障害と運動の関係. 第21回女性スポーツ医学研究会, 2007. 4.
- 13) 小関 聡¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 持丸文雄¹⁾, 海野信也¹⁾, 平原史樹¹⁾, 東條龍太郎¹⁾, 八十島唯一¹⁾ (¹⁾ 神奈川県産

科婦人科医会)：神奈川県内の産科医療機関における分娩取り扱いの現状と将来取り扱い可能数の推定に関する検討。第59回日本産科婦人科学会，2007。4。

- 14) 彭 為霞¹⁾，中井晶子²⁾，柿栖睦実²⁾，佐藤杏月²⁾，吉田有里²⁾，金 栄淳²⁾，西田直子²⁾，深見武彦²⁾，松島隆²⁾，土居大祐²⁾，可世木久幸²⁾，朝倉啓文²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院研修医，²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科)：全身浮腫で入院後，妊娠高血圧症候群を発症し，産褥子癩を発症したHELLP症候群の1例。第378回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，2007。5。
- 15) 小野瀬亮¹⁾，雨宮 清¹⁾，和泉 滋¹⁾，今井一夫¹⁾，入江 宏¹⁾，木村昭裕¹⁾，久布白兼行¹⁾，小林陽一¹⁾，佐治晴哉¹⁾，角田新平¹⁾，土居大祐¹⁾，宮城悦子¹⁾，村松俊成¹⁾，横山和彦¹⁾，後藤忠雄¹⁾，その他2名 (1) 神奈川県産科婦人科医会悪性腫瘍対策部)：平成18年度神奈川県産科婦人科医会婦人科悪性腫瘍登録集計報告。第378回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，2007。5。
- 16) 阿部裕子¹⁾，市川雅男²⁾，小野修一²⁾，三浦 敦²⁾，里見操緒²⁾，磯崎太一²⁾，米山剛一²⁾，竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：呼吸困難を呈した巨大卵巣腫瘍の1例。第342回日本産科婦人科学会東京地方部会，2007。5。
- 17) 深見武彦，佐藤杏月，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文，竹下俊行：帝王切開癒痕部妊娠の1例。第113回関東連合地方部会，2007。6。
- 18) 中井晶子，佐藤杏月，坊 裕美，深見武彦，吉田有里，立山尚子，西田直子，金 栄淳，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：妊娠に合併した悪性卵巣腫瘍の2例。第9回神奈川婦人科腫瘍研究会，2007。6。
- 19) 印出佑介¹⁾，菊池美美¹⁾，荏原弘光¹⁾，朝倉禎史¹⁾，黒瀬圭輔¹⁾，渡辺美千明¹⁾，鴨居青龍¹⁾，土居大祐³⁾，米山剛一²⁾，竹下俊行²⁾，大秋美治⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科，³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院病理部)：子宮内膜症を合併する卵巣悪性腫瘍：過去13年間の病例検討。第42回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会，2007。6。
- 20) 米山剛一¹⁾，三浦 敦¹⁾，市川雅男¹⁾，黒瀬圭輔¹⁾，土居大祐¹⁾，山田 隆¹⁾，鴨居青龍¹⁾，竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学女性診療科・産科)：卵巣腫瘍症例の血清エンドスタチン値の解析。第42回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会，2007。6。
- 21) 三浦 敦¹⁾，米山剛一¹⁾，市川雅男¹⁾，阿部裕子¹⁾，小野修一¹⁾，山田 隆¹⁾，横田明重¹⁾，青木 律²⁾，土居大祐¹⁾，竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科)：術前化学療法としてPIP療法が有効であったと思われた外陰癌IV期の1例。第42回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会，2007。6。
- 22) 米山剛一¹⁾，里見操緒¹⁾，三浦 敦¹⁾，市川雅男¹⁾，土居大祐¹⁾，藤原ゆり²⁾，土屋眞一²⁾，杉崎祐一²⁾，竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学病理学)：ポリープ状異型腺筋腫が発生母地として否定できない子宮体部漿液性腺癌の1例。第42回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会，2007。6。
- 23) 倉品隆平¹⁾，根岸靖幸²⁾，稲川智子²⁾，峰 克也²⁾，桑原慶充²⁾，里見操緒²⁾，明楽重夫²⁾，竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科，²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：妊娠中の卵巣嚢腫における腹壁吊り上げ法腹腔鏡下手術の周術期・周産期予後の検討。第32回日本外科系連合学会学術集会，2007。6。
- 24) 松島 隆：困った症例：日本医科大学武蔵小杉病院の現状。第65回周産期緊急連絡会，2007。6。
- 25) 中井晶子，土居大祐，朝倉啓文：妊娠に合併した卵巣悪性腫瘍。第9回神奈川腫瘍研究会，2007。6。
- 26) 中井晶子，坊 裕美，深見武彦，柿栖睦実，佐藤杏月，吉田有里，西田直子，金 栄淳，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：妊娠に合併した悪性卵巣腫瘍の2例。第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術集会，2007。6。
- 27) 中井晶子，土居大祐，竹下俊行：妊娠に合併した卵巣悪性腫瘍。第9回神奈川腫瘍研究会，2007。6。

- 28) 菊池美美¹⁾, 印出佑介¹⁾, 朝倉禎史¹⁾, 渡辺美千明¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 土居大祐²⁾, 米山剛一³⁾, 鴨井青龍²⁾, 竹下俊行³⁾, 大秋美治⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病理部): 腹腔内出血で発症した卵管原発癌肉腫の1例. 第42回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会集会, 2007. 6.
- 29) 阿部裕子¹⁾, 峰 克也²⁾, 阿部 崇²⁾, 桑原慶充²⁾, 里見操緒²⁾, 明楽重夫²⁾, 竹下俊行²⁾, 近藤幸尋²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 腹腔鏡が診断・治療に有効であった膀胱子宮内膜症の1例. 第343回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2007. 6.
- 30) 朝倉啓文: 早産のリスク因子: 子宮頸部の超音波所見を中心に. 小田原産婦人科医学会, 2007. 8.
- 31) 奈良慎平¹⁾, 柿栖睦実²⁾, 佐藤杏月²⁾, 倉品隆平²⁾, 吉田有里²⁾, 坊 裕美²⁾, 立山尚子²⁾, 西田直子²⁾, 金 栄淳²⁾, 深見武彦²⁾, 松島 隆²⁾, 土居大祐²⁾, 可世木久幸²⁾, 朝倉啓文 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院研修医, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科): 最近経験したYolksac tumorの3例. 第379回日本産科婦人科学会神奈川地方部会平成19年度神奈川県母体保護法指定医研究会, 2007. 9.
- 32) 佐藤杏月, 可世木久幸, 松島 隆, 吉田有里, 倉品隆平, 坊 裕美, 西田直子, 金 栄淳, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 改良型硬性子宮鏡の臨床応用について: 硬性子宮鏡との比較. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 33) 柿栖睦実, 深見武彦, 倉品隆平, 立山尚子, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 中井晶子, 竹下俊行: 最近経験したreversible posterior leukoencephalopathy syndrome (RPLS)の2症例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 34) 阿部裕子¹⁾, 澤倫太郎²⁾, 峰 克也²⁾, 菊池美美²⁾, 稲川智子²⁾, 里見操緒²⁾, 石川 源²⁾, 竹下俊行²⁾, 一宮哲哉²⁾, 大久保善朗²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 双極性うつ病に対する電気痙攣療法後, 子宮内胎児発育遅延を合併した1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 35) 佐藤杏月, 可世木久幸, 松島 隆, 吉田有里, 倉品隆平, 坊 裕美, 西田直子, 金 栄淳, 深見武彦, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: 改良型軟性子宮鏡と硬性子宮鏡の画質の比較について. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術集会, 2007. 10.
- 36) 柿栖睦実, 深見武彦, 中井晶子, 吉田有里, 立山尚子, 西田直子, 金 栄淳, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠中および産褥期に発症したreversible posterior leukoencephalopathy syndrome (RPLS)の2例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術集会, 2007. 10.
- 37) 阿部裕子¹⁾, 澤倫太郎²⁾, 峰 克也²⁾, 菊池美美²⁾, 岩崎奈央²⁾, 磯崎太一²⁾, 桑原慶充²⁾, 里見操緒²⁾, 石川源²⁾, 竹下俊行²⁾, 一宮哲哉²⁾, 大久保善朗²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 重症精神疾患合併妊婦の取り扱い ECTによるsevere IUGRを合併した1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 38) 斎藤良明¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 中村祐司¹⁾, 前本直子¹⁾, 大庭孝男¹⁾, 大塚俊司¹⁾, 深見武彦²⁾, 土居大祐²⁾, 石井英昭¹⁾, 内藤義哉³⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学病理学講座): 術中捺印細胞診が有用であった卵巣移行上皮癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
- 39) 倉品隆平¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 牛込恵子²⁾, 丸山智子³⁾, 可世木久幸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, ²⁾ 昭和女子大学大学院生活機構研究科, ³⁾ 金城学院大学食環境学科): 女性の加齢と肥満. 第22回日本更年期医学会学術集会, 2007. 11.
- 40) 倉品隆平, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文: 当院における内膜症性嚢胞に対する腹腔鏡手術の検討. 第22回神奈川産婦人科内視鏡研究会, 2008. 3.

[多摩永山病院女性診療科・産科]

研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。

- (1) 妊婦とスポーツ 妊婦スポーツの安全性や効果について、身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では、活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化、心機能変化の評価をはじめ、スポーツが妊娠、分娩に与える影響、予後を広範囲に調査している。また、産褥期の子宮復古、母乳栄養の確立に関しても、興味深い成績をあげつつある。
- (2) 周産期領域 臨床面では、妊娠高血圧症候群、子宮内胎児発育遅延に対し、超音波断層装置、生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層装置による母体腎、肝臓の観察では新たな視点から、妊娠高血圧症候群に関する有益なデータが集積しつつある。また、胎児、新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い、脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakai A : Role of mitochondrial permeability transition in the immature brain following intrauterine ischemia. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (3) : 190-201.
- 2) 山本晃人, 川端伊久乃, 林 昌子, 露木佳子, 大屋敦子, 横田明重, 中井章人 : 羊水過多症を契機に診断された母体の中枢性尿崩症合併妊娠の1例. 日産婦東京会誌 2007 ; 56 (2) : 209-213.
- 3) 山田 隆, 山本晃人, 川端伊久乃, 高橋 肇, 谷内良成, 大屋敦子, 横田明重, 中井章人 : 当院における子宮内膜症合併卵巣癌の臨床的特徴. 日産婦東京会誌 2007 ; 56 (3) : 364-367.
- 4) 緋田雅美^{1,2)}, 手島 恵³⁾, 中井章人^{1,4)} (1) 日本医科大学多摩永山病院医療安全管理部, 2) 日本医科大学多摩永山病院看護部, 3) 千葉大学大学院看護研究会, 4) 日本医科大学多摩永山病院産婦人科) : 急性期病院入院患者における転倒リスクの再評価. 日本病院管理学会雑誌 2007 ; 44 (4) : 337-343.
- 5) 川端伊久乃, 中井章人, 大屋敦子, 横田明重, 竹下俊行 : 妊娠高血圧症候群における眼底所見と分娩転帰. 妊高誌 2007 ; 15 : 97-98.
- 6) 中井晶子, 大屋敦子, 高橋 肇, 林 昌子, 阿部 崇, 奥田直貴, 川端伊久乃, 谷内良成, 三田俊二, 露木佳子, 横田明重, 中井章人 : 39Kgの巨大卵巣嚢腫の手術経験. 日産婦東京会誌 2008 ; 57 (1) : 16-20.

(2) 総説：

- 1) 大屋敦子, 中井章人 : 特集 : 産科超音波診断 : 正診への道筋 : 妊娠・後期7 : 癒着胎盤は診断できるか. 臨婦産 2007 ; 61 (8) : 1053-1057.
- 2) 横田明重 : 特集 : 症例からみた妊娠の新しいリスクと対策 : I. 子宮筋腫 : 3. 反復子宮筋腫核出術後の子宮破裂. 産と婦 2007 ; 74 (9) : 1030-1033.
- 3) 中井章人, 川端伊久乃 : 特集 : 妊娠高血圧症候群の病態と管理 : HELLP症候群の発症予知. 周産期医学 2007 ; 37 (9) : 1192-1196.
- 4) 阿部 崇, 中井章人 : 特集 : 産婦人科診療Data Book : 53. 弛緩出血. 産婦人科の実際 2007 ; 56 (11 臨時増刊) : 1865-1870.
- 5) 谷内良成, 中井章人 : 特集 : 妊産褥婦の循環動態を知ろう ! : Question 13. 帝王切開後はなぜ静脈血栓塞栓症に気をつけなければならないのか?. ペリネイタルケア 2007 ; 26 (11) : 1106-1108.
- 6) 中井章人 : 周産期の症候・診断・治療ナビ : II. 診断ナビゲーション ; 超音波検査の異常 : 59. 胎盤位置異常. 周産期医学 2007 ; 37 (増刊) : 257-258.

- 7) 川端伊久乃：周産期の症候・診断・治療ナビ：II. 診断ナビゲーション；超音波検査の異常：60. 癒着・穿痛胎盤. 周産期医学 2007；37 (増刊)：259-262.
- 8) 中井章人：産婦人科診療 私のコッ：切迫早産・頸管不全管理のコッ. 産と婦 2007；74 (12)：1660-1662.
- 9) 中井章人, 池田一成¹⁾ (慶応義塾大学医学部小児科)：超早産児の周産期・新生児医療：今妊娠22週出生児をどのようにとらえるか：座長のまとめ. 日本周産期・新生児医学会雑誌 2007；43 (4)：872-873.
- 10) 三宅秀彦^{1,2)}, 川端伊久乃²⁾, 中井章人²⁾ (葛飾赤十字産院,²⁾ 日本医科大学産婦人科学)：特集：妊娠高血圧症候群の新たな展開：3. 病態生理を解く：6) 母体循環動態と妊娠高血圧症候群. 産婦人科の実際 2008；57 (1)：55-63.
- 11) 中井章人：特集：産婦人科診療ネットワーク：母と子のネットワーク. 東京産婦人科医会誌 2008；(40)：47-48.
- 12) 中井章人：特集：産婦人科診療ネットワーク：東京都の産婦人科医師不足と周産期救急搬送の現状. 東京産婦人科医会誌 2008；(40)：49-52.
- 13) 中井章人：特集：早産は予防できる！？：早産の定義・概念は適切か. 周産期医学 2008；38 (2)：129-133.
- 14) 林 昌子, 中井章人：特集；妊婦と胎児の画像診断Up-to-date；妊娠後期の異常と画像診断；巨大児. 産婦人科の実際 2008；57 (3)：451-455.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 中井章人：医療紛争・医療事故を起こさないための「周産期医療ステージ (3)：妊娠後期を中心にして」. 第17回産科中小施設研究会, 2007. 6.
- 2) 横田明重：がんのお話：専門医が語る予防, 診断, 治療：各種「がん」の予防, 診断, 治療：女性のがん：子宮がん, 卵巣がん. がん診療連携拠点病院市民公開講座, 2007. 7.
- 3) 中井章人：産婦人科医療体制の動向 (全国調査より)：母と子のネットワーク運用状況. 第31回多摩産婦人科病診連携懇話会, 2007. 9.
- 4) 阿部 崇：排卵誘発とタイミング治療：最近の話題. 第31回多摩産婦人科病診連携懇話会, 2007. 9.
- 5) 中井章人：胎児, 新生児低酸素脳症発症機序の解明とその予防, 治療. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 6) 中井章人：Consensus 2005に基づく日本版新生児心肺蘇生法の意義とその普及方法について. 第34回日本産婦人科医会学術集会, 2007. 10.
- 7) 中井章人：新生児心肺蘇生法の意義とその普及方法について. 第34回日本産婦人科医会学術集会, 2007. 10.
- 8) 中井章人：医療紛争・医療事故を起こさないための「周産期医療ステージ (4)：胎児機能不全について」. 第18回産科中小施設研究会, 2008. 2.

(2) 招待講演：

- 1) 中井章人：妊娠とスポーツ；運動効果はいつ頃現れるか？. 第22回奈良県母性衛生学会, 2007. 7.

(3) シンポジウム：

- 1) 中井章人, 舟本仁一¹⁾, 奥村元子¹⁾ (大阪市立住吉市民病院)：21世紀の医療と医療システムを求めて；岐路に立つ医療；「崩壊」から再建へ；質と安全確保のために, 医療業務体制と労働環境はいかにあるべきか. 医療の質・安全学会第2回学術集会, 2007. 11.
- 2) 中井章人：産婦人科医の就労状況と救急医療体制. 医療の質・安全学会第2回学術集会, 2007. 11.
- 3) 中井章人：多摩地区におけるセミオープンシステムの実態：オープン病院の立場から. 東京都公開シンポジウム：東京都産科オープンシステムに関するフォーラム, 2008. 1.

(4) 一般講演：

- 1) 米山剛一¹⁾, 中山裕樹²⁾, 朝倉啓文¹⁾, 山田 隆¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 根岸靖幸¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 三浦 敦¹⁾, 市川雅

- 男¹⁾, 土居大祐¹⁾, 小西英喜¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 日本医科大学, ²⁾ 神奈川県立がんセンター): 子宮体癌の臨床病理学的事項に基づく予後因子の検討. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 2) 富山僚子, 桑原慶充, 西 弥生, 阿部 崇, 峯 克也, 菊池美美, 大内 望, 明楽重夫, 竹下俊行: 不妊症患者における卵胞液内Cu, Zn-Superoxide Dismutase濃度と不妊因子の関係. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 3) 川端伊久乃, 大屋敦子, 林 昌子, 山本晃人, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 妊娠高血圧症候群における眼底所見の検討: 診断基準および病型分類との関係について. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 4) 林 昌子, 中井章人, 山本晃人, 稲川智子, 川端伊久乃, 山田 隆, 三宅秀彦, 横田明重, 竹下俊行: 切迫早産に対するウリナスタチン使用効果の検討. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 5) 大屋敦子, 村主明彦¹⁾, 石野尚吾¹⁾, 花輪壽彦¹⁾, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行 (1) 北里研究所東洋医学総合研究所漢方診療部): 月経困難症に対する漢方随証治療の有用性. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 6) 阿部 崇, 明楽重夫, 峯 克也, 桑原慶充, 西 弥生, 市川雅男, 三浦 敦, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行: 当科における存続外妊症予防に対する取り組み. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 7) 浅井庸子, 佐藤杏月, 中井晶子, 吉田有里, 金 栄淳, 深見武彦, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 妊娠子宮頸管の経陰超音波観察で分娩発来時期が予測できるか?. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 8) 金 栄淳, 佐藤杏月, 中井晶子, 吉田有里, 坊 裕美, 西田直子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: BMIは年齢と相関するか?. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 9) 山田 隆, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 米山剛一, 小西英喜, 中井章人, 鴨井青龍, 朝倉啓文, 竹下俊行, 加藤久盛¹⁾, 中山裕樹¹⁾ (1) 神奈川県立がんセンター): 子宮体癌II期の術式に関する検討. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 10) 峯 克也, 立山尚子, 阿部 崇, 富山僚子, 桑原慶充, 里見操緒, 明楽重夫, 竹下俊行: 臨床背景からみた続発性習慣流産: 原発性と比較して. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 11) 根岸靖幸, 大内 望, 菊池美美, 富山僚子, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 習慣性流産に対する夫リンパ球免疫療法と続発性不妊. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 12) 里見操緒, 峯 克也, 立山尚子, 根岸靖幸, 阿部 崇, 桑原慶充, 石川 源, 磯崎太一, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 抗リン脂質抗体陽性不育症症例に対する低用量アスピリン・ヘパリン併用療法は有効か. 第59回日本産科婦人科学会学術講演会, 2007. 4.
- 13) 山田 隆, 山本晃人, 奥田直貴, 川端伊久乃, 高橋 肇, 谷内良成, 大屋敦子, 横田明重, 中井章人: 当院における子宮内膜症合併卵巣癌の臨床的特徴. 第342回日本産科婦人科学会学東京地方部会例会, 2007. 5.
- 14) 奥田直貴, 川端伊久乃, 林 昌子, 三宅秀彦, 関口敦子, 中井章人: 当院における切迫早産判断・管理の変遷と早産率の推移. 第1回日本早産予防研究会学術集会, 2007. 5.
- 15) 深見武彦¹⁾, 柿栖睦美¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 吉田有里¹⁾, 中井晶子, 西田直子¹⁾, 松島 隆¹⁾, 朝倉啓文¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院): 早産スクリーニングにおける双胎妊娠の子宮頸管観察の意義. 第1回日本早産予防研究会学術集会, 2007. 5.
- 16) 鈴木由美¹⁾, 渡邊 淳¹⁾, 三宅秀彦^{1,3)}, 西 弥生²⁾, 峯 克也²⁾, 石川 源²⁾, 竹下俊行²⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院遺伝診療科, ²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科): 羊水検査でPallister-Killian syndromeが認められ選択的流産を決定した不育症夫婦の遺伝カウンセリング. 第25回東京母性衛生学会学術集会, 2007. 5.

- 17) 川端伊久乃, 大屋敦子, 山田 隆, 林 昌子, 奥田直貴, 高橋 肇, 横田明重, 中井章人: 当科で経験した前置癒着胎盤4症例の検討; その診断と予後について. 第113回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2007. 6.
- 18) 高橋 肇, 阿部 崇, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 山田 隆, 谷内良成, 三田俊二, 関口敦子, 横田明重, 中井章人, 山口 暁¹⁾, 山口 稔¹⁾ (1) 成和会山口病院): 新生児B群溶連菌 (GBS) スクリーニングの有用性についての検討. 第25回日本産科婦人科感染症研究会学術講演会, 2007. 6.
- 19) 岩崎奈央, 渡邊昇一¹⁾, 品川寿弥, 米山剛一, 石川 源, 大内 望, 阿部 崇, 里見操緒, 峯 克也, 市川雅男, 澤倫太郎, 磯崎太一, 明楽重夫, 竹下俊行: 帝王切開後の創部感染に壊死性筋膜炎を続発した1例. 第25回日本産科婦人科感染症研究会学術講演会, 2007. 6.
- 20) 大屋敦子^{1, 2)}, 及川哲郎²⁾, 村主明彦²⁾, 石野尚吾²⁾, 花輪壽彦²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院, 2) 北里研究所東洋医学総合研究所): 当施設における初診患者の腹証の検討. 第58回日本東洋医学会学術総会, 2007. 6.
- 21) 高橋 肇, 川端伊久乃, 中井晶子, 林 昌子, 阿部 崇, 奥田直貴, 山田 隆, 三田俊二, 大屋敦子, 露木佳子, 横田明重, 中井章人: 妊娠経過中に2度の腸閉塞を起こし, 治療に苦慮した1例. 第343回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2007. 9.
- 22) 柿栖睦実¹⁾, 深見武彦¹⁾, 倉島隆平¹⁾, 立山尚子¹⁾, 松島 隆¹⁾, 土居大祐¹⁾, 可世木久幸¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 中井晶子, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 最近経験したreversible posterior leukoencephalopathy syndorome (RPLS) の2症例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 23) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 川端伊久乃, 中井章人, 内藤善哉²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部, 2) 日本医科大学病理学 (統御機構・腫瘍学)): 回腸漿膜表面に発生した高分化型乳頭状中皮腫 (WDPM) の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 24) 阿部 崇, 谷内良成, 山本晃人, 山田 隆, 高橋 肇, 大屋敦子, 露木佳子, 三田俊二, 横田明重, 中井章人: 切迫子宮破裂を疑い長期入院管理を要した帝王切開術後早期の反復妊娠の1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2007. 10.
- 25) 村賀香名子, 川端伊久乃, 大屋敦子, 高橋 肇, 阿部 崇, 林 昌子, 中井晶子, 三田俊二, 横田明重, 中井章人: 妊娠中に発症しIUFDとなった成人発症Still病合併妊娠の1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2007. 10.
- 26) 斉藤智成, 奥田直貴, 大屋敦子, 横田明重, 阿部 崇, 川端伊久乃, 高橋 肇, 谷内良成, 露木佳子, 中井章人: 帝王切開癒着部妊娠の1例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2007. 10.
- 27) 柿栖睦実¹⁾, 深見武彦¹⁾, 中井晶子, 吉田有里¹⁾, 立山尚子¹⁾, 西田直子¹⁾, 金 栄淳¹⁾, 松島 隆¹⁾, 土居大祐¹⁾, 可世木久幸¹⁾, 朝倉啓文¹⁾, 竹下俊行²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院産婦人科, 2) 日本医科大学付属病院産婦人科): 妊娠中および産褥期に発症したreversible posterior leukoencephalopathy syndrom (RPLS) の2症例. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2007. 10.
- 28) 川端伊久乃, 中井章人, 大屋敦子, 横田明重, 竹下俊行: 妊娠高血圧症候群における眼底所見と分娩転帰. 第28回日本妊娠高血圧学会学術集会, 2007. 10.
- 29) 川端伊久乃, 中井章人: 前置癒着胎盤の術前超音波診断. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第19回学術集会, 2007. 11.
- 30) 中井晶子, 高橋 肇, 林 昌子, 大屋敦子, 横田明重, 中井章人: 39Kgの巨大卵巣嚢腫の手術経験. 第344回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2007. 12.
- 31) 阿部 崇, 谷内良成, 安藤絵美, 中井晶子, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 高橋 肇, 三田俊二, 大屋敦子, 横田明重, 中井章人: 帝王切開癒着部妊娠の1例. 第21回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第345回日産婦東京地方部会例会, 2008. 2.

- 32) 太田雄治郎¹⁾, 武内 務¹⁾, 山田浩子¹⁾, 露木佳子, 岡田 清¹⁾ (財) 東京都保健医療公社多摩南部地域病院婦人科) : 下血により発見された悪性転化を伴う成熟嚢胞性奇形種の1例. 第21回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第345回日産婦東京地方部会例会, 2008. 2.

[千葉北総病院女性診療科・産科]

研究概要

- 1) 婦人科腫瘍：婦人科腫瘍分野は千葉北総病院女性診療科・産科における診療の中心的な位置を占めている。腫瘍学は症例1例1例の集積が大切であり、症例報告を中心に研究を行っている。また、抗癌剤の効果予知因子の研究の一環として、今回は子宮内膜癌にたいする高用量黄体ホルモン療法における効果予知因子の解明について研究をおこなった。
- 2) 婦人科内視鏡手術：腹腔鏡手術の教育システムの確立の必要性が謳われている。特に腹腔鏡下子宮筋腫核出術は子宮壁の修復に正確な縫合結紮を要し、医育機関においては術式と導入方法の工夫が必要とされてきた。これまで腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術を標準術式として導入してきたが、今回、導入における問題点と術式の妥当性について検討を加えた。さらに子宮内膜症や卵巣嚢腫に対する手術、子宮全摘術、および卵管卵管間質部妊娠を含む子宮外妊娠手術および子宮奇形に対する腹腔鏡手術あるいは子宮鏡手術についても症例を重ねている。
- 3) 周産期：ハイリスク妊娠の管理および分娩における問題点について検討し、緊急帝王切開術に対する諸問題を関係各部門と検討、分析した。妊産婦の栄養管理について、具体的に各症例について検討し日本人妊産婦に必要な栄養所要量について研究をおこなった。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nagai Y¹⁾, Kamoi S, Matsuoka T²⁾, Hata A³⁾, Jobo T⁴⁾, Ogasawara T⁵⁾, Aoki Y⁶⁾, Ohira S⁷⁾, Okamoto T⁸⁾, Nakamoto T⁹⁾, Kanda K¹⁰⁾, Matsui H (¹⁾ Department of Molecular Pathology University Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Hana Ladie-sclinic, ³⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Yamanashi University School, ⁴⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Kitazato Medical School, ⁵⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Akashi-Ohkubo Hospital, ⁶⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Ryukyu University School of Medicine, ⁷⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Shinshu University School of Medicine, ⁸⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Chukyo Hospital, ⁹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Kansai Medical School, ¹⁰⁾ and others) : Impact of p53 immunostaining in predicting advanced or recurrent placental site trophoblastic tumors : a study of 12 cases. *Gynecologic Oncology* 2007 ; 106 (3) : 446-452.
- 2) Chihara H, Kawase R, Otsubo Y¹⁾, Hiraizumi Y, Takeshita T (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Omiya Chuo Sogo Hospital) : The Effect of Insulin Resistance Improvement Due to Lifestyle Intervention on Overweight Perimenopausal Japanese Women : A Preliminary Study. *J Nippon Med sch* 2008 ; 75 (1) : 15-22.
- 3) Hiraizumi Y¹⁾, Nishimura I¹⁾, Ishii H¹⁾, Tanaka N¹⁾, Takeshita T, Sakuma Y¹⁾, Kato M¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology Nippon Medical School) : Rat GnRH Neurons Exhibit Large Conductance Voltage- and Ca²⁺-Activated K⁺ (BK) Currents and Express BK Channel mRNAs. *The Journal of Physiological Sciences* 2008 ; 58 (1) : 21-29.
- 4) Kamoi S, Ohaki Y¹⁾, Mori O¹⁾, Kurose K²⁾, Fukunaga M³⁾, Takeshita T²⁾ (¹⁾ Department of Surgical Pathology, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School,

- 3) Department of Pathology, Jikei University Daisan Hospital) : Serial histologic observation of endometrial adenocarcinoma treated with high-dose progestin until complete disappearance of carcinomatous foci-review of more than 25 biopsies from five patients. International Journal Gynecologic cancer 2008.
- 5) 荏原弘光, 朝倉禎史, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科) : 体重. 周産期医学 2007 ; 37 (増刊号) : 194-199.
- 6) 荏原弘光, 河村 堯, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 五十嵐美和, 印出佑介, 松橋智彦, 鴨井青龍, 竹下俊行 : 分娩に伴う正常妊婦の体内水分分布の変化の検討. 日本産婦人科栄養・代謝研究会誌 2007 ; 13 (1) : 34-35.
- 7) 荏原弘光, 河野美貴子, 岩本美樹, 菊池美美, 印出佑介, 朝倉禎史, 五十嵐美和, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 山口 暁, 鴨井青龍, 大秋美治¹⁾, 岡田 進²⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 千葉北総病院放射線科) : 癒着胎盤を合併した分葉胎盤の1例 : MTX化学療法による癒着胎盤の経時的変化. 日本産科婦人科学会千葉地方部会雑誌 2008 ; 1 (1) : 37-41.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 荏原弘光, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科) : accelerometerを用いた妊婦の1日当たりエネルギー消費量の検討. 第29回日本臨床栄養学会, 2007. 12.
- 2) 櫻村剛司¹⁾, 岡田 進¹⁾, 桑子智之¹⁾, 中條秀信¹⁾, 木島鉄仁¹⁾, 川俣博志¹⁾, 鴨井青龍, 大秋美治²⁾, 汲田伸一郎³⁾ (1) 千葉北総病院・放射線科, 2) 千葉北総病院・病理部, 3) 付属病院・放射線科) : 部位診断の困難であった, 脂肪を含む巨大な腹部腫瘍の1例. 第432回 日本医学放射線学会関東地方会, 2007. 12.
- 3) 朝倉禎史, 荏原弘光, 五十嵐美和, 印出佑介, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院産婦人科学) : 多周波数生体電気インピーダンス法によって妊婦体水分分布の動態変化は正当に評価されるか? . 第59回 日本産科婦人科学会総会・学術講演会, 2007. 4.
- 4) 荏原弘光, 印出佑介, 菊池美美, 朝倉禎史, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科) : 塩酸リトドリンによる肝機能障害で, 分娩転帰が決定された双胎妊娠の2症例. 第25回東京母性衛生学会, 2007. 5.
- 5) 荏原弘光, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行¹⁾, 杉山 隆²⁾, 佐川典正²⁾, 豊田長康²⁾, 上田康夫³⁾, 池田泰裕⁴⁾, 田代真希⁴⁾, 海野信也⁴⁾ (1) 付属病院女性診療科・産科, 2) 三重大学産婦人科学, 3) 兵庫県立柏原病院産婦人科, 4) 北里大学産婦人科学) : accelerometerを用いた妊婦の1日当たりエネルギー消費量の検討. 第31回日本産婦人科栄養・代謝研究会, 2007. 8.
- 6) 渡辺美千明, 小野修一, 朝倉禎史, 平泉良枝, 五十嵐健治, 荏原弘光, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院産婦人科) : 子宮腺筋症の子宮温存手術の試み : 吊り上げ法による腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術. 第114回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2007. 10.
- 7) 小野修一, 峯 克也¹⁾, 磯崎太一¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 稲川智子¹⁾, 平泉良枝, 里見操緒¹⁾, 石川 源¹⁾, 澤倫太郎¹⁾, 米山剛一¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院産婦人科) : 茎捻転により緊急開腹術に至った有茎性漿膜下筋腫合併妊娠の1例. 第114回日本産科婦人科学会 関東連合地方部会, 2007. 10.
- 8) 山下恵理子, 三浦 敦¹⁾, 岡部裕子¹⁾, 小野修一, 岩崎奈央¹⁾, 高屋 茜¹⁾, 山田 隆¹⁾, 市川雅男¹⁾, 石川源¹⁾, 米山剛一¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾ (1) 付属病院産婦人科) : 巨大卵巣カルチノイドの1例. 第114回日本産科婦人科学会 関東連合地方部会, 2007. 10.
- 9) 小野修一, 山下恵理子, 朝倉禎史, 平泉良枝, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 河村 堯, 鴨井青龍 : 最近経験した子宮腺肉腫の1例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会 平成19年度冬季学術講演会, 2008. 1.

14. 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

教室の主たる研究領域は、耳科学、めまい平衡医学、聴覚学、免疫・アレルギー学、頭頸部外科学、音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。また、その研究手法としては、生理学的、形態学的、免疫学的、分子生物的方法が駆使されている。

以下に示された英文・和文論文、学会発表で示されている通り、基礎的あるいは臨床的研究、症例検討等に関する業績の結果の提示が積極的に国内・国外に示されている。教室の活動も本邦に止まらず、海外へむけて大いに発展している。また、海外からの研究者も、教室で研究活動に従事している。これらの活動を援助するための、外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ、文部科学省研究費補助金や厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を多く獲得している。

国際学会や国内学会への参加と、発表も積極的に行われ成果を上げている。昨年5月からは、教室の八木が社団法人日本耳鼻咽喉科学会の理事長となり、本邦の耳鼻咽喉科の蛇取り役を委嘱された。また、昨年度から始めた日本医科大学・Soul National University 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 joint meeting の第3回ミーティングが東京で行われ、両大学の研究等の交流が行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hashiguchi K¹⁾, Tang H²⁾, Fujita T²⁾, Tsubaki S³⁾, Fujita M³⁾, Suematsu K³⁾, Gotoh M, Okubo K¹⁾ (Dept. of Otolaryngology, Kitasato Research Hospital, ²⁾ Sinryo Reinstu, ³⁾ Tokyo Clinical Pharmaceutical Laboratory) : Preliminary study on Japanese cedar pollinosis in an artificial exposure chamber (OHIO chamber). *Allergology International* 2007 ; 56 (2) : 125-130.
- 2) Pawankar R : Update on Inflammatory mechanisms in allergic rhinitis. *Curr Opin Allergy Clin Immunol* 2007 ; 7 (1) : 1-5.
- 3) Nonaka M, Fukumoto A¹⁾, Ogihara N, Pawankar R, Sakanushi A, Yagi T (¹⁾ Higashisaitama Hospital) : Expression of MCP-4 by TLR ligand-stimulated nasal polyp fibroblasts. *Acta Otolaryngol* 2007 ; 127 (12) : 1304-1309.
- 4) Yamauchi Y, Fujikura T, Shimosawa T¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Laboratory Medicine, The University of Tokyo) : The effect of H1 antagonists Carebastine and Olopatadine on histamine induced expression of CC chemokine in cultured human nasal epithelial cells. *Allergology International* 2007 ; 56 (2) : 171-177.
- 5) Pawankar R, Nonaka M : Inflammatory mechanisms and remodeling in chronic rhinosinusitis and nasal polyps. *Curr Allergy Asthma Reports* 2007 ; 7 (3) : 202-208.
- 6) Pawankar R, Lee K, Nonaka M, Takizawa R : Role of mast cells and basophils in chronic rhinosinusitis. *Clin Allergy Immunol* 2007 ; 20 : 93-101.
- 7) Nagakura T¹⁾, Ogino S, Sato N²⁾, Takahashi M³⁾, Ishikawa T³⁾ ⁴⁾ (¹⁾ Yoga Allergy Clinic, ²⁾ Osaka Univ, ³⁾ Novartis, ⁴⁾ Kumamoto Univ) : Omalizumab is more effective than suplatast tosilate in the treatment of Japanese cedar pollen-induced seasonal allergic rhinitis. *Clin Exp Allergy* 2007 ; 38 : 329-337.

- 8) Cruz A¹⁾, Popov T²⁾, Pawankar R, Annesi-Maesano I³⁾, Fokkens W⁴⁾, Kemp J⁵⁾, Ohta K⁶⁾, Price D⁷⁾, Bousquet J⁸⁾ (¹⁾ Federal University of Bahia School of Medicine, Salvador, Brazil, ²⁾ Clinic of Allergy and Asthma, Medical University Sofia, ³⁾ Inserm, Paris, ⁴⁾ Department of Otorhinolaryngology, Amsterdam Medical Centre, ⁵⁾ Dept. of Pediatrics, Division of Immunology and Allergy, University of California at San Diego, ⁶⁾ Dept. of Resp Medicine, Teikyo University, ⁷⁾ Dept. of General Practice and Primary Care, University of Aberdeen, ⁸⁾ Hopital Arnaud de Villeneuve, Centre Hospitalier Universitaire, Montpellier) : Common characteristics of upper and lower airways in rhinitis and asthma : ARIA update. *Allergy* 2007 ; 62 (84) : 1-41.
- 9) Hashimoto S¹⁾, Matsumoto K¹⁾, Gon Y¹⁾, Ichiwata T²⁾, Pawankar R, Takahashi N¹⁾ (¹⁾ Dept. of Resp Medicine, Nihon University, ²⁾ Dept. of Resp Medicine, Dokkyo University) : Update on airway inflammation and remodeling in asthma. *J World Allergy Org* 2007 ; 19 (5) : 178-184.
- 10) Orihara K¹⁾, Nakae S¹⁾, Pawankar R, Saito H¹⁾ (¹⁾ Allergy Research Centre, National Childrens Hospital) : Role of regulatory T cells and interleukin-17-producing helper T cells in allergic diseases. *WAO J* 2008 ; 1 (1) : 9-14.
- 11) Fukumoto A¹⁾, Nonaka M, Ogihara N, Pawankar R (¹⁾ Higashisaitama Hospital) : Induction of TARC production by lipopolysaccharide and interleukin-4 in nasal fibroblasts. *Int Arch Allergy Immunol* 2008 ; 145 (4) : 291-297.
- 12) Mizuta K¹⁾, Ikezono T²⁾, Iwasaki S¹⁾, Arai M¹⁾, Hashimoto Y¹⁾, Pawankar R²⁾, Watanabe T¹⁾, Shindob S²⁾, Mineta H¹⁾ (¹⁾ Department of Otolaryngology, Hamamatsu University School of Medicine, 1-20-1 Handayama, Hamamatsu 4, ²⁾ Department of Otolaryngology, Nippon Medical School, Japan) : Ultrastructural co-localization of cochlin and type II collagen in the rat semicircular canal. *Neuroscience Letters* 2008 ; 434 (1) : 104-107.
- 13) 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 島田健一, 酒主敦子, 斉藤明彦, 稲井俊太, 八木聰明, 牧野浩司¹⁾, 野村務¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学第1外科) : 下咽頭食道切除後の一期的再建術式の検討 : 胃管, 延長胃管, 遊離空腸 + 胃管の比較. *頭頸部癌* 2007 ; 33 (1) : 17-21.
- 14) 中溝宗永, 横島一彦, 島田健一, 斉藤明彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 中澤裕子, 八木聰明 : 下咽頭・頸部食道癌の切除範囲と遊離空腸による再建術式 : 嚥下機能からの検討. *頭頸部外科* 2007 ; 17 (1) : 35-40.
- 15) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 島田健一, 酒主敦子, 小津千佳, 斉藤明彦, 粉川隆行, 八木聰明 : 喉頭 : コ咽頭癌手術における甲状腺温存の意義. *頭頸部外科* 2007 ; 17 (1) : 47-50.
- 16) 後藤 稔, 大久保公裕, 八尾和雄¹⁾, 牧山 清²⁾, 大西正樹³⁾, 荒木 進⁴⁾, 西端慎一⁵⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学附属横浜クリニック, ²⁾ 駿河台日本大学病院, ³⁾ 大西耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 東京医科大学附属霞ヶ浦病院, ⁵⁾ 西端耳鼻咽喉科) : スギ花粉症における初期療法開始時期の検討 (2006年シーズン). *アレルギー・免疫* 2007 ; 14 (7) : 96-101.
- 17) 三枝英人 : 構音器官の運動性から考える : その評価法と新しいDysarthria治療の可能性. *音声言語医学* 2007 ; 48 (3) : 231-236.
- 18) 藤倉輝道 : 特色ある大学教育支援プログラム「人間関係教育を包含するチュートリアル教育 : 温かい心を持ち問題解決能力を備えた医師の育成」の総括 : マクマスター大学の革新的教育カリキュラムとチュートリアルの進化. *東京女子医科大学雑誌* 2007 ; 77 (8) : 424-428.
- 19) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 大久保公裕, 富山俊一, 八木聰明 : 内リンパ水腫モデル動物における蝸牛側壁のアポトーシス. *自律神経研究会* 2007 ; 21 : 59-62.
- 20) 渡邊健一, 山岸茂夫, 木村まき, 山内陽子, 山口 智, 青木秀治, 松本公司¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院病理部) : 外耳道骨腫の1症例. *耳喉頭頸* 2007 ; 79 (9) : 628-629.

- 21) 後藤 穰, 大久保公裕, 島田健一, 八木聰明, 奥田 稔: アレルギー免疫療法の普及をめざして: 現状と将来: スギ花粉症に対する舌下免疫療法. 耳鼻免疫アレルギー 2007; 25 (3): 257-261.
 - 22) 新藤 晋, 池園哲郎, 八木聰明: 迷路機種を伴った術後性外リンパ瘻の1例. 耳喉頭頸 2007; 79 (10): 725-729.
 - 23) 稲井俊太, 中溝宗永, 横島一彦, 島田健一, 斉藤明彦, 小津千佳, 酒主敦子, 粉川隆行, 八木聰明: 頸部リンパ節転移の進行度と下咽頭癌の予後の関係. 頭頸部癌 2007; 33 (3): 375-379.
 - 24) 三枝英人: 被裂軟骨脱臼の治療: 徒手整復の立場から. JOHNS 2007; 23 (11): 1677-1681.
 - 25) 橋口一弘¹⁾, 後藤 穰, 大久保公裕 (¹⁾ 北里研究所病院): ベシル酸ベボタスチンOD錠によるスギ花粉症の症状抑制効果. 新薬と臨床 2007; 56 (12): 81-90.
 - 26) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 小津千佳, 八木聰明: 両側頸部郭清術を併施した喉頭: コ咽頭切除後のiPTH値の経時推移. 頭頸部癌 2007; 33 (4): 499-502.
 - 27) 島田健一, 中溝宗永, 横島一彦, 小津千佳, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 八木聰明: 原発巣と頸部転移巣の進展度で比較した喉頭癌 Stage IV 症例の予後. 耳喉頭頸 2008; 80 (2): 153-157.
 - 28) 横島一彦, 中溝宗永, 酒主敦子, 稲井俊太, 横山有希子, 小町太郎, 八木聰明: 耳下腺深葉良性腫瘍手術後の顔面神経麻痺. 耳喉頭頸 2008; 80 (3): 209-212.
- (2) 総説:
- 1) Pawankar R, Takizawa R: Revisiting the link between allergic rhinitis and asthma. 2007; 7 (2): 77-79.
 - 2) Pawankar R: Evaluation and Management of Patients with Comorbid Asthma and Allergic Rhinitis. Allergy Special Symposium Proceedings 2007; 1: 1-6.
 - 3) Pawankar R: Leukotrienes in upper airway diseases. Allergy Special Symposium Proceedings 2007; 11-15.
 - 4) Canonica W¹⁾, Passacqua G²⁾, Lockey R³⁾, Pawankar R, Baena Cagnani C⁴⁾, Potter P⁵⁾ (¹⁾ University of Genoa, ²⁾ University of Genoa, ³⁾ University of South Florida College of Medicine, ⁴⁾ Catholic University of Córdoba, ⁵⁾ University of Cape Town): Current status of Allergen Immunotherapy around the Globe. J WAO 2007; 19 (3): 24-31.
 - 5) Naspitz C¹⁾, Pawankar R (¹⁾ Allergy & Immunology, Federal University of Sao Paulo): From Genetics and Inflammation to Disease and Therapeutics. J WAO 2007; 19 (5): 175-177.
 - 6) Pawankar R: Allergies affect quality of life and can be life-threatening. Health Newsletter- Allergy Series 2007; 1 (1): 1-4.
 - 7) 池園哲郎: COCH 遺伝子と cochlin 蛋白: 外リンパ瘻の診断における有用性. 日本耳鼻咽喉科学会専門医通信 2007; (90): 14-15.
 - 8) 後藤 穰: 症候からみた小児の診断学: 頭頸部の症候 鼻汁, 鼻閉. 小児科診療 2007; 70 (増刊): 375-377.
 - 9) 中溝宗永, 横島一彦, 小町太郎: 頬粘膜癌 late T2・T3 症例の治療. JOHNS 2007; 23 (4): 585-587.
 - 10) 三枝英人: 嚥下障害. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2007; 79 (5): 115-121.
 - 11) 後藤 穰: アレルギー相談室 Q&A. アレルギーの臨床 2007; 27 (5): 92.
 - 12) 後藤 穰: アレルギー性鼻炎. 総合臨床 2007; 56 (5): 1934-1938.
 - 13) 後藤 穰, 大久保公裕: アレルギー性鼻炎と自律神経. アレルギー・免疫 2007; 14 (7): 56-61.
 - 14) 後藤 穰: 花粉症の総合診療 (1): 花粉症はスギだけ?. Q&A でわかるアレルギー診療 2007; 3 (5): 522-526.
 - 15) 後藤 穰: 小児のアレルギー性鼻炎: 経口薬物療法. ENTONI 2007; (82): 27-31.
 - 16) 後藤 穰: 花粉症の総合診療 (2): 花粉症はスギだけ?. Q&A でわかるアレルギー診療 2007; 3 (6): 625-628.

- 17) 大久保公裕：スギ・ヒノキ花粉飛散の実際と花粉症の臨床. Q&Aでわかるアレルギー疾患 2007；3（5）：488-499.
 - 18) 後藤 穰：抗原特異的免疫療法のEBM. アレルギーの臨床 2007；27（7）：521-526.
 - 19) 後藤 穰：花粉症：花粉の防御. アレルギーの臨床 2008；28（1）：40-44.
 - 20) 後藤 穰：アレルギー疾患の性差：アレルギー性鼻炎の疫学：性差を中心に. アレルギー・免疫 2008；15（1）：36-42.
 - 21) 後藤 穰：舌下免疫療法のIL-10産生制御性T細胞を増加させ、抗原特異的T細胞寛容は免疫偏向を誘導する. 鼻アレルギーフロンティア 2008；8（1）：28-29.
 - 22) 藤倉輝道：持続性非アレルギー性鼻炎患者における局所IgE産生とそれに伴う鼻粘膜誘発試験の陽性所見. 鼻アレルギーフロンティア 2008；8（1）：26-27.
 - 23) 中村 毅, 後藤 穰：抗原特異的免疫療法は、季節性もしくは通年性の喘息の長期的な予防効果を持つ；PAT studyに関する10年のフォローアップ. 鼻アレルギーフロンティア 2008；8（1）：30-31.
 - 24) 大久保公裕：スギ花粉症の減感作療法（抗原特異的免疫療法）. 総合臨床 2008；57（1）：145-147.
 - 25) 大久保公裕：スギ花粉症に対する新たな抗原特異的免疫療法（減感作療法）. 小児科 2008；49（1）：61-68.
 - 26) 大久保公裕：花粉症：特集に寄せて. アレルギーの臨床 2008；28（1）：16-17.
 - 27) 大久保公裕：花粉症の新しい治療法. 日医雑誌 2008；136（10）：2000-2003.
 - 28) 奥田 稔, 大久保公裕：スギ花粉症の初期療法. 鼻アレルギーフロンティア 2008；8（1）：20-25.
 - 29) 後藤 穰：私のアレルギー診療 花粉症の総合的診療（3）：花粉症は治りますか？. Q&Aでわかる アレルギー疾患 2008；4（1）：92-95.
 - 30) 横島一彦, 中溝宗永, 八木聡明：頸部腫瘍のみを訴えた中咽頭癌症例：頸部腫瘍に対する初期対応を考える. 日医大医会誌 2008；4（1）：32-35.
 - 31) 後藤 穰：花粉症の総合診療（3）：花粉症は治りますか？. Q&Aでわかるアレルギー疾患 2008；4（1）：92-95.
 - 32) 後藤 穰：小児季節性アレルギー性鼻炎に対するオマリズマブの効果：ロイコトリエン遊離量を指標とする治療効果判定. アレルギーと神経ペプチド 2008；4：46-47.
 - 33) 藤倉輝道：アレルギー性鼻炎の薬物治療：抗ヒスタミン薬. 医薬ジャーナル 2008；44（3）：90-95.
 - 34) 大久保公裕：抗アレルギー薬の薬効メカニズム. 医薬ジャーナル 2008；44（3）：883-885.
 - 35) 大久保公裕：アレルギー疾患開発中治療薬の現状. IV耳鼻科2）アレルギー性鼻炎の新しい治療薬開発の現状：日本未承認の新しい鼻噴霧用ステロイド薬について. アレルギー・免疫 2008；15（3）：350-357.
 - 36) 大久保公裕：小児における鼻炎から副鼻腔炎. 東京小児科医学会会報 2008；96（3）：42-47.
- (3) 症例報告：
- 1) Nonaka M, Fukumoto A¹⁾, Nonaka R, Ozu C, Baba S⁽¹⁾ Higashisaitama Hospital)：A case of a mucocoele in an Onodi cell. J Nippon Med Sch 2007；74（4）：325-328.
 - 2) 三枝英人, 中村 毅, 愛野威一郎, 中溝宗永, 小町太郎, 粉川隆行, 松岡智治：頭頸部放射線治療後晩期に発症した進行性嚥下障害に対して桂枝人参湯[®]が有効であった1例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2007；79（8）：589-593.
 - 3) 中村 毅, 三枝英人, 愛野威一郎, 大久保公裕：長時間作用型吸入抗コリン薬（チオトロピウム[®]）による喉頭の乾燥症の1例. 日本気管食道科学会会報 2007；58（6）：533-536.
 - 1) 道下秀雄, 大西正樹, 秋山一男：通年性及び季節性アレルギー性鼻炎患者を対象としたセチリジン塩酸錠10mg「サワイ」の有効性及び安全性を検討する群内比較試験. アレルギーの臨床2007；27（12） 2007；65-74.
 - 2) 大西正樹：実地医家の皮内注射による免疫療法への評価. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー2007；25（3）（大西正樹）

2007 ; 267-271.

- 3) 大西正樹：鼻汁中好酸球検査とは？鼻汁中好酸球検査はどのように行われますか？. Q&Aでわかるアレルギー疾患 2007 ; vol 3 No 5 2007 ; 469-471.
- 4) 竹中 洋¹⁾, 大久保公裕, 春名眞一²⁾, 橋口一弘³⁾ (¹⁾ 大阪医大耳鼻科, ²⁾ 独協医大耳鼻科, ³⁾ 北里研究所耳鼻科)：花粉症を取り巻く諸問題：増加する小児の花粉症を中心に. 日医雑誌 2008 ; 136 (10) : 1937-1948.
- 5) 大西正樹：花粉症の予防薬. JIM 2008 ; 18 (2) : 170-174.

著 書

- 1) Pawankar R : [自著] Practical understanding of Allergy for GPs. A Pactical Guide for GPs, 2007 ; pp1-24, Creative Int.
- 2) Pawankar R, Lee K, Nonaka M, Takizawa R : [分担] Mast cells and basophils in CRS. Monograph on CRS (Hamilos D and Baroody F), 2007 ; pp91-101, Mercel Dekker.
- 3) Pawankar R : [分担] Targeting Local IgE synthesis in allergic airway disease - bench to bedside. Allergy Update Reviews, 2007 ; pp15-22, Med Int.
- 4) 大久保公裕 : [共著] 耳鼻咽喉科症状は気道をめぐる疾患を疑う重要なヒントになる. 内科, 小児科, 耳鼻咽喉科からみたOne Airway, One Disease (足立 満, 森川昭廣, 大久保公裕), 2008 ; pp7-7, McCann Healthcare World wide Japan, Inc.
- 5) 大久保公裕 : [自著] 花粉症に対しては下気道への影響を踏まえた治療戦略が求められる. 内科, 小児科, 耳鼻咽喉科からみたOne Airway, One Disease (足立 満, 森川昭廣, 大久保公裕), 2008 ; pp40-40, McCann Healthcare World wide Japan, Inc.
- 6) Pawankar R : [分担] Quality of life in Rhinitis and Rhinosinusitis . Advances in Allergy (Shah), 2008 ; pp33-42, Creative Int.
- 7) Pawankar R : [分担] Aspirin sensitivity : Pathomechanisms to management. About Allergy : Molecular mechanisms to clinical aspects (Creative Int), 2008 ; pp24-31.
- 8) Pawankar R : [自著] Burden of disease and Impact of Allergies in Asia Pacific. Asian Allergy Newsletter, 2008 ; Mrittika Int.
- 9) Pawankar R : [分担] Managing persistant allergic rhinitis. Update in Allergy, 2008 ; pp28-33, Creative Int.
- 10) Pawankar R : [分担] The Hygeine Hypothesis. Allergy Update Proceedings (Shah and Mehta), 2008 ; pp25-36, Int Med Publishers.
- 11) Pawankar R : [自著] Combined Allergic Respiratory Disease. A Hand book on Allergies, 2008 ; pp1-21, Creative Inter.
- 12) Pawankar R, Takizawa R, Nonaka M : [分担] Epithelial-mesenchymal interactions in airway disease. Respiratory Research Update (Mehta & Shah), 2008 ; pp31-37, Int Med.
- 13) Pawankar R : [共著] Non-Allergic Rhinitis- Classification and pathomechanisms. Respiratory Research Update (Mehta & Shah), 2008 ; pp51-58, Int Med.
- 14) Pawankar R, Takizawa R, Ozu C, Nonaka M : [分担] Do Viral Infections aggravate Allergies. Health Newsletter, 2008 ; pp5-7, Kaser Int.
- 15) 馬場俊吉¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院) : [分担] 第101回医師国家試験問題解説書, 2007 ; 医学評論社.
- 16) 馬場俊吉 : [共著] 3-II CBT こあかり プール 五肢択一形式編 C 人体各器官の正常構造と機能, 病態, 診断, 治療 (『CBT こあかりプール』編集委員会), 2007 ; pp450-463, 医学評論社.
- 17) 馬場俊吉¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院) : [分担] 3-IIICBTこあかりプール 五肢択一形式編 (『CBTこあかりプール』

編集委員会), 2007; 医学評論社.

- 18) 野中 学: [分担] 好酸球性副鼻腔炎の保存的治療. Johns, 2007; pp857-861, 東京医学社.
- 19) 大久保公裕: [分担] V2. 減感作療法. 臨床アレルギー学 改訂第3版 (宮本昭正), 2007; pp207-211, 南江堂.
- 20) 大西正樹: [自著] 臨床医からみた抗原特異的免疫療法. アレルギー・免疫 vol14No6, 2007; pp36-43, 医薬ジャーナル社.
- 21) 馬場俊吉¹⁾ (1) 千葉北総病院): [分担] 5 CBTこあかりり・コ2008 五肢択一形式編 (『CBTこあかりり・コ』編集委員会), 2007; 医学評論社.
- 22) 馬場俊吉: [分担] 6 CBTこあかりり・コ2008 連問形式編 (『CBTこあかりり・コ』編集委員会), 2007; 医学評論社.
- 23) 池園哲郎: [分担] 外リンパ瘻. 今日の治療指針2008年度, 2008; pp1096-1097, 医学書院.
- 24) 藤倉輝道: [分担] 鼻出血. 今日の治療指針2008 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢 他), 2008; pp1113-1114, 医学書院.
- 25) 野中 学: [分担] 副鼻腔炎. 今日の治療指針2008 (山口 徹 北原光夫 福井次矢), 2008; pp1099-1100, 医学書院.
- 26) 野中 学: [分担] 上気道から下気道までの気道粘膜. One Airway, One Disease, 2008; pp17-22, キョーリン製薬.
- 27) 大久保公裕: [分担] 花粉症. 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2008; pp608-608, 医学書院.
- 28) 足立 満¹⁾, 森川昭廣²⁾, 大久保公裕 (1) 昭和大学内科, 2) 群馬大学小児科): [共著] 特別座談会. 内科, 小児科, 耳鼻咽喉科からみたOne Airway, One Disease (足立 満, 森川昭廣, 大久保公裕), 2008; pp9-15, McCann Healthcare World wide Japan, Inc.
- 29) 大久保公裕: [共著] アスピリン喘息の診療ポイント: 耳鼻咽喉科領域の見地から. 内科, 小児科, 耳鼻咽喉科からみたOne Airway, One Disease (足立 満, 森川昭廣, 大久保公裕), 2008; pp59-63, McCann Healthcare World wide Japan, Inc.
- 30) 大久保公裕: [分担] 11耳鼻咽喉科用薬. 治療薬ハンドブック (高久史磨), 2008; pp189-194, じほう.
- 31) 三枝英人: [分担] 摂食・嚥下障害患者のリハビリテーション. 今日の治療指針2008 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2008; 医学書院.
- 32) 池園哲郎: [分担] 外リンパ瘻. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針第3版, 2008; pp168-169, 医学書院.
- 33) 野中 学: [分担] 鼻茸. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針第3版, 2008; pin press, 医学書院.
- 34) 大久保公裕: [自著] ササっとわかる最新「花粉症」治療法, 2008; 講談社.

学会発表

[追加分]

追加分シンポジウム:

- 1) Pawankar R, Ozu C, Takizawa R, Nonaka M, Mori S: Mucosal immunology of the upper airways and allergic inflammation: bench to bedside. The 11th Asia-Oceania Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery Congress (Pattaya, Thailand), 2007. 1.

(1) 特別講演:

- 1) Pawankar R: Role of Mast cells in allergic airway inflammation and remodelling. SK Malik Oration, PGI Chandigarh (Chandigarh, India), 2007. 4.

- 2) Pawankar R : The multifaceted roles of mast cells in allergic airway inflammation and remodelling. PGI Chandigarh Respiratory Seminar (Chandigarh, India), 2007. 4.
- 3) Pawankar R : Impact of Allergic Rhinitis on Asthma. Korean Allergy Society Congress (Seoul, Korea), 2007. 5.
- 4) Pawankar R : Evidence-based treatment of allergic rhinitis-ARIA. Is there a role for CAM?. Kyung Hee East West Oriental Medicine Symposium (Seoul, Korea), 2007. 5.
- 5) Pawankar R : Indications and efficacy of INCS in allergic rhinitis and rhinosinusitis. Annual scientific meeting of the Malaysia Society ORL-HNS 2007 (Cameron Highlands, Malaysia), 2007. 5.
- 6) Pawankar R : Evidence based treatment of allergic rhinitis and asthma. Johor Allergy Seminar (Johor Baru), 2007. 5.
- 7) Pawankar R : Are Allergic Rhinitis and Asthma manifestations of one syndrome : ARIA update. Annual Congress of the Singapore Society of Allergy & Immunology (Singapore), 2007. 7.
- 8) Pawankar R : Immunotherapy ; Present and Future. Satellite Symposium Singapore Society Allergy & Immunology (Singapore), 2007. 7.
- 9) Pawankar R : Inflammation and Remodelling in Allergic Airway Disease. XXXI Annual Meeting of the Argentinian Association of Allergy and Clinical Immunology & the Latin American Congress of Allergy & Immunology (Buenos Aires, Argentina), 2007. 8.
- 10) Pawankar R : Revisiting the link and Managing Co-morbid Allergic Rhinitis and Asthma. 12th ASEAN ORL-HNS Congress (Ho Chi Minh, Vietnam), 2007. 8.
- 11) Pawankar R : Immunotherapy : Past, Present and Future. Indian College of Allergy and Applied Immunology Congress, ICAAICON 2007 (New Delhi, India), 2007. 12.
- 12) Pawankar R : Inflammation and Remodelling in Allergic Airway disease. Key Note Lecture. Indian College of Allergy and Applied Immunology Congress, ICAAICON 2007 (New Delhi, India), 2007. 12.
- 13) Pawankar R : Allergy a systemic disease. The 2nd Allergy Seminar (Pune, India), 2007. 12.
- 14) Pawankar R : Managing allergic airway disease : From guidelines to the clinic. The 2nd Allergy Seminar (Pune, India), 2007. 12.
- 15) Pawankar R : Health Care and Education : Allergy and Chronic Respiratory Disease. 6th Pravasi Bharati Divas. Govt. of India (New Delhi), 2008. 1.
- 16) Pawankar R : Environment and Allergy. Allergy Update 2008 (Mumbai, India), 2008. 1.
- 17) Pawankar R : Prevention of Allergy and Asthma : A Reality or Myth. Allergy Update 2008 (Mumbai, India), 2008. 1.
- 18) Pawankar R : Medical management of Rhinosinusitis. ENT Seminar Series (Kochi, India), 2008. 1.
- 19) Pawankar R : Concepts on managing AR and comorbid asthma : ARIA update 2008. 9th Congress of the Malaysian Society of Allergy & Immunology (Juala Lumpur, Malaysia), 2008. 3.
- 20) Pawankar R : Immunotherapy : Historical perspective to the future. 9th Congress of the Malaysian Society of Allergy & Immunology (Kuala Lumpur, Malaysia), 2008. 3.
- 21) 三枝英人 : 胃食道逆流による咽喉頭症状の発現 : 咽喉の成り立ちから考える. 第2回山形県GERD研究会 (山形市), 2007. 8.
- 22) 横島一彦, 中溝宗永, 稲井俊太, 酒主敦子, 島田健一, 小津千佳, 八木聰明 : 両側頸部郭清術を併施した下咽喉頭癌手術後のiPTH値の経時推移. 第31回日本頭頸部癌学会, 2007. 6.
- 23) 三枝英人 : 声の共鳴腔 (咽喉) について. 第25回日本発声指導者協会研究会 (東京都), 2007. 6.
- 24) 三枝英人 : 嚥下障害の成り立ちを考える. 第365回富士宮市医師会学術講演会 (富士宮市), 2007. 6.

- 25) 八木聰明：日耳鼻の当面する諸問題．第56回日耳鼻東北地方部会連合学術講演会，2007．7．
 - 26) 八木聰明：めまいと眼球運動．岡山大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科集談会，2007．9．
 - 27) 後藤 稔：鼻アレルギー治療における抗ヒスタミン薬の位置づけ．第5回札幌耳鼻咽喉科疾患研究会，2007．9．
 - 28) 後藤 稔：鼻アレルギー治療における抗ヒスタミン薬の位置づけ．日本耳鼻咽喉科学会神奈川地方部会学術集会，2007．11．
 - 29) 三枝英人：ヒトの嚥下の成り立ちについて考える：嚥下障害と胃食道逆流症．第1回山陰摂食・嚥下研究会（米子市），2007．11．
 - 30) 後藤 稔：花粉症治療の最近の話題：抗ロイコトリエン薬による初期療法について．埼玉アレルギー性鼻炎フォーラム2008，2008．1．
 - 31) 三枝英人：嚥下障害の成り立ちとその対応．関東栄養療法研究会第二期生スキルアップセミナー（東京都），2008．1．
 - 32) 三枝英人：嚥下とその成り立ちを考える．第13回大宮医師会医学講座（さいたま市），2008．1．
 - 33) 後藤 稔：鼻アレルギーの最近のトピックス．沖縄県耳鼻咽喉科医会講演会，2008．2．
 - 34) Pawankar R：アレルギー性鼻炎の診断と治療．第13回阪神アレルギー疾患研究会，2008．2．
 - 35) 三枝英人：胃食道逆流症とその成り立ちを考える．第37回富山県耳鼻咽喉科臨床研究会（富山市），2008．2．
- (2) 招待講演：
- 1) Okubo K：Treatment of dacryocystitis due to nasolacrimal duct obstruction．16th international course on endoscopic surgery of the nose and paranasal sinuses（Seoul, Korea），2007．4．
 - 2) Pawankar R：Targeting CCRs in the management of allergic diseases．Update in Allergy Research（London, UK），2007．7．
- (3) 教育講演：
- 1) 池園哲郎：外リンパ液・脳脊髄液の漏出によるめまい．第66回日本めまい平衡医学会総会教育講演，2007．11．
 - 2) 三枝英人：嚥下障害の評価I．第52回日本音声言語医学会総会・学術講演会ポストコンgresセミナー（所沢市），2007．11．
 - 3) 三枝英人：解剖・系統発生：発声・発語器官，嚥下関連器官の形態と発生学的背景．平成19年度音声言語機能等判定意思講習会（所沢市），2008．2．
 - 4) 三枝英人：GERDによる咽頭喉頭異常：喉頭狭窄，喉頭痙攣など．第23回重症障害児（者）医療講習会（東京都），2008．3．
- (4) シンポジウム：
- 1) Okubo K：The future is with sublingual immunotherapy．Session 4 in International Symposium on Immunotherapy．World Allergy Congress 2007（Bangkok, Thai），2007．4．
 - 2) Pawankar R：ARIA Update．The 2007 Annual meeting of the British Society of Allergy & Clinical Immunology（Loughborough, UK），2007．7．
 - 3) Pawankar R, Masuno S, Nonaka M, Ozu C：Immunologic and allergic aspects of nasal polyp and rhinosinusitis．XXXI Annual Meeting of the Argentinian Association of Allergy and Clinical Immunology & the Latin American Congress of Allergy & Immunology（Buenos Aires, Argentina），2007．8．
 - 4) Pawankar R：Nasal polyps：what do we know and what are the puzzles?．12th ASEAN ORL-HNS Congress（Ho Chi Minh, Vietnam），2007．8．
 - 5) Okubo K, Gotoh M, Okamoto Y¹⁾（¹⁾ Department of Otolaryngology, Chiba Univ）：The clinical role and efficacy of pranlukast on allergic rhinitis．Symposium；The role of leukotrien receptor antagonist on bronchial asthma and allergic rhinitis．World Allergy Congress 2007（Bangkok, Thai），2007．9．
 - 6) Pawankar R, Nonaka M, Ozu C, Takizawa R：Allergy & Co-morbid Asthma．National Association of Pul-

- monologists Congress, NAPCON 2007 (Chandigarh, India), 2007. 11.
- 7) Pawankar R : Allergic Rhinitis and Asthma : Management Present & Future. 12th Asian Research Symposium in Rhinology (Manila, Phillipines), 2007. 11.
 - 8) Pawankar R : Role of mast cells in nasal polyp : molecular mechanisms. 12th Asian Research Symposium in Rhinology (Manila, Phillipines), 2007. 11.
 - 9) Pawankar R : Allergic rhinitis and its Impact on Asthma. The 11th Asia-Oceania Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery Congress. (Pattaya, Thailand), 2007. 11.
 - 10) Okubo K : The effect of new generation anti-histamine for pollinosis patients -artificial exposure chamber-Symposium ; new insights of anti-histamines. World Allergy Congress 2007 (Bangkok, Thai), 2007. 12.
 - 11) Pawankar R : Does Fungal Rhinosinusitis Exist : Pro. XXth World Allergy Congress (Bangkok), 2007. 12.
 - 12) Pawankar R : Impact of ARIA on Rhinitis Treatment. XXth World Allergy Congress (Bangkok, Thailand), 2007. 12.
 - 13) Pawankar R : World Allergy Day : Impact of Allergy in Asia Pacific. XXth World Allergy Congress (Bangkok, Thailand), 2007. 12.
 - 14) Pawankar R : Allergic Rhinitis and Asthma in Asia Pacific and the ARIA Update. XXth World Allergy Congress (Bangkok, Thailand), 2007. 12.
 - 15) Pawankar R, Nonaka M, Masuno S : Inflammation & Remodelling in Nasal polyps. XXth World Allergy Congress (Bangkok, Thailand), 2007. 12.
 - 16) Pawankar R : Allergy Future Perspectives. 12th International Rhinology Congress (Venice, Italy), 2007. 12.
 - 17) Pawankar R : Outcomes in Allergy & Quality of Life : Impact of AR and Asthma on QOL. International Rhinology Congress, Venice, 2007. 12th International Rhinology Congress (Venice, Italy), 2007. 12.
 - 18) Pawankar R : Are allergic rhinitis and asthma manifestations of one syndrome? Revisiting the link. APSR-ESAP Seminar - New Horizons in Asthma/COPD, 2007. 5.
 - 19) 後藤 穰, 島田健一, 大久保公裕, 奥田 稔 : アレルギー性鼻炎・結膜炎診療の諸問題根治療法. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007. 6.
 - 20) 三枝英人 : 気管切開下患者に対する新しい代用音声機器の開発. 第1回学術シンポジウム (東京都), 2007. 9.
 - 21) 富山俊一 : 内耳免疫現象によるめまい発症について (めまいの発症機序を考える). 第66回日本めまい平衡医学会, 2007. 11.
 - 22) 後藤 穰, 大久保公裕 : 花粉症の最新治療第2世代抗ヒスタミン薬. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2007. 11.
 - 23) 横島一彦, 中溝宗永, 八木聡明 : 下咽頭頸部食道癌の治療戦略 : 下咽頭—柏H道癌手術における甲状腺—寫b 甲状腺機能温存. 第59回日本気管食道科学会, 2007. 11.
 - 24) 大久保公裕, 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎における免疫療法の現状と将来展望. シンポジウム13アレルギー治療における免疫療法の現状と将来展望. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2007. 11.
 - 25) 大久保公裕, 荻野 敏¹⁾, 永倉俊和²⁾, 石川 哮³⁾ (1) 大阪大学保健, 2) 用賀アレルギークリニック, 3) 熊本大学) : 抗IgE療法. 日本獣医学会 微生物分科会シンポジウムII. 生物製剤を用いたアレルギー疾患の治療に向けたアプローチ. 第145回日本獣医学会, 2008. 3.
- (5) セミナー :
- 1) Yagi T : Vertigo and eye movements. The 11th Asia-Oceania Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery Congress. (Pattaya, Thailand), 2007. 11.

- 2) 中溝宗永：口腔・咽頭癌早期診断のこつ。東京都地方部会 第9回臨床学習セミナー，2007. 9.
- 3) 後藤 穰：アレルギー性鼻炎・花粉症：最近のトピックス。第44回日本小児アレルギー学会，2007. 12.
- (6) 一般講演：
- 1) Okubo K, Gotoh M, Okamoto Y¹⁾ (1) Department of Otolaryngology, Chiba Univ) : Double blind comparative study of pranlukast hydrate as initial treatment of cedar pollinosis. 12th Japan-Korea Joint meeting of otolaryngology-head and neck surgery (Nara, Japan), 2007. 3.
 - 2) 三枝英人, 愛野威一郎, 中村 毅, 小町太郎, 山口 智, 松岡智治 : How to diagnose and treat arytenoid cartilage subluxation. The 3rd Nippon Medical School-Seoul National University Joint Meeting in ORL-HNS (日本), 2007. 6.
 - 3) 池園哲郎, 新藤 晋, 関口沙登美¹⁾, 李 麗淑, Pawankar R, 八木聰明 (1) 三菱化学メディエンス) : A Novel Perilymph-Specific Protein for PLF Diagnosis. 2007年AAOアメリカ耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会年次総会 (ワシントンD.C.), 2007. 9.
 - 4) 新藤 晋, 池園哲郎, 八木聰明 : Isoform-Specific Analysis of Cochlin in the Developing Rat. 2007年AAOアメリカ耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会年次総会 (ワシントンD.C.), 2007. 9.
 - 5) Watanabe K, Inai S, Jinnouchi K, Baba S, Yagi T : Age-related apoptotic change in the cochlear lateral wall of mice. 43rd Inner Ear Biology Workshop (London, UK), 2007. 9.
 - 6) Yokoyama Y¹⁾, Pawankar R, Ozu C²⁾, Ikezono T, Nonaka M²⁾, Yagi T (1) 千葉北総病院耳鼻咽喉科, 2) 多摩永山病院耳鼻咽喉科) : Mechanisms of eosinophil infiltration in the middle ear of patients with eosinophilic otitis media. XXth World Allergy Congress (Bangkok Thailand), 2007. 12.
 - 7) Ozu C, Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Nonaka M, Yagi T : Mechanisms of mast cell migration into the allergic nasal epithelium . XXth World Allergy Congress (Bangkok, Thailand), 2007. 12.
 - 8) Mori S, Pawankar R, Ozu C, Takizawa R, Nonaka M, Yagi T : Expression of matrix metalloproteinase 2, 9, 13, TIMP 1, 2 in the allergic nasal mucosa. XXth World Allergy Congress (Bangkok, Thailand), 2007. 12.
 - 9) Pawankar R : IgE from bench to clinic- Indications of Anti-IgE in allergic rhinitis and comorbid asthma. Update in Allergy and Clinical Immunology (Mumbai, India), 2007. 12.
 - 10) 横山有希子, 横島一彦¹⁾, 中澤裕子²⁾, 草間 薫¹⁾, 馬場俊吉¹⁾, 八木聰明, 森 幸子 (1) 千葉北総病院耳鼻咽喉科, 2) 海老名総合病院耳鼻咽喉科) : トリクロロール酢酸による化学焼灼を施行した先天性梨状窩瘻4症例の検討。日本耳鼻咽喉科学会総会, 2007. 5.
 - 11) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 愛野威一郎, 松岡智治, 横山宗伯¹⁾ (1) 病理部) : 声門下に発生した異所性唾液腺症の1例。第59回日本気管食道科学会総会学術講演会, 2007. 11.
 - 12) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 桃井貴裕 : 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーにより反回神経麻痺を生じた1例。第20回日本喉頭科学会総会学術講演会, 2008. 3.
 - 13) Nonaka M : TARC synthesis by nasal and lung fibroblasts. 2nd Airway Mucosal Immunology Study-Group meeting, 2008. 2.
 - 14) 大久保公裕, 奥田 稔 : 通年性アレルギー性鼻炎におけるフルチカゾンフランカルボン酸エステル (FF) 点鼻液の至適要領の検討。第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2007. 1.
 - 15) 池園哲郎, 新藤 晋, 李 麗淑, 関根久遠, 小泉康雄, 斉藤明彦, 小津千佳, 杉崎一樹, 中村 毅, 椎葉恭子, 中澤裕子, 八木聰明 : 中耳真珠腫による内耳瘻孔深達度の新しい診断法。第108回日本耳鼻咽喉科学会総会学術講演会 (金沢), 2007. 4.
 - 16) 小町太郎, 三枝英人, 中村 毅, 愛野威一郎, 山口 智 : 陳旧性披裂軟骨 (輪状披裂関節) 脱臼症の治療法について。全日本音声外科研究会, 2007. 4.
 - 17) 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 愛野威一郎, 山口 智, 松岡智治 : 病態の説明のみで完治した機能性閉鼻声

- の1例. 第16回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 2007. 4.
- 18) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 愛野威一郎, 松岡智治: 顎関節脱臼による特異な嚥下障害の1例. 第16回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 2007. 4.
 - 19) 富山俊一, 齊藤明彦¹⁾, 荻原 望, 小津千佳, 野中 学, 酒主敦子, 島田健一⁽¹⁾ 東根市立病院耳鼻咽喉科): 急性低音型感音難聴の内耳自己免疫傷害病因. 第108回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2007. 5.
 - 20) 中澤裕子, 中溝宗永, 横島一彦, 酒主敦子, 稲井俊太, 島田健一, 八木聰明: 顎下腺腫瘍に対する術式選択. 第108回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2007. 5.
 - 21) 稲井俊太, 中溝宗永, 横島一彦, 島田健一, 酒主敦子, 八木聰明: FDG-PET/CTで発見された喉頭形質細胞腫の1例. 第31回日本頭頸部癌学会, 2007. 6.
 - 22) 小津千佳, 中溝宗永, 横島一彦, 酒主敦子, 稲井俊太, 島田健一, 八木聰明: 中咽頭Neuroendocrine cell tumorの1例. 第31回日本頭頸部癌学会, 2007. 6.
 - 23) 小町太郎, 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 稲井俊太, 島田健一, 酒主敦子, 八木聰明: 上咽頭多形腺腫内 Epithelial Myoepithelial Carcinomaの1例. 第31回日本頭頸部癌学会, 2007. 6.
 - 24) 横島一彦, 中溝宗永, 酒主敦子, 稲井俊太, 横山有希子, 杉崎一樹, 小町太郎, 八木聰明: 耳下腺深葉良性腫瘍手術後の顔面神経麻痺. 第108回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2007. 6.
 - 25) 橋口一弘¹⁾, 藤田俊雄²⁾, 末松潔親²⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 北里研究所耳鼻科, ²⁾ 東京臨床薬理): OHIO chamber の validation 試験: 花粉暴露数の違いによる症状出現について. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007. 6.
 - 26) 湯 懐鵬¹⁾, 藤田俊雄¹⁾, 瀬田晃広¹⁾, 福井雅英¹⁾, 山田真知子²⁾, 末松潔親²⁾, 橋口一弘³⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 新菱冷熱, ²⁾ 東京臨床薬理, ³⁾ 北里研究所耳鼻科): スギ花粉の粒径分布・粒子密度・沈降速度および濃度測定法: OHIO chamberのための基礎研究. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007. 6.
 - 27) 清水聡子¹⁾, 橋口一弘²⁾, 松田京子¹⁾, 湯 懐鵬³⁾, 前田幸俊³⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 東京臨床薬理, ²⁾ 北里研究所耳鼻科, ³⁾ 新菱冷熱): OHIO chamberのエアシャワーの効果: 試験着に付着したスギ花粉数の検討から. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2007. 6.
 - 28) 小町太郎, 三枝英人, 中村 毅, 馬場俊吉: 陳旧性披裂軟骨(輪状披裂関節)脱臼症の治療法について. 第71回日耳鼻千葉県地方部会, 2007. 6.
 - 29) 中溝宗永, 横島一彦, 小津千佳, 島田健一, 稲井俊太, 酒主敦子, 八木聰明: Maxillary Swing Approachにより摘出した上咽頭粘表皮癌の1例. 第19回日本頭蓋底外科学会, 2007. 7.
 - 30) 三枝英人, 田沼久美子¹⁾, 田沼 裕²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学解剖学(生体構造学), ²⁾ 帝京大学解剖学): ヒト舌の後方運動についての解剖学的研究. 第11回臨床解剖研究会, 2007. 7.
 - 31) 福元 晃¹⁾, 野中 学, 荻原 望, 酒主敦子, Pawankar R, 八木聰明⁽¹⁾ 東埼玉病院): Poly (I : C) , IL-4, TNF- α 混合刺激による鼻茸線維芽細胞からのTARC過剰産生. 第46回日本鼻科学会, 2007. 9.
 - 32) 野中 学, 酒主敦子, 小津千佳, 福元 晃¹⁾, 荻原 望, Pawankar R, 八木聰明⁽¹⁾ 東埼玉病院): 好酸球性副鼻腔炎の抗ロイコトリエン薬とステロイド点鼻併用治療: 鼻茸消失例と残存例の比較検討. 第46回日本鼻科学会, 2007. 9.
 - 33) 荻原 望, 野中 学, 福元 晃¹⁾, 小津千佳, 野中玲子, 馬場俊吉, 八木聰明⁽¹⁾ 東埼玉病院): Onodi蜂巣に生じた原発性副鼻腔嚢胞の1症例. 第46回日本鼻科学会, 2007. 9.
 - 34) 大久保公裕, 後藤 穰: 花粉症の鼻・眼以外の症状. 第46回日本鼻科学会, 2007. 9.
 - 35) 橋口一弘¹⁾, 湯 懐鵬²⁾, 末松潔親³⁾, 大久保公裕⁽¹⁾ 北里研究所耳鼻科, ²⁾ 新菱冷熱, ³⁾ 東京臨床薬理): OHIO chamber の validation 試験: 冬季におけるスギ花粉暴露試験による症状出現について. 第46回日本鼻科学会, 2007. 9.
 - 36) 富山俊一, 國友万由美¹⁾, 齊藤明彦²⁾, 荻原 望, 野中 学, 小津千佳⁽¹⁾ 大宮中央総合病院耳鼻咽喉科,

- 2) 東根市立病院耳鼻咽喉科)：内耳自己免疫病の治療経験。第17回日本耳科学会総会，2007。10。
- 37) 長谷川純，池園哲郎，新藤 晋，八木聰明：末梢性顔面神経麻痺の血清抗体価による分類についての検討。第17回日本耳科学会総会，2007。10。
- 38) 杉崎一樹，池園哲郎，新藤 晋，稲井俊太，渡辺 淳，八木聰明：耳硬化症の3姉妹。第17回日本耳科学会総会，2007。10。
- 39) 新藤 晋，池園哲郎，関根久遠，李 麗淑，八木聰明：感音成分憎悪のないアブミ骨外傷による外リンパ瘻確実例。第17回日本耳科学会総会，2007。10。
- 40) 渡邊健一，稲井俊太，八木聰明：プラチナ製剤による蝸牛障害の差異に関する検討。第17回日本耳科学会総会，2007。10。
- 41) 山口 智，三枝英人，中村 毅，小町太郎，愛野威一郎：茵ちん五苓散が有効であった唾液分泌過多症。第23回日本耳鼻咽喉科漢方研究会，2007。10。
- 42) 三枝英人，山口 智，中村 毅，小町太郎：嚥下障害で発症した慢性期統合失調症患者における重症筋無力症の1例。第12回北区医師会学術講演会，2007。10。
- 43) 小泉康雄，杉崎一樹，八木聰明：温度眼振はリスティングの法則に従うか。第66回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会，2007。11。
- 44) 後藤 稔，大久保公裕：花粉曝露室による第2世代抗ヒスタミン薬の薬効評価。第60回臨床アレルギー研究会，2007。11。
- 45) 野中 学，福元 晃¹⁾，荻原 望，酒主敦子，Pawankar R (1) 東埼玉病院)：Poly (I：C)，IL-4，TNF- α 混合刺激による鼻茸線維芽細胞からのTARC過剰産生。第57回日本アレルギー学会秋季学術大会，2007。11。
- 46) 杉崎一樹，小泉康雄，八木聰明：両眼同時記録によるOCRの3次元解析。第66回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会，2007。11。
- 47) 湯 懐鵬¹⁾，藤田俊雄¹⁾，瀬田晃広¹⁾，山田真知子²⁾，末松潔親²⁾，橋口一弘³⁾，大久保公裕 (1) 新菱冷熱，2) 東京臨床薬理，3) 北里研究所耳鼻科)：ヒノキを用いた暴露試験について：基礎検討およびOHIO chamberにおける予備試験結果。第57回日本アレルギー学会秋季学術大会，2007。11。
- 48) 大久保公裕，奥田 稔：通年性アレルギー性鼻炎におけるフルチカゾンフランカルボン酸エステル (FF) 点鼻液の長期投与試験。第57回日本アレルギー学会秋季学術大会，2007。11。
- 49) 大久保公裕，馬場廣太郎¹⁾，佐橋紀夫²⁾ (1) 独協医大，2) 東邦大学薬学)：モンテルカストの季節性アレルギー性鼻炎に対する効果。第57回日本アレルギー学会秋季学術大会，2007。11。
- 50) 大久保公裕，奥田 稔：新規合成副腎皮質ステロイド薬フルチカゾンフランカルボン酸エステル (FF) 点鼻液とフルナーゼ (FP) の臨床的比較。第57回日本アレルギー学会秋季学術大会，2007。11。
- 51) 小津千佳，Pawankar R，滝沢竜太，斉藤博久¹⁾，山岸茂夫，野中 学，八木聰明 (1) 国際生育医療センター研究所免疫アレルギー研究部)：アレルギー性鼻炎患者の鼻粘膜上皮層におけるマスト細胞の遊走機序。第57回日本アレルギー学会秋季学術大会，2007。11。
- 52) 森 幸子，Pawankar R，小津千佳，滝沢竜太，八木聰明：鼻アレルギー患者の鼻粘膜におけるMMP2, 9, 13とTIMPの検討。57回日本アレルギー学会秋季学術大会，2007。11。
- 53) 小町太郎，三枝英人，山口 智，中村 毅，愛野威一郎，粉川隆行：診断・治療に苦慮した慢性咳嗽の1例。第9回日本咳嗽研究会，2007。11。
- 54) 重見大介¹⁾，志摩綾香¹⁾，大塚英恵¹⁾，三枝英人，中村 毅，山口 智 (1) 日本医科大学医学部4年生 (臨床配属コース))：嚥下時の舌骨上・下筋群の体位，頭位による筋活動の変化。第52回日本音声言語医学会総会学術講演会，2007。11。
- 55) 三枝英人，田沼久美子¹⁾，田沼 裕²⁾ (1) 日本医科大学解剖学 (生体構造学)，2) 帝京大学解剖学)：舌咽神経の末梢分布について：特に筋支配について。第52回日本音声言語医学会総会学術講演会，2007。11。

- 56) 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 山口 智, 愛野威一郎, 松岡智治: 喉頭挙上に左右差があることに起因した嚥下障害に対する一側喉頭挙上術時の工夫. 第59回日本気管食道科学会総会学術講演会, 2007. 11.
- 57) 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 小津千佳, 稲井俊太, 酒主敦子, 八木聰明: 下咽頭・頸部食道癌の切除範囲と遊離空腸による再建術式: 摂食状況からの検討. 第18回日本頭頸部外科学会, 2008. 1.
- 58) 稲井俊太, 中溝宗永, 横島一彦, 杉崎一樹, 増野 聡, 八木聰明: 副咽頭間隙に進展した悪性腫瘍2例: 術式と術後治療の選択. 第18回日本頭頸部外科学会, 2008. 1.
- 59) 酒主敦子, 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 稲井俊太, 杉崎一樹, 八木聰明: 耳下腺良性腫瘍の術後顔面神経麻痺: 病理診断別発症率と様相. 第18回日本頭頸部癌学会, 2008. 1.
- 60) 横島一彦, 中溝宗永, 粉川隆行, 稲井俊太, 小津千佳, 酒主敦子, 八木聰明: 喉頭下咽頭癌術後のiPTH値とカルシウム補正の必要性. 第18回日本頭頸部外科学会, 2008. 1.
- 61) 中村 毅, 三枝英人, 小町太郎, 酒主敦子, 後藤 穰, 馬場俊吉: 長時間作用型吸入抗コリン薬 (チオトロピウム®) による喉頭の乾燥症の1例. 第72回日耳鼻千葉県地方部会学術講演会 (千葉県千葉市), 2008. 1.
- 62) 三枝英人, 愛野威一郎, 中村 毅, 小町太郎, 山口 智, 桃井貴裕: 嚥下に伴うジストニアと考えられる症候を示す症例について. 第31回日本嚥下医学会, 2008. 2.
- 63) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 愛野威一郎, 大前由紀雄¹⁾ (¹⁾ 大生病院耳鼻咽喉科): 輪状咽頭筋に対する神経過誤支配により嚥下不能を来した1例. 第31回日本嚥下医学会, 2008. 2.

15. 泌尿器科学講座

[付属病院泌尿器科]

研究概要

泌尿器男性生殖器科のなかで腹腔鏡下手術および腫瘍の基礎的研究として低酸素応答因子に関して研究している。臨床においては特に前立腺癌の腹腔鏡下手術に力を入れており、術式の改良に努めている。低酸素応答因子に関しては特に腎細胞癌の治療に応用すべく研究している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Horii K, Suzuki Y, Kondo Y, Akimoto M, Nishimura T, Yamabe Y, Sakaue M, Sano T, Kitagawa T, Himeno S, Imura N, Hara S (1) Dept. of Public Health, Kitasato University) : Androgen-Dependent gene expression of prostate-specific antigen is enhanced synergistically by hypoxia in human prostate cancer cell. *Mol Cancer Res* 2007 ; 5 (4) : 383-391.
- 2) Marumo K¹⁾, Kanayama H²⁾, Miyao N³⁾, Nakazawa H⁴⁾, Ozono S⁵⁾, Horie S⁶⁾, Nagamori S⁷⁾, Igarashi T⁸⁾, Hasegawa M⁹⁾, Kimura G, Nakao M¹⁰⁾, Nakamoto T, Naito S, The Japanese Study Group A (1) Department of Urology, Tokyo Dental College, Ichikawa General Hospital, (2) Department of Urology, The University of Tokushima, School of Medicine, (3) Department of Urology, Muroran City General Hospital, (4) Department of Urology, Tokyo Women's Medical University, Medical Center East, (5) Department of Urology, Hamamatsu University, School of Medicine, (6) Department of Urology, Teikyo University, School of Medicine, (7) Department of Urology, National Hospital Organization, Hokkaido Cancer Center, (8) Department of Urology, Research Center for Frontier Medical Engineering, (9) Department of Urology, Morioka Red Cross Hospital, (10) Department of Urology, Meiji University of Oriental Medicine) : Prevalence of renal cell carcinoma : A nation-wide survey in Japan, 2002. *Int J Urol* 2007 ; 14 (6) : 479-482.
- 3) Tsuboi N, Nishimura T, Chen H¹⁾, Norose Y²⁾, Shimizu M²⁾, Kondo Y, Kimura G, Fukuda Y³⁾ (1) Department of Urology, Second Hospital, Xi'an jiaotong University, China, (2) Department of Bioregulatory Science, Graduate School of Medicine, (3) Department of Analytic Human Pathology, Graduate School of Medicine) : Relation of leukocytosis in prostatic fluid and inflamed prostatic tissue. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (3) : 210-216.
- 4) Imamoto T¹⁾, Kondo Y, Matsuzawa I, Hamasaki T, Suzuki Y, Saitoh Y, Suzuki H¹⁾, Kimura G¹⁾, Ichikawa T, Yoshida K, Nishimura T (1) Dept. of Urology, Chiba University) : Usefulness of intensive training for laparoscopic radical prostatectomy at an experienced institution. *Jpn J Endourol ESWL* 2007 ; 20 : 255-259.
- 5) 富田祐司, 根本 勺¹⁾, 木全亮二²⁾, 清水宏之³⁾, 松沢一郎, 西村泰司 (1) 国立病院機構函館病院泌尿器科, (2) 北村山公立病院泌尿器科, (3) はせがわ病院泌尿器科) : 膀胱結石 54 例の臨床的検討 : 北村山公立病院における 12 年間の検討. *西日本泌尿器科* 2007 ; 69 (11) : 627-630.
- 6) 寺地敏郎¹⁾, 颯川 晋²⁾, 川端 岳³⁾, 近藤幸尋, 中川 健⁴⁾, 田中正利⁵⁾ (1) 東海大学医学部泌尿器科, (2) 東京慈恵会医科大学泌尿器科, (3) 関西労災病院泌尿器科, (4) 慶応義塾大学医学部泌尿器科, (5) 福岡大学医学部泌尿器科) : 特集 1 : 前立腺癌に対する Minimally Invasive Therapy のエビデンス 腹腔鏡下根治的前立腺摘除術

の位置付け－ガイドライン作成の立場から：Jpn J Endourol ESWL 2007；20：150-155.

7) 近藤幸尋：当科における膀胱腫瘍の治療方針. Immunobladder News 2007；3：21-36.

(2) その他

1) 近藤幸尋, 西村泰司：セミナー；新しい手術機器の応用3モノポーラ型電気メスおよびバイポーラ型電気メス. 臨床泌尿器科 2007；61 (9)：705-711.

2) 近藤幸尋, 西村泰司：泌尿器科救急血尿. 臨床泌尿器科 2007；61 (13)：1101-1106.

3) 近藤幸尋, 西村泰司：前立腺癌：基礎・臨床研究のアップデート：II臨床研究 治療 外科治療手術の合併症とその対策前立腺全摘除術における周術期合併症とその対策. 日本臨床 2007；65 (増刊号10)：335-343.

4) 近藤幸尋, 西村泰司：特集：ここが聞きたい泌尿器科処理・手術とトラブル対処法泌尿器科処置 尿道ブジー p82. 臨床泌尿器科 2007；61 (増刊号)：82-82.

著 書

〔追加分〕

追加分：

1) 近藤幸尋, 西村泰司：〔自著〕特集：前立腺全摘除術：機能温存のための工夫：私はこうしている：腹腔鏡下前立腺全摘除術後の機能温存の工夫. ウロロジービュー, 2007；pp66-70, メディカルビュー社.

1) 近藤幸尋, 清水宏之¹⁾, 沖 守¹⁾, 長谷川潤¹⁾, 西村泰司⁽¹⁾ はせがわ病院泌尿器科)：〔自著〕ESWL目的患者における尿路腫瘍合併. 泌尿器外科, 2007；pp485-486, 医学図書出版.

2) 鈴木康友：〔分担〕排尿時痛. レジデント・コンパス泌尿器科編 (野々村祝夫・鈴木啓悦), 2007；pp28-31, ライフ・サイエンス.

3) 松沢一郎：〔自著〕脊椎・脊髄損傷の泌尿器合併症. 救急医学, 2007；pp1765-1770, へるす出版.

4) 近藤幸尋, 西村泰司：〔分担〕特集：ここが聞きたい泌尿器科処理・手術とトラブル対処法泌尿器科処置 カテーテル留置 (腎瘻造設). 臨床泌尿器科第61巻増刊号, 2007；pp80-80, 医学書院.

5) 近藤幸尋, 西村泰司：〔分担〕特集：ここが聞きたい泌尿器科処理・手術とトラブル対処法泌尿器科処置 尿道ブジー. 臨床泌尿器科第61巻増刊号, 2007；pp81-81, 医学書院.

6) 鈴木康友, 西村泰司：〔分担〕前立腺癌. 腎疾患・透析最新の治療2008-2010 (飯野靖彦, 榎野博史, 秋澤忠男), 2008；pp273-276, 南江堂.

7) 西村泰司, 本田 了：〔分担〕経尿道的カテーテル留置. 最新泌尿器科診療指針 (村井 勝, 塚本泰司, 小川 修), 2008；pp50-53, 永井書店.

8) 西村泰司, 本田 了：〔分担〕尿道拡張 (ブジー法). 最新泌尿器科診療指針 (村井 勝, 塚本泰司, 小川 修), 2008；pp53-54, 永井書店.

9) 西村泰司, 本田 了：〔分担〕経皮的膀胱瘻造設術. 最新泌尿器科診療指針 (村井 勝, 塚本泰司, 小川 修), 2008；pp55-57, 永井書店.

10) 西村泰司, 川村直樹¹⁾ (海老名総合病院泌尿器科)：〔分担〕経皮的腎瘻造設術. 最新泌尿器科診療指針 (村井 勝, 塚本泰司, 小川 修), 2008；pp57-61, 永井書店.

11) 西村泰司, 本田 了：尿管カテーテル留置. 最新泌尿器科診療指針 (村井 勝, 塚本泰司, 小川 修), 2008；pp62-64, 永井書店.

12) 西村泰司：〔分担〕尿路結石症診療ガイドライン改訂版 (2004). 今日の治療方針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2008；pp1645-1649, 医学書院.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 木村 剛：腎非淡明細胞癌：診断・治療の現状と今後。九州泌尿器科医会，2007. 12.
- 2) 木村 剛：1. 前立腺の血管構築の解析 (Fusion 3D)，2. 前立腺癌の細領域別発生頻度，発生部位別進展経路とその予後，3. 前立腺癌の細領域別発生頻度から考えた前立腺生検。熊本泌尿器科医会，2007. 11.

(2) 教育講演：

- 1) 近藤幸尋：教育プログラム腹腔鏡：腹腔鏡下前立腺全摘除術。第21回日本Endourology&ESWL学会（東京），2007. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) Kondo Y, Hamasaki T, Matsuzawa I, Nishimura T：Laparoscopic Radical Prostatectomy：Outcome of Each Approach：(English Session) Laparoscopic Radical Prostatectomy Outcome of Transperitoneal Approach. 第95回日本泌尿器科学会総会（神戸），2007. 4.
- 2) 近藤幸尋，松沢一郎，浜崎 務，今本 敬¹⁾，市川智彦¹⁾，西村泰司¹⁾（千葉大学医学部泌尿器科）：腹腔鏡下前立腺全摘術における制癌効果と機能温存：特に膀胱頸部切離と機能温存について。第95回日本泌尿器科学会総会（神戸），2007. 4.
- 3) 近藤幸尋，濱崎 務，松沢一郎，鈴木康友，木全亮二，齋藤友香，木村 剛，吉田和弘，西村泰司：前立腺がんに対する解放手術と鏡視下手術の長期成績を踏まえた比較検討腹腔鏡下前立腺全摘除術の安全性に関する検討。第32回日本外科系連合学術集会（東京），2007. 6.

(4) セミナー：

- 1) 近藤幸尋：経腹的アプローチによる腹腔鏡下前立腺全摘除術の是非。第21回日本Endourology&ESWL学会（東京），2007. 11.

(5) ワークショップ：

- 1) 松沢一郎，近藤幸尋，鈴木康友，木村 剛，吉田和弘，西村泰司，浜崎 務¹⁾（¹⁾日本医科大学多摩永山病院）：腹腔鏡下前立腺全摘術における膀胱尿道吻合。第20回日本内視鏡外科学会（仙台），2007. 11.
- 2) 近藤幸尋，松沢一郎，濱崎 務，西村泰司：ビデオワークショップ ドキッとした症例・困難症例の報告泌尿器科骨盤部手術における他臓器損傷。第20回日本内視鏡外科学会総会（仙台），2007. 11.

(6) 一般講演：

- 1) 根本 勺¹⁾，清水宏之²⁾，松沢一郎，西村泰司¹⁾（国立病院機構函館病院泌尿器科，²⁾はせがわ病院泌尿器科）：尿道ステントMemokath留置後に結石形成にて外科的処置が必要になった2例。第95回日本泌尿器科学会総会（神戸），2007. 4.
- 2) 木全亮二¹⁾，富田祐司¹⁾（¹⁾北村山公立病院 泌尿器科）：10リットルを超える巨大水腎症の1例。第236回東北地方会，2007. 4.
- 3) 松沢一郎，近藤幸尋，浜崎 務，木村 剛，吉田和弘，西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘術：250例の治療成績検討。第95回日本泌尿器科学会総会（神戸），2007. 4.
- 4) 木村 剛，齋藤友香，木全亮二，富田祐司，高橋 亮，西村泰司：前立腺癌の細領域別発生頻度から考えた尖部中心経直腸的14カ所生検の成績。第95回日本泌尿器科学会総会，2007. 4.
- 5) 木村 剛，鈴木康友，松沢一郎，浜崎 務，木全亮二，齋藤友香，富田祐司，高橋 亮，近藤幸尋，吉田和弘，西村泰司：Stage C前立腺癌に対するMAB+エストラムスチン+ドセタキセルを用いた術前補助ホルモン化学療法：有害事象と病理学的効果。第95回日本泌尿器科学会総会，2007. 4.
- 6) 今本 敬¹⁾，市川智彦¹⁾，近藤幸尋，松沢一郎，濱崎 務，鈴木康友，齋藤友香，木村 剛，吉田和弘，西村泰司¹⁾（千葉大学医学部泌尿器科学）：腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術の技術的習得についての検討。第95回日本泌尿器科学会総会，2007. 4.

- 7) 近藤幸尋, 松沢一郎, 濱崎 務, 鈴木康友, 三浦剛史, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘術における術者世代別の周術期合併症. 第95回泌尿器科学会総会, 2007. 4.
 - 8) 鈴木康友, 近藤幸尋, 木村 剛, 松沢一郎, 齋藤友香, 高橋 亮, 藤野綾子, 小串聡子, 尾形吉彦, 吉田和弘, 西村泰司: TUR-P後の限局性前立腺癌に対する腹腔鏡下前立腺全摘術と恥骨後式前立腺全摘術の比較検討. 第95回日本泌尿器科学会総会(神戸), 2007. 4.
 - 9) 高橋 亮¹⁾, 木全亮二¹⁾, 富田祐司²⁾ (¹⁾北村山公立病院 泌尿器科, ²⁾日本医科大学付属病院泌尿器科): 腸腰筋膿瘍に起因して尿管損傷を生じた1例. 第88回山形泌尿器科研究会, 2007. 6.
 - 10) 小串聡子, 鈴木康友, 木村 剛, 濱崎 務, 高橋亮二, 富田祐司, 林 達郎, 松沢一郎, 藤原博通, 佐々木崇, 齋藤友香, 樋口智江, 近藤幸尋, 吉田和弘, 西村泰司, その他3名: 腎solitary fibrous tumorの1例. 第589回日本泌尿器科学会地方会, 2007. 6.
 - 11) 中村壮香¹⁾, 五十嵐豊¹⁾, 浜田和典¹⁾, 田村浩一²⁾, 杉崎祐一²⁾, 木村 剛, 藤田恵美子³⁾, 福田 悠³⁾ (¹⁾日本医科大学学生, ²⁾日本医科大学付属病院病理部, ³⁾日本医科大学解析人体病理学): 腎嫌色素細胞癌に ALアミロイドーシスを合併した1例. 第590回日本泌尿器科学会東京地方会, 2007. 7.
 - 12) 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 富田祐司, 高橋亮二, 西村泰司: 標的生検の前立腺癌診断能: 6カ所生検と多部位生検での比較. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 2007. 8.
 - 13) 佐々木崇, 木村 剛, 林 達郎, 小串聡子, 富田祐司, 藤原博通, 松沢一郎, 鈴木康友, 近藤幸尋, 吉田和弘, 西村泰司, 清水宏之¹⁾, 沖 守¹⁾, 長谷川潤¹⁾ (¹⁾はせがわ病院 泌尿器科): 腎オンコサイトーマの3例: 腎オンコサイトーマの術前診断は可能か?. 第591回日本泌尿器科学会東京地方会, 2007. 9.
 - 14) 木村 剛, 鈴木康友, 松沢一郎, 濱崎 務, 木全亮二, 齋藤友香, 富田祐司, 高橋 亮, 近藤幸尋, 吉田和弘, 西村泰司: Stage C前立腺癌に対するestramustine, docetaxelを用いた術前補助ホルモン化学療法. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
 - 15) 近藤幸尋, 松沢一郎, 濱崎 務, 鈴木康友, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司: 限局性前立腺癌における腹腔鏡下前立腺全摘除術後のPSA failureの解析. 第45回日本癌治療学会(京都), 2007. 10.
 - 16) 高橋 亮¹⁾, 木全亮二¹⁾ (¹⁾北村山公立病院 泌尿器科): 高齢のバルーン管理患者のMemokathを用いた抜去の検討. 第89回山形泌尿器科研究会, 2007. 11.
 - 17) 近藤幸尋, 松沢一郎, 濱崎 務, 鈴木康友, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術の安全性確立に関する検討. 第20回日本内視鏡外科学会総会(仙台), 2007. 11.
 - 18) 林 達郎, 松沢一郎, 富田祐司, 尾形吉彦, 佐々木崇, 樋口智江, 齋藤友香, 藤原博通, 鈴木康友, 近藤幸尋, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司: ハンドアシストによる腹腔鏡下副腎摘出術を施行した副腎骨髄脂肪腫の1例. 第593回日本泌尿器科学会東京地方会, 2008. 1.
 - 19) 尾形吉彦, 鈴木康友, 西村泰司, 吉田和弘, 木村 剛, 近藤幸尋, 濱崎 務, 松沢一郎, 藤原博通, 齋藤友香, 富田祐司, 樋口智江, 佐々木崇, 林 達郎, 長谷川潤¹⁾, その他2名 (¹⁾はせがわ病院): 化学療法が奏功した進行性前立腺部尿道癌の1例. 第593回日本泌尿器科学会東京地方会, 2008. 1.
- (7) デイバート:
- 1) 近藤幸尋: デイバート: 鏡視下手術か従来手術か: 前立腺癌鏡視下手術の立場から. 第45回日本癌治療学会(京都), 2007. 10.

[武蔵小杉病院泌尿器科]

研究概要

当科では尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石、排尿障害を中心に診療・研究を行っているが、特筆すべきものを以下に示す。

- 1) 浸潤性膀胱癌に対し臨床的には根治的経尿道的腫瘍切除術と骨盤内動脈化学療法を行い、膀胱温存の可能性について検討している。基礎的には表在性膀胱癌の治療・再発予防に用いられる塩酸ピラルビシンの癌細胞内への取り込みの検討より癌と正常組織の内視鏡下鑑別診断に臨床応用している。さらにブタを用いた基礎実験を行い、細径プローブ超音波による膀胱の正常構造を同定し、今までの画像診断では困難であった正確な膀胱癌の深達度診断に応用すると共に、細径プローブ超音波と内視鏡が一体となった超音波膀胱鏡を開発し、臨床応用している。
- 2) 前立腺癌の正診率を高めるために超音波パワードブラ法を採用している。局所進行性前立腺癌に対しては、ネオアジュバント療法としてホルモンと化学療法を併用し根治性の向上を図っている。基礎的には前立腺操作におけるPSA molecular formの変動を解析し悪性と良性の鑑別が可能か否か検討を加えている。
- 3) 排尿障害に対して、神経因性膀胱の場合は薬物療法を中心に治療成績を検討している。前立腺肥大症による場合には、重篤合併症をもつ者に対する永久留置型尿道ステントの有用性を検討するとともに、基礎的には経尿道的切除術の際の出血を調べ臨床面での安全性向上に役立っている。
- 4) 腎結石ならびに尿管結石に対して、体外衝撃波結石破碎術および内視鏡手術による臨床的検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 堀内和孝：日常診療で遭遇する尿路トラブル膀胱癌。腎と透析 2007；63 (2)：264-266。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 堀内和孝：前立腺肥大症に対する薬物療法は：過去から未来。中原区薬剤師会総会（川崎市），2007. 4。

(2) 一般講演：

- 1) 堀内和孝，佐藤三洋，中溝宗永¹⁾，横溝一彦¹⁾，稲井俊太¹⁾，田中金雄²⁾，山口佐緒里²⁾，吉田和弘³⁾，西村泰司³⁾ (1) 日本医科大学耳鼻咽喉科頭頸部外科，(2) 入谷クリニック血液透析室，(3) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：耳下腺癌を発症した透析患者の1例。第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2007. 6。
- 2) 萬谷嘉明¹⁾，堀内和孝，近藤幸尋²⁾ (1) 栗山中央病院泌尿器科，(2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：前立腺肥大症（I-PSSおよびQOLスコア重症かつ機能および形態中等症～軽症例）に対するシロドシン単独ならびにシロドシン・ソリフェナシン併用投与の有用性について。第72回日本泌尿器科学会東部総会，2007. 8。
- 3) 萬谷嘉明¹⁾，堀内和孝，近藤幸尋²⁾ (1) 栗山中央病院泌尿器科，(2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：根治的前立腺全摘除術後に前立腺部尿管異所開口を伴う左完全重複腎盂尿管の合併が判明し膀胱弁尿管吻合術（Boari手術）を施行した1例。第72回日本泌尿器科学会東部総会，2007. 8。
- 4) 堀内和孝，大垣憲司，岡 史篤，佐藤三洋，矢島勇臣，西村泰司¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：前立腺癌に対する内分泌療法中に発症した頸部結核性リンパ節炎の1例。第72回日本泌尿器科学会東部総会，2007. 8。
- 5) 萬谷嘉明¹⁾，堀内和孝，近藤幸尋²⁾ (1) 栗山中央病院泌尿器科，(2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：経尿道的尿管結石破碎術（TUL）におけるストーンコーン（Stone Cone，以下SCと略す）の臨床使用経験。第72回日本泌尿器科学会東部総会，2007. 8。
- 6) 萬谷嘉明¹⁾，堀内和孝，近藤幸尋²⁾ (1) 栗山中央病院泌尿器科，(2) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：栗山中央

病院における ESWL の治療成績. 第 21 回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 2007. 11.

- 7) 萬谷嘉明¹⁾, 堀内和孝, 近藤幸尋²⁾ (1) 栗山中央病院泌尿器科, (2) 日本医科大学付属病院泌尿器科): 経尿道的尿管結石破碎術 (TUL) におけるストーンコーン (Stone Cone, 以下 SC と略す) の臨床使用経験. 第 21 回日本 Endourology・ESWL 学会総会, 2007. 11.
- 8) 佐藤三洋, 堀内和孝, 西村泰司¹⁾, 渡邊 茂²⁾ (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, (2) 東戸塚記念病院): 尿管ヘルニアの 1 例. 第 73 回神奈川県泌尿器科医会, 2007. 11.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科は開設して 19 年になるが研究業績の主なもの次のようなものである。前立腺肥大症：前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は、1984 年に開始して以来 2000 例を超えている。本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である。最近切除を行わないで生食水を灌流液として使用し、経尿道的に腺腫を剥離し膀胱に脱落させ、これを吸引摘出する経尿道的剥離摘出術を世界に先がけて開始した。この術式を用いた PSA の研究を続けている。前立腺癌：平岡式経尿道的前立腺剥離切除術（剥離 TURP）は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある。この特徴を生かして、内腺を完全切除したあと、外腺を生検切除する平岡式剥離 TURP 法を開発した。これにより、前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり、外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。最近では早期前立腺癌に対して、輸血を必要としない会陰式根治的前立腺全摘除術と最近では腹腔鏡下前立腺全摘除術や鏡視下小切開（2～3 横指）前立腺全摘除術を施行している。断端陽性例に対しては放射線療法を行っている。膀胱癌：進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている。最近、治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発と CDDP と放射線照射との併用治療を行っている。腎細胞癌：腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を 24 時間一時的に阻血し、インターフェロンを動注し、腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている。3～6 ヶ月後に腫瘍核出術、腎部分切除術か腎摘出術を行っている。今までの研究では、9 割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。副腎・腎腫瘍：副腎、腎腫瘍に対して腹腔鏡下摘出手術を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hiraoka Y, Shimizu Y, Iwamoto K, Takahashi H, Abe H : Trial of complete Detachment of the Whole Prostate Lobes in Benign Prostate Hyperplasia by Transurethral Enucleation of the Prostate. *Urologia Internationalis* 2007 ; 79 (1) : 50-54.

(2) 総説：

- 1) 平岡保紀：下部尿路症状症候群（前立腺肥大症と薬物療法）。*Medicament News* 2008 ; (1930) : 25-27.
- 2) 平岡保紀：前立腺肥大症。Year note 2008 別冊 Selected Articles 抜刷 2007 ; 859-868.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 平岡保紀：前立腺肥大症に対する根治的前立腺剥離 TURP および剥離摘出術。第 18 回新潟泌尿器科手術手技研究会, 2007. 6.
- 2) 濱崎 務, 平岡保紀：『PSA』を知っていますか？。市民公開講座, 2007. 11.
- 3) 平岡保紀：生食下経尿道的前立腺剥離摘出術の目的と手術のコツ。第 6 回東北泌尿器科手術手技研究会, 2008.

2.

(2) 一般講演：

- 1) 尾形吉彦, 平岡保紀, 清水有二, 濱崎 務, 岩本和矢, 服部智任：TUDP（経尿道的前立腺剥離摘除術）と生理食塩水灌流下TUDPの比較検討. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 2007. 8.
- 2) 平岡保紀, 濱崎 務, 尾形吉彦：生食下経尿道的前立腺剥離摘出術. 第21回日本Endourology・ESWL学会総会, 2007. 11.

(3) ポスター：

- 1) Hiraoka Y：Comparing with conventional sorbitol and new salin solution in Transurethral Detacting Prostatectomy . 29th Congress of the Societe International Urology (Paris), 2007. 9.
- 2) 濱崎 務, 近藤幸尋¹⁾, 松澤一郎¹⁾, 齋藤友香¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 尾形吉彦¹⁾, 高橋 亮²⁾, 木全亮二²⁾, 清水有二, 平岡保紀, 西村泰司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院泌尿器科, ²⁾ 北村山公立病院泌尿器科)：腎盂尿管移行部狭窄症に対する腹腔鏡下腎盂形成術の経験. 第72回日本泌尿器科学会東部総会, 2007. 8.

16. 眼科学講座

[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]

研究概要

超音波白内障手術における角膜内皮酸化ストレス障害に関しては、直接的なエビデンスとなるDNA酸化ストレスマーカーによる証明が得られた。(高橋)

Vogt-小柳-原田病の研究関連では、眼内で抗原提示を行っている可能性のある細胞の同定とその細胞の解析を行った。眼内抗原提示過程を含め眼内免疫反応を修飾する眼内微少環境の研究では糖鎖分子、Galectin分子を中心として、免疫反応に及ぼす影響を検討した。(山木)

眼免疫の基礎研究では、新規のB7ファミリー分子、GITR/GITRシグナルと制御性T細胞Tim/Galectinシグナルの角膜移植における役割、羊膜由来SP細胞移植の免疫特性を報告した。自己免疫性強膜炎モデルの作成に成功した。(堀)

網膜酸化ストレスに関する研究では、網膜における虚血-再還流傷害時の酸化ストレスの検討および酸化ストレス傷害から網膜神経保護をするための治療法の開発を開始した。(小原澤)

ドライアイ関連では、fNIRSシステムを用いた大脳からの「患者不快感の他覚、定量化」を継続し、臨床関連のオキュラーサーフェスの研究では、涙膜厚測定プロジェクト、眼瞼結膜知覚の評価を継続した。(小野)

モルフォリノを用いた筋ジストロフィーモデルマウスに対するエクソン・スキッピングに関する基盤的研究において、網膜でのジストロフィンの機能改善に関する研究を行った。これまでにジストロフィンのアイソフォームであるDP260が網膜の外網状層のシナプスで信号伝達に関連していることを明らかにし、DP260の欠損モデルであるmdx52マウスの網膜電図に異常が生じることを見いだした。(亀谷)

眼科変性疾患と遺伝子変異との関連に関する研究では、網膜剥離を発症した重症未熟児網膜症のゲノムDNAを用いて遺伝子解析を行った。また、角膜変性症の症例について遺伝子解析を行い、数例で変異を検出した。(平岡)

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kawabata K, Migita M, Mochizuki H, Miyake K, Igarashi T, Fukunaga Y, Shimada T : Ex vivo cell-mediated gene therapy for metachromatic leukodystrophy using neurospheres. *Brain Res* 2006 ; 1094 (1) : 13-23.

(1) 原著：

- 1) Igarashi T, Miyake K, Hayakawa J, Kawabata K, Ishizaki M, Takahashi H, Shimada T : Apoptotic cell death and regeneration in the newborn retina after irradiation prior to bone marrow transplantation. *Current eye research* 2007 ; 32 (6) : 543-553.
- 2) Abe A, Hiraoka M, Shayman J : The acylation of lipophilic alcohols by lysosomal phospholipase A2. *J Lipid Res* 2007 ; 48 (10) : 2255-2263.
- 3) Izumi S, Ando K, Ono M, Suzukamo Y, Michimata A : Effect of coaching on psychological adjustment in patients with spinocerebellar degeneration. *Clinical Rehabilitation* 2007 ; 21 : 987-996.
- 4) Suzuki H, Oki K¹⁾, Takahashi K²⁾, Shiwa T, Takahashi H (¹⁾ 大木眼科, ²⁾ たかはし眼科) : Functional

evaluation of corneal endothelium by combined measured of corneal volume alteration and cell density after phacoemulsification. J Cataract Refract Surg 2007 ; 33 (12) : 2077-2082.

- 5) Hori J, Joyce N : Immune privilege and immunogenicity reside among different layers of the mouse cornea. Issue of OII devoted to JW Streilein. Ocul immunology &Inflammation 2007 ; 15 : 225-240.
- 6) Hori J, Ng T, Shatos M, Klassen H, Streilein J, Young M : Neural progenitor cells lack immunogenicity and resist destruction as allografts. Issue of OII devoted to JW Streilein. Ocul immunology &Inflammation 2007 ; 15 : 261-274.
- 7) Abe A, Hiraoka M, Shayman J : " A role for lysosomal phospholipase A2 in drug induced phospholipidosis". Curr Drug Lett 2007 ; 1 : 49-53.
- 8) Wang M, Kitahara Y, Yoshida A, Hori J : Latanoprost does not affect immune privilege of corneal allografts. Exp Eye Res 2008 ; 86 : 394-402.
- 9) Hori J : Role of B7-H1 in Immune privilege of the eye. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 : 56-57.
- 10) Hori J : Mechanisms of immune privilege of the anterior segment : what we learn from corneal transplantation. Journal of Ocular Biology Disease & Informatics 2008.
- 11) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩 : 眼に優しい白内障手術の実現. 日医大医学会誌 2007 ; 3 (4) : 198-200.
- 12) 堀 純子 : 眼組織の移植と再生における免疫学的研究. 日本女性科学者の会news 2007 ; 101 (9).

(2) 総説 :

- 1) 小野真史 : Meige 症候群とドライアイ : 涙液から見たオキュラーサーフェス. Frontiers in Dry Eye 2007 ; 2 : 58-61.
- 2) 堀 純子 : 角膜における免疫制御とB7-H. 臨床免疫/アレルギー科 2007 ; 48 : 325-330.
- 3) 小野真史 : 涙液クリアランスから見たドライアイ ; 涙液から見たオキュラーサーフェス. Frontiers in Dry Eye 2007 ; 2 : 55-58.
- 4) 堀 純子 : すぐに役立つ眼科診療の知識 基礎からわかるぶどう膜炎 書評. 日本の眼科 2007 ; 78 (8) : 1237-1237.
- 5) 鈴木久晴, 堀 純子 : 特集 : 知っておきたい外科的異常 : 診断のポイント「先天性鼻涙管閉塞, 睫毛内反症」. 小児科 2007 ; 48 (9) : 11-16.
- 6) 高橋 浩 : 角膜内皮細胞の形態異常と機能, 眼科医の手引き. 日本の眼科 2007 ; 78 : 33-34.
- 7) 堀 純子 : 角膜ジストロフィ・角膜変性 書評. 日本の眼科 2008 ; 79 (2) : 255-255.
- 8) 堀 純子 : 眼の免疫特権 : 角膜移植から学ぶ. Journal of the Society of Japanese Women Scientists 2008 ; 8 (1).

著 書

- 1) 高橋 浩 : [分担] 上強膜炎. 眼科プラクティス18 前眼部アトラス (大鹿哲郎), 2007 ; pp108-108, 文光堂.
- 2) 高橋 浩 : [分担] 強膜炎. 眼科プラクティス18 前眼部アトラス (大鹿哲郎), 2007 ; pp109-110, 文光堂.
- 3) 高橋 浩 : [分担] Descemet膜前角膜ジストロフィ. 眼科プラクティス18 前眼部アトラス (大鹿哲郎), 2007 ; pp258-258, 文光堂.
- 4) 高橋 浩 : [分担] 角膜掻爬. 眼科プラクティス19 外眼部手術と処置 (大鹿哲郎), 2008 ; pp292-294, 文光堂.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Hori J : GITR-Ligand mediated "inducible Treg" in the cornea. . Tokyo Ocular immunology meeting, 2007. 11.

- 2) 高橋 浩：角膜内皮細胞：日常診療に役立つ知識．第47回東京多摩地区眼科集談会，2007．4．
 - 3) 高橋 浩：角膜の日常診療について．第40回日本眼科講演会（東京ブロック講習会），2007．5．
 - 4) 堀 純子：前眼部アップデート「免疫」．第40回日本眼科講習会，2007．5．
 - 5) 高橋 浩：第5回難儀な手術シリーズ．第6回千駄木眼科フォーラム，2007．7．
 - 6) 堀 純子：眼科レミケードクリニカルパス：眼科病棟および化学療法室における教育と連携．東京レミケード研究会，2007．10．
 - 7) 高橋 浩：第6回難儀な手術シリーズ．第7回千駄木眼科フォーラム，2007．12．
 - 8) 堀 純子：前眼部免疫疾患の診療アップデート．第7回千駄木眼科フォーラム，2007．12．
 - 9) 堀 純子：前眼部コース：感染，免疫を極めよう1．東京都眼科医会平成19年度卒後研修研究会，2008．3．
- (2) シンポジウム：
- 1) 堀 純子：角膜移植拒絶反応，シンポジウム眼炎症と眼感染症への取り組み：動物モデルから学ぶこと．第111回日本眼科学会総会，2007．4．
 - 2) 堀 純子：角膜移植拒絶反応の自動制御機構，シンポジウム1：眼炎症．基礎研究の最前線．第41回日本眼炎症学会，2007．6．
- (3) セミナー：
- 1) 高橋 浩，國重智之，鈴木久晴，五十嵐勉：あたたため眼軟膏ってどうよ．第32回角膜カンファランス，2008．2．
- (4) ワークショップ：
- 1) 前田直之¹⁾，福山 誠²⁾，襦津直久，大鹿哲郎³⁾（¹⁾大阪大，²⁾ふくやま眼科医院，³⁾筑波大）：眼内レンズ度数計算を極める．第61回日本臨床眼科学会，2007．10．
- (5) 一般講演：
- 1) Takeuchi C, Ono M : Structure and Formation Process of Nursing Techniques in Response to Sudden Changes in Patient Condition. The International Council of Nurses, International Conference (Yokohama, JAPAN), 2007. 5.
 - 2) Hori J, Wang M, Taniguchi H, Kitahara Y, Takahashi H, Oshima M, Sakaguchi S, Azuma M : Role of Glucocorticoid-Induced TNF Receptor Ligand in Immune Privilege of Corneal Allografts. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2007. 5.
 - 3) Taniguchi T, Hori J, Wang M, Kitahara Y, Takahashi H, Oshima M, Yagita H : B7-H3 is necessary for corneal allograft survival. ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2007. 5.
 - 4) Kitahara Y, Hori J, Takahashi H : C-waves in mice recorded using contact lens electrodes with integrated diodes that emit white light . ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (Fort Lauderdale, FL, USA), 2007. 5.
 - 5) 出江紳一，萱間真美，林亜希子，鈴鴨よしみ，道又 顕，安藤 潔，小野真史：脊髄小脳変性症患者に対するテレコーティング介入の機能．第44回日本リハビリテーション医学会学術集会（兵庫県，神戸市），2007．6．
 - 6) 鈴木久晴，大木孝太郎¹⁾，志和利彦，高橋圭三²⁾，高橋 浩（¹⁾大木眼科，²⁾たかはし眼科）：白内障手術における中央と上方の角膜内皮細胞の侵襲評価．第22回日本眼内レンズ屈折手術学会総会，2007．6．
 - 7) Ono M, Takahashi H : Detection of objective ocular discomfort in dry eye-related diseases by fNIRS. . TFOS (Sicily, Italy), 2007. 9.
 - 8) Hori J, Taniguchi H, Wang M, Oshima M, Azuma M, Sakaguchi S : GITR-Ligand-induced regulatory T cells as a mechanism of immune privilege of corneal allografts. 9th international congress of IOIS (Paris), 2007. 9.
 - 9) Hori J, Wang M, Taniguchi H, Kitahara Y, Sakaguchi S, Azuma M : GITR-Ligand-induced regulatory

- T cells as a mechanism of immune privilege of corneal allografts. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
- 10) Taniguchi H, Hori J, Wang M, Kitahara Y, Yagita H : Role of B7-H3 on immune privilege of corneal allografts. 第37回日本免疫学会総会, 2007. 11.
 - 11) Abe A, Kelly R, Kollmeier J, Lu Y, Hiraoka M, Shayman J : Rescue of phospholipidosis in lysosomal phospholipase A2 (LPLA2) deficient mouse alveolar macrophages by treatment with recombinant mouse LPLA2. 第30回日本分子生物学会年会, 2007. 12.
 - 12) 堀 純子, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 北原由紀, 高橋 浩, 大島正道¹⁾, 坂口志文²⁾ (¹⁾ 国立感染症免疫, ²⁾ 京大再生研生体機能調節) : 前眼部の抗原特異的免疫応答におけるGITR : GITRL経路の役割. 第111回日本眼科学会総会, 2007. 4.
 - 13) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 王 明聡, 北原由紀, 高橋 浩 : 前眼部の抗原特異的免疫応答におけるB7-H3の役割. 第111回日本眼科学会総会, 2007. 4.
 - 14) 鈴木久晴, 佐藤 茂¹⁾, 村野奈緒, 松井洋法, 佐佐木喜広¹⁾, 安達彰子¹⁾, 小原澤英彰, 石崎正通²⁾, 高橋 浩 (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾ 第一病理学) : 白内障手術後の眼内炎予防にオゾン水が使えるか? : 基礎的実験. 第111回日本眼科学会総会, 2007. 4.
 - 15) 塚田玲子, 堀 純子, 河上花子, 平岡美紀, 高橋 浩, 森本泰介, 工藤翔二 : サルコイドーシス診断基準の改訂による診断患者数の変化. 第111回日本眼科学会総会, 2007. 4.
 - 16) 小野真史 : ドライアイ診療のコツ. 第40回日本眼科学会学術集会 (東京), 2007. 5.
 - 17) 永長周一郎, 小野真史, 西村 敏, 角 保徳 : fNIRSを用いた味わいに関するQOL評価 (しづらさ) の予備的検討. 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会 (兵庫県, 神戸市), 2007. 6.
 - 18) 小野真史 : 気になる症例 (1). 第1回箱根ドライアイクラブ (神奈川, 箱根町), 2007. 6.
 - 19) 鈴木久晴, 吉野健一, 小野真史, 五十嵐勉, 高橋永幸, 田嶋友子, 高橋 浩 : 角膜厚と角膜体積変化を用いたOK-1オルソケラトロジーレンズによる角膜形状変化の評価. 第50回日本コンタクトレンズ学会総会, 2007. 7.
 - 20) 伊藤由紀子, 塚田玲子, 高橋 浩 : 切迫型網膜中心静脈閉塞症に対し, ウロキナーゼ大量療法施行後, 血胸を生じた1例. 第6回千駄木眼科フォーラム, 2007. 7.
 - 21) 中原るり子, 渡邊知佳子, 竹内千恵子, 小野真史 : 短期的コーチング演習が看護管理候補者のコミュニケーションに及ぼす影響自己効力感の変化に焦点を当てて. 第11回日本看護管理学会年次大会, 2007. 8.
 - 22) 鈴木久晴, 中元兼二¹⁾, 福田 匠¹⁾, 安田典子¹⁾, 高橋 浩 (¹⁾ 東京警察病院) : 原発開放隅角緑内障における中心角膜厚および角膜体積の日内変動. 第18回日本緑内障学会, 2007. 9.
 - 23) 小野真史, 高橋 浩 : 機能的近赤外線分光法 (fNIRS) によるドライアイ 関連疾患眼不快の検出. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.
 - 24) 小野真史 : ドライアイスペシャリストの老舗こだわり講座 : 何がベストか? !-1) 診断編. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.
 - 25) 稲毛道憲, 矢口智恵美, 小野真史, 堀 純子, 宮武千晴, 菅野華子, 高橋 浩 : 内科的治療が奏功した4歳児の急性網膜壊死の1例. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.
 - 26) 国重智之, 鈴木久晴, 小野真史, 高橋永幸, 平岡美紀, 高橋 浩 : 角膜移植後ヘルペスウイルス感染による遷延性角膜上皮欠損を繰り返した1例. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.
 - 27) 稲毛道憲, 矢口智恵美, 小野真史, 堀 純子, 高橋 浩, 宮武千晴¹⁾, 菅野華子¹⁾ (¹⁾ 小児科) : 内科的治療が奏功した4歳児の急性網膜壊死の1例. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.
 - 28) 国重智之, 鈴木久晴, 稲毛道憲, 志和利彦, 高橋 浩 : 当院における最近の穿孔性眼外傷の4症例. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.
 - 29) 鈴木久晴, 中元兼二¹⁾, 福田 匠¹⁾, 安田典子¹⁾, 高橋 浩 (¹⁾ 東京警察病院) : 原発開放隅角緑内障における角膜体積の日内変動. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.

- 30) 菊地佐知子, 堀 純子, 塚田玲子, 平岡美紀, 加藤篤衛, 高橋 浩⁽¹⁾ (皮膚科): 眼球結膜に多発性結節を生じたSweet病の1例. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.
- 31) 菊地佐知子, 高橋永幸, 廣瀬敦視, 中山滋章, 高橋 浩: 多局所ERGにてAZOORと診断した1例. 第756回東京眼科集談会, 2007. 11.
- 32) 平岡美紀, 塚田玲子, 東 範行¹⁾, 平岡美依奈¹⁾, 緒方 勤¹⁾ (1) 国立成育医療センター): 重症未熟児網膜症における遺伝子要因の解析. 第30回日本分子生物学会年会, 2007. 12.
- 33) 國重智之, 鈴木久晴, 小野眞史, 高橋永幸, 平岡美紀, 高橋 浩: 当院における最近の穿孔性眼外傷の4症例. 第7回千駄木フォーラム, 2007. 12.
- 34) 國重智之, 鈴木久晴, 小野眞史, 高橋永幸, 平岡美紀, 高橋 浩: 角膜移植後のPEDの原因がヘルペスと気づかず何度もPKPを繰り返した1例. COST, 2008. 1.
- 35) 小野眞史, 高橋 浩: 機能的近赤外線分光法 (fNIRS) によるドライアイ愁訴評価の偽陽性. 第32回角膜カンファランス, 2008. 2.
- 36) 國重智之, 小野眞史, 稲毛道憲, 鈴木久晴, 五十嵐勉, 高橋 浩: シヤインブルーク画像を用いた涙膜水層分布解析の試み. 第32回角膜カンファランス, 2008. 2.
- 37) 五十嵐勉, 小野眞史, 鈴木久晴, 高橋 浩: ソフトコンタクトレンズ装用者の結膜知覚変化. 第32回角膜カンファランス, 2008. 2.
- 38) 堀 純子, 谷口ヒロ子, 王 明聡, 高橋 浩, 坂口志文, 東みゆき: GITRLを介した角膜局所における制御性T細胞の誘導. 第32回角膜カンファランス, 2008. 2.
- 39) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 王 明聡, 北原由紀, 大島正道, 八木田秀雄: 角膜移植後の免疫応答におけるB7-H3の役割. 第32回角膜カンファランス, 2008. 2.
- 40) 富田真智子, 堀 純子, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 高橋 浩, 島崎 潤, 八木田秀雄: 角膜移植の生着におけるTim-3の役割. 第32回角膜カンファランス, 2008. 2.

[千葉北総病院眼科]

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Goto H, Mochizuki M, Yamaki K, Kotake S, Usui M, Ohno, S: Epidemiological survey of intraocular inflammation in Japan. Jpn J Ophthalmol 2007; 51: 41-44.
- 2) 早川宏一, 昆野清輝, 高橋和臣, 吉富健志, 山木邦比古: Behcet病における新規発症患者の動向. 臨床眼科 2007; 61: 1059-1062.
- 3) 高橋永幸, 高橋 浩, 徐 魁煒¹⁾, 亀谷修平, 山木邦比古 (1) おのば眼科): マイトマイシンC点眼により結膜病変の縮小を認めた1例. 眼科臨床医報 2007; 101: 589-591.

(2) 総説:

- 1) 山木邦比古: 全身症状を伴うぶどう膜炎 Vogt-小柳-原田病. 臨床眼科 2007; 61: 229-236.
- 2) 山木邦比古: 眼内炎症反応の成立と抗原提示過程. 日医大医学会誌 2008; 4: 8-14.
- 3) 山木邦比古: Vogt-小柳-原田病 全身疾患と眼のすべて. 臨床眼科増刊号 2007; 161: 229-236.
- 4) 亀谷修平: 代謝異常 白子症 全身疾患と眼のすべて. 臨床眼科増刊号 2007; 161: 58-61.

著書

- 1) 山木邦比古: [分担] 眼内炎症のこれから VKHの初期ステロイド薬治療用量. 眼科プラクティス16,

2007 ; pp181-181, 文光堂.

- 2) 山木邦比古 : [分担] 非感染性眼内炎症疾患 全身症状を伴うもの 後眼部 Vogt-小柳-原田病. 眼科プラクティス16, 2007 ; pp170-177, 文光堂.
- 3) 山木邦比古 : [分担] 虹彩結節 前眼部アトラス. 眼科プラクティス18, 2007 ; pp334-335, 文光堂.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Yamaki K, Kameya S, Goto Y, Amano M : Cytotoxicity of TCLs and TCC from aqueous humors and/or CSF with acute and fresh stage of VKH disease. 5th International workshop on Vogt-Koyanagi-Harada disease and Sympathetic Ophthalmia (Tokyo. Japan), 2007. 5.

(2) ワークショップ :

- 1) Hayakawa K, Yamaki K : A recurrence case of VKH disease with the optic disc edema and peripapillary hemorrhage. 5th International workshop on Vogt-Koyanagi-Harada disease and Sympathetic Ophthalmia (Tokyo. Japan), 2007. 5.

(3) 一般講演 :

- 1) Yamaki K, Kameya S, Gotoh Y : Antigen presenting cells in intraocular tissue. 9th international intraocular inflammation society congress (Paris France), 2007. 9.
- 2) 山木邦比古, 亀谷修平, 後藤陽子 : 眼内抗原取り込み細胞の検討. 第111回日本眼科学会, 2007. 4.
- 3) 後藤陽子, 廣瀬敦視, 田嶋友子, 亀谷修平, 山木邦比古 : 12歳男子に発症したVogt-小柳-原田病の1例. 第61回日本臨床眼科学会, 2007. 10.

17. 麻酔科学講座

[付属病院麻酔科]

研究概要

本年度は新たな基盤研究テーマである。1) 全身麻酔の機序と新たな麻酔薬の開発, 2) ショックの病態生理解明と重症化阻止, 3) 慢性痛の機序解明と頭痛一掃についての研究が進展し, 成果が報告されてきた。また, 従来からの研究テーマである, 外科侵襲制御, 麻酔と循環制御, ペインクリニック, 集中治療と呼吸管理に関する研究も継続して行われた。以下に本年度の主な研究内容を示す。

基礎研究: 1) 全身麻酔による脳日内変動遺伝子発現への影響, 2) 吸入麻酔による肺血管作動因子に及ぼす影響, 3) 静脈麻酔による好中球アポトーシスへの影響, 4) 神経因性疼痛に対する硬膜外ブロックの神経伝導因子への影響, 5) α アゴニストによる疼痛抑制機序, 6) 人工赤血球による蘇生効果と炎症反応への影響。

臨床研究: 1) 心原性ショックと抗メディエータ対策, 2) 外科系集中治療におけるNPPVの応用, 3) 幻視痛に対する新たな治療戦略, 4) 鏡視下手術における麻酔管理法, 5) 周術期頻脈性不整脈に対する新たな治療戦略, 6) 長期人工呼吸管理における適切な鎮静, 7) 周術期循環変動の新たな指標の開発, 8) その他, 医療安全管理, 感染対策, 医療経済等についても有用な研究がなされた。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Nakazato K, Kim C, Terajima K, Murata S¹⁾, Fujitani H, Nakanishi K, Tajima H¹⁾, Kumazaki T¹⁾, Sakamoto A¹⁾ (Department of Radiology/Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School): Large volume loading to prevent cisplatin-induced nephrotoxicity during negative-balance isolated pelvic perfusion. *Journal of Cancer Research and Clinical Oncology* 2007; 133 (10): 741-747.
- 2) Akada S, Fagerlund JM¹⁾, Lindahl GS¹⁾, Sakamoto A, Prabhakar RN²⁾, Eriksson IL¹⁾ (Dept. of Anesthesiology and Intensive Care Medicine, Karolinska Institutet, ²⁾ Center for Systems Biology, University of Chicago): Pronounced depression by propofol on carotid body response to CO₂ and K⁺-induced carotid body activation. *Respiratory Physiology & Neurobiology* 2007; 160 (3): 284-288.
- 3) Bitoh H¹⁾, Nakanishi K, Takeda S, Kim C, Mori M, Sakamoto A¹⁾ (Dept. of Anesthesiology, Musashi-Kosugi Hospital): Repair of an infrarenal abdominal aortic aneurysm is associated with persistent left ventricular diastolic dysfunction. *Journal of Nippon Medical School* 2007; 74 (6): 393-401.
- 4) Suzuki M¹⁾, Haraguchi S²⁾, Kitamura A¹⁾, Shimada Y¹⁾, Sakamoto A¹⁾ (Dept. of Anesthesiology, Musashi-Kosugi Hospital, ²⁾ Dept. of Surgery, Musashi-Kosugi Hospital): Inflation of the Distal Cuff by Saline Reduces the Incidence of Malposition of the Bronchial Tube During Lung Separation in Patients Receiving Nitrous Oxide. *Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia* 2007; 21 (6): 838-842.
- 5) Kobayashi K, Takemori K, Sakamoto A: Circadian gene expression is suppressed during sevoflurane anesthesia and the suppression persists after awakening. *Brain Research* 2007; 1185: 1-7.
- 6) Sato C, Sakai A¹⁾, Ikeda Y¹⁾, Suzuki H¹⁾, Sakamoto A¹⁾ (Dept. of Pharmacology): The prolonged analgesic effect of epidural ropivacaine in a rat model of neuropathic pain. *Anesthesia & Analgesia* 2008; 106 (1): 313-320.
- 7) Yoshida Y¹⁾, Terajima K¹⁾, Sato C¹⁾, Akada S^{1, 2)}, Miyagi Y²⁾, Hongo T^{1, 2)}, Takeda S^{1, 2)}, Tanaka K²⁾,

Sakamoto A¹⁾ (1) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School, ²⁾ Division of Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School Hospital) : Clinical role and efficacy of landiolol in the intensive care unit. *Journal of Anesthesia* 2008 ; 22 (1) : 64-69.

- 8) Takemori K, Kobayashi K, Sakamoto A : Expression of pulmonary vasoactive factors after sevoflurane anaesthesia in rats : a quantitative real-time polymerase chain reaction study. *British Journal of Anaesthesia* 2008 ; 100 (2) : 190-194.
- 9) 岡部 格, 金 徹, 山梨義高, 坂本篤裕 : 腹腔鏡下前立腺全摘術と開腹前立腺全摘術の麻酔管理方法の検討. *麻酔* 2007 ; 74 (6) : 1404-1407.

(2) 座談会 :

- 1) 坂本篤裕, 加藤孝澄¹⁾, 稲垣喜三²⁾, 鈴木利保³⁾, 川村隆枝⁴⁾ (1) 浜松医科大学麻酔・蘇生科, ²⁾ 鳥取大学麻酔・集中治療科, ³⁾ 東海大学麻酔科, ⁴⁾ 仙台医療センター麻酔科) : セボフルラン麻酔へのレミフェンタニルの活用. *臨床麻酔* 2007 ; 31 (11) : 1749-1757.

(3) 総説 :

- 1) 竹田晋浩 : BiPAP. 人工呼吸の換気モード. *呼吸器ケア* 2007 ; 9 (5) : 79-84.
- 2) 竹田晋浩 : ARDS/ALIの診断. 特集 : ARDS/ALI. *人工呼吸* 2007 ; 24 (1) : 3-8.
- 3) 坂本篤裕 : ベータブロッカーの有用性について. *臨床麻酔* 2007 ; 31 (6) : 1039-1041.
- 4) 金 徹, 坂本篤裕 : 動脈穿刺/動脈圧測定 : 動脈カテーテル, 術式別部位の選択と合併症. *LiSA* 2007 ; 14 (7) : 636-641.
- 5) 竹田晋浩 : Dexmedetomidine, 呼吸管理への応用. *Anesthesia 21 century* 2007 ; 9 (9) : 79-84.
- 6) 金 徹 : 補助循環作動時の麻酔科医の役割. *日本臨床麻酔学会誌* 2007 ; 27 (7) : 665-674.
- 7) 竹田晋浩 : 心疾患診療のトピックス, NPPVによる呼吸管理の治療と予後. *ICUとCCU* 2007 ; 31 (11) : 843-847.
- 8) 竹田晋浩 : NPPVの利点と適応 : 必ずわかる人工呼吸器換気モードと呼吸モニタ波形. *月刊ナーシング* 2007 ; 27 (12) : 58-62.
- 9) 坂本篤裕 : 心原性ショックと抗メチエータ対策. *ICUとCCU* 2008 ; 32 (1) : 33-41.

(4) 症例報告 :

- 1) Kim C, Yokozuka M, Sato C, Nakanishi K, Kitamura A, Sakamoto A : Incessant non-sustained ventricular tachycardia after stimulus of electroconvulsive therapy with atropine premedication?. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 2007 ; 61 (5) : 564-567.
- 2) 中里桂子, 本郷 卓, 金 徹, 寺嶋克幸, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕 (1) 付属病院集中治療室) : 抜管後換気不全からnegative pressure pulmonary edemaを発症した2症例. *日本臨床麻酔学会誌* 2007 ; 27 (3) : 268-272.
- 3) 佐藤千代, 河原裕泰, 金 徹, 中西一浩, 坂本篤裕 : 幻肢痛に対する静脈内エルカトニンの効果. *日本ペインクリニック学会誌* 2007 ; 14 (4) : 406-409.

著 書

- 1) 坂本篤裕 : [翻訳] 手術室以外での麻酔. *Miller's 麻酔科学* (武田純三), 2007 ; pp2037-2056, メディカルサイエンスインターナショナル.
- 2) 竹田晋浩 : [分担] NPPV. *人工呼吸療法* (沼田克雄, 安本和正), 2007 ; pp285-290, 秀潤社.
- 3) 竹田晋浩 : [分担] 急性呼吸不全 : 心原性肺水腫. NPPV (非侵襲的陽圧換気療法) のすべて (石川悠加), 2007 ; pp193-195, 医学書院.
- 4) 本郷 卓 : [分担] 心原性肺水腫に対するNPPV. *看護技術*, 2007 ; pp32-35, メヂカルフレンド社.
- 5) 坂本篤裕 : [分担] 麻酔科の輸液. *輸液のすべて : 基本から実際まで* (北岡建樹, 五十嵐隆, 飯野靖彦, 河原

克雅), 2007 ; pp317-322, 東京医学社.

- 6) 竹田晋浩 : [分担] 麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー2008 (天羽啓介), 2008 ; pp200-203, 総合医学社.
- 7) 坂本篤裕 : [分担] 心血管作動薬. 麻酔科学レビュー2008 (天羽敬祐), 2008 ; pp18-24, 総合医学社.
- 8) 本郷 卓, 田中啓治¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室) : [分担] Q93 慢性心不全患者の輸液管理とケアは, どうしたらよいの?. 輸液管理とケア Q&A : こんなとき, どうしたらよいの? (編集 岡元和文), 2008 ; pp200-201, 総合医学社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 坂本篤裕 : 短時間作用型 β 1 遮断薬の使い方. 会津医学会学術講演会, 2007. 6.
- 2) 坂本篤裕 : 周術期管理における短時間作用型 β 1 遮断薬の役割. 山形循環呼吸器・麻酔・集中治療研究会, 2007. 9.
- 3) 坂本篤裕 : 周術期と β 1 遮断薬 : 心保護効果への期待. 名古屋周術期心臓外科フォーラム, 2007. 11.
- 4) 坂本篤裕 : β 遮断薬による新たな治療戦略. 北摂 β ブロッカー研究会, 2007. 11.

(2) シンポジウム :

- 1) 本郷 卓¹⁾, 三井誠司¹⁾, 小野顕人, 安藤岳史, 横塚 基, 古市昌之, 赤田信二, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (1) 付属病院集中治療室) : 術後呼吸不全に対しNPPVを施行した126症例の予後調査 (NPPVはどのように用いられているか). 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 2) Takeda S : Treatment strategy for ARDS with multiple organ failure (Acute respiratory failure and remote organ damage). The 8th joint scientific congress of the Korean Society of Critical Care Medicine and Japanese Society of Intensive Care Medicine (Tokyo), 2008. 2.
- 3) 中西一浩, 清水 淳¹⁾, 結城禎一²⁾, 池崎弘之³⁾, 坂本篤裕 (1) 榊原記念病院麻酔科, 2) 三井記念病院麻酔科, 3) 大和清和病院麻酔科) : 心臓麻酔 (レミフェンタニルは麻酔法を変えたか?). 日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.

(3) パネルディスカッション :

- 1) 竹田晋浩 : Noninvasive ventilation の有用性 (日本麻酔科学会との共同企画). 第47回日本呼吸器学会, 2007. 5.
- 2) 野口裕幸¹⁾, 坂本篤裕 (1) 付属病院ME部) : ICUにおけるチーム医療 : MEの立場より. 第16回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2007. 8.
- 3) 松田範子¹⁾, 秋丸琥甫²⁾, 木山輝郎²⁾, 宮本正章³⁾, 徳永 昭⁴⁾, 森山雄吉⁴⁾, 坂本篤裕, 田尻 孝¹⁾ (1) 付属病院ME部, 2) 付属病院外科, 3) 付属病院内科・再生医療科, 4) 武蔵小杉病院消化器病センター) : 当施設における四肢末端難治性潰瘍の治療 (骨軟部組織損傷・感染症に対する高気圧酸素治療). 第42回日本高気圧環境・潜水医学会, 2007. 11.

(4) セミナー :

- 1) 坂本篤裕 : 安全管理と医療経済. 沖縄リスクマネージメントセミナー2007, 2007. 4.
- 2) 坂本篤裕 : IVR診療における緊急対策と救急処置. 第36回日本IVR学会総会, 2007. 5.
- 3) 坂本篤裕 : より安全な中心静脈カテーテル留置の環境を求めて : CVセンター導入の背景と運営について. 医療の質・安全学会第2回学術集会, 2007. 11.
- 4) 坂本篤裕 : β 1 ブロッカーの周術期管理 : 心保護効果を中心とした新たな展望. 第3回千葉西地区医療連携セミナー, 2007. 11.
- 5) 坂本篤裕 : Short Acting β 1 blocker up to date. 第14回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2007. 12.

(5) ワークショップ：

- 1) 坂本篤裕：麻酔（診療）選択に関する見解と査定上の問題点（麻酔・ペインクリニックと麻酔診療）．日本臨床麻酔学会第27回大会，2007．10．

(6) 一般講演：

- 1) 益田律子¹⁾，井上哲夫¹⁾，輪嶋善一郎¹⁾，加藤信也¹⁾，中島祐史¹⁾，坂本篤裕¹⁾（千葉北総病院麻酔科）：帝王切開術に対するオピオイド添加高比重プロピバカイン脊髄くも膜下麻酔におけるプロピバカイン用量と下肢運動遮断時間．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．6．
- 2) 中里桂子，寺嶋克幸，金 徹，鈴木規仁，坂本篤裕：超音波診断装置は末梢静脈確保にも有用．第18回日本臨床モニター学会総会，2007．4．
- 3) 三宅直樹¹⁾，原 正高¹⁾，鈴木健一¹⁾，吉田 晃¹⁾，坂本篤裕¹⁾（付属病院ME部）：放置時間における除細動出力の検討．第15回東京都臨床工学会学術大会，2007．4．
- 4) 竹森 健，小林克也，三井誠司，中里桂子，吉田結富子，坂本篤裕：セボフルレンはラット肺におけるET-1 遺伝子発現に影響を与える．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 5) 小林克也，竹森 健，坂本篤裕：セボフルレンは麻酔中サーカディアン遺伝子の発現を抑制し，そして覚醒後も抑制し続ける．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 6) 鈴木規仁，金 徹，坂本篤裕：自己骨髄細胞による血管再生療法における周術期管理．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 7) 中西一浩，竹田晋浩，寺嶋克幸，河原裕泰，竹森 健，坂本篤裕：腹部大動脈瘤人工血管置換術における心拡張機能の変動：組織ドップラー法を用いた心機能評価．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 8) 加藤信也¹⁾，益田律子¹⁾，井上哲夫¹⁾，坂本篤裕¹⁾（千葉北総病院麻酔科）：星状神経節への局所麻酔薬注入及び直流通電療法は局所麻酔薬注入単独よりも上肢痛に対する除痛効果が高い．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 9) 岸川洋昭，坂本篤裕，安藤岳史，川口宏志，坪光祥晃：プロポフォールLCTによるヒト好中球アポトーシスへの影響．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 10) 安藤岳史，坪光祥晃，幸田修典，岡部 格，古市昌之，坂本篤裕：気管支喘息の既往のない患者において，プロポフォールによる導入後，気管支痙攣の症状を呈し，挿管するも換気不能となり，心停止も覚悟した1症例．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 11) 金 徹，中里桂子，吉田結富子，三井誠司，杖下隆哉，坂本篤裕：閉鎖循環下抗癌剤灌流療法におけるシスプラチン腎機能障害に対するカルベリチドの保護効果．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 12) 古市昌之，赤田信二，岡部 格，山梨義高，竹田晋浩，坂本篤裕：人工股関節置換術後に発症した脂肪塞栓症の1症例．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．5．
- 13) 腹 正高¹⁾，三宅直樹¹⁾，鈴木健一¹⁾，吉田 晃¹⁾，金 徹，村田 智²⁾，田島廣之²⁾，坂本篤裕¹⁾（付属病院ME部，²⁾放射線医学）：当院における「NIPP」の体外循環法．第17回日本臨床工学会学術大会，2007．5．
- 14) 佐藤千代，金 徹，伊藤光亮，坂本篤裕：腹部外科緊急手術における重症度の予測．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．6．
- 15) 幸田真理子¹⁾，水野幸一¹⁾，飯野 治¹⁾，石原之法¹⁾，山田光輝¹⁾，坂本篤裕¹⁾（多摩永山病院麻酔科）：当院における巨大前立腺肥大に対する剥離TUR-Pの麻酔管理．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．6．
- 16) 寺嶋克幸，杖下隆哉，坂本篤裕：人工赤血球による輸液蘇生の臓器酸素可能と炎症反応の可能性．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．6．
- 17) 西川晃司¹⁾，幸田真理子¹⁾，山田光輝¹⁾，水野幸一¹⁾，坂本篤裕¹⁾（多摩永山病院麻酔科）：硬性曲型喉頭鏡が予期せぬ挿管困難症の頭頸部軟部組織の形態変化に及ぼす影響．（社）日本麻酔科学会第54回学術集会，2007．6．
- 18) 輪嶋善一郎¹⁾，今永和幸¹⁾，志賀俊哉¹⁾，斉藤 剛¹⁾，井上哲夫¹⁾，坂本篤裕¹⁾（千葉北総病院麻酔科）：ラン

ジオロールは vital capacity rapid inhalation induction の意識消失時間を短縮させる：第2報。(社)日本麻酔科学会第54回学術集会, 2007. 6.

- 19) 加藤信也¹⁾, 益田律子¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕: 星状神経節への局所麻酔薬注入及び直流通電は局所麻酔薬注入単独よりも慢性上肢痛に対する除通行かが高い。日本ペインクリニック学会第41回大会, 2007. 7.
- 20) 岡部 格, 鈴木規仁, 岸川洋昭, 河原裕泰, 坂本篤裕: 当院麻酔科外来における gabapentin の使用経験。日本ペインクリニック学会第41回大会, 2007. 7.
- 21) 横塚 基, 佐藤千代, 河原裕泰, 坂本篤裕: デクスメトミジンの硬膜外投与の有用性の検討: 慢性絞扼性傷害モデルラットを用いて。日本ペインクリニック学会第41回大会, 2007. 7.
- 22) 山本裕介, 佐藤千代, 河原裕泰, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 金 徹, 中西一浩, 坂本篤裕: 幻肢痛に対するエルカトニンの使用経験。日本ペインクリニック学会第41回大会, 2007. 7.
- 23) 小野顕人, 竹田晋浩, 赤田信二, 安藤岳史, 横塚 基, 三井誠司, 寺嶋克幸, 本郷 卓, 坂本篤裕: NPPV 施行患者におけるデクスメトミジンの鎮静効果。第29回日本呼吸療法医学会学術集会, 2007. 7.
- 24) 横塚 基, 細萱順一¹⁾, 和田奈央¹⁾, 山本 剛¹⁾, 寺嶋克幸, 本郷 卓¹⁾, 鈴木智恵子¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 付属病院集中治療室): 集中治療室におけるインスリン投与プロトコルの効果と安全性について。第5回周術期体液・代謝・侵襲研究会, 2007. 8.
- 25) 中谷英彦, 杖下隆哉, 鈴木規仁, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: 術中体位が原因と考えられる術後腕神経叢麻痺の1症例。第47回(社)日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部合同学術集会, 2007. 9.
- 26) 小野顕人, 小林克也, 坂本篤裕: ポリープ様声帯に対してエアウェイスコープを用いた自発呼吸下挿管を試みた1例。第47回(社)日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部合同学術集会, 2007. 9.
- 27) 中里桂子, 鈴木規仁, 坂本篤裕: レミフェンタニル-セボフルラン麻酔中にシバリングを起こした1症例。日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 28) 吉田結富子, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: Beckwith-Wiedemann syndrome の小児の麻酔経験。日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 29) 横山健至¹⁾, 尾藤博保¹⁾, 稲木敏一郎¹⁾, 佐藤花代子¹⁾, 島田洋一¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 武蔵小杉病院麻酔科): 小児扁桃摘出術の周術期 SpO₂ の検討。日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 30) 大江裕美子, 寺嶋克幸, 幸田修典, 岸川洋昭, 坂本篤裕: 穿通胎盤患者の予定帝王切開の周術期管理2症例と文献的考察。日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 31) 中島祐史¹⁾, 小野寺英貴¹⁾, 輪嶋善一郎¹⁾, 益田律子¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 千葉北総病院麻酔科): 冠攣縮性狭心症患者に対する電気痙攣療法の麻酔経験。日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 32) 中谷英彦, 杖下隆哉, 坂本篤裕: 覚醒下開頭術にレミフェンタニルを使用した1症例。日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 33) 岡部 格, 佐藤千代, 河原裕泰, 岸川洋昭, 中西一浩, 坂本篤裕: 横行結腸癌の仙骨転移に対し閉鎖循環下骨盤内抗癌剤還流療法 (NIPP) が有効であった1例。日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 34) 稲木敏一郎¹⁾, 尾藤博保¹⁾, 佐藤花代子¹⁾, 横山健至¹⁾, 山本英明¹⁾, 島田洋一¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 武蔵小杉病院麻酔科): 術中から塩酸オルプリノンを用いた食道癌手術の術後血清ビリルビン値の推移。日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 35) 坪光祥晃, 三井誠司, 寺嶋克幸, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 大腸穿孔後の白血球減少症が遷延した1症例。第14回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2007. 12.
- 36) 土屋直俊¹⁾, 三宅直樹¹⁾, 鈴木健一¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 付属病院ME部): ペースメーカー・ICD業務における問題と対策。第22回心臓血管外科ウィンターセミナー, 2008. 1.
- 37) 中里桂子, 佐藤千代, 寺嶋克幸, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室): ASA classification of physical status 3E以上の緊急手術患者における予後予測因子の統計学的検討: 第2報。第35回日本集

中治療医学会学術集会, 2008. 2.

- 38) 設楽敏朗¹⁾, 清水 淳²⁾, 幸田修典²⁾, 後藤吉次²⁾, 松村純也³⁾, 坂本篤裕¹⁾ 聖霊佐倉市民病院麻酔科, ²⁾ 榊原記念病院麻酔科, ³⁾ 大和清和病院麻酔科) : 開心術後創感染における危険因子についての検討. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 39) 三井誠司¹⁾, 安藤岳史, 横塚 基, 本郷 卓¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ 付属病院集中治療室) : 胸腹部人工血管置換術後, 眼球陥凹を呈した1例. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 40) 山梨義高, 古市昌之, 岡部 格, 赤田信二, 本郷 卓¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ 付属病院集中治療室) : 肝硬変を合併した食道癌患者が術後に深部静脈血栓症を合併して死亡した1例. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 41) 古市昌之, 竹田晋浩¹⁾, 吉田結富子, 中里桂子, 守 真輝, 山梨義高, 安藤岳史, 赤田信二, 本郷 卓¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ 付属病院集中治療室) : 周術期陰圧性肺水腫に対する非侵襲的陽圧換気法. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 42) 安藤岳史, 小野顕人, 横塚 基, 三井誠司¹⁾, 本郷 卓¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ 付属病院集中治療室) : 頻回な肺リクルートメントに反応せず, 側臥位で血液ガスの改善を認めた1症例. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 43) 野口裕幸¹⁾, 青木郁香¹⁾, 久志本成樹²⁾, 山本保博²⁾, 坂本篤裕¹⁾ 付属病院ME部, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター) : 当院高度救命救急センターにおける経皮的心肺補助装置(PCPS)を用いた補助人工心肺(ECMO)の検証. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 44) 横塚 基, 細萱順一¹⁾, 和田奈央¹⁾, 山本 剛¹⁾, 本郷 卓¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ 付属病院集中治療室) : 集中治療室におけるインスリン投与プロトコルの効果と安全性の検討. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 45) 古市昌之, 赤田信二, 本郷 卓¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕¹⁾ 付属病院集中治療室) : 塩酸デクスメトミジンにより薬剤熱を生じた1例: 塩酸デクスメトミジンは高体温を起こしうる?. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 46) 間瀬大司, 中西一浩, 竹田晋浩, 坂本篤裕 : 心不全合併消化管手術におけるh-ANPの使用経験. 第2回周術期心不全管理カンファレンス, 2008. 2.
- 47) 岡部 格, 山梨義高, 古市昌之, 赤田信二, 本郷 卓, 竹田晋浩, 坂本篤裕 : 塩酸デクスメトミジンによると思われる薬剤熱を生じた1例. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 48) 篁 武郎 : 慢性腹痛の1症例: 慢性虫垂炎と診断されて手術された症例. 日本東洋医学会山形県部会, 2008. 3.

[武蔵小杉病院麻酔科]

研究概要

当施設では産科麻酔, 食道がん, 肺がんなどの開胸手術, また大血管手術において臨床研究を行っている. 1) 周術期低体温は, 術後の感染の増加など患者の転帰に影響するが比較的大量の輸液を行う帝王切開において, 加温輸液の母体と新生児の体温に関して検討した. 2) 血清ビリルビン値やトランスアミナーゼ値の上昇は, 食道がん手術後に頻発する現象である. 術中ならびに, 術後にPDEIII阻害薬である塩酸オルプリノン投与し, その効用を検討した. 3) 腹部大血管手術後の心機能の低下の原因を検討した. 4) ダブルルーメンチューブのトラブルは, 肺がん手術など分離肺換気施行時において頻回に見受けられる. その, チューブトラブルを回避する工夫を考案し, 検討した. その他, 症例報告を多数報告した. 当施設は, 引き続き, 臨床研究, 臨床報告を中心に研究活動を行っていく.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Bitoh H¹⁾, Nakanishi K¹⁾, Takeda S¹⁾, Kim C¹⁾, Mori M¹⁾, Sakamoto A¹⁾ (1) Department of Anesthesia and Pain Control, Graduate school of Medicine, Nippon Medical School) : Repair of an Infrarenal Abdominal Aortic Aneurysm is Associated with Persistent Left Ventricular Diastolic Dysfunction. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (6) : 393-401.
- 2) Suzuki M, Haraguchi S¹⁾, Kitamura A²⁾, Shimada Y, Sakamoto A³⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, 2) Saitama Medical University International Medical Center, 3) Department of Anesthesia and Pain Control, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Inflation of the Distal Cuff by Saline Reduces the Incidence of Malposition of the Bronchial Tube During Lung Separation in Patients Receiving Nitrous Oxide. Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia 2007 ; 21 (6) : 838-842.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Suzuki M, Haraguchi S¹⁾, Bitoh H, Shimada Y (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hosupital) : Effect of Head Positioning on Non-Styleted Tracheal Intubation with Double-Lumen Bronchial Tube. ASA (San Francisco), 2007. 10.
- 2) 横山健至, 鈴木万三, 島田洋一, 尾藤博保, 坂本篤裕¹⁾ (1) 付属病院麻酔科) : 帝王切開における母体体温低下に対する加温輸液の効果. 日本麻酔科学会, 2007. 5.
- 3) 稲木敏一郎, 尾藤博保, 佐藤花代子, 横山健至, 山本英明, 島田洋一, 坂本篤裕¹⁾ (1) 付属病院麻酔科) : 術中から塩酸オルプリノンを用いた食道癌手術の術後血清ビルビリリン値の推移. 日本臨床麻酔科学会, 2007. 5.
- 4) 横山健至, 尾藤博保, 稲木敏一郎, 佐藤花代子, 島田洋一, 坂本篤裕¹⁾ (1) 付属病院麻酔科) : 小児扁桃腺摘出術の周術期SpO₂の検討. 日本臨床麻酔科学会, 2007. 10.

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

本年度もペインクリニック領域において、治療困難な痛みに対する新しい神経ブロック法を考案し検討した。また筋膜痛症候群、顎関節症、交感神経系障害を対象にしたブロックに重点を置き、基礎的研究を継続して行なっている。さらに難治性疼痛に対してはエピドラスコピー、神経根ブロック、高周波熱凝固、硬膜外への脊髄刺激電極の植え込みや持続薬液注入ポートの埋め込みを施行するなど、積極的な治療を行い手技の向上に努めている。

手術室においては、気管挿管時の咽頭喉頭の位置および形状を解析し、それに基づいて新たな喉頭鏡の開発を行なった。

研究業績

論文

(1) 研究報告書：

- 1) Yamashiro M¹⁾, Tazaki H¹⁾, Yamada K, Yasuda A¹⁾, Hashimoto S²⁾ (1) Anesthesiology, The Nippon Dental University, School of Life Dentistry At Tokyo, 2) Research Center for Odontology, The Nippon Dental University, School of Life Dentistry At Tokyo) : Distribution of ropivacaine after the injection to palatal mucosa in the rat. Regional Anesthesia and Pain medicine 2007 ; 32 (5) : 167-167.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Yamashiro M¹⁾, Tazaki H¹⁾, Yamada K, Yasuda A¹⁾, Hashimoto S²⁾ (1) Anesthesiology, The Nippon Dental University, School of Life Dentistry At Tokyo, (2) Research Center for Odontology, The Nippon Dental University, School of Life Dentistry At Tokyo) : Distribution of ropivacaine after the injection to palatal mucosa in the rat. XXVI Annual ESRA Congress (Barcelona, Spain), 2007. 9.
- 2) 西川晃司, 幸田真理子, 山田光輝, 水野幸一, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学) : 硬性曲型喉頭鏡が予期せぬ挿管困難症の頭頸部軟部組織の形態変化に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第54回学術集会, 2007. 6.
- 3) 幸田真理子, 水野幸一, 飯野 治, 石原之法, 山田光輝, 坂本篤裕¹⁾ (1) 日本医科大学麻酔科学) : 当院における巨大前立腺肥大症に対する, 剥離TUR-P (経尿道的前立腺剥離摘出術 : TUDP) の麻酔管理. 日本麻酔科学会第54回学術集会, 2007. 6.
- 4) 今井洋史, 西川晃司, 小林徳行, 石原之法, 山田光輝 : Landiolol, Verapamil, およびDigoxinにてレートコントロール不能であった発作性心房細動の1例. 日本麻酔科学会第54回学術集会, 2007. 6.
- 5) 水野幸一, 西川晃司, 内木亮介, 山田光輝 : 経皮的ラジオ波焼灼術中に急激な体温上昇を来した1例. 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第47回合同学術集会, 2007. 9.

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

マンパワー不足により日々多忙な診療活動に追われ, なかなか腰を据えた研究活動ができないのは残念である. 勢い, 臨床研究に限らざるを得ない状況にあるが, それだけに日常臨床に直結したテーマが取り上げられ, 成果をあげてきている.

気道管理, 疼痛管理, 薬物およびモニタリング, 麻酔法などを課題とした研究が継続して行われているところである. 気道管理では, 井上教授, 後藤助教らが気道評価ひいては気管挿管困難の予測法を模索中であり, X線写真からの実用的な評価法を見出しつつある. さらに, 新たな気道確保器具の臨床評価も全員で積極的に行っているところである.

疼痛管理では, ペインクリニックでの診療や緩和医療を通して, 薬効の評価や術後鎮痛に関する手法, 薬物の選択などにつき益田准教授や加藤助教が中心に研究を進めている. また, 麻酔中におけるベータブロッカーや麻薬類などの薬物の作用, 使用法, さらに術前の身体状態による生理的影響の相違などにつき, 最新のモニタリング装置を利用した多彩な研究が輪嶋講師, 小澤, 齋藤助教などにより行われている. 麻酔法に関しては, 中島助教らが修飾電気痙攣療法につき, その有効性を高めるための薬物の選択, 使用法など新たな知見を見出した.

いずれも, 継続性をもって研究を進める趨勢にあり, 内容の拡充と新たな知見に向けた活動が期待される. 来年度に向け, 有能な新人の加入もあり, 研究活動面全般にさらに活発化することも合わせて期待される.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shiga T¹⁾, Apfel C²⁾, Wajima Z, Ohe Y¹⁾ (1) Department of Anesthesiology, Toho University School of Medicine, Tokyo, Japan, (2) Department of Anesthesiology and Preoperative Medicine, University of San Francisco, San Francisco) : Influence of intraoperative conversion from off-pump to on-pump coronary artery bypass grafting on costs and quality of life - a cost-effectiveness analysis. Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia 2007 ; 21 (6) : 793-799.
- 2) Gotou M, Inoue T : Application of the Truview EV02 optical laryngoscope to patients with cervicospinal

disease. Journal of Anesthesia 2007 ; 21 : 295-296.

- 3) Shiga T¹⁾, Wajima Z, Ohe Y¹⁾ (1) Second Department of Anesthesiology, Toho University School of Medicine, Tokyo) : Is operative delay associated with increased mortality of hip fracture patients : Systematic review, meta-analysis, and meta-regression : [Le delai operatoire est-il associe a une mortalite accrue chez les patients atteints d' une fracture de la hanche : Synthese systematique, meta-analyse et meta-regression]. Can J Anaesth 2008 ; 55 (3) : 146-154.

(2) 総説 :

- 1) 井上哲夫 : 病棟における気管挿管 (症例検討 : 病棟における気道確保と緊急気管挿管). LiSA 2007 ; 14 (4) : 340-343.
- 2) 益田律子 : 硬膜外腔, くも膜下腔, 脊髄の解剖 : 最近の話題. LiSA 2007 ; 14 (別冊) : 98-105.
- 3) 加藤信也, 益田律子 : 大腿神経ブロックについて. 臨床麻酔 2007 ; 31 (9) : 1499-1500.
- 4) 益田律子 : 神経障害性疼痛 : 緩和医療 KEY WORD. 緩和医療学 2008 ; 10 (1) : 94-96.

(3) 症例報告 :

- 1) 益田律子, 井上哲夫, 加藤信也 : 遠隔部位の骨転移痛に持続くも膜下鎮痛法が奏功した3症例. ペインクリニック 2007 ; 28 (10) : 1367-1373.

著 書

- 1) 井上哲夫 : [翻訳] 呼吸系モニタリング. ミラー麻酔科学 (武田純三), 2007 ; pp1119-1153, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 2) 益田律子 : [分担] 高齢者の麻酔に欠かせないスキル「術後鎮痛」. 日常診療に役立つ「高齢者の周術期管理」(並木昭義編), 2007 ; pp203-216, 真興交易 (株) 医書出版部.
- 3) 益田律子 : [分担] 長期硬膜外・くも膜下鎮痛 : 管理上のコツ. ペインクリニックの痛み診療のコツと落とし穴 (宮崎東洋編), 2007 ; pp174-176, 中山書店 (東京).
- 4) 益田律子 : [分担] 急性期重症外傷性疼痛治療のコツ. ペインクリニックの痛み診療のコツと落とし穴 (宮崎東洋編), 2007 ; pp326-328, 中山書店 (東京).

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 益田律子, 井上哲夫, 加藤信也 : 慢性期脊髄損傷性疼痛5症例に対する薬物療法の有効性. 第37回日本慢性疼痛学会, 2007. 2.

(1) 特別講演 :

- 1) 加藤信也 : 自律神経と良導絡- 副交感神経機能は良導絡チャートに影響を及ぼすか?. 日本良導絡自律神経学会, 2007. 9.
- 2) 益田律子 : 「脊髄損傷性疼痛の最近の話題」及び「神経障害性疼痛ガイドライン : 欧州・カナダの新基準について」. 第6回難治性疼痛研究会 (神戸), 2007. 9.

(2) 招待講演 :

- 1) 益田律子 : 癌の痛みの治療の誤解を解く : 臨床薬理学的アプローチ-依存, 精神障害, 有効限界などの点を中心に. 第1回千葉県在宅医懇話会研修会, 2007. 12.

(3) 教育講演 :

- 1) 益田律子 : 病棟で実践する硬膜外鎮痛法・くも膜下鎮痛法. 第27回日本臨床麻酔学会, 2007. 10.

(4) シンポジウム：

- 1) 益田律子：安全管理委員会シンポジウム医師の説明義務. 第41回日本ペインクリニック学会大会, 2007. 7.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 井上哲夫：硬膜外穿刺（主題：硬膜外麻酔スタンダード）. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.

(6) 一般講演：

- 1) Imanaga K¹⁾, Wajima Z, Kosaka M¹⁾, Suzuki T¹⁾, Serada K¹⁾ (¹⁾ Department of Anesthesia, Showa University Northern Yokohama Hospital, Yokohohama, Japan) : Investigation of the Optimal Time for Fentanyl Administration on Propofol-Induced Injection Pain. American Society of Anesthesiologists 2007 Annual Meeting (San Francisco, California, USA), 2007. 10.
- 2) Wajima Z, Imanaga K¹⁾, Shiga T²⁾, Inoue T, Sakamoto A³⁾ (¹⁾ Department of Anesthesia, Showa University Northern Yokohama Hospital, ²⁾ Department of Anesthesiology, Toho University Ohashi Medical Center, ³⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : Landiolol shortens the time to loss of consciousness by vital capacity rapid inhalation induction : the second report. . American Society of Anesthesiologists 2007 Annual Meeting (San Francisco, California, USA), 2007. 10.
- 3) Shiga T¹⁾, Wajima Z, Imanaga K²⁾, Ohe Y¹⁾ (¹⁾ Department of Anesthesiology, Toho University Ohashi Medical Center, ²⁾ Department of Anesthesia, Showa University Northern Yokohama Hospital) : Is operative delay associated with increased mortality of hip fracture patients?. American Society of Anesthesiologists 2007 Annual Meeting (San Francisco, California, USA), 2007. 10.
- 4) 加藤信也, 益田律子, 井上哲夫：星状神経節への局所麻酔薬注入及び直流通電療法は局所麻酔薬注入単独よりも上肢痛に対する除痛効果が高い Stellate ganglion block followed by direct current relieves upper limb pain more effectively than stellate ganglion block alone. 日本麻酔科学会第54回学術集会, 2007. 6.
- 5) 益田律子, 井上哲夫, 輪嶋善一郎, 加藤信也, 中島裕史, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 麻酔科学) : 帝王切開術に対するオピオイド添加高比重ブピバカイン脊髄くも膜下麻酔におけるブピバカイン用量と下肢運動遮断時間. 日本麻酔科学会第54回学術集会, 2007. 6.
- 6) 輪嶋善一郎, 今永和幸¹⁾, 志賀俊哉²⁾, 齋藤 剛, 井上哲夫, 坂本篤裕³⁾ (¹⁾ 昭和大学横浜市北部病院麻酔科, ²⁾ 東邦大学大橋医療センター麻酔科, ³⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科) : ランジオロールは vital capacity rapid inhalation induction の意識消失時間を短縮させる : 第2報. 日本麻酔科学会第54回学術集会 (札幌), 2007. 6.
- 7) 今永和幸¹⁾, 輪嶋善一郎, 鈴木尚志¹⁾, 小松大芽¹⁾, 下山裕子¹⁾, 世良田和幸¹⁾ (¹⁾ 昭和大学横浜市北部病院麻酔科) : プロポフォール注入痛に対するフェンタニル至適投与時間の検討. 日本麻酔科学会第54回学術集会 (札幌), 2007. 6.
- 8) 益田律子, 井上哲夫, 輪嶋善一郎, 加藤信也, 中島裕史, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 麻酔科学) : 帝王切開術に対するオピオイド添加高比重ブピバカイン脊髄くも膜下麻酔におけるブピバカイン用量と下肢運動遮断時間. 日本麻酔科学会第54回学術集会, 2007. 6.
- 9) 加藤信也, 益田律子, 井上哲夫, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 麻酔科学) : 星状神経節への直流通電および局所麻酔薬注入療法は局所麻酔薬注入単独よりも慢性上肢痛に対する除痛効果が高い. 日本ペインクリニック学会第41回大会, 2007. 7.
- 10) 益田律子, 井上哲夫, 加藤信也：脊髄損傷痛11症例における臨床像と薬物療法の効果. 日本ペインクリニック学会第41回大会, 2007. 7.
- 11) 中島祐史, 小野寺英貴, 輪嶋善一郎, 益田律子, 井上哲夫, 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 麻酔科学) : 冠攣縮性狭心症患者に対する電気痙攣療法の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 2007. 10.
- 12) 加藤信也：自律神経と良導絡 副交感神経機能は良導絡チャートに影響を及ぼすか?. 第59回日本良導絡自律神経学会学術大会, 2007. 10.
- 13) 後藤真弓, 中島裕史, 井上哲夫：頸部側面レントゲン所見による喉頭展開困難の予想. 第54回日本麻酔学会総会, 2007.

18. 救急医学講座

[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩
永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック]

研究概要

救急医学，特に外傷学，侵襲生体管理学，災害医学発展のために臨床と基礎研究活動を行っている。外傷学においての整形外科領域では寛骨臼骨折に対する新しい手術進入法，脊椎脊髄外傷に関する臨床的研究と診療を行い，関連学会誌や学会で発表した。脳神経外科学的分野では重症脳血管障害，頭部外傷，頸髄損傷，および蘇生後脳症に関する治療，頭蓋内循環代謝動態に関して臨床的，基礎的研究を行った。また，小児，及び高齢者頭部外傷に関して様々な臨床研究を行い，その成果は国内外の学会や英文誌に発表した。一般外科領域ではdamage control surgeryやopen managementにおける管理法，救命治療やICUにおける栄養管理などの研究成果を国内外の学会や英文誌に発表し，また救急領域における急性期DICの病態，その基準の検証等に多くの研究成果を公表した。災害医学では平成19年7月におきた新潟県中越沖地震の災害派遣やその検証を関連学会や学術誌にいち早く発表した。侵襲生体管理の基礎的分野ではショックに続発する多臓器障害の発症機序を解明することを研究課題として，腸間膜リンパ液の炎症性ディエータ，中でも脂質メディエータに注目し研究を行っている。

これらの研究は多方面から助成を受けている。特に，ショックの病態解析，集中治療における形容管理や高齢者頭部外傷における治療法の確立，また災害医療分野や臓器提供施設から見た移植医療の問題点，心肺蘇生法の研究や自動体外式除細動器（AED），アナフィラキシーショック時における救急隊員の対応などに関しては文部科学省や厚生労働省からの科学研究費補助，関連各団体からこれらの研究に対して支援を頂いている。今後は研究内容をさらに充実し，英文論文発表や国外発表をより積極的に展開することが課題と認識している。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Kushimoto S, Shibata Y, Koido Y, Kawai M, Yamamoto Y : The usefulness of procalcitonin measurement for assessing the severity of bacterial infection in patients requiring corticosteroid therapy. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 : 236-240.

追加分症例報告：

- 1) Shiraishi S¹⁾, Fujimura M^{1,3)}, Kon H¹⁾, Motohashi O¹⁾, Kameyama M¹⁾, Ishii K²⁾, Onuma T¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Sendai City Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Sendai City Hospital, ³⁾ Department of Neurosurgery, Tohoku University Graduate School of Medicine) : Thrombosed vertebral artery aneurysm presenting with hemorrhage and bulbar compression : report of two cases. Clinical Neurology and Neurosurgery 2005 ; 107 (2) : 123-127.

(1) 原著：

- 1) Shiraishi S, Kimura N, Yoshida R, Pilichowska M, Ohuchi N : Chromogranin A and chromogranin B in noninvasive and invasive breast carcinoma. Endocrine pathology 2002 ; 13 (2) : 117-122.
- 2) 久志本成樹，池田寿昭¹⁾，射場敏明¹⁾，石倉宏恭¹⁾，上山昌史¹⁾，江口 豊¹⁾，大友康裕¹⁾，岡本好司¹⁾，小倉裕司¹⁾，小関一英¹⁾，齋藤大蔵¹⁾，真弓俊彦¹⁾，遠藤重厚¹⁾，島崎修次¹⁾，丸藤 哲¹⁾ (¹⁾ 日本救急医学会DIC

特別委員会)：DIC症例の全体像と病態別特徴. 日救急医学会誌 2007；18 (6)：246-251.

- 3) 上山昌史¹⁾, 池田寿昭¹⁾, 射場敏明¹⁾, 石倉宏恭¹⁾, 江口 豊¹⁾, 大友康裕¹⁾, 岡本好司¹⁾, 小倉裕司¹⁾, 小関一英¹⁾, 久志本成樹, 齋藤大蔵¹⁾, 真弓俊彦¹⁾, 遠藤重厚¹⁾, 島崎修次¹⁾, 丸藤 哲¹⁾：感染症と非感染症による差異. 日救急医学会誌 2007；18 (6)：252-256.
- 4) 小倉裕司¹⁾, 大友康裕¹⁾, 小関一英¹⁾, 齋藤大蔵¹⁾, 岡本好司¹⁾, 真弓俊彦¹⁾, 射場敏明¹⁾, 江口 豊¹⁾, 池田寿昭¹⁾, 石倉宏恭¹⁾, 上山昌史¹⁾, 久志本成樹, 遠藤重厚¹⁾, 島崎修次¹⁾, 丸藤 哲¹⁾ (1) 日本救急医学会DIC特別委員会)：SIRS-associated coagulopathy (SAC) の転帰予測因子. 日救急医学会誌 2007；18 (6)：261-267.
- 5) 石倉宏恭¹⁾, 上山昌史¹⁾, 江口 豊¹⁾, 池田寿昭¹⁾, 射場敏明¹⁾, 大友康裕¹⁾, 岡本好司¹⁾, 小倉裕司¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 小関一英, 齋藤大蔵¹⁾, 真弓俊彦¹⁾, 遠藤重厚¹⁾, 島崎修次¹⁾, 丸藤 哲¹⁾ (1) 日本救急医学会DIC特別委員会)：急性期DIC患者におけるアンチトロンピン活性値測定の意義. 日救急医学会誌 2007；18 (6)：261-267.
- 6) 齋藤大蔵¹⁾, 岡本好司¹⁾, 真弓俊彦¹⁾, 小関一英¹⁾, 小倉裕司¹⁾, 射場敏明¹⁾, 江口 豊¹⁾, 大友康裕¹⁾, 池田寿昭¹⁾, 石倉宏恭¹⁾, 上山昌史¹⁾, 久志本成樹, 遠藤重厚¹⁾, 島崎修次¹⁾, 丸藤 哲¹⁾ (1) 日本救急医学会DIC特別委員会)：治療効果の分析. 日救急医学会誌 2007；18 (6)：268-272.
- 7) Yokota H, Atsumi T, Fuse A, Sato H, Yamamoto Y：Significance of magnetic resonance imaging in the diagnosis of vertebral artery injury associated with blunt vertebral trauma. J Nippon Med Sch 2007；74 (4)：293-299.
- 8) Iba T¹⁾, Gando S¹⁾, Murata A¹⁾, Kushimoto S, Saitoh D¹⁾, Eguchi Y¹⁾, Ohtomo Y¹⁾, Okamoto K¹⁾, Koseki K¹⁾, Mayumi T¹⁾, Ikeda T¹⁾, Ishikura H¹⁾, Ueyama M¹⁾, Ogura H¹⁾, Endo S¹⁾, et al. (1) Japanese Association for Acute Medicine Disseminated Intravascular Coagulation (JAAM DIC) study group)：Predicting the severity of SIRS-associated coagulopathy with hemostatic molecular markers and vascular endothelial injury markers. Journal of Trauma 2007；63：1093-1098.
- 9) Yokota H, Atsumi T, Araki T, Fuse A, Sato H, Kushimoto S, Kawai M, Yamamoto Y：Cerebral endothelial injury in elderly patients with severe head injury measurement by serum thrombomodulin and von Willebrand factor. Neurol Medico Chirrgica 2007；47：383-389.
- 10) Ogura H¹⁾, Gando S¹⁾, Iba T¹⁾, Egushi Y¹⁾, Ohtomo Y¹⁾, Okamoto K¹⁾, Koseki K¹⁾, Mayumi T¹⁾, Murata A¹⁾, Ikeda T¹⁾, Ishikura H¹⁾, Ueyama M¹⁾, Kushimoto S, Saitoh D¹⁾, Endo S¹⁾, et al. (1) Japanese Association for Acute Medicine Disseminated Intravascular Coagulation Study Group)：SIRS-associated coagulopathy and organ dysfunction in critically ill patients with thrombocytopenia. Shock 2007；28：411-417.
- 11) Gando S¹⁾, Saitoh D¹⁾, Ogura H¹⁾, Mayumi T¹⁾, Koseki K¹⁾, Ikeda T¹⁾, Ishikura H¹⁾, Iba T¹⁾, Ueyama M¹⁾, Eguchi Y¹⁾, Ohtomo H¹⁾, Kushimoto S, Endo S¹⁾, Shimazaki S¹⁾ (1) Japanese Association for Acute Medicine Disseminated Intravascular Coagulation (JAAM DIC) Study Group)：Natural history of disseminated intravascular coagulation diagnosed based on the newly established diagnostic criteria for critically ill patients：Results of a multicenter, prospective survey. Crit Care Med 2008；36：145-150.
- 12) 丸藤 哲¹⁾, 池田寿昭¹⁾, 石倉宏恭¹⁾, 射場敏明¹⁾, 上山昌史¹⁾, 江口 豊¹⁾, 大友康裕¹⁾, 小倉裕司¹⁾, 小関一英¹⁾, 久志本成樹, 齋藤大蔵¹⁾, 真弓俊彦¹⁾, 遠藤重厚¹⁾, 島崎修次¹⁾ (1) 日本救急医学会DIC特別委員会)：急性期DIC診断基準で診断されたDIC症例の特徴と予後. 日救急医学会誌 2007；18 (6)：240-245.
- 13) 横堀将司, 富田博樹¹⁾, 戸根 修¹⁾, 宍戸恒郎¹⁾, 仲川和彦¹⁾, 秋元秀昭¹⁾, 重田恵吾¹⁾, 長崎弘和¹⁾, 須崎紳一郎²⁾, 勝見 敦²⁾, 中林基明²⁾ (1) 武蔵野赤十字病院 脳神経外科, 2) 武蔵野赤十字病院 救命救急科)：高齢者重症頭部外傷における脳循環代謝及び脳灌流圧の検討. GERIATRIC NEUROSURGERY 2007；57-62.
- 14) 久志本成樹, 山本保博：急性期DIC診断基準によるDIC診断症例は基礎病態により重症度と転帰が異なる可能性がある. 日本救命医療学会誌 2007；21：43-49.

- 15) 布施理美, 布施 明, 横田裕行, 石原 哲¹⁾, 安藤高男¹⁾, 堀井淳一¹⁾, 山本保博 (¹⁾ 東京都医師会) : 災害急性期における被災者のメンタルの問題点 : 新潟県中越沖地震における経験. 東京都医師会雑誌 2008 ; 61 (3) : 223-228.
- (2) 総説 :
- 1) 久志本成樹 : 閉創の工夫と腹部コンパートメント症候群. Lisa 2007 ; 14 (6) : 564-575.
 - 2) 久志本成樹 : ケアに使える画像の見かた. エキスパートナース 2007 ; 2007 (11月増刊号) : 4-130.
 - 3) Yokota H : Cerebral endothelial damage after severe head injury. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (5) : 332-337.
 - 4) 横堀将司, 横田裕行 : JCS (Japan Coma Scale) の表記法. 日本医事新報 2007 ; 4354 : 94-95.
 - 5) 久志本成樹 : 敗血症とプロカルシトニン. 医学のあゆみ 2007 ; 222 (11) : 893-895.
 - 6) 久志本成樹 : プロカルシトニン. 感染・炎症・免疫 2007 ; 37 (4) : 67-71.
 - 7) 久志本成樹 : 敗血症をプロカルシトニンで評価する. Lab Clin Pract 2007 ; 25 : 100-105.
 - 8) Morimura N¹⁾, Takahashi K¹⁾, Katsumi A¹⁾, Koido Y¹⁾, Sugimoto K¹⁾, Fuse A¹⁾, Ohta S¹⁾, Yamamoto Y, Sakamoto T²⁾ (¹⁾ Task Force of Mass Gathering Medicine Committee, Japanese Association of Disaster Medicine, ²⁾ Trauma and Critical Care Center, Teikyo University, School of Medicine) : Mass gathering medicine for the First East Asian Football Championship and the 24th European/South American Cup in Japan. European Journal of Emergency Medicine 2007 ; 14 : 115-117.
 - 9) 久志本成樹 : 循環血液量減少性ショック. 救急医学 2008 ; 32 (1) : 51-57.
 - 10) 久志本成樹 : Review of KyberSept trial. Coagulation & Inflammation 2008 ; 2 (1) : 13-21.
 - 11) 久志本成樹 : 新しいDIC治療薬 : 生理的プロテアーゼインヒビター. 治療学 2007 ; 41 (3) : 315-317.
 - 12) 山本保博 : 初期対応—外傷における初期対応. 日本医師会雑誌 2007 ; 136 (1) : 84-87.
 - 13) 吉田竜介, 山本保博 : 市民に対する新ガイドライン指導上のポイント. プレホスピタル・ケア 2007 ; 20 (2) : 9-16.
 - 14) 布施 明, 横田裕行, 山本保博 : 頭部外傷. 医学と薬学 2007 ; 47 (4) : 409-416.
 - 15) 増野智彦, 佐藤格夫, 鈴木崇生, 雨森俊介, 山本保博 : 消化管・腸間膜損傷に対する画像診断の進め方. 救急医学 2007 ; 31 (4) : 463-466.
 - 16) 金子純也, 横田裕行 : 頭が痛い. 救急医学 2007 ; 31 : 509-513.
 - 17) 横田裕行 : 熱中症. きょうの健康 2007 ; 7 : 88-91.
 - 18) 横田裕行 : ケガ・やけどの治療. きょうの健康 2007 ; 7 : 92-95.
 - 19) 山本保博 : 自治組織による災害時の救出救助. てあて 2007 ; (44) : 2-3.
 - 20) 佐藤格夫, 増野智彦, 鈴木崇生, 川井 真, 宮内雅人, 山本保博 : 広範囲熱傷の治療 輸液計画・公式と使用の実際. 救急医学 2007 ; 31 (7) : 778-779.
 - 21) 山本保博 : 進化の歪みから考える病気と怪我. 「セコム健康くらぶKENKO」会報誌「KENKO」 2007 ; 1-4.
 - 22) 横堀将司, 横田裕行 : 頭部外傷による出血. 救急医学 2007 ; 31 : 908-912.
 - 23) 横堀将司, 横田裕行 : 外傷による出血—損傷部位別の止血法 頭部外傷による出血. 救急医学 2007 ; 31 : 908-912.
 - 24) 布施 明 : 局地災害における自治体DMATと救助・救急の連携. Prehospital Care 2007 ; 20 (4) : 19-24.
 - 25) 荒木 尚, 山本保博, 横田裕行 : 虐待 (Child Abuse) による頭部外傷. 小児科診療 2007 ; 1521-1527.
 - 26) 中江竜太, 横田裕行 : 患者が急激な頭痛を訴えた時, 原因として何を考えればよいですか. 救急看護 2007 ; 44-45.
 - 27) 中江竜太, 横田裕行 : 緊急性の高い頭痛はどのようなものですか. その対処方法を教えてください. 救急看護 2007 ; 46-47.

- 28) 中江竜太, 横田裕行: 患者が急激な胸痛を訴えた時, 原因として何を考えればよいですか. 救急看護 2007 ; 48-49.
- 29) 中江竜太, 横田裕行: 緊急性の高い胸痛はどのようなものですか. その対処方法を教えてください. 救急看護 2007 ; 50-51.
- 30) 中江竜太, 横田裕行: 急性心筋梗塞と診断された患者の初発症状としての胸痛と悪心, 嘔吐がおこるメカニズムを教えてください. 救急看護 2007 ; 50-51.
- 31) 中江竜太, 横田裕行: 緊急性の高い腰背部痛はどのようなものですか. 見逃してはならないポイントを教えてください. 救急看護 2007 ; 54-55.
- 32) 中江竜太, 横田裕行: 緊急性の高い腹痛にはどのようなものですか. 見逃してはならないポイントを教えてください. 救急看護 2007 ; 56-57.
- 33) 布施 明: Mass Gathering. 救急医学 2007 ; 31 (10) : 1392-1399.
- 34) 大泉 旭: 胸腰椎・胸腰髄損傷. 救急医学 2007 ; 31 (12) : 1576-1577.
- 35) 津田喬子³⁾, 野見山延, 古家 仁, 北村征治, 西山謹吾²⁾, 横田裕行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学, ²⁾ 高知赤十字病院, ³⁾ 名古屋市立大学麻酔科): (社) 日本麻酔科学会制定「無呼吸テスト実施指針」について. 臨床麻酔 2007 ; 31 (11) : 1729-1744.
- 36) 佐藤格夫, 鈴木崇生, 福田令雄, 増野智彦, 久志本成樹, 山本保博: 急性膈炎 Abdominal Compartment Syndrome を呈した重症急性膈炎. 救急医学 2007 ; 31 (12) : 1618-1620.
- 37) 白石振一郎, 松田 潔¹⁾ (¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター): 消化管出血 術前診断できなかった下部消化管出血の症例. 救急医学 2007 ; 31 (12) : 1622-1623.
- 38) 大泉 旭, 川井 真: 胸椎・腰椎損傷の手術療法. 救急医学 2007 ; 31 (13) : 1757-1763.
- 39) 山本保博: 台風や集中豪雨に備える. てあて 2007 ; (46) : 2-3.
- 40) 久志本成樹: Fibrinogen, AT-III. 救急医学 2007 ; 31 : 300-301.
- 41) 久志本成樹: リコンビナントトロンボモジュリン. Surgery Frontier 2007 ; 14 (3) : 40-44.
- 42) 竹田晋浩^{1,2)}, 赤田信二^{1,2)}, 寺嶋克幸²⁾, 鈴木規仁²⁾, 青戸泰二³⁾, 山本保博, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾ 日本医科大学麻酔科学教室, ³⁾ 日本医科大学付属病院中央検査部): 非侵襲的陽圧換気によるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌検出頻度減少の効果. 日本集中治療医学会雑誌 2007 ; 14 : 91-92.
- 43) 鈴木伸行¹⁾, 秋山浩利²⁾, 横田裕行³⁾, 堤 晴彦⁴⁾ (¹⁾ 豊橋市民病院救命救急センター, ²⁾ 川越消防署, ³⁾ 日本医科大学高度救命救急センター, ⁴⁾ 埼玉医科大学川越医療センター救命救急センター): 脳卒中に対する病院前の体系化・標準化. Neurosurgical Emergency 2007 ; 12 (2) : 136-141.
- 44) 布施理美, 布施 明, 辺見 弘¹⁾ (¹⁾ 国立病院機構 災害医療センター): DMAT (災害派遣医療チーム) における災害時精神医療チームの有用性. トラウマティック・ストレス 2007 ; 5 (2) : 185-192.
- 45) 山本保博: 病院をたらい回しにされないためにはいかに備えるべきか. プレジデント 2008 ; 46 (2) : 99-99.
- 46) 佐藤格夫, 増野智彦, 鈴木崇生, 宮内雅人, 白石振一郎, 久志本成樹, 横田裕行, 山本保博: 免疫増強栄養剤の現在と治療的戦略としての今後の発展. ICUとCCU 2008 ; 32 (2) : 114-122.
- 47) 久志本成樹: ICUにおける細菌感染症診断の新しいマーカーとしてのプロカルシトニン. CUとCCU 2008 ; 32 (3) : 199-207.
- 48) 横田裕行: 脳死下臓器提供時の負担とその軽減. 外科治療 2008 ; 98 : 286-288.
- 49) 横田裕行: 救急医療の終末期の医療と倫理. 救急・集中治療 2008 ; 259-263.
- 50) 久志本成樹: 胸部外傷. 今日の外科的治療と画像診断に求めるもの. インナービジョン 2008 ; 23 (1) : 12-19.
- (3) 研究報告書:
- 1) 横田裕行: AEDの使用実績の把握と科学的評価法にかかわる研究. 「自動体外式除細動器 (AED) を用いた心

疾患の救命率向上のための体制構築に関する研究」平成18年度総括・分担研究報告書 2007.

- 2) 有賀 徹¹⁾, 島崎修次²⁾, 寺岡 慧³⁾, 阿部俊昭⁴⁾, 横田裕行⁵⁾, 布施 明⁵⁾ (1) 昭和大学医学部救急医学, 2) 杏林大学医学部救急医学, 3) 東京女子医科大学腎臓病総合医療センター, 4) 東京慈恵医科大学脳神経外科, 5) 日本医科大学救急医学) : 脳死者の発生等に関する研究. 厚生労働科学特別 研究事業 2007.
- 3) 横田裕行, 布施 明 : 平成19年度厚生労働科学研究費補助金 (循環器疾患等生活習慣疾病対策総合研究事業) 「自動体外式除細動器 (AED) を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究」 AEDの使用実績の把握と科学的評価法にかかわる研究. 2007.
- 4) 布施 明 : 「都市型災害」に関する研究. 平成18年度厚生労働科学研究費補助金 「災害時医療体制の整備促進に関する研究」報告書 2008.
- 5) 横田裕行, 重森朋子 : 脳死下・心停止下臓器幹旋のコーディネートに関する研究. 「脳死」患者家族の心理過程に関する研究 2008.
- 6) 横田裕行 : 平成19年度厚生労働科学研究費補助金 (ヒトゲノム・再生医療等研究事業) 「移植医療の社会的基盤整備に関する研究」救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナーに関する研究. 2008.
- 7) 山本保博, 野口 宏¹⁾, 石井 昇²⁾, 坂本哲也³⁾, 浅井康文⁴⁾, 滝口雅博⁵⁾, 田中秀治⁶⁾, 谷川攻一⁷⁾, 郡山一明⁸⁾, 高山隼人⁹⁾, 近藤久禎 (1) 愛知医科大学高度救命救急センター, 2) 神戸大学医学部附属病院救急部, 3) 帝京大学医学部救命救急センター, 4) 札幌医科大学付属病院救急集中治療部, 5) 青森県総合健診センター附属あおり健康管理センター, 6) 国士舘大学大学院救急医学院, 7) 広島大学大学院医歯薬総合研究科, 8) 救急救命九州研修所, 9) 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター救命救急センター) : 平成19年度厚生労働科学研究費補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業「メディカルコントロール体制の充実強化に関する研究」総括・分担研究報告書. 2008.
- 8) 山本保博, 野口 宏¹⁾, 石井 昇²⁾, 坂本哲也³⁾, 浅井康文⁴⁾, 滝口雅博⁵⁾, 田中秀治⁶⁾, 谷川攻一⁷⁾, 郡山一明⁸⁾, 高山隼人⁹⁾, 近藤久禎 (1) 愛知医科大学高度救命救急センター, 2) 神戸大学医学部附属病院救急部, 3) 帝京大学医学部救命救急センター, 4) 札幌医科大学付属病院救急集中治療部, 5) 青森県総合健診センター附属あおり健康管理センター, 6) 国士舘大学大学院救急医学院, 7) 広島大学大学院医歯薬総合研究科, 8) 救急救命九州研修所, 9) 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター救命救急センター) : 厚生労働科学研究費補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業「メディカルコントロール体制の充実強化に関する研究」17年度～19年度総合研究報告書. 2008.

(4) 巻頭言 :

- 1) 山本保博 : プレホスピタルケアにおける緊急地震速報の活用. 救急医療ジャーナル 2007 ; 15 (6) : 1-1.

(5) 症例報告 :

- 1) 荒木 尚¹⁾, 玉井勇人¹⁾, 中江竜太¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 日本医科大学脳神経外科) : 遷延性の低血圧を伴った頭部外傷後下垂体前葉機能不全の1例. 日本救急医学会雑誌 2007 ; 18 (6) : 229-235.
- 2) Katsuno M, Yokota H, Yamamoto Y, Teramoto A¹⁾ (1) Department of Neurosurgery) : bilateral traumatic abducens nerve palsy associated with skull base fracture. case report. Neurol Med Chirrgica 2007 ; 47 : 307-309.
- 3) 荒木 尚¹⁾, 須崎 真¹⁾, 北薮雅敏¹⁾, 横堀将司¹⁾, 渥美生弘¹⁾, 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 日本医科大学脳神経外科) : A型インフルエンザ感染後に診断された単純ヘルペス1型ウイルスによる急性小脳炎の1例. 小児の脳神経 2007 ; 32 (5) : 362-366.
- 4) Fuse A, Yokota H, Kominami S¹⁾, Yamamoto Y (1) 脳神経外科学) : Traumatic cerebral aneurysm associated with a contralateral carotid cavernous fistula. Interventional Neuroradiology 2007 ; 13 : 287-293.

- 5) 北園雅敏, 高山泰広, 大村真理子, 尾本健一郎, 横田裕行, 山本保博: 脳低温療法にて脳蘇生し得た2症例. 脳死・脳蘇生 2007; 19 (2): 131-134.
- 6) 宮内雅人, 山本保博, 宮下次廣¹⁾, 高木 亮¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): 救急画像カンファレンスQ&A. 救急医学 2007; 31 (6): 736-738.
- 7) 宮内雅人, 山本保博, 宮下次廣¹⁾, 高木 亮¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): 救急画像カンファレンスQ&A. 救急医学 2007; 31 (8): 976-979.
- 8) 高山泰広, 横田裕行: 心原性心肺停止後に心拍再開した脳低体温療法を施行された症例. 救急医学 2007; 31: 1656-1657.
- 9) 宮内雅人, 山本保博, 宮下次廣¹⁾, 高木 亮¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): 救急画像カンファレンスQ&A. 救急医学 2007; 31 (12): 1668-1670.
- 10) 勝野 亮, 小林士郎¹⁾, 横田裕行, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科学): 1次性動眼神経麻痺をきたした軽症頭部外傷の2症例. 脳と神経 2008; 60: 89-91.
- 11) 宮内雅人, 山本保博, 宮下次廣¹⁾, 高木 亮¹⁾ (1) 日本医科大学放射線医学): 救急画像カンファレンスQ&A. 救急医学 2008; 32 (2): 236-238.
- 12) 宮内雅人, 小井土雄一, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行: 内視鏡を利用した胃洗浄が奏効したと思われるアセトアミノフェン大量服用の1例. 日本臨床救急医学会誌 2008; 11: 26-29.

著 書

- 1) 川井 真: [分担] 脊椎・脊髄外傷. 救急救命士標準テキスト (救急救命士標準テキスト編集委員会), 2007; pp834-840, へるす出版.
- 2) 浅井康文¹⁾, 小井土雄一, 山本保博 (1) 札幌医科大学救急集中治療部): [分担] 国際医療班の活動. 経験から学ぶ「大規模災害医療」対応・活動・処置 (丸川征四郎), 2007; pp379-384, 永井書店.
- 3) 山本保博: [監修] 災害時のヘルスプロモーション—こころと身体のよりよい健康をめざして (山崎達枝), 2007; 荘道社.
- 4) 山本保博: [監修] 第30回救急救命士国家試験問題解答・解説集, 2007; へるす出版.
- 5) 山本保博¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 牧野俊郎²⁾, 富岡譲二³⁾, 近藤久禎⁴⁾, 吉田竜介⁴⁾, 小川理郎⁵⁾ (1) 日本医科大学救急医学教授, 2) 日本医科大学救急医学准教授, 3) 福岡和白病院 救急センター, 4) 日本医科大学救急医学, 5) 救急救命東京研修所): [分担] 第30回救急救命士国家試験問題解答・解説集 (山本保博), 2007; ppA31-65, へるす出版.
- 6) 久志本成樹: [分担] 輸液療法 (輸液計画・公式とその実際). 熱傷治療マニュアル (木所昭夫), 2007; pp82-90, 中外医学社.
- 7) 林 励治¹⁾, 伊藤雅之, 神田倫秀, 大泉 旭, 川井 真 (1) みさと健和病院): 顔面骨骨折と胸腹部臓器損傷を合併した両上下肢開放骨折. 骨・関節・靭帯, 2007; pp587-590, アークメディア.
- 8) 横田裕行: 脳死. 看護のための最新医学講座, 2007; pp155-159, 中山書店.
- 9) 近藤久禎¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): [自著] 日本DMAT活動要領. プレホスピタルMOOK4 多数傷病者対応 (監修: 石原晋 益子邦洋 編集: 大友康裕), 2007; pp127-136, 永井書店.
- 10) 久志本成樹: [分担] 胸部外傷. 外傷初期看護ガイドラインJNTEC (日本救急看護学会監修), 2007; pp51-62, へるす出版.
- 11) 山本保博: [監修] 新ステップアップ「救急救命士国家試験対策」薬理作用 (安田和弘), 2007; へるす出版.
- 12) 山本保博: [監修] 必携いざというときすぐに役立つ「救急+災害ハンドブック」, 2007; 池田書店.
- 13) 布施 明: [分担] 埼玉DMAT. プレホスピタル Mook 4 多数傷病者対応 (監修: 石原晋, 益子邦洋, 編集: 大友康裕), 2007; pp237-246, 永井書店.

- 14) 布施 明：〔分担〕バイオテロを巡って．救急医療領域における感染症（救急医学 臨時増刊号）（編集：平澤博之），2007；pp1392-1399，へるす出版．
- 15) 久志本成樹：〔分担〕一般外傷（総論）．改訂第3版 救急隊員標準テキスト，2007；pp172-182，へるす出版．
- 16) 久志本成樹：〔分担〕一般外傷（各論）．改訂第3版 救急隊員標準テキスト，2007；pp182-196，へるす出版．
- 17) 大泉 旭，川井 真：〔分担〕骨盤の外傷．スポーツファーストエイドマニュアル（太田祥一），2007；pp148-153，文光堂．
- 18) 山本保博，黒川 顕：〔監訳〕アトラス応急処置マニュアル（原著第8版），2007；南江堂．
- 19) 横田裕行：〔監修〕症例・事例から学ぶ．救急医学（横田裕行），2007；へるす出版．
- 20) 山本保博：〔監修〕救急医療の基本と実際「精神・中毒・災害」（行岡哲男，太田祥一），2007；荘道社．
- 21) 山本保博，中谷壽男¹⁾（¹⁾ 関西医科大学救急医学科）：〔分担〕急性中毒．50th Anniversary 2008 今日の治療指針（山口 徹，北原光夫，福井次矢），2007；pp1233-1264，医学書院．
- 22) 松本 学，横田裕行：〔分担〕ショック．腎疾患・透析 最新の治療（飯野靖彦，榎野博史，秋澤忠男），2007；pp95-98，南江堂．
- 23) 宮内雅人，平田清貴¹⁾，牧野俊郎²⁾（¹⁾ 日本医科大学薬剤部，²⁾ 日本医科大学新東京国際空港クリニック）：〔共著〕救急治療・薬剤ハンドブック（山本保博），2007；（株）じほう．
- 24) 久志本成樹：〔分担〕プロカルシトニン．臨床検査データブック（高久史磨，黒川 清，春日雅人，北村 聖），2007；p580，医学書院．
- 25) 横田裕行：〔分担〕脳震盪．今日の治療指針（山口 徹，北原光夫，福井次矢），2008；pp36-36，医学書院．
- 26) 横田裕行：〔分担〕脳震盪．今日の治療指針 縮刷版（山口 徹，北原光夫，福井次矢），2008；pp36-36，医学書院．
- 27) 畝本恭子，横田裕行：〔分担〕多発外傷．すぐに役立つ脳神経外科救急ガイドブック，2008；pp253-257，MCメディカ出版．
- 28) 辻井厚子：〔分担〕失神患者の指針．救急・集中治療ガイドライン—最新の診療指針—2008' 09（岡元和文），2008；pp44-47，総合医学社．
- 29) 山本保博：〔監修〕E. M. T. Support Book，2008；東京法令出版株式会社．
- 30) 林 励治，川井 真，山本保博：外傷の合併 脂肪塞栓症候群．救急・集中治療 Vol20 No3/4 合併症別にみる周術期管理Q&A（岡元和文），2008；pp479-482，総合医学社．

学会発表

〔追加分〕

追加分シンポジウム：

- 1) 佐藤格夫，増野智彦，鈴木崇生，小池 薫¹⁾，吉田竜介，久志本成樹，小井土雄一，山本保博，Moore F²⁾，Kozar R²⁾（¹⁾ 京都大学医学部 初期診療救急医学，²⁾ テキサス大学 外科学トラウマリサーチセンター）：免疫増強経腸栄養素グルタミンとアルギニンが腸管虚血再灌流時に異なる腸管障害を与える（重症患者の代謝栄養管理）．日本集中治療医学会（神戸），2007．3．

追加分一般講演：

- 1) 白石振一郎¹⁾，村田希吉¹⁾，本間正人¹⁾，井上潤一¹⁾，加藤 博¹⁾，小笠原智子¹⁾，長谷川栄寿¹⁾，霧生信明¹⁾，粟國克己¹⁾，一二三亨¹⁾，原口義座¹⁾，辺見 弘¹⁾（¹⁾ 災害医療センター 救命救急科）：重症肝外傷術後に発症した腹水感染症の1例．第68回日本臨床外科学会，2006．11．
- 2) 白石振一郎¹⁾，濱田浄司¹⁾，原 悠¹⁾，大岐真生子¹⁾，霧生信明¹⁾，長谷川栄寿¹⁾，村田希吉¹⁾，小笠原智子¹⁾，加藤 宏¹⁾，井上潤一¹⁾，本間正人¹⁾，原口義座¹⁾，辺見 弘¹⁾（¹⁾ 災害医療センター 救命救急科）：当院で経験したpneumatosis cystoides intestinalis（PCI）の2症例：保存的治療と外科的治療．第57回 日本救急医学

会関東地方会, 2007. 2.

- 3) 荒木 尚, Rutka-T. J¹⁾ (1) The Hospital for Sick Children, Toronto, Canada) : 本邦における児童虐待診断の問題点. 日本神経外傷学会, 2007. 3.
- 4) 渥美生弘, 勝野 亮, 高島伸之介, 北菌雅敏, 横堀将司, 荒木 尚, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博 : 非外傷性急性硬膜下血腫に対する穿頭術. 日本脳卒中の外科学会, 2007. 3.

追加分特別講演 :

- 1) 荒木 尚 : 小児急性期神経外傷治療標準化の展望. 日本神経外傷学会 (仙台), 2007. 3.

(1) 特別講演 :

- 1) 山本保博 : 救急医療の現状と課題. 総務省消防庁消防大学校講義 (東京), 2007. 5.
- 2) 久志本成樹 : 救急医療における外傷診療 : 防ぎえる外傷死の回避と致死的外傷救命のために. 第3回京滋 ER-ICU フォーラム, 2007. 8.
- 3) 横田裕行 : 重症頭部外傷の管理と治療. 第75回日本医科大学医学会総会 (東京), 2007. 9.
- 4) 山本保博 : 進化の歪みから考える怪我と病気. 救急救命東京研究所講義 (東京), 2007. 10.
- 5) 山本保博 : 救急医療の現状と課題. 総務省消防庁消防大学校講義 (東京), 2007. 10.
- 6) 川井 真 : 整形外科診療における Killer Disease. 第263回葛飾区整形外科集談会 (東京), 2007. 11.
- 7) 山本保博, 近藤久禎 : 高気圧酸素治療を必要とする集団災害と災害医療対応体制. 第42回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会, 2007. 11.
- 8) 横田裕行 : 多様化・複雑化する世界の災害と対応. 第1回災害救助セミナー (東京), 2007. 12.
- 9) 横田裕行 : 病院前, 及び救急初療における脳卒中急性期の対応. 第2回沖縄救急医学教育研究会 (琉球大学), 2008. 1.
- 10) 山本保博 : 地震災害・NBCテロの初期医療対応. 第5回沖縄クリティカルケア研究会, 2008. 2.
- 11) 山本保博 : 救急災害初期治療期における患者の特徴と泌尿器疾患. 第4回東京ベイエリア泌尿器フォーラム, 2008. 2.
- 12) 布施 明 : 東京・渋谷の温泉施設「SHIESPA (シエスパ)」の爆発事故. 第11回地域防災緊急医療ネットワーク・フォーラム, 2008. 3.

(2) 招待講演 :

- 1) 横田裕行 : 救急医療施設からみた脳死下臓器提供の問題点. 第3回神戸大学病院移植医療フォーラム (神戸), 2007. 12.
- 2) 横田裕行 : 急性期脳卒中の観察評価の標準化. 江戸川区救急業務連絡協議会 (江戸川区医師会), 2008. 3.

(3) 教育講演 :

- 1) 山本保博 : 進化の歪みから考える病気と怪我. セコム健康くらぶ「KENKO」会員向けセミナー (東京), 2007. 5.
- 2) 久志本成樹 : 敗血症をプロカルシトニンで評価する. 第17回日本臨床検査専門医会春季大会, 2007. 6.
- 3) 久志本成樹 : ショックに対する輸液療法 : いかに考え, どのようにアプローチするか. 第1回大東京救命救急講演会, 2007. 7.
- 4) 山本保博 : 災害時における自助, 共助, 公助. 日本堤消防署, 台東区主催平成19年度防災・救急の日つどい防災講演会 (東京), 2007. 9.
- 5) 山本保博, 吉田竜介, 牧野俊郎, 平間久雄 : 我が国の災害対策における自助・共助・公助の重要性について. 会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部主催平成19年度「救急の日」救急講演会 (会津若松市), 2007. 9.
- 6) 川井 真 : 介護現場で知っておくと役に立つ救急処置. 第8回日本認知症ケア学会 (盛岡), 2007. 10.
- 7) 川井 真, 大泉 旭, 原 義明, 林 励治 : 整形外科からの致死性病態. 第192回新潟整形外科研究会 (新潟), 2008. 1.

- 8) 山本保博：地震災害・NBCテロの初期医療対応。虎ノ門病院講演会，2008. 1.
 - 9) 川井 真：熱傷治療の変遷と専門医制度。第14回日本熱傷学会北海道地方会（北海道），2008. 2.
 - 10) 川井 真：救命救急（保険診療）の実際。東京都国民健康保険団体連合会（東京），2008. 2.
 - 11) 横田裕行：病院前からの脳卒中診療システムの重要性。日本医師会生涯教育講座（釧路），2008. 2.
 - 12) 横田裕行：新しい標準的蘇生法における脳蘇生。平成20年度第2回医学講座プログラム（日本医科大学），2008. 2.
- (4) シンポジウム：
- 1) Yokota H, Atsumi T, Araki T, Sato H, Fuse A, Yamamoto Y, Teramoto A¹⁾, Kobayashi S¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Endothelial Injury of Severe Head Injury. World Federation of Neurosurgical Societies (WFNS) 13th. Interium meeting / 12 th. Asian-Australasian Congress of Neurological Surgeons. (Nagoya), 2007. 7.
 - 2) 久志本成樹, 山本保博：急性期DIC診断基準の評価：急性期DIC症例の全体像と病態別特徴。第30回日本血栓止血学会学術集会，2007. 11.
 - 3) Yokota H, Atsumi T, Araki T, Sato H, Fuse A, Yamamoto Y, Teramoto A¹⁾, Kobayashi S¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : ICU management for severe head injury. World Federation of Neurosurgical Societies (WFNS) 13th. Interium meeting / 12 th. Asian-Australasian Congress of Neurological Surgeons. (Nagoya), 2007. 11.
 - 4) 横田裕行, 山本保博, 小井土雄一：災害医療～地震, テロなどに際して求められる医療 現場の視点からみた災害医療, 急性期医療の展開と問題点。第27回日本医学会総会（大阪），2007. 4.
 - 5) Yokobori S, Yokota H, Sato H, Fuse A, Araki T, Atsumi T, Kitazono M, Yamamoto Y : Analysis between the treatments and long-term prognoses in head injured patients that were registered in Japan Neurotrauma Data Bank . 第66回日本脳神経外科学会総会，2007. 10.
 - 6) 横田裕行, 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博, 芦刈淳太郎¹⁾, 小中節子¹⁾ (¹⁾ 日本臓器移植ネットワーク) : 脳死下臓器提供時の負担とその軽減。第107回日本外科学会総会（大阪），2007. 4.
 - 7) 近藤久禎, 坂本哲也¹⁾, 小井土雄一, 大友康裕²⁾, 山本保博 (¹⁾ 帝京大学付属病院救命救急センター, ²⁾ 東京医科歯科大学付属病院ERセンター) : 2次救急医療機関の現状と課題。第10回日本臨床救急医学会総会・学術集会，2007. 5.
 - 8) 久志本成樹, 山本保博, 横田裕行, 川井 真, 小井土雄一, 吉田竜介, 増野智彦, 宮内雅人, 雨森俊介, 佐藤格夫, 鈴木崇生, 古畑 謙, 坂本和嘉子, 尾本健一郎：重症肝損傷に対する治療戦略：重症多発外傷にはdamage controlとIVRを併用する。第21回日本外傷学会，2007. 5.
 - 9) 荒木 尚：小児重症外傷治療の標準化とその具体的指針の構築。日本外傷学会，2007. 5.
 - 10) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博：日本医科大学高度救命救急センターにおける小児重症頭部外傷に対する長期間低体温療法6年間の総括。日本小児神経外科学会，2007. 5.
 - 11) 布施 明, 渥美生弘, 近藤久禎, 小井土雄一, 横田裕行, 山本保博：災害医療のCommand & Communicationにおける医療従事者の役割。第10回日本臨床救急医学会，2007. 5.
 - 12) 荒木 尚, 渥美生弘, 横堀将司, 高山泰広, 布施 明, 佐藤秀貴, 小井土雄一, 横田裕行, 山本保博：小児急性期外傷治療の標準化の展望：トロント小児病院における神経外傷のチームアプローチ。第10回日本臨床救急医学会，2007. 5.
 - 13) 宮内雅人, 増野智彦, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 山本保博：ラット出血性ショックモデルにおけるnon-coding RNAの発現と解析：マイクロRNAを中心に。第22回日本Shock学会，2007. 5.
 - 14) 永井富成¹⁾, 松尾克則¹⁾, 荒谷浩栄¹⁾, 内田定利¹⁾, 増野智彦, 雨森俊介, 小川太志, 大泉 旭, 吉田竜介, 山本保博 (¹⁾ 東京消防庁) : 東京23区内重症傷病者発生状況の分析：現場到着時間短縮を目指して。第10回日本臨床救急医学会総会，2007. 5.

- 15) 荒木 尚：小児重症頭部外傷に対する長期間低体温療法．日本脳低温療法学会（山口），2007．6．
 - 16) 荒木 尚，横田裕行，山本保博，Rutka-T J¹，Cox P¹（¹ The Hospital for Sick Children, Toronto, Canada）：トロント小児病院における神経終末期医療の経験．日本脳死脳蘇生学会（熊本），2007．6．
 - 17) 吉田竜介，横田裕行，山本保博：救急救命士処置拡大における潜在的問題点と今後の展望．第10回日本臨床救急医学会（神戸），2007．8．
 - 18) 荒木 尚，横田裕行，山本保博：当センターにおける小児重症頭部外傷に対する低体温療法の総括．日本救急医学会総会，2007．10．
 - 19) 横堀将司，横田裕行，富田博樹¹，戸根 修¹，勝見 敦²，須崎紳一郎²，山本保博（¹ 武蔵野赤十字病院脳神経外科，² 武蔵野赤十字病院救命救急科）：高齢者重症頭部外傷の特殊性と治療における問題点：病院前から術後管理まで．第35回日本救急医学会 総会・学術集会，2007．10．
 - 20) 山本保博：これまでの過大侵襲研究会の意義とこれからの将来像としての役割（期待）．第40回過大侵襲研究会シンポジウム，2007．11．
 - 21) 横田裕行，山本保博，芦刈淳太郎¹，小中節子¹（¹ 日本臓器移植ネットワーク）：これでいいのか，日本の腎移植：救急医・脳外科医からの提言．第41回日本臨床腎移植学会（浜松），2008．1．
 - 22) 荒木 尚，Rutka-T J¹，Cox P¹，横田裕行，山本保博（¹ The Hospital for Sick Children, Toronto, Canada）：トロント小児病院における終末期医療の実際．日本集中治療学会看護師部門，2008．2．
 - 23) 山本保博：地震災害初動期における医療チームの対処計画．平成19年度防衛医学セミナー，2008．2．
 - 24) 布施 明，渥美生弘，近藤久禎，川井 真，横田裕行，山本保博：海上医療活動におけるメディカルレギュレーションについての検討：海上保安庁旅客船多数負傷者事案対応訓練を見学して．第13回日本集団災害医学会総会，2008．2．
 - 25) 渥美生弘，横田裕行，佐藤秀貴，布施 明，荒木 尚，増野智彦，横堀将司，北菌雅敏，山本保博：SAH後の輸液管理：連続心拍出量測定装置（PiCCO）を用いて．第35回日本集中治療医学会総会，2008．2．
 - 26) 宮内雅人，増野智彦，久志本成樹，横田裕行，山本保博：消化管出血における診断と治療の選択 当院救命救急センターにおける消化管出血における診断と治療法の選択．第44回日本腹部救急医学会，2008．3．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 荒木 尚，横田裕行，山本保博：小児急性期外傷治療標準化とチームアプローチ．日本臨床救急医学会，2007．5．
 - 2) 横田裕行，渥美生弘，雨森俊介，荒木 尚，宮内雅人，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，吉田竜介，山本保博：3次救急医療施設における研修医教育の問題点．第10回日本臨床救急医学会（神戸），2007．5．
 - 3) 吉田竜介，横田裕行，山本保博：東京におけるメディカルコントロール協議会の構成と現状．第10回日本臨床救急医学会（神戸），2007．5．
 - 4) 牧野俊郎¹（¹ 成田国際空港クリニック）：国際空港とNBCテロリズム災害対策．第10回日本臨床救急医学会・学術集会，2007．5．
 - 5) 久志本成樹，山本保博，横田裕行，川井 真，吉田竜介，尾本健一郎，増野智彦，宮内雅人，佐藤格夫，鈴木崇生：重症肝損傷には早期の damage control の適応判断とIVRの併用を行う．第32回日本外科系連合学会学術集会，2007．6．
 - 6) 荒木 尚，横田裕行，山本保博，Rutka J¹，Cox P¹（¹ トロント小児病院集中治療科）：カナダトロント小児病院における終末期医療の経験．第20回日本脳死脳蘇生学会（熊本），2007．6．
- (6) セミナー：
- 1) 久志本成樹：新規感染症診断項目：プロカルシトニン（PCT）について．第81回日本感染症学会総会，2007．4．
 - 2) 山本保博：医療機関が救急隊員に求める情報とは．第16回救急救命士および救急救命士をめざす人の救急医学セミナー（東京），2007．7．
 - 3) 久志本成樹：PiCCO systemを用いた肺内水分動態解析に基づく肺水腫の診断と病態鑑別．第4回 PiCCO Club

Meeting, 2007. 10.

- 4) 横田裕行：救急医療における終末期医療に関するガイドライン．第35回日本救急医学会総会（大阪），2007. 10.
- 5) 横田裕行：病院前脳卒中救護（PSLS）と病院前意識障害救護（PCEC）の意義と実際．第13回日本脳神経外科救急学会（東京），2008. 1.
- 6) 横田裕行：TBI（Traumatic Brain Injury）と下垂体機能低下症．第18回日本間脳下垂体腫瘍学会（福井），2008. 2.

(7) ワークショップ：

- 1) 佐藤格夫，鈴木崇生，増野智彦，小池 薫¹⁾，吉田竜介，小川太志，尾本健一郎，雨森俊介，山本保博，Kozar R²⁾，Moore F²⁾（¹⁾ 京都大学初期診療救急医学，²⁾ テキサス大学外科学）：免疫増強経腸栄養素グルタミンとアルギニンが腸管虚血再灌流時に異なる腸管障害を与える．日本外科学会，2007. 4.
- 2) 川井 真，久志本成樹，小井土雄一，横田裕行，山本保博：米国版ERは成り立たない．第10回日本臨床救急医学会（神戸），2007. 5.
- 3) 相星淳一¹⁾，小池 薫²⁾，増野智彦，佐藤格夫，鈴木崇生，大友康裕¹⁾，山本保博（¹⁾ 東京医科歯科大学救急災害医学，²⁾ 京都大学初期診療・救急医学）：出血性ショック後の腸間膜リンパ液中に存在するリン脂質の網羅的解析．第22回日本Shock学会総会，2007. 5.
- 4) 松尾克則¹⁾，宮内雅人，佐藤格夫，増野智彦，平田清貴，吉田竜介，林田眞喜子，仁平 信，大野曜吉，山本保博（¹⁾ 東京消防庁）：急性医薬品中毒患者の病院選定における判断要素について．第10回日本臨床救急医学会総会，2007. 5.
- 5) 近藤久禎，坂本哲也¹⁾，小井土雄一，大友康裕²⁾，山本保博（¹⁾ 帝京大学附属病院救急救命センター，²⁾ 東京医科歯科大学ERセンター）：救命救急センターの役割・機能と評価指標．第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.
- 6) 佐藤格夫，増野智彦，鈴木崇生，小池 薫¹⁾，久志本成樹，宮内雅人，川井 真，横田裕行，山本保博，Kozar R²⁾，Moore F²⁾（¹⁾ 京都大学初期診療救急医学，²⁾ テキサス大学ヒューストン校外科学）：免疫増強経腸栄養素グルタミンとアルギニンが腸管虚血再灌流障害時に異なる作用を与える．第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.
- 7) 相星淳一¹⁾，小池 薫²⁾，増野智彦，佐藤格夫，鈴木崇生，大友康裕¹⁾，山本保博，小林哲幸³⁾（¹⁾ 東京医科歯科大学救急災害医学，²⁾ 京都大学初期診療・救急医学，³⁾ お茶の水女子大学理学部生物学科）：出血性ショックに続発する遠隔臓器障害の発生機序における腸間膜リンパ液の役割．第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.
- 8) 久志本成樹：頭部外傷における凝固線溶異常．平成19年度日本DIC研究会，2008. 2.

(8) 一般講演：

- 1) Kondo H, Tanabe S, Honnma M¹⁾, Koido Y, Otomo Y²⁾, Henmi H¹⁾, Yamamoto Y（¹⁾ 国立病院機構災害医療センター，²⁾ 東京医科歯科大学ERセンター）：Evaluation of Disaster Preparedness System in Japan . 15th World Congress on Disaster and Emergency Medicine (Amsterdam The Netherlands), 2007. 5.
- 2) Sato N, Onodera K, Hirakawa K, Aiboshi J, Ohno Y, Koike K, Masuno T, Suzuki T, Yamamoto Y : 1H-NMR metabolomics detects the effects of liposome-encapsulated hemoglobin on small intestinal metabolism following hemorrhagic shock in rats. Shock Society (Baltimore), 2007. 6.
- 3) Suzuki T, Kawasaki T¹⁾, Choudhry AM¹⁾, Bland IK¹⁾, Chaufray HI¹⁾（¹⁾ Dept. of Surgery, Univ. of Alabama）：Role of PPAR Gamma in the Salutary Effects of 17beta-Estradiol on Kupffer Cell Cytokine Production Following Trauma-Hemorrhage. 30th Annual Conference on Shock (Baltimore), 2007. 6.
- 4) Yokobori S, Masuno T, Yokota H, Sato H, Fuse A, Araki T, Atsumi T, Kitazono M, Yamamoto Y :

The relationship between acute phase management and long term outcome in severe head-injured patients. 第2回日韓應急医学会 (Seoul, Korea), 2007. 11.

- 5) Miyauchi M, Kushimoto S, Kawai M, Yokota H, Yamamoto Y : MicroRNA gene expression after hemorrhagic shock in rat liver and lung. Fifth symposium on the functional genomics of critical illness and injury (Bethesda, Maryland, USA), 2007. 11.
- 6) Masuno T, Yamamoto Y, Moore EE¹⁾ (¹⁾ Univ. Colorado Health Sciences Center) : Pre-hospital Hemoglobin-based Oxygen Carrier (HBOC) Resuscitation Prevents Acute Lung Injury in a Two-event Model. Korea-Japan EMS Conference (Soul, Korea), 2007. 11.
- 7) Takubo H, Masuno T, Mieno H, Yamamoto M, Nakamura E, Kondo H, Fuse A, Yokota H, Yamamoto Y : New Operation of Metropolitan Doctor Ambulance System. Korea-Japan EMS Conference (Soul, Korea), 2007. 11.
- 8) Yokobori J¹⁾, Yokobori S, Kondo H, Shimada Y, Koido Y, Yokota H (¹⁾ Graduate School of Health Sciences, Tokyo Medical and Dental School) : The health education at the site of disaster – Reports from the JDR activity. International Association for Humanitarian Medicine (IAHM) 2008 Tokyo (Tokyo), 2008. 1.
- 9) Sano T, Masuno T, Asakura T¹⁾, Suzuki T¹⁾, Satoh N²⁾, Onodera K³⁾, Yokota H⁴⁾, Yamamoto Y⁴⁾, Hirakawa K, Ohno Y, Aiboshi J, Koike K, Katsumi A, Suzaki S (¹⁾ NMR Laboratory Nippon Medical School , ²⁾ Disaster and Acute Care Medicine Tokyo Medical and Dental University, ³⁾ Emergency and Critical Care Medicine Kyoto University, ⁴⁾ Emergency and Critical Care Medicine Musashino Red Cross Hospital) : 1H-NMR Metabolomics Study of Post-Hemorrhagic Shock Mesenteric Lymph. Society of Critical Care Medicine' s 37th Critical Care Congress (Honolulu, Hawaii, USA), 2008. 2.
- 10) 布施 明, 横堀将司, 渥美生弘, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学 脳神経外科) : TCDB分類における Diffuse injury の予後判別因子の検討 : JNTDB (プロジェクト2004) 231症例から. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 11) Suzuki T : The Non-genomic Pathway Mediates Some of the Effects of Estrogen on Cytokine Production by T Cells Following Trauma-Hemorrhage. 第22回日本Shock学会総会, 2007. 5.
- 12) 久志本成樹, 横田裕行, 山本保博, 増野智彦, 柴田泰史 : ステロイド投与症例における細菌感染症重症度診断の指標としてのプロカルシトニン測定の有用性. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 13) 宮内雅人, 中江竜太, 伊藤雅之, 佐藤格夫, 渥美生弘, 増野智彦, 佐藤秀貴, 小井土雄一, 久志本成樹, 川井真, 横田裕行, 山本保博 : クモ膜下出血術後, 呼吸不全にて24日間PCPSを試行し死亡した1症例. 第39回過大侵襲研究会, 2007. 4.
- 14) 久志本成樹, 宮内雅人, 鈴木崇生, 佐藤秀貴, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 横田裕行, 山本保博 : 鈍的胸部大動脈損傷に対する antero-axillary thoracotomy によるPCPS下人工血管置換術. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
- 15) 久志本成樹, 佐藤格夫, 増野智彦, 雨森俊介, 小井土雄一, 佐藤秀貴, 吉田竜介, 松本 尚¹⁾, 山本保博 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 鈍的十二指腸損傷に対する pyloric exclusion. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
- 16) 久志本成樹, 尾本健一郎, 山本保博, 宮内雅人, 鈴木崇生, 増野智彦, 佐藤格夫, 雨森俊介, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 山本保博 : Enteric fistula の予防と早期筋膜閉鎖のための open abdomen の管理法. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
- 17) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, Rutka-T J¹⁾ (¹⁾ The Hospital for Sick Children, Toronto, Canada) : 小児神経外傷治療の展望 – トロント小児病院におけるチームアプローチ. 第35回日本小児神経外科学会 (千葉), 2007. 5.
- 18) 荒木 尚¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾, Rutka J²⁾, Drake J²⁾, Driks P²⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センタ

- 一, ²⁾ トロント小児病院脳神経外科): トロント小児病院における神経外傷のチームアプローチ. 第35回日本小児脳神経外科学会 (千葉), 2007. 5.
- 19) 荒木 尚¹⁾, 渥美生弘¹⁾, 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (日本医科大学高度救命救急センター): 日本医科大学高度救命救急センターにおける小児重症頭部外傷に対する低体温療法. 第35回日本小児脳神経外科総会 (千葉), 2007. 5.
- 20) 宮内雅人, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: 対側の甲状腺動脈に損傷がみられた頸部刺創 (ZONE2) の1例. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
- 21) 雨森俊介, 坂本和嘉子, 古畑 謙, 増野智彦, 宮内雅人, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 山本保博: 腹腔内出血と後腹膜出血合併2例へのアプローチの違い. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
- 22) 佐野哲孝, 増野智彦, 鈴木崇夫, 佐藤格夫, 山本保博, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉, 相星淳一, 小池 薫, 勝見 敦, 須崎紳一郎¹⁾ (日本医科大学核磁気共鳴施設, ²⁾ 東京医科歯科大学災害救急医学講座, ³⁾ 京都大学初期診療救急医学, ⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急科): NMR Metabolomics による出血性ショック後 臓器障害の検討. 第22回日本 Shock学会総会, 2007. 5.
- 23) 荒木 尚¹⁾, Rutka-T J²⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター, ²⁾ The Hospital for Sick Children, Toronto, Canada): 本邦における児童虐待診断の組織的問題点. 日本小児科学会 (京都), 2007. 6.
- 24) 横堀将司, 横田裕行, 直江康孝, 久保田稔¹⁾, 山本保博¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院臨床検査室): クモ膜下出血における脳血管攣縮の予知に心拍変動測定 (Heart Rate Variability: HRV) は有効か?: 自験例からの検討. 第13回日本脳代謝モニタリング研究会, 2007. 6.
- 25) 北菌雅敏¹⁾, 雨森俊介¹⁾, 渥美生弘¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター): PCPSが蘇生に有効であった偶発性低体温症によるCPAOAの1例. 第20回日本脳死脳蘇生学会 (熊本), 2007. 6.
- 26) 重村朋子¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾: 脳死患者家族の心理過程. 第20回日本脳死脳蘇生学会 (熊本), 2007. 6.
- 27) 安田文彦¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 平田清貴¹⁾, 仁平 信¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾: 塩化ベンザルコニウムを静脈注射した1例. 第29回日本中毒学会 (東京), 2007. 7.
- 28) 平田清貴¹⁾, 植田宗吾²⁾, 宮内雅人³⁾, 大泉 旭³⁾, 横田裕行³⁾, 山本保博³⁾, 片山志郎²⁾, 大林雅彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部, ²⁾ 東邦大学臨床薬理学研究室, ³⁾ 日本医科大学高度救命救急センター): 当院高度救命救急センターにおける急性OTC薬中毒. 第29回日本中毒学会 (東京), 2007. 7.
- 29) 宮内雅人, 平田清貴¹⁾, 仁平 信²⁾, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 山本保博 (¹⁾ 日本医科大学薬剤部, ²⁾ 日本医科大学法医学): 中毒領域における極細径胃内視鏡スコープの試み. 第29回日本中毒学会, 2007. 7.
- 30) 久志本成樹, 増野智彦, 大泉 旭, 吉田竜介, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: 急性期DIC診断基準によるDIC症例は基礎病態により重症度と経時的推移が異なる. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 31) 加藤雅彦¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 渡邊 悠¹⁾, 大嶽康介, 嘉村洋志, 神田倫秀, 福田令雄, 佐藤格夫, 荒木 尚, 布施明, 横田裕行, 山本保博 (¹⁾ 日本医科大学付属病院研修医): 新潟県中越沖地震への医療救助報告. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 32) 渡邊 悠¹⁾, 岩井拓磨¹⁾, 加藤雅彦¹⁾, 佐藤格夫, 荒木 尚, 大嶽康介, 嘉村洋志, 神田倫秀, 福田令雄, 布施明, 横田裕行, 山本保博 (¹⁾ 日本医科大学付属病院研修医): 痙攣重積発作にて発症し, 脳低体温療法を施行するも救命し得なかった臨床的Reye症候群の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 33) 柳 雅人¹⁾, 石川真士¹⁾, 渋谷志保子, 江浦重義, 横堀将司, 近藤久禎, 宮内雅人, 内川 健, 横田裕行, 山本保博 (¹⁾ 日本医科大学付属病院研修医): 経過中にタコツボ型心筋症を呈した高齢者重症熱傷の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

- 34) 石川真士, 柳 雅人, 宮内雅人, 横堀将司, 内川 健, 江浦重義, 澁谷志保子, 近藤久禎, 久志本成樹, 山本保博: 急性腹症にて入室となった成人尿管遺残症の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 35) 神田倫秀, 北菌雅敏, 増野智彦, 大泉 旭, 吉田竜介, 川井 真, 山本保博: 当施設における外傷患者に対するFAST. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 36) 荒井雅江, 金谷洋平, 鈴木崇生, 渥美生弘, 普久原朝海, 一瀬麻紀, 北菌雅敏, 佐藤秀貴, 山本保博: クモ膜下出血治療中に中毒性表皮壊死 (TEN) を発症した1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 37) 佐野哲孝, 増野智彦, 朝倉隆之, 鈴木崇夫, 佐藤格夫, 小野寺謙吾, 横田裕行, 山本保博, 平川慶子, 大野曜吉, 相星淳一, 小池 薫, 勝見 敦, 須崎紳一郎¹⁾ 日本医科大学核磁気共鳴施設, ²⁾ 東京医科歯科大学災害救急医学講座, ³⁾ 京都大学初期診療救急医学, ⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急科): 1H NMR based Metabolomics による出血性ショック後 臓器障害の経時的検討. 第35回日本磁気共鳴医学会大会, 2007. 9.
- 38) 金谷洋平, 荒井雅江, 北菌雅敏, 普久原朝海, 一瀬麻紀, 鈴木崇生, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 山本保博: 甲状腺中毒症にて多臓器不全を呈した1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 39) 岩井拓磨, 渡邊 悠, 大嶽康介, 嘉村洋志, 神田倫秀, 福田令雄, 佐藤格夫, 荒木 尚, 布施 明, 山本保博: 下肢神経障害をきたした広範な頸部・腰部硬膜外膿瘍の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 40) 佐藤秀貴, 横田裕行, 高山泰広, 桑本健太郎, 荒木 尚, 山本保博: くも膜下出血患者における脳脊髄液中S-100 β 蛋白の測定: 機能予後の予測: Measurement of S-100 β in cerebrospinal fluid among SAH cases: prediction of outcome. 第66回日本脳神経外科学会総会, 2007. 10.
- 41) 近藤久禎: 世界安全保障行動グループ (GHSAG) について. 第66回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
- 42) 白石振一郎¹⁾, 松田 潔¹⁾, 松園幸雅¹⁾, 岩瀬史明¹⁾, 遠藤広史¹⁾, 小林辰輔¹⁾ (¹⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター): DPL (診断的腹腔洗浄) 249症例の検討: 悩まされる結果を中心に. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 43) 久志本成樹, 柴田泰史, 横田裕行, 増野智彦, 佐藤格夫, 鈴木崇生, 川井 真, 山本保博: 敗血症の診断と重症度評価におけるEndotoxin Activity Assay, CRP, PCTの比較. 第35回日本救急医学会学術集会, 2007. 10.
- 44) 大泉 旭, 川井 真, 原 義明¹⁾, 林 幹彦²⁾, 神田倫秀, 山本保博 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院 救命救急センター): 救急医療における生命予後と機能予後との間で: 救急整形外傷外科の立場から. 第35回日本救急医学会総会・学術集会 (大阪), 2007. 10.
- 45) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, Rutka-T J¹⁾, Cox P¹⁾ (¹⁾ The Hospital for Sick Children, Toronto, Canada): トロント小児病院における終末期医療. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 46) 布施 明, 横田裕行, 有賀 徹¹⁾, 阿部俊昭²⁾, 寺岡 慧³⁾, 島崎修次⁴⁾ (¹⁾ 昭和大学 救急医学, ²⁾ 東京慈恵会医科大学 脳神経外科, ³⁾ 東京女子医科大学 腎臓センター, ⁴⁾ 杏林大学 救急医学): 脳死下臓器提供施設における問題点: 厚労省労働科学特別研究「脳死者の発生等に関する研究」班のアンケートから. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 47) 布施 明, 渥美生弘, 横田裕行, 横堀将司, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 山本保博: TCDB分類におけるDiffuse injury IIの予後判別因子の検討: JNTDB (プロジェクト2004) 139症例から. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 48) 宮内雅人, 増野智彦, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: ラット出血性ショックモデルにおけるマイクロRNAの発現と解析について. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 49) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博: トロント小児病院における神経終末期医療の経験. 第66回日本脳神経外科学会総会 (東京), 2007. 10.
- 50) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 小川太志¹⁾, 桑本健太郎¹⁾, 米花伸彦¹⁾, 山本保博, 横田裕行, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 寺本 明²⁾, 喜多村孝幸²⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 小児頭部外傷の特徴と予後からの治療戦略. 第66回日本脳神経外科学会総会 (東京), 2007. 10.

- 51) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 小川太志¹⁾, 桑本健太郎¹⁾, 米花伸彦¹⁾, 山本保博, 横田裕行, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 寺本 明²⁾, 喜多村孝幸²⁾ (1) 川口市立医療センター救命救急センター, 2) 日本医科大学脳神経外科): 高齢者頭部外傷の特徴と予後からの治療戦略. 第66回日本脳神経外科学会総会 (東京), 2007. 10.
- 52) 荒木 尚, 北菌雅敏, 横堀将司, 高山泰広, 渥美生弘, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博, 寺本明: 小児頭部外傷に対する低体温療法6年間の総括. 第66回日本脳神経外科学会総会 (東京), 2007. 10.
- 53) 桑本健太郎, 高山泰広, 小井土雄一, 小関一英, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 凝固・線溶系からみた頭部外傷の治療戦略. 第66回日本脳神経外科学会総会 (東京), 2007. 10.
- 54) 横田裕行, 横堀将司, 高山泰広, 渥美生弘, 荒木 尚, 布施 明, 佐藤秀貴, 山本保博, 小林士郎¹⁾, 寺本明¹⁾ (1) 日本医科大学脳神経外科): 炎症反応から見た慢性硬膜下血腫の病態. 第66回日本脳神経外科学会総会 (東京), 2007. 10.
- 55) 尾本健一郎, 北菌雅敏, 古畑 謙, 宮内雅人, 増野智彦, 横田裕行, 山本保博: 当救命救急センターへの悪性疾患搬送例の検討. 第35回日本救急医学会総会 (大阪), 2007. 10.
- 56) 渥美生弘, 横田裕行, 近藤久慎, 川井 真, 久志本成樹, 山本保博: 当施設における東京DMAT出動経験. 第35回日本救急医学会総会 (大阪), 2007. 10.
- 57) 田上 隆, 久志本成樹, 渥美生弘, 増野智彦, 松田 潔¹⁾, 横田裕行, 山本保博 (1) 山梨県立中央病院救命救急センター): sepsis治療における連続心拍出量測定装置の有用性. 第35回日本救急医学会総会 (大阪), 2007. 10.
- 58) 三宅康史¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 奥寺 敬²⁾, 北原孝雄³⁾, 横田裕行⁴⁾ (1) 昭和大学医学部救急医学, 2) 富山大学医学部救急・災害医学, 3) 北里大学医学部救命救急医学, 4) 日本医科大学救急医学): 2006年熱中症の実態報告調査. 第35回日本救急医学会 (大阪), 2007. 10.
- 59) 中江竜太, 渥美生弘, 荒木 尚, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 高齢者頭部外傷におけるOPLL, 椎管狭窄症, 頸椎症合併例の検討. 第35回日本救急医学会 (大阪), 2007. 10.
- 60) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 小川太志¹⁾, 桑本健一郎¹⁾, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博 (1) 川口市立医療センター救命救急センター): 高齢者鈍的外傷の治療戦略, どこまでチャレンジできるのか. 第35回日本救急医学会 (大阪), 2007. 10.
- 61) 佐藤格夫, 久志本成樹, 尾本健一郎, 宮内雅人, 増野智彦, 鈴木崇生, 雨森俊介, 小川太志, 山本昌督, 小井土雄一, 山本保博: 胸腹部外傷外科医の育成の急務とトレーニングコース確立へ向けて. 第35回日本救急医学会, 2007. 10.
- 62) 増野智彦, 佐藤格夫, 鈴木崇生, 佐野哲孝, 相星淳一¹⁾, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 山本保博, Moore EE²⁾, Silliman CC²⁾ (1) 東京医科歯科大学災害救急医学, 2) コロラド大学外科): 長期保存赤血球濃厚液投与は急性肺障害を惹起する. 第35回日本救急医学会総会 (大阪), 2007. 10.
- 63) 佐野哲孝, 増野智彦, 鈴木崇夫, 佐藤格夫, 山本保博, 平川慶子, 大野曜吉, 相星淳一, 小池 薫, 勝見 敦, 須崎紳一郎 (1) 日本医科大学医用核磁気共鳴施設, 2) 東京医科歯科大学災害救急医学講座, 3) 京都大学初期診療救急医学, 4) 武蔵野赤十字病院救命救急科): 1H NMR based Metabolomics による出血性ショック後 肺障害の経時的検討. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 64) 鈴木崇生, 川崎貴士¹⁾, Choudhry AM¹⁾, Bland IK¹⁾, Chaudry HI¹⁾ (1) アラバマ大学): マウス出血性ショック後のクッパー細胞に対するエストロゲン投与の効果におけるp38およびPPARの関与の検討. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 65) 大泉 旭: 大腿骨近位部骨折. Masters Fracture Forum (軽井沢), 2007. 11.
- 66) 牧野俊郎¹⁾, 浅野悦洋¹⁾, 村越秀光¹⁾, 原 義明²⁾, 松本 尚²⁾, 益子邦洋²⁾, 山本保博 (1) 成田国際空港クリニック, 2) 千葉北総病院救命救急センター): 成田空港クリニックにおけるDr. ヘリ有用性の検討. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
- 67) 村越秀光¹⁾, 恵志正輝¹⁾, 浅野悦洋¹⁾, 牧野俊郎¹⁾, 松本 尚²⁾, 益子邦洋²⁾ (1) 成田国際空港クリニック,

- 2) 千葉北総病院救命救急センター)：空港クリニックにおける後方病院搬送例の検討．第14回日本航空医療学会総会，2007．11．
- 68) 北菌雅敏，林 励治，鈴木崇生，渥美生弘，佐藤格夫，増野智彦，久志本成樹，川井 真，横田裕行，山本保博：腸管壊死と腹部コンパートメント症候群を呈した重症急性膵炎の1例．過大侵襲研究会，2007．11．
- 69) 佐野哲孝，増野智彦，鈴木崇夫，佐藤格夫，山本保博，平川慶子，大野曜吉，相星淳一，小池 薫，勝見 敦，須崎紳一郎¹⁾ 日本医科大学医用磁気共鳴分析施設，²⁾ 東京医科歯科大学災害救急医学講座，³⁾ 京都大学初期診療救急医学，⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急科)：出血性ショック後臓器障害(肺障害)における1H NMR based metabolomicsによる経時的検討．第2回メタボロームシンポジウム，2007．11．
- 70) 久志本成樹，柴田泰史，宮内雅人，鈴木崇生，佐藤格夫，福田令雄，白石振一郎，川井 真，横田裕行，山本保博：重症敗血症における血漿BNPレベルの変動には全身性炎症反応が関与する．第18回バイオメディカルフォーラム，2007．12．
- 71) 神田倫秀，増野智彦：当施設における外傷患者に対するFAST．第35回日本救急医学会，2007．
- 72) 荒木 尚，横田裕行，山本保博：小児神経外傷におけるPALSとTrauma Team Leadership．第13回日本脳神経外科救急学会，2008．1．
- 73) 横堀将司，横田裕行，増野智彦，佐藤秀貴，荒木 尚，渥美生弘，北菌雅敏，直江康孝，久保田稔，山本保博：クモ膜下出血発症後脳血管攣縮期における心拍変動測定：脳血管攣縮の予知は可能か．第13回日本脳神経外科救急学会，2008．1．
- 74) 高山泰広¹⁾，小関一英¹⁾，小井土雄一¹⁾，小川太志¹⁾，桑本健太郎¹⁾，山本保博，横田裕行，佐藤秀貴，寺本明²⁾，喜多村孝幸²⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター救命救急センター，²⁾ 日本医科大学脳神経外科)：急性期脳神経外科の役割と現状：Neuro-ICUと救命脳外科医のかかわり．第13回日本脳神経外科救急学会(東京)，2008．1．
- 75) 渥美生弘，横田裕行，佐藤秀貴，布施 明，荒木 尚，増野智彦，横堀将司，北菌雅敏，山本保博：SAH後の循環管理：連続心拍出量(PiCCO)を用いて．第13回日本脳神経外科救急学会，2008．1．
- 76) 荒木 尚，横田裕行，山本保博：救急医と脳神経外科医の連携～小児神経外傷におけるPALSとTrauma Team Leadership．第13回日本脳神経外科救急学会(東京)，2008．1．
- 77) 近藤久禎¹⁾，森野一真²⁾，楠 孝司³⁾，本間正人³⁾，辺見 弘³⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学講座，²⁾ 山形県立中央病院，³⁾ 国立病院機構災害医療センター)：災害医療におけるメディカルコントロールの基盤としての指揮命令系統．第13回日本集団災害医学会総会，2008．2．
- 78) 横堀将司，近藤久禎，島田 靖，小井土雄一，横田裕行，山本保博：集団災害における健康教育—国際緊急援助隊医療チーム活動からの報告：The health education at the site of disaster：A report from the JMTDR activity．第13回日本集団災害医学会総会，2008．2．
- 79) 横堀将司，横田裕行，増野智彦，佐藤秀貴，荒木 尚，渥美生弘，北菌雅敏，直江康孝，久保田稔¹⁾，山本保博 (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院臨床検査室)：クモ膜下出血発症後脳血管攣縮期における心拍変動測定：脳血管攣縮の予知は可能か？．第35回日本集中治療医学会 総会・学術集会，2008．2．
- 80) 布施 明，渥美生弘，増野智彦，久志本成樹，横田裕行，山本保博：GSW傷病者に対する現場医療活動の安全確保についての検討．第13回日本集団災害医学会総会，2008．2．
- 81) 宮内雅人，増野智彦，佐藤格夫，久志本成樹，川井 真，横田裕行，山本保博：救急・集中治療領域における極細径上部消化管内視鏡スコープ使用の経験．第35回日本集中治療医学会総会，2008．2．
- 82) 大嶽康介：腸管再建術後にBlind loop syndromeをきたした1例．第58回日本救急医学会関東地方会，2008．2．
- 83) 北菌雅敏，横堀将司，渥美生弘，荒木 尚，布施 明，佐藤秀貴，横田裕行，山本保博，飯野靖彦：頭部外傷後低ナトリウム血症が遷延した1例．第58回日本救急医学会関東地方会，2008．2．
- 84) 鈴木大悟，嘉村洋志，福田令雄，神田倫秀，横堀将司，布施 明，横田裕行，山本保博，荒木 尚：熱中症による劇症肝不全に対して積極的平温治療を平用し救命し得た1例．第58回日本救急医学会関東地方会，2008．2．

- 85) 原田未那, 白石振一郎, 北菌雅敏, 林 励治, 佐藤格夫, 佐藤秀貴, 川井 真, 山本保博: 上腸間膜静脈血栓症に多発脳梗塞を合併した1例. 第58回日本救急医学会関東地方会, 2008. 2.
- 86) 佐野哲孝, 増野智彦, 鈴木崇夫, 佐藤格夫, 山本保博, 平川慶子, 大野曜吉, 相星淳一, 小池 薫, 勝見 敦, 須崎紳一郎¹⁾ 日本医科大学核磁気共鳴施設, ²⁾ 東京医科歯科大学災害救急医学講座, ³⁾ 京都大学初期診療救急医学, ⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急科): 1H NMR based metabolomics による出血性ショック後腸間膜リンパ液成分の検討. 第35回 日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 87) 嘉村洋志, 荒木 尚, 福田令雄, 神田倫秀, 横堀将司, 布施 明, 横田裕行, 山本保博: 熱中症による劇症肝不全に対して積極的平温治療を併用し救命し得た1例. 第58回日本救急医学会関東地方会, 2008. 2.
- 88) 相星淳一¹⁾, 小林哲幸²⁾, 小池 薫³⁾, 増野智彦, 大友康裕¹⁾, 山本保博¹⁾ 東京医科歯科大学救急災害医学, ²⁾ お茶の水女子大学理学部生物学科, ³⁾ 京都大学初期診療・救急医学): 出血性ショック後の腸間膜リンパ液の脂質メタボローム解析と生物活性の検討. 第35回日本集中治療医学会総会, 2008. 2.
- 89) 白石振一郎, 村田希吉¹⁾, 井上潤一¹⁾, 本間正人¹⁾, 辺見 弘¹⁾, 福田令雄, 鈴木崇生, 佐藤格夫, 増野智彦, 宮内雅人, 久志本成樹, 山本保博¹⁾ 災害医療センター救命救急科): 下部消化管出血の診断治療戦略: ジレンマとの戦い. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 90) 久志本成樹, 宮内雅人, 佐藤格夫, 鈴木崇生, 増野智彦, 福田令雄, 横田裕行, 山本保博: ショックを呈する腹腔内および後腹膜出血合併外傷例に対する止血優先順位の選択. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 91) 大泉 旭, 川井 真: 寛骨臼骨折に対する前方アプローチ. 第14回救急整形外傷シンポジウム(沖縄), 2008. 3.
- 92) 横堀将司, 横田裕行, 佐藤秀貴, 布施 明, 荒木 尚, 渥美生弘, 北菌雅敏, 山本保博: 重症頭部外傷患者における加齢に伴う病態についての検討 The comparison between aging and pathophysiological change in severe head-injured patients. 第21回日本老年脳神経外科学会, 2008. 3.
- 93) 福田令雄, 佐藤格夫, 増野智彦, 久志本成樹, 山本保博: 感染性膵壊死に対して経後腹膜的necrosectomyを施行したACSを伴う重症急性膵炎の1例. 第44回日本腹部救急医学会総会(横浜), 2008. 3.
- 94) 増野智彦, 佐藤格夫, 鈴木崇生, 佐野哲孝, 相星淳一¹⁾, 久志本成樹, 横田裕行, 山本保博, Moore EE²⁾, Siliman CC²⁾ ¹⁾ 東京医科歯科大学救急災害医学, ²⁾ コロラド大学外科): 輸血関連急性肺障害発症における赤血球濃厚液の保存期間の影響. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- (9) 研修会:
- 1) 山本保博: 災害対応各論(医療活動): 災害現場の医療活動体制について. 人と防災未来センター「災害対策専門研修」(平成19年度秋期)(神戸市), 2007. 10.
- (10) フォーラム:
- 1) 山本保博: 増加しつつある人為災害・自然災害への対応. 第11回地域防災緊急医療ネットワーク・フォーラム, 2008. 3.
- (11) ポスターセッション:
- 1) 牧野俊郎¹⁾, 飯島勝利¹⁾, 浅野悦洋¹⁾, 村越秀光¹⁾, 山本保博¹⁾ 成田国際空港クリニック): 成田空港における外国人に対する医療体制の検討. 第6回日本旅行医学会, 2007. 4.
- 2) 浅野悦洋¹⁾, 飯島勝利¹⁾, 村越秀光¹⁾, 牧野俊郎¹⁾ ¹⁾ 成田国際空港クリニック): 成田空港における医療費の検討. 第6回日本旅行医学会, 2007. 4.
- (12) 緊急集会:
- 1) 近藤久禎: 近年の災害医療体制の整備と中越沖地震への対応. 第66回日本公衆衛生学会総会, 2007. 10.
- (13) 講義:
- 1) 山本保博: 災害医療. 平成19年度山口大学医学部4年生「救急医学」講義, 2007. 11.
- 2) 横堀将司, 平尾智広¹⁾, 近藤久禎¹⁾ 香川大学医学部医療管理学): 健康教育: スマトラ沖地震・インド洋津波災害におけるタイ医療チームの活動から. 国際緊急援助隊医療チーム 中期研修会, 2007. 11.

[武蔵小杉病院救命救急センター]

研究概要

当科に導入されている患者情報システム（電子カルテ）による重症度モニタリングに関連する検討，他科との協調・協力型体制など救急医療の方向性に関する検討，重症頭部外傷・低酸素脳症に対する軽度脳低体温療法の有用性の検討，他科と協力して行う Damage Control Surgery に関する検討，顔面外傷診断に於ける 3D-CT scan の有用性の検討，呼吸不全患者に対する NPPV（Non-invasive Positive Pressure Ventilation）の導入と腹臥位による呼吸理学療法の有用性の検討，全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害（ALI/ARDS）の CT を用いた病態調査，各種薬剤の TDM の解析に関する検討，WHONET という microbiology laboratory database software 導入による当院の antibiogram の瞬時算出による抗菌薬適正使用の検討や院内耐性菌の local factor の検討，グラム染色の積極的活用とその画像のコンピューター解析による診療と教育への応用等，救急医学及び集中治療学と感染管理に関する研究は継続している．上記に加え，II 度熱傷創に対する Ag（銀）イオン含有被覆材の有用性の検討，平成 19 年度から当院に導入された特定抗菌薬届出制に則って，救命救急センターの ICD（感染制御医）主導の ICU 内の抗菌薬使用法に関する介入に関する研究も行っている．他科との協調・協力型体制など救急医療の方向性に関する検討は，総合診療センターを構築するという具体的な方向性になっていくと思われる．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 上田康晴：脊髄損傷における人工呼吸器のウイーニング．Clinical Rehabilitation 2007；16（4）．
- 2) 上田康晴：一酸化炭素中毒の疫学．日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会誌 2008；7（2）．

(2) 総説：

- 1) 黒川 顯：編集委員長時代のおもいで．中毒研究 2007；20：113-115．
- 2) 畝本恭子：頭蓋内圧亢進．今日の治療指針 2007；19（11）：16-21．
- 3) 畝本恭子，横田裕行¹⁾（¹⁾日本医科大学救急医学）：多発外傷．脳神経外科救急マニュアル 2007；31（3）：284-285．
- 4) 黒川 顯：日本中毒学会理事長就任にあたって．中毒研究 2008；21：9-10．
- 5) 黒川 顯：救急医の役割．日本救急医学会雑誌 2008；19：28-47．
- 6) 黒川 顯：脳・神経系管理 Q&A：誤嚥性肺炎．救急・集中治療 2008；20：13-17．

著書

- 1) 黒川 顯：〔分担〕第 30 回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第 30 回救急救命士国家試験問題解答・解説集，2007；pp4-17，へるす出版．
- 2) 黒川 顯：〔自著〕モニタリング．熱傷治療マニュアル，2007；pp77-81，中外医学社．
- 3) 山本保博¹⁾，黒川 顯（¹⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：〔翻訳〕アトラス．応急処置マニュアル（山本保博，黒川 顯），2007；南江堂．
- 4) 望月 徹，山口朋貞¹⁾（¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院内科）：〔共著〕結核 市中肺炎と診断するも，後日結核と判明した症例．救急医学：特異な経過をたどった症例・事例から学ぶ，2007；pp1626-1627，へるす出版．
- 5) 黒川 顯：〔分担〕薬剤投与の基礎．救急救命士のための 2 次救命処置テキスト，2007；pp139-142，へるす出版．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 上田康晴, 黒川 顯：救急救命士による特定行為の有用性について. 第22回日本救命医療学会総会, 2007. 9.
- 2) 黒川 顯：救急医療を支える看護の力. 第9回日本救急看護学会学術集会, 2007. 11.
- 3) 牧 真彦, 一瀬麻紀, 上田康晴, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顯：会陰部・腎部熱傷患者における排便管理法. 第16回日本熱傷学会関東地方会, 2008. 1.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 上田康晴, 菊池広子, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顯：一酸化炭素中毒の疫学. 第7回日本高気圧環境・潜水医学会関東地方会, 2007. 6.

(3) ワークショップ：

- 1) 黒川 顯：プレホスピタルケアにおける精神科領域への対応：精神科救急と一般救急との狭間で. 第10回日本臨床救急医学会総会, 2007. 5.

(4) 一般講演：

- 1) 畝本恭子, 菊池広子, 牧 真彦, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 横田裕行¹⁾, 黒川 顯, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学)：治療に難渋した, 杣創による頸椎頸髄損傷の1例. 第11回日本神経救急医学会総会, 2007. 6.
- 2) 上田康晴, 横山隆捷¹⁾, 菊池広子, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顯 (¹⁾ 清智会記念病院)：敗血症の最前線：MRSA敗血症におけるテイコプラニン (TEIC) の至適濃度とは. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 3) 上田康晴, 横山隆捷¹⁾, 菊池広子, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顯 (¹⁾ 清智会記念病院)：救急領域におけるプレセデックス (DEX) の使用経験. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 4) 上田康晴, 横山隆捷¹⁾, 菊池広子, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顯 (¹⁾ 清智会記念病院)：頸髄損傷急性期におけるNPPV療法は機能予後を改善するか?. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 5) 望月 徹, 牧 真彦, 上笹 宙, 菊池広子, 上田康晴, 畝本恭子, 黒川 顯, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：グラム染色が初期診断に有用であった非クロストリジウム性ガス壊疽の2例. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 6) 畝本恭子, 菊池広子, 牧 真彦, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 直江康孝¹⁾, 横田裕行²⁾, 黒川 顯, 山本保博²⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：救急医減少時代の重症頭部外傷管理：脳低温療法から平温療法へ. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 7) 上田康晴, 野口周作¹⁾, 菊池広子, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顯, 横山隆捷²⁾ (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤科, ²⁾ 清智会記念病院)：敗血症の最前線：MRSA敗血症におけるテイコプラニン (TEIC) の至適投与量とは. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 8) 本間正人¹⁾, 大友康裕²⁾, 黒川 顯, 佐藤守仁³⁾, 須崎紳一郎⁴⁾, 松田 潔⁵⁾, 松本 尚⁶⁾, 宮内雅人⁷⁾, 布施理美⁸⁾ (¹⁾ 国立病院機構災害医療センター救命救急センター, ²⁾ 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター, ³⁾ 国立国際医療センター救急部, ⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急センター, ⁵⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ⁶⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ⁷⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ⁸⁾ 川口市市民病院)：身体救急・精神科合併症病床の必要数の検討：3次医療施設における発生数の定量的検討より. 第35回日本救急医学会総会, 2007. 10.
- 9) 本間正人¹⁾, 大友康裕²⁾, 黒川 顯, 佐藤守仁³⁾, 須崎紳一郎⁴⁾, 松田 潔⁵⁾, 松本 尚⁶⁾, 宮内雅人⁷⁾, 布施理美⁸⁾ (¹⁾ 国立病院機構災害医療センター救命救急センター, ²⁾ 東京医科歯科大学医学部附属病院救命救急センター, ³⁾ 国立国際医療センター救急部, ⁴⁾ 武蔵野赤十字病院救命救急センター, ⁵⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ⁶⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, ⁷⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター,

- 8) 川口市民病院)：3次救急医療施設における精神科救急の現状と課題．第35回日本救急医学会総会，2007．10．
- 10) 畝本(猪鹿倉)恭子，直江康孝¹⁾，横田裕行²⁾，高橋 弘³⁾，黒川 顯，山本保博²⁾，寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター，2) 日本医科大学救急医学，3) 日本医科大学脳神経外科)：頭部外傷後異常行動：攻撃性症例の検討．第66回日本神経外科学会総会，2007．10．
- 11) 一瀬麻紀，上田康晴，牧 真彦，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，黒川 顯：テイコプラニン抵抗性を示した閉塞性動脈硬化症患者のMRSA感染症にリネゾリドが著効した1例．第58回日本救急医学会関東地方会，2008．2．
- (5) ポスター：
- 1) 望月 徹¹⁾，渡辺昌則¹⁾，鈴木憲康¹⁾，野口周作¹⁾，山口朋貞¹⁾，西澤善樹¹⁾，土金なおみ¹⁾，板倉剛志²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院ICT，2) 日本医科大学武蔵小杉病院中央検査室)：グラム染色による起炎菌の推定，WHONET5.3によるantibiogram算出から有効抗菌薬を決定して救命につながった重症胆道感染の1例．第81回日本感染症学会総会，2007．4．

[多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

当施設は多摩地区の3次救急医療施設として多発外傷，頭部外傷，整形外科外傷，熱傷，虚血性心疾患，脳血管障害，薬物中毒，災害医療と多岐にわたる患者に対して，それぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に集中治療にあたるとともに，併せて各分野での臨床研究を行っている．重症患者における循環動態モニタリング，頭部外傷に対する軽度低体温療法，脳梗塞急性期に対するt-PAの投与，血栓溶解療法，多発外傷に対するダメージコントロール，心肺停止蘇生後の低体温療法などに取り組んでいる．また，病院前から継続して行われる救急医療システムの改善についても救急救命士とともに検討している．臨床研究のほか基礎研究も継続して行っており，エンドトキシン血症に対するPMX，各種薬剤の有効性について基礎実験を行い，結果を学会発表，誌上发表している．また，災害医療に関しても国内，海外への派遣に積極的に参加している．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shimada Y, Nemoto K, Kubota M²⁾, Ninomiya N, Yamamoto Y¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学，2) 日本医科大学多摩永山病院中央検査室)：Neuraminidase inhibitors prevent lipopolysaccharide-induced intestinal paralysis in conscious guinea pigs. J Jap Assoc Acute Medicine 2007；18 (4)：127-34.
- 2) Nakanowatari Y¹⁾, Nemoto K¹⁾, Hara S¹⁾, Ninomiya N^{1,2)}, Yamamoto Y¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学，2) Emergency Medicine, The George Washington University School of Medicine and Health Sciences, Washington DC, Maryland, USA)：Effects of direct haemoperfusion through fibres immobilizing polymyxin B and nafamostat mesilate on endotoxaemia in conscious guinea-pigs. Clinical and Experimental Pharmacology and Physiology 2008；35 (1)：17-22.

(2) 症例報告：

- 1) 石丸直樹，稲垣栄次，横堀将司¹⁾，久野将宗，原 俊輔，島田 靖，諸江雄太，石之神小織，中野渡雄一，直江康孝，二宮宣文 (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：シートベルトは本当に安全か？：後部座席シートベルトによる腹部外傷3例．日本救急医学会関東地方会雑誌 2007；28：122-124.

著 書

- 1) 島田 靖：〔分担〕Ⅲ－1被災者の保健医療ニーズⅡ－4国際災害支援と危機管理Ⅱ－2災害時に活動する国連関連機関。グローバル災害看護マニュアル（NPO災害人道医療支援会（HuMA）・災害看護研修委員会），2007；pp92-94，真興交易医書出版部。
- 2) 島田 靖：〔分担〕Ⅲ－1被災者の保健医療ニーズⅡ－4国際災害支援と危機管理Ⅱ－2災害時に活動する国連関連機関。グローバル災害看護マニュアル（NPO災害人道医療支援会（HuMA）・災害看護研修委員会），2007；pp98-101，真興交易医書出版部。
- 3) 島田 靖：〔分担〕Ⅲ－1被災者の保健医療ニーズⅡ－4国際災害支援と危機管理Ⅱ－2災害時に活動する国連関連機関。グローバル災害看護マニュアル（NPO災害人道医療支援会（HuMA）・災害看護研修委員会），2007；pp116-122，真興交易医書出版部。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 山口孝治¹⁾，井上潤一¹⁾，小原真理子¹⁾，高桑大介¹⁾，中野京子¹⁾，二宮宣文，吉岡留美¹⁾（¹⁾日本集団災害医学会セミナー委員会）：日本集団災害医学会セミナー（JADMS）の災害医療教育に果たす役割，第13回日本集団災害医学会総会，2008. 2.

(2) ワークショップ：

- 1) 久野将宗，二宮宣文，根本香代，稲垣栄次，久保田稔¹⁾，山本保博²⁾（¹⁾多摩永山病院中央検査室，²⁾日本医科大学救急医学）：敗血症モデル動物におけるPMX-DHP施行時の血中エラストラーゼ活性，HMGB1値の推移。第12回エンドトキシ血症救命治療研究会，2008. 2.

(3) 一般講演：

- 1) 石之神小織，北橋章子，稲垣栄次，林 幹彦，久野将宗，原 俊輔，島田 靖，中野渡雄一，諸江雄太，直江康孝，二宮宣文：6回の手術を経て自宅退院し得た症例。東医・日医 カンファレンス，2007. 9.
- 2) 石之神小織，横田裕行¹⁾，二宮宣文，畝本恭子²⁾，布施 明¹⁾，直江康孝，横堀将司¹⁾，北橋章子（¹⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター）：当救命救急センターにおける過去5年間のくも膜下出血重症例の入院状況と治療および予後の検討。第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.
- 3) 直江康孝，石之神小織，横田裕行¹⁾，布施 明¹⁾，畝本恭子²⁾（¹⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター）：当院におけるくも膜下出血重症例の治療。第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.
- 4) 直江康孝，二宮宣文，中野渡雄一，石之神小織，諸江雄太，原 俊輔，久野将宗，北橋章子，島田 靖，稲垣栄次，石丸直樹：緊急手術，処置時のインフォームドコンセントの実情とあり方。第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.
- 5) 諸江雄太，久野将宗，原 俊輔，稲垣栄次，島田 靖，石丸直樹，石之神小織，中野渡雄一，直江康孝，二宮宣文：法により身柄を拘束された患者への救急医療：無視出来ないもうひとつの救急医療の現状・当院の経験から。第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.
- 6) 稲垣栄次，石丸直樹，久野将宗，原 俊輔，諸江雄太，石之神小織，中野渡雄一，直江康孝，加地正人¹⁾，二宮宣文（¹⁾東京医科歯科大学医学部付属病院救命センター）：当センターにおける外傷性血胸症例の検討。第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.
- 7) 石丸直樹，稲垣栄次，久野将宗，原 俊輔，島田 靖，諸江雄太，石之神小織，中野渡雄一，直江康孝，加地正人¹⁾，二宮宣文（¹⁾東京医科歯科大学医学部付属病院救命センター）：当センターで開腹止血手術に及んだ上部消化管出血の検討。第35回日本救急医学会総会・学術集会，2007. 10.

- 8) 北橋章子, 久野将宗, 原 俊輔, 直江康孝, 二宮宣文, 長谷川栄寿¹⁾, 小笠原智子¹⁾, 加藤 宏¹⁾, 本間正人¹⁾, 原口義座¹⁾, 辺見 弘¹⁾ (1) 国立病院機構災害医療センター): 縊頸後に皮質盲をきたした2例. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 9) 原 俊輔, 二宮宣文, 根本香代, 久野将宗, 久保田稔¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院中央検査室, 2) 日本医科大学救急医学): エンドトキシン血症モデルに対する sivelestat sodium 静脈内持続投与の効果. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 10) 中野渡雄一, 二宮宣文, 根本香代, 島田 靖, 久保田稔¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 多摩永山病院中央検査室, 2) 日本医科大学救急医学教室): モルモット敗血症モデルに対する nafamostat mesilate 使用下での PMX-DHP の効果. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 11) 二宮宣文, 曾根真美¹⁾, 中尾亜美¹⁾, 島田 靖 (1) 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科): 平成19年能登半島地震へ東京からの緊急医療支援. 第35回日本救急医学会・学術集会, 2007. 10.
- 12) 中尾亜美¹⁾, 二宮宣文, 曾根真美¹⁾ (1) 国士舘大学体育学部スポーツ医科学科): 平成19年能登半島地震: 緊急医療支援活動での救急救命士の役割. 第35回日本救急医学会・学術集会, 2007. 10.
- 13) 二宮宣文, 曾山明美¹⁾, 田島伸一¹⁾ (1) 日本エマージェンシーアシスタンス): アフリカにおける邦人救急医療と国際救急航空搬送システム構築. 第35回日本救急医学会・学術集会, 2007. 10.
- 14) 二宮宣文, 島田 靖, 曾山明美¹⁾, 榊原牧子¹⁾, 青木政幸¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 日本エマージェンシーアシスタンス, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 人工呼吸器管理が必要な重傷者の長距離国際航空機搬送. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 12.
- 15) 青木政幸¹⁾, 榊原牧子¹⁾, 曾山明美¹⁾, 二宮宣文, 島田 靖, 山本保博²⁾, 高野達夫³⁾ (1) 日本エマージェンシーアシスタンス, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 3) 中日本航空): 日本における緊急患者の国際間搬送手段 その実態と問題点. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 12.
- 16) 稲垣栄次, 久野将宗, 原 俊輔, 諸江雄太, 石之神小織, 中野渡雄一, 直江康孝, 二宮宣文: TAEにより止血し得た小腸出血の2例. 第58回日本救急医学会関東地方会, 2008. 2.
- 17) 久野将宗, 稲垣栄治, 原 俊輔, 中野渡雄一, 直江康孝, 二宮宣文: 急性肺塞栓症と類似の病態を呈した1症例. 第58回日本救急医学会関東地方会, 2008. 2.
- 18) 二宮宣文, 根本香代, 中野渡雄一, 原 俊輔, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): 敗血症モデル動物に対する長時間PMX-DHPの効果. 第12回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2008. 2.
- 19) 島田 靖, 井上茂亮¹⁾, 近藤久禎²⁾, 阿南英明³⁾, 鈴木貴博⁴⁾, 黒川 顕²⁾ (1) 東海大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 3) 藤沢市民病院救命救急センター, 4) 川崎市立病院総合診療科): NBCテロにおける現場初期対応手順と検討と訓練. 第13回日本集団災害医学会, 2008. 2.
- 20) 二宮宣文, 山口孝治¹⁾, 宮下明功²⁾, 岩田祥吾²⁾, 高桑大介³⁾, 伊東和雄⁴⁾, 羽佐田武⁵⁾, 尾崎雅彦⁶⁾, 足立学⁶⁾, 山本保博⁷⁾ (1) フジ虎ノ門整形外科病院, 2) 御殿場市医師会, 3) 武蔵野赤十字病院, 4) 有限会社マスターワークス, 5) 静岡県小山町役場, 6) 富士スピードウェイ株式会社, 7) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 2007年F1グランプリにおける観客救護のメディカルコントロール. 第13回日本集団災害医学会総会, 2008. 2.
- 21) 二宮宣文, 石原 哲¹⁾, 山本保博²⁾, 稲垣栄次 (1) 医療法人社団誠和会白鬚橋病院, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 平成19年新潟県中越沖地震災害医療本部立ち上げ. 第13回日本集団災害医学会総会, 2008. 2.
- 22) 井上潤一¹⁾, 熊谷 謙²⁾, 林 達彦³⁾, 内藤万砂文⁴⁾, 森野一真⁵⁾, 石原 哲⁶⁾, 二宮宣文, 本間正人¹⁾, 辺見弘¹⁾ (1) 国立病院機構災害医療センター, 2) 新潟市民病院, 3) 厚生連村上総合病院, 4) 長岡赤十字病院, 5) 山形県立中央病院, 6) 白鬚橋病院 (東京都医師会)): 被災地における医療体制をいかに立ち上げるか: 中越沖地震のDMAT運用経験から. 第13回日本集団災害医学会総会, 2008. 2.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成6年1月に開設した。その後、平成8年11月に千葉県の基幹災害医療センターに、また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され、各種学会・研究会において活発な活動を行っている。平成13年10月からは、厚生労働省事業である千葉県ドクターヘリ事業の基地病院として、千葉県及び茨城県南部で発生した、脳卒中、急性冠症候群、急性大動脈疾患、重症外傷など、ありとあらゆる重症患者に最適の初期治療を提供し、目覚ましい治療効果を挙げている。

研究テーマは救急医療システム特に外傷診療システムのあり方に関する研究、ヘリコプターを活用した救命救急医療をもたらす医学的効果についての研究、災害医療システムの研究と開発、新たな小児重症救急医療システム構築に関する研究、多発外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究ならびに新たな診断・治療手法の開発のための研究、最重症外傷患者に対するDamage Controlの効果に関する研究、敗血症・多臓器不全の病態解明、敗血症性多臓器不全に対する血液浄化療法の効果に関する研究と新しい血液浄化法の開発に向けた研究、心肺機能不全例に対する経皮的心肺補助装置（PCPS）の効果に関する研究、シュミレーションモデルを用いた救急医学教育の開発に関する研究、救急救命士等の質の向上を目指すためのメディカルコントロールに関する研究等、多岐に渡っており、これらの研究成果を国内ばかりでなく、国際学会で発表し、また英文雑誌に掲載するなどして、内外に情報発信した。

当施設が平成13年度から先駆的に取り組んできた「ドクターヘリの医学的効果に関する研究」は社会的に認知され、平成19年の通常国会において「救急医療用ヘリコプターを用いた救急医療の確保に関する特別措置法案」として結実し、ドクターヘリが全国配備される基盤が確立した。

研究業績

論文

[追加分]

追加分研究報告書：

- 1) 益子邦洋, 有賀 徹¹⁾, 大沼孝一郎¹⁾, 岡本雅義¹⁾, 小林誠一¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 東平日出夫¹⁾, 外村潤二¹⁾, 福島 真¹⁾, 村山裕之¹⁾ (¹⁾ 人体傷害データベース構築検討会) : 平成18年度 人体傷害データベース構築に係る分析報告書. 国土交通省自動車交通局 受託研究報告書 2007.

追加分総説：

- 1) 武井健吉, 松本 尚, 益子邦洋 : 多発外傷のモニタリング. 救急・集中治療 2006 ; 18 (3・4) : 505-508.
- 2) 阪本雄一郎, 益子邦洋 : 外傷 Damage control surgery (DCS) の指標. 救急医学 2007 ; 31 (3) : 337-337.

(1) 原著：

- 1) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Relationship Between Effect of Polymyxin B-Immobilized Fiber and High-Mobility Group Box-1 Protein in Septic Shock Patients. ASAIO Journal 2007 ; 53 (3) : 324-328.
- 2) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T¹⁾, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yamamoto Y²⁾ (¹⁾ Department of Molecular cell Biology, Institute of DNA medicine, Jikei University School of Medicine, ²⁾ Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Clinical Responses and Improvement of Some Laboratory Parameters Following Polymyxin B-Immobilized Fiber Treatment in Septic Shock. ASAIO Journal 2007 ; 53 (5) : 646-650.

- 3) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T¹⁾, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yamamoto Y²⁾ (1) Department of Molecular Cell Biology, Institute of DNA Medicine, Jikei University School of Medicine, 2) Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Effectiveness of Continuous Hemodiafiltration Using a Polymethylmethacrylate Membrane Hemofilter After Polymyxin B-Immobilized Fiber Column Therapy of Septic Shock. ASAIO Journal 2008 ; 54 : 129-132.
 - 4) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学講座) : 腹部臓器損傷を含む多発外傷症例の治療戦略に関する検討. 日本腹部救急医学会雑誌 2007 ; 27 (4) : 567-571.
 - 5) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : 外傷患者における SIRS 項目と外傷の重症度, 臓器障害および転帰との関連性. 日本救命医療学会雑誌 2007 ; 21 : 73-79.
 - 6) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 富田祥輝, 山本保博²⁾ (1) 東京慈恵会医科大学 DNA 医学研究所分子細胞生物学研究部門, 2) 日本医科大学救急医学) : 各種因子 (anandamide, 2-AG, HMGB1, PAI-1 等) の変動からみた敗血症性ショック症例における PMX-DHP の効果判定についての検討. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2007 ; 11 (1) : 84-89.
- (2) 総説 :
- 1) 朽方規喜, 益子邦洋 : 気管・気管支・肺損傷. 救急医学 2007 ; 31 (4) : 431-434.
 - 2) 益子邦洋 : 交通事故による経済的損失は 6 兆円を突破 ; JPTECTM の推進にも財政的支援を. アスカ 21 2007 ; 16 (2) : 10-11.
 - 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : 敗血症性ショック症例における PMX-DHP 施行後の収縮期血圧上昇と血清 HMGB-1 値との関連についての検討. ICU と CCU 2007 ; 31 (別冊) : S73-S75.
 - 4) 原 義明 : 救急現場の基本技術の枠組みと考え方 : 救急医療人に求められる知と技を超えるもの. Emergency Care 2007 ; 20 (4) : 18-23.
 - 5) 阪本雄一郎, 益子邦洋 : イレウス. 消化器外科 NURSING 2007 ; 12 (5) : 80-84.
 - 6) 金丸勝弘, 益子邦洋 : 災害時の preventable Death をなくすために. The Mainichi Medical Journal (NNJ) 2007 ; 3 (5) : 363-363.
 - 7) 阪本雄一郎, 益子邦洋 : 救急医療の現場からみた交通事故による傷害実態の変化. 自動車技術 2007 ; 61 (7) : 73-77.
 - 8) 益子邦洋 : 北米型 ER (緊急救命室) の整備だけでは交通事故死亡者数は減少しない. アスカ 21 2007 ; 16 (3) : 10-11.
 - 9) 松本 尚 : 胸部外傷による出血. 救急医学 2007 ; 31 (8) : 913-916.
 - 10) 八木貴典, 松本 尚 : 外傷の蘇生. 救急医学 2007 ; 31 (9) : 1035-1040.
 - 11) 阪本雄一郎, 益子邦洋 : 敗血症の重症度評価. 救急医学 2007 ; 31 (10) : 1302-1308.
 - 12) 益子邦洋 : ドクターヘリによる救急医療の展望 (シンポジウム司会総括). 宮城県救急医療研究会雑誌 2007 ; 8 (2) : 5-8.
 - 13) 益子邦洋 : 医学と工学が連携した交通事故分析体制の必要性. アスカ 21 2007 ; 16 (4) : 10-11.
 - 14) 松本 尚 : ここまで来た! 救急救命士が病院到着前にできること. 臨床研修プラクティス 2007 ; 4 (11) : 82-85.
 - 15) 齋藤伸行, 松本 尚 : 医薬品中毒 ; 急激な経過をたどったセロトニン症候群の 1 例. 救急医学 2007 ; 31 (12) : 1586-1587.
 - 16) 朽方規喜, 益子邦洋 : 症候・病態その 8 胸痛. プレホスピタル・ケア 2007 ; 20 (6) : 49-53.

- 17) 益子邦洋：日本版ADAMSとACNを整備し，交通事故死者数の更なる削減を。アスカ21 2008；17（1）：10-11.
- 18) 益子邦洋：外傷診療体制の更なる整備へ向けて。千葉県医師会雑誌 2008；60（1）：39-39.
- 19) 益子邦洋，松本 尚，原 義明：災害医療におけるドクターヘリの活用。救急医療ジャーナル 2008；16（1）：30-37.
- 20) 益子邦洋：高速道路にドクターヘリが降りられるようになるまで。救急医療ジャーナル 2008；16（1）：36-41.
- (3) 研究報告書：
 - 1) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，武井健吉，金丸勝弘，富田祥輝，齋藤伸行，八木貴典，嶺 貴彦，山本保博¹⁾（¹⁾日本医科大学救急医学）：DPC（Diagnosis Procedure Combination）からみた外傷患者におけるAISコーディングの重要性についての検討。日救急医学会関東誌 2007；28：126-127.
- (4) 症例報告：
 - 1) 松本 尚：逃げるが勝ちのダメージコントロール：治療戦略としての撤退。Life Support and Anesthesia 2007；14（6）：556-559.
 - 2) 嶺 貴彦，松本 尚，阪本雄一郎，原 義明，朽方規喜，武井健吉，金丸勝弘，富田祥輝，齋藤伸行，八木貴典，益子邦洋，山本保博¹⁾（¹⁾日本医科大学救急医学）：Parapneumonic Effusionの治療戦略に関する検討。日本救急医学会関東地方会雑誌 2007；28（通巻45号）：120-121.
- (5) 講演要旨：
 - 1) Mashiko K, Hara Y, Matsumoto H, Sakamoto Y, Kutsukata N, Takei K, Tomita Y, Saitoh N¹⁾, Kanemaru K¹⁾, Yagi T¹⁾, Mine T¹⁾, Hemmi H, Nishikawa W, Shinoda T, Kunimatsu T（¹⁾HEM-Net）：Evolving Physician-Staffed Helicopter Emergency Medical Services System (Doctor-Heli) in Japan. Prehospital and Disaster Medicine 2007；22（2）：31-31.
 - 2) Yamaguchi K¹⁾, Mashiko K, Sakamoto Y, Kami M¹⁾, Kusumi E¹⁾, Ohara M²⁾, Hemmi H³⁾, Nishikawa W³⁾, Shinoda N³⁾, Kunimatsu T³⁾（¹⁾University of Tokyo, ²⁾Kameda Medical Center, ³⁾HEM-Net）：Comparison between Helicopter Emergency Medical Service and Ambulance Transportation to Rescue People Injured by Traffic Crashes in Japan. Prehospital and Disaster Medicine 2007；22（2）：31-31.
 - 3) 益子邦洋：交通事故・・・遭わない，逃げない，死なないために。人と車 2008；44（2）：18-20.
- (6) 事例報告：
 - 1) 原 義明，武井健吉，阪本雄一郎，朽方規喜，松本 尚，益子邦洋：ドクターヘリ搬送における広域メディカルコントロール体制の必要性。日本航空医療学会雑誌 2007；8（2）：2-6.

著 書

- 1) 小濱啓次¹⁾，石原 晋¹⁾，加藤啓一¹⁾，河村剛史¹⁾，明石勝也¹⁾，鈴川正之¹⁾，田中経一¹⁾，中澤 誠¹⁾，益子邦洋¹⁾（¹⁾赤十字救急法研究委員会）：〔共著〕赤十字救急法基礎講習教本（日本赤十字社編集），2007；pp1-64，日赤会館.
- 2) 小濱啓次¹⁾，野口 宏¹⁾，新井達潤¹⁾，益子邦洋，三井俊介¹⁾，嶋村光高¹⁾，佐々木真郎¹⁾，西山正樹¹⁾（¹⁾応急救護処置教本改定委員会）：〔共著〕旅客自動車の運転者による応急救護処置（警察庁交通局 監修），2007；全日本指定自動車教習所協会連合会.
- 3) 益子邦洋：〔共著〕第101回医師国家試験問題解説（編集：国試対策問題編集委員会），2007；メディックメディア.
- 4) 益子邦洋：〔分担〕第3章 救急医療システム. 最新整形外科学大系5 運動器の外傷学（総編集：越智隆弘），2007；pp20-26，中山書店.
- 5) 益子邦洋，坂本哲也¹⁾，石川雅健²⁾，松本 尚，根本 学³⁾，三井俊介⁴⁾，横山雅之⁵⁾，佐々木真郎⁶⁾（¹⁾帝京大学医学部 救命救急センター，²⁾東京女子医科大学 八千代医療センター，³⁾埼玉医科大学国際医療センタ

- 一 救命救急科,⁴⁾ 日本赤十字社事務局 救護・福祉部,⁵⁾ 警察庁交通局交通企画課,⁶⁾ 警察庁交通局運転免許課)：〔共著〕交通事故現場での応急救護処置 (監修：警察庁交通局), 2007；pp1-41, 財団法人全日本交通安全協会。
- 6) 小濱啓次¹⁾, 野口 宏¹⁾, 新井達潤¹⁾, 益子邦洋, 三井俊介¹⁾, 嶋村光高¹⁾, 佐々木真郎¹⁾, 西山正樹¹⁾ (1) 応急救護処置教本改定委員会)：〔共著〕旅客自動車の運転者による応急救護処置；指導員用 (警察庁交通局 監修), 2007；pp1-204, 全日本指定自動車教習所協会連合会。
- 7) 小濱啓次¹⁾, 野口 宏²⁾, 新井達潤³⁾, 益子邦洋, 三井俊介⁴⁾ (1) 川崎医科大学, 2) 愛知医科大学救命救急センター, 3) 倉敷成人病センター総院長, 4) 日本赤十字社事業局救護・福祉部)：〔共著〕応急救護処置 (警察庁交通局 監修), 2007；全日本指定自動車教習所協会連合会。
- 8) 原 義明：〔自著〕外傷の初期治療の要点と盲点 肋骨骨折. 整形外科Knack&Pitfalls (岩本幸英), 2007；pp63-65, 文光堂。
- 9) 益子邦洋：〔分担〕多発外傷. 看護のための最新医学講座〔第2版〕25 救急 (監修：日野原重明・井村裕夫 編集：中谷壽男), 2007；pp314-320, 中山書店。
- 10) 益子邦洋：〔共著〕附 C 外傷患者のプレホスピタルケア. 外傷初期看護ガイドライン (日本救急看護学会監修), 2007；pp241-247, へるす出版。
- 11) 松本 尚：〔分担〕千葉県ドクターヘリ. ドクターヘリ；導入と運用のガイドブック (日本航空医療学会監修 小濱啓次, 杉山貢, 西川渉編著), 2007；pp44-45, メディカルサイエンス社。
- 12) 阪本雄一郎, 松本 尚：〔共著〕外傷. ドクターヘリ；導入と運用のガイドブック (日本航空医療学会監修 小濱啓次, 杉山貢, 西川渉編著), 2007；pp112-113, メディカルサイエンス社。
- 13) 堤 晴彦¹⁾, 坂本照夫¹⁾, 鈴川正之¹⁾, 谷川攻一¹⁾, 堀 進悟¹⁾, 山口芳裕¹⁾, 横田裕行¹⁾, 松本 尚, 森村尚登¹⁾ (1) 救急隊員教本作成委員会)：〔編集〕改訂第3版 救急隊員標準テキスト (救急隊員用教本作成委員会), 2007；pp1-323, へるす出版。
- 14) 阪本雄一郎, 松本 尚：〔分担〕ドクターヘリが有効な疾患 外傷. ドクターヘリ；導入と運用のガイドブック (監修 日本航空医療学会, 編著 小濱啓次, 杉山 貢, 西川 渉), 2007；pp112-112, メディカルサイエンス社。
- 15) 益子邦洋, 金丸勝弘：〔分担〕ドクターヘリの現状. ドクターヘリ；導入と運用のガイドブック (監修 日本航空医療学会, 編著 小濱啓次, 杉山 貢, 西川 渉), 2007；pp24-31, メディカルサイエンス社。
- 16) 益子邦洋：〔分担〕ドクターヘリ導入から運用における千葉県の取り組み. ドクターヘリ；導入と運用のガイドブック (監修 日本航空医療学会, 編著 小濱啓次, 杉山 貢, 西川 渉), 2007；pp32-39, メディカルサイエンス社。
- 17) 武井健吉：〔分担〕ドクターヘリによる小児重症患者の病院間搬送. ドクターヘリ；導入と運用のガイドブック (監修 日本航空医療学会, 編著 小濱啓次, 杉山 貢, 西川 渉), 2007；pp138-139, メディカルサイエンス社。
- 18) 武井健吉, 益子邦洋：〔分担〕消化器疾患 5. 急性腹症. 内科医・小児科研修医のための 小児救急治療ガイドライン (市川光太郎 編集), 2007；pp270-273, 診断と治療社。
- 19) 金丸勝弘, 松本 尚：〔分担〕改訂第3版 救急隊員標準テキスト. 改訂第3版 救急隊員標準テキスト (救急隊員用教本作成委員会), 2007；pp213-235, へるす出版。
- 20) 益子邦洋：〔分担〕活動記録と事後検証. 救急救命士のための2次救命処置テキスト (編集 小林國男, 益子邦洋, 坂本哲也), 2007；pp34-38, へるす出版。
- 21) 小林國男, 益子邦洋, 坂本哲也：〔編集〕救急救命士のための2次救命処置テキスト. 救急救命士のための2次救命処置テキスト (編集 小林國男, 益子邦洋, 坂本哲也), 2007；へるす出版。
- 22) 松本 尚：〔分担〕救急ヘリコプターと災害時の活用. 救急医療の基本と実際；精神・中毒・災害 (山本保博

- 監修 行岡哲男, 太田祥一編集), 2007; pp293-297, 荘道社.
- 23) 松本 尚: [分担] 救急現場学とメディカルコントロール. プレホスピタルMOOK シリーズ5 救急現場学へのアプローチ (監修: 石原 晋, 益子邦洋 編集: 山本五十年), 2008; pp28-32, 永井書店.
 - 24) 石原 晋¹⁾, 益子邦洋 (1) 公立邑智病院): [監修] プレホスピタルMOOK シリーズ5 救急現場学へのアプローチ (監修: 石原 晋, 益子邦洋 編集: 山本五十年), 2008; pp1-327, 永井書店.
 - 25) 石原 晋¹⁾, 益子邦洋 (1) 公立邑智病院): [監修] プレホスピタルMOOK シリーズ4 多数傷病者対応 (監修: 石原 晋, 益子邦洋 編集: 大友康裕), 2008; pp1-285, 永井書店.
 - 26) 原 義明: [分担] 肺動脈カテーテル (スワン・ガンツ・カテーテル) 留置法. 今日の治療指針2008年版 (Volume 50) (総編集 山口 徹・北原光夫・福井次矢), 2008; pp85-86, 医学書院.
 - 27) 益子邦洋: [分担] 気管・気管支損傷. 今日の治療指針2008年版 (Volume 50) (総編集 山口 徹・北原光夫・福井次矢), 2008; pp43-44, 医学書院.
 - 28) 武井健吉: [分担] 溺水. プライマリ・ケア救急 小児編 (市川光太郎編集), 2008; pp144-148, プリメド社.

学会発表

[追加分]

追加分特別講演:

- 1) 益子邦洋: 外傷診療体制の現状と課題. 第2回和歌山集中治療医学セミナー, 2006. 6.
- (1) 特別講演:
- 1) 益子邦洋: わが国外傷診療体制の現状と課題: Preventable Trauma Death の回避を目指して. 第11回日本救急医学会九州地方会, 2007. 5.
- (2) 招待講演:
- 1) Mashiko K: Present Status of Trauma Care System in Japan. 22nd Conference of the Korean Society of Tarumatology, 2007. 6.
 - 2) 益子邦洋: ドクターヘリのこれまでとこれから. 大橋救急フォーラム2007, 2007. 4.
- (3) 教育講演:
- 1) 益子邦洋: 千葉県ドクターヘリの現状と今後の展望. 第9回東葛飾南部地域救急業務メディカルコントロール協議会症例検討会, 2007. 6.
- (4) シンポジウム:
- 1) 松本 尚, 益子邦洋, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 富田祥輝, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学): IIIb型肝損傷の外科的治療成績と課題. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
 - 2) 加地正人¹⁾, 大友康裕¹⁾, 相星淳一¹⁾, 登坂直規¹⁾, 庄古知久¹⁾, 稲垣栄次²⁾, 二宮宣文²⁾, 益子邦洋, 山本保博²⁾, 辺見 弘³⁾ (1) 東京医科歯科大学医学部付属病院救急災害医学ERセンター, 2) 日本医科大学救急医学, 3) 国立病院機構災害医療センター救命救急センター): 複雑型脾損傷の治療: IIIb型脾損傷に対するPPPD施行例. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
 - 3) 武井健吉, 八木貴典, 小網博之, 嶺 貴彦, 斉藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 救急搬送患者の事後検証からみえる, わが国の小児救急医療の問題点. 第21回日本小児救急医学会, 2007. 6.
 - 4) 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 小網博之, 益子邦洋: 新潟中越沖地震におけるドクターヘリの災害派遣. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
 - 5) 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 斉藤伸行, 八木貴典, 飯田浩

章, 鉄慎一郎, 小網博之, 益子邦洋: ドクターヘリ出動時の診療. 第2回病院前救急診療研究会, 2007. 12.

- 6) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 山本保博²⁾
(¹⁾ 東京慈恵会医科大学 DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, ²⁾ 日本医科大学救急医学): 急性期DIC
診断基準からみた敗血症関連因子との関連およびDIC症例に対するAT-III製剤早期投与の有効性. 第35回日
本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.

(5) パネルディスカッション:

- 1) 松本 尚: 多職種連携によるチーム医療 (救命救急センターの初療現場で): 医師の立場から. 第10回日本臨
床救急医学会総会・学術集会, 2007. 5.
- 2) 松本 尚, 益子邦洋, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 八木貴典, 斉藤伸
行: 成田国際空港における緊急活動計画の問題点. 第10回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2007. 5.
- 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 斉藤伸行, 八木貴
典, 嶺 貴彦, 小網博之, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学): 鈍的III型腓損傷の手術戦略についての検
討. 第32回日本外科系連合学会学術集会, 2007. 6.
- 4) 益子邦洋: 大型トラックの事故とドクターヘリ. 第8回自動車安全シンポジウム, 2007. 10.
- 5) 原 義明, 益子邦洋, 松本 尚, 金丸勝弘, 朽方規喜: Drヘリ運用地域における今後の事業拡充の力点: アン
ケート調査より. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
- 6) 小幡 徹¹⁾, 阪本雄一郎, 野村真弓¹⁾, 岩井健一²⁾, 鹿瀬陽一²⁾, 益子邦洋²⁾ (¹⁾ 東京慈恵会医科大学DNA医
学研究所 分子細胞生物学研究部, ²⁾ 東京慈恵会医科大学集中治療部): エンドトキシン測定の問題点: なぜ
従来法で測れないのか?. 第12回エンドトキシン血症救命治療研究会 (福岡), 2008. 2.
- 7) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 小幡 徹¹⁾, 山本
保博²⁾ (¹⁾ 東京慈恵会医科大学DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, ²⁾ 日本医科大学救急医学): Endo-
toxin Scattering Photometry (ESP) 法と従来法 (比濁時間法) のエンドトキシン値からみた敗血症性ショッ
ク症例におけるPMX-DHPの効果判定についての検討. 第12回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2008. 2.

(6) セミナー:

- 1) 益子邦洋: 胸部外傷. 第13回呼吸器外科セミナー, 2007. 5.
- 2) 益子邦洋: 病院前救急医療. 第18回日本救急医学会指導医セミナー, 2007. 8.

(7) ワークショップ:

- 1) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 朽方規喜, 山本保博²⁾ (¹⁾ 東京慈恵会医科大学 DNA医学研
究所分子細胞生物学研究部, ²⁾ 日本医科大学救急医学): 腹膜炎術後症例に対するPMX-DHPの施行タイミ
ングおよび転帰予測因子に関する検討. 第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.

(8) 一般講演:

- 1) Hara Y, Matsumoto H, Sakamoto Y, Oizumi A¹⁾, Kawai M¹⁾, Mashiko K, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ Nippon
Medical School hospital): Treatment of Pelvic Fractures in the Elderly. 15th World Congress on Disaster
and Emergency Medicine (Amsterdam), 2007. 5.
- 2) Mashiko K, Hara Y, Matsumoto H, Sakamoto Y, Kutsukata N, Takei K, Tomita Y, Saitoh N, Kane-
maru K, Yagi T, Mine T, Hemmi H¹⁾, Nishikawa W¹⁾, Shinoda N¹⁾, Kunimatsu T¹⁾ (¹⁾ Emergency Med-
ical Network of Helicopter and Hospital (HEM-Net)): Evolving physician staffed helicopter emergency
medical service system (doctor-heli) in Japan. The 15th World Congress on Disaster and Emergency Med-
icine (WCDEM 2007) (Amsterdam), 2007. 5.
- 3) Yamaguchi T¹⁾, Mashiko K, Sakamoto Y, Kami M¹⁾, Kusumi E¹⁾, Ohara M²⁾, Hemmi H³⁾, Nishikawa
W³⁾, Shinoda N³⁾, Kunimatsu T³⁾ (¹⁾ University of Tokyo, ²⁾ Kameda Medical Center, ³⁾ HEM-Net):
Comparison between the helicopter emergency medical service and the ambulance transportation to rescue

the injured person by the traffic accidents in Japan. The 15th World Congress on Disaster & Emergency Medicine (WCDEM 2007) (Amsterdam), 2007. 5.

- 4) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yamamoto Y¹⁾ (1) Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Systemic Inflammatory Response Syndrome Score on Admission Predicts Injury Severity, Organ Damage and serum neutrophil elastase production in Trauma Patients. The 66th meeting of the American Association for the Surgery of Trauma (Las Vegas), 2007. 9.
- 5) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T¹⁾, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yamamoto Y²⁾ (1) Institute of DNA Medicine, Jikei University School of Medicine, ²⁾ Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Relationship between the use of polymyxin B-immobilized fiber for hemofiltration and some laboratory parameters (endocannabinoids, high mobility group box-1 protein and oxidative stress) in severe pneumonia patients. 28th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2008. 3.
- 6) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T¹⁾, Matsumoto H, Yamamoto Y²⁾ (1) Department of Molecular Cell Biology Institute of DNA Medicine, Jikei University School of Medicine, ²⁾ Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School) : Effectiveness of continuous venovenous hemodiafiltration using a polymethylmethacrylate membrane hemofilter in septic shock patients. 28th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels, Belgium), 2008. 3.
- 7) 秋山 豪, 原 義明, 小網博之, 嶺 貴彦, 八木貴典, 齊藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 松本 尚, 益子邦洋 : リネゾリドが奏功し救命し得た劇症型A群溶連菌感染症の1症例. 第3回重症感染症研究会, 2007. 6.
- 8) 椎間優子, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 富田祥輝, 金丸勝弘, 八木貴典, 齊藤伸行, 嶺 貴彦, 秋山 豪, 安藤友孝, 益子邦洋 : 高所墜落による多発外傷に右椎骨動脈閉塞を合併した1例. 第10回千葉県救急医療研究会, 2007. 4.
- 9) 金丸勝弘, 松本 尚, 山本五十年¹⁾, 中川儀英¹⁾, 伊藤 誠²⁾, 長田和夫³⁾, 益子邦洋 (1) 東海大学医学部専門診療学系救急医学, ²⁾ 佐倉市八街市酒々井町消防組合, ³⁾ 株式会社和光商事) : 質の高い事後検証システムの構築 : オンライン事後検証システム. 第10回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2007. 5.
- 10) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齊藤伸行, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : JPTEC普及の効果と今後の展望について. 第10回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2007. 5.
- 11) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : 外傷症例に対するsivelestat sodium hydrate (Elaspol) の有用性についての検討. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
- 12) 原 義明, 嶺 貴彦, 富田祥輝, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 松本 尚, 益子邦洋, 川井 真, 山本保博¹⁾ (1) 付属病院高度救命救急センター) : 軽微な外傷で発症した縦隔気腫症例の検討. 第21回日本外傷学会, 2007. 5.
- 13) 富田祥輝, 原 義明, 川井 真¹⁾, 大泉 旭¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : 大腿骨頭骨折7例の検討. 第33回日本骨折治療学会, 2007. 6.
- 14) 益子邦洋 : 人体傷害データベースの活用. 第10回交通事故調査・分析研究発表会, 2007. 9.
- 15) 小網博之, 齊藤伸行, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 八木貴典, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 外傷性下垂体損傷の1例. 第8回千葉CCM輸液・栄養研究会, 2007. 10.
- 16) 嶺 貴彦, 阪本雄一郎, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齊藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋 : 頭部AIS5の重症頭部外傷を有する多発外傷症例の治療方針に関する検討. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 17) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 山本

- 保博²⁾ (1) 東京慈恵医科大学DNA医学研究所分子細胞生物学研究部, 2) 日本医科大学救急医学) : 酸化ストレス (F2-イソプロスタン値) およびHMGB-1, AEA, 2AGから見た重症肺炎に対するPMX-DHPの有効性と今後の治療戦略に関する検討. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 18) 斉藤伸行, 嶺 貴彦, 八木貴典, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本尚, 益子邦洋: Alcohol-Related Blunt Traumaの検討. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 19) 松本 尚, 武井健吉, 八木貴典, 斉藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 阪本雄一郎, 原 義明, 朽方規喜, 益子邦洋, 清水直樹¹⁾ (1) 国立成育医療センターPICU) : 小児重症外傷治療のための救急医療体制の新機軸. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 20) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 斉藤伸行, 山本保博²⁾ (1) 東京慈恵医科大学DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, 2) 日本医科大学 救急医学) : 新しいエンドトキシン高感度測定法からみたpolymyxin B-immobilized fiber column-Direct hemoperfusion (PMX-DHP) の適応基準についての検討. 第18回日本急性血液浄化学会学術集会, 2007. 10.
- 21) 益子邦洋: 本邦におけるドクターヘリの現状: 特に医学的效果について. ドクターヘリフォーラム2007, 2007. 10.
- 22) 益子邦洋: ドクターヘリの現状と将来展望. 救急医師研修会, 2007. 10.
- 23) 源田雄紀, 金丸勝弘, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 診断に難渋した小腸損傷の1例. 第3回千葉救急集中治療『ここが知りたいフォーラム』, 2007. 11.
- 24) 源田雄紀, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 八木貴典, 斉藤伸行, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 小網博之: 転落外傷後に判明したBrugada症候群の1例. 第3回千葉救急集中治療「ここが知りたい」フォーラム, 2007. 11.
- 25) 八木貴典, 小網博之, 飯田浩章, 斉藤伸行, 鉄慎一郎, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 原 義明, 朽方規喜, 松本 尚, 益子邦洋: 頭部外傷にて入室後診断された内因性疾患の1例. 第34回外傷症例検討会, 2007. 11.
- 26) 原 義明, 松本 尚, 小網博之, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 八木貴典, 斉藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 川井 真¹⁾, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学) : ドクターヘリ運用における今後の事業拡充の力点: アンケート調査より. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
- 27) 小網博之, 松本 尚, 原 義明, 飯田浩章, 鉄慎一郎, 八木貴典, 斉藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 益子邦洋: ドクターヘリ出動時のFAST施行の有効性について. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
- 28) 本庄貴志, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 災害現場でのドクターヘリによる患者搬送. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
- 29) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 山本保博²⁾ (1) 東京慈恵医科大学DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部, 2) 日本医科大学救急医学) : 外科領域における敗血症性ショック症例に対するPMX-DHP施行のタイミングと問題点. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 30) 金丸勝弘, 松本 尚, 原 義明, 小網博之, 嶺 貴彦, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 八木貴典, 斉藤伸行, 富田祥輝, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 益子邦洋: 外傷症例におけるドクターヘリ要請の質的検証. 第14回日本航空医療学会, 2007. 12.
- 31) 益子邦洋: 交通事故…遭わない, 逃げない, 死なないために. 第48回交通安全国民運動中央大会分科集会, 2008. 1.
- 32) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾ (1) 東京慈恵医科大学DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部) : Anandamide, Plasma 2-Arachidonoyl Glycerol (2-AG) 値からみた敗血症性ショック症例における治療効果の検討: PMMA-CHDFとPAN-CHDFの比較. 第22回千葉集中治療研究会, 2008. 1.

- 33) 益子邦洋：ドクターヘリの現状と将来。「心移植サポート」主催 第26回公開講演会 心移植の今 in 千葉，2008. 2.
- 34) 鉄慎一郎，朽方規喜，八木貴典，齋藤伸行，富田祥輝，金丸勝弘，武井健吉，阪本雄一郎，原 義明，松本尚，益子邦洋：両側多発肋骨骨折に対し外固定術を施行し人工呼吸器早期離脱に成功した1例. 第58回日本救急医学会関東地方会，2008. 2.
- 35) 小網博之，松本 尚，原 義明，朽方規喜，阪本雄一郎，武井健吉，金丸勝弘，富田祥輝，齋藤伸行，八木貴典，鉄慎一郎，飯田浩章，益子邦洋：ハンドル外傷により心臓震盪が疑われた1例. 第58回日本救急医学会関東地方会，2008. 2.
- 36) 山下裕子，齋藤伸行，小網博之，鉄慎一郎，飯田浩章，八木貴典，富田祥輝，金丸勝弘，武井健吉，阪本雄一郎，朽方規喜，原 義明，松本 尚，益子邦洋：多発外傷を契機として発症した急性肺障害（ALI／ARDS）に対してNPPVが奏功した1例. 第58回日本救急医学会関東地方会，2008. 2.
- 37) 益子邦洋：小児救急・周産期救急にもヘリコプターの活用を図れ. HEM-Netセミナー；周産期・母子救急におけるドクターヘリの活用，2008. 2.
- 38) 齋藤伸行，八木貴典，金丸勝弘，富田祥輝，武井健吉，阪本雄一郎，朽方規喜，原 義明，松本 尚，益子邦洋：重症外傷患者における血糖管理の適応についての検討. 第35回日本集中治療医学会学術集会（東京），2008. 2.
- 39) 齋藤伸行，八木貴典，金丸勝弘，富田祥輝，武井健吉，阪本雄一郎，朽方規喜，原 義明，松本 尚，益子邦洋：重症レジオネラ肺炎の1例. 第4回東葛救急カンファランス（松戸），2008. 2.
- 40) 齋藤伸行，八木貴典，金丸勝弘，富田祥輝，武井健吉，阪本雄一郎，朽方規喜，原 義明，松本 尚，益子邦洋：外傷性大動脈損傷の周術期管理. 千葉県周術期管理研究会（幕張），2008. 3.
- (9) ビデオフォーラム：
- 1) 朽方規喜，益子邦洋，松本 尚，原 義明，阪本雄一郎，武井健吉，富田祥輝，齋藤伸行，八木貴典，金丸勝弘，嶺 貴彦，山本保博¹⁾（¹⁾日本医科大学救急医学）：心損傷に対する手術手技：PCPSと自己血回収装置の有用性について. 第21回日本外傷学会，2007. 5.
 - 2) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，山本保博¹⁾（¹⁾日本医科大学救急医学）：IIIb型臍損傷に対するLetton&Wilson手術. 第21回日本外傷学会，2007. 5.
 - 3) 松本 尚，益子邦洋，朽方規喜，阪本雄一郎，原 義明，富田祥輝，嶺 貴彦，山本保博¹⁾（¹⁾日本医科大学救急医学）：胸部大動脈損傷に対する人工血管間置術. 第21回日本外傷学会，2007. 5.
 - 4) 松本 尚，益子邦洋，朽方規喜，阪本雄一郎，原 義明，富田祥輝，嶺 貴彦，山本保博¹⁾（¹⁾日本医科大学救急医学）：気管損傷に対する気管縫合術. 第21回日本外傷学会，2007. 5.
- (10) 市民公開講座：
- 1) 原 義明¹⁾：ヘリコプター救急の現場から. 第14回日本航空医療学会総会，2007. 12.

19. 形成外科学講座

[付属病院形成外科・美容外科]

研究概要

日本医科大学付属病院形成外科・美容外科の2007年度の業績として、特記すべきものは以下の通りである。

1. 超薄皮弁とりわけ前胸部に作成されるCP皮弁の穿通枝解剖が解剖学第2教室の協力で次々と発表され、世界的に注目を浴びた。
2. 脂肪組織由来幹細胞による組織工学は生化学第2教室の支援もあって、遂に大動物を用いたin vitroの段階に入った。
3. 脂肪組織由来幹細胞の創傷治癒への効果が実証された。臨床的には再生医療学部門との共同研究が成果を上げた。
4. ケロイドの研究は、ハーバード大、南方医大、北京協和医大と共同研究の成果が結実し始めた。
5. プロペラ皮弁は元々当教室のオリジナルであるが、今年は全世界でその応用が報告された。
6. ベトナム国立熱傷研究所との合作である、新しい皮弁による熱傷再建が注目された。
7. 放射線科との共同研究であるMDCTによる微小血管解剖で、世界の先端を走ることが出来た。次年度は米国での発表や中国東莞康華病院と共同研究の予定がある。
8. 美容外科後遺症である、脂肪注入や異物注入に関する研究と報告については、本学MNR研究施設の協力によって今年もわが国の先鋭となることができた。
9. 美容医療においても、最新式レーザー・光機器の基礎研究に積極的に取り組み、有意の成果を得た。結論として、国際学会の発表、欧文論文の多さは、当教室の研究が本年も世界に認められるものであったことの証左である。海外からの優秀な留学生の応募も引きを切らず数年先まで順番待ちの状態である。学内の他組織との共同研究も順調に運ばれており、少なくとも本分野では日本医大の名声の向上に貢献していると自負している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Amano Y¹⁾, Aoki R, Kumita S¹⁾, Kumazaki T¹⁾ (1) Radiology) : Silicone-selective multishot echo-planar imaging for rapid MRI survey of breast implants. Euro Radiol 2007 ; 17 (1) : 1875-1878.
- 2) Mizuno H, Itoi Y, Kawahara S, Ogawa R, Akaishi S, Hyakusoku H : In vivo Adipose Tissue Regeneration by Adipose-Derived Stromal Cells Isolated from GFP Transgenic Mice. Cells Tissues Organs 2007.
- 3) Ogawa R, Hyakusoku H, Akaishi S, Nomoto S, Ono S : Intraoperative repiercing for earlobe keloid. Ann Plast Surg 2007 ; 59 (3) : 354-5.
- 4) Vinh VQ¹⁾, Ogawa R, Iwakiri I²⁾, Hyakusoku H, Tanuma K³⁾ (1) ベトナム熱傷研究所, 2) 武蔵小杉病院形成外科, 3) 解剖学第2) : Clinical and anatomical study of cervicopectoral superthin flaps. Plast Reconstr Surg 2007 ; 119 (5) : 1464-71.
- 5) Mizuno H, Akaishi S, Kobe K, Hyakusoku H : Unilateral and bilateral eyebrow reconstruction by secondary vascularized "hairy" flap. Plast Reconstr Surg 2007 ; 120 (4) : 188-188.
- 6) Akimoto M¹⁾, Oka T¹⁾, Oki K, Hyakusoku H (1) 千葉北総病院形成外科) : Finite element analysis of effect of softness of cushion pads on stress concentration due to an oblique load on pressure. Journal of Nippon Medical School 2007 ; 73 (4) : 230-235.
- 7) Aoki R, Hyakusoku H : Pacman flap method. Plast Reconstr Surg 2007 ; 119 (6) : 1799-802.

- 8) Lu F¹⁾, Gao JH¹⁾, Ogawa R, Hyakusoku H, Ou C¹⁾ (¹⁾ 南方医大整形外科) : Fas-mediated apoptotic signal transduction in keloid and hypertrophic scar. *Plast Reconstr Surg* 2007 ; 119 (6) : 1714-21.
- 9) Uysal A, Orbay H¹⁾, Uraloglu M¹⁾, Sensoz O¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾ Ankara Numune Training and Research Hospital, Turkey) : A Rare Occupational Disease of Hair Dressors : Interdigital Pilonidal Sinus. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (5) : 364-366.
- 10) Lu F¹⁾, Gao JH¹⁾, Ogawa R, Hyakusoku H, Ou C¹⁾ (¹⁾ 南方医大整形外科) : Fas-mediated apoptotic signal transduction in keloid and hypertrophic scar. *Plast Reconstr Surg* 2007 ; 119 (6) : 1714-1721.
- 11) Ogawa R, Hyakusoku H, Ono S : Useful tips for successful skin grafting. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (6) : 386-392.
- 12) Uysal C, Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Hyakusoku H : The effect of adipose derived stem cells on flap viability after ischemia perfusion injury. *Plast Reconstr Surg* 2007 ; 120 (1) : 70-70.
- 13) Ogawa R, Hyakusoku H : Crucial incision method for Stahl' s ear reconstruction. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2007 ; 60 (8) : 961-963.
- 14) Lu F¹⁾, Gao JH¹⁾, Ogawa R, Hyakusoku H, Ou C¹⁾ (¹⁾ 南方医大整形外科) : Biological differences between fibroblasts derived from peripheral and central areas of keloid tissues. *Plast Reconstr Surg* 2007 ; 120 (3) : 625-630.
- 15) Gao JH¹⁾, Ogawa R, Hyakusoku H, Lu F¹⁾, Hu ZQ¹⁾, Jiang P¹⁾, Yang L¹⁾, Feng C¹⁾ (¹⁾ 南方医大整形外科) : Reconstruction of the face and neck scar contractures using staged transfer of expanded Super-thin flaps. *Burns* 2007 ; 33 (6) : 760-763.
- 16) Ogawa R, Oki K, Hyakusoku H : Vascular tissue engineering and vascularized 3D tissue regeneration. *Regen Med* 2007 ; 2 : 831-7.
- 17) Ogawa R, Aoki S, Hyakusoku H : The distally based sural flap. *Plast Reconstr Surg* 2008 ; 121 (2) : 689-90.
- 18) Ogawa R, Hyakusoku H, Ishii N, Ono S : Fat grafting to the breast. *Plast Reconstr Surg* 2008 ; 121 (2) : 702-3.
- 19) 百束比古, 小川 令, 野本俊一, 石井暢明 : 手術後ストレス障害 (Post-Surgical Stress Disorder : PSSD) の提唱. *日美外報* 2007 ; 29 (2) : 124-128.
- 20) 小川 令, 赤石論史, 栗林茂彦¹⁾, 館野 温¹⁾, 宮下次廣¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 放射線科) : 日本医科大学付属病院におけるケロイド電子線治療の工夫と長期成績. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 2 (1) : 50-5.
- 21) 土佐真美子¹⁾, 山本 彰²⁾, 佐藤雅史²⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 日本医科大学武蔵小杉病院におけるケロイド術後電子線治療の実際と長期成績. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 1 (1) : 29-30.
- 22) 青木 律, 百束比古, 杉野宏子¹⁾ (¹⁾ 青山エルクリニック) : ケロイド・癬痕のレーザーによる治療の可能性. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 1 (1) : 40-44.
- 23) 土佐真美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 村上正洋¹⁾, 川並汪一²⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 老人病研究所病理部門) : ケロイド発生に於けるIL-6シグナル伝達経路の解析. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 1 (1) : 56-59.
- 24) 赤石論史, 秋元正宇¹⁾, 小川 令, 百束比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : ケロイド・肥厚性癬痕に対するシリコンジェルシートの作用機序に関する考察. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 1 (1) : 60-62.
- 25) 赤石論史, 秋元正宇¹⁾, 小川 令, 百束比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : ケロイドの伸展形式についての考察. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 1 (1) : 63-65.
- 26) 小川 令, 野本俊一, 赤石論史, 小野真平, 石井暢明, 河邊京子, 百束比古 : 肥厚性癬痕・ケロイドに対する

外科的治療の工夫. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2007; 1 (1): 93-95.

- 27) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 帝王切開後癬痕ケロイドの発生率の関する検討. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2007; 1 (1): 96-98.
- 28) 赤石論史, 河邊京子, 小川 令, 百束比古: 耳部ケロイドの伸展機序に関する考察. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2007; 1 (1): 99-100.
- 29) 百束比古, 小川 令: 片側唇裂初回手術. 形成外科 2007; 50 (7): 783-788.
- 30) 小川 令, 百束比古, 石井暢明, 野本俊一: 自家脂肪組織注入による豊胸術に対する考察. 形成外科 2007; 50 (7): 787-797.
- 31) 利根川均¹⁾, 小川 令, 大木更一郎, 青木伸峰, 小池幸子, 百束比古⁽¹⁾ 博慈会記念総合病院形成外科): 背部に発生した脱分化型脂肪肉腫の1例. 形成外科 2007; 50 (9): 1053-1057.
- 32) 小池幸子, 小川 令, 青木 律, 内田嘉壽子, 百束比古: リストカットによる癬痕に対する修正術の検討. 日美外報 2007; 29 (3): 21-25.
- 33) 野本俊一, 岩切 致¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 経皮的冠動脈拡張術 (PTCA) の放射線曝露により生じた右肩甲骨部放射線潰瘍の治療経験. 日形会誌 2007; 27 (9): 631-635.
- 34) 水野博司: 皮下脂肪: 再生医療の新たな細胞源. 日医大医会誌 2007; 3 (4): 183-186.
- 35) 大木更一郎, 小池幸子, 江浦重義, 村上正洋, 青木 律, 百束比古: LeFortIII型骨折に対する蝶頰骨縫合固定法. 形成外科 2007; 50 (11): 1281-1290.
- 36) 小川 令, 糸井由里恵, 百束比古: 頭部多発性外毛根鞘腫から生じた悪性外毛根鞘腫の1例. 形成外科 2007; 50 (11): 1321-1324.
- 37) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 「癬痕・ケロイドに対する新しい治療の可能性」ケロイドに対する新しい治療法としての光線力学療法の試み. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 10-11.
- 38) 赤石論史, 小池幸子, 河邊京子, 百束比古: 「癬痕・ケロイドに対する新しい治療の可能性」ロングパルスNd: YAGレーザーのケロイド・肥厚性癬痕に対する治療. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 12-17.
- 39) 小川 令, 赤石論史, 百束比古: 「ケロイドの分類」ケロイド・肥厚性癬痕の治療に即した分類法の提唱. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 35-41.
- 40) 小川 令, 秋田定伯¹⁾ (長崎大形成外科): 「ケロイドの分類」ケロイドと肥厚性癬痕の分類に関する考察. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 50-52.
- 41) 百束比古, 赤石論史, 小川 令: 癬痕治療におけるジェルシートの現状と新たな可能性. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 56-61.
- 42) 小野真平, 小川 令, 野本俊一, 百束比古: 肥厚性癬痕・ケロイドの外科的治療における“small wave incision”の有用性. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 77-80.
- 43) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 手術単独治療後再発ケロイドに対する治療経過の検討. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 81-83.
- 44) 小川 令, 赤石論史, 河邊京子, 小野真平, 百束比古: ケロイド・肥厚性癬痕と他疾患との鑑別診断の重要性. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 92-95.
- 45) 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 癬痕ケロイド予防を目的とした新しい試み: 産婦人科手術例を対象としたScar Control外来の開設. 癬痕・ケロイド治療ジャーナル 2008; 2 (1): 100-102.

(2) 総説:

- 1) 百束比古: 漏斗胸術 (Nuss法) の施行での季肋部突出改善見込みの説明について. 医療判例解説 2007; 9

(8) : 73-80.

- 2) 百束比古, 佐野和史, 青木 律, 有吉雅徳: 皮弁の選択遊離皮弁か有茎皮弁か: 特集, 遊離皮弁による四肢再建のコツ. PEPPERS 2007 ; (17) : 48-58.
- 3) 百束比古: いわゆる真性ケロイドに対する集学的治療. 医学のあゆみ 2008 ; 224 (7) : 565-566.

(3) 症例報告:

- 1) 大木更一郎¹⁾, 大木琴美¹⁾, 百束比古, 渡部和弘²⁾, 岩間 裕²⁾ (¹⁾ 会津中央病院形成外科, ²⁾ 同麻酔科): 左側頭部母斑摘出時に悪性高熱症を併発した1例. 日形会誌 2007 ; 27 (8) : 554-550.

著 書

- 1) 水野博司, 百束比古: [分担] ケロイドの縫合. PEPARS14 (増大号) 縫合の基本手技, 2007 ; pp81-85, 全日本病院出版会.
- 2) 佐野和史, 百束比古: [分担] 上肢・手の挫滅創の一時処置. 外傷形成外科学, 2007 ; pp103-109, 克誠堂.
- 3) 佐野和史, 百束比古: [分担] テグロービング損傷. 外傷形成外科学, 2007 ; pp110-114, 克誠堂.
- 4) 百束比古, 大木更一郎: [分担] 下肢・足の損傷総論. 外傷形成外科学, 2007 ; pp190-202, 克誠堂.
- 5) 百束比古, 小川 令: [分担] 剥脱性損傷・轢過損傷. 外傷形成外科学, 2007 ; pp203-205, 克誠堂.
- 6) 百束比古: [分担] 熱傷後肥厚性瘢痕予防と治療. 熱傷治療マニュアル (木所昭夫編著), 2007 ; pp266-272, 中外医学社.
- 7) 百束比古: [分担] 瘢痕とケロイド. TEXT 形成外科学第2版, 2007 ; pp39-46, 南山堂.
- 8) 百束比古: [分担] 分担編集. ステッドマン医学大辞典 第6版 (ステッドマン医学大辞典編集委員会), 2008 ; 株式会社メディカルビュー社.

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) Hyakusoku H : Perforator augmented super-thin flap and propeller flap method. 東莞康華病院 (中国), 2007. 11.
- 2) Ono S, Hyakusoku H : Usefulness of MD-CT in perforator flap surgery. 東莞康華病院 (中国), 2007. 11.

(2) 教育講演:

- 1) Hyakusoku H : Complication of artificial materials in cosmetic surgery and its treatment. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 2) Wang C, Zhang J, Gao J, Hyakusoku H : The bridging effect of expansion on crossing area supply flap ; An experimental study and clinical application. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 3) 水野博司: 血管障害による下肢の潰瘍. 第50回日本形成外科学会学術研修会, 2007. 4.
- 4) 百束比古: 実地医家のため子ども・老人の外傷・熱傷のきれいな治し方. 第1535回 最新医療セミナー, 2007. 7.

(3) シンポジウム:

- 1) Mizuno H : Adipose-derived stem cells for wound regeneration and repair. 第37回日本創傷治療学会, 2007. 12.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): ケロイドに対する新しい治療法としての光線力学療法の試み. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 2) 赤石諭史, 小池幸子, 河邊京子, 小川 令, 百束比古: ロングパルスNd : YAGレーザーのケロイド・肥厚性瘢痕に対する治療. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 3) 小川 令, 赤石諭史, 百束比古: ケロイド・肥厚性瘢痕の治療に即した分類法の提唱. 第2回瘢痕・ケロイド

治療研究会, 2007. 8.

- 4) 百束比古, 青木 律, 水野博司, 小野真平: 「Fillir 本葉に問題はないのか 困った5症例」 Fillerによる障害治療に難渋している5症例. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 5) 百束比古: 「臨床に開花した基礎テーマ」 臨床に開花した基礎テーマー: 私の系譜. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 6) 水野博司: 「座談会 Part II」 何故, 私はこの研究をしているのか. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.

(5) セミナー:

- 1) 青木 律: ここまで来たノン・サージカル法の最前線: フラクセルIIの使用経験とサーマクールとのコンビネーション. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 2) 小池幸子: 近赤外線タイトニング用ハンドピース「タイタン」の臨床への応用; 人体におけるコラーゲン変化・病理観察を踏まえて. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 3) 赤石論史: キュテラロングパルスNd: YAG「ジェネシス」の作用機序と瘢痕治療への適応; 肥厚性瘢痕・ケロイド患者治療の経験, 病理検査の結果に基づいて. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 4) 百束比古, 小川 令: 瘢痕治療におけるジェルシートの現状と新たな可能性. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 5) 小川 令, 赤石論史, 河邊京子, 小野真平, 百束比古: ケロイド・肥厚性瘢痕と他疾患との鑑別診断の重要性. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.

(6) 一般講演:

- 1) Uysal C, Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Hyakusoku H: The effect of adipose derived stem cells on flap viability after ischemia perfusion. The plastic surgery research council 52nd annual meeting (Stanford), 2007. 6.
- 2) Aoki R, Hyakusoku H, Tanuma K¹⁾, Mizuno H, Tonegawa H, Ozawa H¹⁾ (¹⁾ Anatomy): Distally based Sural Flap Excluding Sural Nerve; Anatomical Study and Clinical Applications. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 3) Mizuno H, Koike S, Akaishi S, Kobe K, Hyakusoku H, Miyamoto M¹⁾, Kuroyanagi Y²⁾ (¹⁾ 1st Internal Medicine, ²⁾ Kitasato University): Enhanced healing of ischemic intractable foot ulcers by therapeutic angiogenesis with antilogous bone marrow cells and allogeneic dermal fibroblasts. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 4) Hyakusoku H, Kawahara S, Okuda T, Chin T, Ogawa R, Ono S, Matsumoto M, Hirakawa K¹⁾ (¹⁾ Legal Medicin): Clinical imaging diagnosis and chemical analysis of fillers for breast augmentation. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 5) Uysal A, Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Hyakusoku H: The effect of adipose derived stem cells on flap viability after ischemic reperfusion injury. The 52nd annual meeting of the plastic surgery research council (Palo Alto), 2007. 6.
- 6) Ogawa R, Muzuno H, Oki K, Murakami M, Ishii N, Hyakusoku H: The perforator pedicled propeller (PPP) method. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 7) Ogawa R, Hyakusoku H, Murakami M, Ono S: Face and Neck Scar Contracture Reconstruction using Perforator Supercharged Super-thin flap. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.

- 8) Ogawa R, Akaishi S, Kuribayashi S, Miyashita T, Hyakusoku H : Postoperative Radiation Protocol for Keloids. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 9) Hyakusoku H, Ogawa R, Murakami M, Oki K, Ishii N : A New Development of Propeller Flap Method : from The Original Propeller Flap Method to Central Axis Flap Method and Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flap Method. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 10) Uysal A, Mizuno H, Ogawa R, Lu F, Tobita M, Hyakusoku H : The effect of stem cells on skin flap models : random skin flap, prefabricated skin flap, ischemia reperfusion injury model, expanded skin flap. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery. 2007. 6. 26, Berlin. (Berlin), 2007. 6.
- 11) Mizuno H, Akaishi S, Kobe K, Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : Secondary vascularized hairy flap for eyebrow reconstruction. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 12) Mizuno H, Uysal A, Tobita M, Itoi Y, Ogawa R, Nambu M, Hyakusoku H : Adipose derived stem cells as a novel source of cell-based therapy in vivo. The 14th international congress of the international confederation for plastic (Berlin), 2007. 6.
- 13) Ogawa R, Hyakusoku H, Ono S : Usefulness of Perforator Supercharged Dorsal Skin Flap for Face and Neck Reconstruction. The 4th world society for reconstructive microsurgery (Athens), 2007. 6.
- 14) Uysal A, Mizuno H, Nambu M¹⁾, Tobita M, Hyakusoku H (¹⁾ 防衛医科大学校形成外科) : The effect of stem cells on acute wound healing. 5th annual meeting of international federation of adipose therapeutics and science (Indianapolis, Indiana), 2007. 10.
- 15) Uysal A, Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Hyakusoku H : The effect of adipose derived stem cells on flap viability after ischemia reperfusion injury. 5th annual meeting of international federation of adipose therapeutics and science (Indianapolis, Indiana), 2007. 10.
- 16) Tobita M, Mizuno H, Uysal A, Guo X, Hyakusoku H : Behavior of adipose-derived stem cells in canine periodontal tissue regeneration. 5th annual meeting of international federation of adipose therapeutics and science (Indianapolis, Indiana), 2007. 10.
- 17) Tobita M, Mizuno H, Uysal A, Itoi Y, Ogawa R, Hyakusoku H : Effect of adipose-derived stem cells on rat periodontal tissue regeneration ; Immunohistochemical study. 5th annual meeting of international federation of adipose therapeutics and science (Indianapolis, Indiana), 2007. 10.
- 18) Mizuno H, Akaishi S, Kobe K, Hyakusoku H : Unilateral and bilateral eyebrow reconstruction by secondary vascularized "hairy" Flap. 76th Annual Scientific Meeting of American Society of Plastic Surgery (Baltimore, Maryland), 2007. 10.
- 19) Aoki R, Hyakusoku H, Amagai K, Kobe K, Kubo K : Treatment of haemangioma with combination lasers. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 20) Ono S, Chin T, Hyakusoku H : Effectiveness of arterIALIZATION for degloving injury. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 21) Uysal A, Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Hyakusoku H : The effect of stem cells on primary muscle healing. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 22) Mizuno H, Uysal A, Tobita M, Ogawa R, Hyakusoku H : The effect of adipose derived stem cells on tissue expansion. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.

- 23) Uysal A, Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Hyakusoku H : The effect of stem cells on flap viability after ischemia perfusion injury. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 24) Dohi T, Hyakusoku H, Ono S, Nomoto S, Okuda T, Mizuno H : Complication after injection of fillers into face. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 25) Ono S, Hyakusoku H, Chin T, Ogawa R, Okuda T, Aoki R : Complication cases after polyacrylamide hydrogel injection for cosmetic purpose. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 26) Oki K, Hyakusoku H, Ono S, Akaishi S, Murakami M, Ogawa R : Free SCAP flaps. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 27) Ono S, Hyakusoku H, Ogawa R, Oki K, Hayashi H : Usefulness of multi detector-row CT (MD-CT) in the planning of perforator flaps. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 28) Ono S, Ogawa R, Mizuno H, Ishii N : Complication cases after free fat transfer in Japan. 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 29) Mizuno H, Uysal A, Lu F, Ogawa R, Hyakusoku H : Angiogenic potential of adipose-derived stem cells in skin flap model. Tissue Engineering International & Regenerative Medicine Society Asia-Pacific Chapter Meeting 2007 (Tokyo), 2007. 12.
- 30) Tobita M, Uysal A, Itoi Y, Ogawa R, Hyakusoku H, Mizuno H : Periodontal tissue regeneration by rat adipose-derived stem cells ; Immunohistochemical study. Tissue Engineering International & Regenerative Medicine Society Asia-Pacific Chapter Meeting 2007 (Tokyo), 2007. 12.
- 31) Uysal A, Mizuno H, Tobita M, Hyakusoku H : The effect of stem cells on primary muscle healing. Tissue Engineering International & Regenerative Medicine Society Asia-Pacific Chapter Meeting 2007 (Tokyo), 2007. 12.
- 32) Uysal A, Mizuno H, Tobita M, Hyakusoku H : The effect of adipose derived stem cells on flap viability after ischemia reperfusion injury. Tissue Engineering International & Regenerative Medicine Society Asia-Pacific Chapter Meeting 2007 (Tokyo), 2007. 12.
- 33) Uysal A, Mizuno H, Tobita M, Hyakusoku H : The effect of adipose derived stem cells on tissue expansion. Tissue Engineering International & Regenerative Medicine Society Asia-Pacific Chapter Meeting 2007 (Tokyo), 2007. 12.
- 34) Uysal A, Mizuno H, Toita M, Hyakusoku H : The effect of stem cells on acute wound healing . Tissue Engineering International & Regenerative Medicine Society Asia-Pacific Chapter Meeting 2007 (Tokyo), 2007. 12.
- 35) Ishii N, Ono S, Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H : Complication of fat injection to the breast in Japan. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
- 36) Gao G, Hyakusoku H, Feng L : Super-thin perforator flap used in reconstruction of face and hands. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
- 37) Ono S, Hyakusoku H, Okuda T, Ogawa R, Aoki R : Complication cases after non-absorbable material injection into face. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
- 38) Kobe K, Aoki R, Koike S, Hyakusoku H : Successful combination treatment for scars from previous deliberate self-harm on wrist and forearm. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
- 39) Amagai K, Aoki R, Tonegawa H, Hyakusoku H : Our removal method of injected polyacrylamide hydrogel for augmentation in face or breasts. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
- 40) Akaishi S, Kobe K, Koike S, Ogawa R, Hyakusoku H : Effect of 1064 nm Nd : YAG Laser on keloid and

- hypertrophic scar. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
- 41) Aoki R, Sugino H, Komuro Y, Hyakusoku H : Photodynamic therapy (PDT) for pores and wrinkles. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
 - 42) Hyakusoku H, Okuda T, Ohno Y¹⁾, Hirakawa K¹⁾ (¹⁾ Legal Medicine of Nippon Medical School) : Picture diagnosis of breast implants using X-ray and MRI based on chemical analysis using NMR. 19th International Society of Aesthetic Plastic Surgery (Melbourne), 2008. 2.
 - 43) Wang C¹⁾, Zhang J¹⁾, Li Q¹⁾, Nakazawa N²⁾, Hyakusoku H (¹⁾ 東莞康華病院形成外科, ²⁾ 第2病理) : Cellular immunological analysis of keloid. 第2回癬痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
 - 44) 小野真平, 小川 令, 奥田貴久, 石井暢明, 野本俊一, 青木 律, 平川慶子¹⁾, 百束比古 (¹⁾ NMR 研究施設) : 注入異物後遺症の問題点: 腫瘍との鑑別を中心に. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 45) 小野真平, 小川 令, 石井暢明, 奥田貴久, 野本俊一, 青木 律, 平川慶子¹⁾, 百束比古 (¹⁾ NMR 研究施設) : 生理食塩水バッグによる豊胸術後遺症: バッグ破損例の画像所見の特徴. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 46) 石井暢明, 赤石論史, 野本俊一, 奥田貴久, 小川 令, 青木 律, 百束比古: 自家脂肪注入による豊胸術後遺症とその評価. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 47) 小野真平, 小川 令, 村上正洋, 百束比古: ワイヤーフレーム外固定法の有用性. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 48) 河邊京子, 水野博司, 赤石論史, 小野真平, 石井暢明, 百束比古: 乳房異物症例におけるPET検査の意義. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 49) 小野真平, 小川 令, 石井暢明, 奥田貴久, 野本俊一, 青木 律, 平川慶子¹⁾ (¹⁾ NMR 研究施設) : 顔面注入異物後遺症の病態の検討. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 50) 水野博司, 河邊京子, 赤石論史, 小池幸子, 百束比古, 宮本正章¹⁾ (¹⁾ 第一内科) : 膠原病に起因した難治性潰瘍に対する自家骨髄細胞移植治療. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 51) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾, 大木琴美¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 外科手術後に生じた癬痕ケロイドの発生時期に関する検討. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 52) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 癬痕・ケロイド予防を目的とした試み: 産婦人科手術例を対象としたScar control外来の成果について. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 53) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : ケロイドに対する新しい治療法としての光線力学療法の試み. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 54) 秋元正宇¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : 連続Z形成術の干渉に関する考察: 有限要素法によるシミュレーションから. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 55) 青木 律, 百束比古, 野本俊一, 石井暢明: Goode's projection (グード図法) method 顔面皮膚を平面に投影する方法. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 56) 村上正洋¹⁾, 百束比古, 小川 令 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : Propeller flap methodの新しい展開: central axis flap methodからPPP flap methodへの展開. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 57) 大木更一郎, 小川 令, 村上正洋¹⁾, 青木 律, 水野博司, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 種々の茎のSuperficial cervical artery perforator (SCAP) flapによる頸部転移癌摘出後の再建. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 58) 小野真平, 小川 令, 水野博司, 赤石論史, 河邊京子, 百束比古: 各種皮弁による有毛部(眉毛・口髭)再建の比較検討. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
 - 59) 水野博司, 赤石論史, 河邊京子, 小川 令, 小野真平, 百束比古: Free vascular bundle transferによる眉毛再建の意義: 対側眉毛再建の経験から. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.

- 60) 野本俊一, 青木 律, 石井暢明, 小野真平, 百束比古: Super-thin SEPA flap. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 61) 江浦重義, 大木更一郎, 小池幸子, 小野真平, 百束比古: Angiolymphoid Hyperplasia with Eosinophiliaの2症例. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 62) 河邊京子, 水野博司, 赤石論史, 百束比古: 口唇脂腺癌に乳癌を伴った極めて稀な Muir-Torre 症候群の1例. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 63) 大木琴美, 土佐真美子¹⁾, 岩切 致¹⁾, 梅澤裕己, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): シリコンショックを用いた小児熱傷後肥厚性瘢痕のコントロール. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 64) 小池幸子, 赤石論史, 河邊京子, 百束比古: 軽度肥厚性瘢痕に対するジェネシスTM照射の効果の検討. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 65) 岩切 致¹⁾, 村上正洋¹⁾, 野本俊一, 赤石論史, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 若年発症したうっ滞性下腿潰瘍に対する腓腹神経温存遠位茎腓腹皮弁の有用性について. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 66) 内田嘉壽子, 青木 律, 百束比古: 頭頸部外科領域におけるリハビリメイクの応用. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 67) 奥田貴久, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 植草協子, 大野曜吉⁽¹⁾ NMR研究施設): 生体埋入異物の分析結果 1. シリコン系物質: 形成外科学会・美容外科学会・美容医療協会より依頼. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 68) 奥田貴久, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 植草協子, 大野曜吉⁽¹⁾ NMR研究施設): 生体埋入異物の分析結果 2. ハイドロジェル系物質: 形成外科学会・美容外科学会・美容医療協会より依頼. 第50回日本形成外科学会, 2007. 4.
- 69) 小野真平, 小川 令, 青木 律, 三橋 清¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ マリンクリニック): 免疫不全症が原因と考えられた両足趾の同時多発性 verrucous carcinoma の1例. 第23回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2007. 5.
- 70) 石井暢明, 小川 令, 百束比古: インドにおける熱傷治療の経験. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
- 71) 河邊京子, 小川 令, 水野博司, 村上正洋, 青木 律, 大木更一郎, 百束比古, Vu-Binh Q¹⁾ ⁽¹⁾ ベトナム熱傷研究所): 熱傷後瘢痕拘縮における前頸部完全再建における皮弁の選択. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
- 72) 小野真平, 小川 令, 百束比古: サウナによる顔面重症熱傷の1例. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
- 73) 大木更一郎, 大木琴美, 小池幸子, 村上正洋, 百束比古: 広範囲熱傷における網ネット包帯を用いた頸部植皮片固定の経験. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
- 74) 水野博司, 小川 令, 長岡美良¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 手術部): ベトナムにおける熱傷治療の経験. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
- 75) 小野真平, 百束比古, 小川 令, 大木更一郎, 小池幸子, 林 宏光, 汲田伸一郎¹⁾ ⁽¹⁾ 放射線科): 穿通枝茎プロペラ (PPP) 皮弁における術前 Multi Detector-row CT (MD-CT) の有用性. 第250回日本形成外科学会東京地方会, 2007. 7.
- 76) 水野博司: 再生医療の現状と脂肪組織幹細胞の有用性. 第4回日本獣医内科学アカデミー学術大会, 2007. 8.
- 77) 小野真平, 野本俊一, 小川 令, 百束比古: 肥厚性瘢痕・ケロイドの外科的治療における “small wave incision” の有用性. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 78) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾, 梅澤裕己¹⁾, 松本真由美¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 手術治療により再発を繰り返したケロイド症例に対する治療経過の検討. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 79) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 瘢痕ケロイド予防を目的とした試み: 産婦人科手術症例を対象とした Scar control 外来の成果について. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 80) 内田嘉壽子, 青木 律, 百束比古: リストカット瘢痕に対するリハビリメイクについて. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 81) 梅澤裕己¹⁾, 土佐真美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 川並汪一²⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成

- 外科,²⁾ 老人病研究所病理) : ケロイド新治療としての光線力学療法の可能性についての検討. 第2回癬痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 82) 宮本 暖, 小池幸子, 大木更一郎, 百束比古, 江浦重義, 久志本成樹¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学) : Open abdomenにおける大網上植皮後に生じた鹿角状異所性骨形成の1例. 第251回日本形成外科学会東京地方会, 2007. 9.
- 83) 小野真平, 陳 貴史, 百束比古 : 不完全デグロービング損傷に対する Arterialization の有用性. 第251回日本形成外科学会東京地方会, 2007. 9.
- 84) 秋元正宇¹⁾, 菅原光子²⁾, 百束比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 千葉北総病院看護部) : 褥瘡発生予防シートを体側に貼付することの意義と“身代わり効果” : 有限要素法によるシミュレーションから. 第9回日本褥瘡学会, 2007. 9.
- 85) 大木琴美¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 小川 令, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 仙骨部褥瘡再建における perforaator pedicled propeller (PPP) flap method. 第9回日本褥瘡学会, 2007. 9.
- 86) 大木更一郎, 百束比古, 村上正洋¹⁾, 大木琴美¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : レストン固定と分割手術にて治療を行った仙骨部褥瘡瘻孔形成難治症例. 第9回日本褥瘡学会, 2007. 9.
- 87) 島崎麻智子¹⁾, 瀬尾 誠¹⁾, 小坂好男¹⁾, 片山志郎¹⁾, 菊池有道¹⁾, 大木更一郎, 百束比古 (¹⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部) : ラット熱傷潰瘍モデルを用いたヨードコート軟膏0.9%の塗布量の違いによる創傷治癒効果の比較. 第9回日本褥瘡学会, 2007. 9.
- 88) 伊吾田慎一, 水野博司, 百束比古 : 褥瘡, 手術のタイミング, 第9回日本褥瘡学会学術集会褥瘡, 手術のタイミング. 第9回日本褥瘡学会学術集会, 2007. 9.
- 89) 土肥輝之, 水野博司, 青木雅代, 天海恵子, 百束比古 : 追撃砲の破片が原因の出血を伴った遅発性異物肉芽腫の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 90) 石井暢明, 赤石論史, 青木伸峰, 百束比古 : 毛質性上皮腫を摘出した1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 91) 赤石論史, 小川 令, 百束比古, 秋元正宇¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : 有限要素法によるケロイド形態分析の正当性に関する検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 92) 村上正洋, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 老人性眼瞼内反症28例の経験. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 93) 松本真弓¹⁾, 村上正洋¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科) : 皮膚欠損縫縮時に生じるドッグイヤー形態の観点から見たほくろと粉瘤の皮膚切開作図法 : 有限要素法によるシミュレーションを用いて. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 94) 大木更一郎, 赤石論史, 小池幸子, 陳 貴史, 小野真平, 百束比古 : free SCAP (superficial cervical artery perforator) flap. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 95) 陳 貴史, 小野真平, 百束比古 : Arterializationにより生着したDegloving Injuryの1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 96) 大木琴美, 百束比古, 田沼久美子¹⁾, 小澤一史¹⁾, 村上正洋²⁾ (¹⁾ 生体構造学, ²⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 狭茎胸部肋間穿通枝皮弁の血管構築に関する解剖学的研究および臨床応用. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 97) 小野真平, 百束比古, 陳 貴史, 大木更一郎, 小池幸子, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 放射線科) : 穿通枝皮弁術における術前Multi Detector-row CT (MD-CT) の有用性 : より安全な手術を目指して. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 98) 水野博司, 飛田護邦, Uysal A, 糸井由里恵, 小川 令, 百束比古 : 脂肪由来幹細胞を用いた歯周組織再生 : 骨髄由来幹細胞との比較. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

- 99) 青木伸峰, 百束比古, 利根川均¹⁾, 田沼久美子²⁾, 小澤一史²⁾ (¹⁾ 東京クリニック丸の内オアゾMC, ²⁾ 生体構造学): 腓腹神経温存型遠位茎腓腹皮弁の臨床成績の検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 100) 天海恵子, 野本俊一, 石井暢明, 青木 律, 百束比古: 2つの皮頭を有する腹直筋皮弁を用いて再建した外陰部癌の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 101) 百束比古, 大木更一郎, 小川 令, 小野真平, 石井暢明, 村上正洋¹⁾, 岩切 致¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): プロペラ皮弁法の世界的展開について. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 102) 青木雅代, 赤石論史, 河邊京子, 水野博司, 百束比古: 分割広背筋皮弁による胸部難治性潰瘍の治療. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 103) 宮本 暖, 江浦重義, 小池幸子, 大木更一郎, 百束比古, 久志本茂樹¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学): Open abdomen に対し植皮による閉創後に生じた鹿角状異所性骨形成の1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 104) 河邊京子, 青木 律, 野本俊一, 青木伸峰, 石井暢明, 百束比古: 下錐体腺腫に顔面の脳回転状皮膚を合併した1例. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 105) 青木 律, 百束比古, 天海恵子, 河邊京子: 12PLの皮膚色調改善効果について. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 106) 小池幸子, 赤石論史, 河邊京子, 百束比古: 軽度の肥厚性癬痕に対するジェネシスTM照射の効果の検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 107) 利根川均¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 東京クリニック丸の内オアゾMC): IPL脱毛の長期経過観察結果の検討. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 108) 利根川均¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 東京クリニック丸の内オアゾMC): AffirmTM (アファーム) の臨床効果の検討. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 109) 赤石論史, 河邊京子, 小池幸子, 百束比古: ケロイド・肥厚性癬痕に対するロングパルスNd: YAGレーザーの使用経験. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 110) 天海恵子, 小野真平, 石井暢明, 水野博司, 百束比古, 小川 令¹⁾ (¹⁾ ハーバード大学 形成外科): 自家脂肪注入による豊胸術後遺症とインフォームドコンセントの検討. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 111) 河邊京子, 水野博司, 青木 律, 百束比古, 石原圭一¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾ 放射線科): 乳房異物におけるPET検査. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 112) 奥田貴久, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 大野曜吉¹⁾ (¹⁾ 法医学NMR研究施設): NMR法による顔面注入物質の分析結果: 吸収性物質について. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 113) 奥田貴久, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 大野曜吉¹⁾ (¹⁾ 法医学NMR研究施設): NMR法による顔面注入物質の分析結果2: 非吸収性物質について. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 114) 内田嘉壽子, 青木 律, 百束比古: ディーイメージのこだわりを有する患者にリハビリメイクRが及ぼす効果. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 115) 利根川均¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 東京クリニック丸の内オアゾMC): 自己多血小板血漿注入療法の経験. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 116) 河邊京子, 小野真平, 水野博司, 百束比古: 極めて特異な外鼻美容手術後遺症の2例. 第30回日本美容外科学会, 2007. 10.
- 117) 土佐真美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 村上正洋¹⁾, 川並汪一²⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 老人病研究所病理): ケロイドに対する新治療薬としてのヒト化抗ヒトIL-6抗体の臨床応用を目指した基礎研究. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 118) 大木更一郎, 小川 令, 水野博司, 百束比古: artificial vascular bundle の作成. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 119) ウィザルチャーリ, 水野博司, 飛田護邦, 糸井由里恵, 百束比古: 筋組織1次創傷治癒における幹細胞の影響.

- 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 120) ウィザルチャーリ, 水野博司, 飛田護邦, 糸井由里恵, 百束比古: 皮膚創傷治癒における脂肪組織幹細胞の影響. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 121) ウィザルチャーリ, 水野博司, 飛田護邦, 糸井由里恵, 百束比古: 拡張された皮弁に対する脂肪組織幹細胞の影響. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 122) 秋元正宇¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科): 隣接するZ形成術の干渉効果: 有限要素法によるシミュレーションから. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 123) 秋元正宇¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科): ポリエチレンゲルシートofのズレの軽減効果: 有限要素法によるシミュレーションから. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 124) 小野真平, 百束比古, 小川 令, 大木更一郎, 小池幸子, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (放射線科): Multi detector low-CT (MD-CT) を用いた穿通枝の解剖学的評価の試み. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 125) 飛田護邦, 水野博司, ウィザルチャーリ, 糸井由里恵, 小川 令, 百束比古: ラット脂肪組織幹細胞を用いた歯周組織再生. 16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 126) 大木琴美¹⁾, 百束比古, 村上正洋¹⁾ (武蔵小杉病院形成外科): 狭茎胸部肋間穿通枝皮弁の血管解剖学的検討: 第2報, 各穿通枝の血行形態および血管網の結合について. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 127) 陳 貴史, 百束比古, 河原理子, 植草協子¹⁾, 平川慶子¹⁾ (法医学NMR研究施設): シリコンバッグからの漏出に関する実験的検討. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 128) 小野真平, 百束比古, 小川 令, 大木更一郎, 小池幸子, 林 宏光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (放射線科): 穿通枝皮弁における術前Multi Detector-row CT (MD-CT) の有用性. 第34回日本マイクロサージャリー学会, 2007. 10.
- 129) 大木更一郎, 赤石諭史, 小池幸子, 陳 貴史, 小野真平, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): free SCAP (superficial cervical artery perforator) flap. 第34回日本マイクロサージャリー学会, 2007. 10.
- 130) 飛田護邦, 水野博司, A. Cagri U, 郭 金, 百束比古: 犬歯周組織再生における脂肪組織由来幹細胞の効果. 第10回日本組織工学会, 2007. 11.
- 131) 橋本 聡, 久保一人, 石井暢明, 水野博司, 百束比古: 皮下埋め込み型避妊薬の摘出経験. 第252回日本形成外科学会東京地方会, 2007. 12.
- 132) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 下腹部手術後肥厚性癍痕およびケロイドの発生と早期治療の有効性に関する prospective study. 第37回日本創傷治癒学会, 2007. 12.
- 133) 土佐真美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 肥厚性癍痕とケロイドの鑑別は可能か. 第37回日本創傷治癒学会, 2007. 12.
- 134) 橋本 聡¹⁾, 久保一人¹⁾, 石井暢明, 水野博司, 百束比古⁽¹⁾ 会津中央病院形成外科): 皮下埋め込み型避妊薬の摘出経験. 第252回日本形成外科学会東京地方会, 2007. 12.
- 135) 太組一朗¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古⁽¹⁾ 脳神経外科, ²⁾ 千葉北総病院形成外科): リン酸4カルシウムペーストを用いた頭蓋形成. 第1回整容脳神経外科学会, 2008. 2.

[武蔵小杉病院形成外科]

研究概要

臨床: ケロイド・肥厚性癍痕の治療において, 術後療法ofの best protocol 作成へ向けた取り組みを引き続き行った. また, ケロイド・肥厚性癍痕の予防および早期発見に主眼を置いた新たなコンセプトである scar control 外来にて, 術後早期から女性診療科産科の患者さまの術創の診察を行うことで, 術後の肥厚性癍痕予防およびケロイドの早期治療が可能となった. さらに, 一昨年から開始したアクネケロイドに対しての光線力学療法を継続するとともに, 褥瘡

や下腿潰瘍などの難治性潰瘍に対し2機種による光線療法を行い成果を得ている。加えて、皮膚科および糖尿病療養指導士とともに糖尿病足病変の予防と早期発見を目的としたフットケア外来を開設した。

基礎：解剖学第二講座のもと、前胸部から腹部の皮下血管網を造影することで、Pectoral intercostal perforator flapの血行動態および安全な生着範囲を解明した。一方で、老人病研究所病理部門の協力を得て行っているケロイドに関する基礎研究では、ケロイドにおけるIL-6 pathwayの働きを解明し得たため、臨床応用に向けた検討にも入っている。さらに、ケロイドに対するアミノレブリン酸を用いた光線力学療法に関する基礎研究も並行して行っており、本治療のケロイド抑制効果を細胞レベルで確認した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Vinh V¹⁾, Ogawa R¹⁾, Iwakiri I, Hyakusoku H¹⁾, Tanuma K²⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Anatomy) : Clinical and anatomical study of cervicopectoral superthin flaps. *Plast Reconstr Surg* 2007 ; 119 (5) : 1464-1471.
- 2) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 帝王切開後癬痕ケロイドの発生率に関する検討. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 1 : 96-98.
- 3) 土佐真美子, 山本 彰²⁾, 佐藤雅史²⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 武蔵小杉病院放射線科) : 日本医科大学武蔵小杉病院におけるケロイド術後電子線治療の実際と長期成績. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 1 : 29-31.
- 4) 土佐真美子, ガジザデモハマッド²⁾, 村上正洋, 川並汪一²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 老人病研究所病理部門) : ケロイド発生に於けるIL-6シグナル伝達経路の解析. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2007 ; 1 : 56-59.
- 5) 大木更一郎¹⁾, 小池幸子¹⁾, 江浦重義¹⁾, 村上正洋, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : LeFort III型骨折に対する蝶頬骨縫合固定法. *形成外科* 2007 ; 50 (11) : 1281-1290.
- 6) 土佐真美子, 村上正洋, 岩切 致, 梅澤裕巳, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 手術単独治療後再発ケロイドに対する治療経過の検討. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2008 ; 2 : 81-83.
- 7) 土佐真美子, 村上正洋, 岩切 致, 梅澤裕巳, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 癬痕ケロイド予防を目的とした新しい試み：産婦人科手術例を対象としたScar Control外来の開設. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2008 ; 2 : 100-102.
- 8) 土佐真美子, 村上正洋, 岩切 致, 梅澤裕巳, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイドに対する新しい治療法としての光線力学療法の試み. *癬痕・ケロイド治療ジャーナル* 2008 ; 2 : 10-11.

(2) 総説：

- 1) 村上正洋：化学熱傷。救急・集中治療 2007 ; 19 (9) : 1118-1124.
- 2) 村上正洋：過度の圧迫・摩擦による胼胝・鶏眼。看護技術 2008 ; 54 (2) : 128-130.

(3) 症例報告：

- 1) Ogawa R¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Mizuno H¹⁾, Murakami M, Aoki R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Lower leg reconstruction using three free flaps. *Plast Reconstruct Surg* 2007 ; 120 (7) : 2130-2131.
- 2) 藤本将史¹⁾, 水野博司¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 外鼻・上口唇再建を要した劇症型肺炎球菌感染症の1例. *日形会誌* 2007 ; 27 (6) : 456-460.
- 3) 野本俊一¹⁾, 岩切 致, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 経皮的冠動脈拡張術 (PTCA) の放射線曝露により生じた右肩甲骨部放射線潰瘍の治療経験. *日形会誌* 2007 ; 27 (9) : 631-635.

- 4) 平本剛士²⁾, 大木更一郎²⁾, 大木琴美²⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 会津中央病院形成外科) : 成人の比較的小範囲な熱傷創より重篤・遷延化した toxic shock syndrome の1例. 熱傷 2007 ; 33 (1) : 43-51.

著 書

- 1) 村上正洋 : [分担] 皮膚形成外科の基礎. 小動物最新外科学体系10, 2007 ; pp12-44, インターズー.

学会発表

- (1) パネルディスカッション :
- 1) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイドに対する新しい治療法としての光線力学療法の試み. 第2回癬痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- (2) 一般講演 :
- 1) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : ワイヤーフレーム外固定法の有用性. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
- 2) Ogawa R¹⁾, Mizuno H¹⁾, Oki K¹⁾, Murakami M, Ishii N¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : The perforator pedicled propeller (PPP) method. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 3) Ogawa R¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Murakami M, Ono S¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Face and Neck Scar Contracture Reconstruction using Perforator Supercharged Super : thin flap. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 4) Hyakusoku H¹⁾, Ogawa R¹⁾, Murakami M, Oki K¹⁾, Ishii N¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : A New Development of Propeller Flap Method : from The Original Propeller Flap Method to Central Axis Flap Method and Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flap Method. The 14th international congress of the international confederation for plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Berlin), 2007. 6.
- 5) Oki K¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Ono S¹⁾, Akaishi S¹⁾, Murakami M, Ogawa R¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Hospital) : Free SCAP flaps. The 17th Japan-China Jpint Meeting on Plastic Surgery. The 17th Japan-China Joint Meeting on Plastic Surgery (Tokyo), 2007. 10.
- 6) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 癬痕ケロイド予防を目的とした試み : 産婦人科手術症例を対象としたScar control外来の成果について. 第2回痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
- 7) 土佐真美子, 村上正洋, 岩切 致, 大木琴美, 梅澤裕己, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 外科手術後に生じた癬痕ケロイドの発生時期に関する検討. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
- 8) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : 癬痕・ケロイド予防を目的とした試み : 産婦人科手術例を対象としたScar control外来の成果について. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
- 9) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイドに対する新しい治療法としての光線力学療法の試み. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
- 10) 村上正洋, 百束比古¹⁾, 小川 令¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : Propeller flap methodの新しい展開 : central axis flap methodから PPP flap methodへの展開. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
- 11) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科) : Superficial Cervical

- Artery Perforator (SCAP) flap. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
- 12) 大木更一郎¹⁾, 小川 令¹⁾, 村上正洋, 青木 律¹⁾, 水野博司¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): 種々の茎のSuperficial cervical artery perforator (SCAP) flapによる頸部転移癌摘出後の再建. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
 - 13) 大木琴美¹⁾, 土佐眞美子, 岩切 致, 梅澤裕己, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): シリコンクッションを用いた小児熱傷後肥厚性瘢痕のコントロール. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
 - 14) 岩切 致, 村上正洋, 野本俊一¹⁾, 赤石諭史¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): 若年発症したうっ滞性下腿潰瘍に対する腓腹神経温存遠位茎腓腹皮弁の有用性について. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
 - 15) 梅澤裕己, 土佐眞美子, 大木琴美, 岩切 致, 村上正洋: 赤色可視光線を用いた難治性潰瘍・褥瘡に対する光線療法を試み. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
 - 16) 大木琴美¹⁾, 村上正洋, 土佐眞美子, 岩切 致, 梅澤裕己, 青木見佳子²⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 武蔵小杉病院皮膚科): 眼瞼マイボーム腺癌に対する術前map biopsyの有用性. 第23回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2007. 5.
 - 17) 河邊京子¹⁾, 小川 令¹⁾, 水野博司¹⁾, 村上正洋, 青木 律¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 百東比古¹⁾, Vinh V²⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ ベトナム国立熱傷研究所): 熱傷後瘢痕拘縮における前頸部完全再建における皮弁の選択. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
 - 18) 大木更一郎¹⁾, 大木琴美¹⁾, 小池幸子¹⁾, 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): 広範囲熱傷における網ネット包帯を用いた頸部植皮片固定の経験. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
 - 19) 梅澤裕己, 岩切 致, 大木琴美¹⁾, 土佐眞美子, 村上正洋, 青木雅代³⁾, 青木見佳子²⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 武蔵小杉病院皮膚科, ³⁾ 東戸塚記念病院外科): 前額部熱傷瘢痕上に生じた基底細胞癌 (BCC) の1例. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
 - 20) 大木琴美¹⁾, 村上正洋, 梅澤裕己, 岩切 致, 山口 智²⁾, 青木秀治²⁾, 牧 真彦³⁾, 黒川 顕³⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 武蔵小杉病院耳鼻咽喉科, ³⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター): 自閉症児の熱傷治療経験. 第33回日本熱傷学会, 2007. 6.
 - 21) 土佐眞美子, 村上正洋, 岩切 致, 梅澤裕己, 松本真弓, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): 手術治療により再発を繰り返したケロイド症例に対する治療経過の検討. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
 - 22) 梅澤裕己, 土佐眞美子, ガジザデモハマッド¹⁾, 川並汪一¹⁾, 村上正洋, 百東比古²⁾ (1) 老人病研究所病理部門, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ケロイド新治療としての光線力学療法の可能性についての検討. 第2回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2007. 8.
 - 23) 村上正洋, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): 老人性眼瞼内反症28例の経験. 第75回日本医科大学医学部総会, 2007. 9.
 - 24) 松本真弓, 村上正洋, 秋元正宇¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 皮膚欠損縫縮時に生じるドッグイヤー形態の観点から見たほくろと粉瘤の皮膚切開作図法. 有限要素法によるシミュレーションを用いて. 第75回日本医科大学医学部総会, 2007. 9.
 - 25) 大木琴美¹⁾, 百東比古¹⁾, 田沼久美子²⁾, 小澤一史²⁾, 村上正洋 (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 解剖学第2): 狭茎胸部肋間穿通枝皮弁の血管構築に関する解剖学的研究および臨床応用. 第75回日本医科大学医学部総会, 2007. 9.
 - 26) 百東比古¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 小川 令¹⁾, 小野真平¹⁾, 石井暢明¹⁾, 村上正洋, 岩切 致 (1) 付属病院形成外科・美容外科): プロペラ皮弁法の世界的展開について. 第75回日本医科大学医学部総会, 2007. 9.
 - 27) 大木更一郎¹⁾, 百東比古¹⁾, 村上正洋, 大木琴美¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科): レストン固定と分割手術にて治療を行った仙骨部褥瘡瘻孔形成難治症例. 第9回日本褥瘡学会, 2007. 9.

- 28) 梅澤裕己, 村上正洋, 土佐眞美子, 大木琴美¹⁾, 岩切 致⁽¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科)：難治性褥瘡に対するLight-emitting diodeを用いた光線療法の試み. 第9回日本褥瘡学会, 2007. 9.
- 29) 大木琴美¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 小川 令¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：仙骨部褥瘡再建におけるperforaatpr pedicled propeller (PPP> flap method. 第9回日本褥瘡学会, 2007. 9.
- 30) 土佐眞美子, ガジザデモハマッド²⁾, 村上正洋, 川並汪一²⁾, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 老人病研究所病理部門)：ケロイドに対する新治療薬としてのヒト化抗ヒトIL-6抗体の臨床応用を目指した基礎研究. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 31) 村上正洋, 秋元正宇¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科)：ドッグイヤーの観点からみた粉瘤摘出時の作図法について：有限要素法による解析を用いて. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 32) 大木琴美¹⁾, 百束比古¹⁾, 村上正洋 (1) 付属病院形成外科・美容外科)：狭茎胸部肋間穿通枝皮弁の血管解剖学的検討：第2報：各穿通枝の血行形態および血管網の結合について. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 33) 大木更一郎¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小池幸子¹⁾, 陳 貴史¹⁾, 小野真平¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：Free SCAP (superficial cervical artery perforator) flap. 第34回日本マイクロサージャリー学会, 2007. 10.
- 34) 村上正洋, 梅澤裕己, 松本真弓, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：牽引筋腱膜縫着術を行った老人性下眼瞼内反症24眼瞼の結果について. 第12回横浜形成外科フォーラム, 2007. 11.
- 35) 土佐眞美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：下腹部手術後肥厚性瘢痕およびケロイドの発生と早期治療の有効性に関するprospective study. 第37回日本創傷治癒学会, 2007. 12.
- 36) 土佐眞美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：肥厚性瘢痕とケロイドの鑑別は可能か. 第37回日本創傷治癒学会, 2007. 12.
- 37) 村上正洋, 土佐眞美子, 梅澤裕己, 岩切 致, 大木琴美¹⁾, 松本真弓 (1) 付属病院形成外科・美容外科)：下肢の難治性褥瘡に対するLight-emitting diodeを用いた光線療法の試み. 第6回日本フットケア学会, 2008. 2.
- 38) 赤石論史¹⁾, 百束比古¹⁾, 小野真平¹⁾, 陳 貴史¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 村上正洋, 石井暢明¹⁾ (1) 付属病院形成外科・美容外科)：穿通枝軸プロペラ皮弁 (PPP flap) の手術手技. 第13回形成外科手術手技研究会, 2008. 2.

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

主に皮膚手術シミュレーションの研究, 褥瘡の発生機序コンピュータシミュレーションの研究, ケロイドの進展機序に関するコンピュータシミュレーションの研究, 頭蓋顔面外科領域における頭蓋再建術の研究に成果があった。皮膚手術シミュレーションの研究は, 様々な皮膚形成術をモデル化し, 手術シミュレーションを行うものである。皮膚形成術により発生する皮膚の進展, 圧縮変形, 応力, ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した。皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった。これを客観的に示し, 誰にでもできるようにするために, 皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価した。褥瘡発生機序の研究は, 褥瘡モデルを作成し, 様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである。これらの結果から, 褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した。今後, 褥瘡発生予防のための新しい器具の開発, 褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる。ケロイドの進展機序に関する研究は, ケロイドをモデル化し, 応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである。従来のモデルでは説明のできなかつた様々ケロイドの特性について構造力学的に解析した。頭蓋顔面外科領域の再建の研究では, 自家組織による再建を中心として, 整容的にも考慮した術式を考案した。とくに肋骨によるフレームを用いることによって効果的に小児の頭蓋を再建することに成功した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Akimoto M, Oka T, Oki K¹⁾, Hyakusoku H¹⁾ (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School Fuzoku Hospital) : Finite Element Analysis of Effect of Softness of Cushon Pads on Stress Concentration Due to an Olique Load on Pressure Sores. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (3) : 230-235.
- 2) 宮田美穂, 秋元正宇, 太組一朗¹⁾, 寺本 明²⁾, 百東比古³⁾ (1) 千葉北総病院 脳神経外科, 2) 付属病院 脳神経外科, 3) 付属病院 形成外科・美容外科) : 眼窩底骨折に対するナビゲーションシステムの使用. 日本シミュレーション外科学会誌 2007 ; 15 (4) : 85-89.
- 3) 赤石論史¹⁾, 秋元正宇, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : ケロイド・肥厚性瘢痕に対するシリコンジェルシートの作用機序に関する考察. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2007 ; 1 (1) : 60-62.
- 4) 赤石論史¹⁾, 秋元正宇, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : ケロイドの伸展形式についての考察. 瘢痕・ケロイド治療ジャーナル 2007 ; 1 (1) : 63-65.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Akimoto M : Computer Simulation of Z-Plasty and its Derivatives. The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (Berlin/Germany), 2007. 6.
- 2) 秋元正宇, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : ポリエチレンゲルシートのズレの軽減効果：有限要素法によるシミュレーションから. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 3) 秋元正宇, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : 連続Z形成術の干渉に関する考察：有限要素法によるシミュレーションから. 第50回日本形成外科学会総会, 2007. 4.
- 4) 赤石論史¹⁾, 秋元正宇, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : 有限要素法によるケロイド形態の検討と臨床像との比較. 第32回日本外科系連合会, 2007. 6.
- 5) 秋元正宇, 菅原光子¹⁾, 百東比古²⁾ (1) 千葉北総病院 看護部, 2) 付属病院 形成外科・美容外科) : 褥瘡発生予防シートを体側に貼付することの意義と“身代わり効果”：有限要素法によるシミュレーションから. 第9回日本褥瘡学会, 2007. 9.
- 6) 赤石論史¹⁾, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾, 秋元正宇 (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : 有限要素法によるケロイド形態分析の正当性に関する検討. 第57回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 7) 松本真弓¹⁾, 村上正洋¹⁾, 秋元正宇, 百東比古²⁾ (1) 武蔵小杉病院 形成外科, 2) 付属病院 形成外科・美容外科) : 皮膚欠損縫縮時に生じるドッグイヤー形態の観点から見たほくろと粉瘤の皮膚切開作図法：有限要素法によるシミュレーションを用いて. 第57回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 8) 秋元正宇, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : 隣接するZ形成術の干渉効果：有限要素法によるシミュレーションから. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.
- 9) 秋元正宇 : Double opposed Z plastyのシミュレーション. 第17回日本シミュレーション外科学会, 2007. 10.
- 10) 秋元正宇 : 薄いシートによる応力分散効果：有限要素法によるシミュレーションから. 第17回日本シミュレーション外科学会, 2007. 10.
- 11) 赤石論史¹⁾, 秋元正宇, 小川 令¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 付属病院 形成外科・美容外科) : ケロイド形態の有限要素法による分析と臨床像との比較. 第17回日本シミュレーション外科学会, 2007. 10.

20. 付属病院付置施設等

[付属病院遺伝診療科]

研究概要

遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に立ち上がる新しい時代の遺伝子医学に対応するため、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として外来診療を行っている。平成16年には私立大学として初めて臨床遺伝専門医研修施設として認定され、現在も学内外から研修医が集まっている。平成20年3月までに先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたるのべ200件（新患）の症例について外来診療を行った。外来は臨床遺伝専門医、看護師のチームで担当している。個々の症例の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外に臨床医、研究者、臨床心理士などが参加する月1回定例の遺伝診療カンファレンスで検討している。外来ではこれらの議論も参考に遺伝子研究も含めた最先端の医学的進歩について情報提供を行うとともに、患者さん本人の状況に最大限配慮した遺伝カウンセリングを行っている。遺伝子検査についてはハイテクリサーチセンターゲノム解析室と共同で低ホスファターゼ症、血管型 Ehlers-Danlos 症候群、ライソゾーム病などについての遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。特に、高度の倫理的な検討が必要なケースに対しては付属病院倫理委員会との連携をとり施行している。遺伝診療は新しい医学領域であるが、既に厚生労働省から臨床遺伝専門医の標榜が認められ、平成20年4月からは遺伝カウンセリング料が保険収載される予定になっている。また平成20年4月には渡邊淳を大会長として第31回日本小児遺伝学会学術集会を開催する。このことは、日本医大遺伝診療科が対外的にも周知されてきた成果と考え、今後も我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医大を代表する診療科として発展させていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Watanabe A, Shimada T : The establishment of an ethics consultation system in clinical genetics Trial at the Nippon Medical School Main Hospital. *Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine* 2007 ; 2 (1) : 66-82.
- 2) 渡邊 淳¹⁾, 浅野ありさ, 三宅秀彦, 右田 真, 平井幸彦¹⁾, 志村俊郎²⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学), ²⁾ 教育推進室) : 医学部における臨床遺伝教育 : 日本医科大学の試み. *医学教育* 2007 ; 38 (4) : 245-250.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 渡邊 淳 : 血管型エーラスダロス症候群について. 第8回東京びまん性肺疾患研究会, 2007. 10.

(2) シンポジウム：

- 1) 渡邊 淳 : 遺伝診療におけるインフォームド・コンセント 現状と課題. 文部科学省科研費 研究成果公開講座, 2008. 2.

(3) 一般講演：

- 1) 渡邊 淳, 島田 隆 : 遺伝医学教育における患者会講演導入の試み. 第31回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2007. 5.
- 2) 三宅秀彦^{1,2)}, 稲川智子²⁾, 奥田直貴²⁾, 横田明重²⁾, 中井章人, 島田 隆 (¹⁾ 葛飾赤十字産院 産婦人科,

- 2) 女性診療科)：習慣流産後に成立した妊娠中モザイク型18トリソミーを出生前診断された夫婦への遺伝カウンセリング。第31回日本遺伝カウンセリング学会学術集会，2007. 5.
- 3) 渡邊 淳，浅野ありさ，三宅秀彦，右田 真，島田 隆：医学生に向けた臨床遺伝教育の内容・手法の検討：日本医科大学の試み。日本人類遺伝学会第52回大会，2007. 9.
- 4) 渡邊 淳，鈴木由美，前田美穂¹⁾，及川真一²⁾，小林圭子³⁾，牛飼美晴³⁾，島田 隆¹⁾ 小児科学，²⁾ 内科学(内分泌・代謝)，³⁾ 鹿児島大学生化学)：胆汁うっ滞性新生児肝炎 (NICCD) の遺伝子診断で同定された未発症成人II型シトルリン血症 (CTLN2) の1例。第30回日本小児遺伝学会学術集会，2007. 4.
- 5) 鈴木由美，渡邊 淳¹⁾，三宅秀彦³⁾，西 弥生²⁾，峯 克也²⁾，石川 源²⁾，竹下俊行²⁾，島田 隆¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学付属病院遺伝診療科，²⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科産科，³⁾ 日本医科大学多摩永山病院女性診療科産科)：羊水検査でPallister-Killian syndromeが認められ選択的流産を決定した不育症夫婦の遺伝カウンセリング。第25回東京母性衛生学会学術集会，2007. 5.
- 6) 鈴木由美，渡邊 淳¹⁾，三宅秀彦^{2,1)}，西 弥生³⁾，峯 克也³⁾，石川 源³⁾，竹下俊行³⁾，島田 隆¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学付属病院遺伝診療科，²⁾ 葛飾赤十字産院，³⁾ 日本医科大学付属病院産科女性診療科)：選択的流産のフォローアップ：羊水検査でPallister-Killian syndromeが認められた1例。第31回日本遺伝カウンセリング学会学術集会，2007. 5.
- 7) 渡邊 淳¹⁾，島田 隆¹⁾ ¹⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)：血管型Ehlers-Danlos 症候群を巡る遺伝診療の課題。遺伝子診療学会，2007. 7.
- 8) 三宅秀彦^{1,2)}，山本晃人²⁾，山田 隆²⁾，岡崎 薫³⁾，近藤昌敏³⁾，仁科孝子⁴⁾，島田 隆，中井章人²⁾，竹下俊行²⁾ ¹⁾ 葛飾赤十字産院 産婦人科，²⁾ 女性診療科，³⁾ 都立八王子小児病院 新生児科，⁴⁾ 都立八王子小児病院 小児外科)：胎児十二指腸閉鎖より出生前診断された del (13) (q21. 1q22. 3) の1症例。日本人類遺伝学会第52回大会，2007. 9.
- 9) 山本基子¹⁾，渡邊 淳¹⁾，小坂 仁²⁾，山下純正²⁾，右田 真¹⁾，島田 隆³⁾ ¹⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)，²⁾ 神奈川県立こども医療センター神経内科，³⁾ 小児科学教室)：同一アレルに複数の遺伝子変異を有した異染性白質ジストロフィーの1男児例。日本先天代謝異常学会，2007. 11.
- (4) 示説：
1) 渡辺裕子，鈴木由美，千葉弘子，三宅秀彦^{2,1)}，浅野ありさ¹⁾，右田 真^{3,1)}，渡邊 淳¹⁾，島田 隆¹⁾ ¹⁾ 日本医科大学付属病院遺伝診療科，²⁾ 葛飾赤十字産院，³⁾ 日本医科大学付属病院小児科)：遺伝診療科の現状と今後の課題。第75回日本医科大学総会，2007. 9.
- (5) 奨学賞受賞記念講演：
1) 渡邊 淳¹⁾ ¹⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学)：血管型Ehlers-Danlos症候群における遺伝診療システムの確立と治療法の開発に向けて。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9.

[付属病院集中治療室]

研究概要

本年度の臨床治験として，ネシリチド（静注用BNP）の急性心不全に対する第II相臨床治験，プレセドックスの長期投与試験，肺血栓塞栓症に対する（モンテプラゼ）tPA血中濃度測定試験，フォンダパリクスナトリウムの急性肺血栓塞栓症に対する臨床評価試験，トロンビン受容体アンタゴニスト（E5555）の日本人急性冠症候群を対象とした臨床第II相試験などが進行中である。

研究業績は急性冠症候群（高齢者，透析患者における急性冠症候群の実態調査，新しく登場した薬剤溶出性ステントの臨床評価，クロピドグレルの長期予防効果など），急性肺血栓塞栓症（予防に関する新しい薬剤の効果と院内予防体制の構築など），大動脈解離（放射線科，東京医大と連携したステント治療など），難治性心不全（NPPV，

proBNP迅速診断, 終末医療など) 難治性不整脈(ニフェカラントおよびランジオロールの心房細動に対する有用性, 静注用アミオダロンの心室細動への効果など), 敗血症(千葉大を中心とした我が国のSepsis Registryへの参加)などを中心に積み重ねられている。

日本循環器学会による急性心筋梗塞ガイドラインを共同作成中である。

本年もBSL学生による『動脈管開存を有し, 分娩後に大動脈解離を来した1例』という症例報告が日医大医会誌に掲載予定となった。

平成20年8月31日には第17回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 平成23年2月には第38回日本集中治療医学会学術集会総会を主催することが決定した。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分症例報告:

- 1) 中村有希, 四倉寛子, 加藤雅彦, 中田 淳, 田中啓治, 林 宏光¹⁾ (放射線医学): 多発性嚢胞腎に合併した急性大動脈解離の3例. 日医大医会誌 2007; 3 (1): 25-29.

追加分総説:

- 1) 佐藤直樹, 高山守正¹⁾, 田中啓治, 高野照夫¹⁾ (第一内科): AEDの現状と問題点 自動体外式除細動器への過信は禁物?. 日本集中治療医学会雑誌 2007; 14: 198-198.
- 2) 佐藤直樹, 田中啓治: 循環器集中治療の新たななる挑戦 循環器集中治療施設のデータネットワーク構築の意義. 日本集中治療医学会雑誌 2007; 14: 170-170.
- 3) 竹田晋浩: 患者の病態に見るバイタルサインとその読み方. 看護技術 2007.
- 4) 田中啓治, 中田 淳, 宮武千晴: (終末期医療 何をどこまでやるか われわれはこうしている) 重症心不全の終末期医療. ICUとCCU 2007; 31 (3): 183-190.
- 5) 佐藤直樹: (心不全予防 その最前線を探る) 併発した他臓器障害を考慮した予防的介入を探る 呼吸不全. 内科 2007; 99 (3): 441-446.

(1) 原著:

- 1) Yoshikawa M, Yamamoto T, Shirakabe A, Ohno T, Tanaka K: Myocardial scintigraphy in a patient with transient mid-ventricular ballooning cardiomyopathy: case report. Int J Cardiol 2007; 119 (1): 8-10.
- 2) Kashiwabara M, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Matsutani T, Kim C, Takeda S, Yamashita K, Chaudry I, Tajiri T: Surgical trauma-induced adrenal insufficiency is associated with postoperative inflammatory responses. J Nippon Med Sch 2007; 74 (4): 274-283.
- 3) Yamashita T, Sekiguchi A, Kato T, Tsuneda T, Iwasaki YK, Sagara K, Iinuma H: T. Angiotensin type 1 receptor blockade prevents endocardial dysfunction of rapidly paced atria in rats. J Renin Angiotensin Aldosterone Syst 2007; 8 (3): 32-127.
- 4) Morita N, Tanaka K, Yodogawa K, Hayashi M, Akutsu K, Yamamoto T, Sato N, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T: Effect of nifekalant for acute conversion of atrial flutter: the possible termination mechanism of typical atrial flutter. Pacing Clin Electrophysiol 2007; 30 (10): 1242-1253.
- 5) Bitoh H, Nakanishi K, Takeda S, Kim C, Mori M, Sakamoto A: Repair of an infrarenal abdominal aortic aneurysm is associated with persistent left ventricular diastolic dysfunction. J Nippon Med Sch 2007; 74 (6): 393-401.
- 6) Yamamoto T, Yodogawa K, Wakita S¹⁾, Ogano M¹⁾, Tokita M¹⁾, Miyagi Y²⁾, Sato N, Nitta T²⁾, Tanaka

K, Takano T¹⁾ (1) First Department of Internal Medicine, 2) Second Department of Surgery) : Recurrent prosthetic valve endocarditis caused by Staphylococcus aureus colonizing skin lesions in severe atopic dermatitis. Intern Med 2007 ; 46 (5) : 571-573.

7) Yoshida Y, Terajima K, Sato C, Akada S, Miyagi Y, Hongo T, Takeda S, Tanaka K, Sakamoto A : Clinical role and efficacy of ladiolol in the intensive care unit. J Anesth 2008 ; 22 : 64-69.

8) 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 林 明聡, 丸山光紀, 村田広茂, 岡崎怜子, 堀江 格, 谷口宏史, 上野 亮, 平澤泰宏, 淀川顕司, 加藤貴雄, 高野照夫¹⁾, 新田 隆¹⁾, その他1名 (1) 第2外科) : 心内膜切除後の心外膜側残存心筋と心室瘤内残存心筋を含むマクロリエンリー性心筋梗塞後心室頻拍の1例. 臨床心臓電気生理 2007 ; 30 : 267-274.

9) 竹田晋浩, 赤田信二¹⁾, 寺嶋克幸¹⁾, 鈴木規仁¹⁾, 青戸泰二¹⁾, 山本保博²⁾, 田中啓治, 坂本篤裕¹⁾ (1) 麻酔科, 2) 救命センター) : 非侵襲的陽圧換気によるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌検出頻度現象の効果. 日集中医誌 2007 ; 14 : 91-92.

(2) 総説 :

1) 岩崎雄樹, 田中啓治 : 肥満とQT延長. 日本集中治療医学会雑誌 2007 ; 14 (2) : 135-136.

2) 佐藤直樹 : 原論文に対するEditorial Comment. 心臓 2007 ; 39 (1) : 44-44.

3) 山本 剛, 高野照夫¹⁾ (1) 第一内科) : 心筋梗塞 (DATAで読み解く内科疾患). 総合臨床 2007 ; 56 : 843-851.

4) 竹田晋浩 : 人工呼吸の換気モード. 呼吸器ケア 2007 ; 79-84.

5) 佐藤直樹 : 硝酸薬. 循環器 2007 ; 62 (5) : 497-502.

6) 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 中澤 賢²⁾, 田島廣之²⁾ (1) 第一内科, 2) 放射線科) : モンテプララーゼによる血栓溶解療法 : 当院における初期成績. セラピューティック・リサーチ 2007 ; 28 (6) : 1003-1004.

7) 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 中澤 賢²⁾, 田島廣之²⁾ (1) 第一内科, 2) 放射線科) : 広範性および重広範性の急性肺塞栓症に対する一時型下大静脈フィルターの有効性. Ther Res 2007 ; 28 (6) : 1149-1151.

8) 加藤浩司, 田中啓治 : 特集 見逃すと危ない. 救急現場における心電図 何が違うの? モニター心電図と12誘導心電図. エマージェンシー・ケア 2007 ; 20 (6) : 573-57.

9) 佐藤直樹 : (見逃すと危ない! 救急現場における心電図) 理解しておきたい分かりにくい心電図. EMERGENCY CARE 2007 ; 20 (6) : 926-932.

10) 山本 剛 : 静脈血栓塞栓症. 検査と技術 2007 ; 35 (7) : 657-661.

11) 平澤泰宏, 山本 剛, 田中啓治 : 深部静脈血栓症・肺血栓の治療 血栓溶解療法. 血液フロンティア 2007 ; 17 (8) : 1195-1202.

12) 佐藤直樹 : (循環器症候群 そのほかの循環器疾患を含めて) 心不全 急性心不全. 日本臨床 別冊循環器症候群I 2007 ; 153-158.

13) 村井綱見, 佐藤直樹, 山本 剛, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 加藤浩司, 時田祐吉, 神谷仁孝, 吉田明日香, 水野杏一¹⁾, 田中啓治 (1) 第一内科) : 急性心不全患者における入院時尿酸値測定の意義. Journal of Cardiology 2007 ; 50 : 526-526.

14) 竹田晋浩 : Future articles. Dexmedetomidine. 呼吸管理への応用 2007 ; 11-16.

15) 佐藤直樹 : (心エコーQ & A 研修医からの質問278) 観察・測定項目 救急現場で何をどのように評価するか 右心機能の指標とその評価. 救急・集中治療 2007 ; 19 (7-8) : 864-868.

16) 山本 剛 : 肺血栓塞栓症 : 急性広範性肺血栓塞栓症に奇異性塞栓による心筋梗塞を合併, 初期診断に苦慮した1例. 救急医学 2007 ; 31 (12) : 1610-1611.

- 17) 竹田晋浩：NPPVの利点と適応：必ずわかる人工呼吸器換気モードと呼吸モニタ波形．月刊ナーシング 2007；27：58-62.
 - 18) 佐藤直樹：心不全急性期治療と臓器保護 Atrial Natriuretic Peptideの役割 急性心不全治療のピットホール．日本冠疾患学会雑誌 2007；13 (4)：330-330.
 - 19) 岩崎雄樹，山下武志：【難治性不整脈】心房細動の薬物療法．循環器科 2007；6：549-553.
 - 20) 波多野真弓，田中啓治：（もう慌てない！シチュエーション別心臓病患者さんの急変対応）シチュエーション (2) ショック・意識障害．ハートナーシング 2007；20 (12)：1184-1188.
 - 21) 竹田晋浩：ARDS/ALIの診断．特集：ARDS/ALI．人工呼吸 2007；24：3-8.
 - 22) 赤田信二，竹田晋浩：急性呼吸不全アプローチにおけるNPPVの位置づけ．Lisa 2007.
 - 23) 竹田晋浩：心疾患診療のトピックス，NPPVによる呼吸管理の治療と予後．ICUとCCU 2007.
 - 24) 加藤浩司：IV 冠動脈・静脈疾患混合型狭心症 Mixed angina pectoris．別冊 日本臨床 新領域別症候群シリーズ 2007；5：117-120.
 - 25) 加藤浩司：モニター心電図と緊急ケアQ&A 心拍数がはやい どうしたらいいの？．ナーシングケアQ&A 2007；35 (21).
 - 26) 加藤浩司：頻脈の緊急処置指針．救急・集中治療ガイドライン：最新の診療指針 2007；18 (5・6)：691-693.
 - 27) 加藤浩司，安武正弘：特集 心原性ショックを合併した急性心筋梗塞の病態と治療．急性心筋梗塞に対する再生療法の現状 2007；31 (12)：1081-1087.
 - 28) 角田美佐子，田中啓治：高齢者集中治療の最近の動向：高齢者の循環管理最近の動向．ICUとCCU 2007；31 (10)：739-747.
 - 29) 本郷 卓，田中啓治：輸液管理とケアQ&A：慢性心不全患者の輸液管理とケアは，どうしたらよいの？(Q&A)．ナーシングケアQ&A 2007；17：200-201.
 - 30) 田島廣之¹⁾，村田 智¹⁾，中沢 賢¹⁾，福永 毅¹⁾，小野澤志郎¹⁾，佐藤英尊¹⁾，山本 剛，田中啓治 (1) 放射線医学)：静脈血栓塞栓症のIVR 急性肺血栓塞栓症．Interventional Radiology 2007；22 (2)：244-249.
 - 31) 田中啓治，中田 淳，宮武千晴：【終末期医療 何をどこまでやるか われわれはこうしている】重症心不全の終末期医療．ICUとCCU 2007；31 (3)：188-190.
 - 32) 田島廣之¹⁾，村田 智¹⁾，中沢 賢¹⁾，福永 毅¹⁾，小野澤志郎¹⁾，佐藤英尊，山本英尊，田中啓治 (1) 放射線医学)：【いまいちど動注をみなおす】血栓溶解療法：肺動脈．Radiology Frontier 2007；10 (2)：107-111.
 - 33) 田中啓治：急性心筋梗塞治療の現状と新たな問題．日本集中治療医学会雑誌 2008；15：108-109.
 - 34) 佐藤直樹：重症急性心不全のICU管理 薬物療法 利尿薬・血管拡張薬．日本集中治療医学会雑誌 2008；150：138-138.
 - 35) 佐藤直樹：（呼吸困難からみた呼吸器・循環器疾患）循環器疾患の呼吸困難の機序．呼吸と循環 2008；56 (1)：37-40.
 - 36) 佐藤直樹：（カラーで診る 臨床現場で役立つ 病棟必携！心不全診療マニュアル）急性心不全 急性心不全の初期対応 まず，最初に何をすべきか？救急蘇生が必要な患者に対する初期対応（蘇生処置をしながらの診断）．CIRCULATION UP-to-Date (1881-3585) 2008；3：20-25.
 - 37) 岩崎雄樹：【変革する心房細動診療とその実践up-to-date】心房細動を管理する 心拍数調節でよいと判断したら 誰に，何を，どのように使うのか？．内科 2008；3：460-465.
 - 38) 佐藤直樹，清野精彦¹⁾ (1) 第一内科)：（腎障害と心疾患 心腎相関を織る）治す 心不全での急性腎不全の管理．Heart View 2008；12 (3)：305-309.
- (3) 症例報告：
- 1) 岩崎雄樹，田中啓治：肥満とQT延長．日本集中治療医学会雑誌 2007；14 (2)：135-136.
 - 2) 吉田明日香，時田祐吉，中田 淳，村井綱兒，加藤浩司，平澤泰宏，岩崎雄樹，山本 剛，佐藤直樹，田中啓

- 治, 秋谷麻衣, 安武正弘, 高山守正, 水野杏一¹⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 冠動脈病変を合併したChurg-Strauss症候群の1例. 日本冠疾患学会雑誌 2007 ; 13 (4) : 394.
- 3) 川中秀和¹⁾, 高野仁司¹⁾, 森澤太一郎¹⁾, 中田 淳, 西城由之¹⁾, 鶴見昌史¹⁾, 小橋啓一¹⁾, 山本英世¹⁾, 山本剛, 高木 元¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 浅井邦也¹⁾, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 急性冠症候群で入院した職業運転手の冠危険因子と冠動脈造影所見の特徴. 日本冠疾患学会雑誌 2007 ; 13 (4) : 379.
- 4) 鈴木 洋¹⁾, 下司映一, 片桐 敬, 南條修二, 中野 元, 山崎純一, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野照夫, 芝田貴裕, 望月正武²⁾ (1) 昭和大学, ²⁾ 東京慈恵医科大学 : 急性心筋梗塞後の左室機能障害に対するバルサルタンの効果 : アンジオテンシン変換酵素阻害薬との多施設共同無作為抽出試験. Journal of Cardiology 2007 ; 50 (suppl. 1) : 296.
- 5) 山本良也, 市丸 愛, 岡本麻美, 中川誉之, 鈴木大悟, 中田 淳, 加藤浩司, 田中啓治, 竹下俊行 (1) 産婦人科学) : 動脈管開存を有し, 分娩後に大動脈解離を来した1例. 日医大医会誌 2008 ; 4 (1) : 45-49.
- 6) 山本 剛, 村井綱見, 時田祐吉, 上田 亮, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一¹⁾, 田島廣之²⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 放射線医学) : 高リスク急性肺塞栓症への最近の治療成績 : モンテブラーゼおよび一時型下大静脈フィルター導入後の検討. 日本内科学会雑誌 2008 ; 97 : 142.
- 7) 横塚 基¹⁾, 細萱順一¹⁾, 和田奈央, 鈴木智恵子, 山本 剛, 竹田晋浩, 田中啓治, 本郷 卓 (1) 麻酔科学) : 集中治療室におけるインスリン投与プロトコールの効果と安全性の検討. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 239.
- 8) 吉田明日香, 時田祐吉, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一, 佐藤格夫, 山本保博, 田島廣之 (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 救急医学, ³⁾ 放射線医学) : 循環不全を伴った左房を圧排する巨大嚢状胸部大動脈瘤に対し緊急ステントグラフト術を行い救命できた1例. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 219.
- 9) 山梨義高¹⁾, 古市昌之¹⁾, 岡部 格¹⁾, 赤田信二¹⁾, 本郷 卓, 竹田晋浩, 田中啓治, 坂本篤裕¹⁾ (1) 麻酔科学) : 肝硬変を合併した食道癌患者が術後に深部静脈血栓症を合併して死亡した1例. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 205.
- 10) 中田 淳, 山本 剛, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 安武正弘, 水野杏一, 田島廣之 (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 放射線医学) : Acute on chronic肺塞栓症への血栓吸引後に生じた再灌流後肺水腫に対しNPPVとsivelestatが有効であった1例. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 204.
- 11) 中田 淳, 佐藤直樹, 山本 剛, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 加藤浩司, 村井綱見, 吉田明日香, 水野杏一, 田中啓治 : 循環器救急疾患患者におけるヒトヘルペスウイルスDNA量測定の意義. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 200.
- 12) 三井誠司, 安藤岳史¹⁾, 横塚 基¹⁾, 本郷 卓, 竹田晋浩, 田中啓治, 坂本篤裕¹⁾ (1) 麻酔科学) : 胸腹部人工血管置換術後, 眼球陥凹を呈した1例. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 194.
- 13) 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 中田 淳, 吉田明日香, 村井綱見, 時田祐吉, 加藤浩司, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治 : 急性心筋梗塞に合併した発作性心房細動の臨床背景とその治療成績. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 182.
- 14) 時田祐吉, 山本剛 , 吉田明日香, 村井綱見, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 八島正明¹⁾, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 急性心不全の診断におけるNT-proBNP全血迅速測定の有用性. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 182.
- 15) 本郷 卓, 三井誠司, 小野顕人, 安藤岳史¹⁾, 横塚 基¹⁾, 古市昌之¹⁾, 赤田信二¹⁾, 竹田晋浩, 田中啓治, 坂本篤裕¹⁾ (1) 麻酔科学) : NPPVはどのように用いられているか 術後呼吸不全に対しNPPVを施行した126症例

の予後調査. 日本集中治療医学会雑誌 2008 ; 15 (Suppl) : 156.

著書

- 1) 田中啓治 : [分担] 不整脈, 肺水腫. 救急治療ハンドブック (黒川 顕) : pp159-168.
- 2) 岩崎雄樹, 田中啓治 : [解説] 肥満とQT延長. 日本集中治療医学会雑誌, 2007 ; pp135-136.
- 3) 竹田晋浩 : [分担] NPPV. 人工呼吸療法 (沼田克雄, 安本和正), 2007 ; pp285-290, 秀潤社.
- 4) 竹田晋浩 : [分担] 麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー2007 : 最新主要文献集 (天羽啓祐), 2007 ; 総合医学社.
- 5) 竹田晋浩 : [分担] 急性呼吸不全 : 心原性肺水腫. NPPV (非侵襲的陽圧換気療法) のすべて (石川悠加), 2007 ; 医学書院.
- 6) 竹田晋浩 : [分担] 肺手術の緊急麻酔. 緊急麻酔の心得と知識 (池田寿昭), 2007 ; 克誠堂出版.
- 7) 赤田信二, 竹田晋浩 : [分担] プレセデックス使用症例NIPPV, BiPAP. デクスメデトミジン (監修武田純三, 編集小坂橋俊哉), 2007 ; pp123-126, 真興交易医書出版.
- 8) 山本 剛, 田中啓治 : [自著] 急性冠症候群の治療指針 (救急・集中治療ガイドライン-最新の治療指針-2008~'09. 救急・集中治療 (岡元和文), 2008 ; pp205-207, 総合医学社.
- 9) 山本 剛, 水野杏一¹⁾ (1) 第一内科) : [自著] 急性心筋梗塞における β 遮断薬, ACE阻害薬, ARB療法の大規模試験からのEBM (循環器内科治療ガイドライン). 最新の診療指針, 2008 ; pp55-57, 総合医学社.
- 10) 山本 剛, 田中啓治 : [自著] 肺血栓塞栓症. 循環器疾患最新の治療2008-2009 (堀 正二, 永井良三), 2008 ; pp357-361, 南光堂.

学会発表

(1) セミナー :

- 1) 時田祐吉 : 循環器救急現場におけるバイオマーカー迅速測定キットの有用性. 第35回日本救急医学会総会・学術集会 (大阪), 2007. 10.

(2) 一般講演 :

- 1) Iwasaki YK¹⁾, Yamashita T²⁾, Sekiguchi A²⁾, Tsuneda T²⁾, Kato T²⁾, Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾ (1) First Department of Internal Medicine, 2) The Cardiovascular Institute) : Long-term Treatment with Olmesartan Reduced Aging-Related Interstitial Fibrosis of Rat Atria Inhomogeneously. The 3rd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Taiwan), 2007. 10.
- 2) Iwasaki YK, Miyauchi Y, Hirasawa Y, Yodogawa K, Katoh K, Yamamoto T, Sato N, Tanaka K, Kobayashi Y¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾ (1) First Department of Internal Medicine) : Characteristics of Premature Ventricular Contractions Initiating Ventricular Tachyarrhythmia in Patients with Ischemic Heart Disease as Revealed by 12-Lead ECG Monitoring. Heart Rhythm Society (Chicago), 2007.
- 3) Murai K¹⁾, Sirakabe A²⁾, Asai K²⁾, Kamiya M⁴⁾, Fukumoto H²⁾, Sato N¹⁾, Seino Y²⁾, Tanaka K¹⁾, Mizuno K²⁾ (1) Cardiac Care Unit and Intensive Care Unit, 2) The First Department of Internal Medicine) : Angiotensin II Receptor Blockade Prevented Left Ventricular Hypertrophy and Heart Failure Induced by Chronic Beta-adrenergic Receptor Stimulation. 心不全学会 (千葉), 2007. 10.
- 4) Takeda S : Acute respiratory failure and remote organ damage : treatment strategy for ARDS with multiple organ failure. The 8th joint scientific congress of the KSCCM and JSICM. (Tokyo), 2008. 2.
- 5) Iwasaki Y, Yamashita T¹⁾, Sekiguchi A¹⁾, Sagara K¹⁾, Sawada H¹⁾, Aizawa T¹⁾, Date T²⁾, Kobayashi Y¹⁾, Katoh T²⁾, Mizuno K (1) The Cardiovascular Institute, 2) Jikei University School of Medicine) : Fractalkin Expression and Macrophage Infiltration in rat atria. 第72回日本循環器学会総会・学術集会 (福岡), 2008. 3.

- 6) Yamamoto T, Nakata J, Yoshida A, Murai K, Ueno A, Tokita Y, Kato K, Iwasaki YK, Sato N, Tanaka K, Mizuno K, Tajima H ⁽¹⁾ First Department of Internal Medicine, ⁽²⁾ Radiology) : Restricted local thrombolysis for patients with acute major pulmonary embolism relatively contraindicated to thrombolysis. 第72回日本循環器学会学術集会 (福岡), 2008. 3.
- 7) Nakata J, Takayama M²⁾, Matsuzaki T¹⁾, Tezuka A¹⁾, Fujimoto H¹⁾, Takagi I¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Mizuno K¹⁾ ⁽¹⁾ 1st Internal Medicine Nippon Medical School, ⁽²⁾ Sakakibara Heart Institute) : Remarkable Incidence of Pulmonary Hypertension Relating to Hypoxemia in Healthy Mountaineers at the top of Mt. Fuji. 第72回日本循環器学会総会 (福岡), 2008. 3.
- 8) 竹田晋浩 : Noninvasive ventilation の有用性. 日本麻酔科学会との共同企画. 第47回日本呼吸器学会. (東京), 2007. 5.
- 9) 佐藤太亮, 渡邊 悠, 山本祐子, 中田 淳, 吉田明日香, 神谷仁孝, 村井綱児, 吉川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 宮城泰雄, その他5名 ⁽¹⁾ 第二外科) : 巨大な感染性仮性弓部大動脈瘤に対し抗菌療法と上行弓部置換術により良好に治療しえた慢性透析の1例. 第204回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2007. 6.
- 10) 吉川雅智, 山本 剛, 高野仁司, 村井綱児, 神谷仁孝, 加藤浩司, 佐藤直樹, 安武正弘¹⁾, 高山守正¹⁾, 田中啓治, 高野照夫¹⁾ ⁽¹⁾ 第一内科) : Impact of the evolution of coronary intervention on prognosis for renal dialysis patients. 第16回日本心血管インターベンション学会学術集会 (福島), 2007. 6.
- 11) 山本 剛 : 急性肺塞栓症に対する血栓溶解療法とカテーテル治療. 第16回Thrombolysis研究会 (東京), 2007. 7.
- 12) 加藤浩司, 山本 剛, 神谷仁孝, 村井綱児, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 藤田進彦¹⁾, 高野照夫¹⁾, 水野杏一¹⁾, 別所竜蔵²⁾, 落 雅美²⁾, 川口 聡³⁾ ⁽¹⁾ 内科学第一, ⁽²⁾ 心臓血管外科, ⁽³⁾ 東京医科大学血管外科) : II型解離へのhemiarcl置換後にIIIb解離を発症, 再々解離に対してステントグラフト治療が有効であった1例. 第205回 日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2007. 9.
- 13) 中田 淳, 佐藤直樹, 山本 剛, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 加藤浩司, 吉川雅智, 村井綱児, 神谷仁孝, 田中啓治, 水野杏一¹⁾ ⁽¹⁾ 循環器内科) : 循環器救急患者発症に関与するのは比較的短期間な疲労か慢性疲労か?. 心臓病学会 (千葉), 2007. 9.
- 14) 中田 淳, 山本 剛, 吉田明日香, 村井綱児, 時田祐吉, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 川中秀和¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 水野杏一¹⁾, 田島廣之²⁾ ⁽¹⁾ 循環器内科, ⁽²⁾ 放射線科) : B型急性大動脈解離に合併した分枝虚血に対し経皮的ステント留置を施行した4例. 第48回日本脈管学会総会 (松本), 2007. 10.
- 15) 福井めぐみ, 山本 剛, 中田 淳, 吉川雅智, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 川嶋修司¹⁾, 高野仁司¹⁾, 高山守正¹⁾, 水野杏一¹⁾, 中澤 賢²⁾, 田島廣之²⁾ ⁽¹⁾ 第一内科, ⁽²⁾ 放射線科) : 蛋白同化ステロイドが発症に関連した急性心筋梗塞と肺塞栓症の合併例. 第14回肺塞栓症研究会・学術集会 (東京), 2007. 11.
- 16) 岩崎雄樹, 中田 淳, 吉田明日香, 村井綱児, 上野 亮, 時田祐吉, 加藤浩司, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治 : 急性心筋梗塞に合併した発作性心房細動の臨床背景とその治療成績 : 超短時間作用型 β 遮断薬Landiololの有用性について. CCU研究会 (東京), 2007. 12.
- 17) 吉田明日香, 時田祐吉, 中田 淳, 村井綱児, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 秋谷麻衣, 安武正弘¹⁾, 高山守正¹⁾, 水野杏一¹⁾ ⁽¹⁾ 第一内科) : 冠動脈病変を合併したChurg-Strauss症候群の1例. 冠疾患学会 (京都), 2007. 12.
- 18) 四方友美, 平澤泰宏, 中田 淳, 吉田明日香, 村井綱児, 時田祐吉, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 山本 剛, 本郷卓, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 藤本啓志¹⁾, 高野照夫¹⁾, その他4名 ⁽¹⁾ 第一内科) : 僧房弁置換術後にICU内で発症した左室破裂に対し, 緊急修復術, 集学的治療により救命し得た重度僧帽弁狭窄症の1例. 第16回日本集中治療医学会 関東甲信越地方会 (東京), 2007.
- 19) 吉田明日香, 時田祐吉, 岩崎雄樹, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一¹⁾, 佐藤格夫, 山本保博²⁾, 田

- 島廣之³⁾ (1) 第一内科, ²⁾ 救命センター, ³⁾ 放射線科) : 循環不全を伴った左房を圧排する巨大嚢状胸部大動脈瘤に対し緊急ステントグラフト術を行い救命できた1例. 集中治療学会 (東京), 2008. 1.
- 20) 岩崎雄樹, 中田 淳, 吉田明日香, 村井綱見, 上野 亮, 時田祐吉, 加藤浩司, 平澤泰宏, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 小林義典¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 第一内科) : 当院集中治療室における Amiodaron の使用成績. 循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2008. 2.
- 21) 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 中田 淳, 吉田明日香, 村井綱見, 時田祐吉, 加藤浩司, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治 : 急性心筋梗塞に合併した発作性心房細動の臨床背景とその治療成績 (会議録). 日本集中治療医学会総会 (東京), 2008. 2.
- 22) 山本 剛 : 高リスク急性肺塞栓症に対する治療戦略 : 薬物治療とカテーテル治療の使い分け. 第35回日本集中治療医学会学術集会 (東京), 2008. 2.
- 23) Yoshida A, Kamiya M, Sato N, Yamamoto T, Iwasaki YK, Hirasawa Y, Kato K, Tokita Y, Murai K, Mizuno K¹⁾, Tanaka K (1) First Department of Internal Medicine) : Detection of Renotubular Restoration by Carperitide using Urinary Liver-type Fatty Acid Binding Protein in Acute Heart Failure. . 第72回 日本循環器学会 (福岡), 2008. 2.
- 24) 時田祐吉, 山本 剛, 吉田明日香, 村井綱見, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 八島正明¹⁾, 佐藤直樹, 田中啓治, 水野杏一¹⁾ (1) 第一内科) : 急性心不全の診断における NT-proBNP 全血迅速測定の有用性. 第35回日本集中治療医学会学術集会 (東京), 2008. 2.
- 25) 中田 淳, 山本 剛, 加藤浩司, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治¹⁾, 安武正弘¹⁾, 水野杏一²⁾, 田島廣之 (1) 循環器内科, ²⁾ 放射線科) : Acute on chronic 肺塞栓症への血栓吸引後に生じた再灌流後肺水腫に対し NPPV と sivelestat が有効であった1例. 第35回日本集中治療医学会学術集会 (東京), 2008. 2.

[付属病院病理部]

研究概要

現在病理部スタッフは病理専門医である専任病理医3名, 細胞検査士9名含む技師11名, 事務員1名に加え病理学講座と協力しながら日常診断業務 (病理組織診断, 細胞診断, 剖検診断) を遂行している。

研究テーマは主にその中から見出されているが, 近年は他科と共同開催している乳腺, 甲状腺, 呼吸器, 消化器カンファレンス等で臨床, 病理両側面からの症例検討を行うことにより得られた興味ある症例なども対象となってきた。

研究対象臓器は乳腺, 呼吸器をはじめ甲状腺, 消化器, 骨軟部など多岐に渡り各種学会において病理学講座および臨床医とが病理部と共同で発表を行っており, 特に日本臨床細胞学会では, 一般演題はもちろんのこと, 乳腺, 呼吸器のシンポジウムに加え細胞学会医療安全委員会の代表としての発表もあり学会に対する貢献度もますます高くなってきている。

そのほかにも病理学会, 乳癌学会, 呼吸器関連学会などでも多くの発表と研究のサポートを行った。

さらに今年度は長年積み上げてきた成果が盛り込まれた著書が発刊されたことも特徴であり, 今後も継続して研究に取り組んでいきたいと考えている。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) 土屋真一 : 針生検細胞診 : 臨床病理学的位置付けと新しい報告様式. 臨床検査 2007 ; 51 (1) : 48-54.
- 2) 持丸 博¹⁾, 川本雅司, 福田 悠²⁾, 工藤翔二¹⁾ (1) 日本医科大学内科学講座・呼吸器感染腫瘍内科学部門,

2) 日本医科大学 (解析人体病理学)：急性好酸球性肺炎と慢性好酸球性肺炎の臨床病理学的相違. 日本呼吸器学会 2007；45 (3)：223-232.

(1) 原著：

- 1) 土屋眞一, 北村隆司¹⁾ (1) 昭和大学藤が丘病院病理部)：妊娠, 授乳期の乳腺細胞診のスクリーニングの仕方と注意点. 検査と技術 2007；35 (10)：978-980.
- 2) 土屋眞一, 草間 律¹⁾ (1) 北信総合病院外科)：乳腺MRI検査の有用性. Medical Technology 2007；35 (6)：542-542.
- 3) 篠原 剛¹⁾, 草間 律¹⁾, 土屋眞一 (1) 北信総合病院外科)：乳腺の梗塞性線維腺腫の1例. 乳癌の臨床 2007；22 (4)：329-334.
- 4) 飯田信也¹⁾, 土屋眞一 (1) 付属病院 第一外科)：高齢者に対する初回化学療法としての経口剤CapecitabineとCyclophosphamideの併用療法(XC療法)にて臨床的完全奏功(CR)が得られた転移性乳癌の1例. 癌と化学療法 2007；34 (10)：1697-1700.

(2) 総説：

- 1) Takizawa T¹⁾, Eguchi H²⁾, Namimatsu S, Jeschke U³⁾, Fuchs R⁴⁾, Robinson-M J⁵⁾ (1) Department of Molecular Anatomy, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Radiobiology/Molecular Epidemiology, Radiation Effects Research Foundation., 3) Department of Obstetric and Gynecology, Ludwig-Maximilians-University of Munich, Germany, 4) Department of Pahtophysiology, Medical University of Vienna, Austria, 5) Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, USA)：Histochemistry for Placenta Research：Theory and Application. J Nippon Med Sch 2007；74 (4)：268-273.
- 2) 松原美幸, 川本雅司, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉²⁾, 渡會泰彦, 土屋眞一 (1) 東京警察病院病理部, 2) 病理学(統御機構・腫瘍学))：粘性背景を伴う軟部領域の病変：鑑別診断上の留意点. 日臨細胞会誌 2007；46 (5)：292-296.
- 3) 土屋眞一, 北村隆司¹⁾, 松原美幸, 原田 大, 川本雅司 (1) 昭和大学藤が丘病院病理部)：非浸潤性乳管癌の細胞診断：検査技師が知っておきたい乳腺非浸潤性乳管癌. Med Technol 2007；35 (8)：793-798.

(3) 症例報告：

- 1) 根井貴仁¹⁾, 榎本達治²⁾, 坂本 徹¹⁾, 神宮亜希子¹⁾, 阿部信二¹⁾, 白杵二郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 川本雅司 (1) 呼吸器感染腫瘍内科, 2) 東京都立広尾病院呼吸器内科)：胸水貯留を伴い, I型アレルギーの関与が疑われた続発性肺クリプトコッカス症の1例. 日呼会誌 2007；45 (7)：551-557.

著 書

- 1) 松原美幸, 土屋眞一, 原田 大, 川本雅司：〔分担〕良性和間違いやすい悪性病変の細胞像：とくにDCISを中心として. 乳腺細胞診断の進め方(土屋眞一, 石原明德), 2007；pp54-62, 武藤化学株式会社.
- 2) 土屋眞一, 小黑辰夫¹⁾ (1) 日本医大北総病院病理部)：〔自著〕細胞の構造：臨床検査技師を目指す学生のための細胞診. 臨床検査技師をめざす学生のための細胞診(土屋眞一), 2007；pp2-3, 医療化学社.
- 3) 土屋眞一, 石原明德¹⁾ (1) 松阪中央病院病理)：〔自著〕新組織分類と細胞診報告様式：乳腺細胞診断の進め方. 乳癌取扱い規約(土屋眞一), 2007；pp1-9, 武藤化学株式会社.
- 4) 土屋眞一：〔自著〕乳癌取扱い規約細胞診報告様式. 新版乳腺細胞診カラーアトラス(土屋眞一), 2007；pp3-6, 医療科学社.
- 5) 土屋眞一：〔自著〕乳腺(乳房)の基本構造と機能. 新版乳腺細胞診カラーアトラス, 2007；pp13-16, 医療科学社.
- 6) 土屋眞一：〔自著〕乳癌取扱い規約組織分類. 新版乳腺細胞診カラーアトラス(土屋眞一), 2007；pp23-38,

医療科学社.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 土屋眞一：乳腺疾患の細胞診. 第7回札幌臨床検査技師検査セミナー, 2007. 2.
- 2) 揖斐孝之, 窪倉浩俊, 川本雅司, 吉野直之, 山岸茂樹, 三上 巖, 平田知己, 小泉 潔, 清水一雄：胸腺への浸潤を認めた悪性リンパ腫の1例. 第141回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2007. 2.
- 3) 土屋眞一：非浸潤性乳管癌の超音波診断読影方法のコツ. 第10回日本産婦人科乳癌学会., 2007. 3.

追加分教育講演：

- 1) 土屋眞一：乳腺, 体腔液, 卵巣の細胞診. 2007年度日本病理学会細胞診講習会, 2007. 3.

追加分特別講演：

- 1) 土屋眞一：初期・早期乳がんスクリーニングに必要な知識：超音波. 第3回産婦人科乳房画像研究会, 2007. 1.
- 2) 土屋眞一：乳腺細胞診の見方・考え方. 第24回日本臨床細胞学会青森県支部総会, 2007. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 土屋眞一：画像と病理のコラボレーション. 第21回神奈川乳腺疾患検討会, 2007. 5.
- 2) 土屋眞一：乳腺（細胞診と組織診のコラボレーション）. 第36回日本病理学会関東支部学術集会, 2007. 9.
- 3) 土屋眞一：乳腺の筋上皮細胞. 第30回東京都細胞検査士学術研修会, 2008. 2.
- 4) 土屋眞一：乳腺の病理と臨床. 第1回乳腺道場, 2008. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) Kawamoto M, Hosone M¹⁾, Harada O, Maeda S, Tsuchiya S (¹⁾ Nippon Medical School Tamanagayama Hospital)：The Second Japanese-Korean Joint Slide Conference of Pulmonary Pathology. The International Academy of Pathology (Korea), 2007. 10.
- 2) 松原美幸, 川本雅司, 土屋眞一：腺癌と鑑別を要する細胞が出現する肺の炎症性疾患. 第48回日本臨床細胞学会総会（春期大会）, 2007. 6.
- 3) 中村清吾¹⁾, 芳賀駿介²⁾, 土屋眞一 (¹⁾ 聖路加国際病院外科, ²⁾ 東京女子医大東医療センター検査科)：SLNBに関する全国アンケート報告（日本乳癌学会保険診療委員会より）. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 4) 川本雅司, 方山揚誠¹⁾ (¹⁾ 八戸市民病院臨床検査科)：臓器横断：腺系細胞病変の異同と統一：座長の言葉. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
- 5) 土屋眞一, 川本雅司, 原田 大, 松原美幸, 渡會泰彦, 林由美子¹⁾, 高橋善和¹⁾, 内藤善哉²⁾ (¹⁾ 日本細胞病理ラボラトリー, ²⁾ 日本医科大学病理学講座)：乳腺細胞診と針生検の精度と問題点. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
- 6) 土屋眞一：非浸潤性乳管癌（DCIS）の見方, 考え方（非浸潤性乳管癌の病理診断とその病態）. 第44回関東甲信地区医学検査学会, 2007. 11.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 前澤 毅¹⁾, 麻沼和彦¹⁾, 松原千恵子¹⁾, 土屋眞一 (¹⁾ 医療法人公仁会前澤病院外科)：マンモトーム生検にて診断し得た乳腺管状癌の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 2) 行田弥生¹⁾, 小林幸弘¹⁾, 堀川美栄子¹⁾, 百瀬正信¹⁾, 上原 剛¹⁾, 福島万奈¹⁾, 石井恵子¹⁾, 佐野健司¹⁾, 土屋眞一 (¹⁾ 信州大学医学部附属病院臨床検査部)：術中捺印細胞診が有用であったCarcinoma with osseous metaplasiaの1例. 第48回日本臨床細胞学会総会（春期大会）, 2007. 6.
- 3) 恩田宗彦¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 土屋眞一, 釜口晴美, 藤原ゆり¹⁾, 田村浩一, 杉崎祐一 (¹⁾ 日本医科大学病理学第

二)：胆汁細胞診が診断に有用であった Vater 乳頭部の微小腺腫内癌の 1 例。第 48 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2007. 6.

- 4) 野口智子¹⁾, 古川清憲¹⁾, 飯田信也¹⁾, 柳原恵子¹⁾, 岩崎玲子¹⁾, 土屋眞一, 樋口勝美²⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学 乳腺外科, 2) 東京白十字病院): 化学療法中に出血梗塞壊死をきたした浸潤性乳管癌の 1 例。第 15 回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 5) 村松沙織¹⁾, 小池祥一郎¹⁾, 加藤響子¹⁾, 北沢将人¹⁾, 中村俊幸¹⁾, 赤羽康彦¹⁾, 中澤 功²⁾, 清水忠博³⁾, 高山文吉⁴⁾, 土屋眞一 (1) 国立病院機構 松本病院 外科, 2) 国立病院機構 松本病院 研究検査科病理部, 3) 清水外科胃腸科医院, 4) 安曇総合病院 放射線科): 乳腺 Invasive micropapillary carcinoma (IMPC), Mucinous IMPC, および粘液癌を伴った 1 例。第 15 回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 6) 古川清憲¹⁾, 飯田信也¹⁾, 古川恵子¹⁾, 野口智子¹⁾, 土屋眞一, 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学 外科): カペシタビンとシクロフォスファミドの併用療法 (XC 療法) にて臨床的完全奏功 (CR) が得られた転移性乳癌の 1 例。第 15 回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 7) 大塚俊司¹⁾, 中村祐司¹⁾, 前本直子¹⁾, 斎藤良明¹⁾, 松原美幸, 柳本邦雄¹⁾, 石井英昭¹⁾, ガジザデモハammad²⁾, 内藤善哉³⁾, 土屋眞一 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 2) 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, 3) 日本医科大学病理学): 穿刺吸引細胞診が有用であった破骨細胞様巨細胞を伴った乳癌の 1 例。第 46 回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.

(4) セミナー:

- 1) 土屋眞一: 日本臨床細胞学会「医療安全小委員会」の紹介: その発足と活動内容 (医療安全セミナー I)。第 48 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2007. 6.
- 2) 川本雅司, 麻生利勝, 田中 昇, 金城 満, 室谷哲弥, 上野喜三郎, 畠山重春, 都竹正文, 上坊敏子, 高倉聡, 馬場雅行, 土屋眞一: HOTLINE 情報処理マニュアルの実際: Hotline の利用法。第 48 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2007. 6.
- 3) 川本雅司, 畠山重春¹⁾ (1) サイバソリサーチセンター): 「医療安全セミナー」のねらい。第 48 回日本臨床細胞学会総会, 2007. 6.

(5) ワークショップ:

- 1) 石原明德¹⁾, 土屋眞一 (1) 松阪中央病院病理部): 乳腺細胞診のガイドライン (乳腺細胞診ガイドライン作成に向けて)。第 48 回日本臨床細胞学会総会, 2007. 6.

(6) 一般講演:

- 1) 高橋美紀子¹⁾, 山元滋樹¹⁾, 川本雅司, 功刀しのぶ¹⁾, 福田 悠¹⁾ (1) 日本医科大学 解析人体病理学): 肺血腫術後, 多彩な病態を示し死亡した Ehlers-Danlos 症候群 (EVD) IV 型の 1 例。第 37 回日本病理学会関東支部学術集会, 2007. 11.
- 2) 窪倉浩俊¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 川本雅司, 原田明希摩¹⁾, 吉野直之¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 三上 巖¹⁾, 平田知己¹⁾, 中島由貴¹⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学呼吸器外科): 食道癌後胃管穿孔を起こした右上葉切除後症例。文京区呼吸器外科研究会, 2007. 4.
- 3) 岡田大輔¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 川本雅司, 平田知己¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 吉野直之¹⁾, 中島由貴¹⁾, 斎藤祐二¹⁾, 谷村繁雄¹⁾, 細根 勝²⁾, 清水一雄¹⁾ (1) 日本医科大学外科・呼吸器外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院病理部): 両側気胸で発症した転移性肺腫瘍の 1 例。日本呼吸器内視鏡学会 関東支部会, 2007. 4.
- 4) 渡會泰彦, 土屋眞一, 清水一雄¹⁾, 高橋恵理佳¹⁾, 横山宗伯²⁾, 内藤善哉³⁾, 村瀬幸宏, 田村浩一, 杉崎祐一 (1) 日本医科大学附属病院内分泌外科, 2) 東京警察病院, 3) 日本医科大学病理学第二): ベラルーシ共和国における甲状腺癌検診報告: チェルノブイリ原発事故に関連して。第 48 回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2007. 6.
- 5) 山田理恵子¹⁾, 芳賀駿介¹⁾, 加藤博之¹⁾, 坂本輝彦¹⁾, 佐久間浩¹⁾, 上野恵子²⁾, 松波克弘³⁾, 宮崎正二郎³⁾, 飯

- 田富雄⁴⁾、芳賀陽子⁵⁾、土屋眞一¹⁾ (東京女子医科大学 東医療センター 検査科,²⁾ 東京女子医科大学 東医療センター 放射線科,³⁾ 谷津保険病院,⁴⁾ 南千住病院,⁵⁾ 芳賀医院)：乳癌の拡がり診断からみた超音波検査とMDCTの斜冠状断MPRの有用性に関する研究. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 6) 唐木芳昭¹⁾、福田貴代¹⁾、松井恒志¹⁾、大西雄太郎¹⁾、土屋眞一¹⁾ (千曲病院 外科)：センチネルリンパ節生検の検討. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 7) 飯田信也¹⁾、古川清憲¹⁾、柳原恵子¹⁾、岩崎玲子¹⁾、野口智子¹⁾、樋口勝美²⁾、土屋眞一、田尻 孝¹⁾ (日本医科大学外科,²⁾ 東京白十字病院)：当科における乳癌に対する併用法センチネルリンパ節生検の成績. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 8) 柳原 (古川) 恵子¹⁾、野口智子¹⁾、奥平かおり¹⁾、飯田信也¹⁾、源河敦史¹⁾、樋口勝美²⁾、土屋眞一、古川清憲¹⁾、田尻 孝¹⁾ (日本医大付属病院 乳腺外科,²⁾ 東京白十字病院)：アロマターゼ阻害剤による筋関節痛の発生頻度. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 9) 宅島美奈¹⁾、山下浩二¹⁾、保科淑子¹⁾、富田剛志¹⁾、遠藤直哉¹⁾、木下裕康¹⁾、岩城秀行¹⁾、織井恒安¹⁾、原口秀司¹⁾、日置正文¹⁾、柳本邦雄²⁾、清水一雄³⁾、土屋眞一¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院 外科・心臓血管外科,²⁾ 日本医科大学無才小杉病院 病理部,³⁾ 日本医科大学付属病院 第二外科)：破骨細胞様多核巨細胞を示した乳癌の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 10) 馬來康太郎¹⁾、小泉 潔¹⁾、川本雅司、平田知己¹⁾、窪倉浩俊¹⁾、岡田大輔¹⁾、吉野直之¹⁾、清水一雄¹⁾ (日本医科大学外科・呼吸器外科)：胸腔鏡下に切除した嚢状気管支拡張症の1例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2007. 7.
- 11) 吉野直之¹⁾、山岸茂樹¹⁾、川本雅司、窪倉浩俊¹⁾、三上 巖¹⁾、平田知己¹⁾、小泉 潔¹⁾、清水一雄¹⁾ (日本医科大学外科・呼吸器外科)：原発不明縦隔リンパ節転移肺癌との関連が示唆された黒色表皮腫の1例. 日本肺癌学会関東支部会, 2007. 8.
- 12) 葉山綾子、土屋眞一、佐藤春明、松原美幸、川本雅司、原田 大、内藤善哉¹⁾ (日本医科大学病理学講座)：Collagenous spherulosisの細胞像. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
- 13) 中島由貴¹⁾、川本雅司、小泉 潔¹⁾、田島廣之²⁾、平田知己¹⁾、窪倉浩俊¹⁾、吉野直之¹⁾、岡田大輔¹⁾、功刀しのぶ³⁾、清水一雄¹⁾ (外科学講座 呼吸器外科,²⁾ 放射線医学,³⁾ 解析人体病理学)：CTNB後の野口分類に関する病理組織学的検討. 第48回日本肺癌学会総会, 2007. 11.
- 14) 実原正明¹⁾、北村隆司²⁾、土屋眞一¹⁾ (飯田市立病院臨床検査科病理,²⁾ 昭和大学藤が丘病院病理部)：浸潤性小葉癌印環細胞型の1例. 第46回日本臨床細胞学会終期大会, 2007. 11.
- 15) 根井貴仁¹⁾、佐藤悦子¹⁾、川本雅司、高久多希朗¹⁾、瀬尾宣嗣¹⁾、森本泰介¹⁾、阿部久弥子¹⁾、斎藤好信¹⁾、阿部信二¹⁾、白杵二郎¹⁾、吾妻安良太¹⁾、工藤翔二¹⁾、中山智子²⁾、福田 悠²⁾ (日本医科大学 内科学呼吸器感染症部門,²⁾ 日本医科大学 解析人体病理学)：急性増悪をきたした特発性上葉 (優位) 型肺線維症が疑われた1例. 第177回日本呼吸器学会関東地方会, 2007. 11.
- 16) 松原美幸、土屋眞一、川本雅司、原田 大、渡会泰彦、内藤善哉¹⁾ (病理学 (統御機構・腫瘍学))：針生検および生検・手術標本からみた乳腺細胞診「鑑別困難」の検討. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 12.
- 17) 渡会泰彦、土屋眞一、川本雅司、原田 大、内藤善哉¹⁾、松原美幸¹⁾ (病理学 (統御機構・腫瘍学))：乳腺印環細胞癌の検討. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 12.

[付属病院中央検査部]

研究概要

近年、臨床検査は診断や治療の指標としての役割のみならずメタボ検診などの予防医学や健康科学の分野でも広く活用され始めている。このような状況をふまえ、中央検査部では臨床サイドに正確かつ迅速な患者情報を提供するサ

ービス業務が最も重要な課題のひとつであると認識している。単に検査結果を報告するのではなく採血から結果報告までのきめ細かい対応を目指し、現状における検体検査の再構築と共に新規検査項目の導入や検査データの品質向上および学術的活動などに常に取り組んでいる。今年度の主な各分野の取り組みは下記の通りである。

- (1) 関節リウマチとMMP-3の関係。
- (2) 敗血症の重症度の指標。
- (3) POCT機器の運用・管理体制の構築と検査部の役割。
- (4) 輸血情報や副作用状況の提供。
- (5) 尿中有形成分分析装置や測定試薬の評価。
- (6) EIA装置による抗核抗体検出の有用性。

研究業績

論文

- (1) 原著：
 - 1) 柴田明佳¹⁾，飯野幸永，荻原利彦³⁾，河西美代子²⁾，高嶋真理²⁾，半藤厚司¹⁾，山下祐子¹⁾，横尾智子¹⁾，高濱真紀子¹⁾，岡部紘明¹⁾ (1) 東京文化短期大学 臨床検査学科，2) 東京文化医学技術専門学校，3) 麻布大学 獣医学部)：細菌学からみた非溶血性B群連鎖球菌 (non-homolytic B group streptococci) による尿路感染症をきたした慢性腎不全患者の1症例。東京文化短期大学紀要 2008；(25)：21-25。
- (2) 研究報告書：
 - 1) Kushimoto S¹⁾，Shibata Y，Koido Y¹⁾，Kawai M¹⁾，Yokota H¹⁾，Yamamoto Y¹⁾ (1) 救急医学)：The Clinical Usefulness of Procalcitonin Measurement for Assessing the Severity of Bacterial Infection in Critically Patients Requiring Corticosteroid Therapy. J Nippon Med Sch 2007；74 (3)：236-240。

著書

- 1) 橋本政子：〔分担〕未病と免疫検査。Medical Technology，2007；pp344-345，医歯薬出版。

学会発表

- (1) シンポジウム：
 - 1) 久志本茂樹¹⁾，柴田泰史，宮内雅人¹⁾，鈴木崇生¹⁾，佐藤格夫¹⁾，福田令雄¹⁾，白石振一郎¹⁾，川井 真¹⁾，横田裕行¹⁾，山本保博¹⁾ (1) 救急医学)：重症敗血症における血漿BNPレベルの変動には全身性炎症反応が関与する。第18回バイオメディカルフォーラム (東京)，2007. 12。
- (2) パネルディスカッション：
 - 1) 亀山澄子，小川早恵子，植田貴子，福田高久，飯野幸永，田近賢二¹⁾，里村克章²⁾ (1) 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)，2) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：2006年における輸血副作用の発生状況。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9。
 - 2) 式田竜司，南 良子，堤 章江，金子幸江，橋本政子，飯野幸永，里村克章¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：当院におけるマイコプラズマ抗体検出状況。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9。
 - 3) 佐々木香織，橋本政子，田島克美，小相沢美香，飯野幸永，里村克章¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：自動マイクロプレートEIA装置『PhDシステム』IFAモジュールを用いた抗核抗体検出の有用性。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9。
 - 4) 岩上正明¹⁾，片山志郎¹⁾，青砥泰二，飯野幸永，里村克章²⁾ (1) 付属病院薬剤部，2) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門))：付属病院における抗菌薬の使用状況。第75回日本医科大学医学会総会，2007. 9。

(3) セミナー：

- 1) 橋本政子：未病における臨床検査の意義；未病と免疫検査．第6回未病臨床検査セミナー；日本未病システム学会 臨床検査部門（東京），2007．9．

(4) 一般講演：

- 1) 久志本茂樹¹⁾，横田裕行¹⁾，山本保博¹⁾，増野智彦¹⁾，柴田泰史¹⁾（救急医学）：ステロイド投与症例における細菌感染症重症度診断の指標としてのプロカルシトニン測定の有用性．第107回日本外科学会定期学術集会（大阪），2007．4．
- 2) 影山憲貴，鳴海武長，柴田泰史，高木 豊，中村祐三，飯野幸永：ラテックス免疫比濁法を用いた関節リウマチにおけるMMP-3の基礎検討：関節リウマチとMMP-3の関係について．第56回日本医学検査学会（宮崎），2007．5．
- 3) 高木 豊，影山憲貴，三橋 太，飯野幸永：静電容量変化を利用したフィブリン析出過程における凝固プロファイルの把握．第56回日本医学検査学会（宮崎），2007．5．
- 4) 三橋 太，鳴海武長，影山憲貴，高木 豊，飯野幸永：標準化に向けた尿中アルブミン測定試薬の評価．第56回日本医学検査学会（宮崎），2007．5．
- 5) 日ノ澤進一郎，鳴海武長，飯野幸永，里村克章¹⁾（¹⁾内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：H7350の後継分析器としてのLabospect008の有用性．第56回日本医学検査学会（宮崎），2007．5．
- 6) 柴田泰史，日ノ澤進一郎，影山憲貴，鳴海武長，飯野幸永，久志本茂樹¹⁾，山本保博¹⁾，里村克章²⁾（¹⁾救急医学，²⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：外傷患者における血中アルコール検出状況およびその測定意義について．第56回日本医学検査学会（宮崎），2007．5．
- 7) 鳴海武長，日ノ澤進一郎，飯野幸永，里村克章¹⁾（¹⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：POCT機器の運用・管理体制の構築と検査部の役割1．POCT機器導入時のSMBG機器との比較検討．第56回日本医学検査学会（宮崎），2007．5．
- 8) 鳴海武長，日ノ澤進一郎，飯野幸永，里村克章¹⁾（¹⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：POCT機器の運用・管理体制の構築と検査部の役割2．管理体制の構築とマネージメントについて．第56回日本医学検査学会（宮崎），2007．5．
- 9) 福田高久，亀山澄子，植田貴子，小川早恵子，飯野幸永：輸血情報の提供について 輸血部新聞（情報誌）の役割．第56回日本医学検査学会（宮崎），2007．5．
- 10) 影山憲貴，小林紘士，鳴海武長，柴田泰史，三橋 太，高木 豊，飯野幸永，中島敦夫¹⁾，里村克章²⁾（¹⁾内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門），²⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：MMP-3とRA関連マーカーおよびDAS28の関係について．日本臨床検査自動化学会第39回大会（横浜），2007．9．
- 11) 高木 豊，日ノ澤進一郎，影山憲貴，本間 達¹⁾，飯野幸永，若松秀俊¹⁾，里村克章²⁾（¹⁾東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科，²⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：測定結果推定域の予測による自動分析機器測定パラメーターの選択．日本臨床検査自動化学会第39回大会（横浜），2007．9．
- 12) 小林紘士，影山憲貴，三橋 太，飯野幸永，里村克章¹⁾（¹⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：全自動尿中有形成成分分析装置AUTION IQの評価：特に円柱類・システムを中心として．日本臨床検査自動化学会第39回大会（横浜），2007．9．
- 13) 柴田泰史，日ノ澤進一郎，影山憲貴，鳴海武長，飯野幸永，久志本茂樹¹⁾，山本保博¹⁾，里村克章²⁾（¹⁾救急医学，²⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：敗血症診断および重症度判定におけるEndotoxin Activity Assayの有用性．日本臨床検査自動化学会第39回大会（横浜），2007．9．
- 14) 鳴海武長，影山憲貴，柴田泰史，三橋 太，日ノ澤進一郎，飯野幸永，里村克章¹⁾（¹⁾内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門））：血糖POCT機器・Caresistの管理運用と検査部の取り組み．日本臨床検査自動化学会第39回大会（横浜），2007．9．

- 15) 久志本茂樹¹⁾, 柴田泰史, 横田裕行¹⁾, 増野智彦¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 鈴木崇生¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 救急医学) : 敗血症診断と重症度判定におけるプロカルシトニン, Endotoxin Activity Assay, CRPの検討. 第35回日本救急医学会総会学術集会 (大阪), 2007. 10.
- 16) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永, 久志本茂樹¹⁾, 山本保博¹⁾, 里村克章²⁾ (1) 救急医学, 2) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 敗血症診断および重症度判定における Endotoxin Activity Assay と炎症マーカーの比較検討. 第47回日本臨床化学会年会連合大会 (大阪), 2007. 11.
- (5) 学術研修会 :
- 1) 三橋 太 : 『めざせ認定一般検査技師 その3 - 髄液・体腔液検査 - 』. 東京都臨床検査技師会 一般検査研究班研修会 (東京), 2007. 9.
 - 2) 三橋 太 : 「腎・尿路系疾患の病態に係わる尿沈渣所見について」. 宮城県臨床検査技師会 特別企画研修会 「腎・泌尿器疾患を診る」 (宮城), 2008. 3.

[付属病院薬剤部]

研究概要

平成19年度の薬剤部研究業績は、平成15年7月25日に厚生労働省が策定した、がんの罹患率と死亡率の激減を目指した平成16年度から平成25年度までの国家大規模プロジェクト「第3次対がん10か年総合戦略」を受け、さらにはがんや緩和に関する研究の傾向が強くなった。特に「ブスルフェクス注」のプレフィード化に関する研究は、病院薬剤師のみならず血液内科の医師からも注目を受け、調製上の問題を解決した方法として高い評価を受けた。

さらに、褥瘡治療、小児医療、薬剤管理指導、中毒、医療経済など幅広い分野での研究も継続しており、付属病院における薬物療法の一環を担う部門としての位置を確立しつつある。

また、平成22年度から始まる薬学部6年制の長期実習の受入れに向けて薬学部との共同研究も本格化し始め、病院薬剤部研究の質の向上と薬学部との連携強化も図っている。並行して行っているがん専門薬剤師研修受入れは外来がん化学療法のみならず、入院がん化学療法の患者安全管理の研究にもつながり、病院としての体制強化に寄与している。

今後もこのような活動を積極的に推し進め、研究機関病院薬剤部としての責務を全うし、かつ医薬品患者安全管理を万全なものにして行きたいと考える。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説 :

- 1) 橋田 亨¹⁾, 宮田広樹, 岩下佳敬²⁾, 緒方憲太郎³⁾ (1) 京都大学医学部附属病院 薬剤部, 2) 阿久根市民病院 薬剤科, 3) 福岡大学病院) : JSPHCS/BMCK 海外研修プログラム参加報告. 日本医療薬学会会報 2007 ; 11 (3) : 17-40.

(1) 原著 :

- 1) Hirata K, Aoyama T¹⁾, Matsumoto Y¹⁾, Ogawa F²⁾, Yamazaki H³⁾, Kikuti A, Yamamoto Y²⁾ (1) Department of Clinical Pharmacokinetics, College of Pharmacy, nihon University, 2) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Hospital, 3) Laboratory of Drug Metabolism and Pharmacokinetics, Showa Pharmaceutical University) : Pharmacokinetics of antifungal agent micafungin in critically ill patients seceiving continuous hemodialysis filtration. Yakugaku Zasshi 2007 ; 127 (5) : 897-901.

- 2) Ise Y, Onda M¹⁾, Miura Y, Shimazaki M, Kawada K, Hagiwara K, Katayama S, Kikuchi A, Kamei M²⁾, Kobayashi K³⁾, Shiragami M⁴⁾ (1) Clinical Laboratory of Practical Pharmacy, Osaka University of Pharmaceutical Sciences, 2) Social and Administrative Pharmacy, School of Pharmaceutical Sciences, Showa University, 3) Research Unit of Pysics, College of Pharmacy, Nihon University, 4) Research Unit of Social and Administrative Pharmacy Sciences, Cllege of Pharmacy, Nihon University) : Contributions of Pharmacists through the Promotion of Proper Drug Use. Yakugaku Zasshi 2007 ; 127 : 1021-1025.
- 3) 宮田広樹, 片山志郎, 西澤光代, 本城和義, 輪湖哲也, 伊勢雄也, 腹子あきこ¹⁾, 若林恵子¹⁾, 古賀美帆¹⁾, 藤田倫子¹⁾, 大嶺桂子¹⁾, 菊池有道, 弦間昭彦²⁾ (1) 日本医科大学付属病院看護部, 2) 日本医科大学付属病院輸液療法室) : 外来がん化学療法における薬剤適正使用推進と薬剤費節減効果. 日本病院薬剤師会雑誌 2007 ; 43 (5) : 657-659.

(2) 総説 :

- 1) 伊勢雄也, 宮田広樹, 片山志郎 : がん専門薬剤師研修施設における受け入れ体制. 東京都病院薬剤師会雑誌 2007 ; 56 (4) : 5-11.
- 2) 宮田広樹 : がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割 (13) がん専門薬剤師に必要な大腸がん (結腸がん) 化学療法の知識 (後編). 医療の門 2007 ; 47 (4) : 46-52.
- 3) 片山志郎 : がん化学療法における『がん専門薬剤師』の役割 (10) がん専門薬剤師に必要な緩和医療の知識 (痛み). 医療の門 2007 ; 47 (2) : 32-35.
- 4) 片山志郎 : がん化学療法における『がん専門薬剤師』の役割 (11) がん専門薬剤師に必要な緩和医療の知識 (副作用対策). 医療の門 2007 ; 47 (2) : 36-39.
- 5) 宮田広樹 : 大腸癌化学療法における Key Drug フツ化ピリミジン系抗癌剤. 薬局 2007 ; 58 (5) : 1888-1892.
- 6) 片山志郎 : 特集 オピオイド製剤を正しく安全に使うための基本 (2) 薬剤師がオピオイド製剤の適切な剤形をチェックするために必要な患者情報について教えてください. 薬局別冊 2007 ; 58 (11) : 50-53.
- 7) 宮田広樹, 片山志郎 : 臨床で必ずみる「オピオイド製剤使用時に注意すべき患者」(2). 薬局 2007 ; 58 (11) : 2937-2941.
- 8) 宮田広樹 : がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割 (14) がん専門薬剤師に必要な前立腺がん化学療法の知識. 医療の門 2007 ; 47.
- 9) 平田清貴 : 救急医療への薬剤師の関与 : 救急・集中治療領域における薬剤師業務の現況と展望. 薬事新報 2007 ; 2453 : 1336-1341.

(3) その他

- 1) 加藤あゆみ, 片山志郎 : カウンセリングアドバイス No. 59. 退院がなかなか実現せず, 心を閉ざすようになったターミナル期の患者さん. Clinical Pharmacist 2007 ; (59).
- 2) 加藤あゆみ, 片山志郎 : カウセリングアドバイス No. 60. 医療スタッフの指示を受け入れず, 疼痛コントロールがうまくいかない患者さん. Clinical Pharmacist 2007 ; (60).
- 3) 加藤あゆみ, 片山志郎 : 経口モルヒネ徐放錠 (1回/1日) の臨床. 癌疼痛治療 Pharma Medica 2007 ; 25 (10).

著 書

- 1) 片山志郎 : [共著] 今日の治療指針2007. 今日の治療指針2007, 2007 ; 医学書院.
- 2) 片山志郎 : [共著] 今日の治療薬2007. 今日の治療薬2007, 2007 ; 南江堂.
- 3) 片山志郎 : [共著] 治療薬マニュアル2007. 治療薬マニュアル2007, 2007 ; 医学書院.
- 4) 平田清貴, その他349名 : [共著] 今日の診断基準. 今日の診断基準, 2007 ; 南山堂.
- 5) 平田清貴, その他92名 : [共著] 救命救急士のための2次救急処置テキスト・追加講習カリキュラム対応版. 救命救急士のための2次救急処置テキスト・追加講習カリキュラム対応版, 2007 ; ヘルス出版.

- 6) 平田清貴, その他2名: [共著] 救急治療・薬剤ハンドブック第四版. 救急治療・薬剤ハンドブック第四版 (山本保博, 黒川 颯, 菊池有道 監修, 平田清貴 監修), 2007; じほう.
- 7) 片山志郎, 菊池有道: [自著] DI室Q&A NSAIDsの注意すべき相互作用. 治療学, 2007; pp1305-1307, ライフサイエンス出版.
- 8) 橋田 亨¹⁾, 宮田広樹, 岩下佳敬²⁾, 緒方憲太郎³⁾ (1) 京都大学医学部附属病院 薬剤部, (2) 阿久根市民病院 薬剤科, (3) 福岡大学病院): [共著] JSPHCS/BMCK 海外研修プログラム参加報告. 日本医療薬学会会報, 2007; pp17-40, 日本医療薬学会.
- 9) 片山志郎: [共著] 病気と薬パーフェクトブック2008. 病気と薬パーフェクトブック2008, 2008; 南山堂.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 松尾克則, 宮内雅人¹⁾, 佐藤格夫, 増野智彦, 平田清貴, 吉田竜介, 林田眞喜子, 仁平 信, 大野曜吉, 山本保博: 急性医薬品中毒患者の病院選定における, 判断要素について. 第10回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 2007. 5.
- 2) 畝井浩子^{1,2)}, 栞原 健^{1,3)}, 西澤健司^{1,4)}, 平田清貴¹⁾, 峯村純子^{1,5)}, 石川雅健⁶⁾, 有賀 徹⁷⁾ (1) 日本臨床救急医学会多職連携委員会小委員会, (2) 広島大学病院 薬剤部, (3) 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 薬剤部, (4) 東邦大学医療センター大森医療センター大森病院 薬剤部, (5) 昭和大学病院 薬剤部, (6) 日本臨床救急医学会多職連携委員会, (7) 日本臨床救急医学会): 救命救急センターにおける薬剤的業務の現状調査. 第10回日本臨床救急医学会学術集会, 2007. 5.
- 3) 青山隆彦¹⁾, 平田清貴, 松本宜明¹⁾, 平田理恵²⁾, 清水万紀子²⁾, 山崎浩史²⁾, 菊池有道, 山本保博³⁾ (1) 日本大学薬学部 臨床薬剤学研究室, (2) 昭和薬科大学 薬物動態学研究室, (3) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 集中治療患者におけるホスフルコナゾール体内動態変動要因としてのシスタチンCと血清クレアチニン比較. 第22回日本薬剤学会年会, 2007. 5.
- 4) 加藤あゆみ, 宮田広樹, 渡邊暁洋¹⁾, 片山志郎 (1) 日本医科大学千葉北総病院薬剤科): オピオイド鎮痛薬の嘔気対策: 抗ドパミン系薬剤と抗ヒスタミン系薬剤の有効性の比較. 第12回日本緩和医療学会総会, 2007. 6.
- 5) 平田清貴, 埴田宗吾¹⁾, 宮内雅人²⁾, 大泉 旭²⁾, 横田裕行²⁾, 片山志郎, 大林雅彦¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 東邦大学薬学部臨床薬剤学研究所, (2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター): 当院高度救命救急センターにおける急性OTC薬中毒. 第29回日本中毒学会総会, 2007. 7.
- 6) 安田文彦¹⁾, 宮内雅人¹⁾, 平田清貴, 仁平 信²⁾, 久志本成樹¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, (2) 日本医科大学付属病院 法医学): 塩化ベンザルコニウムを静注した1例. 第29回日本中毒学会総会, 2007. 7.
- 7) 宮内雅人¹⁾, 平田清貴, 仁平 信²⁾, 久志本成樹¹⁾, 川井 真¹⁾, 横田裕行¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター, (2) 日本医科大学付属病院 法医学): 中毒領域における極細径胃内視鏡スコープの試み. 第29回日本中毒学会総会, 2007. 7.
- 8) 輪湖哲也, 伊勢雄也, 宮田広樹, 小坂好男, 片山志郎: 安全に入院がん化学療法を行うための薬剤師の役割. 第17回日本医療薬学会年会, 2007. 9.
- 9) 輪湖哲也, 宮田広樹, 加藤あゆみ, 須賀理絵, 片山志郎: オピオイド鎮痛薬の副作用対策: 嘔気・嘔吐に対する抗ヒスタミン系薬剤の有効性. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 10) 高尾麻子, 伊勢雄也, 三浦義彦, 片山志郎: 当院腫瘍治療センターにおける薬剤部の業務活動. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 11) 島崎麻智子, 奈良弘恵, 小坂好男, 片山志郎: 付属病院における医薬品情報提供業務の検討 (第9報). 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

- 12) 島崎麻智子, 瀬尾 誠, 小坂好男, 片山志郎, 菊池有道, 大木更一郎¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 形成外科・美容外科): ラット熱傷潰瘍モデルを用いたヨードコート軟膏0.9%の塗布量の違いによる創傷治癒効果の比較. 第9回日本褥瘡学会学術集会, 2007. 9.
- 13) 三浦義彦, 伊勢雄也, 小坂好男, 片山志郎: 呼吸器内科病棟におけるがん患者に対するチェックシートを用いた薬剤管理指導業務. 第17回日本医療薬学会年会, 2007. 9.
- 14) 藤田 謙¹⁾, 野澤玲子¹⁾, 竹内幸一¹⁾, 伊勢雄也, 片山志郎 (1) 明治薬科大学 薬学部): プロピオン酸フルチカゾン・ディスクヘラー使用時における薬物付着量の実態調査および検討. 第17回日本医療薬学会年会, 2007. 9.
- 15) 中田和宏¹⁾, 伊勢雄也, 菅谷量俊, 小坂好男, 片山志郎, 及川眞一²⁾, 野澤玲子¹⁾, 竹内幸一¹⁾ (1) 明治薬科大学 薬学部, 2) 日本医科大学付属病院 内分泌・代謝内科): スタチン系薬剤の情報提供が服薬コンプライアンスに与える影響の検討. 第17回日本医療薬学会年会, 2007. 9.
- 16) 瀬尾 誠, 片山志郎: プスルフェクス注プレフィルドシリンジ化の検討. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 17) 瀬尾 誠, 片山志郎, 浜田真向¹⁾, 土橋 朗 (1) 東京薬科大学 薬学部): プラスチック製輸液容器への有機溶媒透過の阻止の検討. 日本医療薬学会第17回年会, 2007. 9.
- 18) 加藤あゆみ, 宮田広樹, 輪湖哲也, 須賀理絵, 片山志郎: オピオイド鎮痛薬の嘔気・嘔吐に対する抗ドパミン系薬剤と抗ヒスタミン系薬剤の有効性の比較. 第1回日本緩和医療薬学会年会, 2007. 10.
- 19) 須賀理絵, 輪湖哲也, 加藤あゆみ, 伊勢雄也, 宮田広樹, 片山志郎: 日本医科大学付属病院緩和ケアチームにおける薬剤師の役割. 第1回日本緩和医療薬学会年会, 2007. 10.
- 20) 殿塚早百合, 伊勢雄也, 加藤あゆみ, 片山志郎, 菱沼 滋¹⁾, 齊藤政樹¹⁾ (1) 明治薬科大学 薬効学): オピオイド使用患者における有害事象発現に関わる要因の解析. 第1回日本緩和医療薬学会年会, 2007. 10.
- 21) 輪湖哲也, 伊勢雄也, 宮田広樹, 加藤あゆみ, 須賀理絵, 片山志郎: フェンタニルパッチの適正使用の検討. 第1回日本緩和医療薬学会年会, 2007. 10.
- 22) 宮田広樹, 加藤あゆみ, 輪湖哲也, 須賀理絵, 伊勢雄也, 片山志郎: オピオイド鎮痛薬の副作用防止によりアカシジアを発現した症例. 第1回日本緩和医療薬学会年会, 2007. 10.
- 23) 舩岡由紀子¹⁾, 片山志郎, 宮田広樹, 伊勢雄也, 塩川 満²⁾, 柏原由佳³⁾, 松本高広⁴⁾, 伊藤俊雅⁵⁾, 鈴木 勉⁶⁾, 谷古字秀⁷⁾ (1) 東芝病院 薬剤部, 2) 聖路加国際病院 薬剤部, 3) 昭和大学病院 薬剤部, 4) 東邦大学医療センター大森病院 薬剤部, 5) 東京女子医科大学病院 薬剤部, 6) 星薬科大学 薬品毒性学教室, 7) 東京都病院薬剤師会): 緩和ケアの専門性を有する薬剤師の育成: 東京都病院薬剤師会の取り組み. 第1回日本緩和医療薬学会年会, 2007. 10.
- 24) 宮田広樹, 加藤俊二¹⁾, 高田未来, 輪湖哲也, 本城和義, 腹子あきこ²⁾, 若林恵子²⁾, 古賀美帆²⁾, 片山志郎, 弦間昭彦³⁾, 木山輝郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科・乳腺外科・一般外科・移植外科, 2) 日本医科大学付属病院 看護部, 3) 日本医科大学付属病院 輸液療法室): 進行再発胃がん外来化学療法 of 安全評価: 有害事象による時間外救急外来受診調査実態の解析. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 25) 伊勢雄也, 加藤あゆみ, 片山志郎: EQ-5Dを用いた緩和領域における薬剤経済分析の評価方法の検討. 第1回日本緩和医療薬学会年会, 2007. 10.
- 26) 平田清貴, 平田理恵¹⁾, 青山隆彦²⁾, 増野智彦³⁾, 山崎浩史¹⁾, 松本宜明²⁾, 片山志郎, 山本保博³⁾ (1) 昭和薬科大学薬物動態学研究室, 2) 日本大学薬学部臨床薬剤学ユニット, 3) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター): 集中治療患者におけるミカファンギンの母集団薬物動態解析. 第28回日本臨床薬理学会, 2007. 11.
- 27) 埴田宗吾¹⁾, 平田清貴, 大泉 旭²⁾, 大下順子, 石原朋子, 片山志郎, 大林雅彦¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 東邦大学薬学部臨床薬剤学研究室, 2) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター): 中枢神経抑制薬の加療内服についての検討. 第28回日本臨床薬理学会, 2007. 11.
- 28) 瀬尾 誠, 田近賢二¹⁾, 浜田真向²⁾, 土橋保和²⁾, 土橋 朗²⁾, 壇 和夫¹⁾, 片山志郎 (1) 日本医科大学付属病

院 血液内科, ²⁾ 東京薬科大学 薬学部) : プスルフェクス注の調製法の開発. 第30回日本造血細胞移植学会総会, 2008. 2.

- 29) 濱田真紀子¹⁾, 村上桂子, 五十嵐徹²⁾, 菅谷量俊, 片山志郎, 木津純子¹⁾ (¹⁾ 共立薬科大学, ²⁾ 日本医科大学付属病院 小児科) : 小児ネフローゼ症候群におけるシクロスポリンの体内動態に影響を与える因子の検討. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- 30) 島崎麻智子, 瀬尾 誠, 萩原 研, 小坂好男, 片山志郎 : 褥瘡治療方針決定における薬剤師介入についての解析. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- 31) 宮田広樹, 高田未来, 輪湖哲也, 青木 優, 高瀬麻美, 片山志郎, 弦間昭彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院 輸液療法室) : 薬剤適正使用による外来がん化学療法の経済的利点. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- 32) 瀬尾 誠, 田近賢二¹⁾, 浜田真向²⁾, 土橋保夫²⁾, 土橋 朗²⁾, 壇 和夫¹⁾, 片山志郎 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 血液内科, ²⁾ 東京薬科大学 薬学部) : プスルフェクス注の調製法の開発. 日本薬学会第128回年会, 2008. 3.
- 33) 輪湖哲也, 宮田広樹, 伊勢雄也, 加藤あゆみ, 須賀理絵, 片山志郎 : がん患者の神経障害性疼痛に対してガバペンチンが有効であった1例. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.

[付属病院生理機能センター]

研究概要

近年, メタボリックシンドロームや生活習慣病といった病気に対する関心が国民の意識として高まっている. 検査の精度を上げ, 客観的な指標となる検査データを臨床側に提供する事, また心臓リハビリテーションのように予防医学の側面からもサポートする事が, 健康管理や疾病予防に直接繋がることから, 我々検査技師の果たす社会的役割は益々重要となってきた. このように社会医学に寄与すべく研究テーマを選び, 前年度から引き続けているものから, 新しい視点で検討しているものまで幅広く行っている.

今年度の主な研究内容は, 超音波領域では, 経食道心エコー (TEE) で胸部下行大動脈の壁厚を測定し, strain rate imagingからstrain (S), strain rate (SR) を求めて両者の関係について調べたり, 他のパラメータも含めたstiffness評価について検討した. また最近市販された超音波機器と従来の機器を用いて, 肝表面に存在する肝腫瘍の描出能をコンベックスプローブとリニアプローブで比較検討を行った.

心臓リハビリテーション (心リハ) 領域では, 運動負荷時における過換気負荷試験からみた経皮的炭酸ガス分圧 (PtcCO₂) の意義や, 歩行負荷試験における新ドリフト補正プログラム搭載のポータブル心電計の有用性や問題点について検討した. PtcCO₂は, 動脈血炭酸ガス分圧と良好な相関を有し, 非侵襲的に測定出来るため閉塞性睡眠時無呼吸症候群における意義についても検討した. 閉塞性無呼吸発作の検出や炭酸ガスに対する感受性の算出など今後の応用が期待されている. また, ホルター心電図機能を有する携帯型血圧計による夜間血圧心拍関連の解析も行った.

研究業績

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Sugaya J, Fukuma N¹⁾, Hayashi H¹⁾, Ushijima A¹⁾, Kato K¹⁾, Kato Y¹⁾, Aisu N¹⁾, Tsuchida T¹⁾, Miyatake Y¹⁾, Saito K, Kishida H¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Increase in Arterial Pressure of Carbon Dioxide Impacts on Cardiovascular System in Heart Disease Patients with Obstructive Sleep Apnea Syndrome. 第72回日本循環器学会, 2008. 3.
- 2) 會田智弘, 福間長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 吉田由紀子, 竹田裕子, 平野美子, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 真鍋宏美¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心臓リハ

ビリテーション導入期歩行試験時における新ドリフト補正プログラム搭載のポータブル心電計の有用性. 第13回日本心臓リハビリテーション学会, 2007. 7.

- 3) 菅谷寿理, 福岡長知¹⁾, 加藤政利, 本江雪貴美, 五十嵐亜希, 中村利枝, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 本間 博¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心筋梗塞患者における運動療法導入期の抑うつと自律神経機能障害. 第13回日本心臓リハビリテーション学会, 2007. 7.
- 4) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 吉田由紀子, 佐藤淳子, 平野美子, 牛島明子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 本間 博¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 運動負荷時における過換気負荷試験から見た経皮的炭酸ガス分圧の意義. 第13回日本心臓リハビリテーション学会, 2007. 7.
- 5) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 竹田裕子, 中村利枝, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 牛島明子¹⁾, 真鍋宏美¹⁾, 加藤和代¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 新しいドリフト補正機能を有する12誘導心電計による運動負荷試験の報告. 第13回日本心臓リハビリテーション学会, 2007. 7.
- 6) 會田智弘, 菅谷寿理, 加藤政利, 宗方祐美子, 吉田由紀子, 竹田裕子, 佐藤淳子, 平野美子, 青木 亘, 齋藤公一, 福岡長知¹⁾, 林 寛子¹⁾, 牛島明子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, その他5名 (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心臓リハビリテーションにおける歩行負荷試験の問題点. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 7) 見友優子, 松崎つや子, 関野玲子, 田尾清一, 水瀬 学, 中村利枝, 齋藤公一, 本間 博, 藤本啓志¹⁾, 東春香¹⁾, 大野忠明¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 大動脈の厚さと硬さ: strain rate imaging を用いて. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 8) 會田智弘, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 牛島明子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 本間 博¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 新しいドリフト補正プログラムを搭載したポータブル心電計の有用性. 第55回日本心臓病学会, 2007. 9.
- 9) 菅谷寿理, 福岡長知¹⁾, 加藤政利, 林 寛子¹⁾, 牛島明子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 本間 博¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 閉塞性睡眠時無呼吸症候群における経皮炭酸ガス分圧測定の有用性. 第55回日本心臓病学会, 2007. 9.
- 10) 會田智弘, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 齋藤公一, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): ホルター心電図機能を有する携帯型血圧計による夜間血圧心拍関連の解析. 第30回日本高血圧学会総会, 2007. 10.
- 11) 菅谷寿理, 福岡長知¹⁾, 加藤政利, 會田智弘, 牛島明子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 土田貴也¹⁾, 齋藤公一, 本間 博¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 夜間就寝中における炭酸ガス分圧変動と夜間血圧の関係. 第30回日本高血圧学会総会, 2007. 10.
- 12) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 會田智弘, 林 寛子¹⁾, 牛島明子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 本間 博¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 運動負荷時血圧応答と心肺運動負荷試験指標および経皮炭酸ガス分圧との関係. 第30回日本高血圧学会総会, 2007. 10.
- 13) 會田智弘, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 加藤政利, 齋藤公一, 牛島明子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 本間 博¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): ホルター心電計と携帯型血圧計による夜間血圧・心拍関連の検討. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.
- 14) 菅谷寿理, 福岡長知¹⁾, 加藤政利, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 睡眠時無呼吸と経皮炭酸ガス分圧の関係. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.

- 15) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 齋藤公一, 林 寛子¹⁾, 牛島明子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 心不全例に見られる運動負荷時周期性呼吸の機序: 炭酸ガス分圧変動に基づく検討. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.
- 16) 水瀬 学, 本間 博¹⁾, 見友優子, 田尾清一, 佐藤淳子, 松崎つや子, 関野玲子, 中村利枝, 齋藤公一, 大野忠明¹⁾, 横島友子¹⁾, 吉田 寛²⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 最近市販された超音波機器による肝表面腫瘍の超音波画像. 日本超音波医学会関東甲信越地方部会第19回学術集会, 2007. 11.
- 17) 安武ひろ子¹⁾, 本間 博¹⁾, 松崎つや子, 藤本啓志¹⁾, 東 春香¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 横島友子¹⁾, 大野忠明¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 胸部大動脈壁のstiffnessの検討. 第44回日本臨床生理学会総会, 2007. 11.
- 18) 會田智弘, 菅谷寿理, 福岡長知¹⁾, 林 寛子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 齋藤公一, 本間 博¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 携帯型血圧計による夜間心拍血圧関連の検討. 第72回日本循環器学会, 2008. 3.
- 19) 加藤政利, 福岡長知¹⁾, 菅谷寿理, 牛島明子¹⁾, 加藤和代¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 土田貴也¹⁾, 宮武佳子¹⁾, 齋藤公一, 本間 博¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 運動負荷時換気異常解析に関する経皮的炭酸ガス分圧測定の有用性. 第72回日本循環器学会, 2008. 3.

[付属病院看護部]

研究概要

付属病院看護部では担当領域において活発な研究, 活動状況の報告を行った。

- 1) 糖尿病看護領域では交流集会やシンポジウムにおいて, 看護実践活動や評価に関する報告をした。
- 2) 皮膚および排泄ケア看護領域では手術時の褥瘡予防やストーマケアに関する研究を報告した。
- 3) リウマチ看護領域ではリウマチ体操のQOLの効果について研究報告した。
- 4) 母性および周産期看護領域では不育症女性の心理や死産に立ち会う助産師の心理について研究報告した。
- 5) がん看護領域では相談支援活動の現状などを報告した。
- 6) 精神看護領域では服薬指導に関する研究報告を行った。
- 7) リエゾン看護領域では緩和ケアチームにおけるリエゾン精神専門看護師の役割や介入方法について報告した。
- 8) 遺伝看護領域では当院遺伝診療科の現状や事例検討を報告した。
- 9) 手術看護領域では手指衛生, 除圧に関する研究報告をした。
- 10) 集中治療看護領域ではスタッフ教育, 認定看護師の役割, ケアの標準化など多数の研究報告がなされた。
- 11) 救命救急看護領域ではAEDの普及, 救急車の要請, 清潔ケアの検討, 災害時の対応, 反復自殺患者の家族への援助など, 現場での実践と社会的な要請に関する研究報告を多数行った。

研究業績

論文

[追加分]

追加分症例報告:

- 1) Watanabe A^{1,2)}, Yamamasu S³⁾, Shinagawa T⁴⁾, Suzuki Y, Miyake H^{1,4)}, Takeshita T⁴⁾, Orimo H²⁾, Shimada T^{1,2)} (1) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Osaka City University, ⁴⁾ Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School): Prenatal Genetic Diag-

nosis of Severe Perinatal (Lethal) Hypophosphatasia. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 65-69.

追加分総説：

- 1) 渡邊通枝：患者の病態にみるバイタルサインとその読み方：急性肺障害（ALI）／急性呼吸窮迫症候群（ARDS）. 看護技術 2007 ; 53 (3) : 32-33.
- 2) 細萱順一：大動脈内バルーンパンピング（IABP）とその管理. 看護技術 2006 ; 52 (4) : 1-5.
- 3) 竹内幸子：患者の病態からバイタルサインを読む！急性膵炎（焦点 患者の病態にみるバイタルサインとその読み方）. 看護技術 2007 ; 53 (3) : 36-37.
- 4) 佐々真理子：患者の病態にみるバイタルサインとその読み方：食道がん術後. 看護技術 2007 ; 53 (3) : 34-35.
- 5) 佐々木友子：患者の病態にみるバイタルサインとその読み方：心臓術後. 看護技術 2007 ; 53 (3) : 26-27.

(1) 原著：

- 1) 早坂百合子：大学病院副看護部長研修のプログラム開発と実践 研修受講者による実践報告2 新人看護師の退職率を下げる取り組み. 看護管理 2008 ; 18 (2) : 149-151.

(2) 総説：

- 1) 岩澤智子：ここまできた急性期NPPVの実践：適切なマスクの選択とマスクフィッティング. 看護技術 2007 ; 53 (13) : 19-22.
- 2) 上村明子：子宮全摘術を受ける患者の深部静脈血栓症予防のための看護（ケースで学ぶ手術患者のアセスメントとケア）. OPE nursing 2007 ; 22 (6) : 103-110.
- 3) 背戸陽子：めざせ一人前！救急看護認定看護師が教える救急看護の技術&ケア 急性心筋梗塞. エマージェンシーケア 2007 ; (249) : 108-148.
- 4) 古山景子：知っておきたい最新知識 糖尿病による合併症を防ぐためのケア<糖尿病の療養支援>. 訪問看護と介護 2007 ; 12 (10) : 828-833.
- 5) 瀬戸利昌：ここまできた急性期NPPVの実践：急性期NPPVに用いる人工呼吸器の換気モードとアラーム機能. 看護技術 2007 ; 53 (13) : 15-18.
- 6) 池田恵美子：ここまできた急性期NPPVの実践：急性期NPPVにおけるトラブルとその予防・対処法. 看護技術 2007 ; 53 (13) : 23-26.
- 7) 波多野真弓, 田中啓治¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院循環器内科)：もう慌てない！シチュエーション別心臓病患者さんの急変対応：ショック・意識障害. ハートナーシング 2007 ; 20 (12) : 36-40.
- 8) 土田由紀子¹⁾, 菊永恭子 (1) 東京女子医科大学病院看護部)：フットケア介入のためのフィジカルアセスメント：糖尿病足病変のアセスメント（焦点 足病変に対する医療フットケア）. 看護技術 2008 ; 54 (2) : 35-40.

著書

- 1) 池田 寛¹⁾, 武石浩之¹⁾, 金子真理子, 佐藤紀子²⁾, 金井(Pak) 雅子²⁾, 眞嶋朋子³⁾, 塚越フミエ²⁾, 遠藤和子²⁾, 本田芳香²⁾, 小笠原広見²⁾, 見城道子²⁾, 鈴木玲子²⁾, 上好昭孝⁴⁾, 横畠由美子⁵⁾, 北目 茂⁵⁾, その他10名 (1) 新銀座整形外科, 2) 東京女子医科大学看護学部, 3) 千葉大学看護学部, 4) 和歌山県立医科大学リハビリテーション科, 5) 東京女子医科大学病院)：〔分担〕ポケット版整形外科ケアマニュアル第10版, 2000 ; pp56-60, 照林社.
- 2) 背戸陽子：〔分担〕IV 外傷患者への初期対応1. 外傷初期診療に求められる環境. 外傷初期看護ガイドライン = JNTEC (日本救急看護学会・有限責任中間法人 日本臨床救急医学会), 2007 ; pp162-165, へるす出版.

学会発表

〔追加分〕

追加分パネルディスカッション：

- 1) 前原茂子, 鈴木智恵子：急性期における冠疾患のよりよい患者教育への工夫：医療チームがいかに連携するか. 第20回日本冠疾患学会, 2006. 12.
- 2) 鈴木智恵子：インシデント・アクシデントを抑止する具体策. 第34回日本集中治療医学会学術集会, 2007. 3.

追加分示説：

- 1) 細萱順一, 望月裕代, 田中ともみ, 村田 恵：CCUにおける術後の血糖管理と低血糖の予防に向けてのスタッフ教育. 第34回日本集中治療医学会学術集会, 2006. 2.

(1) シンポジウム：

- 1) 古山景子：糖尿病教育においてアウトカムをどう実践に活かすか（アウトカムを見据えた糖尿病教育）. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.
- 2) 古山景子, 尾崎仁美, 渡邊恭子, 角田聖子, 川中秀和¹⁾, 高木 元¹⁾, 宮本正章¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院内科・再生医療科）：マゴット（医療用無菌ウジ）を用いた治療とケアの実際. 第6回日本フットケア学会学術集会, 2008. 2.

(2) ワークショップ：

- 1) 渡邊通枝：NPPV普及のための教育とその標準化. 第29回呼吸療法医学会学術集会, 2007. 7.

(3) 一般講演：

- 1) 山岸茂樹¹⁾, 大城俊朗, 大平夏木, 佐藤トキ子（¹⁾日本医科大学付属病院呼吸器外科）：胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術症例に対するクリティカルパスの検討. 第19回肺外科学会学術総会, 2007. 4.
- 2) 細田真梨子, 高山美奈子, 是枝寿美, 南 由香：ヘパリン療法を受けて出産に至った不育症女性の心理的变化. 第25回東京母性衛生学会学術集会, 2007. 5.
- 3) 鈴木由美, 渡邊 淳¹⁾, 三宅秀彦^{1,3)}, 西 弥生²⁾, 峯 克也²⁾, 石川 源²⁾, 竹下俊行²⁾, 島田 隆²⁾（¹⁾日本医科大学付属病院遺伝診療科, ²⁾日本医科大学付属病院女性診療科産科, ³⁾日本医科大学多摩永山病院女性診療科産科）：羊水検査でPallister-Killian syndromeが認められ選択的流産を決定した不育症夫婦の遺伝カウンセリング. 第25回東京母性衛生学会学術集会, 2007. 5.
- 4) 加藤綾子, 本間郁恵：初めて死産に立ち会う助産師の心理とその支援. 第25回東京母性衛生学術集会, 2007. 5.
- 5) 鈴木由美, 渡邊 淳¹⁾, 三宅秀彦^{2,1)}, 西 弥生³⁾, 峯 克也³⁾, 石川 源³⁾, 竹下俊行³⁾, 島田 隆¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院遺伝診療科, ²⁾葛飾赤十字産院, ³⁾日本医科大学付属病院産科女性診療科）：選択的流産のフォローアップ：Pallister Killian syndromeが認められた1例を通して. 第31回日本遺伝カウンセリング学会学術集会, 2007. 5.
- 6) 森 知子, 斉藤徳子, 橋本恵美, 畑なぎさ, 小谷愛子, 八尋和栄, 佐藤憲明, 早坂百合子：顔面清拭ケアに比較したmist洗顔法の効果. 第3回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2007. 6.
- 7) 後藤順一, 市村健二, 杉山理恵, 西畑 毅, 阪崎 愛, 中川仁美, 佐藤憲明, 早坂百合子：経気管挿管下における口腔内環境の変化とケア：口腔内の唾液分泌量と乾燥部の違い. 第3回日本クリティカルケア看護学会学術集会, 2007. 6.
- 8) 池田征史, 稲田浩美：患者と共に行う術前褥瘡予防オリエンテーションの効果. 第9回日本褥瘡学会学術集会, 2007. 9.
- 9) 倉藤晶子, 上村明子, 金子栄子, 古川清憲¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾（¹⁾臓器病医学研究科制御外科）：手術時手洗いのラビング法による消毒効果検討. 第29回日本手術医学会総会, 2007. 9.
- 10) 阪本磨弥, 倉藤晶子, 金子栄子：腹臥位手術における除圧具の耐圧分散効果の検討：日本新発売のチェスト

ロールの検討. 第29回日本手術医学総会, 2007. 9.

- 11) 曾我部花菜, 大迫佳織¹⁾, 小松美佳²⁾, 飯塚友美³⁾, 大山 太⁴⁾ (1) 関西医科大学付属病院, 2) 東京大学附属病院, 3) 東海大学附属病院, 4) 高崎健康福祉大学): 救急車の出動要請に関する意識調査. 第9回日本救急看護学会, 2007. 11.
 - 12) 市村健二, 佐藤憲明, 早坂百合子: 非医療従事者へのAED普及の現状. 第9回日本救急看護学会, 2007. 11.
 - 13) 三好香恵, 古賀愛美, 曾我部久美, 古澤美登里, 佐々木舞子, 榎 由里, 背戸陽子, 佐藤憲明, 早坂百合子: 再自殺を繰り返す急性医薬品中毒患者の家族の体験: 救命救急段階での家族援助を探る. 第9回日本救急看護学会, 2007. 11.
 - 14) 田中 茜, 内海清乃, 金浜英介, 福島綾子, 山崎直人, 木野毅彦, 佐藤憲明: 大規模災害時に病院職員は集まるのか: 看護師・医師・コメディカルへの調査. 第9回日本救急看護学会, 2007. 11.
 - 15) 佐藤隆平, 井手口和代, 佐山由香, 高橋聡子, 岩瀬加代子, 北條真紀, 伊藤博希, 木野毅彦, 佐藤憲明, 早坂百合子: 各種カフ上部吸引機能付気管切開チューブのカフ上部吸引効率に関する検討比較. 第9回日本救急看護学会, 2007. 11.
 - 16) 背戸陽子, 榎 由里, 早坂百合子: 第3次高度救命救急医療で「患者の死」に携わる看護師の意識. 第9回日本救急看護学会, 2007. 11.
 - 17) 金子真理子: ストレスマネジメントを目的としたリエゾン精神看護介入法の作成と評価. 第27回日本看護科学学会, 2007. 12.
 - 18) 茅野陽子: 再発・転移がん患者と看護師との信頼関係の深まり. 第27回日本看護科学学会, 2007. 12.
 - 19) 金子真理子, 西川律子: 緩和ケアチームにおけるリエゾン精神看護専門看護師の役割と課題. 第22回日本がん看護学会, 2008. 2.
 - 20) 三原恵理, 稲田浩美, 菅原光子¹⁾, 松本智司²⁾, 鈴木英之²⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院看護部, 2) 日本医科大学付属病院外科): 当院におけるストーマケアの実際とオストメイトのストーマ受容の現状. 第25回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会, 2008. 2.
 - 21) 森 力哉, 大橋留美, 島津輝明, 佐々木愛, 大江 健, 笹野 恵, 道廣 瞳, 木野毅彦, 佐藤憲明, 早坂百合子: 体表冷却装置 Arctic Sun2000を用いたCPA蘇生後患者に対する脳低体温療法の臨床試験. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
 - 22) 内海清乃, 田中 茜, 山崎直人, 岩瀬加代子, 金浜英介, 福島綾子, 木野毅彦, 近藤久禎¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院救命救急センター): 大規模災害時における病院職員参集に関する意識調査. 第13回日本集団災害医学会, 2008. 2.
- (4) セッション:
- 1) 背戸陽子: 循環器集中治療室における認定看護師の役割: 医療チームの円滑な連携を目指して. 第72回日本循環器学会学術集会, 2008. 2.
- (5) 交流集会:
- 1) 古山景子: 「血糖パターンマネジメント」技術をマスターしよう! Part2. 第12回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2007. 9.
- (6) 示説:
- 1) 藤田千賀, 三木真由美, 小森邦子: リウマチ体操を継続することの有効性の検証: 実施前後のQOLを測定して. 第38回日本看護学会 看護総合, 2007. 7.
 - 2) 渡辺裕子, 鈴木由美, 千葉弘子, 三宅秀彦^{2,1)}, 浅野ありさ¹⁾, 右田 真^{3,1)}, 渡邊 淳¹⁾, 島田 隆¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院遺伝診療科, 2) 葛飾赤十字産院, 3) 日本医科大学付属病院小児科): 遺伝診療科の現状と今後の課題. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
 - 3) 木野美和子: 精神神経科病棟における「紙芝居・補足パネル」を媒体とした「服薬教室」の導入の効果. 第13

回日本精神科看護学会 精神科リハビリテーション看護, 2007. 10.

- 4) 千田英理子：対応困難な家族との関わりで受け持ち看護師の変化：がん性疼痛認定看護師の相談を通して．第22回日本がん看護学会, 2008. 2.
- 5) 茅野陽子, 金子真理子, 西川律子, 千田英理子：当院におけるがん患者・家族への相談支援における現状と課題．第22回日本がん看護学会, 2008. 2.
- 6) 大久保利恵, 佐々真理子, 山口ともみ, 千葉香菜子：せん妄予防に対する意識と看護ケアの向上を目指して：看護師の意識調査から問題点を探る．第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.
- 7) 細萱順一, 和田奈央, 鈴木智恵子, 横塚 基¹⁾, 山本 剛²⁾, 竹田晋浩¹⁾, 本郷 卓¹⁾, 田中啓治²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科, ²⁾ 日本医科大学付属病院循環器内科)：集中治療室でのインスリン投与プロトコールの安全性と運用時の注意点の検討．第35回日本集中治療医学会学術集会, 2008. 2.

[付属病院放射線科技師室]

研究概要

放射線科技術部門では、診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である。一般撮影、CT、RI、MRI、血管撮影および放射線治療部門に関する研究を日常的に行っている。

一般撮影部門では、デジタルマンモグラフィーに関して被曝線量低減、画質向上の検討を行った。また、CRシステムを使用した胸部ポータブルX線撮影の最適化へのアプローチとして、処理モードによるX線画像の違いを評価し、最適な処理方法を検討した。

MRI部門は、造影剤を用いずに血管を描出する撮像技術についての研究と、3T-MRI装置を使用し、CTと同様にボリュームデータを用いた下垂体高分解能撮像方法に関する研究を行った。

放射線科技術部門は、診断用画像検査全般を扱う部門であり、それぞれの部門ごとに毎年の研究テーマを決め「正確な画像診断」を行う事が可能な「よりよい画像データ」を各診療科に提供できるように研究に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 小倉明夫¹⁾, 宮地利明²⁾, 小林正人³⁾, 今井 広⁴⁾, 清水幸三⁵⁾, 土橋俊男, 土井司⁶⁾, 町田好男⁷⁾ (¹⁾ 京都市立病院, ²⁾ 金沢大学大学院, ³⁾ 長野市民病院, ⁴⁾ 愛知県厚生連安城更生病院, ⁵⁾ 奈良県立医科大学附属病院, ⁶⁾ 奈良県立奈良病院, ⁷⁾ 東芝メディカルシステムズ株式会社)：臨床MR画像におけるSNR測定法に関する考察．日本放射線技師会雑誌 2007；63 (9)：1099-1104.

(2) 総説：

- 1) 土橋俊男, 松村善雄：3T装置を用いたTHRIVEの初期経験．Rad Fan 2007；5 (6)：57-60.
- 2) 土橋俊男：3T MRIの特徴と課題．INNERVISION 2007；22 (9)：2-6.

(3) 誌上講座：

- 1) 土橋俊男：MRI検査 (1) MRI検査の安全管理とMRIの基礎I．日本放射線技師会雑誌 2007；54 (659)：1217-1227.
- 2) 土橋俊男：MRI検査 (2) MRIの基礎II．日本放射線技師会雑誌 2007；54 (660)：1308-1319.
- 3) 土橋俊男：MRI検査 (3) MRIの基礎III．日本放射線技師会雑誌 2007；54 (661)：1419-1429.

著書

- 1) 土橋俊男, 藤田 功¹⁾, 久住浩美¹⁾ (¹⁾ さいたま市立病院)：〔分担〕血管系のMR撮像・第2部 (8)．考え

るMRI撮像技術(松本満臣, 土井 司), 2007; pp200-215, 文光堂.

- 2) 土橋俊男: [分担] 大血管領域・第8章 各種MR検査法. 放射線技術学シリーズ・MR撮像技術学 改定2版(笠井俊文 土井 司), 2008; pp301-322, オーム社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 土橋俊男: MRIの基礎と3T-MRIの臨床応用. 第4回茨城MRI情報交換会, 2007. 5.
- 2) 土橋俊男: 非造影MRA. 2007放射線診療フォーラム in Kyusyu, 2007. 7.
- 3) 土橋俊男: 非造影のMRAについて: 3Tを含めて. 第12回私立医科大学放射線技師会学術講演会, 2007. 9.
- 4) 土橋俊男: Sampling bandwidth (BW) から見たMR画像. 札幌テクノロジーフォーラム, 2007. 11.
- 5) 土橋俊男: k-space から見たpulse sequence・撮像技術. 第4回沖縄MRフォーラム, 2008. 2.

(2) セミナー:

- 1) 土橋俊男: MRIの基礎. 日本放射線技師会, 2007. 8.
- 2) 土橋俊男: パルス系列と画像コントラスト. 日本磁気共鳴医学会, 2007. 10.
- 3) 土橋俊男: MR概論. 日本放射線技術学会, 2007. 11.
- 4) 土橋俊男: MR画像のSNR・CNRの測定法. 日本放射線技術学会, 2007. 11.
- 5) 土橋俊男: パルス系列と画像コントラスト. 日本磁気共鳴医学会, 2008. 2.
- 6) 土橋俊男: MRIの基礎. 日本放射線技師会, 2008. 3.

(3) 一般講演:

- 1) 小林宏之¹⁾, 増山桂一¹⁾, 内山菜智子²⁾, 長島千恵子²⁾, 永井優一³⁾, 永田実緒³⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, 3) 国立がんセンター中央病院放射線診断部): Computed Radiography マンモグラフィ専用品質管理テストツールの評価: システムの品質管理としての検証. 日本放射線技術学会, 2007. 4.
- 2) 上森真里子, 櫻井 実¹⁾, 須田匡也¹⁾, 金谷浩司¹⁾, 榎 利夫, 吉田伸二郎, 土橋俊男 (1) 日本医科大学 健診医療センター): 18F-FDGを投与された患者から介助者の受ける被ばく線量の測定. 第63回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜), 2007. 4.
- 3) 工藤正寿¹⁾, 平井国雄¹⁾, 吉見 晶¹⁾, 小林宏之¹⁾, 土橋俊男¹⁾, 尾科隆司²⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 中央画像検査室): CR胸部ポータブルX線撮影の最適化へのアプローチ: 処理モードとX線写真評価の関係. 第35回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2007. 10.
- 4) 松村善雄, 新田武史, 杉本頼彦, 松本 剛, 長谷康二, 小川匡史, 土橋俊男: アイソボクセルを使用した下垂体Dynamic撮像法の検討. 第35回日本放射線技術学会秋季学術総会, 2007. 10.
- 5) 小林宏之¹⁾, 増山桂一¹⁾, 村上隆介¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 内山菜智子²⁾, 長島千恵子²⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 国立がんセンターがん予防・検診研究センター): デジタル・マンモグラフィにおける拡大撮影時の撮影線量について. 日本乳癌検診学会, 2007. 11.
- 6) 増山桂一¹⁾, 小林宏之¹⁾, 内山菜智子²⁾, 長島千恵子²⁾ (1) 日本医科大学付属病院放射線科, 2) 国立がんセンターがん予防・検診研究センター): デジタルマンモグラフィにおける圧迫圧の検証. 日本乳癌検診学会, 2007. 11.

(4) 技術フォーラム:

- 1) 土橋俊男: 3Tを用いた頭部MRI: 3Tの安全管理と特徴. 日本放射線技術学会・東京部会, 2007. 9.

[付属病院ME部]

研究概要

ME部は、生命維持装置をはじめとするME機器およびその周辺機器の操作、保守点検・管理を行なう部門であり、手術室業務、血液浄化療法業務、高圧酸素療法業務、救命救急・集中治療業務、心臓カテーテル業務、および中央管理業務などに関する研究をテーマとしている。

各研究とも、高度医療に伴うME機器の安全管理を中心に、機器の性能・機能評価や臨床評価を行なってきた。

また、各業務において、新しい業務範囲を確立するための研究や、新しい治療に対する取り組みなどをテーマにおき、取り組んできた。

手術室業務においては、新たにペースメーカー・ICD業務を開始し、その業務展開について研究を行なった。また、NIPPという確立されていない分野への取り組みを行なった。

高圧酸素療法においては各診療科と協力して四肢末端難治性潰瘍への治療に対する研究を行なった。

救命救急・集中治療領域においては、その領域における臨床工学技士の立場や業務に対する提言を行い、また、呼吸療法における業務の確立、あるいは経皮的心配補助装置を用いた補助人工肺の検証を行なった。

また機器管理においては日常点検業務を行なう中で研究テーマを設けて、除細動器に関する研究を行なった。

人工呼吸器の研究では、機器の性能評価を実施し、国内のみならず、呼吸療法士の国際学会でも発表を行なった。

研究業績

論文

- 1) 野口裕幸：人工呼吸管理におけるリスクマネジメント。周産期医学 2007；37（7）：857-862.
- 2) 野口裕幸：NPPV用人工呼吸器についての必須知識。呼吸器ケア 2007；5（12）：65-71.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 野口裕幸：呼吸管理に対するコメディカルからの提案：臨床工学技士の立場より。第35回日本集中治療医学会学術集会（東京），2008. 2.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 野口裕幸，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ 麻酔科学）：ICUにおけるチーム医療：MEの立場より。第16回日本集中治療医学会関東甲信越地方会（神奈川），2007. 8.
- 2) 松田範子，秋丸琥甫¹⁾，木山輝郎¹⁾，宮本正章²⁾，徳永 昭³⁾，森山雄吉³⁾，坂本篤裕，田尻 孝¹⁾（¹⁾ 付属病院外科，²⁾ 付属病院内科・再生医療科，³⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター）：当施設における四肢末端難治性潰瘍の治療（骨軟部組織損傷・感染症に対する高気圧酸素治療）。第42回日本高気圧環境・潜水医学会，2007. 11.

(3) 一般講演：

- 1) 野口裕幸：A Difference of a Pressure Wave Form in Graphic Display of Some Ventilators. the 53rd Annual Convention & Exhibition of the American Association for Respiratory Care (Orlando, Florida, USA), 2007. 12.
- 2) 三宅直樹，原 正高，鈴木健一，吉田 晃，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ 麻酔科学）：放置時間における除細動出力の検討。第15回東京都臨床工学技士会学術大会，2007. 4.
- 3) 野口裕幸：人工呼吸器 Servo i の気道内圧波形の検証。第29回日本呼吸療法医学会学術集会（岡山），2007. 7.
- 4) 土屋直俊，三宅直樹，鈴木健一，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ 麻酔科学）：ペースメーカー・ICD業務における問題と対策。第22回心臓血管外科ウインターセミナー，2008. 1.
- 5) 野口裕幸，青木郁香，久志本成樹¹⁾，山本保博¹⁾，坂本篤裕²⁾（¹⁾ 救急医学，²⁾ 麻酔科学）：当院高度救命救急センターにおける経皮的心肺補助装置（PCPS）を用いた補助人工肺（ECMO）の検証。第35回日本集中治療

医学会学術集会（東京），2008. 2.

(4) ポスター発表：

- 1) 原 正高，三宅直樹，鈴木健一，吉田 晃，金 徹¹⁾，村田 智²⁾，田島廣之²⁾，坂本篤裕¹⁾（¹⁾ 麻酔科学，²⁾ 放射線科学）：当院における「NIPP」の体外循環法，第17回日本臨床工学会，2007. 5.

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

当研究施設は，1972年（昭和47）に開設され，故丸山千里名誉教授が開発した人型結核菌体抽出物質（SSM：いわゆる丸山ワクチン）による悪性腫瘍の免疫療法を中心に研究を行っている。SSMの治験登録患者数は，2008年3月31日現在，378998名に至り，依然として多数の新規患者の紹介を受けている。これらの患者の殆どが学外診療施設からの紹介患者であることと，その大多数がいわゆる進行期癌であることは，SSMは治験薬として供給されているにも拘らず使用実態は治療薬であることの反映といえる。これらの点を考慮し，SSMの使用法は画一に限定せず，主治医からの経過報告を基に各患者について個別に検討の体制をとっている。これらの研究の結果，基本使用法であるSSM-A・SSM-Bの交互隔日投与方法からA単独隔日・B単独隔日・AB交互連日・A単独連日などに変更することで，化学療法・放射線療法などの副作用軽減に加え，一般状態（QOL：Quality of Life）が改善される症例のあることが判明しつつある。SSM使用患者は多くが進行期癌であるにも拘らず，良好な一般状態を維持しつつ長期延命の報告がみられることは，SSMが癌治療において全身療法として重責を果たしている結果といえる。

現在，SSMの使用状況・成績の検討とともに，SSMの本来の使用目的といえるBRM（Biological Response Modifiers）としての作用および癌免疫療法としての作用，特に進行期癌におけるQOL向上と延命効果の立場からの検討，SSMと既存の治療法との併用時における効果的な使用法の検討，長期生存者については背景要因の解析，延命におよぼす要因の影響の検討を行っている。また，SSMの経口投与の可能性，癌予防への応用についても基礎的実験を重ねている。

[呼吸ケアクリニック]

研究概要

呼吸器・感染・腫瘍内科の一翼を担う形で呼吸ケアグループが市ヶ谷に「日本医大呼吸ケアクリニック」を設立して5年が経過した。慢性閉塞性肺疾患（COPD）と睡眠時無呼吸症候群（SAS）を主な対象疾患として位置づけ，付属病院グループと連携を密にしながら臨床研究を推進してきた。環境省所管の環境再生機構からの委託研究の班長（2006-8）として木田が統括する形でCOPDの治療戦略病態につき国内の多施設および英国のプリマス大学との共同研究を進めた。

1. COPDの医療連携と患者教育のあり方 1) 全国調査によるCOPDにおける呼吸ケアの現状と問題点の調査，特に医療連携のあり方につき新しい形の提言を行った。 2) COPDの医療連携モデル事業を展開した。これらには八丈島，五島列島，前橋市，下関市，北信地区が含まれている。 3) Lung Information Needs Questionnaire (LINQ) の活用。プリマス大学との共同研究として開発した評価方法を用いて臨床的な検証を進めた。

2. 全身疾患としてのCOPDの病態における問題 COPDの画像解析，筋萎縮・鬱症状の決定因子を明らかにし並存症としての動脈硬化病変との関連性を明らかにした。

3. COPDの遺伝子研究についての研究理化学研究所と合同でCOPDに関するSNP探索およびプロテオミクス研究を進めてきた。現在，候補遺伝子につき機能研究を進めている。

4. 呼気ガスの中に含まれる微量物質がCOPDの安定期，増悪期でどのように変動するかについて各種のサイトカイン，タンパク成分について解析した。

以上の成果を国内学会，米国胸部学会，欧州呼吸器学会などでの発表を行い英文論文として報告した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Katsura H¹⁾, Yamada K^{2, 3)}, Wakabayashi R^{2, 3)}, Kida K^{2, 3)} (1) Division of Respiratory Medicine, Tokyo Women's Medical University, Yachiyo Medical Center, 2) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, 3) Department of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School) : Gender-associated differences in dyspnoea and health-related quality of life in patients with chronic obstructive pulmonary disease. *Respirology* 2007 ; 12 (3) : 427-432.

(2) その他：

- 1) 木田厚瑞^{1, 2)} (1) 日本医科大学呼吸ケアクリニック，2) 日本医科大学呼吸器内科) : 医療と哲学 第19回 佛教と医療 (上). *THE LUNG-perspectives* 2008 ; 16 (1) : 109-113.

著書

- 1) 木田厚瑞^{1, 2)}，村田 朗^{1, 2)}，伊藤重紀²⁾，岩城 基³⁾，黒崎央子^{1, 2)}，瀬川佳余²⁾，古舘隆子²⁾，本橋典久^{1, 2)}，山口敬子²⁾，山田浩一^{1, 2)}，若林律子^{1, 2)} (1) 日本医科大学呼吸器内科，2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック，3) 長崎大学医学部保健学科理学療法専攻) : [自著] 慢性呼吸不全の包括的呼吸ケア：ヘルス・ケア・プロフェッショナルのための実践ガイド (木田厚瑞 編著)，2007 ; pp1-239，南江堂。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 木田厚瑞^{1, 2)}，三嶋理晃³⁾，西村正治⁴⁾ (1) 日本医科大学呼吸器内科，2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック，3) 京都大学呼吸器内科，4) 北海道大学第一内科) : 特別報告1 新しいガイドライン (COPD (GOLD)). 第47回日本呼吸器学会学術講演会，2007. 5.

(2) ワークショップ：

- 1) 木田厚瑞^{1, 2)}，植木 純³⁾ (1) 日本医科大学呼吸器内科，2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック，3) 順天堂大学医療看護学部専門基礎内科学) : 呼吸リハビリテーションの医療連携：専門医と一般医の役割分担. 第47回日本呼吸器学会学術講演会，2007. 5.
- 2) 茂木 孝^{1, 2)} (1) 日本医科大学呼吸器内科，2) 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 呼吸ケアにおける地域連携の現状と課題. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，2007. 11.

(3) 一般講演：

- 1) Motegi T^{1, 2)}，Kurosaki H^{1, 2)}，Motohashi N^{1, 2)}，Yamada K^{1, 2)}，Murata A^{1, 2)}，Kudoh S¹⁾，Kida K^{1, 2)} (1) Department of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, 2) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Comparisons for concentration in exhaled nitric oxide between patients with bronchial asthma and COPD. *European Respiratory Society Annual Congress 2007* (Stockholm, Sweden), 2007. 9.
- 2) Jones R¹⁾，Chavannes N⁷⁾，Kida K^{2, 3)}，Donaldson G⁴⁾，Hyland M⁵⁾，Price D⁶⁾ (1) Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, 2) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School, 3) Department of Pulmonary Medicine, Infection and Oncology, Nippon Medical School, 4) Academic Unit of Respiratory Medicine, Royal Free & University College Medical School, 5) Department of Psychology, University of Plymouth, 6) Department of General Practice and Primary Care, University of Aberdeen, 7) Department of General

Practice, Maastricht University) : The dose index predicts quality of life, healthcare consumption and mortality. European Respiratory Society Annual Congress 2007 (Stockholm, Sweden), 2007. 9.

- 3) 茂木 孝^{1,2)}, 本橋典久^{1,2)}, 黒崎央子^{1,2)}, 石井健男^{1,2)}, 山田浩一^{1,2)}, 村田 朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)} ⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ⁽²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 慢性閉塞性肺疾患における呼気NO測定の意義に関する研究. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 4) 石井健男^{1,2)}, 若林律子^{1,2)}, 黒崎央子^{1,2)}, 本橋典久^{1,2)}, 茂木 孝^{1,2)}, 山田浩一^{1,2)}, 村田 朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)}, 工藤翔二¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ⁽²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 慢性閉塞性肺疾患における閉塞性障害と冬季急性増悪及び医療費の相関 : アンケート調査による評価. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 2007. 5.
- 5) 藤田亜紀, 瀬川佳余, 山口敬子, 古舘隆子, 若林律子^{1,2)}, 茂木 孝^{1,2)}, 黒崎央子^{1,2)}, 石井健男^{1,2)}, 村田朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)} ⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ⁽²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 禁煙外来におけるうつ評価の重要性について. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2007. 11.
- 6) 古舘隆子, 石井健男^{1,2)}, 村田 朗^{1,2)}, 本橋典久^{1,2)}, 黒崎央子^{1,2)}, 山口敬子, 瀬川佳余, 若林律子, 藤田亜紀, 木田厚瑞¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ⁽²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : COPDにおける内臓脂肪評価の意義. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2007. 11.
- 7) 若林律子^{1,2)}, 石井健男^{1,2)}, 山口敬子, 瀬川佳余, 藤田亜紀, 古舘隆子, 村田 朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)} ⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ⁽²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : LINQを用いた慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の患者教育に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2007. 11.
- 8) 若林律子^{1,2)}, 石井健男^{1,2)}, 山口敬子, 瀬川佳余, 藤田亜紀, 古舘隆子, 村田 朗^{1,2)}, 木田厚瑞^{1,2)} ⁽¹⁾ 日本医科大学呼吸器内科, ⁽²⁾ 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : LINQを用いた慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の情報量と医療連携に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2007. 11.

21. 武蔵小杉病院付置施設等

[武蔵小杉病院消化器病センター]

研究概要

消化器病センターは消化器外科医，内科医により構成され，消化器疾患全般の診断から治療まで一貫した幅広い診療および研究を行っている。研究概要としては，消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めている。

【悪性疾患】

1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究（老人病研究所との共同研究）
2. 胃癌，大腸癌における化学療法・分子標的治療に関する基礎的研究・臨床病理学的研究
3. 肝細胞癌，膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究（老人病研究所との共同研究）
4. 消化器癌の集学的治療，抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌，大腸癌化学療法の確立
5. 進行膵・胆道癌に対する，血管合併切除を伴う拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求
6. 肝臓癌に対する集学的治療
7. 消化器癌に対する低侵襲手術（腹腔鏡補助下胃切除術，腹腔鏡補助下大腸切除術，胸腔鏡補助下食道切除術）の技術改良と標準化
8. 早期癌に対する内視鏡治療（EMR・ESD）
9. IVRを応用した消化管，胆道，血管内ステント治療 10. 閉塞性黄疸に対する減黄術（PTCD，内視鏡的ステント）

【緊急疾患】

1. イレウスの保存的・外科的治療，病態解析，新しい診断と治療の開発
2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療，臨床的研究
3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究
4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求

【良性疾患】

1. 胃十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* の臨床的・基礎的研究
2. 胆道結石に対する内視鏡的治療（EST+EPBD）・腹腔鏡手術（腹腔鏡下胆嚢摘出術・総胆管載石術）の技術改良と標準化
3. 創傷治癒，外科侵襲に関する基礎研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Katsube T¹⁾, Ogawa K¹⁾, Ichikawa M²⁾, Fujii M³⁾, Tokunaga A, Takagi Y⁴⁾, Kochi M³⁾, Hayashi K⁵⁾, Kubota T⁶⁾, Aiba K⁷⁾, Arai K⁸⁾, Terashima M⁹⁾, Kitajima M¹⁰⁾ (1) Department of Surgery, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, (2) Department of Digestive and General Surgery, Saitama Medical School, (3) Department of Digestive Surgery, Nihon University School of Medicine, (4) Third Department of Surgery, Tokyo Medical University, (5) Institute of Gastroenterology, Tokyo Women's Medical University, (6) Center for Comprehensive and Advanced Medicine, Keio University Hospital, (7) Clinical Oncology, Jikei University School of Medicine, (8) Department of Surgery, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, (9) De-

- partment of Surgery I, Fukushima Medical University , ¹⁰⁾ Department of Surgery, School of Medicine, Keio University) : Phase I/II study of irinotecan (CPT-11) and S-1 in the treatment of advanced gastric cancer. *Anti-Cancer Drugs* 2007 ; 18 (5) : 605-610.
- 2) Shioya T¹⁾, Yoshino M¹⁾, Ogata M¹⁾, Shibuya T¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Matsumoto K²⁾, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Successful Treatment of a Colonic Ulcer Penetrating the Urinary Bladder Caused by the Administration of Calcium Polystyrene Sulfonate and Sorbitol. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (5) : 359-363.
- 3) Yoshino M, Ishiwata T¹⁾, Watanabe M, Matsunobu T, Komine O, Ono Y, Yamamoto T, Fujii T, Matsumoto K²⁾, Tokunaga A, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, ²⁾ Division of Pathology, Musashikosugi Hospital of Nippon Medical School) : Expression and roles of keratinocyte growth factor and its receptor in esophageal cancer cells. *International Journal of Oncology* 2007 ; 31 : 721-728.
- 4) Kurihara-Yuji Y¹⁾, Yamakawa-Taturou T¹⁾, Yoshino-Masanori M, Ogata-Masao M, Watanabe-Masanori M, Tokunaga-Akira A, Tajiri-Takashi T²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Keihin General Hospital, Kanagawa, ²⁾ Surgery for Organ and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Experience with Direct Kugel Patch Method for Repair of Adult Inguinal Hernia. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (1) : 28-31.
- 5) 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 安部 仁¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター) : 【食道癌に対する Less invasive surgery の工夫 開胸手術と鏡視下手術】鏡視下手術 (VATS) VATSにおける剥離・切離・結紮. *消化器外科* 2007 ; 30 (2) : 189-198.
- 6) 加藤俊二¹⁾, 奥田武志¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 山下直行¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 徳永 昭, 田尻孝¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学) : Percutaneous Trans-Esophageal Gastro-tubing (PTEG) の有用性 PEG不能例における経管栄養法および癌性腹膜炎による消化管閉塞症状緩和における Palliation 手術として. *日医大医学会誌* 2007 ; 3 (3) : 128-135.
- 7) 栗原雄司, 山川達郎, 徳永 昭¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾ (¹⁾ 京浜総合病院外科) : 胃潰瘍穿孔を呈した巨大胃石の1例. 2007 ; 70 (2) : 72-74.
- 8) 吉野雅則, 吉野雅武¹⁾, 小山雅章, 小峯 修, 水谷 聡, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭 (¹⁾ 吉野医院) : 経鼻内視鏡の有効性と問題点/Transnasal Esophagogastroduodenoscopy : Utility and problem. *Progress of Digestive Endoscopy* 2007 ; 70 (2) : 27-30.
- 9) 栗原雄司 : 当院における Direct Kugel Patch による成人鼠径ヘルニア修復術の検討. *川崎医師会医学会誌* 2007 ; 24 : 13-15.
- 10) 宮本正章¹⁾, 高木 元²⁾, 高野仁司²⁾, 川中秀和²⁾, 大坪春美²⁾, 水野博司³⁾, 松田範子⁴⁾, 秋丸琥甫⁴⁾, 徳永昭, 高橋将文⁵⁾, 池田宇一⁵⁾, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院再生医療科, ²⁾ 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ³⁾ 日本医科大学形成外科学, ⁴⁾ 日本医科大学外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ⁵⁾ 信州大学大学院医学系研究科循環器病態学) : 【膠原病の合併症とその対策】膠原病による難治性皮膚潰瘍とその対策. *リウマチ科* 2008 ; 39 (2) : 149-155.
- (2) 研究報告書 :
- 1) Mizutani S, Shioya T, Maejima K, Yoshino M, Komine O, Bou H, Ogata M, Watanabe M, Shibuya T¹⁾, Tokunaga A, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Omiya Medical Association Hospital, ²⁾ Surgery for Organ Function and Biology Regulation, Graduate School of Medicine Nippon Medical School) : Significance of Gastrectomy as Palliative Surgery for Gastric Carcinoma with Pyloric Stenosis. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (3) : 241-245.

(3) 症例報告：

- 1) Ogata M, Chihara N, Matsunobu T, Koizumi M, Yoshino M, Shioya T, Watanabe M, Tokunaga A, Tajiri T¹⁾, Matsumoto K²⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Reguration, Graduate School of Medicine, NMS, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital) : A Case of Intra-abdominal Endocrine Tumor Possibly Arising from an Ectopic Pancreas. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (2) : 168-172.
- 2) Ogata M, Maejima K, Chihara N, Mizutani S, Komine O, Bo H, Shioya T, Watanabe M, Tokunaga A, Tajiri T¹⁾ (1) Surgery for Organ Function and Biological Reguration, Graduate School of Medicine, NMS) : Successful Use of Endoscopic Argon Plasma Coagulation for Patients with Early Gastric Cancer and Diabetes Mellitus. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (3) : 246-250.
- 3) Maejima K, Watanabe M, Komine O, Mizutani S, Bo H, Tokunaga A, Tajiri T¹⁾ (1) 付属病院第一外科) : Granulocyte-colony stimulating factor-producing esophageal carcinosarcoma : a case report. Esophagus 2007 ; 4 (3) : 117-120.
- 4) 尾形昌男, 千原直人, 杠葉 良, 小泉正樹, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 上田康晴¹⁾, 望月 徹¹⁾, 黒川 顯¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (1) 武蔵小杉病院救命救急センター, 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 経肛門的直腸内異物の3例. 消化器科 2007 ; 44 (4) : 434-438.
- 5) 豊田哲鎬, 吉野雅則, 野村 聡, 埴 秀暎, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 狭窄を呈した反復性大腸憩室炎に対する腹腔鏡補助下結腸切除の1例. Progress Digestive Endoscopy 2007 ; 71 (2) : 96-97.

著 書

- 1) 木山輝郎¹⁾, 徳永 昭 (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : [共著] 創傷治癒と栄養. 新臨床栄養学 (岡田 正 馬場忠雄 山城雄一郎), 2007 ; pp143-148, 医学書院.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) 尾崎卓司, 尾形昌男, 千原直人, 吉野雅則, 水谷 聡, 南部弘太郎, 栗原雄司, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 便潜血反応陽性にて紹介された患者に対する全大腸内視鏡検査の成績と治療内容の解析. 第3回日本消化管学会, 2007. 2.
- 2) 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 尾形英生¹⁾, 岡田洋次郎¹⁾, 清水 尚¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 安部 仁¹⁾, 川島吉之¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科) : 大腸sm癌とmp癌のリンパ節転移. 第66回大腸癌研究会, 2007. 1.
- 3) 小泉正樹^{1,3)}, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 尾形英生¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 岡田洋二郎¹⁾, 清水 尚¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 安部 仁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 川島吉之¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村ゆう²⁾, 黒住昌史²⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 1年間の経過を追えた巨大胃GISTの1切除例. 第804回外科集談会, 2007. 3.
- 4) 清水 尚¹⁾, 安部 仁¹⁾, 川島吉之¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 尾形英生¹⁾, 岡田洋次郎¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 本田隆司²⁾, 黒住昌史³⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター形成外科, 3) 埼玉県立がんセンター病理) : 同時性下咽頭癌食道癌術後, 再建腸管 (胸壁前空腸) に再発した1例. 第804回外科集談会, 2007. 3.
- 5) 星野有哉, 塩谷 猛, 水谷 聡, 前島顕太郎, 尾崎卓司, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳

腺・移植部門))：ERCP後膵炎予防にたいしてニトロ製剤投与の検討。第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2007. 11.

(1) ワークショップ：

- 1) 千原直人，徳永 昭，杠葉 良，水谷 聡，田尻 孝¹⁾，麻生定光²⁾，太田成男²⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科，²⁾ 医学加齢科学系専攻細胞生物学分野)：Cybridを用いた大腸癌化学療法の基礎的研究。第16回日本癌病態治療研究会，2007. 6.
- 2) 杠葉 良，徳永 昭，千原直人，水谷 聡，田尻 孝¹⁾，麻生定光²⁾，太田成男²⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科，²⁾ 大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野)：S-1感受性を擬した大腸癌の抗癌剤感受性試験とミトコンドリアDNAの変異。第16回日本癌病態治療研究会，2007. 6.
- 3) 千原直人，徳永 昭，杠葉 良，豊田哲鍋，野村 聡，埜 秀暁，水谷 聡，坊 英樹，田尻 孝¹⁾，麻生定光²⁾，太田成男²⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科，²⁾ 医学加齢科学系専攻細胞生物学分野)：大腸癌細胞株における抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連。第18回日本消化器癌発生学会，2007. 11.
- 4) 杠葉 良，徳永 昭，千原直人，水谷 聡，吉野雅則，尾形昌男，田尻 孝¹⁾，麻生定光²⁾，太田成男²⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科，²⁾ 大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野)：大腸癌におけるS-1感受性を擬したCD-DST法とミトコンドリアDNAの変異。第18回日本消化器癌発生学会，2007. 11.
- 5) 渡辺昌則，前島顕太郎，松信哲朗，吉野雅則，小峯 修，水谷 聡，坊 英樹，尾形昌男，山下浩二¹⁾，原口秀司¹⁾，徳永 昭，田尻 孝²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院外科，²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：外科医主導型の外来化学療法室の運営。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 11.
- 6) 豊田哲鍋，野村 聡，埜 秀暁，近藤恭司，尾碕卓司，前島顕太郎，松信哲朗，吉野雅則，坊 英樹，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：治療に難渋した大腸憩室炎・憩室出血の症例。第69回日本臨床外科学会総会，2007. 12.

(2) 一般講演：

- 1) Maejima K, Matsunobu T, Mizutani S, Komine O, Yoshino M, Bo H, Shioya T, Ogata M, Watanabe M, Tokunaga A, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：Elderly patients with gastric cancer. 7th International Gastric Cancer Congress (Brazil), 2007. 5.
- 2) Chihara N, Tokunaga A, Yuzuriha R, Mizutani S, Tajiri T¹⁾, Asoh S²⁾, Ohta S²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School , ²⁾ Institute of Gerontology, Nippon Medical School)：Association of somatic mutations in mitochondrial DNA with anti-cancer drug resistance upon colorectal cancer cells. . AFCP (Japan), 2007. 9.
- 3) 尾碕卓司，尾形昌男，前島顕太郎，千原直人，吉野雅則，水谷 聡，栗原雄司，坊 英樹，徳永 昭，田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：High incidence of advanced colorectal cancer in patients underwent total colonoscopy for fecal occult blood test. 第11回アジア国際学会 (東京)，2007. 9.
- 4) 尾碕卓司，尾形昌男，前島顕太郎，千原直人，吉野雅則，水谷 聡，栗原雄司，坊 英樹，徳永 昭，田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：High incidence of advanced colorectal cancer in patients underwent total colonoscopy for fecal occult blood test. 第11回アジア国際学会 (東京)，2007. 9.
- 5) Yuzuriha R, Tokunaga A, Chihara N, Mizutani S, Yoshino M, Tajiri T¹⁾, Asoh S²⁾, Ohta S²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School Hospital, ²⁾ Institute of Gerontology, Nippon Medical School)：Chemosensitivity of S-1 and Somatic Mutations of mitochondrial DNA in Surgically Resected Colon Cancer. The 11th Congress of Asian Federation of Coloproctology (Tokyo), 2007. 9.
- 6) Yoshino M, Ogata M, Maejima K, Ninomiya R, Mizutani S, Komine O, Bo H, Shioya T, Watanabe M,

- Tokunaga A, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Two Remarkably Effective Cases of FOLFOX or FOLFIRI for Unresectable Advanced Colorectal Cancer. The 11th Congress of Asian Federation of Coloproctology (Tokyo), 2007. 9.
- 7) Ogata M, Yoshino M, Chihara N, Mizutani S, Komine O, Bo H, Shioya T, Watanabe M, Tokunaga A, Tajiri T¹⁾ (1) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Laparoscopic Surgery for Colonic Cancer in a University Branch Hospital. The 11th Congress of Asian Federation of Coloproctology (Tokyo), 2007. 9.
- 8) 埜 秀暁, 渡辺昌則, 豊田哲鎬, 野村 聡, 小峯 修, 坊 英樹, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 巨大後腹膜脂肪肉腫の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 12.
- 9) 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 青笹季文¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾ (1) 大宮医師会市民病院) : *H. pylori*除菌後に十二指腸潰瘍穿孔を発生した1例. 第808回外科集談会, 2008. 3.
- 10) 尾碕卓司, 尾形昌男, 千原直人, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : Significance of total colonoscopy for patients with positive fecal occult blood test. 第66回日本癌学会, 2007. 10.
- 11) 千原直人, 徳永 昭, 杠葉 良, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (1) 臓器病態制御外科, 2) 医学加齢科学系専攻細胞生物学分野) : 大腸癌細胞における抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 12) 尾碕卓司, 尾形昌男, 千原直人, 吉野雅則, 水谷 聡, 南部弘太郎, 栗原雄司, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 便潜血反応陽性にて紹介された患者に対する全大腸内視鏡検査の成績と治療内容の解析. 第107回日本外科学会, 2007. 4.
- 13) 杠葉 良, 徳永 昭, 千原直人, 近藤恭司, 前島顕太郎, 水谷 聡, 坊 英樹, 渡辺昌則, 木山輝郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (1) 臓器病態制御外科, 2) 大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野) : 消化器癌における抗癌剤感受性試験とミトコンドリアDNAの変異. 第107回日本外科学会, 2007. 4.
- 14) 渡辺昌則, 松信哲朗, 吉野雅則, 石渡俊行¹⁾, 近藤恭司, 尾碕卓司, 前島顕太郎, 小峯 修, 水谷 聡, 坊 英樹, 塩谷 猛, 内藤善哉¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学), 2) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 消化管癌のtumorigenesisにおけるKeratinocyte growth factor receptor (KGFR)とそのligandsの役割. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 15) 小峯 修¹⁾, 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 安倍 仁¹⁾, 吉川朱美²⁾, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝³⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 東京大学医学部付属病院胃食道外科, 3) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 胸腔鏡補助下食道切除術の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 16) 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 南部弘太郎, 水谷 聡, 塩谷 猛, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学 第一外科) : 肝葉腺頭十二指腸切除時の肝管および挙上空腸脚内の低圧持続吸引による胆汁膵液外瘻の経験. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 17) 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 菅野仁志¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 奥田武志¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 胃切除後症候群に対する積極的介入治療のエビデンス 体重減少, *H. pylori*除菌治療, 骨代謝障害, 貧血, VitB12欠乏, 逆流および残胃症状と残胃炎との関連. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 18) 川島吉之¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 田中洋一¹⁾, 清水 尚¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 安部 仁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 黒住昌史²⁾, 岡田洋次郎¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 尾形英生¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理) : 超高齢者 (80才以上) 胃癌切除例の検討. 第107回日本外科学会定期学術総会, 2007. 4.
- 19) 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 水口義昭¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 南部弘太郎, 水谷 聡, 塩谷 猛, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 肝葉腺頭十二指腸切除

- 時の肝管および挙上空腸脚内の低圧持続吸引による胆汁膵液外瘻の経験. 第107回日本外科学会定期学術集会, 2007. 4.
- 20) 埜 秀暁, 小峯 修, 野村 聡, 豊田哲鎬, 近藤恭司, 松信哲朗, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 診断に難渋した急性虫垂炎の4例. 第805回外科集談会, 2007. 6.
- 21) 小峯 修, 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 坊 英樹, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 食道癌遠隔転移 (肝・肺) に対するDCF療法の1奏功例. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 22) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 食道癌術後重症肝不全の1例. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 23) 埜 秀暁, 小峯 修, 野村 聡, 豊田哲鎬, 近藤恭司, 松信哲郎, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 診断に難渋した急性虫垂炎の4例. 第805回外科集談会, 2007. 6.
- 24) 南部弘太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 山田太郎¹⁾, 青笹季文¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 徳永 昭 (1) 大宮医師会市民病院外科): 胃切除後吻合部に起こった出血性小腸潰瘍の1例. 第805回外科集談会, 2007. 6.
- 25) 豊田哲鎬, 吉野雅則, 野村 聡, 埜 秀暁, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 狭窄を呈した反復性大腸憩室炎に対する腹腔鏡補助下結腸切除の1例. 第84回日本消化器内視鏡関東地方会, 2007. 6.
- 26) 野村 聡, 近藤恭司, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): PPI服用により軽快した抗血小板薬長期服用に伴うAGMLの1例. 第84回関東内視鏡学会地方会, 2007. 6.
- 27) 前島顕太郎, 近藤恭司, 松信哲朗, 水谷 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 高齢者 (70歳以上) 胃癌手術症例の検討: 合併症・在院死の減少をめざして. 第62回日本消化器外科学会総会, 2007. 7.
- 28) 千原直人, 徳永 昭, 杠葉 良, 水谷 聡, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (1) 臓器病態制御外科, 2) 老人病研究所生化学部門): FOLFOXを指標とした大腸癌治療: in vitro抗癌剤感受性試験の樹立とミトコンドリアDNA変異. 第62回消化器外科学会, 2007. 7.
- 29) 尾崎卓司, 尾形昌男, 千原直人, 吉野雅則, 水谷 聡, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 便潜血反応陽性者に対する全大腸内視鏡で発見された大腸癌に対する治療. 第62回日本消化器外科学会, 2007. 7.
- 30) 水谷 聡, 塩谷 猛, 星野有哉, 南部弘太郎, 前島顕太郎, 二宮理貴, 渡辺昌則, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (1) 大宮医師会市民病院外科, 2) 日本医科大学外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 26臍頭十二指腸切除・Child再建術後に発症した膵液漏の特徴と対策 (閉鎖式吸引ドレーン使用において). 第62回日本消化器外科学会 (東京), 2007. 7.
- 31) 小峯 修, 渡辺昌則, 松信哲朗, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 切除不能・再発食道癌に対するDocetaxel (TXT) +CDDP+5-FU併用療法 (DCF療法) の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 2007. 7.
- 32) 杠葉 良, 徳永 昭, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男¹⁾ (1) 臓器病態制御外科, 2) 大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野): S-1を指標とした大腸癌治療の基礎的研究: in vitro抗癌剤感受性試験の樹立とmtDNA変異. 第62回日本消化器外科学会, 2007. 7.
- 33) 渡辺昌則, 松信哲朗, 吉野雅則, 前島顕太郎, 小峯 修, 水谷 聡, 坊 英樹, 石渡俊行¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (1) 日本医科大学病理, 2) 日本医科大学外科): 消化管癌におけるKeratinocyte growth factor (KGF) と

receptorの役割. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.

- 34) 坊 英樹, 野村 聡, 豊田哲鎬, 埜 秀暁, 二宮理貴, 近藤恭司, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾
(¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当科における上部消化管穿孔性腹膜炎に対する治療の検討. 第39回胃病態機能研究会, 2007. 7.
- 35) 埜 秀暁, 星野有哉, 塩谷 猛, 水谷 聡, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): アメーバ性肝膿瘍の1例. 消化器病学会 第295回関東支部例会, 2007. 7.
- 36) 青笹季文¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院外科): 画像診断上IPMTの像を呈した原発性十二指腸癌の1切除例. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 37) 川島吉之¹⁾, 田中洋一¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 安部 仁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 黒住昌史²⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター消化器外科, ²⁾ 埼玉県立がんセンター病理): 噴門側残胃の癌の臨床病理学的検討と治療. 第62回日本消化器外科学会定期学術総会, 2007. 7.
- 38) 水谷 聡, 塩谷 猛, 星野有哉, 野村 聡, 豊田哲鎬, 埜 秀暁, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院外科, ²⁾ 日本医科大学外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 急性胆管炎中等症に対する緊急ERBDの適応に対する検討. 第43回日本胆道学会 (東京), 2007. 9.
- 39) 埜 秀暁, 豊田哲鎬, 野村 聡, 水谷 聡, 星野有哉, 渡辺昌則, 徳永 昭, 遠藤直哉¹⁾, 織井恒安¹⁾, 日置正文¹⁾, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院外科, ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 人工血管がileusの原因となった1例. 第806回外科集談会, 2007. 9.
- 40) 南部弘太郎, 塩谷 猛, 星野有哉, 水谷 聡, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院外科, ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当センターにおける閉塞性黄疸に対する胆道ドレナージ治療. 第43回日本胆道学会, 2007. 9.
- 41) 塩谷 猛, 星野有哉, 水谷 聡, 南部弘太郎, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 高齢者急性胆嚢炎の治療. 第43回日本胆道学会, 2007. 9.
- 42) 水谷 聡, 塩谷 猛, 星野有哉, 野村 聡, 豊田哲鎬, 埜 秀暁, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院外科, ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 急性胆管炎中等症に対する緊急ERBDの適応に対する検討. 第43回日本胆道学会 (東京), 2007. 9.
- 43) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎¹⁾, 杠葉 良, 千原直人, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): TS-1を用いた胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性の検討. 第45回日本癌治療学会総会, 2007. 10.
- 44) 千原直人, 徳永 昭, 杠葉 良, 水谷 聡, 尾形昌男, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科, ²⁾ 老人病研究所生化学部門): 大腸癌細胞株における抗癌剤耐性とミトコンドリアDNA体細胞変異の関連. 第66回日本癌学会, 2007. 10.
- 45) 森 貴子¹⁾, 寺管野まき子¹⁾, 村田 優¹⁾, 松本典子¹⁾, 小口裕子¹⁾, 斉藤美香¹⁾, 山中富美代¹⁾, 今井サチ子¹⁾, 青笹季文²⁾, 渋谷哲男²⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院看護部, ²⁾ 大宮医師会市民病院外科): クリニカルパス導入による意識変化と波及効果. 第8回日本クリニカルパス学会学術集会, 2007. 10.
- 46) 前島顕太郎, 野村 聡, 豊田哲鎬, 近藤恭司, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 付属病院第一外科): 幽門側胃切除術後の残胃癌の検討. 第37回胃外科・術後障害研究会, 2007. 11.
- 47) 小峯 修¹⁾, 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 安倍 仁¹⁾, 吉川朱美²⁾, 坂本裕彦¹⁾, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝³⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター消化器外科, ²⁾ 東京大学胃食道外科, ³⁾ 日本医科大学外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 食道癌に対する胸腔鏡補助下食道切除術の検討. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 2007. 11.

- 48) 杠葉 良, 徳永 昭, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 尾形昌男, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科, ²⁾ 大学院医学研究科加齢科学専攻細胞生物学分野): Chemosensitivity of S-1 and Somatic Mutations of mtDNA in Surgically Resected Colorectal Cancer. 第66回日本癌学会, 2007. 11.
- 49) 吉野雅則, 尾形昌男, 前島顕太郎, 豊田哲鎬, 二宮理貴, 杠葉 良, 松信哲朗, 千原直人, 渡辺昌則, 徳永昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 地域密着型病院における外科医主導の大腸癌化学療法. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 50) 吉野雅則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 尾崎卓司, 小峯 修, 星野有哉, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当科における切除不能進行再発大腸癌に対するFOLFOX, FOLFIRI療法. 第62回日本大腸肛門病学会, 2007. 11.
- 51) 尾形昌男, 吉野雅則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 小泉正樹, 千原直人, 水谷 聡, 小峯 修, 坊 英樹, 星野有哉, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 鈴木英之¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当科での腹腔鏡下大腸切除術症例の成績. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 52) 尾形昌男, 吉野雅則, 尾崎卓司, 前島顕太郎, 松信哲朗, 小泉正樹, 小峯 修, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 鈴木英之¹⁾, 渋谷哲男²⁾, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾ 大宮医師会市民病院外科): 当科における腹腔鏡下大腸切除術症例の検討. 第62回日本大腸肛門病学会, 2007. 11.
- 53) 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 青笹季文¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院外科, ²⁾ 日本医科大学外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 直腸印環細胞癌の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 54) 星野有哉, 塩谷 猛, 水谷 聡, 小峯 修, 松信哲朗, 前島顕太郎, 千原直人, 杠葉 良, 尾崎卓司, 近藤恭司, 二宮理貴, 佐藤精一, 野村 聡, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 急性胆嚢炎の治療. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 55) 青笹季文¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院外科): 膵腺扁平上皮癌の1切除例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 56) 塩谷 猛, 星野有哉, 水谷 聡, 南部弘太郎, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 腹腔鏡下胆嚢摘出後に発見された胆嚢癌の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 57) 塩谷 猛, 近藤恭司, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 星野有哉, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 早期直腸癌に対する経仙骨的直腸切除術の工夫. 第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 2007. 11.
- 58) 青笹季文¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院外科): 膵腺扁平上皮癌の1切除例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 59) 野村 聡, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 癌好発家系の若年性男性に生じた胃悪性リンパ腫の1例. 神奈川臨床外科学会, 2007. 11.
- 60) 渋谷健太郎¹⁾, 福田直人¹⁾, 丸野 要¹⁾, 杉山保幸¹⁾, 村田宣夫¹⁾, 徳永 昭 (¹⁾ 帝京大学医学部附属溝口病院外科): 術後38年目に皮膚・リンパ節転移を来した乳癌の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 61) 栗原雄司¹⁾, 山川達郎¹⁾, 徳永 昭 (¹⁾ 京浜総合病院外科): 上腰ヘルニア1症例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 62) 松田範子¹⁾, 秋丸琥甫²⁾, 木山輝郎²⁾, 宮本正章³⁾, 徳永 昭, 森山雄吉, 坂本篤裕⁴⁾, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 附属病院ME部, ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ³⁾ 付属病院再生医療科, ⁴⁾ 麻酔科学): 骨軟部組織損傷・感染症に対する高気圧酸素治療: 当施設における四肢末端難治性潰瘍の治療. 第42回日本高気圧環境・潜水医学会, 2007. 11.

- 63) 徳永 昭, 森山雄吉, 松田範子¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 高気圧酸素治療のエビデンスと標準化: 末梢循環不全, 創傷治癒, 難治性潰瘍に対する高気圧酸素治療. 第42回日本高気圧環境・潜水医学会, 2007. 11.
- 64) 宮本正章¹⁾, 高木 元¹⁾, 太良修平¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高野仁司¹⁾, 川中秀和¹⁾, 高木郁代¹⁾, 水野博司²⁾, 松田範子³⁾, 秋丸琥甫³⁾, 徳永 昭, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), 2) 形成外科学, 3) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 治療抵抗性末梢動脈疾患に対する先進併用療法: マゴットセラピー, 高気圧酸素療法, 自己骨髄幹細胞による血管新生療法を併用した新治療法. 第42回日本高気圧環境・潜水医学会, 2007. 11.
- 65) 加藤俊二¹⁾, 宮田広樹¹⁾, 奥田武志¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 徳永昭, 山下直行¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 進行胃癌の癌性腹膜炎再発の集学的治療: 緩和手術およびPTEGの併用とアジュバント療法. 第47回日本癌治療学会総会, 2007. 11.
- 66) 福田直人¹⁾, 杉山保幸¹⁾, 村田宣夫¹⁾, 徳永 昭, 坊 英樹, 石丸正寛²⁾, 鈴木宏幸²⁾ (1) 帝京大学医学部附属溝口病院外科, 2) 関東労災病院外科): 進行・再発胃癌に対するCPT-11 + S-1併用治療法の検討. 第47回日本癌治療学会, 2007. 11.
- 67) 尾形英生¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 泉里豪俊¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 清水 尚¹⁾, 安部 仁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 西村洋治¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 無症状で見えられた早期胃癌合併膵ガストリノーマの1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 68) 川島吉之¹⁾, 田中洋一¹⁾, 清水 尚¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 安部 仁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 黒住昌史²⁾, 浅香晋一¹⁾, 尾形英生¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理): 胃癌による癌性骨髄症の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 69) 安部 仁¹⁾, 川島吉之¹⁾, 田中洋一¹⁾, 泉里豪俊¹⁾, 尾形英生¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 清水尚¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 西村洋治¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 黒住昌史²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理): 胃小細胞癌の2例. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 70) 坂本裕彦¹⁾, 網倉克己¹⁾, 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 清水 尚¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 尾形英生¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 胆嚢癌の診断で切除した胆石胆嚢炎症例の検討 過大侵襲を避けるために. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 71) 近藤恭司, 吉野雅則, 塙 秀暁, 尾崎卓司, 前島顕太郎, 小峯 修, 坊 英樹, 栗原雄司, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 日本医科大学外科): 認知症患者に行った全大腸内視鏡検査で術前診断しえた直腸癌合併虫垂粘液嚢胞腺腫の1例. 第62回大腸肛門病学会総会, 2007. 11.
- 72) 水谷 聡, 塩谷 猛, 星野有哉, 南部弘太郎, 塙 秀暁, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾ (1) 大宮医師会市民病院外科, 2) 日本医科大学外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 臍頭十二指腸切除後に発症した臍液漏の特徴とその対策 (閉鎖式吸引ドレーン使用において). 第69回日本臨床外科学会 (東京), 2007. 12.
- 73) 渡辺昌則, 塙 秀暁, 小泉正樹, 豊田哲鎬, 野村 聡, 前島顕太郎, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 当科におけるSSI対策とサーベイランスの結果. 第37回日本創傷治癒学会総会, 2007. 12.
- 74) 中村有希, 野村 聡, 二宮理貴, 吉野雅則, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 胃蜂窩織炎と考えられた急性胃炎の1例. 第297回日本消化器病学会関東地方会, 2007. 12.
- 75) 大前芳男¹⁾, 菊岡良孝¹⁾, 若林健司¹⁾, 橋本善弘¹⁾, 高橋保正²⁾, 太田 竜²⁾, 北村雅也²⁾, 関川浩司²⁾, 渡辺昌則 (1) 川崎幸病院消化器病センター内科, 2) 川崎幸病院消化器病センター外科): 大腸内視鏡にて診断・治療可能であった大腸Angiodysplasiaの1例. 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 12.

- 76) 中田亮輔, 吉野雅則, 尾形昌男, 豊田哲鎬, 埴 秀暁, 近藤恭司, 尾崎卓司, 星野有哉, 渡辺昌則, 徳永昭: 大腸EMR後11日目に見られた遅発性出血の1症例. 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 12.
- 77) 小西真理世, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 野村 聡, 前島顕太郎, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭: 当科におけるS状結腸軸捻転症の治療方針. 第85回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2007. 12.
- 78) 松信哲朗¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 泉里豪俊¹⁾, 尾形英生¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 清水 尚¹⁾, 安部仁¹⁾, 川島吉之¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): S状結腸癌術後, 異時性脾臓転移の1例. 第25回埼玉県外科集談会 (埼玉県), 2007. 12.
- 79) 塩谷 猛¹⁾ (1) 大宮医師会市民病院外科): 高齢者自己免疫性膵炎の1例. 第8回大宮医師会病診連携症例検討会, 2007. 12.
- 80) 野村 聡, 近藤恭司, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): S-1/CPT-11が著効した進行胃癌の1例. 第69回臨床外科学会総会, 2007. 12.
- 81) 松信哲朗¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 泉里豪俊¹⁾, 尾形英生¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 清水 尚¹⁾, 安部仁¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 西村ゆう²⁾, 黒住昌史²⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立癌センター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理科): 大腸癌術後に脾臓転移を含む多臓器転移を認め外科治療を施行した6症例. 第68回大腸癌研究会 (福岡), 2008. 1.
- 82) 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 尾形英生¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 清水 尚¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 安部 仁¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): 大腸癌腹膜播種症例の検討. 第68回大腸癌研究会 (福岡), 2008. 1.
- 83) 八岡利昌¹⁾, 赤木 究²⁾, 石窪 力³⁾, 浅香晋一¹⁾, 西村洋治¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科, 2) 埼玉県立がんセンター腫瘍診断・予防科, 3) 埼玉県立がんセンター消化器内科): 大腸癌多重癌の検討. 第68回大腸癌研究会 (福岡), 2008. 1.
- 84) 前島顕太郎, 小峯 修, 坊 英樹, 野村 聡, 豊田哲鎬, 埴 秀暁, 近藤恭司, 水谷 聡, 吉野雅則, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 幽門側胃切除術後の残胃癌の特徴. 第4回日本消化管学会総会, 2008. 2.
- 85) 前島顕太郎, 徳永 昭, 木山輝郎¹⁾, 菅野仁士¹⁾, 杠葉 良, 千原直人, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): S-1による胃癌術後補助化学療法における抗癌剤感受性試験の有用性. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 86) 坊 英樹, 徳永 昭, 村田宣夫¹⁾, 杉山保幸²⁾, 福田直人²⁾, 石丸正寛³⁾, 鈴木宏幸³⁾ (1) 帝京大学医療技術学部, 2) 帝京大学溝口病院外科, 3) 関東労災病院外科): 進行・再発胃癌に対するCPT-11+S-1併用治療法の検討 (2). 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 87) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 当科における腹腔鏡補助下噴門側胃切除術. 第80回日本胃癌学会総会, 2008. 2.
- 88) 尾形英生¹⁾, 西村洋治¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 戸谷裕之¹⁾, 清水 尚¹⁾, 安部 仁¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター消化器外科): UFT-UZEL療法の長期予後の検討. 第20回DIF研究会 (東京), 2008. 2.
- 89) 野村 聡, 豊田哲鎬, 前島顕太郎, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 癌好発家系の若年男性に生じた胃悪性リンパ腫の1例. 第80回胃癌学会総会, 2008. 2.
- 90) 近藤恭司, 千原直人, 尾崎卓司, 三浦克洋, 小峯 修, 坊 英樹, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (1) 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 当科における上部消化管出血の治療・背景. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 91) 千原直人, 徳永 昭, 杠葉 良, 水谷 聡, 吉野雅則, 尾形昌男, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (1) 臓

- 器病態制御外科,²⁾ 老人病研究所生化学部門)：大腸癌細胞株の抗癌剤感受性とミトコンドリアDNA体細胞変異：大腸癌細胞とHela細胞のCybridを用いた研究。第41回制癌剤適応研究会, 2008. 3.
- 92) 杠葉 良, 徳永 昭, 千原直人, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 尾形昌男, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (¹⁾ 臓器病態制御外科, ²⁾ 大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野)：大腸癌におけるS-1抗癌剤感受性試験とミトコンドリアDNAの変異。第41回制癌剤適応研究会, 2008. 3.
- 93) 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 青笹季文¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 山田太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾ (¹⁾ 大宮医師会市民病院外科)：肛門周囲膿瘍より発症したフルニエ症候群の1例。第42回大宮医学会総会, 2008. 3.
- 94) 豊田哲鎬, 野村 聡, 前島顕太郎, 尾崎卓司, 吉野雅則, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：下部消化管出血における緊急大腸内視鏡検査の意義。第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 95) 野村 聡, 豊田哲鎬, 中村有希, 尾崎卓司, 前島顕太郎, 吉野雅則, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：鳥骨によって生じた小腸穿孔の1例。第44回腹部救急医学会総会, 2008. 3.
- 96) 近藤恭司, 坊 英樹, 豊田哲鎬, 野村 聡, 埜 秀暁, 小峯 修, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門))：当科における上部消化管出血の治療戦略。第44回日本腹部救急医学会総会, 2008. 3.

[武蔵小杉病院病理部]

研究概要

外科病理が研究の主体であり、臨床各科と親密に連絡を取り合い、臨床各科から提出された材料を用い、外科病理学的な研究を行っています。例えば、胃癌材料を使用し、ウイルス感染の関係を蛋白発現や癌細胞の増殖, apoptosisや化学療法による癌細胞とapoptosisの関係等々の研究しています。また希有な症例については、免疫組織化学や遺伝子検索を行い分子生物学的見地から研究をしています。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ishii H¹⁾, Gobe G²⁾, Ebihara Y³⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Molecular and Cellular Pathology, School of Medicine, University of Queensland, ³⁾ Department of Pathology, Todachyo General Hospital)：p53 is an indicator of tumor progression in early but not advanced gastric carcinomas. Hepatogastroenterology 2007；54 (79)：2159-2163.
- 2) 堀越美枝子¹⁾, 石原 力¹⁾, 渋谷信行⁴⁾, 石井英昭³⁾, 伊古田勇人²⁾, 柏原賢治⁴⁾, 城下 尚⁵⁾, 村上正巳⁵⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部附属病院検査部, ²⁾ 群馬大学医学部附属病院内分泌内科, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ⁴⁾ 群馬大学医学部附属病院病理部, ⁵⁾ 群馬大学医学部附属病院検査部, 同大学院医学系科病態検査医学)：甲状腺の胸腺様分化を示す癌 (CASTLE) の1例。日本臨床細胞学会誌 2007；46 (6)：350-354.
- 3) 堀越美枝子¹⁾, 石原 力¹⁾, 石井英昭²⁾, 伊古田勇人³⁾, 山口由美子⁴⁾, 柏原賢治⁵⁾, 城下 尚⁶⁾, 村上正巳⁷⁾ (¹⁾ 群馬大学医学部附属病院病理部, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, ³⁾ 深谷赤十字病院検査部, ⁴⁾ 群馬大学医学部附属病院眼科, ⁵⁾ 済生会前橋病院検査科, ⁶⁾ 三思会 東邦病院病理部, ⁷⁾ 群馬大学大学院医学系病態検査医学)：アカントアメーバ角膜炎の3例：角膜擦過細胞診でのアカントアメーバ原虫の同定。日本臨床細胞学会誌 2008；47 (1)：48-52.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 中村祐司¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 斎藤良明¹⁾, 大塚俊司¹⁾, 大庭孝男¹⁾, 細根 勝²⁾, 劉 愛民⁴⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 2) 日本医科大学多摩永山病院病理部, 3) 日本医科大学病理学講座統御機構・腫瘍学, 4) 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設)：捺印細胞診併用により術中に推定診断し得た小腸原発T細胞性リンパ腫の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会(春期大会)(千葉), 2007. 6.
- 2) 斎藤良明¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 中村祐司¹⁾, 前本直子¹⁾, 大庭孝男¹⁾, 大塚俊司¹⁾, 深見武彦²⁾, 土居大祐²⁾, 石井英昭¹⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 2) 日本医科大学付属病院女性科産科, 3) 日本医科大学病理学講座)：術中捺印細胞診が有用であった卵巣移行上皮癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2007. 11.
- 3) 大塚俊司¹⁾, 中村祐司¹⁾, 前本直子¹⁾, 斎藤良明¹⁾, 松原美幸²⁾, 柳本邦雄¹⁾, 石井英昭¹⁾, ガジザデモハマツド⁴⁾, 内藤善哉³⁾, 土屋眞一²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, 2) 日本医科大学付属病院病理部, 3) 日本医科大学病理学講座, 4) 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設)：穿刺吸引細胞診が有用であった破骨細胞様巨細胞を伴った乳癌の1例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2007. 12.

[武蔵小杉病院中央検査室]

研究概要

当検査室は2006年9月に検体部門, 続いて2008年3月に生理機能部門のオーダーリングシステムが稼動した. それによりデータがより迅速に効率よく報告できるようになるとともに, 患者さんの検査室での待ち時間も短縮した. しかし検査室を取り巻く環境は依然厳しいが, 今後も経済性を考えた効率化, 精度正確さの更なる向上, 臨床側のニーズに合った新検査法の導入, 検査機器更新に向けた検討等により, 検査を通して医療に貢献してゆけるよう努力したい. 今年度の取り組みは,

- 1) スフィアライト180分析器によるHCVの検討
- 2) miniVIDASによるHCGの検討
- 3) マイコプラズマIgM抗体検出法の注意点解析
- 4) 小型便潜血分析装置QUICK RUNの性能評価
- 5) 尿中有形成分分析装置の比較検討
- 6) 輸血検査装置Auto Vue Innova導入へ向けての検討
- 7) 心エコーにおける組織ドプラ解析の検討
- 8) ABI陽性患者の心臓超音波検査の有用性の検討であった.

研究業績

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 成定昌昭, 加藤理絵, 白井一城, 山賀節子, 中島由美子, 菅原 通, 森本 進, 勝部康弘：小型便潜血分析装置QUICK RUNの性能評価. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 2) 渡辺敬志, 森本 進, 浅井逸子, 津金香代子, 勝部康弘：マイコプラズマIgM抗体検出法によるマイコプラズマ感染症診断の注意点解析. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 3) 隠岐和美, 西島美輝子, 越谷美由紀, 井出尚子, 荒井誠一, 荒木久美, 浅井逸子, 高久貴子, 井上雅則, 森本

進, 勝部康弘: ABI陽性患者の経胸壁心臓超音波検査の有用性. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

[武蔵小杉病院薬剤科]

研究概要

平成19年度は, 感染制御チーム (ICT) における研究と, 神奈川薬物相互作用研究会における多施設間の共同研究に力を注いだ. 感染制御チーム (ICT) の研究に関しては日本感染症学会において, グラム染色により起炎菌を推定し有効抗菌薬を決定して救命した症例の報告に携わった. また, 感染制御チーム (ICT) 内における薬剤業務として環境感染学会において, 抗菌薬の適正使用とICT活動の効果について検討した結果を発表した. 一方, 神奈川薬物相互作用研究会の多施設間共同研究に関しては日本プライマリ・ケア学会学術会議において, 健康食品と医薬品との相互作用に関して患者に対する使用状況調査の発表と, 医療従事者に対する意識調査に関しての発表に携わった. また, 日本医療薬学会においては, 多施設間共同で最近の脂質異常症に対する処方なかでHMG - CoA還元酵素阻害薬 (statin系) とTG系低下薬 (fibrate系) との併用処方をレトロスペクティブなデータに基づいて解析し発表するのに携わった. 鳥インフルエンザや市中感染症が世の中を脅かしている中で, 感染制御チーム (ICT) に関しての研究ができたことは意義のあることであった. また, 国民の健康面において『食の安全』, 『メタボリック・シンドローム』ということが注目されているなか, 健康食品と医薬品との相互作用に関して, 患者と医療従事者それぞれの意識について調査し考察を加えた事や, 脂質異常症薬の原則禁忌処方に関して調査解析した研究についても大変有意義であった.

研究業績

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 望月 徹^{1,2)}, 野口周作¹⁾, 渡辺昌則^{1,3)}, 鈴木憲康^{1,4)}, 山口朋禎^{1,5)}, 西澤善樹^{1,6)}, 土金なおみ^{1,7)}, 板倉剛志¹⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御チーム (ICT), 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター, 3) 同消化器病センター, 4) 同中央検査室, 5) 同内科, 6) 同小児科, 7) 同看護部): グラム染色による起炎菌の推定, WHO-NET5.3によるantibiogram算出から有効抗菌薬を決定して救命につながった重症胆道感染の1例. 第81回日本感染症学会総会, 2007. 4.
- 2) 伊東俊雅^{1,2)}, 伊藤淳雄¹⁾, 佐川賢一^{1,2)}, 阿部 博^{1,3)}, 池田 勉^{1,4)}, 小坂好男^{1,5)}, 鷺見正宏^{1,6)}, 関根寿一^{1,7)}, 依田啓司^{1,8)}, 柳川忠二^{1,9)}, 柴田徹一^{1,10)} (1) 神奈川薬物相互作用研究会, 2) 東京女子医科大学病院 薬剤部, 3) 東日本循環器病院 薬剤科, 4) 済生会若草病院 薬剤部, 5) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 6) 昭和大学藤が丘病院 薬剤部, 7) 横浜総合病院 薬剤部, 8) 国際親善総合病院 薬剤部, 9) 東邦大学 薬学部, 10) 日本薬科大学 薬学部): 健康食品と医薬品との相互作用に関する考察: 患者に対する使用状況調査. 第30回日本プライマリ・ケア学会学術会議, 2007. 5.
- 3) 花田真紀^{1,2)}, 伊藤淳雄¹⁾, 河野博充^{1,2)}, 阿部 博^{1,3)}, 池田 勉^{1,4)}, 鷺見正宏^{1,5)}, 関根寿一^{1,6)}, 依田啓司^{1,7)}, 小坂好男^{1,8)}, 柳川忠二^{1,9)} (1) 神奈川薬物相互作用研究会, 2) 帝京大学 医学部附属溝口病院 薬剤部, 3) 東日本循環器病院 薬剤部, 4) 済生会若草病院 薬剤部, 5) 横浜薬科大学 薬学部, 6) 横浜総合病院 薬剤部, 7) 国際親善総合病院 薬剤部, 8) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 9) 東邦大学 薬学部): 健康食品と医薬品との相互作用に関する考察: 医療従事者に対する意識調査. 第30回日本プライマリケア学会学術会議, 2007. 5.
- 4) 佐藤利之^{1,2)}, 伊藤淳雄¹⁾, 依田啓司^{1,2)}, 佐川賢一^{1,3)}, 伊東俊雅^{1,3)}, 河野博充^{1,4)}, 花田真紀^{1,4)}, 関根寿一^{1,5)}, 池田 勉^{1,6)}, 小坂好男^{1,7)}, 鷺見正宏^{1,8)}, 柴田徹一^{1,9)}, 柳川忠二^{1,10)} (1) 神奈川薬物相互作用研究会, 2) 国際親善総合病院 薬剤部, 3) 東京女子医科大学病院 薬剤部, 4) 帝京大学 医学部附属溝口病院 薬剤部,

- 5) 横浜総合病院 薬剤部, 6) 済生会若草病院 薬剤部, 7) 日本医科大学付属病院 薬剤部, 8) 横浜薬科大学 薬学部, 9) 日本薬科大学 薬学部, 10) 東邦大学 薬学部): HMG - CoA 還元酵素阻害剤とフィブラート製剤の併用について, 第17回日本医療薬学会年会, 2007. 9.
- 5) 野口周作^{1,2)}, 望月 徹^{1,3)}, 土金なおみ^{1,4)}, 鈴木憲康^{1,5)}, 山口朋禎^{1,6)}, 西澤善樹^{1,7)}, 渡辺昌則^{1,8)}, 片岡博邦²⁾ (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御チーム, (2) 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤科, (3) 同救命救急センター, (4) 同看護部, (5) 同中央検査室, (6) 同内科, (7) 同小児科, (8) 同外科): 抗菌薬適正使用とICT活動の効果. 第23回環境感染学会, 2008. 2.

[武蔵小杉病院看護部]

研究概要

1. 滅菌技師について.
2. 3滅菌について.
3. 新卒看護師の早期離職が問題となっている昨今, 各施設ではプリセプターシステムを主としたサポートを行っている. 先行研究の中から新人看護師の退職したいと思った要因支援システムにおける課題等様々な報告がされているが, 実際に退職した新人看護師を対象にした研究をされていなかった. そこで退職した新人看護師を対象にインタビューを行い退職に至るまでの様相を語ってもらった. 4名の参加者を得ることができ, 語りの中から共通の過程が見え, 新人看護師が退職に至るまでのプロセスが明らかとなり, それらを支援するためのいくつかの示唆を得ることができた.
4. 糖尿病の運動療法についてのレクチャーと実践.
5. 日本糖尿病対策推進会議作成の足チェックシートを使用し実態調査を行った. 足の自覚症状や外観の異常を感じている人が多く, フットケアの必要性を再認識した. この調査結果を他科の医師, 看護師, コメディカルにも周知し足の重要性をアピールした結果院内全体のフットケアユニットを立ち上げるに至った.
6. 手術室入室申し送り表の理解 (アンケート調査) から病棟, 手術室看護師の術前処置に対する認識の比較をし安全性を高める方向性を検討する.
7. 子育て支援のスタートを妊娠期から実施し, 妊婦, 母親間のつながりをもつことを意識した関わりを主とした交流会, 育児サークル活動へ展開していくグループ活動に着目した.
8. スタンダードプリコーションの徹底を図るためにアイシールド着用の定着に向けてアンケートをとり分析する.
9. NICUに入院している児の面会について父親は母親に比べて面会回数も少なく, 児とのふれあいに限りがある. 児の成長発達や愛着形成を促すためにタッチケアに注目し, 父親のタッチ前後の思いの変化を具体的に明らかにした.
10. 切迫早産と診断した常位胎盤早期剥離の2例について.

研究業績

論文

- 1) 村田道子, 中川エミ, 横尾香代子, 小河原美代子, 島田洋一¹⁾ (1) 武蔵小杉病院麻酔科): 病棟看護師と手術室看護師の術前処置に対する認識の比較: 「手術室入室・退室申し送り表」に理解度から考える. 日本手術医学会誌 2008; 29 (1): 35-36.

著書

- 1) 金子佳世: 「分担」インスリン導入時の患者教育とは?: 看護師が行うインスリン導入時の患者教育について教えてください. 肥満と糖尿病, 2007; pp637-638, 丹水社.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 石塚美代子：滅菌技師/士の活動とこれからの展望. 第82回日本医科器械学会, 2007. 5.
- 2) 舩谷寛子, 朝倉啓文¹⁾, 小河原美代子, 山本由香, 鎌田蘭子, 山崎めぐみ⁽¹⁾ 武蔵小杉病院女性診療科・産科)：育児サークル活動を視野に入れた妊娠期からのサポートシステム：妊婦交流会「うきうき☆ニンプ」を開催して. 第48回日本母性衛生学会, 2007. 10.
- 3) 富田賢一, 横尾香代子, 小河原美代子：手術室におけるスタンダードプリコーションの徹底に向けての一考察：アイシールド着用に関するアンケートを通して. 第21回日本手術看護学会 年次大会, 2007. 11.

(2) ワークショップ：

- 1) 石塚美代子：3滅菌法JIS原案作成. 日本医療機器学会, 2007. 10.
- 2) 石塚美代子：3滅菌法JIS原案作成. 日本医療機器学会, 2008. 2.

(3) 一般講演：

- 1) 瀧 知美, 望月瑠美, 金子佳世：当院通院中の糖尿病患者の足に関する自覚症状の実態調査：フットケアユニットの立ち上げのきっかけとして. 第12回日本糖尿病教育・看護学会, 2007. 9.
- 2) 村田道子, 中川エミ, 横尾香代子, 小河原美代子, 島田洋一¹⁾ (1) 武蔵小杉病院麻酔科)：病棟看護師と手術室看護師の術前処置に対する認識の比較：「手術室入・退室申し送り表」における理解度から考える. 第29回日本手術医学会総会, 2007. 9.
- 3) 小山美穂, 寒竹由香理, 齋藤 文, 郡山奈央子：NICUにおける父親の児へのタッチケアに伴う思いの変化. 第38回日本看護学会 小児看護, 2007. 9.

(4) その他

- 1) 中山亜希子, 吉賀尚子, 小河原美代子, 柿栖睦実¹⁾, 佐藤杏月¹⁾, 吉田有里¹⁾, 中井晶子¹⁾, 深見武彦¹⁾, 松島隆¹⁾, 土井大祐¹⁾, 可世木久幸¹⁾, 朝倉啓文¹⁾ (1) 武蔵小杉病院女性診療科・産科)：切迫早産と診断した常位胎盤早期剥離の2例. 第29回分娩監視研究会, 2007. 6.
- 2) 牧山紀子：退職した新人看護師の体験. 第11回日本看護管理学会 年次大会, 2007. 8.
- 3) 金子佳世：今日からあなたも運動療法の達人. 日本糖尿病教育看護学会, 2007. 9.

22. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養，免疫組織化学，電子顕微鏡部門が充実し，臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり，研究部門もさらに充実してきた．現在の主な研究テーマは以下の通りである．

1. 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断（外来・病棟・術中・剖検時）の確立．
2. 免疫細胞・組織化学（サイトケラチン7/20/34 β E12/35 β H11, MIB-1, Napsin A, Villin）を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立．
3. 乳腺腫瘍
 - 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立；細胞転写法を用いてER, PgR, HER2蛋白質，MIB-1指数の他，HER2に関しては蛋白の過剰発現と遺伝子増幅（CISH）の両方を検討する．
 - 2) 乳癌における，ホルモンレセプターと細胞骨格，接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究；HER2タンパク質と基底膜分解酵素について．
4. 細胞転写法による中皮腫の免疫細胞学的診断法の確立（特異抗体；カルレチニン，CK5/6，メゾテリン，D2-40, WT1など）．
5. 骨軟部腫瘍
 - 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）．
6. 子宮癌
 - 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）とくにセルブロック法．
7. リンパ節病変
 - 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ．
 - 2) リンパ節病変の分子生物学的検索．
 - 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Iwase H, Kawano K, Yanagida Y : Definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology : Use of the cell transfer method or cell bloc method for immunochemical staining. J. Jpn. Soc. Clin. Cytol 2008 ; 47 (2) : 103-110.
- 2) 前田昭太郎，片山博徳，榎 清美，内藤善哉¹⁾ (1) 病理学第2) : 東南アジア（タイ王国・ラオス人民民主共和国）における診断病理．病理と臨床 2007 ; 25 (6) : 573-579.

(2) 症例報告：

- 1) Maeda S, Katayama H, Iwase H, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School) : A case report on pleural mesothelioma : Effective application of the cell block method to body cavity fluid cytological analysis. J. Jpn. Soc. Clin. Cytol 2007 ; 46 (6) : 386-390.
- 2) Maeda S, Katayama H, Yanagida Y, Iwase H, Hosone M, Naito Z¹⁾ (1) Dept. of Pathology) : Nodular fasciitis of breast diagnosed by fine needle aspiration cytology : A case report. J. Jpn. Soc. Clin. Cytol 2008 ; 47 (2) : 137-141.

著書

- 1) 前田昭太郎：〔分担〕第19章 乳腺. ルービン カラー病理学 Q&A (監訳者 坂本穆彦), 2008 ; pp255-265, 丸善.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 長澤重直¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 富樫章祥¹⁾, 松久威史²⁾, 松田 健²⁾, 水谷 崇²⁾, 津久井拓²⁾, 細根 勝, その他1名⁽¹⁾ 多摩永山病院 外科, ⁽²⁾ 多摩永山病院 消化器外科)：分子標的療法を導入した切除不能・術後再発 GIST・EGIST 症例と MAGE-A family 蛋白発現の関連について. 第29回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 2) 平田知己¹⁾, 竹内真吾¹⁾, 斉藤祐二¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 川島徹生¹⁾, 片山博徳, 前田昭太郎, 小泉 潔¹⁾, 清水雄一¹⁾ (⁽¹⁾ 外科学第2)：術前未確定診断の肺腫瘍に対する術中迅速細胞診の有用性. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 2006. 5.
- 3) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓¹⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝, 田尻 孝³⁾ (⁽¹⁾ 多摩永山病院 外科, ⁽²⁾ 多摩永山病院 消化器外科, ⁽³⁾ 外科学第1)：アポト-シス関連蛋白発現及び BIM-1 index からみた胃原発 Diffuse large B cell lymphoma の診断・治療に関する検討. 第15回日本癌病態治療研究会, 2006. 6.
- 4) 中田朋子¹⁾, 東 直行¹⁾, 河野美乃里¹⁾, 川名誠司¹⁾, 劉 愛民²⁾, 前田昭太郎 (⁽¹⁾ 多摩永山病院 皮膚科, ⁽²⁾ 中央電子顕微鏡研究施設)：Cellular Angiofibroma が疑われた1例. 日皮会第70回東京支部学術大会, 2007. 2.
- 5) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝, 飯田信也³⁾, 佐藤雄一⁴⁾, 田尻 孝³⁾ (⁽¹⁾ 多摩永山病院 外科, ⁽²⁾ 多摩永山病院 消化器外科, ⁽³⁾ 外科学第1, ⁽⁴⁾ 北里大学医療衛生学部遺伝子検査学教室)：胃癌組織における MAGE-A10 mRNA・蛋白発現の検討とその臨床応用について. 第79回日本胃癌学会総会, 2007. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 前田昭太郎：臨床に呼応した迅速細胞診. 第24回日本臨床細胞学会新潟県支部学術集会, 2007. 4.

(2) 招待講演：

- 1) Maeda S：Early Detection of Mesothelioma in Body fluid. The 9th National Cancer conference (Bangkok, Thailand), 2007. 12.
- 2) 前田昭太郎：静かな時限爆弾「中皮腫」. 日本臨床検査医学会学術集会, 2007. 11.

(3) 教育講演：

- 1) 前田昭太郎：乳腺の病理と細胞診. 平成19年度細胞検査士養成公開講座, 2007. 6.
- 2) 片山博徳：乳腺の細胞診. 平成19年度細胞検査士養成公開講座, 2007. 6.

(4) シンポジウム：

- 1) 前田昭太郎：細胞診と組織診のコラボレーション. 第36回日本病理学会関東支部学術集会, 2007. 9.

(5) セミナー：

- 1) 前田昭太郎：骨・軟部・中枢神経. 第32回細胞診断学セミナー, 2007. 8.
- 2) 細根 勝：リンパ節・胸腺・骨髄. 第32回細胞診断学セミナー, 2007. 8.

(6) ワークショップ：

- 1) Hosone M, Sugisaki Y, Maeda S, Naito Z：Extramedullary manifestation of neoplastic myeloid disorder：Case number 173. SH/EAHP 2007 Workshop-Case Display. 2007 Workshop of Society for Hematopathology

and European Association for Haematopathology (Indianapolis USA), 2007. 10.

- 2) Maeda S, Katayama H, Saito M¹⁾, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Silent time-bomb, mesothelioma. The 14th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Chiang Rai, Thailand), 2008. 1.

(7) 一般講演 :

- 1) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Definitive diagnosis of mesothelioma by effusion cytology : The utility of cell transfer method and/or cell block method for immunocytochemical staining. 16th International Congress of cytology (Vancouver, British Columbia, Canada), 2007. 5.
- 2) Katayama H, Maeda S, Hosone M, Naito Z¹⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Basic Examination of HER2 Gene in Breast Carcinoma by Chromogenic In Situ Hybridization : Application to fine-needle aspiration (FNA) cytology specimens. 16th International Congress of cytology (Vancouver, British Columbia, Canada), 2007. 5.
- 3) Naito Z¹⁾, Maeda S, Katayama H, Fujiwara Y¹⁾, Onda M¹⁾, Tuchiya S¹⁾ (1) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Cytopathologic Findings of Breast Carcinoma with Metaplasia, Matrix Producing Carcinoma. 16th International Congress of cytology (Vancouver, Canada), 2007. 5.
- 4) 柳田裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学第2) : 乳房内結節性筋膜炎の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会, 2007. 6.
- 5) 磯部宏昭, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 柳田裕美, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 内藤善哉¹⁾ (1) 病理学第2) : 臍術中迅速細胞診2ポイント採取法. 第48回日本臨床細胞学会総会, 2007. 6.
- 6) 中村祐司¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 斉藤良明¹⁾, 大塚俊司¹⁾, 細根 勝, 劉 愛民²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 武蔵小杉病院 病理部, ²⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ³⁾ 病理学第2) : 捺印細胞診併用により術中に推定し得た小腸原発T細胞性リンパ腫の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会, 2007. 6.
- 7) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳 健¹⁾, 西 佳史¹⁾, 前田昭太郎, 細根 勝, 古川清憲²⁾, 田尻 孝²⁾ (1) 多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, ²⁾ 大学院医学研究科臓器病態制御外科) : 転移性乳癌における療法Capecitabine/Cyclophosphamide (XC療法) の検討 (第二報). 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 8) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 柳田裕美, 岩瀬裕美, 横山 正¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, ²⁾ 病理学第2) : 乳癌細胞診標本を用いたCISH法及びFISH法によるHER2遺伝子検出の基礎的検討. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 9) 岩瀬裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 柳田裕美, 横山 正¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, ²⁾ 病理学第2) : 穿刺吸引細胞診材料から細胞転写法を用いたER, PgR, Her2蛋白検出の検討. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 10) 柳田裕美, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 岩瀬裕美, 横山 正¹⁾, 古川清憲²⁾, 田尻 孝²⁾, 内藤善哉³⁾ (1) 多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科, ²⁾ 大学院医学研究科臓器病態制御外科, ³⁾ 病理学第2) : 穿刺吸引細胞診で診断し得た乳房内結節性筋膜炎の1例. 第15回日本乳癌学会学術総会, 2007. 6.
- 11) 片山博徳, 前田昭太郎, 岩瀬裕美, 谷村茂雄¹⁾, 齋藤祐司¹⁾, 榎本 豊¹⁾ (1) 多摩永山病院呼吸器外科) : 体腔液細胞診によるびまん性悪性中皮腫の確定診断法について : 細胞転写法, セルブロック法の有用性について. 第149回 日本肺癌学会関東支部会, 2007. 7.
- 12) 岩瀬裕美, 前田昭太郎, 片山博徳, 谷村茂雄¹⁾, 齋藤祐司¹⁾, 榎本 豊¹⁾ (1) 多摩永山病院呼吸器外科) : 術中迅速穿刺吸引細胞診 (FNAC) の有用性と迅速免疫染色について. 第149回 日本肺癌学会関東支部会, 2007. 7.
- 13) 東 敬子, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 劉 愛民¹⁾, 内藤善哉²⁾ (1) 中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾ 病理

学（統御機構・腫瘍学）：細胞診材料を用いて電顕的検索を行った中皮腫の2症例．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．

- 14) 前田昭太郎，細根 勝，片山博徳，磯部宏昭，柳田裕美，川野記代子，岩瀬裕美，新 博次¹⁾，谷村繁雄²⁾，内藤善哉³⁾（¹⁾ 多摩永山病院 内科，²⁾ 多摩永山病院 呼吸器外科，³⁾ 病理学（統御機構・腫瘍学）：中皮腫の細胞診：体腔液細胞診による中皮腫の確定診断方法を中心に．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．
 - 15) 鈴木美紀，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳，磯部宏昭，柳田裕美，岩瀬裕美，日吾美栄子，横山 正¹⁾，内藤善哉²⁾（¹⁾ 多摩永山病院 呼吸器外科，²⁾ 病理学（統御機構・腫瘍学）：アポクリン癌を合併した悪性葉状腫瘍の1例．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．
 - 16) 北川泰之¹⁾，藤井信人¹⁾，金 竜¹⁾，古澤隆明¹⁾，田中陽子¹⁾，伊藤博元²⁾，前田昭太郎（¹⁾ 多摩永山病院 整形外科，²⁾ 付属病院 整形外科）：穿刺吸引細胞診で確定した多形型横紋筋肉腫の1例．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．
 - 17) 細根 勝，前田昭太郎，川端伊久乃¹⁾，中井章人¹⁾，内藤善哉²⁾（¹⁾ 多摩永山病院 女性診療科・産科，²⁾ 病理学（統御機構・腫瘍学）：回腸漿膜表面に発生した高分化型乳頭状中皮腫（WDPM）の1例．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．
 - 18) 片山博徳，前田昭太郎，細根 勝，柳田裕美，岩瀬裕美，横山 正，内藤善哉^{1) 2)}（¹⁾ 多摩永山病院 外科，²⁾ 病理学（統御機構・腫瘍学）：乳癌穿刺吸引細胞診標本を用いたHER2遺伝子の検出：CISH法とFISH法の比較検討．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．
 - 19) 磯部宏昭，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳，柳田裕美，岩瀬裕美，宮本昌之¹⁾，横山 正¹⁾，内藤善哉²⁾（¹⁾ 多摩永山病院 外科，²⁾ 病理学（統御機構・腫瘍学）：膝術中迅速細胞診：2ポイント採取法．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．
 - 20) 岩瀬裕美，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳，柳田裕美，川野記代子，横山 正¹⁾，内藤善哉²⁾（¹⁾ 多摩永山病院 外科，²⁾ 病理学（統御機構・腫瘍学）：乳腺穿刺吸引細胞材料におけるER, PgR, Her2蛋白検出：細胞転写法による検討．第75回日本医科大学医学学会総会，2007．9．
- (8) スライドセミナー：
- 1) 細根 勝：造血器・リンパ節の濾胞性病変．第48回日本臨床細胞学会総会，2007．6．

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

当検査室における主な研究目的は，臨床検査学の進歩のなかで，新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し，新検査法の実現を追っている．また，日常の臨床検査全体の精度管理，検査方法および迅速測定を実施し，各種の検査における臨床との関連を見つつ，質の向上と検査測定法の確立を目指している．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shimada Y¹⁾，Nemoto K¹⁾，Kubota M，Ninomiya N^{1, 2)}，Yamamoto Y¹⁾（¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine，²⁾ Emergency Medicine, The George Washington University School of Medicine and Health Sciences）：Neuraminidase Inhibitors Prevent Lipopolysaccharide-Induced Intestinal Paralysis in Conscious Guinea Pigs. JJAAM 2007；18（4）：127-134.

著 書

- 1) 松浦雅人¹⁾, 横田隆徳²⁾, 石山陽事³⁾, 高橋 修⁴⁾, 白澤 厚⁵⁾, 内田 直⁶⁾, 飛松省三⁷⁾, 小関恒和⁸⁾, 末永和栄⁹⁾, 所司睦文¹⁰⁾, 久保田稔, その他37名 (1) 東京医科歯科大学大学院生命機能情報解析学, 2) 東京医科歯科大学脳神経病態学, 3) 杏林大学保健学部臨床生理学・医用応用工学, 4) 市川市リハビリテーション病院臨床検査科, 5) 株式会社ミユキ技研, 6) 早稲田大学スポーツ科学学術院, 7) 九州大学大学院医学研究院脳研臨床神経生理, 8) 日本光電工業株式会社脳神経機器部, 9) 医療法人社団青山会青木病院検査課, 10) 川崎医療短期大学) : [分担] 聴性脳幹反応: 救命領域を中心に. 臨床神経生理検査の実際 (松浦雅人), 2007 ; pp190-194, 新興医学出版.

学会発表

(1) ワークショップ:

- 1) 久保田稔: 救急領域における意識障害患者の予後と脳波 (脳波の有用性を再認識する: デジタル脳波計時代を向えて). 第37回日本臨床神経生理学会・学術大会, 2007. 11.

(2) 一般講演:

- 1) 原 俊輔¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 根本香代¹⁾, 久野将宗¹⁾, 久保田稔, 山本保博²⁾ (1) 多摩永山病院救急救命センター, 2) 救急医学): エンドトキシン血症モルモットモデルに対する sivelestat sodium 静脈内持続投与の効果. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.
- 2) 中野渡雄一¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 根本香代¹⁾, 島田 靖¹⁾, 久保田稔, 山本保博²⁾ (1) 多摩永山病院救急救命センター, 2) 救急医学): モルモット敗血症モデルに対する nafamostat mesilate 使用下での PMX-DHP の効果. 第35回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 10.

[多摩永山病院薬剤科]

研究概要

現在, 病院薬剤師に対しチーム医療への参加, 薬物の適正使用に対する貢献が強く求められている. このことは薬剤師が薬物治療に対し患者の安全性, QOLの向上にどのように貢献できるか求められていることである. このような状況の中, 今回の医療法改正においても薬剤師のチーム医療への参加が算定条件となっている項目が多く見受けられ, また, 薬剤管理指導業務においても, 患者への薬物治療の安全性の確保に対しメリハリのついた指導が求められるようになり, 薬剤師の臨床での活躍, 貢献が求められている.

そこで, 当薬剤科として, がん化学療法, 輸液栄養療法へのチーム医療への参加, 薬物の適正使用への薬剤師の取り組み, 安全性への確保などについて研究, 発表した. また近隣調剤薬局との連携で外来患者に対し医薬品の適正使用, QOLの向上についても研究, 発表した.

今後, 薬剤師がチーム医療への積極的な参加, また医薬品の適正使用などを通して患者さまの安全性の確保, QOLの向上に, 薬物治療の専門家として薬剤師職能を充分発揮できるよう努力したいと考えている.

研究業績

論 文

(1) 原著:

- 1) Unemoto T, Matsushita M¹⁾, Tamura K¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Koike K²⁾, Kogo H²⁾ (1) Department of Endocrine Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Science, 2) Department of Chemical Pharmacology, Toho University School of Pharmaceutical Sciences) : Role of BK channels in testosterone-induced relaxation of the aorta in spontaneously hypertensive rats. Biol Pharm Bull 2007 ; 30 (8) : 1477-1480.

著書

- 1) 堀川佳津美, 男鹿宏和, 佐治 守, 村田和也: [共著] 外来化学療法への取り組み (62) 日本医科大学多摩永山病院における外来化学療法への取り組み. 週刊薬事新報, 2008; pp13-26, 薬事新報社.
- 2) 亀山明美, 中嶋基広, 村田和也: [共著] 病院・薬局それぞれに固有な薬剤師業務ベッドサイドで学ぶ事. スタンダード薬学シリーズII第11巻 病院・薬局実務実習 (日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会・日本医療薬学会), 2007; pp81-84, 東京化学同人.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 稲葉育広, 佐野眞己¹⁾, 村田和也⁽¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院栄養科): NST未導入における栄養管理の現状報告. 日本病院薬剤師会関東ブロック第37回学術大会, 2007. 8.
- 2) 堀川佳津美, 村田和也: FOLFIRI療法における急性嘔吐の発現例についての検討. 第17回日本医療薬学会年会, 2007. 9.
- 3) 亀山明美, 村田和也, 高頭文隆²⁾, 長谷川哲男³⁾, 疋田節子⁴⁾, 大川玲子⁵⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新博次¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院内科, 2) ミネ薬局永山駅前タワー店, 3) 龍生堂薬局永山店, 4) なのはな薬局, 5) マルベリー薬局): 短時間作用性吸入 β 2刺激薬の吸入指導に関する検討: ドライパウダー製剤とエアロゾル製剤の比較. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 2007. 11.
- 4) 亀山明美, 村田和也, 北山由里香²⁾, 高頭文隆²⁾, 長谷川哲男³⁾, 荒井宏昭³⁾, 南條久美子⁴⁾, 疋田節子⁴⁾, 大川玲子⁵⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新博次¹⁾ (1) 日本医科大学多摩永山病院内科, 2) ミネ薬局永山駅前タワー店, 3) 龍生堂薬局永山店, 4) なのはな薬局, 5) マルベリー薬局): 吸入指導の有用性の検討. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.
- 5) 畝本賜男, 松下真由美¹⁾, 田村和広¹⁾, 田中芳夫²⁾, 小池勝夫²⁾, 向後博司¹⁾ (1) 東京薬科大学薬学部, 2) 東邦大学薬学部): 自然発生高血圧ラット (SHR) 胸部大動脈リング標本でのtestosterone (Tes) 弛緩反応におけるBK チャネルの役割. 日本薬学会第121年会, 2008. 3.

[多摩永山病院看護部]

研究概要

今年度は、8演題で日本糖尿病学会、日本救急医学会、日本母性看護学会、日本看護管理学会、日本看護学会の成人看護、看護管理、日本環境感染学会等で発表が行なわれた。

1. 民間養成校の救命救急士の病院実習における指導体制の実態をアンケート調査し、医師及び救急看護認定看護師などと連携を図り、効果的な臨床実習が実施されるシステムの構築を示唆した。
2. 糖尿病の効果的な管理を目的に患者と療養指導を担当する医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、などコメディカル間においてシックディノートに記載する内容や実際の活用について検討がなされた。
3. 切迫流産及び切迫早産妊婦の子宮の収縮に伴う腹部緊満感である張りの主観的観察として問診による自覚症状の確認が行なわれるが、その訴えは曖昧であるためインタビューで張りについて調査した結果、約7つの表現が明らかになった。
4. 当病院における過去の転倒事故分析から転倒要因の抽出をし、転倒アセスメントシートの再評価及び効率的な転倒予防ツールの作成を行なった。さらには効果的な予防策がとれる看護師の育成により転倒事故の減少がみられた。
5. がん性疼痛認定看護師が疼痛コントロールが困難な事例について週2回、1回15分～30分程度の面接を中心とした関わりをもち、その実践過程を分析することでがん性疼痛のある患者の看護介入モデルを提示した。
6. 中堅看護師が認知する管理者からの支援が自己教育力、臨床実践能力に与える影響について127名の看護師を

対象に質問紙法で調査を実施した。その結果、管理者から受ける支援は管理者の行動機能であった。自己教育力、臨床実践能力との関連性はなかった。

7. 出産後も働く看護師の職場サポート体制を構築する目的で、出産後復職した看護師と同僚看護師に互いの葛藤や考えをインタビューで調査。結果、相互に立場を理解し協力しているが、復職した看護師は感謝、遠慮、気兼ねを抱き、同僚看護師は不満や戸惑いを感じながらも支援しようという思いがあった。

8. 当院救命救急センターにおいて、ASCを導入しMRSAが院内感染なのか市中感染なのかを明確にし、今後の感染予防策についてのベースライン構築の必要性を示した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 緋田雅美³⁾, 手島 恵¹⁾, 中井章人^{2,3)} (1) 千葉大学大学院看護学研究科, 2) 多摩永山病院女性診療科・産科, 3) 多摩永山病院医療安全管理部)：急性期病院入院患者における転倒リスクの再評価。病院管理 2007；44 (4)：19-26.

(2) 総説：

- 1) 村上真未子, 土屋絵利子, 石川秀一, 緋田雅美：Fish 哲学を取り入れた新人看護職員へのサポート。看護展望 2007；32 (11)：56-61.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 塩津正己, 二宮宣文¹⁾, 田中秀治²⁾, 島崎栄二²⁾, 瀬川久枝³⁾, 浅香えみ子³⁾ (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科救急救命システムコース, 3) 日本看護協会看護研修学校救急看護学科)：オフラインメディカルコントロールにおける救急看護認定看護師の役割。第10回日本救急医学会総会・学術集会, 2007. 5.
- 2) 後藤 円, 深谷祥子¹⁾, 森 貴幸²⁾, 森 瞳³⁾, 宮川高一⁴⁾, 遠藤洋子⁵⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター, 2) シルバー薬局, 3) ハートクリニック, 4) 多摩みなみクリニック, 5) 日野市立病院)：多施設協同での「シックディールール」パンフレット第2報：学習効果をもったシックディノートの完成。日本糖尿病学会, 2007. 5.
- 3) 並川 円, 山下絢子, 立川絵里香, 佐々木愛：切迫流産及び切迫早産患者における自覚症状の捉え方・表現方法の調査。第38回日本看護学会 母性看護, 2007. 7.
- 4) 緋田雅美, 手島 恵¹⁾, 永野みどり¹⁾ (1) 千葉大学大学院看護学研究科)：急性期病院における転倒予防システムの再構築。第11回日本看護管理学会年次大会, 2007. 8.
- 5) 高仲雅子：認定看護師のがん性疼痛を有している患者への実践的関わりの分析。第38回日本看護学会 成人看護II, 2007. 8.
- 6) 藤本由香, 佐々木亜希, 神野麻優子, 竹山聡美：5年目以上看護師が受けている管理者からの支援と自己教育力・臨床実践能力の関係。第38回日本看護学会 看護管理, 2007. 10.
- 7) 藤井その子, 中村純子, 池谷登美枝, 松本 綾：出産後も継続して働く看護師と同僚看護師の心情の分析：職場のサポート体制の構築を目指して。第38回日本看護学会 看護管理, 2007. 10.
- 8) 城戸竜一, 関根 愛：CCMにおけるMRSA感染対策：ASCを導入して。第23回日本環境感染学会総会, 2008. 2.

[多摩永山病院放射線科技師室]

研究概要

1. FPDにおける胸部撮影条件の検討
2. マンモグラフィにおける医療被曝ガイドライン（医療被曝低減目標値）
3. 関連機器の日常点検 「グリッド」
4. 放射線防護衣の保守管理における検討

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 山本拓也, 笹沼和智, 森 克彦, 濱口雄慈：FPDにおける胸部撮影条件の検討．第61回日本放射線技術学会東京部会春季学術大会，2007．5.
- 2) 笹沼和智：マンモグラフィにおける医療被曝ガイドライン．第41回日本保健物理学会研究発表会，2007．6.
- 3) 笹沼和智：関連機器の日常点検 「グリッド」．平成19年度 日本画像医療システム工業会・日本放射線技術学会東京部会 ジョイントミーティング，2007．6.
- 4) 山本拓也, 笹沼和智, 森 克彦, 濱口雄慈：放射線防護衣の保守管理における検討．第28回日本放射線技術学会東京部会秋季学術大会，2007．11.

[多摩永山病院消化器科]

研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし、幅広い視野能力を有する臨床医の養成を目指すとともに、消化器疾患に関する臨床および基礎研究を行っている。研究活動としては、1) 日常診療で多く遭遇する消化管出血の現状や病態を、上部および下部消化管の内視鏡検査を用いて解析している。具体的には、*Helicobacter pylori*感染、非ステロイド性消炎鎮痛薬と胃病変との関連性や、*Helicobacter pylori*の2次除菌の有効性の検討、機能的胃症、過敏性腸症候群などの消化管運動異常の解析および、逆流性食道炎、胃潰瘍の発生機序に関して、基礎、臨床疫学的な研究を行っている。2) アルコール性脂肪肝や非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の病態および、C型慢性肝炎に対するインターフェロン、リバビリン併用療法の効果について検討し症例を蓄積中である。3) 潰瘍性大腸炎に対する白血球（顆粒球）吸着療法の症例を蓄積している。4) 東南アジアの国々における*Helicobacter pylori*感染や胃十二指腸疾患の現状、背景胃粘膜や病態の相異について疫学調査を行っている。

特に本年度4月より大分大学との共同研究「アジア諸国におけるヘリコバクターピロリ感染の実態と胃癌発症機序の解明」が始まった。大分市で開催したThe 1st meeting of Asian *Helicobacter* study group, Study on the relation between *Helicobacter pylori* infections and gastric cancer in Asiaに、*Helicobacter pylori*を発見しノーベル医学生理学賞を受賞したWarren名誉教授をオブザーバーとして招いた。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 江原彰仁¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 小林 剛, 三井啓吾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科)：目で見る小腸癌．内科 2007；99 (1)：129-133.

(1) 原著：

- 1) Iwakiri K¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Hayashi Y, Kotoyori M¹⁾, Kawami N¹⁾, Kawakami A¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1 of Gastroenterology) : Association between reflux esophagitis and /or hiatus hernia and gastric mucosal atrophy level in Japan. J Gastroenterol Hepatol 2007 ; 22 (6) : 2212-2216.
- 2) Matsuhisa T, Miki M¹⁾, Yamada N²⁾ (1 付属病院外科, 2) 病理学第二) : *Helicobacter pylori* infection, glandular atrophy, intestinal metaplasia and topography of chronic active gastritis in the Nepalese and Japanese population : the age, gender and endoscopic diagnosis matched study. Kathmandu University Medical Journal 2007 ; 5 (3) : 295-301.
- 3) Fujimori S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Gudis K¹⁾, Kishida T¹⁾, Mitsui K, Ehara A¹⁾, Kobayashi T, Sekita Y¹⁾, Seo T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1 Division of Gastroenterology, Internal Medicine) : High dose probiotic and prebiotic cotherapy for remission induction of active Crohn' s disease. J Gastroenterol Hepatol 2007 ; 22 (8) : 1199-1204.
- 4) Tanaka S¹⁾, Mitsui K, Tatsuguchi A¹⁾, Kobayashi T, Ehara A¹⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1 Division of Gastroenterology, Internal Medicine) : Current status of double balloon endoscopy—indications, insertion route, sedation, complications, technical matters. Gastrointestinal endoscopy 2007 ; 66 (3) : 30-33.
- 5) Iwakiri K¹⁾, Hayashi Y, Kotoyori M¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Kawami N¹⁾, Sano H, Takubo K²⁾, Sakamoto C¹⁾, Holloway R³⁾ (1 of Gastroenterology, Nippon Medical School, 2) Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 3) Royal Adelaide Hospital) : Defective triggering of secondary peristalsis in patients with non-erosive reflux disease. J Gastroenterol Hepatol 2007 ; 22 (12) : 2208-2211.
- 6) Fujimori S¹⁾, Seo T¹⁾, Gudis K¹⁾, Tanaka S¹⁾, Mitsui K, Kobayashi T, Ehara A¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1 Division of Gastroenterology, Internal) : Diagnosis and treatment of obscure gastrointestinal bleeding using combined capsule endoscopy and double balloon endoscopy : 1-year follow-up study. Endoscopy 2007 ; 39 (12) : 1053-1058.
- 7) Hayashi Y, Iwakiri K¹⁾, Kotoyori M¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (1 of Gastroenterology) : Mechanisms of acid gastroesophageal reflux in the Japanese people. Dig Dis Sci 2008 ; 53 (1) : 1-6.
- 8) Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Ueki N¹⁾, Shinji Y¹⁾, Suzuki K¹⁾, Kusunoki M, Tanaka S¹⁾, Wada K¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (1 Division of Gastroenterology, Internal Medicine) : COX-2 and CCR2 induced by CD40 ligand and MCP-1 are linked to VEGF production in endothelial cells. Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids 2008 ; 78 (2) : 137-146.
- 9) Futagami S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Horie A¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Kusunoki M, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (1 Division of Gastroenterology, Internal Medicine) : Monocyte chemoattractant protein 1 and CD40 ligation have a synergistic effect on vascular endothelial growth factor production through cyclooxygenase 2 upregulation in gastric cancer. J Gastroenterology 2008 ; 43 (3) : 216-224.
- 10) 松久威史, 木村 祐, 津久井拓, 松田 健¹⁾ (1 多摩永山病院外科) : 吐下血で発症した高齢者消化性潰瘍の臨床的検討. 日本高齢消化器医学会誌 2007 ; 9 (2) : 38-44.
- 11) 松久威史, 津久井拓, 山田宣孝¹⁾ (1 病理学第二) : *Helicobacter pylori* 感染, 血清ペプシノゲン, 背景胃粘膜からみた抗壁細胞抗体. 消化器内視鏡の進歩 2007 ; 71 (2) : 34-38.

(2) 綜説：

- 1) 小林 剛, 田中 周¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾, 坂本長逸¹⁾ (1 日本医科大学付属病院消化器内科) : 【クローン病診療の進歩】クローン病に対する内視鏡診断と治療 ダブルバルーン内視鏡による診断.

Modern Physician 2007 ; 27 (7) : 911-915.

- 2) 田中 周¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 小林 剛, 三井啓吾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科) : 【ダブルバルーン内視鏡が変えた治療学】小腸における異物回収. 消化器内視鏡 2007 ; 19 (11) : 1598-1603.
- 3) 田中 周¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 小林 剛, 三井啓吾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科) : 【ダブルバルーン内施行の手技の工夫と応用】ダブルバルーン内視鏡検査普及のための工夫. 消化器科 2007 ; 45 (6) : 579-583.
- 4) 藤森俊二¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科) : 【NSAIDs関連病変は変わった】原因不明の消化管出血とNSAIDs 上部消化管出血頻度を含めて. 消化器内視鏡 2008 ; 20 (2) : 154-161.

(3) 総説 :

- 1) 岩切勝彦¹⁾, 飯泉 匡¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 牧野浩司²⁾, 宮下正夫²⁾ (1) 消化器内科, 2) 外科) : どう使う経鼻内視鏡, 構造の差から生じるメリット : 操作性. 消化器内視鏡 2007 ; 19 (4) : 591-594.
- 2) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 佐野弘仁, 琴寄 誠²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科) : PPI抵抗性NERDの病態. 日本臨床 2007 ; 65 (5) : 913-920.
- 3) 岩切勝彦¹⁾, 田中由理子¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁, 琴寄 誠²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科) : 食道運動機能からみたGERDの病態. 日本臨床 2007 ; 65 (5) : 829-835.
- 4) 岩切勝彦¹⁾, 田中由理子¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁, 琴寄 誠²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科) : 胃食道逆流症の治療, 生活指導. カレントセラピー 2007 ; 25 (5) : 387-390.
- 5) 坂本長逸¹⁾, 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾ (1) 消化器内科) : 【ダブルバルーン/カプセル内視鏡-診断・治療のアルゴリズム】研究 小腸疾患診療の到達点と今日の課題 (解説/特集). 早期大腸癌 2007 ; 11 (3) : 249-255.
- 6) 松久威史 : *Helicobacter pylori*感染診断法 : 保険診療上の問題点. Helicobacter Research 2007 ; 11 (3) : 254-259.
- 7) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 佐野弘仁, 琴寄 誠²⁾, 二神生爾¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 野村務³⁾, 牧野浩司³⁾, 宮下正夫³⁾ (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科, 3) 外科) : 消化管運動機能からみたNERDの病態. GIリサーチ 2007 ; 15 (3) : 202-208.
- 8) 松久威史 : 香辛料, 微量元素からAsian Paradoxを説明できるか. Helicobacter Research 2007 ; 11 (4) : 341-346.
- 9) 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : 【NSAID潰瘍 診断・予防・治療の最新動向】NSAID潰瘍の危険因子と併存疾患要因 (解説/特集). 日本臨床 2007 ; 65 (10) : 1781-1787.
- 10) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典, 進藤智隆¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : 【非ステロイド性抗炎症薬 (NSAID) 起因性消化管病変】NSAID起因性消化管病変の治療と予防 (解説/特集/抄録あり). 胃と腸 2007 ; 42 (12) : 1751-1758.
- 11) 二神生爾¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : 選択的COX-2阻害剤を用いたcelecoxibによる胃痛発生抑制の検討 (解説). 日本ヘリコバクター学会誌 2008 ; 9 (2) : 61-64.
- 12) 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : 【膠原病の合併症とその対策】消化性潰瘍 (解説/特集). リウマチ科 2008 ; 39 (2) : 99-103.

(4) 症例報告：

- 1) Sakai N¹), Yoshizawa Y¹), Amano A¹), Higashi N¹), Aoki M¹), Seo T²), Tanaka S²), Tsukui T, Sakamoto C²), Arai M³), Yamamoto Y³), Kawana S¹) (1) Department of Dermatology, 2) Department of Gastroenterology, 3) Department of Critical Care Medicine) : Toxic epidermal necrolysis complicated by multiple intestinal ulcers. Int J Dermatol 2008 ; 47 (2) : 180-182.
- 2) 田村秀人¹), 緒方清行¹), 近藤麻加¹), 脇田知也¹), 稲見光春¹), 水木太郎¹), 兵働英也¹), 塩井由美子¹), 中村恭子¹), 三井啓吾, 田中 周²), 坂本長逸²), 檀 和夫¹) (1) 血液内科, 2) 消化器内科) : ダブルバルーン内視鏡の有用であった小腸原発悪性リンパ腫4症例. 臨床血液 2007 ; 48 (6) : 510-513.
- 3) 城 正樹¹), 田村秀樹¹), 梅澤まり子, 首藤真理子¹), 長尾元嗣¹), 北村由梨¹), 加納稔子¹), 石崎 晃¹), 中島 泰¹), 谷村恭子¹), 石井新哉¹), 杉原 仁¹), 及川眞一¹) (1) 内分泌代謝内科) : グリチルリチン酸による低カリウム血症に, 甲状腺機能低下を生じた症例. 日本内分泌学会雑誌 2007 ; 83 (supple) : 227-229.

著 書

- 1) Kobayashi T, Tanaka S¹), Mitusi K, Tatsuguchi A¹), Gudis K¹), Sakamoto C¹) (1) Nippon Medical School Department of Gastroenterology) : [自著] Angiodysplasia. Atlas of Double Balloon Endoscopy, 2007 ; pp51-52, Medconnect GmbH.
- 2) Ehara A¹), Tanaka S¹), Mitusi K, Kobayashi T, Tatsuguchi A¹), Gudis K¹), Sakamoto C (1) Nippon Medical School Department of Gastroenterology) : [共著] Cavernous Lymphangioma Presenting with Obscure Bleeding. Atlas of Double Balloon Endoscopy, 2007 ; pp52-54, Medconnect GmbH.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Matsuhisa T : Strategy of eradication treatment of *Helicobacter pylori* infection : including failure cases of the first line treatment. 第八回陝西省消化内視鏡學會 (中国, 西安), 2007. 5.

(2) シンポジウム：

- 1) 松久威史, 山田宣孝¹), 渡邊英伸²) (1) 病理学第2, 2) 新潟大学病理) : ミャンマー人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜 : 日本人との比較 (シドニーシステムは何をもたらしたか). 第13回日本ヘリコバクター学会, 2007. 6.
- 2) 徳永健吾^{1,2}), 鈴木秀和^{1,3}), 松久威史¹), 河合 隆^{1,4}), 川上浩平^{1,4}), 伊藤慎芳^{1,5}), 鈴木雅之^{1,6}), 大草敏史^{1,7}), 永原章仁^{1,7}), 加藤俊二^{1,8}), 田代博一^{1,9}), 鳥居 明^{1,10}), 峯 徹哉^{1,11}), 榎 信廣^{1,12}), 高橋信一^{1,2}), その他2名 (1) 東京Hp研究会, 2) 杏林大学医学部第三内科, 3) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 4) 東京医科大学内視鏡センター, 5) 四ツ谷メディカルキューブ, 6) 国立病院機構東京医療センター消化器科, 7) 順天堂大学消化器内科, 8) 第一外科, 9) 田代内科クリニック, 10) 他3) : MNZを含む2次除菌不成功症例に対するPPI+AMPC+GFLXによる *H. pylori* 3次除菌療法の検討 : 東京都内多施設における共同調査結果から (除菌治療法の今後の展開 : 薬剤耐性菌と3次除菌法の取り組み). 第13回日本ヘリコバクター学会, 2007. 6.
- 3) 岩切勝彦¹), 田中由理子¹), 川見典之¹), 佐野弘仁, 琴寄 誠²), 坂本長逸¹) (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科) : 逆流性食道炎患者における過剰な食道内酸曝露のメカニズム, 2次蠕動波を含めて. 第59回日本気管食道科学会学術講演会, 2007. 11.
- 4) 鈴木成治¹), 宮本昌之¹), 渡邊秀裕¹), 横山 正¹), 丸山 弘¹), 松谷 毅¹), 柳 健¹), 松下 晃¹), 松田明久¹), 西 桂史¹), 新井洋紀¹), 津久井拓, 松久威史, 細根 勝²), 前田昭太郎²), その他1名 (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院病理部) : 再発性GISTの治療方針 (消化肝臓に対する内科的・外科的治療の選択1). 第27回多摩消化器シンポジウム, 2008. 1.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 松久威史, 津久井拓：胃十二指腸疾患における胃内逆流胆汁酸：内視鏡の幽門形態との関連を中心に（内視鏡で評価する消化管機能）. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 2) 瀬尾継彦¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛, 関田祥久²⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科)：カプセル内視鏡の臨床的意義：他検査との比較を中心に健常人の小腸病変の正常範囲を探る. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 5.
- 3) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 佐野弘仁, 琴寄 誠²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科)：逆流性食道炎患者における過剰な食道内胃酸曝露のメカニズム, 2次蠕動波を含めて. 第61回日本食道学会学術集会, 2007. 6.
- 4) 小林 剛, 田中 周¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科)：小腸GISTにおける生検診断の安全性と有用性の検討【小腸内視鏡における診断・治療の最前線】. 第84回日本消化器内視鏡学会関東支部会, 2007. 6.
- 5) 小林 剛, 田中 周¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科)：小腸GISTにおける生検診断の安全性と有用性の検討【小腸疾患—診療の新しい展開】. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 6) 江原彰仁¹⁾, 田中 周¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 小林 剛, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科)：小腸疾患の診断における各種検査の位置づけ【小腸疾患の診断・治療へのアプローチ】. 第85回日本消化器内視鏡学会関東支部会, 2007. 11.
- 7) 江原彰仁¹⁾, 田中 周¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 小林 剛, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科)：小腸診療におけるダブルバルーン内視鏡の意義. 第4回 日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.

(4) ワークショップ：

- 1) Matsuhisa T：Upper GI endoscopy and fundamental diagnostic technique for EUS (surgeonDiagnosis and therapeutic endoscopy technique). Postgraduated course and work shop for (Thailand, ChiangMai), 2007. 12.
- 2) Matsuhisa T：Technique of polypectomy for gastric polyp (Diagnosis and therapeutic endoscopy technique). Postgraduated course and work shop for surgeon (Thailand, ChiangMai), 2007. 12.

(5) 一般講演：

- 1) Matsuhisa T：*Helicobacter pylori* infection in Asian countries. The 1st meeting of Asian *Helicobacter* study group. Study on the relation between *Helicobacter pylori* infections and gastric cancer in Asia (Oita), 2007. 4.
- 2) 濱本達彦¹⁾, 二神生爾¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 楠 正典, 植木信江¹⁾, 進士陽子¹⁾, 三宅一昌¹⁾, Gudis K¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科)：選択的COX-2阻害剤cercecoxibを用いた*H. pylori*感染胃癌モデルにおけるMCP-1, CCR2発現の検討. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 3) Iwakiri K¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Kawami N¹⁾, Sano H, Hayashi Y, Kotoyori M²⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Internal Medicine, 2) 千葉北総病院内科)：Mechanisms of excessive esophageal acid exposure in patients with reflux esophagitis. . The 108th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Washington DC), 2007. 5.
- 4) Tanaka Y¹⁾, Iwakiri K¹⁾, Kawami N¹⁾, Sano H, Hayashi Y, Kotoyori M²⁾, Sakamoto C¹⁾ (1) Division of Gastroenterology, Internal Medicine, 2) 千葉北総病院内科)：Factors predicting a better outcome after pneumatic dilatation for the treatment of achalasia. The 108th Annual Meeting of the American Gastroenterolog-

- ical Association (Washington DC), 2007. 5.
- 5) Kusunoki M, Miyake K¹⁾, Shindo T¹⁾, Ueki N¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Futagami S¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : Evaluation of risks for venous thrombosis in endoscopic submucosal dissection. The 108th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Washington DC), 2007. 5.
 - 6) Kobayashi T, Mitsui K, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Gudis K¹⁾, Ehara A¹⁾, Sekita Y¹⁾, Seo T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y¹⁾, Fujimori S¹⁾, Kishida T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine) : Relation between pancreatic damage as complications with DBE and the conditions of oral DBE insertion. The 108th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Washington DC), 2007. 5.
 - 7) Ehara A¹⁾, Yamada Y¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Katya G¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Kobayashi T, Sekita A¹⁾, Mitsui K, Seo T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Nagata K¹⁾, Fujimori S¹⁾, Kishida T¹⁾, Sakamoto C¹⁾, et al. : (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine) Determination of Factors that Prevent Successful Observation of the Entire Small Intestine during Double Balloon Endoscopy. The 108th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Washington DC), 2007. 5.
 - 8) Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Kusunoki M, Suzuki K¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine) : Mcp-1 and CD40 ligation have synergistic effects on tumorangiogenesis via CCR2 expression through COX-2 upregulation in gastric cancers. The 108th annual meeting of American association of gastroenterology (Washington DC), 2007. 5.
 - 9) Ueki N¹⁾, Miyake K¹⁾, Kusunoki M, Hamamoto T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Futagami S¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine) : Impact of Clarithromycin on second-line treatment based on rabeprazole, amoxicillin and Metronidazole regimen after failure of *Helicobacter pylori* eradication based on proton pump inhibitor, amoxicillin and Clarithromycin in Japan. The 108th Annual Meeting of American Gastroenterological Association (Washington DC), 2007. 5.
 - 10) Tatsuguchi A¹⁾, Seo T¹⁾, Mitsui K, Yonezawa M¹⁾, Tanaka S¹⁾, Fujimori S¹⁾, Gudis K¹⁾, Shinji S²⁾, Tajiri T³⁾, Kishida T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine, ²⁾ Department of Surgery, Chiba Hokuso Hospital, ³⁾ Department of Surgery) : Clinical significance of microsomal prostaglandin E synthase in colorectal cancer. The 108th annual meeting of American Association of Gastroenterology (Washington DC), 2007. 5.
 - 11) 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : 当院における経鼻内視鏡の成績. 日本消化器内視鏡学会, 2007. 9.
 - 12) Matsuhisa T, Nobutaka Y¹⁾ (¹⁾ 病理学第二) : Comparison of gastric mucosal atrophy and anti-parietal cell antibody in relation to *Helicobacter pylori* infection between Japanese and Nepalese, Burmese. 7th China-Korea-Japan Joint Conference on Helicobacter Infection, 2008. 2.
 - 13) Suzuki S¹⁾, Sasajima K¹⁾, Watanabe H¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Mizutani T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Matsutani T¹⁾, Matsuhisa T, Hosone M²⁾, Iida S²⁾, Satoh Y⁴⁾, Tajiri T³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 多摩永山病院病理部, ³⁾ Dept. of Molecular Diagnostics, Kitasato Univ., Sch. Allied Health Science, ⁴⁾ 第一外科) : MAGE-A10 mRNA expression using highly sensitive in situ hybridization in patients with stomach cancer. 第66回日本癌学会学術総会, 2007. 10.
 - 14) 松久威史, 松倉則夫¹⁾, 上村直実²⁾, 山田宣孝³⁾ (¹⁾ 付属病院第一外科, ²⁾ 国立国際医療センター内視鏡部, ³⁾ 病理学第二) : アジア人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜 : 日本人との比較観察. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
 - 15) 松久威史, 津久井拓 : *Helicobacter pylori* 感染, ペプシノゲン, 背景胃粘膜からみた抗壁細胞抗体. 第93回日本

消化器病学会総会, 2007. 4.

- 16) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 田中由理子¹⁾, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠²⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科) : NERD, 逆流性食道炎患者の2次蠕動波を含めた食道運動機能. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 17) 田中由理子¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁, 琴寄 誠²⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 野村 務³⁾, 牧野浩司³⁾, 宮下正夫³⁾, 田尻 孝³⁾ (1) 消化器内科, 2) 千葉北総病院内科, 3) 外科) : バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 18) 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : ESD治療前後における凝固線溶系の変動について. 日本消化器内視鏡学会, 2007. 4.
- 19) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 細根 勝¹⁾, 津久井拓, 松久威史, その他1名 (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院病理部) : Relation between the risk classification for the patients with GIST/EGIST and molecular targeting therapy . 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 20) 二神生爾¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 進士陽子¹⁾, 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : FD患者における腹部症状と十二指腸粘膜局所におけるマクロファージ浸潤の解析. 第93回日本消化器病学会総会, 2007. 4.
- 21) 松久威史, 山田宣孝¹⁾, 諸戸那宇²⁾, 藺田まり子²⁾, 大保きよみ²⁾, 藤島 悟²⁾, 岡本富美子²⁾, 岡本明彦²⁾ (1) 病理学第二, 2) 医療法人吉祥会岡本医院本院) : 13C-尿素呼気試験は透析患者の*Helicobacter pylori*感染を正確に反映するか. 第52回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2007. 6.
- 22) 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (1) 病理学第二) : ¹³C-尿素呼気試験は透析患者の*Helicobacter pylori*感染を診断可能か. 第13回日本ヘリコバクター学会, 2007. 6.
- 23) 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (1) 消化器内科) : ESD術前後におけるD-dimerの変動. 日本消化器内視鏡学会関東支部会, 2007. 6.
- 24) 松久威史, 津久井拓 : 高齢者の*Helicobacter pylori*除菌治療は安全か?. 第10回日本高齢消化器病学会, 2007. 7.
- 25) 松久威史, 山田宣孝¹⁾, 岡本明彦²⁾ (1) 病理学第二, 2) 医療法人吉祥会岡本医院本院) : 透析患者の*Helicobacter pylori*感染診断における¹³C-尿素呼気試験の問題点. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 26) 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (1) 病理学第二) : ミャンマー人と日本人における消化性潰瘍, 背景胃粘膜の比較観察. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 27) 松久威史 : 胃内逆流胆汁酸と内視鏡的幽門形態, *Helicobacter pylori*感染. 胃内逆流胆汁酸と胃病変発症の関連性を考える会, 2007. 10.
- 28) 江原彰仁¹⁾, 田中 周¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 小林 剛¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 永田和弘¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科) : 小腸出血症例における出血部位の予測因子の検討. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 29) 山田祐希江¹⁾, 田中 周¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 永田和弘¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院内科) : 小腸内視鏡による小腸GIST症例の検討. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 2007. 10.
- 30) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柳 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 細根 勝²⁾, その他1名 (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院病理部) : 病理組織型からみたmFOLFOX6法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第49回日本消化器病学会大会, 2007. 10.
- 31) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳

- 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 外科) : mFOLFOX6法を導入した70歳以上の高齢者進行・再発大腸癌症例の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 2007. 11.
- 32) 岡部雅弘¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 梅澤まり子, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 楠 正典, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 澤田秀雄²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ スキヤ橋内科胃腸科クリニック) : Bowen病が併存した, 過形成性ポリープより発症した早期胃低分化腺癌の1例. 日本消化器内視鏡学会関東支部会, 2007. 11.
- 33) 松久威史, 津久井拓 : 胃十二指腸疾患における胃内逆流胆汁酸. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 34) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁, 田中由理子¹⁾, 琴寄 誠²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科) : PPI抵抗性NERD患者の病態, 24時間食道pH・多チャンネルインピーダンス測定による検討. 第4回日本消化管学会総会学術総会 (大阪), 2008. 2.
- 35) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 佐野弘仁, 田中由理子¹⁾, 琴寄 誠²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科) : 逆流性食道炎患者における過剰な食道内酸曝露のメカニズム. 第4回日本消化管学会総会学術総会 (大阪), 2008. 2.
- 36) 佐野弘仁, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 琴寄 誠²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科) : われわれが経験した好酸球性食道炎とその経過. 第4回日本消化管学会総会学術総会 (大阪), 2008. 2.
- 37) 田中由理子¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁, 琴寄 誠²⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 野村 務³⁾, 牧野浩司³⁾, 宮下正夫³⁾, 田尻 孝³⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科, ³⁾ 外科) : バルーン拡張術が有効であるアカラシア症例の特徴. 第4回日本消化管学会総会学術総会, 2008. 2.
- 38) 梅澤まり子, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 植木信江¹⁾, 楠 正典, 河越哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : 内視鏡的粘膜下層剥離術後の短期・長期的十二指腸胃逆流について. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 39) 河越哲郎¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 福田 健¹⁾, 進藤智隆²⁾, 楠 正典, 二神生爾²⁾, 三宅一昌²⁾, 岩切勝彦²⁾, 津久井拓, 坂本長逸²⁾ (¹⁾ 同愛記念病院消化器内科, ²⁾ 日本医科大学消化器内科) : 当科におけるFunctional dyspepsia (FD) 症例の検討 : 潜在的慢性膵炎の可能性に焦点をあてて. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 40) 二神生爾¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 梅澤まり子, 植木信江¹⁾, 楠 正典, Gudis K¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : FD患者における十二指腸粘膜内浸潤細胞の解析. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 41) 二神生爾¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 梅澤まり子, 植木信江¹⁾, 楠 正典, Gudis K¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : 選択的COX-2阻害剤による*H. pylori*感染胃癌モデルにおけるHPG (Heterotropic proliferative gland) 発生抑制の検討. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 42) 進藤智隆¹⁾, 二神生爾¹⁾, 河越哲郎¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 梅澤まり子, 植木信江¹⁾, 楠 正典, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科) : 血清値のghrelin胃排出能に及ぼす影響の解析 : EPS, PDS, NERD群の比較検討. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 43) 藤森俊二¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 高橋陽子¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛, 関田祥久²⁾, 三井啓吾, 米沢真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科) : 原因不明消化管出血に対するカプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡の有用性に関する追跡研究. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- 44) 高橋陽子¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米沢真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科) : 小腸白色絨毛とカプセル内視鏡消化管通過時間に関する検討. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 2008. 2.
- (6) ライブデモ :
- 1) Matsuhisa T : EUS technique in case of esophageal cancer, gastric cancer and normal case (Diagnosis and therapeutic endoscopy technique). Postgraduated course and work shop for surgeon, 2007. 12.

23. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院内科]

研究概要

診療・研究領域を、1) 冠動脈疾患 (a. 冠動脈内視鏡, 血管内超音波, OCT, 冠動脈MDCTなどの先端画像, b. 冠動脈カテーテル治療, c. 心血管バイオマーカー開発), 2) 不整脈 (電気生理学的研究, 不整脈カテーテル焼灼術), 3) 高血圧・動脈硬化性疾患 (生理学的, 生化学的病態分析), 4) 心不全 (病態生理学, 新規治療, バイオマーカー開発, 睡眠時無呼吸との関連研究, ガイドライン作成)などに絞り, 先駆的な臨床研究を展開している。文部科学省科学研究費採択 (冠動脈先端画像解析による新規バイオマーカー開発など), 専門学術誌発表 (J Am Coll Cardiol, Am J Med, Am J Cardiol, Eur Heart J, Heart, Circ J), などの実績をあげている。

脳梗塞・パーキンソン病に対する医師主導の治験に参加。自主研究としても各種神経マーカーの研究を進展している。腎臓では, 蛋白尿から, 急性, 慢性腎不全まで幅広く診断, 治療を行っている。さらに慢性腎不全の人工透析だけでなく, 他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

肝機能障害の患者に対し, 肝炎ウイルスマーカーの測定, 画像診断及び肝生検を実施, 組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果を検討を行っている。

肝癌に対してはPEIT, R-FA, TAEなどの診療を行い, 治療効果を検討している。さらに, 大腸癌と血液疾患の関連, 食道蠕動異常と胸部症状との関連, ヘリコバクターピロリ除菌による胃, 十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

血液では造血器腫瘍 (急性白血病), 各種貧血などの臨床的研究を展開している。

糖尿病の治療, 甲状腺癌におけるサイログロブリンと糖鎖の役割, 甲状腺核医学検査の有用性について研究している。

肺癌に対する集学的療法, 各種間質性肺炎の気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析を展開している。

研究業績

論文

(追加分)

追加分原著:

- 1) Sasayama S¹⁾, Izumi T¹⁾, Seino Y¹⁾, Ueshima K¹⁾, Asanoi H¹⁾, CHF-HOT Study Group (1) Dept. of Internal Medicine, Division of Cardiology): Effects of Nocturnal Oxygen Therapy on Outcome Measures in Patients With Chronic Heart Failure and Cheyne-Stokes Respiration. *Circulation Journal* 2006; 70 (1): 1-7.
- 2) Otuka T¹⁾, Kawada T¹⁾, Katsumata M¹⁾, Ibuki C (1) 多摩永山病院 循環器内科): Utility of second derivative of the finger photoplethysmogram for the estimation of the risk of coronary heart disease in the general population. *Circulation Journal* 2006; 70 (3): 304-310.
- 3) Otsuka T¹⁾, Ibuki C, Suzuki T¹⁾, Ishii K¹⁾, Kodani E¹⁾, Ataratshi H¹⁾, Kishida H²⁾, Takano T²⁾ (1) 多摩永山病院 循環器内科, 2) 付属病院 内科学講座 (循環器)): Vasodilatory effect of subsequent administration of fasudil, a rho-kinase inhibitor, surpasses that of nitroglycerin at the concentric coronary stenosis in patients with stable angina pectoris. *Circulation Journal* 2006; 70 (4): 402-408.
- 4) Seimiya K, Inami S, Takano M, Ohba T, Sakai S, Takano T¹⁾, Mizuno K (1) Dept. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School): Significance of Plaque Disruption Sites in Acute Coronary Syndrome. *J Nippon Med Sch* 2006; 73 (3): 141-148.
- 5) Takano M, Ohba T, Inami S, Seimiya K, Sakai S, Mizuno K: Angioscopic differences in neointimal cov-

erage and in persistence of thrombus between sirolimus-eluting stents and bare metal stents after a 6-month implantation. *European Heart Journal* 2006 ; 27 (18) : 2189-2195.

- 6) Seino Y¹⁾, The Japanese Coronary Artery Diseases (2) (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, (2) 東京大学循環器科) : Current Status of the Background of Patients With Coronary Artery Disease in Japan - The Japanese Coronary Artery Disease Study (The JCAD Study). *Circulation Journal* 2006 ; 70 (10) : 1256-1262.
- 7) Ogawa A¹⁾, Seino Y¹⁾, Yamashita T¹⁾, Ogata K¹⁾, Takano T (1) Dept. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Difference in Elevation of N-Terminal Pro-BNP and Conventional Cardiac Markers Between Patients With ST Elevation vs Non-ST Elevation Acute Coronary Syndrome. *Circulation Journal* 2006 ; 70 : 1372-1378.
- 8) Takumi I^{1,2)}, Mizunari T^{1,2)}, Mishina M¹⁾, Fukuchi T¹⁾, Nomura R¹⁾, Umeoka K¹⁾, Kobayashi S^{1,2)}, Teramoto A²⁾ (1) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Dissecting posterior inferior cerebellar artery aneurysm presenting with subarachnoid hemorrhage right after anticoagulant and antiplatelet therapy against ischemic event. *Surg Neurol* 2007 ; 68 (1) : 103-107.
- 9) Imaizumi T^{1,2)}, Nejima J^{1,2)}, Kiuchi K^{1,2)}, Takeda S²⁾, Seino Y¹⁾, Tanaka K¹⁾, Takano T⁴⁾ (1) Division of Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School, (2) Department of Functional Pathophysiology for Human Organs, Graduate School of Medicine, (3) Department of Anesthesia and Pain Control, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, (4) Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Dynamic and Source of Endothelin-1 and Interleukin-6 : Following Coronary Reperfusion in Patients with Acute Myocardial Infarction. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (2) : 131-147.
- 10) 窪倉浩俊^{1,3)}, 吉野直之^{1,3)}, 山内茂生¹⁾, 日野光紀³⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾ (1) 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, (2) 外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), (3) 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)) : 当院における自然気胸に対する胸腔鏡下手術40例の検討 : クルニカルパス導入へ向けて. *日医大医会誌* 2007 ; 3 (1) : 11-19.

追加症例報告 :

- 1) 森本耕三, 斎藤武文¹⁾, 高久多季朗¹⁾, 山本祐介¹⁾, 松野洋輔¹⁾, 渡部厚一¹⁾, 林原賢治¹⁾ (1) 日本赤十字医療センター呼吸器内科) : 肺動静脈瘻の1例. *日本呼吸器学会雑誌* 2007 ; 145 (2) : 202-205.

追加分総説 :

- 1) 雪吹周生 : 上室性不整脈の緊急治療指針. *救急・集中治療* 2006 ; 18 (5) : 705-707.
- 2) 宗像 亮¹⁾, 雪吹周生 (1) 多摩永山病院循環器内科) : 不安定狭心症/急性心筋梗塞. *救急・集中治療* 2006 ; 18 (7) : 985-991.
- 3) 清野精彦 : 診断技術の進歩 心筋梗塞生化学マーカー. *臨床と研究別冊* 2007 ; 84 (1) : 27-33.
- 4) 清野精彦 : 慢性心不全における中枢型睡眠時無呼吸について : Cheyne-Stokes Respiration. *日医大医会誌* 2007 ; 3 (1) : 34-38.

(1) 原著 :

- 1) Takano M, Jang I¹⁾, Mizuno K (1) Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Neointimal proliferation around malapposed struts of a sirolimus-eluting stent : optical coherence tomography findings. *European Heart Journal* 2006 ; 27 (15) : 1763-1763.
- 2) Ishii K¹⁾, Kodani E¹⁾, Miyamoto S¹⁾, Otsuka T¹⁾, Hosoe M¹⁾, Ogata K¹⁾, Sato W¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Tadera T¹⁾, Ibuki C, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾ (1) 多摩永山病院 循環器内科) : Pacemaker contact der-

- matitis : The effective use of a polytetrafluoroethylene sheet. *Pacing Clinical Electrophysiology* 2006 ; 29 (11) : 1299-1302.
- 3) Takano M, Yamamoto M, Mizuno K : A retrograde approach for the treatment of chronic total occlusion in a patient with acute coronary syndrome. *International Journal of Cardiology* 2007 ; 119 : e22-e24.
 - 4) Takano M, Murakami D, Mizuno K : Overlapping hybrid stenting with a sirolimus-eluting stent and a bare metal stent. *International Journal of Cardiology* 2007 ; 118 : e8-e10.
 - 5) Ishibashi F²⁾, Yokoyama S¹⁾, Miyahara K³⁾, Dabreo A²⁾, Weiss-R E²⁾, Iafrafi M⁴⁾, Takano M⁵⁾, Okamatsu K⁵⁾, Mizuno K⁴⁾, Waxman S⁶⁾ (¹⁾ 千葉北総病院集中治療室, ²⁾ S. Waxman Center for Translational Cardiovascular Research, Tufts New England Medical Center, ³⁾ Institute of Archaeological Research Kyoto, ⁴⁾ Department of Vascular Surgery, Tufts New England Medical Center, ⁵⁾ Dep. of Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ⁶⁾ Lahey Clinic Medical Center) : Quantitative colorimetry of atherosclerotic plaque using the L*a*b* color space during angiography for the detection of lipid cores underneath thin fibrous caps. *Int J Cardiovasc Imaging* 2007 ; 23 : 679-691.
 - 6) Otsuka T¹⁾, Kawada T¹⁾, Katsumata M¹⁾, Ibuki C, Kusama Y²⁾ (¹⁾ 付属病院内科学講座 (循環器), ²⁾ 多摩永山病院 循環器内科) : Independent determinants of second derivative of the finger photoplethysmogram among various cardiovascular risk factors in middle-aged men. 2007 ; 30 (12) : 1211-1218.
 - 7) Yodogawa K, Seino Y, Ohara T¹⁾, Takeyama H¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Non-Invasive Detection of Latent Cardiac Conduction Abnormalities in Patients With Pulmonary Sarcoidosis : Application of Signal Averaged Electrocardiogram. *Circ J* 2007 ; 71 : 540-545.
 - 8) Naganawa M^{1,2)}, Kimura Y¹⁾, Mishina M^{1,3)}, Manabe Y⁴⁾, Chihara K⁴⁾, Oda K¹⁾, Ishii K¹⁾, Ishiwata K¹⁾ (¹⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, , ²⁾ Japan Society for the Promotion of Science, ³⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ⁴⁾ Graduate School of Information Science, Nara Institute of Science and Technology) : Quantification of adenosine A_{2A} receptors in the human brain using [¹¹C]TMSX and positron emission tomography. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* 2007 ; 34 (5) : 679-687.
 - 9) Inami M¹⁾, Inokuchi K, Okabe M¹⁾, Kosaka F¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metab) : Polycythemia associated with the JAK2V617F mutation emerged during treatment of chronic myelogenous leukemia. *Leukemia* 2007 ; 21 (5) : 1103-1104.
 - 10) Ishibashi F¹⁾, Mizuno K²⁾, Kawamura A¹⁾, Singh PP¹⁾, Nesto WR¹⁾, Waxman S¹⁾ (¹⁾ Lahey Clinic Medical Center, ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : High Yellow Color Intensity by Angiography With Quantitative Colorimetry to Identify High-Risk Features in Culprit Lesions of Patients With Acute Coronary Syndromes. *The American Journal of Cardiology* 2007 ; 1207-1211.
 - 11) Mishina M^{1,2)}, Ishii K²⁾, Kitamura S^{3,4)}, Suzuki M^{2,5)}, Kobayashi S¹⁾, Ishiwata K²⁾, Katayama Y³⁾ (¹⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾ The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Second Hospital, ⁵⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine) : Correlation between each task of the Mini-Mental State Examination and regional glucose hypometabolism in at-rest Alzheimer' s disease patients. *Geriatr Gerontol Int* 2007 ; 7 (2) : 124-130.
 - 12) Inami M¹⁾, Inokuchi K, Yamaguchi H¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Hema-

- tology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabo) : 1 : Reply to : Myeloproliferative disorders with coexisting BCR-ABL translocation and JAK2V617F mutation? by Dr Ronald S Go. *Leukemia* 2007 ; 21 : 2052-2052.
- 13) Takano M, Mizuno K : Angioscopic Findings after Drug Eluting Stent Implantation. *Herz* 2007 ; 32 (4) : 281-286.
 - 14) Otsuka T¹, Kawada T¹, Katsumata M¹, Ibuki C, Kusama Y² (¹ 付属病院内科学講座 (循環器), ² 多摩永山病院 循環器内科) : High-sensitifty C-reactive protein associated with the risk of coronary heart disease as a estimated by the Framingham Risk Score in middle-aged Japanese men. *International Journal of Cardiology* 2007.
 - 15) Takeuchi J¹, Hinh L², Yamaguchi H¹, Kathryn-A C², Kosaka F¹, Sawaguchi K¹, Mitamura Y¹, Watanabe A¹, Gomi S³, Inokuchi K, Dan K¹ (¹ Division of Hematology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School, ² Dep. of Pathology and Laboratory Medicine, Emory University School of Medicine, Atlanta, GA, USA, ³ Dep. of Hematology, Yokohama Minami Kyosai Hospital) : Identifacation and functional characterization of novel telomerase variant alleles in Japanese Patients with bone-marrow failure syndromes. *Blood Cells, Molecules, and Diseases* 2007 ; 40 : 185-191.
 - 16) Mishina M^{1, 2}), Ishiwata K²), Kimura Y²), Naganawa M^{2, 4}), Oda K¹), Kobayashi S²), Katayama Y³), Ishii K (¹ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ² Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³ The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁴ JSPS Research Fellow, Japan Society for the Promotion of Science) : Evaluation of distribution of adenosine A_{2A} receptors in normal human brain measured with [¹¹C]TMSX PET. *Synapse* 2007 ; 61 (9) : 778-784.
 - 17) Takano M¹), Ijang IK²), Inami S, Yamamoto M, Murakami D, Okamatsu K, Seimiya K, Ohba T, Mizuno K³ (¹ Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ² Cardiology Division, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, ³ Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : In Vivo Comparison of Optical Coherence Tomography and Angioscopy for the Evaluation of Coronary Plaque Characteristics. *The American Journal of Cardiology* 2007 ; 106 : 471-476.
 - 18) Emoto N¹), Kunii-Kidokoro Y, Ashizawa M, Oikawa S, Shimizu K¹), Shimonaka M²), Toyoda A³), Toyoda H³ (¹ Department of Surgery, Nippon Medical School, ² Department of Chemistry, Tokyo University of Science, ³ Department of Bioanalytical Chemistry, Chiba University) : Reduced sulfation of chondroitin sulfate in thyroglobulin derived from human papillary thyroid carcinomas. *Cancer Science* 2007 ; 98 (10) : 1577-1581.
 - 19) Takano M¹), Yamamoto M¹), Xie Y²), Murakami D¹), Inami S¹), Okamatsu K¹), Seimiya K¹), Ohba T¹), Seino Y¹), Mizuno K³ (¹ Dep. of Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ² Harvard University Division of Cardiology, ³ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nip) : Serial long-term evaluation of neointimal stent coverage and thrombus after sirolimus-eluting stent implantation by use of coronary angiography. *Heart* 2007 ; 93 : 1353-1356.
 - 20) Kitakaze M¹), Asakura M¹), J-Wind Investigator-Mizuno K, et al. (¹ Cardiovascular Division of Medicine, National Cardiovascular Center) : Human atrial natriuretic peptide and nicorandil as adjuncts to reperfusion treatment for acute myocardial infarction (J-WIND) : two randomised trials. *The Lancet* 2007 ; 370 : 1483-1493.
 - 21) Inami M¹), Yamaguchi H¹), Hasegawa S²), Gomi S³), Watanabe A³), Kosaka F¹), Mitamura Y¹),

- Kobayashi A²⁾, Kimura S²⁾, Dan K¹⁾, Inokuchi K (¹⁾ Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Sekino Clinical Pharmacology Clinic Tokyo Japan, ³⁾ Yokohama Minami Kyo-Sai Hospital) : Novel Mutations of the JAK2 Gene and Erythropoietin Receptor Gene in Japanese Chronic Myeloproliferative Diseases. *blood* 2007 ; 110 (11) : 747a-747a.
- 22) Inami S, Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Tajika K, Yodogawa K, Yokoyama S, Ohno N, Ohba T, Sano J, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Medicine (Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Tea Catechin Consumption Reduces Circulating Oxidized Low-Density Lipoprotein. *International Heart Journal* 2007 ; 48 (6) : 725-732.
- 23) Seino Y¹⁾, Imai H²⁾, Nakamoto T³⁾, Araki Y⁴⁾, Sasayama S⁵⁾ (¹⁾ Dept. of Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Economics, Musashi University, ³⁾ Cardiopulmonary Section, Dokkyo Medical University Nikko Medical Center, ⁴⁾ Department of Cardiology, Osaka Prefecture Medical Center for Respiratory and Allergic Disease , ⁵⁾ Heart Bio-Mechanics Center, Doshisha University) : Clinical Efficacy and Cost-Benefit Analysis of Nocturnal Home Oxygen Therapy in Patients With Central Sleep Apnea Caused by Chronic Heart Failure. *Circulation Journal* 2007 ; 71 (11) : 1738-1743.
- 24) Kimura Y¹⁾, Naganawa M¹⁾, Sakata M¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Mishina M^{1,2)}, Oda K¹⁾, Ishii K¹⁾, Ishiwata K¹⁾ (¹⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ²⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Distribution volume as an alternative to the binding potential for sigma₁ receptor imaging. *Annals of Nuclear Medicine* 2007 ; 21 (9) : 533-535.
- 25) Inami S, Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Tajika K, Yodogawa K, Yokoyama S, Ohno N, Ohba T, Sano J, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dept. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Tea Catechin consumption reduces circulating oxidized low-density lipoprotein. *International Heart Journal* 2007 ; 48 (6) : 725-732.
- 26) Miyake K¹⁾, Inokuchi K, Miyake N¹⁾, Dan K¹⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Meta) : HIV vector-mediated targeted suicide gene therapy for adult T-cell leukemia. *Gene Ther* 2007 ; 14 (23) : 1662-1667.
- 27) Shioi Y¹⁾, Tamura H¹⁾, Yokose N, Satoh C^{1,2)}, Dan K¹⁾, Ogata K¹⁾ (¹⁾ Division of Hematology, Dep. of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Bioregulation, Nippon Medical School) : Increased apoptosis of circulating T cells in myelodysplastic syndromes. *Leukemia Research* 2007 ; 31 (12) : 1641-1648.
- 28) Ono Y, Hino M, Ueda Y, Kamizuru R, Omata M, Uehara T, Tanaka Y, Soma T, Kudoh S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Internal Medicine (Divisions of Pulmonary Medicine, Infections Diseases and Oncology) : Phase I study of paclitaxel, carboplatin and UFT in chemo-naive Patients with advanced non-small cell lung cancer (NSCLC). *Medical Oncol* 2007 ; 24 (4) : 402-406.
- 29) Takano M, Yamamoto M, Xie Y, Murakami D, Inami S, Okamoto K, Seimiya K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dept. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Serial long-term evaluation of neointimal stent coverage and thrombus after sirolimus-eluting stent implantation of coronary angiography. *Heart* 2007 ; 93 (12) : 1533-1536.
- 30) Takano M¹⁾, Inami S¹⁾, Yang IK²⁾, Yamamoto M¹⁾, Murakami D¹⁾, Seimiya K¹⁾, Ohba T¹⁾, Mizuno K³⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Harvard University Cardiology Division, ³⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Evaluation by Optical Coherence Tomography of Neointimal Coverage of Sirolimus-Eluting Stent Three Months After Implantation. *American Journal of Cardiology* 2007 ; 99 (8) : 1034-1038.
- 31) Inami M¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Hasegawa S¹⁾, Mitamura Y¹⁾, Kosaka F¹⁾, Kobayashi A¹⁾, Kimura S¹⁾, Dan

- K¹, Inokuchi K¹ (¹ Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Met) : Analysis of the exon 12 and 14 mutations of the JAK2 gene in Philadelphia chromosome-positive leukemia. *Leukemia* 2008 ; 22 (1) : 216-217.
- 32) Hashimoto M^{1, 2)}, Kawasaki K²⁾, Suzuki M^{1, 2)}, Mitani K¹⁾, Murayama S³⁾, Mishina M^{1, 4)}, Oda K²⁾, Kimura Y^{2, 5)}, Ishiwata K²⁾, Ishii K²⁾, Inoue K¹⁾ (¹ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, ² Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³ Research Team for Geriatric Diseases, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ⁴ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ⁵ Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences) : Presynaptic and postsynaptic nigrostriatal dopaminergic functions in multiple system atrophy. *Neuroreport* 2008 ; 19 (2) : 145-150.
- 33) Naganawa M^{1, 2)}, Kimura Y^{1, 2)}, Yano J¹⁾, Mishina M^{2, 3)}, Yanagisawa M¹⁾, Ishii K²⁾, Oda K²⁾, Ishiwata K²⁾ (¹ Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, ² Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Robust estimation of the arterial input function for Logan plots using an intersectional searching algorithm and clustering in positron emission tomography for neuroreceptor imaging. *Neuroimage* 2008 ; 40 (1) : 26-34.
- 34) Fujikawa A¹⁾, Takiguchi Y¹⁾, Mizuno S¹⁾, Uruma T¹⁾, Suzuki K¹⁾, Nagao K¹⁾, Nijima M¹⁾, Edo H¹⁾, Hino M, Kuriyama T¹⁾ (¹ Dept. of Respiratory Graduate School of Medicine, Chiba University.) : Lung cancer screening-Comparison of computed tomography and X-ray. *Lung cancer* 2008 ; 31.
- 35) Tamai H¹⁾, Yamaguchi H¹⁾, Hamaguchi H²⁾, Yagasaki F³⁾, Bessho M³⁾, Kobayashi T⁴⁾, Akiyama H⁴⁾, Sakamaki H⁴⁾, Takahashi S⁵⁾, Tojo A⁵⁾, Ohmine K⁶⁾, Ozawa K⁶⁾, Okumura H⁷⁾, Nakao S⁷⁾, Inokuchi K¹⁾, et al. (¹ Department of Hematology, Nippon Medical School, ² Department of Hematology, Musashino Red Cross Hospital, ³ Department of Hematology, Saitama Medical University, ⁴ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ⁵ Department of Hematology, The Institute of Medical Science, The University of Tokyo, ⁶ Department of Hematology, Jichi Medical School, ⁷ Department of Hematology, Kanazawa University, ⁸ Department of Hematology, Tokyo Medical and Dental University) : Clinical features of adult acute leukemia with 11q23 abnormalities in Japan : a co-operative multicenter. *International Journal of Hematology* 2008 ; 87 (2) : 195-202.
- 36) Soma T¹⁾, Hino M, Kida K¹⁾, Kudoh S¹⁾ (¹ Dept. of Internal Medicine (Divisions of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology)) : A prospective and randomized study for improvement of acute asthma by non-invasive positive pressure ventilation (NPPV). *Intern Med* 2008 ; 47 (6) : 493-501.
- 37) Takano M, Yamamoto M, Murakami D, Seimiya K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹ Dept. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Long-term follow-up evaluation after sirolimus-eluting stent implantation by optical coherence tomography : do uncovered struts persist?. *Journal of the American College of Cardiology* 2008 ; 51 (9) : 968-969.
- 38) Inami S, Ishibashi F¹⁾, Waxman S¹⁾, Okamoto K, Seimiya K, Takano M, Uemura R²⁾, Sano J, Mizuno K (¹ Lahey Clinic Medical Center) : Multiple Yellow Plaques Assessed by Angioscopy With Quantitative Colorimetry in Patients With Myocardial Infarction. *Circulation Journal* 2008 ; 72 : 399-403.
- 39) Otsuka T¹⁾, Ibuki C, Suzuki T¹⁾, Ishii K¹⁾, Yoshida H¹⁾, Kodani E¹⁾, Kusama Y²⁾, Atarashi H²⁾, Kishida H¹⁾, Takano T¹⁾, Mizuno K¹⁾ (¹ 付属病院 内科学講座 (循環器), ² 多摩永山病院循環器内科) : Administration of the Rho-kinase inhibitor, fasudil, following nitroglycerin additionally dilates the site of the Rho-kinase inhibitor, fasudil, following nitroglycerin additionally dilates the site of coronary spasm in

patients with vasospastic angina. *Coronary Artery Disease* 2008 ; 19 (2) : 105-110.

- 40) Setsuta K¹⁾, Seino Y, Kitahara Y¹⁾, Arau M¹⁾, Ohbayashi T¹⁾, Takano T²⁾, Mizuno K²⁾ (¹⁾ Dep. of Cardiology and Clinical Lab., Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, ²⁾ Dep. of Internal Medicine Nippon Medical School) : Elevated Levels of Both Cardiomyocyte Membrane and Myofibril Damage Markers Predict Adverse Outcomes in Patients With Chronic Heart Failure. *Circulation Journal* 2008 ; 72 (4) : 569-574.
- 41) Takano M, Xie Y, Murakami D, Inami S, Yamamoto M, Ohba T, Seino Y : Various optical coherence tomographic findings in restenotic lesions after sirolimus-eluting stent implantation. *International Journal of Cardiology* 2008.

(2) 座談会 :

- 1) 清野精彦, 吉野秀朗¹⁾, 半田みち子²⁾, 笹生正人³⁾ (¹⁾ 杏林大学医学部第二内科教授, ²⁾ 川崎市立井田病院総合診療部部長, ³⁾ 笹生循環器クリニック院長) : 急性心筋梗塞診断におけるラピチェックH-FABP全血迅速診断法の有用性. *臨床と研究* 2007 ; 84 (9) : 119-131.

(3) 総説 :

- 1) Takano M, Yamamoto M, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Angioscopic Findings after Drug-Eluting Stent Implantation. *Herz* 2007 ; 32 (4) : 281-286.
- 2) 清野精彦¹⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Division of Cardiology) : 臨床研究の進歩 - 診断学 - : マルチ・バイオマーカーアプローチの構築. *J Nippon Med Sch* 2006 ; 64 (4) : 691-699.
- 3) 雪吹周生 : 経皮的ペーシング (TCP) 復権のとき? . *日集中医集* 2006 ; 14 : 17-19.
- 4) 三品雅洋¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター) : PETを用いた脳疾患の診断と病態の研究. *日医大医会誌* 2007 ; 3 (4) : 220-220.
- 5) 塚田弥生¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 清野精彦 (¹⁾ 付属病院内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心不全の家庭管理. 2007 ; 65 (5) : 323-328.
- 6) 清野精彦 : 各種心筋マーカーにより評価する. *Medical Practice* 2007 ; 24 (5) : 833-835.
- 7) 塚田弥生¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 清野精彦 (¹⁾ 付属病院内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心不全の家庭管理. 2007 ; 65 (5) : 323-328.
- 8) Tsukada Y¹⁾, Katoh Y¹⁾, Seino Y (¹⁾ Dept. of Internal Medicine, Division of Cardiology, Nippon Medical School) : Home-based management in patients with chronic heart failure. *Nippon Rinsho* 2007 ; 28 (65) : suppl5 323-328.
- 9) 田近研一郎, 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 血管内視鏡による診断 : 不安定プラークの特徴. *医学のあゆみ* 2007 ; 221 (13).
- 10) 石渡喜一¹⁾, 石井賢二¹⁾, 成相直^{1,2)}, 三品雅洋^{1,3)}, 木村裕一¹⁾ (¹⁾ 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設, ²⁾ 東京医科歯科大学脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : アデノシン受容体を指標とした脳・心筋・骨格筋の新しいPET診断法. *INNERVISION* 2007 ; 22 (7) : 22-22.
- 11) 岡松健太郎, 水野杏一 : 血管内視鏡により冠動脈病変をみる. *Vascular Medicine* 2007 ; 3 (3) : 38 (234) - 44 (240).
- 12) 雪吹周生 : 冠動脈の観察とその評価 (IVUS). *救急・集中治療* 2007 ; 19 (7) : 945-951.
- 13) 山本真功, 清野精彦 : 筋原線維マーカー. *ICUとCCU* 2007 ; 31 (8) : 571-575.
- 14) 雪吹周生 : 循環器症候群 (第2版) II : その他の循環器疾患を含めて IV. 冠動脈・静脈疾患 不安定狭心症. 別冊日本臨牀 新領域別症候群シリーズ 2007 ; (No. 5) : 234-239.
- 15) 清野精彦 : 急性冠症候群の新しい診断法. *日本心臓財団 「心臓」* 2007 ; 39 (10) : 945-947.
- 16) 森本耕三, 折津 愈¹⁾ (¹⁾ 日本赤十字社医療センター呼吸器内科) : 非結核性抗酸菌症の診断のポイント. 診断

と治療 2007 ; 195 (11) : 131-135.

- 17) 清野精彦¹⁾ The Japanese Coronary Artery Disease (JCAD) Investigators) : 虚血心の心機能評価 : 血液生化学バイオマーカー. 冠疾患誌 2007 ; 13 : 115-120.
- 18) 塚田弥生¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 清野精彦¹⁾ 附属病院内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 実地医家の治療の実際 : 心不全の家庭管理指導のポイント. Medical Practice 2007 ; 24 (5) : 901-906.
- 19) 福島正人¹⁾, 清野精彦¹⁾ 多摩永山病院内科) : 生化学診断 (バイオマーカー). 治療学 2007 ; 41 (8) : 792-797.
- 20) 猪口孝一 : 顆粒球減少症/無顆粒球症. 臨床精神医学 2007 ; 36 (増刊) : 137-141.
- 21) 村上大介, 清野精彦 : 急性冠症候群に対するバイオマーカー・ストラテジー. 医学のあゆみ 2008 ; 224 (5) : 313-317.
- 22) 清野精彦, 福島正人¹⁾ (1) 千葉北総病院集中治療室) : バイオマーカー. 総合臨床 2008 ; 57 (2) : 248-254.
- 23) 佐藤直樹¹⁾, 清野精彦¹⁾ 附属病院集中治療室) : 心不全での急性腎不全の管理. Heart View 2008 ; 12 (3) : 81-85.
- 24) 玉井勇人¹⁾, 猪口孝一¹⁾ 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : 11q23転座型急性白血病の予後と治療. 臨床血液 2008 ; 49 (3) : 193-200.
- 25) 山口博樹¹⁾, 猪口孝一¹⁾ (1) 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : 再生不良性貧血の分子病態. 血液・腫瘍科 2008 ; 56 (2) : 155-161.
- 26) 清野精彦 : エビデンスに基づく循環器薬の使い方へのアプローチ その2 : 実地医家に役立つ診療の手引き : 心不全治療のガイドラインとMeその使いかた. Medical Practice M. P. 2008 ; 25 (3) : 390-396.

(4) 症例報告 :

- 1) 森本耕三, 坂本 徹¹⁾, 神宮浩之¹⁾, 安藤常浩¹⁾, 生島壮一郎¹⁾, 折津 愈¹⁾ (1) 日本赤十字社医療センター呼吸器内科) : 尿崩症と視床下部・下垂体・性腺系の機能異常を呈したサルコイドーシスの1例. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌 127 (1) : 43-47.
- 2) 石川理恵¹⁾, 森本耕三, 守屋敦子¹⁾, 新井愛子¹⁾, 神宮浩之¹⁾, 安藤常浩¹⁾, 生島壮一郎¹⁾, 折津 愈¹⁾, 北村英也²⁾, 武村民子²⁾ (1) 日本赤十字社医療センター呼吸器内科, 2) 日本赤十字社医療センター病理部) : 一羽のインコによる肺癌合併急性鳥飼病の1例. 日本呼吸器学会雑誌 2008 ; 46 (2) : 141-145.

著 書

- 1) 清野精彦 : [分担] 心不全管理に心筋傷害マーカー・炎症マーカーは役に立つのか? . EBM循環器疾患の治療 (三田村秀雄 山科 章 川名正敏 桑島 巖), 2007 ; pp253-258, 中外医学社.
- 2) 清野精彦 : [自著] これでわかる心電図の読み方と心臓病. これでわかる心電図の読み方と心臓病, 2007 ; pp1-134, 南江堂.
- 3) 清野精彦 : [分担] 6. 循環器疾患 : 不安定狭心症, 非ST上昇型心筋梗塞. 2008 今日の治療指針 : 私はこう治療している (山口 徹 北原光夫 福井次夫), 2008 ; pp275-280, 医学書院.
- 4) 清野精彦, 小川晃生¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : [分担] 虚血性心疾患 : b. 中更年期. 性差からみた女性の循環器疾患診療 (天野恵子 山口 徹), 2006 ; pp64-82, メジカルビュー社.
- 5) 清野精彦 : [分担] 救急部における管理 : 初期診療における迅速診断の必要性. ECC : 超急性期をのりこえる (野々木宏), 2007 ; pp83-93, 中山書店.
- 6) 清野精彦 : [分担] 血液生化学的心筋傷害マーカー. 新 目でみる循環器病シリーズ 10 : 心筋梗塞症 (吉野秀朗), 2007 ; pp67-77, メジカルビュー.
- 7) 猪口孝一 : [共著] 慢性骨髄増殖性疾患. カラーテキスト血液病学 (押味和夫), 2007 ; pp330-343, 中外医学

社.

- 8) 清野精彦：〔分担〕生化学マーカーで診断する．新・心臓病診断プラクティス：心筋症を識る・診る・治す 10 (磯部光章 松崎益徳 吉川純一 笠貫 宏 土師和夫 別府慎太郎), 2007 ; pp81-86, 文光堂.
- 9) 清野精彦, 岡松健太郎：〔分担〕狭心症と心筋梗塞の境界線：バイオマーカー．新 目でみる循環器病シリーズ：狭心症 (鶴見由起夫 住吉徹哉), 2007 ; pp33-34, メジカルビュー.
- 10) 清野精彦, 雪吹周生：〔分担〕血管拡張薬．治療薬ハンドブック：薬剤選択と処方のポイント 2008 (高久史 磨 堀 正二 菅野健太郎 門脇 孝 乾 賢一 林 昌洋), 2008 ; pp351-354, じほう.
- 11) 清野精彦：〔分担〕急性冠症候群と心腎相関．心腎相関の病態理解と診断 (磯部光章 佐々木成), 2008 ; pp78-87, 羊土社.
- 12) 清野精彦：〔分担〕心血管イベントとバイオマーカー．循環器疾患最新の治療2008 - 2009 (堀 正二 永井良三), 2008 ; pp38-42, 南江堂.
- 13) 清野精彦：〔分担〕急性心不全期の治療．心腎関連を識る (松崎益徳 伊藤貞嘉), 2008 ; pp141-149, 文光堂.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 三品雅洋^{1,2)} (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設)：パーキンソニズムのPET. 第7回大江戸神経フォーラム, 2007. 7.
- 2) 清野精彦：慢性心不全の外来および家庭管理. 第13回日本心臓リハビリテーション学会 (東京), 2007. 7.
- 3) 三品雅洋^{1,2)} (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設)：パーキンソン病の核医学診断と治療. 第1回北村山神経懇話会, 2007. 9.
- 4) 三品雅洋^{1,2)} (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：PETを用いた脳疾患の診断と病態の研究. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

(2) 教育講演：

- 1) 清野精彦：慢性心不全の外来および家庭管理. 第13回日本心臓リハビリテーション学会, 2007. 7.
- 2) 三品雅洋^{1,2)} (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設)：SPECT・PETを用いたパーキンソン症候群の画像診断. 第4回新潟県脳機能解析研究会 (新潟), 2007. 8.

(3) シンポジウム：

- 1) Satoh C¹⁾, Shioi Y, Tamura H, Ykose N, Dan K, Ogata K (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Meta) : Increased apoptosis of circulating T cells in myelodysplastic syndromes. The 9th International Symposium on myelodysplastic syndromes (Florence, Italy), 2007. 5.
- 2) 三品雅洋^{1,2)}, 石井謙二²⁾, 石渡喜一²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, 2) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設)：アデノシン受容体：ドパミンとの関連 (神経受容体伝達機能イメージング：Cutting Edge). 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
- 3) 山本真功, 高野雅充, 稲見茂信, 清野精彦, 水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：DES留置後の新生内膜及びステントと血栓に関する経時的観察. 第21回日本心臓血管内視鏡学会, 2007. 10.

(4) 一般講演：

- 1) Kimura Y¹⁾, Naganawa M¹⁾, Sakata M¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Mishina M^{1,2)}, Oda K¹⁾, Ishii K¹⁾, Ishiwata K¹⁾ (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, 2) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital)：Distribution volumes as an alternative to binding potentials for sigma₁ imaging. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function & 8th

- International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Osaka), 2007. 5.
- 2) Mishina M¹, Ishiwata K², Oyama M², Kitamura S³, Kimura Y², Oda K², Kobayashi S¹, Katayama Y³, Ishii K² (1) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (3) The Department of Neurology, Nephrology and Rheumatology Nippon Medical School) : Evaluation of sigma₁ receptors in Alzheimer' s disease using [¹¹C]SA4503 PET. The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function & 8th International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Osaka), 2007. 5.
 - 3) Morimoto K, Ishikawa R¹, Arai A¹, Moriya A¹, Kamiya H¹, Ando T¹, Ikushima S¹, Oritsu S¹ (1) Japanese Red Cross Medical Center) : A Clinical Study of Pulmonary Mycobacterium Avium : Intracellulare Complex Disease Without Preexisting Lung Disease in Men : Experience in Japan. American Thoracic Society International Conference (San Francisco, USA), 2007. 5.
 - 4) Mishina M^{1,2}, Ishiwata K², Kitamura S³, Kimura Y², Naganawa M^{2,7}, Hashimoto M^{5,2}, Suzuki M^{5,2}, Oda K², Hamamoto M^{3,6}, Kobayashi S¹, Katayama Y³, Ishii K² (1) Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, (3) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, (4) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, (5) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, (6) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (7) JSPS Research Fellow, Japan Society for the Promotion of Science) : Relationship between adenosine A_{2A} receptor and dopamine transporter in drug naive Parkinson' s disease using TMSX PET. 13th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Chicago), 2007. 6.
 - 5) 太良修平, 大場崇芳, 白壁彰弘, 村上大介, 田近研一郎, 稲見茂信, 高野雅充, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一¹ (1) 付属病院内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 薬剤溶出性ステント留置後の再狭窄病変に認めた興味深いOCT (Optical Coherence Tomography) 画像所見. 第31回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2007. 10.
 - 6) 村上大介, 高野雅充, 水野杏一¹ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : Discontinuation of dual anti-platelete therapy for eighteen months does not always occur stent thrombosis after implantation of Sirolimus-eluting stent. 第16回日本心血管インターベンション学会, 2007. 6.
 - 7) 山本真功, 高野雅充, 村上大介, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一¹ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : A Case of patient on hemodialysis with all stents restenosis after implantation of Sirolimus-eluting stents for three coronary arteries. 第16回日本心血管インターベンション学会, 2007. 6.
 - 8) 岡部雅弘¹, 田野崎栄¹, 玉井勇人¹, 塩井由美子¹, 田近賢二¹, 猪口孝一, 檀 和夫¹ (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : t (3 ; 14) (q27 ; q32) , t (8 ; 14) (q24 ; q32) のdouble translocationを認めた急性リンパ性白血病 (L3) の1例. 第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会, 2007. 10.
 - 9) 三品雅洋^{1,2}, 石井賢二², 木村裕一^{2,3}, 長縄美香^{2,3}, 織田圭一², 橋本昌也^{2,4}, 鈴木正彦^{2,4}, 小林士郎¹, 片山泰朗⁵, 石渡喜一² (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設, (3) 放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター先端生体計測研究グループ画像解析研究チーム, (4) 東京慈恵会医科大学神経内科, (5) 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門) : [¹¹C]TMSX PETを用いた被殻アデノシン A_{2A} 受容体分布の加齢変化の検討. 第47回日本核医学会学術総会, 2007. 11.
 - 10) 三品雅洋^{1,2}, 石渡喜一² (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (2) 東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究施設) : [¹¹C]SA4503 PETを用いたアルツハイマー病におけるシグマ₁受容体分布の検討. 第8回千葉県

医師会医学会学術大会, 2007. 12.

- 11) Yamamoto M, Inami T, Tara S, Murakami D, Kenichiro T, Okamatsu K, Takano M¹⁾, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ 附属病院内科学講座 (循環器) : Relationship between Thin Cap Fibroatheroma Identified by Virtual Histology and Angioscopic Yellow Plaque between Thin Cap Fibroatheroma Identified by Virtual Histology and Angioscopic Yellow Plaque in Quantative Analysis with Col-orimetry. 第72回日本循環器学会, 2008. 3.
- 12) Yamamoto M, Inami T, Murakami D, Tajika K, Inami S, Okamatsu K, Takano M¹⁾, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Cardiology, Sendagi Hospital) : In-Vivo Comparison Coherence Tomography and Angioscopy for the Evaluation of Coronary Plaque Characteristics. 第72回日本循環器学会, 2008. 3.
- 13) Murakami D, Yamamoto M, Inami T, Tara S, Tajika K, Inami S, Okamatsu K, Takano M¹⁾, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Dep. of Cardiology, Sendagi Hospital) : Long Term follow-up evaluation after sirolimus-eluting stent implantation by Optical Coherence Tomography. 第72回日本循環器学会, 2008. 3.
- 14) 兩宮志門, 濱本 真, 熊谷智昭, 三品雅洋¹⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : VSRADで算出される海馬傍回付近の萎縮と血漿 A β 42 / A β 40比は相関する. 第48回日本神経学会総会 (名古屋), 2007. 5.
- 15) 三品雅洋^{1, 2)}, 石渡喜一²⁾, 石井賢二²⁾, 北村 伸⁴⁾, 木村裕一²⁾, 長縄美香²⁾, 織田圭一²⁾, 橋本昌也^{2, 3)}, 鈴木正彦^{2, 3)}, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究施設, ³⁾ 東京慈恵会医科大学神経内科, ⁴⁾ 日本医科大学内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : 未治療パーキンソン病におけるアデノシン A_{2A}受容体とドパミントランスポータの左右差. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
- 16) 熊谷智昭, 兩宮志門, 濱本 真, 三品雅洋¹⁾, 福地孝明¹⁾, 小林士郎, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : 脳梗塞危険因子としての延髄性高血圧. 第48回日本神経学会総会, 2007. 5.
- 17) 三品雅洋¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター) : t-PAが有効であった1例. 第89回東葉臨床医学セミナー, 2007. 5.
- 18) 原田太郎, 江本直也, 石崎 晃, 田村秀樹, 及川眞一 : 外来糖尿病コントロールにおける主治医の経験年数・専門医資格の影響. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 2007. 5.
- 19) 楠 裕司, 小野 靖, 上田有香, 田中庸介, 小俣雅稔, 上原隆志, 吉野直之, 窪倉浩俊, 日野光紀, 大秋美治¹⁾, 工藤翔二²⁾ (¹⁾ 病理部, ²⁾ 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)) : PET陽性所見にて開胸肺生検を行いCOPと診断された1例. 第169回呼吸器学会関東地方会, 2007. 5.
- 20) 森本耕三, 石川理恵¹⁾, 守屋敦子¹⁾, 新井愛子¹⁾, 神宮浩之¹⁾, 安藤常浩¹⁾, 生島壮一郎¹⁾, 折津 愈¹⁾ (¹⁾ 日本赤十字社医療センター呼吸器内科) : 当院における過敏性肺炎の臨床的検討. 第47回日本呼吸器学会総会, 2007. 5.
- 21) 福地孝明¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)) : 当センターで経験したrt-PA投与症例13例の報告. 第25回日本神経治療学会総会, 2007. 6.
- 22) 林 洋史, 兩宮志門, 熊谷智昭, 三品雅洋¹⁾, 濱本 真 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 症状に対応するSPECT所見を認めた34歳女性辺縁系脳炎の1例. 第181回日本神経学会関東地方会 (東京), 2007. 6.
- 23) 國井 葉¹⁾, 吉村 弘¹⁾, 向笠浩二¹⁾, 宮良あやこ¹⁾, 皆川晃伸¹⁾, 高橋育克¹⁾, 松本雅子¹⁾, 清水妙子¹⁾, 江本直也, 及川眞一²⁾, 伊藤公一¹⁾, 伊藤國彦¹⁾ (¹⁾ 伊藤病院, ²⁾ 日本医科大学内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部

- 門))：1型糖尿病合併バセドウ病にRI治療を安全に行うために。第80回日本内分泌学会学術総会，2007. 6.
- 24) 清宮康嗣，山本真功，村上大介，田近研一郎，淀川顕司，徳山権一，稲見茂信，大場崇芳，大野則彦，雪吹周生，水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：急性心筋梗塞および脳梗塞発症を契機に診断されたChurg-Strauss症候群の1例。第204回日本循環器学会関東甲信越地方会，2007. 6.
- 25) 淀川顕司，大野則彦，山本真功，村上大介，田近研一郎，徳山権一，稲見茂信，高野雅充，清宮康嗣，大場崇芳，雪吹周生，水野杏一¹⁾ (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：慢性心房細動の経過中にWPW症候群を発症し，頻拍誘発心筋症を来した1例。第204回日本循環器学会関東甲信越地方会，2007. 6.
- 26) 森本耕三，石川理恵¹⁾，守屋敦子¹⁾，新井愛子¹⁾，神宮浩之¹⁾，安藤常浩¹⁾，生島壮一郎¹⁾，折津 愈¹⁾ (1) 日本赤十字社医療センター)：当院における肺MAC症男性例の検討。第82回日本結核病学会総会，2007. 6.
- 27) 石川理恵¹⁾，森本耕三，守屋敦子¹⁾，新井愛子¹⁾，神宮浩之¹⁾，安藤常浩¹⁾，生島壮一郎¹⁾，折津 愈¹⁾，北村英也²⁾，武村民子²⁾ (1) 日本赤十字社医療センター呼吸器内科，²⁾ 日本赤十字社医療センター病理部)：mica-fungin sodium (MCFG) に一時効果を認めたWegener肉芽種症の1例。第176回日本呼吸器学会関東地方会，2007. 9.
- 28) 糸川典夫，横瀬紀夫，徳山権一，檀 和夫¹⁾，大秋美治²⁾ (1) 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)，²⁾ 千葉北総病院病理部)：完全房室ブロック発症直後に最未分化型急性骨髄性白血病を発症し，寛解後突然死した透析患者の1剖検例。第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会，2007. 10.
- 29) 横瀬紀夫¹⁾，藤野鉄平¹⁾，糸川典夫¹⁾，大秋美治²⁾，檀 和夫³⁾ (1) 千葉北総病院内科，²⁾ 千葉北総病院病理部，³⁾ 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：免疫学的機序によると思われる蛋白漏出性胃腸症を合併したsymptomatic myeloma。第69回日本血液学会・日本49回日本臨床血液学会合同総会，2007. 10.
- 30) 関田祥久，藤森俊二¹⁾，江原彰仁，小林 剛，瀬尾継彦¹⁾，三井啓吾¹⁾，米澤真興¹⁾，柴田喜明¹⁾，永田和弘，田中 周¹⁾，琴寄 誠，辰口篤志¹⁾，吉澤雅史，吉田 豊¹⁾，坂本長逸¹⁾，その他1名 (1) 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：顆粒球除去療法 (GCAP) のTh1サイトカインおよび可溶性接着分子への影響に関するパイロット研究。第49回日本消化器病学会，2007. 10.
- 31) 三品雅洋^{1,2)}，石渡喜一²⁾，石井賢二²⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 東京都老人総合研究所ポジロン医学研究施設，³⁾ 日本医科大学内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：[¹¹C]TMSX PET・[¹¹C]CFT PET・[¹¹C]RAC PETを用いた未治療パーキンソン病の検討。第19回日本脳循環代謝学会総会，2007. 10.
- 32) 福地孝明^{1,2)}，三品雅洋^{1,2)}，小南修史¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗²⁾ (1) 千葉北総病院脳神経センター，²⁾ 内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)：日本医科大学千葉北総病院脳神経センターでのrt-PA投与症22例の検討。第19回日本脳循環代謝学会総会，2007. 10.
- 33) 楠 裕司¹⁾，田中庸介¹⁾，日野光紀¹⁾，猪俣 稔¹⁾，上原隆志¹⁾，小俣雅稔¹⁾，小野 靖¹⁾，大秋美治²⁾，工藤翔二³⁾ (1) 千葉北総病院内科，²⁾ 千葉北総病院病理部，³⁾ 付属病院内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)：当院で経験した，Churg-Staus synd関連病態に困り急速な転帰を辿り死亡した症例の検討。第177回日本呼吸器学会関東地方会，2007. 10.
- 34) 脇田知志，岡本宗雄¹⁾，水木太郎¹⁾，中村恭子¹⁾，田野崎栄¹⁾，猪口孝一，檀 和夫¹⁾ (1) 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：初発時46, XY, t (1; 13) (q42; q14) を示し，亜ヒ酸で再寛解を得たt (15; 17) 陰性，PML/RARα陽性APLの1例。第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会，2007. 10.
- 35) 田野崎栄¹⁾，岡本宗雄¹⁾，竹内純子¹⁾，中島 泰¹⁾，田村秀樹¹⁾，及川真一¹⁾，猪口孝一 (1) 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)：再生不良性貧血を合併した多発の内分泌腺腫症 (MEN) 1型の1例。第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会，2007. 10.
- 36) 岡田宗雄¹⁾，山口博樹¹⁾，磯部泰司²⁾，渡邊綾子^{1,3)}，五味聖二^{1,3)}，猪口孝一，押味和夫²⁾，檀 和夫¹⁾ (1) 日本医科大学内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)，²⁾ 順天堂大学血液内科，³⁾ 横浜南共済病院血液内科)：

血球貧食症候群の診断ならびに重症度の評価における中性脂肪値の有用性の検討. 第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会, 2007. 10.

- 37) 山口博樹¹⁾, 猪口孝一, 塙 秀樹²⁾, 澤口和宏¹⁾, 三田村佳勇¹⁾, 内田直哉^{1,2)}, 稲見光春¹⁾, 島田 隆²⁾, 檀和夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), ²⁾ 生化学・分子生物学 (分子遺伝学・栄養学): 遺伝子発現profilingによるMLL-AF4キメラ遺伝子とFlt3 D835V 遺伝子異常による白血病発症機序の検討 (Analysis of MLL-AF4 and FLT3 activation to induce leukemogenesis by gene expression profiling). 第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会, 2007. 10.
- 38) 中村恭子¹⁾, 脇田知志, 塩井由美子¹⁾, 水木太郎¹⁾, 田野崎栄¹⁾, 田村秀人¹⁾, 田近賢二¹⁾, 山田 隆¹⁾, 緒方清行¹⁾, 猪口孝一, 檀 和夫¹⁾ (¹⁾ 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門): Imatinib 投与下の慢性骨髄性白血病患者における感染性合併症に関する検討 (Infectious complications in CML patients under treatment with Imatinib mesylate). 第69回日本血液学会・第49回日本臨床血液学会合同総会, 2007. 10.
- 39) 岡松健太郎, 山本真功, 横山真也¹⁾, 高野雅充, 稲見茂信, 大場崇芳, 田近研一郎, 雪吹周生, 畑 典武¹⁾, 清野精彦, 水野杏一²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院集中治療室, ²⁾ 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門): 病変部の性状とDES留置後の新生内膜による被覆の関係. 第21回日本心臓血管内視鏡学会, 2007. 10.
- 40) 太組一朗^{1,3)}, 三品雅洋¹⁾, 田中啓太²⁾, 小林士郎^{1,3)}, 寺本 明³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 東京電機大学先端工学研究所, ³⁾ 日本医科大学脳神経外科学): 脳出血後の虚血性病変との鑑別がMRI上困難であった側頭葉てんかん. 第41回日本てんかん学会総会, 2007. 11.
- 41) 三品雅洋^{1,2)}, 太組一朗¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 日本医科大学内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 椎骨動脈解離性動脈瘤による脳梗塞における発症前の血管解離痛. 第35回日本頭痛学会総会, 2007. 11.
- 42) 三品雅洋^{1,3)}, 熊谷智昭^{1,3)}, 小林士郎²⁾, 武井健吉¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之²⁾, 松本 尚²⁾, 益子邦洋³⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 千葉北総病院救命救急センター, ³⁾ 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 急性期脳卒中診療におけるドクターヘリ搬送. 第14回日本航空医療学会総会, 2007. 11.
- 43) 小林宣明¹⁾, 横山真也¹⁾, 菊池有史¹⁾, 白壁彰宏¹⁾, 福島正人¹⁾, 鈴木雄一朗¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 畑 典武¹⁾, 大野則彦, 清野精彦 (¹⁾ 千葉北総病院集中治療室): 心肺蘇生, PCPS管理後に, 肝損傷からの出血性ショックをきたしたAMIの1例. 第35回日本集中治療医学会, 2008. 2.
- 44) 福地孝明^{1,2)}, 三品雅洋^{1,2)}, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 日本医大千葉北総病院脳神経センターで経験したrt-PA投与22症例. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.
- 45) 三品雅洋^{1,2)}, 太組一朗¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 気温と病型別脳梗塞発症の関係. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.

[千葉北総病院集中治療室]

研究概要

重症循環器疾患を主体に, 集中管理を要する内科疾患についての病態・診断・治療に係る研究を継続している. 急性冠症候群 (急性心筋梗塞と不安定狭心症) については, ドクターヘリ搬送によるプレホスピタルディレイの短縮の臨床的意義, 早期診断にかかわる心筋マーカーの有用性, 予後推定に係る検査マーカーの評価, 後改善に繋がる治療法の構築についての研究を継続している. 急性大動脈瘤解離については, 救急外来での早期診断に寄与する診断法 (症状, 胸部X線写真, 心臓超音波検査) としてのスコアリング作成について報告を重ねている.

重症うっ血性心不全については, 急性期治療薬の開発, 全国レベルでの病態把握プロジェクト (ATTEND reg-

istry)に参加し活動している。急性肺血栓塞栓症については、旅行者血栓症（エコノミークラス症候群）を含めた診断法と治療法について研究と報告を続けて来たが、現在はその予防法についての啓蒙にも力を注いでいる。

重症不整脈については、治療薬の開発と処置法（1次ならびに2次救急処置法：BLS, ACLS, AED）についての啓蒙活動に貢献している。その他、急性膵炎、敗血症、全身性炎症反応症候群、急性肺障害、急性腎不全などについて、薬物療法ならびに血液浄化療法を中心に研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 報告：

- 1) 畑 典武：1次救急処置ならびにAEDの使用。印旛市郡医師会報 2007；41：55-57.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Shirakabe A, Asai K¹⁾, Kikuchi A, Kobayashi N, Suzuki Y, Shinada T, Yokoyama S, Hata N, Mizuno K¹⁾ (1) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School)：Clinical significance of MMP families in acute exacerbation of heart failure. The 72nd Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2008. 3.
- 2) 白壁章宏¹⁾, 山本真功¹⁾, 村上大介¹⁾, 田近研一郎¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 徳山権一¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 高野雅充¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 大野則彦¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 菊池有史, 小林宣明, 鈴木雄一朗, その他4名 (1) 千葉北総病院内科)：一過性の重度僧帽弁逆流と左室流出路圧較差を認めたたこつぼ心筋症の1例。第30回循環器合同カンファレンス, 2007. 6.
- 3) 淀川顕司¹⁾, 大野則彦¹⁾, 山本真功¹⁾, 村上大介¹⁾, 田近研一郎¹⁾, 徳山権一¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 高野雅充¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 水野杏一¹⁾, 菊池有史, 白壁章宏, 小林宣明, その他6名 (1) 千葉北総病院内科)：慢性心房細動の経過中にWPW症候群を発症し、頻拍誘発性心筋症を来した1例。第204回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2007. 6.
- 4) 鈴木雄一朗, 横山真也, 菊池有史, 白壁章宏, 小林宣明, 品田卓郎, 畑 典武：ACS症例における再灌流障害の評価に酸化LDLは有用か？。第55回日本心臓病学会, 2007. 9.
- 5) 白銀一貴, 菊池有史, 白壁章宏, 小林宣明, 鈴木雄一朗, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武：自施設における経皮的な心肺補助装置(PCPS)使用例に関する検討。第21回千葉県重症患者管理研究会, 2007. 9.
- 6) 野崎文華¹⁾, 山本真功¹⁾, 村上大介¹⁾, 田近研一郎¹⁾, 徳山権一¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 高野雅充¹⁾, 大野則彦¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 清野精彦¹⁾, 白壁章宏, その他4名 (1) 千葉北総病院内科)：ステント留置後冠動脈解離部より形成されたと考えられる巨大冠動脈瘤の1例。第205回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2007. 9.
- 7) 岡松健太郎¹⁾, 山本真功¹⁾, 横山真也, 高野雅充¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 田近研一郎¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 畑典武, 清野精彦¹⁾, 水野杏一²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：病変部の性状とDES留置後の新生内膜による被覆の関係。第21回日本心臓血管内視鏡学会, 2007. 10.
- 8) 畑 典武, 横山真也, 品田卓郎, 鈴木雄一朗, 小林宣明, 白壁章宏, 菊池有史, 福島正人, 原 義明¹⁾, 松本尚¹⁾, 益子邦洋¹⁾ (1) 千葉北総病院救命救急センター)：ドクターヘリで搬送された急性心筋梗塞は重症か？。第14回日本航空医療学会総会, 2007. 12.
- 9) 畑 典武, 横山真也, 品田卓郎, 鈴木雄一朗, 小林宣明, 白壁章宏, 菊池有史, 福島正人, 益子邦洋¹⁾, 牧野俊郎²⁾ (1) 千葉北総病院救命救急センター, 2) 成田国際空港クリニック)：航空機利用前後に発症した循環器疾患の特徴。第14回日本航空医療学会総会, 2007. 12.

- 10) 横山真也：集中治療室における心疾患治療．第2回成田印旛透析カンファランス，2007．12．
- 11) 小林宣明，奥村 剛，白壁章宏，鈴木雄一郎，福島正人，品田卓郎，横山真也，畑 典武：肺アスベルギルス症の診断と治療に反省点のあった慢性心不全・慢性腎不全の1例．真菌症フォーラム第9回学術集会，2008．2．
- 12) 小林宣明，横山真也，菊池有史，白壁章宏，福島正人，鈴木雄一郎，品田卓郎，畑 典武，大野則彦¹⁾，清野精彦¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科)：心肺蘇生，PCPS管理後に，肝損傷からの出血性ショックをきたしたAMIの1例．第35回日本集中治療医学会学術集会，2008．2．

[千葉北総病院リハビリテーション科]

研究概要

1. 筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し，麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって，さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの機能的電気刺激効果を検討している．脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において，手関節伸展，手指伸展促通と物品把持移動からなる訓練を施行し，訓練前後での手関節，手指関節の可動域，被験筋のroot mean square，巧緻性の変化を計測パラメーターとしている．手指関節可動域，手根伸筋のRMS，巧緻動作の改善が認められた．筋電比例式電気刺激はきめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり，筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される．また，光トポグラフィーを用いて機能的電気刺激が脳循環に与える影響を検討する．
2. 48チャンネル光トポグラフィーを用いて，脳卒中急性期の座位，立位などの基本動作訓練が脳循環に与える影響を検討し，急性期脳卒中リハビリテーションの安全性と有用性を検討する．
3. 脳の可塑性を検討する基礎的検討として，124チャンネルの脳磁図を用いて手指，手関節運動時の脳神経活動の局在，運動準備電位との関連を検討する．
4. 回復期，慢性期の脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢のうっ血および深部下肢静脈血栓症について調査し，脳梗塞患者のDVT合併頻度，それらの危険因子および血栓予防薬との関係について検討する．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hara Y, Ogawa S, Tujiuchi K, Muraoka Y¹⁾ (¹⁾ Fujita Health Science University)：A Home-Based Rehabilitation Program for the Hemiplegic Upper Extremity by Power-Assisted Functional Electrical Stimulation. *Disabil Rehabil* 2008；30 (4)：296-304.
- 2) 原 行弘：排便障害に対する肛門括約筋筋電図バイオフィードバック療法．*臨床脳波* 2007；49 (11)：709-714.

(2) 総説：

- 1) Hara Y：Neurorehabilitation with New Functional Electrical Stimulation for Hemiparetic Upper Extremity in Stroke Patients. *J Nippon Med Sch* 2008；75 (1)：4-14.
- 2) 原 行弘：リハビリテーション医学2007：最近10年間の動向とエビデンス：集中治療室でのアプローチ．*総合リハビリテーション* 2007；35 (10)：1179-1184.
- 3) 原 行弘：新しい治療的電気刺激；利き手交換でいいのか？．*Clinical Rehabilitation* 2007；16 (10)：933-940.
- 4) 原 行弘：片麻痺上肢に対する筋電応答電気刺激（パワーアシストタイプ）．*MB Med Reha* 2007；86：37-43.
- 5) 原 行弘：『脳・神経管理Q&A』脳卒中急性期リハビリテーション．*救急・集中治療* 2008；20 (1・2)：

著 書

- 1) 原 行弘：〔分担〕排便のコントロール．在宅医学（日本在宅医学会テキスト編集委員会），2008；pp177-181，メディカルレビュー社．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 原 行弘：実践的脳卒中リハビリテーション・チップス．第49回備後整形外科医会，2007．6．
- 2) 原 行弘：ニューロリハビリテーション：機能的電気刺激療法（FES）をふまえた新戦略．第75回日本医科大学医学会総会，2007．9．

(2) 招待講演：

- 1) 原 行弘：脳卒中リハビリテーションにおけるピットフォール．第5回JPARM研究会学術講演会，2007．5．

(3) セミナー：

- 1) 原 行弘：脳卒中のニューロリハビリテーション：新しい機能的電気刺激療法（脳卒中後遺症とQOL）．第48回日本神経学会総会，2007．5．

(4) 一般講演：

- 1) Hara Y, Ogawa S, Muraoka Y¹⁾ (¹⁾ Faculty of Rehabilitation School of Health Science, Fujita Health University, Japan) : A home-program of power-assisted functional electrical stimulation with upper-limb task practice in chronic stroke patients. . 4th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (Seoul), 2007. 6.
- 2) Hara Y, Ogawa S, Muraoka Y¹⁾ (¹⁾ Faculty of Rehabilitation School of Health Science, Fujita Health University) : A home-based rehabilitation program for the hemiplegic upper extremity by power-assisted functional electrical stimulation. 9th European Congress of Physical Medicine and Rehabilitation (Budapest), 2007. 8.
- 3) 小川真司, 原 行弘, 関 正恒, 辻内和人 : Miller - Fisher Syndromeにおける経頭蓋磁気刺激を使用した中枢伝導時間測定の有用性. 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2007. 6.
- 4) 関 正恒, 小川真司, 原 行弘, 辻内和人 : 機能的アームスリングを使用し, 麻痺の改善した慢性期頸髄症患者の紹介. 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2007. 6.
- 5) 高橋正憲¹⁾, 小川真司¹⁾ (¹⁾ 東京歯科大学市川総合病院リハビリテーション科) : 当院脳卒中センターにおける病棟早期リハビリテーションの効用. 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会, 2007. 6.
- 6) 小川真司¹⁾, 横井公良^{1,2)} (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病NST, ²⁾ 同外科) : NST管理ソフトの導入と入院患者の摂食嚥下障害管理の現状. 第12回千葉県NSTネットワーク, 2007. 12.
- 7) 原 行弘, 小川真司, 辻内和人 : NIRSによる脳卒中急性期リハビリテーションの脳血流動態. 第33回日本脳卒中学会総会, 2008. 3.

[千葉北総病院病理部]

研究概要

臨床各科との連携のもと、臨床病理学的検討を継続、実施した。

1. 消化管腫瘍：大腸癌，GIST，EBV関連胃癌などの消化管腫瘍に関する臨床病理学的検討を進行中である。特に，胃癌症例については，EBRE in situ hybridizationを実施し，術前化学療法や組織像との関連を中心に臨床病理学的

特徴を検討中である。

2. 泌尿生殖器腫瘍：子宮、卵巣などの女性生殖器に発生する腫瘍性病変を中心に、形態学的、細胞生物学的特性につき、臨床的、画像診断学的所見を合わせ検索を進行中である。

3. 乳腺腫瘍：乳癌症例を中心に、組織学的、細胞診断学的、免疫組織学的、電子顕微鏡的に継続、検討中である。

4. 神経変性疾患：アルツハイマー病を中心とする中枢神経変性疾患の病態および発症機構の解析を、内科学、病理学講座などとの共同研究として継続している。

また、病理検査室における労働安全教育およびその法整備に中心的な役割を果たした。

研究業績

論文

〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Soma H¹⁾, Osawa H¹⁾, Oguro T, Yoshihama I²⁾, Fujita K³⁾, Mineo S³⁾, Kudo M³⁾, Tanaka K⁴⁾, Akita M⁴⁾, Urabe S⁵⁾, Kudo Y⁵⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics & Gynecology, Saitama Medical School, ²⁾ Electron Microscopy Section, Tokyo Medical University, ³⁾ Department of Pathology, Tokyo Medical University, ⁴⁾ Division of Morphological Science, Biomedical Center, Saitama Medical School, ⁵⁾ Department of Obstetrics & Gynecology, Hiroshima University) : P57kip2 immunohistochemical expression and ultrastructural findings of gestational trophoblastic disease and related disorders. The Japanese Society for Clinical Molecular Morphology 2007 ; 40 (1) : 95-102.
- 2) 清水秀樹：キシレンの取り扱い：労働衛生教育からのアプローチ．病理技術 2007 ; 70 (1) : 18-21.

(1) 原著：

- 1) Morishita C¹⁾, Jin E¹⁾, Kikuchi M¹⁾, Egawa S¹⁾, Fujiwara M¹⁾, Ohaki Y, Ghazizadeh M¹⁾, Takemura T²⁾, Kawanami O¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of surgical pathology, Japan Red Cross Hospital Center) : Angiogenic switching in the alveolar capillaries in primary lung adenocarcinoma and squamous cell carcinoma. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (5) : 344-354.
- 2) Yamada T^{1, 2)}, Tanaka N^{1, 2)}, Yokoi K^{1, 2)}, Seya T^{1, 2)}, Kanazawa Y^{1, 2)}, Koizumi M^{1, 2)}, Ohaki Y, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical Sch. , ²⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital) : Corelation between clinical pathologic factors and activity of 5-FU-metabolizing enzymes in colorectal cancer. J Nippon Med Sch 2008 ; 75 (1) : 23-27.
- 3) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川毅¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 大秋美治, その他1名 (¹⁾ 千葉北総病院・外科) : 胃癌に対する低濃度Paclitaxelの効果．癌と化学療法 2008 ; 35 (2) : 251-253.

(2) 症例報告：

- 1) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Shinji S¹⁾, Yokoi K¹⁾, Oguro T, Oaki Y, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T³⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical Sch.) : Squamous cell carcinoma arising from recurrent anal fistula. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 319-324.
- 2) Ishikawa N¹⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Horiba K¹⁾, Oaki Y, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Surgery for Organ Function and Biological Reg-

ulation. Graduate School of Medicine, Nippon Medical Sch.) : A case of rectal metastatic tumor in the soft tissue of the hand. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (4) : 309-313.

- 3) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Shinji S¹⁾, Shinji E¹⁾, Yokoi K¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Oaki Y, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical Sch.) : Case of rectal malignant melanoma showing immunohistochemical variability in a tumor. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (5) : 377-381.
- 4) Seya T¹⁾, Shinji E¹⁾, Tanaka N¹⁾, Shinji S¹⁾, Koizumi M¹⁾, Horiba K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ohaki Y, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical Sch.) : A case of multiple gastric carcinoids that could not be preoperatively diagnosed. J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (6) : 430-433.
- 5) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Shinji S¹⁾, Okazaki H¹⁾, Ohaki Y, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T³⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Department of Pathology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical Sch.) : Complete response of a patient with advanced gastric cancer, showing Epstein-Barr virus infection, to preoperative chemotherapy with S-1 and cisplatin. Int J Clin Oncol 2007 ; 12 (6) : 472-477.
- 6) 藤原弘光¹⁾, 河野美貴子¹⁾, 岩本美樹¹⁾, 菊池美美¹⁾, 印出佑介¹⁾, 朝倉禎史¹⁾, 五十嵐美和¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 渡辺美千明¹⁾, 山口 暁¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 大秋美治, 岡田 進²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院女性診療科・産科, ²⁾ 同放射線科) : 癒着胎盤を合併した分葉胎盤の1例 : MTX 化学療法による癒着胎盤の経時的变化. 日本産科婦人科学会千葉地方部会誌 2008 ; 1 (1) : 37-41.

著 書

- 1) 土屋眞一¹⁾, 小黑辰夫 (¹⁾ 日本医科大学付属病院 病理部) : [分担] 第I部 総論 1. 細胞の構造. 臨床検査技師を目指す学生のための細胞診 (土屋眞一, 金子千之), 2007 ; pp2-3, 医療科学社.

学会発表

[追加分]

追加分 教育講演 :

- 1) 清水秀樹 : 検査室における労働安全衛生法 : 有害科学物質取り扱いと健康障害防止法. 平成18年度 宮城県臨床検査技師会 形態検査部門 感染制御部門合同研修会, 2007. 2.
- 2) 清水秀樹 : 脳腫瘍の1例. 第3回 Bay Consortium for Cytology, 2007. 3.
- 3) 清水秀樹 : 医療安全管理における労働安全 : 有害物質からのアプローチ. 平成18年度 日本臨床衛生検査技師会医療安全対策研修会, 2007. 3.

追加分一般講演 :

- 1) Tanaka N, Seya T¹⁾, Shinji S¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Yamashita K¹⁾, Ohaki Y, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Chiba Hokusou Hospital, ²⁾ Department of Surgery) : Recurrence risk factor after curative surgery for advanced rectal cancer (pT3 cases). 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006. 10.
- 2) Seya T, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾,

- Shinji S¹, Katsuta M¹, Yamashita K², Ohaki Y, Tajiri T² (¹ Department of Surgery, Chiba Hokusou Hospital, ² Department of Surgery) : Reduced expression of type IV collagen in colorectal cancer correlated with its liver metastasis compared with Emmprin and Matrix metalloproteinase-9 expression. 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006. 10.
- 3) Horiba K¹, Tanaka N¹, Seya T¹, Shinji S¹, Ohaki Y, Yamashita K², Tajiri T² (¹ Department of Surgery, Chiba Hokusou Hospital, ² Department of Surgery) : Matrix metalloproteinases (MMP-2, MMP-9) and their tissue inhibitors (TIMP-1, TIMP-2) in the patients with Crohn' s disease. 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006. 10.
- 4) Shinji S¹, Tanaka T¹, Seya N¹, Yokoi K¹, Ishikawa N¹, Horiba K¹, Kanazawa Y¹, Yamada T¹, Shirakawa T¹, Ohkawa K¹, Kudo H¹, Koizumi M¹, Yoshioka M¹, Katsuta M¹, Ohaki Y, et al. (¹ Department of Surgery, Chiba Hokusou Hospital, ² Department of Surgery) : Neuroendocrine cell differentiation of poorly differentiated colorectal adenocarcinoma correlates with liver metastasis. 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006. 10.
- 5) 楠 裕司¹, 小野 靖¹, 上田有香¹, 田中庸介¹, 小俣雅隆¹, 上原隆志¹, 吉野直之¹, 窪倉浩俊¹, 日野光紀¹, 大秋美治, 工藤翔二² (¹ 千葉北総病院呼吸器センター, ² 付属病院呼吸器内科) : PET陽性所見にて開胸肺生検を行いCOPと診断された1例. 第169回日本呼吸器学会関東地方会, 2006. 5.
- 6) 清水秀樹, 森 修¹, 大秋美治, 小黒辰夫, 前田昭太郎³, 内藤善哉² (¹ 初石病院, ² 日本医科大学病理学, ³ 同多摩永山病院病理部) : 脳腫瘍圧挫標本における反応性変化の細胞判定. 第47回日本臨床細胞学会総会, 2006. 5.
- 7) 清水秀樹 : キシレンの取り扱い : 労働衛生教育からのアプローチ. 第74回病理技術研究会, 2006. 8.
- 8) 進士恵美¹, 横山真也¹, 河野美貴子¹, 鈴木雄一郎¹, 小林宣明¹, 清宮康嗣², 高野雅充², 新井 悟, 大秋美治, 雪吹周生², 今泉孝敬¹, 畑 典武¹, 水野杏一² (¹ 千葉北総病院集中治療室, ² 同内科) : 広範囲腸管壊死の1死亡例. 第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2006. 8.
- 9) 横瀬紀夫¹, 大秋美治, 壇 和夫² (¹ 千葉北総病院内科, ² 付属病院血液内科) : 末血で染色体異常を認めclonalな増殖が疑われるT細胞増多症を伴ったT-cell rich B-cell lymphoma (TCRBCL). 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 10) 金沢義一¹, 田中宣威¹, 横井公良¹, 瀬谷知子¹, 山田岳史¹, 山下精彦², 進士誠一¹, 大秋美治, 田尻孝² (¹ 千葉北総病院外科, ² 大学院臓器病態制御外科学) : 進行胃癌におけるDPD, TS発現と予後との関連. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 11) 岡崎大武¹, 瀬谷知子¹, 田中宣威¹, 横井公良¹, 石川紀行¹, 堀場光二¹, 金沢義一¹, 大川敬一¹, 白川毅¹, 山田岳史¹, 小泉岐博¹, 吉岡正人¹, 工藤秀徳¹, 進士誠一¹, 大秋美治, その他3名 (¹ 千葉北総病院外科) : TS-1/CDDPによる化学療法にてCRを得た食道浸潤進行胃癌の1例. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 12) 勝部乙大¹, 金沢義一¹, 田中宣威¹, 横井公良¹, 石川紀行¹, 瀬谷知子¹, 堀場光二¹, 山田岳史¹, 白川毅¹, 大川敬一¹, 金子昌裕¹, 工藤秀徳¹, 大秋美治, 山下精彦², 田尻 孝² (¹ 千葉北総病院外科, ² 大学院臓器病態制御外科学) : 遺残虫垂炎を原因とする後腹膜血腫の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 13) 河野美貴子¹, 荻原弘光¹, 岩本美樹¹, 菊池美美¹, 印出佑介¹, 朝倉禎史¹, 五十嵐美和¹, 黒瀬圭輔¹, 渡辺美千明¹, 鴨井青龍¹, 大秋美治, 岡田 進² (¹ 千葉北総病院女性診療科・産科, ² 同放射線科) : 癒着胎盤を合併した分葉胎盤の1例. 日本産婦人科学会千葉地方部会, 2007. 1.
- 14) 横井公良¹, 田中宣威¹, 石川紀行¹, 瀬谷知子¹, 堀場光二¹, 金沢義一¹, 大川敬一¹, 大秋美治, 田尻孝² (¹ 千葉北総病院外科, ² 大学院臓器病態制御外科学) : 成人男性に発症し, 下血にて発見された縦郭原発転移性小腸絨毛癌の1例. 第43回腹部救急医学会総会, 2007. 3.

15) 秋谷麻衣¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 田尻 孝²⁾, 大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 大学院臓器病態制御外科学) : 急性虫垂炎との鑑別が困難であった小児卵巣茎捻転の1例. 第43回腹部救急医学会総会, 2007. 3. 追加分特別講演 :

1) 白川 毅¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 大川敬一¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 大秋美治, その他1名 (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 術前化学療法を行った高度進行胃癌症例の検討. 第24回千葉胃癌研究会, 2006. 5.

(1) 教育講演 :

- 1) 清水秀樹 : 脳腫瘍の細胞診 (脳脊髄液の検体処理, 細胞の見方を含む). 平成19年度 日本臨床細胞学会千葉県支部会総会学術集会, 2007. 4.
- 2) 清水秀樹 : ホルマリン・キシレンの取り扱い : 労働衛生教育からのアプローチ. 千葉県北西部病理・細胞研究会, 2007. 5.
- 3) 清水秀樹 : 病理検査室における労働安全衛生 : ホルマリン・キシレンの取り扱い : 健康障害防止のために. 第14回 東北臨技形態部門病理検査第10回 東北臨技形態部門細胞診検査合同研修会, 2007. 6.
- 4) 清水秀樹 : 病理検査で使用する各種薬液の有害性と取り扱い : 労働衛生教育からのアプローチ. 関東甲信地区臨床検査技師会 第16回病理検査研究班合同講習会, 2007. 9.

(2) 一般講演 :

- 1) Shinji S¹⁾, Tanaka N¹⁾, Furukawa K¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Seya T¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Koizumi M¹⁾, Katsuta M¹⁾, Ohaki Y, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Dept of Surgery, Nippon Med. Sch. Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical Sch.) : Clinical significance of pathologically evaluated lymph nodes number in Stage II colon cancer. 66th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, 2007. 10.
- 2) 清水秀樹, 大秋美治, 小黑辰夫, 赤坂久美, 三枝順子, 京本晃典, 黒川実愛, 相田昌子, 森 修¹⁾, 成田真一²⁾ (¹⁾ 初石病院, ²⁾ 西新井病院) : 細胞診標本作製とキシレンの取り扱い : 労働衛生教育からのアプローチ. 第48回日本臨床細胞学会総会, 2007. 6.
- 3) 進士誠一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 大秋美治, その他2名 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 付属病院外科) : 大腸癌内視鏡的摘除後追加腸切除例におけるリンパ節転移陽性症例の検討. 第67回大腸癌研究会, 2007. 7.
- 4) 京本晃典, 大秋美治, 小黑辰夫, 赤坂久美, 新井 悟, 秋元正字¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科) : 腹壁に発生した異型顆粒細胞腫の1例 : 光顕的, 免疫組織学的, 電顕的検討. 第48回日本組織細胞化学会総会 (第8回日中合同組織細胞化学セミナー) 第39回日本臨床分子形態学会総会 合同学術集会, 2007. 9.
- 5) 京本晃典, 大秋美治, 小黑辰夫, 清水秀樹, 赤坂久美, 三枝順子, 島津絢美, 相田昌子 : 腹壁に発生した異型顆粒細胞腫の1例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
- 6) 大秋美治, 赤坂久美, 小黑辰夫, 清水秀樹, 三枝順子, 京本晃典, 島津絢美, 相田昌子 : 軟部神経周膜腫 (Soft tissue perineurioma) の1例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 2007. 11.
- 7) 榎村剛司¹⁾, 岡田 進¹⁾, 桑子智之¹⁾, 中條秀信¹⁾, 木島鉄仁¹⁾, 川俣博志¹⁾, 鴨井青龍²⁾, 大秋美治, 汲田伸一郎³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 同女性診療科, ³⁾ 付属病院放射線科) : 部位診断の困難であった, 脂肪を含む巨大な腹部腫瘍の1例. 第432回日本医学放射線学会関東地方会, 2007. 12.
- 8) 喬 炎¹⁾, 伊東あゆみ¹⁾, 萩原 彩¹⁾, 木原美穂¹⁾, 小山恵理¹⁾, 山川恵美¹⁾, 飛騨浩一¹⁾, 野坂俊弥²⁾, 江田景³⁾, 大秋美治 (¹⁾ 長野県看護大学看護形態機能学講座, ²⁾ 同体育学講座, ³⁾ 富士バイオメディックス小淵沢

総合研究所)：ラット皮膚の1次治癒と治癒遅延創の自発走運動による上皮化の相違について。第7回日本再生医療学会総会，2008. 3.

- 9) 飛驒浩一¹⁾，伊東あゆみ¹⁾，萩原 彩¹⁾，木原美穂¹⁾，小山恵里¹⁾，山川恵美¹⁾，本田智子¹⁾，太田克矢²⁾，江田景³⁾，大秋美治，喬 炎¹⁾ (1) 長野県看護大学看護形態機能学講座，2) 同生物・化学講座，3) 富士バイオメディックス小淵沢総合研究所)：ラット皮膚創傷治癒の遷延モデルの確立とその治癒過程における足場の役割について。第7回 日本再生医療学会総会，2008. 3.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

今年度における当検査室の活動状況は例年同様に極めて多岐に渡り，各領域毎に幅広く取り組み，日常業務に最も密着した業績が特徴的であった。中でも学術的内容として (1) 輸血検査分野では夜間・日祭日における緊急輸血対応の構築，緊急時の不適合輸血に関する観察状況，(2) 微生物検査分野では多剤耐性菌の動向追跡およびインフルエンザウィルス抗原の推移について，(3) 生理学検査分野では異型狭心症や拡張型心筋症の観察，DPC 導入時の術前検査として呼吸機能検査の実際，気管支における可逆性試験の有用性，(4) 総合分析分野では，診療形態に沿ったドライケミストリーの利用効果について，(5) 管理分野では採血時のリスクマネジメントや医療安全管理について，更には臨床検査の品質管理としてピーター・F・ドラッカーによる検査室の管理運営理論，POCTが望まれる成田国際空港クリニックにおける臨床検査体制構築の検討，(6) その他では院内感染対策への情報協力，生理学検査の一環として聴力測定技術者講習会への活動協力，(社) 東京都医師会精度管理事業への運営協力等，年ごとに厳しくなる医療環境下において本年度も活発な活動が行われた。(なお下記において業績筆頭者が当所属の業績のみ掲載した)

研究業績

論文

(1) 症例報告：

- 1) 稲川実美：緊急時不適合輸血の観察について。Medical Practice 2008；25 (2)：342-342.

著書

- 1) 町田幸雄：〔自著〕臨床検査部門 品質マネジメントシステム構築教本，2008；社団法人 日本臨床衛生検査技師会。
2) 町田幸雄：〔編集〕。日本臨床衛生検査技師会史〔創立55周年，法人化45周年記念〕，2008；社団法人 日本臨床衛生検査技師会。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 町田幸雄：「ピーター・F・ドラッカに学ぶ！これからの検査室管理運営とは？」。群馬県臨床検査技師会第1回渉法部講演会，2008. 3.

(2) 招待講演：

- 1) Machida Y：The latest information and struggles on the photo-survey of the Japanese Association of Medical Technologists (JAMT). 3rd JIMTEF-JAMT International Seminar (2008) (タイ国 チュラロンコーン大学 (バンコク))，2008. 3.

(3) 一般講演：

- 1) 石渡統夫，稲川実美，野本剛史：カラム凝集法を用いた夜間，休日における緊急輸血の対応についての検討。

- 第56回日本医学検査学会, 2007. 5.
- 2) 野本剛史, 町田幸雄, 石渡統夫, 亀山雅弥: 臨床検査の全てにPOCTが望まれる診療に対して: 特にドライケミストリーの利用効果について. 第56回日本医学検査学会, 2007. 5.
 - 3) 町田幸雄: 「医療情報の安全管理はこう考える」. 平成19年度都臨技臨床情報システム研究班研修会, 2007. 5.
 - 4) 木富奈穂子, 野本剛史, 清野精彦: 心電図における留意点について: 異型狭心症例. 第75回日本医科大学医学学会総会, 2007. 9.
 - 5) 松本望里, 野本剛史, 清野精彦: DPC導入における術前検査の動向: 呼吸機能検査について. 第75回日本医科大学医学学会総会, 2007. 9.
 - 6) 岩瀬和真, 野本剛史, 清野精彦: 非発作時における気管支可逆性試験の有用性. 第75回日本医科大学医学学会総会, 2007. 9.
 - 7) 町田幸雄: リスクマネジメントから見た採血時の神経損傷. 第37回埼玉県医学検査学会, 2007. 12.
 - 8) 町田幸雄: 医療安全対策研修会～国民へ安全で質の高い医療提供をおこなうために: 「臨床検査に関わる医療事故事例とその対策への取り組み」. 平成19年度生体検査部門における医療安全対策研修会, 2008. 1.
 - 9) 目黒真喜子: 心電図ST異常指摘後11年を経過した拡張型心筋症の1例. 第29回千葉県臨床検査学会, 2008. 2.

[千葉北総病院薬剤科]

研究概要

本年度は、緩和ケアと災害医療における研究発表をメインに行なった。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 金沢洋祐¹⁾, 川上準子¹⁾, 星 憲司¹⁾, 川村蘭那²⁾, 岩谷香寿美¹⁾, 佐藤 渉¹⁾, 佐藤憲一¹⁾, 浜田康次³⁾ (1) 東北薬科大学医薬情報科学教室, 2) 八戸市立市民病院, 3) 日本医科大学千葉北総病院): 抗菌薬副作用情報の自己組織化マップ (SOM) を用いたビジュアル化と解析. 医薬品情報学 2007; 9 (2): 124-130.
- 2) 浜田康次: 薬剤による感覚器障害. ファルマシア 2007; 43 (5): 447-450.

(2) 総説:

- 1) 浜田康次: 抗てんかん薬. レシピ 2007; 6 (2): 166-167.
- 2) 浜田康次: 抗菌薬サークル図9, フルオロキノロン系薬. 薬事 2007; 49 (4): 付録.
- 3) 浜田康次: 臨床でであろうクスリ, 胃・十二指腸のくすり. ナーシングカレッジ 2007; 11 (5): 43-45.
- 4) 浜田康次: 抗菌薬サークル図10, グリコペプチド系薬. 薬事 2007; 49 (5): 付録.
- 5) 浜田康次: 臨床でであろうクスリ, 便秘のくすり. ナーシング・カレッジ 2007; 11 (6): 43-45.
- 6) 浜田康次: RCA (根本原因分析). 日本病院薬剤師会雑誌 2007; 43 (6): 777-777.
- 7) 浜田康次: 抗菌薬サークル図11, オキサゾリジン系薬, ストレプトグラミン系薬. 薬事 2007; 49 (6): 付録.
- 8) 浜田康次: C型慢性肝炎治療薬. レシピ 2007; 6 (3): 266-267.
- 9) 浜田康次: 抗菌薬サークル図11, アミノグリコシド系薬. 薬事 2007; 49 (7): 付録.
- 10) 浜田康次: 臨床でであろうクスリ, 高血圧のクスリ. ナーシング・カレッジ 2007; 11 (8): 43-45.
- 11) 浜田康次: 抗菌薬サークル図12, モノバクタム系薬, ホスホマイシン系薬, テトラサイクリン系薬. 薬事 2007; 49 (8): 付録.
- 12) 浜田康次: 臨床でであろうクスリ, 不整脈のクスリ. ナーシング・カレッジ 2007; 11 (10): 43-45.
- 13) 浜田康次: 非ステロイド系抗炎症薬. レシピ 2007; 6 (4): 354-355.

- 14) 浜田康次：臨床でであうクスリ，貧血のクスリ，ナーシング・カレッジ 2007；11（11）：43-45.
- 15) 浜田康次：臨床でであうクスリ，血栓のクスリ，ナーシング・カレッジ 2007；11（13）：43-45.
- 16) 浜田康次：臨床でであうクスリ，糖尿病のクスリ，ナーシング・カレッジ 2007；11（14）：43-45.
- 17) 浜田康次：楽しく学ぶクスリの授業，気管支喘息のクスリ，ナーシング・カレッジ 2008；12（1）：86-89.
- 18) 浜田康次：頻尿・尿失禁治療薬，レシピ 2008；7（1）：64-65.
- 19) 浜田康次：楽しく学ぶクスリの授業，呼吸器感染症のクスリ，ナーシング・カレッジ 2008；12（2）：70-73.
- 20) 渡辺暁洋，西澤健司¹⁾（¹⁾ 東邦大学医療センター大森病院）：災害における各組織の役割：薬剤師活動 災害時における薬剤師の活動，救急医学 2008；32（2）：158-158.
- 21) 浜田康次：楽しく学ぶクスリの授業，胃炎・胃潰瘍のクスリ，ナーシング・カレッジ 2008；12（3）：66-69.

著 書

- 1) 浜田康次，朝長文弥¹⁾（¹⁾ 北里大学名誉教授）：〔分担〕写真付／服薬指導CD-ROM（患者向け医薬品情報CD化編集委員会），2007；pp1-300，じほう.
- 2) 浜田康次，塚田弥生¹⁾，長澤紘一¹⁾（¹⁾ 付属病院内科）：〔共著〕薬剤編，カルテの読み方と基礎知識第4版，2007；pp245-322，じほう.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 伊藤義樹：C型慢性肝炎患者に対する当院での服薬指導と治療成績について，千葉県病院薬剤師会，2007. 5.
- 2) 吉澤一巳，木本陶子，浜田康次，福田恵子，森川陽子¹⁾，佐藤光利¹⁾，古山めぐみ²⁾，山田岳史²⁾，三浦剛史²⁾，益田律子²⁾（¹⁾ 東邦大学薬学部，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院緩和ケアチーム）：フェンタニル貼付剤の薬物吸収に対する肌環境の影響：貼付部位による検討，第12回日本緩和医療学会，2007. 6.
- 3) 浜田康次，川上準子¹⁾，星 憲司¹⁾，岩谷香寿美¹⁾，佐藤 渉¹⁾，佐藤憲一¹⁾，林誠一郎²⁾（¹⁾ 東北薬科大学，²⁾ 日本薬剤師会中央薬事情報センター）：抗菌薬副作用のSOMマップを用いたビジュアル化と解釈，第10回日本医薬品情報学会，2007. 8.
- 4) 浜田康次，原田香里，中村敏明¹⁾，渡辺享平¹⁾，政田幹夫¹⁾，脇屋義文²⁾（¹⁾ 福井大学医学部附属病院，²⁾ 北陸大学薬学部）：後発医薬品同等性情報の批判的吟味，第10回医薬品情報学会，2007. 8.
- 5) 伊藤義樹：医薬品客観的評価の試みIX－4種薬剤について，第37回関東ブロック学術大会，2007. 8.
- 6) 渡辺暁洋，中山 健，福田恵子：自然災害における医療救援活動：国際緊急援助隊医療チームの活動を通して，第26回日本社会薬学会，2007. 9.
- 7) 関恵理子¹⁾，乙訓朋恵¹⁾，下山阿沙子¹⁾，佐藤 渉¹⁾，岩谷香寿美¹⁾，佐藤憲一¹⁾，浜田康次，林誠一郎²⁾（¹⁾ 東北薬科大学，²⁾ 日本薬剤師会中央薬事情報センター）：SOMマップを用いた抗菌薬副作用情報のビジュアル化と解釈：添付文書の発現頻度情報とマップへ及ぼす影響，第46回日本薬学会東北支部大会，2007. 10.
- 8) 渡辺暁洋，福田恵子，加藤あゆみ¹⁾（¹⁾ 付属病院薬剤部）：災害医療における薬剤師の活動：災害医療薬剤師学会の活動，第40回日本薬剤師学術学会，2007. 10.
- 9) 吉澤一巳，木本陶子，福田恵子，古山めぐみ¹⁾，三浦剛史¹⁾，山田岳史¹⁾，池森紀夫¹⁾，肥田道彦¹⁾，益田律子¹⁾，藤岡久恵²⁾，松丸雪江²⁾（¹⁾ 千葉北総病院緩和ケアチーム，²⁾ 同看護部）：入院患者に対する医療用麻薬の自己管理への取り組み，第1回緩和医療薬学会，2007. 10.
- 10) 渡辺暁洋，福田恵子：災害時における医薬品管理について：新潟中越地震・新潟中越沖地震の事例より，第13回集団災害医学会，2008. 2.
- 11) 吉澤一巳，木本陶子，福田恵子，古山めぐみ¹⁾，成毛育恵¹⁾，中山菜央¹⁾，三浦剛史¹⁾，山田岳史¹⁾，澤谷 篤¹⁾，益田律子²⁾，井上哲夫²⁾（¹⁾ 千葉北総病院緩和ケアチーム，²⁾ 同麻酔科）：フェンタニル貼付剤の半面貼付に関

- する薬剤師としての取り組み. 第22回日本ペインクリニック学会東京地方会, 2008. 2.
- 12) 川上準子¹⁾, 下山阿沙子¹⁾, 乙訓朋恵¹⁾, 岩谷香寿美¹⁾, 星 憲司¹⁾, 佐藤 渉¹⁾, 佐藤憲一¹⁾, 浜田康次, 林誠一郎²⁾ (1) 東北薬科大学, 2) 日本薬剤師会中央薬事情報センター): 注射剤抗菌薬の副作用情報のビジュアル化と解析: 発現頻度を加味したSOMマップ. 第128回日本薬学会, 2008. 3.
- 13) 岩谷香寿美¹⁾, 関恵理子¹⁾, 川上準子¹⁾, 星 憲司¹⁾, 佐藤 渉¹⁾, 佐藤憲一¹⁾, 浜田康次, 林誠一郎²⁾ (1) 東北薬科大学, 2) 日本薬剤師会中央情報センター): 経口抗菌薬副作用情報のSOMマップを用いたビジュアル化と解析: 発現頻度情報を加味したSOMマップ. 第128回日本薬学会, 2008. 3.
- 14) 伊藤義樹: 医薬品の客観的評価の試みX: 過活動膀胱治療薬3種の比較について. 第23回千葉県病院薬剤師会会員発表会, 2008. 3.

[千葉北総病院中央画像検査室]

研究概要

当部門では診療用画像検査全般を取り扱うことから, それぞれの画像検査についての研究を進めている.

一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている. MRI検査部門ではMRDSAを用いた脳動脈瘤塞栓術後の経過観察法の検討, 2D thick slice MRAによる椎骨脳底動脈撮像法の検討, また多発性硬化症におけるFLAIR法の有用性ということで脱髄斑の信号変化とコントラストについての報告など多岐にわたる研究を進めている.

RI検査部門ではSPECTにおける心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて, 脳神経系についても行っている.

放射線治療部門では放射線治療計画におけるウェッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている.

CT検査部門では3次元CTの信頼性の向上についての検討を継続して進めている.

研究業績

論文

(1) 研究報告書:

- 1) 富里謙一, 丸山智之, 三輪宗史, 今井 豪, 阿部雅志, 渡辺典男, 川村義彦: 胸骨側面像のDigital技術を応用した撮影システムの構築. 日本放射線技術学会 東京部会雑誌 2007; 105: 29-34.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 丸山智之: Digital単純X線撮影の可能性 Digital技術による全脊椎撮影の低線量化. 日本医科大学付属4病院放射線技術合同フォーラム, 2007. 4.
- 2) 丸山智之: 最新の低線量撮影法. 第36回FSフォーラム, 2007. 5.
- 3) 阿部雅志: 患者さんにやさしい撮影技術: 『撮影目的を意識した単純X線撮影 上肢』. 第58回日本放射線技術学会 東京部会 セミナー, 2007. 6.
- 4) 丸山智之: 上肢の撮影技術. 東京部会一般撮影研究委員会セミナー, 2007. 6.
- 5) 丸山智之: 最新の低線量撮影法 2. 第37回 FSフォーラム, 2007. 9.
- 6) 丸山智之: 膝関節疾患に於けるインプラントと撮影技術の周辺 膝関節術後を考慮した撮影技術の周辺と画像処理の最適化. 第129回 日本放射線技術学会東京部会 技術フォーラム, 2007. 10.
- 7) 阿部雅志: 患者さんにやさしい撮影技術 膝関節疾患に於けるインプラントと撮影技術周辺 膝関節疾患に対

するMRIからのアプローチ. 第129回日本放射線技術学会東京部会フォーラム, 2007. 11.

- 8) 加藤丈司: MRIにおけるk-spaceの充填法について. 第12回 船橋MRセミナー, 2008. 2.
- 9) 加藤丈司: MRIにおける椎骨脳底動脈撮像について. GE MRIユーザーズミーティング, 2008. 2.
- 10) 丸山智之: 骨単純撮影技術と画像処理の考え方. 第1回 葛飾フレッシュマンズ フォーラム, 2008. 2.

(2) 一般講演:

- 1) 加藤丈司, 阿部雅志, 仲田佳宏, 結城聖子, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進¹⁾ (1) 千葉北総病院放射線科): 多発性硬化症におけるT1強調FLAIR法の有用性: 脱髄斑の信号変化とコントラストについて. 第63回 日本放射線技術学会 総会学術大会, 2007. 4.
- 2) 丸山智之, 渡辺典男, 富里謙一, 仲田佳宏, 川村義彦, 岡田 進: Digital撮影システムの構築: 周波数特性からのアプローチ. 第63回日本放射線技術学会総会学術大会, 2007. 4.
- 3) 阿部雅志, 加藤丈司, 渡辺英樹, 理崎貴博, 三輪宗史, 川村義彦, 渡辺典男, 小南修史¹⁾ (1) 千葉北総病院脳神経外科): 3D FSPGRを用いた脳動脈瘤に対するCoil塞栓術後経過観察法の検討. 第35回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2007. 10.
- 4) 加藤丈司, 阿部雅志, 仲田佳宏, 結城聖子, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進¹⁾ (1) 千葉北総病院放射線科): 2D thick slice MRAによる椎骨脳底動脈撮像: 血流および血管外観描出. 第35回 日本放射線技術学会 秋期学術大会, 2007. 10.
- 5) 丸山智之: CRに於けるサンプリング画素サイズの検討. 第35回日本放射線技術学会 秋季学術大会, 2007. 10.
- 6) 富里謙一, 丸山智之, 仲田佳広, 渡辺典男, 川村義彦: 低線量幼児股関節撮影技術の構築. 第63回日本放射線技術学会秋期学術大会, 2007. 10.
- 7) 阿部雅志, 加藤丈司, 渡辺英樹, 理崎貴博, 三輪宗史, 川村義彦, 岡田 進, 小南修史¹⁾ (1) 千葉北総病院脳神経外科): MRDSAを用いた脳動脈瘤塞栓術後の経過観察法の検討. 第23回日本脳神経血管内治療学会総会, 2007. 11.
- 8) 今井智恵, 丸山智之, 仲田佳広, 富里謙一, 渡辺典男, 川村義彦: 中間物質の違いによるGridの検討. 第28回 日本放射線技術学会 東京部会秋期学術大会, 2007. 11.
- 9) 阿部雅志, 加藤丈司, 渡辺英樹, 理崎貴博, 三輪宗史, 川村義彦, 渡辺典男, 岡田 進 (1) 千葉北総病院脳神経外科): MRDSAを用いた脳動脈瘤塞栓術後の経過観察法の検討. 第36回千葉MR研究会, 2008. 2.
- 10) 阿部雅志, 加藤丈司, 理崎貴博, 三輪宗史, 渡辺典男, 川村義彦: BPASを用いた椎骨脳底動脈解離に対する撮像法の検討. 第1回葛飾フレッシュマンズフォーラム, 2008. 2.
- 11) 加藤丈司, 阿部雅志, 仲田佳宏, 結城聖子, 渡辺典男, 川村義彦, 桑子智之¹⁾, 中條秀信¹⁾, 木島鉄仁¹⁾, 川俣博志¹⁾, 岡田 進¹⁾ (1) 千葉北総病院放射線科): 椎骨脳底動脈における血流および血管外観描出. 第36回千葉MR研究会, 2008. 2.
- 12) 今井智恵, 丸山智之, 富里謙一, 仲田佳広, 渡辺典男, 川村義彦: 中間物質の違いによるGridの検討. 葛飾フレッシュマンズフォーラム, 2008. 2.
- 13) 丸山智之: 施設における救急撮影の現状. 平成19年度下総放射線会議, 2008. 3.

[千葉北総病院歯科]

研究概要

当歯科では、歯科治療における炭酸ガスレーザーを用いた歯周軟組織や硬組織の有用性についての基礎的研究および臨床的效果についての研究。歯周組織再生療法への応用方法では、各種移植材を用いた再生療法についての基礎的研究および臨床的效果についての研究。交通外傷におけるインプラント治療への長期応用における臨床的效果についての研究。有病者における口腔衛生管理に対する臨床的效果について研究などを行っている。

研究業績

著書

- 1) 鴨井久博：〔分担〕局所薬物配送システムの考え方，イリゲーションの概念．Preventive Periodontology（鴨井久一，花田信弘，佐藤勉，野村義明），2007；pp248-253，医歯薬出版．

[千葉北総病院看護部]

研究概要

本年の院内での研究発表は，10演題の発表が行われた．内容的には，各専門領域の臨床での看護の質の向上を目指すものであった．

<テーマ>

- 1) 「看護記録にかかる時間短縮の取り組み」～看護計画にオーダーリング端末管理を導入して～
 - 2) 「一般病棟におけるターミナルケアに関する満足度調査」
 - 3) 「鏡視下方間接形成術における術中灌流液回収方法の検討」
 - 4) 「抑うつ状態の患者理解に向けて」～フェイススケールの変化から導き出す看護援助～
 - 5) 「外来化学療法を受けている患者のセルフケアの現状」
 - 6) 「意識障害患者に対する体位保持枕および頸部前屈保持枕使用による肺炎予防の試み」
 - 7) 「救命救急センターに入院中の患者・家族の転院に対する思い」～転院の説明を受けた時点から転院を前向きに受け入れるまでの変容～
 - 8) 「切迫流産で入院した妊婦が認知する看護者の関わりとその評価」
 - 9) 「緩和ケア活動におけるリンクナースの役割の認識及び実践状況と今後の課題」
 - 10) 「緩和医療における他職種との連携に関する意識調査」～医師・看護師・薬剤師の「チーム医療」に対する意識
- 院外発表は，昨年度9演題に対して今年度は21演題が行われ，昨年度と比較すると2倍以上に増加した．年々院外における看護研究発表が多くなり，看護を探究する姿勢が深まっている．

研究業績

著書

- 1) 加瀬寛恵，後藤誠子：〔分担〕夜間緊急入院時の呼吸管理機器準備と手順のポイント．呼吸器ケア（中尾史田野晶子 北村ひとみ），2007；pp75-84，株式会社メディカ出版．
- 2) 菅原光子：〔分担〕「フィンガーブジー」．ストーマケア エキスパートの実践と技術（日本ET・WOC協会 前川厚子、真田弘美），2007；pp108-110，昭林社．
- 3) 渡辺郷美：〔分担〕抜管時における看護師の役割 抜管の基準やマニュアル作成の実際．実践手術看護，2007；pp16-21，日総研出版．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 本多和美：継続的薬物内服を必要とする合併症妊婦の母乳選択．東京母性衛生学会，2007．5．
- 2) 永井絢子，根布谷綾乃：当院における母親学級改善の取り組み：母親のニーズ及び医療機関の役割をふまえたプログラム創りへ向けて．東京母性衛生学会，2007．5．
- 3) 平田貴和子：一般病棟に勤務する看護師が看取りに影響を及ぼす要因分析：急性期病院における「終末期医療

- に関する調査」から、第12回日本緩和医療学会総会、2007. 6.
- 4) 古山めぐみ：日本医科大学千葉北総病院における緩和医療チームの取り組み。平成19年度千葉県泌尿器医療介護研究会、2007. 6.
 - 5) 丸山美穂子，渡辺郷美，植草 恵，高市直子：外来化学療法におけるパスへの取り組み。第9回日本医療マネジメント学会学術総会、2007. 7.
 - 6) 佐藤聡美，石山裕佳，佐藤 智，筒井美帆，高濱結衣，長麻里子，根本靖子，森 英樹，本藤マリコ：意識障害患者に対する体位保持枕およびずれ防止マット使用による肺炎予防の試み。第16回日本意識障害学会総会、2007. 8.
 - 7) 佐々尚美：神経難病入院患者に対する、清潔ケアを通した看護師の行動の様相と患者の思い：パートナーシップ構成要件を用いた分析。第38回日本看護学会 成人看護II、2007. 8.
 - 8) 水野雅子：幼児期後期の入院患児の家族付き添いに対する児・母にとっての意義。第38回日本看護学会 小児看護、2007. 9.
 - 9) 花澤みどり，菅原光子，秋元正字¹⁾ (1) 形成外科)：終末期の著名な下肢浮腫に褥瘡を発生し、治癒した看護の一考察。第9回日本褥瘡学会、2007. 9.
 - 10) 岡田知弥子，篠田朋美，青木華映，佐野さやか，佐々木優子，野口 素：SCUを有する脳神経センターの看護：よりよい看護を実践するためのチーム医療の取り組み。第34回日本脳神経看護研究学会、2007. 9.
 - 11) 大津賀康章，太田充美，青山晋作，橋口 宏¹⁾ (1) 整形外科)：鏡視下肩関節形成術における術中灌流液回収方法の検討：側臥位用肩関節鏡ドレープの試作。第29回手術医学会総会、2007. 9.
 - 12) 青山晋作：開頭手術における器械展開時間短縮への試み。第21回日本手術看護学会、2007. 11.
 - 13) 渡辺郷美：記録時間短縮と安全管理記録の充実を図った術中看護記録用紙の改善。第21回日本手術看護学会、2007. 11.
 - 14) 二俣美鶴，大森章代：フライトナースに対する自立に向けた教育について。第14回日本航空医療学会、2007. 11.
 - 15) 水野憲宏，星島洋子：フライトナースのスタンダードプリコーションに対する意識とその実態。第14回日本航空医療学会、2007. 11.
 - 16) 本庄貴志，原 義明¹⁾，松本 尚¹⁾，益子邦洋¹⁾ (1) 救命救急センター)：災害現場でのドクターヘリによる患者搬送：新潟県中越沖地震での経験。第14回日本航空医療学会、2007. 11.
 - 17) 増田莉絵：男性介護者における配偶者の排泄ケアに対する抵抗感。第27回日本看護科学学会学術集会、2007. 12.
 - 18) 増渕美恵子：医療経営におけるディスクロージャーの現状と問題：ホームページ掲載内容の分析。第7回日本経営ディスクロージャー研究学会年次大会、2008. 1.
 - 19) 菅原光子：ストーマ外来におけるストーマ傍ヘルニア患者の長期フォローアップの現状。第5回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会、2008. 2.
 - 20) 古山めぐみ：大学病院における緩和ケアチームと病棟看護師によるデスカンファレンスの評価と課題。第22回日本がん看護学会、2008. 2.
 - 21) 丸山美穂子，植草 恵，高市直子，進士明子：外来化学療法を受けている患者のセルフケア行動の現状。第26回千葉県看護研究学会、2008. 3.

〔4〕 付 置 研 究 施 設

1. 老人病研究所

[病理学部門]

研究概要

呼吸器系微小血管内皮細胞の3次元動態の研究LPSで誘導される急性呼吸障害ラットの治療法として、老人病研究所生化学部門が開発した抗アポトーシス因子（BcLx）の類似合成物質を投与する実験で、大きな効果がある事実をまとめた。これは主にハルビンの過去3年間の留学生3名が継続してまとめ論文に仕上げた。

また、帝京大学の田健教授グループと喘息マウスを使って、気道系の毛細血管の増生反応と内皮細胞の動態を共焦点操作顕微鏡にて中国医科大学の留学生がまとめた。脳微小血管への分子細胞学の拡大が同じ血管でも脳血液閥門は、身体の他の血管系とは全く異なる構造と機能を示すことがその背景にある。

さらに病理部門が文科省に提示した、“認知症街ぐるみ支援ネットワーク”事業が正式に採択されたこと、チームリーダーとして神経内科教室から大学院生が参入したこと、中国はハルビンと西安から留学生を迎えたことも重なった。

自然発症高血圧ラットを用い発症抑制にかかわる因子を見出すために基礎的研究を開始した。病理部門長としては、4月に学長のお供でカロリンスカ大学へ出張し協定校契約締結のお手伝いをし、帰国後カロリンスカのLindahl教授（ノーベル賞選考委員会元委員長）が本学初めての名誉医学博士号を授与される式にて司会を務めた。

5月にはHarbin医科大学学位審査委員長として招待された。

また、文科省私立大学学術研究高度化推進事業・社会連携事業に採択され、認知症相談センターの設立、行政、医師会、関連団体などとの交渉に臨んだ。設立記念開所式、公開講座などに市長、理事長、学長には何度も足を運んでいただいた。年末になり寄附研究部門（生化学）の設立に奔走し、“水素分子医学研究開発拠点”設立が決定された。大澤郁朗講師が教授に就任した。今後、この寄附研究が本邦の中心拠点として水素分子医学の研究が進展することを期待している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hasebe T¹⁾, Kajita M²⁾, Fujimoto K³⁾, Ishizuka-Oka A¹⁾ (1) Department of Biology, Nippon Medical School, 2) Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, 3) Division of Embryology and Genetics, Institute for Amphibian Biology, Graduate School of Science) : Expression profiles of the duplicated matrix metalloproteinase-9 genes suggest their different roles in apoptosis of larval intestinal epithelial cells during *Xenopus laevis* metamorphosis. *Dev Dyn* 2007 ; 236 (8) : 2338-2345.
- 2) Morishita C, Jin E, Kikuchi M, Egawa S, Fujiwara M, Ohaki Y¹⁾, Ghazizadeh M, Takemura T²⁾, Kawanami O (1) Department of Surgical Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Surgical Pathology, Japan Red Cross Center Hospital) : Angiogenic switching in the alveolar capillaries in primary lung adenocarcinoma and squamous cell carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (5) : 344-354.
- 3) Chen H, Zhang L, Jin Z, Jin E, Fujiwara M, Ghazizadeh M, Asoh S¹⁾, Ohta S¹⁾, Kawanami O (1) Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Gerontology, Development and Aging Science) : Anti-apoptotic PTD-FNK protein suppresses lipopolysaccharide-induced acute lung injury in rats. *Exp Mol Pathol* 2007 ; 83 (3) : 377-384.
- 4) Su X, Taniuchi N, Jin E, Fujiwara M, Zhang L, Ghazizadeh M, Tashimo H¹⁾, Yamashita N²⁾, Ohta K¹⁾,

Kawanami O ⁽¹⁾ Department of Medicine, Teikyo University School of Medicine, ⁽²⁾ Musashino University, Tokyo, Japan) : Spatial and phenotypic characterization of vascular remodeling in a mouse model of asthma. *Pathobiology* 2008 ; 75 (1) : 42-56.

(2) 総説 :

- 1) Fujiwara M : Expression of down syndrome critical region 1 represses vascular branching in *Xenopus laevis* larva. *J Nippon Med Sch* 2008 ; 75 (1) : 62-64.

学会発表

[追加分]

追加分招待講演 :

- 1) Hasebe T¹⁾, Kajita M²⁾, Ishizuka-Oka A¹⁾ (¹⁾ Department of Biology, Nippon Medical School, ⁽²⁾ Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology) : Thyroid hormone-upregulated expression of hedgehog interacting protein suggests its involvement in amphibian intestinal remodeling. 4th International Symposium on Amphibian and Reptilian Endocrinology and Neurobiology (Berkeley, CA, USA), 2007. 3.

(1) 特別講演 :

- 1) Fujiwara M : 血管の太さを制御する遺伝子の決定とその分化機構の解明. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.

(2) 一般講演 :

- 1) Gazizadeh M, Simizu H, Tosa M, Kawanami O : IL-6 mediated autocrine growth regulation in keloid fibroblasts. 第59回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 2007. 10.
- 2) 清水 一, ガジザデモハマッド, 山岸茂樹, 川並汪一 (¹⁾ 日本医科大学第2外科) : MetAp2 as a therapeutic intervention target in human non-small cell lung cancers. 第48回日本肺癌学会総会, 2007. 11.
- 3) 長谷部孝¹⁾, 梶田満子²⁾, 岡 敦子¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学生物学, ⁽²⁾ 老人病研究所分子生物学部門) : ゼノパス消化管の再構築過程におけるMMP-9とその重複遺伝子の発現様式. 第40回日本発生生物学会・第59回日本細胞生物学会合同大会, 2007. 5.
- 4) 横田 隆¹⁾, 永島幹夫, 川並汪一, 清水厚志²⁾ (¹⁾ 日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, ⁽²⁾ オリエンタルバイオ・製造開発部) : Fucoidanによるmacrophage促進作用. 第39回日本動脈硬化学会, 2007. 7.
- 5) 安達彰子¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 佐佐木喜広¹⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設) : デジタルTEMの為の観察法 (2) 染色法. 第48回日本組織細胞化学会総会第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
- 6) 佐佐木喜広¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 安達彰子¹⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設) : デジタルTEMの為の観察法 (1) サイドとボトムマウント式の比較. 第48回日本組織細胞化学会総会第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
- 7) 佐藤 茂¹⁾, 安達彰子¹⁾, 佐佐木喜広¹⁾, Ghazizadeh M (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設) : デジタルTEMの為の観察法 (3) 結合組織の電子染色. 第48回日本組織細胞化学会総会第39回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.
- 8) 土佐真美子, ガジザデモハマッド, 村上正洋¹⁾, 川並汪一, 百束比古²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ⁽²⁾ 日本医科大学形成外科) : ケロイドに対する新治療薬としてのヒト化抗IL-6受容体抗体の臨床応用を目指した基礎研究. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 2007. 10.

[生化学部門]

研究概要

「生命の基本原則を知ることによって、病気の原因がわかり治療法や予防法がわかる。逆に、病気を見ることによって、生命の基本原則がみえてくる」が本研究室のポリシーである。2005年1月からの「水素分子の生体における効果」の研究では、Cell-free系、培養系で、水素が細胞と組織を酸化ストレスから効果的に防御する事を見だし、この論文は、Nature Medicineに採択され、The hydrogen highway to reperfusion therapyと題してNews and Viewで扱われた。動物実験では脳梗塞治療適応への可能性も示唆された。

蛋白質導入治療法関連の論文は9報採択された。高名なAdvanced DRUG DELIVERY Reviews誌に総説が掲載され、J. Molecular and Cellular Cardiol. のEditorialからDeveloping super cells by modification with super anti-apoptotic factorとして再生医療への適用が有力である旨紹介された。

中国と韓国からは2000年に本研究室が提唱した、ミトコンドリアのアルデヒド脱水素酵素 (ALDH2) の酵素活性低下がアルツハイマー病の危険因子となる、と全く同じ結果が報告された。また本研究室のALDH2酵素活性低下が加齢に伴う認知機能を低下させる事を示す論文がJ. Neurosciに採択予定である。新潮文庫から「ミトコンドリアのちから」を瀬名秀明さんと共著出版した。抗酸化治療・抗酸化予防の研究に関し、(株)ブルー・マーキュリー社の寄附研究「水素分子医学研究開発拠点」が老人病研究所に設置され、教授は本研究室の講師だった大澤郁朗に決定した。設置にあたり各関係者各位に感謝したい。

研究業績

論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Nagai S, Asoh S, Kobayashi Y, Shidara Y¹⁾, Mori T²⁾, Suzuki M³⁾, Moriyama Y⁴⁾, Ohta S (1) Dept. Pathol., Tokyo Women's Med. Univ., Sch. Med., 2) Inst. Med. Sci., Saitama Med. Ctr/Univ., 3) Div. Transgenic Technol., Ctr. Animal Resources Devel., Kumamoto Univ., 4) Ctr. Digestive Disease, Musashikosugi Hosp.) : Protection of hepatic cells from apoptosis induced by ischemia/reperfusion injury by protein therapeutics. Hepatol Res 2007 ; 37 (2) : 133-142.
- 2) Tara S, Miyamoto M¹⁾, Asoh S, Ishii N, Yasutake M¹⁾, Takagi G¹⁾, Takano T¹⁾, Ohta S (1) The First Dept. Internal Med.) : ransduction of the anti-apoptotic PTD-FNK protein improves the efficiency of transplantation of bone marrow mononuclear cells. J Mol Cell Cardiol 2007 ; 42 (3) : 489-497.

(1) 原著：

- 1) Murakami Y¹⁾, Yokota A¹⁾, Sonoda Y¹⁾, Ohta S, Kasahara T¹⁾ (1) Dept. Biochem., Kyoritsu Univ. Pharm.) : Suppression of endoplasmic reticulum stress-induced caspase activation and cell death by the overexpression of Bcl-xL or Bcl-2. J Biochem 2007 ; 141 (3) : 401-410.
- 2) Arakawa M, Yasutake M¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Takano T¹⁾, Asoh S, Ohta S (1) Dept. Internal Med.) : Transduction of anti-cell death protein FNK protects isolated rat hearts from myocardial infarction induced by ischemia/reperfusion. Life Sci 2007 ; 80 (22) : 2076-2084.
- 3) Kashio A¹⁾, Sakamoto T¹⁾, Suzukawa K¹⁾, Asoh S, Ohta S, Yamasoba T¹⁾ (1) Dept. Otolaryngol. and Head and Neck Surgery, Univ. Tokyo) : A protein derived from the fusion of TAT peptide and FNK, a Bcl-xL derivative, prevents cochlear hair cell death from aminoglycoside ototoxicity in vivo. J Neurosci Res 2007 ; 85 (7) : 1403-1412.

- 4) Amo T, Brand M¹⁾ (¹⁾ MRC Dunn Human Nutrition Unit, Hills Road, Cambridge, UK) : Were inefficient mitochondrial haplogroups selected during radiations of modern humans? A test using modular kinetic analysis of coupling in mitochondria from cybrid cell lines . *Biochem J* 2007 ; 404 (2) : 345-351.
- 5) Ohsawa I, Ishikawa M, Takahashi K, Watanabe M, Nishimaki K, Yamagata K, Katsura K¹⁾, Katayama Y¹⁾, Asoh S, Ohta S (¹⁾ Dept. Internal Med.) : Hydrogen acts as a therapeutic antioxidant by selectively reducing cytotoxic oxygen radicals. *Nat Med* 2007 ; 13 (6) : 688-694.
- 6) Liu Q¹⁾, Nakashima-Kamimura N, Ikee K¹⁾, Hirose S²⁾, Gojobori T¹⁾ (¹⁾ Center for Information Biology and DNA Data Bank of Japan, National Institute of Genetics, ²⁾ Department of Developmental Genetics, National Institute of Genetics) : Compensatory Change of Interacting Amino Acids in the Coevolution of Transcriptional Coactivator MBF1 and TATA-Box – Binding Protein. *Mol Biol Evol* 2007 ; 24 (7) : 1458-1463.
- 7) Murakami Y, Ohsawa I, Kasahara T¹⁾, Ohta S (¹⁾ Kyoritsu Med. Univ.) : Cytoprotective role of mitochondrial amyloid beta peptide-binding alcohol dehydrogenase against a cytotoxic aldehyde. *Neurobiol. Aging* 2007.
- 8) Kogiku M, Ohsawa I, Matsumoto K, Sugisaki Y, Takahashi H, Teramoto A, Ohta S : Glioma patient prognosis by combined immunostaining for survivin, Ki-67 and epidermal growth factor receptor. *J Clin Neurosci* 2007.
- 9) Fukuda K, Asoh S, Ishikawa M, Yamamoto Y¹⁾, Ohsawa I, Ohta S (¹⁾ Dept. Emergent Care) : Inhalation of hydrogen gas suppresses hepatic injury caused by ischemia/reperfusion through reducing oxidative stress. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 2007 ; 361 (3) : 670-674.
- 10) Chen H¹⁾, Zhang L¹⁾, Jin Z¹⁾, Jin E¹⁾, Fujiwara M¹⁾, Ghazizadeh M¹⁾, Asoh S, Ohta S, Kawanami O¹⁾ (¹⁾ Dept. Molecular Pathol. , Inst. Gerontol.) : Anti-apoptotic PTD-FNK protein suppresses lipopolysaccharide-induced acute lung injury in rats *Experimental and Molecular Pathology. Exp Mol Pathol* 2007 ; 83 (3) : 377-384.
- 11) Nakashima-Kamimura N, Nishimaki K, Mori T¹⁾, Asoh S, Ohta S (¹⁾ Saitama Center/Med, Univ.) : Prevention of Chemotherapy-Induced Alopecia by anti-death FNK protein. *Life Sci* 2008 ; 82 (3-4) : 218-225.
- 12) Asoh S, Ohta S : PTD-mediated delivery of anti-cell death proteins/peptides and therapeutic enzymes. *Adv Drug Deliv Rev* 2008 ; 60 (4-5) : 499-516.
- 13) Amo T, Yadava N¹⁾, Oh R¹⁾, Nicholls D¹⁾, Brand M²⁾ (¹⁾ Buck Inst. for Age Research, Novato, CA, USA, ²⁾ MRC Dunn Human Nutrition Unit, Hills Road, Cambridge, UK) : Experimental assessment of bioenergetic differences caused by the common European mitochondrial DNA haplogroups H and T. *Gene.* 2008 ; 411 (1-2) : 69-76.

著 書

- 1) 太田成男 : [自著] アルツハイマー病の危険因子としてのミトコンドリアアルデヒド脱水素酵素欠損. 老年期痴呆研究会, 2007 ; pp42-45, 老年期痴呆研究会.
- 2) 大澤郁朗, 太田成男 : [共著] アルツハイマー病の病理・病態 危険因子としての非遺伝的要因・加齢. 日本臨床増刊号「アルツハイマー病」, 2008 ; pp169-174, 日本臨床社.
- 3) 村上弥生, 大澤郁朗, 太田成男 : [共著] アルツハイマー病に関連する基礎知識・ミトコンドリアに局在Aβ結合アルコール脱水素酵素による酸化ストレスから防御機構. 日本臨床増刊号アルツハイマー病, 2008 ; pp113-119, 日本臨床社.
- 4) 太田成男, 瀬名秀明¹⁾ (¹⁾ 瀬名秀明事務所) : [共著] ミトコンドリアのちから, 2007 ; pp1-423, 新潮社.
- 5) 太田成男 : [自著] 虚血再灌流障害を水素で軽減. ガスメディケーナ, 2007 ; pp44-45, ガスレビュー.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Ohsawa I, Ohta S : The role of mitochondrial amyloid beta peptide-binding alcohol dehydrogenase (ABAD) in detoxification of toxic aldehydes in Alzheimer's disease Japan. 8th Asia/Oceania regional congress of gerontology and geriatrics (Beijing, China), 2007. 10.
- 2) Ohta S : Molecular hydrogen as an efficient antioxidant with a novel concept. Scandomit 2007 : Nordic Workshop on Mitochondria, Disease and Ageing (Teisko, Finland), 2007. 10.
- 3) Ohta S : An Efficient Antioxidant by Molecular Hydrogen as a Novel Concept. 15th Annual world congress on anti-aging medicine & regenerative biomedical technologies (Las Vegas, NV, USA), 2007. 12.
- 4) 太田成男：水素による抗酸化作用. 日本抗加齢美容医療学会, 2007. 9.
- 5) 太田成男：抗酸化療法：水素は細胞傷害性酸素ラジカルを選択的に還元することで治療に有効な抗酸化剤として作用する. キリンファーマ腎臓シンポジウム, 2007. 11.
- 6) 太田成男：抗酸化療法：水素は細胞障害性酸化ラジカルを選択的に還元することで治療に有効な抗酸化剤として作用する. 世界アンチエイジング日本会議, 2007. 6.
- 7) 太田成男：新しい概念の抗酸化物質：水素分子による抗酸化作用. 産学協同委員会レドックス委員会, 2007. 8.
- 8) 太田成男：水素による抗酸化療法の可能性：細胞障害性酸素ラジカルの選択的還元. 日本機能水学会学術大会, 2007. 12.
- 9) 太田成男：補完代替飲用としての水素水の効果. 近畿大学ハイテクリサーチセンター第1回シンポジウム, 2007. 12.

(2) シンポジウム：

- 1) 太田成男：生体の酸化障害と水素研究の新展開. 日本生化学近畿支部, 2007. 9.

(3) ワークショップ：

- 1) 大澤郁朗, 石川正洋, 高橋久美子, 福田慶一, 麻生定光, 太田成男：新しい抗酸化治療法：細胞傷害性酸素ラジカルの水素による選択的還元. BMB2007第30回日本分子生物学会第80回日本生化学会合同大会, 2007. 12.

(4) 一般講演：

- 1) Ohsawa I, Ohta S : Hydrogen acts as a therapeutic antioxidant by selectively reducing cytotoxic oxygen radicals in the nervous system. IPA . 2007 Osaka Siler Congress (Osaka), 2007. 10.
- 2) Asoh S, Ohta S : Potent anti-tumor activity of tumor vessel-targeted Bax modified for enhanced apoptosis-inducing activity in a cancer xenograft model. TAT2008 : 6th International Symposium on Targeted Anti-cancer (Therapies Bethesda, MD, USA), 2008. 3.
- 3) 宮本哲也, 麻生定光, 太田成男：ミトコンドリアDNAの変異による悪性腫瘍細胞のシスプラチン耐性獲得. BMB2007第30回日本分子生物学会第80回日本生化学会合同大会, 2007. 12.
- 4) 山縣久美, 西楨貴代美, 石川正洋, 大澤郁朗, 太田成男：水素分子の脂質代謝改善効果. BMB2007第30回日本分子生物学会第80回日本生化学会合同大会, 2007. 12.
- 5) 上村尚美, 西楨貴代美, 大澤郁朗, 麻生定光, 太田成男：水素分子による抗癌剤シスプラチンの副作用の軽減. BMB2007第30回日本分子生物学会第80回日本生化学会合同大会, 2007. 12.
- 6) 永田和史, 三上俊夫¹⁾, 大澤郁朗, 太田成男⁽¹⁾ (スポーツ科学)：水素水が拘束モデルマウスの認知機能に及ぼす影響. BMB2007第30回日本分子生物学会第80回日本生化学会合同大会, 2007. 12.
- 7) 村上弥生, 大澤郁朗, 笠原 忠¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ (共立薬科大学生化学)：ミトコンドリアに局在するアミロイドベータ結合アルコール脱水素酵素の酸化ストレス除去能とアルツハイマー病における役割. BMB2007第30回日本分子生物学会第80回日本生化学会合同大会, 2007. 12.
- 8) 永田和史, 大澤郁朗, 三上俊夫¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ (スポーツ科学)：水素水の摂取により脳の酸化ストレスが軽減

し、拘束モデルマウスの認知機能低下が予防できる。日本ミトコンドリア学会，2007。12。

- 9) Wolf MA, 麻生定光, 平沼秀紀, 大澤郁朗, 飯尾久美子¹⁾, 石倉正治¹⁾, 太田成男: ミトコンドリア内の酸化還元状態の測定・・・アスタキサンチンは酸化ストレスに対してミトコンドリア内を還元状態に向かわせる。日本ミトコンドリア学会, 2007。12。
- 10) 宮本哲也, 杠葉 良, 千原直人, 麻生定光, 太田成男: がん細胞のミトコンドリアDNA体細胞変異による抗癌剤感受性獲得。日本ミトコンドリア学会, 2007。12。

[免疫部門]

研究概要

われわれは、癌抑制因子p53の解析を通して癌化の抑制の分子機構を明らかにするとともに、この機構を逃れていかにして癌化がおこるのかという癌化の分子機構を明らかにする目的で研究を行っている。

本年度は、これまでの研究を引き続き行っている。そのなかで、多くの癌で活性が亢進していることが報告されているHedgehog signalが、Mdm2を活性化してp53タンパクの分解を促進させることを見いだした。さらに、正常細胞ではras等の癌遺伝子を活性化させると、いわゆるオンコジェニックストレスが細胞にかかり、p53の活性化を介して細胞にアポトーシスや細胞老化を誘導してその細胞を排除することが知られているが、Hedgehog signalを活性化した細胞ではrasによるアポトーシス誘導や増殖抑制が抑制されていることを見いだした。このことから、Hedgehog signalの活性化はp53による癌化の抑制機構を阻害することで、癌化の促進因子であることを見いだした。本年度はこの研究をまとめて、PNAS誌に論文を発表した。さらに、p53欠損細胞では転写因子NF- κ Bの活性が恒常的に上昇していること、NF- κ BがグルコーストランスポーターであるGLUT3の発現を上昇させ、そのことでグルコース代謝を増加させていることを見いだした。さらには、このNF- κ Bからグルコース代謝の増加を起こす経路が、p53欠損細胞が癌遺伝子によってトランスフォームすることに必須であることを明らかにした。このことは、癌化の分子機構を考える上で極めて重要であるとともに、癌の治療を考える上でも重要な発見であると考えられる。この研究は、論文として本年度中にNature Cell Biology誌にin pressにした。その他、現在多くの研究を続けており、まとも次第、論文として発表していこうと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 中嶋 亘, 田中信之: Synergistic induction of apoptosis by p53-inducible Bcl-2 family proteins Noxa and Puma. . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (2) : 148-175.
- 2) 阿部芳憲, 織田一佐藤恵理, 飛梅 圭, 川内敬子, 田矢洋一¹⁾, 岡本康司¹⁾, Oren M²⁾, 田中信之 (¹⁾ 国立がんセンター放射線研究部, ²⁾ Department of Molecular Cell Biology, Weizmann Institute of Science) : Hedgehog signaling overrides p53-mediated tumor suppression by activating Mdm2. . Proc Natl Acad Sci USA 2008 ; 105 (12) : 4838-4843.

(2) 総説:

- 1) 田中信之: 老化と発癌. The Lung Perspective 2007 ; 15 (2) : 187-190.
- 2) 田中信之: p53による癌抑制システムと発癌. 実験医学 増刊「転写因子による生命現象解明の最前線」2007 ; 25 (10) : 1599-1604.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 中嶋 亘, 田中信之：Sequential activation of Bax is separately regulated by Bcl-2 family proteins. 2007 Cold Spring Harbor Laboratory Meeting “Cell Death” (Cold Spring Harbor, New York, USA), 2007. 9.
- 2) 阿部芳憲, 織田一佐藤恵理, 飛梅 圭, 川内敬子, 田中信之：The negative regulation of p53 by Hedgehog signaling. EMBO WORKSHOP 2007, Molecular Mechanisms of Cell Cycle Control in Normal & Malignant Cells (Spetses Island, Greece), 2007. 10.
- 3) 川内敬子, 荒木啓吾, 飛梅 圭, 田中信之：Role of NF- κ B for cellular transformation in p53 deficient cells. 第66回 日本癌学会総会, 2007. 10.
- 4) 阿部芳憲, 織田一佐藤恵理, 飛梅 圭, 川内敬子, 岡本康司¹⁾, 田矢洋一¹⁾, 田中信之⁽¹⁾ 国立がんセンター放射線研究部)：Abberant hedgehog signal suppress tumor surveillance function of p53 and accelerates oncogenesis. 第30回 日本分子生物学会年会, 2007. 12.
- 5) 織田一佐藤恵理, 安藤 大, 小野寺恵吾, 上原郁野, 川内敬子, 八木修立郎, 浅野由ミ, 田中信之：Mitotic regulation by novel p53 target gene product. 第30回 日本分子生物学会年会, 2007. 12.
- 6) 中嶋 亘, 田中信之：Analysis of apoptosis induced via BH3-only family of proteins Noxa, Bim and Puma. 第30回 日本分子生物学会年会, 2007. 12.
- 7) 安藤 大, 浅野由ミ, 田中信之：TGF β signaling negatively regulates Ras-induced senescence. 第30回 日本分子生物学会年会, 2007. 12.

[疫学部門]

研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明を目指し、ホルモンやGタンパクを対象として生理学的、薬理学的研究を行っている。

I. 三量体G蛋白質を介するシグナル伝達機構のダイナミクス

三量体G蛋白質は生体膜インターフェイスにおいて、分子スイッチとしてGDP結合型またはGTP結合型をサイクルし、2つの異なるコンフォメーションをとることで、新たな分子間相互作用を形成しシグナルをダイナミックに伝達する。三量体G蛋白質を介するシグナルが悪性腫瘍や糖尿病等の生活習慣病と関係し、創薬のターゲットにもなっている。私達は、三量体G蛋白質とその結合分子の相互作用を反応速度論的・熱力学的に解析し、シグナル活性化機構の新しい解釈に成功した。このような分子間相互作用の定量的なアプローチは新しい方法であり、創薬におけるスクリーニングのハイスループットにも貢献すると考えている。

II. 成長ホルモン (GH) の分泌調節機構と生理作用

下垂体からのGH分泌パターンは超日リズムを形成するが、そのリズム形成機構については全く不明である。また、GHは末梢の細胞で諸種の生理作用を持つが、詳細は十分に解明されていない。研究の目的は、GH分泌における超日リズムの発現機構と意義を解明し、GHの生理作用を解明することにある。それによって、ホルモンの分泌・作用機序が明らかとなり、より生理的なホルモン補充療法を可能とする。

GHと小胞体ストレスとの関連を想定して検討をし、小胞体ストレスを解消するメカニズムである unfolded protein response の枢軸となる転写因子 XBP1 の遺伝子発現がGHによって誘導されることを見いだした。スプライシングされた活性型の発現を認めたことから、GHの小胞体ストレス解消における意義を検討中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Chida D¹⁾, Nakagawa S²⁾, Nagai S³⁾, Sagara H¹⁾, Katsumata H, Imaki T, Suzuki H⁴⁾, Mitani F⁵⁾, Ogishima T⁶⁾, Shimizu C³⁾, Kotaki H¹⁾, Kakuta S¹⁾, Sudo K⁷⁾, Koike T³⁾, Kubo M⁸⁾, et al. (1) University of Tokyo, 2) RIKEN, 3) Hokkaido University Graduate School of Medicine, 4) International Medical Center of Japan, 5) Keio University, 6) Kyushu University, 7) Tokyo Medical University, 8) Hokkaido University of Education) : Melanocortin 2 receptor is required for adrenal gland development, steroidogenesis, and neonatal gluconeogenesis. Proc Natl Acad Sci USA 2007 ; 104 (46) : 18205-18210.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Hajicek N, Suzuki N : Regulation of p115RhoGEF by the C-terminus of Ga13 α . Gordon Conference (USA), 2007. 6.
- 2) Suzuki N : Molecular dynamics of the regulation of leukemia-associated RhoGEF by G α 13 : kinetics and thermodynamics analysis of G α -effector interaction. Phosphorylation & G-protein Mediated Signaling networks. Gordon Conference (USA), 2007. 6.
- 3) Nakata T, Katsumata H, Tokita R, Minami S : Growth hormone induces X-box binding protein 1 gene expression in the rat liver. 第85回日本生理学会大会, 2008. 3.
- 4) Hirano Y, Katsumata H, Tokita R, Nakata T, Minami S : Sexual dimorphism of the XBP1 gene expression in the rat liver depends on the sex differences of growth hormone secretory pattern. 第85回日本生理学会大会, 2008. 3.
- 5) 鈴木信周, 時田玲子, 南 史朗 : G α 13/Leukemia-associated RhoGEF分子相互作用のダイナミクス. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会 合同大会, 2007. 12.
- 6) 岩本将人¹⁾, 中村有希¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 南 史朗 (1) 武蔵小杉病院内科) : ノボラピッド30Mixにより血糖コントロール困難となった3症例. 第18回臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.
- 7) 中村有希¹⁾, 岩本将人¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 南 史朗 (1) 武蔵小杉病院内科) : アルコール過飲が原因と考えられた低リン血症性骨軟化症の1例. 第18回臨床内分泌代謝Update, 2008. 3.

[生体応答学部門]

研究概要

1. ラットにおける高血圧メカニズムの解析で、慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究しており、とくに自律神経の関連から検討している。従来は予想されていても実証できなかった自律神経の1Hz以下の揺らぎに高血圧、腎血流に関わる成分があることを発見し、その成果はCirculationに掲載された。これを指標として降圧剤の交感神経への関与を検討中である。また、糖尿病ラットモデルでもその血行動態を検討中で現在論文を投稿中である。
2. トヨタ、デンソー、日本医科大学共同研究（代表者 内科学第一加藤貴雄教授）自動車運転中の心血管イベント心臓性突然死の予知予防に関する研究に分担者として参画している。自動車運転中の死亡事故の5%以上は心臓性突然死によると推定されているので、この予知予防は社会的急務である。この一歩としてステアリングを握っているだけで心電図が安定的に記録できる装置とノイズ処理のプログラムを開発した。これにより心拍変動解析ができることを検証して報告した。この成果の一部について特許出願し審査請求中である。
3. 観測された現象が低次元カオスであるかを判定する数値計算プログラムをすでに論文として発表しているが、も

っと簡単に幾何学的に判定するプログラムを開発し投稿中である。これが可能になれば、その現象をモデルとして記述可能になり現象の振る舞いを予想できるようになる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Osaka M, Murata H¹⁾, Tateoka K¹⁾, Katoh T¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Reliability of heart rate variability analysis by using electrocardiogram recorded unrestrainedly from an automobile steering-wheel. AIP Conference Proceedings 2007 ; 922 : 675-678.

著書

- 1) Kumagai H¹⁾, Oshima N¹⁾, Mutsuura T¹⁾, Imai M¹⁾, Iigaya K¹⁾, Onimaru H¹⁾, Kawai A¹⁾, Sakata K¹⁾, Onami T¹⁾, Takimoto C¹⁾, Kamayachi T¹⁾, Osaka M, Hayashi K¹⁾, Itoh H¹⁾, Saruta T¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine) : [共著] Whole-cell patch-clamp and optical imaging of neurons in the RVLM, the CVLM, and the caudal end of VLM. Central Mechanisms of Cardiovascular Regulation (Kubo Takao and Tomoyuki Kuwai), 2007 ; pp83-106, Transworld Research Network.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Motohisa O, Murata H¹⁾, Tateoka K¹⁾, Katoh T¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Reliability of Heart Rate Variability Analysis by Using Electrocardiogram Recorded Unrestrainedly from an Automobile Steering-Wheel. 19th International Conference of Noise and Fluctuations (Tokyo), 2007. 9.
- 2) Takimoto C¹⁾, Kumagai H¹⁾, Osaka M, Sakata K¹⁾, Onami T¹⁾, Iigaya K¹⁾, Kamayachi T¹⁾, Itoh H¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine) : Candesartan and insulin increase the nonlinear correlation between sympathetic nerve activity and blood pressure in conscious diabetic hypertensive rats. 5th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience (Kyoto), 2007. 10.
- 3) Osaka M, Murata H¹⁾, Katoh T¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Heart rate variability analysis by using electrocardiogram recorded unrestrainedly from an automobile steering wheel. The 72th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 2008. 3.
- 4) 大坂元久, 村田広茂¹⁾, 館岡克彦¹⁾, 加藤貴雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学) : 自動車ステアリングからの無拘束心電図記録による心拍変動解析. 第46回日本生体医工学会大会, 2007. 4.
- 5) 大坂元久, 村田広茂¹⁾, 館岡克彦¹⁾, 加藤貴雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学) : 自動車ステアリングからの無拘束心電図記録による心拍変動解析の信頼性. 第24回日本心電学会学術集会, 2007. 10.
- 6) 滝本千恵¹⁾, 熊谷裕生¹⁾, 佐方克史¹⁾, 大波敏子¹⁾, 釜蒔 正¹⁾, 飯ヶ谷嘉門¹⁾, 林 晃一¹⁾, 伊藤 裕¹⁾, 大坂元久 (¹⁾ 慶応義塾大学医学部腎臓内科) : カンデサルタン, インスリン, ビオグリタゾンの長期投与は糖尿病 : 高血圧ラットの交感神経活動を抑制し, 循環調節の非線形性を亢進させる. 第30回日本高血圧学会総会, 2007. 10.

〔5〕 そ の 他

1. 教育推進室

研究概要

教育推進室は、平成14年4月発足以来6年が経過し、本学における医学教育の改革、拡充、充実とともにその研究および業務内容は拡大し多岐にわたっている。

今年度は、Faculty Development (FD) の一環として、第4回新任・昇任教員のためのFDワークショップ、第15回医学教育のためのFDワークショップを開催した。

教育推進室では、定例教育推進室会議、授業評価委員会、クリニカル・シミュレーション・ラボ (C. S. Lab.) 運営委員会、模擬患者養成委員会を主催し、また医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会および医史学教育研究会を補佐し幅広い教育活動を展開している。

学生による授業評価は、平成20年度からの携帯電話による授業評価に向けて、授業評価の目的・対象を明確にした上で、新たな実施方法の検討、授業評価報告書の発行等を決定し、学生による授業評価の信頼性を検討する研究を実施した。

開設後3年目を迎えたC. S. Lab. では、新入生へのC. S. Lab. オリエンテーションまた4年生の基本臨床実習コースに「C. S. Lab. における臨床技能実習」を導入し、臨床実習に入る学生の臨床技能の習得および評価に努めた。次に、本年も本学独自の模擬患者を養成し、基本臨床実習コースにおける「症候から考える」、「総合病態を考える」、OSCE、卒業前Advanced OSCEに加えて、新入生の医療面接、研修医オリエンテーション、教員のFDワークショップ等にも導入し臨床医学教育への活用を実行した。医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会を通じ、本学の医学英語教育の普及・整備、学生の臨床研究への参加に協力した。

平成19年度新たに加わった具体的な活動内容を以下に列記する。1) 米国人医師の病棟回診と外国人模擬患者の医療面接・医史学教育研究会の活動を通して一年生のNovel Medical Scienceの「野口英世に学ぶ」の授業で医師になる新たな動機付け 2) 入学試験の口頭試問に関するFD活動・学生のEarly Clinical Exposureとして臨床看護業務実習を企画を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takemura A¹⁾, Gemma A¹⁾, Shibuya M¹⁾, Matsuda K¹⁾, Okano T¹⁾, Nara M¹⁾, Noro R¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Yoshimura A, Kudoh S¹⁾ (1) Internal Medicine (Respiratory・Infectious Disease・Oncology) : Gemcitabine resistance in a highly metastatic subpopulation of a pulmonary adenocarcinoma cell line resistant to gefitinib. Int J Oncol 2007 ; 31 (6) : 1325-32.
- 2) Noro R¹⁾, Gemma A¹⁾, Miyanaga A¹⁾, Kosaihiro S¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Nara M¹⁾, Kokubo Y¹⁾, Seike M¹⁾, Kataoka K¹⁾, Matsuda K¹⁾, Okano T¹⁾, Yoshimura A, Kudoh S¹⁾ (1) Internal Medicine (Respiratory・Infectious Disease・Oncology) : PTEN inactivation in lung cancer cells and the effect of its recovery on treatment with epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors. Int J Oncol 2007 ; 31 (5) : 1157-63.
- 3) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 瀧澤俊広¹⁾, 明樂重夫²⁾, 国信浩洋³⁾, 寺本 明⁴⁾ (1) 解剖学第1, 2) 産婦人科学, 3) ドイツ語, 4) 脳神経外科学) : 医学部学生による授業評価の信頼性に関する検討. 医学教育 2007 ; 38 (6) : 377-381.
- 4) 渡邊 淳¹⁾, 佐野ありさ²⁾, 三宅秀彦²⁾, 右田 真²⁾, 平井幸彦²⁾, 志村俊郎, 島田 隆¹⁾ (1) 付属病院遺伝診療科, 2) 生化学・分子生物学) : 医学部における臨床遺伝教育 : 日本医科大学の試み. 医学教育 2007 ; 38

(4) : 245-250.

(2) 総説 :

- 1) 工藤翔二, 吉村明修: 卒前・卒後における結核教育. 特集 結核は今: 現状と問題点. 臨床と研究 2007 ; 84 (4) : 84-87.
- 2) 志村俊郎: 日本医科大学のSP養成講座とSP参加の臨床実習 市民が模擬患者として参加する医学教育. Medical Tribune 2008 ; 56-57.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演 :

- 1) 志村俊郎: 入学時の基本的救命救急手技履修と次学年以降の救急蘇生講習会へのsub-instructorとしての参加. 日本医科大学 第1回特色GP公開フォーラム 学年や学部を超え互いに教えて学ぶ医学教育～模擬患者として市民が参加する医学教育～, 2007. 2.
- 2) 志村俊郎: 上級生が教員と共に指導するClinical Simulation Laboratory実習. 日本医科大学 第1回特色GP公開フォーラム 学年や学部を超え互いに教えて学ぶ医学教育～模擬患者として市民が参加する医学教育～, 2007. 2.

(1) シンポジウム :

- 1) 吉村明修: 日本医科大学クリニカル・シミュレーション・ラボ 開設, 管理, 運営. 第1回臨床医学看護教育スキルラボ研究会, 2007. 6.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 志村俊郎: 学年や学部を超え互いに教えて学ぶ医学教育: 模擬患者として市民が参加する医学教育: 模擬患者が参加する医学部における医学教育 日本医科大学. 第2回特色GP公開フォーラム, 2007. 12.

(3) 一般講演 :

- 1) Onishi H¹⁾, Ishikawa H²⁾, Oda Y³⁾, Shimura T, Sugimoto N⁴⁾, Morimoto T⁵⁾, Moriya R⁶⁾, Yoshida M⁷⁾, Watanabe A⁸⁾, Aso R, Abe K⁹⁾ (1) Tokyo Univ, 2) Teikyo Univ, 3) Saga Univ, 4) Keio Univ, 5) Kyoto Univ, 6) Kitazato Univ, 7) Kyushu Univ, 8) Div Clin Genetics, 9) Gifu Univ) : How does medical knowledge increase affect medical communication skills?. 13th Ottawa International Conference on Clinical Competence (Melbourne), 2008. 2.
- 2) 高柳和江¹⁾, 齊藤卓弥²⁾, 熊田朝子¹⁾, 志村俊郎 (1) 医療管理学, 2) 精神医学) : 指定課題「SP養成」医療面接のための外国人と日本人のSP教育の差異. 第39回日本医学教育学会,
- 3) 志村俊郎, 高柳和江¹⁾, 吉村明修, 阿曾亮子 (1) 医療管理学) : 指定課題「SP養成」模擬患者参加型授業による双方向的医学教育. 第39回日本医学教育学会, 2007. 7.
- 4) 吉村明修, 清野精彦, 高橋秀実, 志村俊郎, 落 雅美, 小澤一史, 田村浩一, 寺本 明: 平成18年度文部科学省特色GP採択 学年や学部を超え互いに教えて学ぶ医学教育 T/Each other Programs. 第39回日本医学教育学会, 2007. 7.
- 5) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 宗像一雄¹⁾, 高橋秀実²⁾, 寺本 明³⁾ (1) 内科学, 2) 微生物・免疫学, 3) 脳神経外科学) : 早期臨床体験学習としての臨床看護業務実習の導入. 第39回日本医学教育学会, 2007. 7.
- 6) 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎, 古川清憲¹⁾ (1) 外科学) : 日本医科大学におけるシミュレーション医学教育のカリキュラムへの導入. 第39回日本医学教育学会, 2007. 7.
- 7) 齊藤卓弥¹⁾, 高柳和江²⁾, 志村俊郎 (1) 精神医学, 2) 医療管理学) : 指定課題「SP養成」英語での医療面接における外国人模擬患者養成. 第39回日本医学教育学会, 2007. 7.

- 8) 後藤 忠¹⁾, 森 美貴¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 石川朋子¹⁾, 羅 善順¹⁾, 吉村明修, 志村俊郎, 瀧澤俊広¹⁾ (1) 解剖学(分子解剖学): 学生による解剖学授業評価と成績との関係. 第39回日本医学教育学会, 2007. 7.
- 9) 伊藤高司¹⁾, 渡部 昇¹⁾, 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎, 清野精彦²⁾ (1) 情報科学センター, ²⁾ 内科学): 教育基盤としての大学ITC環境の再構築. 第39回日本医学教育学会, 2007. 7.
- 10) 吉村明修, 阿曾亮子, 志村俊郎, 古川清憲¹⁾ (1) 外科学): シミュレーション医学教育のカリキュラムへの導入. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 11) 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎, 高柳和江¹⁾, 飯野靖彦²⁾, 小林義典²⁾, 清野精彦²⁾, 日高廣人³⁾ (1) 医療管理学, ²⁾ 内科学, ³⁾ 日本医科大学SP): 日本医科大学のAdvanced OSCE全員参加トライアルのためのSP養成の取組み. 第75回日本医科大学医学会総会, 2007. 9.
- 12) 志村俊郎, 吉村明修, 阿曾亮子, 八木正敏, 安心院康彦¹⁾, 足立好司²⁾, 寺本 明²⁾ (1) 川崎市立川崎病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科): 脳卒中におけるシミュレーション医学教育カリキュラム. 第4回モデル&シミュレーション医学教育研究会学術大会, 2008. 1.
- 13) 阿曾亮子, 志村俊郎, 吉村明修, 八木正敏, 高柳和江¹⁾, 日高廣人²⁾ (1) 医療管理学, ²⁾ 日本医科大学SP): 共用試験OSCEに参加する模擬患者(SP)のトレーニングと試験の運営. 日本薬学会第128年会, 2008. 3.

付 表

各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1. 平成19年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題
特定領域研究	佐久間康夫	システム生理学・医学研究科 (基礎医学)・教授	24,000	ラット脳の性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析
〃	田中 信之	遺伝子制御学・医学研究科 (老人病研究所)・教授	19,600	核内癌抑制因子による遺伝子発現制御システムの解析
〃	太田 成男	細胞生物学・医学研究科 (老人病研究所)・教授	5,500	発がん時におけるミトコンドリア遺伝子体細胞変異の蓄積によるがん増殖促進機構
萌芽研究	佐久間康夫	システム生理学・医学研究科 (基礎医学)・教授	1,500	神経活動依存的逆行性標識による性腺刺激ホルモン排卵性大量分泌中枢の特定
〃	羅 善順	解剖学 (分子解剖学)・基礎医学・助教	1,400	妊娠における免疫抑制型Fc受容体の調節機構の解析：自己免疫疾患合併症の病態解明
〃	石川 源	女性診療科・産科・付属病院助教	1,500	胎盤機能不全に対する胎児型Fc受容体を利用した新治療法開発のための萌芽研究
〃	八木 聡明	頭頸部・感覚器科学・医学研究科 (付属病院)・教授	1,700	前庭感覚器障害克服のための人工前庭器開発
〃	百束 比古	形態機能再生再建医学 (形成外科学)・医学研究科 (付属病院)・教授	900	緑色脂肪トランスジェニックマウスの開発
〃	高柳 和江	医療管理学・基礎医学・准教授	1,900	エビデンスのある患者自己治療力向上量的 (HSP, 免疫等) と質的評価を指標として
〃	太田 成男	細胞生物学・医学研究科 (老人病研究所)・教授	2,000	水素ガス吸引による虚血再灌流障害の軽減
〃	瀧澤 俊広	分子解剖学・医学研究科 (基礎医学)・教授	3,200	異常妊娠早期診断のための妊婦血漿中のマイクロRNAに関するプロファイリング解析
若手研究 (B)	浅井 牧子	小児科・武蔵小杉病院助教	900	移植骨髄由来心筋細胞は正常心筋細胞の機能を有するか？—イオンチャネルからの検討—
〃	眞野あすか	生理学 (生体統御学)・基礎医学・助教	900	不安反応におけるCRFファミリーペプチド/受容体とニューロステロイドの役割の解明
〃	若林あや子	微生物学・免疫学・基礎医学・助教	1,000	飲水中残留塩素による卵白アルブミン特異的免疫反応の誘導：塩素と食物アレルギー
〃	坂井 敦	薬理学・基礎医学・助教	1,000	神経因性疼痛に対してNCAMが担う役割の解析による治療薬の探索
〃	三宅 紀子	生化学・分子生物学講座 (分子遺伝学・栄養学)・基礎医学・研究生	1,500	リソゾーム病の神経病変を標的とした新規遺伝子治療の開発
〃	初鹿野見春	小児科・武蔵小杉病院助教	1,000	酸素による動脈管収縮メカニズムの解明—プロテインチップシステムを用いて—
〃	二神 綾子	皮膚科・付属病院講師	900	パルスダイレーザーによるケロイド抑制効果の病態解明

〳	八幡 憲明	薬理学・基礎医学・助教	1,200	うつ病患者の脳機能解明とこれに抗うつ薬がもたらす作用に関する機能的MRI研究
〳	川島 徹生	外科（胸部・心臓血管・呼吸器外科）・千葉北総病院助教	1,100	肺癌患者におけるCD1脂質抗原提示系の役割
〳	新藤 晋	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院助教	1,000	内耳発達過程におけるCochlinの発現—Spatiotemporalな検討—
〳	野本 俊一	形成外科・付属病院助教	800	脂肪組織由来幹細胞から再生した組織の皮弁移植
〳	佐藤（織田）恵理	免疫部門・老人病研究所・講師	1,800	DNA損傷時におけるp53の新規標的遺伝子産物による細胞分裂期の制御機構の解析
〳	石井 寛高	システム生理学・医学研究科（基礎医学）・ポストドクター	1,600	幼弱期の脳で合成される脳ニューロステロイドは神経回路構築を調整する
〳	早川 秀幸	法医学・医学研究科（基礎医学）・特別研究生	500	死後MRI画像に及ぼす死後変化および死因の影響
〳	石井 健男	内科（呼吸器内科）・呼吸ケアクリニック・助教	800	慢性閉塞性肺疾患の嚔症状を規定する遺伝子の探索
〳	宮崎 恵美	細胞生物学・医学研究科（老人病研究所）・ポストドクター	1,200	ミトコンドリアにコードされるタンパク質への変異導入による脳変性疾患発症機構の解明
〳	肥田 道彦	メンタルヘルス科・千葉北総病院助教	2,000	統合失調症の聴覚言語処理機構に関する脳画像・遺伝子研究
〳	水谷 聡	消化器病センター・武蔵小杉病院助教	500	膵臓ミトコンドリアDNA体細胞変異は抗癌剤耐性を示す（オーダーメイド医療への道）
〳	松下 晃	外科（消化器外科・乳腺外科・一般外科）・付属病院助教	700	膵癌におけるNeuropilin-1の役割とそのシグナル伝達経路に関する研究
〳	金 景成	脳神経外科・千葉北総病院助教	500	腰椎黄色靭帯における低酸素関連因子発現に関する研究
〳	森 美貴	解剖学（分子解剖学）・基礎医学・助教	1,700	SPINT1を介した胎盤絨毛形成・維持機構の解明：正常および異常妊娠における役割
〳	根本 崇宏	生理学（生体統御学）・基礎医学・助教	1,700	母体カロリー摂取制限による胎児オートファジーの誘導と発育への影響に関する解析
〳	富山 僚子	女性診療科・産科・付属病院医療技術員	2,100	生殖能力のエイジング—卵胞における活性酸素と抗酸化物質の役割について—
〳	横山有希子	耳鼻咽喉科・千葉北総病院助教	1,100	好酸球性中耳炎の発症機序の解明：T細胞と肥満細胞の新たな役割
〳	中村 毅	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院助教	1,600	嚥下の口腔期から咽頭期への移行の連続性について機能生理学的研究
〳	増野 聡	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院助教	1,500	慢性副鼻腔炎に伴う鼻茸の発症機序の解明：肥満細胞と上皮細胞，繊維芽細胞の相互作用
〳	酒主 敦子	耳鼻咽喉科・千葉北総病院助教	1,000	難治性好酸球性中耳炎における線維芽細胞の新たな役割の解明
〳	王 明聡	感覚器視覚機能医学（眼科学）・医学研究科（付属病院）・ポストドクター	1,900	羊膜由来神経幹細胞の移植による網膜組織の再建と視機能の再生

〃	五十嵐 勉	眼科・付属病院助教	1,400	AAVベクター及びRNAi技術を用いたVEGF抑制による眼内新生血管抑制の試み
基盤研究 (A)	西野 武士	医科生物化学・医学研究科(基礎医学)・教授	10,900	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質揺らぎの解明
基盤研究 (B)	島田 隆	分子遺伝医学・医学研究科(基礎医学)・教授	3,700	遺伝性神経変性疾患に対する非侵襲性的遺伝子治療法の開発 (BBBを超えられるか?)
〃	百束 比古	形態機能再生再建医学(形成外科学)・医学研究科(付属病院)・教授	3,000	脂肪組織幹細胞による生体内3次元組織再生—大動物を用いた前臨床研究—
〃	佐久間康夫	システム生理学・医学研究科(基礎医学)・教授	3,500	個体発生の途上における細胞内イオン環境の変化を介する脳の性分化
〃	田尻 孝	臓器病態制御外科学・医学研究科(付属病院)・教授	4,300	肝炎, 肝硬変, 肝癌における網羅的microRNAプロファイルと機能的RNA探索
〃	寺本 明	神経病態解析学・医学研究科(付属病院)・教授	4,400	下垂体腺腫の細胞浸潤に関する分子形態学的研究
〃	大久保善朗	精神・行動医学・医学研究科(付属病院)・教授	4,200	分子イメージングによる統合失調症のドーパミン神経伝達異常の解明
基盤研究 (C)	川田 智之	環境医学・医学研究科(基礎医学)・教授	100	携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究
〃	濱田 知宏	生理学(システム生理学)・基礎医学・助教	700	可視化エストロジェン感受性ニューロンを用いたエストロジェン多機能性の解明
〃	大澤 郁朗	生化学・老人病研究所・講師	900	エネルギー代謝低下による神経細胞終末分化促進機構の解明
〃	岡 敦子	生物・基礎科学・教授	600	両生類消化管をモデルとした器官再構築機構の形態学的解析
〃	二神 生爾	内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)・付属病院助教	800	$\gamma\delta$ T細胞により誘導される腸管上皮細胞由来PGE2によるAPE発現制御の解析
〃	麻生 定光	生化学部門・老人病研究所・准教授	800	細胞死抑制活性強化蛋白質の細胞内導入治療法による肝組織変性の抑制
〃	吾妻安良太	内科(呼吸器内科)・付属病院准教授	900	日本人特有の急性肺障害と薬剤性肺障害の素因解明に関する基礎的研究
〃	三品 雅洋	内科・千葉北総病院助教	700	アデノシン受容体PETによるパーキンソン病の病態解明とテラーメイド医療への応用
〃	芝崎 保	生体統御科学・基礎医学・教授	800	グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンの体脂肪蓄積作用機構の解明
〃	緒方 清行	内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)・付属病院教授	700	CD45陰性造血細胞(CD45 ⁻ CD45 ⁻ CD45 ⁻ Lin ⁻ 細胞)の解析
〃	伊藤 敬雄	精神神経科・付属病院講師	500	中高年うつ病における自殺企図の生物学的要因に関する脳画像研究
〃	天神 敏博	外科(内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科, 移植外科)・付属病院准教授	800	リアルタイムPCRとFCMによる乳癌リンパ節癌微小転移の自動診断と予後の観察
〃	松谷 毅	外科(消化器外科・乳腺外科・一般外科)・多摩永山病院助教	1,100	外科手術における免疫反応の性差とDHEAの関連に関する研究

〳	吉田 大蔵	脳神経外科・武蔵小杉病院准教授	1,200	低酸素関連転写因子を介した下垂体腺種の浸潤の機序に関する分子生物学的研究
〳	富山 俊一	耳鼻咽喉科・多摩永山病院教授	1,000	実験的自己免疫性迷路炎モデルにおける内耳特異的抗体の機能解析
〳	野中 学	耳鼻咽喉科・多摩永山病院准教授	900	cDNAマイクロアレイを用いた鼻副鼻腔腔維芽細胞活性化分子機構の解明
〳	滝沢 竜太	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院講師	1,000	RSウイルス感染アレルギーマウスの気道における好酸球脱顆粒機序の解明
〳	原 行弘	リハビリテーション科・千葉北総病院教授	1,100	パラメーター記憶機能付パワーアシスト型機能的電気刺激によるリハビリテーション
〳	西野 朋子	生化学・分子生物学（構造生物学・代謝学）・基礎医学・講師	1,700	活性酸素種を大量に産生する変異キサンチン酸化酵素を用いたレドックス制御機構の解明
〳	近藤 保彦	生理学（システム生理学）・基礎医学・講師	900	ラットの雌雄性指向性決定の神経機序
〳	加藤 昌克	生理学（システム生理学）・基礎医学・准教授	1,700	卵巣由来プロジェスチンによるゴナドトロピン放出ホルモンニューロンの機能調節
〳	岡本 研	生化学・分子生物学（構造生物学・代謝学）・基礎医学・准教授	1,000	蛋白質のX線結晶構造に基づく創薬のための分子基盤研究
〳	埴 秀樹	生化学・分子生物学（分子遺伝学・栄養学）・基礎医学・助教	1,700	レトロウイルスによる原癌遺伝子活性化の定量法を新規開発し安全なベクターを開発する
〳	若山 葉子	衛生学・公衆衛生学・基礎医学・講師	900	凍結保存血清を用いた肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察
〳	坂本 長逸	内科（血液内科，内分泌代謝内科，消化器内科）・付属病院教授	1,300	腸上皮化生進展と胃癌発症過程におけるCOX2の役割とCOX2阻害剤の効果
〳	高橋 秀実	生体防御医学・医学研究科（基礎医学）・教授	1,000	ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化と自己免疫疾患の誘発
〳	工藤 翔二	呼吸器感染腫瘍内科学・医学研究科（付属病院）・教授	1,500	肺の慢性上皮傷害病態における発癌分子機構の解明とその制御
〳	阿部 信二	内科（呼吸器内科）・付属病院講師	700	造血幹/前駆細胞の肺障害における役割並びに治療法応用への基礎的検討
〳	福田 悠	解析人体病理学・基礎医学・教授	1,200	各種間質性肺炎における血管，リンパ管の新生とその機序
〳	片山 泰朗	神経・腎臓・膠原病リウマチ学・医学研究科（付属病院）・教授	1,200	新規脳保護薬による脳虚血後の神経再生の増強効果のメカニズムの解明
〳	及川 眞一	内科（血液内科，内分泌代謝内科，消化器内科）・付属病院教授	1,200	酸化ストレスに対する生体応答としての動脈硬化初期病変形成能と治療法の開発
〳	藤野 修	小児科・千葉北総病院教授	1,100	インフルエンザ脳症・脳炎患児の脳脊髄液中の発現蛋白におけるプロテオミクス解析
〳	三宅 弘一	生化学・分子生物学（分子遺伝学・栄養学）・基礎医学・准教授	1,500	ダイヤモンド・ブラックファン貧血の分子機序の解明と遺伝子治療の開発
〳	下田 健吾	精神神経科・付属病院講師	500	拡散テンソル解析を用いた老年期うつ病の認知症移行予測因子の同定

〳	田島 廣之	放射線科・付属病院教授	900	重症静脈血栓塞栓症に対するハイブリッドIVRシステムの基礎・臨床応用に関する研究
〳	村田 智	放射線科・付属病院講師	1,400	難治性がんに対する革新的ドラッグデリバリーシステムの開発
〳	秋丸 琥甫	外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科, 移植外科)・付属病院教授	700	肝切後門脈圧上昇に対する小腸切除量の検討―過小グラフト対策法確立を目指して
〳	内田 英二	外科 (消化器外科・乳腺外科・一般外科)・付属病院教授	500	リアルタイムin vivoイメージングシステムを用いた新しい膵癌実験モデル
〳	石渡 俊行	病理学 (統御機構・腫瘍学)・基礎医学・准教授	1,300	Lumicanの細胞増殖因子制御による膵臓癌増殖抑制効果の検討
〳	工藤 光洋	病理学 (統御機構・腫瘍学)・基礎医学・講師	1,500	膵内の膵幹細胞の分離同定とその応用
〳	新田 隆	外科 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院教授	1,100	左心房容量負荷モデルにおいて肺静脈隔離が心房細動の発生と維持に及ぼす影響
〳	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学・医学研究科 (付属病院)・教授	1,100	麻酔薬・麻酔法が体内遺伝子発現に及ぼす影響
〳	石川 朋子	解剖学 (分子解剖学)・基礎医学・助教	1,300	RNAiノックダウン法による雄性生殖細胞特異的分子TEX101の機能解析
〳	清水 章	病理学 (解析人体病理学)・基礎医学・准教授	1,400	自然抗原ノックアウトミニプタからヒトへの異種移植臓器廃絶の機序の解明と、その制御
〳	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院准教授	1,300	好酸球性副鼻腔炎やアスピリン喘息を伴う鼻茸における肥満細胞の新たな役割
〳	三枝 英人	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院講師	900	ヒトにおける舌の反射性運動の発現と、その新しい臨床応用についての基礎的研究
〳	後藤 穰	耳鼻咽喉科・千葉北総病院講師	800	舌下免疫療法の効果発現メカニズムを検討する
〳	池園 哲郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・付属病院准教授	1,100	外リンパ蛋白の網羅的ディファレンシャル解析による治療ターゲット蛋白の同定
〳	平岡 美紀	眼科・付属病院講師	1,000	未熟児網膜症における遺伝子要因の解析とシグナル伝達系への関与
〳	山木邦比古	眼科・千葉北総病院准教授	700	原田病特異的免疫反応に基づく診断と治療法開発に向けた研究
〳	土佐眞美子	形成外科・武蔵小杉病院助教	1,100	IL-6シグナル制御によるケロイドの新しい分子治療の確立と発症機序の解明
〳	岩崎 俊雄	生化学・分子生物学 (構造生物学・代謝学)・基礎医学・講師	1,000	超好熱菌の複合金属酵素のナノアセンブリー機構解析
〳	齋藤 文仁	薬理学・基礎医学・講師	1,700	小脳核抑制性シナプスの発達過程におけるセロトニンを介した制御機構
〳	三上 俊夫	スポーツ科学・基礎科学・准教授	2,500	精神的ストレスによる海馬での神経新生の低下に対して身体運動は抑制効果を持つか否か
〳	瀧澤 敬美	解剖学 (分子解剖学)・基礎医学・助教	1,800	VAMP3を介したGPIアンカー型蛋白質の細胞内輸送機構に関する分子解剖学的解析

〳	鈴木 秀典	神経情報科学・医学研究科 (基礎医学)・教授	1,800	サブスタンスP受容体を標的とした新規抗うつ薬の探索と脳機能画像による有効性評価
〳	原田 大	病理部・付属病院助教	1,200	癌浸潤部におけるHMGB1蛋白の細胞内局在とその機能的意義に関する病理学的解析
〳	李 卿	衛生学・公衆衛生学・基礎医学・講師	1,200	有機リン農薬による免疫毒性の新機序：有機リン農薬による免疫細胞のアポトーシス
〳	林田眞喜子	法医学・基礎医学・講師	1,700	質量分析の新技法を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の再構築
〳	弦間 昭彦	内科（呼吸器内科）・付属病院准教授	2,100	肺癌における化学療法感受性関連蛋白の単離とイメージングによる感受性予測法の開発
〳	浅田 穰	薬理学・基礎医学・講師	2,000	運動失調症に関与する小脳発達障害候補遺伝子BRAP2の機能解析
〳	山口 博樹	内科（血液内科，内分泌代謝内科，消化器内科）・付属病院助教	2,600	テロメラーゼ複合体遺伝子異常で発症する骨髄不全症の病態解明と新規治療の開発
〳	猪口 孝一	内科（血液内科，内分泌代謝内科，消化器内科）・付属病院教授	2,600	MLL/AF4遺伝子導入白血病モデルマウスの分子病態解析と新規分子標的薬の開発
〳	小川 俊一	小児科・付属病院教授	2,000	血管炎に伴う血管虚血下の血管内皮細胞・平滑筋細胞の機能および応答機構の解明と治療
〳	館野 周	精神神経科・付属病院講師	1,500	うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性について脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究
〳	汲田伸一郎	臨床放射線医学・医学研究科（付属病院）・教授	2,000	半導体ガンマカメラを用いた微小心筋障害の検出に関する研究
〳	松田 明久	外科（消化器外科・乳腺外科・一般外科）・多摩永山病院助教	1,100	手術侵襲後の生体反応におけるアディポサイトカインの役割に関する研究
〳	三嶋 拓也	分子解剖学・医学研究科（基礎医学）・ポストドクター	1,800	胆道系悪性腫瘍に特異的なマイクロRNAの機能解析
〳	内藤 善哉	統御機構病理学・医学研究科（基礎医学）・教授	1,600	ケラチノサイト増殖因子受容体体系を用いた新たな膀胱癌治療戦略の検討
〳	吉田 寛	外科（消化器外科・乳腺外科・一般外科）・付属病院准教授	1,700	肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝再生，発癌に及ぼす影響
〳	菅野 重人	外科（内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科，移植外科）・付属病院講師	1,800	心筋ギャップ結合におけるコネクシン43の発現異常と周術期不整脈
〳	竹田 晋浩	麻酔科・付属病院准教授	1,000	アルファ2-アゴニスト・デスクメデトミジンの延髄呼吸中枢への作用メカニズムの解析
〳	近藤 幸尋	泌尿器科・付属病院准教授	2,200	低酸素応答因子制御による腎細胞癌予後改善の検討
〳	澤 倫太郎	女性診療科・産科・付属病院講師	1,100	心臓インターベンション領域における胎児アデノシン特性の応用に関する研究
〳	竹下 俊行	女性生殖発達病態学・医学研究科（付属病院）・教授	2,800	ヘパリンの抗流産作用とその機転に関する研究
〳	亀谷 修平	眼科・千葉北総病医院講師	2,300	C1qtnf5遺伝子異常による加齢黄斑変性症モデルの作成と解析

〳	堀	純子	眼科・付属病院准教授	2,000	眼組織移植における新規の免疫補助シグナル分子の機能解析とその臨床応用に向けた展開
〳	水野	博司	形成外科・付属病院准教授	2,100	脂肪組織幹細胞による血管再生機序の解明
〳	増野	智彦	高度救命救急センター・付属病院助教	1,400	ショック後腸管リンパ液中に産生されるホスホリパーゼA2の臓器障害に対する影響
〳	佐藤	格夫	高度救命救急センター・付属病院助教	1,500	熱傷後に伴う遠隔臓器障害の発生機序の解明と治療戦略の構築
〳	渡邊	淳	生化学・分子生物学（分子遺伝学・栄養学）・基礎医学・講師	1,000	効果ある臨床遺伝教育プログラムに向けた課題調査と教材開発
特別研究員奨励費（国内）	水口	義昭	解剖学（分子解剖学）・基礎医学・特別研究員PD	1,100	肝炎・肝硬変・肝癌における免疫担当細胞のmicroRNAomeによる病態生理の解明と新規miRNAの探索
特別研究員奨励費（外国人）	太田	成男	細胞生物学・医学研究科（老人病研究所）・教授	1,200	老年病および生活習慣病におけるミトコンドリアからの活性酸素の放出機構

2. 平成19年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 佐藤 茂 中央電子顕微鏡研究施設	基盤研究 (B)	木口 憲爾 信州大学繊維学部	重イオンマイクロビーム利用による昆虫の生体損傷修理機構の解析
			補助金合計額 300,000 円

3. 平成19年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

単位：千円

項 目	平成19年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）			
I 各大学等の特色を活かせるきめ細やかな支援			
1 就学機会の多様化推進メニュー群			
(1) 外国人留学生の入学の推進		3,974	3,974
2 大学院教育研究高度化支援メニュー群			
(1) 大学院の基盤整備・拠点重点化支援			
1) 教育研究拠点大学院重点経費			
①大学院基盤分		346,281	346,281
2) 研究科特別経費			
①研究科分	30,192	29,808	60,000
②学生分	12,176	11,824	24,000
(2) ティーチング・アシスタント支援	5,032	4,968	10,000
(3) リサーチ・アシスタント、ポストドクター等支援			
1) RA, PD	44,986	44,414	89,400
3 学部教育の高度化・個性化支援メニュー群			
(1) 教育・学習方法等改善支援	3,233	2,881	6,114
(2) インターンシップの推進		5,962	5,962
(3) 海外研修派遣支援	1,852	1,828	3,680
4 先端的学術研究推進メニュー群			
(1) 学術研究高度化推進			
1) ハイテク・リサーチ・センター経費	47,600	47,600	95,200
2) 社会連携研究推進	35,230	35,100	70,330
(2) 研究施設・設備等運営支援			
1) 研究施設	27,136	26,728	53,864
2) 大型設備等	11,197	10,234	21,431
(3) 教員の流動化促進支援			
1) 教員異動		525	525
2) 任期付教員		18,242	18,242
5 高度情報化推進メニュー群			
(1) 教育学術情報ネットワーク支援	51,903	51,072	102,975
(2) 教育学術コンテンツ支援			
1) 教育研究用ソフトウェア	5,678	5,167	10,845
(3) 教育研究情報利用支援	24,251	22,456	46,707
II 高等教育機関の質の確保			
1) 多元的評価支援経費	1,119	1,000	2,119
合計	301,585	670,064	971,649
私立学校等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）			
1 教育研究装置整備費補助			
(1) 教育装置	47,116	28,877	75,993
2 研究設備	26,538	53,074	79,612
合計	73,654	81,951	155,605

4. 平成19年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
菊地 浩人	自然科学・物理学	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	教育学術コンテンツ（教育研究用ソフトウェア）	菊地 浩人	
菊地 浩人	自然科学・物理学	分担	科学研究費補助金 基盤研究（A）	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質揺らぎの解明	西野 武士	日本医科大学大学院医学研究科医生物化学
岡 敦子	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究（C）	両生類消化管をモデルとした器官再構築機構の形態学的解析	岡 敦子	
岡 敦子	自然科学・生物学	分担	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（社会連携）	認知症の街ぐるみ支援ネットワーク～早期発見から介護まで～	川並 汪一	日本医大・老研・病理部門
高市 真一	自然科学・生物学	分担	（独）新エネルギー・産業技術総合開発機構	小規模利水地点における分散型水質管理を目的とした重金属検出用微生物センサーの開発	前田 勇	宇都宮大学・農
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	科学研究費補助金 基盤研究（C）	精神ストレスの低下に対して身体運動は抑制効果を持つか否か	三上 俊夫	
三嶋 拓也、石橋 宰、瀧澤 敬美	解剖学講座（分子解剖学）	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究（C）	胆道系悪性腫瘍に特異的なマイクロRNAの機能解析	三嶋 拓也	
森 美貴	解剖学講座（分子解剖学）	代表	科学研究費補助金 若手研究（B）	SPINT1を介した胎盤絨毛形成・維持機構の解明：正常および異常妊娠における役割	森 美貴	
石川 朋子、瀧澤 俊広	解剖学講座（分子解剖学）	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究（C）	RNAiノックダウン法による雄性生殖細胞特異的分子TEX101の機能解析	石川 朋子	
瀧澤 敬美、瀧澤 俊広、三嶋 善順	解剖学講座（分子解剖学）	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究（C）	VAMP3を介したGPIアンカー型蛋白質の細胞内輸送機構に関する分子解剖学的解析	瀧澤 敬美	
羅 善順、三嶋 拓也、瀧澤 俊広	解剖学講座（分子解剖学）	代表分担	科学研究費補助金 萌芽研究	妊娠における免疫抑制型Fc受容体結合の病態解明	羅 善順	
瀧澤 俊広、竹下 拓也、三嶋 善順	解剖学講座（分子解剖学）	代表分担	科学研究費補助金 萌芽研究	異常妊娠早期診断のための妊婦血漿中のマイクロRNAに関するプロファイリング解析	瀧澤 俊広	
三嶋 拓也	解剖学講座（分子解剖学）	代表	平成19年度丸山記念研究助成金	microRNA発現プロファイルによる新規食道癌診断ツールの開発研究	三嶋 拓也	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
小澤 一史	解剖学講座 (生体構造学)	代表	第36回 (2007) 内藤 記念科学奨励金	摂食と性の神経制御系の相互作用 の解明	小澤 一史	
石井 寛高	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	幼弱期の脳で合成される脳ニュー ロステロイドは神経回路構築を調 節する	石井 寛高	
佐久間康夫, 木山 裕子, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 萌芽研究	神経活動依存的逆行性標識による 性腺刺激ホルモン排卵性大量分泌 中枢の特定	佐久間康夫	
佐久間康夫, 加藤 昌克, 木山 裕子, 折笠千登世, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	個体発生の途上における細胞内イ オン環境の変化を介する脳の性分 化	佐久間康夫	
佐久間康夫, 加藤 昌克, 木山 裕子, 近藤 保彦, 折笠千登世, 濱田 知宏	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 特定領域研究	ラット脳の性分化の際にエストロ ゲンにより駆動される制御分子の 同定と機能解析	佐久間康夫	
加藤 昌克, 佐久間康夫	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	卵巣由来プロジェクティンによるゴ ナドトロピン放出ホルモンの機 能調節	加藤 昌克	
近藤 保彦	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラットの雌雄性指向性決定の神経 機構	近藤 保彦	
濱田 知宏, 佐久間康夫, 木山 裕子	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	可視化エストロジェン感受性ニュー ロンを用いたエストロジェン多 機能性の解明	濱田 知宏	
根本 崇宏	生理学講座 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	母体カロリー摂取制限による胎児 オオファジーの誘導と発育への 影響に関する解析	根本 崇宏	
芝崎 保	生理学講座 (生体統御学)	主任	厚生労働省科研費補 助金	難治性疾患克服研究事業 中枢性 摂食異常症に関する調査研究	芝崎 保	
芝崎 保	生理学講座 (生体統御学)	分担	厚生労働省科研費補 助金	長寿科学総合研究事業 ソマトポ ースに対するグレリンの臨床応用 と基盤的研究	集川 賢治	国立循環器病センター 研究所
芝崎 保	生理学講座 (生体統御学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	グレリン受容体発現抑制遺伝子改 変ラットを用いたグレリンの体脂 貯蓄作用機構の解明	芝崎 保	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
眞野あすか	生理学講座(生体統御学)	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	不安反応におけるCRFファミリーペプチド/受容体とニューロステロイドの役割の解明	眞野あすか	
芝崎 保	生理学講座(生体統御学)	代表	平成19年度財団法人 喫煙科学研究財団研 究助成	ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討	芝崎 保	
眞野あすか	生理学講座(生体統御学)	代表	成長科学協会研究助 成	エネルギー代謝調節機構における成長ホルモンとグレリンの役割の解明	眞野あすか	
西野 武士, 岡本 智裕, 松村 研	生化学・分子生物学講座(構造生物学・代講学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(A)	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質攝らぎの解明	西野 武士	
岡本 研	生化学・分子生物学講座(構造生物学・代講学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	蛋白質のX線結晶構造に基づく創薬のための分子基盤研究	岡本 研	
西野 朋子	生化学・分子生物学講座(構造生物学・代講学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	活性酸素種を大量に産生する変異キサンチン酸化酵素を用いたレドックス制御機構の解明	西野 朋子	
西野 武士, 岡本 智裕, 松村 智裕, 草野 輝男	生化学・分子生物学講座(構造生物学・代講学)	代表 分担	私立大学教育研究高 度化推進特別補助	活性酸素を産生するトランスジェニックマウスの解析	西野 武士	
岩崎 俊雄	生化学・分子生物学講座(構造生物学・代講学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	超好熱菌の複合金属酵素のナノアッセムブリー機構解析	岩崎 俊雄	
三宅 弘一	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学・栄養学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ダイアモンド・ブラックフアンゲル血の分子機序の解明と遺伝子治療の開発	三宅 弘一	
三宅 紀子	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学・栄養学)	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	リゾゾーム病の神経病変を目標とした新規遺伝子治療の開発	三宅 紀子	
埜 秀樹	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学・栄養学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	レトロウイルスによる原癌遺伝子活性化の定量法を新規開発し安全なベクターを開発する	埜 秀樹	
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学・栄養学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	効果ある臨床遺伝プログラムに向けた課題調査と教材開発	渡邊 淳	
島田 隆, 右田 真, 三宅 弘一, 埜 秀樹, 渡邊 淳, 望月 秀樹	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学・栄養学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	遺伝性神経変性疾患に対する非侵襲遺伝子治療法の開発(BBBを超えられるか?)	島田 隆	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
鈴木 秀典, 水野 昌俊, 池田裕美子, 坂井 敦, 八幡 憲明, 齋藤 文仁, 水野 昌俊	薬理学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	サブスタンP受容体を標的とした新規抗うつ薬の探索と脳機能画像による有効性評価	鈴木 秀典	
齋藤 文仁, 水野 昌俊	薬理学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	小脳核抑制性シナプスの発達過程におけるセロトニンを介した制御機構	齋藤 文仁	
浅田 稷, 鈴木 秀典	薬理学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	運動失調症に関与する小脳発達障害候補伝子BRAP2の機能解析	浅田 稷	
坂井 敦, 八幡 憲明	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	神経因性疼痛に対してNCAMが担う役割の解析による治療薬の探索	坂井 敦	
八幡 憲明	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	うつ病患者の脳機能解明とこれに抗うつ薬がもたらす作用に関する機能的MRI研究	八幡 憲明	
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性について脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究	館野 周	精神医学
齋藤 文仁	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (A)	抑制性シナプス制御機構の解明と創薬基盤の探索	小西 史朗	徳島文理大学
小林 克典	薬理学講座	分担	科学技術振興機構 戦略的創造研究推進 事業CREST	精神疾患モデルマウスの神経活動の生理学的解析	宮川 剛	藤田保健衛生大学
小林 克典	薬理学講座	代表	The International Human Frontier Science Program Organization	Environmental regulation of the brain function via the hippocampal mossy fibers	小林 克典	
清水 章, 益田 幸成, 石崎 正通	病理学講座 (解析人体病理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	自然抗原ノックアウトミニマタカラヒトへの異種移植臓器発達の機序の解明と、その制御	清水 章	
清水 章, 益田 幸成	病理学講座 (解析人体病理学)	代表分担	Novartis Ciclosporin Pharmaco-Clinical Forum Research Grant 2008	腎微小血管傷害とサイクロスポリン慢性毒性 (サイクロスポリン腎症) の進展, および, 血管内皮増殖因子を用いた積極的な治療	清水 章	
福田 悠, 石崎 正通, 川本 雅司, 高橋美紀子	病理学講座 (解析人体病理学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	各種間質性肺炎における血管, リンパ管の新生とその機序	福田 悠	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
福田 悠	病理学講座 (解析人体病理学)	分担	厚生労働科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺炎疾患調査研究班	臨床診断ARDSとされた剖検例の病理組織学的解析	貫和 敏博	東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	四川大学医学部医学科同窓会讀樹會研究奨励	Lumicanの肺癌における役割と治療への応用	松田 陽子	
内藤 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケラチノサイト増殖因子受容体系を用いた新たな肺癌治療戦略の検討	内藤 善哉	
石渡 俊行	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	膵内の膵幹細胞の分離同定とその応用	工藤 光洋	
工藤 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	Lumicanの細胞増殖因子制御による肺癌増殖抑制効果の検討	石渡 俊行	
石渡 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	飲水中残留塩素による卵白アルブミン特異的免疫反応の誘導；塩素と食物アレルギー	若林あや子	
工藤 光洋	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化と自己免疫疾患の誘発	高橋 秀実	
若林あや子	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金 助金	HIVの感染予防に関する研究；粘膜炎賦活によるエイズウイルスの制御 (平成19年度)	山本 直樹	国立感染症研究所エイズ研究センター
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	代表	厚生労働省科研費補助金	感染予防における経粘膜ワクチンの開発；ワクチンのCTLと免疫交差性の解析	広井 隆親	東京都臨床医学総合研究所 免疫・感染症研究分野
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	代表	厚生労働省科研費補助金	HIV感染症における免疫応答の解析とその臨床応用に関する研究 (H19-国医-指定-008)	山本 直樹	国立感染症研究所エイズ研究センター
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助金	経口免疫法による腫瘍制御ワクチンの開発	高橋 秀実	
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	携帯型運動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究	川田 智之	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
李 川田 智之, 石崎 正通, 稲垣 弘文, 平田 幸代	衛生学・公衆衛生学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	有機リン農薬による免疫毒性の新機序：有機リン農薬による免疫細胞のアポトーシス	李 卿	大阪大学
李 若山 葉子, 勝又 碧夫, 川田 智之	衛生学・公衆衛生学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ライフスタイルと末梢血ゲノムDNA安定性との関連性に係わる予防医学的追跡研究	呂 玉泉	大阪大学
李 英姫	衛生学・公衆衛生学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	凍結保存血清を用いた肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察	若山 葉子	
李 智之, 稲垣 弘文, 平田 聖夫, 大塚 美子, 大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学講座	代表分担	公害健康被害予防事業に係る調査研究	気管支ぜん息の発症リスク低減に関わる因子の検索と管理・指導への応用に関する調査研究	滝澤 始	帝京大学第四内科
李 智之, 稲垣 弘文, 平田 聖夫, 大塚 美子, 大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学講座	代表分担	喫煙科学研究財団研究助成	タバコ依存度質問紙調査法の心理測定上の特性：職域におけるデータ解析	川田 智之	
李 卿	衛生学・公衆衛生学講座	代表	平成19年度(社)国土緑化推進機構・森林セラピー実行委員会助成金	森林セラピーに係わる研究	李 卿	
李 林田真喜子, 仁平 信, 寺田 賢, 栗崎惠美子, 工藤 恵子	法医学講座	代表	平成19年度長野県信濃町役場助成金	森林系環境要素が人の生理効果に及ぼす影響に係わる調査研究	李 卿	
長谷場 健, 阿部 裕子	法医学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	質量分析の新技法を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の再構築	林田真喜子	
高柳 和江, 齊藤 早弥, 伊藤 要子	医療管理学講座	代表	共同研究	日本人の飲酒条件とアルコール代謝動態、酪酐度及び生理的变化との関係	長谷場 健	
長谷川敏彦	医療管理学講座	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	エビデンスのある患者自己治癒力向上-量化的 (HSP, 免疫等) と質的評価を指標として	高柳 和江	
長谷川敏彦	医療管理学講座	代表	がん研究助成金	公的がん専門医療機関の機能と経営の評価に関する研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補助金	長寿科学の推進に係るグラントデザインに関する研究	長谷川敏彦	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
長谷川敏彦	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補助金	質効率向上と職業間連携を目指した病棟マネジメント研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補助金	医療費推計モデルの開発と医療費適正化計画の評価に関する研究	長谷川友紀	東邦大学医学部医療政策・経営科学
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	厚生労働省科研費補助金	医療安全推進に必須の組織文化(安全文化)の測定および簡便な有害事象把握手法の開発と活用	種田憲一郎	国立保健医療科学院政策科学部
長谷川敏彦	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補助金	医療の安全性及び安全対策の評価指標の開発と有効性の検証	武澤 純	名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中治療医学
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	私立大学学術研究高度化社会連携研究事業	認知症街ぐるみ支援ネットワーク共同研究	川並 汪一	老人病研究所
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	全社連共同研究	ベンチマーク分析によるDPCの医療の質への影響に関する研究	秦 温信	札幌社会保険総合病院
長谷川敏彦	医療管理学講座	分担	社会保険中央総合病院研究	医師の病院業務の実態に関する調査研究	斉藤 壽一	社会保険中央総合病院
長谷川敏彦	医療管理学講座	代表	がん研究助成金	公的がん専門医療専門機関の機能と経営の評価に関する研究	長谷川敏彦	
佐藤 茂	基礎医学共同研究利用施設・中央電子顕微鏡研究施設	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(B)	重イオンマイクロビーム利用による昆虫の生体損傷修復機構の解析	木口 憲爾	信州大学繊維学部
伊藤 高司	基礎医学共同研究利用施設・情報科学センター	分担	厚生労働省科研費補助金	難治性疾患に関する有効な治療法選択等のための情報取集体制の構築に関する研究(H18-難治一般-002)	工藤 翔二	内科学(呼吸器・感染・腫瘍部門)
大庭 建三	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院老人科	分担	厚生労働省科研費補助金	高齢者糖尿病病状に対する総合診療体制確立のための総合的研究—無作為化比較研究(J-E-DIT)を中心に	井藤 英喜	東京都老人医療センター
大庭 建三	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院老人科	分担	公益信託日本動脈硬化研究基金	高齢者高血圧コホート研究 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度、高血圧合併症との関連臨床コホート研究(J-CHEARS)	大内 尉義	東京大学老年科
片山 泰朗	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院第2内科(神経内科、腎臓内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	新規脳保護薬による脳虚血後の神経再生の増強効果のメカニズムの解明	片山 泰朗	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
片山 泰朗, 白田 和弘, 西山 稜	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院第2内科 (神経内科, 腎臓内科)	分担	厚生労働省科研費補助金	抗凝固薬・抗血小板薬の標的およびこれら薬剤を修飾するタンパク質・遺伝子の解析を通じた最適投与量の評価方法の標準化に関する研究	宮田 敏行	国立循環器病センター 研究所 病因部
及川 真一	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	酸化ストレスに対する生体応答ととしての動脈硬化初期病変形成能と治療法の開発	及川 真一	
及川 真一	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	分担	厚生労働省科研費補助金	高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入研究	井藤 英喜	東京都老人医療センター
及川 真一	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	分担	厚生労働省科研費補助金	原発性高脂血症に関する調査研究	山田 信博	筑波大学大学院人間総合科学研究科内分泌代謝内科
及川 真一	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	分担	厚生労働省科研費補助金	循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業	山田 信博	筑波大学大学院人間総合科学研究科内分泌代謝内科
二神 生爾, 坂本 長逸	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	代表 分担	日本へりコバクタ 学会	選択COX-2阻害剤による <i>H. pylori</i> 感染胃癌モデルにおける腸上皮化生および胃癌発生抑制の解析	二神 生爾	
及川 真一	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	分担	農林水産省高度化学 業研究	血糖値改善効果を有する桑の葉食品の開発と事業化	宮澤 陽夫	東北大学農学部
及川 真一	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	分担	農林水産省高度化学 業研究	こめトコトリエノールを活かす食品開発とこめアグリビジネスの展開	宮澤 陽夫	東北大学農学部
及川 真一, 谷村 恭子	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	代表 分担	科学研究費補助金 特定領域研究	牛乳飲用後の血清脂質, アポB48, グレリン, ペプチドYYの経時的変化に関する研究	及川 真一	
二神 生爾, 坂本 長逸	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科 (血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	gamma/delta T 細胞により誘導される腸管上皮細胞由来PGE2によるAPE発現制御の解析	二神 生爾	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
厚瑞朗, 孝, 浩一, 健男, 律子	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	代表分担	独立行政法人環境再生保全機構	COPD患者の病期分類等に応じた健康管理支援, 保健指導の実践及び評価手法に関する調査研究	木田 厚瑞	
大久保善朗, 周, 智雄, 隆資	精神医学講座・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メメントルヘルス科	分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	脳機能イメーシングを用いた口腔内慢性疼痛の新しい診断法と治療効果の客観的評価	荻部 洋行	日本歯科大学小児歯科学講座
大久保善朗, 周, 鈴木直	精神医学講座・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メメントルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	うつ病の再発・難治化と脳の脆弱性についての脳画像と神経栄養因子を用いた前方視研究	舘野 周	
健吾, 真人, 大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メメントルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	拡散テンソル解析を用いた老年期うつ病の認知症移行予測因子の同定	下田 健吾	
道彦	精神医学講座・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メメントルヘルス科	代表	科学研究費補助金(若手研究(B))	統合失調症の聴覚言語処理に関する脳画像・遺伝子研究	肥田 道彦	
敬雄, 大久保善朗, 須原哲也	精神医学講座・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メメントルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	中高年うつ病における自殺企図の生物学的要因に関する脳画像研究	伊藤 敬雄	
大久保善朗, 卓弥, 哲哉, 道彦, 須原哲也, 浩, 英彦	精神医学講座・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メメントルヘルス科	代表分担	科学研究費補助金(基盤研究(B))	分子イメーシングによる統合失調症のドパミン神経伝達異常の解明	大久保善朗	
大久保善朗, 哲也, 松浦雅人, 加藤元一郎	精神医学講座・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メメントルヘルス科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	分子イメーシングによる精神科治療法の科学的評価法の確立に関する研究	大久保善朗	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究	岡崎 祐士	東京都立松沢病院
平安良雄、大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	自殺関連うつ対策戦略研究	高橋 清久	国立精神・神経センター
伊藤敬雄、明智龍男、河西千秋、小林未果、佐伯俊成、佐藤洋、松島英介	精神医学講座・付属病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	自殺未遂者および自殺者遺族などへのケアに関する研究－身体疾患と自殺および精神疾患に関する予備的検討－	伊藤 弘人	国立精神・神経センター －精神保健研究所 社会精神保健部 部長
黒澤尚、岸泰宏、堀川直史、松木秀幸、川瀬英理、奥山徹、八田耕太郎、下津咲絵、立森久照	精神医学講座・付属病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	精神科救急医療、特に身体疾患や認知症疾患合併症例の対応に関する研究	黒澤 尚	
前田美穂	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省科研費補助金	小児がん治療患者の長期フォローアップとその体制整備に関する研究	藤本純一郎	国立成育医療センター
藤野修、浅野健、川上康彦、桑原健太郎	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	インフルエンザ脳症・脳炎患児の脳脊髄液中の発現蛋白におけるプロテオミクス解析	藤野 修	
前田美穂	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省がん研究助成	小児がん克服者のQOLと予後の把握及びその追跡システムの確立に関する研究	石田也寸志	愛媛大学
初鹿野見春	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	酸素による動脈管収縮メカニズムの解明 プロテインチンアップシテムを用いて	初鹿野見春	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
浅井 牧子	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	移植骨髄由来心筋細胞は正常心筋細胞の機能を有するか？ チャネルからの検討	浅井 牧子	
二神 綾子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	パルスタダイレターによるケロイド抑制効果の病態解明	二神 綾子	
吉田 寛 田尻 孝 秋丸 孝 真々田 琥甫 谷合 裕宏 信彦	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院外科 (消化器外科, 乳腺外科, 一般外科, 移植外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝再生, 発癌に及ぼす影響	吉田 寛	
加藤 俊二	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院外科 (消化器外科, 乳腺外科, 一般外科, 移植外科)	分担	厚生労働省科研費補助金	進行胃癌に対する漢方治療の有効性	太田 恵一朗	国際医療福祉大学三田病院
松下 晃 田尻 孝 内田 英二	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院外科 (消化器外科, 乳腺外科, 一般外科, 移植外科)	代表 分担	科学研究費補助金 若手研究 (B)	膵癌におけるneuropilin-1の役割とそのシグナル伝達経路に関する研究	松下 晃	
松下 晃 田尻 孝	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院外科 (消化器外科, 乳腺外科, 一般外科, 移植外科)	代表 分担	財団法人膵臓病研究財団研究奨励賞 (助成金)	STAT5の活性化と膵癌の悪性度との関連について	松下 晃	
松谷 篁 菅 耕二	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院外科 (消化器外科・乳腺外科・一般外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	外科手術における免疫反応の性差とDHEAの関連に関する研究	松谷 篁	
松田 明久 松谷 篁 菅 耕二	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院外科 (消化器外科・乳腺外科・一般外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	手術侵襲後の生体反応におけるアディポサイトカインの役割に関する研究	松田 明久	
藤井 正大	外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科)・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	開心術後正中創におけるsurgical site infection (SSI) 予防の取り組み; 皮下ドレーンによる創傷治癒に及ぼす影響の検討	藤井 正大	
寺本 明	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	下垂体腺腫の細胞浸潤に関する分子形態学的研究	寺本 明	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
寺本 明	脳神経外科科学講座・付属病院 脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	間脳下垂体機能障害に関する研究調査	千原 和夫	神戸大学大学院医学研究科
喜多村孝幸	脳神経外科科学講座・付属病院 脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	脳脊髄液減少症の診断・治療の確立に関する研究	嘉山 孝正	山形大学医学部学務ユニット研究支援
寺本 明	脳神経外科科学講座・付属病院 脳神経外科	分担	厚生労働省がん研究助成金	下垂体腺腫の外科治療及び予後に関する研究	塚田 俊彦	国立がんセンター研究所
吉田 大蔵	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院 脳神経外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	低酸素関連転写因子を介した下垂体腺腫の浸潤の機序に関する分子生物学的研究	吉田 大蔵	
太組 一朗	脳神経外科科学講座・千葉北総病院 脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	プリオン病2次感染に対する現実的滅菌法の開発研究	北本 哲之	東北大学大学院医学系研究科
太組 一朗	脳神経外科科学講座・千葉北総病院 脳神経外科	分担	厚生労働省科研費補助金	プリオン病及び運発性ウイルス感染症に関する調査研究班	水澤 英洋	東京医科歯科大学大学院脳神経病選学（神経内科学）分野
石川 源	産婦人科学講座・付属病院 産科	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	胎盤機能不全に対処する胎児型Fc受容体を利用した新治療法開発のための萌芽研究	石川 源	
澤 倫太郎	産婦人科学講座・付属病院 産科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心臓インテンターベンション領域における胎児アデノシン特性の応用に関する研究	澤 倫太郎	
竹下 俊行 石川 源 富山 侑子	産婦人科学講座・付属病院 産科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヘパリンの抗流産作用とその機転に関する研究	竹下 俊行	
富山 侑子	産婦人科学講座・付属病院 産科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	生殖能力のエージェンダ：卵胞における活性酸素と抗酸化物質の役割について	富山 侑子	
竹下 俊行	産婦人科学講座・付属病院 産科	分担	厚生労働省科研費補助金	子ども家庭総合研究事業生殖補助医療の医療技術の標準化、安全性の確保と生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証に関する研究	吉村 泰典	慶應義塾大学医学部
竹下 俊行	産婦人科学講座・付属病院 産科	分担	厚生労働省科研費補助金	子ども家庭総合研究事業全国的実態調査に基づいた人工妊娠中絶の減少に向けた包括的研究	武谷 雄二	東京大学大学院
中井 章人	産婦人科学講座・多摩永山病院 産科 産科 産科 産科 産科 産科	分担	厚生労働省科研費補助金	全国規模の多施設共同ランダム化比較試験と背景因子分析に基づく早産予防ガイドラインの作成	岡井 崇	昭和大学医学部産婦人科

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大久保公裕、 後藤 稔	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	主任 分担	厚生労働省科研費補助 助金	リアルタイムモニタリング飛散数と現 状の治療によるQOLの関連性の評 価研究と花粉症根治療法の開発	大久保公裕	
後藤 稔	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武摩 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北 永山病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	舌下免疫療法の効果発現メカニズ ムを検討する	後藤 稔	
大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武摩 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	ガイドライン普及のための対策と それに伴うQOL向上に関する研究、 アレルギー性鼻炎のQOL向上の検 証	須甲 松信	東京芸術大学
大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武摩 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	スギ花粉症およびびダニアレルギー に対する新しい免疫療法の開発	阪口 雅弘	麻布大学獣医学部
大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武摩 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩 永山病院耳鼻咽喉科・千葉北 総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	代替医療の実態と有効性の科学的 評価、アレルギー性鼻炎における代 替医療の臨床研究	岡本 美孝	千葉大学耳鼻咽喉科頭 頸部腫瘍科
Pawankar R, 滝沢 竜太, 小津 千佳	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武摩 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩 永山病院耳鼻咽喉科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	好酸球性副鼻腔炎やアスピリン喘 息を伴う鼻茸における肥満細胞の 新たな役割	Pawankar R	
Pawankar R, Togias AR, Shusterman D, Wagenman M, Baroody F	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武摩 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩 永山病院耳鼻咽喉科	代表 分担	Grant in Aid for Task Force	Non Allergic Rhinitis Task Force	Pawankar- Togias AR	
Pawankar R, Bousquet J, Yorgancıoğlu A, Boerma T, Black R, Lopez A	耳鼻咽喉科学講座・付属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武摩 蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩 永山病院耳鼻咽喉科	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	Global Burden of Diseases, In- juries and Risk Factors: Chronic Respiratory Disease Group	Ezzati M	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
Pawankar R, ARIA Asia Pacific members	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩水山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	ARIA Asia Pacific	Impact of Allergic Rhinitis and Asthma in Asia Pacific	Pawankar R	
横山有希子	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩水山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	好酸球性中耳炎の発症機序の解明：T細胞と肥満細胞の新たな役割	横山有希子	
増野 聡	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩水山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	慢性副鼻腔炎に伴う鼻茸の発症機序の解明：肥満細胞と上皮細胞、繊維芽細胞の相互作用	増野 聡	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩水山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	主任	厚生労働省科研費補助金	内耳プロテオーム解析を応用した外リンパ瘻の新たな診断法の開発・治療指針の作成	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩水山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科研費補助金	前庭機能異常に関する調査研究	竹田 泰三	高知大学医学部耳鼻咽喉科
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩水山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 (C) 基盤研究 (C)	内耳蛋白の繩羅的ダイファグレットシヤルの同定	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩水山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	新たな蛋白質生化学的アプローチによる難聴・めまいの診断治療法開発	池園 哲郎	
滝沢 竜太	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩水山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 (C) 基盤研究 (C)	RSウイルス感染アレルギーマウスの気道における好酸球脱顆粒機序の解明	滝沢 竜太	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
三枝 英人	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヒトにおける舌の反射性運動の発現と、その新しい臨床応用についての基礎的研究	三枝 英人	
新藤 晋	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	内耳発達過程におけるCochlinの発現 - Spatiotemporalな検討	新藤 晋	
富山 俊一	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	実験的自己免疫性迷路炎モデルにおける内耳特異抗体の機能解析	富山 俊一	
中村 毅	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	嚥下の口腔期から咽頭期への移行の連続性についての機能生理学的研究	中村 毅	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	外リンパ蛋白の網羅的ダイファレンシャル解析による治療ターゲット蛋白の同定	池園 哲郎	
大久保公裕	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	東京都重点事業「花粉症総合対策」	スギ花粉エキシによる舌下減感作療法の臨床研究	大久保公裕	
八木 聡明、 杉崎 一樹	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表 分担	科学研究費補助金 萌芽研究	前庭感覚器障害克服のための人工前庭器開発	八木 聡明	
野中 学	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	cDNAマイクロアレイを用いた鼻副鼻腔線維芽細胞活性化分子機構の解明	野中 学	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
酒主 敦子	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北山病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	難治性好酸球性中耳炎における線維芽細胞の新たな役割の解明	酒主 敦子	
近藤 幸尋	泌尿器科学講座・付属病院泌尿器科	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	低酸素応答因子制御による腎細胞癌予後改善の検討	近藤 幸尋	
堀 純子	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	眼組織移植における新規の免疫補助シグナル分子の機能解析とその臨床応用に向けた展開	堀 純子	
堀 純子	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	私立大学教育研究高度化推進特別補助	臓器移植における制御性T細胞の役割と機能調節	堀 純子	
平岡 美紀	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	未熟鼠網膜症における遺伝子要因の解析とシグナル伝達系への関与	平岡 美紀	
王 明聡	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	羊膜由来神経幹細胞の移植による網膜組織の再建と視機能の再生	王 明聡	
五十嵐 勉	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北山病院眼科	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	AAVベクターおよびRNAi技術を用いたVEGF抑制による眼内新生血管抑制の試み	五十嵐 勉	
山木邦比古	眼科学講座・千葉北総病院眼科	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	原田病特異的免疫反応に基づく診断と治療法開発に向けた研究	山木邦比古	
亀谷 修平	眼科学講座・千葉北総病院眼科	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	CIqtnf5遺伝子異常による加齢黄斑変性症モデルの作成と解析	亀谷 修平	
坂本 篤裕	麻酔科学講座・付属病院麻酔科	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	麻酔薬・麻酔法が体内遺伝子発現に及ぼす影響	坂本 篤裕	
坂本 篤裕	麻酔科学講座・付属病院麻酔科	分担	厚生労働省科研費補助金	血液製剤安定確保のための人工酸素運搬体を用いた救急医療への応用に関する研究	四津 良平	慶応義塾大学医学部外科学
竹田 晋浩, 金 徹, 赤田 信二	麻酔科学講座・付属病院麻酔科	代表分担	科学研究費補助金基盤研究 (C)	アルファ2-アゴノスト・デクスメデトミジンの延髄呼吸中枢への作用メカニズムの解明	竹田 晋浩	
久志本成樹	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩北山病院救急救命センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	救命救急士による救命救急処置に関する研究 (アナフィラキシーショックの救命率向上に関わる早期処置の妥当性との実施方法)	野口 宏	愛知医科大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
佐藤 格夫、 鈴木 崇生、 増野 智彦、 山本 保博	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩成田国際空港クリニック	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	熟傷後に伴う遠隔臓器障害の発生機序の解明と治療戦略の構築	佐藤 格夫	
山本 保博、 近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩成田国際空港クリニック	主任分担	厚生労働省科研費補助金	メデイカコントロール体制の充実強化に関する研究	山本 保博	
山本 保博	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	急性心筋梗塞症と脳卒中に対する超急性期診療体制の構築に関する研究	野々木 宏	国立循環器病センター 心臓血管内科
山本 保博	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	北海道洞爺湖サミットに向けての、救急・災害医療体制の構築に関する研究	浅井 康文	札幌医科大学救急集中治療部
布施 明	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	地方自治体DMATのあり方に関する研究	辺見 弘	国立病院機構 災害医療センター
布施 明	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	「都市型災害」に関する研究	辺見 弘	国立病院機構 災害医療センター
布施 明	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	NBCテロに対応する標準的対応手順	大友 康裕	東京医科歯科大学 救急・災害医学
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	脳死下・心停止下臓器幹旋のコーディネートに関する研究	小中 節子	社団法人日本臓器移植ネットワーク

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩水山病院救急救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	自動体外式除細動器（AED）を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究	丸川征四郎	兵庫医科大学救急・災害医学
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩水山病院救急救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	移植医療の社会的基盤整備に関する研究～救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナーに関する研究	島崎 修次	杏林大学医学部救急医学
近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩水山病院救急救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	健康危機・大規模災害に対する初動医療体制のあり方に関する研究	辺見 弘	国立病院機構災害医療センター
近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩水山病院救急救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	メデイカコントロール体制の充実強化に関する研究	山本 保博	
近藤 久禎、 明石 真徹、 奥村 都、 山本 美子、 黒木由美子、 近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩水山病院救急救急センター・成田国際空港クリニック	主任分担	厚生労働省科研費補助金	国際連携ネットワークを活用した国際健康危機管理体制構築に関する研究	近藤 久禎	
近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩水山病院救急救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	グローバル社会に対応した地域健康危機サマーババイラジスシステム構築と運営・評価に関する研究	今井 博久	国立保健医療科学院
近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩水山病院救急救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	自動体外式除細動器（AED）を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究	丸川征四郎	兵庫医科大学救急・災害医学
近藤 久禎	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩水山病院救急救急センター・成田国際空港クリニック	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	健康危機管理における効果的な医療体制のあり方に関する研究	大友 康裕	東京医科歯科大学大学院

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
智彦, 格夫, 崇生, 保博	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	シヨックの後腸管リンパ液中に産生されるホスホリパーゼA2の臓器障害に対する影響	増野 智彦	
淳一, 智彦, 慶子, 清継, 智之, 哲幸	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	多臓器不全発生に関与する脂質メタボリズムの解明	小池 薫	京都大学医学研究科
裕行, 将司, 格夫, 生弘, 保博, 慶子	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表分担	日本損害保険協会特定課題研究助成	高齢者重症頭部外傷における脳循環環代謝測定に基づいた治療戦略の確立ー転帰改善をめざしてー	横田 裕行	
保博	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研費補助金	生物テロロに使用される可能性の高い細菌・ウイルス等による感染症の蔓延防止, 予防, 診断, 治療に関する研究	佐多徹太郎	国立感染症研究所 感染病理学部
智彦, 保博, 慶子, 哲幸	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩成田国際空港クリニック	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	出血性シヨックに続発する多臓器障害に対する代用血液および保存血の影響	相星 淳一	東京医科歯科大学 救急医学
曜吉, 慶子, 格夫, 哲孝, 崇生, 保博, 淳一	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救急センター・多摩成田国際空港クリニック	代表分担	日本私立学校振興・共済	NMRメタボローム解析技術を用いた疾患解析システム	大野 曜吉	
尚	救急医学講座・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	健康危機・大規模災害に対する初期医療体制のあり方に関する研究 (H19テロ一般-002)	辺見 弘	国立病院機構災害医療センター

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
益子 邦洋	救急医学講座・千葉北総病院 救命救急センター	主任	厚生労働省科研究費補助金	ドクターヘリの病院間の連携、患者と医療資源の集約化への効果についての研究	益子 邦洋	
益子 邦洋	救急医学講座・千葉北総病院 救命救急センター	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	救急センターにおける危機的出血への対応の現状の把握	益子 邦洋	
渡邊 淳	付属病院付置施設等・付属病院 付属伝診療科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	効果ある臨床遺伝プログラムに向けた課題調査と教材開発	渡邊 淳	
木田 厚瑞、 村田 朗、 茂木 孝、 山田 浩一、 石井 健男、 若林 律子	付属病院付置施設等・呼吸ケア クリニック	代表 分担	独立行政法人環境再生保全機構	COPD患者の病期分類等に応じた健康管理支援、保健指導の実践及び評価手法に関する調査研究	木田 厚瑞	
水谷 聡	武蔵小杉病院付置施設等・武蔵小杉病院消化器病センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	膵臓ミトコンドリアDNA体細胞変異は抗癌剤耐性を示す (オートターメイド医療への道)	水谷 聡	
松久 威史	多摩永山病院付置施設等・多摩永山病院消化器科	代表 分担	大分大学特別研究経費	アジア諸国におけるヘリコバクターの解明	藤岡 利生	大分大学医学部
三品 雅洋	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	アデノシン受容体PETによるパーキンソン病の病態解明とテラーメイド医療への応用	三品 雅洋	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)
清野 精彦、 高野 雅充、 村上 大介、 山本 真功、 雪吹 周生、 大場 崇芳	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院内科	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	冠動脈先端画像解析によるマルチバイオマーカーコストラジェターの開発	清野 精彦	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	パラメーター記憶機能付パワーアシスト型機能的電気刺激によるリハビリテーション	原 行弘	
川並 汪一	老人病研究所・病理学部門	代表	文部科学省 私立大学 学術研究高度化推進 社会連携研究推進	認知症街ぐるみ支援ネットワーク	川並 汪一	
太田 成男、 大澤 郁朗、 上村 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 特定領域研究	発がん時におけるミトコンドリア遺伝子体細胞変異の蓄積によるがん増殖促進機構	太田 成男	
太田 成男、 大澤 郁朗	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 萌芽研究	水素ガス吸引による虚血再灌流障害の軽減	太田 成男	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
太田 成男, Wolf MA	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	文部科学省一特別研 究員奨励費	老年病および生活習慣病における ミトコンドリアからの活性酸素の 放出機構	太田 成男	
麻生 定光, 大澤 郁朗	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	細胞死抑制活性強化蛋白質の細胞 内導入治療法による肝組織変性の 抑制	麻生 定光	
大澤 郁朗, 上村 尚美, 太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	エネルギー代謝低下による神経細 胞終末分化促進機構の解明	大澤 郁朗	
宮崎 恵美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	ミトコンドリアにコードされるタ ンパク質への変異導入による脳変 性疾患発症機構の解明	宮崎 恵美	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	マイストス 委記研究 費	抗加齢候補物質の生体における効 果の評価	太田 成男	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研究費補 助金・精神・神経疾 患研究委記費	筋ジストロフィーおよびその関連 する疾患の病態生理の解明と治療 薬物の開発に関する研究	清水 輝夫	帝京大学
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省長寿医療 研究委記費	分子疫学研究による老年病発症予 測に関する縦断的研究	下方 浩史	国立長寿医療センター
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	ブルーマーキュリー 委記研究費	中性含元素還元水の生理作用の解 明とその応用開発に関する研究	太田 成男	
田中 信之, 佐藤(織田)恵理, 阿部 芳憲, 川内 敬子	老人病研究所・免疫部門	代表 分担	科学研究費補助金 特定領域研究	核内癌抑制因子による遺伝子発現 制御シグナルの解析	田中 信之	
佐藤(織田)恵理	老人病研究所・免疫部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	DNA損傷時におけるp53の新規標 的遺伝子産物による細胞分裂期の 制御機構の解析	佐藤(織田)恵理	

5. 平成19年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
戸張靖子	解剖学講座 (生体構造学)	個人	第2回ロレアル-ユネスコ女性科学者日本奨励賞	ジェウシマツの雌雄差を手がかりとした発声学習のための神経機構	日本ロレアル(株), 日本ユネスコ国内委員会	2007	7
眞野あすか	生理学講座 (生体統御学)	個人	若手研究奨励賞	グレリンのエネルギー代謝調節機構における役割の解析	日本内分泌学会	2007	6
Okamoto K	生化学・分子生物学講座 (構造生物学・代謝学)	個人	12th International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man Best of Poster	Potent inhibitors of xanthine oxidoreductase: Mechanisms of inhibition and crystal structures of the enzyme-inhibitor complexes	International Symposium on Purine and Pyrimidine Metabolism in Man	2007	6
岡本 研	生化学・分子生物学講座 (構造生物学・代謝学)	個人	第41回日本痛風・尿酸代謝学会 学会賞	結晶構造から見たキサンチン酸化還元酵素阻害剤の阻害機構の解明	日本痛風・尿酸代謝学会	2008	2
渡邊 淳 ¹⁾	生化学・分子生物学講座 (分子遺伝学・栄養学)	個人	平成19年度日本医科大学医学学会奨学賞	血管型Ehlers-Danlos症候群における遺伝診療システムの確立と治療法の開発に向けて	日本医科大学医学学会	2007	9
高橋美紀子	病理学講座 (解析人体病理学)	個人	第75回日本医科大学医学総会優秀演題賞	間質性肺炎 (IP) の早期腔内線維化巣における血管新生の意義	日本医科大学医学学会	2007	9
大塚俊昭, 勝又聖夫, 川田智之, ¹⁾ 雪吹周生 ¹⁾	衛生学・公衆衛生学講座	個人	優秀論文賞	Utility of second derivative of the finger photoplethysmogram for the estimation of the risk of coronary heart disease in the general population	財団法人博慈会 老人病研究所	2007	9
李 英姫, ¹⁾ 松本亜紀 ¹⁾ , ^{A2)} 吾妻安良太 ¹⁾ , 滝澤 始, ²⁾ 川田智之, ¹⁾ 菅原 勇 ³⁾ , 工藤翔二 ¹⁾	衛生学・公衆衛生学講座	グループ	研究会賞	低濃度ディーゼル排気粒子の長期曝露による気道炎症病態、およびアレルギー性喘息発症に及ぼす影響におけるマウス系統差	アレルギー・気道上皮細胞研究会	2007	12

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
鈴木達也	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院老人科	個人	平成19年度日本漢方医学研究所賞	高齢認知症患者に対する釣藤散および牛車気丸の認知機能に対する改善効果の検討: 2重盲検ランダム化比較試験による検討	日本漢方医学研究所	2007	6
渡邊健太郎	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院老人科	個人	平成19年度東京都医師会医学研究奨励賞	高齢者の脳卒中と頸動脈超音波所見の関連性の検討	東京都医師会	2008	3
三品雅洋	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院第2内科(神経内科, 腎臓内科)	個人	平成19年度日本医科大学医学奨励賞	PETを用いた脳疾患の診断と病態の研究	日本医科大学医学部	2007	9
三品雅洋, 石渡喜一 ¹⁾	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院第2内科(神経内科, 腎臓内科)	グループ	平成19年度学術奨励賞	[¹¹ C]JA4503 PETを用いたアルツハイマー病におけるシグマ ₁ 受容体分布の検討	千葉県医師会	2007	12
二神生爾, 平塚哲郎, 進藤智隆, 坂本長逸	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科(血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科)	個人	日本へりコバクター学会賞 小林六造賞	<i>H. pylori</i> 感染MINU投与とスナズミに対する選択的COX-2阻害剤を用いた胃癌発生抑制の検討	日本へりコバクター学会	2007	6
肥田道彦	精神医学講座・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	個人	平成18年度日本医科大学准教授講師会研究奨励賞	Language Processing and Human Voice Perception in Schizophrenia: An fMRI study. Biol Psychiatry. 2006; 59 (10) : 948-57. Koeda M, Takahashi H, Yahata N, Matsuurra M, Asai K, Okubo Y, Tanaka H. An fMRI study: cerebral laterality for lexical-semantic processing and human voice perception. AJNR Am J Neuroradiol. 2006; 27 (7) : 1472-9. Koeda M, Takahashi H, Yahata N, Asai K, Okubo Y, Tanaka H.	日本医科大学准教授講師会	2007	9

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
加藤文司 ¹⁾ , 阿部雅志 ¹⁾ , 仲田佳宏 ¹⁾ , 結城聖子 ¹⁾ , 渡辺典男 ¹⁾ , 川村義彦 ¹⁾ , 岡田 進	放射線医学講座・千葉北総病院放射線科	グループ	第35回日本放射線技術学会秋期学術大会 座長推薦優秀研究発表	2D thick slice MRAによる椎骨脳底動脈造影: 血流および血管外観描出	日本放射線技術学会	2007	10
Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Bando K, Mizuguchi Y, Kakimuna D, Ishikawa Y, Kanda T, Hotta M, Takatai H, Akimaru K, Tajiri T, Yamashita K ¹⁾ , Shimizu K	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院外科 (消化器外科, 乳腺外科, 一般外科, 移植外科)	個人	Presidential Choice	Surgical disconnection of patent paraumbilical vein in refractory hepatic encephalopathy	The Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL)	2008	3
	外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科)・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	個人	BSI oral best paper award	Evaluation of Only Sentinel Lymph Node Metastasis guided by 3D-CT lymphography in Video-assisted Breast Surgery (VABS)	Breast Surgery International	2007	8
Yamashita K, Shimizu K	外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科)・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	個人	Best poster presentation award	Application of 3D-CT Lymphography to Detect Metastatic Pattern of Axillary Lymph Nodes after Sentinel Lymph Node	International Sentinel Node Society	2008	2
寺本 明	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	個人	日本脳神経外科学会 藤真賞		第66回日本脳神経外科学会総会	2007	10
竹井麻生	脳神経外科学講座・付属病院脳神経外科	個人	若手奨励賞		第11回内分泌病理学会	2007	10
太組一朗	脳神経外科学講座・千葉北総病院脳神経外科	個人	The 22nd Japan Neurosurgery English Forum Sammy's Award, 1st Place	Combined autologous rib- and calvarial graft to repair huge cranial defects in children with severe head trauma - A report of 2 pediatric cases treated by catcher's mask cranioplasty	日本脳神経外科国際学会フォーラム (JNEF)	2007	7
米山剛一	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	個人	日本医科大学産婦人科学教室学術奨励賞	卵巣明細胞腺癌に特異的な新規血清腫瘍マーカーの開発		2008	3

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
関口敦子	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	個人	日本医科大学産婦人科学教室学術奨励賞	月経困難症における漢方治療の有用性の評価		2008	3
市川雅男	産婦人科学講座・付属病院女性診療科・産科	個人	日本医科大学産婦人科学教室学術奨励賞	マウスモデルを用いた妊娠中の肝機能異常における自己傷害性T細胞の関与の検討		2008	3
Pawankar R	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	個人	S K Malik Oration	Mast cells in Allergic Airway Disease	Post Graduate Institute, Chandigarh, India	2007	4
Pawankar R	耳鼻咽喉科学講座・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	個人	MSAI Honorary Fellowship	Allergic Airway Disease	Malaysian Society of Allergy and Immunology	2008	3
堀 純子	眼科学講座・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	第12回日本女性科学者の会 奨励賞	眼組織の移植と再生における免疫学的研究	日本女性科学者の会	2007	6
堀 純子	眼科学講座・付属病院眼科・多摩永山病院眼科	個人	平成18年度丸山記念研究助成金受賞	免疫特権に関与する新規B7ファミリー分子の機能解析	日本医科大学	2007	7
横田裕行, 増野智彦, 渥美生弘, 山本保博	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救急救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	グループ	損害保険協会研究助成金	高齢者重症頭部外傷における脳循環測定に基づいた治療戦略の確立：転帰改善を目指して	損害保険協会	2007	9
村上正洋, 梅澤裕己, 大木琴美 ¹⁾ , 渡邊 淳 ¹⁾	形成外科科学講座・武蔵小杉病院形成外科	個人	第6回日本フットケア学会一般演習ボスター部門金賞	下肢の難治性褥瘡に対するLight-emitting diodeを用いた光線療法を試み	日本フットケア学会	2008	2
渡邊 淳 ¹⁾	付属病院付置施設等・付属病院遺伝診療科	個人	平成19年度日本医科大學医学会奨励賞	血管型Ehlers-Danlos症候群における遺伝診療システムの確立と治療法の開発に向けて	日本医科大學医学会	2007	9

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
片山博徳	多摩永山病院付置施設 等・多摩永山病院病理 部	個人	緒方富雄賞		有限責任中間法人日 本臨床検査同学院	2007	11
三品雅洋 ¹²⁾	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院内科	個人	平成19年度日本医科大 学医学会薬学賞	PETを用いた脳疾患 の診断と病態の研究	日本医科大学医学会	2007	9
山本真功	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院内科	個人	学会賞 内田賞	DES留置後の新生内 膜及びステント血栓に 関する経時的観察	第21回日本心臓血管 内視鏡学会	2007	10
三品雅洋 ¹²⁾	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院内科	個人	平成19年度学術奨励賞	[¹³ C] SA4503 PETを 用いたアルツハイマー 病におけるシグマ ₁ 受 容体分布の検討	千葉県医師会	2007	12
加藤丈司, 仲田佳宏, 渡辺典男, 岡田 進 ¹⁾	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院中央 画像検査室	グループ	第35回 日本放射線技 術学会秋季学術大会 座長推薦優秀研究発表 表	MRAによる椎骨脳底 動脈撮像：血流および 血管外観描出	日本放射線技術学会	2007	10
阿部雅志, 波辺英樹, 三輪宗史, 岡田 進 ¹⁾ , 小南修史 ²⁾	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院中央 画像検査室	グループ	第23回 日本脳神経血 管内治療学会 ポスタ ー銅賞	MRDSAを用いた脳動 脈瘤塞栓術後の経過観 察法の検討	日本脳神経血管内治 療学会	2007	11
富里謙一, 丸山智之, 今井智恵, 仲田佳広, 渡辺典男, 藤原正和	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院中央 画像検査室	グループ	第28回 東京部会秋期 学術大会 学術奨励賞 受賞	膝関節撮影のDigital技 術を応用した撮影シス テムの開発	日本放射線技術学会 東京部会	2007	11
阿曽亮子, 志村俊郎, 飯野靖彦 ²⁾ , 清野精彦 ²⁾ , 日高廣人 ³⁾	老人病研究所・病理部 門 教育推進室	個人	同窓会医学研究助成金 受賞	血管の太さを制御する 遺伝子の決定とその分 化機構の解明	日本医科大学同窓会	2007	5
吉村明修, 高柳和江 ¹⁾ , 小林義典 ²⁾ , 日高廣人 ³⁾	教育推進室	個人	第75回日本医科大学医 学会総会優秀演題賞	日本医科大学のAd- vanced OSCE全員参 加トライアルのための SP養成の取組み	日本医科大学医学会	2007	9

6. 平成19年度知的財産一覧 (特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
勝又聖夫, 市川泰夫	衛生学・公衆衛生学 講座	唾液採取器具	意願2007-030922 2007/11/08			学校法人日本医科大学株式会社アシスト
勝又聖夫, 市川泰夫	衛生学・公衆衛生学 講座	唾液採取器具	意願2007-030924 2007/11/08			学校法人日本医科大学株式会社アシスト
勝又聖夫, 市川泰夫	衛生学・公衆衛生学 講座	唾液採取器具	実願2007-008663 2007/11/08		登録第3138944号 2007/12/26	学校法人日本医科大学株式会社アシスト
橋口 宏, 青山晋作 ¹⁾ , 太田赤美 ²⁾ , 大津賀康章 ¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院中央手 術室)	整形外科科学講座・付 属病院整形外科・武 蔵小杉病院整形外 科・多摩永山病院整 形外科・千葉北総病 院整形外科	肩関節外科手術用の 受液パOUCH及びドレ ーナ	2007-245755 0019/09/21			学校法人日本医科大学
服部成介, 柴田莉奈, 米山剛一, 竹下俊行, 永田欽也, 小嶋慈之, 山口希実, 小谷佳子	産婦人科学講座・付 属病院女性診療科・ 産科	癌の検出法	2007-317989 2007/12/10			国立大学法人東京大学 学校法人日本医科大学 株式会社ビー・エム・エ ル
服部成介, 米山剛一, 永田欽也, 小嶋慈之, 小谷佳子, 山口希実, 伊藤香織里, 服部浩明, 田原浩司	産婦人科学講座・付 属病院女性診療科・ 産科	卵巣癌の検出方法及 び検出用キット	2007-157238 2007/06/14			国立大学法人東京大学 学校法人日本医科大学 株式会社ビー・エム・エ ル
大久保公裕, 福井大学 医学研究院耳鼻咽喉科 頭頸部外科との併願	耳鼻咽喉科学講座・ 付属病院耳鼻咽喉 科・頭頸部外科・武蔵 小杉病院耳鼻咽喉 科・多摩永山病院耳 鼻咽喉科・千葉北総 病院耳鼻咽喉科	アレルギー疾患の治 療薬且つ治療効果の マーカー	2008-053768 2008/01/15			福井大学
横田裕行	救急医学講座・生化学 部門・付属病院高 度救命救急センター ・武蔵小杉病院救 急救命センター・多 摩永山病院救命救急 センター・成田国際 空港クリニック	モニターカーテーター	特許出願 平6-47073 1994/03/17	特許公開 平7-255852 1995/10/09		

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
太田成男, 麻生定光	老人病研究所・生化学部門	A GENETICALLY ENGINEERED cDNA OF RAT bcl-x GENE AND AN IM- PROVED PROTEIN	10/049,822 2000/08/17	WO01/12807 2001/02/22	7,253,269 2007/08/07	JST

あ と が き

第54巻「日本医科大学研究業績年報」をお届けします。データ入力にご協力下さった各研究単位の皆様、またとりまとめにご尽力下さった事務部の方々に御礼申し上げます。発表論文や学会発表ばかりでなく、各種競争的研究基金の受け入れ状況などを含むデータベースとして、各方面への助成や専門医申請などの際の書類の作成に活用していただければ幸いです。

学長にお寄せいただいた「まえがき」にありますように、本年は例年にまして多数の欧文論文が本学から発信されました。医師不足を始めとする今日の医療情勢の基で、多量の業務を抱えながら成果を挙げていただいた各診療科の先生方、また基礎医学大学院棟への移転と研究室の整備に多忙を極められたであろう基礎医学の諸先生に敬意を表します。

新たな大学院棟の地下二階には基礎臨床の共同研究室が準備されており、RIや動物実験管理室等の共同利用実験施設の整備も進んでおります。今後発表論文の数を維持しつつ、評価の高い国際的学術誌への発表に日常的に努めることが必要となりましょう。2009年3月末をもって、研究委員会における小職の任期は満了いたします。この間、再三にわたり無理なお願いを申し上げたにもかかわらず、研究委員会の活動に賜ったご理解・ご支援に御礼申し上げますと共に、この年報およびデータベースの発展にますますのご助力をお願いしてあとがきにいたします。

平成21年1月

研究委員会委員長 佐久間康夫

平成21年 3 月 13 日 印 刷

平成21年 3 月 19 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5

TEL 03 (3822) 2131

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10

TEL 03 (3910) 4311-5